お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ（http://www.renesas.com）

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社（http://www.renesas.com）

【問い合わせ先】http://japan.renesas.com/inquiry

RENESAS

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）

   特定水準：　航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

User's Manual

32

32176グループ

ハードウェアマニュアル

ルネサス32ビットRISCシングルチップマイクロコンピュータ
M32Rファミリ／ M32R/ECUシリーズ

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサスエレクトロニクスは、
予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサスエレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ルネサス エレクトロニクス
www.renesas.com

Rev.1.10　2006.04

安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご留意ください。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切なルネサス テクノロジ製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてルネサス テクノロジが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、ルネサス テクノロジは責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス テクノロジは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ルネサス テクノロジ半導体製品のご購入に当たりましては、事前にルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ルネサス テクノロジホームページ (http://www.renesas.com) などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したものですが万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ルネサス テクノロジはその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。ルネサス テクノロジは、適用可否に対する責任は負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、ルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へご照会ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書によるルネサス テクノロジの事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気付きの点がございましたらルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店までご照会ください。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本文を参照してください。なお、本マニュアルの本文と異なる記載がある場合は、本文の記載が優先するものとします。

1. 未使用端子の処理
   【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。
   CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。
2. 電源投入時の処置
   【注意】電源投入時は，製品の状態は不定です。
   電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。
   外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。
   同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。
3. リザーブアドレスのアクセス禁止
   【注意】リザーブアドレスのアクセスを禁止します。
   アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレスがあります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。
4. クロックについて
   【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。
   プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。
   リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。
5. 製品間の相違について
   【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、事前に問題ないことをご確認下さい。
   同じグループのマイコンでも型名が違うと、内部メモリ、レイアウトパターンの相違などにより、特性が異なる場合があります。型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	03/04/18	ー	初版発行
1.02	03/12/12		「ご使用になる前に・32176グループの製品仕様に対するオプション仕様」追加
		P1-8	図 1.3.1 修正
		P1-12	表 1.3.1　注 1 修正　誤）入力ポート　→　正）入出力ポート
		P1-13	図 1.4.1　端子番号 77 の端子名を修正　誤）P64/SBI#　→　正）SBI#
		P5-11	表 5.3.1　SIO0 送信割り込み内容を修正 誤）SIO0 の送信バッファエンプティ割り込み 正）SIO0 の送信完了、または送信バッファエンプティ割り込み
		P5-13	図 5.5.1 修正　誤）A-D0 変換器割り込み　→　正）A-D0 変換割り込み
		P5-14	表 5.5.1　CAN1 送受信＆エラー割り込みの ICU ベクタテーブルアドレスを修正 誤）H ’ 0000 0110 ～ H ’ 0000 0112 正）H ’ 0000 0110 ～ H ’ 0000 0113
		P6-19	図 6.5.2 修正　誤）RESET　→　正）RESET#
		P6-25	図 6.5.6 修正　誤）FMOD（H ’ 0080 01E0）　→　正）FMOD（H ’ 0080 07E0） 誤）D0 ＝ MOD0DT　→　正）b0 ＝ MOD0DT 誤）D1 ＝ MOD0DT　→　正）b1 ＝ MOD0DT 誤）フラッシュ制御レジスタ（FCNT1、H ’ 0080 01E2） 正）フラッシュ制御レジスタ（FCNT1、H ’ 0080 07E2）
		P6-35	最終行計算式修正　誤）[2] + [1]　8 [s]　→　正）[2] + [3]　8 [s]
		P6-47	表 6.7.1 端子名修正　誤）VDD　→　正）VDDE
		P7-2	7.2 リセット動作　本文変更
			図 7.2.1、図 7.2.2 変更
		P7-3	「7.2.3 RAM バックアップモードへ移行する場合のリセット」削除
			「7.2.4 フラッシュ書き込み時のリセットベクタ移動」→7.2.3 へ繰上げ、本文変更
		P8-4	図 8.2.1　注 2 修正　誤）周辺出力選択レジスタ 正）ポート周辺機能選択レジスタ
		P8-14	表中のビット名修正　誤）P74MOD　→　正）P74SMOD 誤）P75MOD　→　正）P75SMOD 誤）P76MOD　→　正）P76SMOD 誤）P77MOD　→　正）P77SMOD
		P8-16	表に表題を追加　「表8.3.1 ポート入力データ選択ビットの設定値とポートデータレジスタ読み込み対象」
		P8-17	（3）PIEN0（ポート入力許可）ビットの 4 行目　「(制御非対象端子)」を削除
			表 8.3.2 表題修正　誤）ポート機能許可ビット　→　正）ポート入力許可ビット
		P8-18	グループ 5 修正　誤）SBI　→　正）SBI ＃
		P8-22	図 8.5.3 修正　誤）P220（CTX）　→　正）P220（CTX0）
		P8-25	・ポート入力禁止機能についての 4 行目　「(制御非対象端子)」を削除
		P9-26	9.3.3　注修正　誤）最大 5 サイクル（内部周辺クロック =20MHz 動作時、250ns） 正）最大 6 サイクル（内部周辺クロック =20MHz 動作時、300ns）

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.02	03/12/12	P10-4	図 10.1.1　注 2 修正　誤）周辺回路（AD および SIO） 正）周辺回路（AD、SIO および CAN）
		P10-5	図 10.1.2　注 1 を削除
		P10-6	図 10.1.3 変更
		P10-18 P10-19	注を追加
		P10-43	図 10.3.1 修正
		P10-50	図 10.3.3 修正
		P10-57	図 10.3.6 修正　　誤）Dn　→　正）bn
		P10-72	表 10.4.1 「DMA 転送要求発生」を追加
		P10-74 P10-75	10.4.2　本文追加、変更
		P10-83	図 10.4.4 修正
		P10-92	10.4.9　本文修正
			図 10.4.6 「TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-93	図 10.4.7　キャプチャ時の計測レジスタ値修正　誤）H ’ 0008　→　正）H ’ 7000 「TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-94	10.4.10　本文修正
			図 10.4.8 「TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-95	10.4.11　本文修正
			図 10.4.9 「アンダフローによる TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-98	10.4.12　本文修正
		P10-99	図 10.4.12 「アンダフローによる TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-100	10.4.13　本文修正
		P10-101	図 10.4.13 「アンダフローによる TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-102	10.4.14　本文修正
		P10-103	図 10.4.14 「アンダフローによる TIO8DMA 転送要求」を追加
		P10-105	図 10.5.1 修正
		P10-110	図 10.6.1 修正
		P11-3	表11.1.1　絶対精度の内容を変更
		P11-16	b10、b11 の機能欄を修正 誤）0: サンプル＆ホールド有効 正）1: サンプル＆ホールド有効
		P11-17 P11-21	注 . を追加
		P11-21	11.2.4（4）　説明を追加
		P11-33	11.3.3　本文 6 行目「または A-D スキャンモードレジスタ０」を削除
		P11-41	本文に「・サンプル & ホールド有効モード設定時の単一モード / スキャンモード動作」を追加
		12 章全体	誤）SIO 割り込み要求許可レジスタ　→　正）SIO 割り込み要求マスクレジスタ

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.02	03/12/12	P12-2	表 12.1.1　ボーレート内容変更 誤）UART モード:19 ビット / 秒～ 156K ビット / 秒 正）UART モード:19 ビット / 秒～ 1.25M ビット / 秒
		P12-23	12.2.8（1）　本文最終段落変更
		P12-28	12.3.4　本文 4 行目修正 誤）「SIO ステータスレジスタ」　→　正）「SIO 送信制御レジスタ」
		P12-29, 31,32	12.3.6（２）　本文 2 行目、図 12.3.3、図 12.3.4　注 7 「、または送信許可ビットのクリア」削除
		P12-41 P12-44 P12-50	12.6.1（1）本文、および図 12.6.3、図 12.7.1 の注 1 削除
		P12-57	・BRG（ボーレート）レジスタの設定　最初の文章を削除
		13 章全体	誤）CAN メッセージスロットタイムスタンプ（CnMSLnTSP） 正）CAN メッセージスロットタイムスタンプ（C0MSLnTSP、C1MSLnTSP） 誤）CAN メッセージコントロールレジスタ（CnMSLnCNT） 正）CAN メッセージコントロールレジスタ（C0MSLnCNT、C1MSLnCNT）
		P13-45 P13-46	13.2.9　CAN エラー要因レジスタ　ビット番号修正
		P13-48	13.2.11　CAN DMA 転送要求選択レジスタ　ビット番号修正
		P13-55 ～ P13-57	13.2.14　CAN メッセージスロットコントロールレジスタ　ビット番号修正
		P13-71	13.2.15　CAN メッセージスロット　ビット番号修正
		P13-93	13.8.2（1）　1 行目修正　誤）（受信要求、リモート） 正）（受信要求、リモート、自動応答許可）
		P15-12 P15-13	図 15.4.1 および図 15.4.2　注追加
		P17-3	17.2.1　本文 1 行目修正　誤）SBI 端子　→　正）SBI# 端子
		P19-7	図 19.4.2 変更
		P20-2	図 20.1.1 変更
		P20-5 ～ P20-7	図 20.3.1 ～図 20.3.3　二番目の注修正 誤）ただし、上記電源立ち上げ時　→　正）ただし、上記電源立ち下げ時
		P20-8	図 20.3.4、図 20.3.5 変更
		P21-4,8 12,16	出力負荷容量の最小値を追加
		P21-5,9 13,17	RAM 保持電源電流の標準値、最大値を変更
		P21-14 P21-18	絶対精度最大値を追加

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.02	03/12/12	P21-19	21.6　フラッシュ関連特性の内容見直し
		P21-21 28,37,44	タイミング必要条件に（5）TCLK を追加 TINi タイミング修正　誤）TINi　→　正）TIN
		P21-21,22 37,38	（5）リードおよびライトタイミング　→　（6）へ繰り下げ、（6）以降同様 内容一部削除
		P21-23, 39	（9）RTD タイミング RTDCLK 入力サイクル時間の参照図版修正 RTDCLK 入力後 RTDTXD 遅延時間の最大値を修正 RTDRXD 入力セットアップ時間の最大値を削除
		P21-24 P21-40	（2）a)　TXD ホールド時間の参照番号の修正
		P21-25,26 P21-41,42	（4）リードおよびライトタイミングの規格値を修正
		P21-27 P21-43	図 21.8.1、図 21.9.1 修正および図 21.8.2、図 21.9.2 参照番号変更　[98]→ [82]
		P21-29	図 21.8.6 変更　→　図 21.8.7 へ繰り下げ
		P21-30	図 21.8.7 変更　→　図 21.8.8 へ繰り下げ（以降同様）
		P21-35 P21-51	参照番号変更　[82] → [90]
		P21-45	図 21.9.6 変更　→　図 21.9.7 へ繰り下げ
		P21-46	図 21.9.7 変更　→　図 21.9.8 へ繰り下げ（以降同様）
		付録 4-4	・ポート入力禁止機能についての 4 行目　「(制御非対象端子)」を削除
		付録 4-12	本文に「・サンプル & ホールド有効モード設定時の単一モード / スキャンモード動作」を追加
		付録 4-16	・BRG（ボーレート）レジスタの設定　最初の文章を削除
1.10	06/04/25	全章共通	誤）A-D 変換器　→　正）A/D コンバータ 誤）A-D 変換　→　正）A/D 変換 誤）D-A 変換器　→　正）D/A コンバータ 誤）D-A 変換　→　正）D/A 変換 誤）シリアル I/O　→　正）シリアルインタフェース
		P1-2,4	表 1.1.1 製品一覧表を表 1.1.2 より移動および注 1 を追加
		P1-17	表 1.4.1 端子番号 135 と 136 の行を訂正
		P2-4	PSW レジスタ IE ビットに注 1 を追加
		P3-4 ～ P3-6	図 3.1.1 ～図 3.1.3 を図 3.2.1 ～図 3.2.3 に統合
		P3-19	H'0080 0600 ～H'0080 0603 ダミーアクセス領域（注 1）を追加
		P3-31	注 1 を追加
		P3-35	ダミーアクセス領域の文章を追加
		P4-13	誤記訂正（6）EIT ハンドラからの復帰の説明文　誤）予約命令　→　正）アドレス

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.10	06/04/25	P5-6	IMASK レジスタの注釈を訂正
		P5-7	SBICR レジスタに注釈を追加
		P5-12,14	表 5.4.1 と表 5.5.1 を統合
		P5-15	[6]多重割り込みの許可に注釈を追加
		P5-17	図 5.5.2 の注 2 と注 5 を訂正
		P5-18	5.6.1 に文章を追加
		P6-7	FMOD レジスタの FAENS ビットの説明を追加
		P6-9	(1) FENTRY ビットの説明文を訂正
		P6-13	フラッシュ制御レジスタ 4 に注 1 を追加
		P6-17	最終行にブートモード起動後の注意事項を追加
		P6-19,21	図 6.5.2 と図 6.5.4 に注 1 を追加
		P6-26	図 6.5.7「通常モードへの移行手順」を追加
		P6-28	図 6.5.9 に注 2 を追加
		P6-30	図 6.5.10 に注 2 を追加
		P6-31	図 6.5.11 に注 2 を追加
		P6-48	表 6.7.1 を訂正 誤）プルダウン　→　正）プルダウン（0 ～ 100k Ω）
		P6-49	図 6.7.1 に SBI# 端子および注 1 を追加
		P6-50,51	ページ追加　6.8 シリアルプログラマとの接続（UART モード）
		P6-52	(2) FP 端子によるプロテクトの説明に文章を追加
		P6-53	6.10 内蔵 RAM の注意事項を追加
		P8-9	P7MOD レジスタの P70MOD ビットに注 2 を追加
		P8-15	3）の最終行に注意事項を追加
		P8-16	図 8.3.1 に注釈を追加
		P8-18,19	図 8.4.1 を移動 PG67LEV レジスタを訂正 誤）VT26EL0　→正）VT6SEL0、 誤）VT26EL1　→正）VT6SEL1
		P8-20 ～ P8-23	ポート周辺回路図に注 2 を追加
		P8-20	図 8.5.1 に P130 ～ P137（TIN16 ～ TIN23）を追加
		P8-25	汎用ポートに設定時の周辺機能入力の注意事項を追加
		P9-11	(2) TREQFn、(4) TENLn ビットの説明文を訂正
		P9-31	表 9.4.1 に「DMA 割り込み関連レジスタ」を追加
		10 章全体	タイミング図を差し替え リロードレジスタのリロードタイミングを記載
		P10-6	図 10.1.3 を差し替え
		P10-96	(2) TIO PWM出力モードにおけるリロードレジスタの更新の説明を見直し 図 10.4.10 を差し替え

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.10	06/04/25	P10-96, 97	図 10.4.11 PWM 周期の更新タイミングおよび説明文を追加
		P12-8	(4) 送信割り込みに関する注意の文章変更
		P12-22	表 12.2.1、表 12.2.2 を追加
		P12-40	汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え時の注意事項を追加
		P12-55	図 12.7.5 を差し替え
		P12-56	図 12.8.1 を差し替え
		P12-57	汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え時の注意事項を追加
		P13-17	LBM ビットの注釈に文章を追加 RST ビットの説明を追加
		P13-20	CRS ビットの説明を追加
		P13-75	図 13.3.4 バスオフ復帰の条件に注 1 を追加
		P13-81, 84,90,95	図 13.5.2、13.6.2、13.7.2、13.8.2 を差し替え
		P13-85	TRFIN ビットのクリアの注釈を訂正
		P15-3	(9) ホールド制御の文章を訂正
		P15-4	P7MOD レジスタの P70MOD ビットに注 2 を追加
		P15-5	BUSMODC レジスタの BUSMOD ビットに注 1 を追加
		P17-2	図 17.1.1RAM バックアップ領域を追加
		P18-2	図 18.1.1 を差し替え
		P18-3	18.1.2 文章変更および図 18.1.2 を差し替え
		P18-4	XSTAT ビットの 3) に文章を追加 図 18.1.3 に注釈を追加
		P18-6	図 18.1.4 に注 1 を追加
		P20-2	図 20.1.1 に注 1 を追加
		P20-3 ～ P20-7	図 20.2.1 ～図 20.3.3 の注釈を訂正
		P20-8	図 20.3.4 と図 20.3.5 に注 1 を追加
		P21-20 ～ P21-53	AC 特性、構成の見直し
		P21-20	tc(XIN)[119]、tw(RESET)[124]を追加 tw(XINH)[120]、tw(XINL)[121]、tr(XINL)[122]、tr(XINL)[123]を追加 図 21.8.1 クロック及びリセットタイミングを追加
		P21-27	tw(BLWL) tw(BHWL) [51]を訂正 td(CSL-RDL) [93]を追加
		P21-30	td(CSL-RDL) [93]、td(BLEL-RDL) td(BHEL-RDL) [136]、 tv(RDH-BLEL) tv(RDH-BHEL) [137]を追加
		P21-31	バイトイネーブルモード時のリードタイミング図を追加
		P21-32	td(CSL-WRL) [96] を追加

改訂記録	32176 グループハードウェアマニュアル

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.10	06/04/25	P21-37	tc(XIN) [119]、tw(RESET)[124]を追加 tw(XINH) [120]、tw(XINL) [121]、tr(XINL) [122]、tr(XINL) [123]を追加 図 21.8.1 クロック及びリセットタイミングを追加
		P21-44	tw(BLWL) tw(BHWL) [51]を訂正 td(CSL-RDL) [93]を追加
		P21-47	td(CSL-RDL) [93]、td(BLEL-RDL) td(BHEL-RDL) [136]、 tv(RDH-BLEL) tv(RDH-BHEL) [137]を追加
		P21-48	バイトイネーブルモード時のリードタイミング図を追加
		P21-49	td(CSL-WRL) [96]を追加
		付録 1-2	外形寸法図の差し替え
		付録 4-3	アドレス空間の注意事項に文章を追加 内蔵 RAM の注意事項を追加
		付録 4-4	汎用ポートに設定時の周辺機能入力の注意事項を追加
		付録 4-5	付表 4.8.1 に DMA 割り込み関連レジスタを追加
		付録 4-7	付図 4.9.1 を差し替え
		付録 4-8	付図 4.9.2 を差し替え
		付録 4-16	汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え時の注意事項を追加

ご使用になる前に

■ レジスタ表の見方

ビット番号：レジスタのビット番号

レジスタの枠：太枠で囲んでいるレジスタはハーフワードまたはワードでアクセスしてください。

リセット解除時の状態：リセット解除後の初期状態を16進数又は2進数で示します。

リセット解除時の状態：リセット解除後の初期状態をビット単位で示します。
- 0 ： **リセット解除後は0**
- 1 ： **リセット解除後は1**
- ？ ： **リセット解除後は不定**

何も配置されていないビットには網掛けをしています。

読み出し時の条件：
- R ： **読み出し可能**
- ？ ： **読み出しデータは不定（読み出し無効）**
- 0 ： **常に0が読み出される**
- 1 ： **常に1が読み出される**

書き込み時の条件：
- W ： **書き込み可能**
- N ： **書き込み禁止**
- 0 ： **常に0を書き込む**
- 1 ： **常に1を書き込む**
- ー ： **書き込み無効（書き込み時、"0"または"1"どちらでも良い）**
- （注）： **書き込み時に注意が必要　各レジスタ表の注文を参照してください。**

XXX**レジスタ**（XXX）　　**<アドレス：**H'XXXX XXXX>

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
AAA	BBB	CCC													
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

→ **<リセット解除時：**H'0000>

b	ビット名	機能	R	W
0	AAA ・・・・・・・・・・**ビット**	0：・・・・・・・・・・ 1：・・・・・・・・・・	R	W
1	BBB ・・・・・・・・・・**ビット**	0：・・・・・・・・・・ 1：・・・・・・・・・・	R	W
2	CCC ・・・・・・・・・・**ビット**	0：・・・・・・・・・・ 1：・・・・・・・・・・	R（注1）	
3〜15	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0

注1．書き込みは"0"**のみ有効。**"1"**を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。**

■ "L"**アクティブ端子（信号）の表示について**

端子名（信号名）末尾の"#"**は**"L"**アクティブ端子（信号）であることを示します。**

ご使用になる前に

■32176グループの製品仕様に対するオプション仕様

【内容】

M32176F4VFP、M32176F3VFP、M32176F2VFPの製品仕様に対して、下記内容のオプション仕様がございます。

(1)フラッシュ　10000(10k)回書き換え品(4Kバイトブロック×2限定)
(2)40MHz動作品
(3)鉛フリー品

なお(1)、(2)のオプション仕様は同時に選択できません。
注．M32176F4TFP、M32176F3TFP、M32176F2TFPには、上記(1)のオプション仕様はございません。

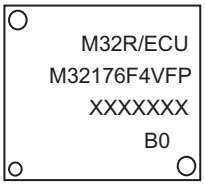
各オプション仕様に対しては、製品コードが割り当てられております。
下記に製品コードの一覧表、マーキング図を示します。

【製品仕様一覧表】

型名	製品コード		仕様内容
M32176F4VFP	B	0	32MHz/125℃、フラッシュ100回書き換え
M32176F3VFP	または	1	32MHz/125℃、フラッシュ10000(10k)回書き換え(4Kバイトブロック×2限定)
M32176F2VFP	U	2	40MHz/125℃、フラッシュ100回書き換え
M32176F4TFP M32176F3TFP M32176F2TFP	B または U	0	40MHz/85℃、フラッシュ100回書き換え

* B:鉛非フリー品、U:鉛フリー品

【マーキング図】



：ファミリ名を示します。
：製品名 M32176F4VFP を示します。
：デートコード(7桁)製造上の管理番号を示します。
：製品コードを示します。

オプション仕様の詳細、価格に関しましては、ルネサス販売・特約店にお問い合わせください。
またサンプルご要求の際は、製品コード(B0～B2,U0～U2)をご指定いただきますようお願いいたします。
ご指定のない場合は、標準仕様(B0)となります。

目次

第1章　概要

1.1　32176グループの概要 ---------- 1-2
1.1.1　M32Rファミリ CPUコア ---------- 1-2
1.1.2　積和演算機能の内蔵 ---------- 1-3
1.1.3　フラッシュメモリとRAMの内蔵 ---------- 1-3
1.1.4　クロック逓倍回路の内蔵 ---------- 1-4
1.1.5　強力な周辺機能の内蔵 ---------- 1-4
1.2　ブロック図 ---------- 1-5
1.3　端子機能 ---------- 1-8
1.4　端子配置 ---------- 1-13

第2章　CPU

2.1　CPUレジスタ ---------- 2-2
2.2　汎用レジスタ ---------- 2-2
2.3　制御レジスタ ---------- 2-3
2.3.1　プロセッサ状態語レジスタ：PSW（CR0） ---------- 2-4
2.3.2　条件ビットレジスタ：CBR（CR1） ---------- 2-5
2.3.3　割り込み用スタックポインタ：SPI（CR2）
ユーザ用スタックポインタ：SPU（CR3） ---------- 2-5
2.3.4　バックアップPC：BPC（CR6） ---------- 2-5
2.4　アキュムレータ ---------- 2-6
2.5　プログラムカウンタ ---------- 2-6
2.6　データフォーマット ---------- 2-7
2.6.1　データタイプ ---------- 2-7
2.6.2　データフォーマット ---------- 2-8
2.7　LOCK、UNLOCK命令実行時の補足説明 ---------- 2-14

第3章　アドレス空間

3.1　アドレス空間概要 ---------- 3-2
3.2　動作モード ---------- 3-3
3.3　内蔵ROM領域/外部拡張領域 ---------- 3-7
3.3.1　内蔵ROM領域 ---------- 3-7
3.3.2　外部拡張領域 ---------- 3-7
3.4　内蔵RAM領域/SFR領域 ---------- 3-8
3.4.1　内蔵RAM領域 ---------- 3-8
3.4.2　SFR（Special Function Register）領域 ---------- 3-8
3.5　EITベクタエントリ ---------- 3-32
3.6　ICUベクタテーブル ---------- 3-33
3.7　アドレス空間の注意事項 ---------- 3-35

第4章　EIT

4.1　EITの概要 ---------- 4-2
4.2　EIT事象 ---------- 4-3
4.2.1　例外（Exception） ---------- 4-3

4.2.2 割り込み(Interrupt) ---- 4-3
4.2.3 トラップ(Trap) ---- 4-3
4.3 EITの処理手順 ---- 4-4
4.4 EITの処理機構 ---- 4-6
4.5 EIT事象の受付 ---- 4-7
4.6 PC、PSWの退避と復帰 ---- 4-7
4.7 EITベクタエントリ ---- 4-9
4.8 例外(Exception)処理 ---- 4-10
4.8.1 予約命令例外(RIE) ---- 4-10
4.8.2 アドレス例外(AE) ---- 4-12
4.9 割り込み(Interrupt)処理 ---- 4-14
4.9.1 リセット割り込み(RI) ---- 4-14
4.9.2 システムブレーク割り込み(SBI) ---- 4-15
4.9.3 外部割り込み(EI) ---- 4-17
4.10 トラップ(Trap)処理 ---- 4-19
4.10.1 トラップ(TRAP) ---- 4-19
4.11 EITの優先順位 ---- 4-21
4.12 EIT処理の例 ---- 4-22
4.13 EITの注意事項 ---- 4-24

第5章 割り込みコントローラ(ICU)

5.1 割り込みコントローラ(ICU)概要 ---- 5-2
5.2 ICU関連レジスタ ---- 5-4
5.2.1 割り込みベクタレジスタ ---- 5-5
5.2.2 割り込み要求マスクレジスタ ---- 5-6
5.2.3 SBI(システムブレーク割り込み)制御レジスタ ---- 5-7
5.2.4 割り込み制御レジスタ ---- 5-8
5.3 内蔵周辺I/Oの割り込み要求要因 ---- 5-11
5.4 ICUベクタテーブル ---- 5-12
5.5 割り込み動作説明 ---- 5-13
5.5.1 内蔵周辺I/Oの割り込み要求受付 ---- 5-13
5.5.2 内蔵周辺I/Oの割り込みハンドラ処理 ---- 5-15
5.6 システムブレーク割り込み(SBI)動作説明 ---- 5-18
5.6.1 SBIの受付 ---- 5-18
5.6.2 SBIのハンドラ処理 ---- 5-18

第6章 内蔵メモリ

6.1 内蔵メモリ概要 ---- 6-2
6.2 内蔵RAM ---- 6-2
6.3 内蔵フラッシュメモリ ---- 6-2
6.4 内蔵フラッシュメモリ関連レジスタ ---- 6-6
6.4.1 フラッシュモードレジスタ ---- 6-7
6.4.2 フラッシュステータスレジスタ ---- 6-8
6.4.3 フラッシュ制御レジスタ ---- 6-9
6.4.4 疑似フラッシュLバンクレジスタ ---- 6-15
6.4.5 疑似フラッシュSバンクレジスタ ---- 6-16
6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み ---- 6-17
6.5.1 内蔵フラッシュメモリ書き込みの概要 ---- 6-17

6.5.2 フラッシュ書き込み時における動作モードの制御 ---------- 6-23
6.5.3 内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去手順 ---------- 6-27
6.5.4 フラッシュ書き込み時間(参考値) ---------- 6-35
6.6 疑似フラッシュエミュレーション機能 ---------- 6-37
6.6.1 疑似フラッシュエミュレーション領域 ---------- 6-38
6.6.2 疑似フラッシュエミュレーションモードへの移行 ---------- 6-45
6.6.3 疑似フラッシュエミュレーションモードの応用例 ---------- 6-46
6.7 シリアルプログラマとの接続(CSIOモード) ---------- 6-48
6.8 シリアルプログラマとの接続(UARTモード) ---------- 6-50
6.9 内蔵フラッシュメモリのプロテクト機能 ---------- 6-52
6.10 内蔵RAMの注意事項 ---------- 6-53
6.11 内蔵フラッシュメモリの注意事項 ---------- 6-53

第7章 リセット

7.1 リセット概要 ---------- 7-2
7.2 リセット動作 ---------- 7-2
7.2.1 電源投入時のリセット ---------- 7-3
7.2.2 動作中のリセット ---------- 7-3
7.2.3 フラッシュ書き込み時のリセットベクタ移動 ---------- 7-3
7.3 リセット解除直後の内部状態 ---------- 7-4
7.4 リセット解除後の注意事項 ---------- 7-4

第8章 入出力ポートと端子機能

8.1 入出力ポート概要 ---------- 8-2
8.2 端子機能の選択 ---------- 8-3
8.3 入出力ポート関連レジスタ ---------- 8-5
8.3.1 ポートデータレジスタ ---------- 8-7
8.3.2 ポート方向レジスタ ---------- 8-8
8.3.3 ポート動作モードレジスタ ---------- 8-9
8.3.4 ポート周辺機能選択レジスタ ---------- 8-14
8.3.5 ポート入力特別機能制御レジスタ ---------- 8-15
8.4 ポート入力レベル切り換え機能 ---------- 8-18
8.5 ポート周辺回路 ---------- 8-20
8.6 入出力ポートの注意事項 ---------- 8-25

第9章 DMAC

9.1 DMAC概要 ---------- 9-2
9.2 DMAC関連レジスタ ---------- 9-4
9.2.1 DMAチャネル制御レジスタ ---------- 9-6
9.2.2 DMAソフトウェア要求発生レジスタ ---------- 9-12
9.2.3 DMAソースアドレスレジスタ ---------- 9-13
9.2.4 DMAデスティネーションアドレスレジスタ ---------- 9-14
9.2.5 DMA転送カウントレジスタ ---------- 9-15
9.2.6 DMA割り込み関連レジスタ ---------- 9-16
9.3 DMAC機能説明 ---------- 9-22
9.3.1 DMA要求要因 ---------- 9-22
9.3.2 DMA転送の処理手順 ---------- 9-25
9.3.3 DMAの起動 ---------- 9-26

9.3.4 チャネルの優先順位 ---------- 9-26
9.3.5 内部バス権の獲得と解放 ---------- 9-26
9.3.6 転送単位 ---------- 9-27
9.3.7 転送回数 ---------- 9-27
9.3.8 アドレス空間 ---------- 9-27
9.3.9 転送動作 ---------- 9-27
9.3.10 DMAの終了と割り込み ---------- 9-30
9.3.11 DMA転送終了後の各レジスタの状態 ---------- 9-30
9.4 DMACの注意事項 ---------- 9-31

第10章 マルチジャンクションタイマ

10.1 マルチジャンクションタイマ概要 ---------- 10-2
10.2 タイマ共通部 ---------- 10-7
10.2.1 タイマ共通部レジスタマップ ---------- 10-8
10.2.2 プリスケーラ部 ---------- 10-9
10.2.3 クロックバス/入出力イベントバス制御部 ---------- 10-10
10.2.4 入力処理制御部 ---------- 10-14
10.2.5 出力フリップフロップ制御部 ---------- 10-20
10.2.6 割り込み制御部 ---------- 10-25
10.3 TOP(出力系16ビットタイマ) ---------- 10-42
10.3.1 TOP概要 ---------- 10-42
10.3.2 TOP各モードの概要 ---------- 10-44
10.3.3 TOP関連レジスタマップ ---------- 10-46
10.3.4 TOP制御レジスタ ---------- 10-48
10.3.5 TOPカウンタ(TOP0CT～TOP10CT) ---------- 10-53
10.3.6 TOPリロードレジスタ(TOP0RL～TOP10RL) ---------- 10-54
10.3.7 TOP補正レジスタ(TOP0CC～TOP10CC) ---------- 10-55
10.3.8 TOPイネーブル制御レジスタ ---------- 10-56
10.3.9 TOPワンショット出力モード(補正機能あり)の動作 ---------- 10-58
10.3.10 TOPディレイドワンショット出力モード(補正機能あり)の動作 ---------- 10-64
10.3.11 TOP連続出力モード(補正機能なし)の動作 ---------- 10-69
10.4 TIO(入出力系16ビットタイマ) ---------- 10-72
10.4.1 TIO概要 ---------- 10-72
10.4.2 TIO各モードの概要 ---------- 10-74
10.4.3 TIO関連レジスタマップ ---------- 10-77
10.4.4 TIO制御レジスタ ---------- 10-79
10.4.5 TIOカウンタ(TIO0CT～TIO9CT) ---------- 10-87
10.4.6 TIOリロード0/計測レジスタ(TIO0RL0～TIO9RL0) ---------- 10-88
10.4.7 TIOリロード1レジスタ(TIO0RL1～TIO9RL1) ---------- 10-89
10.4.8 TIOイネーブル制御レジスタ ---------- 10-90
10.4.9 TIO計測(フリーラン/クリア)入力モードの動作 ---------- 10-92
10.4.10 TIOノイズ処理入力モードの動作 ---------- 10-94
10.4.11 TIO PWM出力モード動作 ---------- 10-95
10.4.12 TIOワンショット出力モード(補正機能なし)の動作 ---------- 10-99
10.4.13 TIOディレイドワンショット出力モード(補正機能なし)の動作 ---------- 10-101
10.4.14 TIO連続出力モード(補正機能なし)の動作 ---------- 10-103
10.5 TMS(入力系16ビットタイマ) ---------- 10-105
10.5.1 TMS概要 ---------- 10-105

10.5.2 TMSの動作概要 ---------- 10-105
10.5.3 TMS関連レジスタマップ ---------- 10-107
10.5.4 TMS制御レジスタ ---------- 10-108
10.5.5 TMSカウンタ（TMS0CT，TMS1CT） ---------- 10-109
10.5.6 TMS計測レジスタ（TMS0MR3～0，TMS1MR3～0） ---------- 10-109
10.5.7 TMS計測入力の動作 ---------- 10-110
10.6 TML（入力系32ビットタイマ） ---------- 10-111
10.6.1 TML概要 ---------- 10-111
10.6.2 TMLの動作概要 ---------- 10-112
10.6.3 TML関連レジスタマップ ---------- 10-112
10.6.4 TML制御レジスタ ---------- 10-113
10.6.5 TMLカウンタ ---------- 10-114
10.6.6 TML計測レジスタ ---------- 10-115
10.6.7 TML計測入力の動作 ---------- 10-117

第11章 A/Dコンバータ

11.1 A/Dコンバータ概要 ---------- 11-2
11.1.1 変換モード ---------- 11-5
11.1.2 動作モード ---------- 11-5
11.1.3 特殊動作モード ---------- 11-8
11.1.4 A/Dコンバータの割り込み要求とDMA転送要求 ---------- 11-11
11.1.5 サンプル＆ホールド機能 ---------- 11-11
11.2 A/Dコンバータ関連レジスタ ---------- 11-12
11.2.1 A/D単一モードレジスタ0 ---------- 11-14
11.2.2 A/D単一モードレジスタ1 ---------- 11-16
11.2.3 A/Dスキャンモードレジスタ0 ---------- 11-18
11.2.4 A/Dスキャンモードレジスタ1 ---------- 11-20
11.2.5 A/D変換速度制御レジスタ ---------- 11-22
11.2.6 A/D断線検出アシスト機能制御レジスタ ---------- 11-23
11.2.7 A/D断線検出アシスト方式選択レジスタ ---------- 11-24
11.2.8 A/D逐次近似レジスタ ---------- 11-27
11.2.9 A/Dコンパレートデータレジスタ ---------- 11-28
11.2.10 10ビットA/Dデータレジスタ ---------- 11-29
11.2.11 8ビットA/Dデータレジスタ ---------- 11-30
11.3 A/Dコンバータ機能説明 ---------- 11-31
11.3.1 アナログ入力電圧の求め方 ---------- 11-31
11.3.2 逐次近似比較方式のA/D変換 ---------- 11-32
11.3.3 コンパレータ動作 ---------- 11-33
11.3.4 A/D変換時間算出方法 ---------- 11-34
11.3.5 A/D変換精度の定義 ---------- 11-37
11.4 注入電流バイパス回路 ---------- 11-39
11.5 A/Dコンバータの注意事項 ---------- 11-41

第12章 シリアルインタフェース

12.1 シリアルインタフェース概要 ---------- 12-2
12.2 シリアルインタフェース関連レジスタ ---------- 12-5
12.2.1 SIO割り込み関連レジスタ ---------- 12-6
12.2.2 SIO送信制御レジスタ ---------- 12-13

12.2.3 SIO送受信モードレジスタ ---------- 12-14
12.2.4 SIO送信バッファレジスタ ---------- 12-17
12.2.5 SIO受信バッファレジスタ ---------- 12-18
12.2.6 SIO受信制御レジスタ ---------- 12-19
12.2.7 SIOボーレートレジスタ ---------- 12-21
12.2.8 SIO特殊モードレジスタ ---------- 12-23
12.3 CSIOモード送信動作説明 ---------- 12-24
12.3.1 CSIOボーレートの設定 ---------- 12-24
12.3.2 CSIO送信時の初期設定 ---------- 12-25
12.3.3 CSIO送信の開始 ---------- 12-27
12.3.4 CSIOの連続送信 ---------- 12-27
12.3.5 CSIO送信完了処理 ---------- 12-28
12.3.6 送信割り込み ---------- 12-28
12.3.7 送信DMA転送要求 ---------- 12-28
12.3.8 CSIO送信動作例 ---------- 12-30
12.4 CSIOモード受信動作説明 ---------- 12-32
12.4.1 CSIO受信時の初期設定 ---------- 12-32
12.4.2 CSIO受信の開始 ---------- 12-34
12.4.3 CSIO受信完了処理 ---------- 12-34
12.4.4 連続受信について ---------- 12-35
12.4.5 CSIO受信動作の状態を示すフラグ ---------- 12-36
12.4.6 CSIO受信動作例 ---------- 12-37
12.5 CSIOモード時の注意事項 ---------- 12-39
12.6 UARTモード送信動作説明 ---------- 12-41
12.6.1 UARTボーレートの設定 ---------- 12-41
12.6.2 UART送受信データフォーマット ---------- 12-41
12.6.3 UART送信時の初期設定 ---------- 12-43
12.6.4 UART送信の開始 ---------- 12-45
12.6.5 UARTの連続送信 ---------- 12-45
12.6.6 UART送信完了処理 ---------- 12-45
12.6.7 送信割り込み ---------- 12-45
12.6.8 送信DMA転送要求 ---------- 12-46
12.6.9 UART送信動作例 ---------- 12-47
12.7 UARTモード受信動作説明 ---------- 12-49
12.7.1 UART受信時の初期設定 ---------- 12-49
12.7.2 UART受信の開始 ---------- 12-51
12.7.3 UART受信完了処理 ---------- 12-51
12.7.4 UART受信動作例 ---------- 12-53
12.7.5 UART受信時のスタートビットの検出 ---------- 12-55
12.8 定周期クロック出力機能 ---------- 12-56
12.9 UARTモード時の注意事項 ---------- 12-57

第13章 CANモジュール

13.1 CANモジュールの概要 ---------- 13-2
13.2 CANモジュール関連レジスタ ---------- 13-4
13.2.1 CANコントロールレジスタ ---------- 13-15
13.2.2 CANステータスレジスタ ---------- 13-18
13.2.3 CAN拡張IDレジスタ ---------- 13-21

13.2.4 CANコンフィグレーションレジスタ ---------- 13-22
13.2.5 CANタイムスタンプカウントレジスタ ---------- 13-24
13.2.6 CANエラーカウントレジスタ ---------- 13-25
13.2.7 CANボーレートプリスケーラ ---------- 13-26
13.2.8 CAN割り込み関連レジスタ ---------- 13-27
13.2.9 CANエラー要因レジスタ ---------- 13-45
13.2.10 CANモードレジスタ ---------- 13-47
13.2.11 CAN DMA転送要求選択レジスタ ---------- 13-48
13.2.12 CANマスクレジスタ ---------- 13-49
13.2.13 CANシングルショットモード制御レジスタ ---------- 13-53
13.2.14 CANメッセージスロットコントロールレジスタ ---------- 13-54
13.2.15 CANメッセージスロット ---------- 13-58
13.3 CANプロトコル ---------- 13-73
13.3.1 CANプロトコルフレーム ---------- 13-73
13.3.2 CAN送受信時のデータフォーマット ---------- 13-74
13.3.3 CANコントローラのエラー状態 ---------- 13-75
13.4 CANモジュール初期設定 ---------- 13-76
13.4.1 CANモジュールの初期設定 ---------- 13-76
13.5 データフレーム送信 ---------- 13-79
13.5.1 データフレーム送信手順 ---------- 13-79
13.5.2 データフレーム送信動作 ---------- 13-80
13.5.3 送信アボート機能 ---------- 13-81
13.6 データフレーム受信 ---------- 13-82
13.6.1 データフレーム受信手順 ---------- 13-82
13.6.2 データフレーム受信動作 ---------- 13-83
13.6.3 受信データフレームの読み出し ---------- 13-85
13.7 リモートフレーム送信 ---------- 13-87
13.7.1 リモートフレーム送信手順 ---------- 13-87
13.7.2 リモートフレーム送信動作 ---------- 13-88
13.7.3 リモートフレーム送信設定時の受信データフレームの読み出し ---------- 13-90
13.8 リモートフレーム受信 ---------- 13-92
13.8.1 リモートフレーム受信手順 ---------- 13-92
13.8.2 リモートフレーム受信動作 ---------- 13-93
13.9 CANモジュールの注意事項 ---------- 13-96

第14章 リアルタイムデバッガ(RTD)

14.1 リアルタイムデバッガ(RTD)概要 ---------- 14-2
14.2 RTD端子機能 ---------- 14-3
14.3 RTD関連レジスタ ---------- 14-3
14.3.1 RTD書き込み機能禁止レジスタ ---------- 14-3
14.4 RTD動作説明 ---------- 14-4
14.4.1 RTD動作概要 ---------- 14-4
14.4.2 RDR(リアルタイムRAM内容出力)動作 ---------- 14-4
14.4.3 WRR(RAM内容強制書き換え)動作 ---------- 14-6
14.4.4 VER(継続モニタ)動作 ---------- 14-7
14.4.5 VEI(割り込み要求)動作 ---------- 14-7
14.4.6 RCV(暴走状態からの復帰)動作 ---------- 14-8
14.4.7 リアルタイムデバッガ使用時の指定アドレス設定方法 ---------- 14-9

14.4.8 RTDのリセット ---------- 14-10
14.5 ホストとの接続例 ---------- 14-11

第15章 外部バスインタフェース

15.1 外部バスインタフェース関連信号 ---------- 15-2
15.2 外部バスインタフェース関連レジスタ ---------- 15-4
15.2.1 ポート動作モードレジスタ ---------- 15-4
15.2.2 バスモード制御レジスタ ---------- 15-5
15.3 リード/ライト動作 ---------- 15-6
15.4 バスアービトレーション ---------- 15-12
15.5 外部拡張メモリ接続例 ---------- 15-14

第16章 ウェイトコントローラ

16.1 ウェイトコントローラ概要 ---------- 16-2
16.2 ウェイトコントローラ関連レジスタ ---------- 16-4
16.2.1 ウェイト数制御レジスタ ---------- 16-4
16.3 ウェイトコントローラ動作例 ---------- 16-5

第17章 RAMバックアップモード

17.1 概要 ---------- 17-2
17.2 電源断時のRAMバックアップ例 ---------- 17-2
17.2.1 通常動作時の状態 ---------- 17-3
17.2.2 RAMバックアップ時の状態 ---------- 17-4
17.3 低消費電力化のためのRAMバックアップ例 ---------- 17-5
17.3.1 通常動作時の状態 ---------- 17-6
17.3.2 RAMバックアップ時の状態 ---------- 17-7
17.3.3 電源立ち上げ時の注意事項 ---------- 17-8
17.4 RAMバックアップモードの解除（ウェイクアップ） ---------- 17-9

第18章 発振回路

18.1 発振回路 ---------- 18-2
18.1.1 発振回路例 ---------- 18-2
18.1.2 XIN発振停止検知機能 ---------- 18-3
18.1.3 発振駆動能力選択機能 ---------- 18-5
18.1.4 システムクロックの出力機能 ---------- 18-7
18.1.5 電源投入時の発振安定時間 ---------- 18-7
18.2 クロック発生回路 ---------- 18-8

第19章 JTAG

19.1 JTAG概要 ---------- 19-2
19.2 JTAG回路構成 ---------- 19-3
19.3 JTAGレジスタ ---------- 19-4
19.3.1 命令レジスタ（JTAGIR） ---------- 19-4
19.3.2 データレジスタ ---------- 19-5
19.4 JTAG基本動作 ---------- 19-6
19.4.1 JTAG動作概要 ---------- 19-6
19.4.2 IRパスシーケンス ---------- 19-8

19.4.3 DRパスシーケンス ---------- 19-9
19.4.4 データレジスタの参照および設定 ---------- 19-10
19.5 バウンダリスキャン記述言語 ---------- 19-11
19.6 JTAG接続時のボード設計注意事項 ---------- 19-12
19.7 JTAG未使用時の端子処理 ---------- 19-13

第20章 電源回路

20.1 電源回路の構成 ---------- 20-2
20.2 電源立ち上げシーケンス ---------- 20-3
20.2.1 RAMバックアップ未使用時の電源立ち上げシーケンス ---------- 20-3
20.2.2 RAMバックアップ使用時の電源立ち上げシーケンス ---------- 20-4
20.3 電源立ち下げシーケンス ---------- 20-5
20.3.1 RAMバックアップ未使用時の電源立ち下げシーケンス ---------- 20-5
20.3.2 RAMバックアップ使用時の電源立ち下げシーケンス ---------- 20-6

第21章 電気的特性

21.1 絶対最大定格 ---------- 21-2
21.2 VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時の電気的特性 ---------- 21-3
21.2.1 推奨動作条件(VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時) ---------- 21-3
21.2.2 DC特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時) ---------- 21-5
21.2.3 A/D変換特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時) ---------- 21-6
21.3 VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時の電気的特性 ---------- 21-7
21.3.1 推奨動作条件(VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時) ---------- 21-7
21.3.2 DC特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時) ---------- 21-9
21.3.3 A/D変換特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時) ---------- 21-10
21.4 VCCE＝3.3V、f(XIN)＝10MHz時の電気的特性 ---------- 21-11
21.4.1 推奨動作条件(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝10MHz時) ---------- 21-11
21.4.2 DC特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝10MHz時) ---------- 21-13
21.4.3 A/D変換特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝10MHz時) ---------- 21-14
21.5 VCCE＝3.3V、f(XIN)＝8MHz時の電気的特性 ---------- 21-15
21.5.1 推奨動作条件(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝8MHz時) ---------- 21-15
21.5.2 DC特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝8MHz時) ---------- 21-17
21.5.3 A/D変換特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝8MHz時) ---------- 21-18
21.6 フラッシュ関連特性 ---------- 21-19
21.7 電源外付け容量 ---------- 21-20
21.8 AC特性(VCCE＝5V時) ---------- 21-20
21.9 AC特性(VCCE＝3.3V時) ---------- 21-37

付録1 機械的仕様

付録1.1 外形寸法図 ---------- 付録1-2

付録2 命令処理時間

付録2.1 M32R/ECU命令処理時間 ---------- 付録2-2

付録3 未使用端子の処理

付録3.1 未使用端子の処理例 ---------- 付録3-2

付録4　注意事項のまとめ

付録4.1　CPUに関する注意事項 ---------- 付録4-2
付録4.2　アドレス空間の注意事項 ---------- 付録4-3
付録4.3　EITの注意事項 ---------- 付録4-3
付録4.4　内蔵RAMの注意事項 ---------- 付録4-3
付録4.5　内蔵フラッシュメモリの注意事項 ---------- 付録4-3
付録4.6　リセット解除後の注意事項 ---------- 付録4-4
付録4.7　入出力ポートの注意事項 ---------- 付録4-4
付録4.8　DMACの注意事項 ---------- 付録4-5
付録4.9　マルチジャンクションタイマの注意事項 ---------- 付録4-6
付録4.9.1　TOPワンショット出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-6
付録4.9.2　TOPディレイドワンショット出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-8
付録4.9.3　TOP連続出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-9
付録4.9.4　TIO計測（フリーラン/クリア）入力モード使用上の注意 ---------- 付録4-9
付録4.9.5　TIO PWM出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-9
付録4.9.6　TIOワンショット出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-9
付録4.9.7　TIOディレイドワンショット出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-10
付録4.9.8　TIO連続出力モード使用上の注意 ---------- 付録4-10
付録4.9.9　TMS計測入力使用上の注意 ---------- 付録4-10
付録4.9.10　TML計測入力使用上の注意 ---------- 付録4-11
付録4.10　A/Dコンバータの注意事項 ---------- 付録4-12
付録4.11　シリアルインタフェースの注意事項 ---------- 付録4-15
付録4.11.1　CSIOモード時の注意事項 ---------- 付録4-15
付録4.11.2　UARTモード時の注意事項 ---------- 付録4-16
付録4.12　CANモジュールの注意事項 ---------- 付録4-18
付録4.13　RAMバックアップモードの注意事項 ---------- 付録4-19
付録4.14　JTAGに関する注意事項 ---------- 付録4-20
付録4.14.1　JTAG接続時のボード設計注意事項 ---------- 付録4-20
付録4.14.2　JTAG未使用時の端子処理 ---------- 付録4-21
付録4.15　ノイズに関する注意事項 ---------- 付録4-22
付録4.15.1　配線長の短縮 ---------- 付録4-22
付録4.15.2　VSS－VCCライン間へのバイパスコンデンサ挿入 ---------- 付録4-24
付録4.15.3　アナログ入力端子の配線処理 ---------- 付録4-24
付録4.15.4　発振用端子への配慮 ---------- 付録4-25
付録4.15.5　入出力ポート処理 ---------- 付録4-29

第1章

概要

1.1　32176グループの概要
1.2　ブロック図
1.3　端子機能
1.4　端子配置

1.1　32176グループの概要

表1.1.1　製品一覧表

型名	ROM容量	RAM容量	動作周波数	電源電圧	動作周囲温度（注1）
M32176F4VFP	512Kバイト	24Kバイト	32MHz（注2）	5Vまたは3.3V	-40℃～+125℃
M32176F4TFP	512Kバイト	24Kバイト	40MHz	5Vまたは3.3V	-40℃～+85℃
M32176F3VFP	384Kバイト	24Kバイト	32MHz（注2）	5Vまたは3.3V	-40℃～+125℃
M32176F3TFP	384Kバイト	24Kバイト	40MHz	5Vまたは3.3V	-40℃～+85℃
M32176F2VFP	256Kバイト	24Kバイト	32MHz（注2）	5Vまたは3.3V	-40℃～+125℃
M32176F2TFP	256Kバイト	24Kバイト	40MHz	5Vまたは3.3V	-40℃～+85℃

注1．連続動作を保証するものではありません。使用時間の制限（温度プロファイル）があります。
注2．M32176F4VFP、M32176F3VFP、M32176F2VFPの製品仕様に対して、40MHz動作品のオプション仕様がございます。
オプション仕様の詳細、価格に関しましては、弊社までお問い合わせください。

1.1.1　M32Rファミリ CPUコア

(1) RISCアーキテクチャの採用

- 32ビットRISCシングルチップマイクロコンピュータで、M32RファミリCPUコア（以下M32Rと略）を中心にして、フラッシュメモリ、RAM、および各種周辺機能を1チップに集積しています。
- M32Rは、RISCアーキテクチャを採用しています。メモリアクセスはロード命令とストア命令により行い、各種の演算はレジスタ間演算命令で実行します。内部には32ビット汎用レジスタを16本備え、命令数は83あります。
- M32Rは、通常のロード命令、ストア命令に加えて、ロード&アドレス更新、ストア&アドレス更新といった複合命令もサポートしています。これらの命令はデータ転送の高速化に有効です。

(2) 5ステージのパイプライン処理

- M32Rは、命令フェッチ、デコード、実行、メモリアクセス、ライトバックの5ステージのパイプライン処理により、命令を処理します。ロード命令、ストア命令、レジスタ間演算命令だけでなく、ロード&アドレス更新、ストア&アドレス更新といった複合命令も1CPUCLK（f（CPUCLK）40MHz動作時、1CPUCLKは25ns）で実行します。
- 命令は、フェッチされた順に実行ステージに投入されますが、先に投入されたロード命令やストア命令の実行がメモリアクセスのウェイトサイクルの挿入により延びた場合には、後続のレジスタ間演算命令が先に実行される場合があります。M32Rは、このような「out-of-order-completion」などの採用により、クロックサイクルをむだにしない命令実行制御を行います。

(3) コンパクトな命令コード

- M32Rの命令には、16ビット長命令と32ビット長命令の2つの形式があります。特に16ビット長命令形式の採用により、プログラムのコードサイズを抑えることができます。
- 32ビット長命令も備えることで、アドレス空間がセグメント化されたアーキテクチャに比べ、プログラミングが容易で、同一クロックスピードでの性能も向上させています。例えば32ビット長命令には、実行中のアドレスから±32Mバイトのアドレス範囲に1命令で分岐する命令があり、プログラミングも容易になっています。

1.1.2　積和演算機能の内蔵

(1) 高速乗算器の内蔵

- M32Rは、32ビット×16ビットの高速乗算器の内蔵により、32ビット×32ビットの整数乗算命令を3CPUCLKで実行します。

(2) DSPに匹敵する積和演算命令をサポート

- M32Rは、56ビットのアキュムレータによる積和演算命令(または乗算命令)として、次の4つをサポートしており、いずれも1CPUCLKで実行できます。

  (1) レジスタの上位16ビット×レジスタの上位16ビット
  (2) レジスタの下位16ビット×レジスタの下位16ビット
  (3) レジスタの32ビット全体×レジスタの上位16ビット
  (4) レジスタの32ビット全体×レジスタの下位16ビット

- M32Rは、アキュムレータに格納された値を16ビットまたは32ビットに丸める命令や、アキュムレータ値の桁合わせのため、シフトしてレジスタに格納する命令を備えています。これらの命令も1CPUCLKで実行するため、ロード&アドレス更新、ストア&アドレス更新などの高速データ転送命令と組み合わせて使うことにより、DSPに匹敵するデータ処理能力を発揮できます。

1.1.3　フラッシュメモリとRAMの内蔵

- 32176は、0ウェイトでアクセスが可能なフラッシュメモリとRAMを内蔵しており、高速な組み込みシステムを構成できます。
- 内蔵フラッシュメモリは、プリント基板に実装した状態での書き込み(オンボード書き込み)が可能です。フラッシュメモリの採用で開発時のチップがそのまま量産に使え、試作から量産へプリント基板を変更することなくスムーズに移行することができます。
- 内蔵フラッシュメモリは、疑似フラッシュエミュレーション機能を備えており、内蔵フラッシュメモリの一部に疑似的に内蔵RAMをマッピングすることができます。この機能と内蔵リアルタイムデバッガ(RTD)を組み合わせることにより、ROMテーブル上のデータチューニングが容易に行えます。
- 内蔵RAMは、RTD(リアルタイムデバッガ)を使用することで、M32Rとは独立して 外部からデータの読み出しや書き換えができます。外部との通信は、RTDの専用クロック同期形シリアルインタフェースで行います。

1.1.4　クロック逓倍回路の内蔵

• 32176はクロック逓倍回路を内蔵しています。図1.1.1に 概念図を示します。

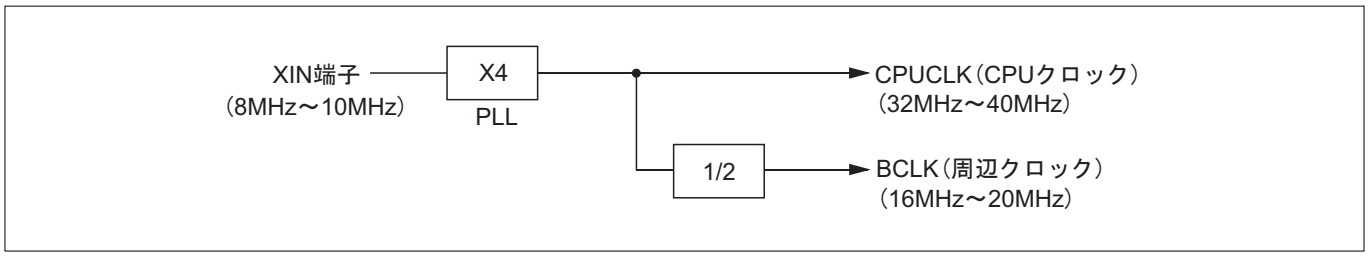


図1.1.1　**クロック概念図**

表1.1.2　**クロック**

機能ブロック	特長
CPUCLK	• CPU**クロック：**M32R**コア、内蔵フラッシュメモリ、内蔵**RAM**の動作クロック周波数を示す場合は**f（CPUCLK）**と規定**
BCLK	• **周辺クロック：内蔵周辺**I/O**、外部データバスの動作クロック周波数を示す場合は**f（BCLK）**と規定**
クロック出力（BCLK**端子出力）**	• f（BCLK）**と同じ周波数のクロックを出力**

1.1.5　強力な周辺機能の内蔵

（1）8**レベルの割り込みコントローラ**（ICU）

（2）10**チャネルの**DMAC

（3）37**チャネルのマルチジャンクションタイマ**（MJT）

（4）16**チャネルの**A/D**コンバータ**（ADC）

（5）4**チャネルの高速シリアルインタフェース**（SIO）

（6）2**チャネルの**Full-CAN

（7）**リアルタイムデバッガ**（RTD）

（8）**ウェイトコントローラ**

（9）M32R**ファミリ共通デバッグ機能**（SDI：Scalable Debug Interface）

1.2 ブロック図

図1.2.1にブロック図を示し、それぞれのブロックの特長を表1.2.1に示します。

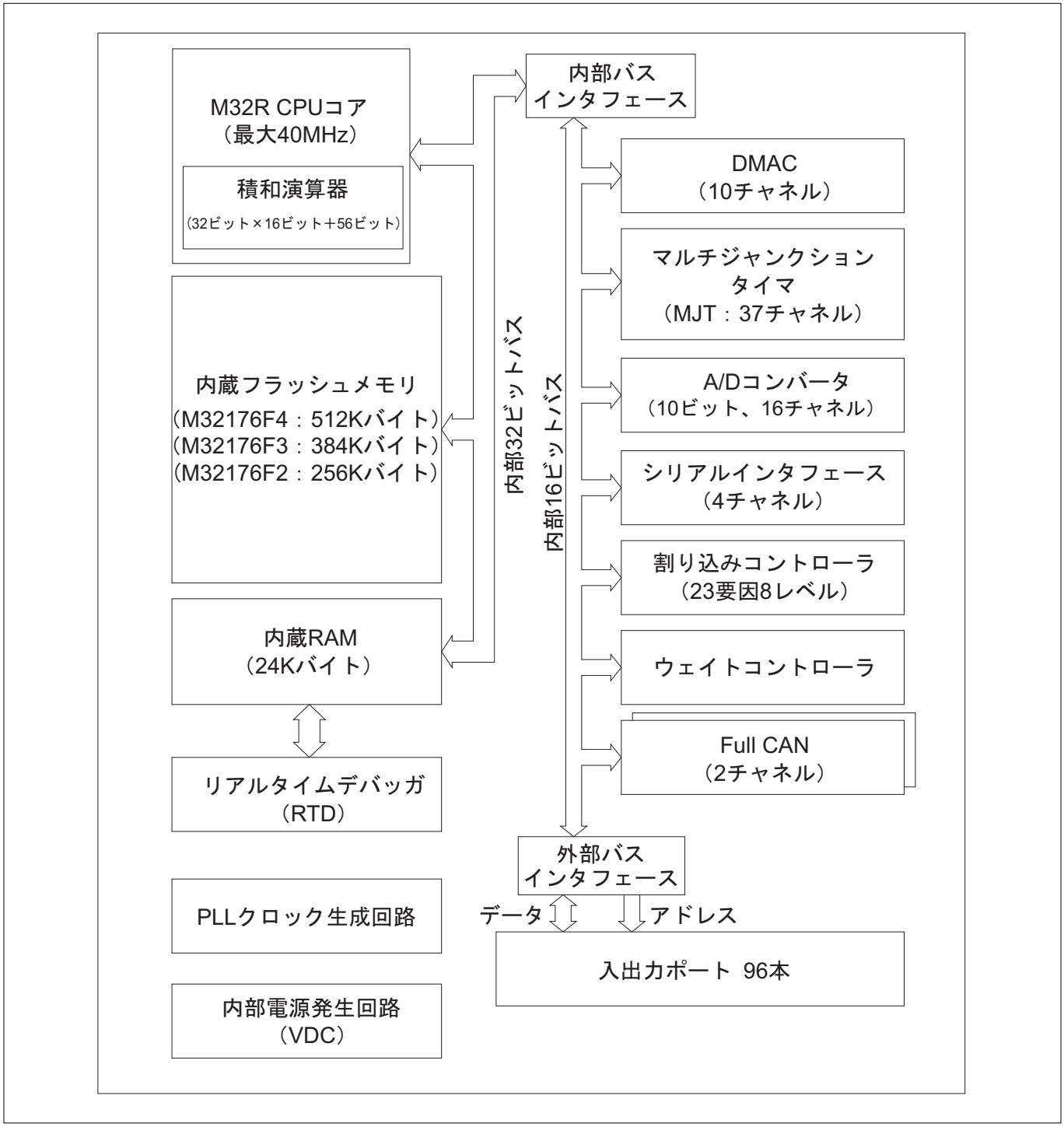


図1.2.1 32176**のブロック図**

表1.2.1 32176の特長(1/2)

機能ブロック	特長
M32R CPUコア	• インプリメンテーション：5段パイプライン方式 • コア内部32ビット構成 • レジスタ構成 汎用レジスタ：32ビット×16本 制御レジスタ：32ビット×5本 • 命令セット 16ビット/32ビット命令形式 83命令/6アドレッシングモード • 積和演算器内蔵(32ビット×16ビット＋56ビット)
RAM	• 容量：24Kバイト • 0ウェイトアクセス • RTD(リアルタイムデバッガ)を使用することで、CPU性能を全く低下させることなく独立して外部から内蔵RAMのデータ読み出しや書き換えが可能 • RAMバックアップモードを使用することにより、電源断時に内蔵RAMをバックアップ可能
フラッシュメモリ	• 容量：M32176F2＝256Kバイト/M32176F3＝384Kバイト/M32176F4＝512Kバイト • 0ウェイトアクセス • 書き換え回数 標準品 ：100回 10000(10k)回対応品（注1）：4Kバイトブロック（注2） 10000(10k)回 ：4Kバイトブロック以外 1000(1k)回
バス仕様	• 基本バスサイクル：25ns(f(CPUCLK)＝40MHz動作時) • 論理アドレス空間：4Gバイトリニア • 内部バス仕様：内部32ビットデータバス(CPU⇔内蔵フラッシュメモリ、RAMアクセス) ：内部16ビットデータバス(内蔵周辺I/Oアクセス) • 外部領域：最大2Mバイト(プロセッサモード時) • 外部拡張領域：最大2Mバイト • 外部アドレスバス：19ビットアドレス • 外部バス：16ビットデータバス • 外部バス最短アクセス：リード時＝2BCLK ライト時＝2BCLK
DMAC	• チャネル数：10チャネル • 内蔵周辺I/O間、内蔵RAM間、または内蔵周辺I/Oと内蔵RAM間の転送サポート • 内蔵周辺I/Oとのコンビネーションにより、高度なDMA転送が可能 • 転送要求：ソフトウェア、内蔵周辺I/O(A/Dコンバータ、MJT、シリアルインタフェース、CAN) • DMAチャネル間のカスケード接続(あるチャネルの転送終了で他チャネルのDMA転送を起動)が可能 • 割り込み要求：転送カウントレジスタのアンダフロー
マルチジャンクションタイマ(MJT)	• 37チャネルの多機能タイマ 16ビット出力系タイマ11チャネル、16ビット入出力系タイマ10チャネル、16ビット入力系タイマ8チャネル、32ビット入力系タイマ8チャネル内蔵 • 各チャネルの相互接続によるフレキシブルなタイマ構成が可能 • 割り込み要求：カウンタアンダフロー/オーバフロー、TIN端子からの立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジ/"L"レベル/"H"レベル (TIN端子はタイマ動作と関係なく外部割り込み入力として使用可能) • DMA転送要求：カウンタアンダフロー/オーバフロー、TIN端子からの立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジ/"L"レベル/"H"レベル (TIN端子はタイマ動作と関係なく外部DMA転送要求入力として使用可能)

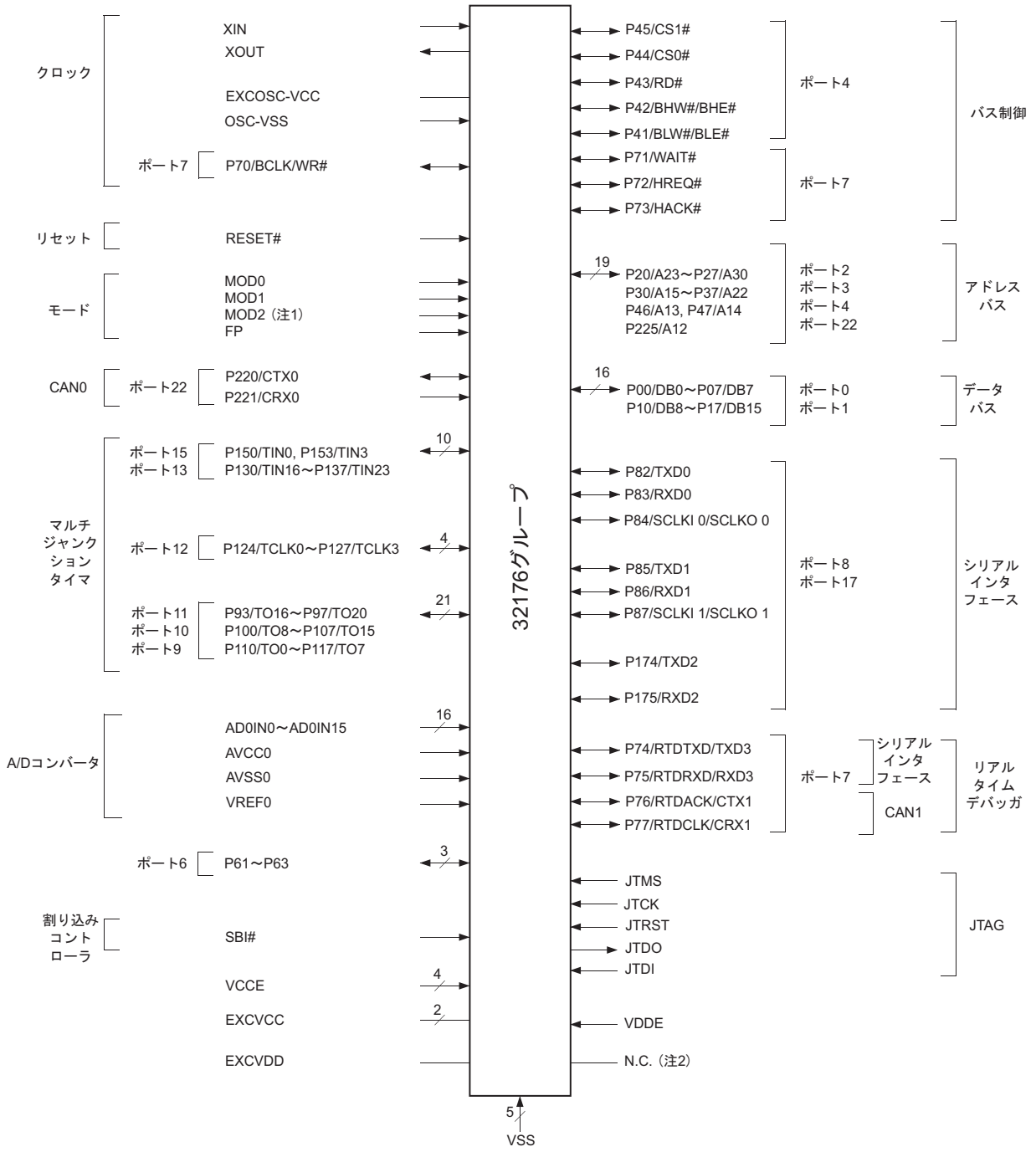
表1.2.1 32176の特長(2/2)

機能ブロック	特長
A/Dコンバータ(ADC)	• 16チャネル：10ビット分解能A/Dコンバータ • 変換モード：通常のA/D変換モードに加え、コンパレータモード内蔵 • 動作モード：単一変換モード、nチャネルスキャンモード(n＝1～16) • サンプル＆ホールド機能：サンプル＆ホールド機能 有効/無効切り換え可能 • A/D断線検出アシスト機能：スキャンモード動作時、前チャネルのアナログ入力電圧の回り込みによる影響を抑制 • 注入電流バイパス回路内蔵 • A/D変換終了時の割り込みまたはDMA転送の起動が可能 • 8ビット/10ビット変換結果読み出しが可能 • 割り込み要求：A/D変換の終了 • DMA転送要求：A/D変換の終了
シリアルインタフェース(SIO)	• 4チャネルのシリアルインタフェース • クロック同期形シリアルインタフェース、またはクロック非同期シリアルインタフェースに設定可能 • クロック同期時2Mビット/秒、クロック非同期時156Kビット/秒の高速データ転送(f(BCLK)＝20MHz 動作時) • 割り込み要求：受信完了、受信エラー、送信バッファエンプティ、送信完了 • DMA転送要求：受信完了、送信バッファエンプティ
CAN	• 16本のメッセージスロット×2系統 • CAN specification 2.0B active準拠 • 割り込み要求：送信完了、受信完了、バスエラー、エラーパッシブ、バスオフ、シングルショット • DMA転送要求：送信失敗、送信完了、受信完了
リアルタイムデバッガ(RTD)	• 外部からのコマンド入力による、CPUとは独立した内蔵RAMの書き換え/モニタ機能 • 専用クロック同期シリアルポート装備 • 割り込み要求：RTD割り込みコマンドの入力
割り込みコントローラ(ICU)	• 内蔵周辺I/Oからの割り込み要求管理 • 割り込み禁止状態を含めて8レベルの優先順位 • 外部割り込み：11要因(SBI#, TIN0, TIN3, TIN16～TIN23) • TIN端子の入力センス：立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジ/"H"レベル/"L"レベル
ウェイトコントローラ	• 外部拡張領域のアクセスに対するウェイト制御 • ソフトウェア設定による1～4ウェイト挿入＋WAIT#信号入力によるウェイト延長
PLL	• 4逓倍のクロック発生回路
クロック	• 最大外部入力クロック周波数(XIN)は10.0MHz (注3) • CPUCLK：M32R-CPUコア、内蔵フラッシュメモリ、内蔵RAMの動作クロック 最大CPUクロックは40MHz(f(XIN)＝10MHz動作時) • BCLK：内蔵周辺I/O、外部データバスの動作クロック 最大周辺クロックは20MHz(f(XIN)＝10MHz動作時の周辺モジュールのアクセス) • クロック出力(BCLK端子出力)：BCLKと同じ周波数のクロックを出力
JTAG	• バウンダリスキャン機能
VDC	• 内部電源発生回路：外部の単一電源(5Vまたは3.3V)から内部電源(2.5V)を生成
ポート	• 入出力端子：96本 • ポート入力しきい値をポートのグループ単位で3レベル(シュミット有無選択可能)からプログラマブル設定可能

注1．10000(10k)回書き換え対応はオプション設定となっています。10000回書き換えの応用を検討されているお客様は弊社までお問い合わせください。
注2．ブロック1：H'0000 2000～H'0000 2FFF
ブロック2：H'0000 3000～H'0000 3FFF
注3．M32176F2VFP、M32176F3VFP、M32176F4VFPの最大外部入力クロック周波数(XIN)は8.0MHz

1.3　端子機能

図1.3.1に端子機能図を示し、表1.3.1に端子機能説明を示します。



注1.　MOD2は必ずグランド（GND）に接続してください。
注2.　N.C.端子はノンコネクトを示します。電圧変動の無いグランド、電源等を接続してください。
注.　・端子名（信号名）末尾の"#"は"L"アクティブ信号（端子）であることを示します。

図1.3.1　M32176の端子機能図

表1.3.1　端子機能説明(1/4)

種類	端子名	名称	入出力	機能
電源	VCCE	主電源	ー	主電源(5.0V±0.5V、または3.3V±0.3V)です。
	EXCVCC	内部電源	ー	外付け容量接続端子です。
	VDDE	RAM電源	ー	内蔵RAMバックアップ用電源端子(5.0V±0.5V、または3.3V±0.3V)です。
	EXCVDD	RAM内部電源	ー	内蔵RAM内部電源用の外付け容量を接続する端子です。
	VSS	グランド	ー	VSSはすべてグランド(GND)に接続します。
クロック	XIN, XOUT	クロック入力 クロック出力	入力 出力	クロック入出力端子です。PLLによる4逓倍回路を内蔵しています。内部CPUクロック動作周波数の1/4の周波数のクロックを入力します(f(CPUCLK)＝40MHz時、XIN入力10MHz)。
	BCLK	システム クロック	出力	外部入力クロック周波数：XINの2倍のクロックを出力します(f(CPUCLK)＝40MHz時、BCLK出力は20MHz)。 外部で同期設計を行う場合に使用します。
	EXCOSC-VCC	クロック電源	ー	発振回路用の外付け容量接続端子です。
	OSC-VSS	クロックグランド	ー	OSC-VSSはグランドに接続します。
リセット	RESET#	リセット	入力	内部回路のリセット入力端子です。
モード	MOD0～ MOD2	モード	入力	動作モードを設定します。 MOD0 / MOD1 / MOD2 / モード L / L / L / シングルチップモード L / H / L / 外部拡張モード H / L / L / プロセッサモード(ブートモード)(注1) H / H / L / (設定禁止) X / X / H / (設定禁止) X：Don't care
フラッシュ	FP	フラッシュ プロテクト	入力	フラッシュメモリに対して書き換えをハードウェアにてプロテクトする専用端子です。
アドレスバス	A12～A30	アドレスバス	出力	最大1Mバイトメモリ空間を2系統外付けするために19本のアドレス(A12～A30)を持っています。A31は出力されません。

注1．ブートモードではFP端子が"H"レベルである必要があります。詳細については、「第6章 内蔵メモリ」を参照してください。

表1.3.1 端子機能説明（2/4）

種類	端子名	名称	入出力	機能
データバス	DB0～DB15	データバス	入出力	外部デバイス接続用の16ビットデータバスです。ライトサイクル時にバイト単位で書き込む場合、有効でないバイト位置の出力データは不定です。リードサイクルでは常に16ビットのデータバスを読み込みます。ただし内部へは、有効なバイト位置のデータのみが転送されます。
バス制御	CS0#, CS1#	チップセレクト	出力	外部デバイスのチップセレクト信号です。
	RD#	リード	出力	外部デバイスのリード時に出力される信号です。
	WR#	ライト	出力	外部デバイスへのライト時に、出力される信号です。
	BHW#, BLW#	バイトハイライト/バイトローライト	出力	外部デバイスへのライト時に、有効なデータが転送されるライトバイト位置を示します。BHW#が上位アドレス側（DB0～DB7が有効）、BLW#が下位アドレス側（DB8～DB15が有効）に対応しています。
	BHE#	バイトハイイネーブル	出力	外部デバイスの上位データ（DB0～DB7）の有効を示します。
	BLE#	バイトローイネーブル	出力	外部デバイスの下位データ（DB8～DB15）の有効を示します。
	WAIT#	ウェイト	入力	外部デバイスをアクセスした場合、WAIT#に"L"信号が入力されているとウェイトサイクルが延長されます。
	HREQ#	ホールドリクエスト	入力	外部のデバイスが外部バスのバス権を要求するための入力端子です。HREQ#端子に"L"レベルを入力するとホールド状態へ遷移します。
	HACK#	ホールドアクノリッジ	出力	ホールド状態へ遷移し、外部バスのバス権を解放したことを通知するための信号です。
マルチジャンクションタイマ	TIN0,TIN3 TIN16～TIN23	タイマ入力	入力	マルチジャンクションタイマの入力端子です。
	TO0～TO20	タイマ出力	出力	マルチジャンクションタイマの出力端子です。
	TCLK0～TCLK3	タイマクロック	入力	マルチジャンクションタイマのクロック入力端子です。
A/Dコンバータ	AVCC0	アナログ電源	－	AVCC0はA/D0コンバータの電源です。AVCC0は電源に接続します。
	AVSS0	アナロググランド	－	AVSS0はA/D0コンバータのアナロググランドです。AVSS0はグランドに接続します。
	AD0IN0～AD0IN15	アナログ入力	入力	A/D0コンバータの16チャネルアナログ入力端子です。
	VREF0	基準電圧入力	入力	VREF0はA/D0コンバータの基準電圧入力端子です。
割り込みコントローラ	SBI#	システムブレーク割り込み	入力	割り込みコントローラのシステムブレーク割り込み（SBI）入力端子です。

表1.3.1　端子機能説明（3/4 ）

種類	端子名	名称	入出力	機能
シリアルインタフェース	SCLKI0/SCLKO0	UART送受信クロック出力または CSIO送受信クロック入出力	入出力	チャネル0がUARTモードの場合： BRG出力を2分周したクロック出力 チャネル0がCSIOモードの場合： 外部クロック選択時の送受信クロック入力 内部クロック選択時の送受信クロック出力
	SCLKI1/SCLKO1	UART送受信クロック出力または CSIO送受信クロック入出力	入出力	チャネル1がUARTモードの場合： BRG出力を2分周したクロック出力 チャネル1がCSIOモードの場合： 外部クロック選択時の送受信クロック入力 内部クロック選択時の送受信クロック出力
	TXD0～TXD3	送信データ	出力	シリアルインタフェースの送信データ出力端子です。
	RXD0～RXD3	受信データ	入力	シリアルインタフェースの受信データ入力端子です。
リアルタイムデバッガ	RTDTXD	送信データ	出力	リアルタイムデバッガのシリアルデータ出力端子です。
	RTDRXD	受信データ	入力	リアルタイムデバッガのシリアルデータ入力端子です。
	RTDCLK	クロック入力	入力	リアルタイムデバッガのシリアルデータ送受信クロック入力端子です。
	RTDACK	アクノリッジ	出力	リアルタイムデバッガのシリアルデータ出力ワードの先頭クロックに同期して"L"パルスを出力します。"L"パルス幅はリアルタイムデバッガが受信したコマンド/データの種類を示します。
CAN	CTX0, CTX1	データ出力	出力	CANモジュールからのデータを出力する端子です。
	CRX0, CRX1	データ入力	入力	CANモジュールへデータを入力する端子です。
JTAG	JTMS	テストモード	入力	テスト回路の状態遷移を制御するテストモード選択入力です。
	JTCK	クロック	入力	デバッグモジュールおよびテスト回路へのクロック入力です。
	JTRST	テストリセット	入力	テスト回路を非同期に初期化するテストリセット入力です。
	JTDI	シリアル入力	入力	テスト命令コードまたはテストデータをシリアルに入力する端子です。
	JTDO	シリアル出力	出力	テスト命令コードまたはテストデータをシリアルに出力する端子です。

表1.3.1　端子機能説明（4/4）

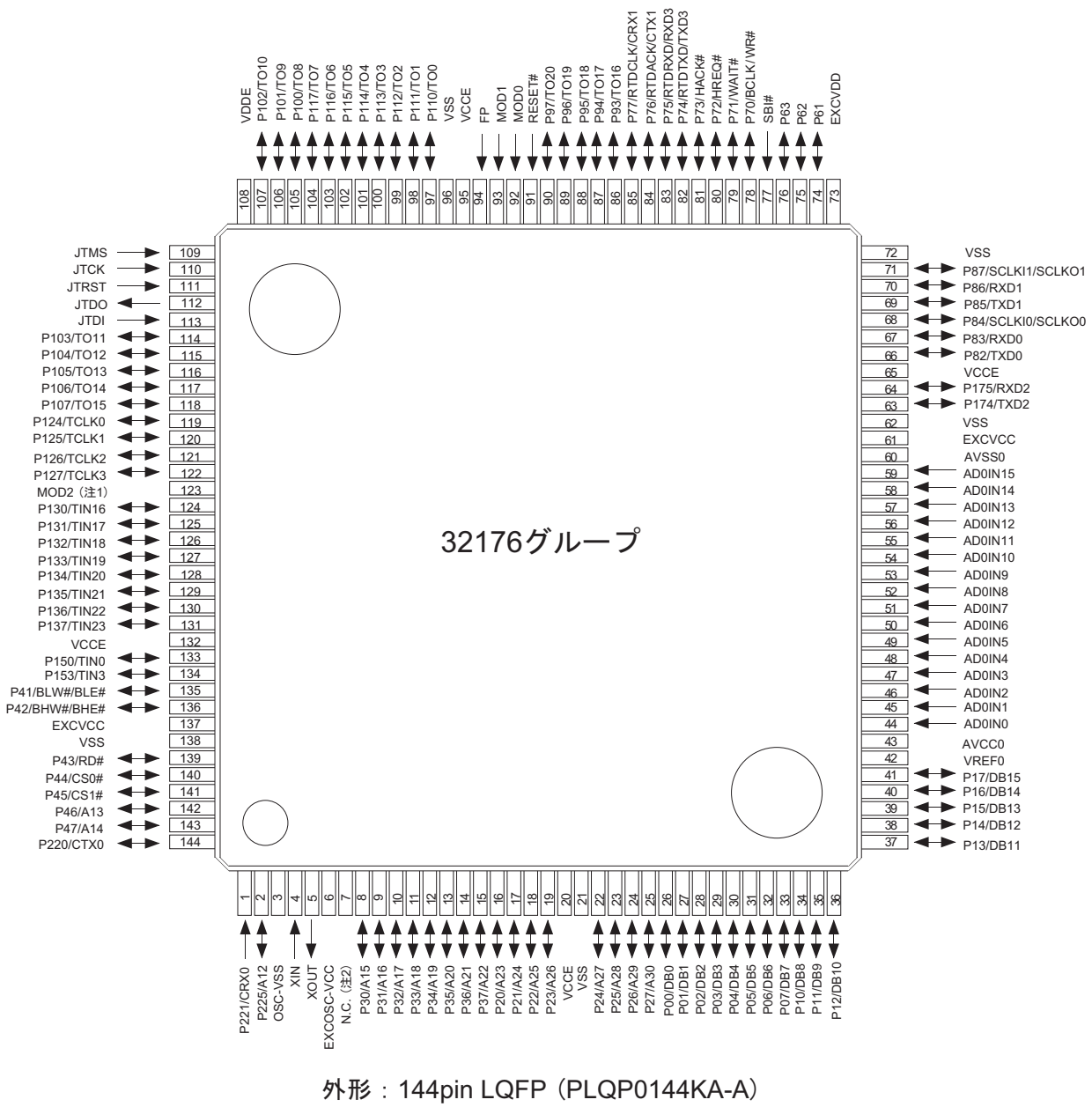
種類	端子名	名称	入出力	機能
入出力ポート（注1）	P00～P07	入出力ポート0	入出力	プログラマブル入出力ポートです。
	P10～P17	入出力ポート1	入出力	
	P20～P27	入出力ポート2	入出力	
	P30～P37	入出力ポート3	入出力	
	P41～P47	入出力ポート4	入出力	
	P61～P63	入出力ポート6	入出力	
	P70～P77	入出力ポート7	入出力	
	P82～P87	入出力ポート8	入出力	
	P93～P97	入出力ポート9	入出力	
	P100～P107	入出力ポート10	入出力	
	P110～P117	入出力ポート11	入出力	
	P124～P127	入出力ポート12	入出力	
	P130～P137	入出力ポート13	入出力	
	P150, P153	入出力ポート15	入出力	
	P174, P175	入出力ポート17	入出力	
	P220, P221（注2）, P225	入出力ポート22	入出力	

注1．32176では、入出力ポート5は、将来のために予約されています。また入出力ポート14、16、18～21は配置されていません。
注2．P221は入力専用ポートです。

1.4　端子配置

図1.4.1に端子配置図を、表1.4.1に端子配列表を示します。

ピン接続図（上面図）



外形：144pin LQFP（PLQP0144KA-A）

注1.　MOD2は必ずグランド（GND）に接続してください。
注2.　N.C.端子はノンコネクトを示します。電圧変動の無いグランド、電源等を接続してください。
注.　・端子名（信号名）末尾の"#" は "L"アクティブ端子（信号）であることを示します。

図1.4.1　M32176FxVFP/TFPの端子配置図（上面図）

リセット時に入力になっている端子はハイインピーダンス状態(Hi-Z)となります。リセット時とはRESET#端子に"L"レベルが入力されている期間(リセット中)とRESET#端子を"L"レベルから"H"レベルに変化させたとき(リセット解除時)のことです。

表1.4.1　M32176FxVFP/TFPの端子配列表(1/4)

端子番号	端子名	機能			入出力	条件	リセット時の端子状態			
		ポート	ポート以外	ポート以外			機能	入出力	リセット中の状態	リセット解除時の状態
1	P221/CRX0	P221	CRX0	–	入力		P221	入力	Hi-Z	Hi-Z
2	P225/A12	P225	A12	–	入出力	シングルチップモード時	P225	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A12	出力	Hi-Z	不定
3	OSC-VSS	–	OSC-VSS	–	–		OSC-VSS	–	–	–
4	XIN	–	XIN	–	入力		XIN	入力	–	–
5	XOUT	–	XOUT	–	出力		XOUT	出力	XOUT	XOUT
6	EXCOSC-VCC	–	EXCOSC-VCC	–	–		EXCOSC-VCC	–	–	–
7	N.C.	–	–	–	–		–	–	–	–
8	P30/A15	P30	A15	–	入出力	シングルチップモード時	P30	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A15	出力	Hi-Z	不定
9	P31/A16	P31	A16	–	入出力	シングルチップモード時	P31	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A16	出力	Hi-Z	不定
10	P32/A17	P32	A17	–	入出力	シングルチップモード時	P32	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A17	出力	Hi-Z	不定
11	P33/A18	P33	A18	–	入出力	シングルチップモード時	P33	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A18	出力	Hi-Z	不定
12	P34/A19	P34	A19	–	入出力	シングルチップモード時	P34	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A19	出力	Hi-Z	不定
13	P35/A20	P35	A20	–	入出力	シングルチップモード時	P35	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A20	出力	Hi-Z	不定
14	P36/A21	P36	A21	–	入出力	シングルチップモード時	P36	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A21	出力	Hi-Z	不定
15	P37/A22	P37	A22	–	入出力	シングルチップモード時	P37	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A22	出力	Hi-Z	不定
16	P20/A23	P20	A23	–	入出力	シングルチップモード時	P20	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A23	出力	Hi-Z	不定
17	P21/A24	P21	A24	–	入出力	シングルチップモード時	P21	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A24	出力	Hi-Z	不定
18	P22/A25	P22	A25	–	入出力	シングルチップモード時	P22	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A25	出力	Hi-Z	不定
19	P23/A26	P23	A26	–	入出力	シングルチップモード時	P23	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A26	出力	Hi-Z	不定
20	VCCE	–	VCCE	–	–		VCCE	–	–	–
21	VSS	–	VSS	–	–		VSS	–	–	–
22	P24/A27	P24	A27	–	入出力	シングルチップモード時	P24	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A27	出力	Hi-Z	不定
23	P25/A28	P25	A28	–	入出力	シングルチップモード時	P25	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A28	出力	Hi-Z	不定
24	P26/A29	P26	A29	–	入出力	シングルチップモード時	P26	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A29	出力	Hi-Z	不定
25	P27/A30	P27	A30	–	入出力	シングルチップモード時	P27	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A30	出力	Hi-Z	不定
26	P00/DB0	P00	DB0	–	入出力	シングルチップモード時	P00	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB0	入出力	Hi-Z	Hi-Z

表1.4.1　M32176FxVFP/TFPの端子配列表（2/4）

端子番号	端子名	機能			入出力	条件	リセット時の端子状態			
		ポート	ポート以外	ポート以外			機能	入出力	リセット中の状態	リセット解除時の状態
27	P01/DB1	P01	DB1	–	入出力	シングルチップモード時	P01	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB1	入出力	Hi-Z	Hi-Z
28	P02/DB2	P02	DB2	–	入出力	シングルチップモード時	P02	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB2	入出力	Hi-Z	Hi-Z
29	P03/DB3	P03	DB3	–	入出力	シングルチップモード時	P03	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB3	入出力	Hi-Z	Hi-Z
30	P04/DB4	P04	DB4	–	入出力	シングルチップモード時	P04	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB4	入出力	Hi-Z	Hi-Z
31	P05/DB5	P05	DB5	–	入出力	シングルチップモード時	P05	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB5	入出力	Hi-Z	Hi-Z
32	P06/DB6	P06	DB6	–	入出力	シングルチップモード時	P06	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB6	入出力	Hi-Z	Hi-Z
33	P07/DB7	P07	DB7	–	入出力	シングルチップモード時	P07	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB7	入出力	Hi-Z	Hi-Z
34	P10/DB8	P10	DB8	–	入出力	シングルチップモード時	P10	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB8	入出力	Hi-Z	Hi-Z
35	P11/DB9	P11	DB9	–	入出力	シングルチップモード時	P11	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB9	入出力	Hi-Z	Hi-Z
36	P12/DB10	P12	DB10	–	入出力	シングルチップモード時	P12	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB10	入出力	Hi-Z	Hi-Z
37	P13/DB11	P13	DB11	–	入出力	シングルチップモード時	P13	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB11	入出力	Hi-Z	Hi-Z
38	P14/DB12	P14	DB12	–	入出力	シングルチップモード時	P14	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB12	入出力	Hi-Z	Hi-Z
39	P15/DB13	P15	DB13	–	入出力	シングルチップモード時	P15	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB13	入出力	Hi-Z	Hi-Z
40	P16/DB14	P16	DB14	–	入出力	シングルチップモード時	P16	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB14	入出力	Hi-Z	Hi-Z
41	P17/DB15	P17	DB15	–	入出力	シングルチップモード時	P17	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	DB15	入出力	Hi-Z	Hi-Z
42	VREF0	–	VREF0	–	–		VREF0	–	–	–
43	AVCC0	–	AVCC0	–	–		AVCC0	–	–	–
44	AD0IN0	–	AD0IN0	–	入力		AD0IN0	入力	Hi-Z	Hi-Z
45	AD0IN1	–	AD0IN1	–	入力		AD0IN1	入力	Hi-Z	Hi-Z
46	AD0IN2	–	AD0IN2	–	入力		AD0IN2	入力	Hi-Z	Hi-Z
47	AD0IN3	–	AD0IN3	–	入力		AD0IN3	入力	Hi-Z	Hi-Z
48	AD0IN4	–	AD0IN4	–	入力		AD0IN4	入力	Hi-Z	Hi-Z
49	AD0IN5	–	AD0IN5	–	入力		AD0IN5	入力	Hi-Z	Hi-Z
50	AD0IN6	–	AD0IN6	–	入力		AD0IN6	入力	Hi-Z	Hi-Z
51	AD0IN7	–	AD0IN7	–	入力		AD0IN7	入力	Hi-Z	Hi-Z
52	AD0IN8	–	AD0IN8	–	入力		AD0IN8	入力	Hi-Z	Hi-Z
53	AD0IN9	–	AD0IN9	–	入力		AD0IN9	入力	Hi-Z	Hi-Z
54	AD0IN10	–	AD0IN10	–	入力		AD0IN10	入力	Hi-Z	Hi-Z
55	AD0IN11	–	AD0IN11	–	入力		AD0IN11	入力	Hi-Z	Hi-Z
56	AD0IN12	–	AD0IN12	–	入力		AD0IN12	入力	Hi-Z	Hi-Z
57	AD0IN13	–	AD0IN13	–	入力		AD0IN13	入力	Hi-Z	Hi-Z
58	AD0IN14	–	AD0IN14	–	入力		AD0IN14	入力	Hi-Z	Hi-Z
59	AD0IN15	–	AD0IN15	–	入力		AD0IN15	入力	Hi-Z	Hi-Z

表1.4.1　M32176FxVFP/TFPの端子配列表(3/4)

端子番号	端子名	機能			入出力	条件	リセット時の端子状態			
		ポート	ポート以外	ポート以外			機能	入出力	リセット中の状態	リセット解除時の状態
60	AVSS0	–	AVSS0	–	–		AVSS0	–	–	–
61	EXCVCC	–	EXCVCC	–	–		EXCVCC	–	–	–
62	VSS	–	VSS	–	–		VSS	–	–	–
63	P174/TXD2	P174	TXD2	–	入出力		P174	入力	Hi-Z	Hi-Z
64	P175/RXD2	P175	RXD2	–	入出力		P175	入力	Hi-Z	Hi-Z
65	VCCE	–	VCCE	–	入出力		VCCE	–	–	–
66	P82/TXD0	P82	TXD0	–	入出力		P82	入力	Hi-Z	Hi-Z
67	P83/RXD0	P83	RXD0	–	入出力		P83	入力	Hi-Z	Hi-Z
68	P84/SCLKI0/SCLKO0	P84	SCLKI0	SCLKO0	入出力		P84	入力	Hi-Z	Hi-Z
69	P85/TXD1	P85	TXD1	–	入出力		P85	入力	Hi-Z	Hi-Z
70	P86/RXD1	P86	RXD1	–	入出力		P86	入力	Hi-Z	Hi-Z
71	P87/SCLKI1/SCLKO1	P87	SCLKI1	SCLKO1	入出力		P87	入力	Hi-Z	Hi-Z
72	VSS	–	VSS	–	–		VSS	–	–	–
73	EXCVDD	–	EXCVDD	–	–		EXCVDD	–	–	–
74	P61	P61	–	–	入出力		P61	入力	Hi-Z	Hi-Z
75	P62	P62	–	–	入出力		P62	入力	Hi-Z	Hi-Z
76	P63	P63	–	–	入出力		P63	入力	Hi-Z	Hi-Z
77	SBI#		SBI#	–	入力		SBI#	入力	Hi-Z	Hi-Z
78	P70/BCLK/WR#	P70	BCLK	WR#	入出力		P70	入力	Hi-Z	Hi-Z
79	P71/WAIT#	P71	WAIT#	–	入出力		P71	入力	Hi-Z	Hi-Z
80	P72/HREQ#	P72	HREQ#	–	入出力		P72	入力	Hi-Z	Hi-Z
81	P73/HACK#	P73	HACK#	–	入出力		P73	入力	Hi-Z	Hi-Z
82	P74/RTDTXD/TXD3	P74	RTDTXD	TXD3	入出力		P74	入力	Hi-Z	Hi-Z
83	P75/RTDRXD/RXD3	P75	RTDRXD	RXD3	入出力		P75	入力	Hi-Z	Hi-Z
84	P76/RTDACK/CTX1	P76	RTDACK	CTX1	入出力		P76	入力	Hi-Z	Hi-Z
85	P77/RTDCLK/CRX1	P77	RTDCLK	CRX1	入出力		P77	入力	Hi-Z	Hi-Z
86	P93/TO16	P93	TO16	–	入出力		P93	入力	Hi-Z	Hi-Z
87	P94/TO17	P94	TO17	–	入出力		P94	入力	Hi-Z	Hi-Z
88	P95/TO18	P95	TO18	–	入出力		P95	入力	Hi-Z	Hi-Z
89	P96/TO19	P96	TO19	–	入出力		P96	入力	Hi-Z	Hi-Z
90	P97/TO20	P97	TO20	–	入出力		P97	入力	Hi-Z	Hi-Z
91	RESET#	–	RESET#	–	入力		RESET#	入力	Hi-Z	Hi-Z
92	MOD0	–	MOD0	–	入力		MOD0	入力	Hi-Z	Hi-Z
93	MOD1	–	MOD1	–	入力		MOD1	入力	Hi-Z	Hi-Z
94	FP	–	FP	–	入力		FP	入力	Hi-Z	Hi-Z
95	VCCE	–	VCCE	–	–		VCCE	–	–	–
96	VSS	–	VSS	–	–		VSS	–	–	–
97	P110/TO0	P110	TO0	–	入出力		P110	入力	Hi-Z	Hi-Z
98	P111/TO1	P111	TO1	–	入出力		P111	入力	Hi-Z	Hi-Z
99	P112/TO2	P112	TO2	–	入出力		P112	入力	Hi-Z	Hi-Z
100	P113/TO3	P113	TO3	–	入出力		P113	入力	Hi-Z	Hi-Z
101	P114/TO4	P114	TO4	–	入出力		P114	入力	Hi-Z	Hi-Z
102	P115/TO5	P115	TO5	–	入出力		P115	入力	Hi-Z	Hi-Z
103	P116/TO6	P116	TO6	–	入出力		P116	入力	Hi-Z	Hi-Z
104	P117/TO7	P117	TO7	–	入出力		P117	入力	Hi-Z	Hi-Z
105	P100/TO8	P100	TO8	–	入出力		P100	入力	Hi-Z	Hi-Z
106	P101/TO9	P101	TO9	–	入出力		P101	入力	Hi-Z	Hi-Z
107	P102/TO10	P102	TO10	–	入出力		P102	入力	Hi-Z	Hi-Z
108	VDDE	–	VDDE	–	–		VDDE	–	–	–
109	JTMS (注1)	–	JTMS	–	入力		JTMS	入力	Hi-Z	Hi-Z
110	JTCK (注1)	–	JTCK	–	入力		JTCK	入力	Hi-Z	Hi-Z
111	JTRST (注1)	–	JTRST	–	入力		JTRST	入力	Hi-Z	Hi-Z
112	JTDO (注1)	–	JTDO	–	出力		JTDO	出力	Hi-Z	Hi-Z
113	JTDI (注1)	–	JTDI	–	入力		JTDI	入力	Hi-Z	Hi-Z
114	P103/TO11	P103	TO11	–	入出力		P103	入力	Hi-Z	Hi-Z
115	P104/TO12	P104	TO12	–	入出力		P104	入力	Hi-Z	Hi-Z
116	P105/TO13	P105	TO13	–	入出力		P105	入力	Hi-Z	Hi-Z
117	P106/TO14	P106	TO14	–	入出力		P106	入力	Hi-Z	Hi-Z

注1．JTCK端子、JTDI端子、JTDO端子、JTMS端子はRESET#端子によってリセットされるのではなく、JTRST#端子によってリセットされます。
JTRST#端子に"L"レベルが入力されている場合、JTCK端子、JTDI端子、JTDO端子、JTMS端子はハイインピーダンス状態です。

表1.4.1　M32176FxVFP/TFPの端子配列表（4/4）

端子番号	端子名	機能			入出力	条件	リセット時の端子状態			
		ポート	ポート以外	ポート以外			機能	入出力	リセット中の状態	リセット解除時の状態
118	P107/TO15	P107	TO15	–	入出力		P107	入力	Hi-Z	Hi-Z
119	P124/TCLK0	P124	TCLK0	–	入出力		P124	入力	Hi-Z	Hi-Z
120	P125/TCLK1	P125	TCLK1	–	入出力		P125	入力	Hi-Z	Hi-Z
121	P126/TCLK2	P126	TCLK2	–	入出力		P126	入力	Hi-Z	Hi-Z
122	P127/TCLK3	P127	TCLK3	–	入出力		P127	入力	Hi-Z	Hi-Z
123	MOD2	–	MOD2	–	–		MOD2	–	–	–
124	P130/TIN16	P130	TIN16	–	入出力		P130	入力	Hi-Z	Hi-Z
125	P131/TIN17	P131	TIN17	–	入出力		P131	入力	Hi-Z	Hi-Z
126	P132/TIN18	P132	TIN18	–	入出力		P132	入力	Hi-Z	Hi-Z
127	P133/TIN19	P133	TIN19	–	入出力		P133	入力	Hi-Z	Hi-Z
128	P134/TIN20	P134	TIN20	–	入出力		P134	入力	Hi-Z	Hi-Z
129	P135/TIN21	P135	TIN21	–	入出力		P135	入力	Hi-Z	Hi-Z
130	P136/TIN22	P136	TIN22	–	入出力		P136	入力	Hi-Z	Hi-Z
131	P137/TIN23	P137	TIN23	–	入出力		P137	入力	Hi-Z	Hi-Z
132	VCCE	–	VCCE	–	–		VCCE	–	–	–
133	P150/TIN0	P150	TIN0	–	入出力		P150	入力	Hi-Z	Hi-Z
134	P153/TIN3	P153	TIN3	–	入出力		P153	入力	Hi-Z	Hi-Z
135	P41/BLW#/BLE#	P41	BLW#	BLE#	入出力	シングルチップモード時	P41	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	BLW#	出力	Hi-Z	"H"レベル
136	P42/BHW#/BHE#	P42	BHW#	BHE#	入出力	シングルチップモード時	P42	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	BHW#	出力	Hi-Z	"H"レベル
137	EXCVCC	–	EXCVCC	–	–		EXCVCC	–	–	–
138	VSS	–	VSS	–	–		VSS	–	–	–
139	P43/RD#	P43	RD#	–	入出力	シングルチップモード時	P43	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	RD#	出力	Hi-Z	"H"レベル
140	P44/CS0#	P44	CS0#	–	入出力	シングルチップモード時	P44	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	CS0#	出力	Hi-Z	"H"レベル
141	P45/CS1#	P45	CS1#	–	入出力	シングルチップモード時	P45	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	CS1#	出力	Hi-Z	"H"レベル
142	P46/A13	P46	A13	–	入出力	シングルチップモード時	P46	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A13	出力	Hi-Z	不定
143	P47/A14	P47	A14	–	入出力	シングルチップモード時	P47	入力	Hi-Z	Hi-Z
						外部拡張モード時およびプロセッサモード時	A14	出力	Hi-Z	不定
144	P220/CTX0	P220	CTX0	–	入出力		P220	入力	Hi-Z	Hi-Z

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第2章

CPU

2.1　CPUレジスタ
2.2　汎用レジスタ
2.3　制御レジスタ
2.4　アキュムレータ
2.5　プログラムカウンタ
2.6　データフォーマット
2.7　LOCK、UNLOCK命令実行時の補足説明

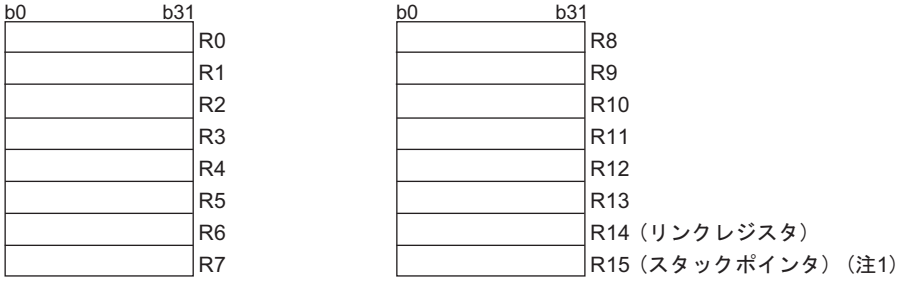
2.1 CPUレジスタ

M32Rには16本の汎用レジスタ、5本の制御レジスタ、アキュムレータおよびプログラムカウンタがあります。アキュムレータは56ビット、その他のレジスタはすべて32ビット構成になっています。

2.2 汎用レジスタ

汎用レジスタは32ビット幅で16本(R0～R15)あり、データやベースアドレスの保持などに使用します。R14はリンクレジスタとして、R15はスタックポインタとして使用されます。リンクレジスタはサブルーチン呼び出し命令実行の際、戻り先番地の格納に使われます。またスタックポインタは、プロセッサ状態語レジスタ(PSW)のスタックモード(SM)ビットの値に応じて割り込み用スタックポインタ(SPI)と、ユーザ用スタックポインタ(SPU)とに切り換わります。

リセット解除時、汎用レジスタの値は不定です。



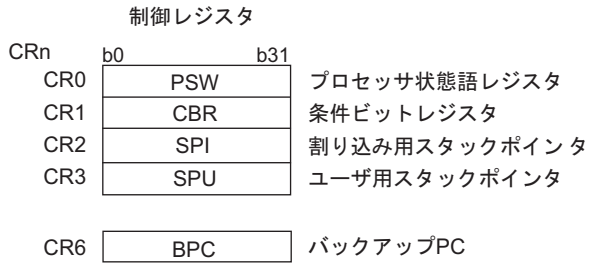
注1. スタックポインタは、PSWのSMビットの値に応じて割り込み用スタックポインタ(SPI)と、ユーザ用スタックポインタ(SPU)とに切り換わります。

図2.2.1 **汎用レジスタ**

2.3 制御レジスタ

制御レジスタには、プロセッサ状態語レジスタ(PSW)、条件ビットレジスタ(CBR)、割り込み用スタックポインタ(SPI)、ユーザ用スタックポインタ(SPU)、バックアップPC(BPC)の5つがあります。

これら制御レジスタの設定や読み出しには、専用の「MVTC命令」と「MVFC命令」を使用します。



注. ・CRn(n0～3, 6)は制御レジスタの番号です。
・制御レジスタの設定、読み出しには、専用の「MVTC命令」と「MVFC命令」を使用します。

図2.3.1 **制御レジスタ**

2.3.1 プロセッサ状態語レジスタ：PSW(CR0)

プロセッサ状態語レジスタ(PSW)は、M32Rのステータスを表示するレジスタで、通常使用するPSWフィールドと、EIT発生時にPSWフィールドを退避するためのBPSWフィールドからなります。

PSWフィールドは、スタックモードビット(SM)、割り込みイネーブルビット(IE)、条件ビット(C)の各ビットで構成しています。

また、BPSWフィールドはバックアップSMビット(BSM)、バックアップIEビット(BIE)、バックアップCビット(BC)の各ビットで構成しています。

リセット解除時、BSM、BIE、BCの値は不定、それ以外のビットは"0"です。

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

b16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	b31
BSM ?	BIE ?	0	0	0	0	0	BC ?	SM 0	IE 0	0	0	0	0	0	C 0

BPSWフィールド　　PSWフィールド

＜リセット解除時：B'0000 0000 0000 0000 ??00 000? 0000 0000＞

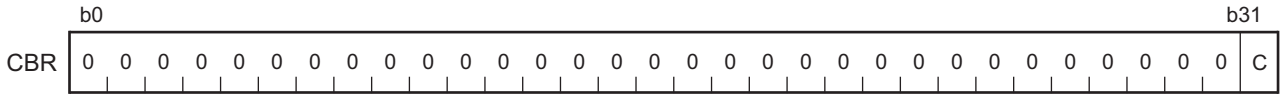
b	ビット名	機能	R	W
0〜15	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
16	BSM バックアップSMビット	EIT受付時に、SMビットの値が保存される	R	W
17	BIE バックアップIEビット	EIT受付時に、IEビットの値が保存される	R	W
18〜22	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
23	BC バックアップCビット	EIT受付時に、Cビットの値が保存される	R	W
24	SM スタックモードビット	0：割り込み用スタックポインタを使用 1：ユーザ用スタックポインタを使用	R	W
25	IE 割り込みイネーブルビット(注1)	0：割り込みを受け付けない 1：割り込みを受け付ける	R	W
26〜30	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
31	C 条件ビット	命令の実行に応じて演算結果のキャリ、ボロー、オーバフローの有無を示す	R	W

注１．IEビットで制御可能な割り込みは、外部割り込み(EI)です。予約命令外(RIE)、アドレス例外(AE)、リセット割り込み(RI)、システムブレーク割り込み(SBI)、トラップ(TRAP)は、制御されません。

2.3.2 条件ビットレジスタ：CBR（CR1）

条件ビットレジスタ（CBR）は、PSWのうち条件ビット（C）を抜き出して別レジスタとしたものです。PSWのCビットに書き込まれた値はこのレジスタに反映されます。このレジスタは読み出しのみ可能です（「MVTC命令」で書き込みを行っても無視されます）。

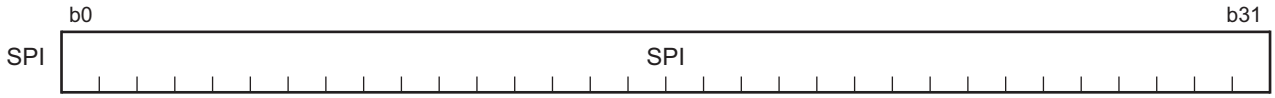
リセット解除時、CBRの値は"H'0000 0000"です。

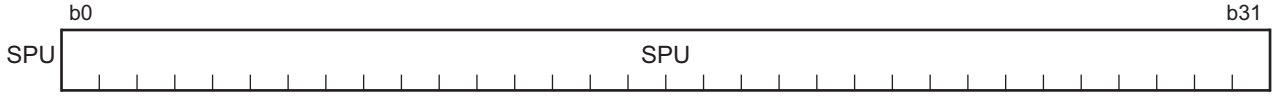


2.3.3 割り込み用スタックポインタ：SPI（CR2）
ユーザ用スタックポインタ：SPU（CR3）

割り込み用スタックポインタ（SPI）、ユーザ用スタックポインタ（SPU）は、現在のスタックポインタのアドレスを保持します。これらのレジスタは、汎用レジスタR15としてアクセスできます。このときR15をSPIとして使用するかSPUとして使用するかは、PSWのスタックモードビット（SM）によって切り換わります。

リセット解除時、SPIとSPUの値は不定です。



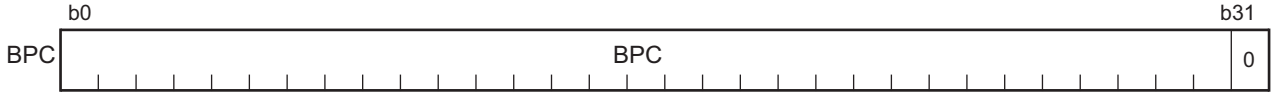


2.3.4 バックアップPC：BPC（CR6）

バックアップPC（BPC）は、EIT発生時にプログラムカウンタ（PC）の値を退避するためのレジスタです。ビット31は0固定です。

EIT発生時にはEIT発生直前のPCの値または次命令の値がセットされ、「RTE命令」実行時にBPCの値はPCに戻されます。ただし復帰時にPCの下位2ビットは常に"00"になります（常にワード境界に復帰します）。

リセット解除時、BPCの値は不定です。



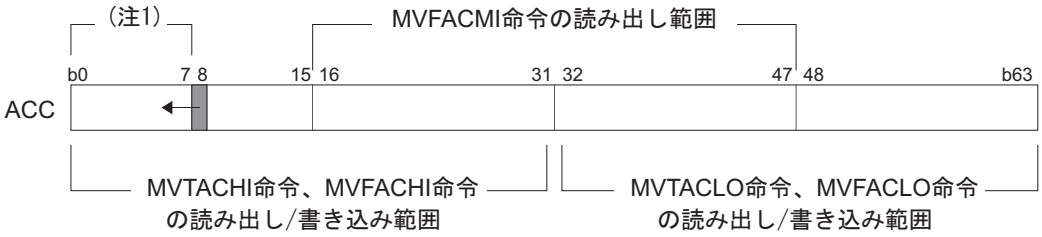
2.4 アキュムレータ

アキュムレータ(ACC)は、DSP機能用命令で使用される56ビットのレジスタです。読み出し時や書き込み時には64ビットのレジスタとして扱われ、読み出し時にはビット8の値が符号拡張されます。書き込み時にはビット0～7は無視されます。また、アキュムレータは乗算命令「MUL」でも使用され、この命令実行の際はアキュムレータの値が破壊されるので注意してください。

アキュムレータへの書き込みには「MVTACHI命令」と「MVTACLO命令」を使用します。「MVTACHI命令」は上位側32ビット(ビット0～31)に、「MVTACLO命令」は下位側32ビット(ビット32～63)にデータを書き込みます。

読み出しには「MVFACHI命令」、「MVFACLO命令」および「MVFACMI命令」を使用します。「MVFACHI命令」で上位側32ビット(ビット0～31)を、「MVFACLO命令」で下位側32ビット(ビット32～63)を、 また「MVFACMI命令」で中央の32ビット(ビット16～47)のデータをそれぞれ読み出します。

リセット解除時、ACCの値は不定です。

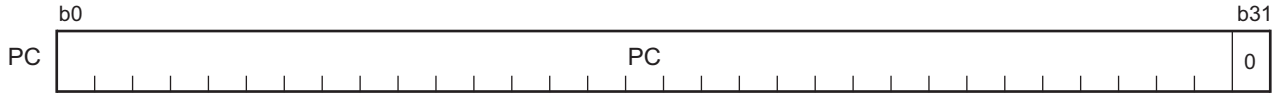


注1．ビット0～7は、ビット8の値を符号拡張された値が常に読み出されます。この部分への書き込みは無視されます。

2.5 プログラムカウンタ

プログラムカウンタ(PC)は32ビットのカウンタで、現在実行中の命令アドレスを保持します。M32Rの命令は偶数アドレスから始まるため、LSB(ビット31)は0になります。

リセット解除時、PCの値は"H'0000 0000"です。



2.6 データフォーマット

2.6.1 データタイプ

M32Rの命令セットで扱えるデータタイプは、符号付き、または符号なしの8、16、32ビット整数です。符号付き整数の値は2の補数で表現されます。

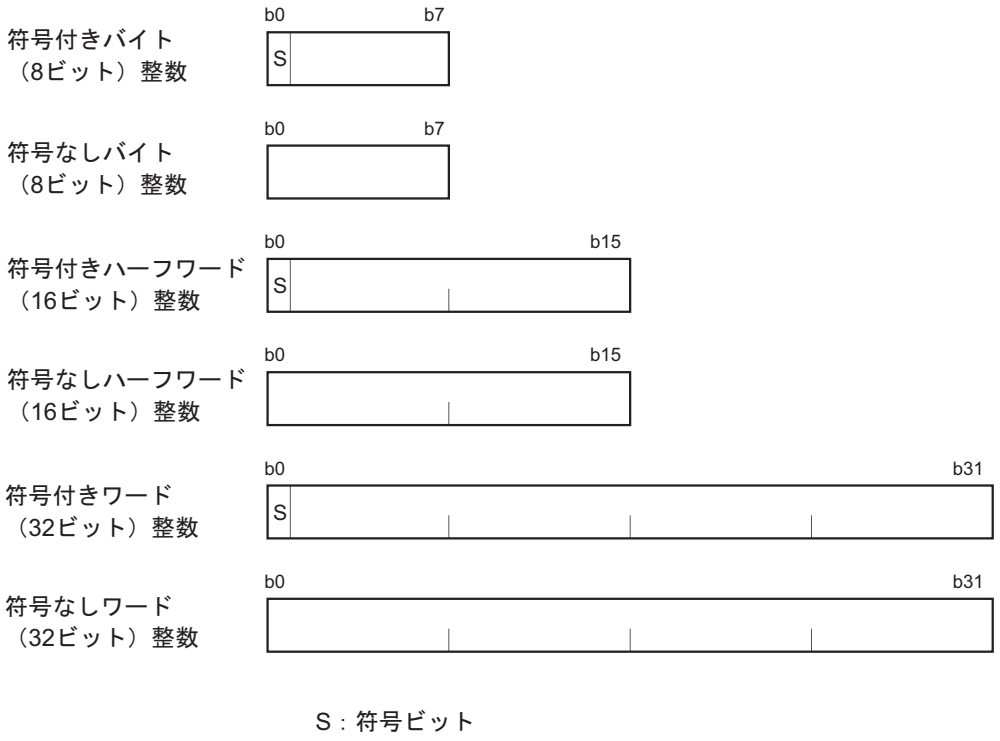


図2.6.1 **データタイプ**

2.6.2 データフォーマット

(1) レジスタ上のデータフォーマット

M32Rのレジスタ上でのデータサイズは常にワード(32ビット)です。

メモリ上のバイト(8ビット)、ハーフワード(16ビット)のデータをロードする場合は、ワード(32ビット)データに符号拡張(LDB、LDH命令)またはゼロ拡張(LDUB、LDUH命令)後、レジスタに格納されます。

M32Rのレジスタ上のデータをメモリにストアする場合は、ST命令ではレジスタ上の32ビットデータ、STH命令ではLSB側の16ビットデータ、またSTB命令ではLSB側8ビットデータをそれぞれメモリにストアします。

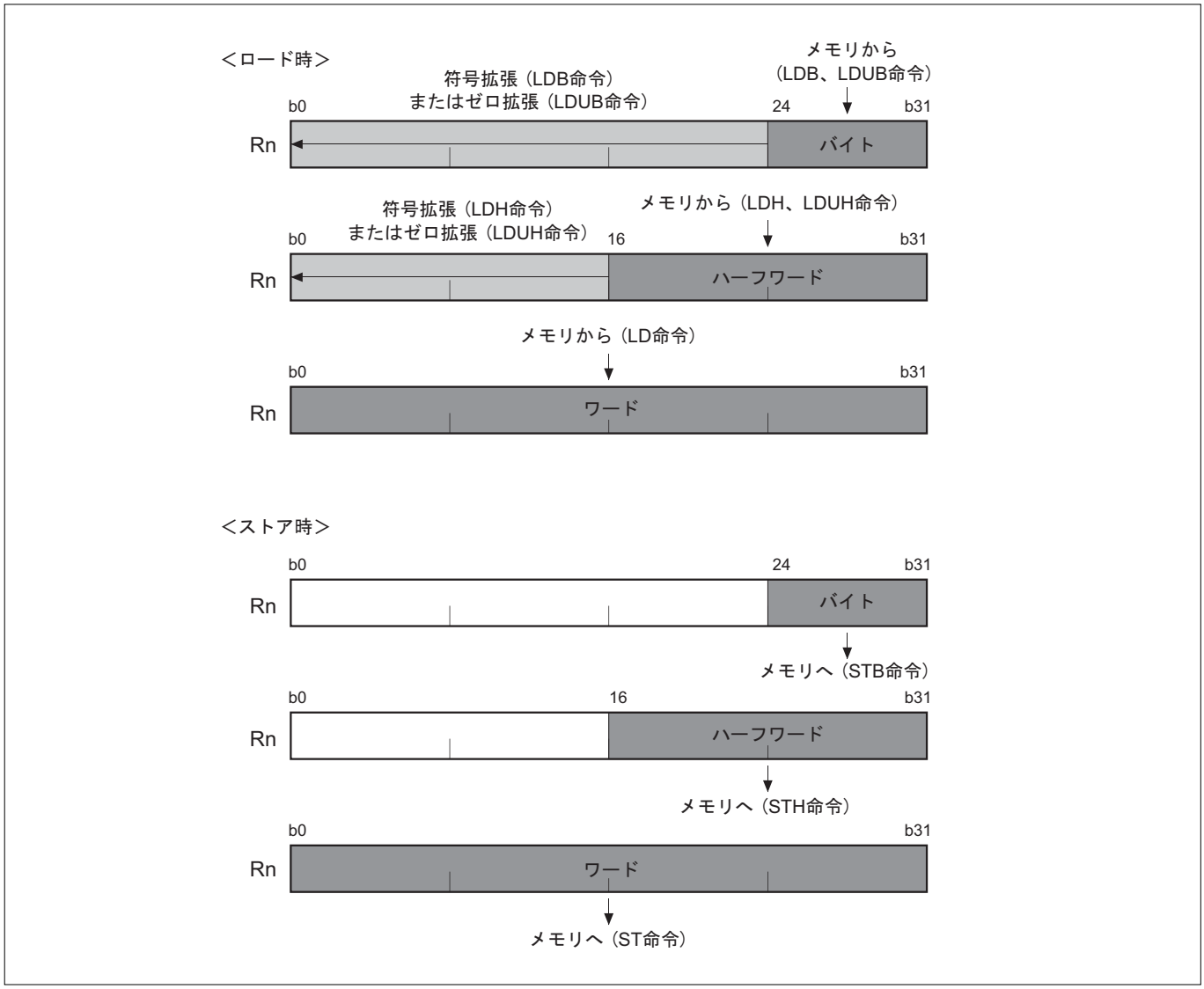


図2.6.2 **レジスタ上のデータフォーマット**

(2) メモリ上のデータフォーマット

メモリ上でのデータサイズはバイト(8ビット)、ハーフワード(16ビット)、ワード(32ビット)の3種類です。バイトデータは任意のアドレスに配置できますが、ハーフワードデータはハーフワード境界(アドレスの最下位ビットが"0"の番地)、またワードデータはワード境界(アドレスの下位2ビットが"00"の番地)に配置されなければなりません。この境界をまたぐメモリデータをアクセスしようとするとアドレス例外が発生します。

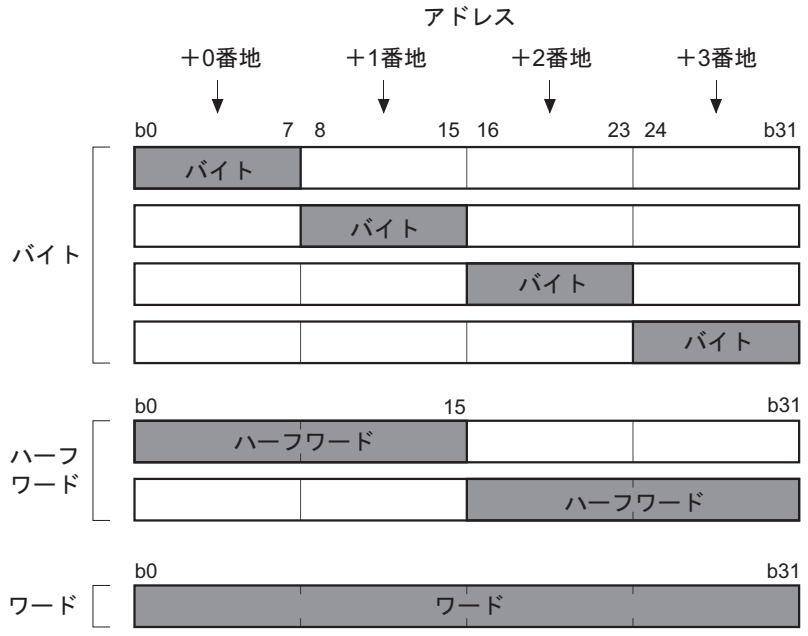


図2.6.3 **メモリ上のデータフォーマット**

(3) エンディアン

エンディアンの方式およびM32Rファミリのエンディアンを以下に示します。

	ビットエンディアン (H'01)	バイトエンディアン (H'01234567)
ビッグエンディアン	B'0000001 b0 b7	H'01 H'23 H'45 H'67 HH HL LH LL
リトルエンディアン	B'0000001 b7 b0	H'67 H'45 H'23 H'01 LL LH HL HH

注. ・ビットビッグエンディアンであってもH'01がB'10000000ではありません。

図2.6.4 **エンディアンの方式**

マイコン ファミリ名	7700ファミリ M16Cファミリ		M32Rファミリ
エンディアン (ビット/バイト)	リトル/リトル	リトル/ビッグ	ビッグ/ビッグ
アドレス	+0 +1 +2 +3	+0 +1 +2 +3	+0 +1 +2 +3
データ配置	LL LH HL HH	HH HL LH LL	HH HL LH LL
ビット番号	7～0 15～8 23～16 31～24	31～24 23～16 15～8 7～0	0～7 8～15 16～23 24～31
例：0x01234567	.byte 67,45,23,01	.byte 01,23,45,67	.byte 01,23,45,67

注. ・M32Rファミリはビット、バイトともにビッグエンディアンです。

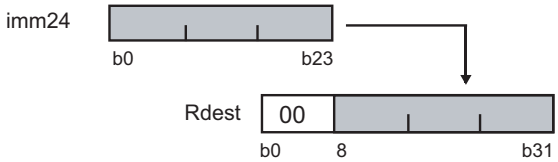
図2.6.5 M32R**ファミリのエンディアン**

(4) 転送命令

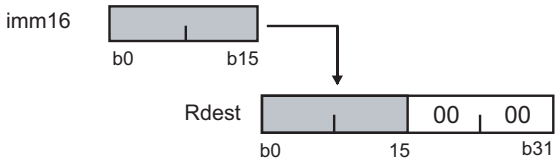
・定数転送

LD24 Rdest, #imm24
LDI Rdest, #imm16
LDI Rdest, #imm8
SETH Rdest, #imm16

LD24 Rdest, #imm24



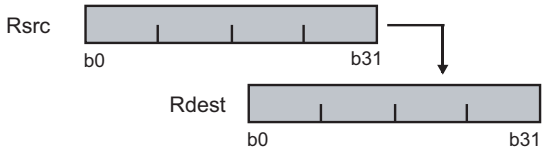
SETH Rdest, #imm16



・レジスタ間転送

MV Rdest, Rsrc

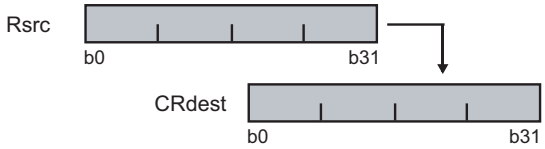
MV Rdest, Rsrc



・コントロールレジスタ転送

MVFC Rdest, CRsrc
MVTC Rsrc, CRdest

MVTC Rsrc, CRdest



注. ・MVTC命令を使用してCR0(PSW)へ書き込みを実行すると、条件ビットCは変化します。

図2.6.6 **転送命令**

(5) メモリ(符号あり)からレジスタへの転送

・符号あり32ビット

LD24 Rsrc, #label
LD Rdest, @Rsrc

・符号あり16ビット

LD24 Rsrc, #label
LDH Rdest, @Rsrc

・符号あり8ビット

LD24 Rsrc, #label
LDB Rdest, @Rsrc

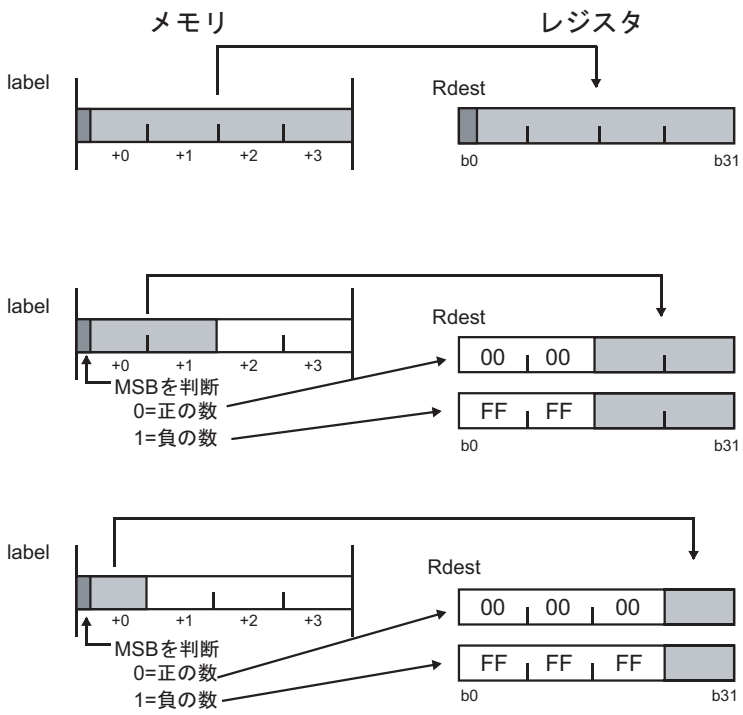


図2.6.7 メモリ(符号あり)からレジスタへの転送

(6) メモリ(符号なし)からレジスタ転送

・符号なし32ビット

LD24 Rsrc, #label
LD Rdest, @Rsrc

・符号なし16ビット

LD24 Rsrc, #label
LDUH Rdest, @Rsrc

・符号なし8ビット

LD24 Rsrc, #label
LDUB Rdest, @Rsrc

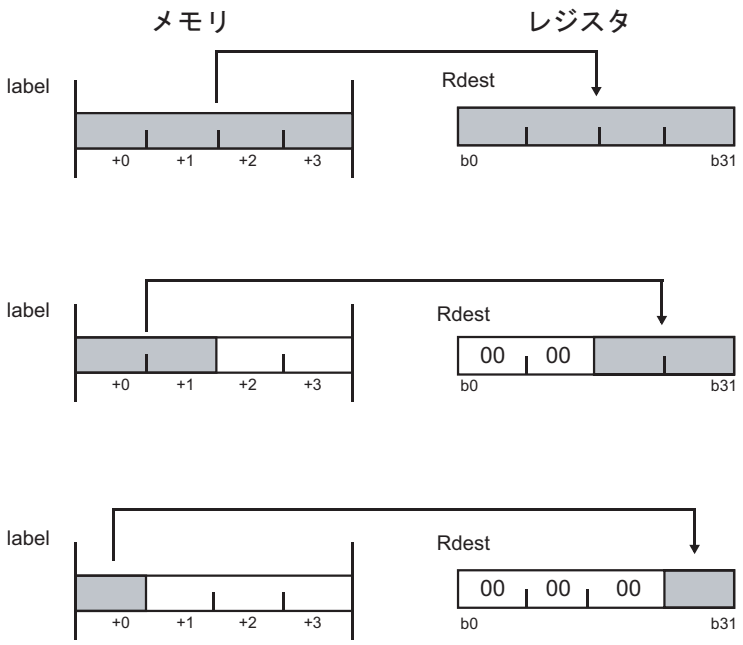


図2.6.8 メモリ(符号なし)からレジスタへの転送

(7) データ転送の注意事項

データの転送は、レジスタのデータ配置とメモリのデータ配置に違いがありますのでご注意ください。

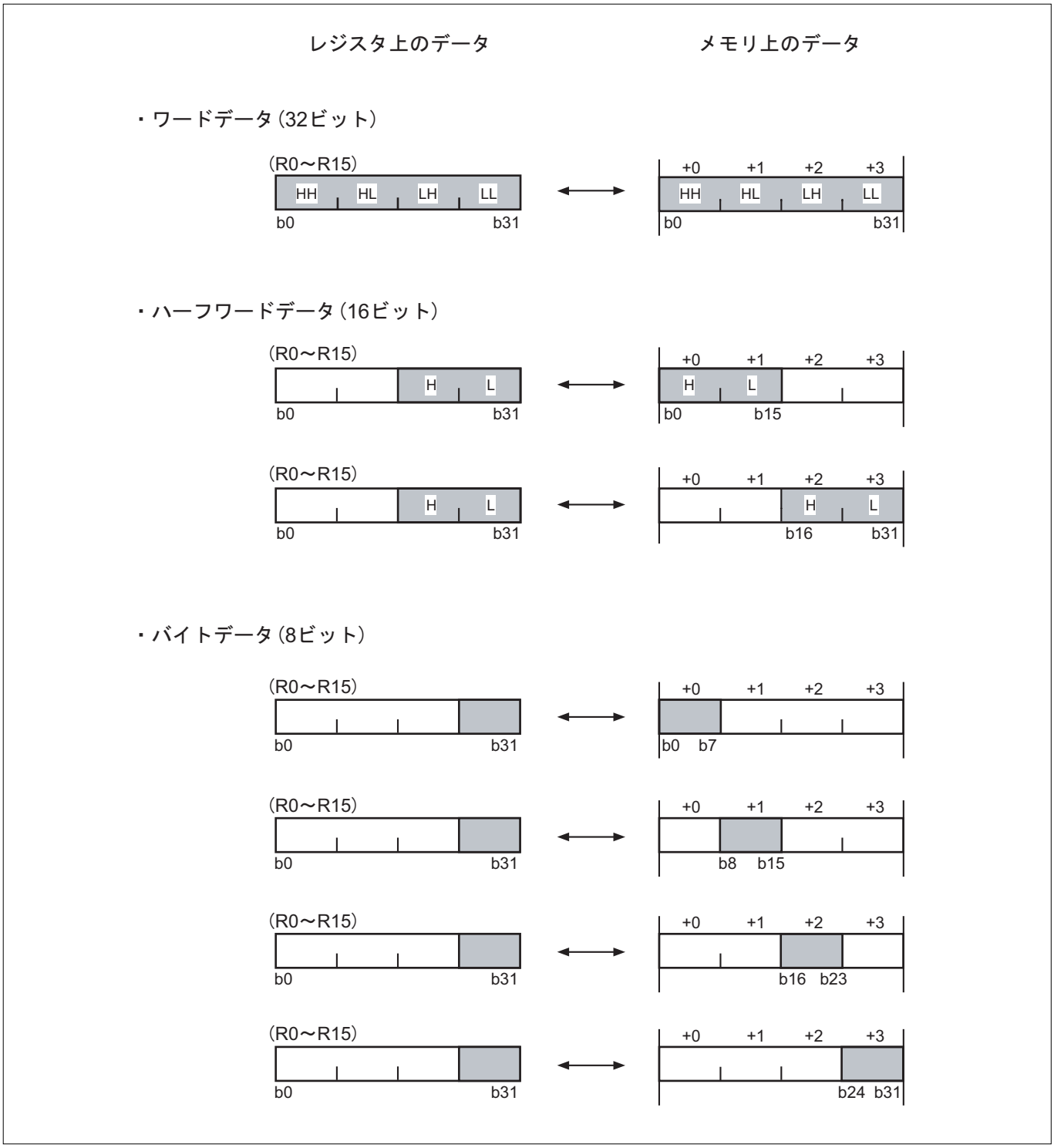


図2.6.9 **データ配置の違い**

2.7　LOCK、UNLOCK命令実行時の補足説明

LOCK命令は、通常のロードを行う以外にLOCKビットのセットも行います。
LOCKビットのクリアは、UNLOCK命令によって行われます。

LOCKビットはCPU内部にあり、ユーザがこのビットを直接リード/ライトすることはできません。LOCKビットとは、CPU以外のバス権を要求する回路に対してバス権の受付を制御するビットです。

■ LOCKビット＝"0"の状態
CPU以外のバス権要求受付許可
■ LOCKビット＝"1"の状態
CPU以外のバス権要求受付禁止

CPU以外のバス権の要求としては、下記の2つがあります。

- 内蔵DMACによるDMA要求
- HREQ#端子への"L"レベル入力によるホールド要求

第3章

アドレス空間

3.1 アドレス空間概要
3.2 動作モード
3.3 内蔵ROM領域/外部拡張領域
3.4 内蔵RAM領域/SFR領域
3.5 EITベクタエントリ
3.6 ICUベクタテーブル
3.7 アドレス空間の注意事項

3.1　アドレス空間概要

M32Rの論理アドレスは常に32ビット幅で扱われ、4Gバイトのリニアな空間を提供します。M32Rのアドレス空間には、以下の空間が存在します。

(1) ユーザ空間

- **内蔵** ROM **領域**
- **外部拡張領域**
- **内蔵** RAM **領域**
- SFR（Special Function Register）**領域**

H'0000 0000～H'7FFF FFFF番地の2Gバイトはユーザ空間です。この空間には、内蔵ROM領域、外部拡張領域、内蔵RAM領域、SFR(Special Function Register)領域(内蔵周辺I/Oのレジスタ群)などが配置されます。このうち内蔵ROM領域と外部拡張領域は、後で述べるモード設定で配置が異なります。

(2) システム空間

H'8000 0000～H'FFFF FFFF番地の2Gバイトはシステム領域です。この空間は、インサーキットエミュレータや、デバッグ用モニタなどの開発ツール提供のために予約されており、ユーザが使用することはできません。

3.2　動作モード

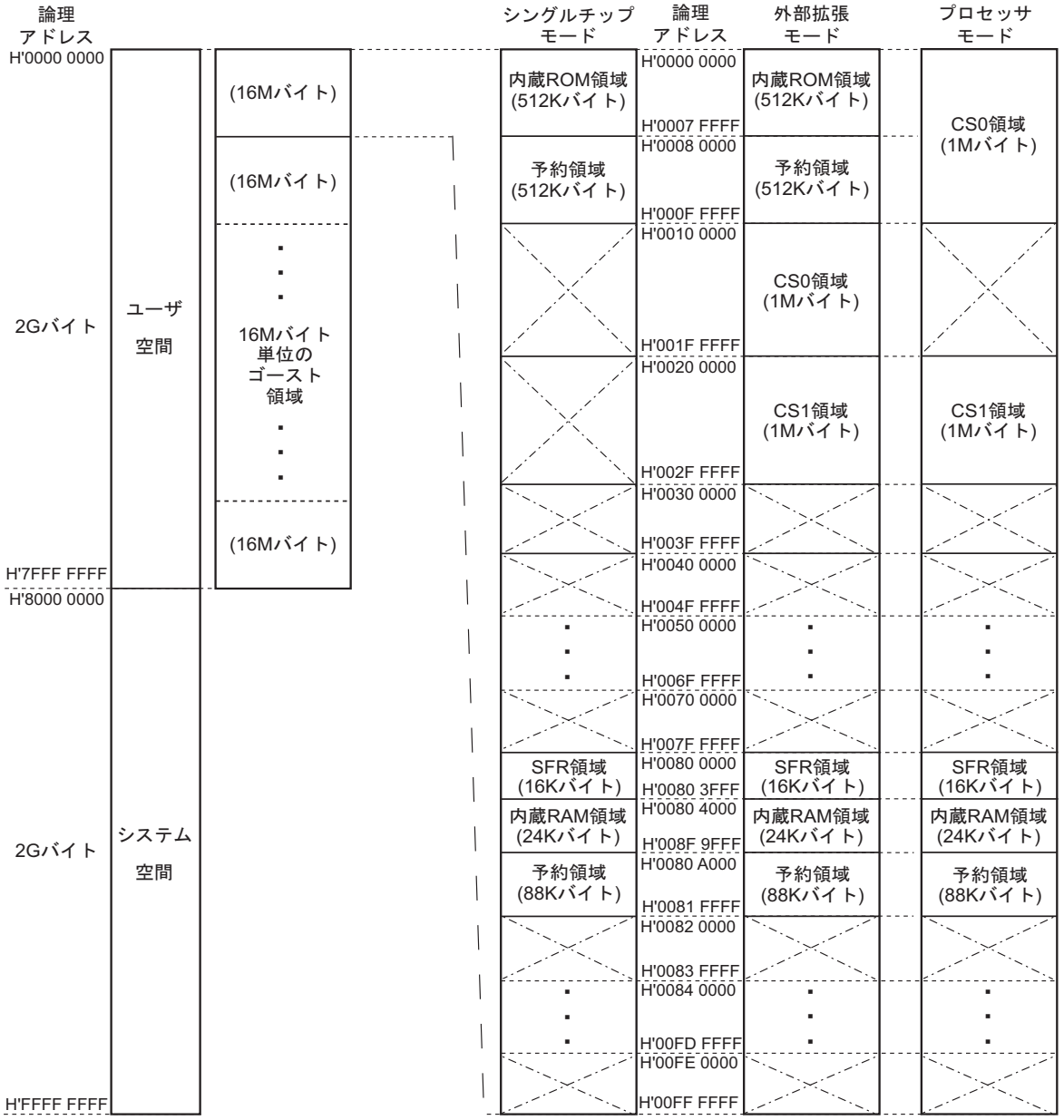
チップ動作モードの設定(MOD0、MOD1端子の設定)により、以下のモードになります。ただし、内蔵フラッシュメモリ書き換えのためのモードについては、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください。

表3.2.1　動作モードの設定

MOD0	MOD1	MOD2（注1）	動作モード（注2）
VSS	VSS	VSS	シングルチップモード
VSS	VCCE	VSS	外部拡張モード
VCCE	VSS	VSS	プロセッサモード(FP＝VSS)
VCCE	VCCE	VSS	reserved（使用禁止）
ー	ー	VCCE	reserved（使用禁止）

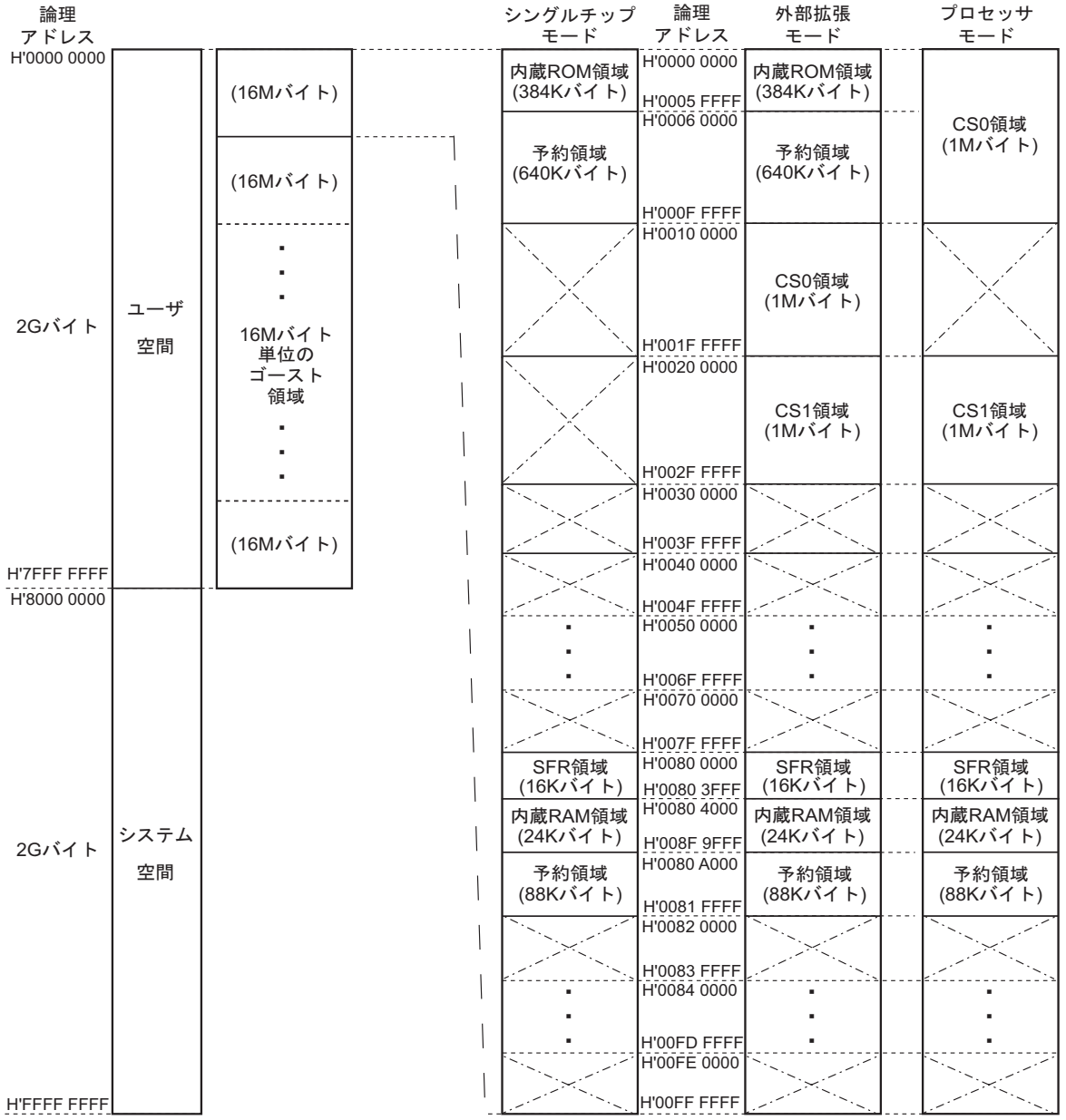
注1．各記号、VCCEはVCCE入力電源に、VSSはGNDに接続します。
注2．この表に書かれていないフラッシュ書き換えのためのモード(FP＝VCCE時)については、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください。

動作モードによって内蔵ROM領域/外部拡張領域の配置は異なります(アドレス空間の他の領域は同じ配置です)。以下に各モードにおける内蔵ROM領域/外部拡張領域のアドレスマップを示します(フラッシュ書き換え時のモードについては「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください)。



注.　・CS0～CS2領域：最大2Mバイトの外部拡張領域
　　・><：ゴースト領域を示す。プログラミング時に故意にゴースト領域を使用しないでください。

図3.2.1　M32176F4**のアドレス空間**



注.　・CS0～CS2領域：最大2Mバイトの外部拡張領域
　　・><：ゴースト領域を示す。プログラミング時に故意にゴースト領域を使用しないでください。

図3.2.2　M32176F3**のアドレス空間**

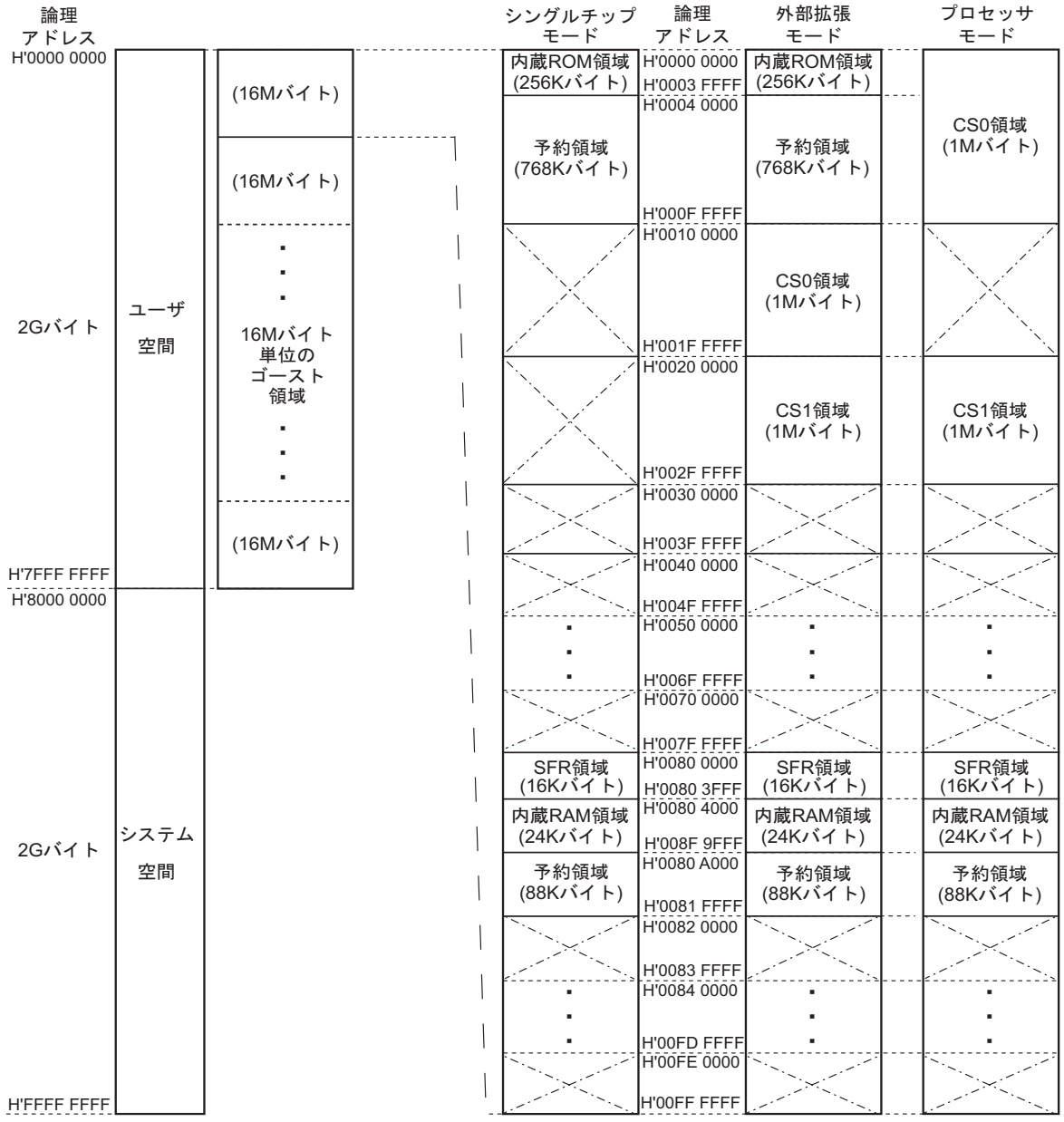


図3.2.3　M32176F2**のアドレス空間**

3.3 内蔵ROM領域/外部拡張領域

ユーザ空間内のH'0000 0000～H'007F FFFF番地の8Mバイト領域は、内蔵ROM領域/外部拡張領域です。動作モード設定による内蔵ROM領域/外部拡張領域の配置の変化については、「3.2 動作モード」を参照してください。

3.3.1 内蔵ROM領域

以下の領域に内蔵ROMが配置されます。この領域の先頭にはEITベクタエントリ（およびICUベクタテーブル）が配置されます。

表3.3.1 内蔵ROM領域

型名	容量	配置アドレス
M32176F4	512Kバイト	H'0000 0000 ～ H'0007 FFFF
M32176F3	384Kバイト	H'0000 0000 ～ H'0005 FFFF
M32176F2	256Kバイト	H'0000 0000 ～ H'0003 FFFF

3.3.2 外部拡張領域

動作モード設定で、外部拡張モードおよびプロセッサモード選択時のみ、外部拡張領域になります。外部拡張領域へのアクセスに対して、外部デバイスのアクセスに必要な制御信号が出力されます。

CS0#、CS1#信号は、外部拡張領域のアドレスマッピングに対応して出力します。CS0#信号がCS0領域に、CS1#信号がCS1領域にそれぞれ出力します。

表3.3.2 各動作モードにおける外部拡張領域のマッピング

動作モード	外部拡張領域のアドレスマッピング
シングルチップモード	なし
外部拡張モード	H'0010 0000～H'001F FFFF番地 （CS0領域：1Mバイト） H'0020 0000～H'002F FFFF番地 （CS1領域：1Mバイト） （注1）
プロセッサモード	H'0000 0000～H'000F FFFF番地 （CS0領域：1Mバイト） （注2） H'0020 0000～H'002F FFFF番地 （CS1領域：1Mバイト） （注2）

注1．外部拡張モード時、H'0030 0000～H'003F FFFFの領域にはCS1領域のゴースト（1Mバイト）が見えます。
注2．プロセッサモード時、H'0010 0000～H'001F FFFFの領域にCS0領域のゴースト（1Mバイト）が、H'0030 0000～H'003F FFFFの領域にCS1領域のゴースト（1Mバイト）が見えます。

3.4　内蔵RAM領域/SFR領域

H'0080 0000～H'00FF FFFF番地の8Mバイトの領域は、内蔵RAM領域/SFR(Special Function Register)領域です。このうち、ユーザが実際に利用可能な空間は、H'0080 0000～H'0081 FFFF番地の128Kバイトの領域で、それ以外の領域には128Kバイト単位のゴーストが見えます(プログラミング時に故意にゴースト領域を使わないでください)。

3.4.1　内蔵RAM領域

以下の領域に内蔵RAM(24Kバイト)が配置されます。

表3.4.1　内蔵RAM領域

型名	容量	配置アドレス
M32176F4	24Kバイト	H'0080 4000～H'0080 9FFF
M32176F3	24Kバイト	H'0080 4000～H'0080 9FFF
M32176F2	24Kバイト	H'0080 4000～H'0080 9FFF

3.4.2　SFR(Special Function Register)領域

H'0080 0000～H'0080 3FFF番地はSFR(Special Function Register)領域です。SFR領域には、内蔵周辺I/Oのレジスタが配置されます。

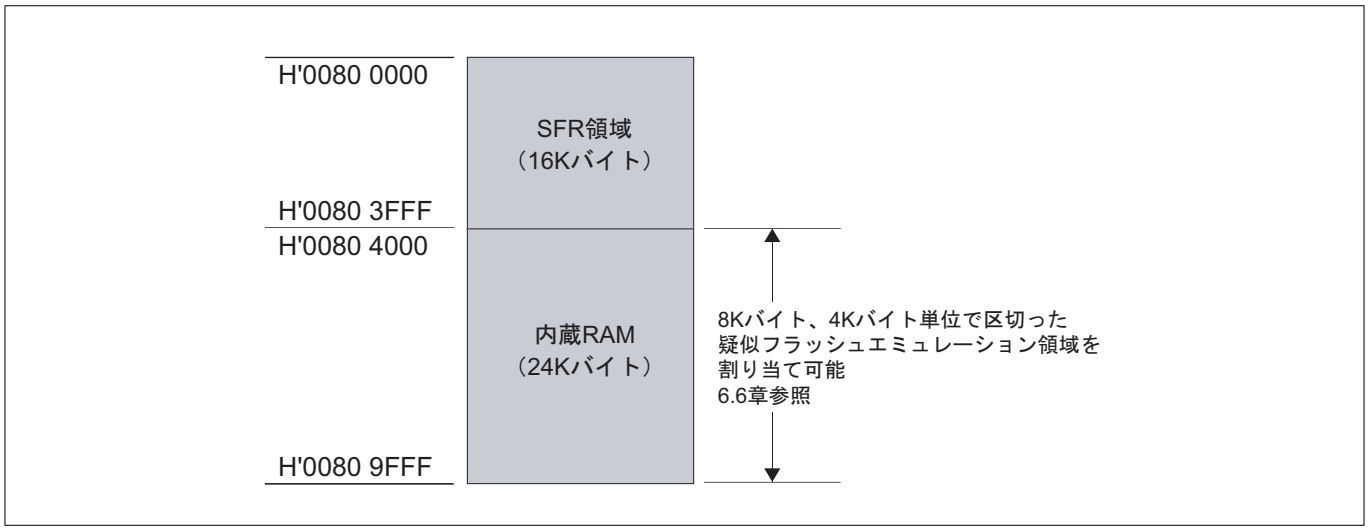
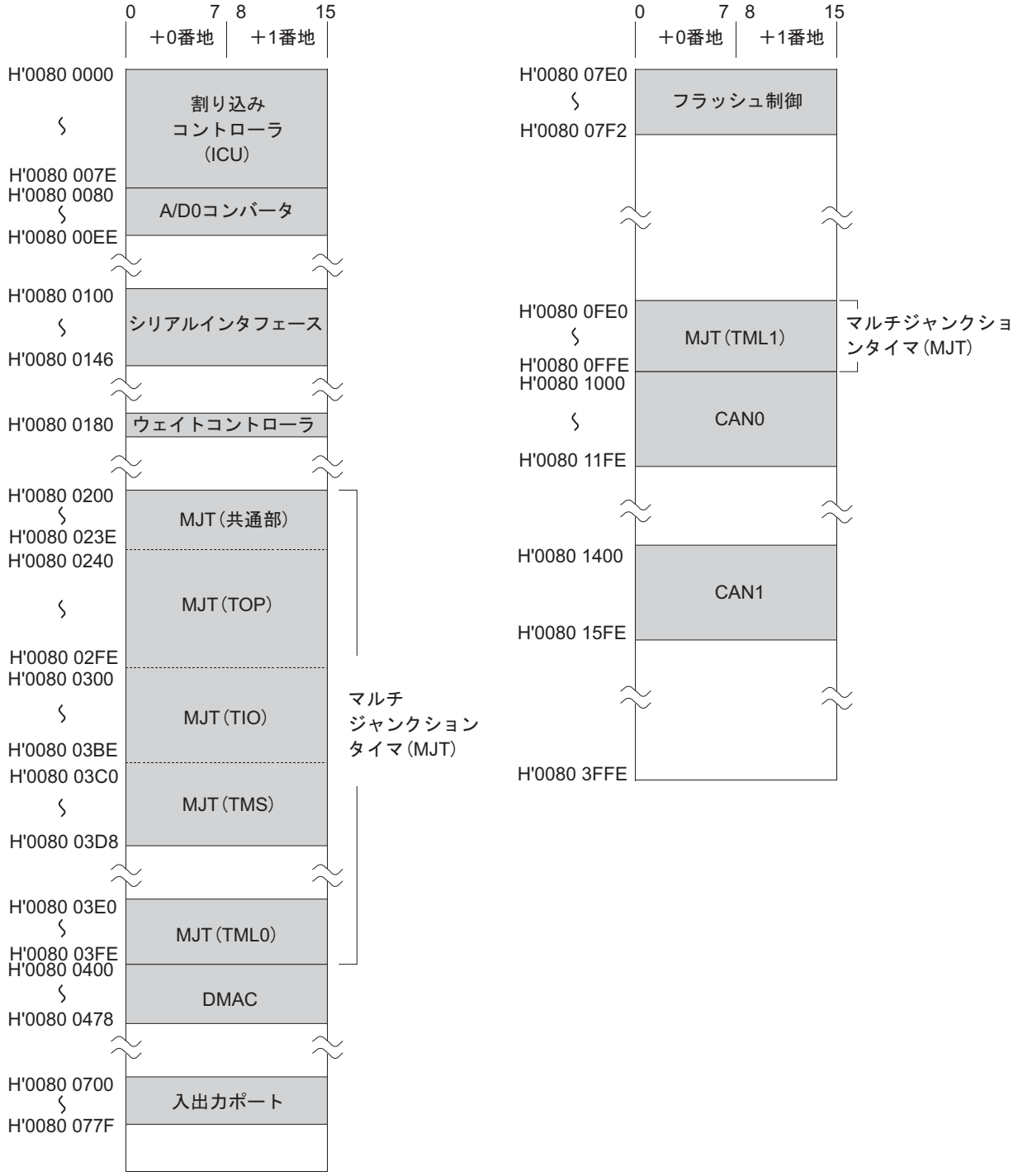


図3.4.1　内蔵RAM領域/SFR(Special Function Register)領域



注.　・リアルタイムデバッガ(RTD)は外部から操作される独立したモジュールであり、CPUからは見えない仕様となっています。

図3.4.2　SFR領域のマッピング概要

SFR領域のレジスタマップ(1/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0000	割り込みベクタレジスタ (IVECT)		5-5
H'0080 0002	(使用禁止領域)		
H'0080 0004	割り込み要求マスクレジスタ (IMASK)	(使用禁止領域)	5-6
H'0080 0006	SBI制御レジスタ (SBICR)	(使用禁止領域)	5-7
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0060	CAN0送受信&エラー割り込み制御レジスタ (ICAN0CR)	(使用禁止領域)	5-8
H'0080 0062	(使用禁止領域)		
H'0080 0064	(使用禁止領域)		
H'0080 0066	(使用禁止領域)	RTD割り込み制御レジスタ (IRTDCR)	5-8
H'0080 0068	SIO2, 3送受信割り込み制御レジスタ (ISIO23CR)	DMA5-9割り込み制御レジスタ (IDMA59CR)	5-8
H'0080 006A	(使用禁止領域)		
H'0080 006C	A/D0変換割り込み制御レジスタ (IAD0CCR)	SIO0送信割り込み制御レジスタ (ISIO0TXCR)	5-8
H'0080 006E	SIO0受信割り込み制御レジスタ (ISIO0RXCR)	SIO1送信割り込み制御レジスタ (ISIO1TXCR)	5-8
H'0080 0070	SIO1受信割り込み制御レジスタ (ISIO1RXCR)	DMA0-4割り込み制御レジスタ (IDMA04CR)	5-8
H'0080 0072	MJT出力割り込み制御レジスタ0 (IMJTOCR0)	MJT出力割り込み制御レジスタ1 (IMJTOCR1)	5-8
H'0080 0074	MJT出力割り込み制御レジスタ2 (IMJTOCR2)	MJT出力割り込み制御レジスタ3 (IMJTOCR3)	5-8
H'0080 0076	MJT出力割り込み制御レジスタ4 (IMJTOCR4)	MJT出力割り込み制御レジスタ5 (IMJTOCR5)	5-8
H'0080 0078	MJT出力割り込み制御レジスタ6 (IMJTOCR6)	MJT出力割り込み制御レジスタ7 (IMJTOCR7)	5-8
H'0080 007A	(使用禁止領域)	MJT入力割り込み制御レジスタ1 (IMJTICR1)	5-8
H'0080 007C	MJT入力割り込み制御レジスタ2 (IMJTICR2)	MJT入力割り込み制御レジスタ3 (IMJTICR3)	5-8
H'0080 007E	MJT入力割り込み制御レジスタ4 (IMJTICR4)	CAN1送受信&エラー割り込み制御レジスタ (ICAN1CR)	5-8
H'0080 0080	A/D0単一モードレジスタ0 (AD0SIM0)	A/D0単一モードレジスタ1 (AD0SIM1)	11-14 11-16
H'0080 0082	(使用禁止領域)		
H'0080 0084	A/D0スキャンモードレジスタ0 (AD0SCM0)	A/D0スキャンモードレジスタ1 (AD0SCM1)	11-18 11-20
H'0080 0086	A/D0断線検出アシスト機能制御レジスタ (AD0DDACR)	A/D0変換速度制御レジスタ (AD0CVSCR)	11-23 11-22
H'0080 0088	A/D0逐次近似レジスタ (AD0SAR)		11-27
H'0080 008A	A/D0断線検出アシスト方式選択レジスタ (AD0DDASEL)		11-24
H'0080 008C	A/D0コンパレートデータレジスタ (AD0CMP)		11-28
H'0080 008E	(使用禁止領域)		
H'0080 0090	10ビットA/D0データレジスタ0 (AD0DT0)		11-29
H'0080 0092	10ビットA/D0データレジスタ1 (AD0DT1)		11-29
H'0080 0094	10ビットA/D0データレジスタ2 (AD0DT2)		11-29
H'0080 0096	10ビットA/D0データレジスタ3 (AD0DT3)		11-29
H'0080 0098	10ビットA/D0データレジスタ4 (AD0DT4)		11-29
H'0080 009A	10ビットA/D0データレジスタ5 (AD0DT5)		11-29

SFR領域のレジスタマップ(2/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 009C	10ビットA/D0データレジスタ6 (AD0DT6)		11-29
H'0080 009E	10ビットA/D0データレジスタ7 (AD0DT7)		11-29
H'0080 00A0	10ビットA/D0データレジスタ8 (AD0DT8)		11-29
H'0080 00A2	10ビットA/D0データレジスタ9 (AD0DT9)		11-29
H'0080 00A4	10ビットA/D0データレジスタ10 (AD0DT10)		11-29
H'0080 00A6	10ビットA/D0データレジスタ11 (AD0DT11)		11-29
H'0080 00A8	10ビットA/D0データレジスタ12 (AD0DT12)		11-29
H'0080 00AA	10ビットA/D0データレジスタ13 (AD0DT13)		11-29
H'0080 00AC	10ビットA/D0データレジスタ14 (AD0DT14)		11-29
H'0080 00AE	10ビットA/D0データレジスタ15 (AD0DT15)		11-29
H'0080 00D0	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ0 (AD08DT0)	11-30
H'0080 00D2	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ1 (AD08DT1)	11-30
H'0080 00D4	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ2 (AD08DT2)	11-30
H'0080 00D6	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ3 (AD08DT3)	11-30
H'0080 00D8	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ4 (AD08DT4)	11-30
H'0080 00DA	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ5 (AD08DT5)	11-30
H'0080 00DC	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ6 (AD08DT6)	11-30
H'0080 00DE	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ7 (AD08DT7)	11-30
H'0080 00E0	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ8 (AD08DT8)	11-30
H'0080 00E2	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ9 (AD08DT9)	11-30
H'0080 00E4	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ10 (AD08DT10)	11-30
H'0080 00E6	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ11 (AD08DT11)	11-30
H'0080 00E8	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ12 (AD08DT12)	11-30
H'0080 00EA	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ13 (AD08DT13)	11-30
H'0080 00EC	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ14 (AD08DT14)	11-30
H'0080 00EE	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ15 (AD08DT15)	11-30
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0100	SIO23割り込み要求ステータスレジスタ (SI23STAT)	SIO03割り込み要求マスクレジスタ (SI03MASK)	12-9 12-10
H'0080 0102	SIO03割り込み要求要因選択レジスタ (SI03SEL)	(使用禁止領域)	12-11
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0110	SIO0送信制御レジスタ (S0TCNT)	SIO0送受信モードレジスタ (S0MOD)	12-13 12-14
H'0080 0112	SIO0送信バッファレジスタ (S0TXB)		12-17
H'0080 0114	SIO0受信バッファレジスタ (S0RXB)		12-18
H'0080 0116	SIO0受信制御レジスタ (S0RCNT)	SIO0ボーレートレジスタ (S0BAUR)	12-19 12-21

SFR領域のレジスタマップ(3/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0118	SIO0特殊モードレジスタ (S0SMOD)	(使用禁止領域)	12-23
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0120	SIO1送信制御レジスタ (S1TCNT)	SIO1送受信モードレジスタ (S1MOD)	12-13 12-14
H'0080 0122	SIO1送信バッファレジスタ (S1TXB)		12-17
H'0080 0124	SIO1受信バッファレジスタ (S1RXB)		12-18
H'0080 0126	SIO1受信制御レジスタ (S1RCNT)	SIO1ボーレートレジスタ (S1BAUR)	12-19 12-21
H'0080 0128	SIO1特殊モードレジスタ (S1SMOD)	(使用禁止領域)	12-23
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0130	SIO2送信制御レジスタ (S2TCNT)	SIO2送受信モードレジスタ (S2MOD)	12-13 12-14
H'0080 0132	SIO2送信バッファレジスタ (S2TXB)		12-17
H'0080 0134	SIO2受信バッファレジスタ (S2RXB)		12-18
H'0080 0136	SIO2受信制御レジスタ (S2RCNT)	SIO2ボーレートレジスタ (S2BAUR)	12-19 12-21
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0140	SIO3送信制御レジスタ (S3TCNT)	SIO3送受信モードレジスタ (S3MOD)	12-13 12-14
H'0080 0142	SIO3送信バッファレジスタ (S3TXB)		12-17
H'0080 0144	SIO3受信バッファレジスタ (S3RXB)		12-18
H'0080 0146	SIO3受信制御レジスタ (S3RCNT)	SIO3ボーレートレジスタ (S3BAUR)	12-19 12-21
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0180	ウェイト数制御レジスタ (WTCCR)	(使用禁止領域)	16-4
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0200	(使用禁止領域)	クロックバス&入力イベントバス制御レジスタ (CKIEBCR)	10-13
H'0080 0202	プリスケーラレジスタ0 (PRS0)	プリスケーラレジスタ1 (PRS1)	10-9
H'0080 0204	プリスケーラレジスタ2 (PRS2)	出力イベントバス制御レジスタ (OEBCR)	10-9 10-14
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0210	TCLK入力処理制御レジスタ (TCLKCR)		10-17
H'0080 0212	TIN入力処理制御レジスタ0 (TINCR0)		10-18
H'0080 0214	(使用禁止領域)		
H'0080 0216	(使用禁止領域)		
H'0080 0218	TIN入力処理制御レジスタ3 (TINCR3)		10-19
H'0080 021A	TIN入力処理制御レジスタ4 (TINCR4)		10-19
H'0080 021C	(使用禁止領域)		
H'0080 021E	(使用禁止領域)		
H'0080 0220	F/Fソース選択レジスタ0 (FFS0)		10-21
H'0080 0222	(使用禁止領域)	F/Fソース選択レジスタ1 (FFS1)	10-22
H'0080 0224	F/Fプロテクトレジスタ0 (FFP0)		10-23

SFR領域のレジスタマップ(4/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0226	F/Fデータレジスタ0 (FFD0)		10-24
H'0080 0228	(使用禁止領域)	F/Fプロテクトレジスタ1 (FFP1)	10-23
H'0080 022A	(使用禁止領域)	F/Fデータレジスタ1 (FFD1)	10-24
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0230	TOP割り込み制御レジスタ0 (TOPIR0)	TOP割り込み制御レジスタ1 (TOPIR1)	10-29
H'0080 0232	TOP割り込み制御レジスタ2 (TOPIR2)	TOP割り込み制御レジスタ3 (TOPIR3)	10-31 10-32
H'0080 0234	TIO割り込み制御レジスタ0 (TIOIR0)	TIO割り込み制御レジスタ1 (TIOIR1)	10-33 10-34
H'0080 0236	TIO割り込み制御レジスタ2 (TIOIR2)	TMS割り込み制御レジスタ (TMSIR)	10-35 10-36
H'0080 0238	TIN割り込み制御レジスタ0 (TINIR0)	TIN割り込み制御レジスタ1 (TINIR1)	10-37 10-38
H'0080 023A	(使用禁止領域)		
H'0080 023C	TIN割り込み制御レジスタ4 (TINIR4)	TIN割り込み制御レジスタ5 (TINIR5)	10-39
H'0080 023E	TIN割り込み制御レジスタ6 (TINIR6)	(使用禁止領域)	10-41
H'0080 0240	TOP0カウンタ (TOP0CT)		10-53
H'0080 0242	TOP0リロードレジスタ (TOP0RL)		10-54
H'0080 0244	(使用禁止領域)		
H'0080 0246	TOP0補正レジスタ (TOP0CC)		10-55
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0250	TOP1カウンタ (TOP1CT)		10-53
H'0080 0252	TOP1リロードレジスタ (TOP1RL)		10-54
H'0080 0254	(使用禁止領域)		
H'0080 0256	TOP1補正レジスタ (TOP1CC)		10-55
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0260	TOP2カウンタ (TOP2CT)		10-53
H'0080 0262	TOP2リロードレジスタ (TOP2RL)		10-54
H'0080 0264	(使用禁止領域)		
H'0080 0266	TOP2補正レジスタ (TOP2CC)		10-55
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0270	TOP3カウンタ (TOP3CT)		10-53
H'0080 0272	TOP3リロードレジスタ (TOP3RL)		10-54
H'0080 0274	(使用禁止領域)		
H'0080 0276	TOP3補正レジスタ (TOP3CC)		10-55
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0280	TOP4カウンタ (TOP4CT)		10-53
H'0080 0282	TOP4リロードレジスタ (TOP4RL)		10-54
H'0080 0284	(使用禁止領域)		

SFR領域のレジスタマップ(5/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0286	TOP4補正レジスタ (TOP4CC)		10-55
∫	(使用禁止領域)		
H'0080 0290	TOP5カウンタ (TOP5CT)		10-53
H'0080 0292	TOP5リロードレジスタ (TOP5RL)		10-54
H'0080 0294	(使用禁止領域)		
H'0080 0296	TOP5補正レジスタ (TOP5CC)		10-55
H'0080 0298	(使用禁止領域)		
H'0080 029A	TOP0-5制御レジスタ0 (TOP05CR0)		10-49
H'0080 029C	(使用禁止領域)	TOP0-5制御レジスタ1 (TOP05CR1)	10-49
H'0080 029E	(使用禁止領域)		
H'0080 02A0	TOP6カウンタ (TOP6CT)		10-53
H'0080 02A2	TOP6リロードレジスタ (TOP6RL)		10-54
H'0080 02A4	(使用禁止領域)		
H'0080 02A6	TOP6補正レジスタ (TOP6CC)		10-55
H'0080 02A8	(使用禁止領域)		
H'0080 02AA	TOP6, 7制御レジスタ (TOP67CR)		10-51
∫	(使用禁止領域)		
H'0080 02B0	TOP7カウンタ (TOP7CT)		10-53
H'0080 02B2	TOP7リロードレジスタ (TOP7RL)		10-54
H'0080 02B4	(使用禁止領域)		
H'0080 02B6	TOP7補正レジスタ (TOP7CC)		10-55
∫	(使用禁止領域)		
H'0080 02C0	TOP8カウンタ (TOP8CT)		10-53
H'0080 02C2	TOP8リロードレジスタ (TOP8RL)		10-54
H'0080 02C4	(使用禁止領域)		
H'0080 02C6	TOP8補正レジスタ (TOP8CC)		10-55
∫	(使用禁止領域)		
H'0080 02D0	TOP9カウンタ (TOP9CT)		10-53
H'0080 02D2	TOP9リロードレジスタ (TOP9RL)		10-54
H'0080 02D4	(使用禁止領域)		
H'0080 02D6	TOP9補正レジスタ (TOP9CC)		10-55
∫	(使用禁止領域)		
H'0080 02E0	TOP10カウンタ (TOP10CT)		10-53
H'0080 02E2	TOP10リロードレジスタ (TOP10RL)		10-54
H'0080 02E4	(使用禁止領域)		

SFR領域のレジスタマップ(6/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 02E6	TOP10補正レジスタ (TOP10CC)		10-55
H'0080 02E8	(使用禁止領域)		
H'0080 02EA	TOP8-10制御レジスタ (TOP810CR)		10-52
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 02FA	TOP0-10外部イネーブル許可レジスタ (TOPEEN)		10-56
H'0080 02FC	TOP0-10イネーブルプロテクトレジスタ (TOPPRO)		10-56
H'0080 02FE	TOP0-10カウントイネーブルレジスタ (TOPCEN)		10-57
H'0080 0300	TIO0カウンタ (TIO0CT)		10-87
H'0080 0302	(使用禁止領域)		
H'0080 0304	TIO0リロード1レジスタ (TIO0RL1)		10-89
H'0080 0306	TIO0リロード0/計測レジスタ (TIO0RL0)		10-88
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0310	TIO1カウンタ (TIO1CT)		10-87
H'0080 0312	(使用禁止領域)		
H'0080 0314	TIO1リロード1レジスタ (TIO1RL1)		10-89
H'0080 0316	TIO1リロード0/計測レジスタ (TIO1RL0)		10-88
H'0080 0318	(使用禁止領域)		
H'0080 031A	TIO0-3制御レジスタ0 (TIO03CR0)		10-80
H'0080 031C	(使用禁止領域)	TIO0-3制御レジスタ1 (TIO03CR1)	10-81
H'0080 031E	(使用禁止領域)		
H'0080 0320	TIO2カウンタ (TIO2CT)		10-87
H'0080 0322	(使用禁止領域)		
H'0080 0324	TIO2リロード1レジスタ (TIO2RL1)		10-89
H'0080 0326	TIO2リロード0/計測レジスタ (TIO2RL0)		10-88
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0330	TIO3カウンタ (TIO3CT)		10-87
H'0080 0332	(使用禁止領域)		
H'0080 0334	TIO3リロード1レジスタ (TIO3RL1)		10-89
H'0080 0336	TIO3リロード0/計測レジスタ (TIO3RL0)		10-88
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0340	TIO4カウンタ (TIO4CT)		10-87
H'0080 0342	(使用禁止領域)		
H'0080 0344	TIO4リロード1レジスタ (TIO4RL1)		10-89
H'0080 0346	TIO4リロード0/計測レジスタ (TIO4RL0)		10-88
H'0080 0348	(使用禁止領域)		

SFR領域のレジスタマップ(7/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 034A	TIO4制御レジスタ (TIO4CR)	TIO5制御レジスタ (TIO5CR)	10-82 10-84
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0350	TIO5カウンタ (TIO5CT)		10-87
H'0080 0352	(使用禁止領域)		
H'0080 0354	TIO5リロード1レジスタ (TIO5RL1)		10-89
H'0080 0356	TIO5リロード0/計測レジスタ (TIO5RL0)		10-88
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0360	TIO6カウンタ (TIO6CT)		10-87
H'0080 0362	(使用禁止領域)		
H'0080 0364	TIO6リロード1レジスタ (TIO6RL1)		10-89
H'0080 0366	TIO6リロード0/計測レジスタ (TIO6RL0)		10-88
H'0080 0368	(使用禁止領域)		
H'0080 036A	TIO6制御レジスタ (TIO6CR)	TIO7制御レジスタ (TIO7CR)	10-85 10-86
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0370	TIO7カウンタ (TIO7CT)		10-87
H'0080 0372	(使用禁止領域)		
H'0080 0374	TIO7リロード1レジスタ (TIO7RL1)		10-89
H'0080 0376	TIO7リロード0/計測レジスタ (TIO7RL0)		10-88
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0380	TIO8カウンタ (TIO8CT)		10-87
H'0080 0382	(使用禁止領域)		
H'0080 0384	TIO8リロード1レジスタ (TIO8RL1)		10-89
H'0080 0386	TIO8リロード0/計測レジスタ (TIO8RL0)		10-88
H'0080 0388	(使用禁止領域)		
H'0080 038A	TIO8制御レジスタ (TIO8CR)	TIO9制御レジスタ (TIO9CR)	10-86 10-87
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0390	TIO9カウンタ (TIO9CT)		10-87
H'0080 0392	(使用禁止領域)		
H'0080 0394	TIO9リロード1レジスタ (TIO9RL1)		10-89
H'0080 0396	TIO9リロード0/計測レジスタ (TIO9RL0)		10-88
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 03BC	TIO0-9イネーブルプロテクトレジスタ (TIOPRO)		10-90
H'0080 03BE	TIO0-9カウントイネーブルレジスタ (TIOCEN)		10-91
H'0080 03C0	TMS0カウンタ (TMS0CT)		10-109
H'0080 03C2	TMS0計測3レジスタ (TMS0MR3)		10-109

SFR領域のレジスタマップ(8/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 03C4	TMS0計測2レジスタ (TMS0MR2)		10-109
H'0080 03C6	TMS0計測1レジスタ (TMS0MR1)		10-109
H'0080 03C8	TMS0計測0レジスタ (TMS0MR0)		10-109
H'0080 03CA	TMS0制御レジスタ (TMS0CR)	TMS1制御レジスタ (TMS1CR)	10-108
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 03D0	TMS1カウンタ (TMS1CT)		10-109
H'0080 03D2	TMS1計測3レジスタ (TMS1MR3)		10-109
H'0080 03D4	TMS1計測2レジスタ (TMS1MR2)		10-109
H'0080 03D6	TMS1計測1レジスタ (TMS1MR1)		10-109
H'0080 03D8	TMS1計測0レジスタ (TMS1MR0)		10-109
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 03E0	TML0カウンタ(上位) (TML0CTH)		10-114
H'0080 03E2	TML0カウンタ(下位) (TML0CTL)		10-114
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 03EA	(使用禁止領域)	TML0制御レジスタ (TML0CR)	10-113
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 03F0	TML0計測3レジスタ(上位) (TML0MR3H)		10-115
H'0080 03F2	TML0計測3レジスタ(下位) (TML0MR3L)		10-115
H'0080 03F4	TML0計測2レジスタ(上位) (TML0MR2H)		10-115
H'0080 03F6	TML0計測2レジスタ(下位) (TML0MR2L)		10-115
H'0080 03F8	TML0計測1レジスタ(上位) (TML0MR1H)		10-115
H'0080 03FA	TML0計測1レジスタ(下位) (TML0MR1L)		10-115
H'0080 03FC	TML0計測0レジスタ(上位) (TML0MR0H)		10-115
H'0080 03FE	TML0計測0レジスタ(下位) (TML0MR0L)		10-115
H'0080 0400	DMA0-4割り込み要求ステータスレジスタ (DM04ITST)	DMA0-4割り込み要求マスクレジスタ (DM04ITMK)	9-18 9-19
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0408	DMA5-9割り込み要求ステータスレジスタ (DM59ITST)	DMA5-9割り込み要求マスクレジスタ (DM59ITMK)	9-18 9-19
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0410	DMA0チャネル制御レジスタ (DM0CNT)	DMA0転送カウントレジスタ (DM0TCT)	9-6 9-15
H'0080 0412	DMA0ソースアドレスレジスタ (DM0SA)		9-13
H'0080 0414	DMA0デスティネーションアドレスレジスタ (DM0DA)		9-14
H'0080 0416	(使用禁止領域)		
H'0080 0418	DMA5チャネル制御レジスタ (DM5CNT)	DMA5転送カウントレジスタ (DM5TCT)	9-8 9-15
H'0080 041A	DMA5ソースアドレスレジスタ (DM5SA)		9-13
H'0080 041C	DMA5デスティネーションアドレスレジスタ (DM5DA)		9-14

SFR領域のレジスタマップ(9/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 041E	(使用禁止領域)		
H'0080 0420	DMA1チャネル制御レジスタ (DM1CNT)	DMA1転送カウントレジスタ (DM1TCT)	9-6 9-15
H'0080 0422	DMA1ソースアドレスレジスタ (DM1SA)		9-13
H'0080 0424	DMA1デスティネーションアドレスレジスタ (DM1DA)		9-14
H'0080 0426	(使用禁止領域)		
H'0080 0428	DMA6チャネル制御レジスタ (DM6CNT)	DMA6転送カウントレジスタ (DM6TCT)	9-9 9-15
H'0080 042A	DMA6ソースアドレスレジスタ (DM6SA)		9-13
H'0080 042C	DMA6デスティネーションアドレスレジスタ (DM6DA)		9-14
H'0080 042E	(使用禁止領域)		
H'0080 0430	DMA2チャネル制御レジスタ (DM2CNT)	DMA2転送カウントレジスタ (DM2TCT)	9-7 9-15
H'0080 0432	DMA2ソースアドレスレジスタ (DM2SA)		9-13
H'0080 0434	DMA2デスティネーションアドレスレジスタ (DM2DA)		9-14
H'0080 0436	(使用禁止領域)		
H'0080 0438	DMA7チャネル制御レジスタ (DM7CNT)	DMA7転送カウントレジスタ (DM7TCT)	9-9 9-15
H'0080 043A	DMA7ソースアドレスレジスタ (DM7SA)		9-13
H'0080 043C	DMA7デスティネーションアドレスレジスタ (DM7DA)		9-14
H'0080 043E	(使用禁止領域)		
H'0080 0440	DMA3チャネル制御レジスタ (DM3CNT)	DMA3転送カウントレジスタ (DM3TCT)	9-7 9-15
H'0080 0442	DMA3ソースアドレスレジスタ (DM3SA)		9-13
H'0080 0444	DMA3デスティネーションアドレスレジスタ (DM3DA)		9-14
H'0080 0446	(使用禁止領域)		
H'0080 0448	DMA8チャネル制御レジスタ (DM8CNT)	DMA8転送カウントレジスタ (DM8TCT)	9-10 9-15
H'0080 044A	DMA8ソースアドレスレジスタ (DM8SA)		9-13
H'0080 044C	DMA8デスティネーションアドレスレジスタ (DM8DA)		9-14
H'0080 044E	(使用禁止領域)		
H'0080 0450	DMA4チャネル制御レジスタ (DM4CNT)	DMA4転送カウントレジスタ (DM4TCT)	9-8 9-15
H'0080 0452	DMA4ソースアドレスレジスタ (DM4SA)		9-13
H'0080 0454	DMA4デスティネーションアドレスレジスタ (DM4DA)		9-14
H'0080 0456	(使用禁止領域)		
H'0080 0458	DMA9チャネル制御レジスタ (DM9CNT)	DMA9転送カウントレジスタ (DM9TCT)	9-10 9-15
H'0080 045A	DMA9ソースアドレスレジスタ (DM9SA)		9-13
H'0080 045C	DMA9デスティネーションアドレスレジスタ (DM9DA)		9-14
H'0080 045E	(使用禁止領域)		
H'0080 0460	DMA0ソフトウェア要求発生レジスタ (DM0SRI)		9-12
H'0080 0462	DMA1ソフトウェア要求発生レジスタ (DM1SRI)		9-12

SFR領域のレジスタマップ(10/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0464	DMA2ソフトウェア要求発生レジスタ (DM2SRI)		9-12
H'0080 0466	DMA3ソフトウェア要求発生レジスタ (DM3SRI)		9-12
H'0080 0468	DMA4ソフトウェア要求発生レジスタ (DM4SRI)		9-12
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0470	DMA5ソフトウェア要求発生レジスタ (DM5SRI)		9-12
H'0080 0472	DMA6ソフトウェア要求発生レジスタ (DM6SRI)		9-12
H'0080 0474	DMA7ソフトウェア要求発生レジスタ (DM7SRI)		9-12
H'0080 0476	DMA8ソフトウェア要求発生レジスタ (DM8SRI)		9-12
H'0080 0478	DMA9ソフトウェア要求発生レジスタ (DM9SRI)		9-12
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0600	ダミーアクセス領域(注1)	ダミーアクセス領域(注1)	3-31
H'0080 0602	ダミーアクセス領域(注1)	ダミーアクセス領域(注1)	3-31
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0700	P0データレジスタ (P0DATA)	P1データレジスタ (P1DATA)	8-7
H'0080 0702	P2データレジスタ (P2DATA)	P3データレジスタ (P3DATA)	8-7
H'0080 0704	P4データレジスタ (P4DATA)	(使用禁止領域)	8-7
H'0080 0706	P6データレジスタ (P6DATA)	P7データレジスタ (P7DATA)	8-7
H'0080 0708	P8データレジスタ (P8DATA)	P9データレジスタ (P9DATA)	8-7
H'0080 070A	P10データレジスタ (P10DATA)	P11データレジスタ (P11DATA)	8-7
H'0080 070C	P12データレジスタ (P12DATA)	P13データレジスタ (P13DATA)	8-7
H'0080 070E	(使用禁止領域)	P15データレジスタ (P15DATA)	8-7
H'0080 0710	(使用禁止領域)	P17データレジスタ (P17DATA)	8-7
H'0080 0712	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0714	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0716	P22データレジスタ (P22DATA)	(使用禁止領域)	8-7
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0720	P0方向レジスタ (P0DIR)	P1方向レジスタ (P1DIR)	8-8
H'0080 0722	P2方向レジスタ (P2DIR)	P3方向レジスタ (P3DIR)	8-8
H'0080 0724	P4方向レジスタ (P4DIR)	(使用禁止領域)	8-8
H'0080 0726	P6方向レジスタ (P6DIR)	P7方向レジスタ (P7DIR)	8-8
H'0080 0728	P8方向レジスタ (P8DIR)	P9方向レジスタ (P9DIR)	8-8
H'0080 072A	P10方向レジスタ (P10DIR)	P11方向レジスタ (P11DIR)	8-8
H'0080 072C	P12方向レジスタ (P12DIR)	P13方向レジスタ (P13DIR)	8-8
H'0080 072E	(使用禁止領域)	P15方向レジスタ (P15DIR)	8-8

SFR領域のレジスタマップ(11/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0730	(使用禁止領域)	P17方向レジスタ (P17DIR)	8-8
H'0080 0732	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0734	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0736	P22方向レジスタ (P22DIR)	(使用禁止領域)	8-8
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0744	(使用禁止領域)	ポート入力特別機能制御レジスタ (PICNT)	8-15 18-3
H'0080 0746	(使用禁止領域)	P7動作モードレジスタ (P7MOD)	8-9, 15-4 18-7
H'0080 0748	P8動作モードレジスタ (P8MOD)	P9動作モードレジスタ (P9MOD)	8-9 8-10
H'0080 074A	P10動作モードレジスタ (P10MOD)	P11動作モードレジスタ (P11MOD)	8-10 8-11
H'0080 074C	P12動作モードレジスタ (P12MOD)	P13動作モードレジスタ (P13MOD)	8-11 8-12
H'0080 074E	(使用禁止領域)	P15動作モードレジスタ (P15MOD)	8-12
H'0080 0750	(使用禁止領域)	P17動作モードレジスタ (P17MOD)	8-13
H'0080 0752	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0754	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0756	P22動作モードレジスタ (P22MOD)	(使用禁止領域)	8-13
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0760	ポートグループ0, 1入力レベル設定レジスタ (PG01LEV)	ポートグループ3入力レベル設定レジスタ (PG3LEV)	8-19
H'0080 0762	ポートグループ4, 5入力レベル設定レジスタ (PG45LEV)	ポートグループ6, 7入力レベル設定レジスタ (PG67LEV)	8-19
H'0080 0764	ポートグループ8入力レベル設定レジスタ (PG8LEV)	(使用禁止領域)	8-19
H'0080 0766	(使用禁止領域)	P7周辺機能選択レジスタ (P7SMOD)	8-14
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 077A	(使用禁止領域)	RTD書き込み機能禁止レジスタ (WRRDIS)	14-3
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 077E	(使用禁止領域)	バスモード制御レジスタ (BUSMODC)	15-5
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0786	クロック制御レジスタ (CLKCR)	(使用禁止領域)	18-5
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 07E0	フラッシュモードレジスタ (FMOD)	フラッシュステータスレジスタ (FSTAT)	6-7 6-8
H'0080 07E2	フラッシュ制御レジスタ1 (FCNT1)	フラッシュ制御レジスタ2 (FCNT2)	6-9 6-10
H'0080 07E4	フラッシュ制御レジスタ3 (FCNT3)	フラッシュ制御レジスタ4 (FCNT4)	6-11 6-13
H'0080 07E6	(使用禁止領域)		
H'0080 07E8	疑似フラッシュLバンクレジスタ0 (FELBANK0)		6-15
H'0080 07EA	疑似フラッシュLバンクレジスタ1 (FELBANK1)		6-15
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 07F0	疑似フラッシュSバンクレジスタ0 (FESBANK0)		6-16

SFR領域のレジスタマップ(12/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 07F2	疑似フラッシュSバンクレジスタ1 (FESBANK1)		6-16
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0FE0	TML1カウンタ上位 (TML1CTH)		10-114
H'0080 0FE2	TML1カウンタ下位 (TML1CTL)		10-114
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0FEA	(使用禁止領域)	TML1制御レジスタ (TML1CR)	10-113
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0FF0	TML1計測3レジスタ(上位) (TML1MR3H)		10-116
H'0080 0FF2	TML1計測3レジスタ(下位) (TML1MR3L)		10-116
H'0080 0FF4	TML1計測2レジスタ(上位) (TML1MR2H)		10-116
H'0080 0FF6	TML1計測2レジスタ(下位) (TML1MR2L)		10-116
H'0080 0FF8	TML1計測1レジスタ(上位) (TML1MR1H)		10-116
H'0080 0FFA	TML1計測1レジスタ(下位) (TML1MR1L)		10-116
H'0080 0FFC	TML1計測0レジスタ(上位) (TML1MR0H)		10-116
H'0080 0FFE	TML1計測0レジスタ(下位) (TML1MR0L)		10-116
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1000	CAN0コントロールレジスタ (CAN0CNT)		13-15
H'0080 1002	CAN0ステータスレジスタ (CAN0STAT)		13-18
H'0080 1004	CAN0拡張IDレジスタ (CAN0EXTID)		13-21
H'0080 1006	CAN0コンフィグレーションレジスタ (CAN0CONF)		13-22
H'0080 1008	CAN0タイムスタンプカウントレジスタ (CAN0TSTMP)		13-24
H'0080 100A	CAN0受信エラーカウントレジスタ (CAN0REC)	CAN0送信エラーカウントレジスタ (CAN0TEC)	13-25
H'0080 100C	CAN0スロット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN0SLIST)		13-29
H'0080 100E	(使用禁止領域)		
H'0080 1010	CAN0スロット割り込み要求マスクレジスタ (CAN0SLIMK)		13-30
H'0080 1012	(使用禁止領域)		
H'0080 1014	CAN0エラー割り込み要求ステータスレジスタ (CAN0ERIST)	CAN0エラー割り込み要求マスクレジスタ (CAN0ERIMK)	13-31 13-32
H'0080 1016	CAN0ボーレートプリスケーラ (CAN0BRP)	CAN0エラー要因レジスタ (CAN0EF)	13-26 13-45
H'0080 1018	CAN0モードレジスタ (CAN0MOD)	CAN0DMA転送要求選択レジスタ (CAN0DMARQ)	13-47 13-48
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1028	CAN0グローバルマスクレジスタ標準ID0 (C0GMSKS0)	CAN0グローバルマスクレジスタ標準ID1 (C0GMSKS1)	13-49
H'0080 102A	CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID0 (C0GMSKE0)	CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID1 (C0GMSKE1)	13-50
H'0080 102C	CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID2 (C0GMSKE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 102E	(使用禁止領域)		
H'0080 1030	CAN0ローカルマスクレジスタA標準ID0 (C0LMSKAS0)	CAN0ローカルマスクレジスタA標準ID1 (C0LMSKAS1)	13-49

SFR領域のレジスタマップ(13/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1032	CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID0 (C0LMSKAE0)	CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID1 (C0LMSKAE1)	13-50
H'0080 1034	CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID2 (C0LMSKAE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 1036	(使用禁止領域)		
H'0080 1038	CAN0ローカルマスクレジスタB標準ID0 (C0LMSKBS0)	CAN0ローカルマスクレジスタB標準ID1 (C0LMSKBS1)	13-49
H'0080 103A	CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID0 (C0LMSKBE0)	CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID1 (C0LMSKBE1)	13-50
H'0080 103C	CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID2 (C0LMSKBE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 103E	(使用禁止領域)		
H'0080 1040	CAN0シングルショットモード制御レジスタ (CAN0SSMODE)		13-53
H'0080 1042	(使用禁止領域)		
H'0080 1044	CAN0シングルショット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN0SSIST)		13-33
H'0080 1046	(使用禁止領域)		
H'0080 1048	CAN0シングルショット割り込み要求マスクレジスタ (CAN0SSIMK)		13-34
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1050	CAN0メッセージスロット0コントロールレジスタ (C0MSL0CNT)	CAN0メッセージスロット1コントロールレジスタ (C0MSL1CNT)	13-54
H'0080 1052	CAN0メッセージスロット2コントロールレジスタ (C0MSL2CNT)	CAN0メッセージスロット3コントロールレジスタ (C0MSL3CNT)	13-54
H'0080 1054	CAN0メッセージスロット4コントロールレジスタ (C0MSL4CNT)	CAN0メッセージスロット5コントロールレジスタ (C0MSL5CNT)	13-54
H'0080 1056	CAN0メッセージスロット6コントロールレジスタ (C0MSL6CNT)	CAN0メッセージスロット7コントロールレジスタ (C0MSL7CNT)	13-54
H'0080 1058	CAN0メッセージスロット8コントロールレジスタ (C0MSL8CNT)	CAN0メッセージスロット9コントロールレジスタ (C0MSL9CNT)	13-54
H'0080 105A	CAN0メッセージスロット10コントロールレジスタ (C0MSL10CNT)	CAN0メッセージスロット11コントロールレジスタ (C0MSL11CNT)	13-54
H'0080 105C	CAN0メッセージスロット12コントロールレジスタ (C0MSL12CNT)	CAN0メッセージスロット13コントロールレジスタ (C0MSL13CNT)	13-54
H'0080 105E	CAN0メッセージスロット14コントロールレジスタ (C0MSL14CNT)	CAN0メッセージスロット15コントロールレジスタ (C0MSL15CNT)	13-54
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1100	CAN0メッセージスロット0標準ID0 (C0MSL0SID0)	CAN0メッセージスロット0標準ID1 (C0MSL0SID1)	13-58 13-59
H'0080 1102	CAN0メッセージスロット0拡張ID0 (C0MSL0EID0)	CAN0メッセージスロット0拡張ID1 (C0MSL0EID1)	13-60 13-61
H'0080 1104	CAN0メッセージスロット0拡張ID2 (C0MSL0EID2)	CAN0メッセージスロット0データ長レジスタ (C0MSL0DLC)	13-62 13-63
H'0080 1106	CAN0メッセージスロット0データ0 (C0MSL0DT0)	CAN0メッセージスロット0データ1 (C0MSL0DT1)	13-64 13-65
H'0080 1108	CAN0メッセージスロット0データ2 (C0MSL0DT2)	CAN0メッセージスロット0データ3 (C0MSL0DT3)	13-66 13-67
H'0080 110A	CAN0メッセージスロット0データ4 (C0MSL0DT4)	CAN0メッセージスロット0データ5 (C0MSL0DT5)	13-68 13-69
H'0080 110C	CAN0メッセージスロット0データ6 (C0MSL0DT6)	CAN0メッセージスロット0データ7 (C0MSL0DT7)	13-70 13-71
H'0080 110E	CAN0メッセージスロット0タイムスタンプ (C0MSL0TSP)		13-72
H'0080 1110	CAN0メッセージスロット1標準ID0 (C0MSL1SID0)	CAN0メッセージスロット1標準ID1 (C0MSL1SID1)	13-58 13-59
H'0080 1112	CAN0メッセージスロット1拡張ID0 (C0MSL1EID0)	CAN0メッセージスロット1拡張ID1 (C0MSL1EID1)	13-60 13-61
H'0080 1114	CAN0メッセージスロット1拡張ID2 (C0MSL1EID2)	CAN0メッセージスロット1データ長レジスタ (C0MSL1DLC)	13-62 13-63
H'0080 1116	CAN0メッセージスロット1データ0 (C0MSL1DT0)	CAN0メッセージスロット1データ1 (C0MSL1DT1)	13-64 13-65
H'0080 1118	CAN0メッセージスロット1データ2 (C0MSL1DT2)	CAN0メッセージスロット1データ3 (C0MSL1DT3)	13-66 13-67

SFR領域のレジスタマップ(14/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 111A	CAN0メッセージスロット1データ4 (C0MSL1DT4)	CAN0メッセージスロット1データ5 (C0MSL1DT5)	13-68 13-69
H'0080 111C	CAN0メッセージスロット1データ6 (C0MSL1DT6)	CAN0メッセージスロット1データ7 (C0MSL1DT7)	13-70 13-71
H'0080 111E	CAN0メッセージスロット1タイムスタンプ (C0MSL1TSP)		13-72
H'0080 1120	CAN0メッセージスロット2標準ID0 (C0MSL2SID0)	CAN0メッセージスロット2標準ID1 (C0MSL2SID1)	13-58 13-59
H'0080 1122	CAN0メッセージスロット2拡張ID0 (C0MSL2EID0)	CAN0メッセージスロット2拡張ID1 (C0MSL2EID1)	13-60 13-61
H'0080 1124	CAN0メッセージスロット2拡張ID2 (C0MSL2EID2)	CAN0メッセージスロット2データ長レジスタ (C0MSL2DLC)	13-62 13-63
H'0080 1126	CAN0メッセージスロット2データ0 (C0MSL2DT0)	CAN0メッセージスロット2データ1 (C0MSL2DT1)	13-64 13-65
H'0080 1128	CAN0メッセージスロット2データ2 (C0MSL2DT2)	CAN0メッセージスロット2データ3 (C0MSL2DT3)	13-66 13-67
H'0080 112A	CAN0メッセージスロット2データ4 (C0MSL2DT4)	CAN0メッセージスロット2データ5 (C0MSL2DT5)	13-68 13-69
H'0080 112C	CAN0メッセージスロット2データ6 (C0MSL2DT6)	CAN0メッセージスロット2データ7 (C0MSL2DT7)	13-70 13-71
H'0080 112E	CAN0メッセージスロット2タイムスタンプ (C0MSL2TSP)		13-72
H'0080 1130	CAN0メッセージスロット3標準ID0 (C0MSL3SID0)	CAN0メッセージスロット3標準ID1 (C0MSL3SID1)	13-58 13-59
H'0080 1132	CAN0メッセージスロット3拡張ID0 (C0MSL3EID0)	CAN0メッセージスロット3拡張ID1 (C0MSL3EID1)	13-60 13-61
H'0080 1134	CAN0メッセージスロット3拡張ID2 (C0MSL3EID2)	CAN0メッセージスロット3データ長レジスタ (C0MSL3DLC)	13-62 13-63
H'0080 1136	CAN0メッセージスロット3データ0 (C0MSL3DT0)	CAN0メッセージスロット3データ1 (C0MSL3DT1)	13-64 13-65
H'0080 1138	CAN0メッセージスロット3データ2 (C0MSL3DT2)	CAN0メッセージスロット3データ3 (C0MSL3DT3)	13-66 13-67
H'0080 113A	CAN0メッセージスロット3データ4 (C0MSL3DT4)	CAN0メッセージスロット3データ5 (C0MSL3DT5)	13-68 13-69
H'0080 113C	CAN0メッセージスロット3データ6 (C0MSL3DT6)	CAN0メッセージスロット3データ7 (C0MSL3DT7)	13-70 13-71
H'0080 113E	CAN0メッセージスロット3タイムスタンプ (C0MSL3TSP)		13-72
H'0080 1140	CAN0メッセージスロット4標準ID0 (C0MSL4SID0)	CAN0メッセージスロット4標準ID1 (C0MSL4SID1)	13-58 13-59
H'0080 1142	CAN0メッセージスロット4拡張ID0 (C0MSL4EID0)	CAN0メッセージスロット4拡張ID1 (C0MSL4EID1)	13-60 13-61
H'0080 1144	CAN0メッセージスロット4拡張ID2 (C0MSL4EID2)	CAN0メッセージスロット4データ長レジスタ (C0MSL4DLC)	13-62 13-63
H'0080 1146	CAN0メッセージスロット4データ0 (C0MSL4DT0)	CAN0メッセージスロット4データ1 (C0MSL4DT1)	13-64 13-65
H'0080 1148	CAN0メッセージスロット4データ2 (C0MSL4DT2)	CAN0メッセージスロット4データ3 (C0MSL4DT3)	13-66 13-67
H'0080 114A	CAN0メッセージスロット4データ4 (C0MSL4DT4)	CAN0メッセージスロット4データ5 (C0MSL4DT5)	13-68 13-69
H'0080 114C	CAN0メッセージスロット4データ6 (C0MSL4DT6)	CAN0メッセージスロット4データ7 (C0MSL4DT7)	13-70 13-71
H'0080 114E	CAN0メッセージスロット4タイムスタンプ (C0MSL4TSP)		13-72
H'0080 1150	CAN0メッセージスロット5標準ID0 (C0MSL5SID0)	CAN0メッセージスロット5標準ID1 (C0MSL5SID1)	13-58 13-59
H'0080 1152	CAN0メッセージスロット5拡張ID0 (C0MSL5EID0)	CAN0メッセージスロット5拡張ID1 (C0MSL5EID1)	13-60 13-61
H'0080 1154	CAN0メッセージスロット5拡張ID2 (C0MSL5EID2)	CAN0メッセージスロット5データ長レジスタ (C0MSL5DLC)	13-62 13-63
H'0080 1156	CAN0メッセージスロット5データ0 (C0MSL5DT0)	CAN0メッセージスロット5データ1 (C0MSL5DT1)	13-64 13-65
H'0080 1158	CAN0メッセージスロット5データ2 (C0MSL5DT2)	CAN0メッセージスロット5データ3 (C0MSL5DT3)	13-66 13-67
H'0080 115A	CAN0メッセージスロット5データ4 (C0MSL5DT4)	CAN0メッセージスロット5データ5 (C0MSL5DT5)	13-68 13-69
H'0080 115C	CAN0メッセージスロット5データ6 (C0MSL5DT6)	CAN0メッセージスロット5データ7 (C0MSL5DT7)	13-70 13-71
H'0080 115E	CAN0メッセージスロット5タイムスタンプ (C0MSL5TSP)		13-72

SFR領域のレジスタマップ(15/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1160	CAN0メッセージスロット6標準ID0 (C0MSL6SID0)	CAN0メッセージスロット6標準ID1 (C0MSL6SID1)	13-58 13-59
H'0080 1162	CAN0メッセージスロット6拡張ID0 (C0MSL6EID0)	CAN0メッセージスロット6拡張ID1 (C0MSL6EID1)	13-60 13-61
H'0080 1164	CAN0メッセージスロット6拡張ID2 (C0MSL6EID2)	CAN0メッセージスロット6データ長レジスタ (C0MSL6DLC)	13-62 13-63
H'0080 1166	CAN0メッセージスロット6データ0 (C0MSL6DT0)	CAN0メッセージスロット6データ1 (C0MSL6DT1)	13-64 13-65
H'0080 1168	CAN0メッセージスロット6データ2 (C0MSL6DT2)	CAN0メッセージスロット6データ3 (C0MSL6DT3)	13-66 13-67
H'0080 116A	CAN0メッセージスロット6データ4 (C0MSL6DT4)	CAN0メッセージスロット6データ5 (C0MSL6DT5)	13-68 13-69
H'0080 116C	CAN0メッセージスロット6データ6 (C0MSL6DT6)	CAN0メッセージスロット6データ7 (C0MSL6DT7)	13-70 13-71
H'0080 116E	CAN0メッセージスロット6タイムスタンプ (C0MSL6TSP)		13-72
H'0080 1170	CAN0メッセージスロット7標準ID0 (C0MSL7SID0)	CAN0メッセージスロット7標準ID1 (C0MSL7SID1)	13-58 13-59
H'0080 1172	CAN0メッセージスロット7拡張ID0 (C0MSL7EID0)	CAN0メッセージスロット7拡張ID1 (C0MSL7EID1)	13-60 13-61
H'0080 1174	CAN0メッセージスロット7拡張ID2 (C0MSL7EID2)	CAN0メッセージスロット7データ長レジスタ (C0MSL7DLC)	13-62 13-63
H'0080 1176	CAN0メッセージスロット7データ0 (C0MSL7DT0)	CAN0メッセージスロット7データ1 (C0MSL7DT1)	13-64 13-65
H'0080 1178	CAN0メッセージスロット7データ2 (C0MSL7DT2)	CAN0メッセージスロット7データ3 (C0MSL7DT3)	13-66 13-67
H'0080 117A	CAN0メッセージスロット7データ4 (C0MSL7DT4)	CAN0メッセージスロット7データ5 (C0MSL7DT5)	13-68 13-69
H'0080 117C	CAN0メッセージスロット7データ6 (C0MSL7DT6)	CAN0メッセージスロット7データ7 (C0MSL7DT7)	13-70 13-71
H'0080 117E	CAN0メッセージスロット7タイムスタンプ (C0MSL7TSP)		13-72
H'0080 1180	CAN0メッセージスロット8標準ID0 (C0MSL8SID0)	CAN0メッセージスロット8標準ID1 (C0MSL8SID1)	13-58 13-59
H'0080 1182	CAN0メッセージスロット8拡張ID0 (C0MSL8EID0)	CAN0メッセージスロット8拡張ID1 (C0MSL8EID1)	13-60 13-61
H'0080 1184	CAN0メッセージスロット8拡張ID2 (C0MSL8EID2)	CAN0メッセージスロット8データ長レジスタ (C0MSL8DLC)	13-62 13-63
H'0080 1186	CAN0メッセージスロット8データ0 (C0MSL8DT0)	CAN0メッセージスロット8データ1 (C0MSL8DT1)	13-64 13-65
H'0080 1188	CAN0メッセージスロット8データ2 (C0MSL8DT2)	CAN0メッセージスロット8データ3 (C0MSL8DT3)	13-66 13-67
H'0080 118A	CAN0メッセージスロット8データ4 (C0MSL8DT4)	CAN0メッセージスロット8データ5 (C0MSL8DT5)	13-68 13-69
H'0080 118C	CAN0メッセージスロット8データ6 (C0MSL8DT6)	CAN0メッセージスロット8データ7 (C0MSL8DT7)	13-70 13-71
H'0080 118E	CAN0メッセージスロット8タイムスタンプ (C0MSL8TSP)		13-72
H'0080 1190	CAN0メッセージスロット9標準ID0 (C0MSL9SID0)	CAN0メッセージスロット9標準ID1 (C0MSL9SID1)	13-58 13-59
H'0080 1192	CAN0メッセージスロット9拡張ID0 (C0MSL9EID0)	CAN0メッセージスロット9拡張ID1 (C0MSL9EID1)	13-60 13-61
H'0080 1194	CAN0メッセージスロット9拡張ID2 (C0MSL9EID2)	CAN0メッセージスロット9データ長レジスタ (C0MSL9DLC)	13-62 13-63
H'0080 1196	CAN0メッセージスロット9データ0 (C0MSL9DT0)	CAN0メッセージスロット9データ1 (C0MSL9DT1)	13-64 13-65
H'0080 1198	CAN0メッセージスロット9データ2 (C0MSL9DT2)	CAN0メッセージスロット9データ3 (C0MSL9DT3)	13-66 13-67
H'0080 119A	CAN0メッセージスロット9データ4 (C0MSL9DT4)	CAN0メッセージスロット9データ5 (C0MSL9DT5)	13-68 13-69
H'0080 119C	CAN0メッセージスロット9データ6 (C0MSL9DT6)	CAN0メッセージスロット9データ7 (C0MSL9DT7)	13-70 13-71
H'0080 119E	CAN0メッセージスロット9タイムスタンプ (C0MSL9TSP)		13-72

SFR領域のレジスタマップ(16/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 11A0	CAN0メッセージスロット10標準ID0 (C0MSL10SID0)	CAN0メッセージスロット10標準ID1 (C0MSL10SID1)	13-58 13-59
H'0080 11A2	CAN0メッセージスロット10拡張ID0 (C0MSL10EID0)	CAN0メッセージスロット10拡張ID1 (C0MSL10EID1)	13-60 13-61
H'0080 11A4	CAN0メッセージスロット10拡張ID2 (C0MSL10EID2)	CAN0メッセージスロット10データ長レジスタ (C0MSL10DLC)	13-62 13-63
H'0080 11A6	CAN0メッセージスロット10データ0 (C0MSL10DT0)	CAN0メッセージスロット10データ1 (C0MSL10DT1)	13-64 13-65
H'0080 11A8	CAN0メッセージスロット10データ2 (C0MSL10DT2)	CAN0メッセージスロット10データ3 (C0MSL10DT3)	13-66 13-67
H'0080 11AA	CAN0メッセージスロット10データ4 (C0MSL10DT4)	CAN0メッセージスロット10データ5 (C0MSL10DT5)	13-68 13-69
H'0080 11AC	CAN0メッセージスロット10データ6 (C0MSL10DT6)	CAN0メッセージスロット10データ7 (C0MSL10DT7)	13-70 13-71
H'0080 11AE	CAN0メッセージスロット10タイムスタンプ (C0MSL10TSP)		13-72
H'0080 11B0	CAN0メッセージスロット11標準ID0 (C0MSL11SID0)	CAN0メッセージスロット11標準ID1 (C0MSL11SID1)	13-58 13-59
H'0080 11B2	CAN0メッセージスロット11拡張ID0 (C0MSL11EID0)	CAN0メッセージスロット11拡張ID1 (C0MSL11EID1)	13-60 13-61
H'0080 11B4	CAN0メッセージスロット11拡張ID2 (C0MSL11EID2)	CAN0メッセージスロット11データ長レジスタ (C0MSL11DLC)	13-62 13-63
H'0080 11B6	CAN0メッセージスロット11データ0 (C0MSL11DT0)	CAN0メッセージスロット11データ1 (C0MSL11DT1)	13-64 13-65
H'0080 11B8	CAN0メッセージスロット11データ2 (C0MSL11DT2)	CAN0メッセージスロット11データ3 (C0MSL11DT3)	13-66 13-67
H'0080 11BA	CAN0メッセージスロット11データ4 (C0MSL11DT4)	CAN0メッセージスロット11データ5 (C0MSL11DT5)	13-68 13-69
H'0080 11BC	CAN0メッセージスロット11データ6 (C0MSL11DT6)	CAN0メッセージスロット11データ7 (C0MSL11DT7)	13-70 13-71
H'0080 11BE	CAN0メッセージスロット11タイムスタンプ (C0MSL11TSP)		13-72
H'0080 11C0	CAN0メッセージスロット12標準ID0 (C0MSL12SID0)	CAN0メッセージスロット12標準ID1 (C0MSL12SID1)	13-58 13-59
H'0080 11C2	CAN0メッセージスロット12拡張ID0 (C0MSL12EID0)	CAN0メッセージスロット12拡張ID1 (C0MSL12EID1)	13-60 13-61
H'0080 11C4	CAN0メッセージスロット12拡張ID2 (C0MSL12EID2)	CAN0メッセージスロット12データ長レジスタ (C0MSL12DLC)	13-62 13-63
H'0080 11C6	CAN0メッセージスロット12データ0 (C0MSL12DT0)	CAN0メッセージスロット12データ1 (C0MSL12DT1)	13-64 13-65
H'0080 11C8	CAN0メッセージスロット12データ2 (C0MSL12DT2)	CAN0メッセージスロット12データ3 (C0MSL12DT3)	13-66 13-67
H'0080 11CA	CAN0メッセージスロット12データ4 (C0MSL12DT4)	CAN0メッセージスロット12データ5 (C0MSL12DT5)	13-68 13-69
H'0080 11CC	CAN0メッセージスロット12データ6 (C0MSL12DT6)	CAN0メッセージスロット12データ7 (C0MSL12DT7)	13-70 13-71
H'0080 11CE	CAN0メッセージスロット12タイムスタンプ (C0MSL12TSP)		13-72
H'0080 11D0	CAN0メッセージスロット13標準ID0 (C0MSL13SID0)	CAN0メッセージスロット13標準ID1 (C0MSL13SID1)	13-58 13-59
H'0080 11D2	CAN0メッセージスロット13拡張ID0 (C0MSL13EID0)	CAN0メッセージスロット13拡張ID1 (C0MSL13EID1)	13-60 13-61
H'0080 11D4	CAN0メッセージスロット13拡張ID2 (C0MSL13EID2)	CAN0メッセージスロット13データ長レジスタ (C0MSL13DLC)	13-62 13-63
H'0080 11D6	CAN0メッセージスロット13データ0 (C0MSL13DT0)	CAN0メッセージスロット13データ1 (C0MSL13DT1)	13-64 13-65
H'0080 11D8	CAN0メッセージスロット13データ2 (C0MSL13DT2)	CAN0メッセージスロット13データ3 (C0MSL13DT3)	13-66 13-67
H'0080 11DA	CAN0メッセージスロット13データ4 (C0MSL13DT4)	CAN0メッセージスロット13データ5 (C0MSL13DT5)	13-68 13-69
H'0080 11DC	CAN0メッセージスロット13データ6 (C0MSL13DT6)	CAN0メッセージスロット13データ7 (C0MSL13DT7)	13-70 13-71
H'0080 11DE	CAN0メッセージスロット13タイムスタンプ (C0MSL13TSP)		13-72

SFR領域のレジスタマップ(17/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 11E0	CAN0メッセージスロット14標準ID0 (C0MSL14SID0)	CAN0メッセージスロット14標準ID1 (C0MSL14SID1)	13-58 13-59
H'0080 11E2	CAN0メッセージスロット14拡張ID0 (C0MSL14EID0)	CAN0メッセージスロット14拡張ID1 (C0MSL14EID1)	13-60 13-61
H'0080 11E4	CAN0メッセージスロット14拡張ID2 (C0MSL14EID2)	CAN0メッセージスロット14データ長レジスタ (C0MSL14DLC)	13-62 13-63
H'0080 11E6	CAN0メッセージスロット14データ0 (C0MSL14DT0)	CAN0メッセージスロット14データ1 (C0MSL14DT1)	13-64 13-65
H'0080 11E8	CAN0メッセージスロット14データ2 (C0MSL14DT2)	CAN0メッセージスロット14データ3 (C0MSL14DT3)	13-66 13-67
H'0080 11EA	CAN0メッセージスロット14データ4 (C0MSL14DT4)	CAN0メッセージスロット14データ5 (C0MSL14DT5)	13-68 13-69
H'0080 11EC	CAN0メッセージスロット14データ6 (C0MSL14DT6)	CAN0メッセージスロット14データ7 (C0MSL14DT7)	13-70 13-71
H'0080 11EE	CAN0メッセージスロット14タイムスタンプ (C0MSL14TSP)		13-72
H'0080 11F0	CAN0メッセージスロット15標準ID0 (C0MSL15SID0)	CAN0メッセージスロット15標準ID1 (C0MSL15SID1)	13-58 13-59
H'0080 11F2	CAN0メッセージスロット15拡張ID0 (C0MSL15EID0)	CAN0メッセージスロット15拡張ID1 (C0MSL15EID1)	13-60 13-61
H'0080 11F4	CAN0メッセージスロット15拡張ID2 (C0MSL15EID2)	CAN0メッセージスロット15データ長レジスタ (C0MSL15DLC)	13-62 13-63
H'0080 11F6	CAN0メッセージスロット15データ0 (C0MSL15DT0)	CAN0メッセージスロット15データ1 (C0MSL15DT1)	13-64 13-65
H'0080 11F8	CAN0メッセージスロット15データ2 (C0MSL15DT2)	CAN0メッセージスロット15データ3 (C0MSL15DT3)	13-66 13-67
H'0080 11FA	CAN0メッセージスロット15データ4 (C0MSL15DT4)	CAN0メッセージスロット15データ5 (C0MSL15DT5)	13-68 13-69
H'0080 11FC	CAN0メッセージスロット15データ6 (C0MSL15DT6)	CAN0メッセージスロット15データ7 (C0MSL15DT7)	13-70 13-71
H'0080 11FE	CAN0メッセージスロット15タイムスタンプ (C0MSL15TSP)		13-72
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 1400	CAN1コントロールレジスタ (CAN1CNT)		13-15
H'0080 1402	CAN1ステータスレジスタ (CAN1STAT)		13-18
H'0080 1404	CAN1拡張IDレジスタ (CAN1EXTID)		13-21
H'0080 1406	CAN1コンフィグレーションレジスタ (CAN1CONF)		13-22
H'0080 1408	CAN1タイムスタンプカウントレジスタ (CAN1TSTMP)		13-24
H'0080 140A	CAN1受信エラーカウントレジスタ (CAN1REC)	CAN1送信エラーカウントレジスタ (CAN1TEC)	13-25
H'0080 140C	CAN1スロット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN1SLIST)		13-29
H'0080 140E	(使用禁止領域)		
H'0080 1410	CAN1スロット割り込み要求マスクレジスタ (CAN1SLIMK)		13-30
H'0080 1412	(使用禁止領域)		
H'0080 1414	CAN1エラー割り込み要求ステータスレジスタ (CAN1ERIST)	CAN1エラー割り込み要求マスクレジスタ (CAN1ERIMK)	13-31 13-32
H'0080 1416	CAN1ボーレートプリスケーラ (CAN1BRP)	CAN1エラー要因レジスタ (CAN1EF)	13-26 13-45
H'0080 1418	CAN1モードレジスタ (CAN1MOD)	CAN1DMA転送要求選択レジスタ (CAN1DMARQ)	13-47 13-48
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 1428	CAN1グローバルマスクレジスタ標準ID0 (C1GMSKS0)	CAN1グローバルマスクレジスタ標準ID1 (C1GMSKS1)	13-49
H'0080 142A	CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID0 (C1GMSKE0)	CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID1 (C1GMSKE1)	13-50
H'0080 142C	CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID2 (C1GMSKE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 142E	(使用禁止領域)		

SFR領域のレジスタマップ(18/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1430	CAN1ローカルマスクレジスタA標準ID0 (C1LMSKAS0)	CAN1ローカルマスクレジスタA標準ID1 (C1LMSKAS1)	13-49
H'0080 1432	CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID0 (C1LMSKAE0)	CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID1 (C1LMSKAE1)	13-50
H'0080 1434	CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID2 (C1LMSKAE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 1436	(使用禁止領域)		
H'0080 1438	CAN1ローカルマスクレジスタB標準ID0 (C1LMSKBS0)	CAN1ローカルマスクレジスタB標準ID1 (C1LMSKBS1)	13-49
H'0080 143A	CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID0 (C1LMSKBE0)	CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID1 (C1LMSKBE1)	13-50
H'0080 143C	CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID2 (C1LMSKBE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 143E	(使用禁止領域)		
H'0080 1440	CAN1シングルショットモード制御レジスタ (CAN1SSMODE)		13-53
H'0080 1442	(使用禁止領域)		
H'0080 1444	CAN1シングルショット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN1SSIST)		13-33
H'0080 1446	(使用禁止領域)		
H'0080 1448	CAN1シングルショット割り込み要求マスクレジスタ (CAN1SSIMK)		13-34
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 1450	CAN1メッセージスロット0コントロールレジスタ (C1MSL0CNT)	CAN1メッセージスロット1コントロールレジスタ (C1MSL1CNT)	13-54
H'0080 1452	CAN1メッセージスロット2コントロールレジスタ (C1MSL2CNT)	CAN1メッセージスロット3コントロールレジスタ (C1MSL3CNT)	13-54
H'0080 1454	CAN1メッセージスロット4コントロールレジスタ (C1MSL4CNT)	CAN1メッセージスロット5コントロールレジスタ (C1MSL5CNT)	13-54
H'0080 1456	CAN1メッセージスロット6コントロールレジスタ (C1MSL6CNT)	CAN1メッセージスロット7コントロールレジスタ (C1MSL7CNT)	13-54
H'0080 1458	CAN1メッセージスロット8コントロールレジスタ (C1MSL8CNT)	CAN1メッセージスロット9コントロールレジスタ (C1MSL9CNT)	13-54
H'0080 145A	CAN1メッセージスロット10コントロールレジスタ (C1MSL10CNT)	CAN1メッセージスロット11コントロールレジスタ (C1MSL11CNT)	13-54
H'0080 145C	CAN1メッセージスロット12コントロールレジスタ (C1MSL12CNT)	CAN1メッセージスロット13コントロールレジスタ (C1MSL13CNT)	13-54
H'0080 145E	CAN1メッセージスロット14コントロールレジスタ (C1MSL14CNT)	CAN1メッセージスロット15コントロールレジスタ (C1MSL15CNT)	13-54
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 1500	CAN1メッセージスロット0標準ID0 (C1MSL0SID0)	CAN1メッセージスロット0標準ID1 (C1MSL0SID1)	13-58 13-59
H'0080 1502	CAN1メッセージスロット0拡張ID0 (C1MSL0EID0)	CAN1メッセージスロット0拡張ID1 (C1MSL0EID1)	13-60 13-61
H'0080 1504	CAN1メッセージスロット0拡張ID2 (C1MSL0EID2)	CAN1メッセージスロット0データ長レジスタ (C1MSL0DLC)	13-62 13-63
H'0080 1506	CAN1メッセージスロット0データ0 (C1MSL0DT0)	CAN1メッセージスロット0データ1 (C1MSL0DT1)	13-64 13-65
H'0080 1508	CAN1メッセージスロット0データ2 (C1MSL0DT2)	CAN1メッセージスロット0データ3 (C1MSL0DT3)	13-66 13-67
H'0080 150A	CAN1メッセージスロット0データ4 (C1MSL0DT4)	CAN1メッセージスロット0データ5 (C1MSL0DT5)	13-68 13-69
H'0080 150C	CAN1メッセージスロット0データ6 (C1MSL0DT6)	CAN1メッセージスロット0データ7 (C1MSL0DT7)	13-70 13-71
H'0080 150E	CAN1メッセージスロット0タイムスタンプ (C1MSL0TSP)		13-72

SFR領域のレジスタマップ(19/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1510	CAN1メッセージスロット1標準ID0 (C1MSL1SID0)	CAN1メッセージスロット1標準ID1 (C1MSL1SID1)	13-58 13-59
H'0080 1512	CAN1メッセージスロット1拡張ID0 (C1MSL1EID0)	CAN1メッセージスロット1拡張ID1 (C1MSL1EID1)	13-60 13-61
H'0080 1514	CAN1メッセージスロット1拡張ID2 (C1MSL1EID2)	CAN1メッセージスロット1データ長レジスタ (C1MSL1DLC)	13-62 13-63
H'0080 1516	CAN1メッセージスロット1データ0 (C1MSL1DT0)	CAN1メッセージスロット1データ1 (C1MSL1DT1)	13-64 13-65
H'0080 1518	CAN1メッセージスロット1データ2 (C1MSL1DT2)	CAN1メッセージスロット1データ3 (C1MSL1DT3)	13-66 13-67
H'0080 151A	CAN1メッセージスロット1データ4 (C1MSL1DT4)	CAN1メッセージスロット1データ5 (C1MSL1DT5)	13-68 13-69
H'0080 151C	CAN1メッセージスロット1データ6 (C1MSL1DT6)	CAN1メッセージスロット1データ7 (C1MSL1DT7)	13-70 13-71
H'0080 151E	CAN1メッセージスロット1タイムスタンプ (C1MSL1TSP)		13-72
H'0080 1520	CAN1メッセージスロット2標準ID0 (C1MSL2SID0)	CAN1メッセージスロット2標準ID1 (C1MSL2SID1)	13-58 13-59
H'0080 1522	CAN1メッセージスロット2拡張ID0 (C1MSL2EID0)	CAN1メッセージスロット2拡張ID1 (C1MSL2EID1)	13-60 13-61
H'0080 1524	CAN1メッセージスロット2拡張ID2 (C1MSL2EID2)	CAN1メッセージスロット2データ長レジスタ (C1MSL2DLC)	13-62 13-63
H'0080 1526	CAN1メッセージスロット2データ0 (C1MSL2DT0)	CAN1メッセージスロット2データ1 (C1MSL2DT1)	13-64 13-65
H'0080 1528	CAN1メッセージスロット2データ2 (C1MSL2DT2)	CAN1メッセージスロット2データ3 (C1MSL2DT3)	13-66 13-67
H'0080 152A	CAN1メッセージスロット2データ4 (C1MSL2DT4)	CAN1メッセージスロット2データ5 (C1MSL2DT5)	13-68 13-69
H'0080 152C	CAN1メッセージスロット2データ6 (C1MSL2DT6)	CAN1メッセージスロット2データ7 (C1MSL2DT7)	13-70 13-71
H'0080 152E	CAN1メッセージスロット2タイムスタンプ (C1MSL2TSP)		13-72
H'0080 1530	CAN1メッセージスロット3標準ID0 (C1MSL3SID0)	CAN1メッセージスロット3標準ID1 (C1MSL3SID1)	13-58 13-59
H'0080 1532	CAN1メッセージスロット3拡張ID0 (C1MSL3EID0)	CAN1メッセージスロット3拡張ID1 (C1MSL3EID1)	13-60 13-61
H'0080 1534	CAN1メッセージスロット3拡張ID2 (C1MSL3EID2)	CAN1メッセージスロット3データ長レジスタ (C1MSL3DLC)	13-62 13-63
H'0080 1536	CAN1メッセージスロット3データ0 (C1MSL3DT0)	CAN1メッセージスロット3データ1 (C1MSL3DT1)	13-64 13-65
H'0080 1538	CAN1メッセージスロット3データ2 (C1MSL3DT2)	CAN1メッセージスロット3データ3 (C1MSL3DT3)	13-66 13-67
H'0080 153A	CAN1メッセージスロット3データ4 (C1MSL3DT4)	CAN1メッセージスロット3データ5 (C1MSL3DT5)	13-68 13-69
H'0080 153C	CAN1メッセージスロット3データ6 (C1MSL3DT6)	CAN1メッセージスロット3データ7 (C1MSL3DT7)	13-70 13-71
H'0080 153E	CAN1メッセージスロット3タイムスタンプ (C1MSL3TSP)		13-72
H'0080 1540	CAN1メッセージスロット4標準ID0 (C1MSL4SID0)	CAN1メッセージスロット4標準ID1 (C1MSL4SID1)	13-58 13-59
H'0080 1542	CAN1メッセージスロット4拡張ID0 (C1MSL4EID0)	CAN1メッセージスロット4拡張ID1 (C1MSL4EID1)	13-60 13-61
H'0080 1544	CAN1メッセージスロット4拡張ID2 (C1MSL4EID2)	CAN1メッセージスロット4データ長レジスタ (C1MSL4DLC)	13-62 13-63
H'0080 1546	CAN1メッセージスロット4データ0 (C1MSL4DT0)	CAN1メッセージスロット4データ1 (C1MSL4DT1)	13-64 13-65
H'0080 1548	CAN1メッセージスロット4データ2 (C1MSL4DT2)	CAN1メッセージスロット4データ3 (C1MSL4DT3)	13-66 13-67
H'0080 154A	CAN1メッセージスロット4データ4 (C1MSL4DT4)	CAN1メッセージスロット4データ5 (C1MSL4DT5)	13-68 13-69
H'0080 154C	CAN1メッセージスロット4データ6 (C1MSL4DT6)	CAN1メッセージスロット4データ7 (C1MSL4DT7)	13-70 13-71
H'0080 154E	CAN1メッセージスロット4タイムスタンプ (C1MSL4TSP)		13-72

SFR領域のレジスタマップ(20/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1550	CAN1メッセージスロット5標準ID0 (C1MSL5SID0)	CAN1メッセージスロット5標準ID1 (C1MSL5SID1)	13-58 13-59
H'0080 1552	CAN1メッセージスロット5拡張ID0 (C1MSL5EID0)	CAN1メッセージスロット5拡張ID1 (C1MSL5EID1)	13-60 13-61
H'0080 1554	CAN1メッセージスロット5拡張ID2 (C1MSL5EID2)	CAN1メッセージスロット5データ長レジスタ (C1MSL5DLC)	13-62 13-63
H'0080 1556	CAN1メッセージスロット5データ0 (C1MSL5DT0)	CAN1メッセージスロット5データ1 (C1MSL5DT1)	13-64 13-65
H'0080 1558	CAN1メッセージスロット5データ2 (C1MSL5DT2)	CAN1メッセージスロット5データ3 (C1MSL5DT3)	13-66 13-67
H'0080 155A	CAN1メッセージスロット5データ4 (C1MSL5DT4)	CAN1メッセージスロット5データ5 (C1MSL5DT5)	13-68 13-69
H'0080 155C	CAN1メッセージスロット5データ6 (C1MSL5DT6)	CAN1メッセージスロット5データ7 (C1MSL5DT7)	13-70 13-71
H'0080 155E	CAN1メッセージスロット5タイムスタンプ (C1MSL5TSP)		13-72
H'0080 1560	CAN1メッセージスロット6標準ID0 (C1MSL6SID0)	CAN1メッセージスロット6標準ID1 (C1MSL6SID1)	13-58 13-59
H'0080 1562	CAN1メッセージスロット6拡張ID0 (C1MSL6EID0)	CAN1メッセージスロット6拡張ID1 (C1MSL6EID1)	13-60 13-61
H'0080 1564	CAN1メッセージスロット6拡張ID2 (C1MSL6EID2)	CAN1メッセージスロット6データ長レジスタ (C1MSL6DLC)	13-62 13-63
H'0080 1566	CAN1メッセージスロット6データ0 (C1MSL6DT0)	CAN1メッセージスロット6データ1 (C1MSL6DT1)	13-64 13-65
H'0080 1568	CAN1メッセージスロット6データ2 (C1MSL6DT2)	CAN1メッセージスロット6データ3 (C1MSL6DT3)	13-66 13-67
H'0080 156A	CAN1メッセージスロット6データ4 (C1MSL6DT4)	CAN1メッセージスロット6データ5 (C1MSL6DT5)	13-68 13-69
H'0080 156C	CAN1メッセージスロット6データ6 (C1MSL6DT6)	CAN1メッセージスロット6データ7 (C1MSL6DT7)	13-70 13-71
H'0080 156E	CAN1メッセージスロット6タイムスタンプ (C1MSL6TSP)		13-72
H'0080 1570	CAN1メッセージスロット7標準ID0 (C1MSL7SID0)	CAN1メッセージスロット7標準ID1 (C1MSL7SID1)	13-58 13-59
H'0080 1572	CAN1メッセージスロット7拡張ID0 (C1MSL7EID0)	CAN1メッセージスロット7拡張ID1 (C1MSL7EID1)	13-60 13-61
H'0080 1574	CAN1メッセージスロット7拡張ID2 (C1MSL7EID2)	CAN1メッセージスロット7データ長レジスタ (C1MSL7DLC)	13-62 13-63
H'0080 1576	CAN1メッセージスロット7データ0 (C1MSL7DT0)	CAN1メッセージスロット7データ1 (C1MSL7DT1)	13-64 13-65
H'0080 1578	CAN1メッセージスロット7データ2 (C1MSL7DT2)	CAN1メッセージスロット7データ3 (C1MSL7DT3)	13-66 13-67
H'0080 157A	CAN1メッセージスロット7データ4 (C1MSL7DT4)	CAN1メッセージスロット7データ5 (C1MSL7DT5)	13-68 13-69
H'0080 157C	CAN1メッセージスロット7データ6 (C1MSL7DT6)	CAN1メッセージスロット7データ7 (C1MSL7DT7)	13-70 13-71
H'0080 157E	CAN1メッセージスロット7タイムスタンプ (C1MSL7TSP)		13-72
H'0080 1580	CAN1メッセージスロット8標準ID0 (C1MSL8SID0)	CAN1メッセージスロット8標準ID1 (C1MSL8SID1)	13-58 13-59
H'0080 1582	CAN1メッセージスロット8拡張ID0 (C1MSL8EID0)	CAN1メッセージスロット8拡張ID1 (C1MSL8EID1)	13-60 13-61
H'0080 1584	CAN1メッセージスロット8拡張ID2 (C1MSL8EID2)	CAN1メッセージスロット8データ長レジスタ (C1MSL8DLC)	13-62 13-63
H'0080 1586	CAN1メッセージスロット8データ0 (C1MSL8DT0)	CAN1メッセージスロット8データ1 (C1MSL8DT1)	13-64 13-65
H'0080 1588	CAN1メッセージスロット8データ2 (C1MSL8DT2)	CAN1メッセージスロット8データ3 (C1MSL8DT3)	13-66 13-67
H'0080 158A	CAN1メッセージスロット8データ4 (C1MSL8DT4)	CAN1メッセージスロット8データ5 (C1MSL8DT5)	13-68 13-69
H'0080 158C	CAN1メッセージスロット8データ6 (C1MSL8DT6)	CAN1メッセージスロット8データ7 (C1MSL8DT7)	13-70 13-71
H'0080 158E	CAN1メッセージスロット8タイムスタンプ (C1MSL8TSP)		13-72

SFR領域のレジスタマップ(21/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1590	CAN1メッセージスロット9標準ID0 (C1MSL9SID0)	CAN1メッセージスロット9標準ID1 (C1MSL9SID1)	13-58 13-59
H'0080 1592	CAN1メッセージスロット9拡張ID0 (C1MSL9EID0)	CAN1メッセージスロット9拡張ID1 (C1MSL9EID1)	13-60 13-61
H'0080 1594	CAN1メッセージスロット9拡張ID2 (C1MSL9EID2)	CAN1メッセージスロット9データ長レジスタ (C1MSL9DLC)	13-62 13-63
H'0080 1596	CAN1メッセージスロット9データ0 (C1MSL9DT0)	CAN1メッセージスロット9データ1 (C1MSL9DT1)	13-64 13-65
H'0080 1598	CAN1メッセージスロット9データ2 (C1MSL9DT2)	CAN1メッセージスロット9データ3 (C1MSL9DT3)	13-66 13-67
H'0080 159A	CAN1メッセージスロット9データ4 (C1MSL9DT4)	CAN1メッセージスロット9データ5 (C1MSL9DT5)	13-68 13-69
H'0080 159C	CAN1メッセージスロット9データ6 (C1MSL9DT6)	CAN1メッセージスロット9データ7 (C1MSL9DT7)	13-70 13-71
H'0080 159E	CAN1メッセージスロット9タイムスタンプ (C1MSL9TSP)		13-72
H'0080 15A0	CAN1メッセージスロット10標準ID0 (C1MSL10SID0)	CAN1メッセージスロット10標準ID1 (C1MSL10SID1)	13-58 13-59
H'0080 15A2	CAN1メッセージスロット10拡張ID0 (C1MSL10EID0)	CAN1メッセージスロット10拡張ID1 (C1MSL10EID1)	13-60 13-61
H'0080 15A4	CAN1メッセージスロット10拡張ID2 (C1MSL10EID2)	CAN1メッセージスロット10データ長レジスタ (C1MSL10DLC)	13-62 13-63
H'0080 15A6	CAN1メッセージスロット10データ0 (C1MSL10DT0)	CAN1メッセージスロット10データ1 (C1MSL10DT1)	13-64 13-65
H'0080 15A8	CAN1メッセージスロット10データ2 (C1MSL10DT2)	CAN1メッセージスロット10データ3 (C1MSL10DT3)	13-66 13-67
H'0080 15AA	CAN1メッセージスロット10データ4 (C1MSL10DT4)	CAN1メッセージスロット10データ5 (C1MSL10DT5)	13-68 13-69
H'0080 15AC	CAN1メッセージスロット10データ6 (C1MSL10DT6)	CAN1メッセージスロット10データ7 (C1MSL10DT7)	13-70 13-71
H'0080 15AE	CAN1メッセージスロット10タイムスタンプ (C1MSL10TSP)		13-72
H'0080 15B0	CAN1メッセージスロット11標準ID0 (C1MSL11SID0)	CAN1メッセージスロット11標準ID1 (C1MSL11SID1)	13-58 13-59
H'0080 15B2	CAN1メッセージスロット11拡張ID0 (C1MSL11EID0)	CAN1メッセージスロット11拡張ID1 (C1MSL11EID1)	13-60 13-61
H'0080 15B4	CAN1メッセージスロット11拡張ID2 (C1MSL11EID2)	CAN1メッセージスロット11データ長レジスタ (C1MSL11DLC)	13-62 13-63
H'0080 15B6	CAN1メッセージスロット11データ0 (C1MSL11DT0)	CAN1メッセージスロット11データ1 (C1MSL11DT1)	13-64 13-65
H'0080 15B8	CAN1メッセージスロット11データ2 (C1MSL11DT2)	CAN1メッセージスロット11データ3 (C1MSL11DT3)	13-66 13-67
H'0080 15BA	CAN1メッセージスロット11データ4 (C1MSL11DT4)	CAN1メッセージスロット11データ5 (C1MSL11DT5)	13-68 13-69
H'0080 15BC	CAN1メッセージスロット11データ6 (C1MSL11DT6)	CAN1メッセージスロット11データ7 (C1MSL11DT7)	13-70 13-71
H'0080 15BE	CAN1メッセージスロット11タイムスタンプ (C1MSL11TSP)		13-72
H'0080 15C0	CAN1メッセージスロット12標準ID0 (C1MSL12SID0)	CAN1メッセージスロット12標準ID1 (C1MSL12SID1)	13-58 13-59
H'0080 15C2	CAN1メッセージスロット12拡張ID0 (C1MSL12EID0)	CAN1メッセージスロット12拡張ID1 (C1MSL12EID1)	13-60 13-61
H'0080 15C4	CAN1メッセージスロット12拡張ID2 (C1MSL12EID2)	CAN1メッセージスロット12データ長レジスタ (C1MSL12DLC)	13-62 13-63
H'0080 15C6	CAN1メッセージスロット12データ0 (C1MSL12DT0)	CAN1メッセージスロット12データ1 (C1MSL12DT1)	13-64 13-65
H'0080 15C8	CAN1メッセージスロット12データ2 (C1MSL12DT2)	CAN1メッセージスロット12データ3 (C1MSL12DT3)	13-66 13-67
H'0080 15CA	CAN1メッセージスロット12データ4 (C1MSL12DT4)	CAN1メッセージスロット12データ5 (C1MSL12DT5)	13-68 13-69
H'0080 15CC	CAN1メッセージスロット12データ6 (C1MSL12DT6)	CAN1メッセージスロット12データ7 (C1MSL12DT7)	13-70 13-71
H'0080 15CE	CAN1メッセージスロット12タイムスタンプ (C1MSL12TSP)		13-72

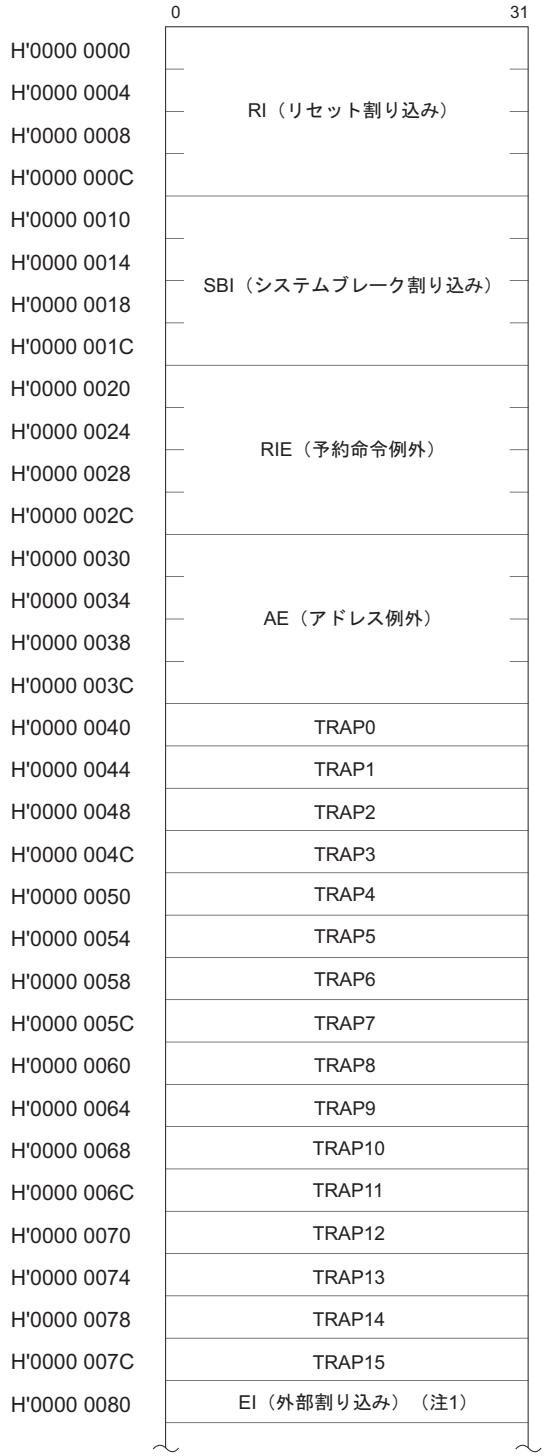
SFR領域のレジスタマップ(22/22)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 15D0	CAN1メッセージスロット13標準ID0 (C1MSL13SID0)	CAN1メッセージスロット13標準ID1 (C1MSL13SID1)	13-58 13-59
H'0080 15D2	CAN1メッセージスロット13拡張ID0 (C1MSL13EID0)	CAN1メッセージスロット13拡張ID1 (C1MSL13EID1)	13-60 13-61
H'0080 15D4	CAN1メッセージスロット13拡張ID2 (C1MSL13EID2)	CAN1メッセージスロット13データ長レジスタ (C1MSL13DLC)	13-62 13-63
H'0080 15D6	CAN1メッセージスロット13データ0 (C1MSL13DT0)	CAN1メッセージスロット13データ1 (C1MSL13DT1)	13-64 13-65
H'0080 15D8	CAN1メッセージスロット13データ2 (C1MSL13DT2)	CAN1メッセージスロット13データ3 (C1MSL13DT3)	13-66 13-67
H'0080 15DA	CAN1メッセージスロット13データ4 (C1MSL13DT4)	CAN1メッセージスロット13データ5 (C1MSL13DT5)	13-68 13-69
H'0080 15DC	CAN1メッセージスロット13データ6 (C1MSL13DT6)	CAN1メッセージスロット13データ7 (C1MSL13DT7)	13-70 13-71
H'0080 15DE	CAN1メッセージスロット13タイムスタンプ (C1MSL13TSP)		13-72
H'0080 15E0	CAN1メッセージスロット14標準ID0 (C1MSL14SID0)	CAN1メッセージスロット14標準ID1 (C1MSL14SID1)	13-58 13-59
H'0080 15E2	CAN1メッセージスロット14拡張ID0 (C1MSL14EID0)	CAN1メッセージスロット14拡張ID1 (C1MSL14EID1)	13-60 13-61
H'0080 15E4	CAN1メッセージスロット14拡張ID2 (C1MSL14EID2)	CAN1メッセージスロット14データ長レジスタ (C1MSL14DLC)	13-62 13-63
H'0080 15E6	CAN1メッセージスロット14データ0 (C1MSL14DT0)	CAN1メッセージスロット14データ1 (C1MSL14DT1)	13-64 13-65
H'0080 15E8	CAN1メッセージスロット14データ2 (C1MSL14DT2)	CAN1メッセージスロット14データ3 (C1MSL14DT3)	13-66 13-67
H'0080 15EA	CAN1メッセージスロット14データ4 (C1MSL14DT4)	CAN1メッセージスロット14データ5 (C1MSL14DT5)	13-68 13-69
H'0080 15EC	CAN1メッセージスロット14データ6 (C1MSL14DT6)	CAN1メッセージスロット14データ7 (C1MSL14DT7)	13-70 13-71
H'0080 15EE	CAN1メッセージスロット14タイムスタンプ (C1MSL14TSP)		13-72
H'0080 15F0	CAN1メッセージスロット15標準ID0 (C1MSL15SID0)	CAN1メッセージスロット15標準ID1 (C1MSL15SID1)	13-58 13-59
H'0080 15F2	CAN1メッセージスロット15拡張ID0 (C1MSL15EID0)	CAN1メッセージスロット15拡張ID1 (C1MSL15EID1)	13-60 13-61
H'0080 15F4	CAN1メッセージスロット15拡張ID2 (C1MSL15EID2)	CAN1メッセージスロット15データ長レジスタ (C1MSL15DLC)	13-62 13-63
H'0080 15F6	CAN1メッセージスロット15データ0 (C1MSL15DT0)	CAN1メッセージスロット15データ1 (C1MSL15DT1)	13-64 13-65
H'0080 15F8	CAN1メッセージスロット15データ2 (C1MSL15DT2)	CAN1メッセージスロット15データ3 (C1MSL15DT3)	13-66 13-67
H'0080 15FA	CAN1メッセージスロット15データ4 (C1MSL15DT4)	CAN1メッセージスロット15データ5 (C1MSL15DT5)	13-68 13-69
H'0080 15FC	CAN1メッセージスロット15データ6 (C1MSL15DT6)	CAN1メッセージスロット15データ7 (C1MSL15DT7)	13-70 13-71
H'0080 15FE	CAN1メッセージスロット15タイムスタンプ (C1MSL15TSP)		13-72
～	(使用禁止領域)		
H'0080 3FFE	(使用禁止領域)		

注1. H'0080 0600～H'0080 0603番地は、ダミーアクセス領域となります。
この領域へのアクセスは、書き込み値は無効、読み出し値不定となります。
また、ダミーアクセス領域への書き込み、読み出し動作による、他のSFR領域への影響はありません。

3.5　EITベクタエントリ

EITベクタエントリは、内蔵ROM領域/拡張領域の先頭に置かれ、各EIT事象の処理ハンドラ先頭アドレスへの分岐命令(分岐先アドレスではないことに注意)を、ここに配置します。詳細については、「第4章 EIT」を参照してください。



注1.　フラッシュエントリビット＝"1"(フラッシュE/Wイネーブルモード)の時のEIベクタエントリはH'0080 4000になります。

図3.5.1　EIT**ベクタエントリ**

3.6 ICUベクタテーブル

ICUベクタテーブルは、内蔵の割り込みコントローラで使用します。各内蔵周辺I/Oの割り込み要求に対応する割り込みハンドラの先頭アドレスを下記アドレスに設定します。詳細については、「第5章 割り込みコントローラ」を参照してください。

ICUベクタテーブルのメモリマップ(1/2)

番地	＋0番地 b0 … b7	＋1番地 b8 … b15
H'0000 0094	MJT入力割り込み4 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 0096	MJT入力割り込み4 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 0098	MJT入力割り込み3 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 009A	MJT入力割り込み3 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 009C	MJT入力割り込み2 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 009E	MJT入力割り込み2 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00A0	MJT入力割り込み1 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00A2	MJT入力割り込み1 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00A4		
H'0000 00A6		
H'0000 00A8	MJT出力割り込み7 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00AA	MJT出力割り込み7 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00AC	MJT出力割り込み6 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00AE	MJT出力割り込み6 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00B0	MJT出力割り込み5 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00B2	MJT出力割り込み5 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00B4	MJT出力割り込み4 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00B6	MJT出力割り込み4 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00B8	MJT出力割り込み3 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00BA	MJT出力割り込み3 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00BC	MJT出力割り込み2 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00BE	MJT出力割り込み2 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00C0	MJT出力割り込み1 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00C2	MJT出力割り込み1 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00C4	MJT出力割り込み0 ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00C6	MJT出力割り込み0 ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00C8	DMA0～4割り込み ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00CA	DMA0～4割り込み ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00CC	SIO1受信割り込み ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00CE	SIO1受信割り込み ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00D0	SIO1送信割り込み ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00D2	SIO1送信割り込み ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00D4	SIO0受信割り込み ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00D6	SIO0受信割り込み ハンドラ先頭番地(A16～A31)	

ICUベクタテーブルのメモリマップ(2/2)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15
H'0000 00D8	SIO0送信割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00DA	SIO0送信割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00DC	A/D0変換割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00DE	A/D0変換割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00E0		
H'0000 00E2		
H'0000 00E4		
H'0000 00E6		
H'0000 00E8	DMA5-9割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00EA	DMA5-9割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00EC	SIO2, 3送受信割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00EE	SIO2, 3送受信割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00F0	RTD割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 00F2	RTD割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 00F4		
H'0000 00F6		
H'0000 00F8		
H'0000 00FA		
H'0000 00FC		
H'0000 00FE		
H'0000 0100		
H'0000 0102		
H'0000 0104		
H'0000 0106		
H'0000 0108		
H'0000 010A		
H'0000 010C	CAN0送受信&エラー割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 010E	CAN0送受信&エラー割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	
H'0000 0110	CAN1送受信&エラー割り込み　ハンドラ先頭番地(A0～A15)	
H'0000 0112	CAN1送受信&エラー割り込み　ハンドラ先頭番地(A16～A31)	

3.7　アドレス空間の注意事項

• 疑似フラッシュエミュレーション機能

内蔵フラッシュメモリの領域を8Kバイトごとに区切った領域(Lバンク)に、内蔵RAMの8Kバイト単位のブロック(最大2ブロック)をマッピングする機能、および内蔵フラッシュメモリを4Kバイトごとに区切った領域(Sバンク)に、内蔵RAMの4Kバイト単位のブロック(最大2ブロック)をマッピングする機能があり、これを疑似フラッシュエミュレーション機能と呼びます。この機能については、「6.6 疑似フラッシュエミュレーション機能」を参照してください。

• ダミーアクセス領域

H'0080 0600～H'0080 0603番地は、ダミーアクセス領域となります。
この領域へのアクセスは、書き込み値は無効、読み出し値不定となります。
また、ダミーアクセス領域への書き込み、読み出し動作による、他のSFR領域への影響はありません。

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第4章

EIT

4.1　EITの概要
4.2　EIT事象
4.3　EITの処理手順
4.4　EITの処理機構
4.5　EIT事象の受付
4.6　PC、PSWの退避と復帰
4.7　EITベクタエントリ
4.8　例外（Exception）処理
4.9　割り込み（Interrupt）処理
4.10　トラップ（Trap）処理
4.11　EITの優先順位
4.12　EIT処理の例
4.13　EITの注意事項

4.1　EITの概要

CPUが通常のプログラムを実行している途中で、ある事象の発生によりそのプログラムの実行を中断し、別のプログラムを実行する必要が生じる場合があります。このような事象を総称して、EIT(Exception, Interrupt, Trap)事象と呼びます。

(1) 例外(Exception)

実行中のコンテキストに関係する事象であり、命令実行に伴うエラーや違反などによって発生します。アドレス例外(AE)と予約命令例外(RIE)が、これに該当します。

(2) 割り込み(Interrupt)

実行中のコンテキストとは無関係に発生する事象です。外部からのハードウェア的な信号によって発生します。外部割り込み(EI)とシステムブレーク割り込み(SBI)、およびリセット割り込み(RI)がこれに該当します。

(3) トラップ(Trap)

ソフトウェア割り込みのことで、TRAP命令の実行で発行されます。OSのシステムコールなどのようにプログラマがプログラム中で意識的に発生させるものです。

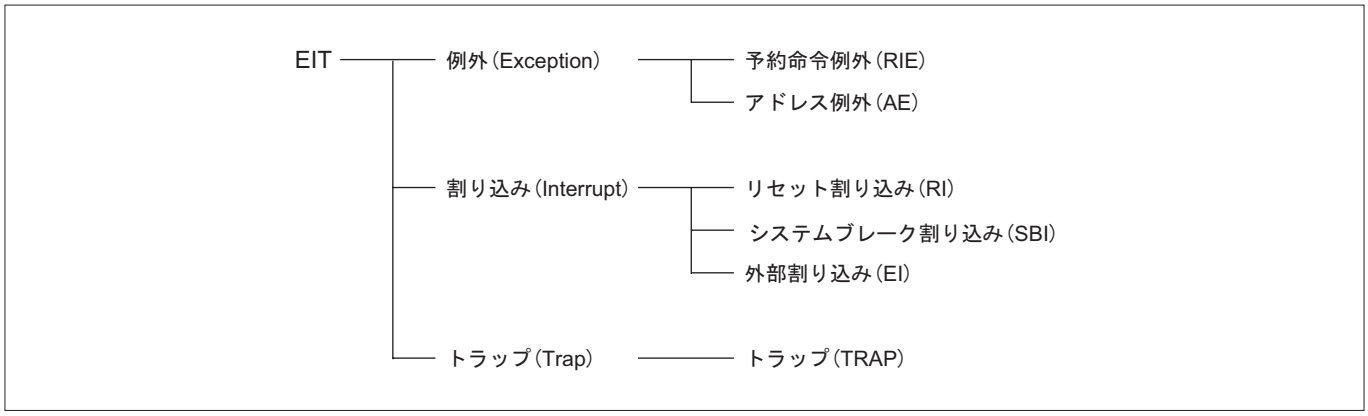


図4.1.1　EIT**の分類**

4.2 EIT事象

4.2.1 例外(Exception)

(1) 予約命令例外(RIE)

予約命令例外(RIE：Reserved Instruction Exception)は、予約命令(インプリメントされていない命令)の実行を検出した場合に発生します。

(2) アドレス例外(AE)

アドレス例外(AE：Address Exception)は、ロード命令やストア命令でアライメントのとれていないアドレスにアクセスしようとした場合に発生します。

4.2.2 割り込み(Interrupt)

(1) リセット割り込み(RI)

リセット割り込み(RI：Reset Interrupt)は、RESET#信号を入力することにより常に受け付けられます。リセット割り込みは最高位の優先度を持ちます。

(2) システムブレーク割り込み(SBI)

システムブレーク割り込み(SBI：System Brake Interrupt)は、電源断の検出時や外部ウォッチドックタイマからの異常検出時に使用される緊急用割り込みです。割り込み処理後、原則として割り込み発生時に実行していた元のプログラムに復帰しない場合にのみ使用できます。

(3) 外部割り込み(EI)

外部割り込み(EI：External Interrupt)は、割り込みコントローラで管理される各内蔵周辺I/Oからの割り込み要求です。内蔵の割り込みコントローラでは、割り込み禁止を含めて8レベルの優先順位で割り込み管理します。

4.2.3 トラップ(Trap)

トラップ(TRAP)とはソフトウェア割り込みのことで、「TRAP命令」の実行により発生します。TRAP命令のオペランド0～15に対応して、ベクタアドレスが16種類用意されています。

4.3 EITの処理手順

EIT処理には、ハードウェアが自動的に処理する部分とユーザが記述したプログラム(EITハンドラ)によって処理される部分があります。リセット割り込みを除くEIT受付時の処理手順を以下に示します。

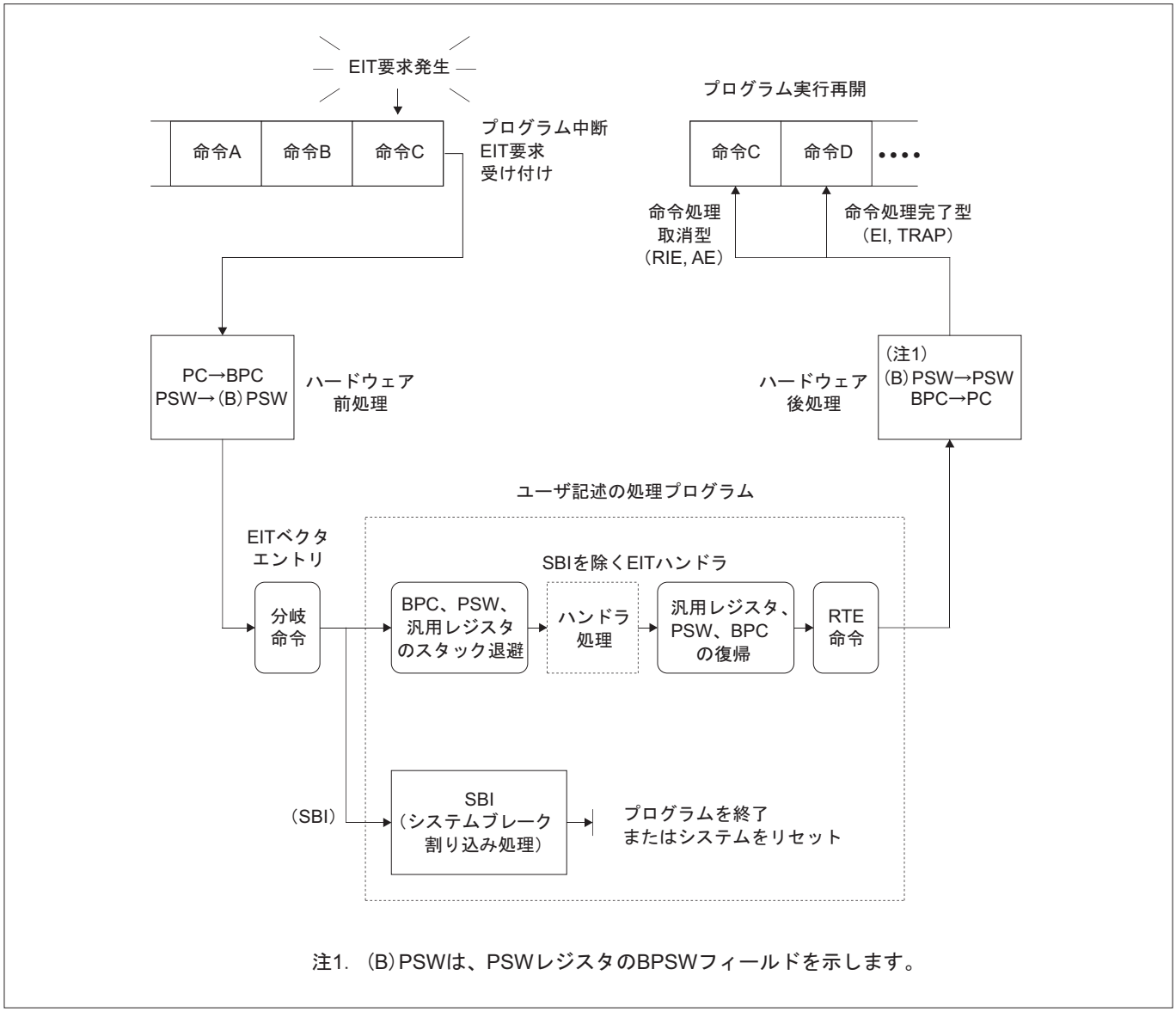


図4.3.1 EIT処理手順の概要

EITが受け付けられると、ハードウェア前処理(後述)を行った後、EITベクタに分岐します。EITベクタには各EITごとにエントリアドレスが割り当てられており、そこにEITハンドラへの「BRA命令(分岐命令)」を書きます(分岐先アドレスではないことに注意してください)。

ハードウェア前処理では、PC、PSWレジスタの内容を、バックアップレジスタ(BPCレジスタ、PSWレジスタのBPSWフィールド)へ移す作業のみ行います。

ユーザが記述するEITハンドラ中で、BPCレジスタとPSWレジスタ(BPSWフィールドを含む)、およびEITハンドラ内で使用する汎用レジスタをスタックに退避してください。また、必要に応じてアキュムレータを退避してください。これらのレジスタのスタックへの退避は、ユーザがプログラムで行うことに注意してください。

EITハンドラ処理完了後は、スタックに退避したレジスタを復帰して、最後に「RTE命令」を実行することで、EIT処理から元のプログラムに復帰します(ただしシステムブレーク割り込みは除きます)。

ハードウェア後処理では、バックアップレジスタ(BPCレジスタ、PSWレジスタのBPSWフィールド)の内容を、PC、PSWレジスタへ戻します。なお、「RTE命令」実行後のBPC、PSWレジスタのBPSWフィールドの値は不定です。

4.4　EITの処理機構

EIT処理機構は、M32R CPUコア部と内蔵周辺I/Oの割り込みコントローラで構成されます。また、PC、PSWのバックアップ用のレジスタ(BPCレジスタ、PSWのBPSWフィールド)を備えています。内部EIT処理機構を以下に示します。

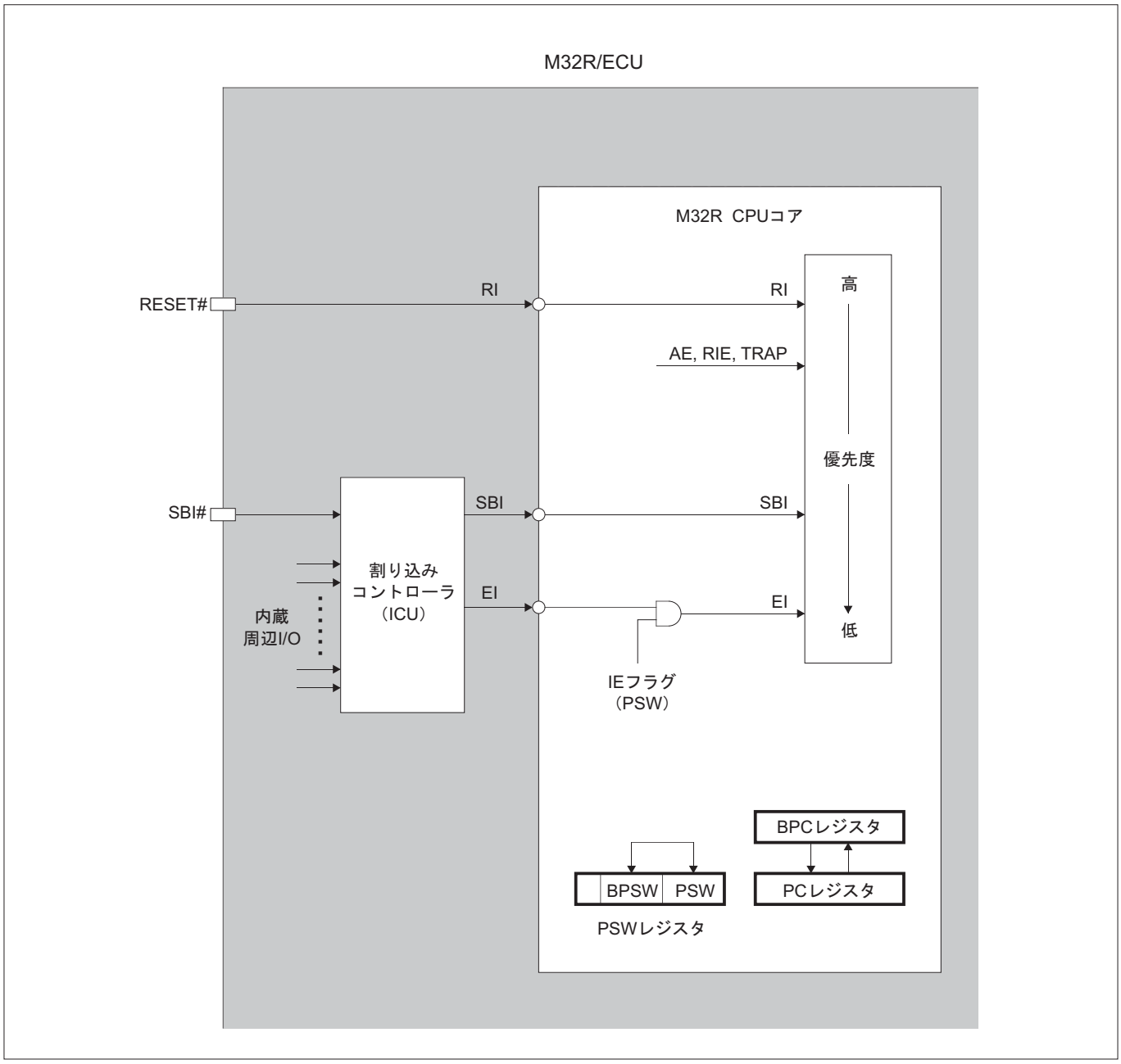


図4.4.1　EIT**処理機構**

4.5 EIT事象の受付

EIT事象が発生すると、それまで実行していたプログラムを中断して、EITのハンドラ処理に分岐します。各EIT事象の発生条件と受付タイミングを以下に示します。

表4.5.1 EIT事象の受付

EIT事象	処理型	受付タイミング	BPCレジスタにセットされる値
予約命令例外(RIE)	命令処理取消型	命令実行中	RIEを発生した命令のPC値
アドレス例外(AE)	命令処理取消型	命令実行中	AEを発生した命令のPC値
リセット割り込み(RI)	命令処理放棄型	各マシンサイクル	不定値
システムブレーク割り込み(SBI)	命令処理完了型	命令の区切り(ワード境界のみ)	次命令のPC値
外部割り込み(EI)	命令処理完了型	命令の区切り(ワード境界のみ)	次命令のPC値
トラップ(TRAP)	命令処理完了型	命令の区切り	TRAP命令のPC値+4

4.6 PC、PSWの退避と復帰

EIT受付時と「RTE命令」実行時の動作を以下に示します。

(1) EIT受付時のハードウェア前処理

[1] PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットの退避

BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

[2] PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットの更新

SM ← 不変(RIE, AE, TRAP)、
または0をセット(SBI, EI, RI)
IE ← 0にクリア
C ← 0にクリア

[3] PCレジスタの退避

BPC ← PC

[4] ベクタアドレスをPCレジスタにセット

EITベクタに分岐し、さらにそこに書かれている分岐命令(BRA命令)を実行することで、ユーザが記述したEITハンドラ処理を移します。

(2)「RTE命令」実行時のハードウェア後処理

[A] PSWレジスタ中のBSM、BIE、BCビットの復帰

SM ← BSM
IE ← BIE
C ← BC

[B] BPCレジスタの値をPCレジスタに復帰

PC ← BPC

注．・「RTE命令」実行後のBPC、PSWレジスタのBSM、BIE、BCビットの値は不定です。

[1] SM、IE、Cビットの退避
BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

[2] SM、IE、Cビットの更新
SM ← 不変/0
IE ← 0
C ← 0

[3] PCの退避
BPC ← PC

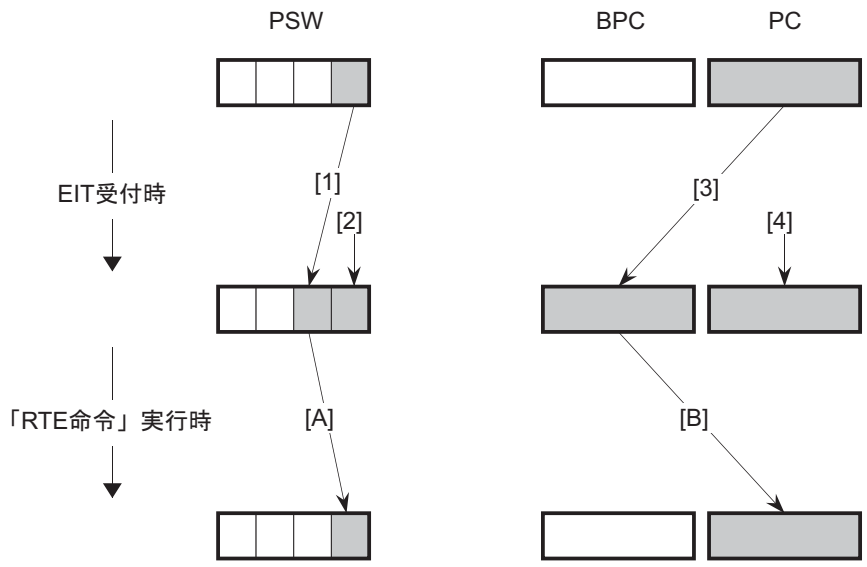
[4] PCにベクタアドレスをセット
PC ← ベクタアドレス

[A] BSM、BIE、BCビットの復帰
SM ← BSM
IE ← BIE
C ← BC

「RTE命令」実行後のBSM、BIE、BCビットの値は不定になります。

[B] BPCの値をPCに復帰

「RTE命令」実行後のBPCの値は不定になります。



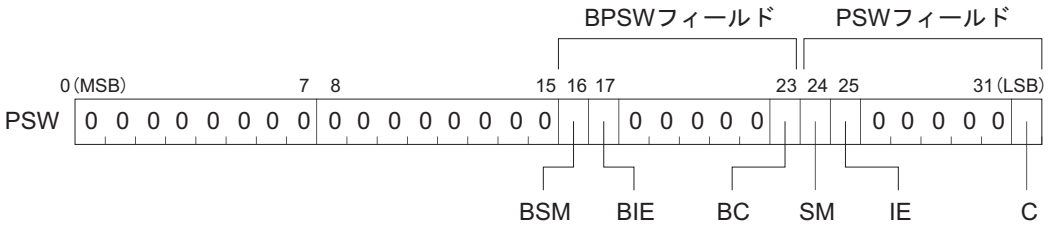


図4.6.1　PC、PSW**の退避と復帰**

4.7　EITベクタエントリ

EITベクタエントリはユーザ空間のH'0000 0000番地から置かれています。以下にEITベクタエントリの一覧を示します。

表4.7.1　EITベクタエントリ

名称	略号	ベクタアドレス	SM	IE	BPC
リセット割り込み	RI	H'0000 0000(注1)	0	0	不定
システムブレーク割り込み	SBI	H'0000 0010	0	0	次命令のPC
予約命令例外	RIE	H'0000 0020	不変	0	発生命令のPC
アドレス例外	AE	H'0000 0030	不変	0	発生命令のPC
トラップ	TRAP0	H'0000 0040	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP1	H'0000 0044	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP2	H'0000 0048	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP3	H'0000 004C	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP4	H'0000 0050	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP5	H'0000 0054	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP6	H'0000 0058	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP7	H'0000 005C	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP8	H'0000 0060	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP9	H'0000 0064	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP10	H'0000 0068	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP11	H'0000 006C	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP12	H'0000 0070	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP13	H'0000 0074	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP14	H'0000 0078	不変	0	TRAP命令のPC＋4
	TRAP15	H'0000 007C	不変	0	TRAP命令のPC＋4
外部割り込み	EI	H'0000 0080(注2)	0	0	次命令のPC

注1．ブートモード時は、リセット解除後にブートプログラムの実行を開始します。詳細については、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください。

注2．フラッシュE/Wイネーブルモード時は、内蔵RAMの先頭(H'0080 4000番地)へ移動します。詳細については、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください。

4.8 例外(Exception)処理

4.8.1 予約命令例外(RIE)

[発生条件]

予約命令例外(RIE：Reserved Instruction Exception)は、予約命令(インプリメントされていない命令)を検出した場合に発生します。命令のチェックは命令のオペコード部に対して行われます。

予約命令例外が発生した場合には、その命令は実行されません。予約命令例外が検出されたときに外部割り込み要求があっても、予約命令例外が受け付けられます。

[EIT処理]

(1) SM、IE、Cビットの退避

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを、BSM、BIE、BCビットに退避します。

BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

(2) SM、IE、Cビットの更新

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを次のように更新します。

SM ← 変化しない
IE ← 0
C ← 0

(3) PCの退避

予約命令例外を起こした命令のPC値がBPCレジスタにセットされます。たとえば、予約命令例外を起こした命令が4番地ならBPCレジスタには4がセットされ、6番地ならBPCに6がセットされます。この場合、BPCレジスタのビット30の値は、予約命令例外を起こした命令がワード境界上にあるか(BPCのb30＝0)、ワード境界上にないか(BPCのb30＝1)を示します。

ただしEITハンドラ終了後の「RTE命令」の戻り先は、先のケースでどちらの場合も4番地になります(PCへの復帰の際に下位2ビットが"00"にクリアされるため)。

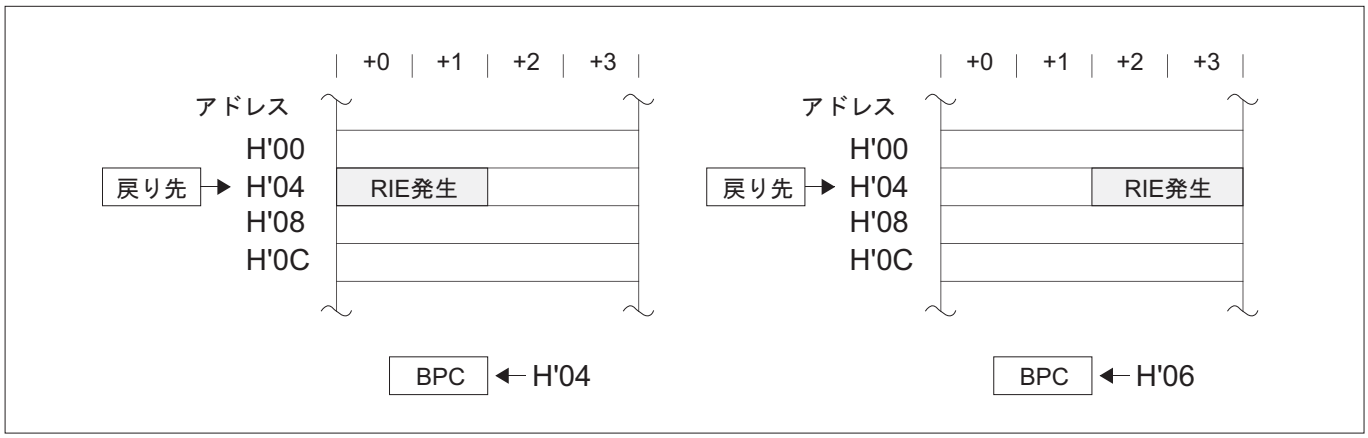


図4.8.1 予約命令例外(RIE)の戻り先の例

(4) EITベクタエントリへの分岐

ユーザ空間内のアドレスH'0000 0020番地へ分岐します。ハードウェア前処理はここまでです。

(5) EITベクタエントリからユーザ記述ハンドラへの分岐

EITベクタエントリのH'0000 0020番地にユーザが書いた「BRA命令」を実行して、ユーザが記述したハンドラの先頭番地へ分岐します。ユーザ記述のEITハンドラの先頭では、まずBPCとPSW、および必要な汎用レジスタをスタックに退避してください。また、必要に応じてアキュムレータをスタックに退避してください。

(6) EITハンドラからの復帰

EITハンドラの終わりでは、スタックから退避した各レジスタを復帰して、「RTE命令」を実行した場合、ハードウェア後処理が自動的に行われます。このとき、RIE発生の命令を含むワード境界の命令から再開します(図4.8.1参照)。意図的に予約命令例外を使用している場合を除き、予約命令例外が発生した場合、その時点ですでにシステムに何らかの致命的な障害が発生したことを意味します。この場合、予約命令例外ハンドラから再び元のプログラムに復帰させないでください。

4.8.2 アドレス例外(AE)

[発生条件]

アドレス例外(AE：Address Exception)は、ロード命令やストア命令でアライメントのとれていないアドレスにアクセスしようとした場合に発生します。
アドレス例外が起動される命令と、アドレスの組み合わせは次のとおりです。

- **LDH命令、LDUH命令、STH命令でアドレス下位2ビットが "01"、"11" の場合**
- **LD命令、ST命令、LOCK命令、UNLOCK命令でアドレス下位2ビットが"01"、"10"、"11" の場合**

アドレス例外が発生した場合、その命令によるメモリアクセスは行われません。アドレス例外が検出されたときに外部割り込み要求があってもアドレス例外が受け付けられます。

[EIT処理]

(1) SM、IE、Cビットの退避

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを、BSM、BIE、BCビットに退避します。

BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

(2) SM、IE、Cビットの更新

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを次のように更新します。

SM ← 変化しない
IE ← 0
C ← 0

(3) PCの退避

アドレス例外を起こした命令のPC値がBPCレジスタにセットされます。たとえば、アドレス例外を起こした命令が4番地ならBPCレジスタには4がセットされ、6番地ならBPCに6がセットされます。この場合、BPCレジスタのビット30の値は、アドレス例外を起こした命令がワード境界上にあるか(BPCのb30＝0)、ワード境界上にないか(BPCのb30＝1)を示します。
ただしEITハンドラ終了後の「RTE命令」の戻り先は、先のケースでどちらの場合も4番地になります(PCへの復帰の際に下位2ビットが"00"にクリアされるため)。

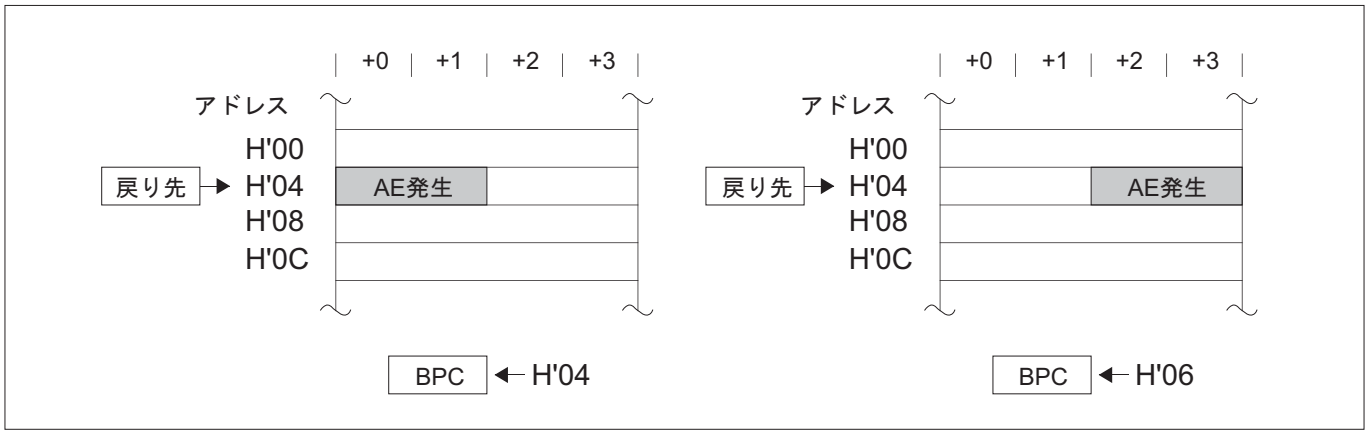


図4.8.2 アドレス例外(AE)の戻り先の例

(4) EITベクタエントリへの分岐

ユーザ空間内のアドレスH'0000 0030番地へ分岐します。ハードウェア前処理はここまでです。

(5) EITベクタエントリからユーザ記述ハンドラへの分岐

EITベクタエントリのH'0000 0030番地にユーザが書いた「BRA命令」を実行して、ユーザが記述したハンドラの先頭番地へ分岐します。ユーザ記述のEITハンドラの先頭では、まずBPCとPSW、および必要な汎用レジスタをスタックに退避してください。また、必要に応じてアキュムレータを退避してください。

(6) EITハンドラからの復帰

EITハンドラの終わりで、スタックから退避した各レジスタを復帰して、「RTE命令」を実行した場合、ハードウェア後処理が自動的に行われます。このとき、AE発生の命令を含むワード境界の命令から再開します(図4.8.2参照)。意図的にアドレス例外を使用している場合を除き、アドレス例外が発生した場合、その時点ですでにシステムに何らかの致命的な障害が発生したことを意味します。この場合、アドレス例外ハンドラから再び元のプログラムに復帰させないでください。

4.9 割り込み(Interrupt)処理

4.9.1 リセット割り込み(RI)

[発生条件]

RESET#端子に"L"レベル信号を入力すると、マシンサイクルごとにリセット割り込みが受け付けられます。リセット割り込みはEITの中で常に最高位の優先度を持ちます。

[EIT処理]

(1) SM、IE、Cビットの初期化

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを次のように初期化します。

SM ← 0
IE ← 0
C ← 0

リセット割り込みの場合、BSM、BIE、BCビットの値は不定となります。

(2) EITベクタエントリへの分岐

ユーザ空間内のアドレスH'0000 0000番地へ分岐します。ただし、ブートモード時は、ブートプログラムへ分岐します(詳細については、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください)。

(3) EITベクタエントリからユーザプログラムへの分岐

EITベクタエントリのH'0000 0000番地にユーザが書いた命令を実行します。リセットベクタエントリでは、PSWとSPIレジスタの初期化を行った後、ユーザが記述したプログラムの先頭番地へ分岐してください。

4.9.2 システムブレーク割り込み(SBI)

システムブレーク割り込み(SBI)は、電源断の検出時や外部ウォッチドックタイマからの異常検出時に使用する緊急用割り込みです。システムブレーク割り込みはPSWレジスタ中のIEビットによるマスクはありません。

したがってシステムブレーク割り込みは、割り込みを検出した時点ですでにシステムに何らかの致命的な事象が発生した場合にのみ使用します。SBIハンドラ処理後も、SBI発生時に実行していた元のプログラムに復帰しない条件でご使用ください。

[発生条件]

SBI#端子への立ち下がりエッジの入力でシステムブレーク割り込みが受け付けられます(システムブレーク割り込みはPSWレジスタ中のIEビットによるマスクはありません)。

ワード境界から始まる16ビット命令の実行直後に、システムブレーク割り込みが起動されることはありません(ただし16ビット分岐命令の場合は、分岐の直後に受け付けられます)。

また、命令処理完了型のため、命令の完了後にシステムブレーク割り込みが受け付けられます。

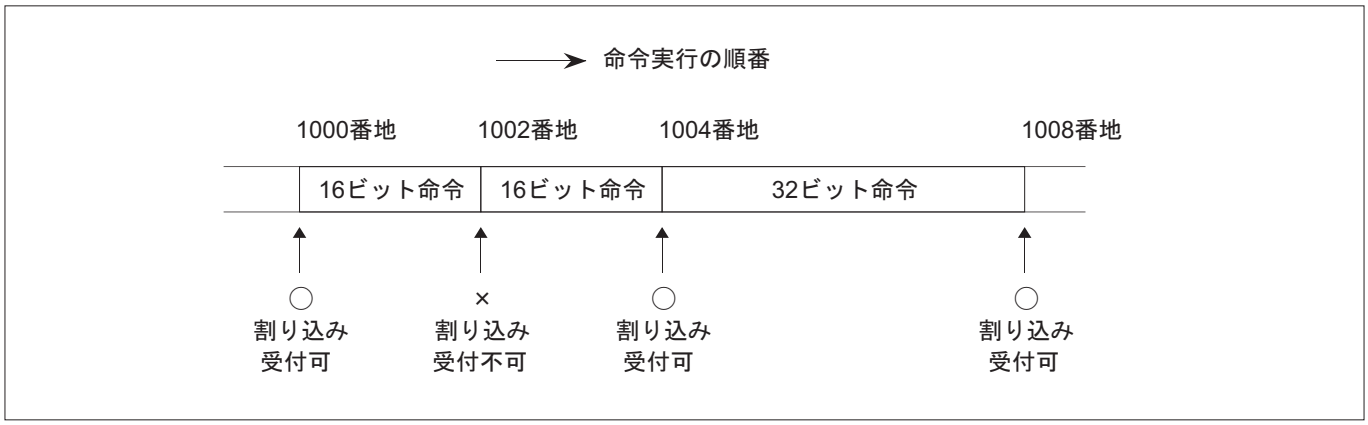


図4.9.1 システムブレーク割り込み(SBI)受付タイミング

[EIT処理]

(1) SM、IE、Cビットの退避

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを、BSM、BIE、BCビットに退避します。

BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

(2) SM、IE、Cビットの更新

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを次のように更新します。

SM ← 0
IE ← 0
C ← 0

(3) PCの退避

PCレジスタの内容(常にワード境界)を、BPCレジスタに退避します。
割り込み判定前が分岐命令の場合、次命令は分岐先の命令になります。

(4) EITベクタエントリへの分岐

ユーザ空間内のアドレスH'0000 0010番地へ分岐します。ハードウェア前処理はここまでです。

(5) EITベクタエントリからユーザ記述ハンドラへの分岐

EITベクタエントリのH'0000 0010番地にユーザが書いた「BRA命令」を実行して、ユーザが記述したハンドラの先頭番地へ分岐します。

システムブレーク割り込みは、システムに何らかの致命的な事象が発生した場合にのみ使用します。SBIハンドラ処理後も、SBI発生時に実行していた元のプログラムに復帰しない条件でご使用ください。

4.9.3 外部割り込み(EI)

外部割り込みは、内蔵の割り込みコントローラから出力された割り込み要求に基づいて発生します。割り込みコントローラでは7レベルの優先順位を設けて、割り込み要求の管理を行っています。割り込みコントローラの詳細については「第5章 割り込みコントローラ」を、割り込み要因については内蔵周辺I/Oの各章を参照してください。

[発生条件]

外部割り込みは、各内蔵周辺I/Oからの割り込み要求に基づいて内蔵割り込みコントローラが管理を行い、それをCPUに伝えます。CPUは、ワード境界にある命令の切れ目でこの要求をチェックし、割り込み要求があり、かつPSW中のIEフラグが1のときに外部割り込みを受け付けます。

ワード境界から始まる16ビット命令実行直後に、外部割り込みが起動されることはありません(ただし16ビット分岐命令の場合は、分岐の直後に受け付けられます)。

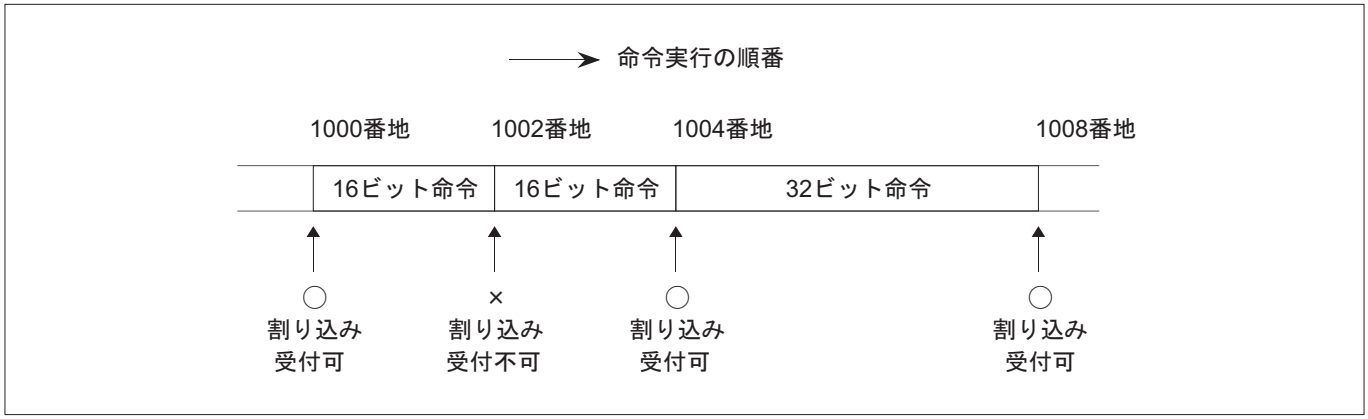


図4.9.2 外部割り込み(EI)受付タイミング

[EIT処理]

(1) SM、IE、Cビットの退避

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを、BSM、BIE、BCビットに退避します。

BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

(2) SM、IE、Cビットの更新

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを次のように更新します。

SM ← 0
IE ← 0
C ← 0

(3) PCの退避

PCレジスタの内容(常にワード境界)をBPCレジスタに退避します。

(4) EITベクタエントリへの分岐

ユーザ空間内のアドレスH'0000 0080番地へ分岐します。ただし、フラッシュE/Wイネーブルモード時は、内蔵RAMの先頭(H'0080 4000番地)へ移動します(詳細については、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください)。ハードウェア前処理はここまでです。

(5) EITベクタエントリからユーザ記述ハンドラへの分岐

EITベクタエントリのH'0000 0080番地にユーザが書いた「BRA命令」を実行して、ユーザが記述したハンドラの先頭番地へ分岐します。ユーザ記述のEITハンドラの先頭では、まずBPCとPSW、および必要な汎用レジスタをスタックに退避する操作を行ってください。また、必要に応じてアキュムレータを退避してください。

(6) EITハンドラからの復帰

EITハンドラの終わりでは、スタックから退避した各レジスタを復帰して、「RTE命令」を実行してください。「RTE命令」の実行でハードウェア後処理が自動的に行われます。

4.10 トラップ(Trap)処理

4.10.1 トラップ(TRAP)

[発生条件]

トラップとはソフトウェア割り込みのことで、「TRAP命令」の実行により発生します。「TRAP命令」のオペランド0～15に対応して16種類のトラップが発生します。これに対応して、ベクタエントリは16エントリ用意されています。

[EIT処理]

(1) SM、IE、Cビットの退避

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを、BSM、BIE、BCビットに退避します。

BSM ← SM
BIE ← IE
BC ← C

(2) SM、IE、Cビットの更新

PSWレジスタ中のSM、IE、Cビットを次のように更新します。

SM ← 変化しない
IE ← 0
C ← 0

(3) PCの退避

トラップ命令を実行すると、(TRAP命令のPC値＋4)の値がBPCレジスタにセットされます。例えば、4番地に「TRAP命令」が置かれた場合は、BPCレジスタにH'08がセットされます。同様に6番地に置かれた場合は、BPCレジスタにはH'0Aがセットされます。BPCレジスタのビット30の値は、トラップ命令がワード境界上にあるか(BPCのb30＝0)、ワード境界上にないか(BPCのb30＝1)を示します。

ただしEITハンドラ終了後の「RTE命令」の戻り先は、先のケースでどちらの場合も8番地になります(PCへの復帰の際に下位2ビットが"00"にクリアされるため)。

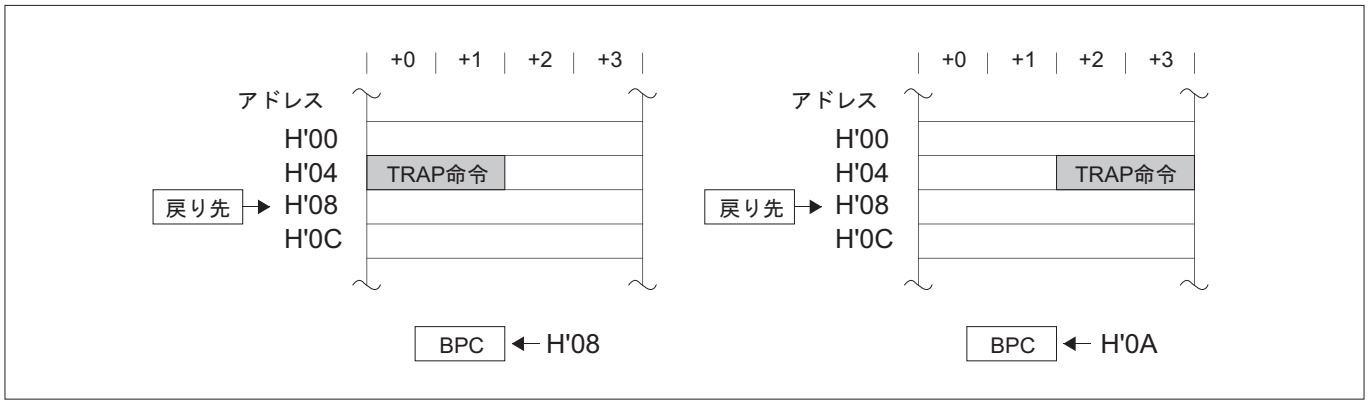


図4.10.1 トラップ(TRAP)の戻り先の例

(4) EITベクタエントリへの分岐

ユーザ空間内のアドレスH'0000 0040～H'0000 007C番地へ分岐します。ハードウェア前処理はここまでです。

(5) EITベクタエントリからユーザ記述ハンドラへの分岐

EITベクタエントリのH'0000 0040～H'0000 007C番地にユーザが書いた「BRA命令」を実行して、ユーザが記述したハンドラの先頭番地へ分岐します。ユーザ記述のEITハンドラの先頭では、まずBPCとPSW、および必要な汎用レジスタをスタックに退避してください。また、必要に応じてアキュムレータを退避してください。

(6) EITハンドラからの復帰

EITハンドラの終わりでは、スタックから退避した各レジスタを復帰して、「RTE命令」を実行してください。「RTE命令」の実行でハードウェア後処理が自動的に行われます。

4.11　EITの優先順位

EIT事象の優先順位は次のとおりです。複数のEITが同時に発生した場合は、より優先度の高い事象が先に受け付けられます。

表4.11.1　EIT事象の優先度と復帰形態

優先度	EIT事象	処理型	BPCレジスタにセットされる値
1(最優先)	リセット割り込み(RI)	命令処理放棄型	不定
2	アドレス例外(AE)	命令処理取消型	発生した命令のPC
	予約命令例外(RIE)	命令処理取消型	発生した命令のPC
	トラップ(TRAP)	命令処理完了型	TRAP命令＋4
3	システムブレーク割り込み(SBI)	命令処理完了型	次命令のPC
4	外部割り込み(EI)	命令処理完了型	次命令のPC

なお、外部割り込み(EI)における周辺I/Oからの各割り込み要求の優先順位設定は、内蔵の割り込みコントローラで行います。詳細については、「第5章 割り込みコントローラ」を参照してください。

4.12　EIT処理の例

（1）RIE、AE、SBI、EI、TRAPが単独で発生した場合

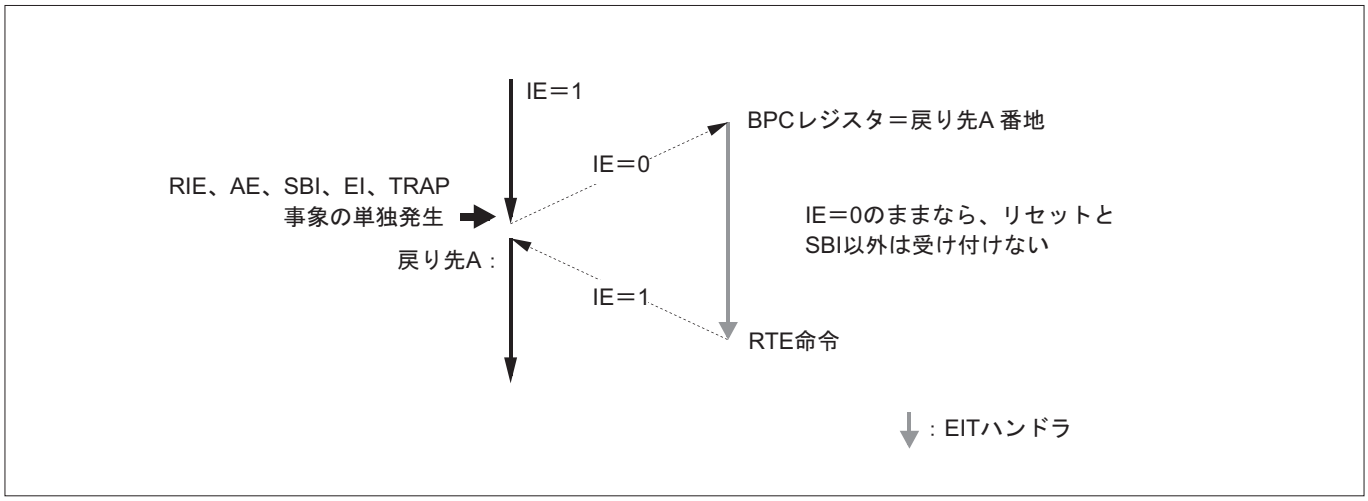


図4.12.1　RIE、AE、SBI、EI、TRAP各事象の処理

（2）RIE、AE、TRAPのいずれかとEIが同時に発生した場合

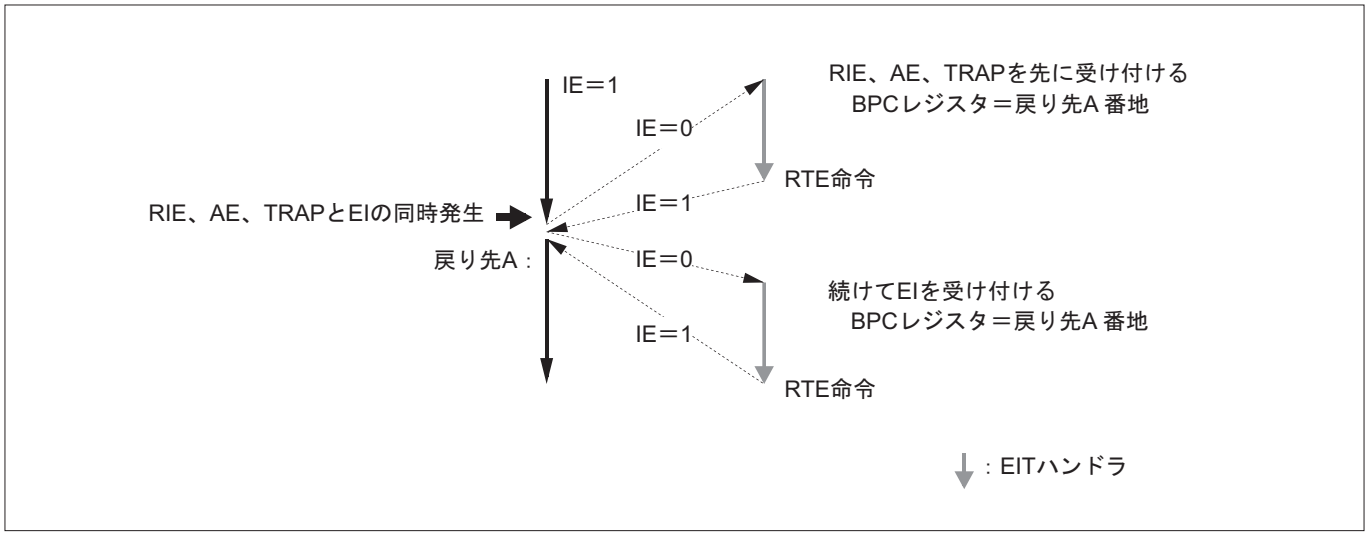
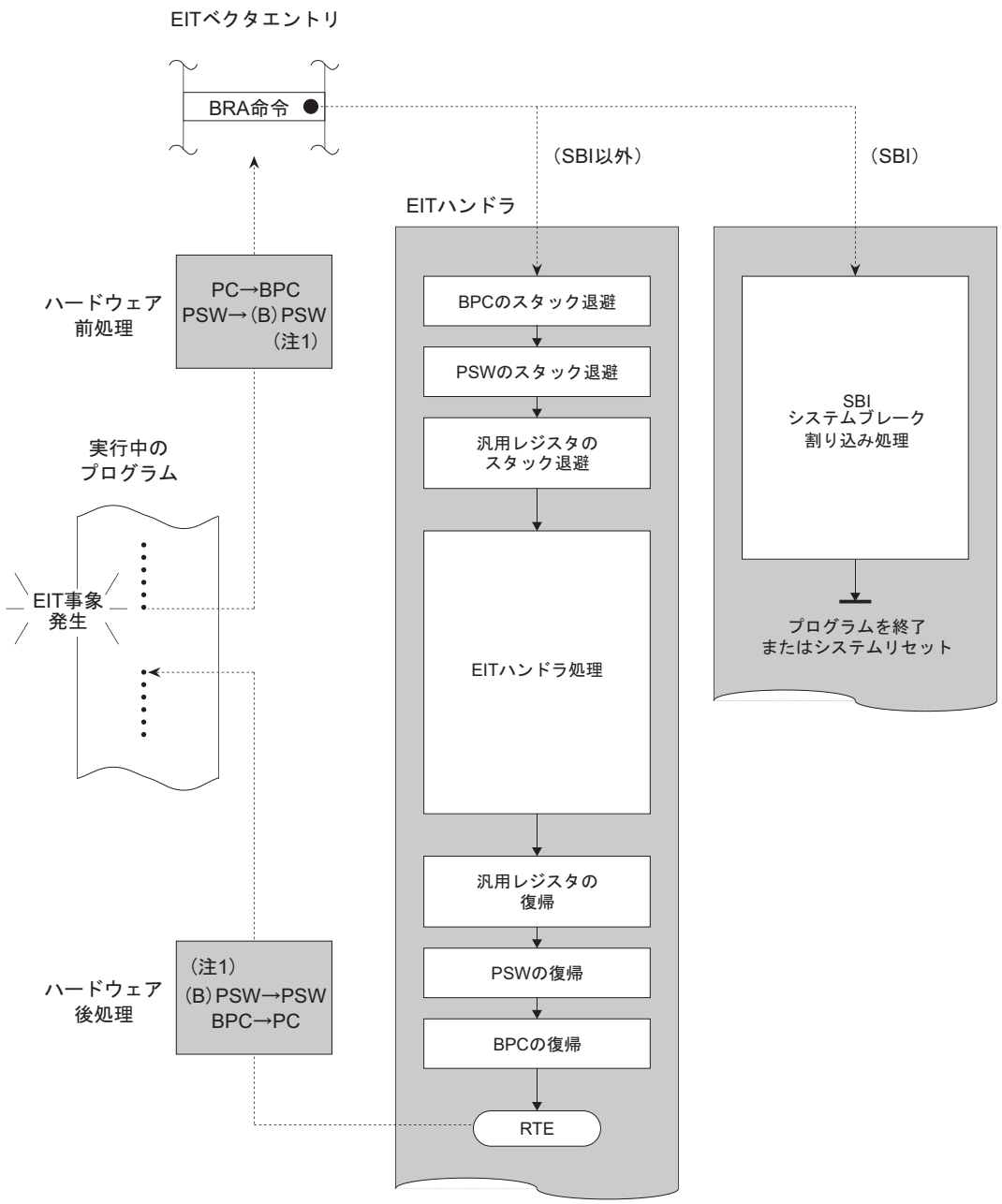


図4.12.2　RIE、AE、TRAPとEIが同時発生した場合の処理



注1. PSWレジスタのPSWフィールドと、BPSWフィールド間の退避と復帰を示します。

図4.12.3　EIT**処理の例**

4.13　EITの注意事項

アドレス例外は、「レジスタ間接＋レジスタ更新」アドレッシングモードを使用した命令(以下の3種類)の実行によってアドレス例外が発生した場合、自動更新される側のレジスタ(Rsrc、Rsrc2)の値が不定となります。

なお、Rsrc、Rsrc2の値が不定になる以外は、他のアドレッシングモード使用時と同様の動作を行います。

・対象命令

```
LD      Rdest、@Rsrc＋
ST      Rsrc1、@－Rsrc2
ST      Rsrc1、@＋Rsrc2
```

上記に該当する場合、レジスタ値が不定になることを考慮した上でその後のシステム処理を行ってください(アドレス例外を発生した場合、その時点ですでにシステムに何らかの致命的な障害が発生したことを意味します。そのため、アドレス例外ハンドラ処理後、元のプログラムに復帰しない条件でご使用ください)。

第5章

割り込みコントローラ（ICU）

5.1　割り込みコントローラ（ICU）概要
5.2　ICU関連レジスタ
5.3　内蔵周辺I/Oの割り込み要求要因
5.4　ICUベクタテーブル
5.5　割り込み動作説明
5.6　システムブレーク割り込み（SBI）動作説明

5.1　割り込みコントローラ(ICU)概要

割り込みコントローラ(ICU)は、内蔵周辺I/Oからのマスク可能な割り込みと、システムブレーク割り込み(SBI)の管理を行います。内蔵周辺I/Oからのマスク可能な割り込みは、外部割り込み(EI)としてM32R CPUに伝えられます。

内蔵周辺I/Oからのマスク可能な割り込みは、割り込み禁止を含めて8レベルの優先順位をつけて管理します。同一レベルの割り込み要求が複数同時に発生した場合は、あらかじめハードウェアで固定された優先順位が適用されます。内蔵周辺I/O内での割り込み要求発生元の特定は、内蔵周辺I/Oの割り込みステータスレジスタを読むことで行います。

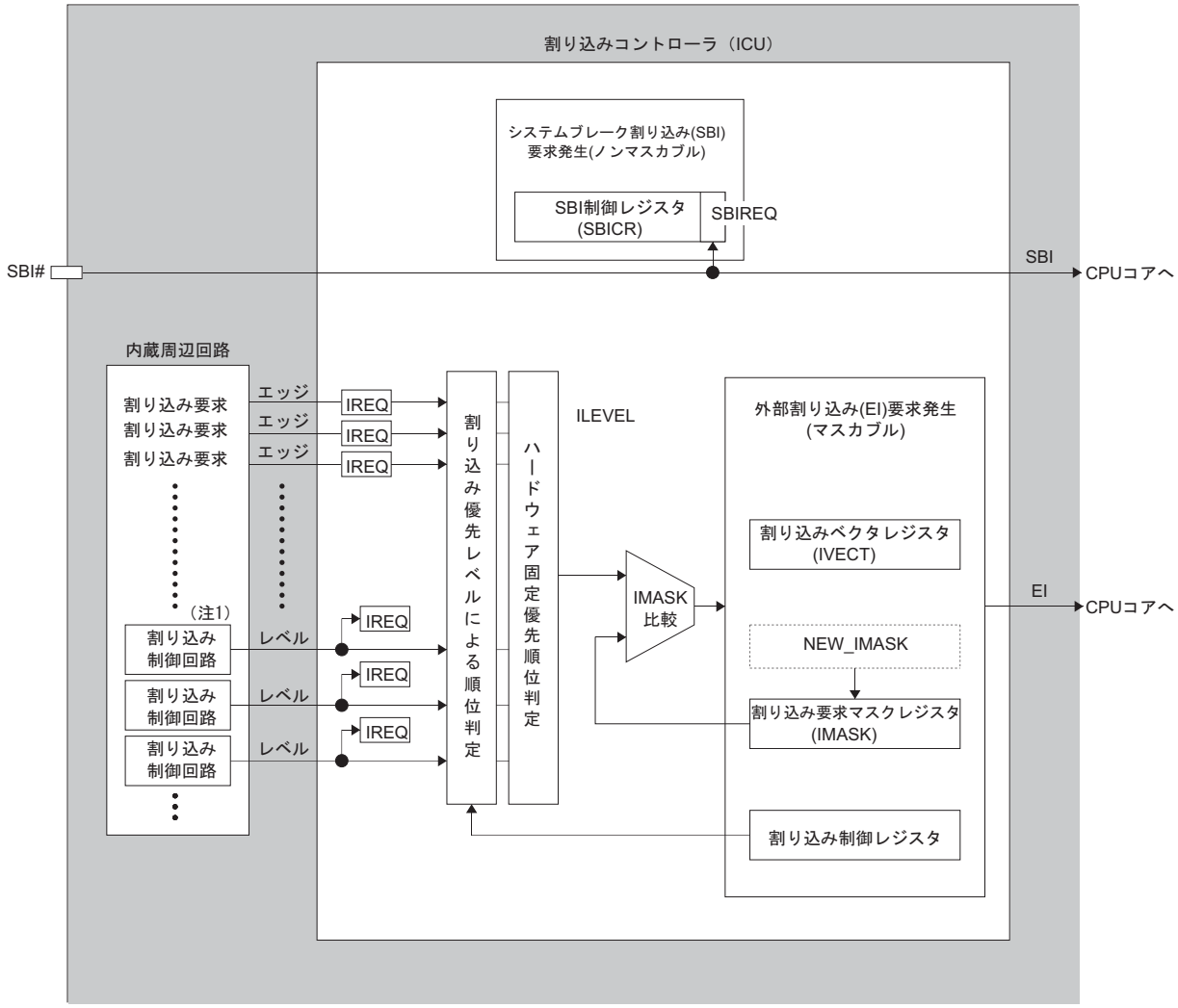
一方システムブレーク割り込み(SBI)は、SBI#信号に立ち下がりエッジが入力された場合に発生する割り込みです。PSWレジスタのIEビットの状態にかかわらず常に受け付けられ、電源の異常検出時や、外部ウォッチドックタイマによる異常検出時に使用される緊急用の割り込みです。SBIに対する処置が終わった後は、割り込み発生時に実行していた元のプログラムには復帰せず、システムを終了するか、またはリセットしてください。

割り込みコントローラの概要を以下に示します。

表5.1.1　割り込みコントローラ(ICU)の概要

項目	仕様	
割り込み要因	内蔵周辺I/Oからのマスク可能な割り込み	：23要因(注1)
	システムブレーク割り込み	：1要因(SBI#端子からの入力)
レベル管理	割り込み禁止を含めて8レベル (ただし同一レベルの場合はハードウェアで固定された優先順位を適用)	

注1．割り込み要求数をグループごとにまとめた数であり、割り込み要求要因総数としては123要因です。



注1.　割り込み制御回路は、各周辺機能の割り込み要求ステータスレジスタ、割り込み要求マスクレジスタを指します。

図5.1.1　割り込みコントローラブロック図

5.2　ICU関連レジスタ

割り込みコントローラ(ICU)関連のレジスタマップを以下に示します。

ICU関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 0000	割り込みベクタレジスタ (IVECT)		5-5
H'0080 0002	(使用禁止領域)		
H'0080 0004	割り込み要求マスクレジスタ (IMASK)	(使用禁止領域)	5-6
H'0080 0006	SBI制御レジスタ (SBICR)	(使用禁止領域)	5-7
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0060	CAN0送受信＆エラー割り込み制御レジスタ (ICAN0CR)	(使用禁止領域)	5-8
H'0080 0062	(使用禁止領域)		
H'0080 0064	(使用禁止領域)		
H'0080 0066	(使用禁止領域)	RTD割り込み制御レジスタ (IRTDCR)	5-8
H'0080 0068	SIO2, 3送受信割り込み制御レジスタ (ISIO23CR)	DMA5-9割り込み制御レジスタ (IDMA59CR)	5-8
H'0080 006A	(使用禁止領域)		
H'0080 006C	A/D0変換割り込み制御レジスタ (IAD0CCR)	SIO0送信割り込み制御レジスタ (ISIO0TXCR)	5-8
H'0080 006E	SIO0受信割り込み制御レジスタ (ISIO0RXCR)	SIO1送信割り込み制御レジスタ (ISIO1TXCR)	5-8
H'0080 0070	SIO1受信割り込み制御レジスタ (ISIO1RXCR)	DMA0-4割り込み制御レジスタ (IDMA04CR)	5-8
H'0080 0072	MJT出力割り込み制御レジスタ0 (IMJTOCR0)	MJT出力割り込み制御レジスタ1 (IMJTOCR1)	5-8
H'0080 0074	MJT出力割り込み制御レジスタ2 (IMJTOCR2)	MJT出力割り込み制御レジスタ3 (IMJTOCR3)	5-8
H'0080 0076	MJT出力割り込み制御レジスタ4 (IMJTOCR4)	MJT出力割り込み制御レジスタ5 (IMJTOCR5)	5-8
H'0080 0078	MJT出力割り込み制御レジスタ6 (IMJTOCR6)	MJT出力割り込み制御レジスタ7 (IMJTOCR7)	5-8
H'0080 007A	(使用禁止領域)	MJT入力割り込み制御レジスタ1 (IMJTICR1)	5-8
H'0080 007C	MJT入力割り込み制御レジスタ2 (IMJTICR2)	MJT入力割り込み制御レジスタ3 (IMJTICR3)	5-8
H'0080 007E	MJT入力割り込み制御レジスタ4 (IMJTICR4)	CAN1送受信＆エラー割り込み制御レジスタ (ICAN1CR)	5-8

5.2.1　割り込みベクタレジスタ

割り込みベクタレジスタ(IVECT)　　**<アドレス：H'0080 0000>**

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
IVECT															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0〜15	IVECT ICUベクタテーブルアドレス下位16ビット	割り込み要求受付時に、受け付けた割り込み要求要因に対応するICUベクタテーブルアドレスの下位16ビットが格納されます。	R	N

注．・このレジスタは、ハーフワード(2バイト)で読み出してください(読み出し専用レジスタ)。

割り込みベクタレジスタ(IVECT)は、割り込み要求受付時に、受け付けた割り込み要求要因のICUベクタテーブルのアドレス下位16ビットが格納されるレジスタです。

ICUベクタテーブル(H'0000 0094〜H'0000 0113番地)には、あらかじめ各内蔵周辺I/Oの割り込みハンドラの先頭アドレスを設定しておきます。割り込み要求受付時には、受け付けた割り込み要求要因に対応するICUベクタテーブルのアドレス下位16ビットが、このIVECTレジスタにセットされます。EITハンドラでは、このIVECTレジスタの内容を「LDH命令」で読み出すことで、ICUベクタテーブルのアドレスを取得します。

なお、IVECTレジスタを読み出すと、以下の(1)〜(4)の動作がハードウェアによって自動的に行われます。

(1) 受け付けた割り込み要求要因の割り込み優先レベル(ILEVEL)を、新しいIMASK値としてIMASKレジスタにセット(受け付けた割り込み要求要因より低い割り込み優先レベルの割り込みをマスク)
(2) 受け付けた割り込み要求要因をクリア(レベルタイプの割り込み要求要因はクリアされません)
(3) CPUコアへの割り込み要求(EI)を解除
(4) ICU内部のシーケンサを起動し、内部処理(割り込み優先度判定)を開始

注．・EITハンドラ内の割り込み禁止期間以外での、割り込みベクタレジスタ(IVECT)の読み出しは行わないでください。またEITハンドラでは、割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)を読み出した後にIVECTレジスタを読み出してください。
・割り込みベクタレジスタ(IVECT)の読み出し後、割り込み許可(IEビットへの"1"書き込み)する場合には、内蔵メモリ等へのダミーアクセス後に許可してください。
(EIハンドラ処理例のICUベクタテーブルの読み出しは内蔵ROMへのアクセスとなりますので、ダミーアクセスを追加する必要はありません。)

5.2.2　割り込み要求マスクレジスタ

割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)　　**<アドレス：H'0080 0004>**

b0	1	2	3	4	5	6	b7
					IMASK		
0	0	0	0	0	1	1	1

<リセット解除時：H'07>

b	ビット名	機能	R	W
0～4	**何も配置されていません。"0"に固定してください。**		0	0
5～7	IMASK **割り込み要求マスクビット**	000：**マスカブル割り込み禁止** 001：**レベル**0 **割り込み受付可** 010：**レベル**0～1**割り込み受付可** 011：**レベル**0～2**割り込み受付可** 100：**レベル**0～3**割り込み受付可** 101：**レベル**0～4**割り込み受付可** 110：**レベル**0～5**割り込み受付可** 111：**レベル**0～6**割り込み受付可**	R	W

割り込みマスクレジスタ(IMASK)は、各割り込み要因ごとに設定した優先レベル(割り込み制御レジスタのILEVELビットの設定)と比較して、最終的にその割り込み要求を受け付けるかどうかを決定するレジスタです。

割り込みベクタレジスタ(IVECT)を読み出すと、このIMASKレジスタに、受け付けた割り込み要求要因の割り込み優先レベルを、新しいマスク値としてセットします。

なお、IMASKレジスタに書き込みを行うと、以下の(1)～(2)の動作がハードウェアによって自動的に行われます。

(1) CPUコアへの割り込み要求(EI)を解除
(2) ICU内部のシーケンサを起動し、内部処理(割り込み優先度判定)を開始

注．・割り込み禁止期間以外での、割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)への書き込みは行わないでください。
・割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)への書き込み後、割り込みを許可(IEビットへの"1"書き込み)する場合には、以下の処理順で実行してください。
(1)　割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)への書き込み
(2)　内蔵メモリ、SFRへの1回以上のダミーアクセス
(3)　1個以上の命令(注1)
(4)　割り込みを許可(IEビットへの"1"書き込み)
注1．クロックサイクルを消費しないNOP(アセンブラがアライメント調整のために自動挿入するNOP：命令コードH'　F000)以外の命令

5.2.3　SBI(システムブレーク割り込み)制御レジスタ

SBI(システムブレーク割り込み)制御レジスタ(SBICR)　　＜アドレス：H'0080 0006＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
							SBIREQ
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～6	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
7	SBIREQ SBI要求ビット	0：SBI要求なし 1：SBI要求あり	R（注1）	

注1．クリア動作のみ可能(下記参照)

SBI(システムブレーク割り込み)は、SBI#端子に立ち下がりエッジが入力された場合に発生する割り込み要求です。

SBI#端子に立ち下がりエッジが入力され、このビットが"1"にセットされるとCPUに対してシステムブレーク割り込み(SBI)要求が発生します。

このビットは、ソフトウェアにて"1"にセットできません。

このビットを"0"にクリアする場合は、以下の手順で行ってください。

1．SBI要求ビットに"1"を書き込む
2．SBI要求ビットに"0"を書き込む

注．・ただし、このビットに"1"がセットされていないときは、上記クリア動作を行わないでください。
・SBI要求ビットが"1"にセットされた状態において、再度SBI#端子に立ち下がりエッジが入力されてもシステムブレーク割り込みが発生することはありません。

5.2.4　割り込み制御レジスタ

CAN0送受信＆エラー割り込み制御レジスタ(ICAN0CR)	＜アドレス：H'0080 0060＞
RTD割り込み制御レジスタ(IRTDCR)	＜アドレス：H'0080 0067＞
SIO2, 3送受信割り込み制御レジスタ(ISIO23CR)	＜アドレス：H'0080 0068＞
DMA5-9割り込み制御レジスタ(IDMA59CR)	＜アドレス：H'0080 0069＞
A/D0変換割り込み制御レジスタ(IAD0CCR)	＜アドレス：H'0080 006C＞
SIO0送信割り込み制御レジスタ(ISIO0TXCR)	＜アドレス：H'0080 006D＞
SIO0受信割り込み制御レジスタ(ISIO0RXCR)	＜アドレス：H'0080 006E＞
SIO1送信割り込み制御レジスタ(ISIO1TXCR)	＜アドレス：H'0080 006F＞
SIO1受信割り込み制御レジスタ(ISIO1RXCR)	＜アドレス：H'0080 0070＞
DMA0-4割り込み制御レジスタ(IDMA04CR)	＜アドレス：H'0080 0071＞
MJT出力割り込み制御レジスタ0(IMJTOCR0)	＜アドレス：H'0080 0072＞
MJT出力割り込み制御レジスタ1(IMJTOCR1)	＜アドレス：H'0080 0073＞
MJT出力割り込み制御レジスタ2(IMJTOCR2)	＜アドレス：H'0080 0074＞
MJT出力割り込み制御レジスタ3(IMJTOCR3)	＜アドレス：H'0080 0075＞
MJT出力割り込み制御レジスタ4(IMJTOCR4)	＜アドレス：H'0080 0076＞
MJT出力割り込み制御レジスタ5(IMJTOCR5)	＜アドレス：H'0080 0077＞
MJT出力割り込み制御レジスタ6(IMJTOCR6)	＜アドレス：H'0080 0078＞
MJT出力割り込み制御レジスタ7(IMJTOCR7)	＜アドレス：H'0080 0079＞
MJT入力割り込み制御レジスタ1(IMJTICR1)	＜アドレス：H'0080 007B＞
MJT入力割り込み制御レジスタ2(IMJTICR2)	＜アドレス：H'0080 007C＞
MJT入力割り込み制御レジスタ3(IMJTICR3)	＜アドレス：H'0080 007D＞
MJT入力割り込み制御レジスタ4(IMJTICR4)	＜アドレス：H'0080 007E＞
CAN1送受信＆エラー割り込み制御レジスタ(ICAN1CR)	＜アドレス：H'0080 007F＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
(b8	9	10	11	12	13	14	b15)
			IREQ		ILEVEL		
0	0	0	0	0	1	1	1

＜リセット解除時：H'07＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2 (8～10)	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3 (11)	IREQ 割り込み要求ビット	＜エッジタイプの場合＞ [読み出し時] 0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり [書き込み時] 0：割り込み要求クリア 1：割り込み要求発生	R	W
		＜レベルタイプの場合＞ [読み出し時] 0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R	0
4 (12)	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5～7 (13～15)	ILEVEL 割り込み優先レベルビット	000：割り込み優先レベル0 001：割り込み優先レベル1 010：割り込み優先レベル2 011：割り込み優先レベル3 100：割り込み優先レベル4 101：割り込み優先レベル5 110：割り込み優先レベル6 111：割り込み優先レベル7(割り込み禁止状態)	R	W

(1) IREQ(割り込み要求)ビット　(b3またはb11)

内蔵周辺I/Oの割り込み要求が発生すると、IREQ(割り込み要求)ビットが"1"にセットされます。

このビットはエッジタイプの割り込み要求要因のみソフトウェアでセット/クリアすることができます(レベルタイプはソフトウェアでセット/クリアできません)。また、エッジタイプの割り込み要求発生でセットされたIREQビットは、割り込みベクタレジスタ(IVECT)を読み出すと、自動的に"0"にクリアされます(レベルタイプはIVECTを読み出してもクリアされません)。

割り込み要求発生によるセットとソフトウェアによるクリアが同時に発生した場合は、ソフトウェアによるクリアが優先されます。また、割り込み要求発生によるセットとIVECT読み出しによるクリアが同時に発生した場合は、IVECT読み出しによるクリアが優先されます。

注．・IREQビットをクリアしても、CPUコアへの割り込み要求(EI)はクリアされません。CPUコアへの割り込み要求(EI)は、次の動作によってのみクリアされます。
(1) リセット
(2) IVECTレジスタの読み出し
(3) IMASKレジスタへの書き込み

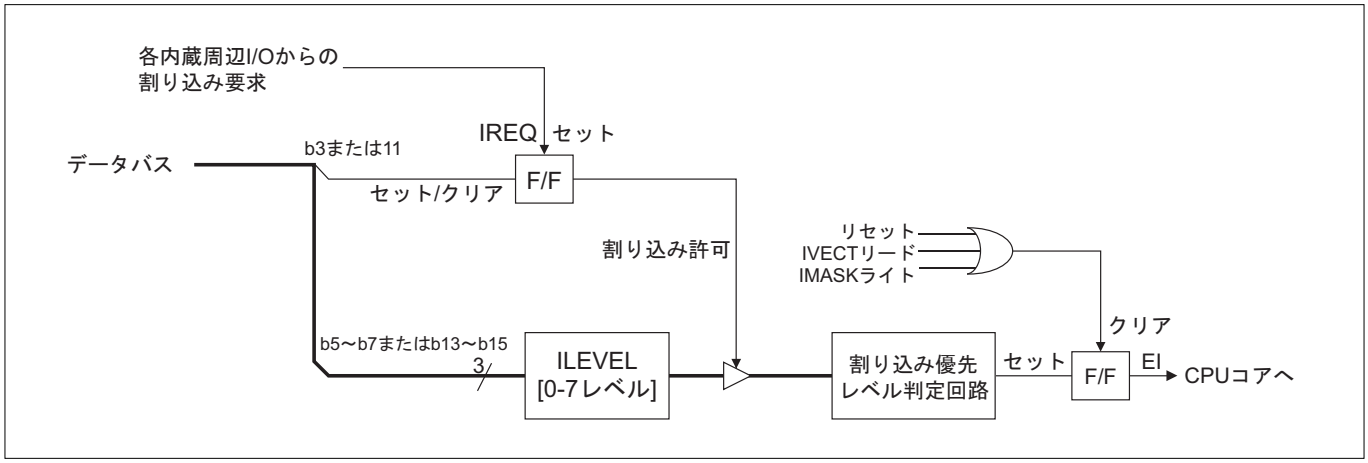


図5.2.1　**割り込み制御レジスタ構成(エッジタイプ)**

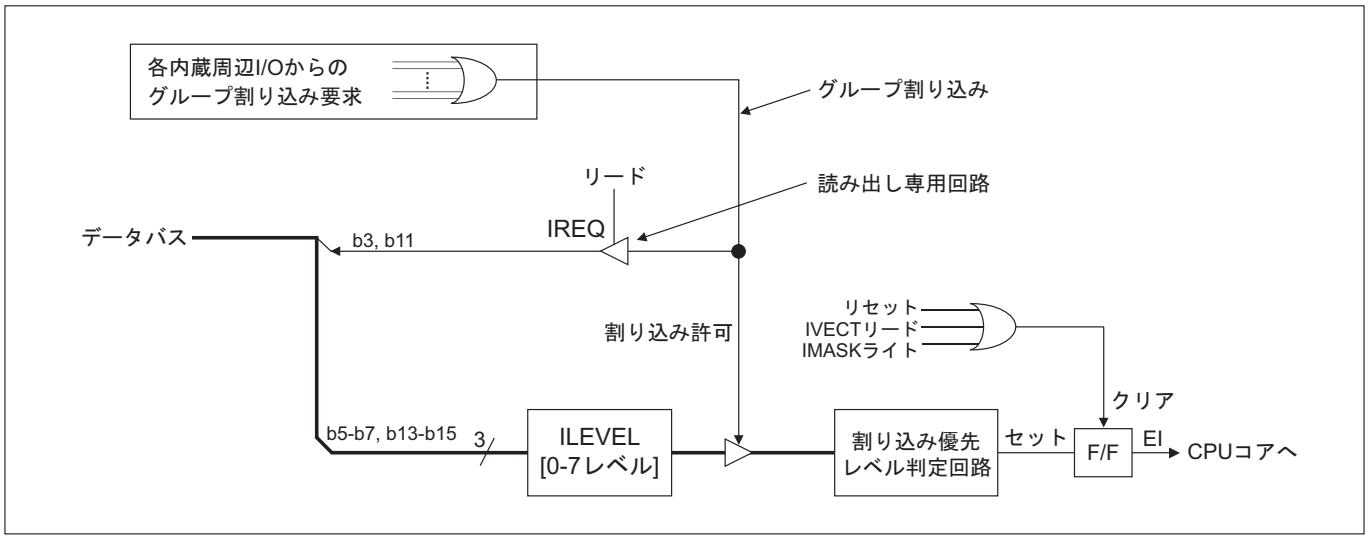


図5.2.2　**割り込み制御レジスタ構成(レベルタイプ)**

(2) ILEVEL(**割り込み優先レベル**)　(b5～b7**または**b13～b15)

各内蔵周辺I/Oの割り込み要求の優先レベルを設定します。内蔵周辺I/Oの割り込みを禁止する場合は"111"を、割り込みを使用する場合は"000"～"110"を設定します。

割り込み要求発生時、ILEVELの設定をもとに要因間の優先順位を判定するとともに、最終的にIMASKの値と比較してCPUへのEI要求を出力するか、保留するかが決定されます。

ILEVELの設定と受け付けられるIMASK値の関係を以下に示します。

表5.2.1　ILEVEL**の設定と受け付けられる**IMASK**値**

ILEVEL**設定値**	**割り込みが受け付けられる**IMASK**値**
0　(ILEVEL＝"000")	IMASK**が**1～7**のとき受け付けられる**
1　(ILEVEL＝"001")	IMASK**が**2～7**のとき受け付けられる**
2　(ILEVEL＝"010")	IMASK**が**3～7**のとき受け付けられる**
3　(ILEVEL＝"011")	IMASK**が**4～7**のとき受け付けられる**
4　(ILEVEL＝"100")	IMASK**が**5～7**のとき受け付けられる**
5　(ILEVEL＝"101")	IMASK**が**6～7**のとき受け付けられる**
6　(ILEVEL＝"110")	IMASK**が**7**のとき受け付けられる**
7　(ILEVEL＝"111")	**受け付けられない(割り込み禁止状態)**

5.3　内蔵周辺I/Oの割り込み要求要因

割り込みコントローラには、MJT(マルチジャンクションタイマ)、DMAC、シリアルインタフェース、A/Dコンバータ、RTD、CANからの割り込み要求が入力されます。割り込みの詳細については、各内蔵周辺I/Oの章を参照してください。

表5.3.1　内蔵周辺I/Oの割り込み要求要因

割り込み要求要因	内容	入力要因数	ICU入力要因タイプ(注1)
A/D0変換割り込み	A/D0コンバータのスキャンモードのワンショット終了、単一モード終了、コンパレータモード終了	1	エッジ
SIO0送信割り込み	SIO0の送信完了、または送信バッファエンプティ割り込み	1	エッジ
SIO0受信割り込み	SIO0の受信完了、または受信エラー割り込み	1	エッジ
SIO1送信割り込み	SIO1の送信完了、または送信バッファエンプティ割り込み	1	エッジ
SIO1 受信割り込み	SIO1の受信完了、または受信エラー割り込み	1	エッジ
SIO2, 3送受信割り込み	SIO2, 3の受信完了または受信エラー割り込み、送信完了、または送信バッファエンプティ割り込み	4	レベル
RTD割り込み	RTD割り込み発生コマンド	1	エッジ
DMA転送割り込み0	DMA0～4の転送終了	5	レベル
DMA転送割り込み1	DMA5～9の転送終了	5	レベル
CAN0送受信＆エラー割り込み	CAN0送信完了、CAN0受信完了、CAN0エラーパッシブ、CAN0エラーバスオフ、CAN0バスエラー、CAN0シングルショット	35	レベル
CAN1送受信＆エラー割り込み	CAN1送信完了、CAN1受信完了、CAN1エラーパッシブ、CAN1エラーバスオフ、CAN1バスエラー、CAN1シングルショット	35	レベル
MJT出力割り込み7	MJT出力割り込みグループ7　(TMS0、TMS1出力)	2	レベル
MJT出力割り込み6	MJT出力割り込みグループ6　(TOP8、TOP9出力)	2	レベル
MJT出力割り込み5	MJT出力割り込みグループ5　(TOP10出力)	1	エッジ
MJT出力割り込み4	MJT出力割り込みグループ4　(TIO4～TIO7出力)	4	レベル
MJT出力割り込み3	MJT出力割り込みグループ3　(TIO8、TIO9出力)	2	レベル
MJT出力割り込み2	MJT出力割り込みグループ2　(TOP0～ TOP5出力)	6	レベル
MJT出力割り込み1	MJT出力割り込みグループ1　(TOP6、TOP7出力)	2	レベル
MJT出力割り込み0	MJT出力割り込みグループ0　(TIO0～TIO3出力)	4	レベル
MJT入力割り込み4	MJT入力割り込みグループ4　(TIN3入力)	1	レベル
MJT入力割り込み3	MJT入力割り込みグループ3　(TIN20～TIN23入力)	4	レベル
MJT入力割り込み2	MJT入力割り込みグループ2　(TIN16～TIN19入力)	4	レベル
MJT入力割り込み1	MJT入力割り込みグループ1　(TIN0入力)	1	レベル

注1．ICU入力要因タイプ
- エッジ：ICUに入力される割り込み信号の立ち下がりエッジで、割り込み要求が発生します。
- レベル：ICUに入力される割り込み信号の"L"レベルの期間中、割り込み要求が発生します。レベルタイプの場合、ICUの割り込み制御レジスタ中IRQビットに対するソフトウェアによる セット/クリアはできません。

5.4 ICUベクタテーブル

ICUベクタテーブルは、各内蔵周辺I/Oの割り込みハンドラの先頭アドレスを設定するテーブルで、23要因の割り込みに対して以下のアドレスが割り付けられています。

表5.4.1 ICUベクタテーブル

優先順位	割り込み要因	ICUベクタテーブルアドレス	入力要因数	入力要因タイプ(注1)
高	MJT入力割り込み4 (TIN3入力)	H'0000 0094 ～ H'0000 0097	1	レベル
↑	MJT入力割り込み3 (TIN20～TIN23入力)	H'0000 0098 ～ H'0000 009B	4	レベル
	MJT入力割り込み2 (TIN16～TIN19入力)	H'0000 009C ～ H'0000 009F	4	レベル
	MJT入力割り込み1 (TIN0入力)	H'0000 00A0 ～ H'0000 00A3	1	レベル
	MJT出力割り込み7 (TMS0, TMS1出力)	H'0000 00A8 ～ H'0000 00AB	2	レベル
	MJT出力割り込み6 (TOP8, TOP9出力)	H'0000 00AC ～ H'0000 00AF	2	レベル
	MJT出力割り込み5 (TOP10出力)	H'0000 00B0 ～ H'0000 00B3	1	エッジ
	MJT出力割り込み4 (TIO4～TIO7出力)	H'0000 00B4 ～ H'0000 00B7	4	レベル
	MJT出力割り込み3 (TIO8, TIO9出力)	H'0000 00B8 ～ H'0000 00BB	2	レベル
	MJT出力割り込み2 (TOP0～TOP5出力)	H'0000 00BC ～ H'0000 00BF	6	レベル
	MJT出力割り込み1 (TOP6, TOP7出力)	H'0000 00C0 ～ H'0000 00C3	2	レベル
	MJT出力割り込み0 (TIO0～TIO3出力)	H'0000 00C4 ～ H'0000 00C7	4	レベル
	DMA0-4割り込み	H'0000 00C8 ～ H'0000 00CB	5	レベル
	SIO1受信割り込み	H'0000 00CC ～ H'0000 00CF	1	エッジ
	SIO1送信割り込み	H'0000 00D0 ～ H'0000 00D3	1	エッジ
	SIO0受信割り込み	H'0000 00D4 ～ H'0000 00D7	1	エッジ
	SIO0送信割り込み	H'0000 00D8 ～ H'0000 00DB	1	エッジ
	A/D0変換割り込み	H'0000 00DC ～ H'0000 00DF	1	エッジ
	DMA5-9割り込み	H'0000 00E8 ～ H'0000 00EB	5	レベル
	SIO2, 3送受信割り込み	H'0000 00EC ～ H'0000 00EF	4	レベル
	RTD割り込み	H'0000 00F0 ～ H'0000 00F3	1	エッジ
↓	CAN0送受信＆エラー割り込み	H'0000 010C ～ H'0000 010F	35	レベル
低	CAN1送受信＆エラー割り込み	H'0000 0110 ～ H'0000 0113	35	レベル

注1. ICU入力タイプ
- エッジ：ICUに入力される割り込み信号の立ち下がりエッジで、割り込み要求が発生します。
- レベル：ICUに入力される割り込み信号の"L"レベルの期間中、割り込み要求が発生します。レベルタイプの場合、ICUの割り込み制御レジスタ中IRQビットに対するソフトウェアによるセット/クリアはできません。

5.5　割り込み動作説明

5.5.1　内蔵周辺I/Oの割り込み要求受付

内蔵周辺I/Oからの割り込み要求は、割り込み制御レジスタで設定したILEVELと、割り込み要求マスクレジスタのIMASK値を比較して、IMASK値よりも優先度が高ければ受け付けます。ただし同時に複数の割り込み要求が発生した場合は、以下の手順で受け付けるかどうかを判定します。

1）**各内蔵周辺I/Oの割り込み制御レジスタで設定されたILEVEL値の比較**
2）**ILEVEL値が同一の場合は、ハードウェアであらかじめ決められた優先順位の適用**
3）**ILEVEL値とIMASK値の比較**

同時に複数の割り込み要求が発生した場合、まず、各割り込み制御レジスタのILEVELで設定した優先度を比較して、優先度のもっとも高い割り込み要求が選ばれます。ILEVELの値が同じ場合は、ハードウェア固定の優先順位に従います。

最終的に選ばれた割り込み要求のILEVELとIMASK値を比較して、IMASK値よりも優先度が高ければ、CPUに対してEI要求が出されます。

なお、割り込み要求のマスクは、各内蔵周辺I/Oの割り込み要求マスクレジスタ、割り込みコントローラのILEVEL設定（レベル7で禁止）、およびPSWレジスタのIEビットの設定で行います。

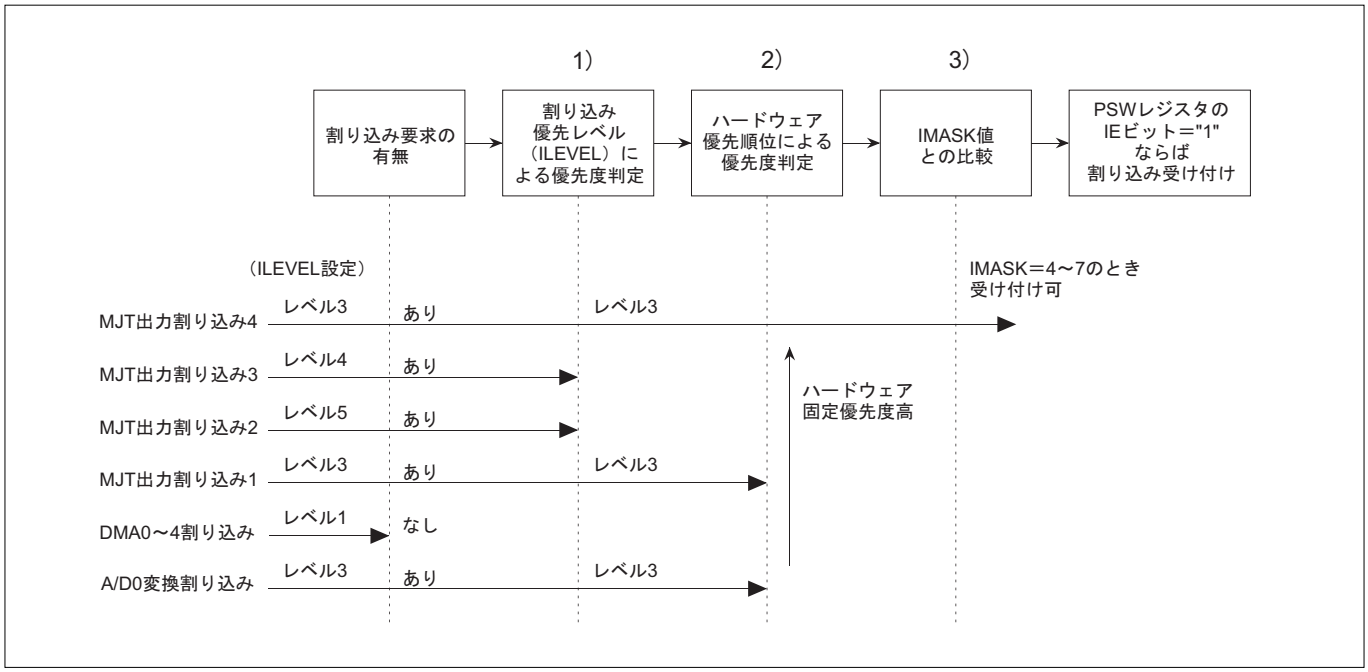


図5.5.1　割り込み受付時の優先順位判定例

表5.5.1　ILEVELの設定と受け付けられるIMASK値

ILEVEL設定値	割り込みが受け付けられるIMASK値
0（ILEVEL＝"000"）	IMASKが1～7のとき受け付けられる
1（ILEVEL＝"001"）	IMASKが2～7のとき受け付けられる
2（ILEVEL＝"010"）	IMASKが3～7のとき受け付けられる
3（ILEVEL＝"011"）	IMASKが4～7のとき受け付けられる
4（ILEVEL＝"100"）	IMASKが5～7のとき受け付けられる
5（ILEVEL＝"101"）	IMASKが6～7のとき受け付けられる
6（ILEVEL＝"110"）	IMASKが7のとき受け付けられる
7（ILEVEL＝"111"）	受け付けられない（割り込み禁止状態）

5.5.2 内蔵周辺I/Oの割り込みハンドラ処理

(1) 割り込みハンドラへの分岐

CPUが割り込み要求を受け付けると、「4.3 EITの処理手順」に示すとおり、ハードウェア前処理を行った後、EITベクタエントリへ分岐します。外部割り込み(EI)に割り当てられたEITベクタエントリは、H'0000 0080番地で、ここには外部割り込み要求に対する割り込みハンドラプログラムの先頭への分岐命令(分岐先アドレスではないことに注意)を書きます。

(2) 外部割り込み(EI)ハンドラ処理

外部割り込み(EI)ハンドラ(内蔵周辺I/Oからの割り込み)の動作例を図5.5.2に示します。

[1] 各レジスタのスタックへの退避

BPC、PSW、および汎用レジスタをスタックに退避してください。また、必要に応じてアキュムレータを退避してください。

[2] 割り込みマスクレジスタ(IMASK)読み出しとスタック退避

割り込みマスクレジスタを読み出してスタックに退避します。

[3] 割り込みベクタレジスタ(IVECT)読み出し

割り込みベクタレジスタを読み出します。割り込みベクタレジスタは、割り込み要求受付時に、受け付けた割り込み要求要因のICUベクタテーブルのアドレス下位16ビットが格納されるレジスタです。この割り込みベクタレジスタ読み出しにより、以下の処理がハードウェアで自動的に行われます。

- **受け付けた割り込み要求要因の割り込み優先レベル(ILEVEL)を、新しいIMASK値としてIMASKレジスタにセット(受け付けた割り込み要求要因より低い割り込み優先レベルの割り込みをマスク)**
- **受け付けた割り込み要求要因をクリア(レベルタイプの割り込み要求要因はクリアされません)**
- **CPUコアへの割り込み要求(EI)を解除**
- **ICU内部のシーケンサを起動し、内部処理(割り込み優先度判定)を開始**

[4] 割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)の読み出しと上書き

割り込み要求マスクレジスタを読み出し、読み出した値で上書きします。この書き込みにより、以下の処理がハードウェアで自動的に行われます。

- **CPUコアへの割り込み要求(EI)を解除**
- **ICU内部のシーケンサを起動し、内部処理(割り込み優先度判定)を開始**

注. ・この[4]の処理は、[6]で多重割り込みを許可する場合は不要です。

[5] ICUベクタテーブルの読み出し

受け付けた割り込み要求要因のICUベクタテーブルを読み出します。該当するICUベクタテーブルのアドレスは、[3]で読み出した割り込みベクタレジスタの内容(受け付けた割り込み要求要因のICUベクタテーブルのアドレス下位16ビット)をゼロ拡張することで得られます。ICUベクタテーブルには該当割り込み要求要因の割り込みハンドラ先頭番地を記述しておきます。

[6] 多重割り込みの許可

割り込みの処理中にさらに優先レベルの高い割り込みを許可(多重割り込みの許可)する場合には、PSWのIEビットを"1"にセットします。

注. ・割り込み要求マスクレジスタ(IMASK)への書き込み後、割り込み許可(IEビットへの"1"書き込み)する場合には、注意事項があります。詳細については、「5.2.2割り込み要求マスクレジスタ」を参照してください。

[7] 各内蔵周辺I/Oの割り込みハンドラへの分岐

[5]で読み出した割り込みハンドラの先頭番地へ分岐します。

[8] 各内蔵周辺I/Oの割り込みハンドラ処理

[9] 割り込みの禁止

PSWのIEビットを"0"にクリアして、割り込みを禁止します。

[10] 割り込みマスクレジスタ(IMASK)の復帰

[2]で退避した割り込みマスクレジスタを復帰します。

[11] スタックからの各レジスタの復帰

[1]で退避したレジスタを復帰します。

[12] 外部割り込み処理の完了

RTE命令を実行し、外部割り込み処理を完了します。プログラムは現在処理中の割り込み要求が受け付けられる前の状態に戻ります。

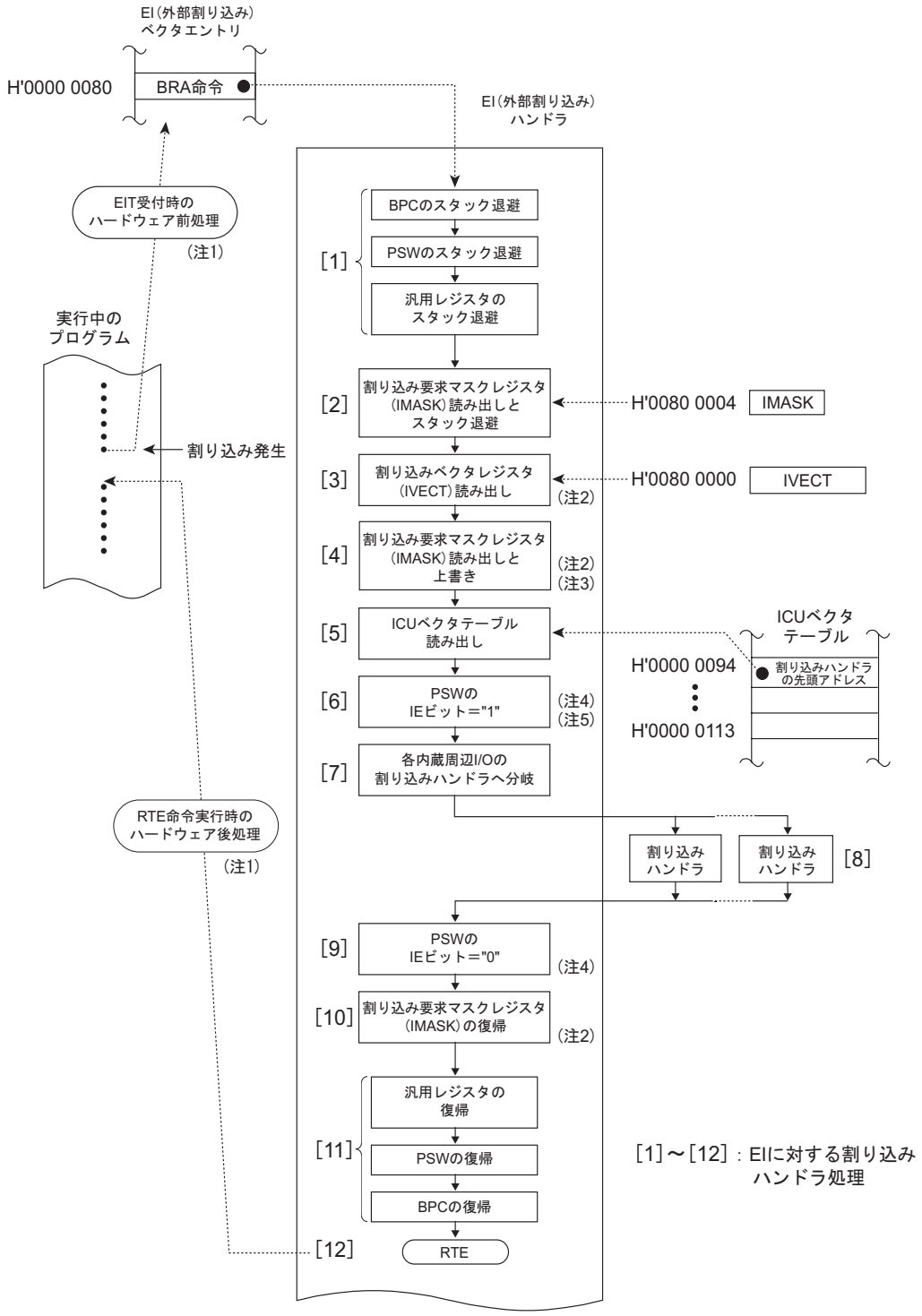
(3) 割り込み要求発生元の特定

各内蔵周辺I/Oで割り込み要求に複数の要因がある場合は、各内蔵周辺I/Oの割り込み要求ステータスレジスタで、要因を特定してください。

(4) 多重割り込みの許可

割り込みハンドラ内で多重割り込みを許可する場合は、PSWのIE(割り込みイネーブル)ビットに"1"をセットして、割り込み要求の受付を許可してください。ただし、IEに"1"を書き込む前に、必ず各レジスタ(BPC、PSW、汎用レジスタおよびIMASK)をスタックに退避してください。

注．・多重割り込みの許可は、「図5.5.2 内蔵周辺I/Oからの割り込み動作例」に示すように、割り込みベクタレジスタ(IVECT)読み出し後、ICUベクタテーブルを読み出してから行ってください。



注1. EIT受付/復帰時の動作については、「4.3 EITの処理手順」をあわせて参照してください。
注2. 割り込みベクタレジスタ(IVECT)の読み出しは、ETハンドラ内の割り込み禁止期間で行ってください。
また、割り込みマスクレジスタ(IMASK)への書き込みは、割り込み禁止期間で行ってください。
注3. 多重割り込み禁止時は、[4]の処理を実行してください。[6]と[9]の処理を実行して多重割り込みを許可する場合、[4]の処理は不要です。
注4. 多重割り込みを許可する場合には、[6]と[9]の処理を実行してください。
注5. 割り込みベクタレジスタ(IVECT)の読み出し後に、割り込みを許可(IEビットへの"1"書き込み)する場合は、内蔵メモリ等へのダミーアクセス後に許可してください。本例では、IVECTの読み出し後にICUベクタテーブルの読み出しを行うため、ダミーアクセスを追加する必要はありません。
また、割り込みマスクレジスタ(IMASK)の書き込み後に、割り込みを許可(IEビットへの"1"書き込み)する場合は、注意事項があります。詳細につていは、「5.2.2割り込み要求マスクレジスタ」を参照してください。

図5.5.2　内蔵周辺I/Oからの割り込み動作例

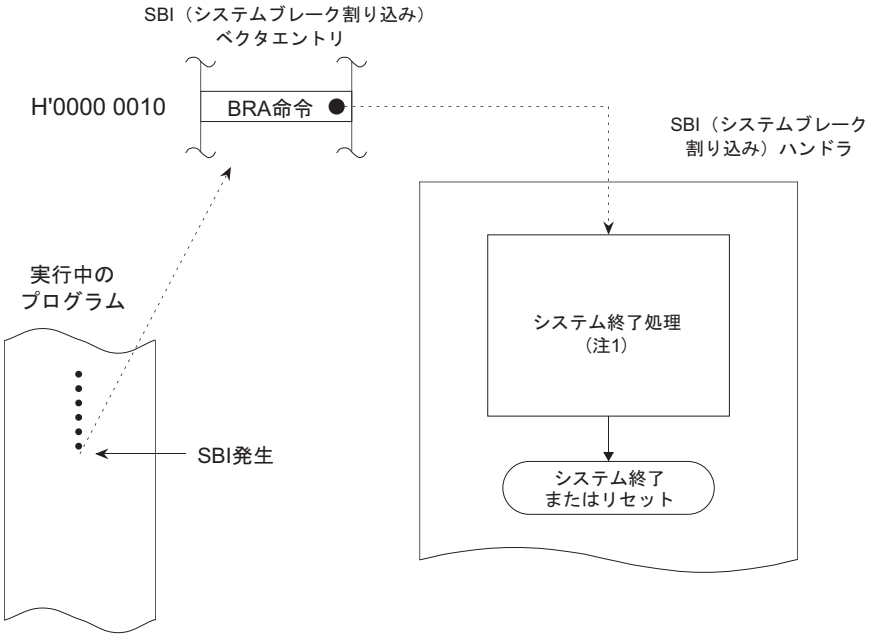
5.6　システムブレーク割り込み(SBI)動作説明

5.6.1　SBIの受付

SBIは、電源の異常検出や外部ウォッチドックタイマの異常検出に対して使用される緊急用の割り込みです。SBIは、PSWレジスタのIEビットの値にかかわらず、SBI#信号の立ち下がりエッジの検出で常時受け付けられ、マスクすることはできません。ただし、SBI要求ビットが"1"にセットされた状態において、再度SBI#端子に立ち下がりエッジが入力されてもシステムブレーク割り込みが発生することはありません。

5.6.2　SBIのハンドラ処理

SBIに対する処置が終わった後は、割り込み発生時に実行していた元のプログラムには復帰しないで、必ずシステムを終了またはリセットしてください。



注1. 割り込み要求発生時に実行していたプログラムには復帰しないでください。

図5.6.1　SBI動作例

第6章

内蔵メモリ

6.1　内蔵メモリ概要
6.2　内蔵RAM
6.3　内蔵フラッシュメモリ
6.4　内蔵フラッシュメモリ関連レジスタ
6.5　内蔵フラッシュメモリの書き込み
6.6　疑似フラッシュエミュレーション機能
6.7　シリアルプログラマとの接続（CSIOモード）
6.8　シリアルプログラマとの接続（UARTモード）
6.9　内蔵フラッシュメモリのプロテクト機能
6.10　内蔵RAMの注意事項
6.11　内蔵フラッシュメモリの注意事項

6.1　内蔵メモリ概要

以下のメモリを内蔵しています。

- 24Kバイトのの RAM
- 512Kバイト、384Kバイト、および256Kバイトのフラッシュメモリ

6.2　内蔵RAM

内蔵RAM仕様を以下に示します。

表6.2.1　内蔵RAMの仕様

項目	仕様
容量	24Kバイト
配置アドレス	H'0080 4000～H'0080 9FFF
ウェイト挿入	0ウェイト動作
内部バス接続	32ビットバス接続
デュアルポート	RTD(リアルタイムデバッガ)により、CPUとは独立して外部からシリアル通信で内蔵RAM全域のデータ読み出し(モニタ)、書き込みが可能(→「第14章 リアルタイムデバッガ」を参照してください。)

注．・電源投入時のリセット解除直後(VDDEもGNDから立ち上がるパワーオン時)は、RAM値は不定です。
・RAMバックアップ(VDDEにのみ電源供給)時、リセット解除直後はリセット前の値を保持しています。

6.3　内蔵フラッシュメモリ

内蔵フラッシュメモリ仕様を以下に示します。

表6.3.1　内蔵フラッシュメモリの仕様

項目	仕様		
容量	M32176F4：512Kバイト、　M32176F3：384Kバイト、M32176F2：256Kバイト		
配置アドレス	M32176F4：H'0000 0000～H'0007 FFFF M32176F3：H'0000 0000～H'0005 FFFF M32176F2：H'0000 0000～H'0003 FFFF		
ウェイト挿入	0ウェイト動作		
書き換え回数	標準品	：100回	
	10000(10k)回対応品（注1）	：4Kバイトブロック（注2）	10000(10k)回
		：4Kバイトブロック以外	1000(1k)回
内部バス接続	32ビットバス接続		
その他	疑似フラッシュエミュレーション機能装備　(→「6.6 疑似フラッシュエミュレーション機能」を参照してください。)		

注1．10000(10k)回書き換え対応はオプション設定となっています。10000回書き換えの応用を検討されているお客様は弊社までお問い合わせください。
注2．ブロック1：H'0000 2000～H'0000 2FFF
ブロック2：H'0000 3000～H'0000 3FFF

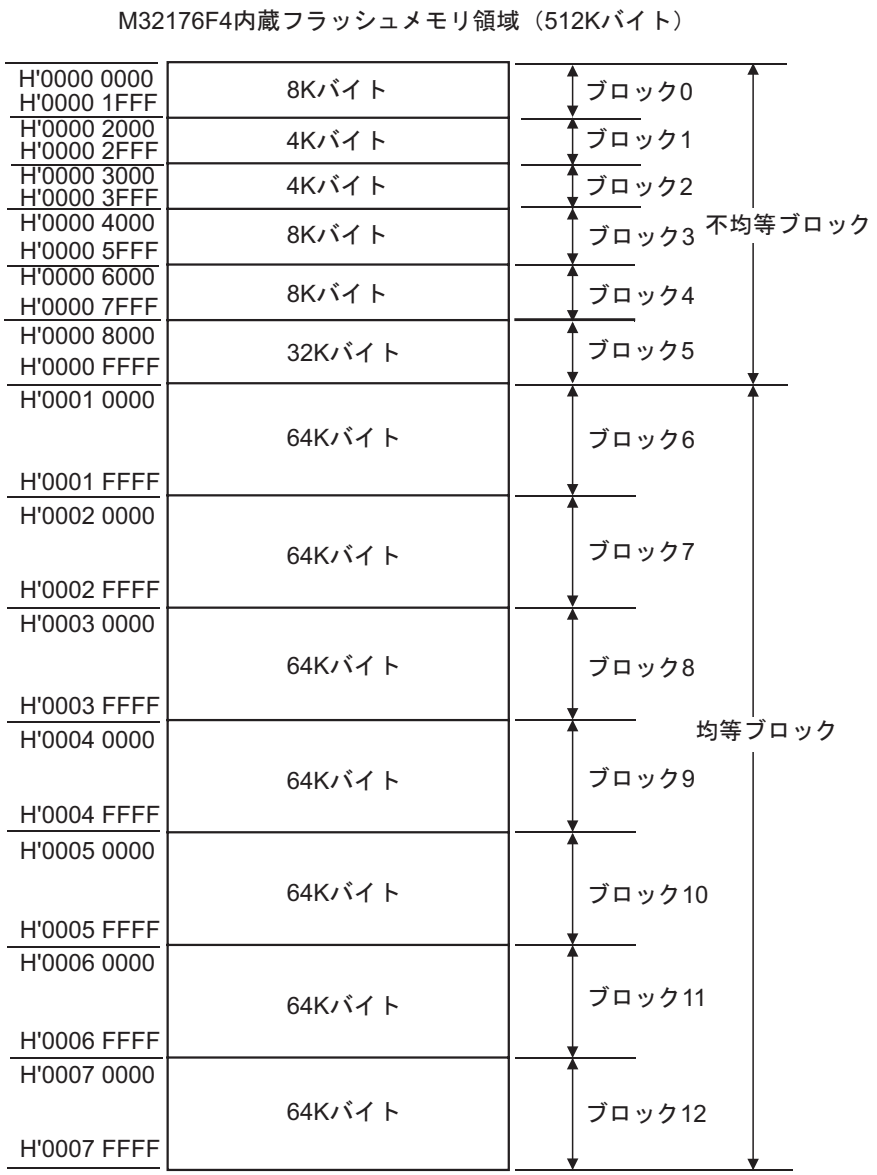


図6.3.1　M32176F4**フラッシュメモリのブロック構成**

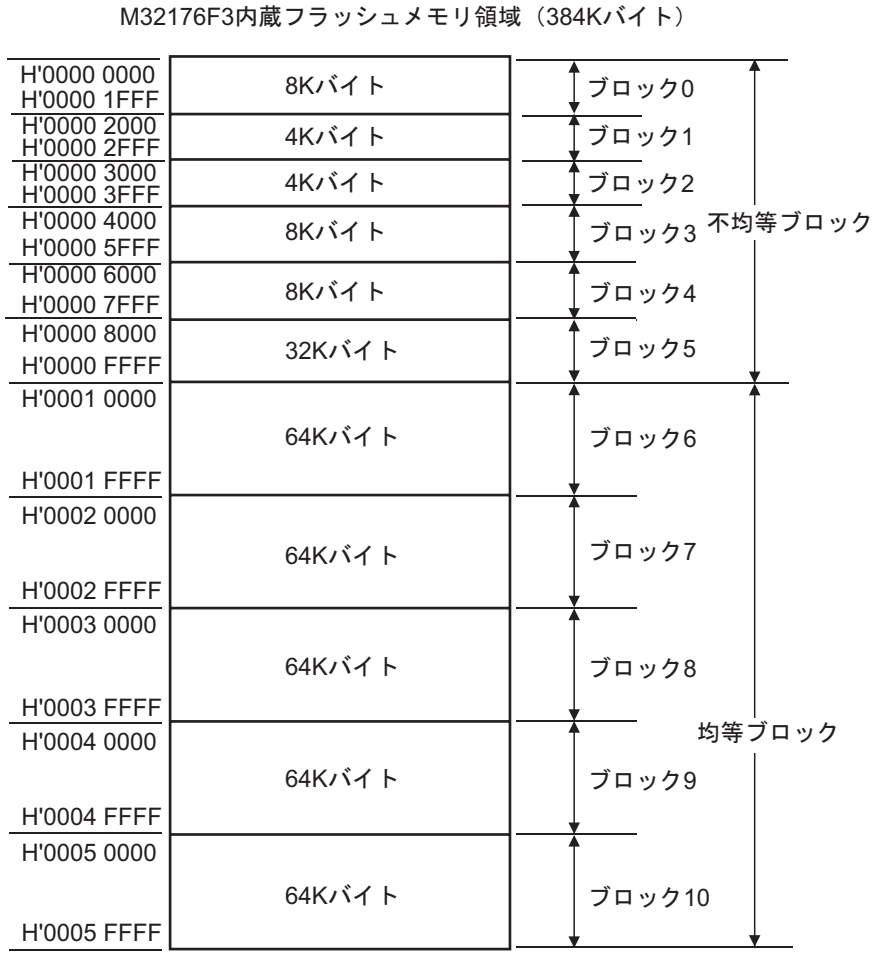


図6.3.2　M32176F3**フラッシュメモリのブロック構成**

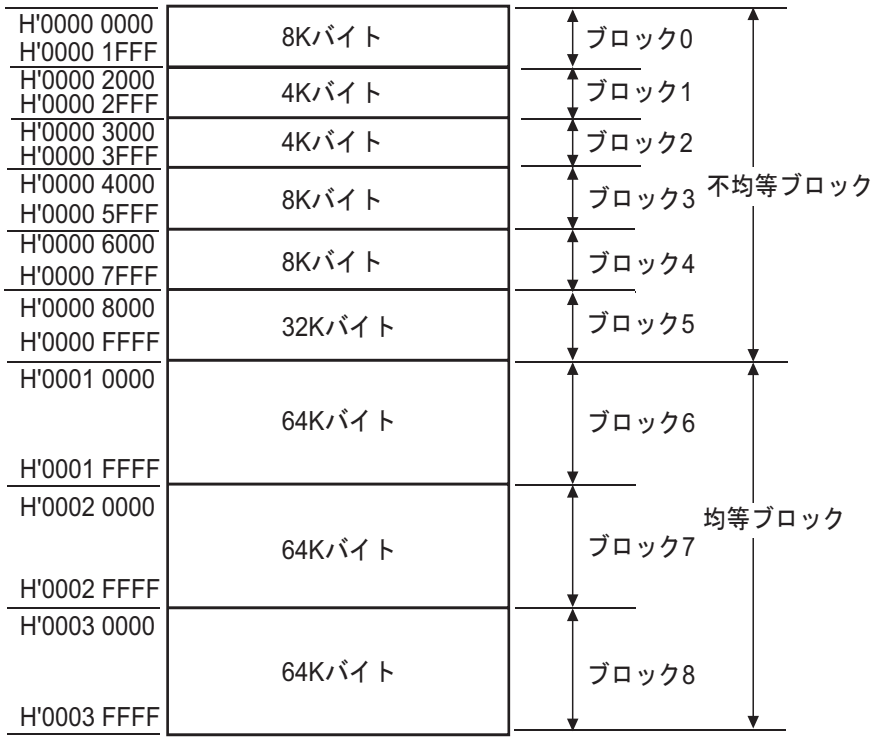


図6.3.3　M32176F2**フラッシュメモリのブロック構成**

6.4　内蔵フラッシュメモリ関連レジスタ

内蔵フラッシュメモリ関連のレジスタマップを以下に示します。

内蔵フラッシュメモリ関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 07E0	フラッシュモードレジスタ (FMOD)	フラッシュステータスレジスタ (FSTAT)	6-7 6-8
H'0080 07E2	フラッシュ制御レジスタ1 (FCNT1)	フラッシュ制御レジスタ2 (FCNT2)	6-9 6-10
H'0080 07E4	フラッシュ制御レジスタ3 (FCNT3)	フラッシュ制御レジスタ4 (FCNT4)	6-11 6-13
H'0080 07E6	(使用禁止領域)		
H'0080 07E8	疑似フラッシュLバンクレジスタ0 (FELBANK0)		6-15
H'0080 07EA	疑似フラッシュLバンクレジスタ1 (FELBANK1)		6-15
～	(使用禁止領域)		
H'0080 07F0	疑似フラッシュSバンクレジスタ0 (FESBANK0)		6-16
H'0080 07F2	疑似フラッシュSバンクレジスタ1 (FESBANK1)		6-16

6.4.1　フラッシュモードレジスタ

フラッシュモードレジスタ（FMOD）　　**<アドレス：**H'0080 07E0**>**

b0	1	2	3	4	5	6	b7
			FAENS				FPMOD
0	0	0	1	0	0	0	?

<リセット解除時：H'1?**>**

b	ビット名	機能	R	W
0～2	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
3	FAENS **フラッシュアクセス許可ステータスビット**	0：**フラッシュアクセス禁止状態** 1：**フラッシュアクセス許可状態**	R	－
4～6	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
7	FPMOD **外部**FP**端子ステータスビット**	0：FP**端子**＝"L" 1：FP**端子**＝"H"	R	－

(1) FAENS（**フラッシュアクセス許可ステータス**）**ビット**　(b3)

フラッシュメモリに対するアクセスの許可/禁止状態を示すビットです。フラッシュ制御レジスタ4（FCNT4）のFRESETビットによるフラッシュリセット、またはフラッシュメモリに対する書き込み/消去を行うと"0"となり、フラッシュメモリへのアクセスが禁止状態となります。フラッシュメモリへのアクセスが可能な状態になると"1"にセットされます。ただし、FRESETビットによるフラッシュリセット解除、またはフラッシュメモリに対する書き込み/消去後にFAENSビットが"0"から"1"になるのに最大20μsかかります。

(2) FPMOD（**外部**FP**端子ステータス**）**ビット**　(b7)

FPMODはFP（Flash Protect）端子の入力レベルを示すステータスビットです。

FPMODが"1"の時のみ、フラッシュメモリへの書き込み/消去が許可状態となり、FPMODが"0"の時に実行したフラッシュメモリへの書き込み/消去は無効となります。

6.4.2　フラッシュステータスレジスタ

フラッシュステータスレジスタ（FSTAT）　　**<アドレス：**H'0080 07E1**>**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
FBUSY 1	 0	ERASE 0	WRERR 0	 0	FESQ1 0	FESQ2 0	 0

<リセット解除時：H'80**>**

b	ビット名	機能	R	W
8	FBUSY **フラッシュビジービット**	0：**書き込み、または消去中** 1：**レディ状態**	R	－
9	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
10	ERASE **消去動作状況確認ビット**	0：**消去正常動作中/終了** 1：**消去エラー発生**	R	－
11	WRERR **書き込み動作状況確認ビット**	0：**書き込み正常動作中/終了** 1：**書き込みエラー発生**	R	－
12	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
13	FESQ1 **予約ビット**		?	－
14	FESQ2 **予約ビット**		?	－
15	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0

フラッシュステータスレジスタ（FSTAT）はフラッシュメモリの動作状態を示す以下のステータスビットで構成されています。

(1) FBUSY**（フラッシュビジー）ビット**　（b8）

FBUSYビットは、フラッシュメモリへの書き込み、および消去処理実行時に終了判定を行うビットです。
このビットが"0"のとき処理実行中を示し、"1"のとき終了を示します。

(2) ERASE**（消去動作状況確認）ビット**　（b10）

ERASEビットは、フラッシュメモリへの消去処理実行後エラー判定を行うビットです。
このビットが"0"のとき正常終了を示し、"1"のとき消去エラーを示します。また、無効コマンドを発行したときも、"1"にセットされます。

(3) WRERR**（書き込み動作状況確認）ビット**　（b11）

WRERRビットはフラッシュメモリへの書き込み処理完了後エラー判定を行うビットです。
このビットが"0"のとき正常終了を示し、"1"のとき書き込みエラーを示します。また、無効コマンドを発行したときも、"1"にセットされます。

注．・フラッシュメモリに対する書き込み/消去処理の強制終了を除き、FBUSY**ビットが**"0"**（書き込み/消去中）の間は、フラッシュ制御レジスタ**4（FCNT4）**の**FRESET**ビットを操作しないでください。**

6.4.3　フラッシュ制御レジスタ

フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)　　**<アドレス：**H'0080 07E2**>**

b0	1	2	3	4	5	6	b7
			FENTRY				FEMMOD
0	0	0	0	0	0	0	0

<リセット解除時：H'00**>**

b	ビット名	機能	R	W
0～2	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
3	FENTRY **フラッシュ**E/W**イネーブルモードエントリビット**	0：**通常リード** 1：**書き込み/消去可能**	R	W
4～6	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
7	FEMMOD **疑似フラッシュエミュレーションモードビット**	0：**通常モード** 1：**疑似フラッシュエミュレーションモード**	R	W

フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)は内蔵フラッシュメモリの制御を行う以下の2つのビットで構成されています。

(1) FENTRY(**フラッシュ**E/W**イネーブルモードエントリ**)**ビット**　(b3)

FENTRYビットはフラッシュE/Wイネーブルモードへの移行を制御するビットです。このビットが"1"の場合のみフラッシュE/Wイネーブルモードへ移行します。

FENTRYビットに"1"をセットするには、FP端子＝"H"の状態でFENTRYビットに連続して"0"→"1"の書き込みが必要です。FENTRYビットを"0"にクリアする場合は、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"1"(レディ状態)であることを確認し、リードアレイコマンドを発行(もしくは、FRESETビットによるフラッシュリセット)し、FAENSビットが"1"であることを確認した上で、FENTRYビットに"0"を書き込みます。

内蔵フラッシュメモリへの書き込み/消去中(FSTATレジスタのFBUSYビットが"0")に、以下の条件にしないようにしてください。また、以下の条件のとき、FENTRYビットはハードウェア的に"0"にクリアされます。

1) FENTRY**ビットへの**"0"**書き込み**
2) FP**端子に**"L"**レベルを入力**
3) RESET#**端子に**"L"**レベルを入力**

FENTRYビットが"0"でフラッシュ上のプログラムを使用する場合には、EIベクタエントリは内蔵フラッシュメモリ上のH'0000 0080になります。FENTRYビットが"1"でフラッシュ書き込み/消去プログラムをRAM上で動作させる場合には、EIベクタエントリはRAM上のH'0080 4000になり、割り込みを使用したフラッシュ書き込み/消去制御が使用できます。

表6.4.1　FENTRY**による**EI**ベクタエントリの遷移**

FENTRY	EI**ベクタエントリ**	**番地**
0	**内蔵フラッシュメモリ領域**	H'0000 0080
1	**内蔵**RAM**領域**	H'0080 4000

(2) FEMMOD(**疑似フラッシュエミュレーションモード**)**ビット**　(b7)

FEMMODビットは、疑似フラッシュエミュレーションモードへの移行を制御するビットです。FENTRYビット＝"0"の状態でFEMMODビットに"1"をセットすると疑似フラッシュエミュレーションモードへ移行します。

(詳細については、「6.6 疑似フラッシュエミュレーション機能」を参照してください。)

フラッシュ制御レジスタ2（FCNT2）　　**＜アドレス：**H'0080 07E3**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			FLOCKS				FPROT
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8〜10	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
11	FLOCKS **ロックビットリードモードセレクトビット**	0：**メモリ領域リードモード** 1：**レジスタリードモード**	R（**注**1）	
12〜14	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
15	FPROT **ロックビットプロテクト制御ビット**	0：**ロックビットによるプロテクト有効** 1：**ロックビットによるプロテクト無効**	R（**注**1）	

注1．**フラッシュ**E/W**エントリモード**（FENTRY**ビット**＝"1"）**時のみ、書き込み可能です。**

(1) FLOCKS（**ロックビットリードモードセレクト**）**ビット**　（b11）

FLOCKSビットは、ロックビットステータス読み出し方法の選択を行うビットです。FLOCKSビットが"0"の場合、メモリ領域リードモードとなり、内蔵フラッシュメモリの任意アドレスに対してコマンドデータH'7171を発行後、対象ブロックの最終偶数アドレスを読み出すことによって、ロックビットステータスの確認が可能となります。FLOCKSビットが"1"の場合、レジスタリードモードとなり、対象ブロックの任意アドレスに対してコマンドデータH'7171とH'D0D0を連続発行後、FBUSYビットが"1"にセットされるとフラッシュ制御レジスタ4のFLOCKSTビットによってロックビットステータスの確認が可能となります。

FLOCKSビットは、FENTRYビット＝"1"のときのみ、書き込みが行えます。

また、以下の条件のときに、FLOCKSビットは"0"にクリアされます。

1）FLOCKS**ビットへの**"0"**書き込み**
2）FP**端子に**"L"**レベルを入力**
3）FENTRY**ビットを**"0"**にクリア**
4）RESET#**端子に**"L"**レベルを入力**

(2) FPROT（**ロックビットプロテクト制御**）**ビット**　（b15）

内蔵フラッシュメモリのロックビットによるプロテクト（内蔵フラッシュメモリへの書き込み/消去の禁止）無効の制御を行います。FPROTビットに"1"をセットすると、内蔵フラッシュメモリのプロテクトが無効となり、ロックビットでプロテクトされたブロックに対する書き込み/消去が可能となります。

FPROTビットに"1"をセットするには、FENTRYビット＝"1"の状態でFPROTビットに連続して"0"→"1"の書き込みを行います。FPROTビットを"0"にクリアする場合は、FPROTビットに"0"を書き込みます。

また、以下の条件のときに、FPROTビットは"0"にクリアされます。

1）FPROT**ビットへの**"0"**書き込み**
2）FP**端子に**"L"**レベルを入力**
3）FENTRY**ビットを**"0"**にクリア**
4）RESET#**端子に**"L"**レベルを入力**

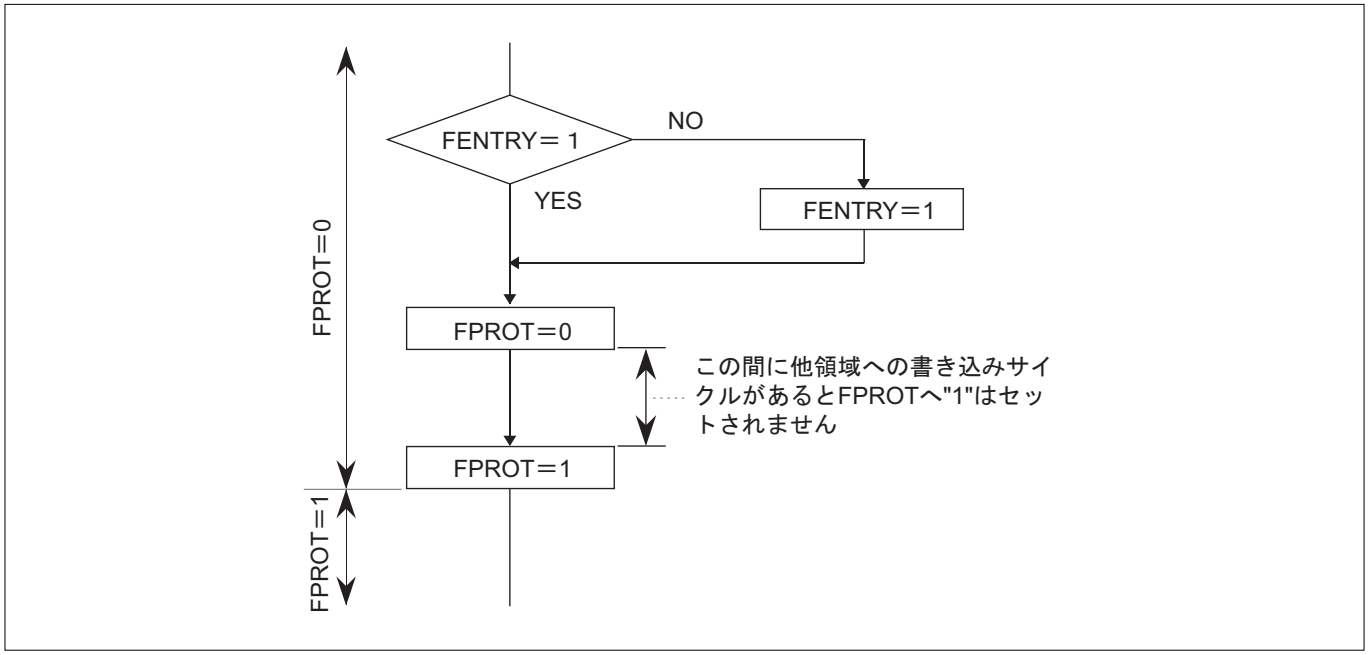


図6.4.1 **プロテクト解除フロー**

フラッシュ制御レジスタ3(FCNT3)　　**＜アドレス：**H'0080 07E4**＞**

b0	1	2	3	4	5	6	b7
0	0	0	FBSYCK 1	0	0	0	FPBSYCK 1

＜リセット解除時：H'11**＞**

b	**ビット名**	**機能**	R	W
0〜2	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
3	FBSYCK **ビジー確認ビット**	0**：正常コマンド受付** 1**：異常コマンド受付**	R	−
4〜6	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
7	FPBSYCK **プリビジー確認ビット**	0**：正常コマンド受付** 1**：異常コマンド受付**	R	−

フラッシュ制御レジスタ3(FCNT3)は、内蔵フラッシュメモリ書き込み/消去プログラム開発時に、正常にコマンドを受け付けたことを確認するレジスタです。動作確認完了後のプログラムでは、使用する必要はありません。

(1) FBSYCK(**ビジー確認**)**ビット**　(b3)

フラッシュE/Wイネーブルモード時、フラッシュメモリに対して発行する2サイクルコマンド(確認コマンドH'D0D0または書き込みデータを必要とするコマンド)が正常に受け付けられたかを確認するビットです。2サイクル目のコマンド(確認コマンドH'D0D0または書き込みデータ)発行後、FBSYCKビットが"0"であれば2サイクル目の正常コマンド受付を示し、FBSYCKビットが"1"であれば2サイクル目のコマンドを正常に受け付けなかったことを示します。

また、以下の条件のときに、FBSYCKビットは"1"にセットされます。

1) 2**サイクルコマンドの**1**サイクル目のコマンド受付**
2) FRESET**ビット**＝"1"
3) RESET#**端子に**"L"**レベルを入力**

(2) FPBSYCK(プリビジー確認)ビット　(b7)

フラッシュE/Wイネーブルモード時、フラッシュメモリに対して発行する2サイクルコマンド(確認コマンドH'D0D0または書き込みデータを必要とするコマンド)が正常に受け付けられたかを確認するビットです。1サイクル目のコマンド発行直後、FPBSYCKビットが"0"であれば1サイクル目の正常コマンド受付を示し、FPBSYCKビットが"1"であれば1サイクル目のコマンドを正常に受け付けなかったことを示します。

また、以下の条件のときに、FPBSYCKビットは"1"にセットされます。

1) レディ状態(2サイクル目コマンド受付後で、かつFBUSY＝"H")
2) クリアステータスレジスタコマンドの発行
3) FRESETビット＝"1"
4) RESET#端子に"L"レベルを入力

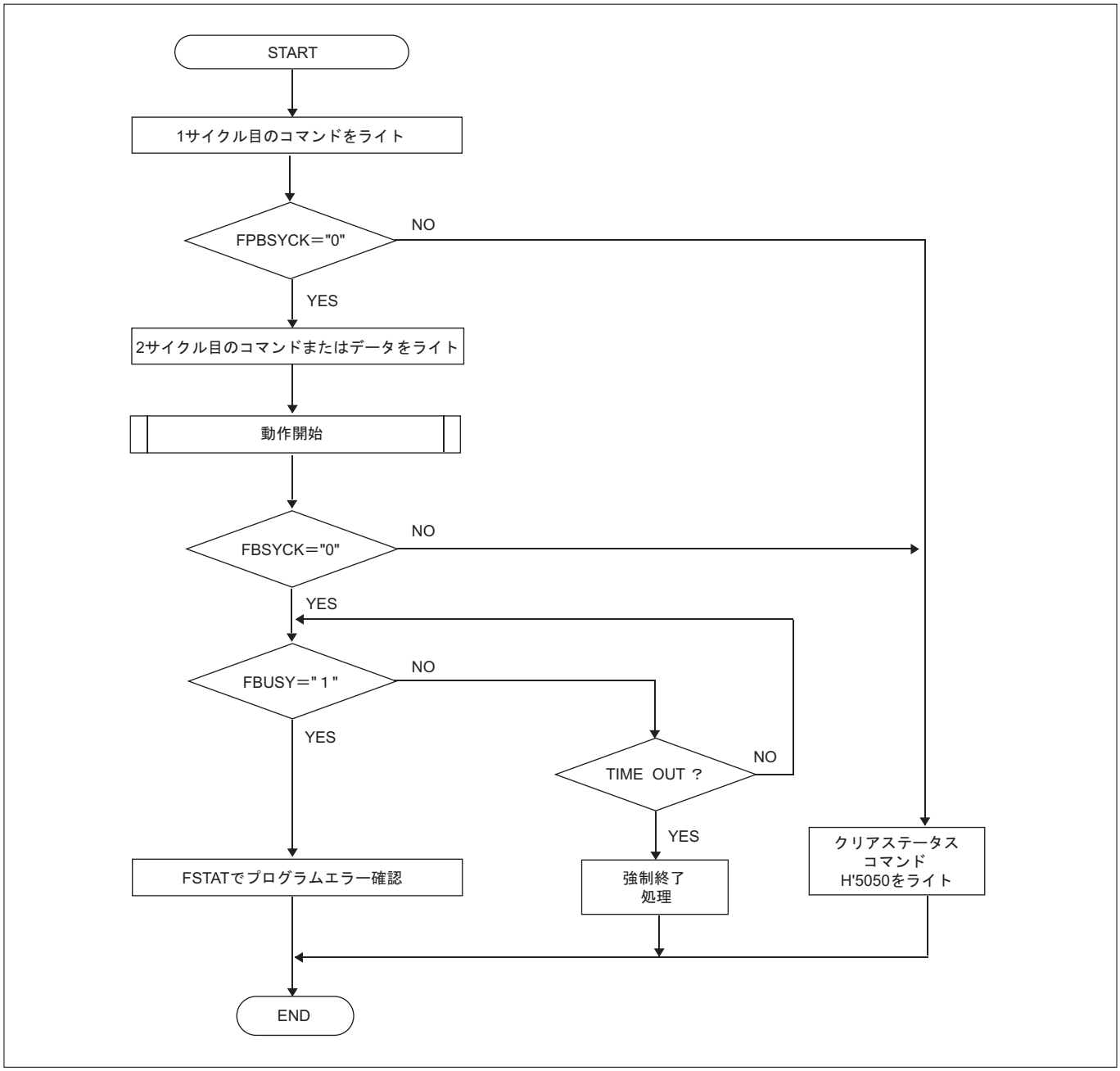


図6.4.2　FCNT3によるコマンド受付確認方法

フラッシュ制御レジスタ4（FCNT4）　　**＜アドレス：H'0080 07E5＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	FLOCKST 0	0	0	0	FRESET 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	**何も配置されていません。"0"に固定してください。**		0	0
11	FLOCKST **ロックビットステータスビット**	0：**プロテクト状態** 1：**非プロテクト状態**	（注1）	ー
12～14	**何も配置されていません。"0"に固定してください。**		0	0
15	FRESET **フラッシュリセットビット**	0：**何もしません** 1：**リセット**	R	W

注1．　フラッシュ制御レジスタ2のFLOCKSビットを"1"（レジスタリードモード）に設定した状態において、リードロックビットステータスコマンド発行後の読み出し値のみ有効となります。FLOCKSビットを"0"（メモリ領域リードモード）に設定した状態のリードロックビットステータスコマンド発行後および、その他内蔵フラッシュ制御コマンド発行後の読み出し値は不定となります。

(1) FLOCKST（ロックビットステータス）ビット　（b11）

ロックビットステータスの読み出しを行うビットです。FLOCKSTビットが"0"の場合、該当メモリブロックがプロテクト状態であることを示し、FLOCKSTビットが"1"の場合、該当メモリブロックが非プロテクト状態であることを示します。

FLOCKSTビットによるロックビットステータスの確認は、FLOCKSビット＝"1"の場合に有効となります。このとき、対象ブロックの任意アドレスに対してコマンドデータH'7171とH'D0D0を連続発行後、FBUSYビットが"1"にセットされるとFLOCKSTビットによってロックビットステータスの確認が可能となります。

(2) FRESET（フラッシュリセット）ビット　（b15）

内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去動作の強制終了、またはフラッシュステータスレジスタ（FSTAT）の各ステータスビットの初期化（H'80）、およびフラッシュ制御レジスタ3（FCNT3）のFPBSYCKビットの初期化を制御するビットです。

FRESETビットに"1"をセットすると、書き込み/消去動作の強制終了、FSTATの各ステータスビットの初期化（H'80）、およびFPBSYCKビットの初期化を行います。フラッシュリセット解除時、FRESET＝"1"状態を10μs以上保持ください。

フラッシュリセット解除後、FAENSビットが"1"にセットされるまでは内蔵フラッシュメモリに対するアクセスは不許可状態となります。

FRESETビットは、FENTRYビット＝"1"の場合のみ有効です。FENTRYビット＝"1"以外は、FRESETビットの設定を無視します。フラッシュメモリへの書き込み/消去時には、FRESETビット＝"0"の状態で制御ください。

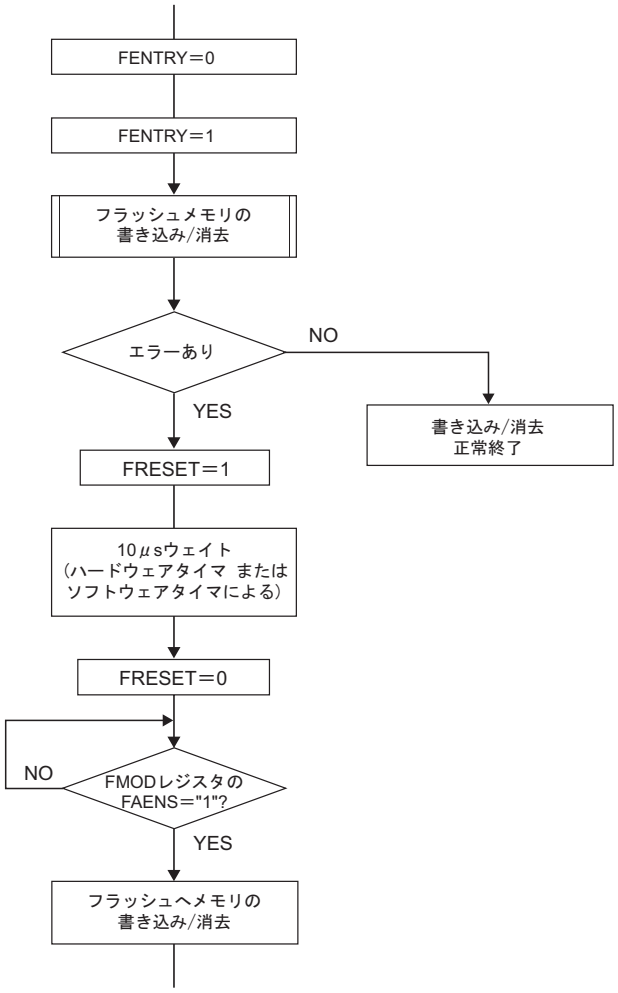


図6.4.3 FRESET**ビットの使用例**1**（フラッシュステータスレジスタ**2**の初期化）

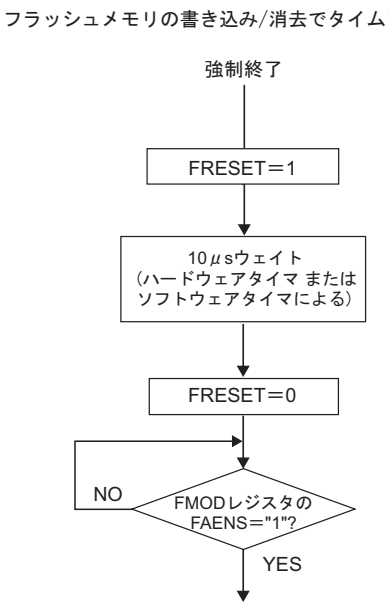


図6.4.4 FRESET**ビットの使用例**2**（フラッシュメモリの書き込み/消去強制終了）

6.4.4　疑似フラッシュLバンクレジスタ

疑似フラッシュLバンクレジスタ0(FELBANK0)　　**<アドレス：**H'0080 07E8**>**
疑似フラッシュLバンクレジスタ1(FELBANK1)　　**<アドレス：**H'0080 07EA**>**

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
MODENL								LBANKAD							
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<リセット解除時：H'0000**>**

b	ビット名	機能	R	W
0	MODENL **疑似フラッシュエミュレーションLイネーブルビット**	0：**疑似フラッシュ機能ディスエーブル** 1：**疑似フラッシュ機能イネーブル**	R	W
1～7	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
8～14	LBANKAD L**バンクアドレスビット**	**該当**L**バンクの先頭アドレスの**A12～A18	R	W
15	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

(1) MODENL**(疑似フラッシュエミュレーション**L**イネーブル)ビット**　(b0)

疑似フラッシュエミュレーションモードへ移行(FENTRYビット＝"0"の状態でFEMMODビットに"1"をセット)後、MODENLビットに"1"をセットすることで、LBANKADビットで選択したLバンク領域に対して、疑似フラッシュエミュレーション機能が有効になります。

(2) LBANKAD(L**バンクアドレス)ビット**　(b8～b14)

LBANKADビットは、8Kバイトごとに区切られたLバンクから1つのLバンクを選択するためのビットです。選択したいLバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A18(b8がA12、b14がA18のアドレスに対応)の7ビットをLBANKADビットに設定します。

注．・詳細については、「6.6 **疑似フラッシュエミュレーション機能」を参照してください。**

6.4.5　疑似フラッシュSバンクレジスタ

疑似フラッシュSバンクレジスタ0(FESBANK0)　　**＜アドレス：**H'0080 07F0**＞**
疑似フラッシュSバンクレジスタ1(FESBANK1)　　**＜アドレス：**H'0080 07F2**＞**

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
MODENS								SBANKAD							
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000**＞**

b	ビット名	機能	R	W
0	MODENS **疑似フラッシュエミュレーションSイネーブルビット**	0**：疑似フラッシュ機能ディスエーブル** 1**：疑似フラッシュ機能イネーブル**	R	W
1〜7	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
8〜15	SBANKAD S**バンクアドレスビット**	**該当**S**バンクの先頭アドレスの**A12〜A19	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

(1) MODENS(疑似フラッシュエミュレーションSイネーブル)ビット　(b0)

疑似フラッシュエミュレーションモードへ移行(FENTRYビット＝"0"の状態でFEMMODビットに"1"をセット)後、MODENSビットに"1"をセットすることで、SBANKADビットで選択したSバンク領域に対して、疑似フラッシュエミュレーション機能が有効になります。

(2) SBANKAD(Sバンクアドレス)ビット　(b8〜b15)

SBANKADビットは、4Kバイトごとに区切られたSバンクから1つのSバンクを選択するためのビットです。選択したいSバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12〜A19(b8がA12、b15がA19に対応)の8ビットをSBANKADビットに設定します。

注．・詳細については、「6.6 疑似フラッシュエミュレーション機能」を参照してください。

6.5　内蔵フラッシュメモリの書き込み

6.5.1　内蔵フラッシュメモリ書き込みの概要

内蔵フラッシュメモリへ書き込み/消去を行う場合、次の2つの方法があります。

(1) 内蔵フラッシュメモリ上にフラッシュ書き込み/消去プログラムがない場合
(2) 内蔵フラッシュメモリ上にすでにフラッシュ書き込み/消去プログラムがある場合

(1)の場合は、FP端子＝"H"、MOD0＝"H"、MOD1＝"L"に設定し、動作モードをブートモードに移行します。リセットを解除するとブートプログラムの実行を開始します。
ブートプログラムは、「フラッシュ書き込み/消去プログラム」を内蔵RAMに転送します。転送後、RAM上へジャンプし、RAM上のプログラムでフラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットに"1"をセットし、内蔵フラッシュメモリを書き込み/消去可能な状態(ブートモード＋フラッシュE/Wイネーブルモード)にします。
以後は内蔵RAM上に転送した「フラッシュ書き込み/消去プログラム」により、内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去を実行します。

(2)の場合は、FP端子＝"H"、MOD0＝"L"、MOD1＝"L"に設定し、シングルチップモードに移行します。あらかじめ内蔵フラッシュメモリ内に用意した「フラッシュ書き込み/消去プログラム」を内蔵RAMに転送します。転送後、RAM上へジャンプし、RAM上のプログラムでフラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットを"1"にセットし、内蔵フラッシュメモリを書き込み/消去が可能な状態(シングルチップモード＋フラッシュE/Wイネーブルモード)にします。
以後は内蔵RAM上に転送した「フラッシュ書き込み/消去プログラム」により、内蔵フラッシュメモリへの書き込み/消去を実行します。FP端子＝"H"、MOD0＝"L"、MOD1＝"H"に設定し、外部拡張モードでフラッシュE/Wイネーブルモードに移行することもできます。

フラッシュE/Wイネーブルモード(FP端子＝1、FENTRY＝1)時は、外部割り込み(EI)のEITベクタエントリが 内蔵RAMの先頭(H'0080 4000)に移動します。通常モード時はフラッシュ領域(H'0000 0080)になります。

フラッシュE/Wイネーブルモードで外部割り込み(EI)を使用する場合は、内蔵RAMの先頭に、内蔵RAMに転送した外部割り込み(EI)ハンドラへの分岐命令を記述します。また、外部割り込み(EI)ハンドラで読み出すIVECTレジスタには、フラッシュメモリ上のICUベクタテーブルアドレスが格納されます。そのため、フラッシュE/Wイネーブルモード時に使用するICUベクタテーブルを内蔵RAM上に用意し、IVECTレジスタの値を内蔵RAM上のICUベクタテーブルのアドレスに変換(オフセット分を加算など)して、分岐処理を行います。

ブートモードで起動した場合、「フラッシュ書き込み/消去プログラム」が内蔵RAMへ転送されるため、ブートモードで起動後の内蔵RAM値は不定となります。

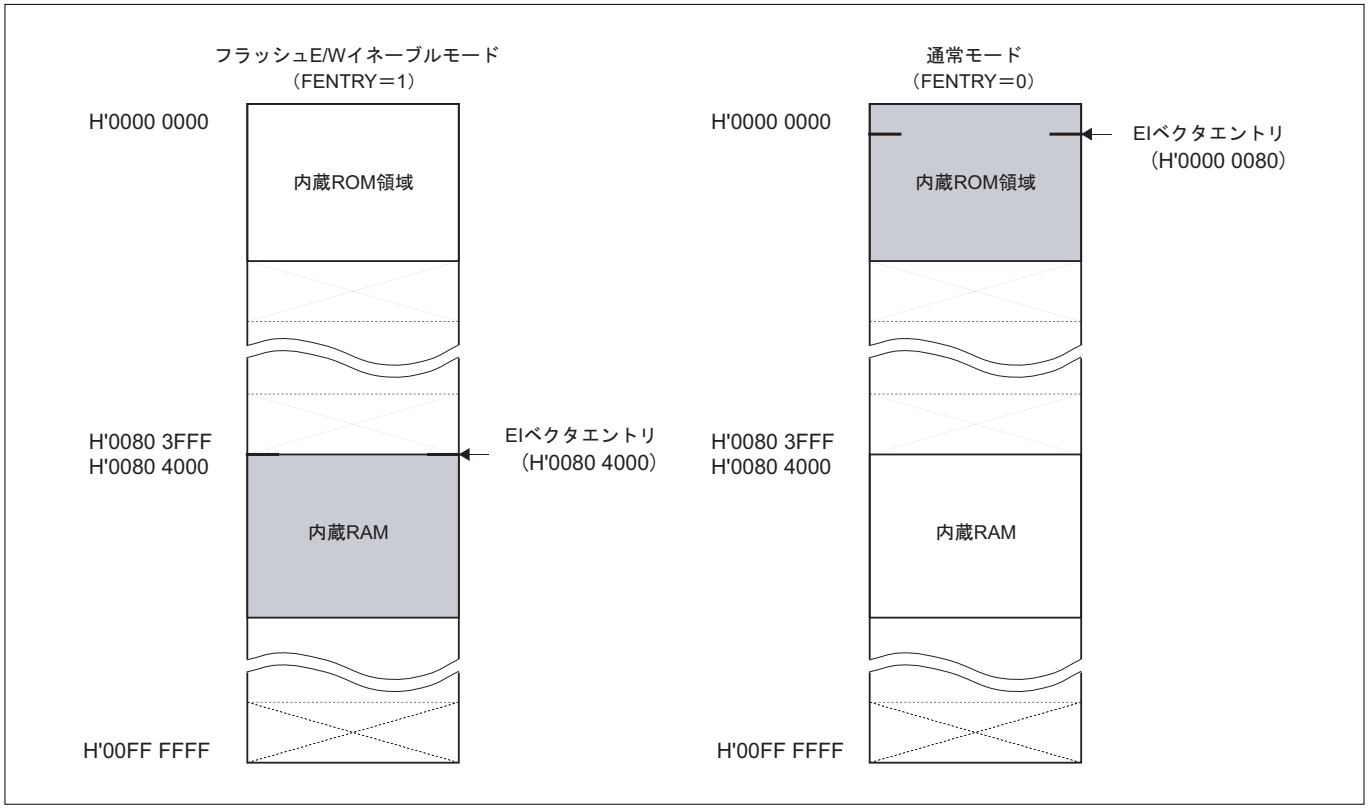


図6.5.1　**フラッシュ**E/W**イネーブルモード時の**EI**ベクタエントリ**

(1) 内蔵フラッシュメモリ上に書き込み/消去プログラムがない場合

ブートプログラムにより、内蔵フラッシュメモリを書き込み/消去します。書き込みデータの転送には、シリアルインタフェースのSIO1をクロック同期シリアルインタフェース、またはクロック非同期シリアルインタフェースで使用します。

フラッシュプログラマでのフラッシュ書き込み/消去は以下の手順を実行します。

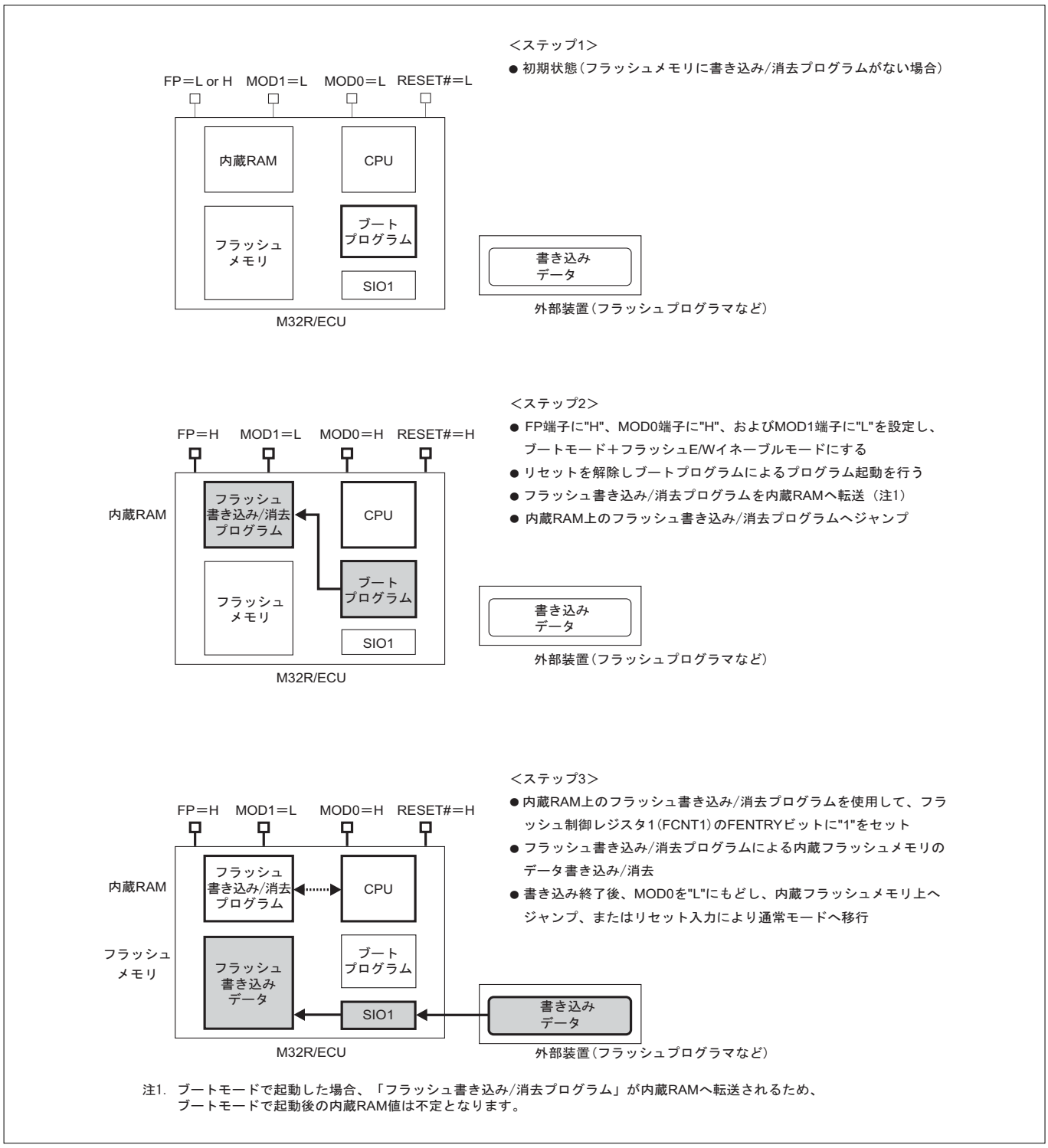


図6.5.2　内蔵フラッシュメモリへの書き込み/消去手順（書き込み/消去プログラムが内蔵フラッシュメモリ上にない場合）

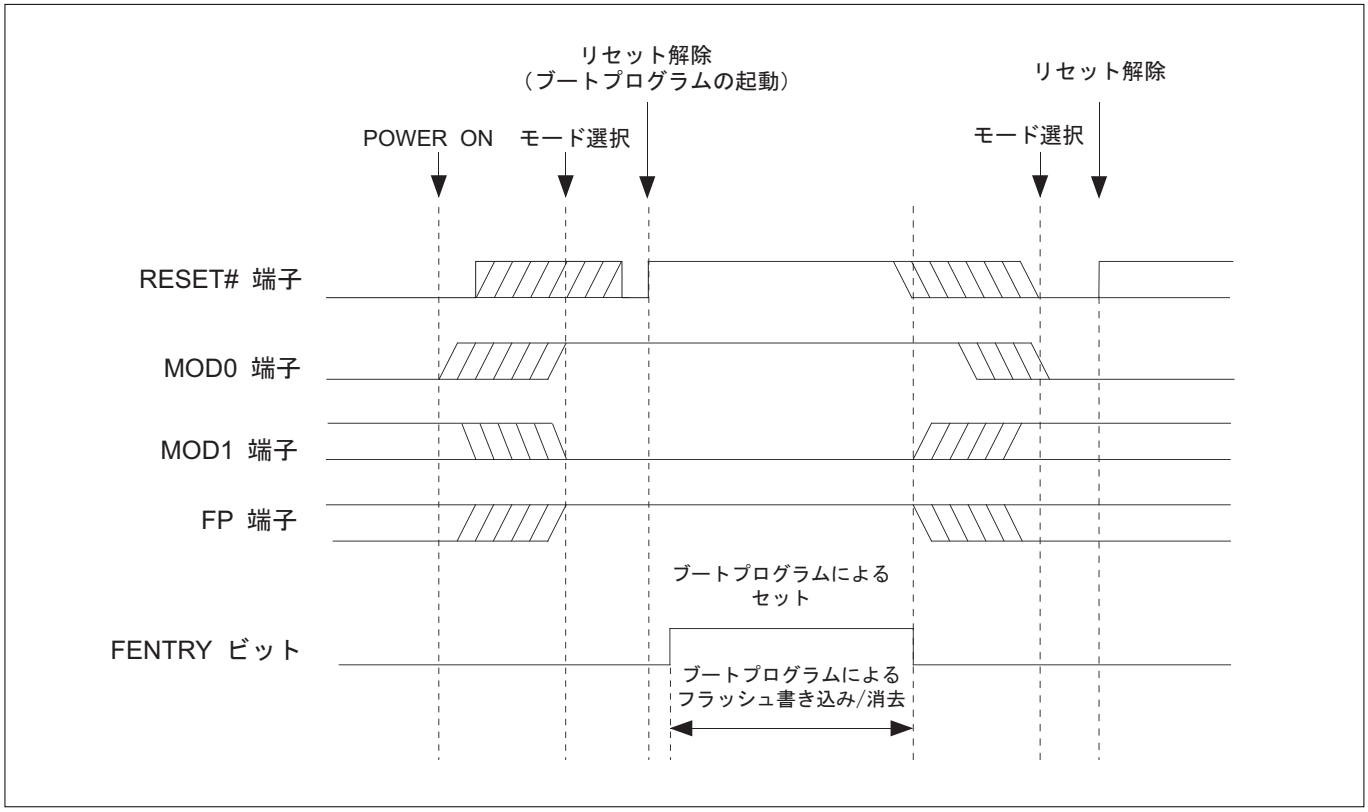


図6.5.3　内蔵フラッシュメモリ書き込み/消去制御端子タイミング（書き込み/消去プログラムが内蔵フラッシュメモリ上にない場合）

(2) 内蔵フラッシュメモリ上にすでに書き込み/消去プログラムがある場合

内蔵フラッシュメモリ上に配置したフラッシュ書き込み/消去プログラムにより、内蔵フラッシュメモリに書き込みます。

書き込み/消去にはシステムに合わせて内蔵周辺回路を使用します。（データバスおよびシリアルインタフェース、ポート等内蔵する周辺回路の資源をすべて使用できます。）

以下に、シングルチップモードでSIO0を使用した書き込み/消去例を示します。

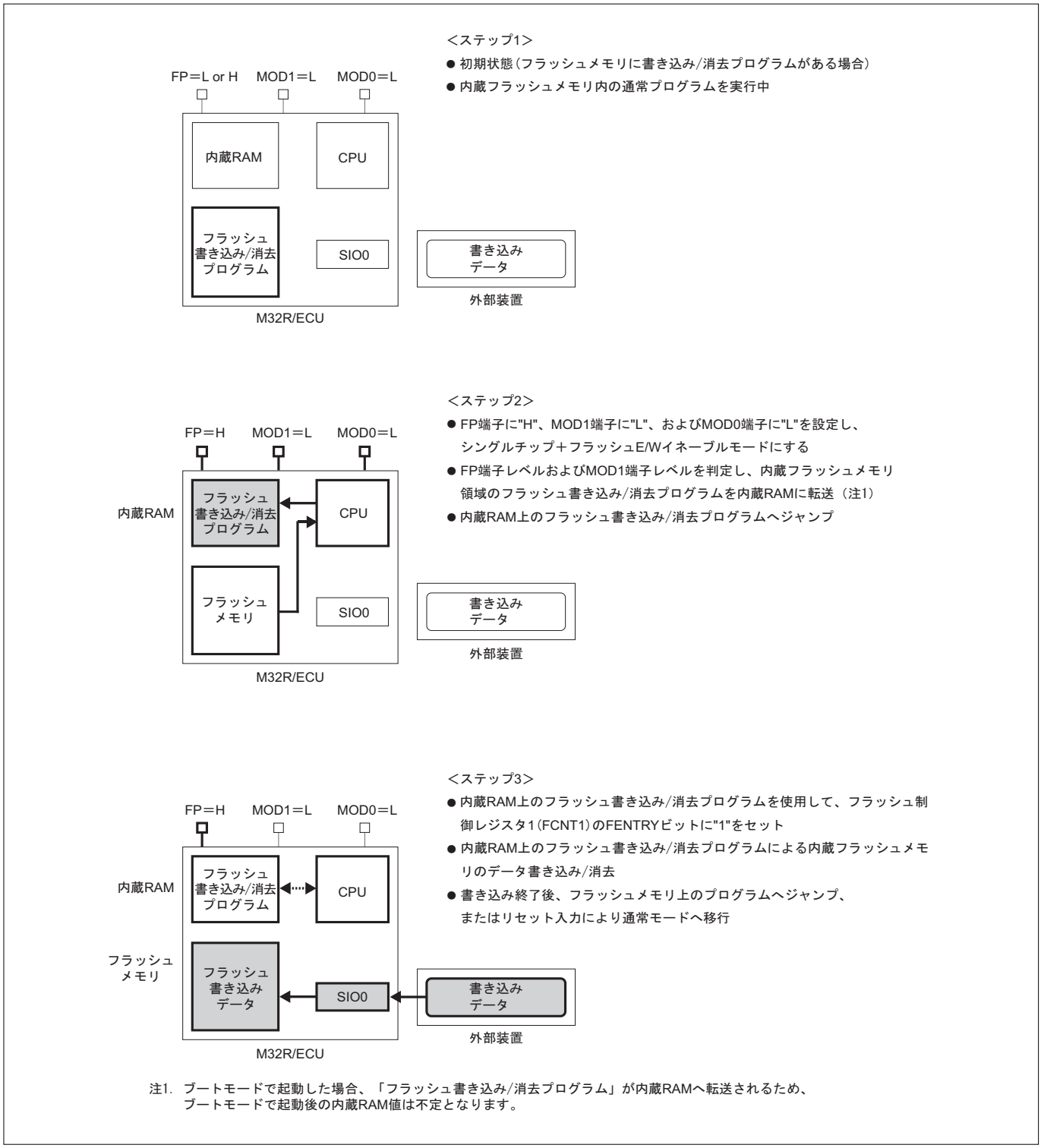


図6.5.4　内蔵フラッシュメモリへの書き込み/消去手順（書き込み/消去プログラムが内蔵フラッシュメモリ上にある場合）

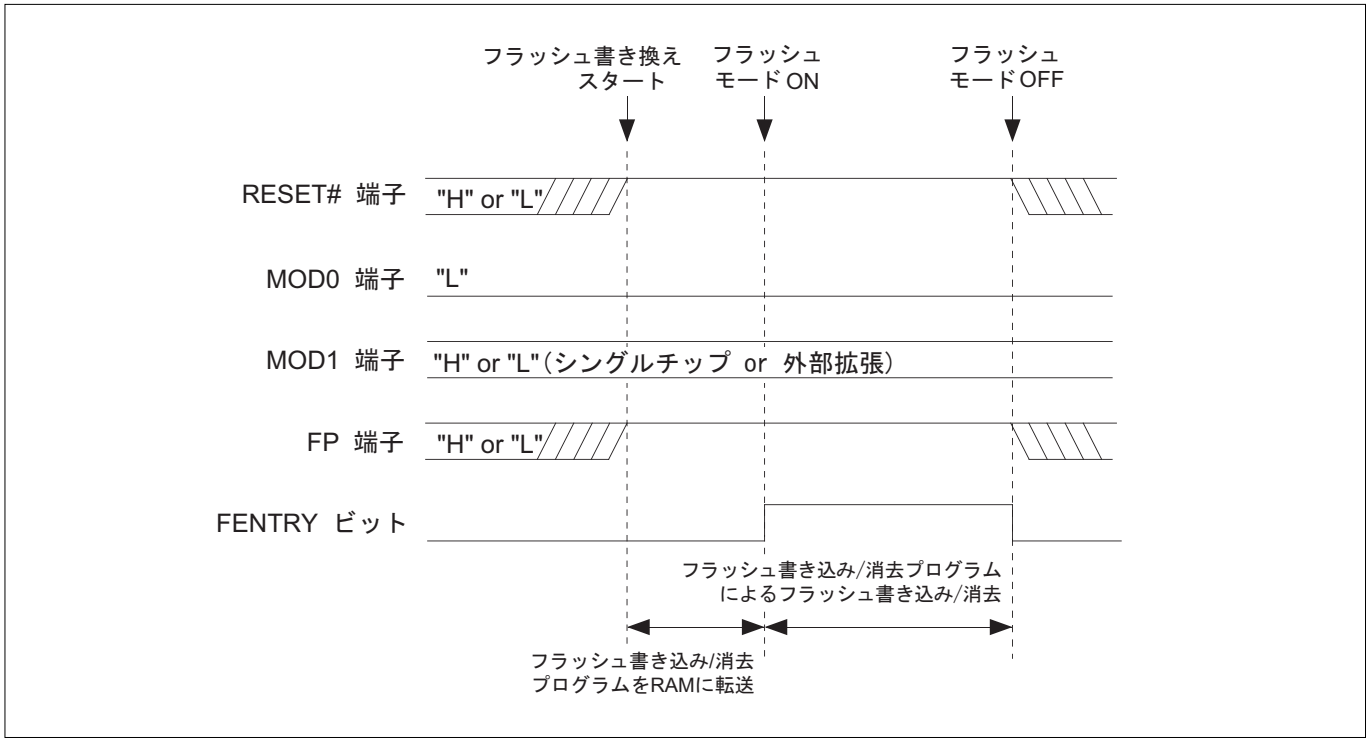


図6.5.5　内蔵フラッシュメモリ書き込み/消去制御端子タイミング（書き込み/消去プログラムが内蔵フラッシュメモリ上にある場合）

6.5.2　フラッシュ書き込み時における動作モードの制御

チップ動作モードはMOD0、MOD1、およびフラッシュ制御レジスタ1（FCNT1）のFENTRYビットで設定されます。以下にフラッシュ書き込み時における動作モードの一覧を示します。

表6.5.1　フラッシュ書き込み/消去時における動作モードの設定

FP	MOD0	MOD1	FENTRY（注1）	動作モード	リセットベクタエントリ	EIベクタエントリ
0	0	0	0	シングルチップモード	内蔵フラッシュメモリ先頭番地（H'0000 0000）	フラッシュ領域（H'0000 0080）
1	0	0	0			
0	1	0	0	プロセッサモード	外部領域先頭番地（H'0000 0000）	外部領域（H'0000 0080）
0	0	1	0	外部拡張モード	内蔵フラッシュメモリ先頭番地（H'0000 0000）	フラッシュ領域（H'0000 0080）
1	0	1	0			
1	0	0	1	シングルチップモード＋フラッシュE/Wイネーブル	内蔵フラッシュメモリ先頭番地（H'0000 0000）	内蔵RAMの先頭（H'0080 4000）
1	1	0	0	ブートモード	ブートプログラムの実行開始番地	フラッシュ領域（H'0000 0080）
1	1	0	1	ブートモード＋フラッシュE/Wイネーブル	ブートプログラムの実行開始番地	内蔵RAMの先頭（H'0080 4000）
1	0	1	1	外部拡張モード＋ フラッシュE/Wイネーブル	内蔵フラッシュメモリ先頭番地（H'0000 0000）	内蔵RAMの先頭（H'0080 4000）
－	1	1	－	使用禁止	－	－

注1．フラッシュ制御レジスタ1（FCNT1）内のFENTRYビット（－：Don't Care）の状態を示します。しかし、FPが"0"の場合は、FENTRYに"1"を書き込んでも"0"にしかなりません。
注2．MOD2端子は必ず"0"：グランド（GND）に接続してください。

(1) フラッシュE/Wイネーブルモード

フラッシュE/Wイネーブルモードは、内蔵フラッシュメモリへの書き込みと消去をするモードです。フラッシュE/Wイネーブルモードでは、内蔵フラッシュメモリ上でのプログラムは実行できません。したがって、フラッシュE/Wイネーブルモード移行前に必要なプログラムを内蔵RAM上に転送し、内蔵RAM上でプログラム動作を行う必要があります。

(2) フラッシュE/Wイネーブルモードへの移行

フラッシュE/Wイネーブルモードに移行できるのは、シングルチップモードと外部拡張モードとブートモードだけです。FP端子が"H"レベルで、フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットが"1"の場合のみ、「フラッシュE/Wイネーブルモード」に移行します。プロセッサモードおよびFP端子が"L"の場合は移行できません。

(3) MOD0端子、MOD1端子レベルの検出

MOD0およびMOD1端子レベル("H" or "L")は、P8データレジスタ(ポートデータレジスタ、H'0080 0708)のMOD0DTビットおよびMOD1DTビットで確認できます。

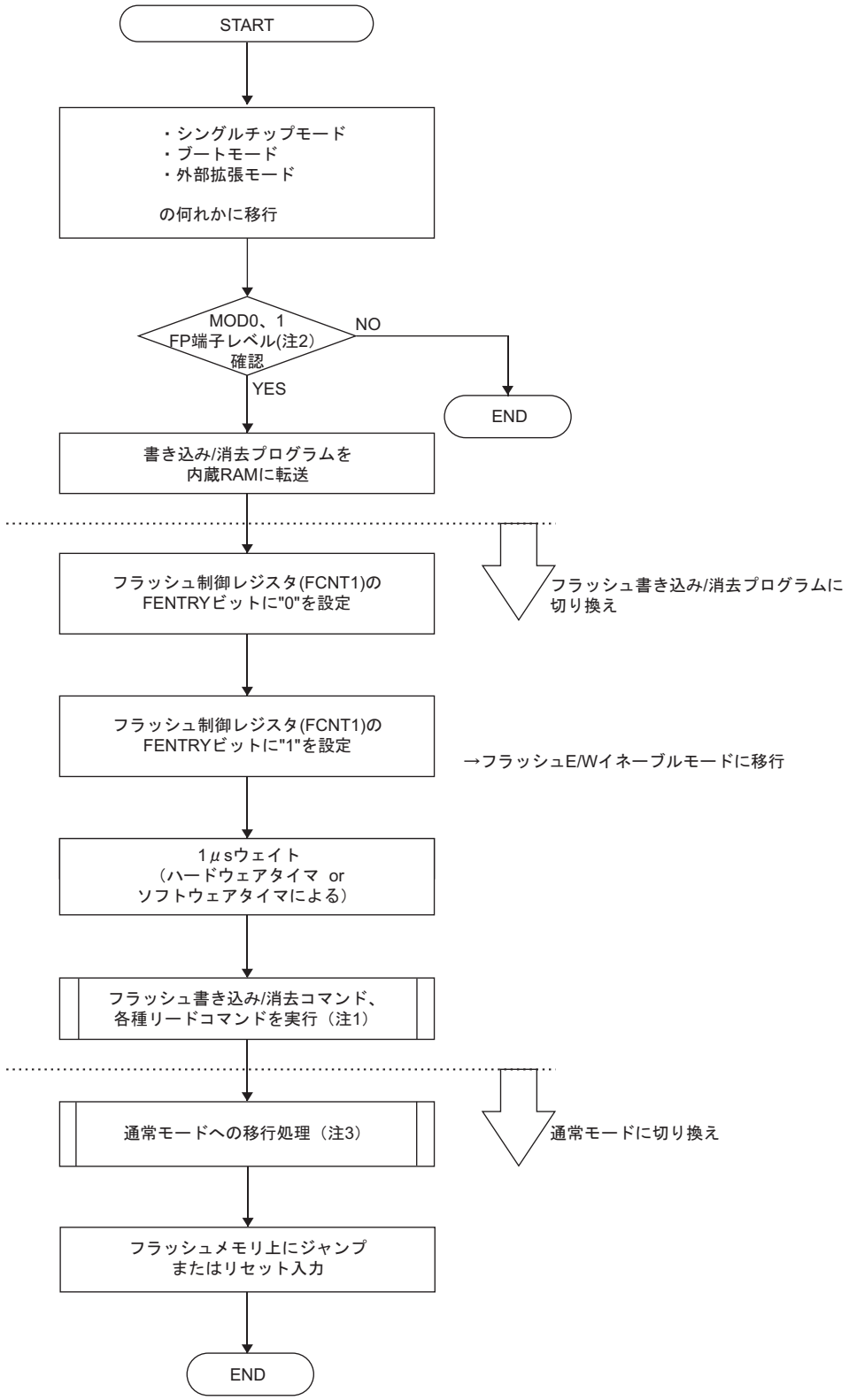
P8データレジスタ(P8DATA) ＜アドレス：H'0080 0708＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MOD0DT	MOD1DT	P82DT	P83DT	P84DT	P85DT	P86DT	P87DT
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

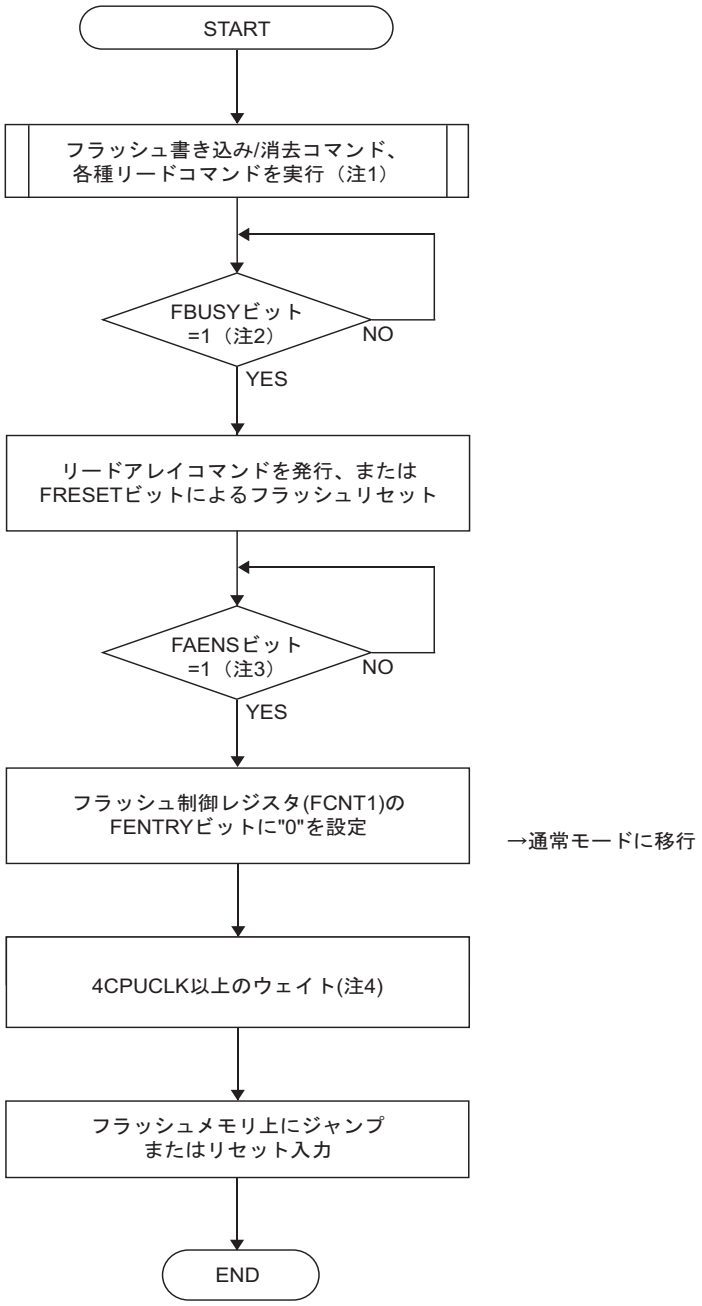
b	ビット名	機能	R	W
0	MOD0DT MOD0データビット	0：MOD0端子="L" 1：MOD0端子="H"	R	ー
1	MOD1DT MOD1データビット	0：MOD1端子="L" 1：MOD1端子="H"	R	ー
2	P82DT ポートP82データビット	＜読み出し時＞ ポート方向レジスタの設定により ・方向ビットが"0"(入力モード)の場合 0：ポート入力端子="L" 1：ポート入力端子="H" ・方向ビットが"1"(出力モード)の場合 (注1) 0：ポート出力ラッチ="0"/ポート端子レベル="L" 1：ポート出力ラッチ="1"/ポート端子レベル="H" ＜書き込み時＞ ポート出力ラッチへの書き込み	R	W
3	P83DT ポートP83データビット			
4	P84DT ポートP84データビット			
5	P85DT ポートP85データビット			
6	P86DT ポートP86データビット			
7	P87DT ポートP87データビット			

注1．読み出し対象の選択は、ポート入力特別機能制御レジスタのポート入力データ選択ビット(PISEL)で設定します。



注1. 各種コマンドの詳細については、「6.6.3 内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去手順」を参照してください。
注2. FMODレジスタにあるFPMODビット、およびP8DATAレジスタにあるMOD0DT、MOD1DTビットにより確認する。
注3. 通常モードへの移行手順は、「図6.5.7 通常モードへの移行手順」を参照してください。

図6.5.6　フラッシュE/Wイネーブル移行手順



注1. 各種コマンドの詳細については、「6.6.3 内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去手順」を参照してください。
注2. 各種コマンドによるフラッシュ制御後にFBUSYビット="1"の確認を行っている場合は、本箇所でのFBUSYビット="1"の確認は不要です。
注3. FRESETビットによるフラッシュリセットを行っていない場合、FAENSビット="1"の確認は不要です。
注4. クロックサイクルを消費しないNOP(アセンブラがアライメント調整のために自動挿入するNOP:命令コードH'F000)以外の4命令以上のウェイトを挿入してください。
注. ・フラッシュE/Wイネーブルモード中にリセット入力による通常モードへの復帰を行う場合は、必ず、FBUSYビット="1"（レディ状態）であることを確認してからリセットを入力してください。

図6.5.7　通常モードへの移行手順

6.5.3　内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去手順

内蔵フラッシュメモリへの書き込み/消去は、チップモードを制御してフラッシュE/Wイネーブルモードに移行した後、内蔵フラッシュメモリから内蔵RAMへ転送したフラッシュ書き込み/消去プログラムで行います。

フラッシュE/Wイネーブルモードでは、通常モードのように内蔵フラッシュメモリからの読み出しができないので、内蔵フラッシュメモリ上のプログラムを実行することができません。そのため、フラッシュE/Wイネーブルモードへ移行する前にフラッシュ書き込み/消去プログラムを内蔵RAM上に用意しておかなければなりません。フラッシュE/Wイネーブルモードへの移行後、内蔵フラッシュメモリへのアクセスはフラッシュコマンド以外、禁止します。

フラッシュE/Wイネーブルモードにおける内蔵フラッシュメモリへのアクセスは、対象とする内蔵フラッシュメモリアドレスに対するコマンド発行により行います。フラッシュE/Wイネーブルモードにおいて発行できるコマンドを以下に示します。

注．・フラッシュE/Wイネーブルモード時、内蔵フラッシュメモリへのリード/ライトは、ワードアクセスできませんのでご注意ください。

表6.5.2　フラッシュE/Wイネーブルモードにおけるコマンド

コマンド名	発行コマンドデータ
リードアレイコマンド	H'FFFF
ハーフワードプログラムコマンド	H'4040
ロックビットプログラムコマンド	H'7777
ブロックイレーズコマンド	H'2020
クリアステータスレジスタコマンド	H'5050
リードロックビットステータスコマンド	H'7171
確認コマンド（注1）	H'D0D0

注1．このコマンドはロックビットプログラム、ブロックイレーズ、リードロックビットステータスの各コマンドに連続して発行してください。 ロックビットプログラム、ブロックイレーズ、リードロックビットステータスの各コマンドの後に確認コマンド（H'D0D0）以外のコマンドを発行すると、 ロックビットプログラム、ブロックイレーズ、リードロックビットステータスの各コマンドが正常に実行されずにエラー終了します。

(1) リードアレイコマンド

内蔵フラッシュメモリの任意のアドレスに対して、リードアレイコマンド（H'FFFF）をライトするとリードモードとなります。次に読み出したいアドレスをリードするとその内容が読み出せます。

フラッシュE/Wイネーブルモードから抜ける場合は、必ずリードアレイコマンドを実行してから抜けてください。

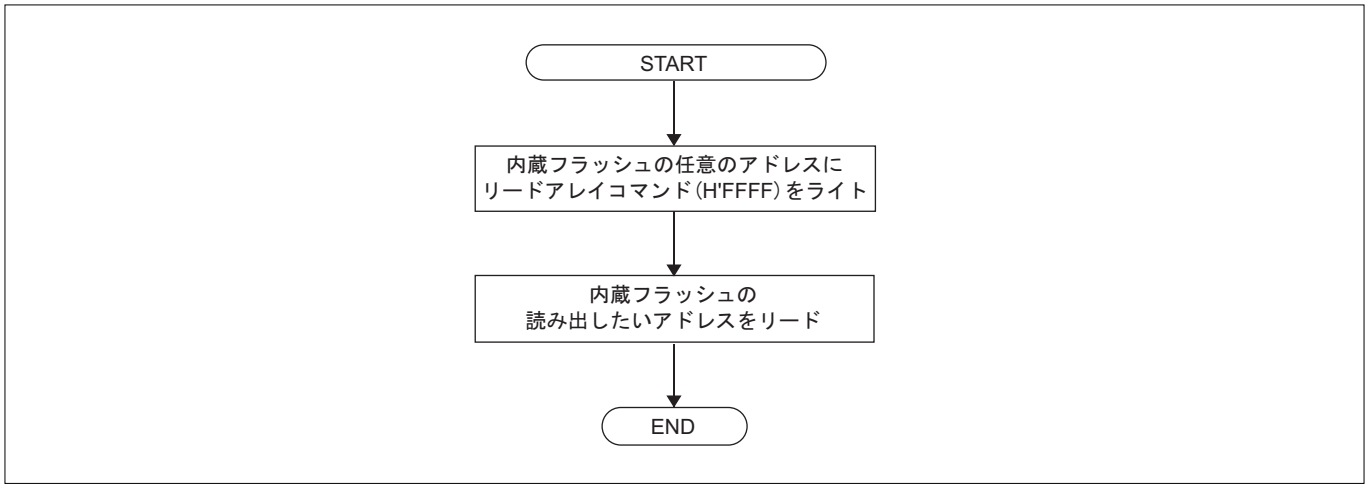


図6.5.8　リードアレイ

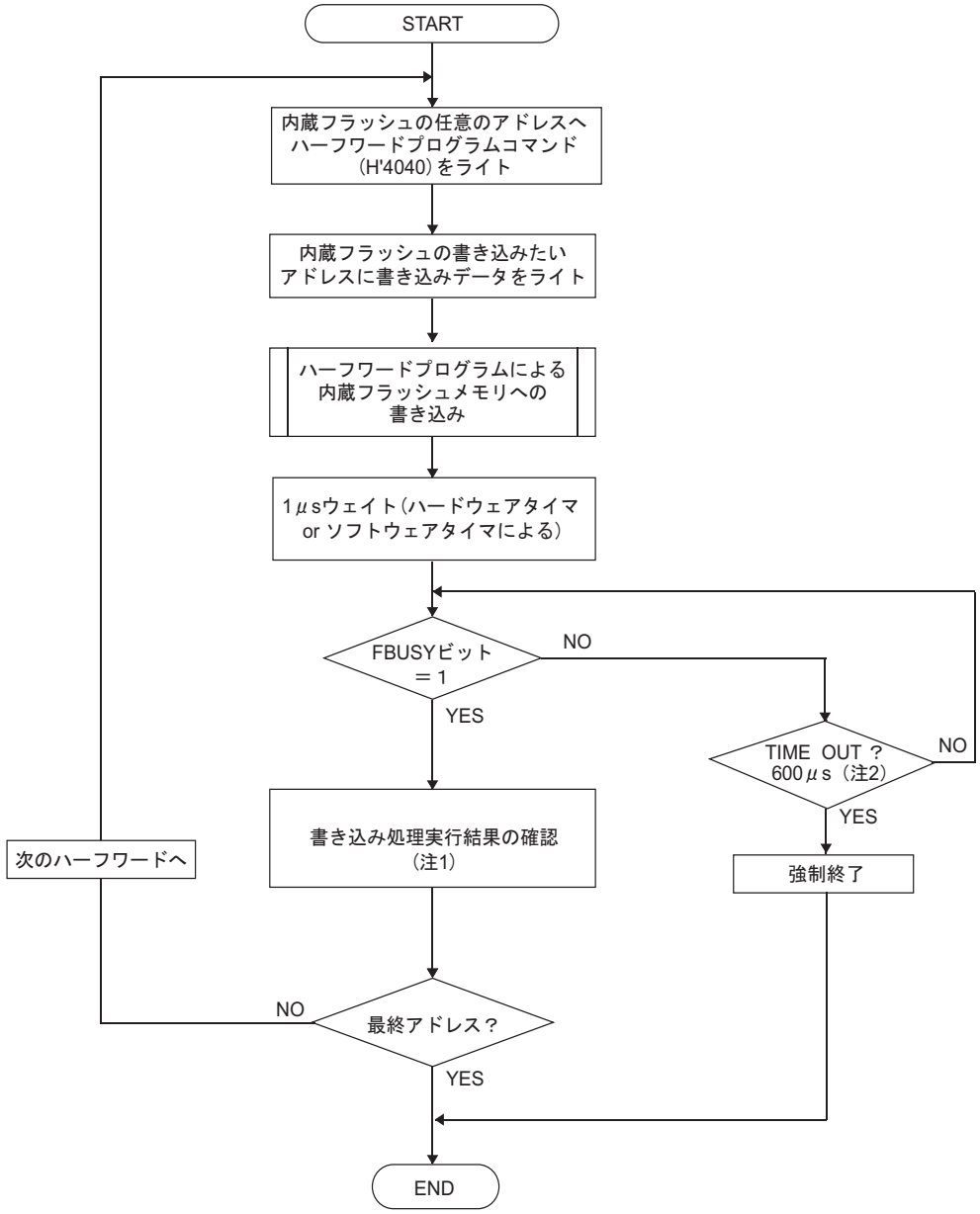
(2) ハーフワードプログラムコマンド

フラッシュメモリへの書き込み(プログラム)は、2バイトごとのハーフワード単位で行います。

フラッシュへのデータ書き込みは、内蔵フラッシュメモリの任意のアドレスに対してプログラムコマンド(H'4040)をライトし、その後、書き込みたいアドレスに書き込むデータをライトします。

ハーフワードプログラムコマンドにおいて、プロテクトされているブロックへの書き込みはできません。

ハーフワードプログラムは内部制御回路で自動的に行われ、ハーフワードプログラムコマンドの完了はフラッシュステータスレジスタのFBUSYビットで確認することができます。FBUSYビットが"0"の間は、次の書き込みは行えません。



注1. フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のERASE(消去動作状況の確認)、およびWRERR(書き込み動作状況の確認)ビットで確認。
注2. 10k回書き換え対応品の4KバイトブロックのTIME OUT時間です。それ以外のブロック、標準品(フラッシュ書き換え回数：100回)のTIME OUT時間は、200μsです。

図6.5.9　ハーフワードプログラム

(3) ロックビットプログラムコマンド

フラッシュメモリは、ブロック単位にプロテクト(書き込み/消去禁止)が可能です。ロックビットプログラムコマンドは、メモリブロックに対してプロテクトを行うコマンドです。

内蔵フラッシュメモリの任意アドレスに対して、ロックビットコマンド(H'7777)をライトします。次にプロテクトをかけたいブロックの最終偶数アドレスに確認コマンド(H'D0D0)をライトすると、該当メモリブロックがプロテクト(書き込み/消去の禁止)状態になります。プロテクトの解除は、フラッシュ制御レジスタ2(FCNT2)のFPROTビットで、ロックビットによるプロテクトを無効にし、プロテクトを解除したいブロックをイレーズすることにより行います(該当メモリブロックの内容も消去されます)。

ロックビットプログラムは内部制御回路で自動的に行われ、ロックビットプログラム完了はフラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットで確認することができます。FBUSYビットが"0"の間は、次のロックビットプログラムは行えません。

以下に、確認コマンドデータをライトする際の対象ブロックと指定アドレスを示します。

表6.5.3　M32176F4の対象ブロックと指定番地

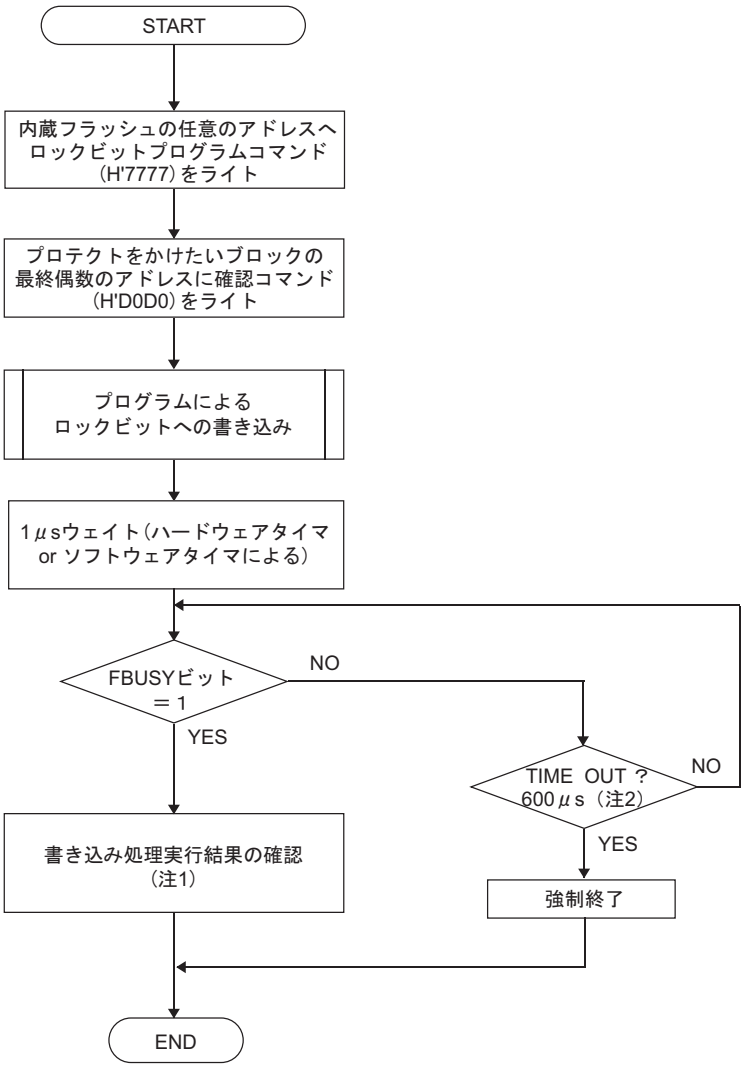
対象ブロック	指定番地
0	H'0000 1FFE
1	H'0000 2FFE
2	H'0000 3FFE
3	H'0000 5FFE
4	H'0000 7FFE
5	H'0000 FFFE
6	H'0001 FFFE
7	H'0002 FFFE
8	H'0003 FFFE
9	H'0004 FFFE
10	H'0005 FFFE
11	H'0006 FFFE
12	H'0007 FFFE

表6.5.4　M32176F3の対象ブロックと指定番地

対象ブロック	指定番地
0	H'0000 1FFE
1	H'0000 2FFE
2	H'0000 3FFE
3	H'0000 5FFE
4	H'0000 7FFE
5	H'0000 FFFE
6	H'0001 FFFE
7	H'0002 FFFE
8	H'0003 FFFE
9	H'0004 FFFE
10	H'0005 FFFE

表6.5.5　M32176F2の対象ブロックと指定番地

対象ブロック	指定番地
0	H'0000 1FFE
1	H'0000 2FFE
2	H'0000 3FFE
3	H'0000 5FFE
4	H'0000 7FFE
5	H'0000 FFFE
6	H'0001 FFFE
7	H'0002 FFFE
8	H'0003 FFFE



注1.　フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のERASE(消去動作状況の確認)、およびWRERR(書き込み動作状況の確認)ビットで確認。
注2.　10k回書き換え対応品の4KバイトブロックのTIME OUT時間です。それ以外のブロック、標準品（フラッシュ書き換え回数：100回）のTIME OUT時間は、200μsです。

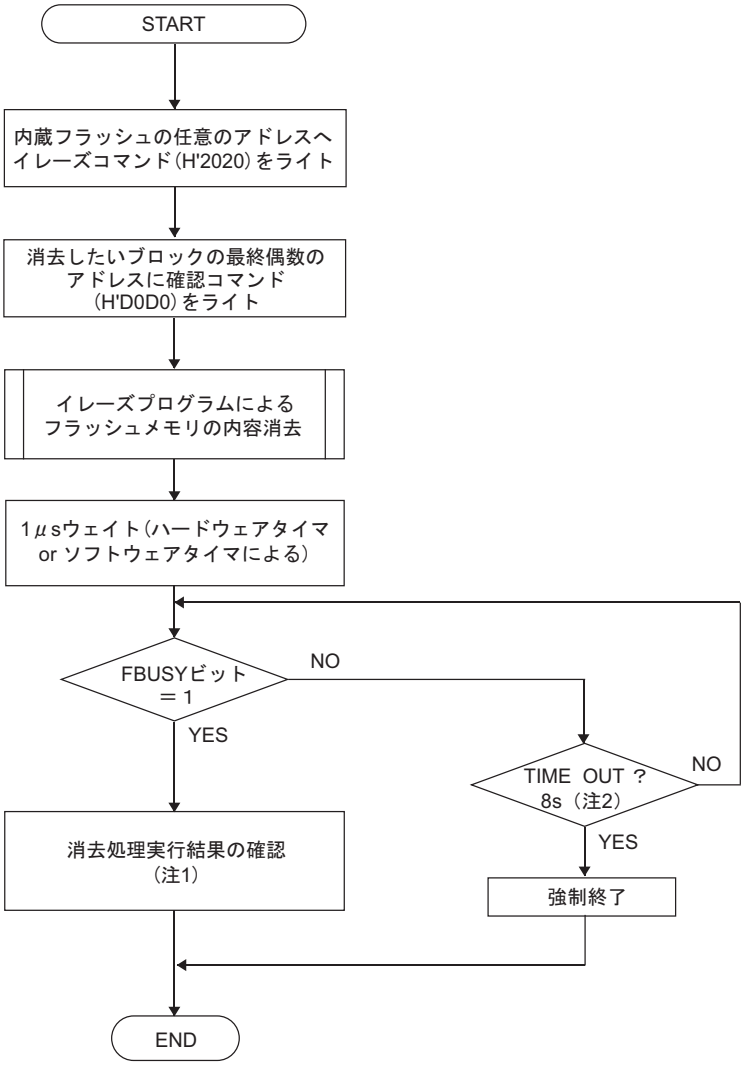
図6.5.10　ロックビットプログラム

(4) ブロックイレーズコマンド

ブロックイレーズコマンドは、内蔵フラッシュメモリの内容をブロック単位で消去します。ブロックイレーズは内蔵フラッシュメモリの任意アドレスに対して、コマンドデータH'2020をライトします。次に、消去したいメモリブロックの最終偶数アドレス(「表6.5.3、表6.5.4、表6.5.5 対象ブロックと指定番地」を参照してください。)に確認コマンドデータH'D0D0をライトすることにより、該当メモリブロックの内容を消去します。

ブロックイレーズコマンドにおいて、プロテクトされているブロックへのイレーズはできません。

ブロックイレーズは内部制御回路で自動的に行われ、ブロックイレーズ完了はフラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットで確認することができます(「6.4.2 フラッシュステータスレジスタ」を参照してください)。FBUSYビットが"0"の間は、次のブロックイレーズは行えません。



注1. フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のERASE(消去動作状況の確認)、およびWRERR(書き込み動作状況の確認)ビットで確認。
注2. 10k回書き換え対応品の4KバイトブロックのTIME OUT時間です。それ以外のブロック、標準品(フラッシュ書き換え回数：100回)のTIME OUT時間は、6sです。

図6.5.11　ブロックイレーズ

(5) クリアステータスレジスタコマンド

クリアステータスレジスタコマンドは、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のERASE(消去動作状況確認)ビット、WRERR(書き込み動作状況確認)ビットを"0"クリアするコマンドです。内蔵フラッシュメモリの任意アドレスに対して、コマンドデータH'5050をライトすると、フラッシュステータスレジスタが初期化されます。また、このクリアステータスレジスタコマンドを発行すると、フラッシュ制御レジスタ3(FCNT3)も初期化されます。

フラッシュメモリへの書き込み、消去動作でエラーが発生し、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のERASE(消去動作状況確認)ビット、WRERR(書き込み動作状況確認)ビットに"1"がセットされた場合、ERASE(消去動作状況確認)ビット、およびWRERR(書き込み動作状況確認)ビットを"0"クリアしなければ、次の書き込み、消去はできません。

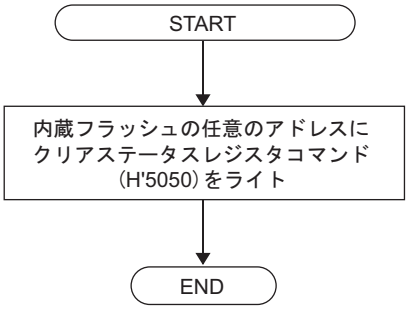


図6.5.12　**クリアステータスレジスタ**

(6) リードロックビットステータスコマンド

リードロックビットステータスコマンドは、メモリブロックがプロテクト(書き込み/消去禁止)状態か、プロテクト状態でないかを確認するためのコマンドです。ロックビットの読み出し方法は、フラッシュ制御レジスタ2(FCNT2)のFLOCKS(ロックビットリードモードセレクト)ビットの設定によって、以下の2種類から選択できます。

1) メモリ領域リードモード(FLOCKSビット="0")

内蔵フラッシュメモリの任意アドレスに対して、コマンドデータH'7171をライトします。次に、対象ブロックの最終偶数アドレス(「表6.5.3、表6.5.4、表6.5.5 対象ブロックと指定番地」を参照してください。)をリードすると、対象ブロックがプロテクト状態か非プロテクト状態かを知ることができます。

リードしたデータのFLBST(ロックビット)ビットが"0"の場合、該当メモリブロックがプロテクト状態であることを示し、FLBST(ロックビット)ビットが"1"の場合、該当メモリブロックが非プロテクト状態であることを示します。

ロックビットステータスレジスタ(FLBST)

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
									FLBST						
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0～8	何も配置されていません。		?	0
9	FLBST ロックビット	0：プロテクト状態 1：非プロテクト状態	R	ー
10～15	何も配置されていません。		?	0

ロックビットステータスレジスタは読み出し専用のレジスタで、各ブロックごとに独立したロックビットを内蔵しています。このレジスタを読み出す場合、フラッシュ制御レジスタ2(FCNT2)のFLOCKSビットを"0"にする必要があります。

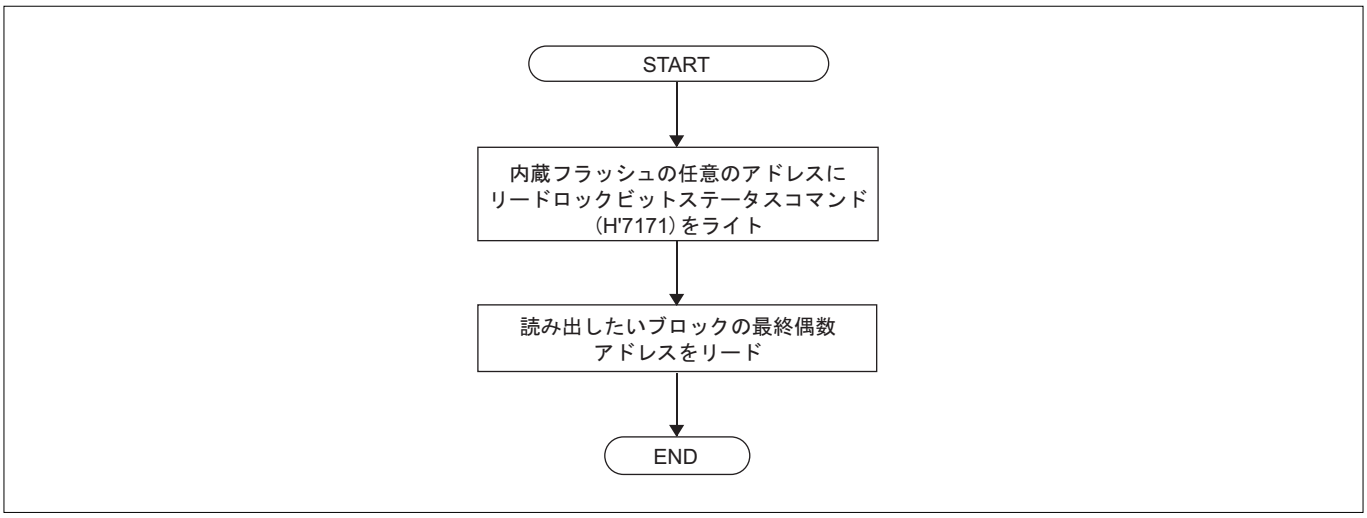
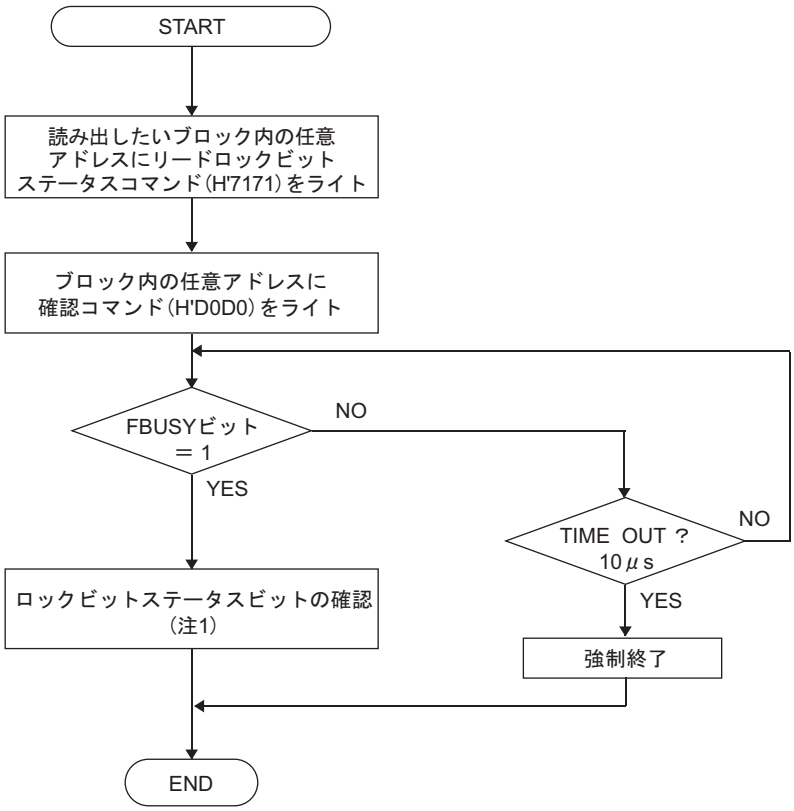


図6.5.13　リードロックビットステータス(メモリ領域リードモード)

2）**レジスタリードモード（FLOCKSビット＝"1"）**

対象ブロックの任意のアドレスに対して、コマンドデータH'7171をライトします。次に、確認コマンドデータH'D0D0をライトすると、フラッシュ制御レジスタ4（FCNT4）のFLOCKST（ロックビットステータス）ビットで対象ブロックがプロテクト状態か非プロテクト状態かを知ることができます。



注1.　フラッシュ制御レジスタ4（FCNT4）のFLOCKSTビットで確認。

図6.5.14　リードロックビットステータス（レジスタリードモード）

ロックビットの書き込みは以下の方法で行います。

a）**ロックビットの"0"セット方法（プロテクト状態）**

プロテクトしたいメモリブロックにロックビットプログラムコマンド（H'7777）を発行することによって行います。

b）**ロックビットの"1"セット方法（非プロテクト状態）**

フラッシュ制御レジスタ2のFPROTを"ロックビットによるプロテクト無効"にしたのち、ブロックイレーズコマンド（H'2020）で非プロテクト状態にしたいメモリブロックを消去することで行います。

ロックビットのみを"1"セットすることはできません。

c）**ロックビットのリセット解除時の状態**

ロックビットは不揮発性のビットであるため、リセットおよび電源断の影響を受けません。

6.5.4　フラッシュ書き込み時間（参考値）

内蔵フラッシュメモリへの書き込み時間の参考値を以下に示します。

（1）M32176F4

[1] SIOによる転送時間（転送データ容量：512Kバイトの時）

1/57600bps×1（フレーム）×11（転送ビット数）×512KB　100.1［s］

[2] フラッシュ書き込み時間

512KB/2バイト×25μs　6.6［s］

[3] イレーズ時間（全領域）

0.3s×5ブロック＋0.5s×1ブロック＋0.8s×7ブロック＝7.6［s］

[4] トータルフラッシュ書き込み時間（512Kバイト全領域）

UARTで57600bps通信時には、シリアル通信時間に対してフラッシュ書き込み時間が非常に短いため、無視することができます。

このため、下記計算式によりフラッシュ書き込み時間は計算できます。

［1］＋［3］　108［s］

なお、シリアル通信高速化または他の手法で、高速にデータ書き込み時の最速書き込み時間は下記の計算式となります。

［2］＋［3］　15［s］

（2）M32176F3

[1] SIOによる転送時間（転送データ容量：384Kバイトの時）

1/57600bps×1（フレーム）×11（転送ビット数）×384KB　75.1［s］

[2] フラッシュ書き込み時間

384KB/2バイト×25μs　4.9［s］

[3] イレーズ時間（全領域）

0.3s×5ブロック＋0.5s×1ブロック＋0.8s×5ブロック＝6［s］

[4] トータルフラッシュ書き込み時間（384Kバイト全領域）

UARTで57600bps通信時には、シリアル通信時間に対してフラッシュ書き込み時間が非常に短いため、無視することができます。

このため、下記計算式によりフラッシュ書き込み時間は計算できます。

［1］＋［3］　82［s］

なお、シリアル通信高速化または他の手法で、高速にデータ書き込み時の最速書き込み時間は下記の計算式となります。

［2］＋［3］　11［s］

(3) M32176F2

[1] SIOによる転送時間(転送データ容量：256Kバイトの時)

1/57600bps×1(フレーム)×11(転送ビット数)×256KB　50.1[s]

[2] フラッシュ書き込み時間

256KB/2バイト×25μs　3.3[s]

[3] イレーズ時間(全領域)

0.3s×5ブロック＋0.5s×1ブロック＋0.8s×3ブロック＝4.4[s]

[4] トータルフラッシュ書き込み時間(256Kバイト全領域)

UARTで57600bps通信時には、シリアル通信時間に対してフラッシュ書き込み時間が非常に短いため、無視することができます。

このため、下記計算式によりフラッシュ書き込み時間は計算できます。

[1]＋[3]　55[s]

なお、シリアル通信高速化または他の手法で、高速にデータ書き込み時の最速書き込み時間は下記の計算式となります。

[2]＋[3]　8[s]

6.6　疑似フラッシュエミュレーション機能

内蔵フラッシュの領域を8Kバイトごとに区切った領域(Lバンク)に、内蔵RAMの8Kバイト単位のブロック(最大2ブロック)をマッピングする機能、および内蔵フラッシュの領域を4Kバイトごとに区切った領域(Sバンク)に、内蔵RAMの4Kバイト単位のブロック(最大2ブロック)をマッピングする機能を備えており、これを疑似フラッシュエミュレーション機能と呼びます。

これは、疑似フラッシュバンクレジスタで指定したアドレスの内蔵フラッシュメモリ内容を、内蔵RAMの4Kバイト単位または8Kバイト単位のブロックに配置したデータに切り換え、内蔵フラッシュメモリの内容をリードすると該当する内蔵RAMのデータが読み出される機能です。

この機能を使用することにより、動作中に内蔵フラッシュメモリ内容の変更(データテーブルなど)を必要とするアプリケーションであっても、該当する内蔵RAMデータを変更することにより、ダイナミックなデータ変更が可能となります。

疑似フラッシュエミュレーションに割り当てられた内蔵RAMは、通常の内蔵RAMと同様にリード、ライトできます。

この機能と内蔵リアルタイムデバッガ(RTD)などを組み合わせて使用することで、内蔵フラッシュメモリ上に設けたデータテーブルなどを外部から参照したり、書き換えることができ、外部からデータテーブルのチューニングなどが容易に行えます。

注．・内蔵フラッシュメモリに対する書き込み/消去操作を行う場合は、必ずこの疑似フラッシュエミュレーションモードを終了してください。

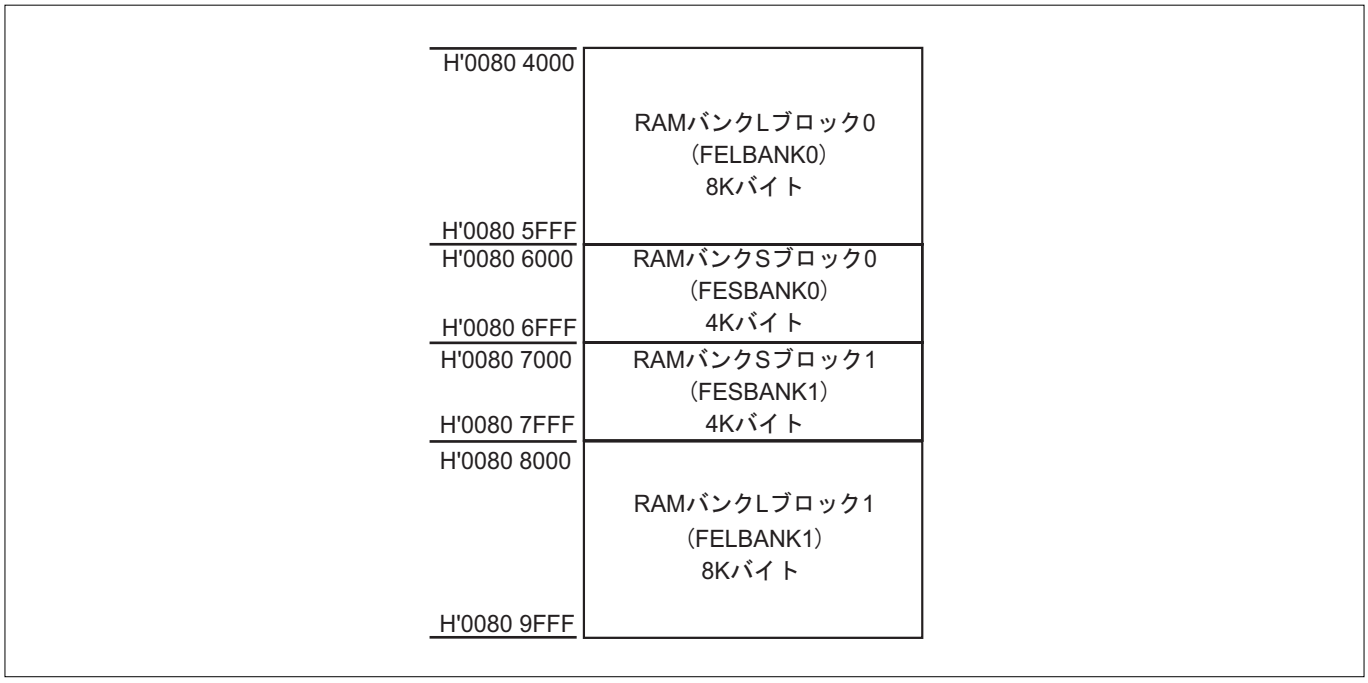


図6.6.1　32176**内蔵**RAM**のバンク構成**

6.6.1 疑似フラッシュエミュレーション領域

疑似フラッシュエミュレーション機能が有効な領域を以下に示します。

疑似フラッシュLバンクレジスタ(FELBANK0, FELBANK1)によって、フラッシュメモリの8Kバイトごとに区切られた全てのLバンクから、1つのLバンク領域を選択(該当Lバンクの先頭アドレスのうちA12～A18の7ビットを疑似フラッシュLバンクレジスタのLBANKADビットに設定)し、疑似フラッシュLバンクレジスタのMODENL(疑似フラッシュエミュレーションLイネーブル)ビットに"1"を設定することで、選択したLバンク領域を内蔵RAMの8Kバイト単位に最大2ブロックで置き換えることができます。

また、疑似フラッシュSバンクレジスタ(FESBANK0、FESBANK1)によって、フラッシュメモリの4Kバイトごとに区切られた全てのSバンクから、それぞれ1つのSバンク領域を選択(該当Sバンクの先頭アドレスのうちA12～A19の8ビットを疑似フラッシュSバンクレジスタのSBANKADビットに設定)し、疑似フラッシュSバンクレジスタのMODENS(疑似フラッシュエミュレーションSイネーブル)ビットに"1"を設定することで、選択したSバンク領域を内蔵RAMの4Kバイト単位に最大2ブロックで置き換えることができます。

8Kバイト単位のLバンクが2バンク、4Kバイト単位のSバンクが2バンクの計4バンク(最大)選択できます。

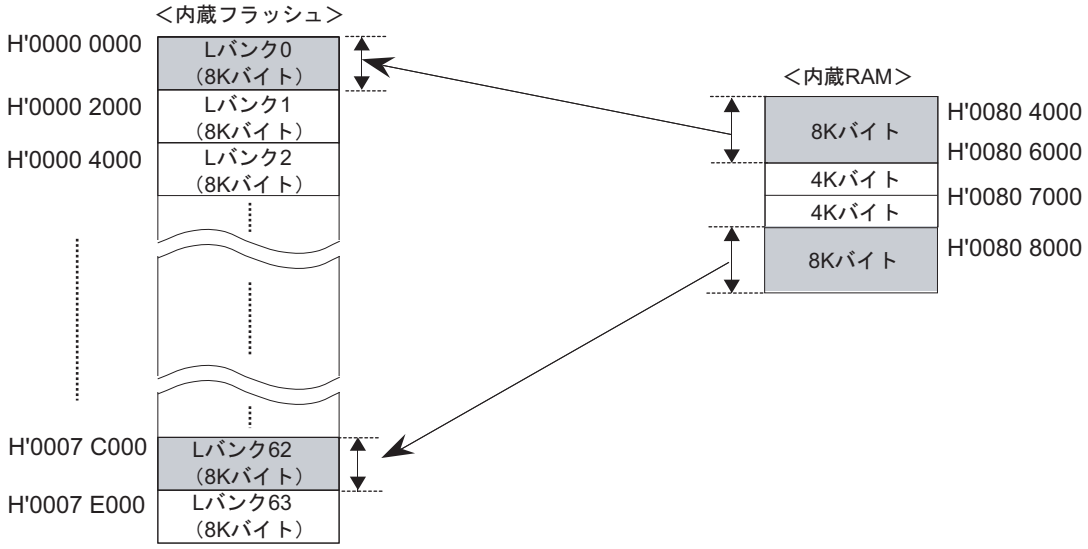
注. **・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、下記に示す優先順位で対応する内蔵RAM領域(8Kバイトまたは4Kバイト)が割り当てられます。**

FELBANK0＞FESBANK0＞FESBANK1＞FELBANK1

・疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

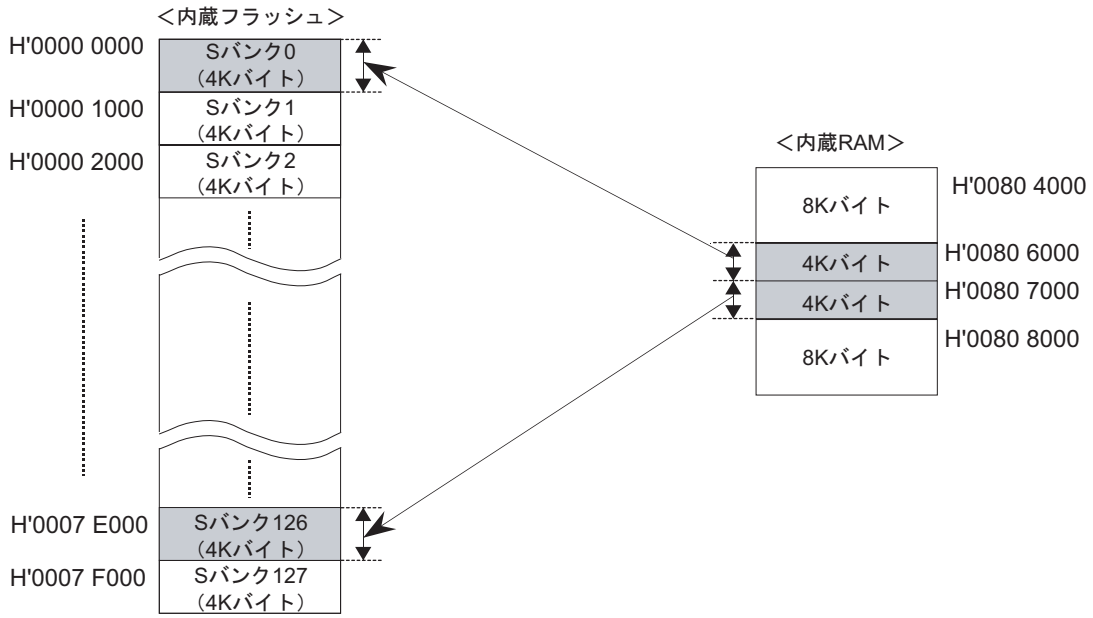
・フラッシュ制御レジスタ1の疑似フラッシュエミュレーションモードビットに"1"設定後、疑似フラッシュのリードを行う場合、疑似フラッシュエミュレーションモードビットに"1"設定後3クロック(CPUクロック)以上空けて疑似フラッシュリードを行ってください。

・疑似フラッシュバンクレジスタ(Lバンクレジスタ、Sバンクレジスタ)の疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビット、バンクアドレスビットに設定後、疑似フラッシュのリードを行う場合、疑似フラッシュバンクレジスタの設定後3クロック(CPUクロック)以上空けて疑似フラッシュリードを行ってください。



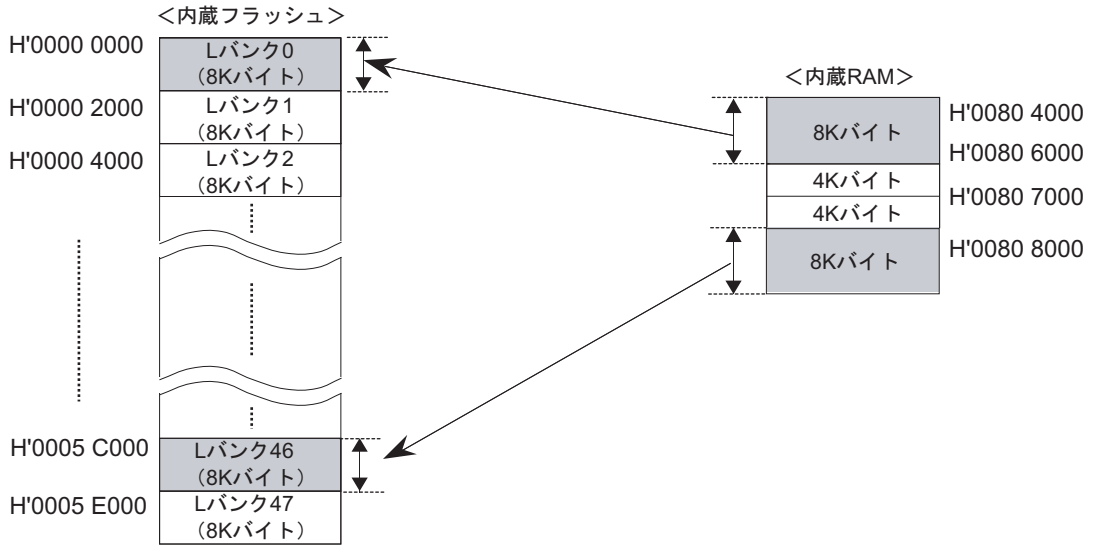
注.　・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、FELBANK0 ＞ FESBANK0 ＞ FESBANK1 ＞ FELBANK1の優先順位で対応する内蔵RAM領域が割り当てられます。
・疑似フラッシュLバンクレジスタ0, 1で指定した8Kバイト単位の領域（Lバンク）へアクセスすると、内蔵RAM領域がアクセスされます。疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

図6.6.2　M32176F4の8Kバイト単位分割の疑似フラッシュエミュレーション領域



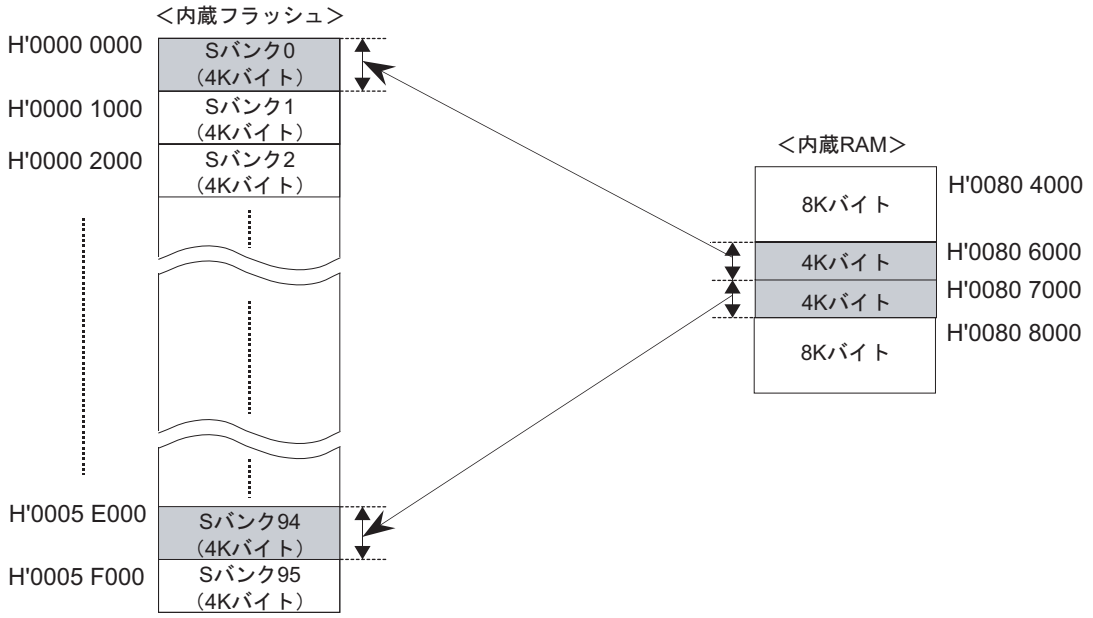
注.　・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、FELBANK0 ＞ FESBANK0 ＞ FESBANK1 ＞ FELBANK1の優先順位で対応する内蔵RAM領域が割り当てられます。
・疑似フラッシュSバンクレジスタ0, 1で指定した4Kバイト単位の領域（Sバンク）へアクセスすると、内蔵RAM領域がアクセスされます。疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

図6.6.3　M32176F4の4Kバイト単位分割の疑似フラッシュエミュレーション領域



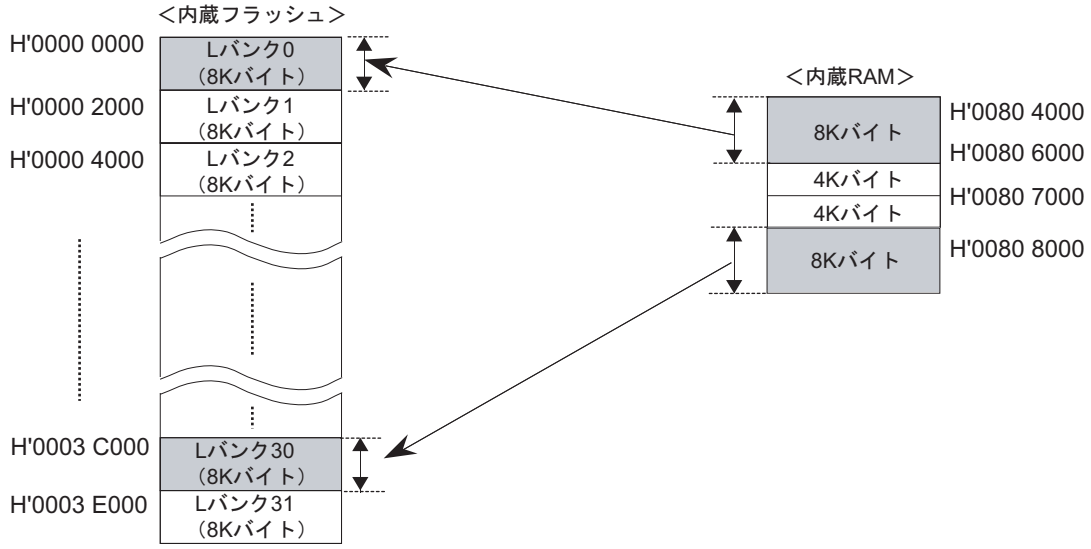
注. ・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、FELBANK0 ＞ FESBANK0 ＞ FESBANK1 ＞ FELBANK1の優先順位で対応する内蔵RAM領域が割り当てられます。
・疑似フラッシュLバンクレジスタ0, 1で指定した8Kバイト単位の領域（Lバンク）へアクセスすると、内蔵RAM領域がアクセスされます。疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

図6.6.4 M32176F3の8Kバイト単位分割の疑似フラッシュエミュレーション領域



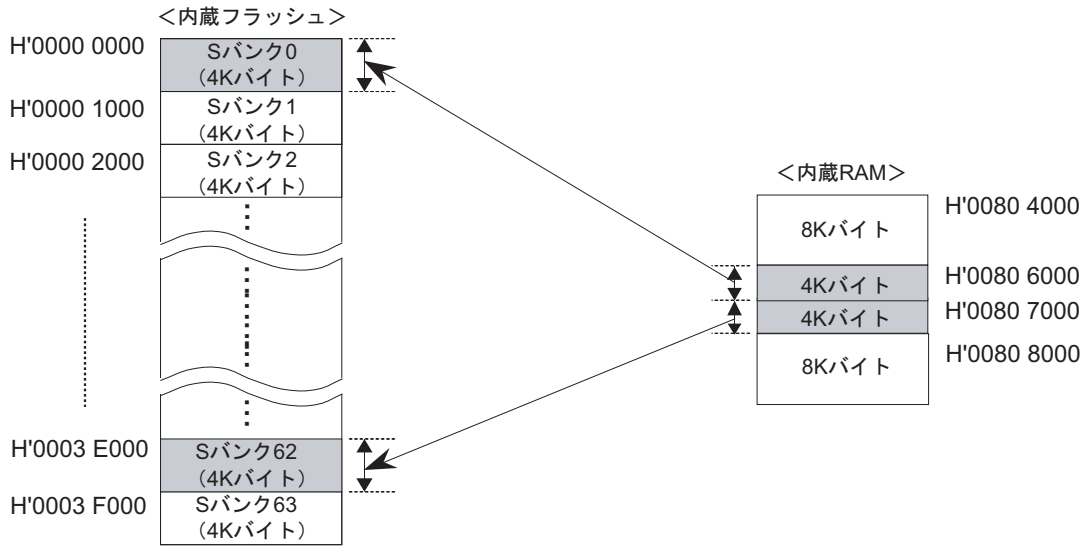
注. ・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、FELBANK0 ＞ FESBANK0 ＞ FESBANK1 ＞ FELBANK1の優先順位で対応する内蔵RAM領域が割り当てられます。
・疑似フラッシュSバンクレジスタ0, 1で指定した4Kバイト単位の領域（Sバンク）へアクセスすると、内蔵RAM領域がアクセスされます。疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

図6.6.5 M32176F3の4Kバイト単位分割の疑似フラッシュエミュレーション領域



注.　・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、FELBANK0 ＞ FESBANK0 ＞ FESBANK1 ＞ FELBANK1の優先順位で対応する内蔵RAM領域が割り当てられます。
・疑似フラッシュLバンクレジスタ0, 1で指定した8Kバイト単位の領域（Lバンク）へアクセスすると、内蔵RAM領域がアクセスされます。疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

図6.6.6　M32176F2の8Kバイト単位分割の疑似フラッシュエミュレーション領域



注.　・複数の疑似フラッシュバンクレジスタに同じバンク領域を設定し、疑似フラッシュエミュレーションイネーブルビットをイネーブルにした場合は、FELBANK0 ＞ FESBANK0 ＞ FESBANK1 ＞ FELBANK1の優先順位で対応する内蔵RAM領域が割り当てられます。
・疑似フラッシュSバンクレジスタ0, 1で指定した4Kバイト単位の領域（Sバンク）へアクセスすると、内蔵RAM領域がアクセスされます。疑似フラッシュエミュレーションモード時、内蔵RAM領域と疑似フラッシュ設定領域からRAMのリードライトが可能です。

図6.6.7　M32176F2の4Kバイト単位分割の疑似フラッシュエミュレーション領域

Lバンク	フラシュメモリ上の バンクの先頭アドレス	Lバンクアドレス (LBANKAD) ビット設定値
Lバンク0	H'0000 0000 (注1)	H'00
Lバンク1	H'0000 2000 (注1)	H'02
Lバンク2	H'0000 4000 (注1)	H'04
≈	⋮	≈
Lバンク62	H'0007 C000 (注1)	H'7C
Lバンク63	H'0007 E000 (注1)	H'7E

注1. フラッシュメモリを8Kバイトごとに区切った各Lバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A18(7ビット)を疑似フラッシュLバンクレジスタのLバンクアドレス(LBANKAD)ビットに設定する。

図6.6.8　M32176F4**の**8K**バイト単位分割時の疑似フラッシュバンクレジスタの設定値**

Sバンク	フラシュメモリ上の バンクの先頭アドレス	Sバンクアドレス (SBANKAD) ビット設定値
Sバンク0	H'0000 0000 (注1)	H'00
Sバンク1	H'0000 1000 (注1)	H'01
Sバンク2	H'0000 2000 (注1)	H'02
≈	⋮	≈
Sバンク126	H'0007 E000 (注1)	H'7E
Sバンク127	H'0007 F000 (注1)	H'7F

注1. フラッシュメモリを4Kバイトごとに区切った各Sバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A19(8ビット)を疑似フラッシュSバンクレジスタのSバンクアドレス(SBANKAD)ビットに設定する。

図6.6.9　M32176F4**の**4K**バイト単位分割時の疑似フラッシュバンクレジスタの設定値**

Lバンク	フラシュメモリ上の バンクの先頭アドレス	Lバンクアドレス (LBANKAD) ビット設定値
Lバンク0	H'0000 0000 (注1)	H'00
Lバンク1	H'0000 2000 (注1)	H'02
Lバンク2	H'0000 4000 (注1)	H'04
≈	⋮	≈
Lバンク46	H'0005 C000 (注1)	H'5C
Lバンク47	H'0005 E000 (注1)	H'5E

注1. フラッシュメモリを8Kバイトごとに区切った各Lバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A18(7ビット)を疑似フラッシュLバンクレジスタのLバンクアドレス(LBANKAD)ビットに設定する。

図6.6.10　M32176F3**の**8K**バイト単位分割時の疑似フラッシュバンクレジスタの設定値**

Sバンク	フラシュメモリ上の バンクの先頭アドレス	Sバンクアドレス (SBANKAD) ビット設定値
Sバンク0	H'0000 0000 (注1)	H'00
Sバンク1	H'0000 1000 (注1)	H'01
Sバンク2	H'0000 2000 (注1)	H'02
≈	⋮	≈
Sバンク94	H'0005 E000 (注1)	H'5E
Sバンク95	H'0005 F000 (注1)	H'5F

注1. フラッシュメモリを4Kバイトごとに区切った各Sバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A19(8ビット)を疑似フラッシュSバンクレジスタのSバンクアドレス(SBANKAD)ビットに設定する。

図6.6.11　M32176F3**の**4K**バイト単位分割時の疑似フラッシュバンクレジスタの設定値**

Lバンク	フラシュメモリ上の バンクの先頭アドレス	Lバンクアドレス (LBANKAD) ビット設定値
Lバンク0	H'0000 0000 (注1)	H'00
Lバンク1	H'0000 2000 (注1)	H'02
Lバンク2	H'0000 4000 (注1)	H'04
≈	⋮	≈
Lバンク30	H'0003 C000 (注1)	H'3C
Lバンク31	H'0003 E000 (注1)	H'3E

注1. フラッシュメモリを8Kバイトごとに区切った各Lバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A18(7ビット)を疑似フラッシュLバンクレジスタのLバンクアドレス(LBANKAD)ビットに設定する。

図6.6.12　M32176F2**の**8K**バイト単位分割時の疑似フラッシュバンクレジスタの設定値**

Sバンク	フラシュメモリ上の バンクの先頭アドレス	Sバンクアドレス (SBANKAD) ビット設定値
Sバンク0	H'0000 0000 (注1)	H'00
Sバンク1	H'0000 1000 (注1)	H'01
Sバンク2	H'0000 2000 (注1)	H'02
≈	⋮	≈
Sバンク62	H'0003 E000 (注1)	H'3E
Sバンク63	H'0003 F000 (注1)	H'3F

注1. フラッシュメモリを4Kバイトごとに区切った各Sバンクの先頭アドレス(32ビット)のA12～A19(8ビット)を疑似フラッシュSバンクレジスタのSバンクアドレス(SBANKAD)ビットに設定する。

図6.6.13　M32176F2**の**4K**バイト単位分割時の疑似フラッシュバンクレジスタの設定値**

6.6.2　疑似フラッシュエミュレーションモードへの移行

疑似フラッシュエミュレーションモードに移行するには、フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFEMMODビットに"1"を書き込みます。疑似フラッシュエミュレーションモードに移行後、疑似フラッシュバンクレジスタのMODENビットに"1"を書き込むことで疑似フラッシュエミュレーション機能が有効になります。

疑似フラッシュエミュレーションモード時も、内蔵RAM領域(H'0080 4000～H'0080 9FFF)は内蔵RAMとしてアクセス可能です。

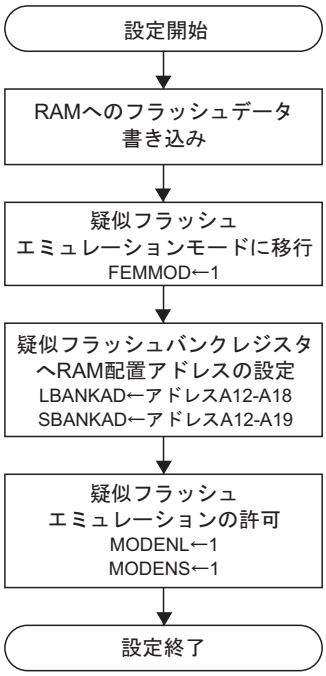


図6.6.14　**疑似フラッシュエミュレーションモードシーケンス**

6.6.3　疑似フラッシュエミュレーションモードの応用例

疑似フラッシュエミュレーション機能で2領域を同一エリアに配置して使用することで、フラッシュ中のデータを連続的に書き換えることができます。

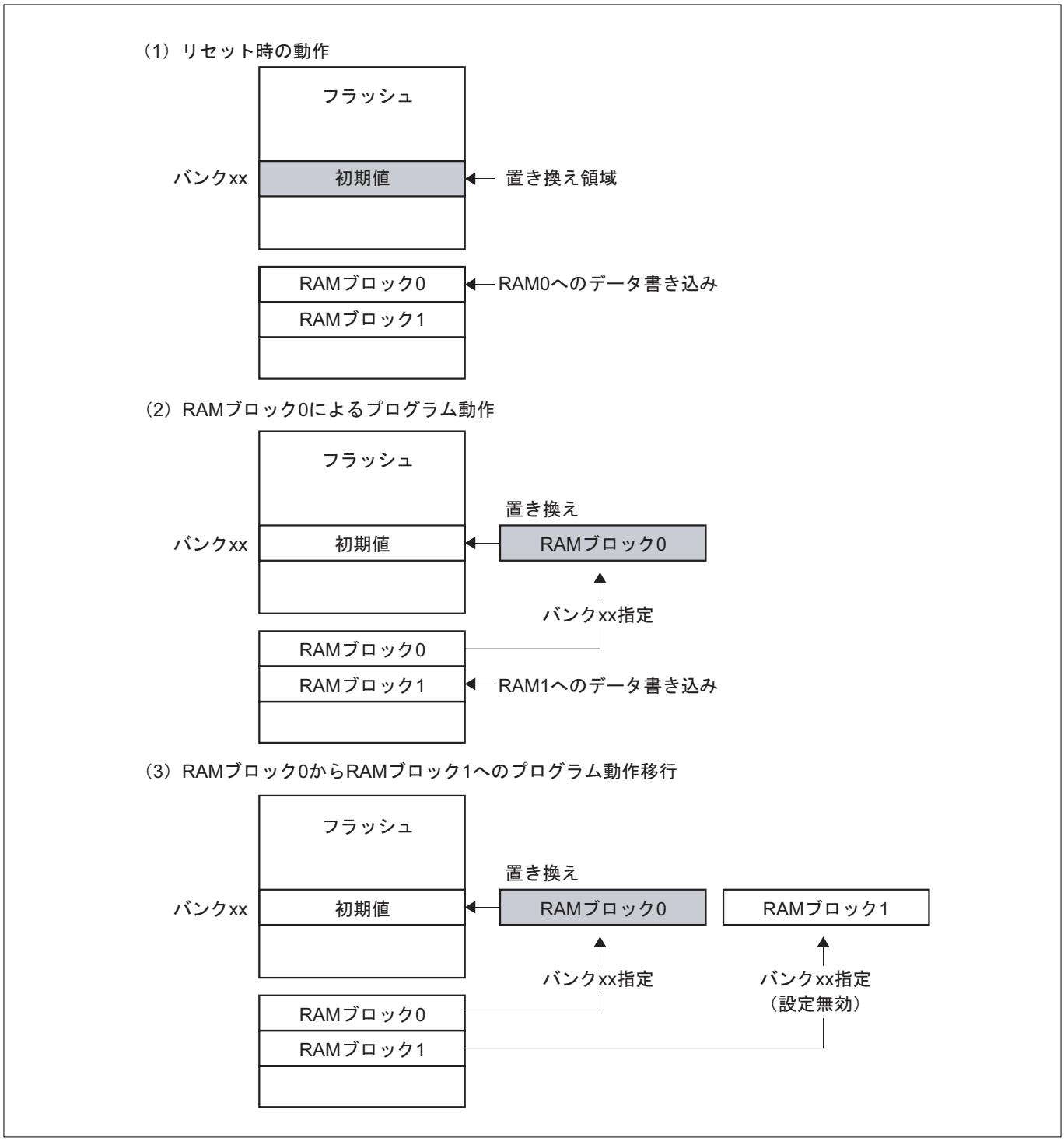


図6.6.15　疑似フラッシュエミュレーション使用例(1/2)

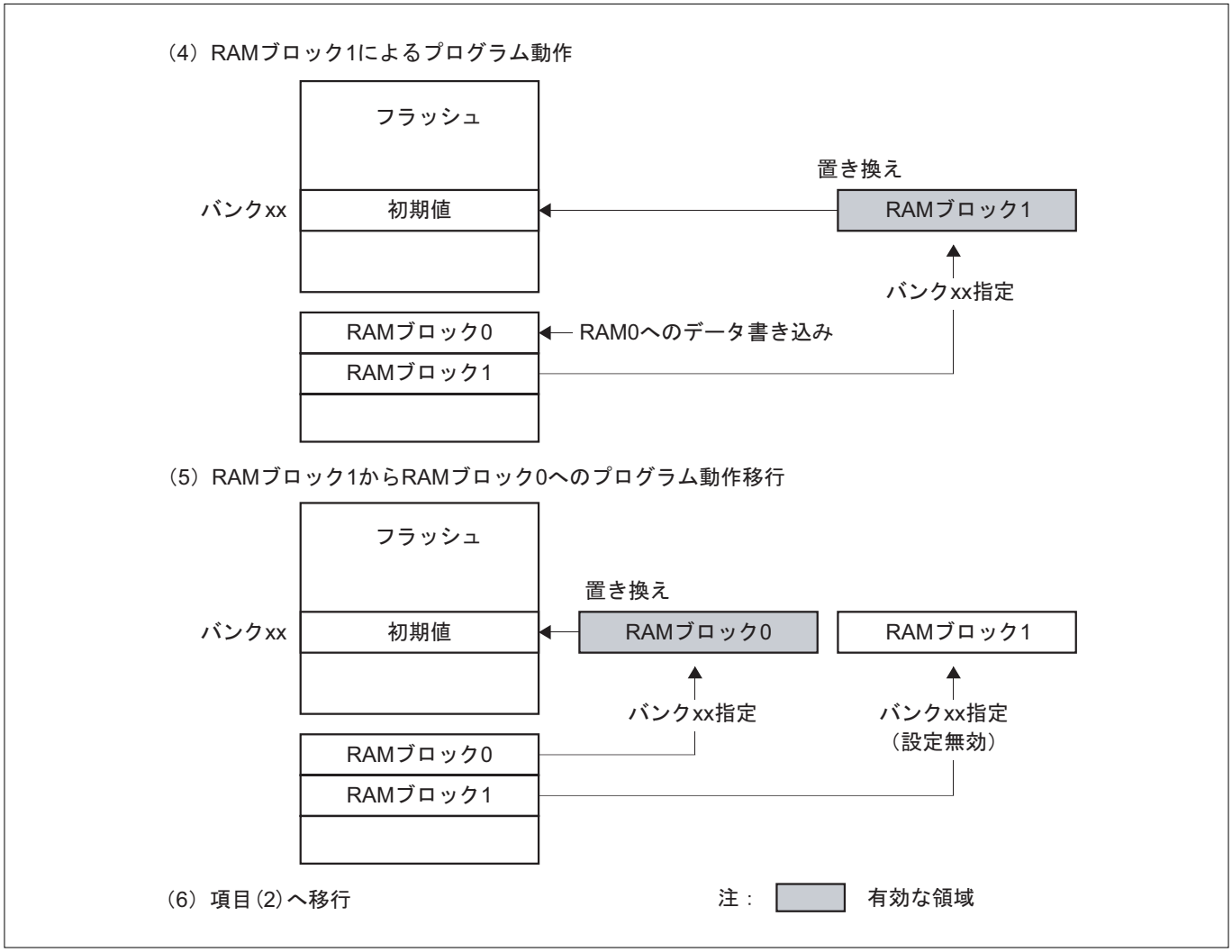


図6.6.16　**疑似フラッシュエミュレーション使用例**(2/2)

6.7　シリアルプログラマとの接続（CSIOモード）

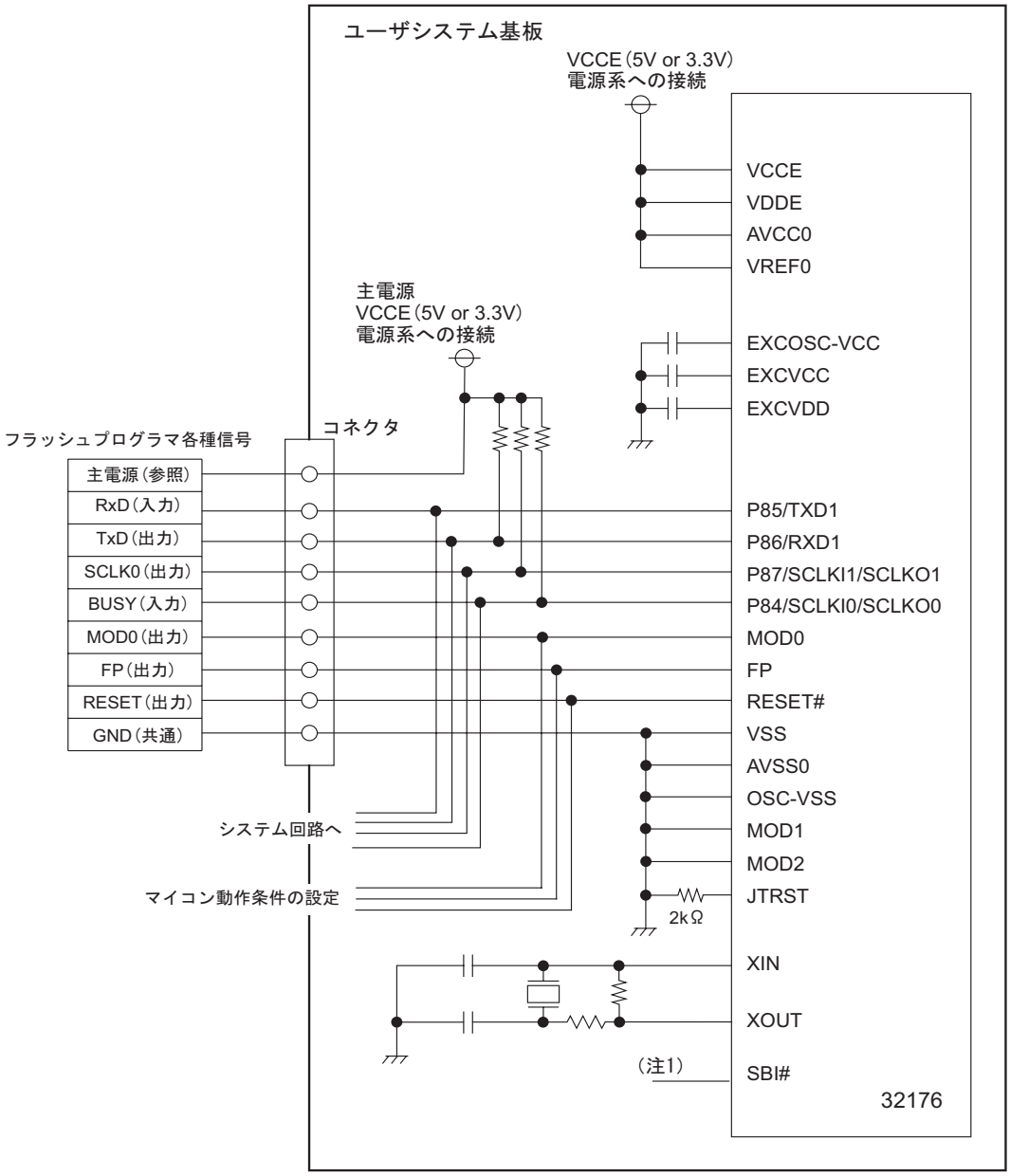
ブートモード＋フラッシュE/Wイネーブルモードで汎用シリアルプログラマを使用して内蔵フラッシュメモリを書き換える場合、下記に示す端子のシリアルプログラマへ対応した端子処理が必要です。

表6.7.1　32176のシリアルプログラマ使用時の端子処理

端子名	端子番号	機　能	備　考
SCLKI1	71	転送クロック入力	プルアップ
RXD1	70	シリアルデータ入力（受信データ）	プルアップ
TXD1	69	シリアルデータ出力（送信データ）	
P84	68	送受信許可出力	プルアップ
FP	94	フラッシュメモリのプロテクト	プルアップ
MOD0	92	動作モード0	主電源に接続
MOD1	93	動作モード1	グランドに接続
MOD2	123	動作モード2	グランドに接続
RESET#	91	リセット	MOD0/MOD1を設定後、 グランド→主電源
XIN	4	クロック入力	
XOUT	5	クロック出力	
SBI#	77	システムブレーク割り込み（SBI）入力	プルアップまたはプルダウン
VREF0	42	A/Dコンバータの基準電圧入力	主電源に接続
AVCC0	43	アナログ電源	主電源に接続
AVSS0	60	アナロググランド	グランドに接続
VDDE	108	RAMバックアップ電源	主電源に接続
VCCE	20, 65, 95, 132	主電源	5V±10%または3.3V±10%
EXCVCC	61, 137	内部電源用外付け容量接続	コンデンサを介してグランド
EXCVDD	73	RAM電源用外付け容量接続	コンデンサを介してグランド
EXCOSC-VCC	6	発振電源用外付け容量接続	コンデンサを介してグランド
VSS	3,21, 62, 72, 96, 138	グランド	0V
JTRST	111	JTAGリセット入力	プルダウン（0～100kΩ）

注.　・上記以外の端子については、端子処理不要です。

シリアルプログラマ接続時の、ユーザシステム構成例を以下に示します。シリアルプログラマは、ユーザシステムへ電源投入後、クロック同期形シリアルを使用し内蔵フラッシュメモリへの書き込みを行います。発振周波数に依存する通信上の問題が発生することはありません。シリアルプログラマに接続する端子をシステムで使用する場合は、シリアルプログラマ接続時に影響が出ないような考慮が必要です。なお、H'0000 0084～H'0000 0093間は内蔵フラッシュメモリのプロテクト用のID照合領域としてシリアルプログラマで使用します。内蔵フラッシュメモリのプロテクトが必要な場合は、任意のIDを設定してください。



注1.　SBI#は、"H"または"L"レベルに固定し割り込み発生しない条件を作る必要があります。

注.　・ユーザシステムへ電源を供給した後、内蔵フラッシュメモリへの書き込みを行う必要があります。
・P84～P87をシステム回路で使用する場合は、シリアルプログラマ接続への考慮が必要です。
・SBI#は、"H"または"L"レベルに固定し割り込み発生しない条件を作る必要があります。
・P84、P86、P87のプルアップ抵抗値は、システム設計条件に合わせて設定ください。
・P84、P86、P87の標準プルアップ抵抗値は、4.7～10kΩです。
・記載無きポートの状態は、フラッシュメモリ書き込みへ影響を与えることはありません。
・内蔵フラッシュメモリを書き換え中は、モードが移行しないようにモード端子/電源管理を十分行ってください。

図6.7.1　端子接続図

6.8　シリアルプログラマとの接続（UARTモード）

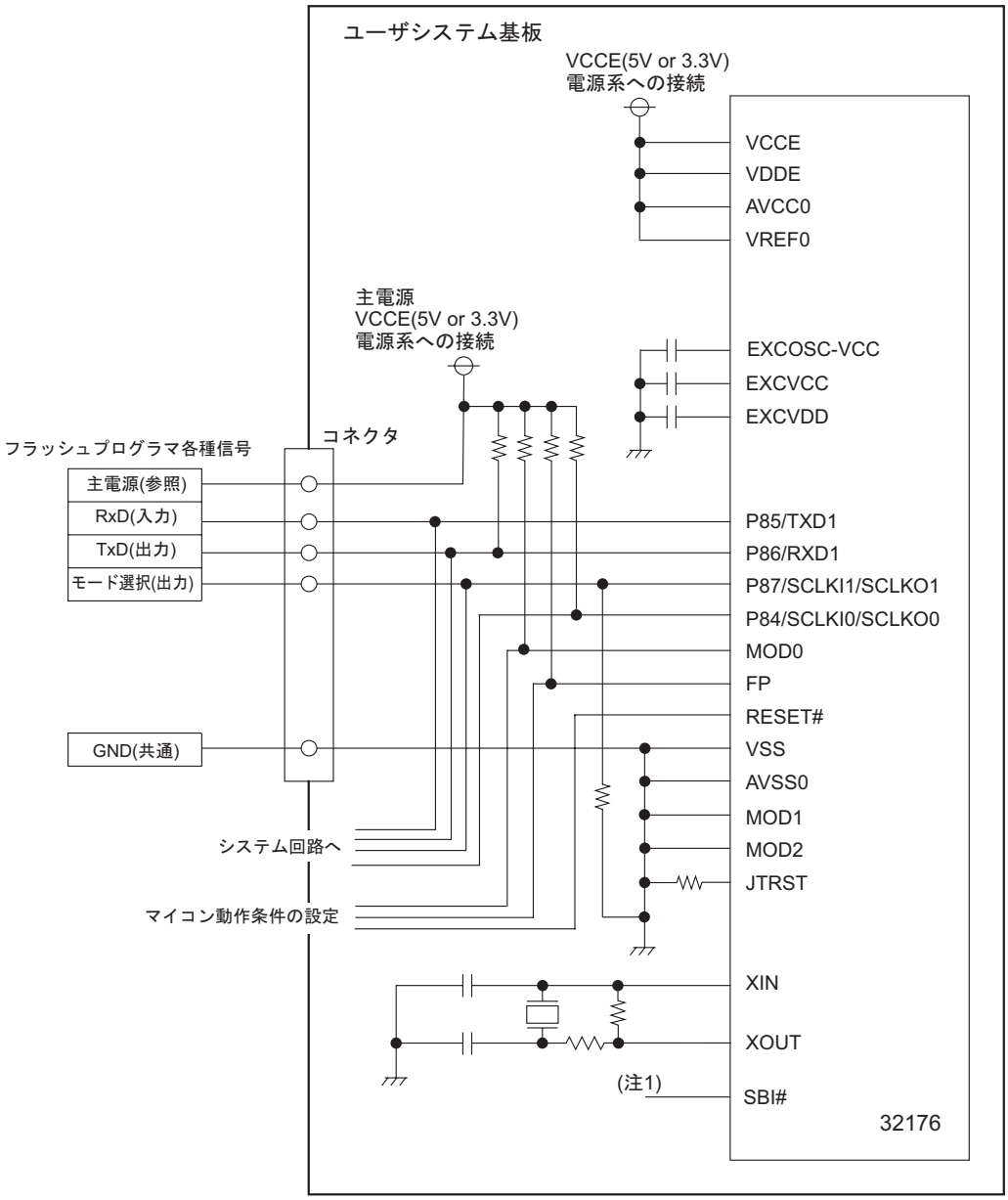
ブートモード＋フラッシュE/Wイネーブルモードで汎用シリアルプログラマを使用して内蔵フラッシュメモリを書き換える場合、下記に示す端子のシリアルプログラマへ対応した端子処理が必要です。

表6.8.1　32176のシリアルプログラマ使用時の端子処理（UARTモード）

端子名	端子番号	機　能	備　考
SCLKI1	71	SIOモード選択	プルダウン("L"レベル入力)
RXD1	70	シリアルデータ入力(受信データ)	プルアップ
TXD1	69	シリアルデータ出力(送信データ)	
P84	68	汎用ポート入力	UARTモード時、未使用 プルアップまたはプルダウン
FP	94	フラッシュメモリのプロテクト	プルアップ
MOD0	92	動作モード0	主電源に接続
MOD1	93	動作モード1	グランドに接続
MOD2	123	動作モード2	グランドに接続
RESET#	91	リセット	
XIN	4	クロック入力	
XOUT	5	クロック出力	
SBI#	77	システムブレーク割り込み（SBI）入力	プルアップまたはプルダウン
VREF0	42	A/Dコンバータの基準電圧入力	主電源に接続
AVCC0	43	アナログ電源	主電源に接続
AVSS0	60	アナロググランド	グランドに接続
VDDE	108	RAMバックアップ電源	主電源に接続
VCCE	20, 65, 95, 132	主電源	5V±10%または3.3V±10%
EXCVCC	61, 137	内部電源用外付け容量接続	コンデンサを介してグランド
EXCVDD	73	RAM電源用外付け容量接続	コンデンサを介してグランド
EXCOSC-VCC	6	発信電源用外付け容量接続	コンデンサを介してグランド
VSS	3, 21, 62, 72, 96, 138	グランド	0V
JTRST	111	JTAGリセット入力	プルダウン（0～100kΩ）

注.　・上記以外の端子については、端子処理不要です。

シリアルプログラマ接続時の、ユーザシステム構成例を以下に示します。シリアルプログラマは、ユーザシステムへ電源投入後、クロック非同期形シリアル(UARTモード)を使用し内蔵フラッシュメモリへの書き込みを行います。発振周波数に依存する通信上の問題が発生することはありません。シリアルプログラマに接続する端子をシステムで使用する場合は、シリアルプログラマ接続時に影響が出ないような考慮が必要です。なお、H'0000 0084～H'0000 0093間は内蔵フラッシュメモリのプロテクト用のID照合領域としてシリアルプログラマで使用します。内蔵フラッシュメモリのプロテクトが必要な場合は、任意のIDを設定してください。



注1. SBI#は、"H"または"L"レベルに固定し割り込み発生しない条件を作る必要があります。
注. ・ユーザシステムへ電源を供給した後、内蔵フラッシュメモリへの書き込みを行う必要があります。
・P84～P87をシステム回路で使用する場合は、シリアルプログラマ接続への考慮が必要です。
・P84、P86、P87、FP、MOD0のプルアップ/プルダウン抵抗値は、システム設計条件に合わせて設定ください。
・P84、P86、P87、FP、MOD0の標準プルアップ/プルダウン抵抗値は、4.7～10kΩです。
・記載無きポートの状態は、フラッシュメモリ書き込みへ影響を与えることはありません。
・内蔵フラッシュメモリを書き換え中は、モードが移行しないようにモード端子/電源管理を十分行ってください。

図6.8.1 端子接続図(UARTモード)

6.9　内蔵フラッシュメモリのプロテクト機能

内蔵フラッシュメモリは、誤作動による書き換え、不正なコピーや書き込み/消去を防ぐ、以下の４つのプロテクト機能を備えています。

(1) フラッシュメモリプロテクトID

汎用シリアルプログラマ、エミュレータ等の内蔵フラッシュメモリを書き込む/消去するツール使用時は、ツールで入力したIDと、内蔵フラッシュメモリ内のIDと照合を行います。正しいIDを入力しないと読み出し/書き込み/消去を実行できません(一部ツールでは、全領域消去した後に、ツール動作が実行可能になり、内蔵フラッシュメモリの書き込みも可能になります)。

(2) FP端子によるプロテクト

FP(フラッシュプロテクト)端子を"L"レベルにすると、内蔵フラッシュメモリに対する書き込み/消去がハードウェア的にプロテクトされます。フラッシュ書き換えを必要としないシステム、また車載用途等、書き換えを禁止するシステムでは、内蔵フラッシュメモリの書き込み/消去時以外はFP端子を"L"レベルに固定してください。また、フラッシュ書き込み/消去プログラムでは、フラッシュモードレジスタ(FMOD)内のFPMOD(外部FP端子ステータス)ビットを読み出すことによって、FP端子のレベルが判別できるため、ソフトウェア的にプロテクトすることもできます。外部端子設定によるプロテクトを要求されないシステムでは、FP端子を常に"H"レベルに設定することにより、内蔵フラッシュメモリ書き込み/消去時の操作を簡略化することができます。ただし、ソフト操作ミスによる不用意な書き換えを防ぐため、下記(4)のロックビットによるプロテクトを使用してください。

ただし、JTAG経由で書き込み/消去時には、FP端子の制御をチップ内部で行いますので端子状態に関係なくフラッシュメモリの書き込み/消去が可能です。

(3) FENTRYビットによるプロテクト

フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)内のFENTRY(フラッシュモードエントリ)ビットを"1"に設定しないとフラッシュE/Wイネーブルモードに移行しません。また、FENTRYビットを"1"に設定するには、FP端子が"H"レベルの状態で、連続して"0"→"1"を書き込む必要があります。

(4) ロックビットによるプロテクト

内蔵フラッシュメモリのブロック単位に存在するロックビットを"0"にセットし、プロテクト状態にすると、該当するメモリブロックの書き込み/消去が禁止されます。

6.10　内蔵RAMの注意事項

内蔵RAMの注意事項を以下に示します。

- ブートモードで起動した場合、「フラッシュ書き込み/消去プログラム」が内蔵RAMへ転送されるため、ブートモードで起動後の内蔵RAM値は不定となります。

6.11　内蔵フラッシュメモリの注意事項

内蔵フラッシュメモリの注意事項を以下に示します。

- 内蔵フラッシュメモリ書き込み/消去時は、内部で高電圧が生成されています。書き込み/消去中のモード移行はチップ破壊の原因となり得ますので、モード移行がないように、モード端子、電源管理を十分に行ってください。
- 汎用書き込み/消去ツールで使用する端子をシステムで使用する場合、ツール接続時に影響がでないよう考慮が必要です。
- 汎用書き込み/消去ツール使用時に内蔵フラッシュメモリのプロテクトが必要な場合は、内蔵フラッシュメモリのプロテクト用ID照合領域(H'0000 0084～H'0000 0093)に任意のIDを設定してください。
- 汎用書き込み/消去ツール使用時に内蔵フラッシュメモリのプロテクトが不要な場合は、内蔵フラッシュメモリのプロテクト用ID照合領域(H'0000 0084～H'0000 0093)すべてにH'FFを設定してください。
- フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)の各エラーステータスのクリア(初期化H'80)に、フラッシュ制御レジスタ4(FCNT4)のFRESETビットによるリセットを使用する場合は、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"1"(レディ状態)であることを確認後実施ください。
- フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットを"1"→"0"にする場合は、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"1"(レディ状態)であることを確認後実施ください。
- フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットを"1"でフラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"0"(書き込み、または消去中)の場合、FENTRYビットのクリアは行わないでください。
- JTAG経由で書き込み/消去時には、FP端子の制御をチップ内部で行ないますので端子状態に関係なくフラッシュメモリの書き込み/消去が可能です。

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第7章

リセット

7.1　リセット概要
7.2　リセット動作
7.3　リセット解除直後の内部状態
7.4　リセット解除後の注意事項

7.1　リセット概要

RESET#端子に"L"レベル信号を入力するとリセット状態に入ります。その後、RESET#端子を"H"にするとリセット状態が解除され、PC(プログラムカウンタ)にリセットベクタエントリの番地がセットされ、以後リセットベクタエントリから実行を開始します。

7.2　リセット動作

RESET#端子にノイズキャンセル幅(200ns)以上の"L"レベルが入力されると、リセットが受け付けられます。リセットが受け付けられると、内蔵回路(CPU含む)がリセットされます。(リセット時の端子状態については「表1.4.1 端子配列表」を参照。)

RESET#入力が"H"レベルになると、512～513BCLK後に内蔵回路のリセットが解除されます。

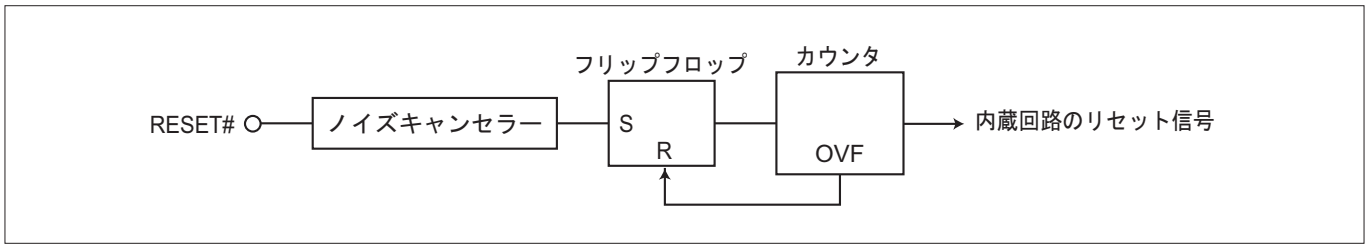


図7.2.1　**リセット回路**

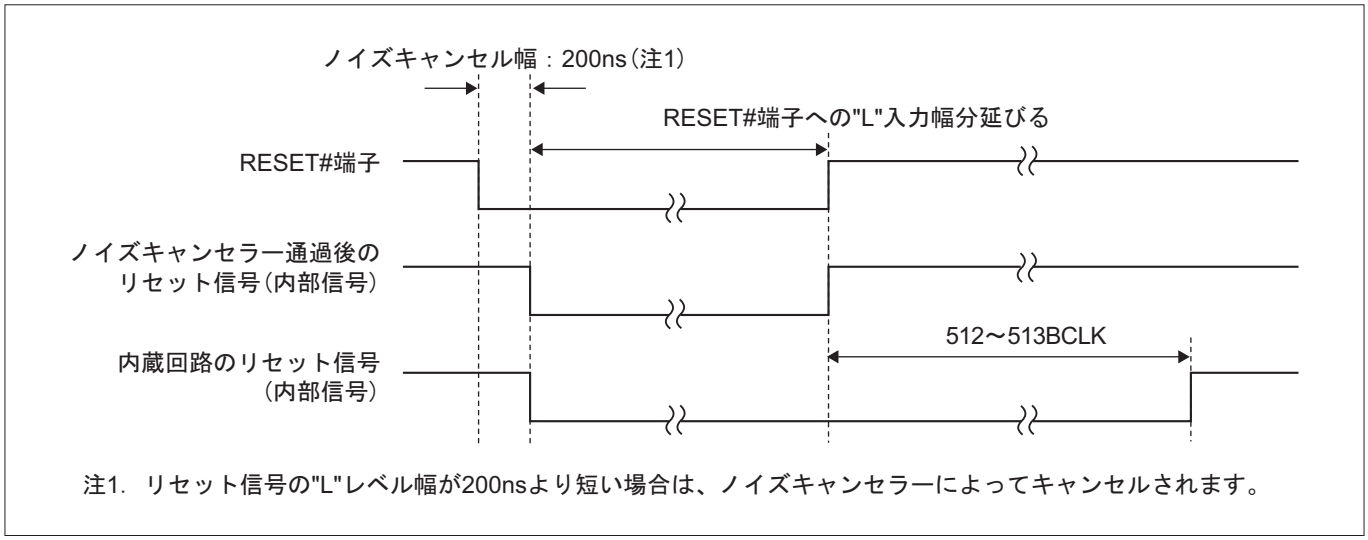


図7.2.2　**リセットシーケンス**

7.2.1 電源投入時のリセット

電源投入時は、電源が規格内に入り、内蔵する4逓倍のクロックジェネレータの発振が安定するまで、RESET#端子に"L"レベル信号を入力してください。

7.2.2 動作中のリセット

動作中のリセットは、200ns以上の幅でRESET#端子に"L"レベル信号を入力してください。

7.2.3 フラッシュ書き込み時のリセットベクタ移動

ブートモードに移行してリセットを解除すると、リセットベクタエントリアドレスがブートプログラムの実行開始番地へ移動して、ブートプログラムの実行を開始します。詳細については、「6.5 内蔵フラッシュメモリの書き込み」を参照してください。

7.3　リセット解除直後の内部状態

以下にリセット解除直後の内部状態を示します。各内蔵周辺I/Oのレジスタ初期状態については、それぞれの内蔵周辺I/Oの章を参照してください。

表7.3.1　リセット解除直後の内部状態

レジスタ		リセット後の状態
PSW	(CR0)	B'0000 0000 0000 0000　??00 000? 0000 0000　(BSM、BIE、BCビット＝不定)
CBR	(CR1)	H'0000 0000　(Cビット＝0)
SPI	(CR2)	不定
SPU	(CR3)	不定
BPC	(CR6)	不定
PC		H'0000 0000　(H'0000 0000番地から実行)　(注1)
R0～R15		不定
ACC(アキュムレータ)		不定
RAM		パワーオンリセット時、不定 (ただし、RAMバックアップモードの状態から復帰し、リセット解除した場合は、リセット前の内容を保持しています。)

注1．ブートモード時は、ブートプログラムを実行します。

7.4　リセット解除後の注意事項

・入出力ポート

リセット解除後は、貫通電流防止のため、入力禁止状態になっています。ポートを入力モードで使用する場合は、ポート入力特別機能制御レジスタ(PICNT)のPIEN0で入力許可に設定してください。詳細については、「8.3 入出力ポート関連レジスタ」を参照してください。

第8章

入出力ポートと端子機能

8.1　入出力ポート概要
8.2　端子機能の選択
8.3　入出力ポート関連レジスタ
8.4　ポート入力レベル切り換え機能
8.5　ポート周辺回路
8.6　入出力ポートの注意事項

8.1　入出力ポート概要

P0～P13、P15、P17、およびP22（ただしP5は将来のために予約）の計96本の入出力ポートを備えています。入出力ポートは、方向レジスタにより入力ポートまたは出力ポートとして使用できます。

各入出力ポートは、他の内蔵周辺I/Oまたは外部拡張バスの信号線とダブルファンクションあるいはトリプルファンクション端子になっており、チップの動作モード選択、または入出力ポートの動作モードレジスタで端子機能を選択します（内蔵周辺I/Oがさらに複数の機能を持つ場合は、各内蔵周辺I/Oのレジスタ設定が必要です）。

入力ポートの貫通電流対策に使用可能なポート入力機能許可ビットを内蔵しており、リセット直後およびフラッシュ書き換え時のソフトウェアおよびハードウェア処理を簡素化できます。
なお、ポートを入力モードで使用する場合には、ポート入力機能許可ビットの設定が必要です。

入出力ポートの概要を示します。

表8.1.1　入出力ポートの概要

項目	仕様
ポート数	合計96本 P0 ： P00～P07 （8本） P1 ： P10～P17 （8本） P2 ： P20～P27 （8本） P3 ： P30～P37 （8本） P4 ： P41～P47 （7本） P6 ： P61～P63 （3本） P7 ： P70～P77 （8本） P8 ： P82～P87 （6本） P9 ： P93～P97 （5本） P10 ： P100～P107 （8本） P11 ： P110～P117 （8本） P12 ： P124～P127 （4本） P13 ： P130～P137 （8本） P15 ： P150, P153 （2本） P17 ： P174, P175 （2本） P22 ： P220, P221, P225 （3本）
ポート機能	入出力ポートの方向制御レジスタにより、各ポート単位で入力ポートまたは出力ポートに設定可能 （ただし、P221はCAN入力専用ポート）
端子機能	周辺I/Oまたは外部拡張信号とのダブルファンクション（または周辺I/Oの複数機能との多重ファンクション）
端子機能切り換え	P0～P4, P225 ：CPU動作モード設定（MOD0、MOD1端子）による P6～P22 ：入出力ポートの動作モードレジスタ設定による （ただし周辺I/Oの端子機能は周辺I/Oのレジスタで選択）

注．・P5、P14、P16、P18～P21はありません。

8.2　端子機能の選択

各入出力ポートは他の内蔵周辺I/Oまたは外部拡張バスの信号線とダブルファンクション（または周辺I/Oの複数機能とのトリプルファンクション）になっており、動作モードの設定、または入出力ポートの動作モードレジスタで機能を選択します。

P0～P4、P225は、CPUの動作モードを外部拡張モード、またはプロセッサモードに設定した場合、すべて外部アクセスのための信号端子に切り換わります。動作モードはMOD0、MOD1端子の設定で決まります（下表参照）。

表8.2.1　CPU動作モードとP0～P4、P225端子機能

MOD0	MOD1	動作モード	P0～P4、P225端子機能
VSS	VSS	シングルチップモード	入出力ポート端子
VSS	VCCE	外部拡張モード	外部拡張信号端子
VCCE	VSS	プロセッサモード	
VCCE	VCCE	Reserved（使用禁止）	－

注．・VCCE＝主電源、VSS＝GNDに接続

各入出力ポートは入出力ポートの動作モードレジスタの設定で、入出力ポート端子と内蔵周辺I/Oの端子に機能が切り換わります。なお、内蔵周辺I/Oが複数の端子機能を備える場合は、それぞれの内蔵周辺I/Oのレジスタで端子機能を選択してください。

なお、内蔵フラッシュメモリ書き込み時の、FP端子とMOD1端子の操作は、端子機能には影響を与えません。

		0	1	2	3	4	5	6	7
チップ動作モード設定（注1）	P0	DB0	DB1	DB2	DB3	DB4	DB5	DB6	DB7
	P1	DB8	DB9	DB10	DB11	DB12	DB13	DB14	DB15
	P2	A23	A24	A25	A26	A27	A28	A29	A30
	P3	A15	A16	A17	A18	A19	A20	A21	A22
	P4		BLW#/ BLE#	BHW#/ BHE#	RD#	CS0#	CS1#	A13	A14
（予約）	P5								
入出力ポート動作モードレジスタ設定	P6		(P61)	(P62)	(P63)	SBI# (注3)			
	P7	BCLK/ WR#	WAIT#	HREQ#	HACK#	RTDTXD/ TXD3（注2）	RTDRXD/ RXD3（注2）	RTDACK/ CTX1（注2）	RTDCLK/ CRX1（注2）
	P8	MOD0 (注3)	MOD1 (注3)	TXD0	RXD0	SCLKI0/ SCLKO0	TXD1	RXD1	SCLKI1/ SCLKO1
	P9				TO16	TO17	TO18	TO19	TO20
	P10	TO8	TO9	TO10	TO11	TO12	TO13	TO14	TO15
	P11	TO0	TO1	TO2	TO3	TO4	TO5	TO6	TO7
	P12					TCLK0	TCLK1	TCLK2	TCLK3
	P13	TIN16	TIN17	TIN18	TIN19	TIN20	TIN21	TIN22	TIN23
	P14								
	P15	TIN0			TIN3				
	P16								
	P17					TXD2	RXD2		
	P18								
	P19								
	P20								
	P21								
	P22	CTX0	CRX0				A12 (注1)		

注1. MOD0、MOD1端子の設定により、端子機能が切り換わります。
注2. トリプルファンクション端子です。ポート周辺機能選択レジスタによって出力する周辺機能を設定する必要があります。
注3. 入出力ポートの機能としては使用できません。SBI#、MOD0、MOD1端子の入力レベルを読み出せます。
注. ・P5、P14、P16、P18、P19、P20、およびP21は配置されていません。

図8.2.1　入出力ポートと端子機能の割り当て

8.3　入出力ポート関連レジスタ

入出力ポート関連のレジスタには、ポートデータレジスタ、ポート方向レジスタ、ポート動作モードレジスタがあります。

なお、P5は将来のために予約されています。以下に入出力ポート関連のレジスタマップを示します。

入出力ポート関連レジスタマップ(1/2)

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 0700	P0データレジスタ (P0DATA)	P1データレジスタ (P1DATA)	8-7
H'0080 0702	P2データレジスタ (P2DATA)	P3データレジスタ (P3DATA)	8-7
H'0080 0704	P4データレジスタ (P4DATA)	(使用禁止領域)	8-7
H'0080 0706	P6データレジスタ (P6DATA)	P7データレジスタ (P7DATA)	8-7
H'0080 0708	P8データレジスタ (P8DATA)	P9データレジスタ (P9DATA)	8-7
H'0080 070A	P10データレジスタ (P10DATA)	P11データレジスタ (P11DATA)	8-7
H'0080 070C	P12データレジスタ (P12DATA)	P13データレジスタ (P13DATA)	8-7
H'0080 070E	(使用禁止領域)	P15データレジスタ (P15DATA)	8-7
H'0080 0710	(使用禁止領域)	P17データレジスタ (P17DATA)	8-7
H'0080 0712	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0714	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0716	P22データレジスタ (P22DATA)	(使用禁止領域)	8-7
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0720	P0方向レジスタ (P0DIR)	P1方向レジスタ (P1DIR)	8-8
H'0080 0722	P2方向レジスタ (P2DIR)	P3方向レジスタ (P3DIR)	8-8
H'0080 0724	P4方向レジスタ (P4DIR)	(使用禁止領域)	8-8
H'0080 0726	P6方向レジスタ (P6DIR)	P7方向レジスタ (P7DIR)	8-8
H'0080 0728	P8方向レジスタ (P8DIR)	P9方向レジスタ (P9DIR)	8-8
H'0080 072A	P10方向レジスタ (P10DIR)	P11方向レジスタ (P11DIR)	8-8
H'0080 072C	P12方向レジスタ (P12DIR)	P13方向レジスタ (P13DIR)	8-8
H'0080 072E	(使用禁止領域)	P15方向レジスタ (P15DIR)	8-8
H'0080 0730	(使用禁止領域)	P17方向レジスタ (P17DIR)	8-8
H'0080 0732	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0734	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0736	P22方向レジスタ (P22DIR)	(使用禁止領域)	8-8

入出力ポート関連レジスタマップ(2/2)

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 0744	(使用禁止領域)	ポート入力特別機能制御レジスタ (PICNT)	8-15
H'0080 0746	(使用禁止領域)	P7動作モードレジスタ (P7MOD)	8-9
H'0080 0748	P8動作モードレジスタ (P8MOD)	P9動作モードレジスタ (P9MOD)	8-9 8-10
H'0080 074A	P10動作モードレジスタ (P10MOD)	P11動作モードレジスタ (P11MOD)	8-10 8-11
H'0080 074C	P12動作モードレジスタ (P12MOD)	P13動作モードレジスタ (P13MOD)	8-11 8-12
H'0080 074E	(使用禁止領域)	P15動作モードレジスタ (P15MOD)	8-12
H'0080 0750	(使用禁止領域)	P17動作モードレジスタ (P17MOD)	8-13
H'0080 0752	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0754	(使用禁止領域)	(使用禁止領域)	
H'0080 0756	P22動作モードレジスタ (P22MOD)	(使用禁止領域)	8-13
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0760	ポートグループ0, 1入力レベル設定レジスタ (PG01LEV)	ポートグループ3入力レベル設定レジスタ (PG3LEV)	8-19
H'0080 0762	ポートグループ4, 5入力レベル設定レジスタ (PG45LEV)	ポートグループ6, 7入力レベル設定レジスタ (PG67LEV)	8-19
H'0080 0764	ポートグループ8入力レベル設定レジスタ (PG8LEV)	(使用禁止領域)	8-19
H'0080 0766	(使用禁止領域)	P7周辺機能選択レジスタ (P7SMOD)	8-14

8.3.1　ポートデータレジスタ

P0データレジスタ（P0DATA）　＜アドレス：H'0080 0700＞
P1データレジスタ（P1DATA）　＜アドレス：H'0080 0701＞
P2データレジスタ（P2DATA）　＜アドレス：H'0080 0702＞
P3データレジスタ（P3DATA）　＜アドレス：H'0080 0703＞
P4データレジスタ（P4DATA）　＜アドレス：H'0080 0704＞
P6データレジスタ（P6DATA）　＜アドレス：H'0080 0706＞
P7データレジスタ（P7DATA）　＜アドレス：H'0080 0707＞
P8データレジスタ（P8DATA）　＜アドレス：H'0080 0708＞
P9データレジスタ（P9DATA）　＜アドレス：H'0080 0709＞
P10データレジスタ（P10DATA）　＜アドレス：H'0080 070A＞
P11データレジスタ（P11DATA）　＜アドレス：H'0080 070B＞
P12データレジスタ（P12DATA）　＜アドレス：H'0080 070C＞
P13データレジスタ（P13DATA）　＜アドレス：H'0080 070D＞
P15データレジスタ（P15DATA）　＜アドレス：H'0080 070F＞
P17データレジスタ（P17DATA）　＜アドレス：H'0080 0711＞
P22データレジスタ（P22DATA）　＜アドレス：H'0080 0716＞

b0 （b8	1 9	2 10	3 11	4 12	5 13	6 14	b7 b15）
Pn0DT ?	Pn1DT ?	Pn2DT ?	Pn3DT ?	Pn4DT ?	Pn5DT ?	Pn6DT ?	Pn7DT ?

注．・n＝0～13、15、17、22（ただしP5を除く）

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0（b8）	Pn0DT ポートPn0データビット	＜読み出し時＞ ポート方向レジスタの設定により	R	W
1（b9）	Pn1DT ポートPn1データビット	・方向ビットが"0"（入力モード）の場合 0：ポート入力端子＝"L"	R	W
2（b10）	Pn2DT ポートPn2データビット	1：ポート入力端子＝"H" ・方向ビットが"1"（出力モード）の場合（注1）	R	W
3（b11）	Pn3DT ポートPn3データビット	0：ポート出力ラッチ＝"0"/ポート端子レベル"L" 1：ポート出力ラッチ＝"1"/ポート端子レベル"H"	R	W
4（b12）	Pn4DT ポートPn4データビット	＜書き込み時＞ ポート出力ラッチへの書き込み	R	W
5（b13）	Pn5DT ポートPn5データビット		R	W
6（b14）	Pn6DT ポートPn6データビット		R	W
7（b15）	Pn7DT ポートPn7データビット		R	W

注1．読み出し対象の選択は、ポート入力特別機能制御レジスタのポート入力データ選択ビット（PISEL）で設定します。
注．・次のビットは配置されていません（読み出し時"0"、書き込み時無効）。
P40、P60、P65～P67、P90～P92、P120～P123、P151、P152、P154～P157、
P170～P173、P176、P177、P222～ P224、P226、P227
・P64DTビット読み出しで、SBI#端子のレベルが読み出せます。P64DTビットへの書き込みは無効です。
・P80DTビット読み出しでMOD0、P81DTビット読み出しでMOD1端子のレベルが読み出せます。P80DT、P81DTビットへの書き込みは無効です。
・ポートP221は入力モードのみです。P221DTビットへの書き込みは無効です。

8.3.2　ポート方向レジスタ

P0方向レジスタ（P0DIR）　＜アドレス：H'0080 0720＞
P1方向レジスタ（P1DIR）　＜アドレス：H'0080 0721＞
P2方向レジスタ（P2DIR）　＜アドレス：H'0080 0722＞
P3方向レジスタ（P3DIR）　＜アドレス：H'0080 0723＞
P4方向レジスタ（P4DIR）　＜アドレス：H'0080 0724＞
P6方向レジスタ（P6DIR）　＜アドレス：H'0080 0726＞
P7方向レジスタ（P7DIR）　＜アドレス：H'0080 0727＞
P8方向レジスタ（P8DIR）　＜アドレス：H'0080 0728＞
P9方向レジスタ（P9DIR）　＜アドレス：H'0080 0729＞
P10方向レジスタ（P10DIR）　＜アドレス：H'0080 072A＞
P11方向レジスタ（P11DIR）　＜アドレス：H'0080 072B＞
P12方向レジスタ（P12DIR）　＜アドレス：H'0080 072C＞
P13方向レジスタ（P13DIR）　＜アドレス：H'0080 072D＞
P15方向レジスタ（P15DIR）　＜アドレス：H'0080 072F＞
P17方向レジスタ（P17DIR）　＜アドレス：H'0080 0731＞
P22方向レジスタ（P22DIR）　＜アドレス：H'0080 0736＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
(b8	9	10	11	12	13	14	b15)
Pn0DIR	Pn1DIR	Pn2DIR	Pn3DIR	Pn4DIR	Pn5DIR	Pn6DIR	Pn7DIR
0	0	0	0	0	0	0	0

注．・n＝0～13、15、17、22（ただしP5を除く）

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0(b8)	Pn0DIR ポートPn0方向ビット	0：入力モード 1：出力モード	R	W
1(b9)	Pn1DIR ポートPn1方向ビット		R	W
2(b10)	Pn2DIR ポートPn2方向ビット		R	W
3(b11)	Pn3DIR ポートPn3方向ビット		R	W
4(b12)	Pn4DIR ポートPn4方向ビット		R	W
5(b13)	Pn5DIR ポートPn5方向ビット		R	W
6(b14)	Pn6DIR ポートPn6方向ビット		R	W
7(b15)	Pn7DIR ポートPn7方向ビット		R	W

注．・次のビットは配置されていません（読み出し時"0"、書き込み時無効）。
P40、P60、P64～P67、P80、P81、P90～P92、P120～P123、P151、P152、P154～P157、P170～P173、P176、P177、P221、P222～P224、P226、P227
・リセット解除時は全ポート入力モードに設定されています。

8.3.3　ポート動作モードレジスタ

P7 動作モードレジスタ（P7MOD）　　＜アドレス：H'0080 0747＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
P70MOD 0	P71MOD 0	P72MOD 0	P73MOD 0	P74MOD 0	P75MOD 0	P76MOD 0	P77MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	P70MOD ポートP70動作モードビット（注2）	0：P70 1：BCLK/WR#	R	W
9	P71MOD ポートP71動作モードビット	0：P71 1：WAIT#	R	W
10	P72MOD ポートP72動作モードビット	0：P72 1：HREQ#	R	W
11	P73MOD ポートP73動作モードビット	0：P73 1：HACK#	R	W
12	P74MOD ポートP74動作モードビット	0：P74 1：RTDTXD/TXD3（注1）	R	W
13	P75MOD ポートP75動作モードビット	0：P75 1：RTDRXD/RXD3（注1）	R	W
14	P76MOD ポートP76動作モードビット	0：P76 1：RTDACK/CTX1（注1）	R	W
15	P77MOD ポートP77動作モードビット	0：P77 1：RTDCLK/CRX1（注1）	R	W

注1．それぞれの機能はP7周辺機能選択レジスタで選択します。

注2．外部拡張モードでBUSMODCレジスタのBUSMODビットを"1"（バイトイネーブル分離モード）に設定時、P7MODレジスタの設定に関わらず、P70/BCLK/WR#端子はWR#信号を出力する端子となります。

P8 動作モードレジスタ（P8MOD）　　＜アドレス：H'0080 0748＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
0	0	P82MOD 0	P83MOD 0	P84MOD 0	P85MOD 0	P86MOD 0	P87MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2	P82MOD ポートP82動作モードビット	0：P82 1：TXD0	R	W
3	P83MOD ポートP83動作モードビット	0：P83 1：RXD0	R	W
4	P84MOD ポートP84動作モードビット	0：P84 1：SCLKI0/SCLKO0	R	W
5	P85MOD ポートP85動作モードビット	0：P85 1：TXD1	R	W
6	P86MOD ポートP86動作モードビット	0：P86 1：RXD1	R	W
7	P87MOD ポートP87動作モードビット	0：P87 1：SCLKI1/SCLKO1	R	W

注．・ポートP80、P81はありません。

P9 動作モードレジスタ（P9MOD）　＜アドレス：H'0080 0749＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	P93MOD 0	P94MOD 0	P95MOD 0	P96MOD 0	P97MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	P93MOD ポートP93動作モードビット	0：P93 1：TO16	R	W
12	P94MOD ポートP94動作モードビット	0：P94 1：TO17	R	W
13	P95MOD ポートP95動作モードビット	0：P95 1：TO18	R	W
14	P96MOD ポートP96動作モードビット	0：P96 1：TO19	R	W
15	P97MOD ポートP97動作モードビット	0：P97 1：TO20	R	W

注．・ポートP90～P92はありません。

P10 動作モードレジスタ（P10MOD）　＜アドレス：H'0080 074A＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
P100MOD 0	P101MOD 0	P102MOD 0	P103MOD 0	P104MOD 0	P105MOD 0	P106MOD 0	P107MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	P100MOD ポートP100動作モードビット	0：P100 1：TO8	R	W
1	P101MOD ポートP101動作モードビット	0：P101 1：TO9	R	W
2	P102MOD ポートP102動作モードビット	0：P102 1：TO10	R	W
3	P103MOD ポートP103動作モードビット	0：P103 1：TO11	R	W
4	P104MOD ポートP104動作モードビット	0：P104 1：TO12	R	W
5	P105MOD ポートP105動作モードビット	0：P105 1：TO13	R	W
6	P106MOD ポートP106動作モードビット	0：P106 1：TO14	R	W
7	P107MOD ポートP107動作モードビット	0：P107 1：TO15	R	W

P11 動作モードレジスタ（P11MOD）　＜アドレス：H'0080 074B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
P110MOD 0	P111MOD 0	P112MOD 0	P113MOD 0	P114MOD 0	P115MOD 0	P116MOD 0	P117MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	P110MOD ポートP110動作モードビット	0：P110 1：TO0	R	W
9	P111MOD ポートP111動作モードビット	0：P111 1：TO1	R	W
10	P112MOD ポートP112動作モードビット	0：P112 1：TO2	R	W
11	P113MOD ポートP113動作モードビット	0：P113 1：TO3	R	W
12	P114MOD ポートP114動作モードビット	0：P114 1：TO4	R	W
13	P115MOD ポートP115動作モードビット	0：P115 1：TO5	R	W
14	P116MOD ポートP116動作モードビット	0：P116 1：TO6	R	W
15	P117MOD ポートP117動作モードビット	0：P117 1：TO7	R	W

P12 動作モードレジスタ（P12MOD）　＜アドレス：H'0080 074C＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
0	0	0	0	P124MOD 0	P125MOD 0	P126MOD 0	P127MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～3	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
4	P124MOD ポートP124動作モードビット	0：P124 1：TCLK0	R	W
5	P125MOD ポートP125動作モードビット	0：P125 1：TCLK1	R	W
6	P126MOD ポートP126動作モードビット	0：P126 1：TCLK2	R	W
7	P127MOD ポートP127動作モードビット	0：P127 1：TCLK3	R	W

注．・ポートP120～P123はありません。

P13 動作モードレジスタ（P13MOD）　＜アドレス：H'0080 074D＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
P130MOD 0	P131MOD 0	P132MOD 0	P133MOD 0	P134MOD 0	P135MOD 0	P136MOD 0	P137MOD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	P130MOD ポートP130動作モードビット	0：P130 1：TIN16	R	W
9	P131MOD ポートP131動作モードビット	0：P131 1：TIN17	R	W
10	P132MOD ポートP132動作モードビット	0：P132 1：TIN18	R	W
11	P133MOD ポートP133動作モードビット	0：P133 1：TIN19	R	W
12	P134MOD ポートP134動作モードビット	0：P134 1：TIN20	R	W
13	P135MOD ポートP135動作モードビット	0：P135 1：TIN21	R	W
14	P136MOD ポートP136動作モードビット	0：P136 1：TIN22	R	W
15	P137MOD ポートP137動作モードビット	0：P137 1：TIN23	R	W

P15 動作モードレジスタ（P15MOD）　＜アドレス：H'0080 074F＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
P150MOD 0	0	0	P153MOD 0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	P150MOD ポートP150動作モードビット	0：P150 1：TIN0	R	W
9, 10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	P153MOD ポートP153動作モードビット	0：P153 1：TIN3	R	W
12～15	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0

注．・ポートP151、P152、P154～P157はありません。

P17 動作モードレジスタ（P17MOD）　＜アドレス：H'0080 0751＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	P174MOD 0	P175MOD 0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～11	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
12	P174MOD ポートP174動作モードビット	0：P174 1：TXD2	R	W
13	P175MOD ポートP175動作モードビット	0：P175 1：RXD2	R	W
14, 15	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0

注．・ポートP170～P173、P176、P177はありません。

P22 動作モードレジスタ（P22MOD）　＜アドレス：H'0080 0756＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
P220MOD 0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	P220MOD ポートP220動作モードビット	0：P220 1：CTX0	R	W
1～7	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0

注1．P221はCAN入力専用端子です。
注2．P225はMOD0、MOD1端子の設定により、端子機能が切り換わります。
注3．P222～P224、P226、P227はありません。

8.3.4　ポート周辺機能選択レジスタ

P7 周辺機能選択レジスタ（P7SMOD）　　＜アドレス：H'0080 0767＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
				P74SMOD	P75SMOD	P76SMOD	P77SMOD
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～11	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
12	P74SMOD ポートP74周辺機能選択ビット	0：RTDTXD 1：TXD3	R	W
13	P75SMOD ポートP75周辺機能選択ビット	0：RTDRXD 1：RXD3	R	W
14	P76SMOD ポートP76周辺機能選択ビット	0：RTDACK 1：CTX1	R	W
15	P77SMOD ポートP77周辺機能選択ビット	0：RTDCLK 1：CRX1	R	W

P7周辺機能選択レジスタは、P7動作モードレジスタの対応ビットが"1"のときの周辺機能を選択するレジスタです。

このレジスタは、P7動作モードレジスタが"0"の条件で書き換えた後、P7動作モードレジスタを"1"にセットして周辺機能を有効にしてください。

8.3.5　ポート入力特別機能制御レジスタ

ポート入力特別機能制御レジスタ（PICNT）　　**＜アドレス：**H'0080 0745**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			XSTAT			PISEL	PIEN0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8～10	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
11	XSTAT XIN**発振状態ビット**	0：XIN**は発振状態** 1：XIN**は停止状態**	R（**注**1）	
12, 13	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
14	PISEL **ポート入力データ選択ビット**	0：**ポート出力ラッチの内容** 1：**ポート端子レベル**	R	W
15	PIEN0 **ポート入力許可ビット**	0：**入力禁止** 1：**入力許可**	R	W

注1．書き込みは"0"**のみ有効。**"1"**を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持。**

(1) XSTAT（XIN**発振状態）ビット**　(b11)

1) XSTATが"1"**となる条件**

XSTATはXINの発振が停止したことを検知して、"1"にセットされます。XINが一定時間（最大4BCLK、最小3BCLK）以上同一レベルを保持したときを発振停止とみなします。なお、通常動作時においてXINは1BCLK間に1回の割合で変化します。

2) XSTATが"0"**となる条件**

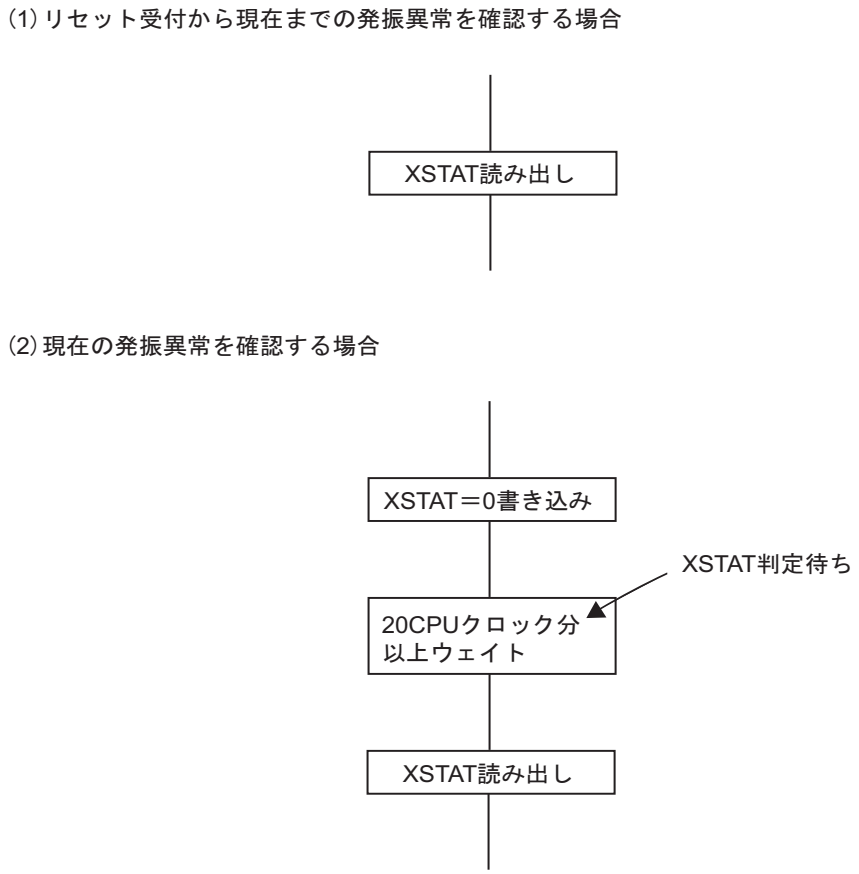
システムリセット、またはXSTATへの"0"書き込みにより"0"にクリアされます。上記（1）による"1"セットと、"0"書き込みが競合したときは、"0"書き込みによるクリアが優先されます。なおXSTATへの"1"書き込みは無視されます。

3) XSTATを使用したXIN発振停止検出方法

PLLを内蔵しているため、XINの発振が停止していても内部クロックは停止しません。

リセット解除後、一度もXSTATをクリアすることなしにXSTATをリードすれば、リセット解除から現在までにXINが停止したことがあるかどうかを知ることができます。また、XSTATへ"0"を書き込んでからリードすれば、現時点でのXINの発振状態を知ることができます。ただし、ライトとリードの間は10BCLK（20CPUクロック）以上空けてください。

XSTATビットが"1"にセットされた時の処理については、XSTATビットをいったんクリアした後に再チェックする等、十分注意してご使用ください。



注.　・XSTATビットが"1"にセットされた時の処理については、XSTATビットを
いったんクリアした後に再チェックする等、十分注意してご使用ください。

図8.3.1　XSTAT**設定手順**

(2) PISEL(ポート入力データ選択)ビット　(b14)

ポート方向レジスタが出力設定時、ポートデータレジスタの読み込み対象を選択するビットです。この際、ポート動作モードレジスタの影響は受けません。

表8.3.1　**ポート入力データ選択ビットの設定値とポートデータレジスタ読み込み対象**

方向レジスタ	PISELの設定	読み込み対象
0(入力)	0/1	ポート端子レベル
1(出力)	0	ポート出力ラッチ
	1	ポート端子レベル

(3) PIEN0(ポート入力許可)ビット　(b15)

ポート入力端子の貫通電流を防止するためのビットです。
リセット後は入力禁止になっているため、"1"にして入力処理を行う必要があります。
ポート入力禁止時には、端子に"Lレベル"が入力されているのと等価の状態になっています。そのため、入力禁止時にポート動作モードレジスタで周辺入力機能を選択すると、"Lレベル"入力により意図しない動作となる場合があります。

周辺入力機能を選択する場合の設定順序を以下に示します。

1) 端子レベル確定後にポート入力許可
2) ポート動作モードによる機能選択

ブートモード時は、シリアルインタフェース機能と兼用となっている端子は入力許可となるため、シリアルによるフラッシュ書き換え時には、"0"にしてシリアルインタフェース機能以外の端子から貫通電流を防止することができます。
各モードにおけるポート入力許可ビットで制御可能な端子を次に示します。

表8.3.2　ポート入力許可ビットで制御可能な端子

モード名	制御可能な端子	制御非対象端子
シングルチップ	P00～P07, P10～P17, P20～P27 P30～P37, P41～P47, P61～P63 P70～P77, P82～P87, P93～P97 P100～P107, P110～P117, P124～P127 P130～P137, P150, P153, P174, P175 P220, P225	P221, FP, SBI#, MOD0, MOD1, MOD2, RESET#
外部拡張 マイクロプロセッサ	P61～P63, P70～P77, P82～P87 P93～P97, P100～P107, P110～P117 P124～P127, P130～P137 P150, P153, P174, P175, P220	P00～P07, P10～P17 P20～P27, P30～P37 P41～P47, P221, P225, FP, SBI#, MOD0, MOD1, MOD2, RESET#
ブート (シングルチップ)	P00～P07, P10～P17, P20～P27 P30～P37, P41～P47, P61～P63 P67, P70～P77, P93～P97 P100～P107, P110～P117, P124～P127 P130～P137, P150, P153, P220, P225	P82～P87, P174, P175, P221, FP, SBI#, MOD0, MOD1, MOD2, RESET#

8.4 ポート入力レベル切り換え機能

ポート入力レベル切り換え機能は、ポートしきい値を以下のグループ単位で3種類の電圧レベル(シュミット有無設定可能)に切り換える機能です。この設定は、以下レジスタにグループ単位で設定可能です。

グループ0：P00〜P07, P10〜P17, P20〜P27, P30〜P37, P41〜P47, P70〜P73, P225
グループ1：P82〜P87, P174〜P177
グループ3：P93〜P97, P110〜P117
グループ4：P124〜P127
グループ5：P61〜P63, SBI#
グループ6：P74〜P77, P100〜P107
グループ7：P220, P221
グループ8：P130〜P137, P150〜P153

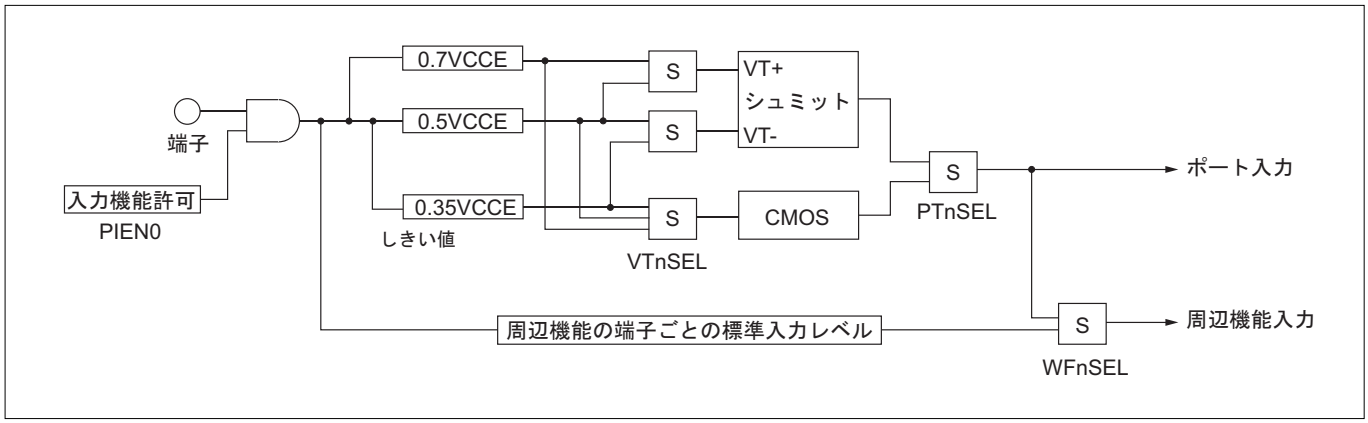


図8.4.1　**ポートレベル切り換え機能**

ポートグループ0,1入力レベル設定レジスタ（PG01LEV） ＜アドレス：H'0080 0760＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
WF0SEL 0	PT0SEL 0	VT0SEL0 0	VT0SEL1 1	WF1SEL 0	PT1SEL 0	VT1SEL0 0	VT1SEL1 1

ポートグループ3入力レベル設定レジスタ（PG3LEV） ＜アドレス：H'0080 0761＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	WF3SEL 0	PT3SEL 0	VT3SEL0 0	VT3SEL1 1

注．・PG3LEVのb8～b11には、何も配置されていません。

ポートグループ4,5入力レベル設定レジスタ（PG45LEV） ＜アドレス：H'0080 0762＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
WF4SEL 0	PT4SEL 0	VT4SEL0 0	VT4SEL1 1	WF5SEL 0	PT5SEL 0	VT5SEL0 0	VT5SEL1 1

ポートグループ6,7入力レベル設定レジスタ（PG67LEV） ＜アドレス：H'0080 0763＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
WF6SEL 0	PT6SEL 0	VT6SEL0 0	VT6SEL1 1	WF7SEL 0	PT7SEL 0	VT7SEL0 0	VT7SEL1 1

ポートグループ8入力レベル設定レジスタ（PG8LEV） ＜アドレス：H'0080 0764＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
WF8SEL 0	PT8SEL 0	VT8SEL0 0	VT8SEL1 1	0	0	0	0

注．・PG8LEVのb4～b7には、何も配置されていません。

＜リセット解除時：H'11, H'01, H'10＞（注2）

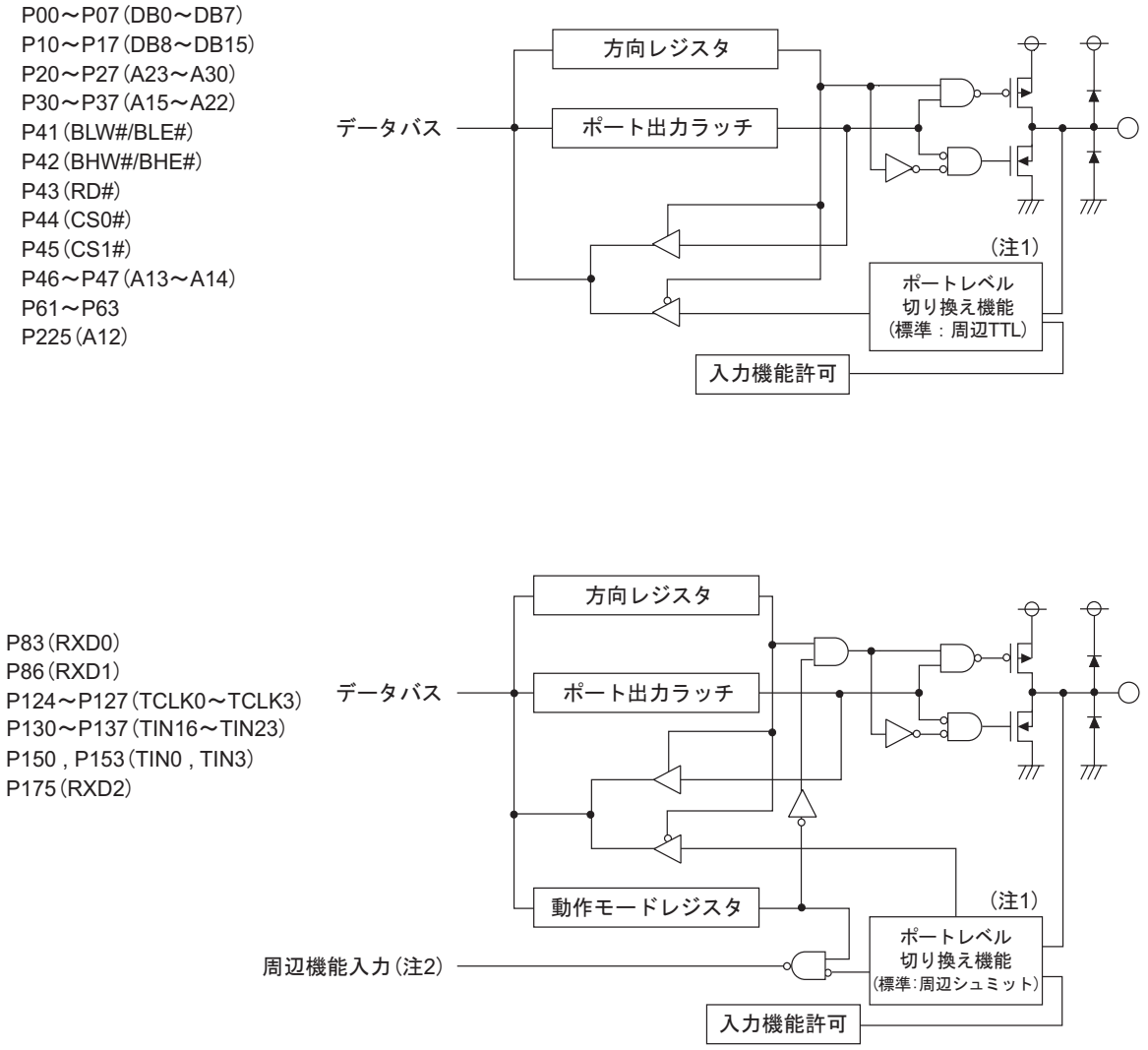
b	ビット名	機能	R	W
0(8)	WFnSEL（注1） グループnダブルファンクション入力選択ビット	0：端子ごとの標準入力を選択 1：しきい値切り換え機能を選択	R	W
1～3 (9～11)	PTnSEL （グループnポート入力選択ビット） VTnSEL0, VTnSEL1 （グループn入力しきい値選択ビット）	000：CMOS入力、0.35VCCE選択 001：CMOS入力、0.50VCCE選択 010：CMOS入力、0.70VCCE選択 011：設定禁止 100：シュミット入力、VT＋＝0.50VCCE、VT－＝0.35VCCE 101：設定禁止 110：シュミット入力、VT＋＝0.70VCCE、VT－＝0.35VCCE 111：シュミット入力、VT＋＝0.70VCCE、VT－＝0.50VCCE	R	W
4(12)	WFnSEL（注1） グループnダブルファンクション入力選択ビット	0：端子ごとの標準入力を選択 1：しきい値切り換え機能を選択	R	W
5～7 (13～15)	PTnSEL （グループnポート入力選択ビット） VTnSEL0, VTnSEL1 （グループn入力しきい値選択ビット）	000：CMOS入力、0.35VCCE選択 001：CMOS入力、0.50VCCE選択 010：CMOS入力、0.70VCCE選択 011：設定禁止 100：シュミット入力、VT＋＝0.50VCCE、VT－＝0.35VCCE 101：設定禁止 110：シュミット入力、VT＋＝0.70VCCE、VT－＝0.35VCCE 111：シュミット入力、VT＋＝0.70VCCE、VT－＝0.50VCCE	R	W

注1．汎用ポート機能端子を選択時（Px動作モードレジスタ(PxMOD)の対応するビットを"0"に設定時）は、WFnSELビットの設定値は無効となり、しきい値切り換え機能が有効になっています。

注2．VTnSEL1ビットのリセット解除時の値は"1"、それ以外のビットのリセット解除時の値は"0"となります。

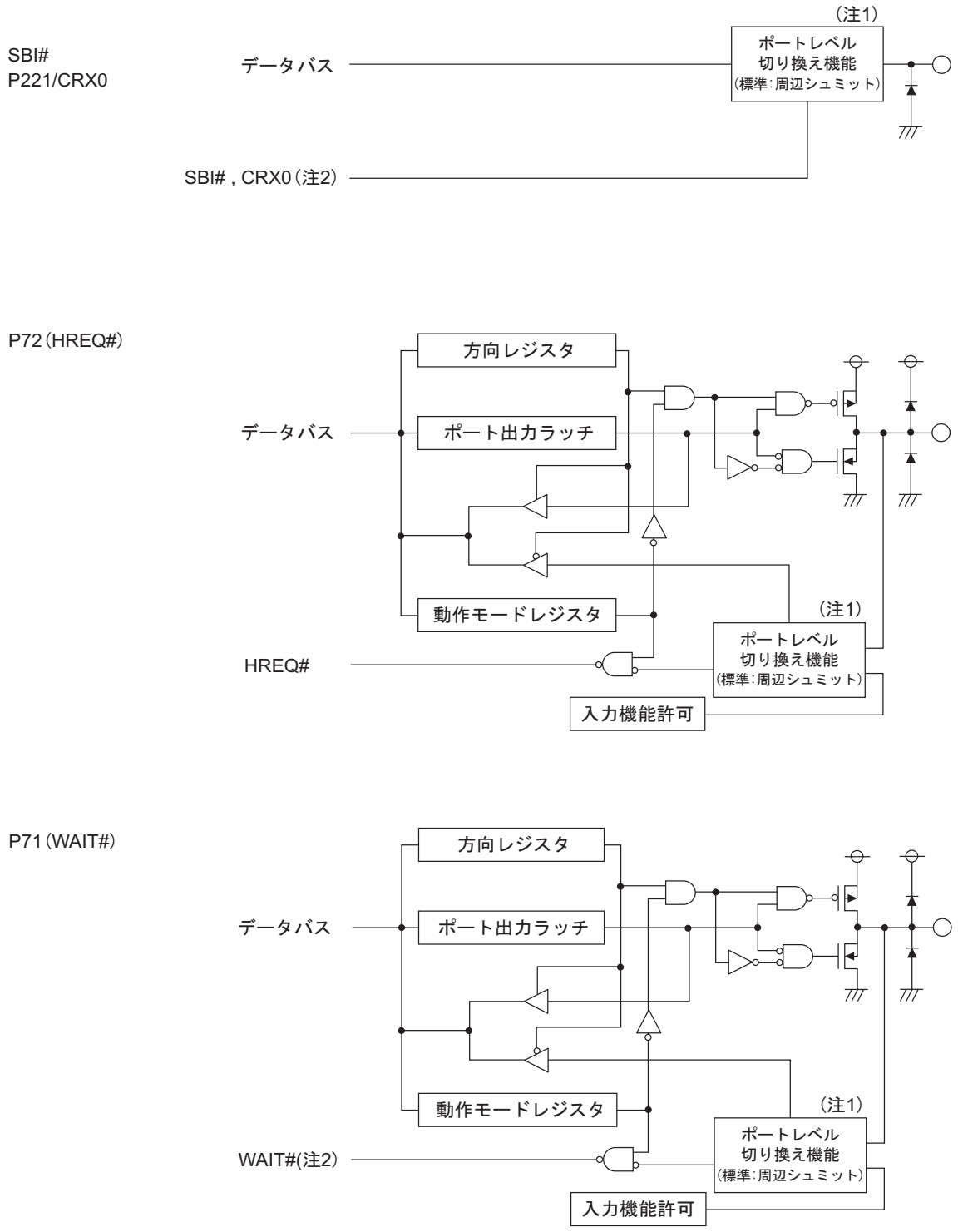
8.5　ポート周辺回路

図8.5.1～図8.5.5にポートの周辺回路図を示します。



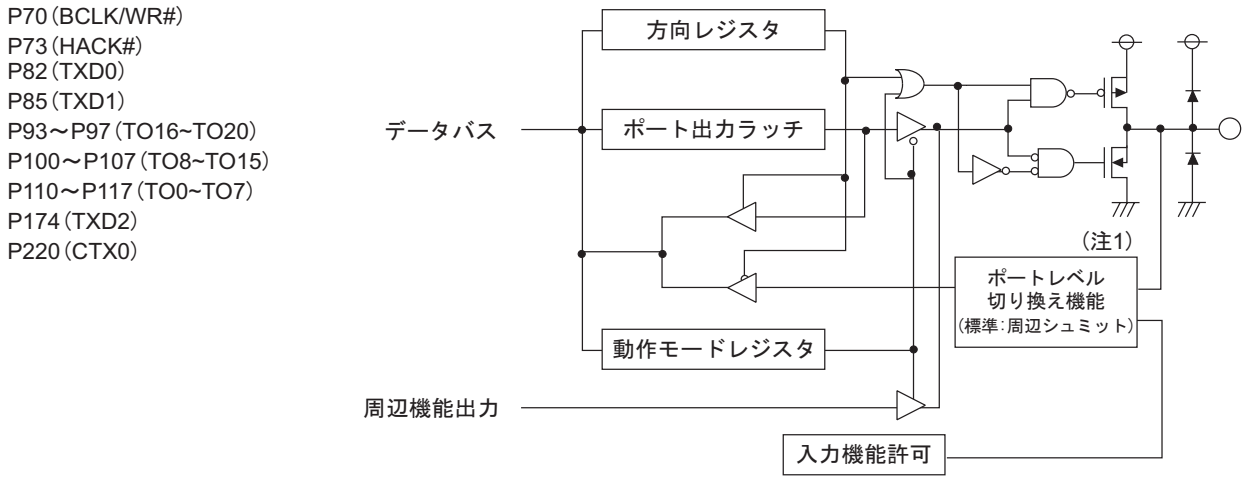
注1.　ポートレベル切り換え機能については、「8.4 ポート入力レベル切り換え機能」を参照してください。
注2.　動作モードレジスタで汎用ポートに設定時、周辺機能入力には"Hレベル"が入力されています。
注.　・P00～P07、P10～P17、P20～P27、P30～P37、P41～P47、P225は、外部拡張モード時、およびプロセッサモード時に外部バスインタフェース制御信号となりますが、本ブロック図では機能の記述を省略しています。
・ ○は、端子を示します。
・ ⊣◀ は、寄生ダイオードを示しています。各ポートへの印加電圧は、VCCEを越えないようにしてください。
・各端子の入力容量は約10pFです。

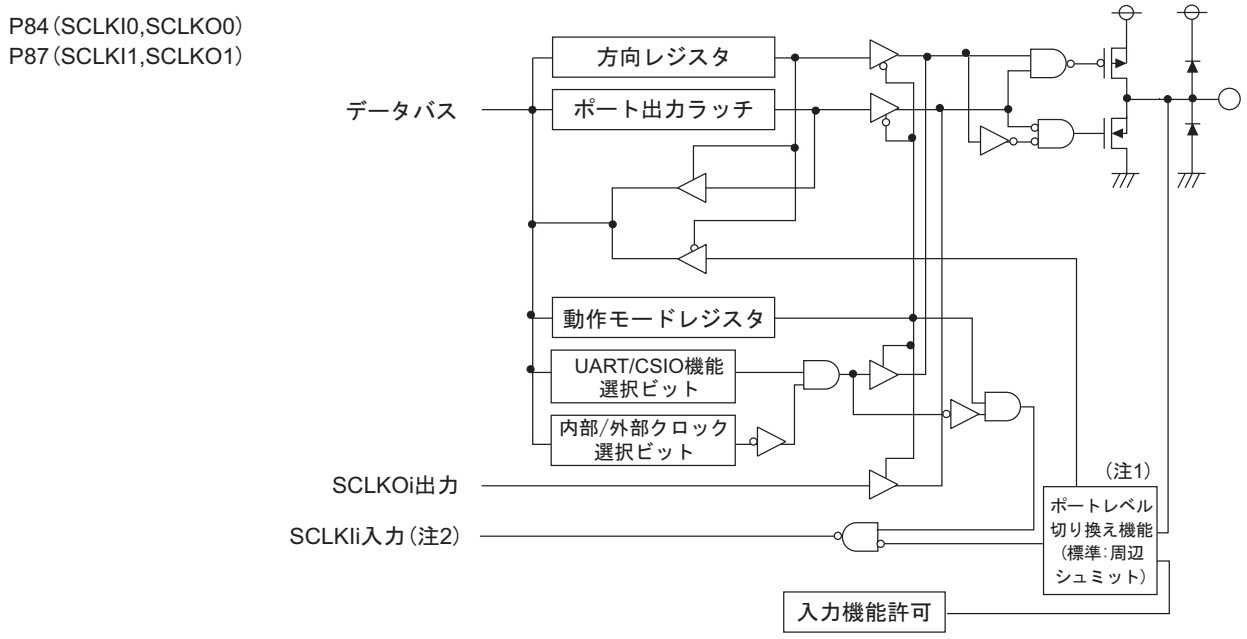
図8.5.1　ポート周辺回路図（1）



注1.　ポートレベル切り換え機能については、「8.4 ポート入力レベル切り換え機能」を参照してください。
注2.　動作モードレジスタで汎用ポートに設定時、周辺機能入力には"Hレベル"が入力されています。
注.　・○は、端子を示します。
・⊣◀⊢は、寄生ダイオードを示しています。各ポートへの印加電圧はVCCEを越えないようにしてください。
・各端子の入力容量は約10pFです。

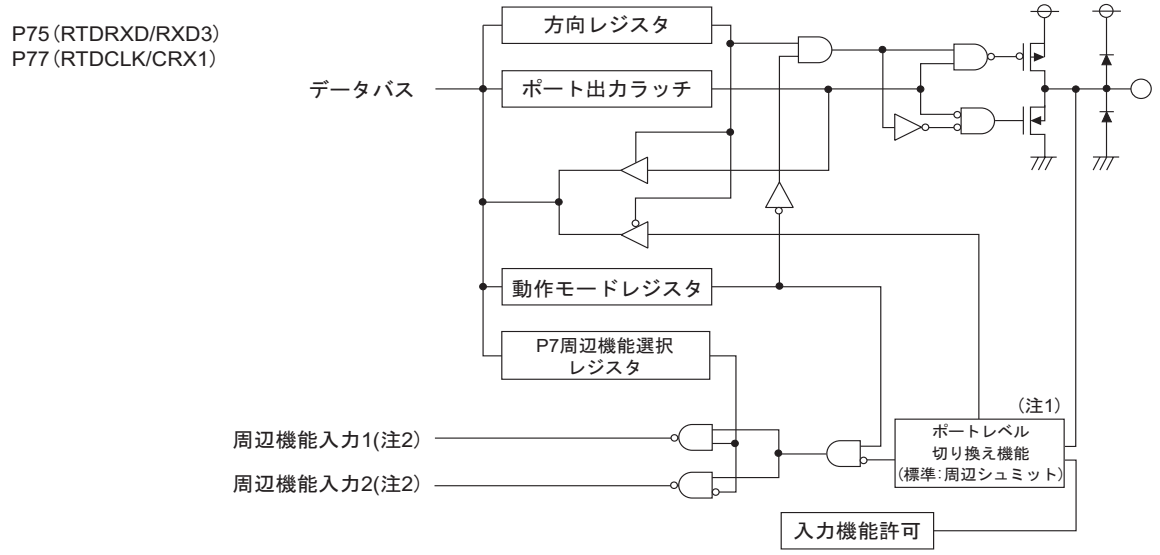
図8.5.2　ポート周辺回路図(2)

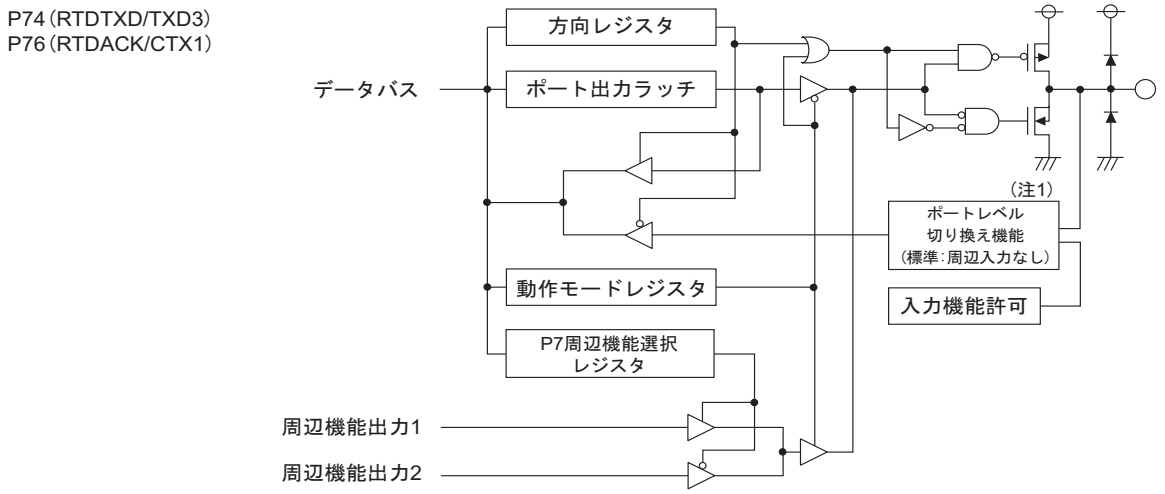




注1.　ポートレベル切り換え機能については、「8.4 ポート入力レベル切り換え機能」を参照してください。
注2.　動作モードレジスタで汎用ポートに設定時、周辺機能入力には"Hレベル"が入力されています。
注.　・○は、端子を示します。
　　・⊣◀⊢ は、寄生ダイオードを示しています。各ポートへの印加電圧はVCCEを越えないようにしてください。
　　・各端子の入力容量は約10pFです。

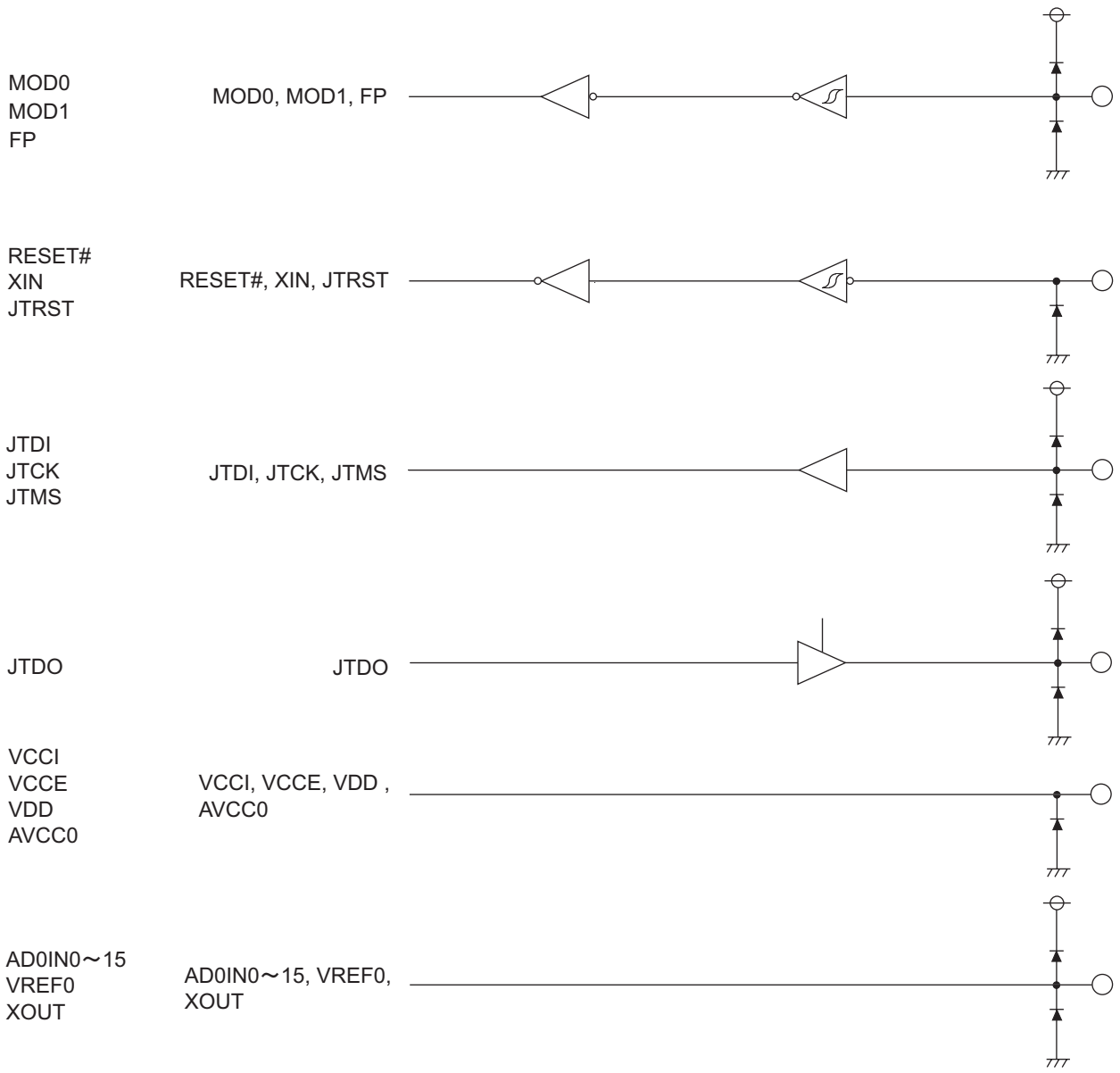
図8.5.3　ポート周辺回路図（3）





注1.　ポートレベル切り換え機能については、「8.4 ポートレベル入力切り換え機能」を参照してください。
注2.　動作モードレジスタで汎用ポートに設定時、周辺機能入力には"Hレベル"が入力されています。
注.　・○は、端子を示します。
　　・⊣◀ は、寄生ダイオードを示しています。各ポートへの印加電圧はVCCEを超えないようにしてください。
　　・各端子の入力容量は約10pFです。

図8.5.4　ポート周辺回路図（4）



注.　・○は、端子を示します。
・⊣◀⊢ は、寄生ダイオードを示しています。各ポートへの印加電圧はVCCEを超えないようにしてください。
・　各端子の入力容量は約10pFです。

図8.5.5　ポート周辺回路図(5)

8.6　入出力ポートの注意事項

• ポートを出力モードで使用する場合

リセット解除時のポートデータレジスタは、値が不定となりますので、ポートデータレジスタ値に出力初期値を書き込んだ後、ポート方向レジスタを出力に設定する必要があります。ポートデータレジスタに設定を行う前に、ポート方向レジスタを出力に設定すると、ポートデータレジスタへ書き込みが行われるまでの間、不定値が出力されます。

• ポート入力禁止機能について

リセット後は入力禁止になっているため、入力機能を使用するためには、ポート入力許可ビットを"1"にして入力許可に設定する必要があります。

ポート入力禁止時には、端子に"Lレベル"が入力されているのと等価の状態になっています。そのため、入力禁止時にポート動作モードレジスタで周辺入力機能を選択すると、"Lレベル"入力により意図しない動作となる場合があります。

• 汎用ポートに設定時の周辺機能入力について

周辺機能入力、汎用ポートの兼用端子において、動作モードレジスタで汎用ポートに設定時、周辺機能入力には"Hレベル"が入力されています。そのため、周辺機能入力端子に"Lレベル"が入力されている時は、動作モードレジスタを操作時に周辺機能入力にエッジ信号が入力されます。

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第9章

DMAC

9.1　DMAC概要
9.2　DMAC関連レジスタ
9.3　DMAC機能説明
9.4　DMACの注意事項

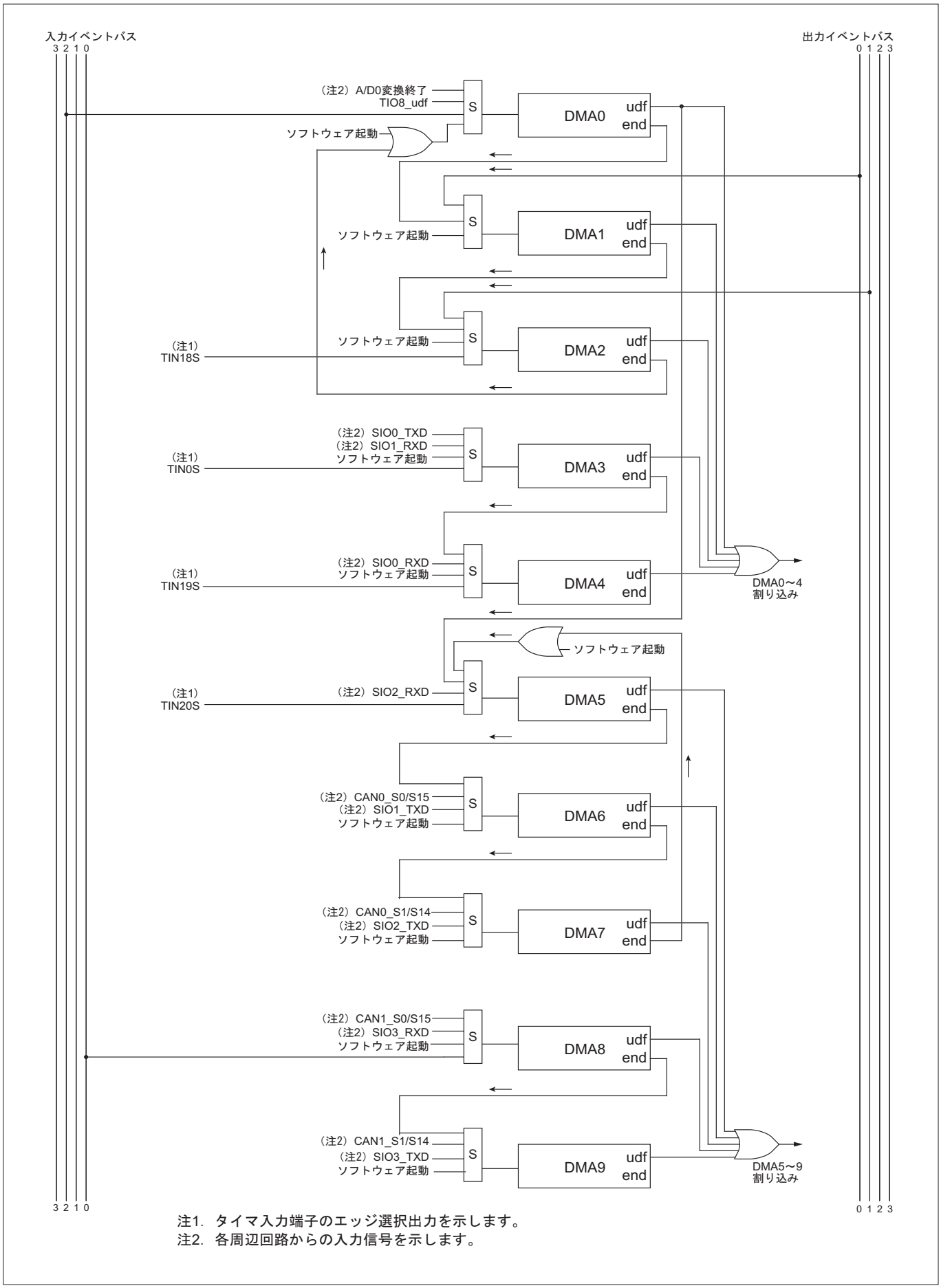
9.1　DMAC概要

10チャネルのDMAC(ダイレクトメモリアクセスコントローラ)を内蔵しており、ソフトウェアトリガや、内蔵周辺I/Oからの要求により、内蔵周辺I/O⇔内蔵周辺I/O間、内蔵RAM⇔内蔵周辺I/O間、および内蔵RAM⇔内蔵RAM間において、高速にデータ転送を行うことができます。

表9.1.1　DMAC概要

項目	内容
チャネル数	10チャネル
転送要求要因	・ソフトウェアトリガ ・内蔵周辺I/Oからの要求：A/Dコンバータ、マルチジャンクションタイマ、およびシリアルインタフェース(受信完了、送信バッファエンプティ)、CAN ・DMAチャネル間のカスケード接続可能　(注1)
最大転送回数	256回
転送可能アドレス空間	・64Kバイト(H'0080 0000 ～ H'0080 FFFFのアドレス空間) ・内蔵周辺I/O⇔内蔵周辺I/O間、内蔵RAM⇔内蔵周辺I/O間、および内蔵RAM⇔内蔵RAM間の転送をサポート
転送データサイズ	16ビットまたは8ビット
転送方式	単転送方式DMA(1回の転送ごとに内部バス権を解放)、デュアルアドレス転送
転送モード	単転送モード
転送方向	ソースとデスティネーションに対して、3種類のモードを選択可能 ・アドレス固定 ・アドレスインクリメント ・リングバッファ
チャネル優先度	DMA0 ＞ DMA1 ＞ DMA2 ＞ DMA3 ＞ DMA4＞ DMA5 ＞ DMA6 ＞ DMA7 ＞ DMA8 ＞ DMA9 (優先順位固定)
最大転送速度	13.3Mバイト/秒(内部周辺クロック：BCLK20MHz時)
割り込み要求	各転送カウントレジスタのアンダフロー発生時にグループ割り込み要求発生可能
転送エリア	H'0080 0000 ～ H'0080 FFFFの64Kバイト

注1. 下記のDMAチャネルのカスケード接続が可能です。
DMA0の1回のDMA転送完了で、DMA1のDMA転送を起動
DMA1の1回のDMA転送完了で、DMA2のDMA転送を起動
DMA2の1回のDMA転送完了で、DMA0のDMA転送を起動
DMA3の1回のDMA転送完了で、DMA4のDMA転送を起動
DMA5の1回のDMA転送完了で、DMA6のDMA転送を起動
DMA6の1回のDMA転送完了で、DMA7のDMA転送を起動
DMA7の1回のDMA転送完了で、DMA5のDMA転送を起動
DMA8の1回のDMA転送完了で、DMA9のDMA転送を起動
DMA0のDMA全転送終了(転送カウントレジスタのアンダフロー)で、DMA5のDMA転送を起動



注1. タイマ入力端子のエッジ選択出力を示します。
注2. 各周辺回路からの入力信号を示します。

図9.1.1 32176のDMACブロック図

9.2 DMAC関連レジスタ

DMAC関連レジスタのメモリマップを以下に示します。

DMAC関連レジスタマップ(1/2)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0400	DMA0-4割り込み要求ステータスレジスタ (DM04ITST)	DMA0-4割り込み要求マスクレジスタ (DM04ITMK)	9-18 9-19
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0408	DMA5-9割り込み要求ステータスレジスタ (DM59ITST)	DMA5-9割り込み要求マスクレジスタ (DM59ITMK)	9-18 9-19
～	(使用禁止領域)		
H'0080 0410	DMA0チャネル制御レジスタ (DM0CNT)	DMA0転送カウントレジスタ (DM0TCT)	9-6 9-15
H'0080 0412	DMA0ソースアドレスレジスタ (DM0SA)		9-13
H'0080 0414	DMA0デスティネーションアドレスレジスタ (DM0DA)		9-14
H'0080 0416	(使用禁止領域)		
H'0080 0418	DMA5チャネル制御レジスタ (DM5CNT)	DMA5転送カウントレジスタ (DM5TCT)	9-8 9-15
H'0080 041A	DMA5ソースアドレスレジスタ (DM5SA)		9-13
H'0080 041C	DMA5デスティネーションアドレスレジスタ (DM5DA)		9-14
H'0080 041E	(使用禁止領域)		
H'0080 0420	DMA1チャネル制御レジスタ (DM1CNT)	DMA1転送カウントレジスタ (DM1TCT)	9-6 9-15
H'0080 0422	DMA1ソースアドレスレジスタ (DM1SA)		9-13
H'0080 0424	DMA1デスティネーションアドレスレジスタ (DM1DA)		9-14
H'0080 0426	(使用禁止領域)		
H'0080 0428	DMA6チャネル制御レジスタ (DM6CNT)	DMA6転送カウントレジスタ (DM6TCT)	9-9 9-15
H'0080 042A	DMA6ソースアドレスレジスタ (DM6SA)		9-13
H'0080 042C	DMA6デスティネーションアドレスレジスタ (DM6DA)		9-14
H'0080 042E	(使用禁止領域)		
H'0080 0430	DMA2チャネル制御レジスタ (DM2CNT)	DMA2転送カウントレジスタ (DM2TCT)	9-7 9-15
H'0080 0432	DMA2ソースアドレスレジスタ (DM2SA)		9-13
H'0080 0434	DMA2デスティネーションアドレスレジスタ (DM2DA)		9-14
H'0080 0436	(使用禁止領域)		
H'0080 0438	DMA7チャネル制御レジスタ (DM7CNT)	DMA7転送カウントレジスタ (DM7TCT)	9-9 9-15
H'0080 043A	DMA7ソースアドレスレジスタ (DM7SA)		9-13
H'0080 043C	DMA7デスティネーションアドレスレジスタ (DM7DA)		9-14
H'0080 043E	(使用禁止領域)		

DMAC関連レジスタマップ(2/2)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0440	DMA3チャネル制御レジスタ (DM3CNT)	DMA3転送カウントレジスタ (DM3TCT)	9-7 9-15
H'0080 0442	DMA3ソースアドレスレジスタ (DM3SA)		9-13
H'0080 0444	DMA3デスティネーションアドレスレジスタ (DM3DA)		9-14
H'0080 0446	(使用禁止領域)		
H'0080 0448	DMA8チャネル制御レジスタ (DM8CNT)	DMA8転送カウントレジスタ (DM8TCT)	9-10 9-15
H'0080 044A	DMA8ソースアドレスレジスタ (DM8SA)		9-13
H'0080 044C	DMA8デスティネーションアドレスレジスタ (DM8DA)		9-14
H'0080 044E	(使用禁止領域)		
H'0080 0450	DMA4チャネル制御レジスタ (DM4CNT)	DMA4転送カウントレジスタ (DM4TCT)	9-8 9-15
H'0080 0452	DMA4ソースアドレスレジスタ (DM4SA)		9-13
H'0080 0454	DMA4デスティネーションアドレスレジスタ (DM4DA)		9-14
H'0080 0456	(使用禁止領域)		
H'0080 0458	DMA9チャネル制御レジスタ (DM9CNT)	DMA9転送カウントレジスタ (DM9TCT)	9-10 9-15
H'0080 045A	DMA9ソースアドレスレジスタ (DM9SA)		9-13
H'0080 045C	DMA9デスティネーションアドレスレジスタ (DM9DA)		9-14
H'0080 045E	(使用禁止領域)		
H'0080 0460	DMA0ソフトウェア要求発生レジスタ (DM0SRI)		9-12
H'0080 0462	DMA1ソフトウェア要求発生レジスタ (DM1SRI)		9-12
H'0080 0464	DMA2ソフトウェア要求発生レジスタ (DM2SRI)		9-12
H'0080 0466	DMA3ソフトウェア要求発生レジスタ (DM3SRI)		9-12
H'0080 0468	DMA4ソフトウェア要求発生レジスタ (DM4SRI)		9-12
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 0470	DMA5ソフトウェア要求発生レジスタ (DM5SRI)		9-12
H'0080 0472	DMA6ソフトウェア要求発生レジスタ (DM6SRI)		9-12
H'0080 0474	DMA7ソフトウェア要求発生レジスタ (DM7SRI)		9-12
H'0080 0476	DMA8ソフトウェア要求発生レジスタ (DM8SRI)		9-12
H'0080 0478	DMA9ソフトウェア要求発生レジスタ (DM9SRI)		9-12

9.2.1 DMAチャネル制御レジスタ

DMA0チャネル制御レジスタ（DM0CNT） ＜アドレス：H'0080 0410＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL0	TREQF0	REQSL0		TENL0	TSZSL0	SADSL0	DADSL0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL0 DMA0転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF0 DMA0転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL0 DMA0転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 または、DMA2-1回転送完了 01：A/D0変換終了 10：MJT（TIO8_udf） 11：MJT（入力イベントバス2）	R	W
4	TENL0 DMA0転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL0 DMA0転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL0 DMA0ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL0 DMA0デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持。

DMA1チャネル制御レジスタ（DM1CNT） ＜アドレス：H'0080 0420＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL1	TREQF1	REQSL1		TENL1	TSZSL1	SADSL1	DADSL1
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL1 DMA1転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF1 DMA1転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL1 DMA1転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：MJT（出力イベントバス0） 10：設定禁止 11：DMA0-1回転送完了	R	W
4	TENL1 DMA1転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL1 DMA1転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL1 DMA1ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL1 DMA1デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA2チャネル制御レジスタ（DM2CNT）　＜アドレス：H'0080 0430＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL2	TREQF2	REQSL2		TENL2	TSZSL2	SADSL2	DADSL2
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL2 DMA2転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF2 DMA2転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL2 DMA2転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：MJT（出力イベントバス1） 10：MJT（TIN18S） 11：DMA1-1回転送完了	R	W
4	TENL2 DMA2転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL2 DMA2転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL2 DMA2ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL2 DMA2デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA3チャネル制御レジスタ（DM3CNT）　＜アドレス：H'0080 0440＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL3	TREQF3	REQSL3		TENL3	TSZSL3	SADSL3	DADSL3
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL3 DMA3転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF3 DMA3転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL3 DMA3転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：SIO0_TXD（送信バッファエンプティ） 10：SIO1_RXD（受信完了） 11：MJT（TIN0S）	R	W
4	TENL3 DMA3転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL3 DMA3転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL3 DMA3ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL3 DMA3デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA4チャネル制御レジスタ（DM4CNT）　　＜アドレス：H'0080 0450＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL4	TREQF4	REQSL4		TENL4	TSZSL4	SADSL4	DADSL4
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL4 DMA4転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF4 DMA4転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL4 DMA4転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：DMA3-1回転送完了 10：SIO0_RXD（受信完了） 11：MJT（TIN19S）	R	W
4	TENL4 DMA4転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL4 DMA4転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL4 DMA4ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL4 DMA4デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA5チャネル制御レジスタ（DM5CNT）　　＜アドレス：H'0080 0418＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL5	TREQF5	REQSL5		TENL5	TSZSL5	SADSL5	DADSL5
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL5 DMA5転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF5 DMA5転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL5 DMA5転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 または、DMA7-1回転送完了 01：DMA0全転送終了 10：SIO2_RXD（受信完了） 11：MJT（TIN20S）	R	W
4	TENL5 DMA5転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL5 DMA5転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL5 DMA5ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL5 DMA5デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA6チャネル制御レジスタ（DM6CNT）　＜アドレス：H'0080 0428＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL6	TREQF6	REQSL6		TENL6	TSZSL6	SADSL6	DADSL6
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL6 DMA6転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF6 DMA6転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL6 DMA6転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：SIO1_TXD（送信バッファエンプティ） 10：CAN（CAN0_S0/S15） 11：DMA5-1回転送完了	R	W
4	TENL6 DMA6転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL6 DMA6転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL6 DMA6ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL6 DMA6デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA7チャネル制御レジスタ（DM7CNT）　＜アドレス：H'0080 0438＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL7	TREQF7	REQSL7		TENL7	TSZSL7	SADSL7	DADSL7
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL7 DMA7転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF7 DMA7転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL7 DMA7転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：SIO2_TXD（送信バッファエンプティ） 10：CAN（CAN0_S1/S14） 11：DMA6-1回転送終了	R	W
4	TENL7 DMA7転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL7 DMA7転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL7 DMA7ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL7 DMA7デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA8チャネル制御レジスタ（DM8CNT）　＜アドレス：H'0080 0448＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL8	TREQF8	REQSL8		TENL8	TSZSL8	SADSL8	DADSL8
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL8 DMA8転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF8 DMA8転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL8 DMA8転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：MJT（入力イベントバス0） 10：SIO3_RXD（受信完了） 11：CAN（CAN1_S0/S15）	R	W
4	TENL8 DMA8転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL8 DMA8転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL8 DMA8ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL8 DMA8デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA9チャネル制御レジスタ（DM9CNT）　＜アドレス：H'0080 0458＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
MDSEL9	TREQF9	REQSL9		TENL9	TSZSL9	SADSL9	DADSL9
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	MDSEL9 DMA9転送モード選択ビット	0：ノーマルモード 1：リングバッファモード	R	W
1	TREQF9 DMA9転送要求フラグビット	0：要求なし 1：要求あり	R（注1）	
2, 3	REQSL9 DMA9転送要求要因選択ビット	00：ソフトウェア起動 01：SIO3_TXD（送信バッファエンプティ） 10：CAN（CAN1_S1/S14） 11：DMA8-1回転送完了	R	W
4	TENL9 DMA9転送許可ビット	0：転送禁止 1：転送許可	R	W
5	TSZSL9 DMA9転送サイズ選択ビット	0：16ビット 1：8ビット	R	W
6	SADSL9 DMA9ソースアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W
7	DADSL9 DMA9デスティネーションアドレス方向選択ビット	0：固定 1：インクリメント	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMAチャネル制御レジスタは、各チャネルのDMA転送モード選択、DMA転送要求フラグ、要求要因選択、DMA転送許可、転送サイズ、ソース/デスティネーションアドレス方向を設定するビットで構成しています。

(1) MDSELn(DMAn転送モード選択)ビット (b0)

単転送モードにおいて、ノーマルモードかリングバッファモードかを選択するビットです。このビットを"0"にするとノーマルモードに、"1"にするとリングバッファモードになります。

リングバッファモードでは、転送開始アドレスから32回転送後、再び転送開始アドレスに戻り、転送動作を繰り返します。このとき転送カウントレジスタはフリーランとなり、転送許可ビットを"0"(転送禁止)にするまで転送動作を継続します。また、リングバッファモード時はDMA転送終了割り込み要求が発生しません。

(2) TREQFn(DMAn転送要求フラグ)ビット (b1)

このフラグは、各チャネルのDMA転送要求の有無を示します。このビットは、TENLnビットの設定値に関わらず、DMA転送要求が発生したとき"1"にセットされ、その転送要求に対する転送が完了すると"0"にクリアされます。

また、このビットに"0"を書き込むと、発生したDMA転送要求をクリアします。"1"を書き込んだ場合は、書き込み前の値を保持します。

すでにDMA転送要求フラグが"1"にセットされているチャネルに対して新たなDMA転送要求が発生しても、そのチャネルが転送を完了するまで次のDMA転送要求は受け付けられません。

(3) REQSLn(DMAn転送要求要因選択)ビット (b2, b3)

DMAの各チャネルに対するDMA転送要求要因を選択します。

(4) TENLn(DMAn転送許可)ビット (b4)

このビットを"1"(転送許可)に設定すると、DMA転送可能状態となり、全転送が完了(転送カウントレジスタのアンダフロー)すると"0"にクリアされます。また、すでにDMA転送要求が発生している状態において、転送許可に設定すると、すぐにDMA転送が開始されますので、ご注意ください。

また、"0"(転送禁止)にするとDMA転送禁止状態となります。ただし、すでに転送要求が受け付けられていた場合は、その転送が完了後に禁止されます。

(5) TSZSLn(DMAn転送サイズ選択)ビット (b5)

1回のDMA転送動作(1転送単位)で転送するビット数を選択します。

このビットを"0"にすると1転送単位が16ビット、"1"にすると1転送単位が8ビットになります。

(6) SADSLn(DMAnソースアドレス方向選択)ビット (b6)

ソースアドレスの変化する方向を、アドレス固定とアドレス増加(インクリメント)の2種類から選択します。

(7) DADSLn(DMAnデスティネーションアドレス方向選択)ビット (b7)

デスティネーションアドレスの変化する方向を、アドレス固定とアドレス増加(インクリメント)の2種類から選択します。

9.2.2 DMAソフトウェア要求発生レジスタ

DMA0ソフトウェア要求発生レジスタ(DM0SRI) <アドレス：H'0080 0460>
DMA1ソフトウェア要求発生レジスタ(DM1SRI) <アドレス：H'0080 0462>
DMA2ソフトウェア要求発生レジスタ(DM2SRI) <アドレス：H'0080 0464>
DMA3ソフトウェア要求発生レジスタ(DM3SRI) <アドレス：H'0080 0466>
DMA4ソフトウェア要求発生レジスタ(DM4SRI) <アドレス：H'0080 0468>
DMA5ソフトウェア要求発生レジスタ(DM5SRI) <アドレス：H'0080 0470>
DMA6ソフトウェア要求発生レジスタ(DM6SRI) <アドレス：H'0080 0472>
DMA7ソフトウェア要求発生レジスタ(DM7SRI) <アドレス：H'0080 0474>
DMA8ソフトウェア要求発生レジスタ(DM8SRI) <アドレス：H'0080 0476>
DMA9ソフトウェア要求発生レジスタ(DM9SRI) <アドレス：H'0080 0478>

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
DM0SRI-DM9SRI															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0～15	DM0SRI～DM9SRI DMAソフトウェア要求発生	任意データの書き込みで DMA転送要求を発生	?	W

注. ・このレジスタはバイトでもハーフワードでもアクセス可能です。

DMAソフトウェア要求発生レジスタは、ソフトウェアでDMA転送要求を発生するためのレジスタで、DMA要求要因として「ソフトウェア起動」を選択しているとき、このレジスタに任意の値を書き込むとDMA転送要求を発生することができます。

(1) DM0SRI～DM9SRI(DMAソフトウェア要求発生)

DMA転送要求要因としてソフトウェア起動を選択(DMAnチャネル制御レジスタのb2, b3を"00"に設定)した場合、このレジスタにハーフワード(16ビット)か、偶数もしくは奇数番地で始まるバイト(8ビット)に任意データを書き込むと、ソフトウェアDMA転送要求が発生します。

9.2.3 DMAソースアドレスレジスタ

DMA0ソースアドレスレジスタ(DM0SA) ＜アドレス：H'0080 0412＞
DMA1ソースアドレスレジスタ(DM1SA) ＜アドレス：H'0080 0422＞
DMA2ソースアドレスレジスタ(DM2SA) ＜アドレス：H'0080 0432＞
DMA3ソースアドレスレジスタ(DM3SA) ＜アドレス：H'0080 0442＞
DMA4ソースアドレスレジスタ(DM4SA) ＜アドレス：H'0080 0452＞
DMA5ソースアドレスレジスタ(DM5SA) ＜アドレス：H'0080 041A＞
DMA6ソースアドレスレジスタ(DM6SA) ＜アドレス：H'0080 042A＞
DMA7ソースアドレスレジスタ(DM7SA) ＜アドレス：H'0080 043A＞
DMA8ソースアドレスレジスタ(DM8SA) ＜アドレス：H'0080 044A＞
DMA9ソースアドレスレジスタ(DM9SA) ＜アドレス：H'0080 045A＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
DM0SA-DM9SA															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	DM0SA～DM9SA DMAソースアドレス	ソースアドレスのA16～A31 (A0～A15 はH'0080に固定)	R	W

注. ・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

DMAソースアドレスレジスタには、b0がA16、b15がA31になるようにDMA転送元のアドレスを設定します。このレジスタはカレントレジスタで構成されているため、読み出し値は現在値となります。

DMA転送終了時(転送カウントレジスタアンダフロー時)、アドレス方向が固定の場合はDMA転送開始前の設定値のままですが、アドレスインクリメントの場合は最終転送アドレス＋1(8ビット転送時)、または最終転送アドレス＋2(16ビット転送時)になります。

DMAソースアドレスレジスタは、必ず偶数番地で始まるハーフワード(16ビット)でアクセスしてください。バイトでアクセスした場合、このレジスタの値は不定になります。

(1) DM0SA～DM9SA(ソースアドレスのA16～A31)

このレジスタの設定により、H'0080 0000～H'0080 FFFF番地のSFR領域または内蔵RAM空間のソースアドレスを指定します。

ソースアドレスの上位16ビット(A0～A15)は、常にH'0080に固定です。このレジスタではソースアドレスの下位16ビットを設定します(b0がソースアドレスのA16、b15がソースアドレスのA31に相当します)。

9.2.4 DMAデスティネーションアドレスレジスタ

DMA0デスティネーションアドレスレジスタ(DM0DA) ＜アドレス：H'0080 0414＞
DMA1デスティネーションアドレスレジスタ(DM1DA) ＜アドレス：H'0080 0424＞
DMA2デスティネーションアドレスレジスタ(DM2DA) ＜アドレス：H'0080 0434＞
DMA3デスティネーションアドレスレジスタ(DM3DA) ＜アドレス：H'0080 0444＞
DMA4デスティネーションアドレスレジスタ(DM4DA) ＜アドレス：H'0080 0454＞
DMA5デスティネーションアドレスレジスタ(DM5DA) ＜アドレス：H'0080 041C＞
DMA6デスティネーションアドレスレジスタ(DM6DA) ＜アドレス：H'0080 042C＞
DMA7デスティネーションアドレスレジスタ(DM7DA) ＜アドレス：H'0080 043C＞
DMA8デスティネーションアドレスレジスタ(DM8DA) ＜アドレス：H'0080 044C＞
DMA9デスティネーションアドレスレジスタ(DM9DA) ＜アドレス：H'0080 045C＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
DM0DA-DM9DA															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	DM0DA～DM9DA DMAデスティネーションアドレス	デスティネーションアドレスのA16～A31 (A0～A15はH'0080に固定)	R	W

注. ・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

DMAデスティネーションアドレスレジスタには、b0がA16、b15がA31になるようにDMA転送先のアドレスを設定します。このレジスタへのアクセスはカレントレジスタで構成されているため、読み出し値は現在値となります。

DMA転送終了時(転送カウントレジスタアンダフロー時)、アドレス方向が固定の場合はDMA転送開始前の設定値のままですが、アドレスインクリメントの場合は最終転送アドレス＋1(8ビット転送時)、または最終転送アドレス＋2(16ビット転送時)になります。

DMAデスティネーションアドレスレジスタは、必ず偶数番地で始まるハーフワード(16ビット)でアクセスしてください。バイトでアクセスした場合、このレジスタの値は不定になります。

(1) DM0DA～DM9DA(デスティネーションアドレスのA16～A31)

このレジスタの設定により、H'0080 0000～H'0080 FFFF番地のSFR領域または内蔵RAM空間のデスティネーションアドレスを指定します。

デスティネーションアドレスの上位16ビット(A0～A15)は、常にH'0080に固定です。このレジスタではデスティネーションアドレスの下位16ビットを設定します(b0がデスティネーションアドレスのA16、b15がデスティネーションアドレスのA31に相当します)。

9.2.5　DMA転送カウントレジスタ

DMA0転送カウントレジスタ(DM0TCT)　<アドレス：H'0080 0411>
DMA1転送カウントレジスタ(DM1TCT)　<アドレス：H'0080 0421>
DMA2転送カウントレジスタ(DM2TCT)　<アドレス：H'0080 0431>
DMA3転送カウントレジスタ(DM3TCT)　<アドレス：H'0080 0441>
DMA4転送カウントレジスタ(DM4TCT)　<アドレス：H'0080 0451>
DMA5転送カウントレジスタ(DM5TCT)　<アドレス：H'0080 0419>
DMA6転送カウントレジスタ(DM6TCT)　<アドレス：H'0080 0429>
DMA7転送カウントレジスタ(DM7TCT)　<アドレス：H'0080 0439>
DMA8転送カウントレジスタ(DM8TCT)　<アドレス：H'0080 0449>
DMA9転送カウントレジスタ(DM9TCT)　<アドレス：H'0080 0459>

b8	9	10	11	12	13	14	b15
DM0TCT-DM9TCT							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
8～15	DM0TCT～DM9TCT DMA転送カウント	DMA転送回数 (32チャネルリングバッファ モード時は無効)	R	W

DMA転送カウントレジスタは、各チャネルごとに転送する回数を設定します。ただし、リングバッファモード時はこのレジスタの値は無効です。

転送回数は(転送カウントレジスタの設定値＋1)となります。DMA転送カウントレジスタは、カレントレジスタで構成されているため、読み出し値は現在値となります(ただし、転送直後のサイクルで読み出した場合は、転送前のカウントレジスタ値となります)。
また転送終了時は、アンダフロー(読み出し値はH'FF)となります。

転送許可状態では、ハードウェア的にプロテクトされているためデータの書き込みはできません。

リングバッファモードではフリーランダウンカウンタとなります。転送禁止になるまで継続します。また、アンダフローによる割り込みは発注しません。

なお、カスケード接続されたチャネルがある場合、DMAの1回転送(バイトまたはハーフワード)完了ごとに、または全転送終了(転送カウントレジスタのアンダフロー)で、カスケード接続されたチャネルが起動されます。

9.2.6　DMA割り込み関連レジスタ

DMA割り込み関連レジスタは、DMACから割り込みコントローラに出力する割り込み要求信号を制御するレジスタです。

(1) 割り込み要求ステータスビット

割り込み要求を判別するためのステータスビットで、割り込み要求が発生するとハードウェア的にセットされ、ソフトウェア的にセットすることはできません。ステータスビットは、"0"を書き込むことによりクリアされ、"1"を書き込むとステータスビットの状態を保持します。なお、割り込み要求マスクビットの影響を受けず動作しますので、周辺機能の動作確認用にも使用することができます。割り込み処理時には、グルーピングされた割り込み要求ステータスの内、割り込み処理を行ったステータスビットのみクリアください。割り込み処理を行っていないステータスビットをクリアすると未実行の割り込み要求もクリアされます。

(2) 割り込み要求マスクビット

グルーピングされた割り込み要求の内で不要な割り込み要求を禁止にするためのフラグです。割り込み要求許可時には"0"、割り込み要求禁止時には"1"を設定します。

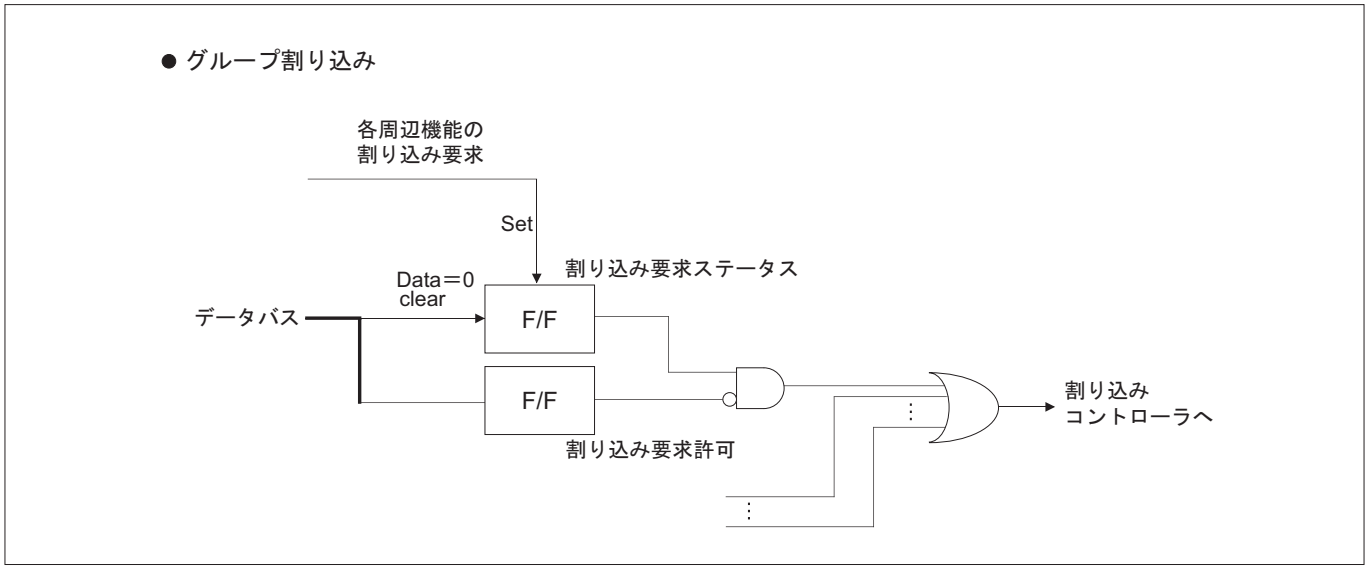
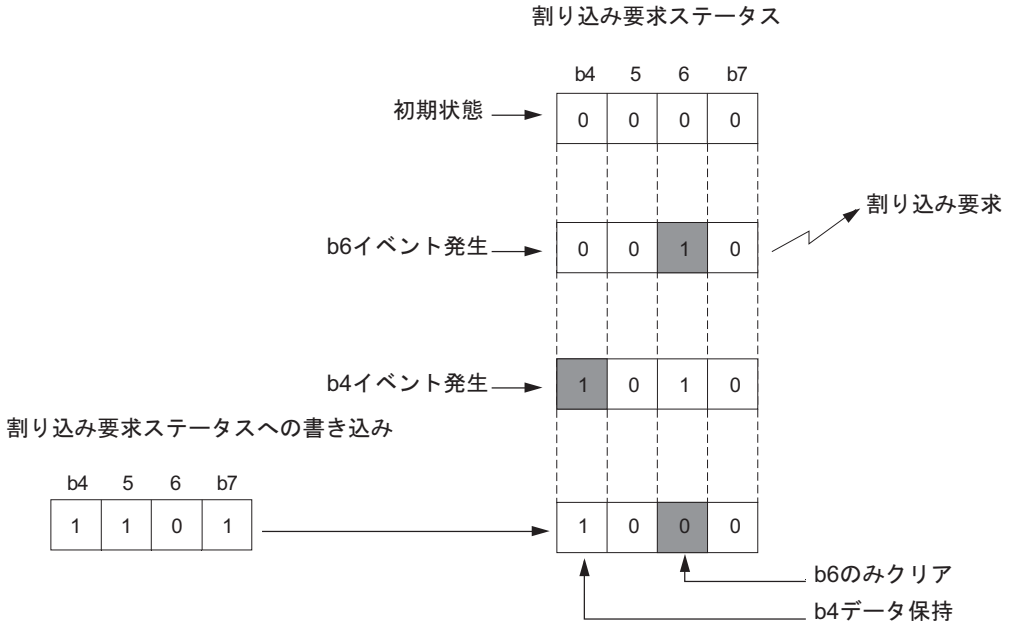


図9.2.1　割り込み要求ステータスレジスタとマスクレジスタ

● 割り込み要求ステータスクリア例



● プログラム例

・割り込み要求ステータスレジスタ0（ISTREG）の割り込み要求ステータス1：ISTAT1（0x02ビット）をクリアする場合

○ ISTREG = 0xfd; /*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

割り込み要求ステータスをクリアする場合は、必ず他の要求ステータスビットには"1"を書き込んでください。
その際、下のように論理演算を用いるとISTREGの読み出し、論理演算、書き込みの3段階の手順となるため、
読み出しから書き込みの間に他の割り込み要求が発生した場合に、誤ってクリアする場合があります。

× ISTREG &= 0xfd; /*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

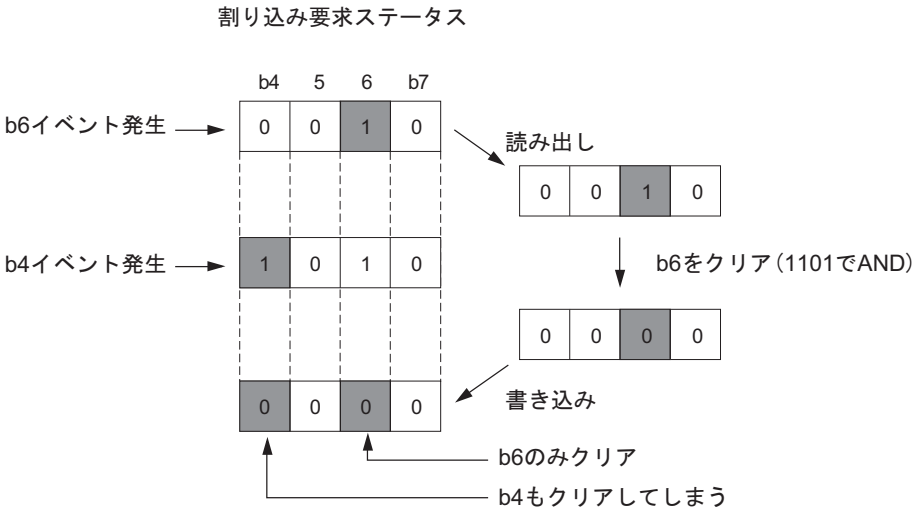


図9.2.2 割り込み要求ステータスクリア例

DMA0-4割り込み要求ステータスレジスタ（DM04ITST）　＜アドレス：H'0080 0400＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
			DMITST4	DMITST3	DMITST2	DMITST1	DMITST0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3	DMITST4（DMA4割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
4	DMITST3（DMA3割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
5	DMITST2（DMA2割り込み要求ステータスビット）			
6	DMITST1（DMA1割り込み要求ステータスビット）			
7	DMITST0（DMA0割り込み要求ステータスビット）			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA5-9割り込み要求ステータスレジスタ（DM59ITST）　＜アドレス：H'0080 0408＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
			DMITST9	DMITST8	DMITST7	DMITST6	DMITST5
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3	DMITST9（DMA9割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
4	DMITST8（DMA8割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
5	DMITST7（DMA7割り込み要求ステータスビット）			
6	DMITST6（DMA6割り込み要求ステータスビット）			
7	DMITST5（DMA5割り込み要求ステータスビット）			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

DMA割り込み要求ステータスレジスタで、各チャネルごとの割り込み要求の状態を知ることができます。DMAn割り込み要求ステータスビット（n＝0～9）に"1"がセットされている場合、対応するDMAn割り込み要求が発生しています。

(1) DMITSTn（DMAn割り込み要求ステータス）ビット（n＝0～9）

【DMAn割り込み要求ステータスビットのセット】

ハードウェアによって行われます。ソフトウェアでセットすることはできません。

【DMAn割り込み要求ステータスビットのクリア】

ソフトウェアで"0"を書き込むことによって行います。

注．・割り込みコントローラにある、DMA割り込み制御レジスタの「割り込み要求ビット」に"0"を書き込んでも、DMAn割り込み要求ステータスビットはクリアされません。

DMA割り込み要求ステータスレジスタ書き込み時は、クリア操作するビットに"0"を、その他のビットには"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットに対してはソフトウェアによる書き込みの影響はなく、書き込み前の値が保持されます。

DMA0-4割り込み要求マスクレジスタ（DM04ITMK）　＜アドレス：H'0080 0401＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			DMITMK4	DMITMK3	DMITMK2	DMITMK1	DMITMK0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8〜10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	DMITMK4（DMA4割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
12	DMITMK3（DMA3割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
13	DMITMK2（DMA2割り込み要求マスクビット）			
14	DMITMK1（DMA1割り込み要求マスクビット）			
15	DMITMK0（DMA0割り込み要求マスクビット）			

DMA5-9割り込み要求マスクレジスタ（DM59ITMK）　＜アドレス：H'0080 0409＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			DMITMK9	DMITMK8	DMITMK7	DMITMK6	DMITMK5
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8〜10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	DMITMK9（DMA9割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
12	DMITMK8（DMA8割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
13	DMITMK7（DMA7割り込み要求マスクビット）			
14	DMITMK6（DMA6割り込み要求マスクビット）			
15	DMITMK5（DMA5割り込み要求マスクビット）			

DMA割り込みマスクレジスタは、DMA各チャネルの割り込み要求をマスクするレジスタです。

(1) DMITMKn（DMAn割り込み要求マスク）ビット（n＝0〜9）

DMAn割り込み要求マスクビットを"1"にすると、DMAnの割り込み要求がマスクされます。ただし割り込み要求発生時、DMAn割り込み要求ステータスビットは、このレジスタの内容にかかわらず"1"にセットされます。

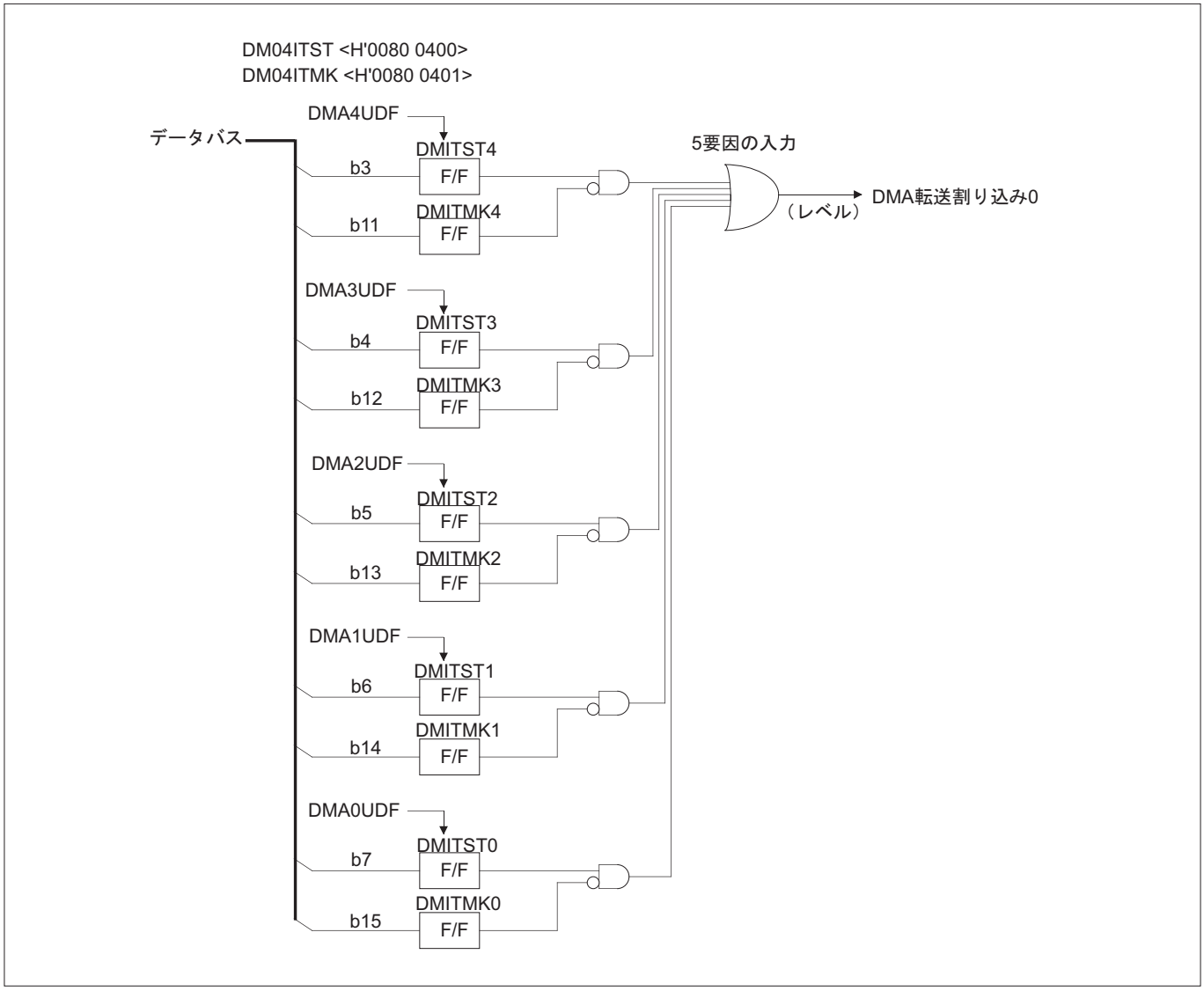


図9.2.3　DMA**転送割り込み**0**ブロック図**

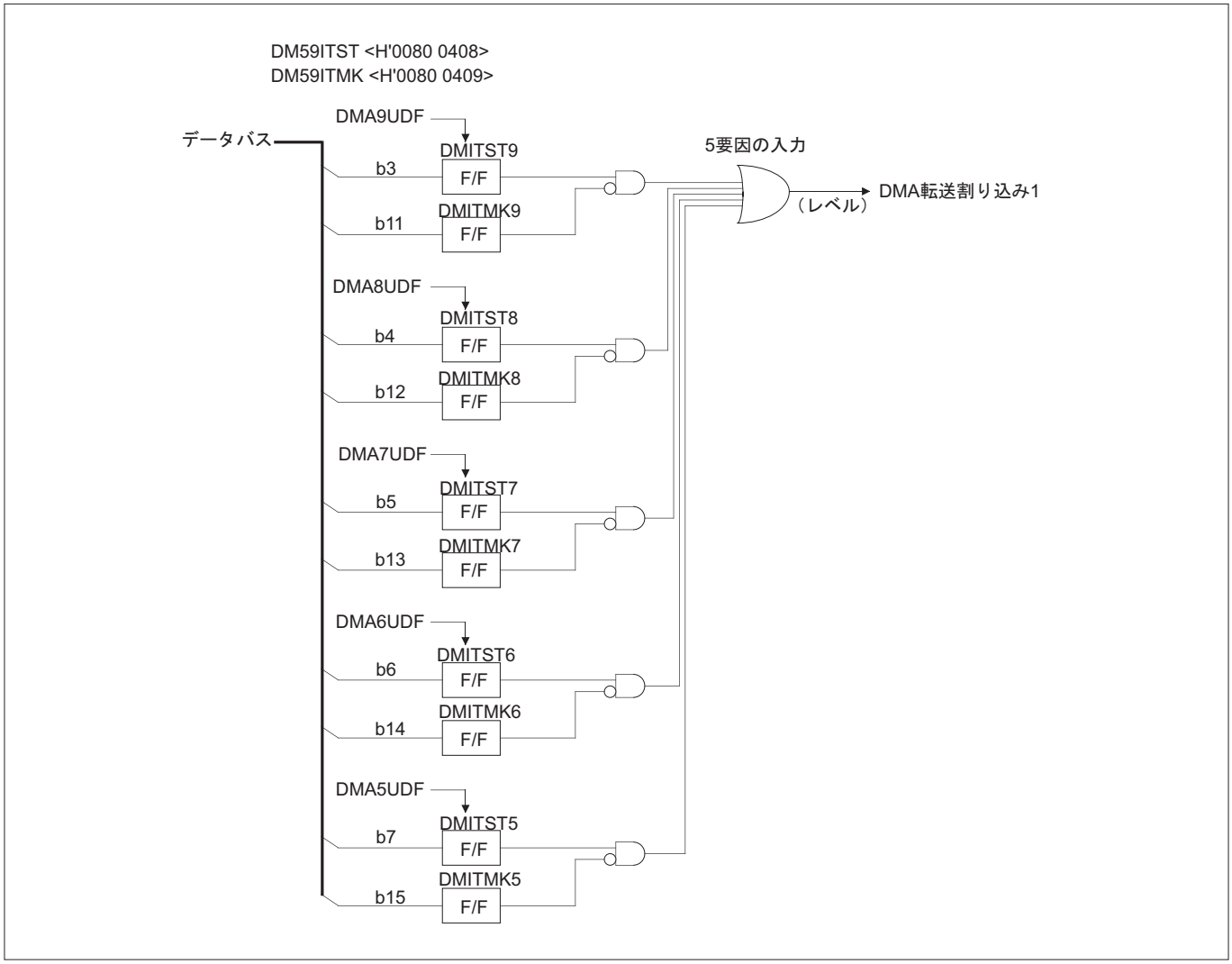


図9.2.4　DMA**転送割り込み**1**ブロック図**

9.3 DMAC機能説明

9.3.1 DMA要求要因

DMAは各チャネル(0～9チャネル)ごとに、複数の要因からDMA転送を要求することができます。DMA転送の要求要因には、内蔵周辺I/Oによる起動、プログラムによるソフトウェア起動、およびDMA他チャネルの1回転送完了、または全転送終了による起動(カスケードモード)があります。

DMA転送要求要因の選択は、各チャネルの転送要求要因選択ビットREQSLn(DMAnチャネル制御レジスタのb2とb3)で行います。以下に各チャネルのDMA転送要求要因の一覧を示します。

表9.3.1 DMA0のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL0	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動 またはDMA2-1回転送完了	DMA0ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき(ソフトウェア起動)、またはDMA2の1回転送完了時(カスケードモード)
0 1	A/D0変換終了	A/D0変換終了時
1 0	MJT(TIO8_udf)	MJTのTIO8アンダフロー発生時
1 1	MJT(入力イベントバス2)	MJTの入力イベントバス2の信号発生時

表9.3.2 DMA1のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL1	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動	DMA1ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0 1	MJT(出力イベントバス0)	MJTの出力イベントバス0の信号発生時
1 0	設定禁止	ー
1 1	DMA0-1回転送完了	DMA0の1回転送完了時(カスケードモード)

表9.3.3 DMA2のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL2	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動	DMA2ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0 1	MJT(出力イベントバス1)	MJTの出力イベントバス1の信号発生時
1 0	MJT(TIN18S)	MJTのTIN18入力信号発生時(エッジ選択出力)
1 1	DMA1-1回転送完了	DMA1の1回転送完了時(カスケードモード)

表9.3.4 DMA3のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL3	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動	DMA3ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0 1	SIO0_TXD （送信バッファエンプティ）	SIO0の0送信バッファが空になったとき
1 0	SIO1_RXD（受信完了）	SIO1の受信完了時
1 1	MJT（TIN0S）	MJTのTIN0入力信号発生時（エッジ選択出力）

表9.3.5 DMA4のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL4	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動	DMA4ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0 1	DMA3-1回転送完了	DMA3の1回転送完了時（カスケードモード）
1 0	SIO0_RXD（受信完了）	SIO0の受信完了時
1 1	MJT（TIN19S）	MJTのTIN19入力信号発生時（エッジ選択出力）

表9.3.6 DMA5のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL5	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動 またはDMA7-1回転送完了	DMA5ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき（ソフトウェア起動）、またはDMA7の1回転送完了時（カスケードモード）
0 1	DMA0全転送終了	DMA0全転送終了時（カスケードモード）
1 0	SIO2_RXD（受信完了）	SIO2の受信完了時
1 1	MJT（TIN20S）	MJTのTIN20入力信号発生時（エッジ選択出力）

表9.3.7 DMA6のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL6	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0 0	ソフトウェア起動	DMA6ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0 1	SIO1_TXD （送信バッファエンプティ）	SIO1の送信バッファが空になったとき
1 0	CAN（CAN0_S0/S15）	CAN0：スロット0の送信失敗、またはスロット15の送受信完了
1 1	DMA5-1回転送完了	DMA5の1回転送完了時（カスケードモード）

表9.3.8　DMA7のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL7	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0　0	ソフトウェア起動	DMA7ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0　1	SIO2_TXD （送信バッファエンプティ）	SIO2の送信バッファが空になったとき
1　0	CAN（CAN0_S1/S14）	CAN0：スロット1の送信失敗、またはスロット14の送受信完了
1　1	DMA6-1回転送完了	DMA6の1回転送完了時（カスケードモード）

表9.3.9　DMA8のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL8	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0　0	ソフトウェア起動	DMA8ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0　1	MJT（入力イベントバス0）	MJTの入力イベントバス0の信号発生時
1　0	SIO3_RXD（受信完了）	SIO3の受信完了時
1　1	CAN（CAN1-S0/S15）	CAN1：スロット0の送信失敗、またはスロット15の送受信完了

表9.3.10　DMA9のDMA転送要求要因とその発生タイミング

REQSL9	DMA転送要求要因	DMA転送要求発生タイミング
0　0	ソフトウェア起動	DMA9ソフトウェア要求発生レジスタに任意データを書き込んだとき
0　1	SIO3_TXD （送信バッファエンプティ）	SIO3の送信バッファが空になったとき
1　0	CAN（CAN1-S1/S14）	CAN1：スロット1の送信失敗または、スロット14の送受信完了
1　1	DMA8-1回転送完了	DMA8の1回転送完了時（カスケードモード）

9.3.2　DMA転送の処理手順

DMA0を使用してDMA転送を行う場合の制御例を以下に示します。

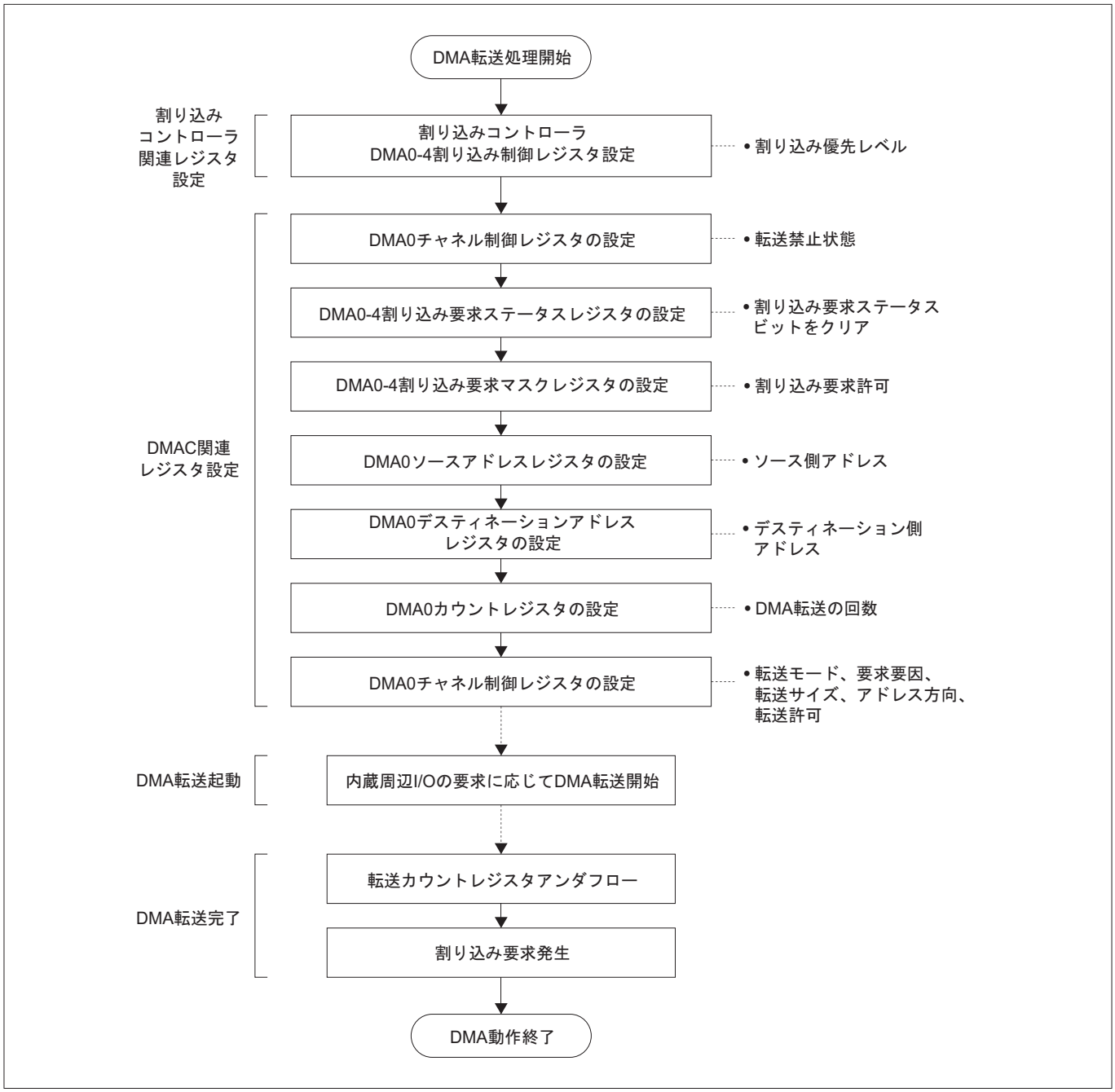


図9.3.1　DMA**転送の処理手順（例）**

9.3.3 DMAの起動

DMA転送要求要因は、DMAnチャネル制御レジスタ(DMnCNT)のREQSL(DMA転送要求要因選択)ビットで設定します。DMAの許可は、TENL(DMA転送許可)ビットを"1"にセットすることにより行います。TENL(DMA転送許可)ビットを"1"にセットし、指定した要求要因が有効になるとDMA転送が開始されます。

注．・REQSL(DMA転送要求要因選択)ビットで指定した転送要求要因がMJT(TIN入力信号)の場合、TIN入力信号の立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジ、または両エッジを検出してからDMA転送が開始されるまでの時間は、最短で3サイクル(内部周辺クロック＝20MHz動作時、150ns)かかります。また、前後のバスの使用状態によっては最大6サイクル(内部周辺クロック＝20MHz動作時、300ns)かかる場合があります。(ただし、外部バス未使用、HOLDなし、およびLOCK命令未使用の場合)なお、TIN入力信号の変化を正しく検出するために、7tc(BCLK)/2以上のパルス幅のTIN入力信号を入力してください(詳細については、「21章 電気的特性」を参照してください)。

9.3.4 チャネルの優先順位

チャネルの優先順位はDMA0が最優先で、以下、
DMA0 ＞ DMA1 ＞ DMA2 ＞ DMA3 ＞ DMA4 ＞ DMA5 ＞ DMA6 ＞ DMA7 ＞ DMA8 ＞ DMA9
の順で固定です。転送サイクル単位(DMAバスサイクル＝3サイクル)ごとに行い、要求の出ているチャネルの中で最も優先順位の高いチャネルが選択されます。

9.3.5 内部バス権の獲得と解放

内部バス権の獲得/解放は、各チャネルすべて「単転送方式DMA」で行われます。単転送方式DMAでは、DMA転送要求が受け付けられると内部バス権を獲得(周辺クロック1サイクル)し、1回の転送(周辺クロックの1リードサイクル＋1ライトサイクル)のDMA転送実行後、CPUへバス権を返します。以下に単転送方式DMAの動作を示します。

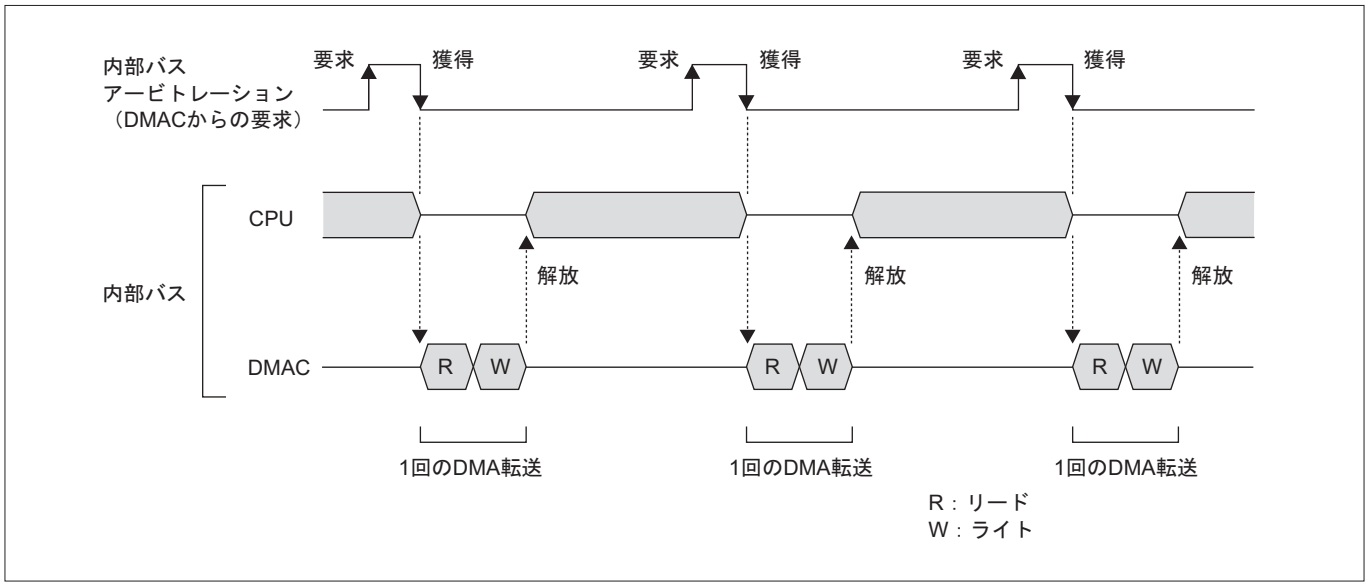


図9.3.2 内部バス権の獲得と解放

9.3.6 転送単位

1回のDMAで転送するビット数(8ビットまたは16ビット)は、チャネルごとにTSZSL(DMA転送サイズ選択)ビットで設定します。

9.3.7 転送回数

転送回数は、チャネルごとにDMA転送カウントレジスタに設定します。最大256回まで転送できます。1転送単位を転送するごとに、転送カウントレジスタの値が1ずつダウンカウントします。

リングバッファモードではDMA転送カウントレジスタはフリーランとなり、設定値は無視されます。

9.3.8 アドレス空間

DMA転送が可能なアドレス空間は、ソース/デスティネーションともSFR領域または内蔵RAM空間の64Kバイト(H'0080 0000～H'0080 FFFF)です。各DMAチャネルのソース/デスティネーションアドレスは、DMAソースアドレスレジスタおよびDMAデスティネーションアドレスレジスタで設定します。

9.3.9 転送動作

(1) デュアルアドレス転送

転送単位にかかわらずソースリードアクセスと、デスティネーションライトアクセスの2つのバスサイクルによって転送します(転送データは一度、DMA内部のテンポラリレジスタに取り込まれます)。

(2) バスプロトコルおよびバスタイミング

バスインタフェースはCPUと共通であるため、バスプロトコル、バスタイミングともにCPUからの周辺モジュールアクセスと同じです。

(3) 転送速度

転送は、バス権の獲得(周辺クロック1サイクル)＋1回の転送(周辺クロック1リードサイクル＋1ライトサイクル)の計3サイクルで行います。

このため、最大転送速度は、次式で算出されます。

$$\text{最大転送速度[バイト/秒]} = 2\text{バイト} \times \frac{1}{1/f(\mathrm{BCLK}) \times 3\text{サイクル}}$$

(4) アドレスカウント方向とアドレス変化

ソースアドレス、デスティネーションアドレスのカウント方向(アドレスの固定/インクリメント)は、チャネルごとにSADSL(ソースアドレス方向選択)ビットと、DADSL(デスティネーションアドレス方向選択)ビットで設定します。

アドレスは、1回のDMA転送につき転送単位が16ビットの場合は+2され、転送単位が8ビットの場合は+1されます。

表9.3.11　アドレスカウント方向とアドレス変化

アドレスカウント方向	転送単位	1回のDMAによるアドレス変化
アドレス固定	8ビット	0
	16ビット	0
アドレスインクリメント	8ビット	+1
	16ビット	+2

(5)転送カウント値

転送カウント値は、転送単位(8ビット/16ビット)に関係なく、1ずつデクリメントされます。

(6)転送バイト位置

転送単位が8ビット単位の場合はソース/デスティネーションとも、アドレスレジスタのLSBが有効です(したがって偶数→偶数、奇数→奇数番地転送の他に、偶数→奇数、奇数→偶数番地転送も行われます)。

転送単位が16ビットの場合、アドレスレジスタのLSB(アドレスレジスタのb15)は無視され、常に16ビットバスに対してアライメントのとれた2バイトを転送します。

以下に有効な転送バイト位置を示します。

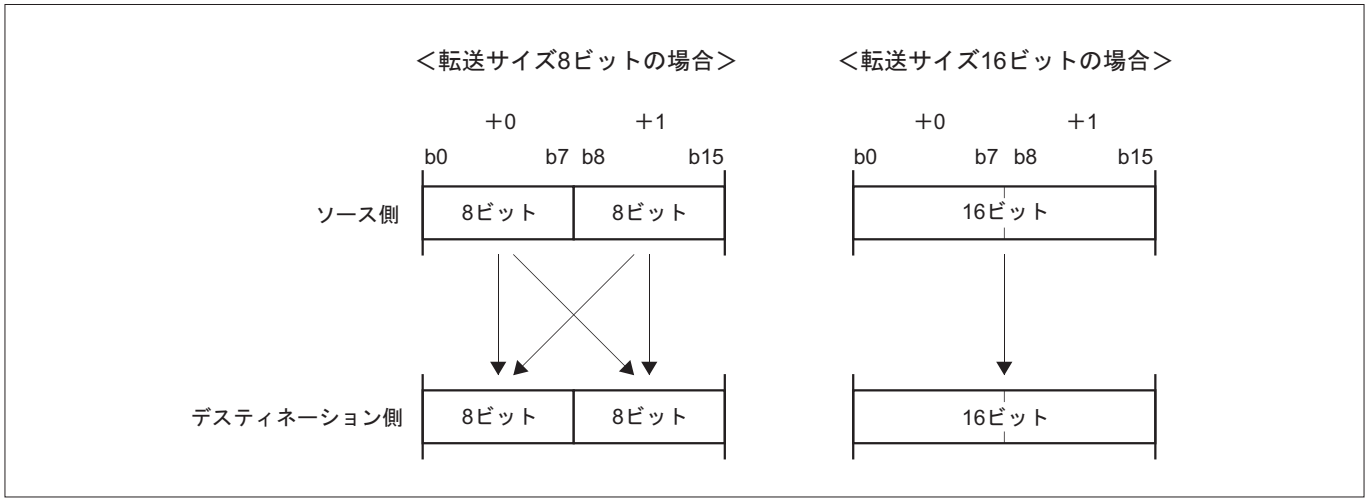


図9.3.3　転送バイト位置

(7) リングバッファモード

リングバッファモードを選択すると、転送開始アドレスから32回転送後再び転送開始アドレスに戻り、転送動作を繰り返します。ただし、リングバッファの開始アドレスの下位5ビットは必ずB'00000(転送サイズが16ビットの場合は下位6ビットがB'00000)でなければなりません。

リングバッファモードにおけるアドレスのインクリメント動作は、次のとおりです。

1) 転送サイズ8ビットの場合

転送開始アドレスの上位27ビットは固定で、下位5ビットが１ずつインクリメントされます。開始アドレスから下位5ビットがB'11111に達したとき、次のインクリメント動作で下位5ビットはB'00000になり開始アドレスに戻ります。

2) 転送サイズ16ビットの場合

転送開始アドレスの上位26ビットは固定で、下位6ビットが2ずつインクリメントされます。開始アドレスから下位6ビットがB'111110に達したとき、次のインクリメント動作で下位6ビットはB'000000になり開始アドレスに戻るようにインクリメントされます。

開始アドレスに戻るのは、ソース側がインクリメントに設定されている場合はソースアドレス、デスティネーション側がインクリメントに設定されている場合はデスティネーションアドレスです。

ソース側とデスティネーション側がともにインクリメントの場合は、両方のアドレスが開始アドレスに戻ります。ただしどちらの開始アドレスも初期値の下位5ビットは必ずB'00000(転送サイズが16ビットの場合は下位6ビットがB'00000)でなければなりません。

リングバッファモード時は転送カウントレジスタは無視されます。また、DMA動作開始後はフリーランとなり、転送許可ビットを"0"にクリア(転送禁止)するまで転送を続けます。

＜転送サイズ8ビットの場合＞		＜転送サイズ16ビットの場合＞	
転送回数	転送アドレス	転送回数	転送アドレス
1	H'0080 1000	1	H'0080 1000
2	H'0080 1001	2	H'0080 1002
3	H'0080 1002	3	H'0080 1004
∫	∫	∫	∫
31	H'0080 101E	31	H'0080 103C
32	H'0080 101F	32	H'0080 103E
↓	↓	↓	↓
1	H'0080 1000	1	H'0080 1000
2	H'0080 1001	2	H'0080 1002
∫	∫	∫	∫

図9.3.4　32チャネルリングバッファモードにおけるアドレスインクリメント動作例

9.3.10　DMAの終了と割り込み

ノーマルモードの場合、DMA転送は転送カウントレジスタのアンダフローで終了します。転送が終了すると、転送許可ビットが"0"にクリアされ転送禁止状態になります。また、転送終了時に割り込み要求が発生しますが、DMA割り込みマスクレジスタで割り込み要求がマスクされているチャネルについては、割り込み要求は発生しません。

リングバッファモード時は、転送カウントレジスタはフリーランとなり、転送許可ビットを"0"にクリア(転送禁止)するまで転送を続けます。このため、DMA転送終了割り込み要求は発生しません。また、転送許可ビットをクリアしてリングバッファモード転送を終了したときも、DMA転送終了割り込み要求は発生しません。

9.3.11　DMA転送終了後の各レジスタの状態

DMA転送終了時、ソースアドレスレジスタおよびデスティネーションアドレスレジスタは以下の条件となります。

(1) アドレス固定

- DMA**転送開始前の設定値のまま固定**

(2) アドレスインクリメント時

- 8**ビット転送時、最終転送アドレス**＋1
- 16**ビット転送時、最終転送アドレス**＋2

また、転送カウントレジスタはDMA転送終了時、アンダフロー(H'FF)状態となっています。したがって再度DMA転送を行う場合は、256(H'FF)回の転送を行う場合を除き、転送カウントレジスタの再設定を行ってください。

9.4 DMACの注意事項

• DMAC関連レジスタへの書き込みについて

DMAは内部バスを介してデータをやりとりするため、DMAC関連レジスタへの書き込みは、基本的にリセット直後または転送禁止状態(転送許可ビットが"0")のときに行ってください。転送許可状態ではDMA転送許可ビット、転送要求フラグおよびハードウェア的にプロテクトされているDMA転送カウントレジスタを除き、DMAC関連レジスタへの書き込みは動作安定のため行わないでください。

以下に、各レジスタのライトアクセスの可否を示します。

表9.4.1 DMAC関連レジスタへのライトアクセスの可否

状態	転送許可ビット	転送要求フラグ	DMA割り込み関連レジスタ	その他DMAC関連レジスタ
転送許可状態	○	○	○	×
転送禁止状態	○	○	○	○

○：可　×：不可

なお、例外的に転送許可状態で書き込み操作を行えるレジスタについても、以下の条件を守ってください。

(1) DMAチャネル制御レジスタの転送許可ビット、および転送要求フラグ

DMAチャネル制御レジスタの転送許可ビットおよび転送要求フラグ以外のビットには、書き込み前と同じデータを書き込んでください。なお、転送要求フラグは"0"の書き込みのみ有効です。

(2) DMA転送カウントレジスタ

転送許可状態ではハードウェア的にプロテクトされているため、データの書き込みは無視されます。

(3) DMA転送による異なるチャネルのDMAソースアドレス、およびDMAデスティネーションアドレスの書き換え

この場合DMAの許可状態でDMAC関連レジスタの操作を行うことになりますが、問題はありません。ただし、自チャネルのDMAC関連レジスタへのDMA転送はできません。

• DMA転送によるDMAC関連レジスタの操作

DMA転送を使って、DMAC関連レジスタの操作(例えば、DMA転送によるDMAC関連レジスタの初期値の再ロードなど)を行う場合は、同一チャネルによる自チャネルDMAC関連レジスタへの書き込みは行わないでください(行った場合の動作は保証されません)。

他のチャネルであれば、DMA転送によるDMAC関連レジスタの書き換えが可能です(例えばチャネル0による、チャネル1のDMAnソースアドレスレジスタとDMAnデスティネーションアドレスレジスタの書き換え操作など)。

• DMA割り込み要求ステータスレジスタについて

DMA割り込み要求ステータスレジスタに対してクリア操作を行う場合は、クリアするビット以外のビットには"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットは、書き込み前のデータが保持されます。

• DMA転送の安定動作について

DMA転送の安定動作のため、DMAC関連レジスタの書き換えは、チャネル制御レジスタの転送許可ビットを除き、必ず転送禁止時のみ行うようにしてください。ただし、DMA転送によるチャネル間のソースアドレスレジスタおよびデスティネーションアドレスレジスタの書き換えは転送許可時でも可能です。

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第10章

マルチジャンクションタイマ

10.1　マルチジャンクションタイマ概要
10.2　タイマ共通部
10.3　TOP（出力系16ビットタイマ）
10.4　TIO（入出力系16ビットタイマ）
10.5　TMS（入力系16ビットタイマ）
10.6　TML（入力系32ビットタイマ）

10.1　マルチジャンクションタイマ概要

マルチジャンクションタイマ(以下MJTと略)には入力イベントバスおよび出力イベントバスが備えられており、タイマ単独での使用に加えてタイマ相互の内部接続が可能です。この機能によりフレキシビリティに富んだタイマが構成でき、多様なアプリケーションに対応できます。タイマが内部のイベントバスとの多数の接続点を持つことからマルチジャンクションの名前が付けられています。

32176のMJTには4種類、合計37チャネルのタイマがあります。

表10.1.1　MJTの概要

名称	種類	チャネル数	内容
TOP (Timer Output)	出力系 16ビットタイマ (ダウンカウンタ)	11	ソフトウェアにより、3種類の出力モードを選択 ＜補正機能あり＞ ・ワンショット出力モード ・ディレイドワンショット出力モード ＜補正機能なし＞ ・連続出力モード
TIO (Timer Input Output)	入出力系 16ビットタイマ (ダウンカウンタ)	10	ソフトウェアにより、3種類の入力モードと4種類の出力モードを選択 ＜入力モード＞ ・計測クリア入力モード ・計測フリーラン入力モード ・ノイズ処理入力モード ＜補正機能なし出力モード＞ ・PWM出力モード ・ワンショット出力モード ・ディレイドワンショット出力モード ・連続出力モード
TMS (Timer Measure Small)	入力系 16ビットタイマ (アップカウンタ)	8	16ビット入力計測タイマ
TML (Timer Measure Large)	入力系 32ビットタイマ (アップカウンタ)	8	32ビット入力計測タイマ

表10.1.2　MJTの割り込み発生機能

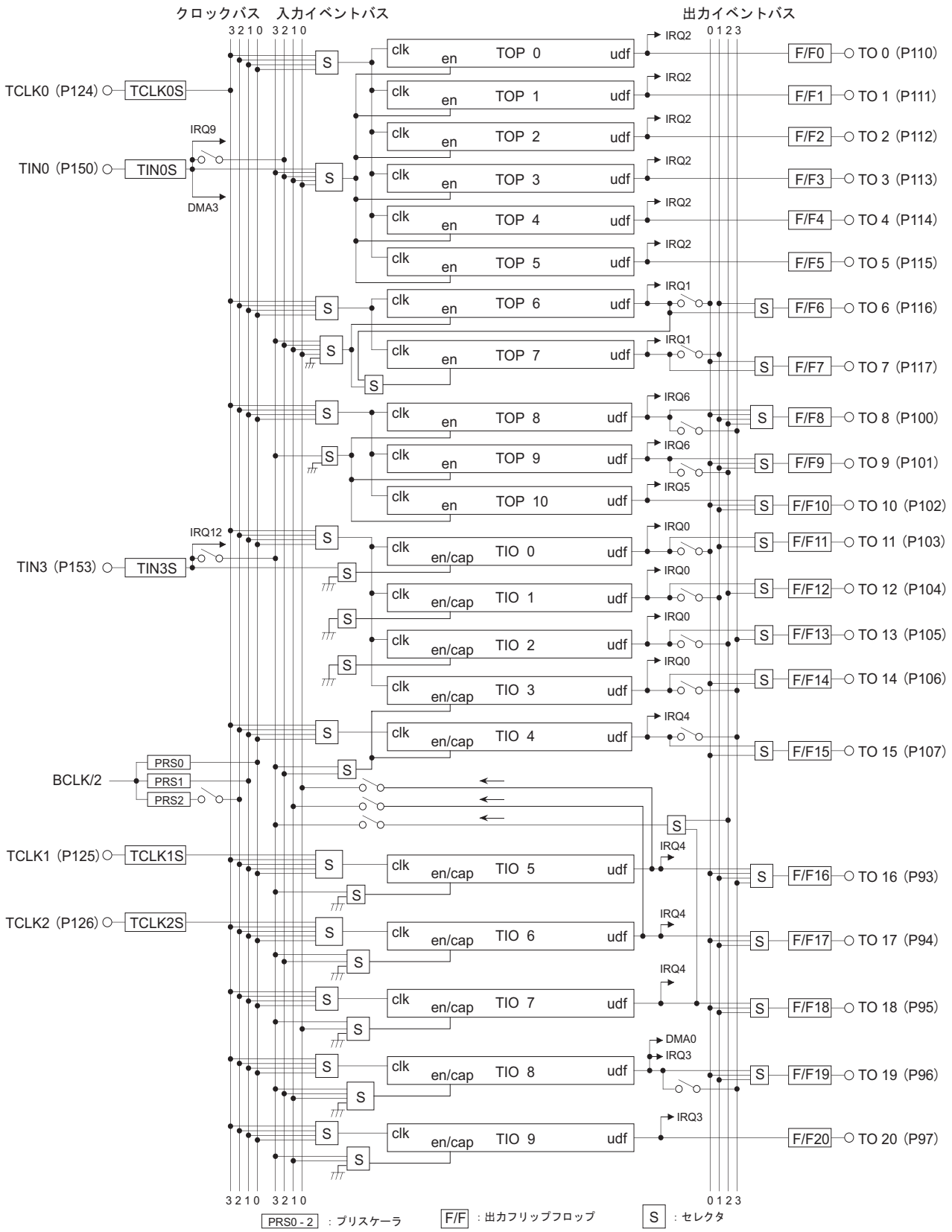
信号名	MJT割り込み要求元	割り込み要求要因	ICU入力要因数
IRQ0	TIO0～3出力	MJT出力割り込み0	4
IRQ1	TOP6, TOP7出力	MJT出力割り込み1	2
IRQ2	TOP0～5出力	MJT出力割り込み2	6
IRQ3	TIO8, TIO9出力	MJT出力割り込み3	2
IRQ4	TIO4～7出力	MJT出力割り込み4	4
IRQ5	TOP10出力	MJT出力割り込み5	1
IRQ6	TOP8, TOP9出力	MJT出力割り込み6	2
IRQ7	TMS0, TMS1出力	MJT出力割り込み7	2
IRQ9	TIN0入力	MJT入力割り込み1	1
IRQ10	TIN16～TIN19入力	MJT入力割り込み2	4
IRQ11	TIN20～TIN23入力	MJT入力割り込み3	4
IRQ12	TIN3入力	MJT入力割り込み4	1

表10.1.3　MJTのDMA転送要求発生機能

DMACの対応するチャネル番号	DMA転送要因
DMA0	TIO8_udf
	入力イベントバス2
DMA1	出力イベントバス0
DMA2	出力イベントバス1
	TIN18入力信号（TIN18S）
DMA3	TIN0入力信号（TIN0S）
DMA4	TIN19入力信号（TIN19S）
DMA5	TIN20入力信号（TIN20S）
DMA8	入力イベントバス0

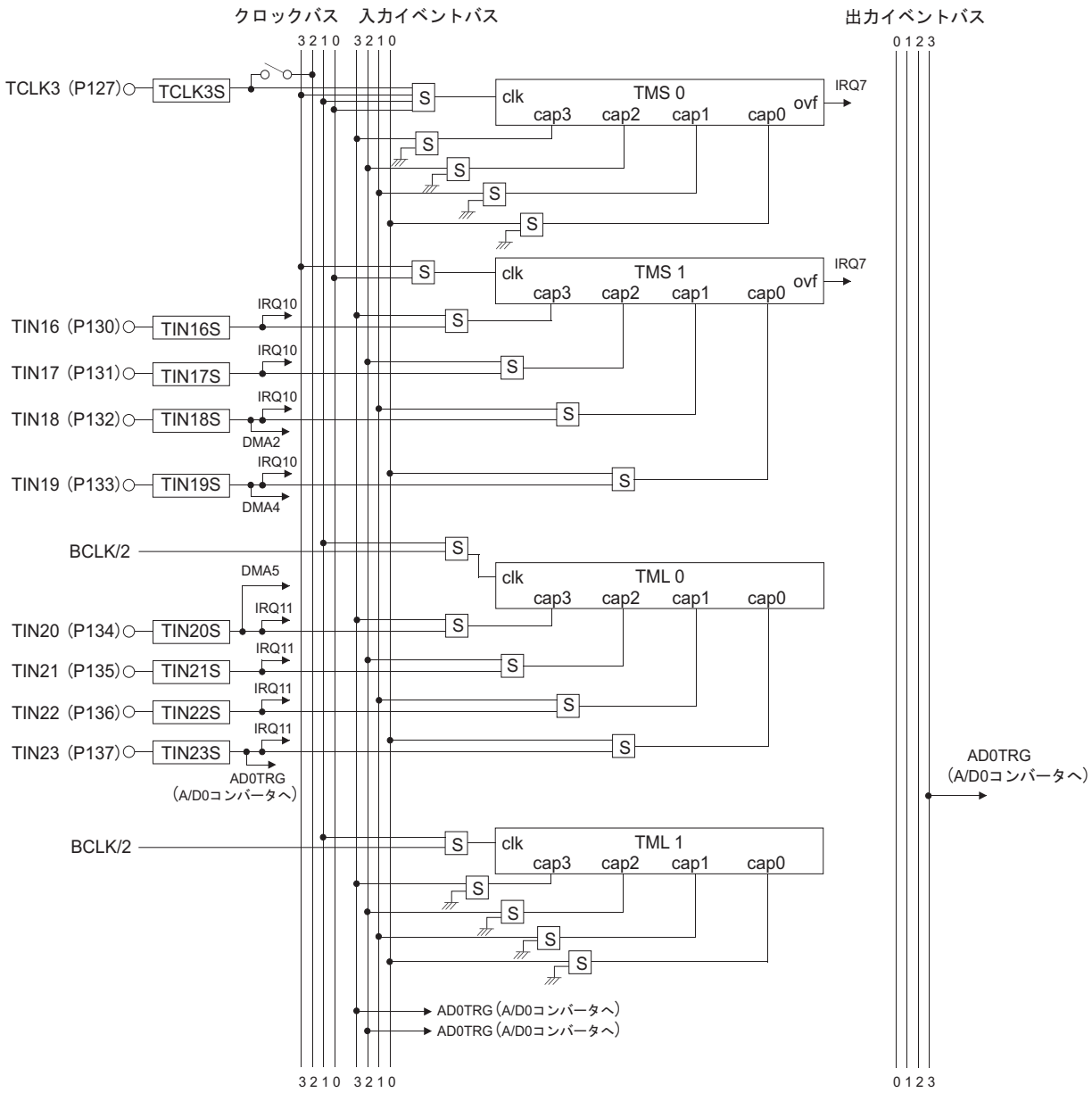
表10.1.4　MJTのA/D変換開始要求機能

信号名	A/D変換開始要求元	A/Dコンバータ
AD0TRG	入力イベントバス2、 入力イベントバス3、 出力イベントバス3、TIN23	A/D0変換開始トリガに入力可能



注．・ IRQ0～7、IRQ9～12は割り込み信号を示し、同一番号は同一グループ割り込みを示します（表10.1.2参照）。
・ AD0TRGは、A/D0コンバータへのトリガ信号を示します（表10.1.4参照）。

図10.1.1　MJT**ブロック図**(1/3)



注.　・IRQ0～7、IRQ9～12は割り込み信号を示し、同一番号は同一グループ割り込みを示します（表10.1.2参照）。
　　・AD0TRGは、A/D0コンバータへのトリガ信号を示します（表10.1.4参照）。

図10.1.2　MJT**ブロック図**（2/3）

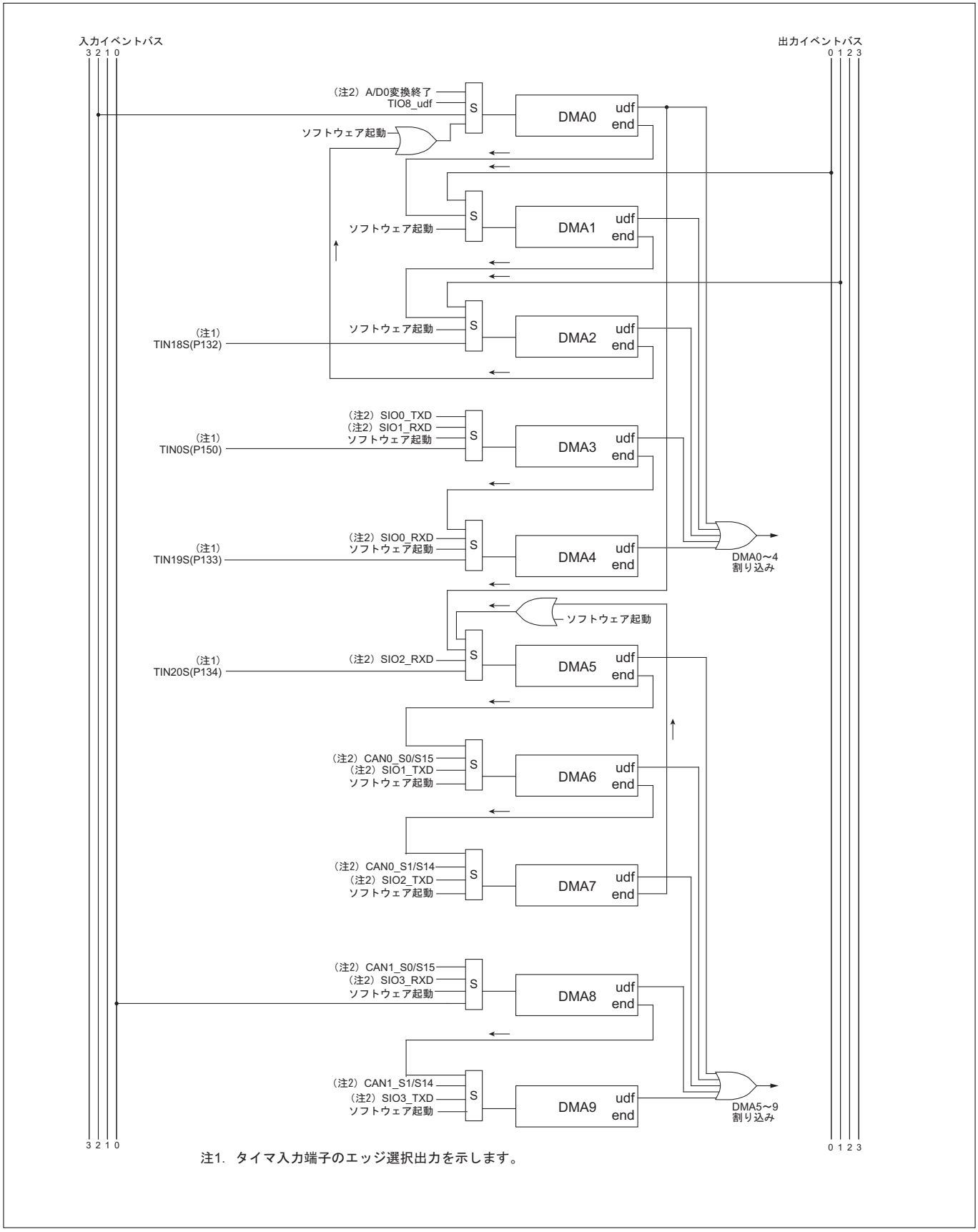


図10.1.3　MJT**ブロック図**(3/3)

10.2　タイマ共通部

タイマ共通部には以下のブロックが含まれます。

- **プリスケーラ部**
- **クロックバス/入出力イベントバス制御部**
- **入力処理制御部**
- **出力フリップフロップ制御部**
- **割り込み制御部**

10.2.1 タイマ共通部レジスタマップ

以下にタイマ共通部のレジスタマップを示します。

タイマ共通部レジスタマップ

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0200	（使用禁止領域）	クロックバス&入力イベントバス制御レジスタ（CKIEBCR）	10-13
H'0080 0202	プリスケーラレジスタ0（PRS0）	プリスケーラレジスタ1（PRS1）	10-9
H'0080 0204	プリスケーラレジスタ2（PRS2）	出力イベントバス制御レジスタ（OEBCR）	10-9 10-14
～	（使用禁止領域）		
H'0080 0210	TCLK入力処理制御レジスタ（TCLKCR）		10-17
H'0080 0212	TIN入力処理制御レジスタ0（TINCR0）		10-18
H'0080 0214	（使用禁止領域）		
H'0080 0216	（使用禁止領域）		
H'0080 0218	TIN入力処理制御レジスタ3（TINCR3）		10-19
H'0080 021A	TIN入力処理制御レジスタ4（TINCR4）		10-19
H'0080 021C	（使用禁止領域）		
H'0080 021E	（使用禁止領域）		
H'0080 0220	F/Fソース選択レジスタ0（FFS0）		10-21
H'0080 0222	（使用禁止領域）	F/Fソース選択レジスタ1（FFS1）	10-22
H'0080 0224	F/Fプロテクトレジスタ0（FFP0）		10-23
H'0080 0226	F/Fデータレジスタ0（FFD0）		10-24
H'0080 0228	（使用禁止領域）	F/Fプロテクトレジスタ1（FFP1）	10-23
H'0080 022A	（使用禁止領域）	F/Fデータレジスタ1（FFD1）	10-24
～	（使用禁止領域）		
H'0080 0230	TOP割り込み制御レジスタ0（TOPIR0）	TOP割り込み制御レジスタ1（TOPIR1）	10-29
H'0080 0232	TOP割り込み制御レジスタ2（TOPIR2）	TOP割り込み制御レジスタ3（TOPIR3）	10-31 10-32
H'0080 0234	TIO割り込み制御レジスタ0（TIOIR0）	TIO割り込み制御レジスタ1（TIOIR1）	10-33 10-34
H'0080 0236	TIO割り込み制御レジスタ2（TIOIR2）	TMS割り込み制御レジスタ（TMSIR）	10-35 10-36
H'0080 0238	TIN割り込み制御レジスタ0（TINIR0）	TIN割り込み制御レジスタ1（TINIR1）	10-37 10-38
H'0080 023A	（使用禁止領域）		
H'0080 023C	TIN割り込み制御レジスタ4（TINIR4）	TIN割り込み制御レジスタ5（TINIR5）	10-39
H'0080 023E	TIN割り込み制御レジスタ6（TINIR6）	（使用禁止領域）	10-41

10.2.2　プリスケーラ部

プリスケーラPRS0～2は、8ビット構成のカウンタで内部周辺クロック（BCLK）の1/2の周波数（f(BCLK)＝20MHz動作時、10.0MHz）をもとに、クロックを分周して各タイマ（TOP, TIO, TMS, TML）へクロックを供給します。

プリスケーラレジスタの値はリセット解除時にH'00に初期化されます。
また、プリスケーラレジスタの設定値を書き換えると、プリスケーラのアンダフローに同期して、その書き換え値による動作を開始します。

プリスケーラレジスタにはH'00～H'FFの値が設定できます。プリスケーラの分周比は次の式で与えられます。

$$\text{プリスケーラ分周比} = \frac{1}{\text{プリスケーラ設定値}+1}$$

プリスケーラレジスタ0（PRS0）　**＜アドレス：**H'0080 0202＞
プリスケーラレジスタ1（PRS1）　**＜アドレス：**H'0080 0203＞
プリスケーラレジスタ2（PRS2）　**＜アドレス：**H'0080 0204＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
（b8	9	10	11	12	13	14	b15）
PRS0-PRS2							
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～7 （8～15）	PRS0, RPS2 PRS1 **プリスケーラ**	**プリスケーラ分周値設定**	R	W

プリスケーラレジスタ0～2は、リセット解除後カウント動作を開始します。
プリスケーラレジスタを動作中に読み出すと、カウント動作中の値ではなく書き込んだ値を読み出します。

10.2.3　クロックバス/入出力イベントバス制御部

(1) クロックバス

クロックバスは、各タイマにクロックを供給するためのバスで、クロックバス0～3の4本で構成されます。各タイマではこのクロックバス信号をクロック入力信号とすることができます。

クロックバスに入力可能な信号は以下の通りです。

表10.2.1　クロックバス各線に入力可能な信号

クロックバス	入力可能信号
3	TCLK0入力
2	内部プリスケーラ(PRS2)　または　TCLK3入力
1	内部プリスケーラ(PRS1)
0	内部プリスケーラ(PRS0)

(2) 入力イベントバス

入力イベントバスは、各タイマのカウントイネーブル信号や計測キャプチャ信号を供給するためのバスで、入力イベントバス0～3の4本で構成されます。各タイマではこの入力イベントバス信号をイネーブル(またはキャプチャ)信号入力とすることができます。また、A/D変換、DMA転送の起動要求とすることができます。

入力イベントバスに入力可能な信号は以下の通りです。

表10.2.2　入力イベントバス各線に接続(入力)可能な信号

入力イベントバス	接続(入力)可能信号　(注1)
3	TIN3入力、出力イベントバス2　または　TIO7アンダフロー信号
2	TIN0入力
1	TIO6アンダフロー信号
0	TIO5アンダフロー信号

注1．入力イベントバス信号の接続先(出力)については、「図10.1.1 MJTブロック図」を参照してください。

(3) 出力イベントバス

出力イベントバスは、各タイマのアンダフロー信号が接続され、出力イベントバス0～3の4本で構成されます。出力イベントバスの信号は出力フリップフロップに接続されるほか、出力イベントバス3はA/D0コンバータに、出力イベントバス0はDMAチャネル1に、出力イベントバス1はDMAチャネル2に接続できます。また、出力イベントバス2は、入力イベントバス3に接続可能です。

出力イベントバスに接続可能な信号は以下の通りです。

表10.2.3　出力イベントバス各線に接続(入力)可能な信号

出力イベントバス	接続(入力)可能信号　(注1)
3	TOP8、TIO3、TIO4、TIO8アンダフロー信号
2	TOP9　または　TIO2アンダフロー信号
1	TOP7　または　TIO1アンダフロー信号
0	TOP6　または　TIO0アンダフロー信号

注1．出力イベントバス信号の接続先(出力)については、「図10.1.1 MJTブロック図」を参照してください。

なお、各タイマから出力イベントバスに対する信号(およびTIO5, 6による入力イベントバスへの信号)が発生するのは、表10.2.4に示すタイミングです(タイマから出力フリップフロップへの信号出力タイミングとは異なるため注意してください)。

表10.2.4　各タイマから出力イベントバスに対する信号発生タイミング

タイマ	モード	出力イベントバスへの信号発生タイミング
TOP	ワンショット出力モード	カウンタアンダフロー時
	ディレイドワンショット出力モード	カウンタアンダフロー時
	連続出力モード	カウンタアンダフロー時
TIO（注1）	計測クリア入力モード	カウンタアンダフロー時
	計測フリーラン入力モード	カウンタアンダフロー時
	ノイズ処理入力モード	カウンタアンダフロー時
	PWM出力モード	カウンタアンダフロー時
	ワンショット出力モード	カウンタアンダフロー時
	ディレイドワンショット出力モード	カウンタアンダフロー時
	連続出力モード	カウンタアンダフロー時
TMS	（16ビット計測入力）	信号発生機能なし
TML	（32ビット計測入力）	信号発生機能なし

注1．TIO5, 6は入力イベントバスに対してアンダフロー信号を出力します。

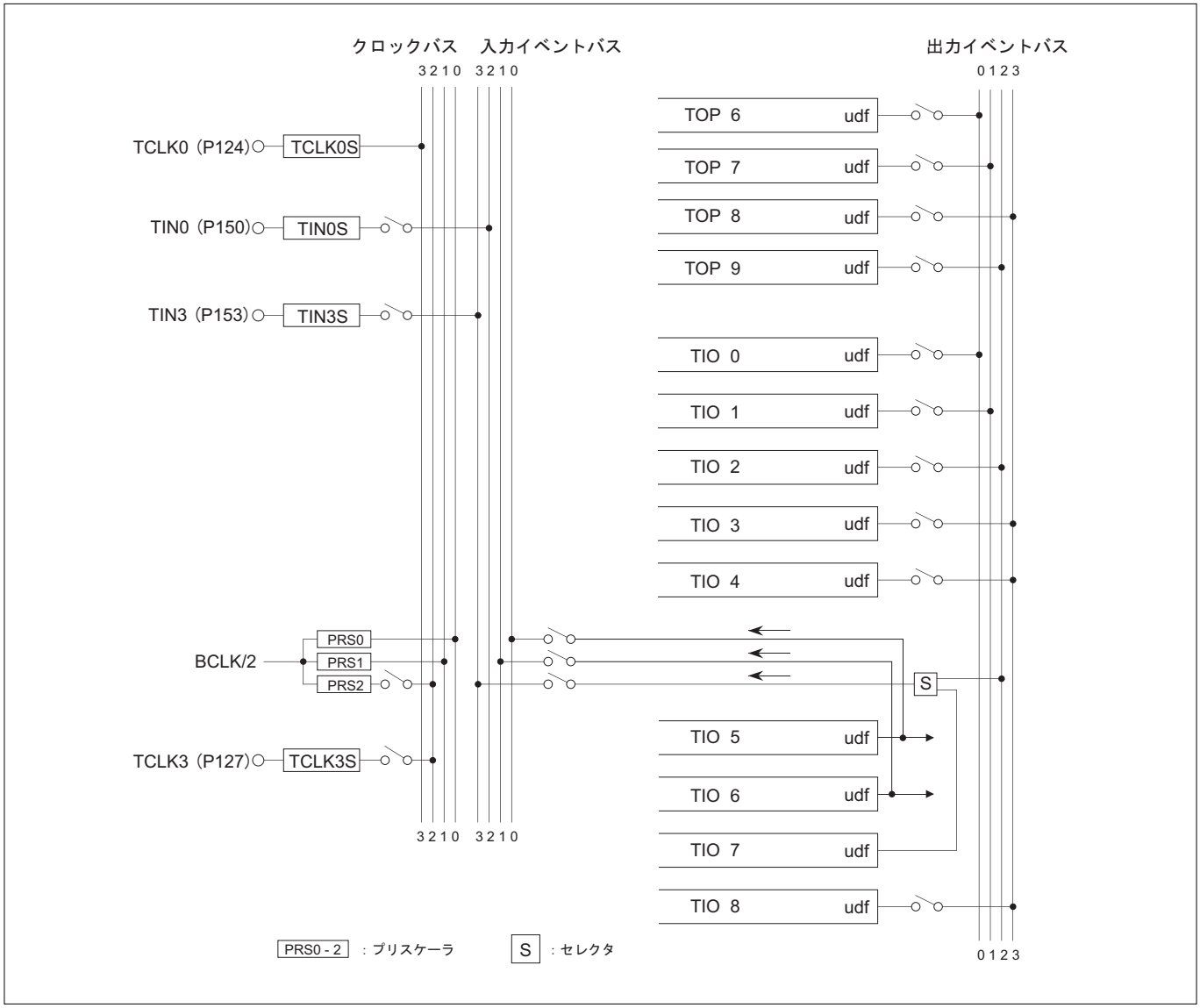


図10.2.1　**クロックバス、入力/出力イベントバスの概念図**

クロックバス/入出力イベントバス制御部には以下のレジスタがあります。

- **クロックバス＆入力イベントバス制御レジスタ（CKIEBCR）**
- **出力イベントバス制御レジスタ（OEBCR）**

クロックバス＆入力イベントバス制御レジスタ（CKIEBCR）　　**＜アドレス：H'0080 0201＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
IEB3S		IEB2S		IEB1S	IEB0S		CKB2S
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8, 9	IEB3S **入力イベントバス3 入力選択ビット**	0X：**外部入力3（TIN3）選択** 10：**出力イベントバス2選択** 11：TIO7**出力選択**	R	W
10, 11	IEB2S **入力イベントバス2 入力選択ビット**	00：**外部入力0（TIN0）選択** 01：**入力イベントバス2を使用しません** 10：**入力イベントバス2を使用しません** 11：**入力イベントバス2を使用しません**	R	W
12	IEB1S **入力イベントバス1 入力選択ビット**	0：**入力イベントバス1を使用しません** 1：TIO6**出力選択**	R	W
13	IEB0S **入力イベントバス0 入力選択ビット**	0：**入力イベントバス0を使用しません** 1：TIO5**出力選択**	R	W
14	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
15	CKB2S **クロックバス2 入力選択ビット**	0：**プリスケーラ2選択** 1：**外部クロック3（TCLK3）選択**	R	W

CKIEBCRは、クロックバスに供給するクロックソースの選択（外部入力またはプリスケーラ）、および入力イベントバスへ供給するカウントイネーブル/キャプチャ信号の選択（外部入力または出力イベントバス）を行うレジスタです。

出力イベントバス制御レジスタ（OEBCR）　　**＜アドレス：**H'0080 0205**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
OEB3S			OEB2S		OEB1S		OEB0S
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8, 9	OEB3S **出力イベントバス**3 **入力選択ビット**	00：TOP8**出力選択** 01：TIO3**出力選択** 10：TIO4**出力選択** 11：TIO8**出力選択**	R	W
10	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
11	OEB2S **出力イベントバス**2 **入力選択ビット**	0：TOP9**出力選択** 1：TIO2**出力選択**	R	W
12	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
13	OEB1S **出力イベントバス**1 **入力選択ビット**	0：TOP7**出力選択** 1：TIO1**出力選択**	R	W
14	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
15	OEB0S **出力イベントバス**0 **入力選択ビット**	0：TOP6**出力選択** 1：TIO0**出力選択**	R	W

OEBCRは、出力イベントバスにどのタイマ（TOP, TIO）のアンダフロー信号を供給するかを選択するレジスタです。

10.2.4　入力処理制御部

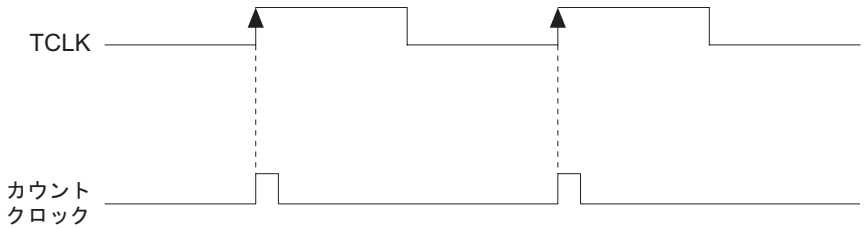
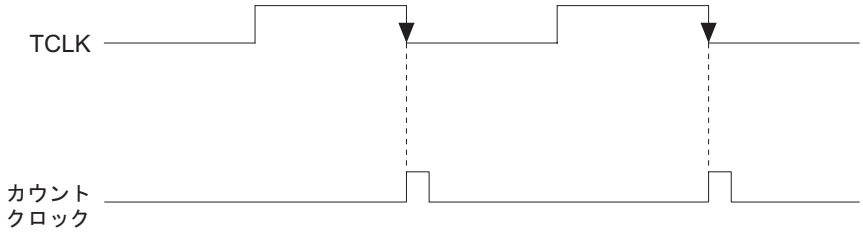
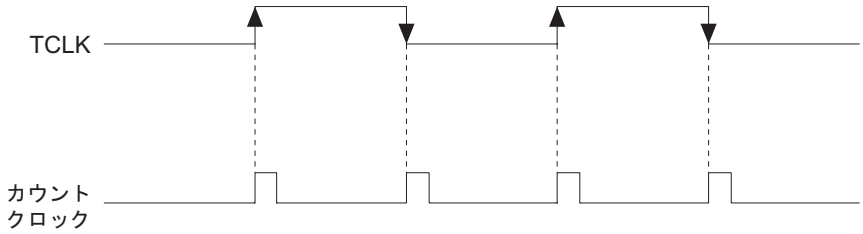
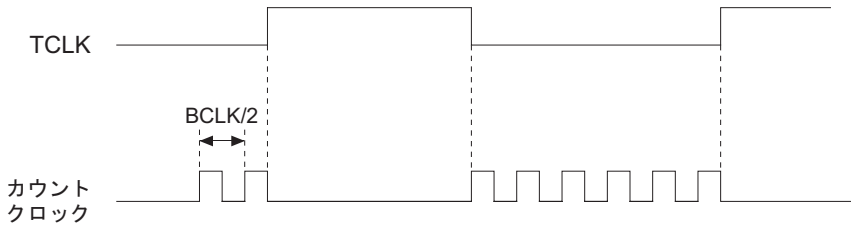
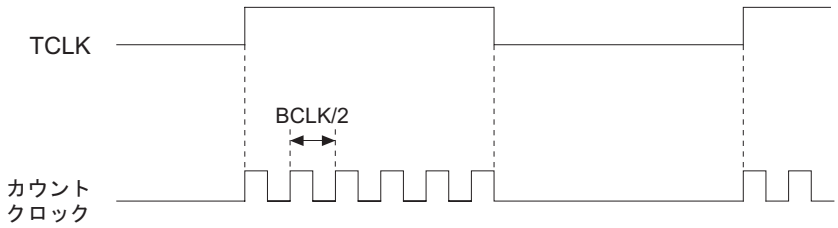
入力処理制御部では、TCLK信号およびTIN信号の入力処理を行います。TCLK入力処理部では、TCLK信号のソース、外部入力の場合は信号のどのエッジ（立ち上がり/立ち下がり/両エッジ）またはどのレベル（Hレベル/Lレベル）でクロックバスへの供給クロック信号を発生させるかを選択します。

またTIN入力処理部では、信号のどのエッジ（立ち上がり/立ち下がり/両エッジ）またはどのレベル（Hレベル/Lレベル）で、各タイマのイネーブル信号/計測信号/カウントソース信号、または各イベントバスへの供給信号を発生させるかを選択します。

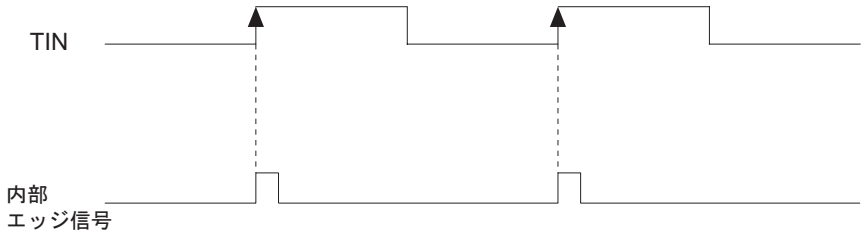
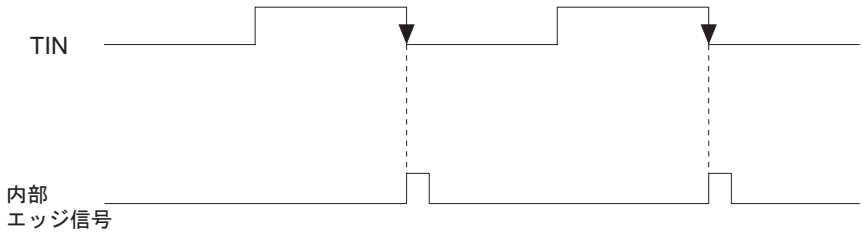
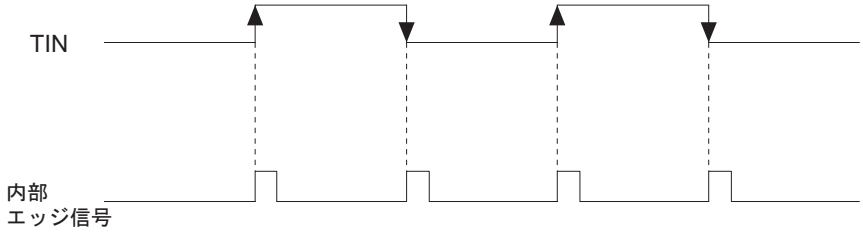
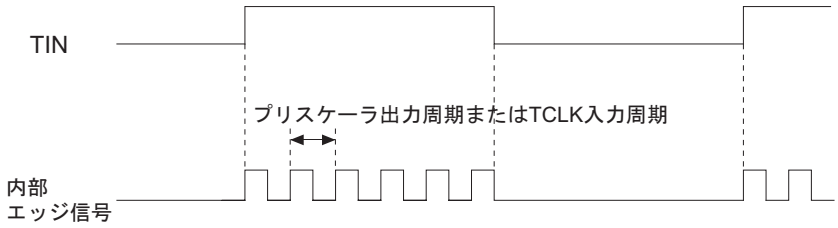
入力処理制御レジスタには以下のレジスタがあります。

- TCLK**入力処理制御レジスタ**（TCLKCR）
- TIN**入力処理制御レジスタ**0（TINCR0）
- TIN**入力処理制御レジスタ**3（TINCR3）
- TIN**入力処理制御レジスタ**4（TINCR4）

(1) TCLK入力処理制御レジスタ機能一覧

項目	動作機能
BCLK/2	
立ち上がりエッジ	
立ち下がりエッジ	
両エッジ	
Lレベル	
Hレベル	

(2) TIN入力処理制御レジスタ機能一覧

項目	動作機能
立ち上がりエッジ	
立ち下がりエッジ	
両エッジ	
Lレベル	
Hレベル	

TCLK入力処理制御レジスタ（TCLKCR）　　＜アドレス：H'0080 0210＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
		TCLK3S			TCLK2S				TCLK1S					TCLK0S	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2, 3	TCLK3S TCLK3 入力処理選択ビット	00：BCLK/2 01：立ち上がりエッジ 10：立ち下がりエッジ 11：両エッジ	R	W
4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5～7	TCLK2S TCLK2 入力処理選択ビット	000：入力を無効にする 001：立ち上がりエッジ 010：立ち下がりエッジ 011：両エッジ 100：Lレベル 101：Lレベル 110：Hレベル 111：Hレベル	R	W
8	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
9～11	TCLK1S TCLK1 入力処理選択ビット	000：入力を無効にする 001：立ち上がりエッジ 010：立ち下がりエッジ 011：両エッジ 100：Lレベル 101：Lレベル 110：Hレベル 111：Hレベル	R	W
12, 13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14, 15	TCLK0S TCLK0 入力処理選択ビット	00：BCLK/2 01：立ち上がりエッジ 10：立ち下がりエッジ 11：両エッジ	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIN入力処理制御レジスタ0（TINCR0）　　＜アドレス：H'0080 0212＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
	TIN4S				TIN3S					TIN2S		TIN1S		TIN0S	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
1～3	TIN4S 予約ビット	"0"に固定してください。	0	0
4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5～7	TIN3S TIN3 入力処理選択ビット	000：入力を無効にする 001：立ち上がりエッジ 010：立ち下がりエッジ 011：両エッジ 100：Lレベル 101：Lレベル 110：Hレベル 111：Hレベル	R	W
8, 9	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
10, 11	TIN2S 予約ビット	"0"に固定してください。	0	0
12, 13	TIN1S 予約ビット	"0"に固定してください。	0	0
14, 15	TIN0S TIN0 入力処理選択ビット	00：入力を無効にする 01：立ち上がりエッジ 10：立ち下がりエッジ 11：両エッジ	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIN入力処理制御レジスタ3(TINCR3) ＜アドレス：H'0080 0218＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TIN19S		TIN18S		TIN17S		TIN16S		TIN15S		TIN14S		TIN13S		TIN12S	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	TIN19S（TIN19 入力処理選択ビット）	00：入力を無効にする	R	W
2, 3	TIN18S（TIN18 入力処理選択ビット）	01：立ち上がりエッジ		
4, 5	TIN17S（TIN17 入力処理選択ビット）	10：立ち下がりエッジ		
6, 7	TIN16S（TIN16 入力処理選択ビット）	11：両エッジ		
8, 9	TIN15S（予約ビット）	"0"に固定してください。	0	0
10, 11	TIN14S（予約ビット）			
12, 13	TIN13S（予約ビット）			
14, 15	TIN12S（予約ビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIN入力処理制御レジスタ4(TINCR4) ＜アドレス：H'0080 021A＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TIN33S		TIN32S		TIN31S		TIN30S		TIN23S		TIN22S		TIN21S		TIN20S	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	TIN33S（予約ビット）	"0"に固定してください。	0	0
2, 3	TIN32S（予約ビット）			
4, 5	TIN31S（予約ビット）			
6, 7	TIN30S（予約ビット）			
8, 9	TIN23S（TIN23 入力処理選択ビット）	00：入力を無効にする	R	W
10, 11	TIN22S（TIN22 入力処理選択ビット）	01：立ち上がりエッジ		
12, 13	TIN21S（TIN21 入力処理選択ビット）	10：立ち下がりエッジ		
14, 15	TIN20S（TIN20 入力処理選択ビット）	11：両エッジ		

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

10.2.5　出力フリップフロップ制御部

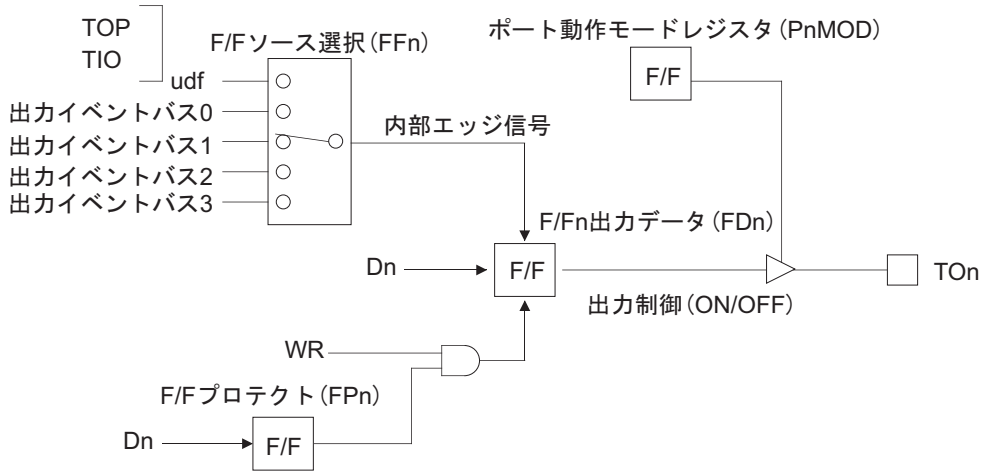
出力フリップフロップ制御部では、各タイマ出力に設けられたフリップフロップ(F/F)の制御を行います。出力フリップフロップ制御レジスタには以下のレジスタがあります。

- F/F**ソース選択レジスタ**0(FFS0)
- F/F**ソース選択レジスタ**1(FFS1)
- F/F**プロテクトレジスタ**0(FFP0)
- F/F**プロテクトレジスタ**1(FFP1)
- F/F**データレジスタ**0(FFD0)
- F/F**データレジスタ**1(FFD1)

なお、各タイマから出力フリップフロップに対する信号の発生するタイミングを表10.2.5に示します(出力イベントバスへの信号出力タイミングと異なるため注意してください)。

表10.2.5　**各タイマから出力フリップフロップに対する信号発生タイミング**

タイマ	モード	出力フリップフロップへの信号発生タイミング
TOP	ワンショット出力モード	カウンタイネーブル時およびアンダフロー時
	ディレイドワンショット出力モード	カウンタアンダフロー時
	連続出力モード	カウンタイネーブル時およびアンダフロー時
TIO	計測クリア入力モード	カウンタアンダフロー時
	計測フリーラン入力モード	カウンタアンダフロー時
	ノイズ処理入力モード	カウンタアンダフロー時
	PWM出力モード	カウンタイネーブル時およびアンダフロー時
	ワンショット出力モード	カウンタイネーブル時およびアンダフロー時
	ディレイドワンショット出力モード	カウンタアンダフロー時
	連続出力モード	カウンタイネーブル時およびアンダフロー時
TMS	(16ビット計測入力)	信号発生機能なし
TML	(32ビット計測入力)	信号発生機能なし



注.　・Dnはデータバスを示します。

図10.2.2　F/F**出力回路構成図**

F/Fソース選択レジスタ0（FFS0） ＜アドレス：H'0080 0220＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
			FF15	FF14	FF13	FF12	FF11	FF10		FF9		FF8		FF7	FF6
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0〜2	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3	FF15 F/F15 ソース選択ビット	0：TIO 4 出力 1：出力イベントバス0	R	W
4	FF14 F/F14 ソース選択ビット	0：TIO 3 出力 1：出力イベントバス0	R	W
5	FF13 F/F13 ソース選択ビット	0：TIO 2 出力 1：出力イベントバス3	R	W
6	FF12 F/F12 ソース選択ビット	0：TIO 1 出力 1：出力イベントバス2	R	W
7	FF11 F/F11 ソース選択ビット	0：TIO 0 出力 1：出力イベントバス1	R	W
8, 9	FF10 F/F10 ソース選択ビット	00：TOP 10 出力 01：TOP 10 出力 10：出力イベントバス0 11：出力イベントバス1	R	W
10, 11	FF9 F/F9 ソース選択ビット	00：TOP 9 出力 01：TOP 9 出力 10：出力イベントバス0 11：出力イベントバス1	R	W
12, 13	FF8 F/F8 ソース選択ビット	00：TOP 8 出力 01：出力イベントバス0 10：出力イベントバス1 11：出力イベントバス2	R	W
14	FF7 F/F7 ソース選択ビット	0：TOP 7 出力 1：出力イベントバス0	R	W
15	FF6 F/F6 ソース選択ビット	0：TOP 6 出力 1：出力イベントバス1	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

F/F**ソース選択レジスタ**1(FFS1)　　**＜アドレス：**H'0080 0223**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
FF19		FF18		FF17		FF16	
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	**ビット名**	**機能**	R	W
8, 9	FF19 F/F19 **ソース選択ビット**	00：TIO 8 **出力** 01：TIO 8 **出力** 10：**出力イベントバス**0 11：**出力イベントバス**1	R	W
10, 11	FF18 F/F18 **ソース選択ビット**	00：TIO 7 **出力** 01：TIO 7 **出力** 10：**出力イベントバス**0 11：**出力イベントバス**1	R	W
12, 13	FF17 F/F17 **ソース選択ビット**	00：TIO 6 **出力** 01：TIO 6 **出力** 10：**出力イベントバス**0 11：**出力イベントバス**1	R	W
14, 15	FF16 F/F16 **ソース選択ビット**	00：TIO 5 **出力** 01：**出力イベントバス**0 10：**出力イベントバス**1 11：**出力イベントバス**3	R	W

各出力F/F(フリップフロップ)への信号ソースの選択レジスタです。信号ソースには内部出力バスからの選択、または各タイマからのアンダフロー出力を選択できます。

F/Fプロテクトレジスタ0(FFP0)　　＜アドレス：H'0080 0224＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
FP15	FP14	FP13	FP12	FP11	FP10	FP9	FP8	FP7	FP6	FP5	FP4	FP3	FP2	FP1	FP0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	FP15（F/F15 プロテクトビット）	0：F/F出力ビットへの書き込み許可	R	W
1	FP14（F/F14 プロテクトビット）	1：F/F出力ビットへの書き込み禁止		
2	FP13（F/F13 プロテクトビット）			
3	FP12（F/F12 プロテクトビット）			
4	FP11（F/F11 プロテクトビット）			
5	FP10（F/F10 プロテクトビット）			
6	FP9（F/F9 プロテクトビット）			
7	FP8（F/F8 プロテクトビット）			
8	FP7（F/F7 プロテクトビット）			
9	FP6（F/F6 プロテクトビット）			
10	FP5（F/F5 プロテクトビット）			
11	FP4（F/F4 プロテクトビット）			
12	FP3（F/F3 プロテクトビット）			
13	FP2（F/F2 プロテクトビット）			
14	FP1（F/F1 プロテクトビット）			
15	FP0（F/F0 プロテクトビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

F/Fプロテクトレジスタ1(FFP1)　　＜アドレス：H'0080 0229＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			FP20	FP19	FP18	FP17	FP16
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	FP20（F/F20 プロテクトビット）	0：F/F出力ビットへの書き込み許可	R	W
12	FP19（F/F19 プロテクトビット）	1：F/F出力ビットへの書き込み禁止		
13	FP18（F/F18 プロテクトビット）			
14	FP17（F/F17 プロテクトビット）			
15	FP16（F/F16 プロテクトビット）			

各出力F/F(フリップフロップ)への書き込み許可/禁止制御を行うレジスタです。書き込みを禁止にした場合は、F/Fデータレジスタへの書き込みは無効になります。

F/Fデータレジスタ0(FFD0) ＜アドレス：H'0080 0226＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
FD15	FD14	FD13	FD12	FD11	FD10	FD9	FD8	FD7	FD6	FD5	FD4	FD3	FD2	FD1	FD0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	FD15（F/F15 出力データビット）	0：F/F出力データ＝0	R	W
1	FD14（F/F14 出力データビット）	1：F/F出力データ＝1		
2	FD13（F/F13 出力データビット）			
3	FD12（F/F12 出力データビット）			
4	FD11（F/F11 出力データビット）			
5	FD10（F/F10 出力データビット）			
6	FD9（F/F9 出力データビット）			
7	FD8（F/F8 出力データビット）			
8	FD7（F/F7 出力データビット）			
9	FD6（F/F6 出力データビット）			
10	FD5（F/F5 出力データビット）			
11	FD4（F/F4 出力データビット）			
12	FD3（F/F3 出力データビット）			
13	FD2（F/F2 出力データビット）			
14	FD1（F/F1 出力データビット）			
15	FD0（F/F0 出力データビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

F/Fデータレジスタ1(FFD1) ＜アドレス：H'0080 022B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			FD20	FD19	FD18	FD17	FD16
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	FD20（F/F20 出力データビット）	0：F/F出力データ＝0	R	W
12	FD19（F/F19 出力データビット）	1：F/F出力データ＝1		
13	FD18（F/F18 出力データビット）			
14	FD17（F/F17 出力データビット）			
15	FD16（F/F16 出力データビット）			

各出力F/F(フリップフロップ)の出力を設定するためのレジスタです。通常F/Fの出力はタイマ出力により変化しますが、このレジスタを操作することでF/Fの出力を任意に操作することができます。F/Fデータレジスタは、前述のF/Fプロテクトレジスタの設定が書き込み許可の場合のみ操作できます。

10.2.6　割り込み制御部

割り込み制御部は、各タイマから割り込みコントローラに出力する割り込み信号を制御します。タイマ割り込み制御レジスタには、各タイマごとに以下のレジスタがあります。

- TOP割り込み制御レジスタ0（TOPIR0）
- TOP割り込み制御レジスタ1（TOPIR1）
- TOP割り込み制御レジスタ2（TOPIR2）
- TOP割り込み制御レジスタ3（TOPIR3）
- TIO割り込み制御レジスタ0（TIOIR0）
- TIO割り込み制御レジスタ1（TIOIR1）
- TIO割り込み制御レジスタ2（TIOIR2）
- TMS割り込み制御レジスタ（TMSIR）
- TIN割り込み制御レジスタ0（TINIR0）
- TIN割り込み制御レジスタ1（TINIR1）
- TIN割り込み制御レジスタ4（TINIR4）
- TIN割り込み制御レジスタ5（TINIR5）
- TIN割り込み制御レジスタ6（TINIR6）

1つの割り込みベクタテーブルに対して割り込み要因数が1つの割り込みは、タイマ内に割り込み制御レジスタを持っておらず、割り込みコントローラ中で割り込みステータスフラグの管理を自動的に行います。
該当するタイマ割り込みは、以下の割り込みです。
（詳細については、「第5章 割り込みコントローラ」を参照してください。）

- TOP10　MJT出力割り込み5（IRQ5）

1つの割り込みベクタテーブルに対して、割り込み要因数が2以上の割り込みは割り込み制御レジスタを使用した割り込み要求制御と割り込み入力の判定を行っています。このため割り込みコントローラ内のステータスフラグは割り込み許可された割り込み要求の判定ビットとしてのみ機能し、書き込み処理は出来ません。

(1) 割り込み要求ステータスビット

割り込み要求を判別するためのステータスビットで、割り込み要求が発生するとハードウェア的にセットされ、ソフトウェア的にセットすることは出来ません。ステータスビットは、"0"を書き込むことによりクリアされ、"1"を書き込むとステータスビットの状態を保持します。なお、割り込みマスクビットの影響を受けず動作しますので、周辺機能の動作確認用にも使用することが出来ます。割り込み処理時には、グルーピングされた割り込み要求ステータスの内、割り込み処理を行ったステータスビットのみクリアください。割り込み処理を行っていないステータスビットをクリアすると未実行の割り込み要求もクリアされます。

(2) 割り込みマスクビット

グルーピングされた割り込み要求の内で不要な割り込みを禁止にするためのビットです。割り込み許可時には"0"、割り込み禁止時には"1"を設定します。

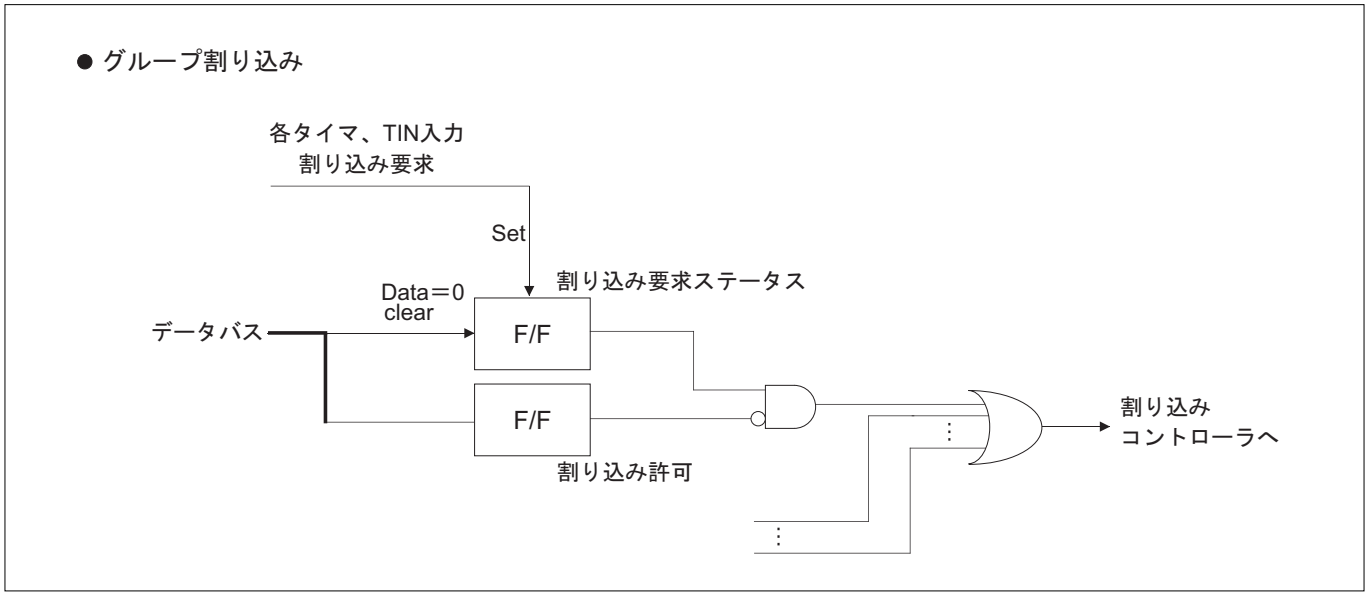
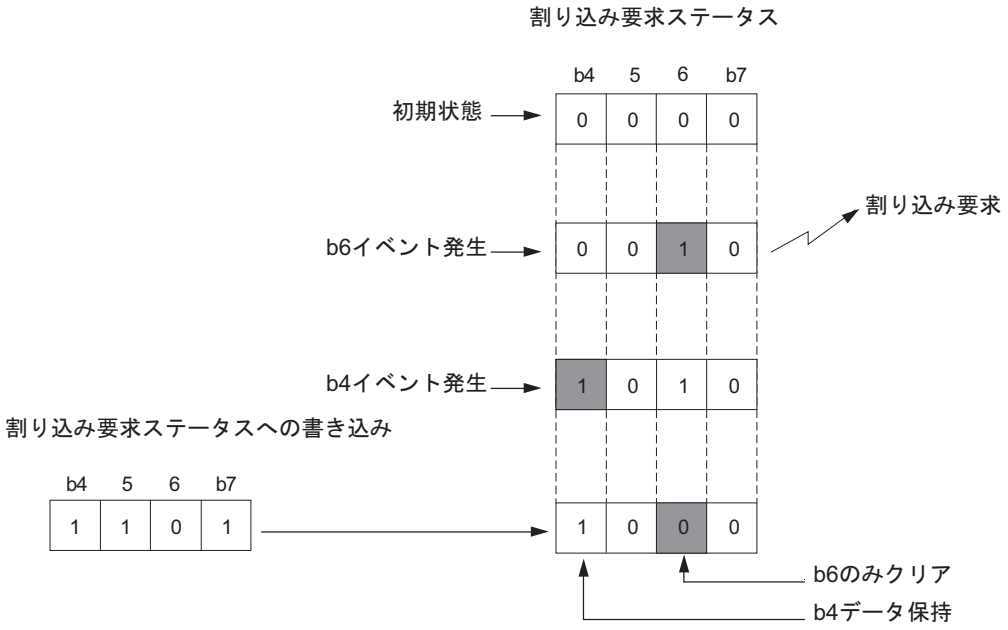


図10.2.3　**割り込み要求ステータスレジスタとマスクレジスタ**

● 割り込み要求ステータスクリア例



● プログラム例

・割り込み要求ステータスレジスタ（ISTREG）の割り込み要求ステータス1：ISTAT1（0x02ビット）をクリアする場合

○　ISTREG = 0xfd;　　/*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

割り込み要求ステータスをクリアする場合は、必ず他のステータスには"1"を書き込んで下さい。
その際、下のように論理演算を用いるとISTREGの読み出し、論理演算、書き込みの3段階の手順となるため、
読み出しから書き込みの間に他の割り込み要求が発生した場合に、誤ってクリアする場合があります。

×　ISTREG &= 0xfd;　　/*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

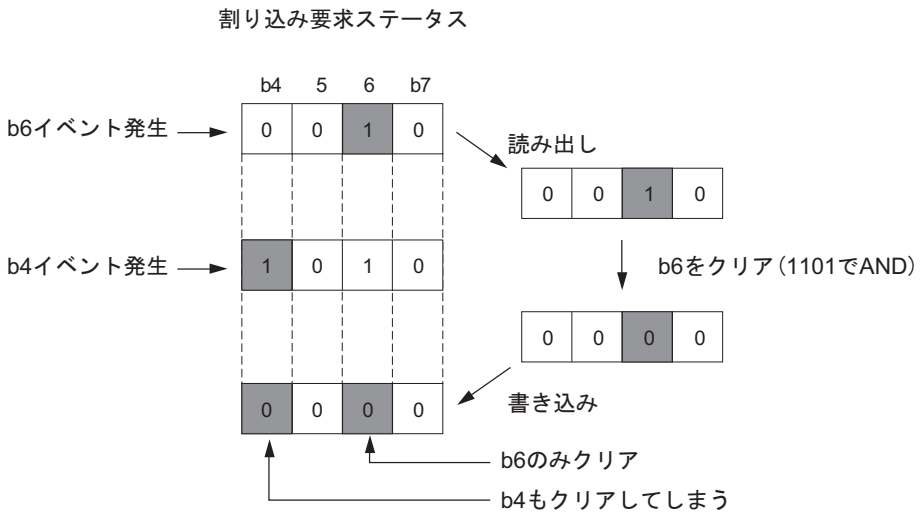


図10.2.4　割り込み要求ステータスクリア例

マルチジャンクションタイマから出力される割り込み信号と、割り込みコントローラの入力の関係を以下に示します。

表10.2.6　MJTで発生する割り込み信号

信号名	発生源	ICU割り込み入力要因（注1）	入力要因数
IRQ0	TIO0, TIO1, TIO2, TIO3	MJT出力割り込み0	4
IRQ1	TOP6, TOP7	MJT出力割り込み1	2
IRQ2	TOP0, TOP1, TOP2, TOP3, TOP4, TOP5	MJT出力割り込み2	6
IRQ3	TIO8, TIO9	MJT出力割り込み3	2
IRQ4	TIO4, TIO5, TIO6, TIO7	MJT出力割り込み4	4
IRQ6	TOP8, TOP9	MJT出力割り込み6	2
IRQ7	TMS0, TMS1	MJT出力割り込み7	2
IRQ9	TIN0	MJT入力割り込み1	1
IRQ10	TIN16, TIN17, TIN18, TIN19	MJT入力割り込み2	4
IRQ11	TIN20, TIN21, TIN22, TIN23	MJT入力割り込み3	4
IRQ12	TIN3	MJT入力割り込み4	1

注1．「第5章 割り込みコントローラ」を参照してください。
注．・TOP10は割り込みグループで1つの要因しかないため、MJTの割り込み制御レジスタにはステータス/マスクレジスタはありません（割り込みコントローラで直接制御します）。

TOP割り込み制御レジスタ0（TOPIR0） ＜アドレス：H'0080 0230＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
0	0	TOPIS5 0	TOPIS4 0	TOPIS3 0	TOPIS2 0	TOPIS1 0	TOPIS0 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2	TOPIS5（TOP5 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
3	TOPIS4（TOP4 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
4	TOPIS3（TOP3 割り込み要求ステータスビット）			
5	TOPIS2（TOP2 割り込み要求ステータスビット）			
6	TOPIS1（TOP1 割り込み要求ステータスビット）			
7	TOPIS0（TOP0 割り込み要求ステータスビット）			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

TOP割り込み制御レジスタ1（TOPIR1） ＜アドレス：H'0080 0231＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	TOPIM5 0	TOPIM4 0	TOPIM3 0	TOPIM2 0	TOPIM1 0	TOPIM0 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8, 9	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
10	TOPIM5（TOP5 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
11	TOPIM4（TOP4 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
12	TOPIM3（TOP3 割り込み要求マスクビット）			
13	TOPIM2（TOP2 割り込み要求マスクビット）			
14	TOPIM1（TOP1 割り込み要求マスクビット）			
15	TOPIM0（TOP0 割り込み要求マスクビット）			

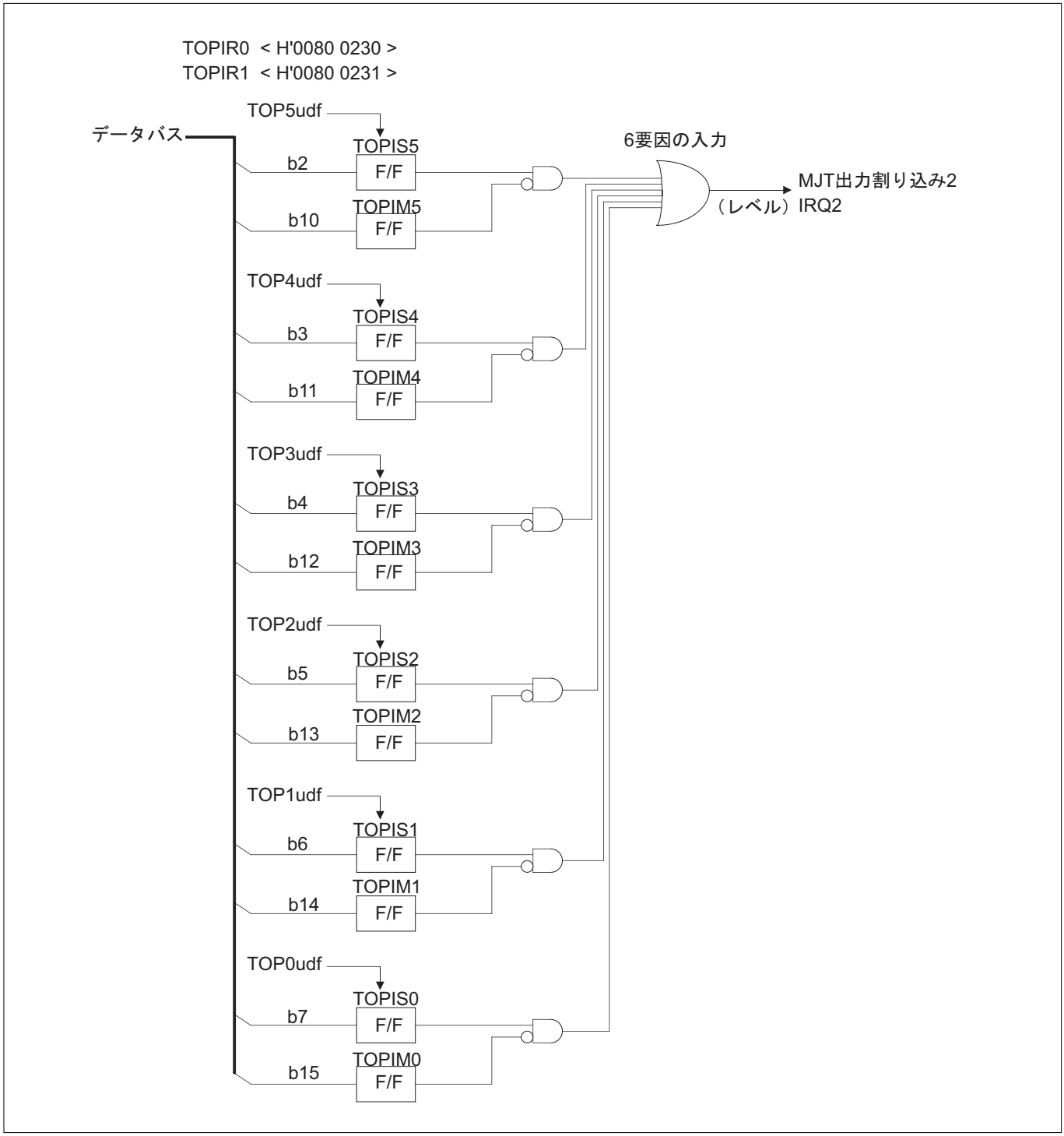


図10.2.5　MJT**出力割り込み**2**ブロック図**

TOP割り込み制御レジスタ2（TOPIR2）　　＜アドレス：H'0080 0232＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
		TOPIS7	TOPIS6			TOPIM7	TOPIM6
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2	TOPIS7（TOP7 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
3	TOPIS6（TOP6 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
4, 5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6	TOPIM7（TOP7 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
7	TOPIM6（TOP6 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

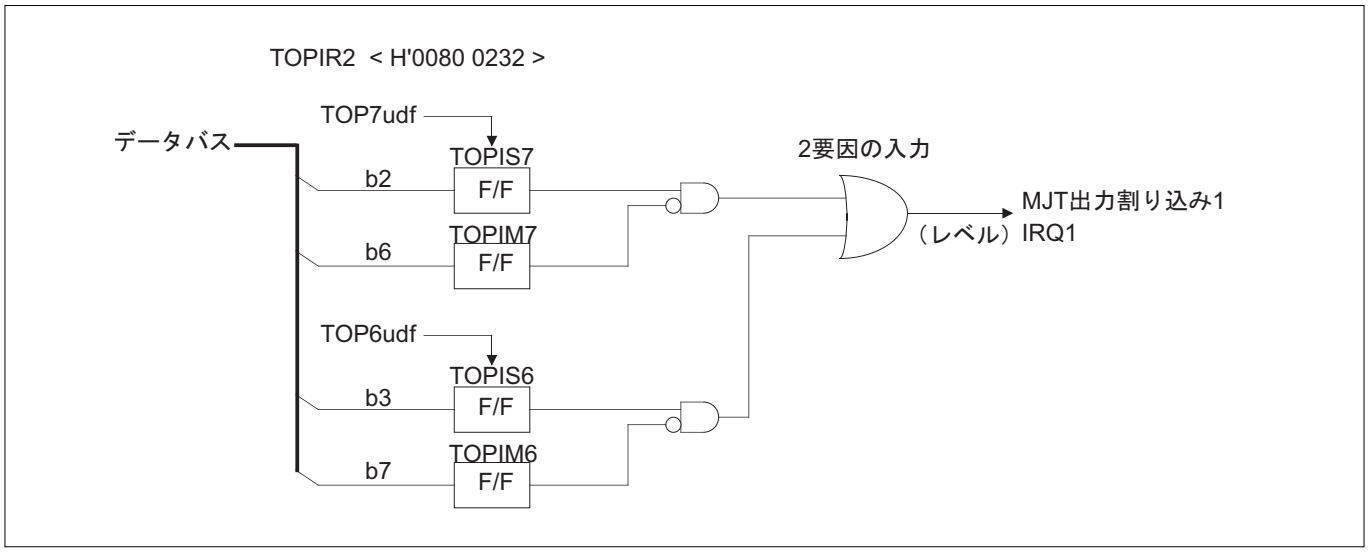


図10.2.6　MJT出力割り込み1ブロック図

TOP割り込み制御レジスタ3（TOPIR3）　　＜アドレス：H'0080 0233＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	TOPIS9 0	TOPIS8 0	0	0	TOPIM9 0	TOPIM8 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8, 9	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
10	TOPIS9（TOP9 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
11	TOPIS8（TOP8 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
12, 13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14	TOPIM9（TOP9 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
15	TOPIM8（TOP8 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

注．・TOP10は割り込みグループで1つの要因しかないため、MJTの割り込み制御レジスタにはステータス/マスクレジスタはありません（割り込みコントローラで直接制御します）。

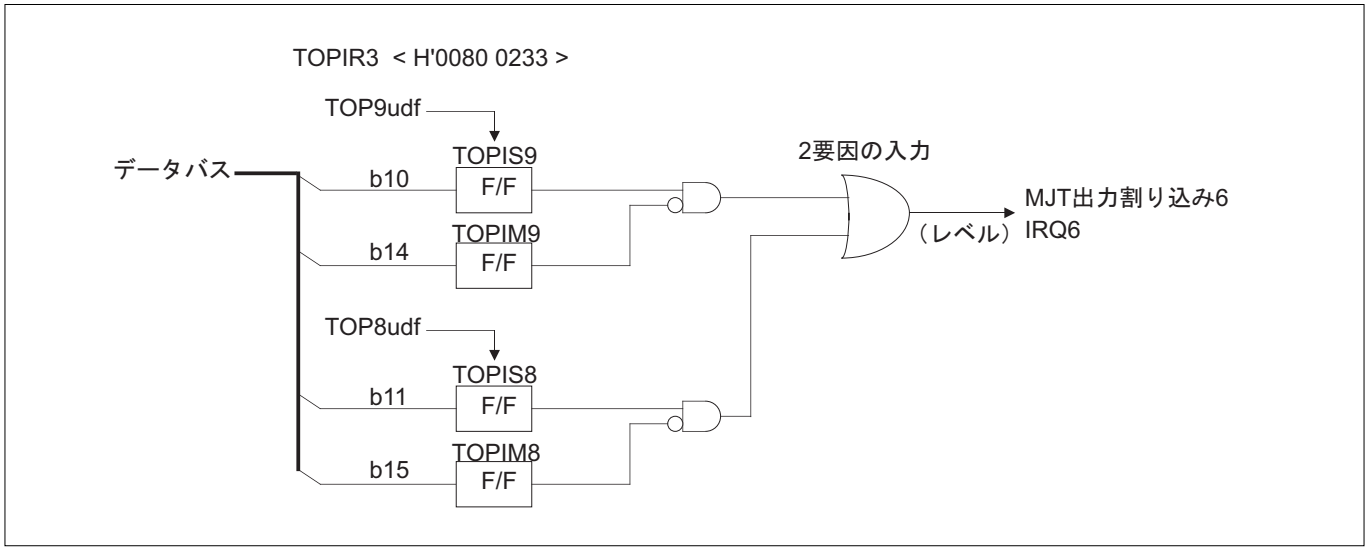


図10.2.7　MJT出力割り込み6ブロック図

TIO割り込み制御レジスタ0（TIOIR0）　　＜アドレス：H'0080 0234＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
TIOIS3 0	TIOIS2 0	TIOIS1 0	TIOIS0 0	TIOIM3 0	TIOIM2 0	TIOIM1 0	TIOIM0 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	TIOIS3（TIO3 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
1	TIOIS2（TIO2 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
2	TIOIS1（TIO1 割り込み要求ステータスビット）			
3	TIOIS0（TIO0 割り込み要求ステータスビット）			
4	TIOIM3（TIO3 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
5	TIOIM2（TIO2 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
6	TIOIM1（TIO1 割り込み要求マスクビット）			
7	TIOIM0（TIO0 割り込み要求マスクビット）			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

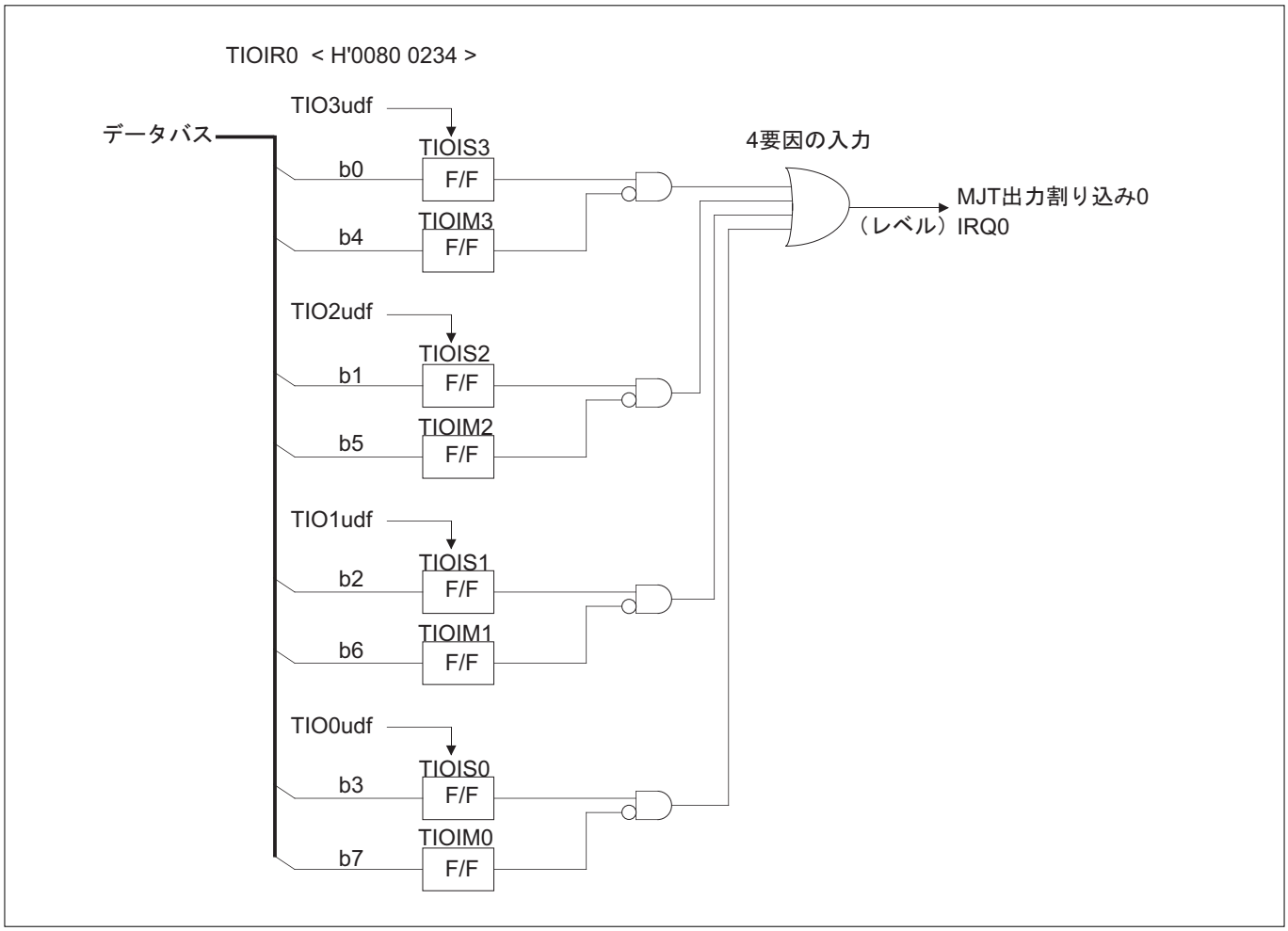


図10.2.8　MJT出力割り込み0ブロック図

TIO割り込み制御レジスタ1（TIOIR1）　　＜アドレス：H'0080 0235＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TIOIS7 0	TIOIS6 0	TIOIS5 0	TIOIS4 0	TIOIM7 0	TIOIM6 0	TIOIM5 0	TIOIM4 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	TIOIS7（TIO7 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
9	TIOIS6（TIO6 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
10	TIOIS5（TIO5 割り込み要求ステータスビット）			
11	TIOIS4（TIO4 割り込み要求ステータスビット）			
12	TIOIM7（TIO7 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
13	TIOIM6（TIO6 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
14	TIOIM5（TIO5 割り込み要求マスクビット）			
15	TIOIM4（TIO4 割り込み要求マスクビット）			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

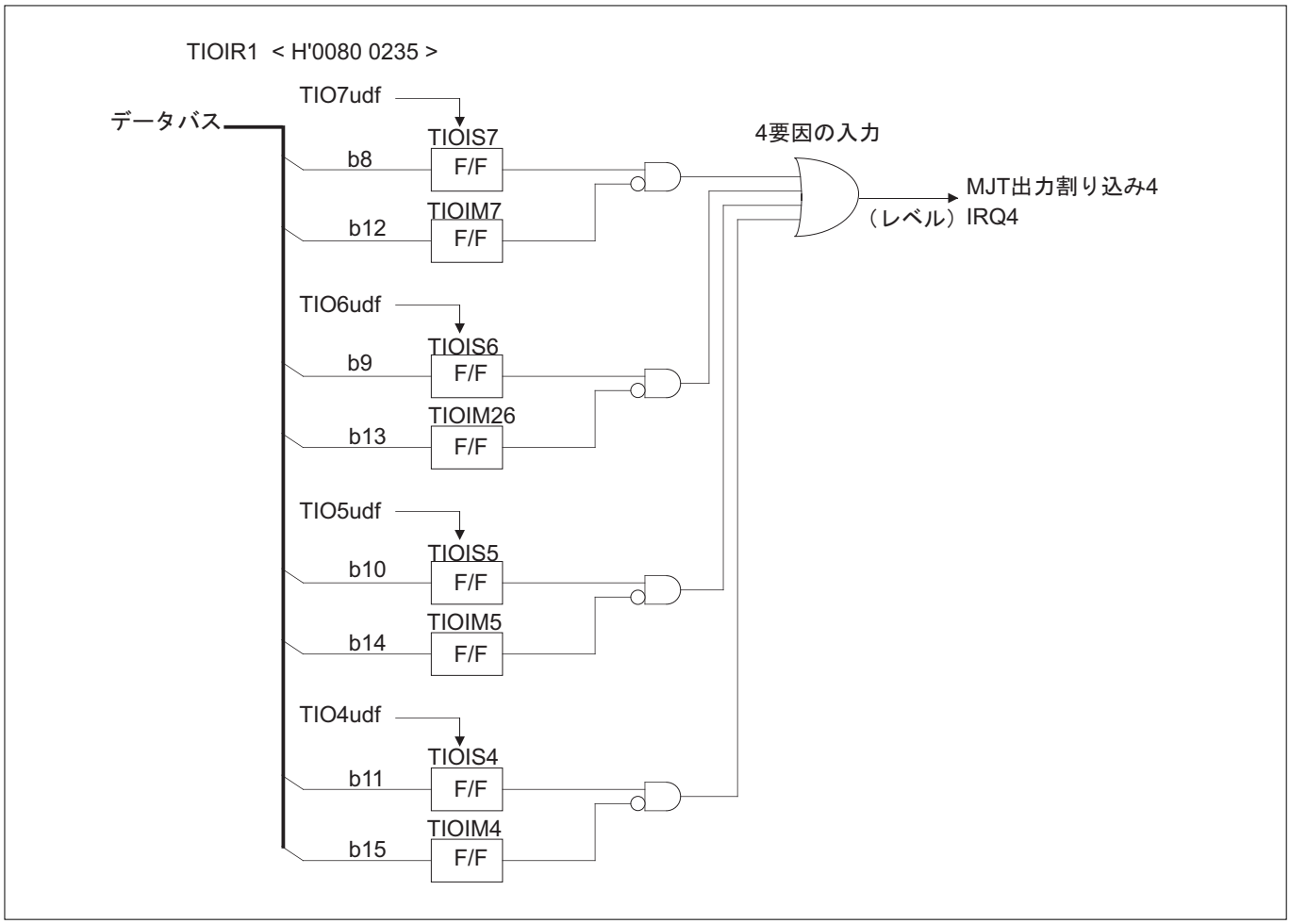


図10.2.9　MJT出力割り込み4ブロック図

TIO割り込み制御レジスタ2（TIOIR2）　　＜アドレス：H'0080 0236＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
		TIOIS9	TIOIS8			TIOIM9	TIOIM8
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2	TIOIS9（TIO9 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
3	TIOIS8（TIO8 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
4, 5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6	TIOIM9（TIO9 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
7	TIOIM8（TIO8 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

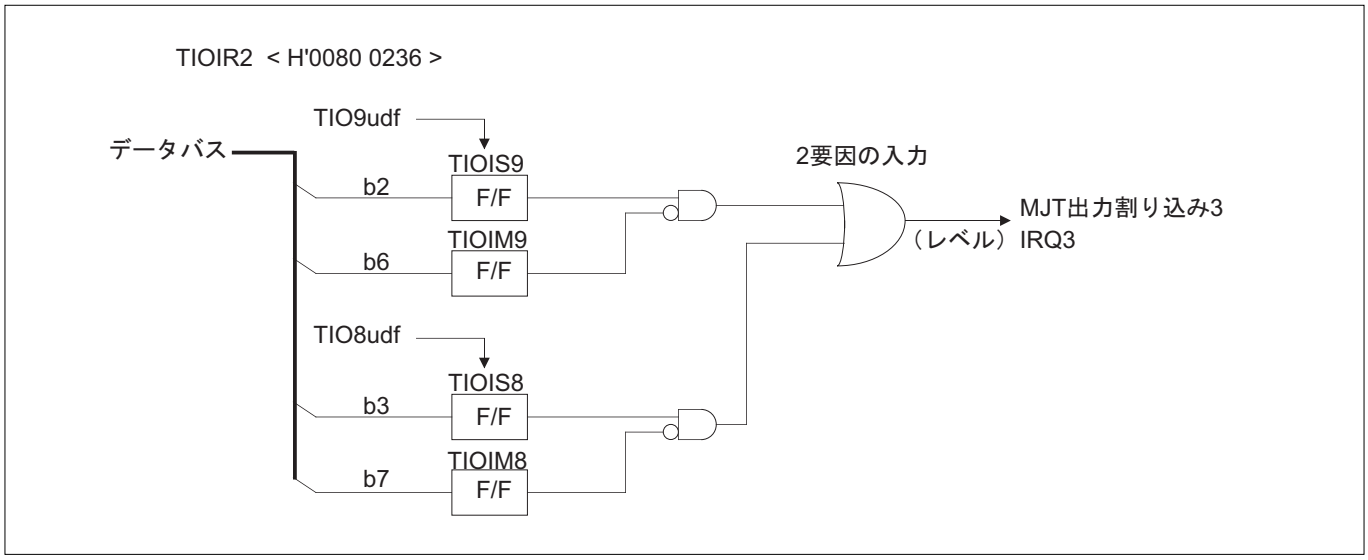


図10.2.10　MJT出力割り込み3ブロック図

TMS割り込み制御レジスタ（TMSIR）　　＜アドレス：H'0080 0237＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	TMSIS1 0	TMSIS0 0	0	0	TMSIM1 0	TMSIM0 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8, 9	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
10	TMSIS1（TMS1 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
11	TMSIS0（TMS0 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
12, 13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14	TMSIM1（TMS1 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
15	TMSIM0（TMS0 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

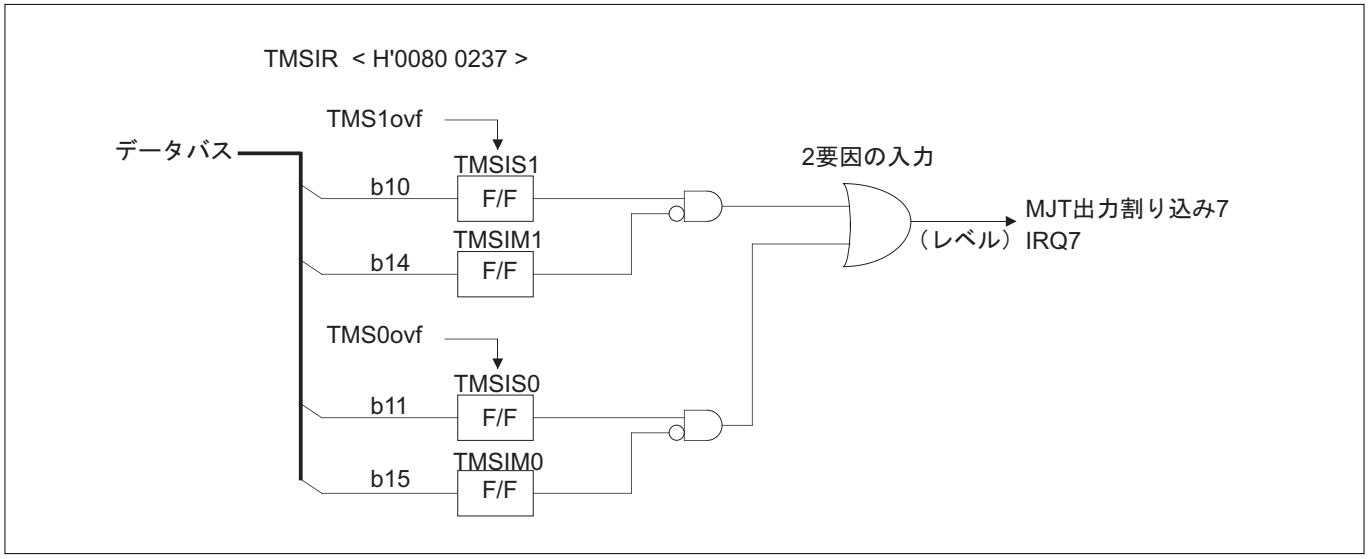


図10.2.11　MJT出力割り込み7ブロック図

TIN割り込み制御レジスタ0（TINIR0）　　＜アドレス：H'0080 0238＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
			TINIS0		TINIM2	TINIM1	TINIM0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3	TINIS0 TIN0 割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	
4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5	TINIM2 予約ビット	"0"に固定してください。	0	0
6	TINIM1 予約ビット			
7	TINIM0 TIN0 割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求許可 1：割り込み要求マスク（禁止）	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

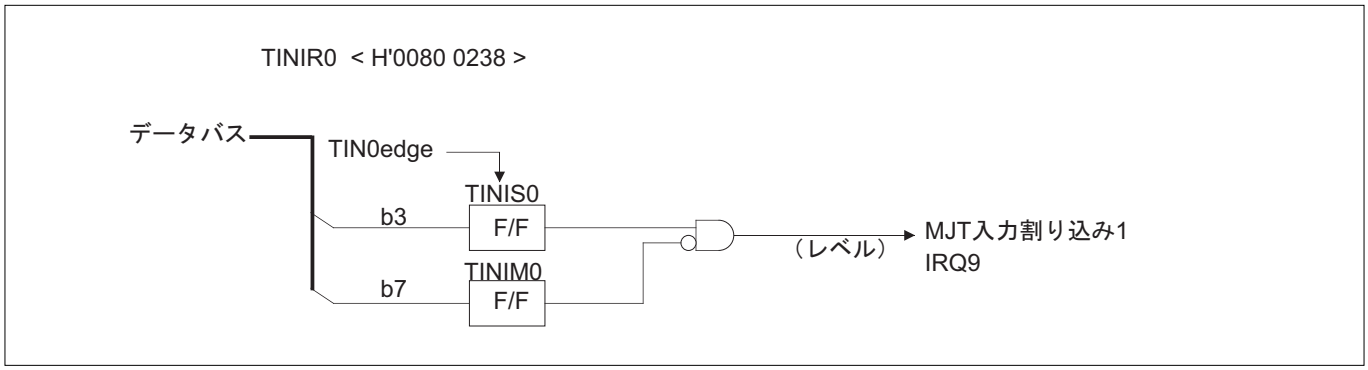


図10.2.12　MJT入力割り込み1ブロック図

TIN割り込み制御レジスタ1（TINIR1）　　＜アドレス：H'0080 0239＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	TINIS3 0	TINIM6 0	TINIM5 0	TINIM4 0	TINIM3 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	TINIS3 TIN3 割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	
12	TINIM6 予約ビット	"0"に固定してください。	0	0
13	TINIM5 予約ビット			
14	TINIM4 予約ビット			
15	TINIM3 TIN3 割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求許可 1：割り込み要求マスク（禁止）	R	W

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

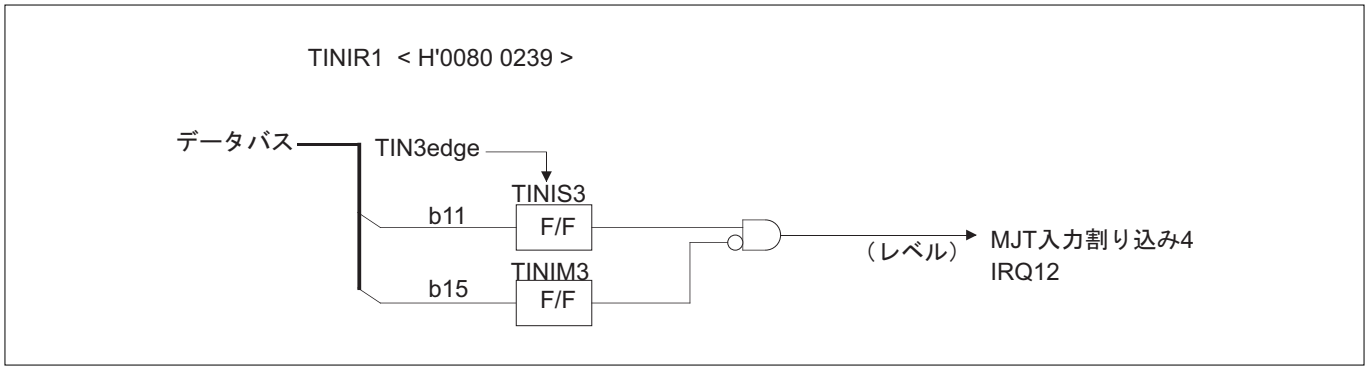


図10.2.13　MJT入力割り込み4ブロック図

TIN割り込み制御レジスタ4（TINIR4） ＜アドレス：H'0080 023C＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
TINIS19 0	TINIS18 0	TINIS17 0	TINIS16 0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	TINIS19（TIN19 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
1	TINIS18（TIN18 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
2	TINIS17（TIN17 割り込み要求ステータスビット）			
3	TINIS16（TIN16 割り込み要求ステータスビット）			
4～7	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

TIN割り込み制御レジスタ5（TINIR5） ＜アドレス：H'0080 023D＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TINIM19 0	TINIM18 0	TINIM17 0	TINIM16 0	TINIM15 0	TINIM14 0	TINIM13 0	TINIM12 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	TINIM19（TIN19 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
9	TINIM18（TIN18 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
10	TINIM17（TIN17 割り込み要求マスクビット）			
11	TINIM16（TIN16 割り込み要求マスクビット）			
12	TINIM15（予約ビット）	"0"に固定してください。	0	0
13	TINIM14（予約ビット）			
14	TINIM13（予約ビット）			
15	TINIM12（予約ビット）			

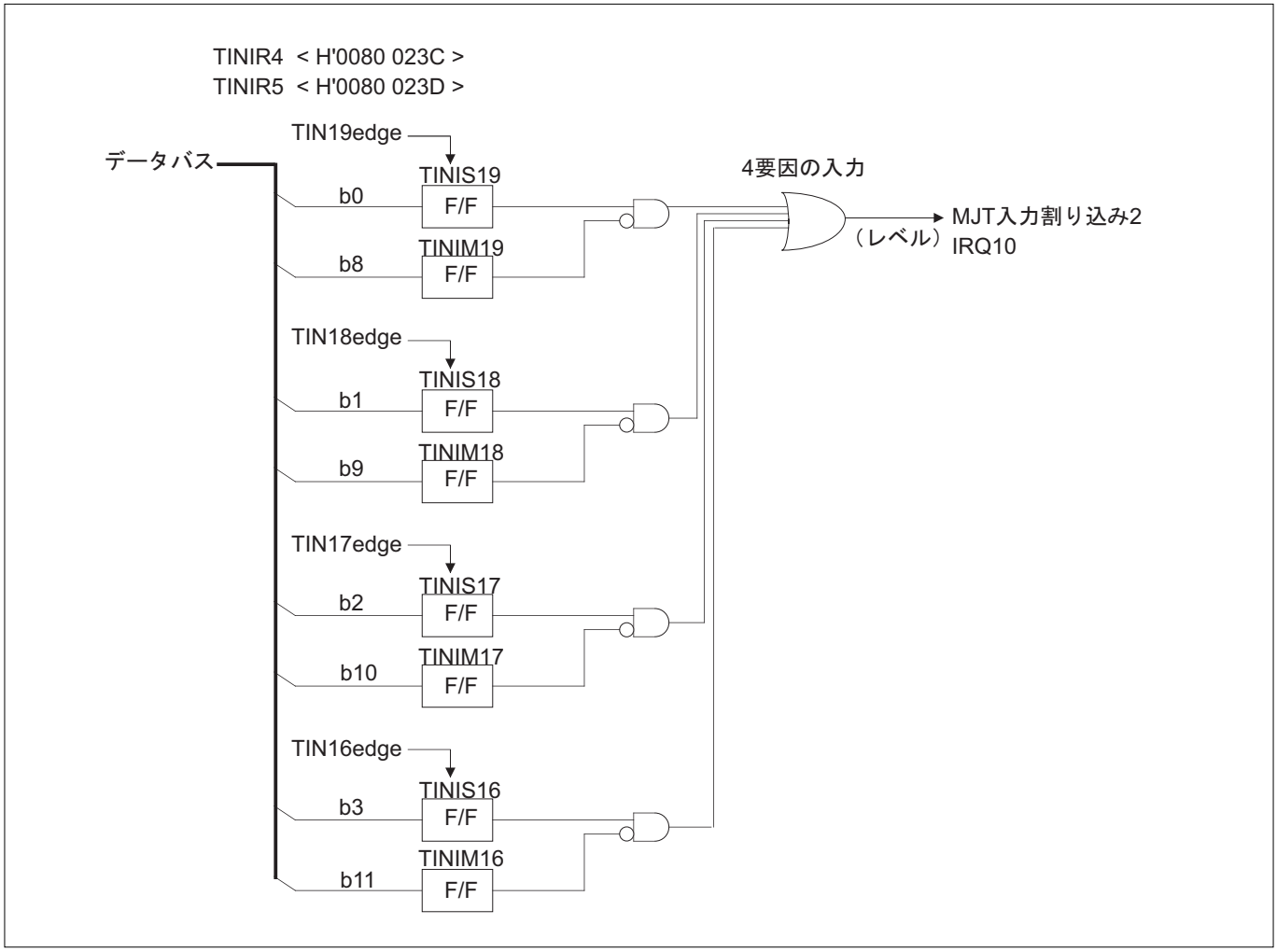


図10.2.14　MJT**入力割り込み**2**ブロック図**

TIN割り込み制御レジスタ6（TINIR6）　　＜アドレス：H'0080 023E＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
TINIS23 0	TINIS22 0	TINIS21 0	TINIS20 0	TINIM23 0	TINIM22 0	TINIM21 0	TINIM20 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	TINIS23（TIN23 割り込み要求ステータスビット）	0：割り込み要求なし	R（注1）	
1	TINIS22（TIN22 割り込み要求ステータスビット）	1：割り込み要求あり		
2	TINIS21（TIN21 割り込み要求ステータスビット）			
3	TINIS20（TIN20 割り込み要求ステータスビット）			
4	TINIM23（TIN23 割り込み要求マスクビット）	0：割り込み要求許可	R	W
5	TINIM22（TIN22 割り込み要求マスクビット）	1：割り込み要求マスク（禁止）		
6	TINIM21（TIN21 割り込み要求マスクビット）			
7	TINIM20（TIN20 割り込み要求マスクビット）			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

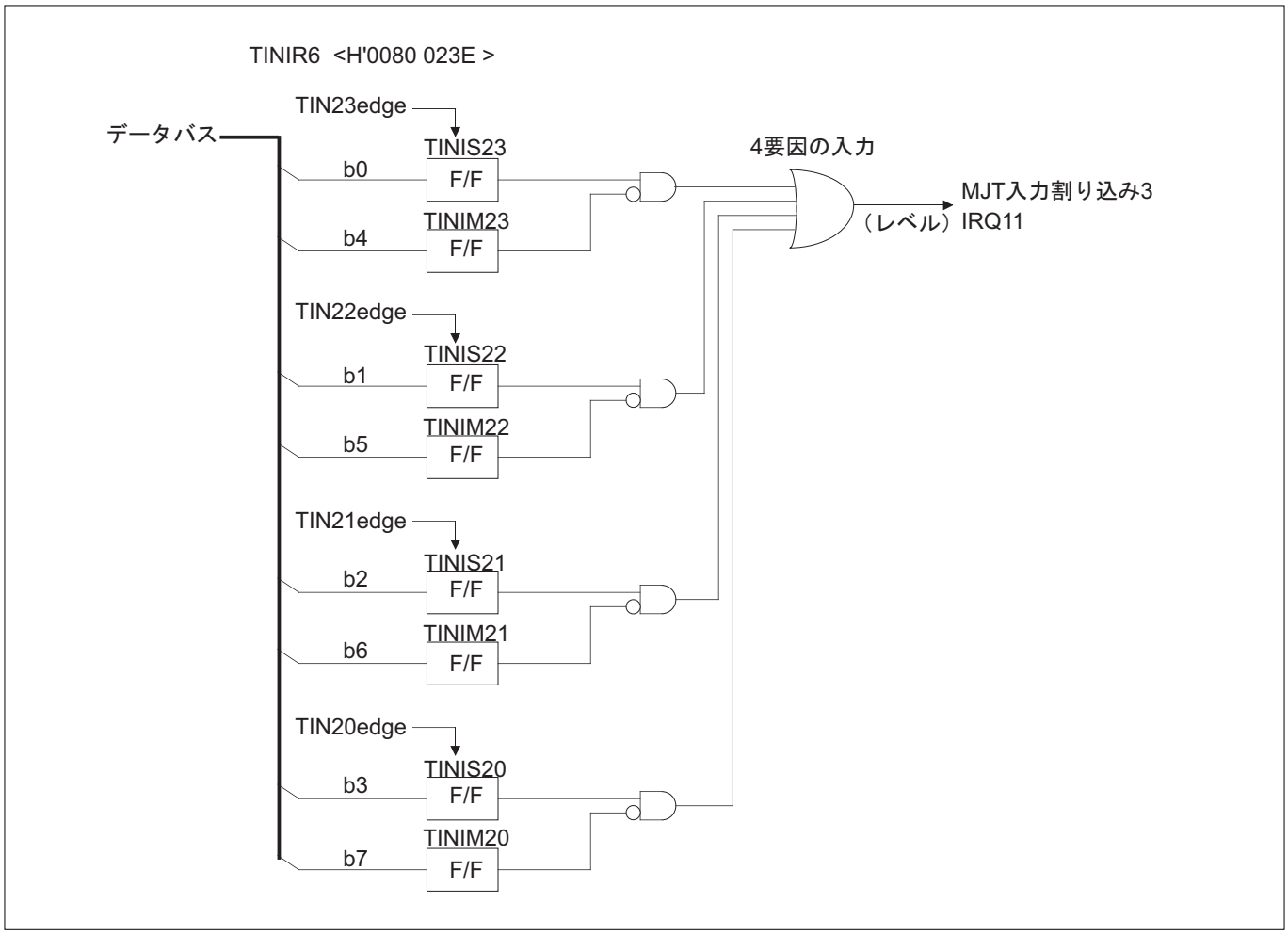


図10.2.15　MJT入力割り込み3ブロック図

10.3　TOP（出力系16ビットタイマ）

10.3.1　TOP概要

TOP（Timer OutPut）は出力系16ビットタイマで、ソフトウェアによるモード切り換えにより以下のモードを選択できます。

- ワンショット出力モード
- ディレイドワンショット出力モード
- 連続出力モード

以下にTOPの仕様を表10.3.1に示します。またTOPブロック図を図10.3.1に示します。

表10.3.1　TOP（出力系16ビットタイマ）の仕様

項目	仕様
チャネル数	11チャネル
カウンタ	16ビットダウンカウンタ
リロードレジスタ	16ビットリロードレジスタ
補正レジスタ	16ビット補正レジスタ
タイマの起動	イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル （立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジ）
モード切り換え	＜補正機能あり＞ ・ワンショット出力モード ・ディレイドワンショット出力モード ＜補正機能なし＞ ・連続出力モード
割り込み要求発生	カウンタのアンダフローで発生可能

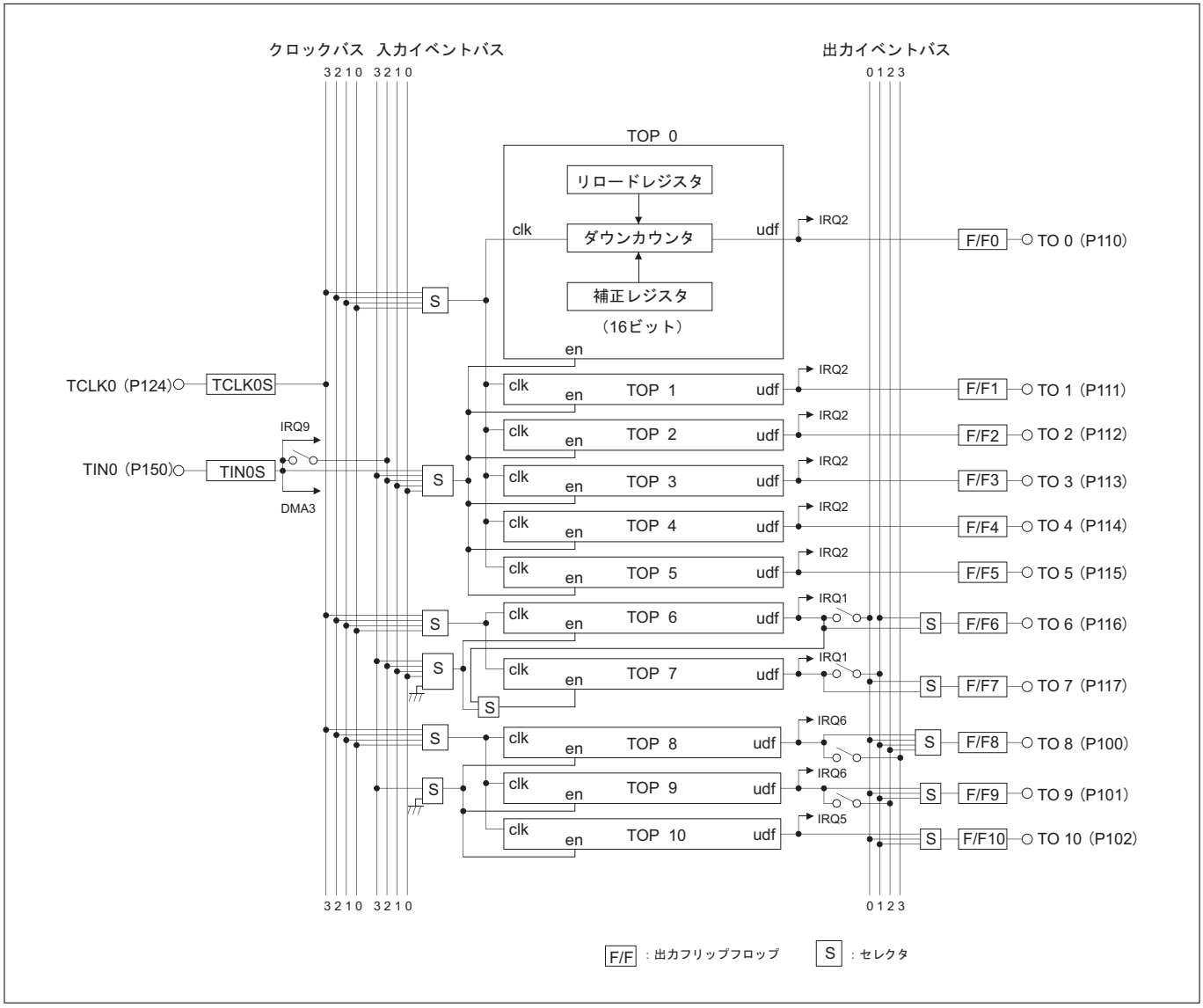


図10.3.1　TOP**（出力系**16**ビットタイマ）ブロック図**

10.3.2　TOP各モードの概要

以下にTOPの各モードの概要を示します。なお、TOP各チャネルのモードは、この中から1つだけを選択できます。

(1) ワンショット出力モード

ワンショット出力モードは、リロードレジスタの設定値＋1の幅のパルスを1回だけ発生して止まるモードです。

リロードレジスタ設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロードレジスター1"の内容をカウンタにロードし、カウントを開始します。カウンタはダウンカウントを行い、アンダフローで停止します。

ワンショット出力モードのF/F出力波形は、イネーブル時とアンダフロー発生時に反転し、リロードレジスタ設定値＋1の幅を持ったワンショットパルス波形が1回だけ発生します。
また、カウンタアンダフロー時には、割り込み要求を発生することができます。カウント値はリロードレジスタの設定値＋1です。

(2) ディレイドワンショット出力モード

ディレイドワンショット出力モードは、リロードレジスタの設定値＋1の幅のパルスを、カウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生して止まるモードです。

カウンタとリロードレジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタの設定値からダウンカウントを開始します。
また、1回目のカウンタアンダフローの次のサイクルで、"リロードレジスター1"の値をカウンタにロードし、さらにダウンカウントを続けて2回目のアンダフローでカウンタを停止します。

ディレイドワンショット出力モードのF/F出力波形は、1回目と2回目のアンダフローの発生時に反転し、リロードレジスタ設定値＋1の幅を持ったワンショットパルス波形を、最初のカウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生します。
また、1回目と2回目のカウンタアンダフロー時に、それぞれ割り込み要求を発生することができます。
カウンタの設定値+1、リロードレジスタの設定値+1がカウント値として有効です。

(3) 連続出力モード

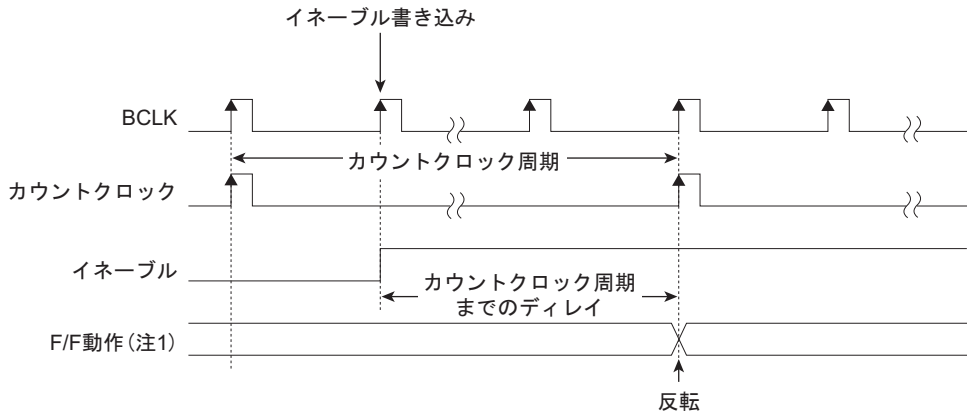
連続出力モードは、カウンタの設定値からダウンカウントを行い、カウンタのアンダフローの次のサイクルで"リロードレジスター1"の値をロードします。以後カウンタのアンダフローごとにこの動作を繰り返し、リロードレジスタ設定値＋1の幅で反転する連続的なパルスを発生します。

カウンタとリロードレジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタ設定値からダウンカウントを開始し、アンダフローを発生します。
このアンダフローの次のサイクルで"リロードレジスター1"の内容をカウンタにロードし、再度カウントを行います。以後アンダフロー発生ごとにこの動作を繰り返します。カウンタを停止する場合は、イネーブルビットへのソフトウェア書き込みでカウントを禁止します。

連続出力モードのF/F出力波形は、起動時とアンダフロー発生時に反転し、カウント停止まで連続的なパルス波形を出力します。
また、カウンタアンダフローごとに、割り込み要求を発生することができます。
カウンタの設定値＋1、リロードレジスタの設定値＋1がカウント値として有効です。

＜カウントクロック分のディレイ＞

- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブル書き込みからタイマ動作開始までに最大で1カウントクロック分のディレイが発生します。イネーブル時にF/F出力が反転する動作モードの場合は、F/F出力もカウントクロックに同期して反転します。



注1.　イネーブル時にF/F出力が反転する動作モード選択時

図10.3.2　**カウントクロック分のディレイ**

10.3.3　TOP関連レジスタマップ

以下にTOP関連のレジスタマップを示します。

TOP関連レジスタマップ（1/2）

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0240	TOP0カウンタ（TOP0CT）		10-53
H'0080 0242	TOP0リロードレジスタ（TOP0RL）		10-54
H'0080 0244	（使用禁止領域）		
H'0080 0246	TOP0補正レジスタ（TOP0CC）		10-55
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0250	TOP1カウンタ（TOP1CT）		10-53
H'0080 0252	TOP1リロードレジスタ（TOP1RL）		10-54
H'0080 0254	（使用禁止領域）		
H'0080 0256	TOP1補正レジスタ（TOP1CC）		10-55
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0260	TOP2カウンタ（TOP2CT）		10-53
H'0080 0262	TOP2リロードレジスタ（TOP2RL）		10-54
H'0080 0264	（使用禁止領域）		
H'0080 0266	TOP2補正レジスタ（TOP2CC）		10-55
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0270	TOP3カウンタ（TOP3CT）		10-53
H'0080 0272	TOP3リロードレジスタ（TOP3RL）		10-54
H'0080 0274	（使用禁止領域）		
H'0080 0276	TOP3補正レジスタ（TOP3CC）		10-55
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0280	TOP4カウンタ（TOP4CT）		10-53
H'0080 0282	TOP4リロードレジスタ（TOP4RL）		10-54
H'0080 0284	（使用禁止領域）		
H'0080 0286	TOP4補正レジスタ（TOP4CC）		10-55
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0290	TOP5カウンタ（TOP5CT）		10-53
H'0080 0292	TOP5リロードレジスタ（TOP5RL）		10-54
H'0080 0294	（使用禁止領域）		
H'0080 0296	TOP5補正レジスタ（TOP5CC）		10-55
H'0080 0298	（使用禁止領域）		

TOP関連レジスタマップ（2/2）

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 029A	TOP0-5制御レジスタ0（TOP05CR0）		10-49
H'0080 029C	（使用禁止領域）	TOP0-5制御レジスタ1（TOP05CR1）	10-49
H'0080 029E	（使用禁止領域）		
H'0080 02A0	TOP6カウンタ（TOP6CT）		10-53
H'0080 02A2	TOP6リロードレジスタ（TOP6RL）		10-54
H'0080 02A4	（使用禁止領域）		
H'0080 02A6	TOP6補正レジスタ（TOP6CC）		10-55
H'0080 02A8	（使用禁止領域）		
H'0080 02AA	TOP6, 7制御レジスタ（TOP67CR）		10-51
～	（使用禁止領域）		
H'0080 02B0	TOP7カウンタ（TOP7CT）		10-53
H'0080 02B2	TOP7リロードレジスタ（TOP7RL）		10-54
H'0080 02B4	（使用禁止領域）		
H'0080 02B6	TOP7補正レジスタ（TOP7CC）		10-55
～	（使用禁止領域）		
H'0080 02C0	TOP8カウンタ（TOP8CT）		10-53
H'0080 02C2	TOP8リロードレジスタ（TOP8RL）		10-54
H'0080 02C4	（使用禁止領域）		
H'0080 02C6	TOP8補正レジスタ（TOP8CC）		10-55
～	（使用禁止領域）		
H'0080 02D0	TOP9カウンタ（TOP9CT）		10-53
H'0080 02D2	TOP9リロードレジスタ（TOP9RL）		10-54
H'0080 02D4	（使用禁止領域）		
H'0080 02D6	TOP9補正レジスタ（TOP9CC）		10-55
～	（使用禁止領域）		
H'0080 02E0	TOP10カウンタ（TOP10CT）		10-53
H'0080 02E2	TOP10リロードレジスタ（TOP10RL）		10-54
H'0080 02E4	（使用禁止領域）		
H'0080 02E6	TOP10補正レジスタ（TOP10CC）		10-55
H'0080 02E8	（使用禁止領域）		
H'0080 02EA	TOP8-10制御レジスタ（TOP810CR）		10-52
～	（使用禁止領域）		
H'0080 02FA	TOP0-10外部イネーブル許可レジスタ（TOPEEN）		10-56
H'0080 02FC	TOP0-10イネーブルプロテクトレジスタ（TOPPRO）		10-56
H'0080 02FE	TOP0-10カウントイネーブルレジスタ（TOPCEN）		10-57

10.3.4　TOP制御レジスタ

TOP制御レジスタは、TOP0～10の動作モード（ワンショット出力、ディレイドワンショット出力、連続出力モード）の選択、カウントイネーブルの入力選択、およびカウントクロックの入力選択を行います。

TOP制御レジスタには、タイマのグループごとに以下のレジスタがあります。

- TOP0-5制御レジスタ0（TOP05CR0）
- TOP0-5制御レジスタ1（TOP05CR1）
- TOP6, 7制御レジスタ（TOP67CR）
- TOP8-10制御レジスタ（TOP810CR）

TOP0-5制御レジスタ0（TOP05CR0）　　＜アドレス：H'0080 029A＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TOP3M		TOP2M		TOP1M		TOP0M			TOP05ENS					TOP05CKS	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	TOP3M（TOP3動作モード選択ビット）	00：ワンショット出力モード	R	W
2, 3	TOP2M（TOP2動作モード選択ビット）	01：ディレイドワンショット出力モード		
4, 5	TOP1M（TOP1動作モード選択ビット）	10：連続出力モード		
6, 7	TOP0M（TOP0動作モード選択ビット）	11：連続出力モード		
8	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
9〜11	TOP05ENS TOP0-5イネーブルソース選択ビット	000：外部TIN0 入力選択 001：外部TIN0 入力選択 010：外部TIN0 入力選択 011：外部TIN0 入力選択 100：入力イベントバス0選択 101：入力イベントバス1選択 110：入力イベントバス2選択 111：入力イベントバス3選択	R	W
12, 13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14, 15	TOP05CKS TOP0-5クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。
　　・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。

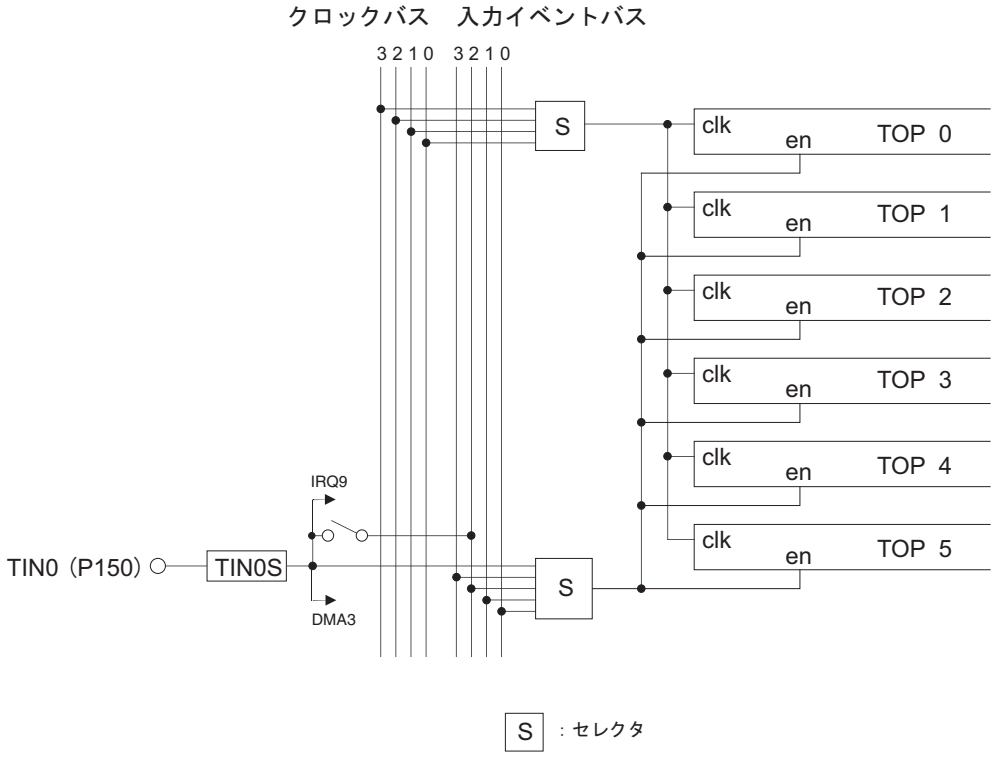
TOP0-5制御レジスタ1（TOP05CR1）　　＜アドレス：H'0080 029D＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
				TOP5M		TOP4M	
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8〜11	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
12, 13	TOP5M（TOP5動作モード選択ビット）	00：ワンショット出力モード	R	W
14, 15	TOP4M（TOP4動作モード選択ビット）	01：ディレイドワンショット出力モード 10：連続出力モード 11：連続出力モード		

注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。



注.　・TOP制御レジスタ説明図のため一部省略しています。

図10.3.3　TOP0～5**のクロック/イネーブル入力概略図**

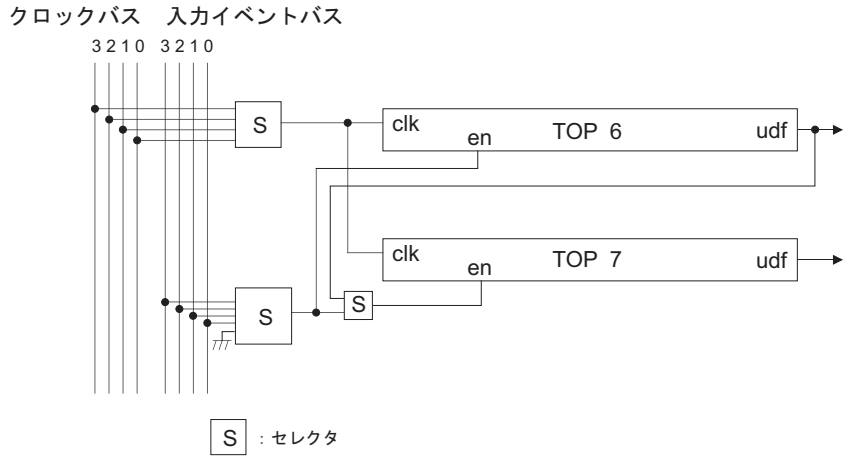
TOP6, 7制御レジスタ（TOP67CR）　　＜アドレス：H'0080 02AA＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
	TOP7 ENS	TOP7M				TOP6M			TOP67ENS					TOP67CKS	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
1	TOP7ENS TOP7イネーブルソース選択ビット	0：「TOP67ENS」ビットの選択結果 1：TOP6出力	R	W
2, 3	TOP7M TOP7動作モード選択ビット	00：ワンショット出力モード 01：ディレイドワンショット出力モード 10：連続出力モード 11：連続出力モード	R	W
4, 5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6, 7	TOP6M TOP6動作モード選択ビット	00：ワンショット出力モード 01：ディレイドワンショット出力モード 10：連続出力モード 11：連続出力モード	R	W
8	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
9〜11	TOP67ENS TOP6, TOP7イネーブルソース選択ビット （注1）	000：イネーブルソースを選択しません 001：イネーブルソースを選択しません 010：イネーブルソースを選択しません 011：イネーブルソースを選択しません 100：入力イベントバス0選択 101：入力イベントバス1選択 110：入力イベントバス2選択 111：入力イベントバス3選択	R	W
12, 13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14, 15	TOP67CKS TOP6, TOP7クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W

注1．このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。
注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。



注．・TOP制御レジスタ説明図のため、一部省略しています。

図10.3.4　TOP6、TOP7のクロック/イネーブル入力概略図

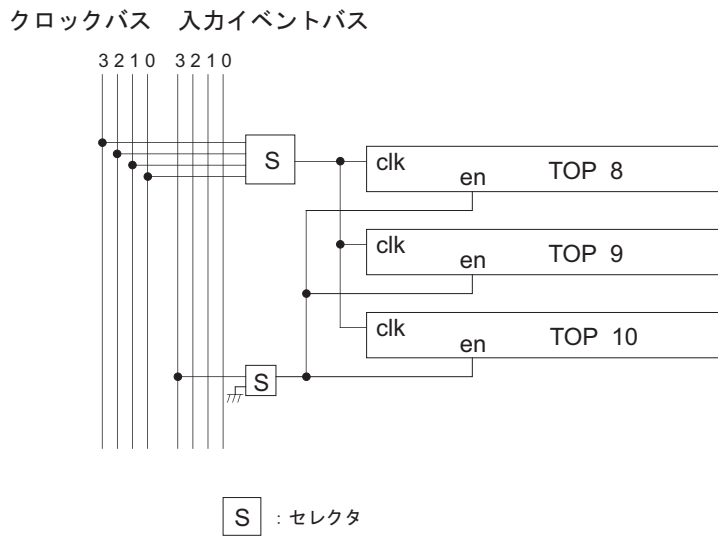
TOP8-10制御レジスタ（TOP810CR）　　＜アドレス：H'0080 02EA＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
		TOP10M		TOP9M		TOP8M					TOP810ENS			TOP810CKS	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2, 3	TOP10M TOP10動作モード選択ビット	00：ワンショット出力モード 01：ディレイドワンショット出力モード 10：連続出力モード 11：連続出力モード	R	W
4, 5	TOP9M TOP9動作モード選択ビット			
6, 7	TOP8M TOP8動作モード選択ビット			
8～10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	TOP810ENS TOP8-10イネーブルソース選択ビット	0：イネーブルソースを選択しません 1：入力イベントバス3選択	R	W
12, 13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14, 15	TOP810CKS TOP8-10クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。
・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。



注．・TOP制御レジスタ説明図のため、一部省略しています。

図10.3.5　TOP8～10のクロック/イネーブル入力概略図

10.3.5　TOPカウンタ（TOP0CT～TOP10CT）

TOP0カウンタ（TOP0CT）　＜アドレス：H'0080 0240＞
TOP1カウンタ（TOP1CT）　＜アドレス：H'0080 0250＞
TOP2カウンタ（TOP2CT）　＜アドレス：H'0080 0260＞
TOP3カウンタ（TOP3CT）　＜アドレス：H'0080 0270＞
TOP4カウンタ（TOP4CT）　＜アドレス：H'0080 0280＞
TOP5カウンタ（TOP5CT）　＜アドレス：H'0080 0290＞
TOP6カウンタ（TOP6CT）　＜アドレス：H'0080 02A0＞
TOP7カウンタ（TOP7CT）　＜アドレス：H'0080 02B0＞
TOP8カウンタ（TOP8CT）　＜アドレス：H'0080 02C0＞
TOP9カウンタ（TOP9CT）　＜アドレス：H'0080 02D0＞
TOP10カウンタ（TOP10CT）　＜アドレス：H'0080 02E0＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TOP0CT-TOP10CT															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TOP0CT～TOP10CT	16ビットカウンタ値	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TOPカウンタは16ビットのダウンカウンタで、タイマのイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）後、カウントクロックに同期してカウント動作を開始します。

10.3.6　TOPリロードレジスタ（TOP0RL～TOP10RL）

TOP0リロードレジスタ（TOP0RL）　＜アドレス：H'0080 0242＞
TOP1リロードレジスタ（TOP1RL）　＜アドレス：H'0080 0252＞
TOP2リロードレジスタ（TOP2RL）　＜アドレス：H'0080 0262＞
TOP3リロードレジスタ（TOP3RL）　＜アドレス：H'0080 0272＞
TOP4リロードレジスタ（TOP4RL）　＜アドレス：H'0080 0282＞
TOP5リロードレジスタ（TOP5RL）　＜アドレス：H'0080 0292＞
TOP6リロードレジスタ（TOP6RL）　＜アドレス：H'0080 02A2＞
TOP7リロードレジスタ（TOP7RL）　＜アドレス：H'0080 02B2＞
TOP8リロードレジスタ（TOP8RL）　＜アドレス：H'0080 02C2＞
TOP9リロードレジスタ（TOP9RL）　＜アドレス：H'0080 02D2＞
TOP10リロードレジスタ（TOP10RL）　＜アドレス：H'0080 02E2＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TOP0RL-TOP10RL															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TOP0RL～TOP10RL	16ビットリロードレジスタ値	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TOPリロードレジスタは、TOPカウンタ（TOP0CT～TOP10CT）へデータをロードするためのレジスタです。以下のタイミングに"リロードレジスター1"の内容が、カウントクロックに同期してカウンタにロードされます。

- **ワンショット出力モードでカウンタがイネーブルになった次のサイクル**
- **ディレイドワンショット出力または連続出力モードでカウンタがアンダフローした次のサイクル**

リロードレジスタにデータを書き込んだ時点では、カウンタにデータはロードされません。

なおアンダフロー後のデータリロードは、アンダフローを起こしたクロックに同期して行われます。

10.3.7　TOP補正レジスタ（TOP0CC～TOP10CC）

TOP0補正レジスタ（TOP0CC）	＜アドレス：H'0080 0246＞
TOP1補正レジスタ（TOP1CC）	＜アドレス：H'0080 0256＞
TOP2補正レジスタ（TOP2CC）	＜アドレス：H'0080 0266＞
TOP3補正レジスタ（TOP3CC）	＜アドレス：H'0080 0276＞
TOP4補正レジスタ（TOP4CC）	＜アドレス：H'0080 0286＞
TOP5補正レジスタ（TOP5CC）	＜アドレス：H'0080 0296＞
TOP6補正レジスタ（TOP6CC）	＜アドレス：H'0080 02A6＞
TOP7補正レジスタ（TOP7CC）	＜アドレス：H'0080 02B6＞
TOP8補正レジスタ（TOP8CC）	＜アドレス：H'0080 02C6＞
TOP9補正レジスタ（TOP9CC）	＜アドレス：H'0080 02D6＞
TOP10補正レジスタ（TOP10CC）	＜アドレス：H'0080 02E6＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TOP0CC-TOP10CC															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

（設定可能値　＋32767～－32768）

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TOP0CC～TOP10CC	16ビット補正レジスタ値	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TOP補正レジスタは、TOPカウンタの値を動作途中で補正（加減算）するために使用されます。カウンタの増減を行いたい場合は、カウンタの初めの設定からの増減値をこの補正レジスタに書き込みます。加算の場合は加算する値をそのまま補正レジスタに書き込み、減算の場合は減算する値の2の補数を補正レジスタに書き込みます。

カウンタの補正は、TOP補正レジスタに補正値を書き込んだ次のクロックに同期して行われます。補正の動作が行われた場合、そのクロックに同期したダウンカウントが同時にキャンセルされるため、実際には（補正レジスタの値＋1）の変更が行われることに注意してください。

たとえばカウンタ初期値が10で、カウンタが5まで来たところで3を補正レジスタに書き込んだ場合、全体としては15をカウントしたところでアンダフローします。

10.3.8　TOPイネーブル制御レジスタ

TOP0-10外部イネーブル許可レジスタ（TOPEEN）　　＜アドレス：H'0080 02FA＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	TOP10 EEN 0	TOP9 EEN 0	TOP8 EEN 0	TOP7 EEN 0	TOP6 EEN 0	TOP5 EEN 0	TOP4 EEN 0	TOP3 EEN 0	TOP2 EEN 0	TOP1 EEN 0	TOP0 EEN 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5	TOP10EEN（TOP10外部イネーブル許可ビット）	0：外部イネーブル禁止	R	W
6	TOP9EEN（TOP9外部イネーブル許可ビット）	1：外部イネーブル許可		
7	TOP8EEN（TOP8外部イネーブル許可ビット）			
8	TOP7EEN（TOP7外部イネーブル許可ビット）			
9	TOP6EEN（TOP6外部イネーブル許可ビット）			
10	TOP5EEN（TOP5外部イネーブル許可ビット）			
11	TOP4EEN（TOP4外部イネーブル許可ビット）			
12	TOP3EEN（TOP3外部イネーブル許可ビット）			
13	TOP2EEN（TOP2外部イネーブル許可ビット）			
14	TOP1EEN（TOP1外部イネーブル許可ビット）			
15	TOP0EEN（TOP0外部イネーブル許可ビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TOP0-10外部イネーブル許可レジスタは、TOPカウンタの外部からのイネーブル操作の許可/禁止を制御します。

TOP0-10イネーブルプロテクトレジスタ（TOPPRO）　　＜アドレス：H'0080 02FC＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	TOP10 PRO 0	TOP9 PRO 0	TOP8 PRO 0	TOP7 PRO 0	TOP6 PRO 0	TOP5 PRO 0	TOP4 PRO 0	TOP3 PRO 0	TOP2 PRO 0	TOP1 PRO 0	TOP0 PRO 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5	TOP10PRO（TOP10イネーブルプロテクトビット）	0：書き換え許可	R	W
6	TOP9PRO（TOP9イネーブルプロテクトビット）	1：書き換え禁止		
7	TOP8PRO（TOP8イネーブルプロテクトビット）			
8	TOP7PRO（TOP7イネーブルプロテクトビット）			
9	TOP6PRO（TOP6イネーブルプロテクトビット）			
10	TOP5PRO（TOP5イネーブルプロテクトビット）			
11	TOP4PRO（TOP4イネーブルプロテクトビット）			
12	TOP3PRO（TOP3イネーブルプロテクトビット）			
13	TOP2PRO（TOP2イネーブルプロテクトビット）			
14	TOP1PRO（TOP1イネーブルプロテクトビット）			
15	TOP0PRO（TOP0イネーブルプロテクトビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TOP0-10イネーブルプロテクトレジスタは、TOP0-10カウントイネーブルビットの書き換えの許可/禁止を制御するレジスタです。

TOP0-10カウントイネーブルレジスタ（TOPCEN）　　＜アドレス：H'0080 02FE＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	TOP10 CEN 0	TOP9 CEN 0	TOP8 CEN 0	TOP7 CEN 0	TOP6 CEN 0	TOP5 CEN 0	TOP4 CEN 0	TOP3 CEN 0	TOP2 CEN 0	TOP1 CEN 0	TOP0 CEN 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5	TOP10CEN（TOP10カウントイネーブルビット）	0：カウント停止	R	W
6	TOP9CEN（TOP9カウントイネーブルビット）	1：カウント許可		
7	TOP8CEN（TOP8カウントイネーブルビット）			
8	TOP7CEN（TOP7カウントイネーブルビット）			
9	TOP6CEN（TOP6カウントイネーブルビット）			
10	TOP5CEN（TOP5カウントイネーブルビット）			
11	TOP4CEN（TOP4カウントイネーブルビット）			
12	TOP3CEN（TOP3カウントイネーブルビット）			
13	TOP2CEN（TOP2カウントイネーブルビット）			
14	TOP1CEN（TOP1カウントイネーブルビット）			
15	TOP0CEN（TOP0カウントイネーブルビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TOP0-10カウントイネーブルレジスタは、TOPカウンタの動作を制御します。カウンタをソフトウェアでイネーブルにする場合は、該当するイネーブルプロテクトビットを書き込み許可にし、カウントイネーブルビットに"1"を書き込みます。

カウンタを停止する場合は、イネーブルプロテクトビットを書き込み許可にし、カウントイネーブルビットに"0"を書き込みます。

連続出力モード以外ではアンダフローの発生でカウンタが停止すると、カウントイネーブルビットは自動的に"0"に戻ります。したがってTOP0-10イネーブルレジスタをリードした場合は、カウンタの動作状態（動作中または停止）を示すステータスレジスタとなります。

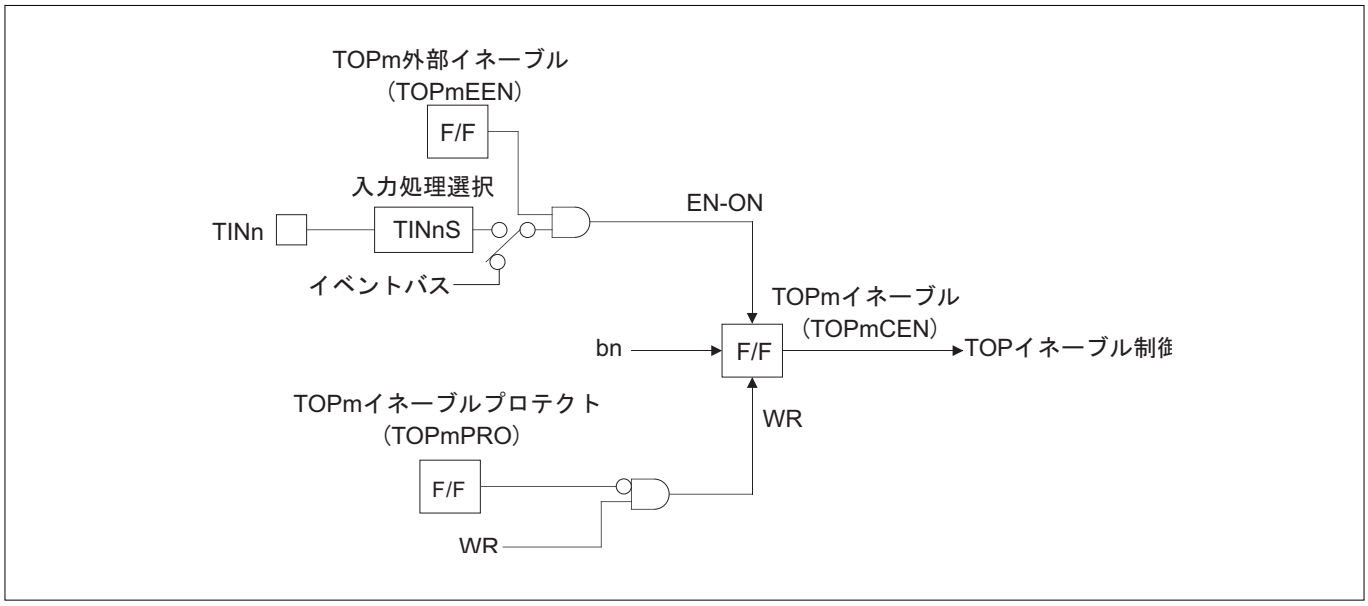


図10.3.6　TOPイネーブル回路構成図

10.3.9　TOPワンショット出力モード（補正機能あり）の動作

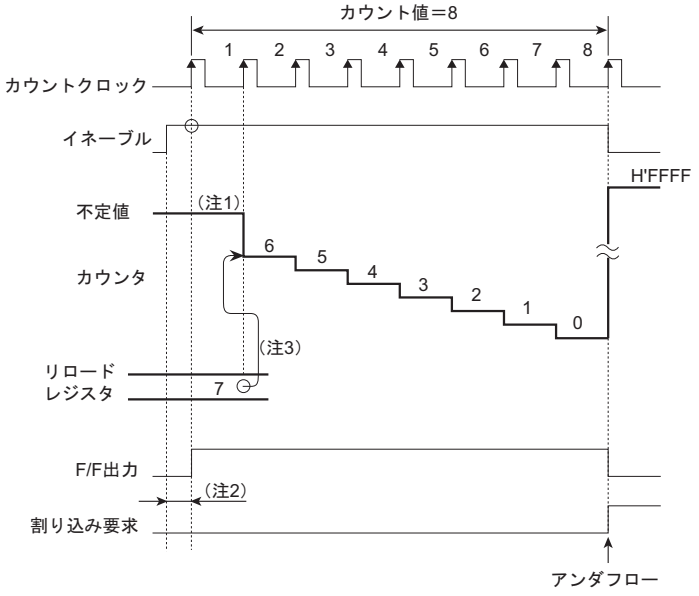
(1) TOPワンショット出力モード概要

ワンショット出力モードは、リロードレジスタの設定値＋1の幅のパルスを1回だけ発生して止まるモードです。

リロードレジスタ設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロードレジスター1"の内容をカウンタにロードし、カウントを開始します。カウンタはダウンカウントを行い、アンダフローで停止します。

ワンショット出力モードのF/F出力波形は、イネーブル時とアンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）し、リロードレジスタ設定値＋1の幅を持ったワンショットパルス波形が1回だけ発生します。
また、カウンタアンダフロー時には、割り込み要求を発生することができます。カウント値はリロードレジスタの設定値＋1です。

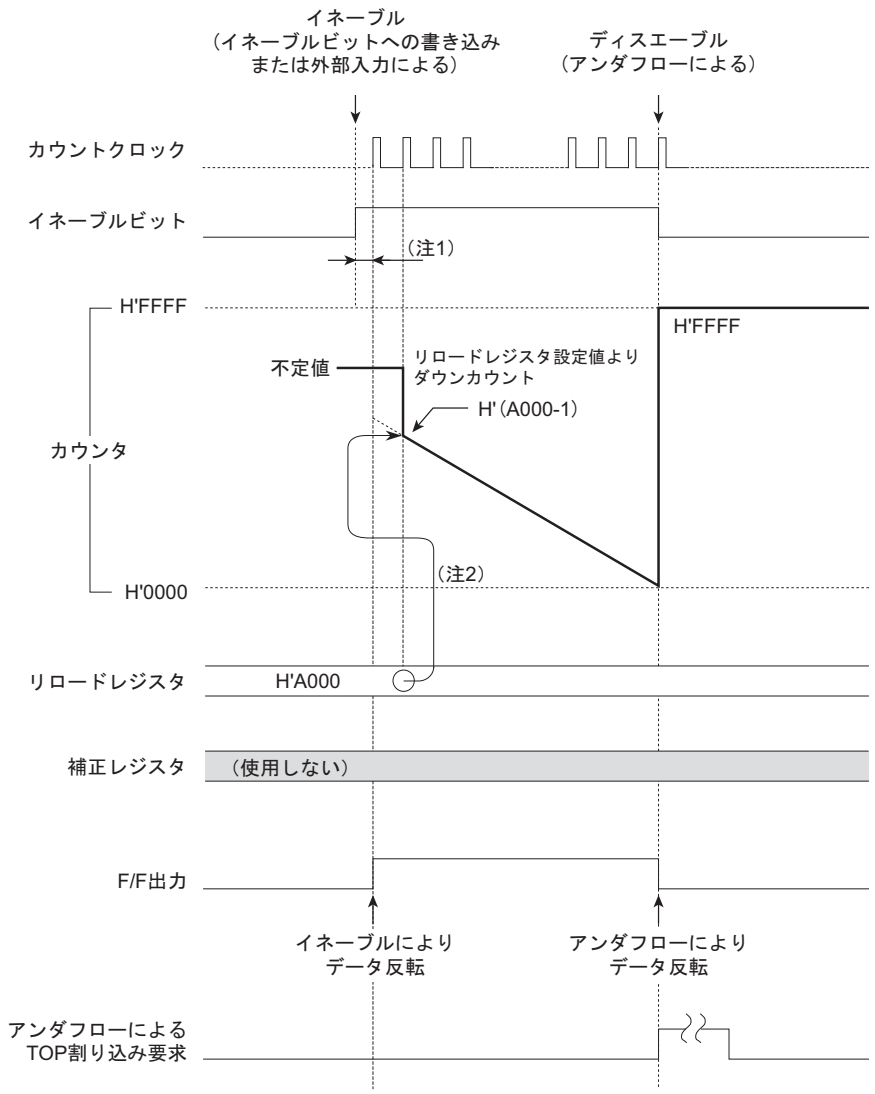
例えばリロードレジスタの初期値が7の場合、カウント値は8となります。



注1.　実際にはイネーブル時のサイクルでは7ではなく、カウンタの元の値が見えます。
注2.　イネーブル後F/F出力変化までにカウントクロック分のディレイを含みます。
注3.　"リロードレジスター1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.7　TOP**ワンショット出力モードのカウント例**

以下の例ではリロードレジスタの初期値にH'A000を設定しています（カウンタの初期値は不定でよい）。タイマが起動すると、"リロードレジスター1"の値がカウンタにロードされ、以後カウンタがアンダフローするまでダウンカウントします。



注1. イネーブル後F/F出力変化までにカウントクロック分のディレイを含みます。
注2. ″リロードレジスター１″の値がリロードされます。
注. ・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

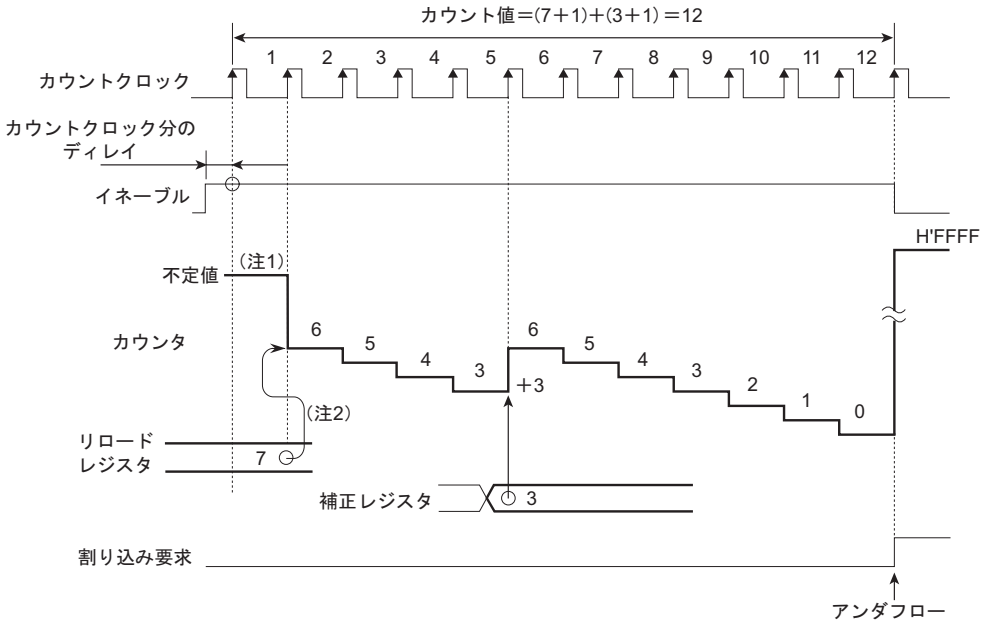
図10.3.8　TOP**ワンショット出力モード動作例**

(2) TOPワンショット出力モードの補正機能

動作中のカウンタ値を変更したい場合は、TOP補正レジスタにカウンタの初めの設定からの増減値を書き込みます。加算の場合は加算する値をそのまま補正レジスタに書き込み、減算の場合は減算する値の2の補数を補正レジスタに書き込みます。

カウンタの補正は、TOP補正レジスタに補正値を書き込んだ次のカウントクロックに同期して行われます。補正の動作が行われた場合、そのクロックに同期したダウンカウントが同時にキャンセルされるため、実際には(補正レジスタの値＋1)の変更が行われることに注意してください。

例えばカウンタ初期値が7で、カウンタが3まで来たところで補正レジスタに3を書き込んだ場合、全体としては12をカウントしたところでアンダフローします。

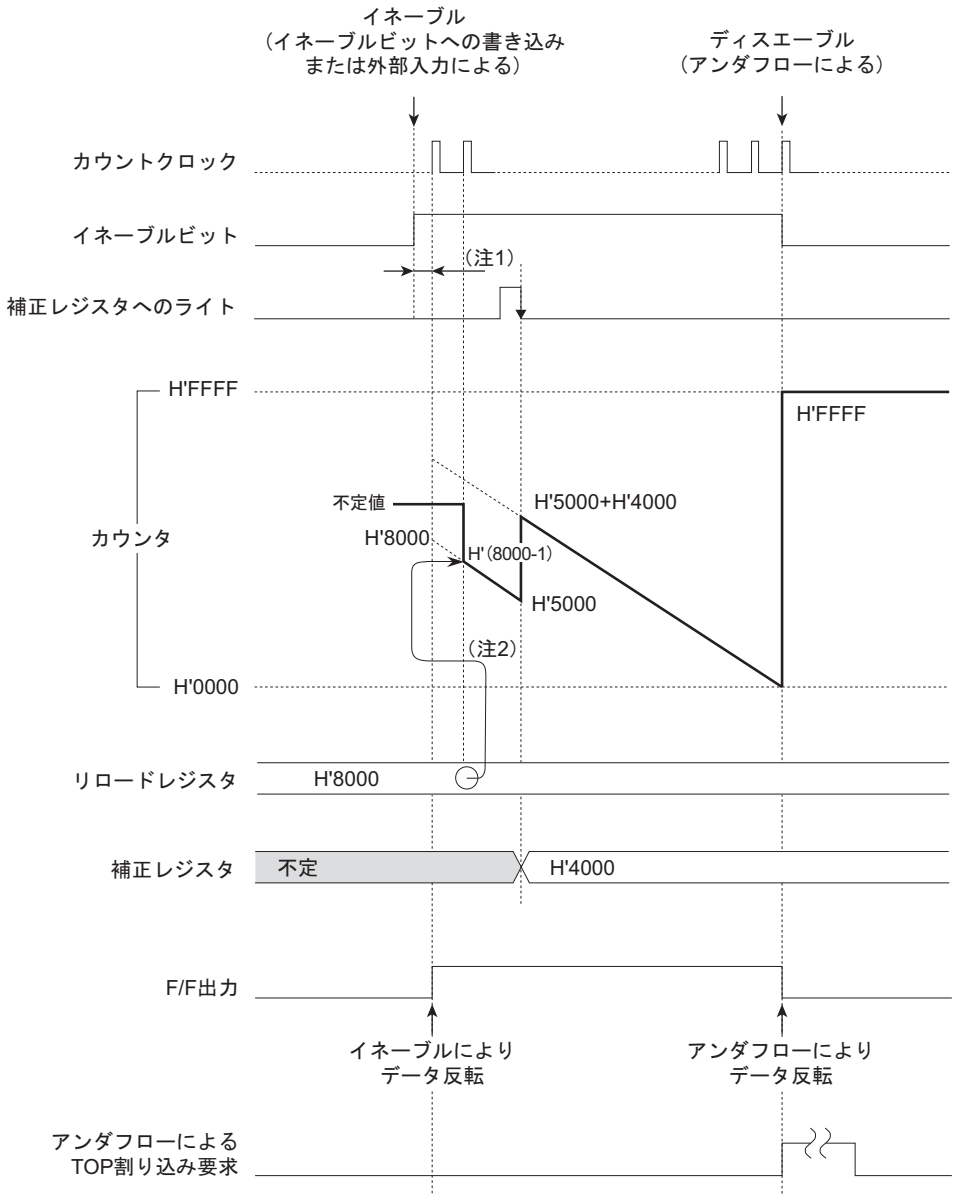


注1.　実際にはリロード値後のサイクルでは7ではなく、カウンタの元の値が見えます。
注2.　"リロードレジスター１"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.9　TOPワンショット出力モード補正時のカウント例

なお、補正レジスタの操作でカウンタがオーバフローしないようご注意ください。補正レジスタの操作により万一オーバフローしても、オーバフローしたことによる割り込み要求は発生しません。

以下の例では、リロードレジスタの初期値にH'8000を設定しています。タイマが起動すると、"リロードレジスター1"の値がカウンタにロードされ、ダウンカウントが始まります。図の例ではH'5000までカウントしたところで、補正レジスタにH'4000を書き込んでいます。この補正の結果、カウンタはH'9000になり、全体としては（H'8000＋1＋H'4000＋1）をカウントしたところで停止します。



注1.　イネーブル後F/F出力変化までにカウントクロック分のディレイを含みます。
注2.　"リロードレジスター1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.10　TOP**ワンショット出力モード補正時の動作例**

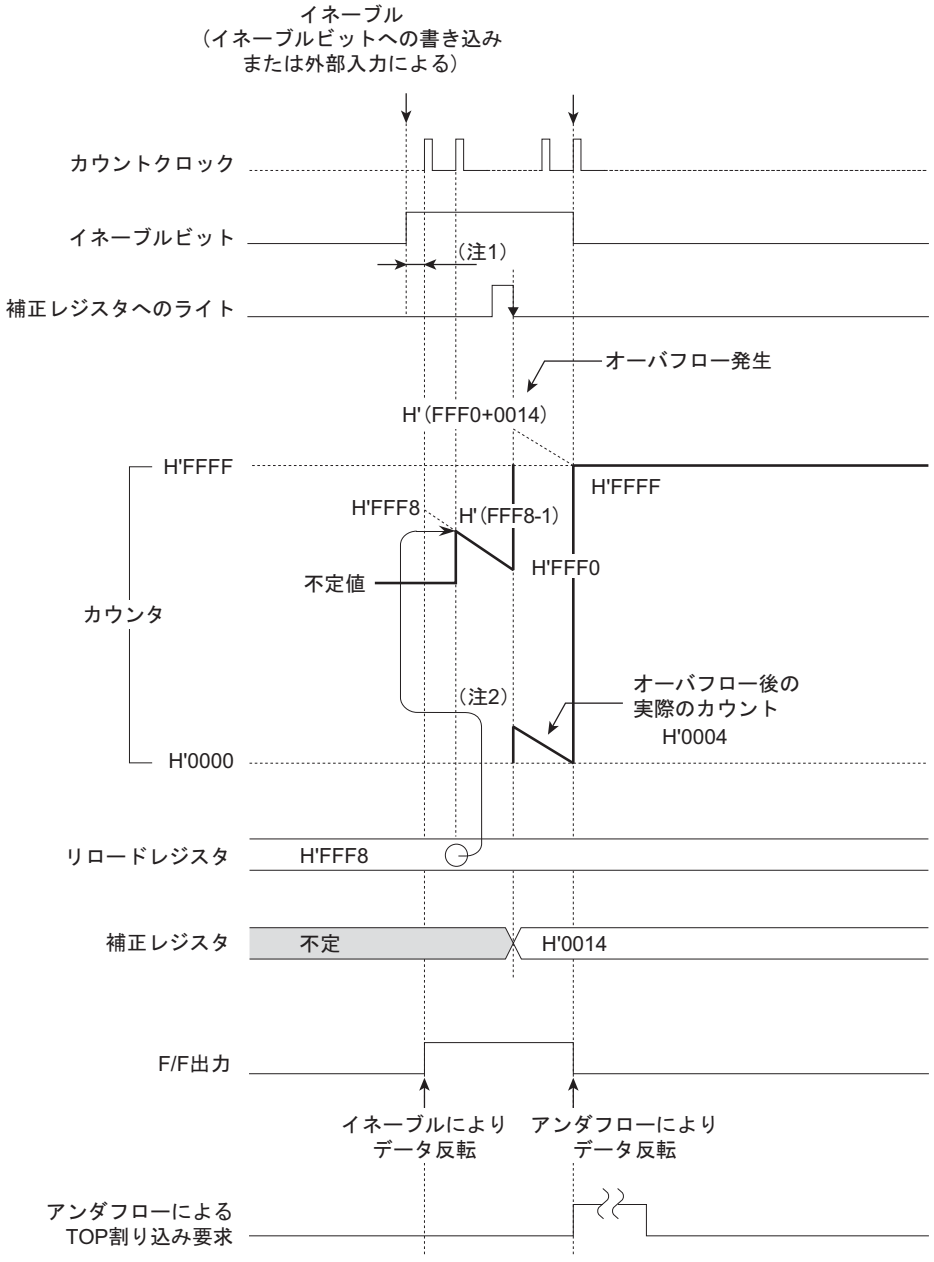
(3) TOPワンショット出力モード使用上の注意

TOPワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F動作開始までには、カウントクロック分のディレイを含みます。
- 補正レジスタの操作でカウンタがオーバフローしないようご注意ください。補正レジスタの操作により万一オバフローしても、オーバフローしたことによる割り込み要求は発生しません。オーバフロー後に継続したダウンカウントでアンダフローした場合は、オーバフローした値での誤ったアンダフロー割り込み要求が発生します。

以下の例では、リロードレジスタの初期値にH'FFF8を設定しています。タイマが起動すると、リロードレジスタの値がカウンタにロードされ、ダウンカウントが始まります。図の例ではH'FFF0までカウントしたところで、補正レジスタにH'0014を書き込んでいます。

この補正の結果、カウンタはオーバフローしてH'0004になり、正常なカウントが行われていません。また割り込み要求は、オーバフローした誤った値で発生しています。



注1. イネーブル後F/F出力変化までにカウントクロック分のディレイを含みます。
注2. ″リロードレジスター１″の値がリロードされます。
注. ・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.11　TOPワンショット出力モード補正実行でオーバフローした場合の例

10.3.10　TOPディレイドワンショット出力モード（補正機能あり）の動作

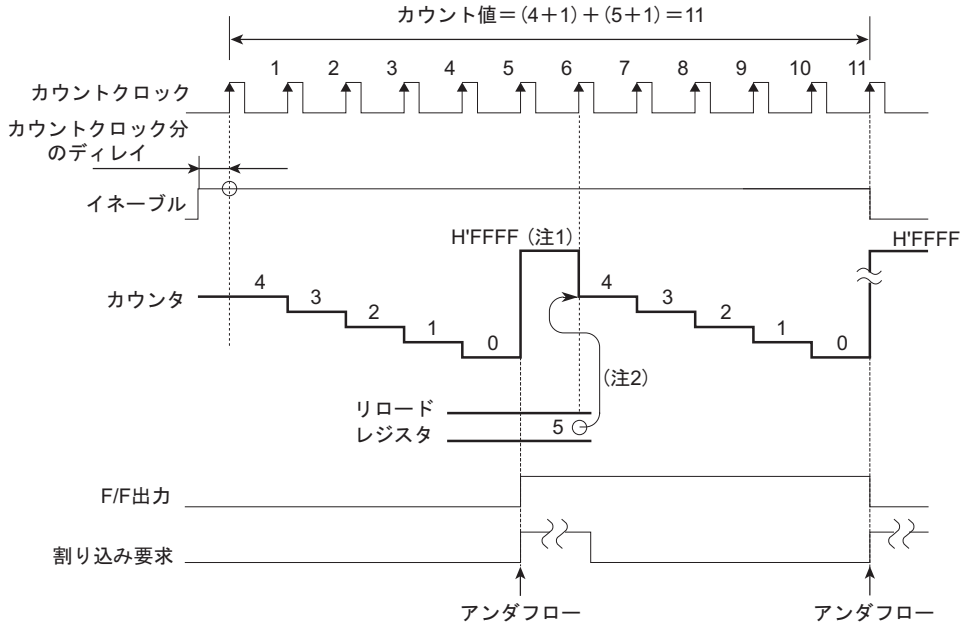
(1) TOPディレイドワンショット出力モード概要

ディレイドワンショット出力モードは、リロードレジスタの設定値＋1の幅のパルスを、カウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生して止まるモードです。

カウンタとリロードレジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタの設定値からダウンカウントを開始します。
1回目のカウンタアンダフローの次のサイクルで、"リロードレジスター1"の値をカウンタにロードし、さらにダウンカウントを続けて2回目のアンダフローでカウンタを停止します。

ディレイドワンショット出力モードのF/F出力波形は、1回目と2回目のアンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）し、リロードレジスタ設定値＋1の幅を持ったワンショットパルス波形を、最初のカウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生します。
また、1回目と2回目のカウンタアンダフロー時に、それぞれ割り込み要求を発生することができます。
カウンタの設定値＋1、リロードレジスタの設定値＋1がカウント値として有効です。

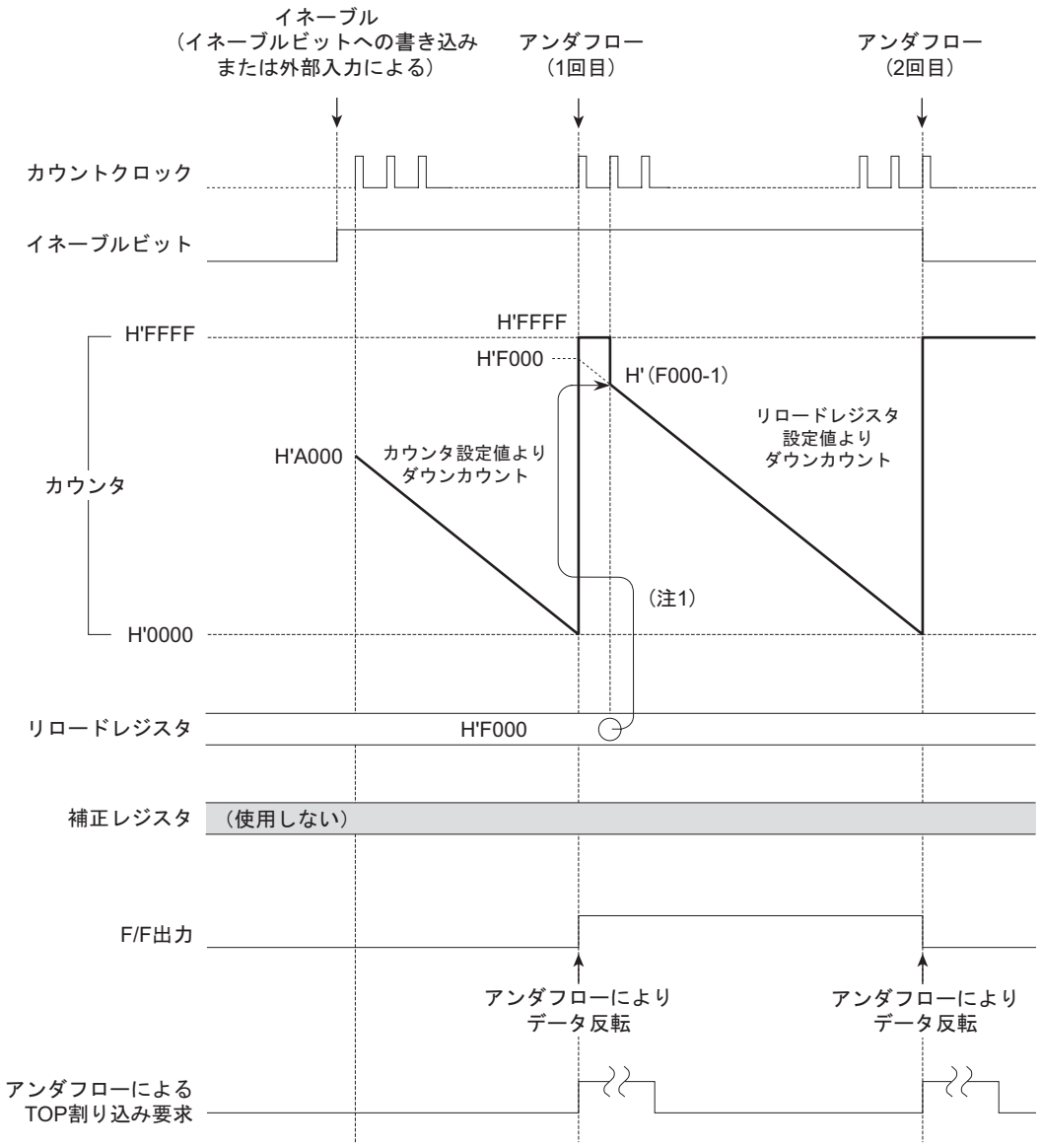
例えばカウンタの初期値が4、リロードレジスタの初期値が5の場合の動作を以下に示します。



注1.　実際にはアンダーフロー時のサイクルでは5ではなく、H'FFFF（アンダフロー値）が見えます。
注2.　"リロードレジスター1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.12　TOP**ディレイドワンショット出力モードのカウント例**

以下の例では、カウンタの初期値にH'A000を、リロードレジスタの初期値にH'F000を設定しています。タイマが起動するとダウンカウントを開始し、カウンタがアンダフローした次のサイクルに"リロードレジスター1"の内容をカウンタにロードし、さらにダウンカウントを続けて2回目のアンダフローでカウンタを停止しています。



注1. ″リロードレジスター１″の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

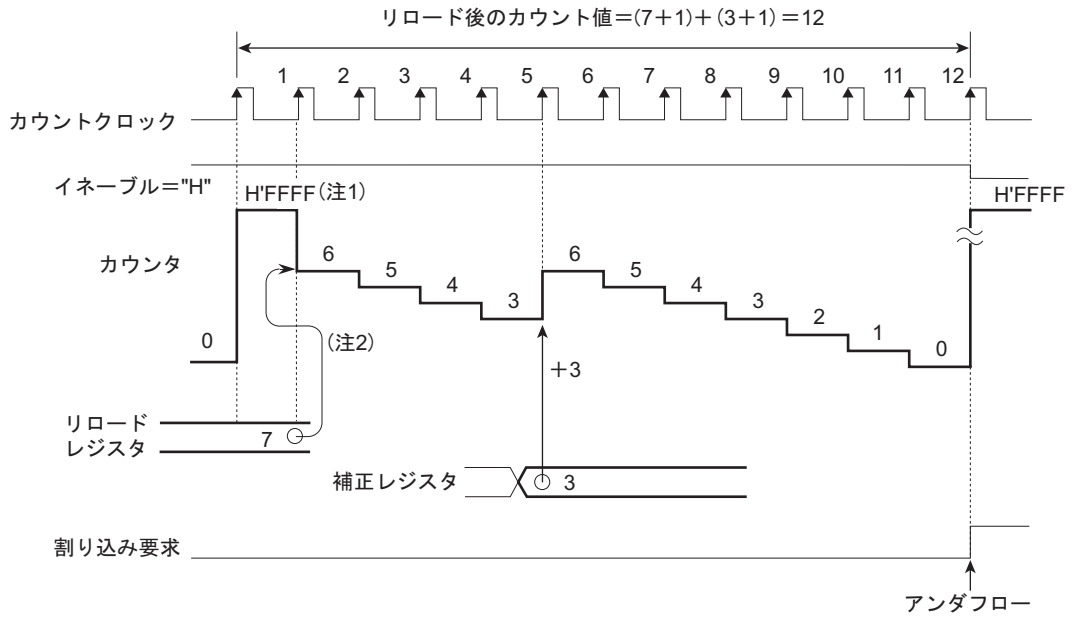
図10.3.13　TOP**ディレイドワンショット出力モード動作例**

(2) TOPディレイドワンショット出力モードの補正機能

動作中のカウンタ値を変更したい場合は、TOP補正レジスタにカウンタの初めの設定からの増減値を書き込みます。加算の場合は加算する値をそのまま補正レジスタに書き込み、減算の場合は減算する値の2の補数を補正レジスタに書き込みます。

カウンタの補正は、TOP補正レジスタに補正値を書き込んだ次のカウントクロックに同期して行われます。補正の動作が行われた場合、そのクロックに同期したダウンカウントが同時にキャンセルされるため、実際には（補正レジスタの値＋1）の変更が行われることに注意してください。

例えばリロードレジスタ値が7で、リロード後カウンタが3まで来たところで3を補正レジスタに書き込むと、リロード後のカウント値は12でアンダフローします。

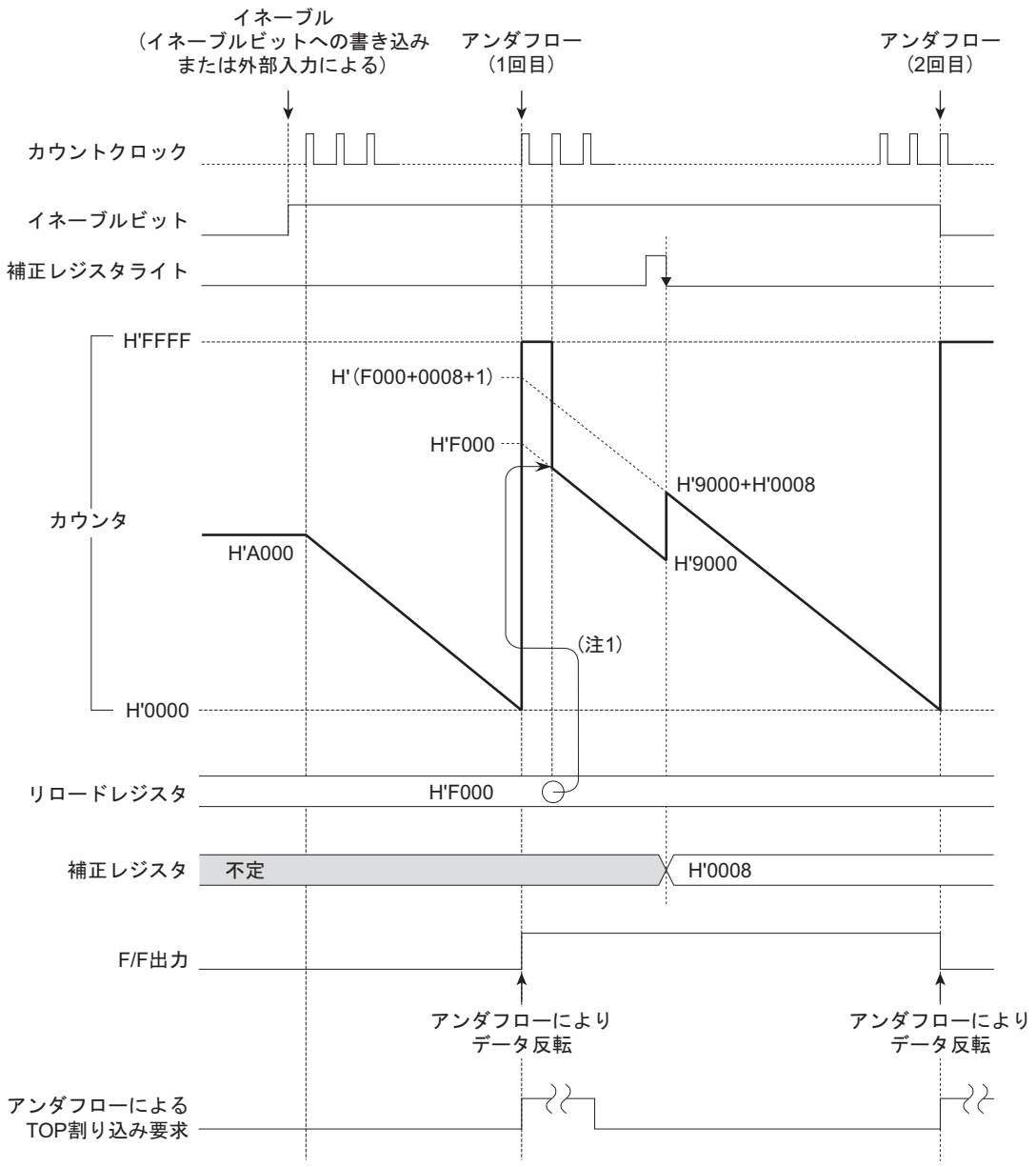


注1.　実際にはアンダーフロー時のサイクルでは7ではなく、H'FFFF（アンダフロー値）が見えます。
注2.　"リロードレジスター１"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.14　TOPディレイドワンショット出力モード補正時のカウント例

なお、補正レジスタの操作でカウンタがオーバフローしないようご注意ください。補正レジスタの操作により万一オーバフローしても、オーバフローしたことによる割り込み要求は発生しません。

以下の例では、カウンタの初期値にH'A000を、リロードレジスタの初期値にH'F000を設定しています。タイマが起動すると、ダウンカウントが始まります。1回目のアンダフローの次のサイクルで"リロードレジスター1"の値をカウンタにロードし、さらにダウンカウントを続けます。図の例ではH'9000までカウントしたところで、補正レジスタにH'0008を書き込んでいます。この補正の結果、カウンタはH'9008になり、1回目のアンダフロー後（H'F000＋1＋H'0008＋1）をカウントしたところで停止します。



注1. ″リロードレジスター１″の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.15　TOPディレイドワンショット出力モード補正時の動作例

(3) TOPディレイドワンショット出力モード使用上の注意

TOPディレイドワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- 補正レジスタの操作により万一カウンタがオーバフローしても、オーバフローしたことによる割り込みは発生しません。オーバフロー後に継続したダウンカウントでアンダフローした場合は、オーバフローした値での誤ったアンダフロー割り込み要求が発生します。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、一時的に値をH'FFFFと読み出します。リロードは、アンダフローの次のカウンタクロックのタイミング時に"リロードレジスター1"の値をカウンタに取り込みます。

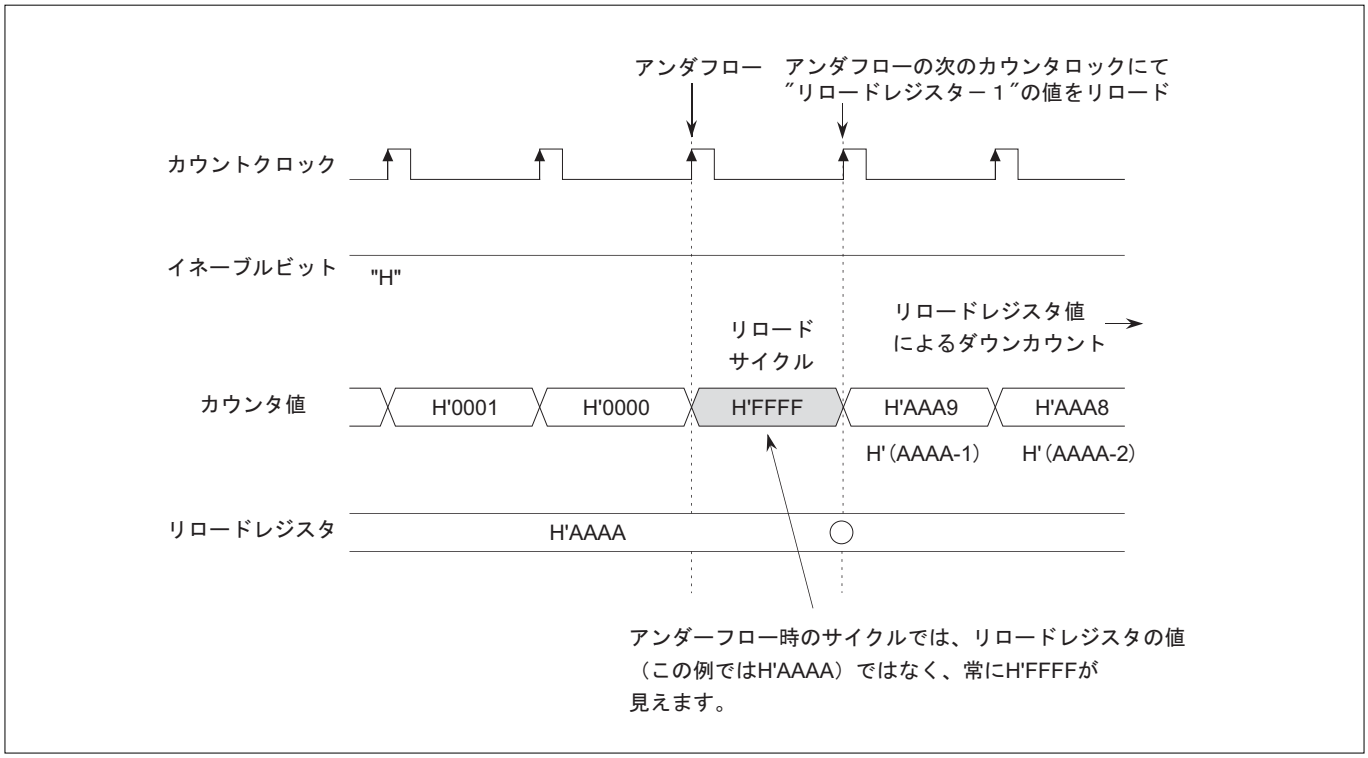


図10.3.16　**アンダフロー直後のカウンタ値**

10.3.11　TOP連続出力モード（補正機能なし）の動作

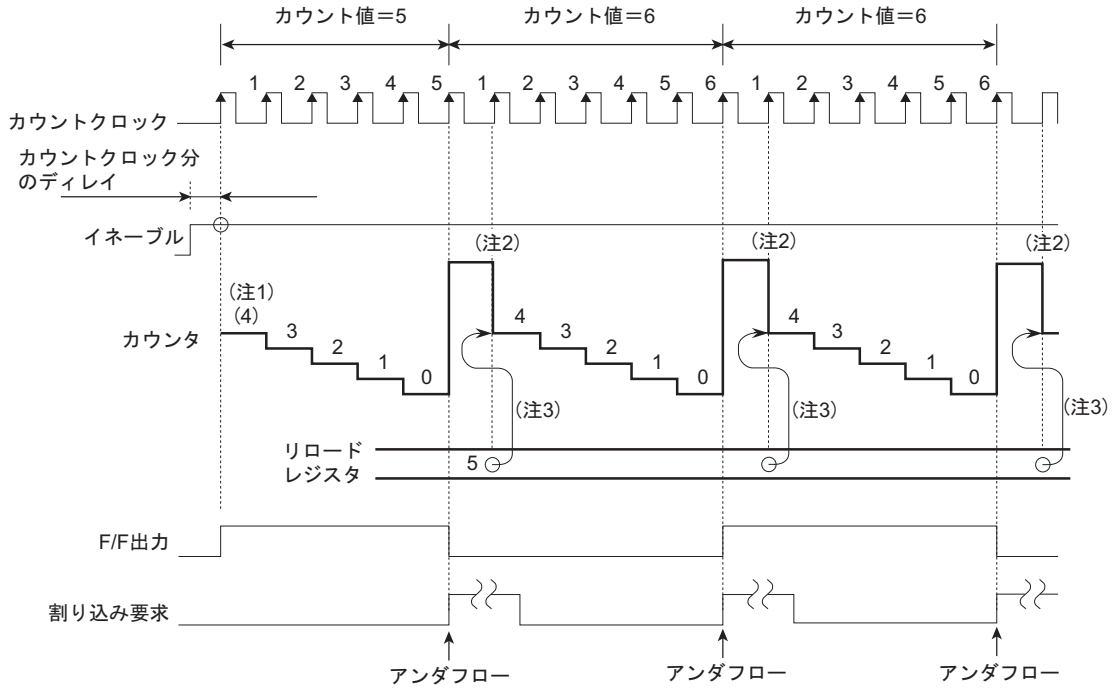
(1) TOP連続出力モード概要

連続出力モードは、カウンタの設定値からダウンカウントを行い、カウンタのアンダフローの次のサイクルで"リロードレジスター1"の値をロードします。以後カウンタのアンダフローごとにこの動作を繰り返し、リロードレジスタ設定値＋1の幅で反転する連続的なパルスを発生します。

カウンタとリロードレジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタ設定値からダウンカウントを開始し、アンダフローを発生します。
このアンダフローの次のサイクルで"リロードレジスター1"の内容をカウンタにロードし、再度カウントを行います。以後アンダフロー発生ごとにこの動作を繰り返します。カウンタを停止する場合は、イネーブルビットへのソフトウェア書き込みでカウントを禁止します。

連続出力モードのF/F出力波形は、起動時とアンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）し、カウント停止まで連続的なパルス波形を出力します。また、カウンタアンダフローごとに、割り込み要求を発生することができます。
カウンタの設定値＋1、リロードレジスタの設定値＋1がカウント値として有効です。

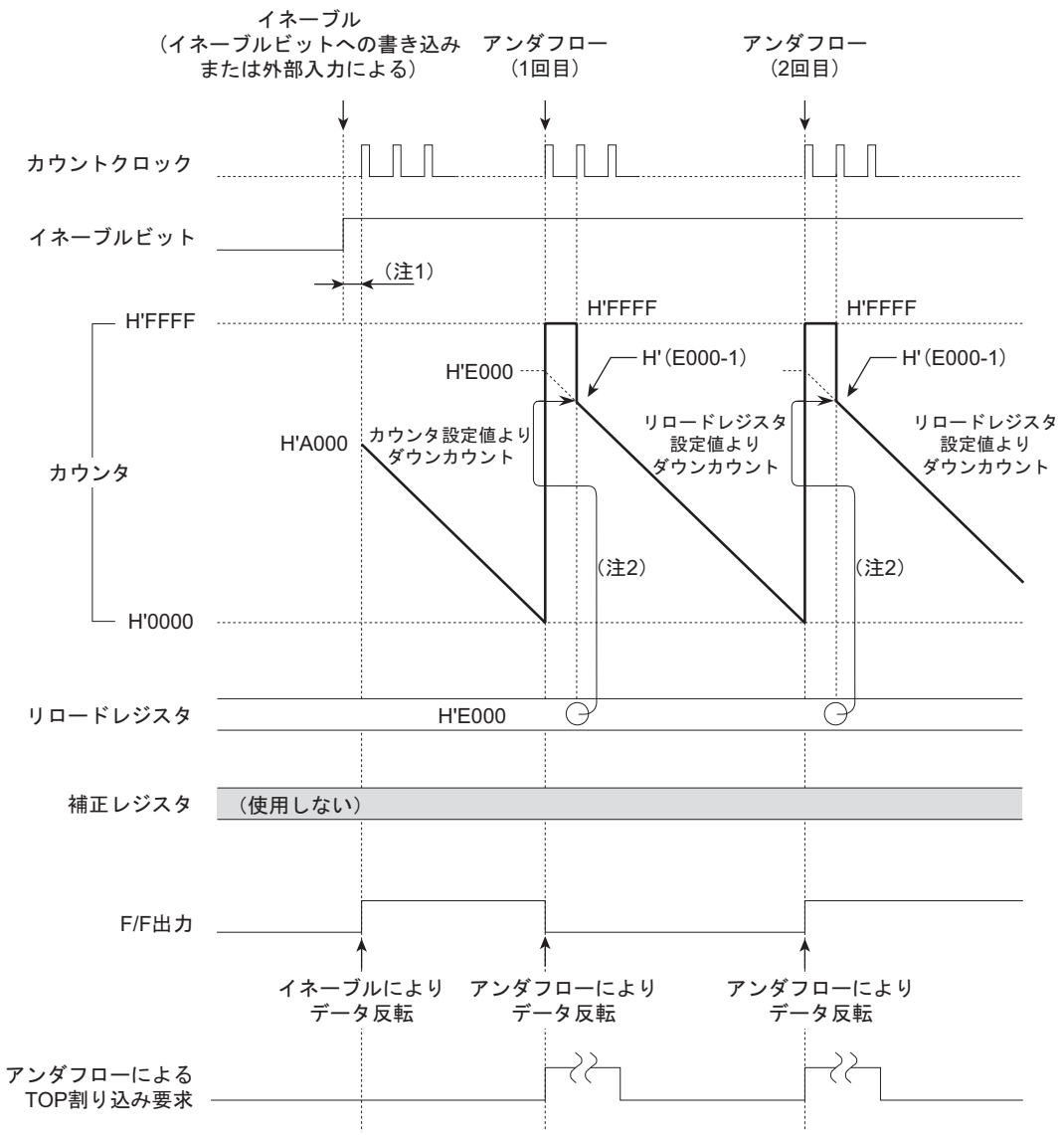
例えばカウンタの初期値が4、リロードレジスタの初期値が5の場合の動作を以下に示します。



注1.　実際にはイネーブル時のサイクルでは4ではなく、カウンタの元の値が見えます。
注2.　実際にはアンダーフロー時のサイクルでは5ではなく、H'FFFF（アンダフロー値）が見えます。
注3.　"リロードレジスター１"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.17　TOP連続出力モードのカウント例

以下の例では、カウンタの初期値にH'A000を、リロードレジスタの初期値にH'E000を設定しています。タイマが起動するとダウンカウントを開始し、カウンタがアンダフローするごとに"リロードレジスター1"の内容をカウンタにロードし、ダウンカウントを続けます。ただし、リロードするタイミングは、アンダフローした次のサイクルです。



注1.　イネーブル後F/F出力変化までにカウントクロック分のディレイを含みます。
注2.　"リロードレジスター1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.3.18　TOP**連続出力モード動作例**

(2) TOP連続出力モード使用上の注意

TOP連続出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のリロード直後にカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"となります。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までには、カウントクロック分のディレイを含みます。

10.4　TIO（入出力系16ビットタイマ）

10.4.1　TIO概要

TIO（Timer Input/Output）は入出力系16ビットタイマで、ソフトウェアによるモード切り換えにより、以下のモードから1つを選択できます。

＜入力モード＞
- 計測クリア入力モード
- 計測フリーラン入力モード
- ノイズ処理入力モード

＜補正機能なし出力モード＞
- PWM出力モード
- ワンショット出力モード
- ディレイドワンショット出力モード
- 連続出力モード

以下にTIOの仕様を示します。また、図10.4.1にTIOブロック図を示します。

表10.4.1　TIO（入出力系16ビットタイマ）の仕様

項目	仕様
チャネル数	10チャネル
カウンタ	16ビットダウンカウンタ
リロードレジスタ	16ビットリロードレジスタ
計測レジスタ	16ビットキャプチャレジスタ
タイマの起動	イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル （立ち上がりエッジ/立ち下がりエッジ/両エッジ/Hレベル/Lレベル）
モード切り換え	＜入力モード＞ ・計測クリア入力モード ・計測フリーラン入力モード ・ノイズ処理入力モード ＜補正機能なし出力モード＞ ・PWM出力モード ・ワンショット出力モード ・ディレイドワンショット出力モード ・連続出力モード
割り込み要求発生	カウンタのアンダフローで発生可能
DMA転送要求発生	カウンタのアンダフローで発生可能（TIO8のみ発生可能）

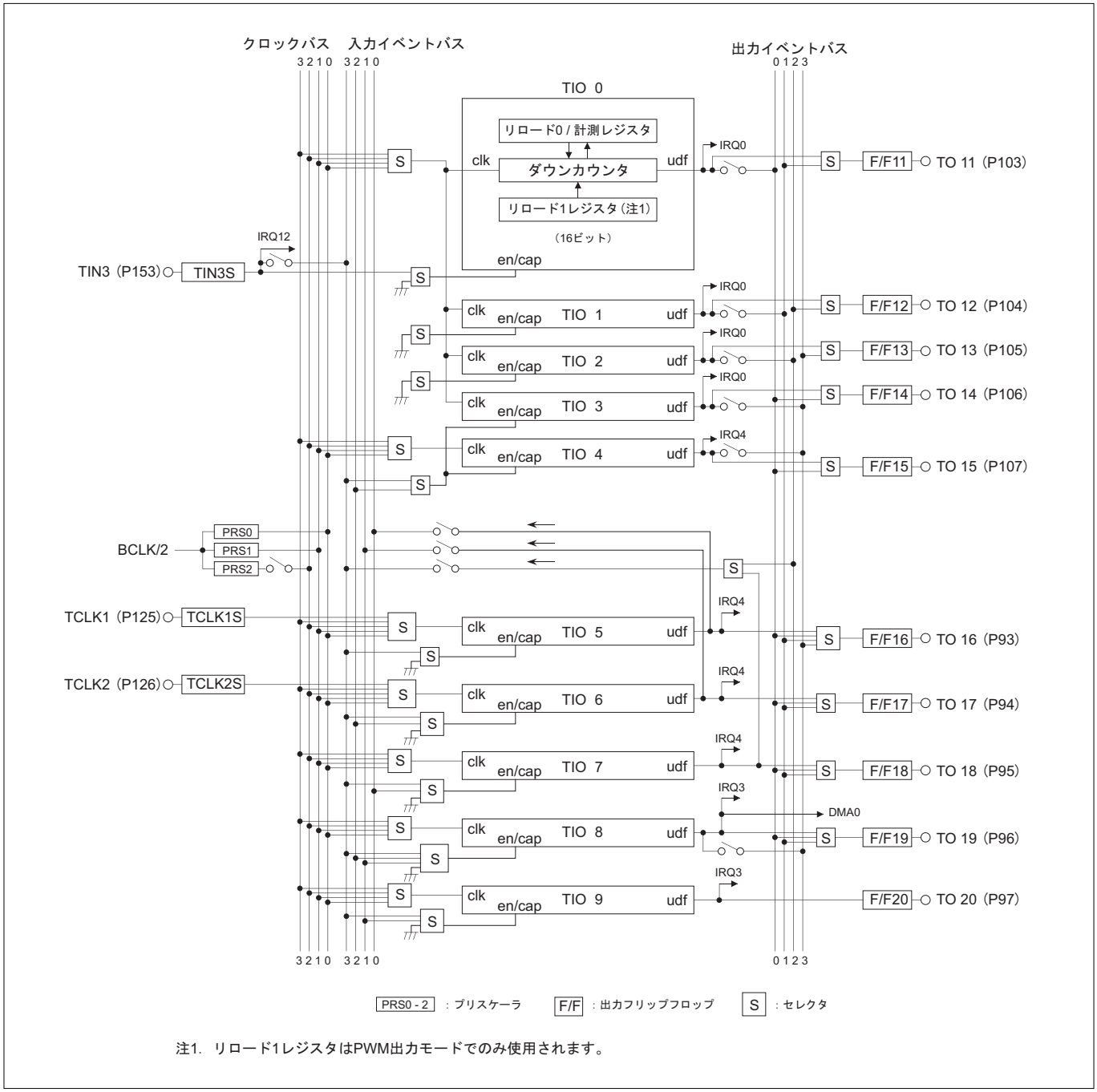


図10.4.1　TIO**（入出力系**16**ビットタイマ）ブロック図**

10.4.2　TIO各モードの概要

以下にTIOの各モードの概要を示します。なおTIO各チャネルのモードは、この中から1つだけを選択できます。

(1) 計測（クリア/フリーラン）入力モード

計測（クリア/フリーラン）入力モードは、カウント開始から外部キャプチャ信号入力までの時間を計測するモードです。また、カウンタのアンダフローまたは計測動作の実行による割り込み要求発生と、カウンタのアンダフローによるDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

タイマのイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み）後、カウンタはカウントクロックに同期してダウンカウントを開始し、外部からのキャプチャ信号により、その時点のカウンタの値を計測レジスタに書き込みます。

計測クリア入力モードでは、キャプチャ時にカウンタの値をH'FFFFに初期化し、ダウンカウントを再開します。また、アンダフローするとH'FFFFに戻ってダウンカウントを続けます。
計測フリーラン入力モードではキャプチャ後もカウンタはそのままダウンカウントを続け、アンダフローするとH'FFFFに戻ってダウンカウントを続けます。

カウンタを停止する場合は、イネーブルビットへのソフトウェア書き込みでカウントを禁止します。

(2) ノイズ処理入力モード

ノイズ処理入力モードは、入力信号が一定時間以上同じ状態であったことを検出します。

ノイズ処理入力モードでは、外部入力の"L"または"H"レベルでカウンタを動作させ、カウンタがアンダフローするまで一定時間以上同じ状態であれば、割り込み要求を発生して停止します。有効なレベルの信号が入力されても、カウンタアンダフロー前に無効レベルになった場合はいったんカウントを停止し、再度有効なレベルが入力された次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロードレジスター1"の値をカウンタにリロードしてカウント動作を再開します。有効カウント幅はリロード0レジスタの設定値＋1です。

タイマの停止は、カウンタアンダフロー時、またはイネーブルビットへのカウント停止書き込みと同時に行われます。
また、カウンタのアンダフローで割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

(3) PWM出力モード（補正機能なし）

PWM出力モードは、2つのリロードレジスタを使って、任意のデューティ比の波形を発生するモードです。

リロード0レジスタと、リロード1レジスタに初期値を設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、次のサイクルにカウントクロックに同期して、"リロード0レジスター1"の値をカウンタにロードし、ダウンカウントを開始します。1回目のカウンタアンダフローの次のサイクルで、"リロード1レジスター1"の内容をカウンタにロードし、以後アンダフロー発生ごとに、リロード0レジスタとリロード1レジスタのリロードを交互に繰り返します。リロード0レジスタの設定値＋1、リロード1レジスタの設定値＋1が、それぞれカウント値として有効です。
タイマの停止は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みを行うと同時に行われます（PWM出力周期には同期しません）。

PWM出力モードのF/F出力波形は、カウント開始時と各アンダフロー発生時に反転します。
また、カウンタイネーブル後の偶数回目のアンダフローによる割り込み要求発生と、カウンタのアンダフローごとによるDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。
なお、TIOのPWM出力モードには補正機能はありません。

(4) ワンショット出力モード（補正機能なし）

ワンショット出力モードは、リロード0レジスタの設定値＋1の幅のパルスを1回だけ発生して止まるモードです。

リロード0レジスタ設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロード0レジスター1"の内容をカウンタにロードし、カウントを開始します。カウンタはダウンカウントを行い、アンダフローで停止します。

ワンショット出力モードのF/F出力波形は、起動時とアンダフロー発生時に反転し、リロード0レジスタ設定値＋1のワンショットパルス波形が1回だけ発生します。
また、カウンタのアンダフローで割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

(5) ディレイドワンショット出力モード（補正機能なし）

ディレイドワンショット出力モードは、リロード0レジスタの設定値＋1のパルスを、カウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生して止まるモードです。

カウンタとリロード0レジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタの設定値からダウンカウントを開始します。
1回目のカウンタアンダフローの次のサイクルで"リロード0レジスター1"の値をカウンタにロードし、さらにダウンカウントを続けて2回目のアンダフローでカウンタを停止します。

ディレイドワンショット出力モードのF/F出力波形は、1回目と2回目のアンダフロー発生時に反転し、リロード0レジスタ設定値＋1のワンショットパルス波形を、最初のカウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生します。
また、1回目と2回目のカウンタアンダフロー時に、それぞれ割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

(6) 連続出力モード（補正機能なし）

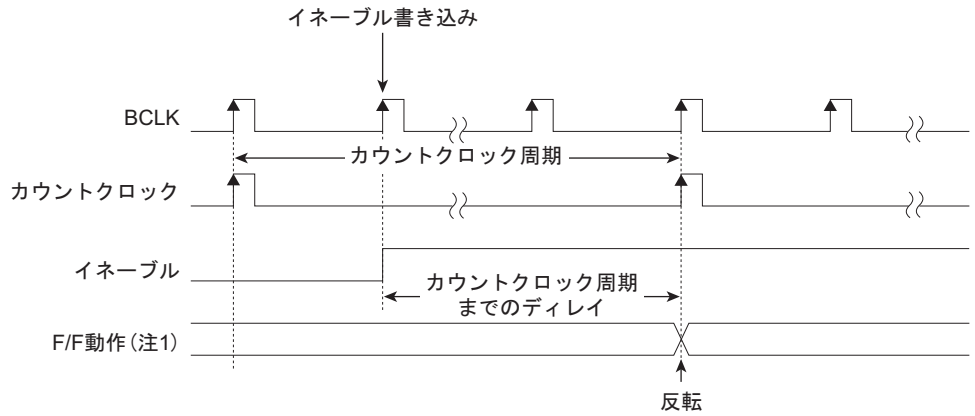
連続出力モードは、カウンタの設定値からダウンカウントを行い、カウンタのアンダフローの次のサイクルで"リロード0レジスター1"の値をロードします。以後カウンタのアンダフローごとにこの動作を繰り返し、リロード0レジスタ設定値＋1の連続的なパルスを発生します。

カウンタとリロード0レジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタ設定値からダウンカウントを開始し、アンダフローを発生します。
このアンダフローの次のサイクルで"リロード0レジスター1"の内容をカウンタにロードし、再度カウントを行います。以後アンダフロー発生ごとにこの動作を繰り返します。カウンタを停止する場合は、イネーブルビットへのソフトウェア書き込みでカウントを禁止します。カウンタにリロードするタイミングは、アンダフローの次のサイクルです。

連続出力モードのF/F出力波形は、起動時とアンダフロー発生時に反転し、カウント停止まで連続的なパルス波形を出力します。
また、カウンタのアンダフローごとに割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

＜カウントクロック分のディレイ＞

- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからタイマ動作開始までにカウントクロック分のディレイを含みます。イネーブル時にF/F出力が反転する動作モードの場合は、F/F出力もカウントクロックに同期して反転します。



注1. イネーブル時にF/F出力が反転する動作モード選択時

図10.4.2　**カウントクロック分のディレイ**

10.4.3　TIO関連レジスタマップ

以下にTIO関連のレジスタマップを示します。

TIO関連レジスタマップ（1/2）

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0300	TIO0カウンタ（TIO0CT）		10-87
H'0080 0302	（使用禁止領域）		
H'0080 0304	TIO0リロード1レジスタ（TIO0RL1）		10-89
H'0080 0306	TIO0リロード0/計測レジスタ（TIO0RL0）		10-88
～	（使用禁止領域）		
H'0080 0310	TIO1カウンタ（TIO1CT）		10-87
H'0080 0312	（使用禁止領域）		
H'0080 0314	TIO1リロード1レジスタ（TIO1RL1）		10-89
H'0080 0316	TIO1リロード0/計測レジスタ（TIO1RL0）		10-88
H'0080 0318	（使用禁止領域）		
H'0080 031A	TIO0-3制御レジスタ0（TIO03CR0）		10-80
H'0080 031C	（使用禁止領域）	TIO0-3制御レジスタ1（TIO03CR1）	10-81
H'0080 031E	（使用禁止領域）		
H'0080 0320	TIO2カウンタ（TIO2CT）		10-87
H'0080 0322	（使用禁止領域）		
H'0080 0324	TIO2リロード1レジスタ（TIO2RL1）		10-89
H'0080 0326	TIO2リロード0/計測レジスタ（TIO2RL0）		10-88
～	（使用禁止領域）		
H'0080 0330	TIO3カウンタ（TIO3CT）		10-87
H'0080 0332	（使用禁止領域）		
H'0080 0334	TIO3リロード1レジスタ（TIO3RL1）		10-89
H'0080 0336	TIO3リロード0/計測レジスタ（TIO3RL0）		10-88
～	（使用禁止領域）		
H'0080 0340	TIO4カウンタ（TIO4CT）		10-87
H'0080 0342	（使用禁止領域）		
H'0080 0344	TIO4リロード1レジスタ（TIO4RL1）		10-89
H'0080 0346	TIO4リロード0/計測レジスタ（TIO4RL0）		10-88
H'0080 0348	（使用禁止領域）		
H'0080 034A	TIO4制御レジスタ（TIO4CR）	TIO5制御レジスタ（TIO5CR）	10-82 10-84
～	（使用禁止領域）		
H'0080 0350	TIO5カウンタ（TIO5CT）		10-87
H'0080 0352	（使用禁止領域）		

TIO関連レジスタマップ（2/2）

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 0354	TIO5リロード1レジスタ（TIO5RL1）		10-89
H'0080 0356	TIO5リロード0/計測レジスタ（TIO5RL0）		10-88
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0360	TIO6カウンタ（TIO6CT）		10-87
H'0080 0362	（使用禁止領域）		
H'0080 0364	TIO6リロード1レジスタ（TIO6RL1）		10-89
H'0080 0366	TIO6リロード0/計測レジスタ（TIO6RL0）		10-88
H'0080 0368	（使用禁止領域）		
H'0080 036A	TIO6制御レジスタ（TIO6CR）	TIO7制御レジスタ（TIO7CR）	10-85 10-86
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0370	TIO7カウンタ（TIO7CT）		10-87
H'0080 0372	（使用禁止領域）		
H'0080 0374	TIO7リロード1レジスタ（TIO7RL1）		10-89
H'0080 0376	TIO7リロード0/計測レジスタ（TIO7RL0）		10-88
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0380	TIO8カウンタ（TIO8CT）		10-87
H'0080 0382	（使用禁止領域）		
H'0080 0384	TIO8リロード1レジスタ（TIO8RL1）		10-89
H'0080 0386	TIO8リロード0/計測レジスタ（TIO8RL0）		10-88
H'0080 0388	（使用禁止領域）		
H'0080 038A	TIO8制御レジスタ（TIO8CR）	TIO9制御レジスタ（TIO9CR）	10-86 10-87
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0390	TIO9カウンタ（TIO9CT）		10-87
H'0080 0392	（使用禁止領域）		
H'0080 0394	TIO9リロード1レジスタ（TIO9RL1）		10-89
H'0080 0396	TIO9リロード0/計測レジスタ（TIO9RL0）		10-88
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 03BC	TIO0-9イネーブルプロテクトレジスタ（TIOPRO）		10-90
H'0080 03BE	TIO0-9カウントイネーブルレジスタ（TIOCEN）		10-91

10.4.4　TIO制御レジスタ

TIO制御レジスタは、TIO0～9の動作モード（計測入力、ノイズ処理入力、PWM出力、ワンショット出力、ディレイドワンショット出力、連続出力モード）の選択、カウントイネーブルの入力選択、およびカウントクロックの入力選択を行います。

TIO制御レジスタには、タイマのグループごとに以下のレジスタがあります。

- TIO0-3制御レジスタ0（TIO03CR0）
- TIO0-3制御レジスタ1（TIO03CR1）
- TIO4制御レジスタ（TIO4CR）
- TIO5制御レジスタ（TIO5CR）
- TIO6制御レジスタ（TIO6CR）
- TIO7制御レジスタ（TIO7CR）
- TIO8制御レジスタ（TIO8CR）
- TIO9制御レジスタ（TIO9CR）

TIO0-3制御レジスタ0（TIO03CR0）　　＜アドレス：H'0080 031A＞

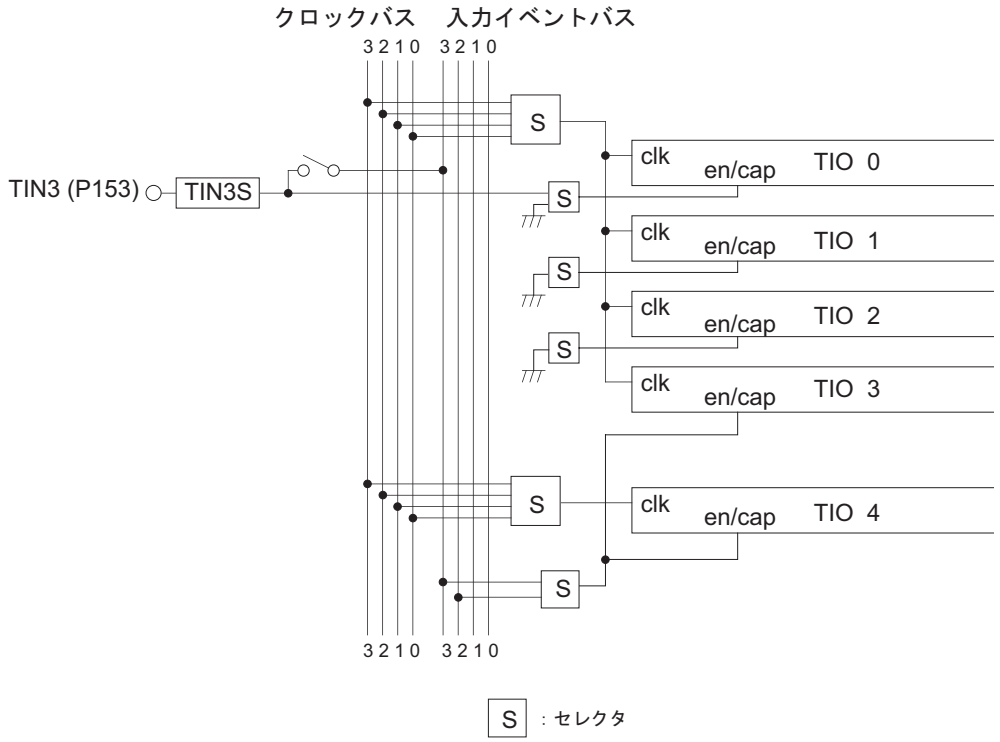
b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TIO3 EEN	TIO3M			TIO2 ENS	TIO2M			TIO1 ENS	TIO1M			TIO0 ENS	TIO0M		
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	TIO3EEN（注1） TIO3外部入力許可ビット	0：外部入力禁止 1：外部入力許可	R	W
1～3	TIO3M TIO3動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W
4	TIO2ENS（予約ビット）	"0"に固定してください。	0	0
5～7	TIO2M TIO2動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：使用禁止 111：使用禁止	R	W
8	TIO1ENS（予約ビット）	"0"に固定してください。	0	0
9～11	TIO1M TIO1動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：使用禁止 111：使用禁止	R	W
12	TIO0ENS TIO0イネーブル/計測入力ソース選択ビット	0：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 1：外部入力TIN3選択	R	W
13～15	TIO0M TIO0動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注1．計測（フリーラン/クリア）入力モード時、本ビットが"0"（外部入力禁止）であっても外部からのキャプチャ信号により、その時点のカウンタの値を計測レジスタに書き込みます。ただし、計測クリア入力モードでは本ビットが"0"（外部入力禁止）の場合、キャプチャ時にカウンタの値の初期化（H'FFFF）が行われないため、"1"（外部入力許可）にして使用してください。

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。
・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。
・TIO3のイネーブル/計測入力ソース選択は、TIO4制御レジスタのTIO34ENS（TIO3, 4イネーブル/計測入力ソース選択）ビットで選択します。
・TIO1およびTIO2タイマは、計測（フリーラン/クリア）入力モード時にキャプチャ機能をもちません。



注.　・TIO制御レジスタ説明図のため一部省略しています

図10.4.3　TIO0〜4**のクロック/イネーブル入力概略図**

TIO0-3**制御レジスタ**1（TIO03CR1）　　**＜アドレス：**H'0080 031D**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
						TIO03CKS	
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8〜13	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
14, 15	TIO03CKS TIO0-3**クロックソース選択ビット**	00：**クロックバス**0**選択** 01：**クロックバス**1**選択** 10：**クロックバス**2**選択** 11：**クロックバス**3**選択**	R	W

TIO4制御レジスタ（TIO4CR）　　＜アドレス：H'0080 034A＞

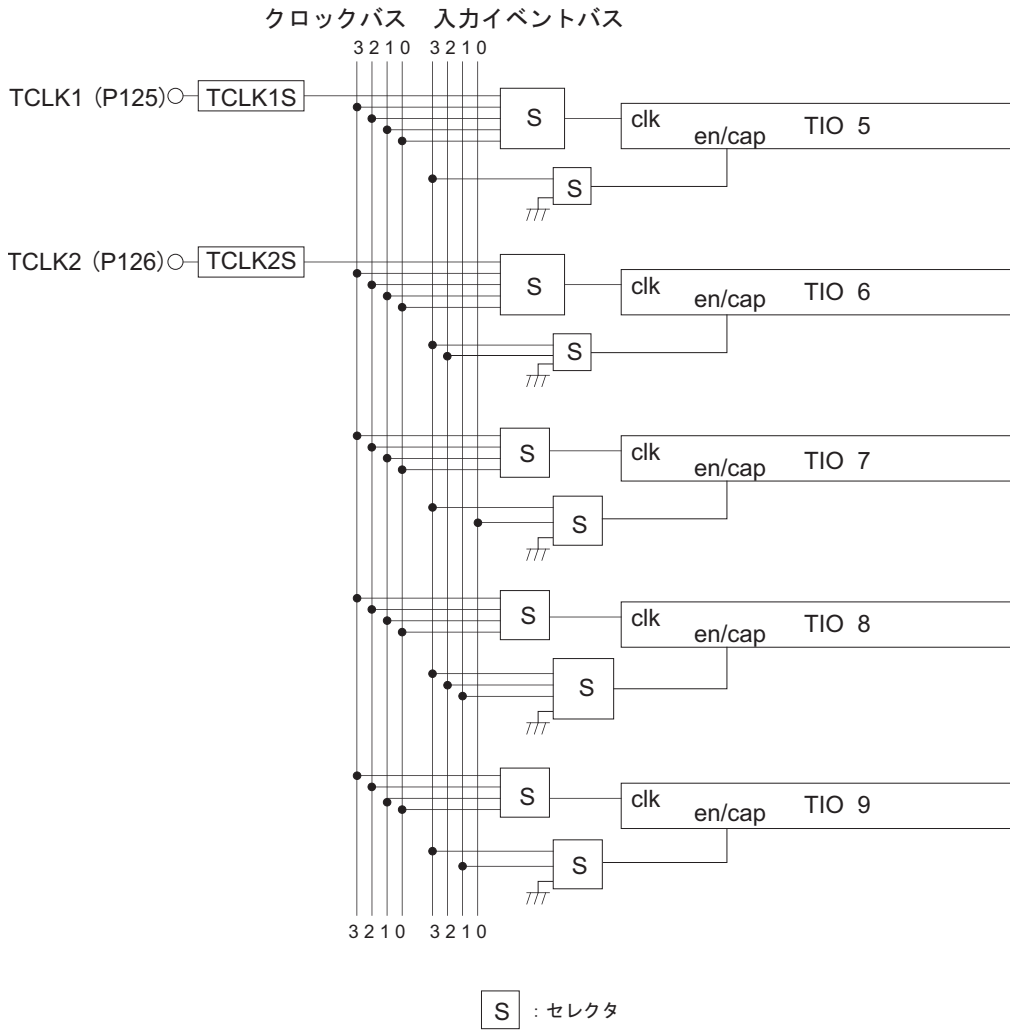
b0	1	2	3	4	5	6	b7
TIO4CKS		TIO4EEN	TIO34ENS		TIO4M		
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	TIO4CKS TIO4クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W
2	TIO4EEN（注1） TIO4外部入力許可ビット	0：外部入力禁止 1：外部入力許可	R	W
3, 4	TIO34ENS TIO3, 4イネーブル/計測入力ソース選択ビット	00：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 01：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 10：入力イベントバス2選択 11：入力イベントバス3選択	R	W
5～7	TIO4M TIO4動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注1．計測（フリーラン/クリア）入力モード時、本ビットが"0"（外部入力禁止）であっても外部からのキャプチャ信号により、その時点のカウンタの値を計測レジスタに書き込みます。ただし、計測クリア入力モードでは本ビットが"0"（外部入力禁止）の場合、キャプチャ時にカウンタの値の初期化（H'FFFF）が行われないため、"1"（外部入力許可）にして使用してください。

注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。



注.　・TIO制御レジスタ説明のための概略図です

図10.4.4　TIO5～9**のクロック/イネーブル入力概略図**

TIO5制御レジスタ（TIO5CR）　　＜アドレス：H'0080 034B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TIO5CKS			TIO5ENS		TIO5M		
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	TIO5CKS TIO5クロックソース選択ビット	000：外部入力TCLK1選択 001：外部入力TCLK1選択 010：外部入力TCLK1選択 011：外部入力TCLK1選択 100：クロックバス0選択 101：クロックバス1選択 110：クロックバス2選択 111：クロックバス3選択	R	W
11, 12	TIO5ENS TIO5イネーブル/計測入力ソース選択ビット	00：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 01：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 10：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 11：入力イベントバス3選択	R	W
13～15	TIO5M TIO5動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。

TIO6制御レジスタ（TIO6CR）　　＜アドレス：H'0080 036A＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
TIO6CKS			TIO6ENS		TIO6M		
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2	TIO6CKS TIO6クロックソース選択ビット	000：外部入力TCLK2選択 001：外部入力TCLK2選択 010：外部入力TCLK2選択 011：外部入力TCLK2選択 100：クロックバス0選択 101：クロックバス1選択 110：クロックバス2選択 111：クロックバス3選択	R	W
3, 4	TIO6ENS TIO6イネーブル/計測入力ソース選択ビット	00：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 01：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 10：入力イベントバス2選択 11：入力イベントバス3選択	R	W
5～7	TIO6M TIO6動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注．・ 動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。

TIO7制御レジスタ（TIO7CR）　　＜アドレス：H'0080 036B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
	TIO7CKS		TIO7ENS		TIO7M		
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
9, 10	TIO7CKS TIO7クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W
11, 12	TIO7ENS TIO7イネーブル/計測入力ソース選択ビット	00：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 01：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 10：入力イベントバス0選択 11：入力イベントバス3選択	R	W
13～15	TIO7M TIO7動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。

TIO8制御レジスタ（TIO8CR）　　＜アドレス：H'0080 038A＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
TIO8CKS		TIO8ENS			TIO8M		
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	TIO8CKS TIO8クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W
2～4	TIO8ENS TIO8イネーブル/計測入力ソース選択ビット	000：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 001：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 010：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 011：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 100：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 101：入力イベントバス1選択 110：入力イベントバス2選択 111：入力イベントバス3選択	R	W
5～7	TIO8M TIO8動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。

TIO9制御レジスタ（TIO9CR）　　＜アドレス：H'0080 038B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
	TIO9CKS		TIO9ENS		TIO9M		
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	何も配置されていません。		0	－
9, 10	TIO9CKS TIO9クロックソース選択ビット	00：クロックバス0選択 01：クロックバス1選択 10：クロックバス2選択 11：クロックバス3選択	R	W
11, 12	TIO9ENS TIO9イネーブル/計測入力ソース選択ビット	00：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 01：イネーブル/計測入力ソースを使用しません 10：入力イベントバス1選択 11：入力イベントバス3選択	R	W
13～15	TIO9M TIO9動作モード選択ビット	000：ワンショット出力モード 001：ディレイドワンショット出力モード 010：連続出力モード 011：PWM出力モード 100：計測クリア入力モード 101：計測フリーラン入力モード 110：ノイズ処理入力モード 111：ノイズ処理入力モード	R	W

注．・動作モードの設定、変更は、必ずカウンタ停止状態で行ってください。

10.4.5　TIOカウンタ（TIO0CT～TIO9CT）

TIO0カウンタ（TIO0CT）　　＜アドレス：H'0080 0300＞
TIO1カウンタ（TIO1CT）　　＜アドレス：H'0080 0310＞
TIO2カウンタ（TIO2CT）　　＜アドレス：H'0080 0320＞
TIO3カウンタ（TIO3CT）　　＜アドレス：H'0080 0330＞
TIO4カウンタ（TIO4CT）　　＜アドレス：H'0080 0340＞
TIO5カウンタ（TIO5CT）　　＜アドレス：H'0080 0350＞
TIO6カウンタ（TIO6CT）　　＜アドレス：H'0080 0360＞
TIO7カウンタ（TIO7CT）　　＜アドレス：H'0080 0370＞
TIO8カウンタ（TIO8CT）　　＜アドレス：H'0080 0380＞
TIO9カウンタ（TIO9CT）　　＜アドレス：H'0080 0390＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TIO0CT-TIO9CT															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TIO0CT～TIO9CT	16ビットカウンタ値	R（注1）	

注1．PWM出力モード時は書き込み不可
注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIOカウンタは16ビットのダウンカウンタで、タイマのイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）後、カウントクロックに同期してカウント動作を開始します。
なお、PWM出力モードでは書き込み不可になります。

10.4.6　TIOリロード0/計測レジスタ（TIO0RL0～TIO9RL0）

TIO0リロード0/計測レジスタ（TIO0RL0）　＜アドレス：H'0080 0306＞
TIO1リロード0/計測レジスタ（TIO1RL0）　＜アドレス：H'0080 0316＞
TIO2リロード0/計測レジスタ（TIO2RL0）　＜アドレス：H'0080 0326＞
TIO3リロード0/計測レジスタ（TIO3RL0）　＜アドレス：H'0080 0336＞
TIO4リロード0/計測レジスタ（TIO4RL0）　＜アドレス：H'0080 0346＞
TIO5リロード0/計測レジスタ（TIO5RL0）　＜アドレス：H'0080 0356＞
TIO6リロード0/計測レジスタ（TIO6RL0）　＜アドレス：H'0080 0366＞
TIO7リロード0/計測レジスタ（TIO7RL0）　＜アドレス：H'0080 0376＞
TIO8リロード0/計測レジスタ（TIO8RL0）　＜アドレス：H'0080 0386＞
TIO9リロード0/計測レジスタ（TIO9RL0）　＜アドレス：H'0080 0396＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TIO0RL0-TIO9RL0															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R　W
0～15	TIO0RL0～TIO9RL0	16ビットリロードレジスタ値	R（注1）

注1．計測入力モード時は書き込み不可
注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIOリロード0/計測レジスタは、TIOカウンタレジスタ（TIO0CT-TIO9CT）へデータをリロードするためのレジスタと、計測入力モードでの計測レジスタを兼ねています。このレジスタは、計測入力モード時には書き込み不可となります。

以下のタイミングに"リロード0レジスター1"の内容がカウントクロックに同期してカウンタにロードされます。

- ノイズ処理入力モードでカウントを開始した後、カウンタアンダフロー前に、入力信号が反転し、再度有効レベルの入力があった次のサイクル
- ワンショット出力モードでカウンタがイネーブルになった次のサイクル
- ディレイドワンショット出力または連続出力モードでカウンタがアンダフローした次のサイクル
- PWM出力モードでイネーブルになった時と、リロード1レジスタでセットしたカウンタ値がアンダフローした次のサイクル

リロード0レジスタにデータを書き込んだ時点では、カウンタにデータはロードされません。

一方計測レジスタとして使用する場合は、イベント入力により、カウンタの値をこの計測レジスタに取り込みます。

10.4.7　TIOリロード1レジスタ（TIO0RL1～TIO9RL1）

TIO0リロード1レジスタ（TIO0RL1）　＜アドレス：H'0080 0304＞
TIO1リロード1レジスタ（TIO1RL1）　＜アドレス：H'0080 0314＞
TIO2リロード1レジスタ（TIO2RL1）　＜アドレス：H'0080 0324＞
TIO3リロード1レジスタ（TIO3RL1）　＜アドレス：H'0080 0334＞
TIO4リロード1レジスタ（TIO4RL1）　＜アドレス：H'0080 0344＞
TIO5リロード1レジスタ（TIO5RL1）　＜アドレス：H'0080 0354＞
TIO6リロード1レジスタ（TIO6RL1）　＜アドレス：H'0080 0364＞
TIO7リロード1レジスタ（TIO7RL1）　＜アドレス：H'0080 0374＞
TIO8リロード1レジスタ（TIO8RL1）　＜アドレス：H'0080 0384＞
TIO9リロード1レジスタ（TIO9RL1）　＜アドレス：H'0080 0394＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TIO0RL1-TIO9RL1															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TIO0RL1～TIO9RL1	16ビットリロードレジスタ値	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIOリロード1レジスタは、TIOカウンタレジスタ（TIO0CT-TIO9CT）へデータをリロードするためのレジスタです。

以下のタイミングに"リロード1レジスター1"の内容がカウントクロックに同期してカウンタにロードされます。

- PWM出力モードでリロード0レジスタでセットしたカウント値がアンダフローした次のサイクル

リロード1レジスタにデータを書き込んだ時点では、カウンタにデータはロードされません。

10.4.8　TIOイネーブル制御レジスタ

TIO0-9イネーブルプロテクトレジスタ（TIOPRO）　　＜アドレス：H'0080 03BC＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	0	TIO9 PRO 0	TIO8 PRO 0	TIO7 PRO 0	TIO6 PRO 0	TIO5 PRO 0	TIO4 PRO 0	TIO3 PRO 0	TIO2 PRO 0	TIO1 PRO 0	TIO0 PRO 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6	TIO9PRO（TIO9イネーブルプロテクトビット）	0：書き換え許可	R	W
7	TIO8PRO（TIO8イネーブルプロテクトビット）	1：書き換え禁止		
8	TIO7PRO（TIO7イネーブルプロテクトビット）			
9	TIO6PRO（TIO6イネーブルプロテクトビット）			
10	TIO5PRO（TIO5イネーブルプロテクトビット）			
11	TIO4PRO（TIO4イネーブルプロテクトビット）			
12	TIO3PRO（TIO3イネーブルプロテクトビット）			
13	TIO2PRO（TIO2イネーブルプロテクトビット）			
14	TIO1PRO（TIO1イネーブルプロテクトビット）			
15	TIO0PRO（TIO0イネーブルプロテクトビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIO0-9イネーブルプロテクトレジスタは、次に示すTIOカウントイネーブルビットの書き換えの禁止/許可を制御するレジスタです。

TIO0-9カウントイネーブルレジスタ（TIOCEN）　　＜アドレス：H'0080 03BE＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	0	TIO9 CEN 0	TIO8 CEN 0	TIO7 CEN 0	TIO6 CEN 0	TIO5 CEN 0	TIO4 CEN 0	TIO3 CEN 0	TIO2 CEN 0	TIO1 CEN 0	TIO0 CEN 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6	TIO9CEN（TIO9カウントイネーブルビット）	0：カウント停止	R	W
7	TIO8CEN（TIO8カウントイネーブルビット）	1：カウント許可		
8	TIO7CEN（TIO7カウントイネーブルビット）			
9	TIO6CEN（TIO6カウントイネーブルビット）			
10	TIO5CEN（TIO5カウントイネーブルビット）			
11	TIO4CEN（TIO4カウントイネーブルビット）			
12	TIO3CEN（TIO3カウントイネーブルビット）			
13	TIO2CEN（TIO2カウントイネーブルビット）			
14	TIO1CEN（TIO1カウントイネーブルビット）			
15	TIO0CEN（TIO0カウントイネーブルビット）			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TIO0-9カウントイネーブルレジスタは、TIOカウンタの動作を制御します。カウンタをソフトウェアでイネーブルにする場合は、該当するイネーブルプロテクトビットを書き込み許可にし、カウントイネーブルビットに"1"を書き込みます。

カウンタを停止する場合は、イネーブルプロテクトビットを書き込み許可にし、カウントイネーブルビットに"0"を書き込みます。

連続出力モード以外ではアンダフローの発生でカウンタが停止すると、カウントイネーブルビットは自動的に"0"に戻ります。したがってTIO0～9カウントイネーブルレジスタをリードした場合は、カウンタの動作状態（動作中または停止）を示すステータスレジスタとなります。

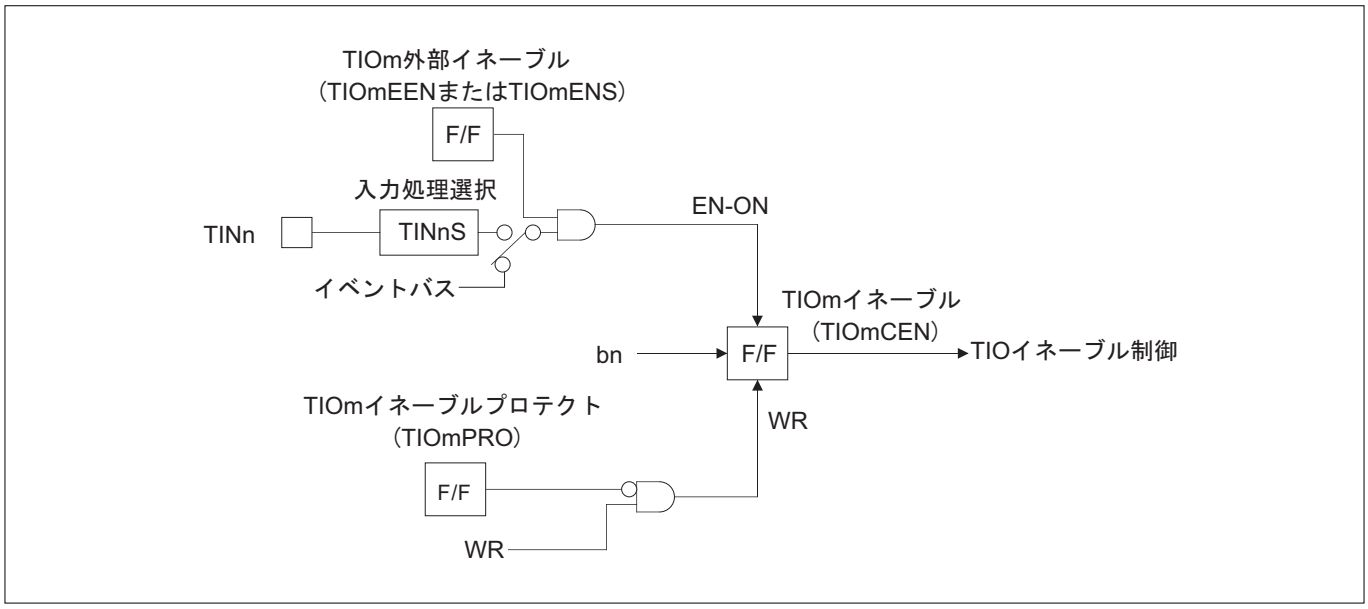


図10.4.5　TIOイネーブル回路構成図

10.4.9　TIO計測（フリーラン/クリア）入力モードの動作

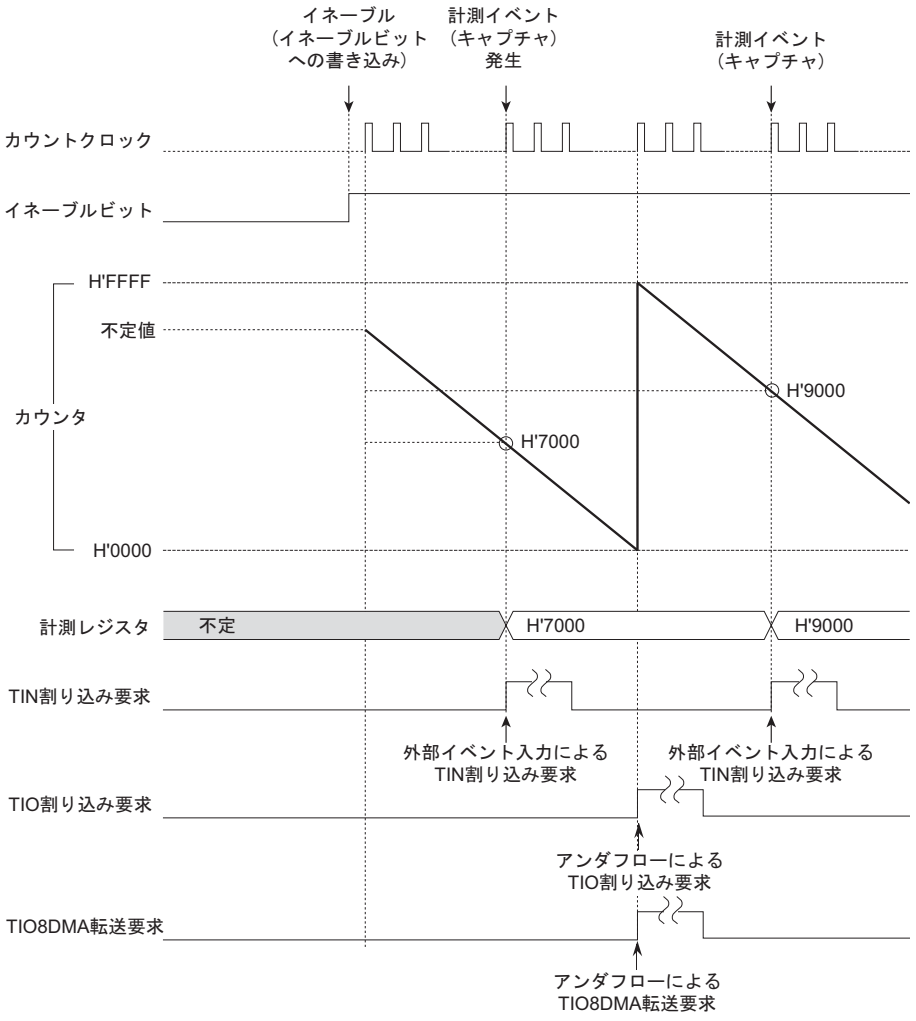
(1) TIO計測（フリーラン/クリア）入力モード概要

計測（クリア/フリーラン）入力モードは、カウント開始から外部キャプチャ信号入力までの時間を計測するモードです。カウンタのアンダフローまたは計測動作の実行による割り込み要求発生と、カウンタのアンダフローによるDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

タイマのイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み）後、カウンタはカウントクロックに同期してダウンカウントを開始し、外部からのキャプチャ信号により、その時点のカウンタの値を計測レジスタに書き込みます。

計測クリア入力モードでは、キャプチャ時にカウンタの値をH'FFFFに初期化し、ダウンカウントを再開します。また、アンダフローするとH'FFFFに戻ってダウンカウントを続けます。
計測フリーラン入力モードでは、キャプチャ後もカウンタはそのままダウンカウントを続け、アンダフローするとH'FFFFに戻ってダウンカウントを続けます。

カウンタを停止する場合は、イネーブルビットへのソフトウェア書き込みでカウントを禁止します。



注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.6　計測フリーラン入力モードの動作例

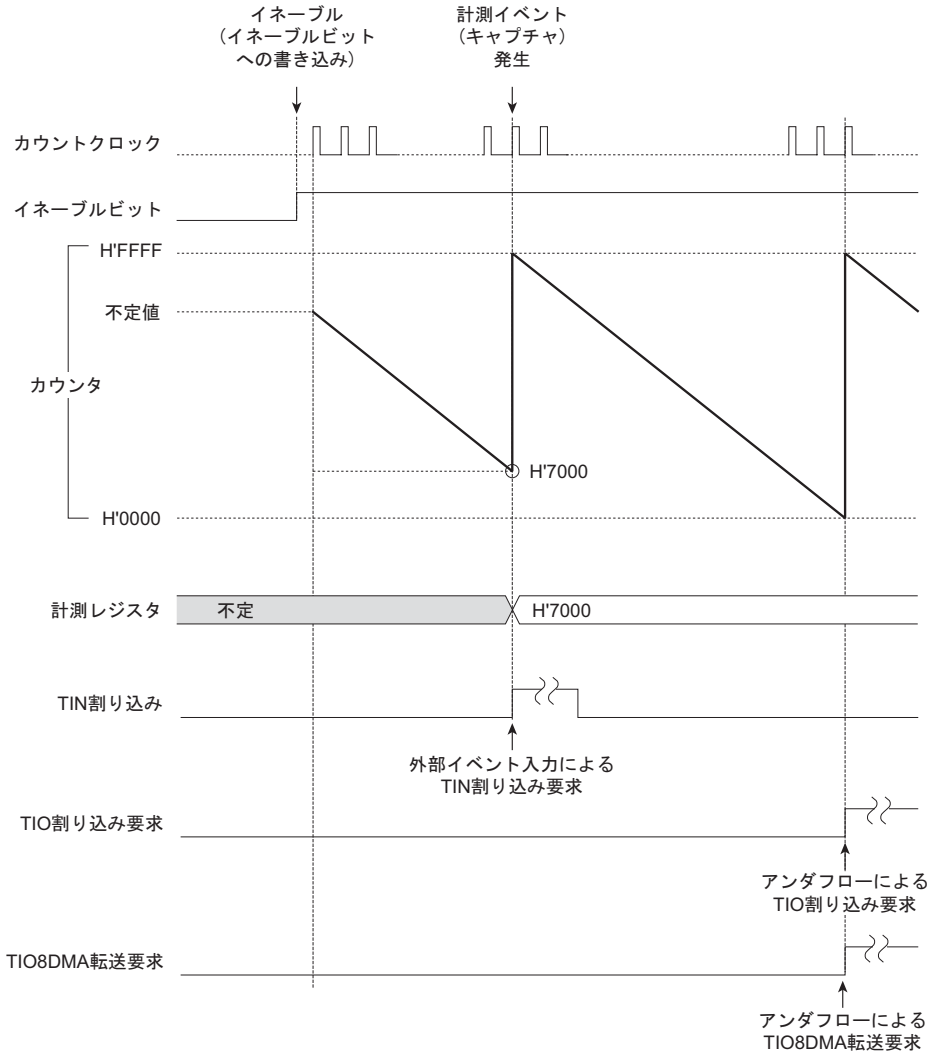


図10.4.7　計測クリア入力モードの動作例

(2) TIO計測（フリーラン/クリア）入力モード使用上の注意

TIO計測（フリーラン/クリア）入力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 計測イベント入力とカウンタへの書き込みが同一クロックで重なった場合、カウンタには書き込み値がセットされ、計測レジスタにも書き込み値が取り込まれます。

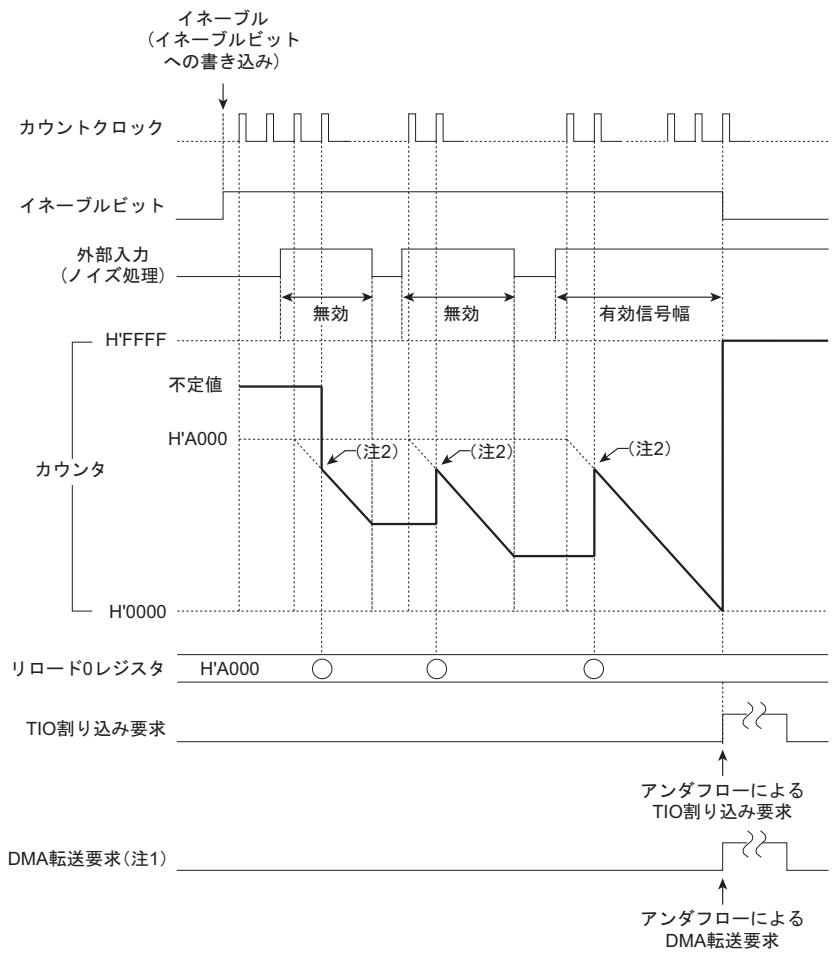
10.4.10　TIOノイズ処理入力モードの動作

ノイズ処理入力モードは、入力信号が一定時間以上同じ状態であったことを検出します。

ノイズ処理入力モードでは、外部入力の"L"または"H"レベルでカウンタを動作させ、カウンタがアンダフローするまで一定時間以上同じ状態であれば、割り込み要求を発生して停止します。有効なレベルの信号が入力されても、カウンタアンダフロー前に無効になった場合はいったんカウントを停止し、再度有効なレベルが入力された次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロード0レジスター1"の値をカウンタにリロードしてカウント動作を再開します。有効カウント幅はリロード0レジスタの設定値＋1です。

タイマの停止は、カウンタアンダフロー時、またはイネーブルビットへのカウント停止書き込みと同時に行われます。

また、カウンタのアンダフローで割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。



注1.　TIO8のみ発生可能です。
注2.　"リロード0レジスタ-1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.8　ノイズ処理入力モードの動作例

10.4.11　TIO PWM出力モード動作

(1) TIO PWM出力モード概要

PWM出力モードは、2つのリロードレジスタを使って、任意のデューティ比の波形を発生するモードです。

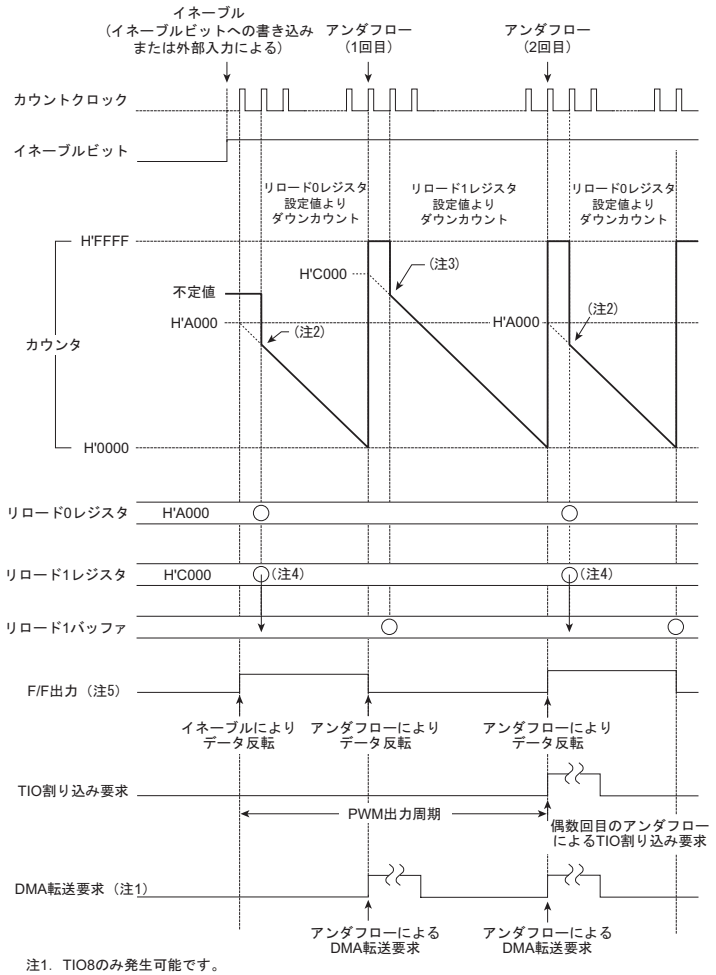
リロード0レジスタと、リロード1レジスタに初期値を設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロード0レジスター1"の値をカウンタにロードし、ダウンカウントを開始します。1回目のカウンタアンダフローの次のサイクルで、"リロード1レジスター1"の内容をカウンタにロードし、以後アンダフロー発生ごとに、リロード0レジスタとリロード1レジスタのリロードを交互に繰り返します。リロード0レジスタの設定値＋1、リロード1レジスタの設定値＋1が、それぞれカウント値として有効です。

タイマの停止は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みを行うと同時に行われます（PWM出力周期には同期しません）。

PWM出力モードのF/F出力波形はカウント開始時と各アンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）します。

また、カウンタイネーブル後の偶数回目のアンダフローによる割り込み発生と、カウンタのアンダフローごとにDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

なお、TIOのPWM出力モードには補正機能はありません。

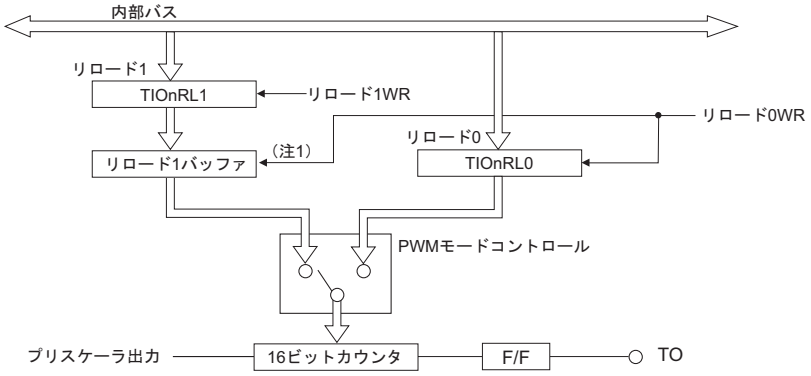


注1.　TIO8のみ発生可能です。
注2.　"リロード0レジスタ-1"の値がリロードされます。
注3.　"リロード1バッファ-1"の値がリロードされます。
注4.　リロード0レジスタ更新後のリロード0をリロード時に、リロード1バッファの転送が行われます。
注5.　タイマ動作中のリロード0、リロード1レジスタの更新は、現在出力中のPWM波形には影響を及ぼしません。
　　リロード0レジスタ更新後の次のPWM周期より更新が反映されます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.9　PWM出力モードの動作例

(2) TIO PWM出力モードにおけるリロードレジスタの更新

PWM出力モードで、タイマ停止中はリロード0､1レジスタの更新はレジスタへのデータ書き込みと同時に行われますが、タイマ動作中のリロード1レジスタの更新はリロード0レジスタ更新後のリロード0レジスタをリロード時に行われます。ただし、リロード0､1レジスタをリードすると、常に書き込んだデータが読み出されます。



注1. カウント動作中において、リロード0レジスタ更新後のリロード0レジスタリロード時に、
リロード1レジスタからリロード1バッファへ転送が行われます。

図10.4.10　PWM**回路図**

タイマ動作中にリロード0レジスタとリロード1レジスタを書き換えたい場合は、まずリロード1レジスタを書き換えてから、リロード0レジスタを書き換えてください。これによりPWM周期に同期してリロード0､1の両方のレジスタが更新された動作になります。

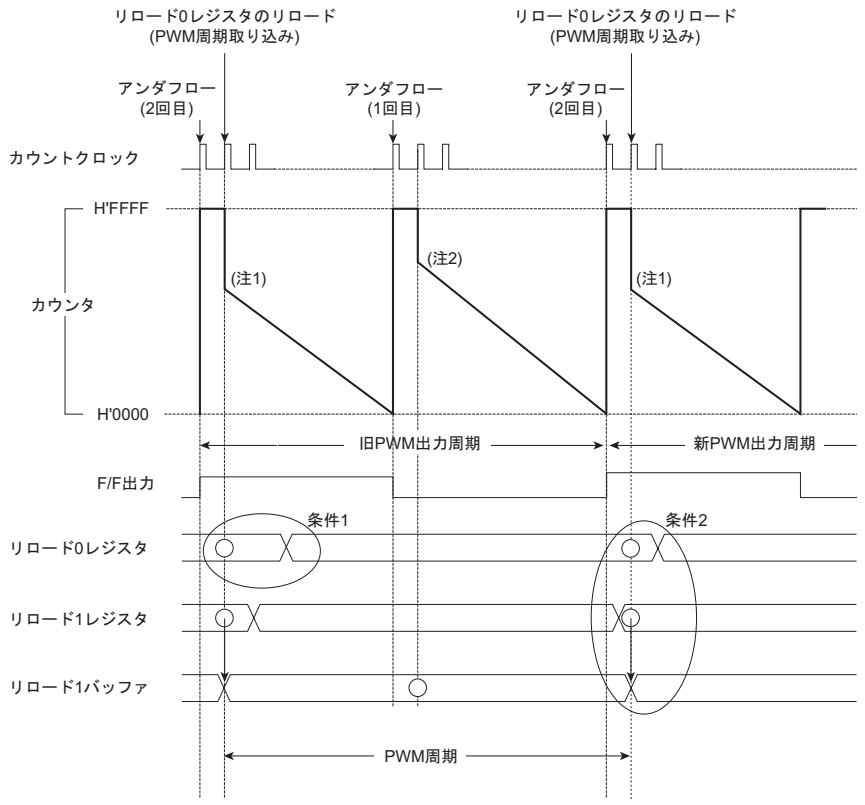
通常この操作はリロード1レジスタのアドレスから始まる32ビットのワードアクセスを行うことで、一括して行うことができます(自動的にリロード1→リロード0レジスタの書き込みが連続して行われます)。

また、リロード0､1レジスタをリード時、常に書き込んだデータが読み出され、実際に使用されているリロード値は読み出されません。

なお、PWM周期書き換え中、リロード0の書き込みまでにPWM周期が終了した場合、PWM周期の更新は今回行われず次の周期に反映されます。

PWM出力モードで動作中にPWM周期内でリロード0レジスタとリロード1レジスタを2回以上書き込み、下記2条件を同時に満たす場合、前回書き込みを行ったリロード0レジスタ値と、最終的に書き込みを行ったリロード1レジスタ値でPWM波形が出力されます。

条件1：旧PWM出力周期のリロード0レジスタのPWM周期取り込み後に、リロード0レジスタの書き込み実施。
条件2：新PWM出力周期のPWM周期取り込み前にリロード1レジスタを書き換え、PWM周期取り込み後にリロード0レジスタの書き込み実施。



注1.　"リロード0レジスタ-1"の値がリロードされます。
注2.　"リロード1バッファ-1"の値がリロードされます。
注.　・○：サンプリングポイントを示す。
　　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.11　PWM**周期の更新タイミング**

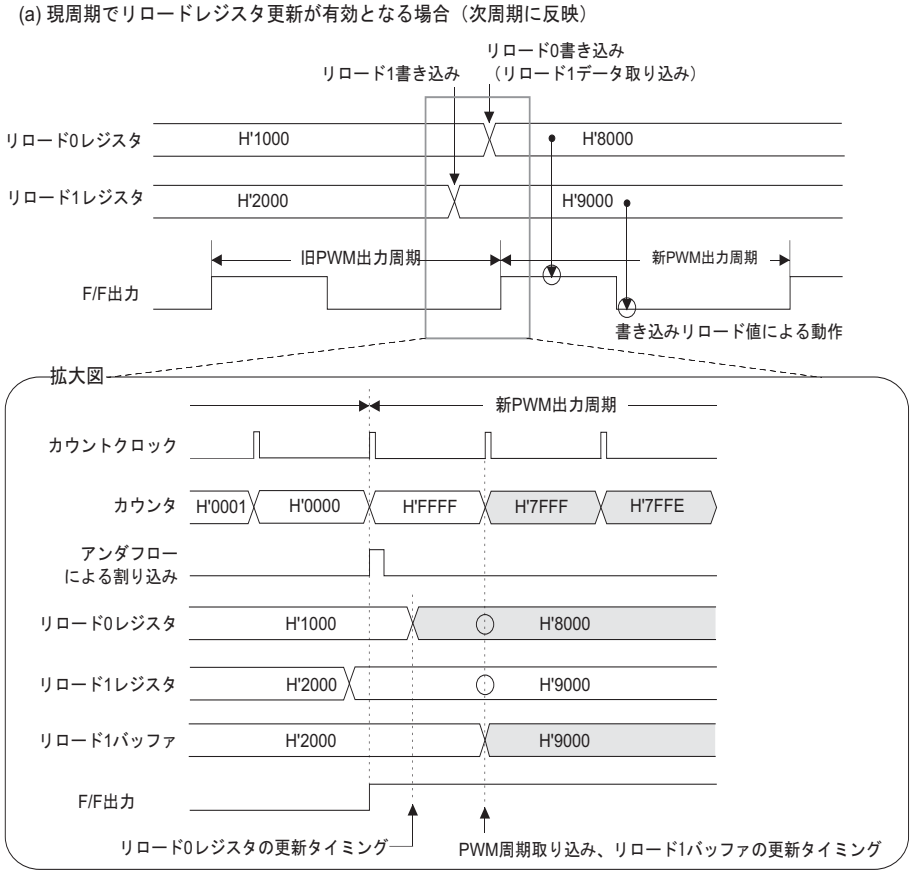
PWM周期の更新を正しく行うために、以下のいずれかのソフトウェア対策を行ってください。

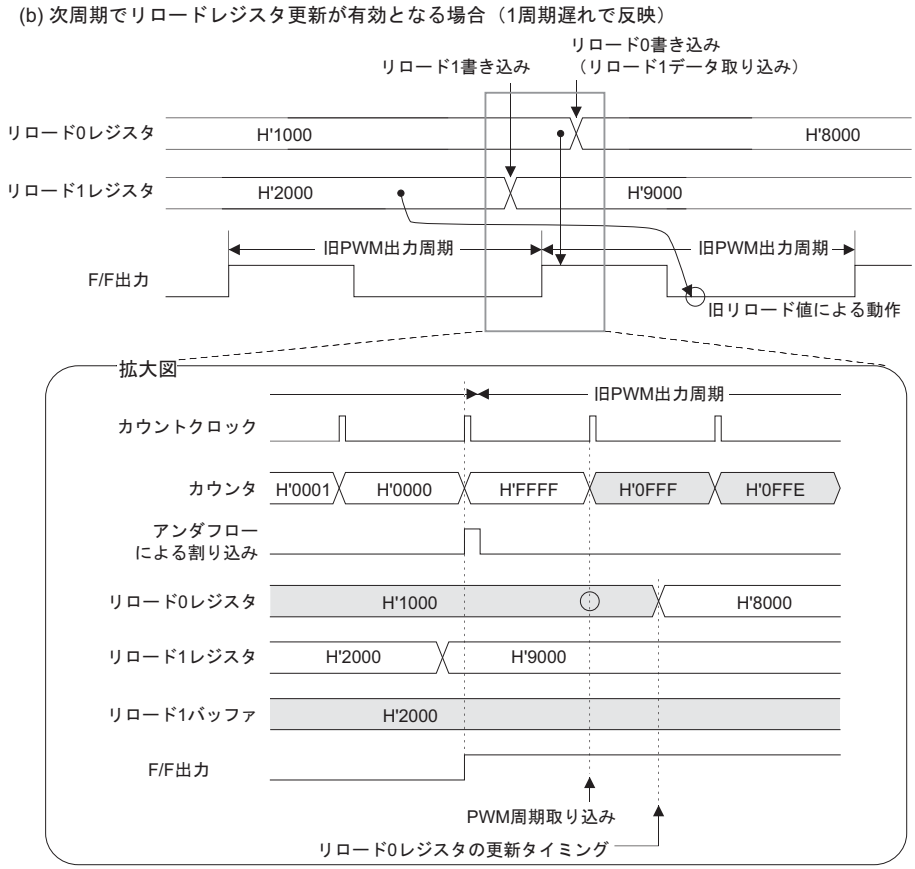
- リロード1レジスタとリロード0レジスタへの書き込み時にカウンタ値を読み出すことによってPWM周期の終了タイミングを判別し、PWM周期をまたがないようにリロード1レジスタとリロード0レジスタへの書き込みを行う。
- 割り込みを使用してリロード1レジスタとリロード0レジスタへの書き込みを行っている場合には、カウンタのプリスケーラ値をできる限り最小設定を行う。プリスケーラ値をできる限り最小にすることにより、PWM周期でH'FFFFとなる状態より後でリロード1レジスタとリロード0レジスタへの書き込みを行う。
- リロード1レジスタとリロード0レジスタの書き込みは、PWM周期あたり1回以下の周期で行う。（PWM周期に対して、リロードレジスタの書き換え周期を長くする。）

(3) TIO PWM**出力モード使用上の注意**

TIO PWM出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のカウントクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"の値をリロードします。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブル書き込みからF/F出力反転までに最大で1カウントクロック分のディレイが発生します。





注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.12　PWM**出力モードにおけるリロード**0**、**1**レジスタの更新**

10.4.12　TIOワンショット出力モード（補正機能なし）の動作

(1) TIOワンショット出力モード概要

ワンショット出力モードは、リロード0レジスタの設定値＋1の幅のパルスを1回だけ発生して止まるモードです。

リロード0レジスタ設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、次のサイクルにカウントクロックに同期して"リロード0レジスター1"の内容をカウンタにロードし、カウントを開始します。カウンタはダウンカウントを行い、アンダフローで停止します。

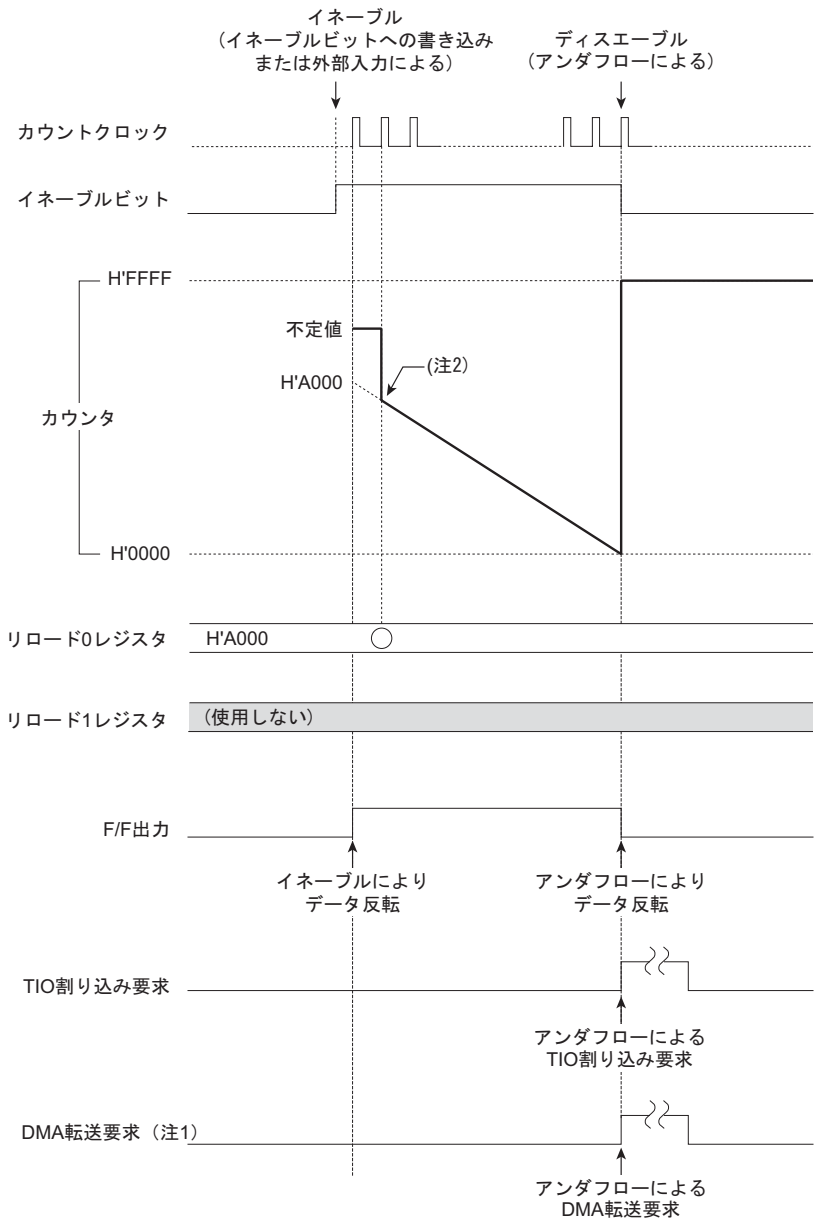
ワンショット出力モードのF/F出力波形は、起動時とアンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）し、リロード0レジスタ設定値＋1のワンショットパルス波形が1回だけ発生します。
また、カウンタのアンダフローで割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

カウント値はリロード0レジスタの設定値＋1です（カウント動作については「10.3.9 TOPワンショット出力モード」も参照してください）。

(2) TIOワンショット出力モード使用上の注意

TIOワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までに最大で1カウントクロック分のディレイが発生します。



注1.　TIO8のみ発生可能です。
注2.　"リロード0レジスタ-1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.13　TIO**ワンショット出力モード（補正機能なし）の動作例**

10.4.13　TIOディレイドワンショット出力モード（補正機能なし）の動作

(1) TIOディレイドワンショット出力モード概要

ディレイドワンショット出力モードは、リロード0レジスタの設定値＋1のパルスを、カウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生して止まるモードです。

カウンタとリロード0レジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタの設定値からダウンカウントを開始します。
1回目のカウンタアンダフローの次のサイクルで"リロード0レジスター1"の値をカウンタにロードし、さらにダウンカウントを続けて2回目のアンダフローでカウンタを停止します。

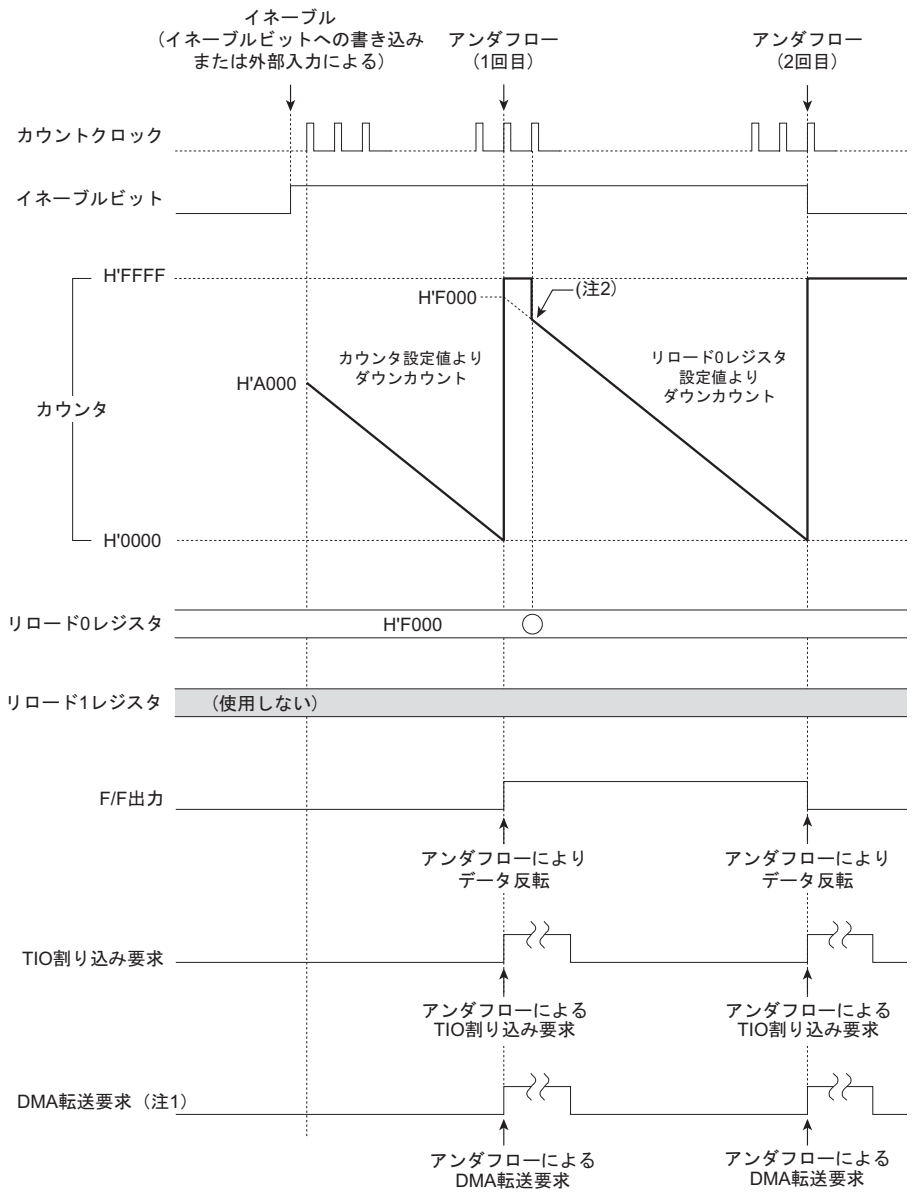
ディレイドワンショット出力モードのF/F出力波形は、1回目と2回目のアンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）し、リロード0レジスタ設定値＋1のワンショットパルス波形を、最初のカウンタ設定値＋1の分遅れて1回だけ発生します。
また、1回目と2回目のカウンタアンダフロー時に、それぞれ割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

カウンタの設定値＋1、リロード0レジスタの設定値＋1がカウント値として有効です（カウント動作については「10.3.10 TOPディレイドワンショット出力モード」も参照してください）。

(2) TIOディレイドワンショット出力モード使用上の注意

TIOディレイドワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のカウントクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"の値をリロードします。



注1.　TIO8のみ発生可能です。
注2.　"リロード0レジスタ−1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.14　TIO**ディレイドワンショット出力モード（補正機能なし）の動作例**

10.4.14　TIO連続出力モード（補正機能なし）の動作

(1) TIO連続出力モード概要

連続出力モードは、カウンタの設定値からダウンカウントを行い、カウンタのアンダフローの次のサイクルで"リロード0レジスター1"の値をロードします。以後カウンタのアンダフローごとにこの動作を繰り返し、リロード0レジスタ設定値＋1で反転する連続的なパルスを発生します。

カウンタとリロード0レジスタの設定後、タイマをイネーブル（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み、または外部入力によるイネーブル）すると、カウントクロックに同期してカウンタ設定値からダウンカウントを開始し、アンダフローを発生します。
このアンダフローの次のサイクルで"リロード0レジスター1"の内容をカウンタにロードし、再度カウントを行います。以後アンダフロー発生ごとにこの動作を繰り返します。カウンタを停止する場合は、イネーブルビットへのソフトウェア書き込みでカウントを禁止します。カウンタにリロードするタイミングは、アンダフローの次のサイクルです。

連続出力モードのF/F出力波形は、起動時とアンダフロー発生時に反転（F/F出力レベルが"L"→"H"、または"H"→"L"に変化）し、カウント停止まで連続的なパルス波形を出力します。
また、カウンタのアンダフローごとに、割り込み要求、およびDMA転送要求（TIO8のみ可能）を発生することができます。

カウンタの設定値＋1、リロード0レジスタの設定値＋1がカウント値として有効です（カウント動作については「10.3.11 TOP連続出力モード（補正機能なし）の動作」も参照してください）。

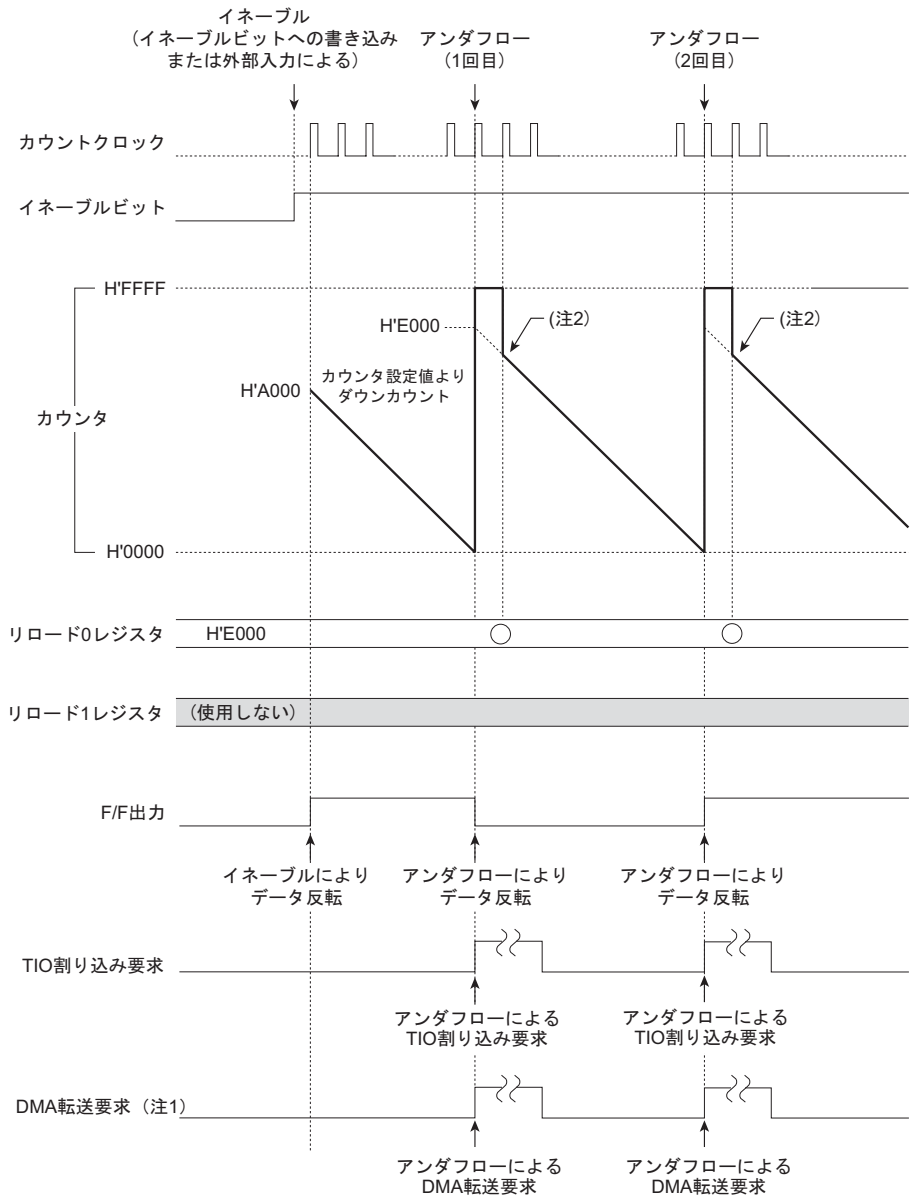
(2) TIO連続出力モード使用上の注意

TIO連続出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。

- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"の値をリロードします。

- タイマ動作はカウントクロック出力に同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までに最大で1カウントクロック分のディレイが発生します。



注1.　TIO8のみ発生可能です。
注2.　"リロード0レジスタ-1"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.4.15　TIO**連続出力モード（補正機能なし）の動作例**

10.5　TMS（入力系16ビットタイマ）

10.5.1　TMS概要

TMS（Timer Measure Small）は入力系16ビットタイマで、2系統、計8チャネルの入力パルス計測が可能です。

以下にTMSの仕様を示します。また、図10.5.1にTMSブロック図を示します。

表10.5.1　TMS（入力系16ビットタイマ）の仕様

項目	仕様
チャネル数	8チャネル（2系統　各4チャネル、計8チャネル）
カウンタ	16ビットアップカウンタ（2本）
計測レジスタ	16ビット計測レジスタ（8本）
タイマの起動	イネーブルビットへのソフトウェア書き込み
割り込み要求発生	カウンタのオーバフローで発生可能

10.5.2　TMSの動作概要

TMSは、タイマの起動（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み）により、カウンタの動作を開始します。カウンタは16ビットのアップカウンタで、外部入力による計測信号の発生で、カウンタ値を各計測レジスタに取り込みます。

カウントの停止は、ソフトウェアによるイネーブルビットへのカウント禁止書き込みと同時に行われます。

外部計測信号の入力でTIN割り込み（TMS0にはTIN割り込みはありません）を、またカウンタのオーバフロー発生でTMS割り込み要求を発生することができます。

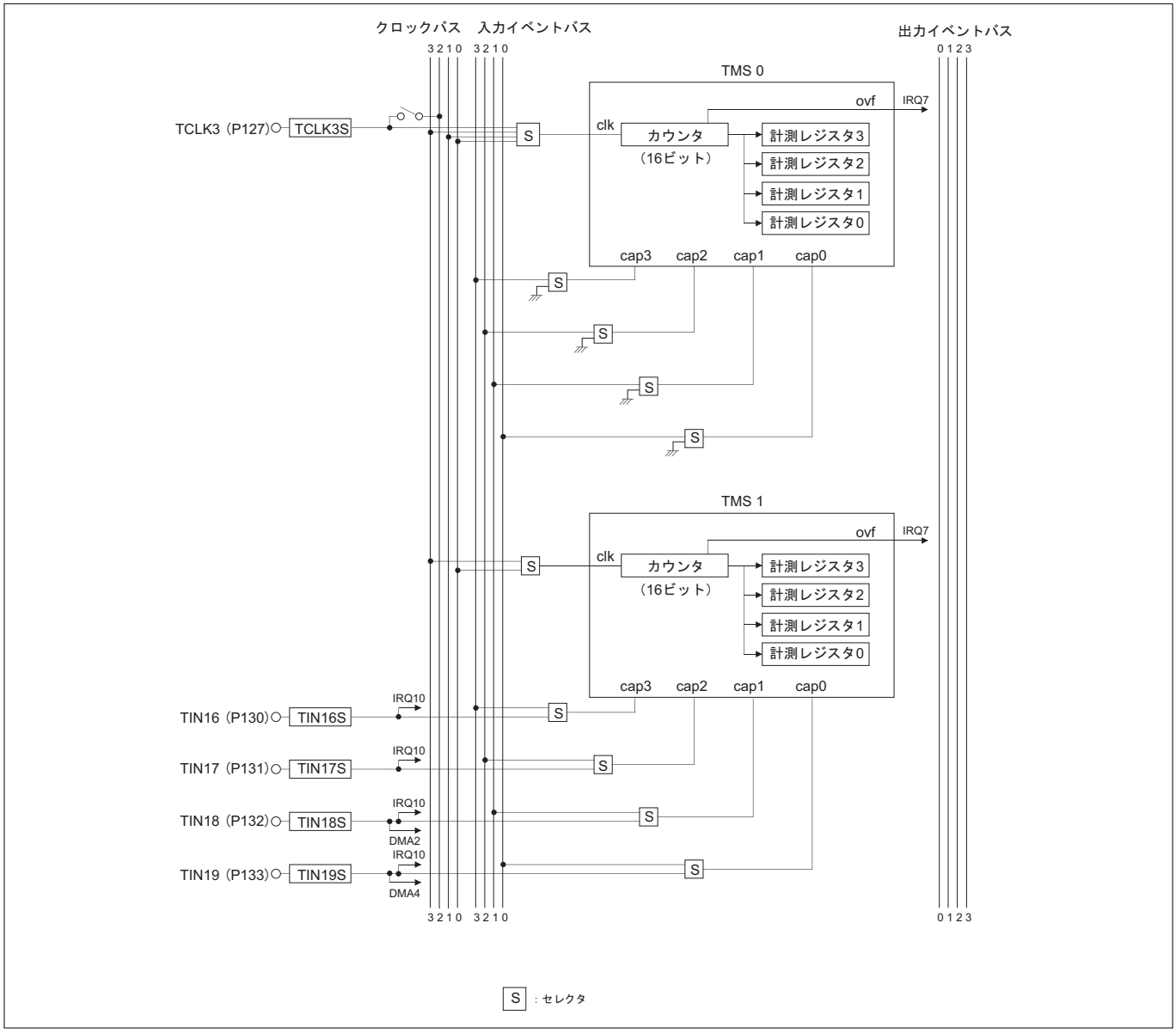


図10.5.1　TMS（**入力系**16**ビットタイマ**）**ブロック図**

＜カウントクロック分のディレイ＞

- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからタイマ動作開始までにカウントクロック分のディレイを含みます。

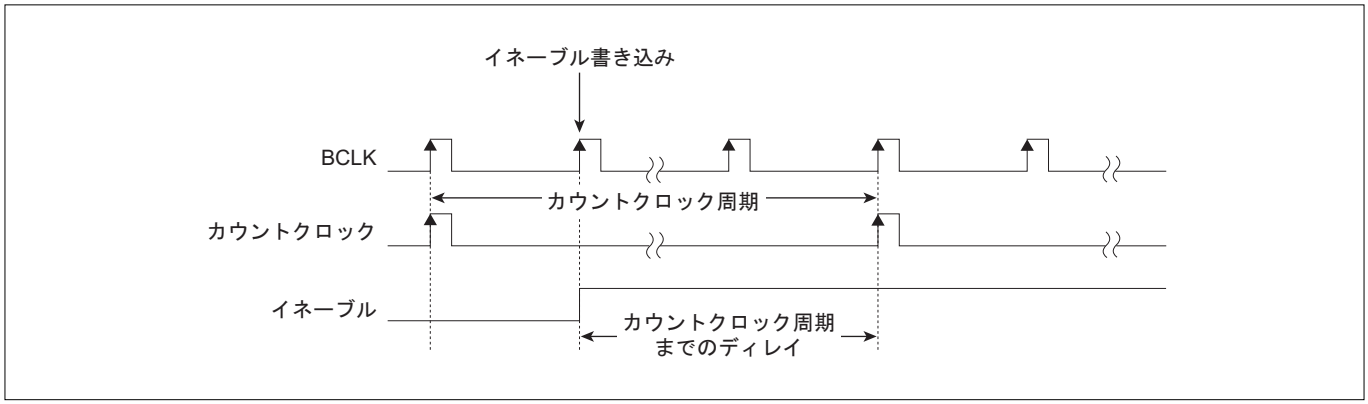


図10.5.2　**カウントクロック分のディレイ**

10.5.3　TMS関連レジスタマップ

以下にTMS関連のレジスタマッピングを示します。

TMS関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 03C0	TMS0カウンタ（TMS0CT）		10-109
H'0080 03C2	TMS0計測3レジスタ（TMS0MR3）		10-109
H'0080 03C4	TMS0計測2レジスタ（TMS0MR2）		10-109
H'0080 03C6	TMS0計測1レジスタ（TMS0MR1）		10-109
H'0080 03C8	TMS0計測0レジスタ（TMS0MR0）		10-109
H'0080 03CA	TMS0制御レジスタ（TMS0CR）	TMS1制御レジスタ（TMS1CR）	10-108
～	（使用禁止領域）		
H'0080 03D0	TMS1カウンタ（TMS1CT）		10-109
H'0080 03D2	TMS1計測3レジスタ（TMS1MR3）		10-109
H'0080 03D4	TMS1計測2レジスタ（TMS1MR2）		10-109
H'0080 03D6	TMS1計測1レジスタ（TMS1MR1）		10-109
H'0080 03D8	TMS1計測0レジスタ（TMS1MR0）		10-109

10.5.4　TMS制御レジスタ

TMS制御レジスタは、TMS0、1の入力イベント選択、カウントクロックの入力選択およびカウントイネーブルの制御を行います。

TMS制御レジスタには、以下のレジスタがあります。

- TMS0制御レジスタ（TMS0CR）
- TMS1制御レジスタ（TMS1CR）

TMS0制御レジスタ（TMS0CR）　　＜アドレス：H'0080 03CA＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
TMS0 SS0	TMS0 SS1	TMS0 SS2	TMS0 SS3	TMS0CKS			TMS0CEN
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	TMS0SS0 TMS0計測0ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス0選択	R	W
1	TMS0SS1 TMS0計測1ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス1選択	R	W
2	TMS0SS2 TMS0計測2ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス2選択	R	W
3	TMS0SS3 TMS0計測3ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス3選択	R	W
4,5	TMS0CKS TMS0クロックソース選択ビット	00：外部入力TCLK3選択 01：クロックバス0選択 10：クロックバス1選択 11：クロックバス3選択	R	W
6	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
7	TMS0CEN TMS0カウントイネーブルビット	0：カウント停止 1：カウント開始	R	W

TMS1制御レジスタ（TMS1CR）　　＜アドレス：H'0080 03CB＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TMS1 SS0	TMS1 SS1	TMS1 SS2	TMS1 SS3		TMS1CKS		TMS1CEN
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	TMS1SS0 TMS1計測0ソース選択ビット	0：外部入力TIN19選択 1：入力イベントバス0選択	R	W
9	TMS1SS1 TMS1計測1ソース選択ビット	0：外部入力TIN18選択 1：入力イベントバス1選択	R	W
10	TMS1SS2 TMS1計測2ソース選択ビット	0：外部入力TIN17選択 1：入力イベントバス2選択	R	W
11	TMS1SS3 TMS1計測3ソース選択ビット	0：外部入力TIN16選択 1：入力イベントバス3選択	R	W
12	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
13	TMS1CKS TMS1クロックソース選択ビット	0：クロックバス0選択 1：クロックバス3選択	R	W
14	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
15	TMS1CEN TMS1カウントイネーブルビット	0：カウント停止 1：カウント開始	R	W

10.5.5　TMSカウンタ（TMS0CT, TMS1CT）

TMS0カウンタ（TMS0CT）　＜アドレス：H'0080 03C0＞
TMS1カウンタ（TMS1CT）　＜アドレス：H'0080 03D0＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TMS0CT, TMS1CT															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TMS0CT, TMS1CT	16ビットカウンタ値	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

TMSカウンタは16ビットのアップカウンタで、タイマの起動（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み）によりカウント動作を開始します。
カウンタは動作中の読み出しが可能です。

10.5.6　TMS計測レジスタ（TMS0MR3～0, TMS1MR3～0）

TMS0計測3レジスタ（TMS0MR3）　＜アドレス：H'0080 03C2＞
TMS0計測2レジスタ（TMS0MR2）　＜アドレス：H'0080 03C4＞
TMS0計測1レジスタ（TMS0MR1）　＜アドレス：H'0080 03C6＞
TMS0計測0レジスタ（TMS0MR0）　＜アドレス：H'0080 03C8＞
TMS1計測3レジスタ（TMS1MR3）　＜アドレス：H'0080 03D2＞
TMS1計測2レジスタ（TMS1MR2）　＜アドレス：H'0080 03D4＞
TMS1計測1レジスタ（TMS1MR1）　＜アドレス：H'0080 03D6＞
TMS1計測0レジスタ（TMS1MR0）　＜アドレス：H'0080 03D8＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TMS0MR3-0, TMS1MR3-0															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TMS0MR3～TMS0MR0 TMS1MR3～TMS1MR0	16ビットカウンタ値	R	－

注．・このレジスタは読み出しのみ可能です。
・このレジスタはバイトでもハーフワードでもアクセス可能です。

TMS計測レジスタは、イベント入力時にカウンタの内容を取り込むレジスタです。TMS計測レジスタは、読み出しのみ可能です。

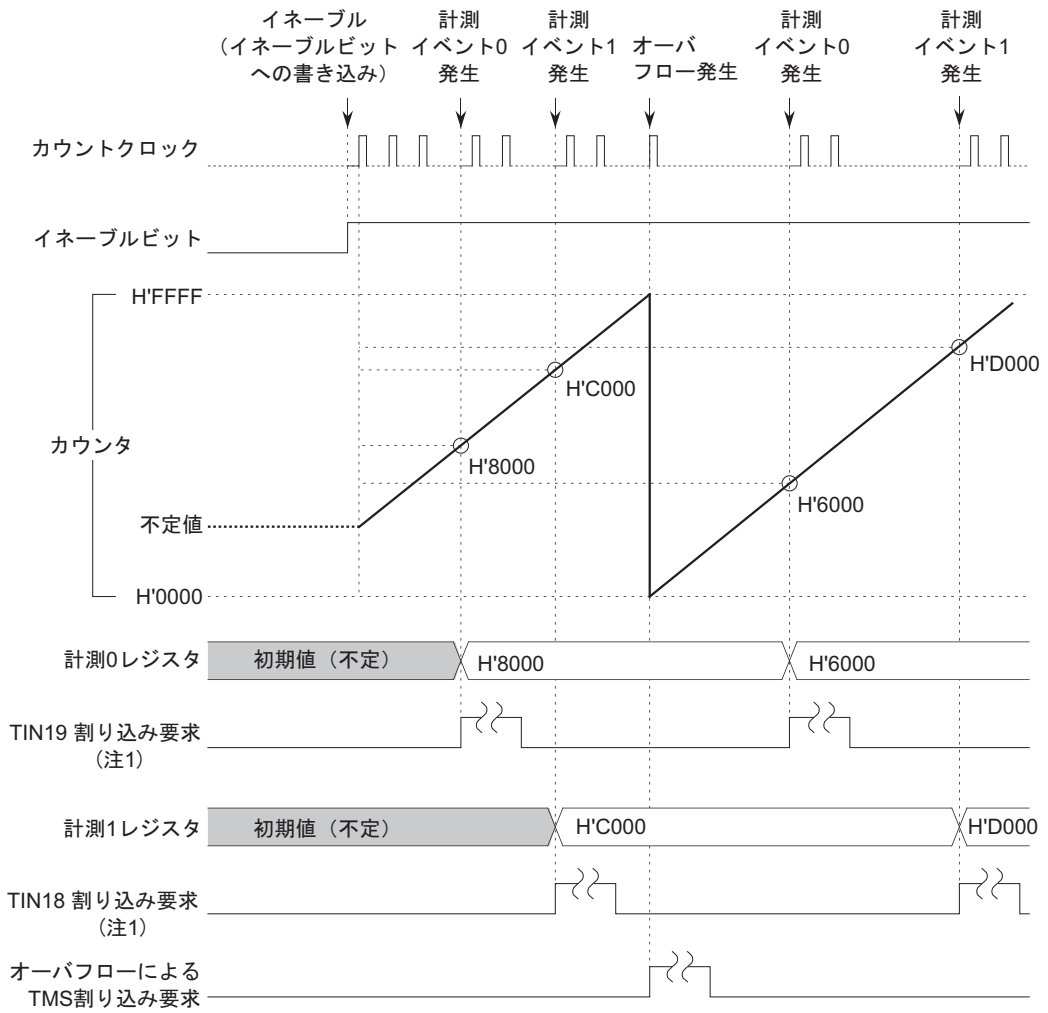
10.5.7　TMS計測入力の動作

(1) TMS計測入力概要

TMS計測入力では、まずタイマの起動（イネーブルビットへのソフトウェア書き込み）によりアップカウントを開始します。タイマ動作中にTMSへイベント入力がある場合、計測レジスタ0～3にカウンタ値を取り込みます。

タイマの停止は、イネーブルビットへのカウント停止書き込みと同時に行われます。

外部から計測信号が入力された場合にはTIN割り込み（TMS1のみ。TMS0にはTIN割り込み要求がありません）を、またカウンタがオーバフローした場合にはTMS割り込み要求を発生することができます。



注1. TMS1のみTIN割り込みがあります（TMS0にはTIN割り込みはありません）。
注. ・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.5.3　TMS計測入力の動作例

(2) TMS計測入力使用上の注意

TMS計測入力を使用する場合の注意点を以下に示します。

- 計測イベント入力と、カウンタへの書き込みが同一クロックで重なった場合、カウンタには書き込み値がセットされ、計測レジスタにも書き込み値が取り込まれます。

10.6　TML（入力系32ビットタイマ）

10.6.1　TML概要

TML（Timer Measure Large）は入力系32ビットタイマで、2系統、計8チャネルの入力パルス計測が可能です。

以下にTMLの仕様を示します。図10.6.1にTMLブロック図を示します。

表10.6.1　TML（入力系32ビットタイマ）の仕様

項目	仕様
チャネル数	8チャネル（2系統、各4チャネル、計8チャネル）
入力クロック	BCLK/2（f(BCLK)＝20MHz時は10.0MHz） または、クロックバス1入力
カウンタ	32ビットアップカウンタ（2本）
計測レジスタ	32ビット計測レジスタ（8本）
タイマの起動	リセット解除後カウント動作開始

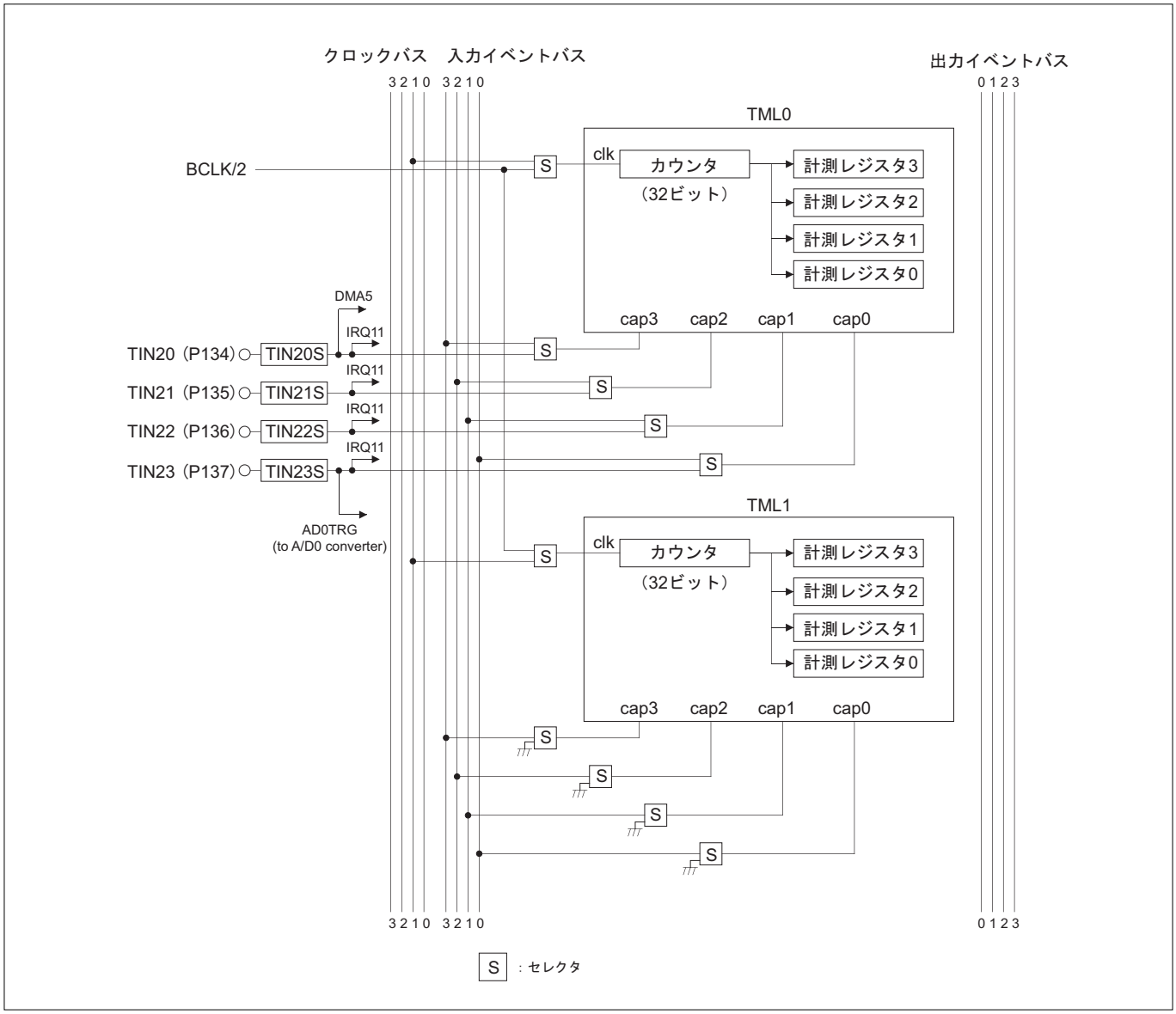


図10.6.1　TML（入力系32ビットタイマ）ブロック図

10.6.2　TMLの動作概要

TMLは、リセット解除により、カウンタの動作を開始します。カウンタは32ビットのアップカウンタで、外部入力による計測イベント信号の発生で、その時点のカウンタ値を各計測レジスタ（32ビット）に格納します。

カウンタはリセット解除により、BCLK/2で動作を開始します。動作開始後カウンタを停止させることはできません。リセット中のみカウントを停止します。

外部計測信号の入力でTIN割り込み要求を発生することができます（TML0のみ。TML1にはTIN割り込みがありません）。ただし、TMLカウンタのオーバフロー割り込み要求はありません。

10.6.3　TML関連レジスタマップ

以下にTML関連のレジスタマップ示します。

TML関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0	b7	＋1番地 b8	b15	掲載ページ
H'0080 03E0	TML0カウンタ（上位）（TML0CTH）				10-114
H'0080 03E2	TML0カウンタ（下位）（TML0CTL）				10-114
～	（使用禁止領域）				
H'0080 03EA	（使用禁止領域）		TML0制御レジスタ（TML0CR）		10-113
～	（使用禁止領域）				
H'0080 03F0	TML0計測3レジスタ（上位）（TML0MR3H）				10-115
H'0080 03F2	TML0計測3レジスタ（下位）（TML0MR3L）				10-115
H'0080 03F4	TML0計測2レジスタ（上位）（TML0MR2H）				10-115
H'0080 03F6	TML0計測2レジスタ（下位）（TML0MR2L）				10-115
H'0080 03F8	TML0計測1レジスタ（上位）（TML0MR1H）				10-115
H'0080 03FA	TML0計測1レジスタ（下位）（TML0MR1L）				10-115
H'0080 03FC	TML0計測0レジスタ（上位）（TML0MR0H）				10-115
H'0080 03FE	TML0計測0レジスタ（下位）（TML0MR0L）				10-115
～	（使用禁止領域）				
H'0080 0FE0	TML1カウンタ上位（TML1CTH）				10-114
H'0080 0FE2	TML1カウンタ下位（TML1CTL）				10-114
～	（使用禁止領域）				
H'0080 0FEA	（使用禁止領域）		TML1制御レジスタ（TML1CR）		10-113
～	（使用禁止領域）				
H'0080 0FF0	TML1計測3レジスタ（上位）（TML1MR3H）				10-116
H'0080 0FF2	TML1計測3レジスタ（下位）（TML1MR3L）				10-116
H'0080 0FF4	TML1計測2レジスタ（上位）（TML1MR2H）				10-116
H'0080 0FF6	TML1計測2レジスタ（下位）（TML1MR2L）				10-116
H'0080 0FF8	TML1計測1レジスタ（上位）（TML1MR1H）				10-116
H'0080 0FFA	TML1計測1レジスタ（下位）（TML1MR1L）				10-116
H'0080 0FFC	TML1計測0レジスタ（上位）（TML1MR0H）				10-116
H'0080 0FFE	TML1計測0レジスタ（下位）（TML1MR0L）				10-116

10.6.4　TML制御レジスタ

TML0制御レジスタ（TML0CR）　　＜アドレス：H'0080 03EB＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TML0SS0	TML0SS1	TML0SS2	TML0SS3				TML0CKS
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	TML0SS0 TML0計測0ソース選択ビット	0：外部入力TIN23選択 1：入力イベントバス0選択	R	W
9	TML0SS1 TML0計測1ソース選択ビット	0：外部入力TIN22選択 1：入力イベントバス1選択	R	W
10	TML0SS2 TML0計測2ソース選択ビット	0：外部入力TIN21選択 1：入力イベントバス2選択	R	W
11	TML0SS3 TML0計測3ソース選択ビット	0：外部入力TIN20選択 1：入力イベントバス3選択	R	W
12～14	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
15	TML0CKS（注1） TML0クロックソース選択ビット	0：BCLK/2選択 1：クロックバス1選択	R	W

注1．クロックソースとして、BCLK/2が入力されている場合のみ、カウンタの正常書き込みが可能です。BCLK/2以外のクロックを使用すると、カウンタの書き込みが正常にできません。この条件でカウンタへの書き込みは行わないでください。

TML1制御レジスタ（TML1CR）　　＜アドレス：H'0080 0FEB＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TML1SS0	TML1SS1	TML1SS2	TML1SS3				TML1CKS
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	TML1SS0 TML1計測0ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス0選択	R	W
9	TML1SS1 TML1計測1ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス1選択	R	W
10	TML1SS2 TML1計測2ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス2選択	R	W
11	TML1SS3 TML1計測3ソース選択ビット	0：計測ソースを使用しません 1：入力イベントバス3選択	R	W
12～14	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
15	TML1CKS（注1） TML1クロックソース選択ビット	0：BCLK/2選択 1：クロックバス1選択	R	W

注1．クロックソースとして、BCLK/2が入力されている場合のみ、カウンタの正常書き込みが可能です。BCLK/2以外のクロックを使用すると、カウンタの書き込みが正常にできません。この条件でカウンタへの書き込みは行わないでください。

TML制御レジスタは、TMLの入力イベント選択およびカウントクロックの選択を行います。

10.6.5　TMLカウンタ

TML0カウンタ上位（TML0CTH）　＜アドレス：H'0080 03E0＞
TML0カウンタ下位（TML0CTL）　＜アドレス：H'0080 03E2＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML0CTH（上位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML0CTL（下位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TML0CTH	32ビットカウンタ値（上位16ビット）	R	W
	TML0CTL	32ビットカウンタ値（下位16ビット）		

注．・このレジスタは必ずTML0CTHのアドレスから始まるワード（32ビット）でアクセスしてください。

TML0カウンタは32ビットのアップカウンタで、リセット解除後、カウント動作を開始します。TML0CTHが32ビットカウンタの上位16ビット、TML0CTLが下位16ビットのレジスタです。
カウンタは動作中の読み出しが可能です。

TML1カウンタ上位（TML1CTH）　＜アドレス：H'0080 0FE0＞
TML1カウンタ下位（TML1CTL）　＜アドレス：H'0080 0FE2＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML1CTH（上位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML1CTL（下位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TML1CTH	32ビットカウンタ値（上位16ビット）	R	W
	TML1CTL	32ビットカウンタ値（下位16ビット）		

注．・このレジスタは必ずTML1CTHのアドレスから始まるワード（32ビット）でアクセスしてください。

TML1カウンタは32ビットのアップカウンタで、リセット解除後、カウント動作を開始します。TML1CTHが32ビットカウンタの上位16ビット、TML1CTLが下位16ビットのレジスタです。
カウンタは動作中の読み出しが可能です。

10.6.6　TML計測レジスタ

TML0計測3レジスタ（TML0MR3H）　＜アドレス：H'0080 03F0＞
TML0計測3レジスタ（TML0MR3L）　＜アドレス：H'0080 03F2＞
TML0計測2レジスタ（TML0MR2H）　＜アドレス：H'0080 03F4＞
TML0計測2レジスタ（TML0MR2L）　＜アドレス：H'0080 03F6＞
TML0計測1レジスタ（TML0MR1H）　＜アドレス：H'0080 03F8＞
TML0計測1レジスタ（TML0MR1L）　＜アドレス：H'0080 03FA＞
TML0計測0レジスタ（TML0MR0H）　＜アドレス：H'0080 03FC＞
TML0計測0レジスタ（TML0MR0L）　＜アドレス：H'0080 03FE＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML0MR3H-TML0MR0H（上位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML0MR3L-TML0MR0L（下位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TML0MR3H～0H	32ビット計測レジスタ値（上位16ビット）	R	ー
	TML0MR3L～0L	32ビット計測レジスタ値（下位16ビット）		

注．・これらのレジスタは読み出しのみ可能です。
・これらのレジスタは必ずワード境界からワード（32ビット）単位でアクセスしてください。

TML0計測レジスタは、イベント入力時にカウンタの内容を取り込むレジスタです。TML0計測レジスタは32ビット構成でTML0MR3H～0Hが上位16ビット、TML0MR3L～0Lが下位16ビットのレジスタです。TML0計測レジスタは、読み出しのみ可能です。レジスタへのアクセスは必ずワード境界からのワード単位で行ってください。

TML1計測3レジスタ（TML1MR3H）　＜アドレス：H'0080 0FF0＞
TML1計測3レジスタ（TML1MR3L）　＜アドレス：H'0080 0FF2＞
TML1計測2レジスタ（TML1MR2H）　＜アドレス：H'0080 0FF4＞
TML1計測2レジスタ（TML1MR2L）　＜アドレス：H'0080 0FF6＞
TML1計測1レジスタ（TML1MR1H）　＜アドレス：H'0080 0FF8＞
TML1計測1レジスタ（TML1MR1L）　＜アドレス：H'0080 0FFA＞
TML1計測0レジスタ（TML1MR0H）　＜アドレス：H'0080 0FFC＞
TML1計測0レジスタ（TML1MR0L）　＜アドレス：H'0080 0FFE＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML1MR3H-TML1MR0H（上位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
TML1MR3L-TML1MR0L（下位16ビット）															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	TML1MR3H～0H	32ビット計測レジスタ値（上位16ビット）	R	ー
	TML1MR3L～0L	32ビット計測レジスタ値（下位16ビット）		

注．・これらのレジスタは読み出しのみ可能です。
・これらのレジスタは必ずワード境界からワード（32ビット）単位でアクセスしてください。

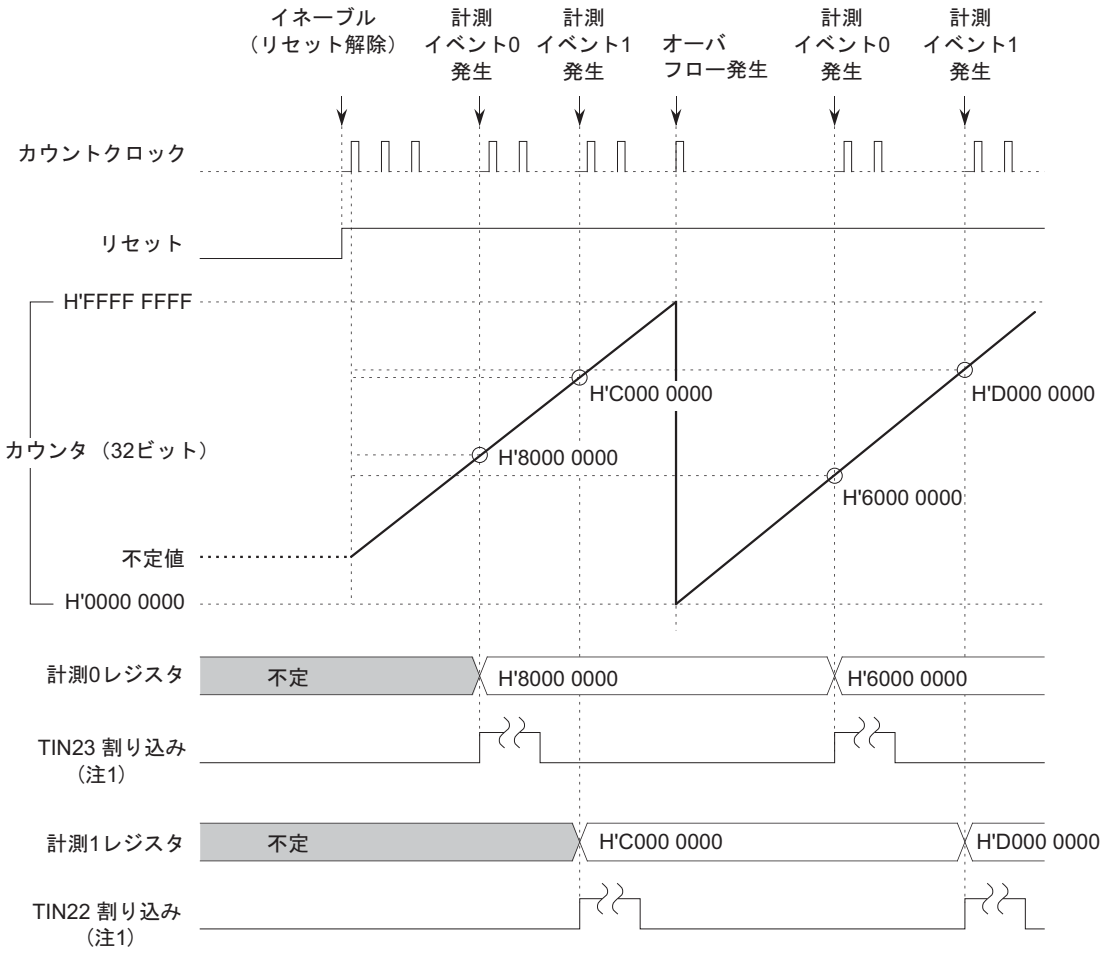
TML1計測レジスタは、イベント入力時にカウンタの内容を取り込むレジスタです。TML1計測レジスタは32ビット構成でTML1MR3H～0Hが上位16ビット、TML1MR3L～0Lが下位16ビットのレジスタです。TML1計測レジスタは、読み出しのみ可能です。レジスタへのアクセスは必ずワード境界からのワード単位で行ってください。

10.6.7　TML計測入力の動作

(1) TML計測入力概要

TML計測入力では、リセット解除によりアップカウントを開始します。計測レジスタ0～3 へイベント入力があると、カウンタ値を計測レジスタに取り込みます。

外部計測信号の入力でTIN割り込み要求を発生することができます（TML0のみ。TML1にはTIN割り込みはありません）。ただし、カウンタのオーバフロー割り込み要求はありません。



注1.　TML0のみTIN割り込みがあります（TML1にはTIN割り込みはありません。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図10.6.2　TML**計測入力の動作例**

(2) TML計測入力使用上の注意

TML計測入力を使用する場合の注意点を以下に示します。

- 計測イベント入力と、カウンタへの書き込みが同一クロックで重なった場合、カウンタには書き込み値がセットされますが、計測レジスタには(書き換え前の)アップカウント値が取り込まれます。
- クロックバス1を選択した場合で、BCLK/2以外のクロックを使用すると、カウンタへの書き込みが正常にできなくなりますので、BCLK/2以外のクロックを使用した場合はカウンタへの書き込みを行わないでください。
- クロックバス1を選択した場合で、BCLK/2以外のクロックを使用すると、キャプチャ値として、カウンタ値よりも1つ進んだ値を取り込みます。ただし、カウントクロックからBCLK/2周期の間は、カウント値の値を取り込みます。

以下にカウンタ動作とキャプチャ可能なデータの関係を示します。

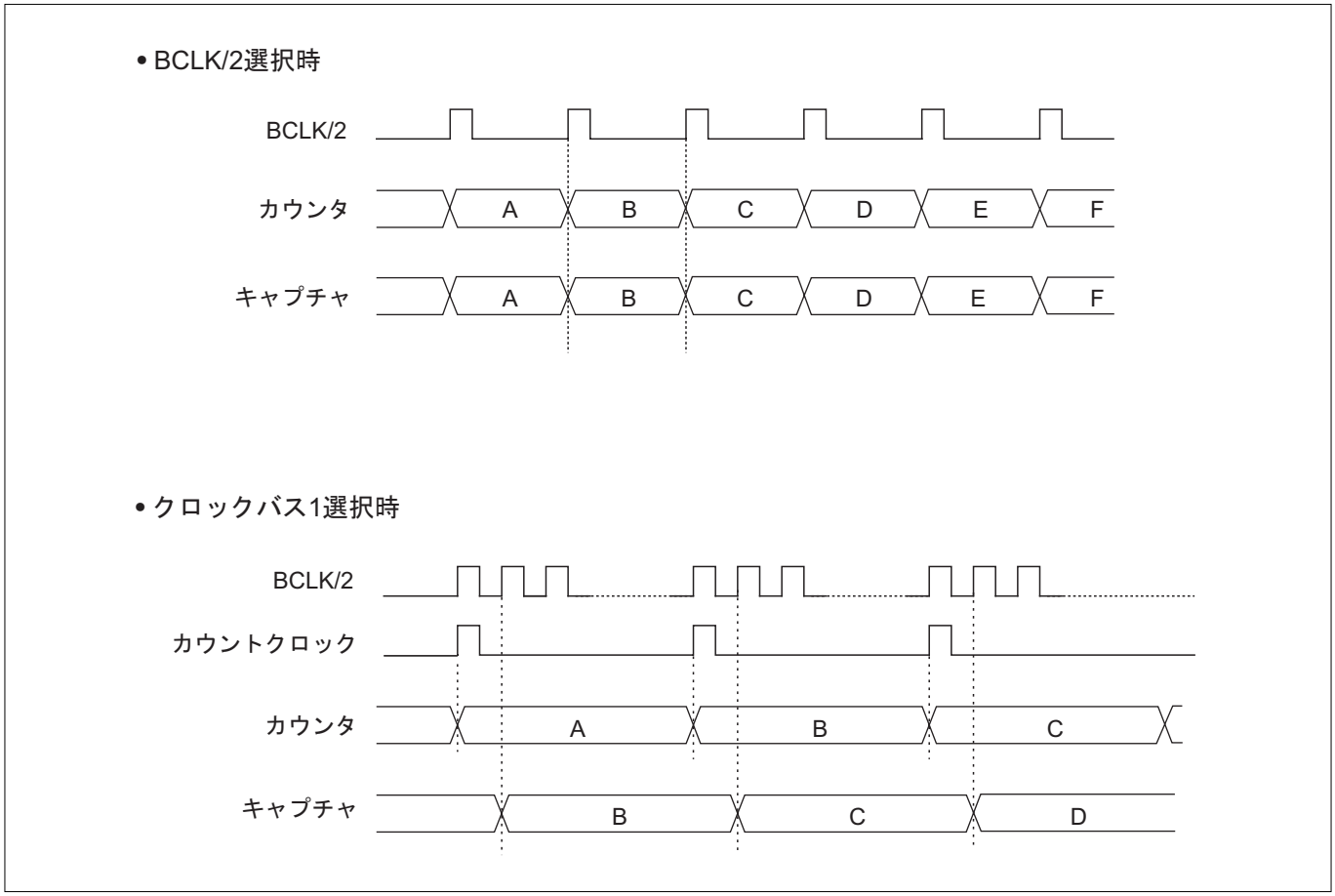


図10.6.3　カウンタ値とキャプチャ値のずれ

第11章

A/Dコンバータ

11.1　A/Dコンバータ概要
11.2　A/Dコンバータ関連レジスタ
11.3　A/Dコンバータ機能説明
11.4　注入電流バイパス回路
11.5　A/Dコンバータの注意事項

11.1　A/Dコンバータ概要

32176は、10ビット分解能を持つ逐次近似比較方式のA/Dコンバータを内蔵しています。アナログ入力端子(チャネル)は、AD0IN0～AD0IN15の16チャネルあり、各チャネルの単独変換のほかに、N(N＝1～16)チャネルを1つのグループとした連続的なA/D変換が可能です。

また、A/D変換値は、10ビットまたは8ビットで読み出すことができます。

A/D変換には、以下に示す変換モードと動作モードがあります。

(1) 変換モード

- **A/D変換モード　：通常のアナログ入力電圧をA/D変換するモード**
- **コンパレータモード(注1)　：設定した比較電圧とアナログ入力電圧を比較して、その大小のみを得るモード(単一モードのみ)**

(2) 動作モード

- **単一モード　：1チャネルのアナログ入力電圧を1回A/D変換、またはコンパレート(注1)するモード**
- **スキャンモード　：選択された複数チャネル(Nチャネル単位、N＝1～16)のアナログ入力電圧を順次A/D変換するモード**
  スキャンワンショットモード：スキャン動作を1周期行うモード
  スキャン連続モード　：スキャン動作を停止するまで繰り返し行うモード

(3) 特殊動作モード

- **スキャンモード動作中の単一モード強制実行：スキャン動作中に強制的に単一モード(コンパレータモード)変換を実行するモード**
- **単一モード実行後スキャンモード開始　：単一モードからスキャン動作を連続して起動するモード**
- **変換再スタート　：単一モードまたはスキャンモードで、動作中のA/D変換動作を再スタートするモード**

(4) サンプル＆ホールド機能

A/D変換開始時に入力電圧をサンプリングし、サンプリングされた電圧に対してA/D変換を行う機能です。この機能は、有効/無効の切り換えが可能です。

(5) A/D断線検出アシスト機能

スキャンモード動作時に前のチャネルのアナログ入力電圧の回り込みによる影響を抑制するため、変換開始前にチョッパアンプキャパシタの電荷を所定の状態(AVCC0またはAVSS0)に固定する機能を内蔵しています。この機能によりアナログ入力端子に接続した配線の、より確実な断線検出が可能になります。

(6) 注入電流バイパス回路

A/D変換中でないアナログ入力チャネルに過電圧/負電圧が印加されると、内部の回路を経由して、A/D変換中のアナログ入力チャネルへ電流の流れ込み、または流れ出しが発生し、正しい変換精度が得られなくなります。この影響を受けないように、電流をバイパスする注入電流バイパス回路を内蔵しています。なお、この回路は常に有効となっています。

(7) 変換速度

A/D変換、およびコンパレート速度は、低速モード時のノーマルと倍速、および高速モードのノーマルと倍速の4種類から選択できます。低速モード時のノーマルと倍速は、32170グループの互換モードです。

(8) 割り込み要求およびDMA転送要求発生機能

A/D変換終了時、コンパレート終了時、スキャンワンショット終了時、およびスキャン連続モードの1周期終了ごとに、A/D変換割り込み要求またはDMA転送要求を発生することができます。

注1．逐次近似比較方式であるA/Dコンバータ内部の比較動作と、A/Dコンバータをコンパレータとして使用するコンパ レータモードでの動作を区別するために、本書ではコンパレータモードでの比較動作のことを「コンパレート」と呼びます。

表11.1.1にA/Dコンバータの概要を、図11.1.1にA/Dコンバータのブロック図を示します。

表11.1.1　A/Dコンバータの概要

項目	内容				
アナログ入力	16チャネル				
A/D変換方式	逐次近似比較方式				
分解能	10ビット（8ビット/10ビット変換結果読み出し機能）				
絶対精度（注1） 条件：Ta＝25℃, AVCC0＝5.12V VREF0＝5.12V	サンプル＆ホールド無効時 または ノーマルサンプル＆ホールド有効時	低速モード	ノーマル	±2LSB	
			倍速	±2LSB	
		高速モード	ノーマル	±3LSB	
			倍速	±3LSB	
	高速サンプル＆ホールド有効時	低速モード	ノーマル	±3LSB	
			倍速	±3LSB	
		高速モード	ノーマル	±3LSB	
			倍速	±8LSB	
変換モード	A/D変換モード、コンパレータモード				
動作モード	単一モード、 スキャンワンショットモード、スキャン連続モード				
変換起動トリガ	ソフトウェア起動　A/D変換スタートビットに"1"をセット				
	ハードウェア起動　A/D0コンバータ　MJT（入力イベントバス2）、 MJT（入力イベントバス3） MJT（出力イベントバス3）、 MJT（TIN23S）				
変換速度 BCLK：周辺クロック	単一モード時 （・サンプル＆ホールド無効時 ・ノーマルサンプル＆ホールド有効時）	低速モード	ノーマル	299BCLK	14.95μs（注2）
			倍速	173BCLK	8.65μs
		高速モード	ノーマル	131BCLK	6.55μs
			倍速	89BCLK	4.45μs
	単一モード時 （高速サンプル＆ホールド有効時）	低速モード	ノーマル	191BCLK	9.55μs
			倍速	101BCLK	5.05μs
		高速モード	ノーマル	95BCLK	4.75μs
			倍速	53BCLK	2.65μs
	コンパレータモード時	低速モード	ノーマル	47BCLK	2.35μs
			倍速	29BCLK	1.45μs
		高速モード	ノーマル	23BCLK	1.15μs
			倍速	17BCLK	0.85μs
サンプル＆ホールド機能	サンプル＆ホールド機能有効/無効切り換え可能				
A/D断線検出アシスト機能	スキャンモード動作時、前チャネルのアナログ入力電圧の回り込みによる影響を抑制				
割り込み要求発生機能	A/D変換（単一モード、スキャンワンショットモード、スキャン連続モードの1周期）終了時、コンパレート終了				
DMA転送要求発生機能	A/D変換（単一モード、スキャンワンショットモード、スキャン連続モードの1周期）終了時、コンパレート終了				

注1．規格値（精度）はマイコン単体の実力値ですのでボード上の電源配線が安定であることやノイズの影響を受けない環境であることが前提です。
注2．f(BCLK)＝20MHz動作時（1BCLK＝50ns）の変換時間

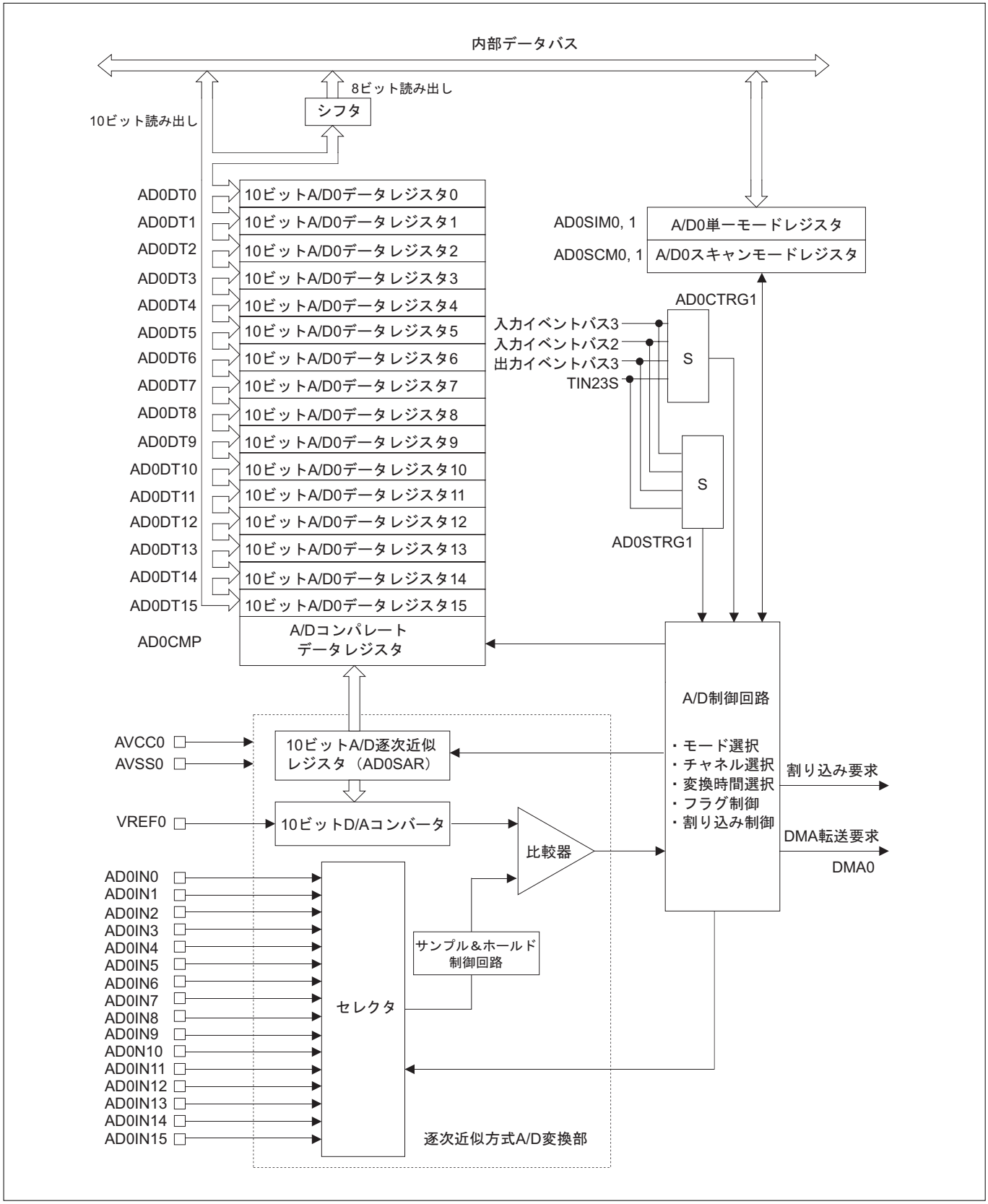


図11.1.1　A/D0**コンバータのブロック図**

11.1.1　変換モード

A/Dコンバータの変換モードには「A/D変換モード」と「コンパレータモード」があります。

(1) A/D変換モード

A/D変換モードでは、指定されたチャネルのアナログ入力電圧をA/D変換します。

単一モードは、A/D単一モードレジスタ1のアナログ入力端子選択ビットで選択されたチャネルのA/D変換を行います。

スキャンモードは、A/Dスキャンモードレジスタ0の設定に従い、A/Dスキャンモードレジスタ1で選択されたチャネルのA/D変換を行います。

変換結果はそれぞれのチャネルに対応した10ビットA/Dデータレジスタに格納します。また、8ビットA/Dデータレジスタからは8ビットA/D変換結果が読み出せます。

単一モードの場合はA/D変換終了時に、またスキャンモードの場合はスキャンループの1周期終了時に、A/D変換割り込み要求、またはDMA転送要求を発生することができます。

(2) コンパレータモード

コンパレータモードでは、指定されたチャネルのアナログ入力電圧と逐次近似レジスタの値をコンパレート(比較)し、その結果(値の大小)をフラグに返します。

コンパレートするチャネルの指定は、A/D単一モードレジスタ1のアナログ入力端子選択ビットで行います。またコンパレート結果のフラグ("1"または"0")は、A/Dコンパレートデータレジスタの、選択されたチャネルに対応するビットにセットされます。

コンパレート終了時には、A/D変換割り込み要求、またはDMA転送要求を発生することができます。

11.1.2　動作モード

A/Dコンバータの動作モードには、「単一モード」と「スキャンモード」があります。ただし、変換モードとしてコンパレータモードを選択した場合には、「単一モード」のみ使用可能です。

(1) 単一モード

単一モードは、選択された1チャネルのアナログ入力電圧を1回A/D変換、またはコンパレートするモードです。A/D変換の終了時には、A/D変換割り込み要求、またはDMA転送要求を発生することができます。

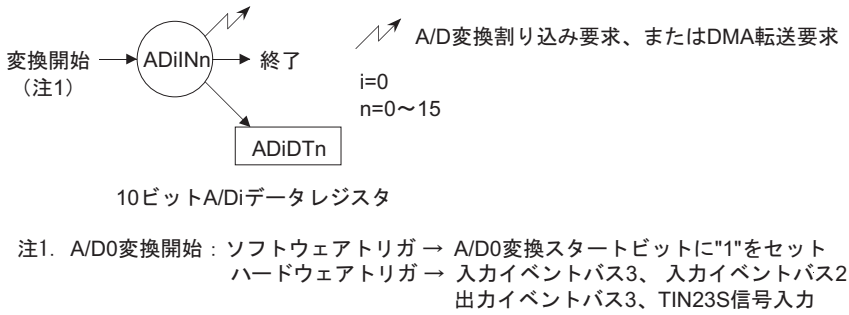


図11.1.2　単一モード動作(A/D変換)

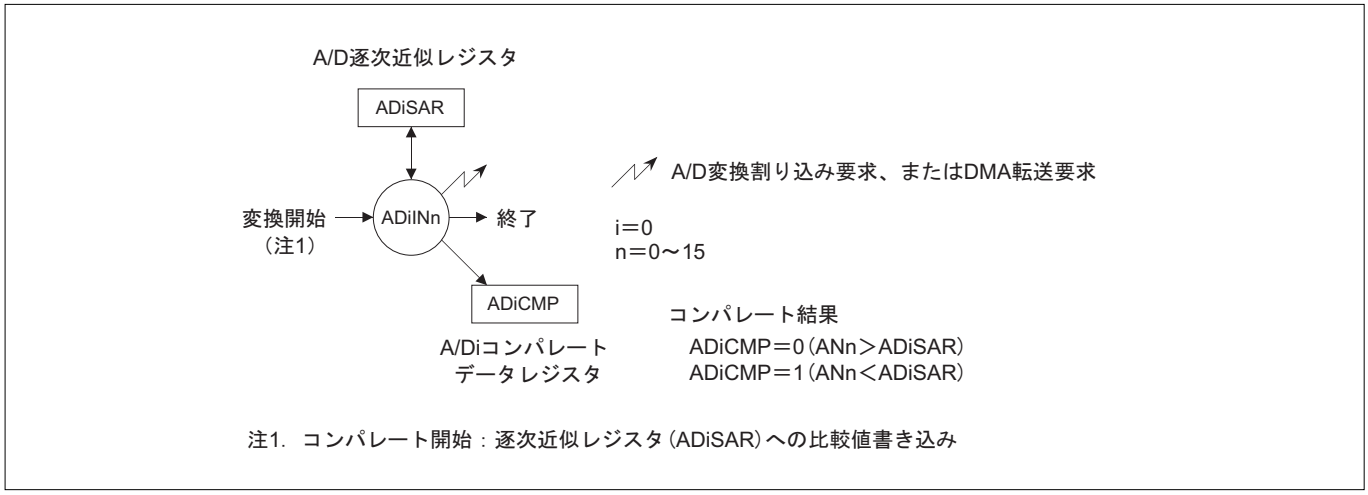


図11.1.3　**単一モード動作（コンパレート）**

(2) スキャンモード

スキャンモードは、チャネル0からA/Dスキャンモードレジスタ1のスキャンループ指定ビットで指定したチャネル（チャネル0～15）のアナログ入力電圧を順次A/D変換するモードです。

スキャンモードには、1周期のスキャン動作でA/D変換を終了する「スキャンワンショットモード」と、A/Dスキャンモードレジスタ0のA/D変換ストップビットに "1"を書き込むまでスキャン動作を継続する「スキャン連続モード」があります。

スキャンモードの選択は、A/Dスキャンモードレジスタ0で行います。また、スキャンするチャネルの選択は、A/Dスキャンモードレジスタ1で行います。スキャンはチャネル0から順に行います。

1周期のスキャン動作終了時には、A/D変換割り込み要求、またはDMA転送要求を発生することができます。

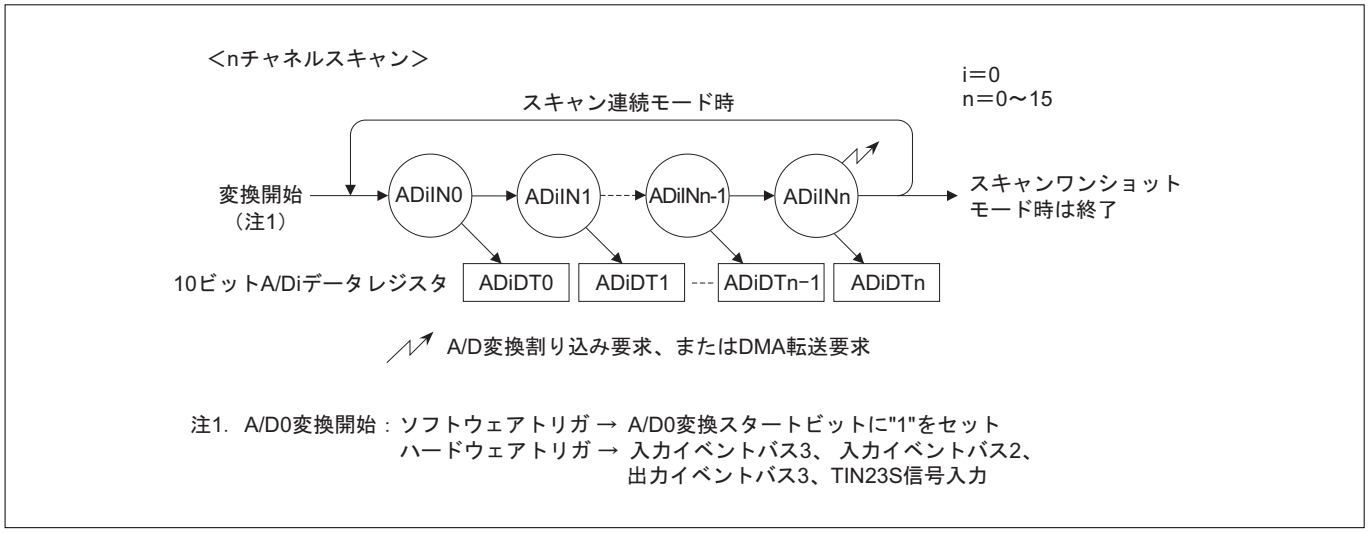


図11.1.4　**スキャンモード**A/D**変換動作**

表11.1.2　スキャンモードでのA/D変換結果の格納レジスタ

スキャンモードレジスタ1 指定チャネル	スキャンワンショット モード対象チャネル	スキャン連続 モード対象チャネル	A/D変換結果 格納レジスタ
B'0000：0 （ADiIN0）	ADiIN0	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
	終了	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
		⋮　（強制終了まで繰り返し）	⋮
B'0001：1 （ADiIN1）	ADiIN0	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
	ADiIN1	ADiIN1	10ビットA/Diデータレジスタ1
	終了	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
		⋮　（強制終了まで繰り返し）	⋮
B'0010 : 2 （ADiIN2）	ADiIN0	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
	ADiIN1	ADiIN1	10ビットA/Diデータレジスタ1
	ADiIN2	ADiIN2	10ビットA/Diデータレジスタ2
	終了	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
		⋮　（強制終了まで繰り返し）	⋮
B'0011：3 （ADiIN3）	ADiIN0	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
	ADiIN1	ADiIN1	10ビットA/Diデータレジスタ1
	ADiIN2	ADiIN2	10ビットA/Diデータレジスタ2
	ADiIN3	ADiIN3	10ビットA/Diデータレジスタ3
	終了	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
		⋮　（強制終了まで繰り返し）	⋮
B'XXXX：n （ADiINn） n≦15	ADiIN0	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
	ADiIN1	ADiIN1	10ビットA/Diデータレジスタ1
	ADiIN2	ADiIN2	10ビットA/Diデータレジスタ2
		⋮	⋮
	ADiINn	ADiINn	10ビットA/Diデータレジスタn
	終了	ADiIN0	10ビットA/Diデータレジスタ0
		⋮　（強制終了まで繰り返し）	⋮

（i＝0）

11.1.3　特殊動作モード

(1) スキャンモード動作中の単一モード強制実行

この特殊動作モードは、スキャンモード動作中に指定チャネルの単一モード変換(A/D変換またはコンパレート)を強制的に実行します。A/D変換モードの場合は、指定チャネルに対応した10ビットA/Dデータレジスタに、コンパレータモードの場合は10ビットA/Dコンパレートデータレジスタに変換結果を格納します。指定チャネルのA/D変換またはコンパレートが終了すると、スキャン中にキャンセルされたチャネルから再びスキャンモードのA/D変換を再開します。

ソフトウェアでスキャンモード動作中に単一モード変換を起動するには、A/D単一モードレジスタ0内のA/D変換開始トリガ選択ビットでソフトウェアトリガを選択し、A/D変換の場合は、同レジスタのA/D変換スタートビットに"1"をセットします。また、コンパレートモードの場合は、スキャンモード動作中にA/D逐次近似レジスタ(AD0SAR)へ比較する値を書き込みます。

ハードウェアでスキャンモード動作中に単一モード変換を起動するには、A/D単一モードレジスタ0内のA/D変換開始トリガ選択ビットでハードウェアトリガを選択し、同レジスタで指定したハードウェアトリガを入力します。

指定チャネルでの変換終了時、および1周期のスキャン動作終了時にA/D変換割り込み要求またはDMA転送要求を発生することができます。

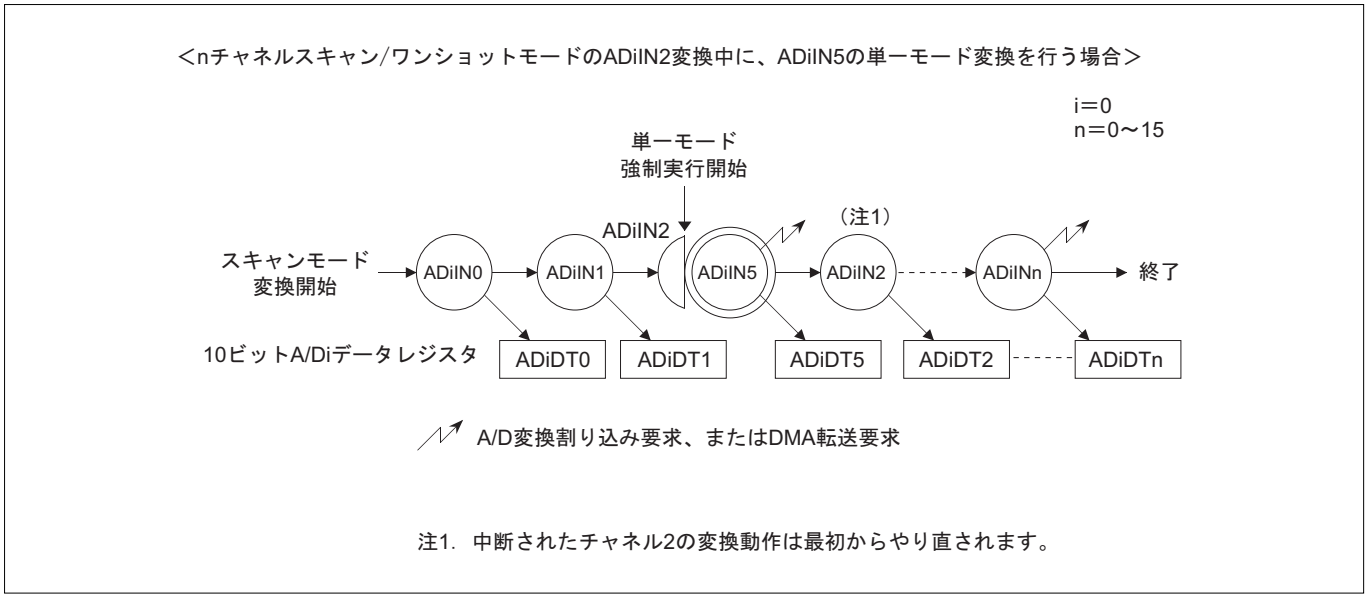


図11.1.5　スキャンモード動作中の単一モード強制実行

(2) 単一モード実行後スキャンモード開始

この特殊動作モードは、単一モード変換(A/D変換またはコンパレート)から連続してスキャン動作を起動します。

ソフトウェアで起動するには、A/Dスキャンモードレジスタ0内のA/D変換開始トリガ選択ビットでソフトウェアトリガを選択し、単一モード変換動作中にA/Dスキャンモードレジスタ0内のA/D変換スタートビットに"1"をセットします。

ハードウェアで起動するには、A/Dスキャンモードレジスタ0内のA/D変換開始トリガ選択ビットでハードウェアトリガを選択し、単一モード変換動作中に同レジスタで指定したハードウェアトリガを入力します。

A/D単一モードレジスタ0、およびA/Dスキャンモードレジスタ0の両方のレジスタのA/D変換開始トリガ選択ビットでハードウェアトリガを選択し、ハードウェアトリガが入力された場合は、最初に単一モード変換を行い、単一モード変換実行後、続けてスキャンモード変換を行います。

指定チャネルでの単一モード変換終了時、および1周期のスキャン動作終了時にA/D変換割り込み要求またはDMA転送要求を発生することができます。

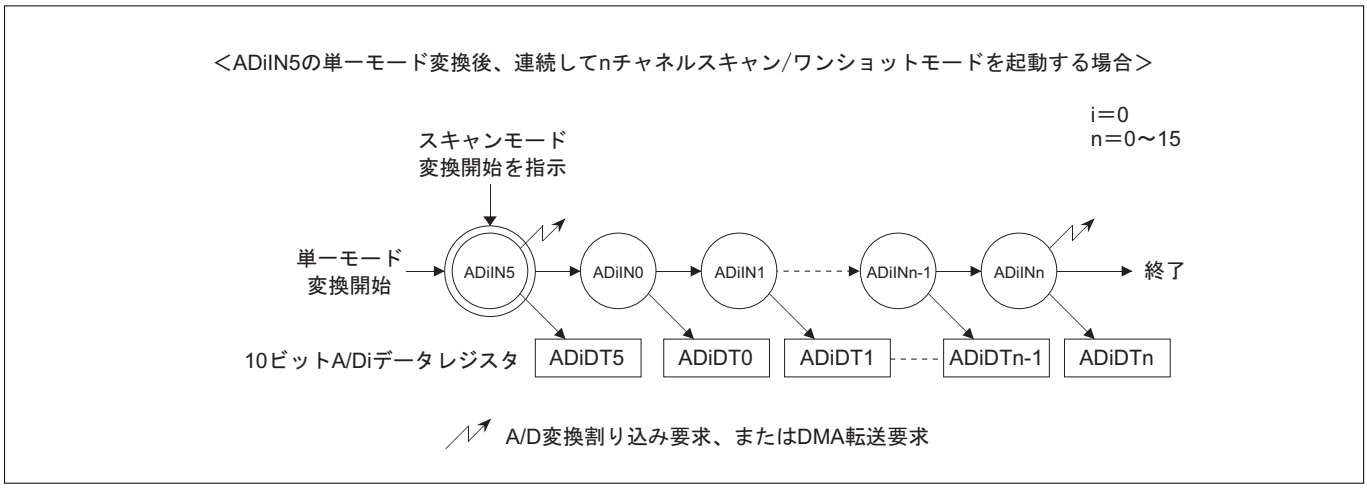


図11.1.6　**単一モード実行後スキャンモード開始**

(3) 変換再スタート

この特殊動作モードは、単一モードまたはスキャンモードで実行中の動作を中止して、再度最初からやり直すものです。

単一モードの場合は、A/D変換またはコンパレート中にA/D単一モードレジスタ0内のA/D変換スタートビットに再度"1"をセットするか、ハードウェアトリガを入力すると、実行中の動作をやり直します。

スキャンモードの場合は、スキャン動作中にA/Dスキャンモードレジスタ0内のA/D変換スタートビットに再度"1"をセットするか、ハードウェアトリガ信号を入力すると、変換中のチャネルをキャンセルし、チャネル0からA/D変換を行います。

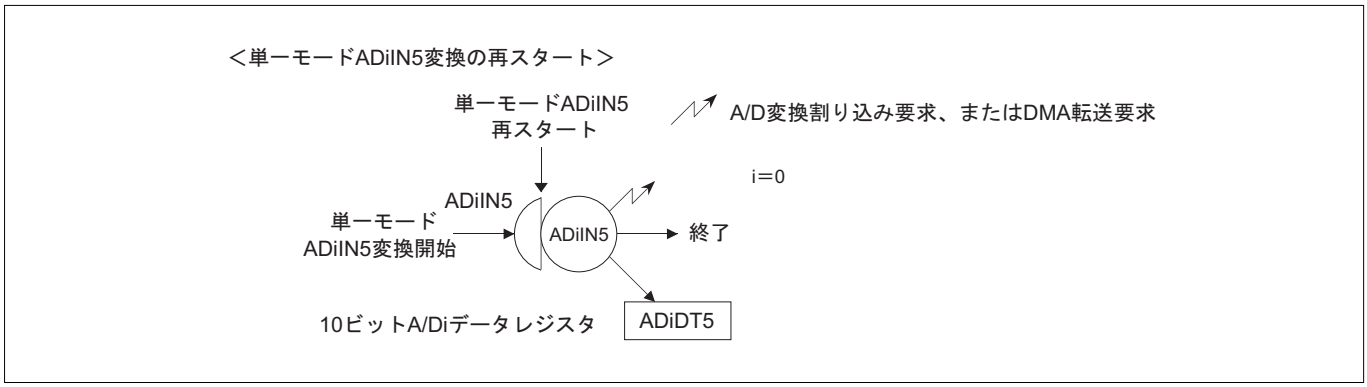


図11.1.7　**単一モード動作中の変換再スタート**

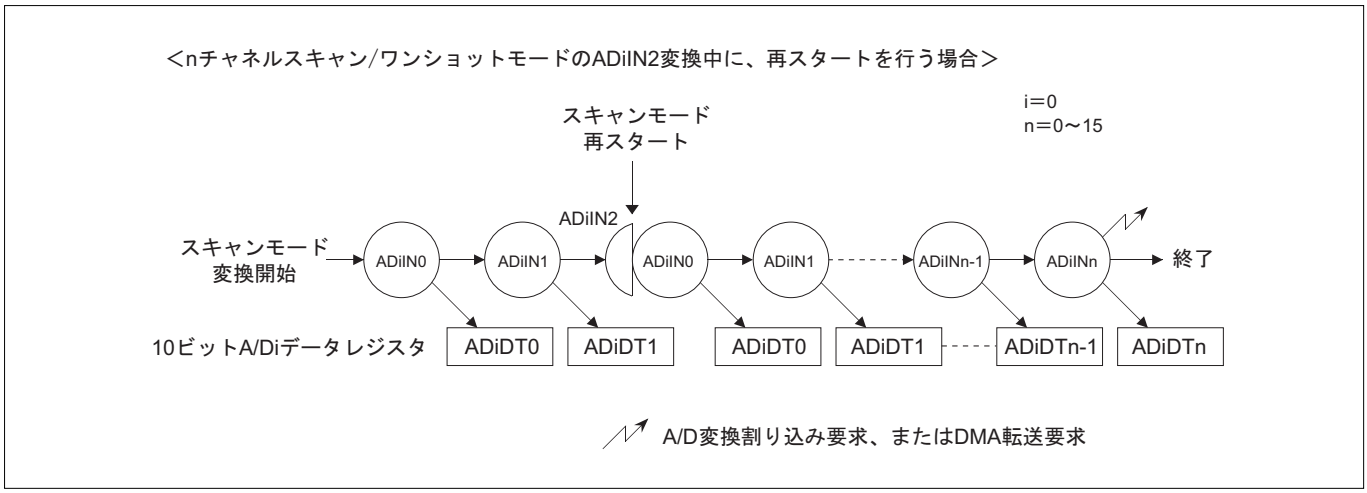


図11.1.8　**スキャン動作中の変換再スタート**

11.1.4　A/Dコンバータの割り込み要求とDMA転送要求

A/Dコンバータでは、A/D変換終了時、コンパレート終了時、スキャンワンショット終了時、およびスキャン連続モードの1周期終了ごとに、A/D変換割り込み要求またはDMA転送要求を発生することができます。A/D変換割り込み要求とDMA転送要求の選択は、A/D単一モードレジスタ0と、A/Dスキャンモードレジスタ0で行います。

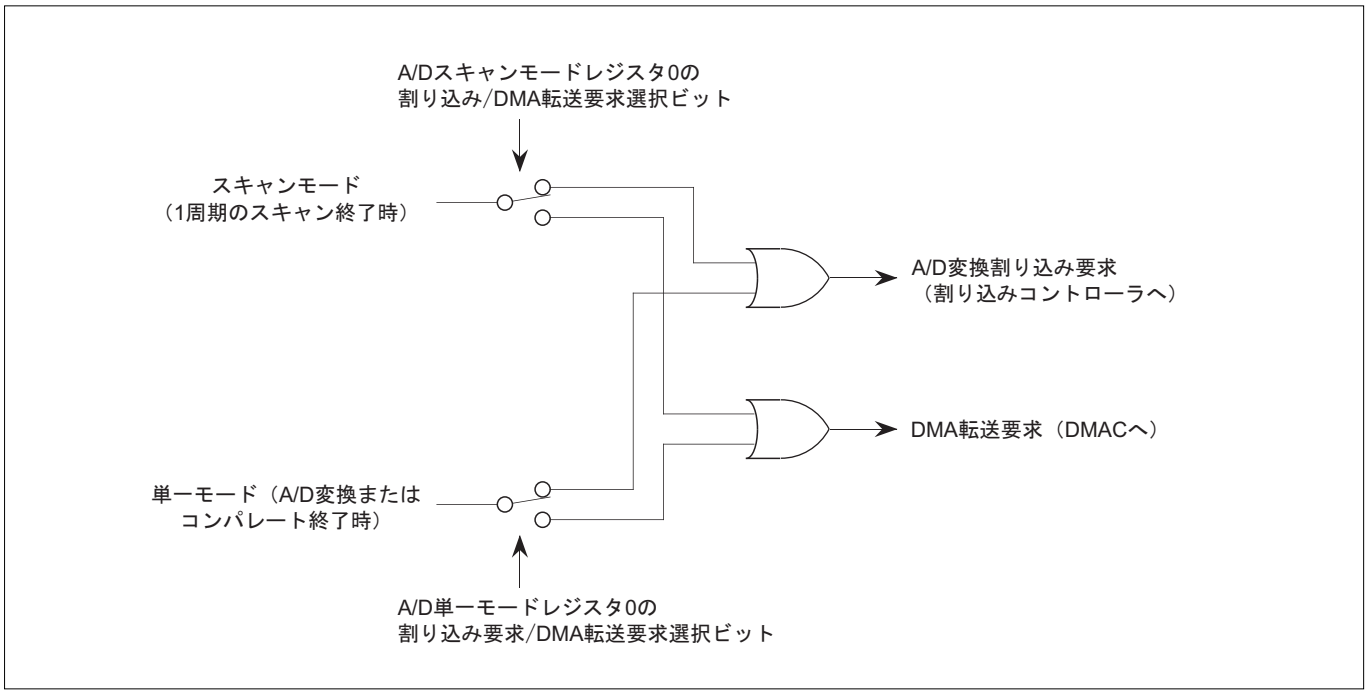


図11.1.9　割り込み要求とDMA転送要求の切り換え

11.1.5　サンプル＆ホールド機能

A/D変換開始直後にサンプリングしたアナログ入力電圧をホールドし、そのホールドした電圧に対してA/D変換を行います。

ノーマルサンプル＆ホールドモード時のA/D変換時間は、従来の32170グループなどのA/D変換モードと同じですが、高速サンプル＆ホールドモード時のA/D変換時間は、より高速に変換結果を得ることができます。

11.2　A/Dコンバータ関連レジスタ

A/Dコンバータ関連レジスタマップを以下に示します。

A/Dコンバータ関連レジスタマップ(1/2)

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 0080	A/D0単一モードレジスタ0 (AD0SIM0)	A/D0単一モードレジスタ1 (AD0SIM1)	11-14 11-16
H'0080 0082	(使用禁止領域)		
H'0080 0084	A/D0スキャンモードレジスタ0 (AD0SCM0)	A/D0スキャンモードレジスタ1 (AD0SCM1)	11-18 11-20
H'0080 0086	A/D0断線検出アシスト機能制御レジスタ (AD0DDACR)	A/D0変換速度制御レジスタ (AD0CVSCR)	11-23 11-22
H'0080 0088	A/D0逐次近似レジスタ (AD0SAR)		11-27
H'0080 008A	A/D0断線検出アシスト方式選択レジスタ (AD0DDASEL)		11-24
H'0080 008C	A/D0コンパレートデータレジスタ (AD0CMP)		11-28
H'0080 008E	(使用禁止領域)		
H'0080 0090	10ビットA/D0データレジスタ0 (AD0DT0)		11-29
H'0080 0092	10ビットA/D0データレジスタ1 (AD0DT1)		11-29
H'0080 0094	10ビットA/D0データレジスタ2 (AD0DT2)		11-29
H'0080 0096	10ビットA/D0データレジスタ3 (AD0DT3)		11-29
H'0080 0098	10ビットA/D0データレジスタ4 (AD0DT4)		11-29
H'0080 009A	10ビットA/D0データレジスタ5 (AD0DT5)		11-29
H'0080 009C	10ビットA/D0データレジスタ6 (AD0DT6)		11-29
H'0080 009E	10ビットA/D0データレジスタ7 (AD0DT7)		11-29
H'0080 00A0	10ビットA/D0データレジスタ8 (AD0DT8)		11-29
H'0080 00A2	10ビットA/D0データレジスタ9 (AD0DT9)		11-29
H'0080 00A4	10ビットA/D0データレジスタ10 (AD0DT10)		11-29
H'0080 00A6	10ビットA/D0データレジスタ11 (AD0DT11)		11-29
H'0080 00A8	10ビットA/D0データレジスタ12 (AD0DT12)		11-29
H'0080 00AA	10ビットA/D0データレジスタ13 (AD0DT13)		11-29
H'0080 00AC	10ビットA/D0データレジスタ14 (AD0DT14)		11-29
H'0080 00AE	10ビットA/D0データレジスタ15 (AD0DT15)		11-29
H'0080 00D0	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ0 (AD08DT0)	11-30
H'0080 00D2	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ1 (AD08DT1)	11-30
H'0080 00D4	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ2 (AD08DT2)	11-30
H'0080 00D6	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ3 (AD08DT3)	11-30
H'0080 00D8	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ4 (AD08DT4)	11-30
H'0080 00DA	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ5 (AD08DT5)	11-30
H'0080 00DC	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ6 (AD08DT6)	11-30

A/Dコンバータ関連レジスタマップ(2/2)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 00DE	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ7 (AD08DT7)	11-30
H'0080 00E0	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ8 (AD08DT8)	11-30
H'0080 00E2	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ9 (AD08DT9)	11-30
H'0080 00E4	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ10 (AD08DT10)	11-30
H'0080 00E6	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ11 (AD08DT11)	11-30
H'0080 00E8	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ12 (AD08DT12)	11-30
H'0080 00EA	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ13 (AD08DT13)	11-30
H'0080 00EC	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ14 (AD08DT14)	11-30
H'0080 00EE	(使用禁止領域)	8ビットA/D0データレジスタ15 (AD08DT15)	11-30

11.2.1　A/D単一モードレジスタ0

A/D0単一モードレジスタ0（AD0SIM0）　　＜アドレス：H'0080 0080＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
ADSTRG1		ADSTRG0	ADSSEL	ADSREQ	ADSCMP	ADSSTP	ADSSTT
0	0	0	0	0	1	0	0

＜リセット解除時：H'04＞

b	ビット名	機能	R	W
0	ADSTRG1（注1） A/Dハードウェアトリガ選択1ビット	b0およびb2ビットでA/Dハードウェアトリガを選択 b0　b2 0　0　：入力イベントバス2 0　1　：入力イベントバス3 1　0　：出力イベントバス3 1　1　：TIN23S信号	R	W
1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2	ADSTRG0（注1） A/Dハードウェアトリガ選択0ビット	b0およびb2ビットでA/Dハードウェアトリガを選択 （b0ビットの欄参照）	R	W
3	ADSSEL A/D変換開始トリガ選択ビット	0：ソフトウェアトリガ 1：ハードウェアトリガ（注2）	R	W
4	ADSREQ A/D割り込み要求/DMA転送要求選択ビット	0：A/D変換割り込み要求 1：DMA転送要求	R	W
5	ADSCMP A/D変換/コンパレート終了ビット	0：A/D変換中/コンパレート中 1：A/D変換終了/コンパレート終了	R	ー
6	ADSSTP A/D変換ストップビット	0：何もしません 1：A/D変換停止	0	W
7	ADSSTT A/D変換スタートビット	0：何もしません 1：A/D変換開始	0	W

注1．ハードウェアトリガ選択はb0ビット（A/Dハードウェアトリガ選択1）およびb2ビット（A/Dハードウェアトリガ選択0）の2ビットで行います。
注2．コンパレータモード時は、ハードウェアトリガを選択しても無視され、ソフトウェアトリガ動作となります。

A/D単一モードレジスタ0は、A/Dコンバータの単一モード時（特殊モード「スキャンモード動作中の単一モード強制実行」を含む）の動作を制御するためのレジスタです。

(1) ADSTRG（A/Dハードウェアトリガ選択）ビット　(b0, b2)

A/DコンバータのA/D変換をハードウェアで起動する場合のハードウェアトリガを選択するビットです。ハードウェアトリガは以下の要因から選択します。

A/D0コンバータ：　入力イベントバス2
入力イベントバス3
出力イベントバス3
TIN23のエッジ選択出力

ADSSEL（A/D変換開始トリガ選択）ビットでソフトウェアトリガを選択している場合、このビットの内容は無視されます。

(2) ADSSEL(A/D変換開始トリガ選択)ビット　(b3)

単一モード時のA/D変換開始トリガをソフトウェアで与えるか、ハードウェアで与えるかを選択するビットです。

ソフトウェアによるトリガを選択した場合は、ADSSTT(A/D変換スタート)ビットを"1"にするとA/D変換が起動されます。また、ハードウェアによるトリガを選択した場合は、ADSTRG(ハードウェアトリガ選択)ビットで選択した要因でA/D変換が起動されます。

(3) ADSREQ(A/D割り込み要求/DMA転送要求選択)ビット　(b4)

単一モード(A/D変換またはコンパレート)終了時に、A/D変換割り込みを要求するか、DMA転送を要求するかを選択するビットです。割り込み、DMA転送共に使用しない場合は、A/D変換割り込み要求を選択し、ICUのA/D変換割り込み制御レジスタでマスクするか、またはDMA転送を選択し、 DMAチャネル制御レジスタでA/D変換終了によるDMA転送を行わないよう設定してください。

(4) ADSCMP(A/D変換/コンパレート終了)ビット　(b5)

読み出し専用のビットで、リセット解除時は"1"です。A/Dコンバータの単一モード(A/D変換またはコンパレート)動作中は"0"になり、終了時に"1"になります。

A/D変換中またはコンパレート中にADSSTP(A/D変換ストップ)ビットへ"1"を書き込み、A/D変換動作またはコンパレート動作を強制終了したときも"1"になります。

(5) ADSSTP(A/D変換ストップ)ビット　(b6)

A/Dコンバータの単一モード(A/D変換またはコンパレート)中にこのビットを"1"にすると、その動作を停止させることができます。単一モードの動作停止中、およびスキャンモードの動作に対しては、このビットの操作は無視されます。

動作の停止はこのビットへの書き込み後直ちに行われ、停止後に「A/D0逐次近似レジスタ」の内容を読み出すと、変換途中の値が読み出されます(A/Dデータレジスタへの転送は行われません)。

A/D変換スタートビットとA/D変換ストップビットを同時に"1"にした場合、A/D変換ストップビットが有効になります。

特殊モード「スキャンモード動作中の単一モード強制実行」で、単一モードの動作中にこのビットを"1"にすると単一モード変換のみが停止し、スキャンモード動作が再開されます。

(6) ADSSTT(A/D変換スタート)ビット　(b7)

ADSSEL(A/D変換開始トリガ選択)ビットでソフトウェアトリガを選択している場合、このビットを"1"にするとA/DコンバータのA/D変換がスタートします。

A/D変換スタートビットとA/D変換ストップビットを同時に"1"にした場合、A/D変換ストップビットが有効になります。

単一モード変換中に再度このビットを"1"にすると、特殊動作モード「変換再スタート」になり、単一モードでの変換を再スタートします。

スキャンモードのA/D変換中にこのビットを"1"にすると、特殊動作モード「スキャンモード動作中の単一モード強制実行」になり、スキャンモードで変換中のチャネルをキャンセルして単一モード変換を行います。単一モード変換終了後は、キャンセルされたチャネルからスキャンモードでのA/D変換を再開します。

11.2.2　A/D単一モードレジスタ1

A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）　　＜アドレス：H'0080 0081＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
ADSMSL	ADSSPD	ADSSHSL	ADSSHSPD	ANSEL			
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	ADSMSL A/D変換モード選択ビット	0：A/D0変換モード 1：コンパレータモード	R	W
9	ADSSPD （注1） A/D変換速度選択ビット	0：ノーマル 1：倍速	R	W
10	ADSSHSL A/D変換方式選択ビット	0：サンプル＆ホールド無効 1：サンプル＆ホールド有効	R	W
11	ADSSHSPD （注2） A/Dサンプル＆ホールド変換速度選択ビット	0：ノーマルサンプル＆ホールド 1：高速サンプル＆ホールド	R	W
12～15	ANSEL A/Dアナログ入力端子選択ビット	0000：ADiIN0を選択　（i＝0） 0001：ADiIN1を選択 0010：ADiIN2を選択 0011：ADiIN3を選択 0100：ADiIN4を選択 0101：ADiIN5を選択 0110：ADiIN6を選択 0111：ADiIN7を選択 1000：ADiIN8を選択 1001：ADiIN9を選択 1010：ADiIN10を選択 1011：ADiIN11を選択 1100：ADiIN12を選択 1101：ADiIN13を選択 1110：ADiIN14を選択 1111：ADiIN15を選択	R	W

注1．A/D変換速度はADSSPDビット、ADSSHSLビット、ADSSHSPDビットおよびA/D変換速度制御レジスタのADCVSDビットとの組み合わせで決まります。
注2．ADSSHSLビットでサンプル＆ホールド有効を選択した場合に有効になります。

A/D単一モードレジスタ1は、A/Dコンバータの単一モード時の動作モード、変換スピードおよびアナログ入力端子の選択を制御するためのレジスタです。

(1) ADSMSL（A/D変換モード選択）ビット　（b8）

A/Dコンバータの単一モード時のA/D変換モードを選択するビットです。このビットが"0"のときはA/D変換モード、"1"のときはコンパレータモードになります。

(2) ADSSPD（A/D変換速度選択）ビット　（b9）

A/Dコンバータの単一モード時のA/D変換速度を選択するビットです。このビットが"0"のときはノーマル、"1"のときは倍速です。

(3) ADSSHSL（A/D変換方式選択）ビット　（b10）

A/Dコンバータの単一モード時、サンプル＆ホールド機能の有効/無効を切り換えるビットです。このビットが"0"のときはサンプル＆ホールド無効、"1"のときはサンプル＆ホールド有効です。

ADSMSL（A/D変換モード選択）ビットでコンパレートモードを選択した場合は、このビットの設定は無効になります。

(4) ADSSHSPD（A/Dサンプル＆ホールド変換速度選択）ビット　（b11）

A/Dコンバータのサンプル＆ホールド機能を有効にしたときの変換速度を切り換えるビットです。このビットが"0"のときは通常のA/D変換速度と同じになりますが、"1"のときは通常のA/D変換に比べ高速に変換します。

ADSSHSL（A/D変換方式選択）ビットを"0"のサンプル＆ホールド無効に設定した場合は、このビットの設定は無効になります。

変換時間については、「11.3.4 A/D変換時間算出方法」を参照してください。

(5) ANSEL（A/Dアナログ入力端子選択）ビット　（b12～b15）

A/Dコンバータの単一モード時のアナログ入力端子選択ビットです。このビットで選択されたチャネルがA/D変換またはコンパレートの対象チャネルになります。なお、読み出し時は書き込んだ値が読み出されます。

注．
- **A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビットのどちらか一方をサンプル＆ホールド有効に選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールド有効モードで動作します。**
- **A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビットのどちらか一方がサンプル＆ホールド有効に選択され、かつA/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADSSHSPD）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADCSHSPD）ビットのどちらか一方を高速サンプル＆ホールドに選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールドの変換速度が、高速サンプル＆ホールドで動作します。**
- **単一モードまたは、スキャンモードをサンプル＆ホールド有効モードで使用する場合は、A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビット、A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADSSHSPD）ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADCSHSPD）ビットを同じ設定値で使用してください。**

11.2.3　A/Dスキャンモードレジスタ0

A/D0スキャンモードレジスタ0（AD0SCM0）　　＜アドレス：H'0080 0084＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
ADCTRG1 0	ADCMSL 0	ADCTRG0 0	ADCSEL 0	ADCREQ 0	ADCCMP 1	ADCSTP 0	ADCSTT 0

＜リセット解除時：H'04＞

b	ビット名	機能	R	W
0	ADCTRG1（注1） A/Dハードウェアトリガ選択1ビット	b0およびb2ビットでA/Dハードウェアトリガを選択 b0　b2 0　0 ：入力イベントバス2 0　1 ：入力イベントバス3 1　0 ：出力イベントバス3 1　1 ：TIN23S信号	R	W
1	ADCMSL A/Dスキャンモード選択ビット	0：ワンショットモード 1：連続モード	R	W
2	ADCTRG0 A/Dハードウェアトリガ選択0ビット	b0およびb2ビットでA/Dハードウェアトリガを選択 （b0ビットの欄参照）	R	W
3	ADCSEL A/D変換開始トリガ選択ビット	0：ソフトウェアトリガ 1：ハードウェアトリガ	R	W
4	ADCREQ A/D割り込み要求/DMA転送要求選択ビット	0：A/D変換割り込み要求 1：DMA転送要求	R	W
5	ADCCMP A/D変換終了ビット	0：A/D変換中 1：A/D変換終了	R	－
6	ADCSTP A/D変換ストップビット	0：何もしません 1：A/D変換停止	0	W
7	ADCSTT A/D変換スタートビット	0：何もしません 1：A/D変換開始	0	W

注1．ハードウェアトリガ選択はb0ビット（A/Dハードウェアトリガ選択1）およびb2ビット（A/Dハードウェアトリガ選択0）で設定します。

A/Dスキャンモードレジスタ0は、A/Dコンバータのスキャンモード時の動作を制御するためのレジスタです。

(1) ADCTRG（A/Dハードウェアトリガ選択）ビット　(b0, b2)

A/DコンバータのA/D変換をハードウェアで起動する場合のハードウェアトリガを選択するビットです。ハードウェアトリガは以下の要因から選択します。

A/D0コンバータ：入力イベントバス2
入力イベントバス3
出力イベントバス3
TIN23のエッジ選択出力

ADCSEL（A/D変換開始トリガ選択）ビットでソフトウェアトリガを選択している場合、このビットの内容は無視されます。

(2) ADCMSL(A/Dスキャンモード選択)ビット　(b1)

このビットでA/Dコンバータスキャンワンショットモードと、スキャン連続モードを選択します。

このビットが"0"のときはスキャンワンショットモードになり、ANSCAN(A/Dスキャンループ選択)ビットで選択されたチャネルのA/D変換を順次行い、すべてのチャネルのA/D変換が終了すると変換動作は停止します。

このビットが"1"のときはスキャン連続モードになり、スキャンワンショットモードの動作終了後、再び最初のチャネルからA/D変換を行い、ADCSTP(A/D変換ストップ)ビットを"1"にして停止するまでこれを継続します。

(3) ADCSEL(A/D変換開始トリガ選択)ビット　(b3)

A/Dコンバータのスキャンモード時のA/D変換開始トリガをソフトウェアで与えるか、ハードウェアで与えるかを選択するビットです。

ソフトウェアによるトリガを選択した場合は、ADCSTT(A/D変換スタート)ビットを"1"にするとA/D変換が起動されます。また、ハードウェアによるトリガを選択した場合は、ADCTRG(A/Dハードウェアトリガ選択)ビットで選択した要因でA/D変換が起動されます。

(4) ADCREQ(A/D割り込み要求/DMA転送要求選択)ビット　(b4)

スキャンモードの1周期終了時に、A/D変換割り込みを要求するか、DMA転送を要求するかを選択するビットです。割り込み、DMA転送共に使用しない場合は、A/D変換割り込み要求を選択し、ICUのA/D変換割り込み制御レジスタでマスクするか、またはDMA転送を選択し、 DMAチャネル制御レジスタでA/D変換終了によるDMA転送を行わないよう設定してください。

(5) ADCCMP(A/D変換終了)ビット　(b5)

読み出し専用のビットで、リセット解除時は"1"です。A/Dコンバータのスキャンモード A/D変換動作中は"0"になり、スキャンワンショットモード終了時、またはスキャン連続モードをADCSTP(A/D変換ストップ)ビットを"1"にして停止したとき"1"になります。

(6) ADCSTP(A/D変換ストップ)ビット　(b6)

A/DコンバータでスキャンモードのA/D変換中に、このビットに"1"を書き込むことで、スキャンモードの動作を停止させることができます。このビットはスキャンモードの動作にのみ有効で、特殊動作モードで単一モード、スキャンモードが共に起動されている場合でも単一モードの動作には影響を与えません。

動作の停止はこのビットへの書き込み後直ちに行われ、変換途中のチャネルのA/D変換は途中で打ち切られ、A/Dデータレジスタへの転送は行われません。

A/D変換スタートビットとA/D変換ストップビットを同時に"1"にした場合、A/D変換ストップビットが有効になります。

(7) ADCSTT(A/D変換スタート)ビット　(b7)

ADCSEL(A/D変換開始トリガ選択)ビットで、A/Dコンバータのスキャンモードをソフトウェアで起動するためのビットで、ソフトウェアトリガを選択している場合にのみ、このビットを"1"にするとA/D変換がスタートします。

A/D変換スタートビットとA/D変換ストップビットを同時に"1"にした場合、A/D変換ストップビットが有効になります。

スキャンモード変換中に再度このビットを"1"にすると、特殊動作モード「変換再スタート」になり、A/Dスキャンモードレジスタ0およびA/Dスキャンモードレジスタ1で設定された内容で、スキャン動作が再起動されます。

単一モードのA/D変換中にこのビットを"1"にすると、特殊動作モード「単一モード実行後スキャンモード開始」になり、単一モード終了後にスキャンモード動作を連続して開始します。

11.2.4　A/Dスキャンモードレジスタ1

A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）　　＜アドレス：H'0080 0085＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
	ADCSPD	ADCSHSL	ADCSHSPD	ANSCAN			
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
9	ADCSPD　（注1） A/D変換速度選択ビット	0：ノーマル 1：倍速	R	W
10	ADCSHSL A/D変換方式選択ビット	0：サンプル＆ホールド無効 1：サンプル＆ホールド有効	R	W
11	ADCSHSPD　（注2） A/Dサンプル＆ホールド変換速度選択ビット	0：ノーマルサンプル＆ホールド 1：高速サンプル＆ホールド	R	W
12～15	ANSCAN A/Dスキャンループ選択ビット	＜書き込み時＞ B'0000～B'1111（チャネル0～チャネル15） ＜変換中読み出し時＞　　（i＝0） 0000 ：ADiIN0を変換中 0001 ：ADiIN1を変換中 0010 ：ADiIN2を変換中 0011 ：ADiIN3を変換中 0100 ：ADiIN4を変換中 0101 ：ADiIN5を変換中 0110 ：ADiIN6を変換中 0111 ：ADiIN7を変換中 1000 ：ADiIN8を変換中 1001 ：ADiIN9を変換中 1010 ：ADiIN10を変換中 1011 ：ADiIN11を変換中 1100 ：ADiIN12を変換中 1101 ：ADiIN13を変換中 1110 ：ADiIN14を変換中 1111 ：ADiIN15を変換中	R	W

注1．A/D変換速度はADCSPDビット、ADCSHSLビット、ADCSHSPDビットおよびA/D変換速度制御レジスタのADCVSDビットとの組み合わせで決まります。
注2．ADCSHSLビットでサンプル＆ホールド有効を選択した場合に有効になります。

A/Dスキャンモードレジスタ1は、A/Dコンバータのスキャンモード時の動作モード、変換スピードおよびスキャンループの選択を制御するためのレジスタです。スキャンループ選択ビットにより設定されたチャネルまでのスキャン（nチャネルスキャン）動作が可能です。

(1) ADCSPD(A/D変換速度選択)ビット　(b9)

A/Dコンバータのスキャンモード時のA/D変換速度を選択するビットです。このビットが"0"のときはノーマル、"1"のときは倍速です。

(2) ADCSHSL(A/D変換方式選択)ビット　(b10)

A/Dコンバータのスキャンモード時、サンプル＆ホールド機能の有効/無効を切り換えるビットです。このビットが"0"のときはサンプル＆ホールド無効、"1"のときはサンプル＆ホールド有効です。

(3) ADCSHSPD(A/Dサンプル＆ホールド変換速度選択)ビット　(b11)

A/Dコンバータのサンプル＆ホールド機能を有効にしたときの変換速度を切り換えるビットです。このビットが"0"のときは通常のA/D変換速度と同じになりますが、"1"のときは通常のA/D変換に比べ高速に変換します。

ADCSHSL(A/D変換方式選択)ビットを"0"のサンプル＆ホールド無効に設定した場合は、このビットの設定は無効になります。

変換時間については、「11.3.4 A/D変換時間算出方法」を参照してください。

(4) ANSCAN(A/Dスキャンループ選択)ビット　(b12～b15)

ANSCAN(A/Dスキャンループ選択)ビットで、A/Dコンバータのスキャンモード時のスキャンチャネルを設定します。

ANSCAN(A/Dスキャンループ選択)ビットをスキャン動作時に読み出すと、変換中のチャネルを示すステータスとなります。

単一モード時に、このビットは常に"B'0000"が読み出されます。

ワンショットモードによるスキャン動作終了後に読み出すと、最後に変換したチャネルの値が読み出されます。

スキャンモード実行中に、A/Dスキャンモードレジスタ0のADCSTP(A/D変換ストップ)ビットに"1"をセットしてA/D変換を中止した場合は、A/D変換動作をキャンセルされたチャネルの値が読み出されます。

また、特殊動作モード「スキャンモード動作中の単一モード強制実行」で単一モード変換中は、スキャン途中でA/D変換動作をキャンセルされたチャネルの値が読み出されます。

注．
- **A/D0単一モードレジスタ1(AD0SIM1)にあるA/D変換方式選択(ADSSHSL)ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1(AD0SCM1)にあるA/D変換方式選択(ADCSHSL)ビットのどちらか一方をサンプル＆ホールド有効に選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールド有効モードで動作します。**

- **A/D0単一モードレジスタ1(AD0SIM1)にあるA/D変換方式選択(ADSSHSL)ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1(AD0SCM1)にあるA/D変換方式選択(ADCSHSL)ビットのどちらか一方がサンプル＆ホールド有効に選択され、かつA/D0単一モードレジスタ1(AD0SIM1)にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択(ADSSHSPD)ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1(AD0SCM1)にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択(ADCSHSPD)ビットのどちらか一方を高速サンプル＆ホールドに選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールドの変換速度が、高速サンプル＆ホールドで動作します。**

- **単一モードまたは、スキャンモードをサンプル＆ホールド有効モードで使用する場合は、A/D0単一モードレジスタ1(AD0SIM1)にあるA/D変換方式選択(ADSSHSL)ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1(AD0SCM1)にあるA/D変換方式選択(ADCSHSL)ビット、A/D0単一モードレジスタ1(AD0SIM1)にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択(ADSSHSPD)ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1(AD0SCM1)にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択(ADCSHSPD)ビットを同じ設定値で使用してください。**

11.2.5　A/D変換速度制御レジスタ

A/D0変換速度制御レジスタ（AD0CVSCR）　　＜アドレス：H'0080 0087＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	0	0	ADCVSD 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8〜14	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
15	ADCVSD （注1） A/D変換速度制御ビット	0：低速モード 1：高速モード	R	W

注1．A/D変換速度は、単一モードではADCVSDビットとA/D単一モードレジスタ1の設定で、スキャンモードではADCVSDビットとA/Dスキャンモードレジスタ1の設定で決まります。

A/D変換速度制御レジスタは、A/Dコンバータの単一モード時およびスキャンモード時のA/D変換速度を制御するレジスタです。A/D単一モードレジスタ1の変換速度選択ビット（倍速/ノーマル）との組み合わせで変換スピードが決定されます。

11.2.6　A/D断線検出アシスト機能制御レジスタ

A/D0断線検出アシスト機能制御レジスタ（AD0DDACR）　　＜アドレス：H'0080 0086＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
							ADDDAEN
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～6	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
7	ADDDAEN（注1） A/D断線検出アシスト機能有効	0：A/D断線検出アシスト機能無効 1：A/D断線検出アシスト機能有効	R	W

注1．A/D断線検出アシスト機能を有効にするためには、ADDDAENビットを"1"にセット後、A/D断線検出アシスト方式選択レジスタで変換開始状態を設定してください。

A/D断線検出アシスト機能制御レジスタは、A/D断線検出アシスト方式選択レジスタの内容を有効にするか無効にするかを選択するためのレジスタです。

注．・断線時の変換結果は、外付け回路によって変化します。本機能はシステムに合わせた評価を十分に行った上で使用してください。

11.2.7　A/D断線検出アシスト方式選択レジスタ

A/D0断線検出アシスト方式選択レジスタ（AD0DDASEL）　　＜アドレス：H'0080 008A＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
ADDDA SEL0 ?	ADDDA SEL1 ?	ADDDA SEL2 ?	ADDDA SEL3 ?	ADDDA SEL4 ?	ADDDA SEL5 ?	ADDDA SEL6 ?	ADDDA SEL7 ?	ADDDA SEL8 ?	ADDDA SEL9 ?	ADDDA SEL10 ?	ADDDA SEL11 ?	ADDDA SEL12 ?	ADDDA SEL13 ?	ADDDA SEL14 ?	ADDDA SEL15 ?

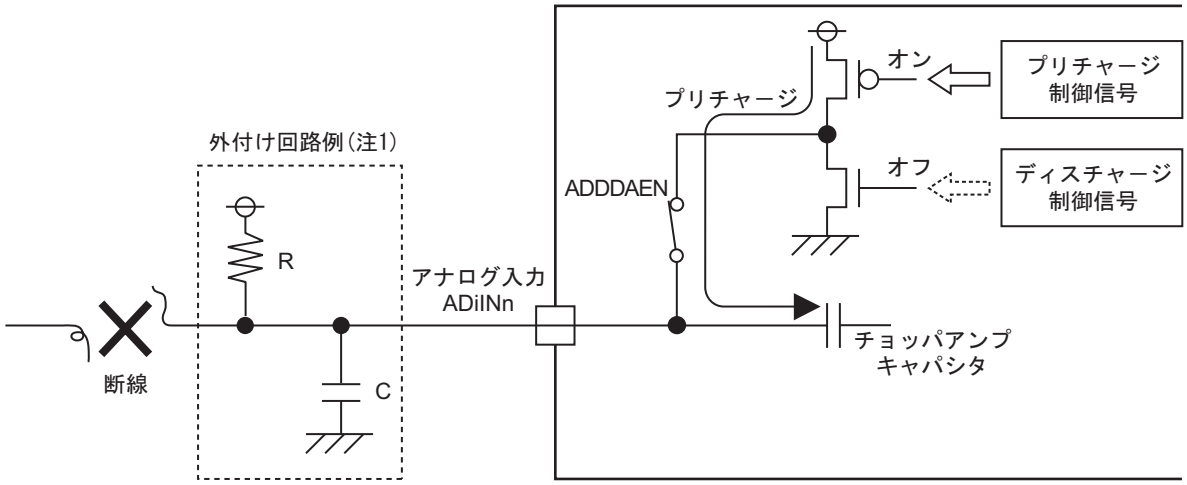
＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0	ADDDASEL0 チャネル0断線検出アシスト方式選択ビット	0：変換前ディスチャージ 1：変換前プリチャージ	R	W
1	ADDDASEL1 チャネル1断線検出アシスト方式選択ビット			
2	ADDDASEL2 チャネル2断線検出アシスト方式選択ビット			
3	ADDDASEL3 チャネル3断線検出アシスト方式選択ビット			
4	ADDDASEL4 チャネル4断線検出アシスト方式選択ビット			
5	ADDDASEL5 チャネル5断線検出アシスト方式選択ビット			
6	ADDDASEL6 チャネル6断線検出アシスト方式選択ビット			
7	ADDDASEL7 チャネル7断線検出アシスト方式選択ビット			
8	ADDDASEL8 チャネル8断線検出アシスト方式選択ビット			
9	ADDDASEL9 チャネル9断線検出アシスト方式選択ビット			
10	ADDDASEL10 チャネル10断線検出アシスト方式選択ビット			
11	ADDDASEL11 チャネル11断線検出アシスト方式選択ビット			
12	ADDDASEL12 チャネル12断線検出アシスト方式選択ビット			
13	ADDDASEL13 チャネル13断線検出アシスト方式選択ビット			
14	ADDDASEL14 チャネル14断線検出アシスト方式選択ビット			
15	ADDDASEL15 チャネル15断線検出アシスト方式選択ビット			

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。
・これらのビットを有効にするには、ADDDAENビット（A/D断線検出アシスト機能制御レジスタのb7）を"1"にセット後、これらのビットを設定してください。

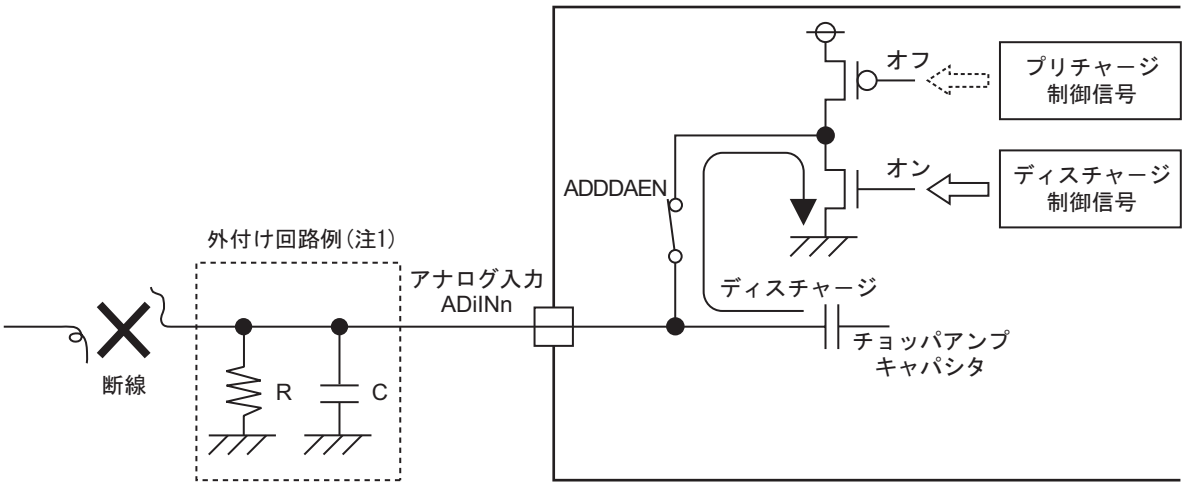
A/D断線検出アシスト方式選択レジスタは、A/D変換結果が前のチャネルのアナログ入力電圧の影響を抑制するために、チョッパアンプキャパシタにたまった電荷を引き抜く、または充電してから従来の変換動作を行う場合の状態制御レジスタです。

図11.2.1にAVCC0側でのA/D断線検出例を示し、図11.2.2にはAVSS0側でのA/D断線検出例を示します。



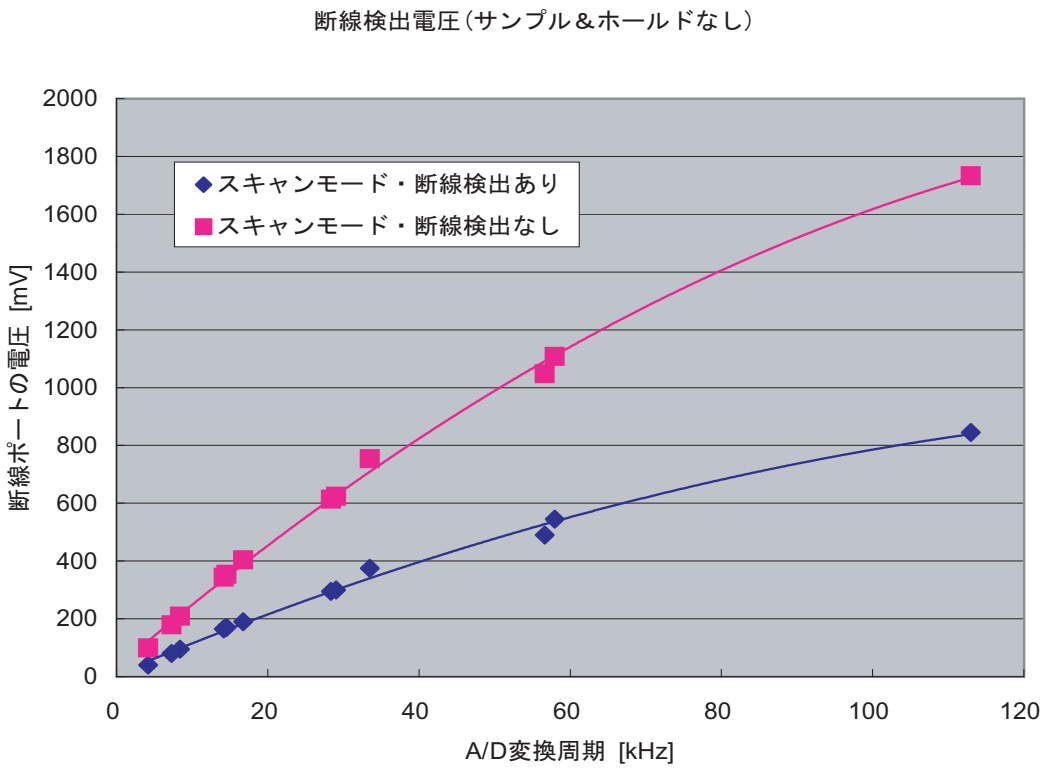
注1.　断線時の変換結果は、外付け回路によって変わりますので、十分な評価の上、使用してください。

図11.2.1　AVCC0**側での**A/D**断線検出例（変換前プリチャージを選択）**



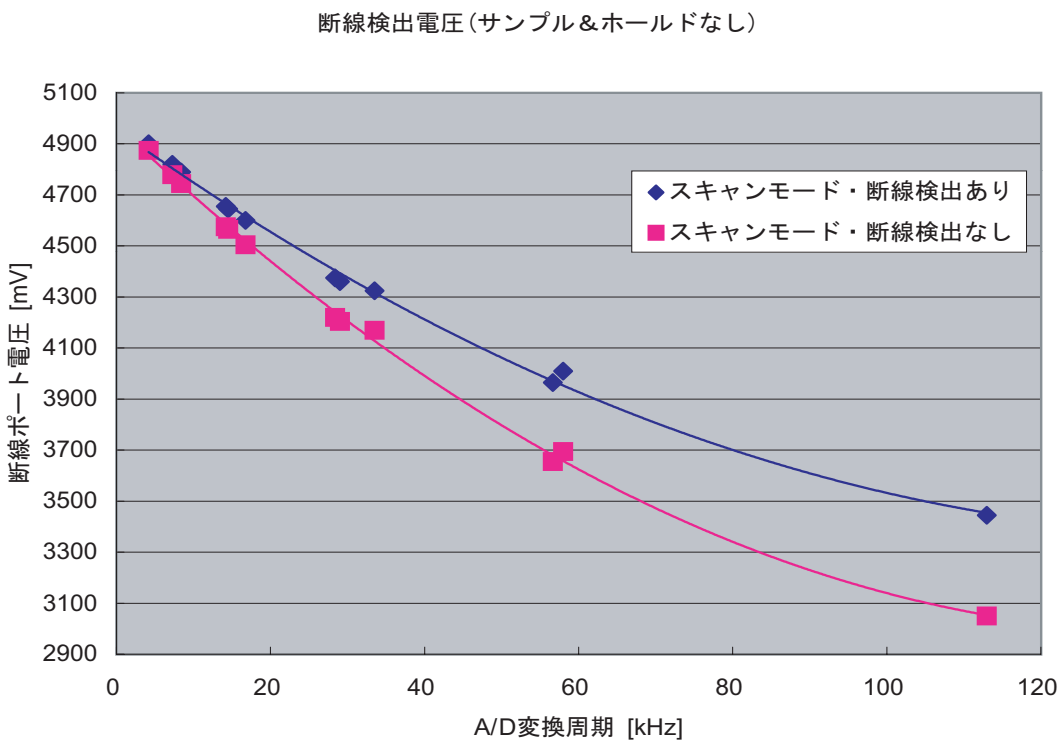
注1.　断線時の変換結果は、外付け回路によって変わりますので、十分な評価の上、使用してください。

図11.2.2　AVSS0**側での**A/D**断線検出例（変換前ディスチャージを選択）**



注．f(BCLK)＝20MHz時の参考値

図11.2.3　A/D**断線検知アシストデータ（変換前ディスチャージ使用時）**



注．f(BCLK)＝20MHz時の参考値

図11.2.4　A/D**断線検知アシストデータ（変換前プリチャージ使用時）**

11.2.8　A/D逐次近似レジスタ

A/D0逐次近似レジスタ（AD0SAR）　　＜アドレス：H'0080 0088＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
						ADSAR									
0	0	0	0	0	0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6～15	ADSAR A/D逐次近似値/比較値	・A/D逐次近似値（A/D変換モード） ・比較値（コンパレータモード）	R	W

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

A/D逐次近似レジスタ（ADSAR）は、A/D変換モードの場合はA/Dコンバータの変換結果を読み出し、コンパレートモードの場合は比較値を書き込むレジスタです。

A/D変換モードでは、A/D変換を逐次近似比較方式で行いますが、この方式では基準電圧VREF0とアナログ入力電圧を上位側から順に1ビット単位で比較した結果を、A/D逐次近似レジスタ（ADSAR）の各ビット（b6～b15）に対してセットします。A/D変換終了後はこのレジスタの値が、変換を行ったチャネルに対応する10ビットA/Dデータレジスタ（ADDTn）に転送されます。なお、A/D変換の途中でこのレジスタを読み出すと、変換の途中結果が読み出されます。

コンパレータモードでは、このレジスタに比較値（コンパレート比較電圧）を書き込みます。書き込みと同時にA/D単一モードレジスタ1で設定したアナログ入力端子とのコンパレート動作が開始されます。コンパレート終了後、結果はA/Dコンパレートデータレジスタ（ADCMP）に格納されます。

コンパレータモードでA/D逐次近似レジスタ（ADSAR）に書き込む比較値の値は、以下の計算式で求めます。

$$\text{比較値} = \text{H'3FF} \times \frac{\text{コンパレート比較電圧[V]}}{\text{VREF0入力電圧[V]}}$$

11.2.9　A/Dコンパレートデータレジスタ

A/D0コンパレートデータレジスタ（AD0CMP）　　＜アドレス：H'0080 008C＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
ADCMP0?	ADCMP1?	ADCMP2?	ADCMP3?	ADCMP4?	ADCMP5?	ADCMP6?	ADCMP7?	ADCMP8?	ADCMP9?	ADCMP10?	ADCMP11?	ADCMP12?	ADCMP13?	ADCMP14?	ADCMP15?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	ADCMP0～ADCMP15　（注1） A/Dコンパレート結果フラグ	0：アナログ入力電圧＞比較電圧 1：アナログ入力電圧＜比較電圧	R	－

注1．コンパレータモード時に、各ビットがチャネル0～チャネル15に対応します。
注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

A/Dコンパレートデータレジスタは、A/D単一モードレジスタ1のADSMSL（A/D変換モード選択）ビットでコンパレートモードを選択した場合、選択されたアナログ入力値と、A/D逐次近似レジスタに書き込んだ値との比較を行い、結果をこのレジスタの対応するビットに格納します。

アナログ入力電圧＞比較電圧のとき"0"、アナログ入力電圧＜比較電圧のとき"1"になります。

11.2.10　10ビットA/Dデータレジスタ

10ビットA/D0データレジスタ0（AD0DT0）　＜アドレス：H'0080 0090＞
10ビットA/D0データレジスタ1（AD0DT1）　＜アドレス：H'0080 0092＞
10ビットA/D0データレジスタ2（AD0DT2）　＜アドレス：H'0080 0094＞
10ビットA/D0データレジスタ3（AD0DT3）　＜アドレス：H'0080 0096＞
10ビットA/D0データレジスタ4（AD0DT4）　＜アドレス：H'0080 0098＞
10ビットA/D0データレジスタ5（AD0DT5）　＜アドレス：H'0080 009A＞
10ビットA/D0データレジスタ6（AD0DT6）　＜アドレス：H'0080 009C＞
10ビットA/D0データレジスタ7（AD0DT7）　＜アドレス：H'0080 009E＞
10ビットA/D0データレジスタ8（AD0DT8）　＜アドレス：H'0080 00A0＞
10ビットA/D0データレジスタ9（AD0DT9）　＜アドレス：H'0080 00A2＞
10ビットA/D0データレジスタ10（AD0DT10）　＜アドレス：H'0080 00A4＞
10ビットA/D0データレジスタ11（AD0DT11）　＜アドレス：H'0080 00A6＞
10ビットA/D0データレジスタ12（AD0DT12）　＜アドレス：H'0080 00A8＞
10ビットA/D0データレジスタ13（AD0DT13）　＜アドレス：H'0080 00AA＞
10ビットA/D0データレジスタ14（AD0DT14）　＜アドレス：H'0080 00AC＞
10ビットA/D0データレジスタ15（AD0DT15）　＜アドレス：H'0080 00AE＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
						AD0DT0-AD0DT15									
0	0	0	0	0	0	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～5	何も配置されていません。		0	－
6～15	AD0DT0～AD0DT15 10ビットA/Dデータ	A/D変換結果	R	－

注．・このレジスタは、必ずハーフワードでアクセスしてください。

10ビットA/Dデータレジスタは、単一モード時に対応するチャネルのA/D変換の結果が格納されるレジスタです。

スキャンワンショット/連続モードでは、各チャネルのA/D変換終了ごとにA/D逐次近似レジスタの内容が、対応するチャネルの10ビットA/Dデータレジスタに転送されます。

各10ビットA/Dデータレジスタは最終の変換結果を次の変換結果が転送されるまで保持しており、いつでも内容を読み出すことができます。

11.2.11　8ビットA/Dデータレジスタ

8ビットA/D0データレジスタ0(AD08DT0)	＜アドレス：H'0080 00D1＞
8ビットA/D0データレジスタ1(AD08DT1)	＜アドレス：H'0080 00D3＞
8ビットA/D0データレジスタ2(AD08DT2)	＜アドレス：H'0080 00D5＞
8ビットA/D0データレジスタ3(AD08DT3)	＜アドレス：H'0080 00D7＞
8ビットA/D0データレジスタ4(AD08DT4)	＜アドレス：H'0080 00D9＞
8ビットA/D0データレジスタ5(AD08DT5)	＜アドレス：H'0080 00DB＞
8ビットA/D0データレジスタ6(AD08DT6)	＜アドレス：H'0080 00DD＞
8ビットA/D0データレジスタ7(AD08DT7)	＜アドレス：H'0080 00DF＞
8ビットA/D0データレジスタ8(AD08DT8)	＜アドレス：H'0080 00E1＞
8ビットA/D0データレジスタ9(AD08DT9)	＜アドレス：H'0080 00E3＞
8ビットA/D0データレジスタ10(AD08DT10)	＜アドレス：H'0080 00E5＞
8ビットA/D0データレジスタ11(AD08DT11)	＜アドレス：H'0080 00E7＞
8ビットA/D0データレジスタ12(AD08DT12)	＜アドレス：H'0080 00E9＞
8ビットA/D0データレジスタ13(AD08DT13)	＜アドレス：H'0080 00EB＞
8ビットA/D0データレジスタ14(AD08DT14)	＜アドレス：H'0080 00ED＞
8ビットA/D0データレジスタ15(AD08DT15)	＜アドレス：H'0080 00EF＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
AD08DT0-AD08DT15							
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
8～15	AD08DT0～AD08DT15 8ビットA/Dデータ	8ビットA/D変換結果	R	－

このA/Dデータレジスタには、A/Dコンバータの8ビット変換データが格納されます。

A/Dコンバータの単一モードでは、A/D変換の結果が、対応するチャネルの8ビットA/Dデータレジスタに格納されます。

スキャンワンショット/連続モードでは、各チャネルのA/D変換終了ごとにA/D逐次近似レジスタの内容が、対応するチャネルの8ビットA/Dデータレジスタに転送されます。

各8ビットA/Dデータレジスタは最終の変換結果を次の変換結果が転送されるまで保持しており、いつでもその内容を読み出すことができます。

11.3　A/Dコンバータ機能説明

11.3.1　アナログ入力電圧の求め方

A/Dコンバータは、10ビット逐次近似方式を採用しており、A/D変換の実行結果で得られる値(デジタル値)から実際のアナログ入力電圧を求めるには、以下の計算を行います。

$$\text{アナログ入力電圧[V]} = \frac{\text{A/D変換結果} \times \text{VREF入力電圧[V]}}{1024}$$

A/Dコンバータは10ビット構成であり、分解能は1024となります。A/Dコンバータの基準電圧は、VREF0端子に入力された電圧になるため、VREF0には正確かつ安定な定電圧電源を接続してください。またアナログ系の電源、グランド(AVCC0, AVSS0)はデジタル系の電源と分離し、ノイズ対策を十分とってください。

なお、変換の精度については、「11.3.5 A/D変換精度の定義」を参照してください。

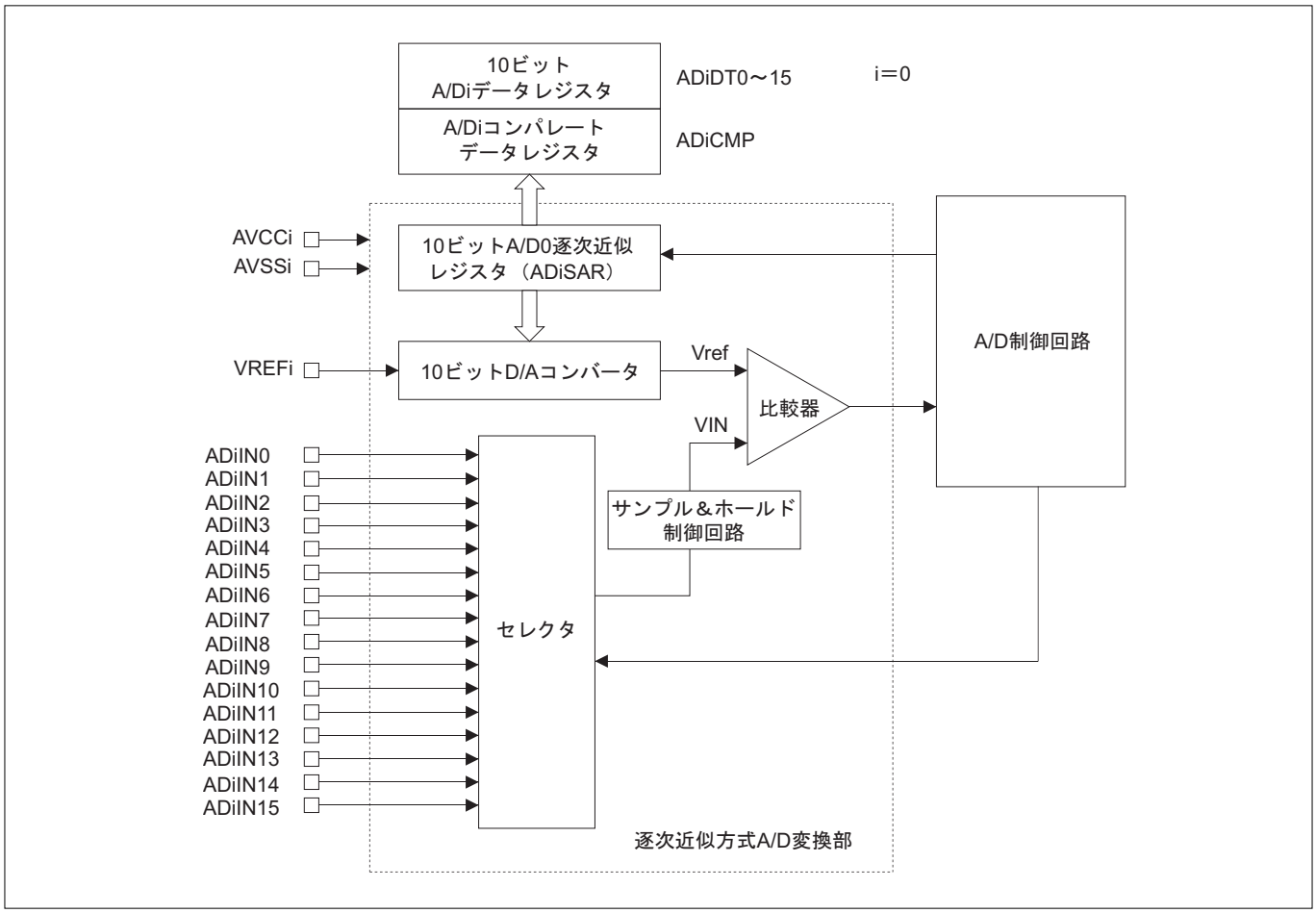


図11.3.1　逐次近似方式A/D変換部概略ブロック図

11.3.2　逐次近似比較方式のA/D変換

A/Dコンバータは、A/D変換開始トリガ(ソフトウェアまたはハードウェア)によりA/D変換動作を開始します。A/D変換開始後は、以下の動作を自動的に実行します。

1. **単一モード時はA/D単一モードレジスタ0のA/D変換/コンパレート終了ビットを、またスキャンモード時はA/Dスキャンモードレジスタ0のA/D変換終了ビットを"0"にクリア**
2. **A/D逐次近似レジスタの内容を"H'0000"にクリア**
3. **A/D逐次近似レジスタの最上位ビット(b6)を"1"にセット**
4. **比較電圧Vref(注1)を、D/Aコンバータから比較器へ入力**
5. **比較電圧Vrefとアナログ入力電圧VINの比較を行い、比較結果をb6に格納**
   Vref ＜ VIN　**ならば、**b6＝"1"
   Vref ＞ VIN　**ならば、**b6＝"0"
6. **上記(3～5)の動作を、以下b7～b15までの全ビットに対して実行**
7. **b15の比較終了時A/D逐次近似レジスタに格納されている値をA/D変換結果として確定**

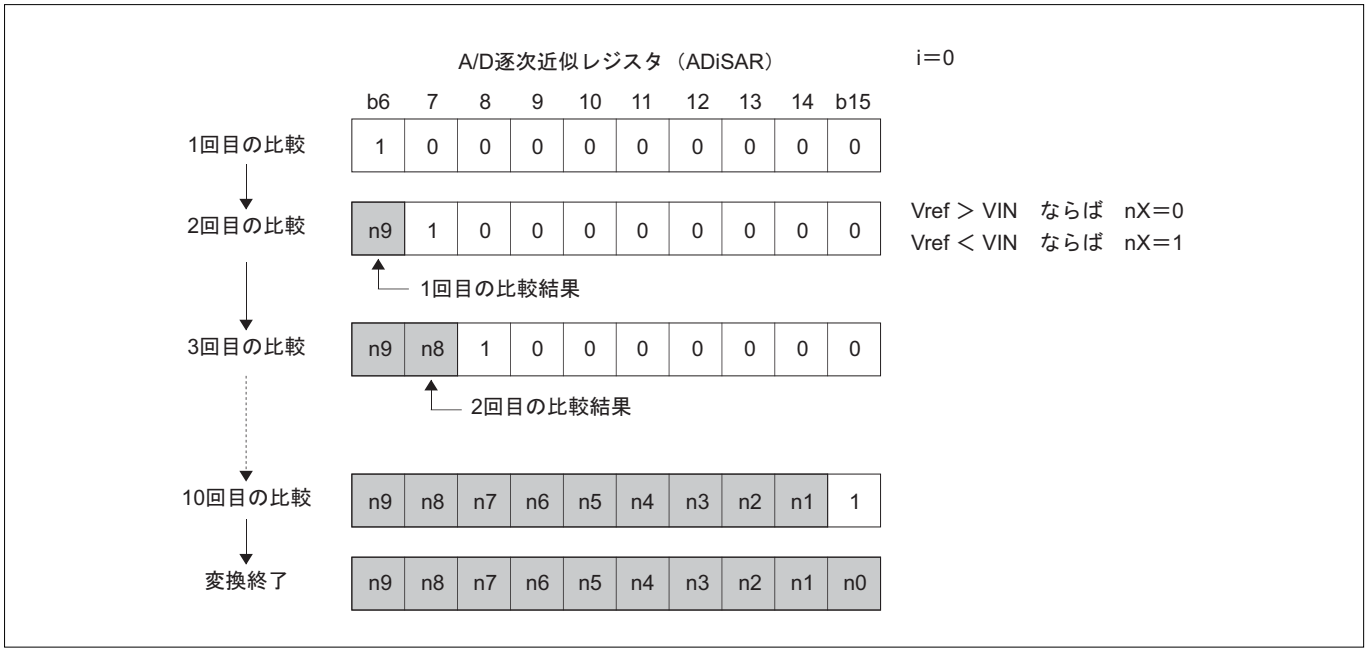


図11.3.2　A/D**変換動作中の**A/D**逐次近似レジスタの変化**

注1. **比較電圧**Vref**(**D/A**コンバータから比較器に入力される電圧)は、**A/D**逐次近似レジスタの内容変化に対応して決定されます。比較電圧**Vref**の計算式は以下のとおりです。**
- A/D**逐次近似レジスタの内容＝**0**の場合**
  Vref[V]＝0
- A/D**逐次近似レジスタの内容＝**1～1023**の場合**
  Vref[V]＝**(基準電圧** VREF0/1024)×(A/D**逐次近似レジスタの内容－**0.5)

比較結果は、変換を行ったチャネルに対応した10ビットA/Dデータレジスタ(AD0DTn)に格納されます。また、8ビットA/Dデータレジスタ(AD08DTn)からは、10ビットA/D変換結果の上位8ビットが読み出せます。

各動作モードにおける逐次近似比較方式のA/D変換の手順を以下に示します。

(1) 単一モードの場合

A/D逐次近似レジスタのb15ビットの比較が完了すると変換動作は停止します。A/D逐次近似レジスタの内容(A/D変換結果)は、変換を行った10ビットA/Dデータレジスタ0～15に転送されます。

(2) スキャンワンショットモードの場合

指定したあるチャネルのA/D逐次近似レジスタでb15ビットの比較が完了すると、A/D逐次近似レジスタの内容は対応する10ビットA/Dデータレジスタ0～15に転送され、次の変換対象チャネルに対して、前記2.～7.の変換動作を再び実行します。

スキャンワンショットモード時は、指定した1スキャンループのA/D変換が終了すると、変換動作は停止します。

(3) スキャン連続モードの場合

指定したチャネルのA/D逐次近似レジスタでb15ビットの比較が完了すると、A/D逐次近似レジスタの内容は対応する10ビットA/Dデータレジスタ0～15に転送され、次の変換対象チャネルに対して、前記2.～7.の変換動作を再び実行します。

スキャン連続モード時は、A/D変換ストップビット(スキャンモードレジスタ0のb6)を"1"にセットし、スキャン動作を強制停止させるまで、連続して変換動作を実行します。

11.3.3　コンパレータ動作

コンパレータモード(単一モードのみ)を選択すると、A/Dコンバータはソフトウェアによって設定した比較電圧と、アナログ入力電圧を比較するコンパレータとして機能します。

逐次近似レジスタに比較値を書き込むと、単一モードレジスタ1のアナログ入力選択ビットで選択されたアナログ入力電圧と、逐次近似レジスタに書き込んだ値とのコンパレートを開始します。コンパレートが開始すると、以下の動作が自動的に実行されます。

1. **A/D単一モードレジスタ0のA/D変換/コンパレート終了フラグを"0"にクリア**
2. **比較電圧Vref(注1)を、D/Aコンバータから比較器へ入力**
3. **比較電圧Vrefとアナログ入力電圧VINの比較を行い、比較結果を対応するチャネルのコンパレート結果フラグに格納**
   Vref ＜ VIN　**ならば、コンパレート結果フラグ＝"0"**
   Vref ＞ VIN　**ならば、コンパレート結果フラグ＝"1"**
4. **比較結果を格納後、コンパレート動作を停止**

比較結果は、A/D0コンパレートデータレジスタ(AD0CMP)の対応するビットに格納されます。

注1．比較電圧Vref(D/Aコンバータから比較器に入力される電圧)は、A/D逐次近似レジスタの内容変化に対応して決定されます。比較電圧Vrefの計算式は以下のとおりです。

- **A/D逐次近似レジスタの内容＝0の場合**
  Vref[V]＝0
- **A/D逐次近似レジスタの内容＝1～1023の場合**
  Vref[V]＝(**基準電圧**　VREF0/1024)×(A/D0**逐次近似レジスタの内容**－0.5)

11.3.4　A/D変換時間算出方法

A/D変換時間はダミーサイクル時間と実際の実行サイクル時間との和で表されます。変換時間の算出に必要な各時間は以下の通りです。

1．開始ダミー時間
CPUがA/D変換の開始命令を実行した時点から、A/DコンバータがA/D変換を開始するまでの時間

2．A/D変換実行サイクル時間
サンプル＆ホールド有効時のサンプリング時間は、この実行サイクルに含まれます。

3．コンパレート実行サイクル時間

4．終了ダミー時間
A/DコンバータがA/D変換を終了した時点から、CPUがその変換結果をA/Dデータレジスタから読み出せる（安定読み出し領域）までの時間

5．スキャン間ダミー時間
スキャンワンショット/連続モード時、A/Dコンバータがあるチャネルの A/D変換を終了した時点から、次のチャネルのA/D変換を開始するまでの時間

A/D変換時間の計算式は以下のとおりです。

A/D変換時間 ＝開始ダミー時間 ＋ 実行サイクル時間
（ ＋スキャン間ダミー時間＋実行サイクル時間
＋スキャン間ダミー時間＋実行サイクル時間
＋スキャン間ダミー時間　・・・・・・ ＋実行サイクル時間）
＋終了ダミー時間

注．・（）内はスキャンモードで、2チャネル目以降の変換時間を示します。

(1) A/D変換モード時の変換時間算出方法

A/D変換モード時の変換時間算出方法を以下に示します。

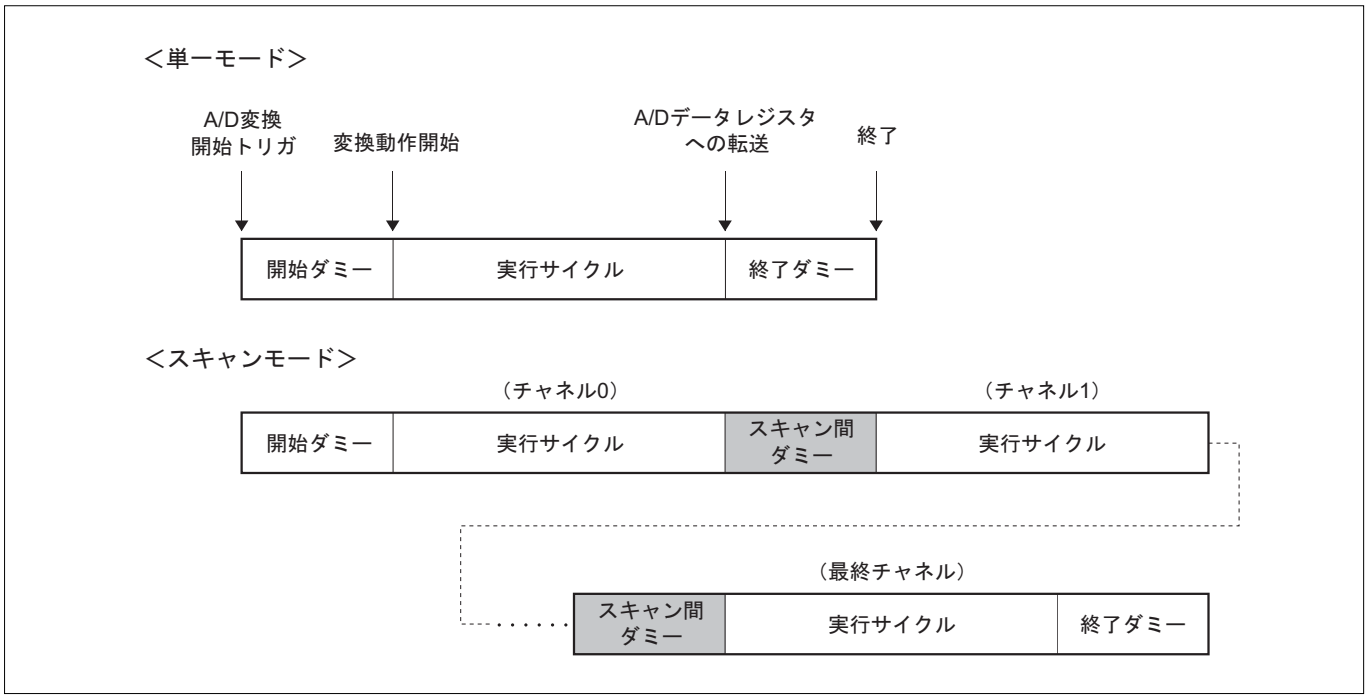


図11.3.3　A/D変換時間概念図

(2) サンプル＆ホールド有効時の変換時間算出方法

サンプル＆ホールド有効時の変換時間算出方法を以下に示します。

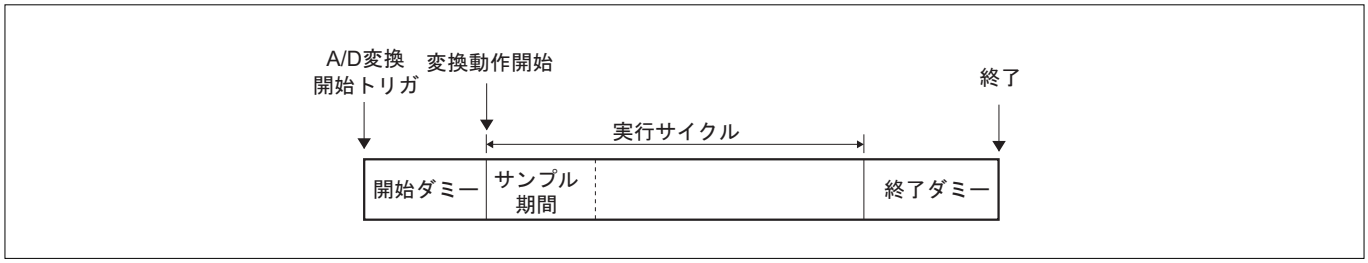


図11.3.4　**サンプル＆ホールド有効時の時間概念図**

表11.3.1　**サンプル＆ホールド無効時またはノーマルサンプル＆ホールド有効時の変換クロック数一覧表（最短時間）**

単位：BCLK

変換速度		開始ダミー（注1）	実行サイクル	終了ダミー	スキャン間ダミー（注2）
低速モード	ノーマル	4	294	1	4
	倍速	4	168	1	4
高速モード	ノーマル	4	126	1	4
	倍速	4	84	1	4

注1．ソフトウェアトリガの場合もハードウェアトリガの場合も同一。
注2．スキャンモード動作時のみ、チャネルごとの実行時間に加算されます。

表11.3.2　**高速サンプル＆ホールド有効時の変換クロック数一覧表（最短時間）**　**単位：**BCLK

変換速度		開始ダミー（注1）	実行サイクル	終了ダミー	スキャン間ダミー（注2）
低速モード	ノーマル	4	186	1	4
	倍速	4	96	1	4
高速モード	ノーマル	4	90	1	4
	倍速	4	48	1	4

注1．ソフトウェアトリガの場合もハードウェアトリガの場合も同一。
注2．スキャンモード動作時のみ、チャネルごとの実行時間に加算されます。

(3) コンパレートモード時の変換時間算出方法

コンパレートモード時の変換時間算出方法を以下に示します。

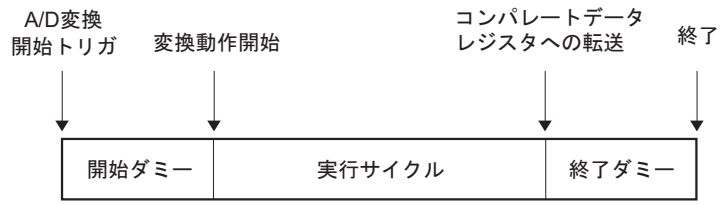


図11.3.5　コンパレートモード時の時間概念図

表11.3.3　コンパレートモードの変換クロック数一覧表(最短時間)　　**単位：BCLK**

変換速度		開始ダミー	実行サイクル	終了ダミー
低速モード	ノーマル	4	42	1
	倍速	4	24	1
高速モード	ノーマル	4	18	1
	倍速	4	12	1

(4) A/D変換時間

A/D変換時間を以下に示します。

表11.3.4　A/D変換時間(合計時間)　　**単位：BCLK**

変換開始方法	変換速度		変換モード(注1)	変換時間	高速サンプル＆ホールド有効時
ソフトウェアトリガおよびハードウェアトリガ(注2)	低速モード	ノーマル	単一モード	299	191
			スキャンワンショット　nチャネルスキャン/連続モード	(298×n)＋1	(190×n)＋1
			コンパレータモード	47	47
		倍速	単一モード	173	101
			スキャンワンショット　nチャネルスキャン/連続モード	(172×n)＋1	(100×n)＋1
			コンパレータモード	29	29
	高速モード	ノーマル	単一モード	131	95
			スキャンワンショット　nチャネルスキャン/連続モード	(130×n)＋1	(94×n)＋1
			コンパレータモード	23	23
		倍速	単一モード	89	53
			スキャンワンショット　nチャネルスキャン/連続モード	(88×n)＋1	(52×n)＋1
			コンパレータモード	17	17

注1．単一モードおよびコンパレータモードは、1チャネルのA/D変換、コンパレート時間を示します。スキャンワンショット/連続モードは、1スキャンループのA/D変換時間を示します。

注2．レジスタの書き込みサイクルが終了してから、A/D変換終了割り込み要求が発生するまでの時間を示します。またはイベントバスを含むMJTなどのイベントによる起動後、A/D変換終了割り込み要求が発生するまでの時間を示します。

11.3.5　A/D変換精度の定義

A/Dコンバータの精度は絶対精度で示します。絶対精度とは、アナログ入力電圧をA/D変換して得られる出力コードと、理想的な特性を持つA/Dコンバータに期待される出力コードの差をLSBを用いて示した精度です。

精度測定時のアナログ入力電圧は、理想的な特性を持つA/Dコンバータが同一の出力コードを出力する電圧幅の中点の値とします。例えば、VREF0＝5.12Vの場合、10ビットA/Dコンバータの1LSBの幅は5mVとなり、アナログ入力電圧の中点として0mV、5mV、10mV、15mV、20mV、25mV……が選ばれます。

A/Dコンバータの絶対精度＝±2LSBとは、例えば入力電圧が25mVの場合、理想的なA/Dコンバータに期待される出力コードが"H'005"であるのに対して、実際のA/D変換結果は"H'003～H'007"の範囲にあることを示します。なお、絶対精度にはゼロ誤差、フルスケール誤差が含まれます。

実際にA/Dコンバータを使用するときの、アナログ入力電圧の範囲はAVSS0からVREF0までですが、VREF0の電圧を下げて使用すると分解能が悪くなります。また、VREF0からAVCC0までのアナログ入力電圧に対する出力コードは、常に"H'3FF"となります。

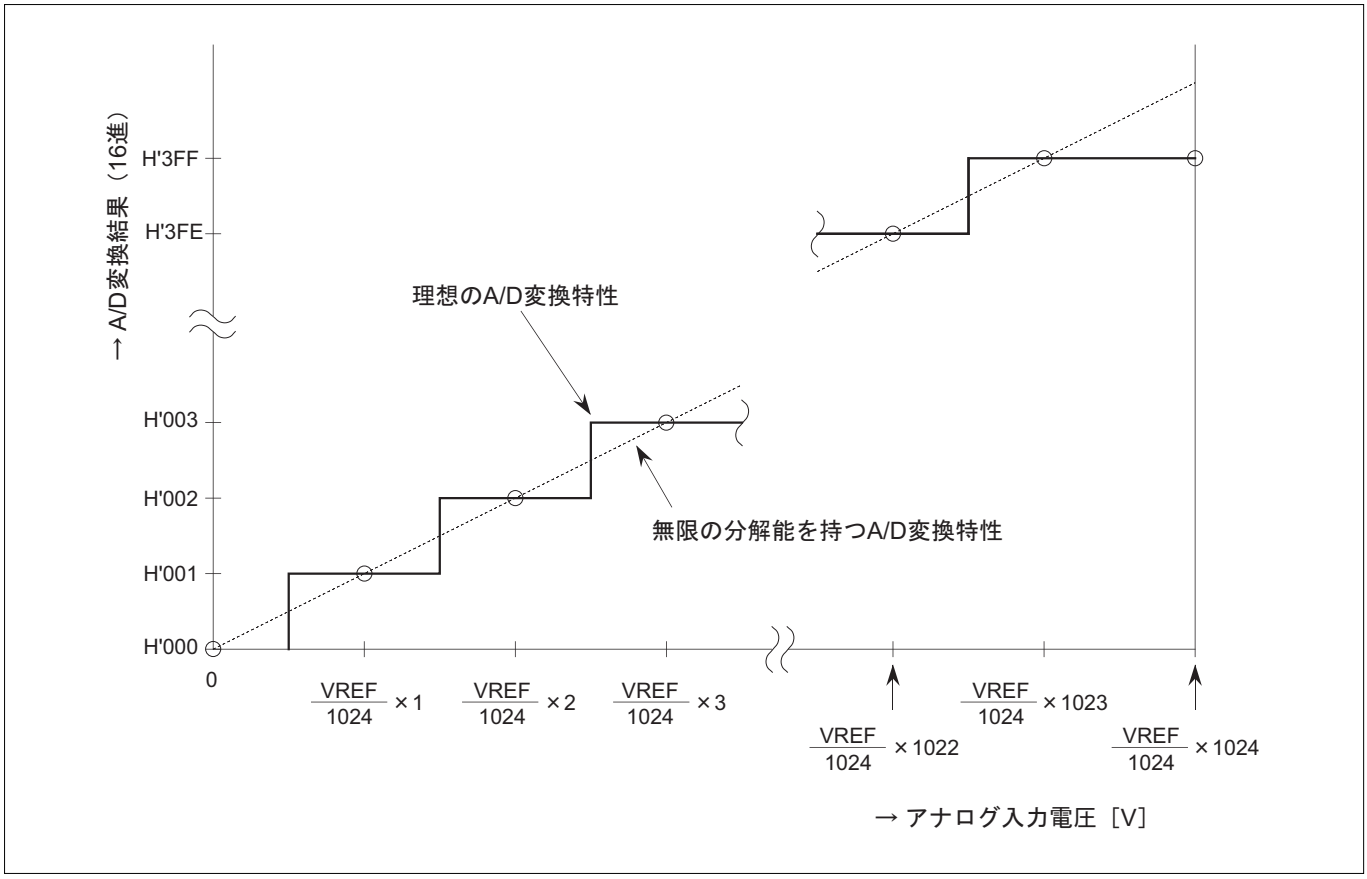


図11.3.6　10**ビット**A/D**コンバータのアナログ入力電圧に対する理想的**A/D**変換特性**

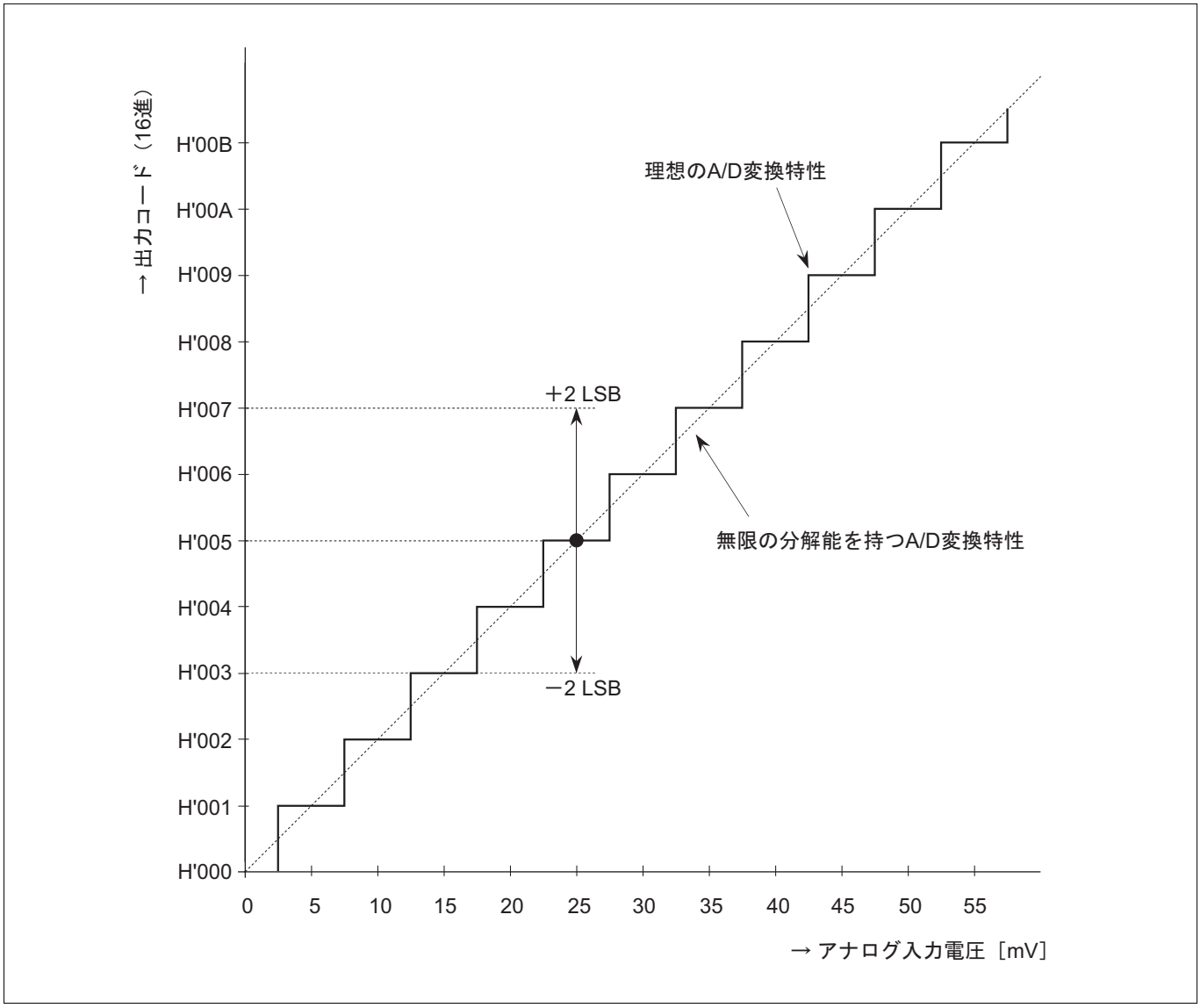


図11.3.7　A/D**コンバータの絶対精度**

11.4　注入電流バイパス回路

A/Dコンバータは、選択されたアナログ入力をA/D変換中に、非選択のアナログ入力に絶対最大定格を越える過電圧が印可されると、非選択のアナログ入力の選択回路が過電圧により選択されてしまい、選択中のアナログ入力へ回り込みを起こし、A/D変換結果の精度異常を起こします。

注入電流バイパス回路では、アナログ入力の内部信号を非選択時にGNDレベルへ固定することで、過電圧が印可された場合にGND側へ電流を流し、選択中のアナログ入力への回り込みを防ぎ、A/D変換結果の精度異常を防止します。

この回路は、A/Dコンバータを使用中は絶えず動作しており、ソフトウェアでの制御は不要です。

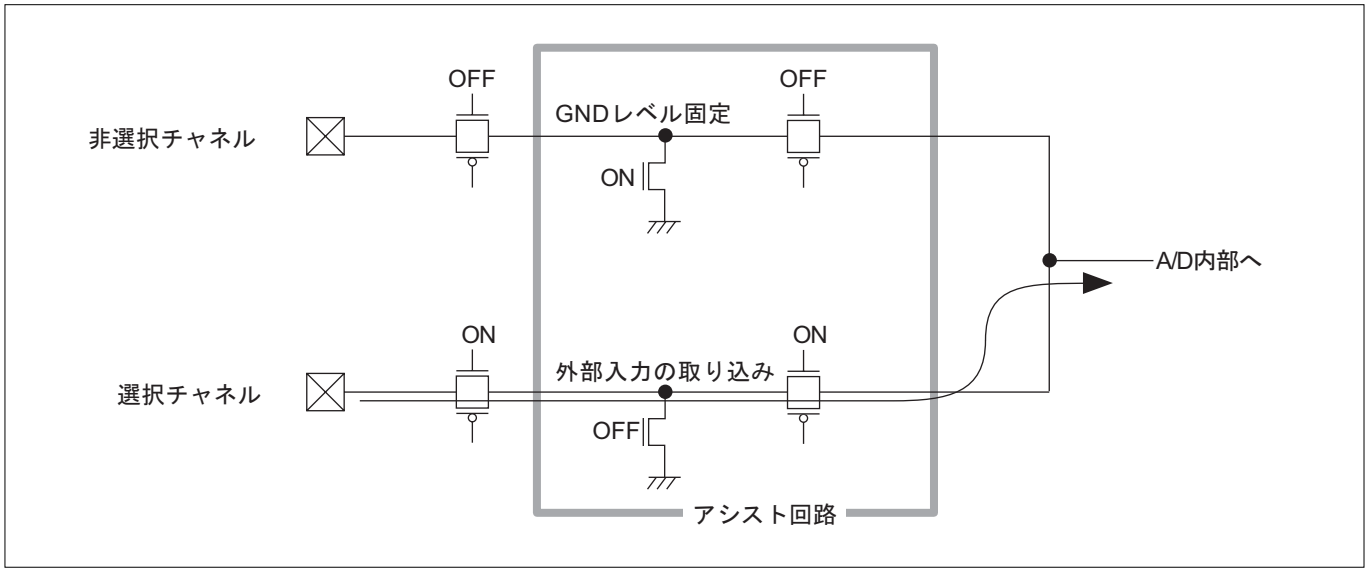


図11.4.1　**注入電流バイパス回路構成図**

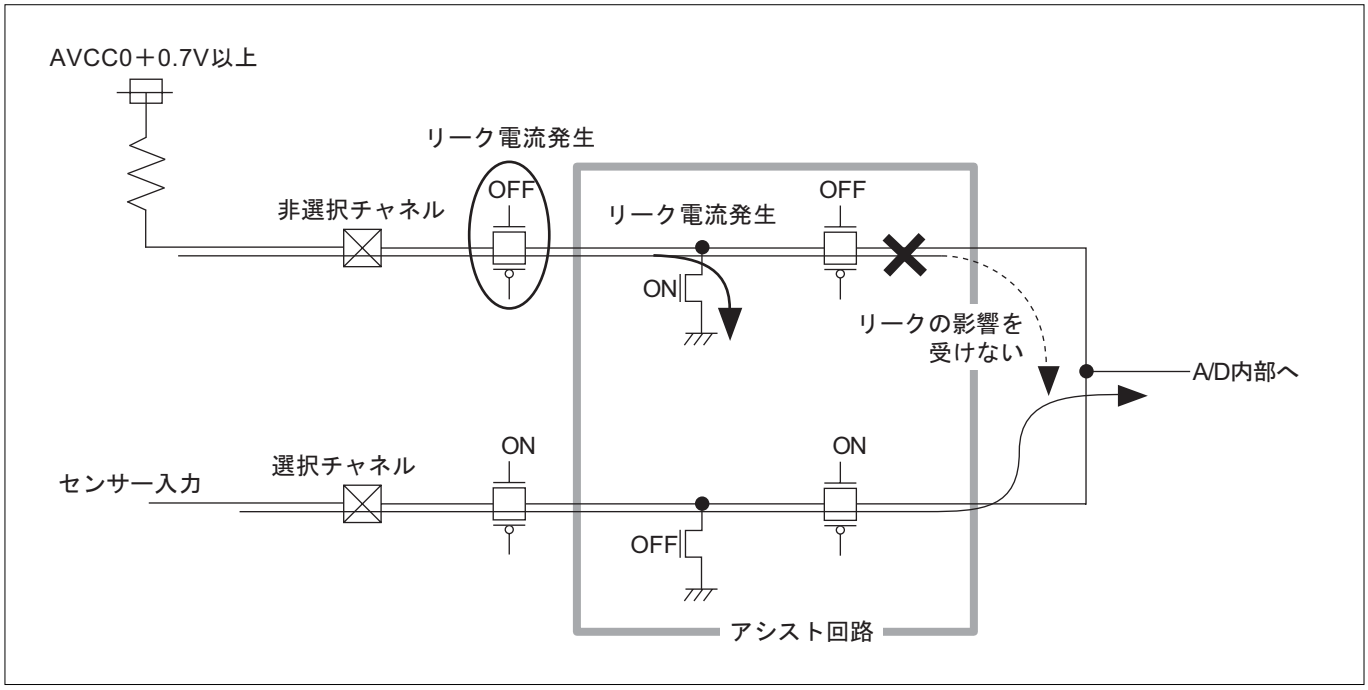


図11.4.2　**注入電流バイパス回路へ**AVCC0＋0.7V**以上印加例**

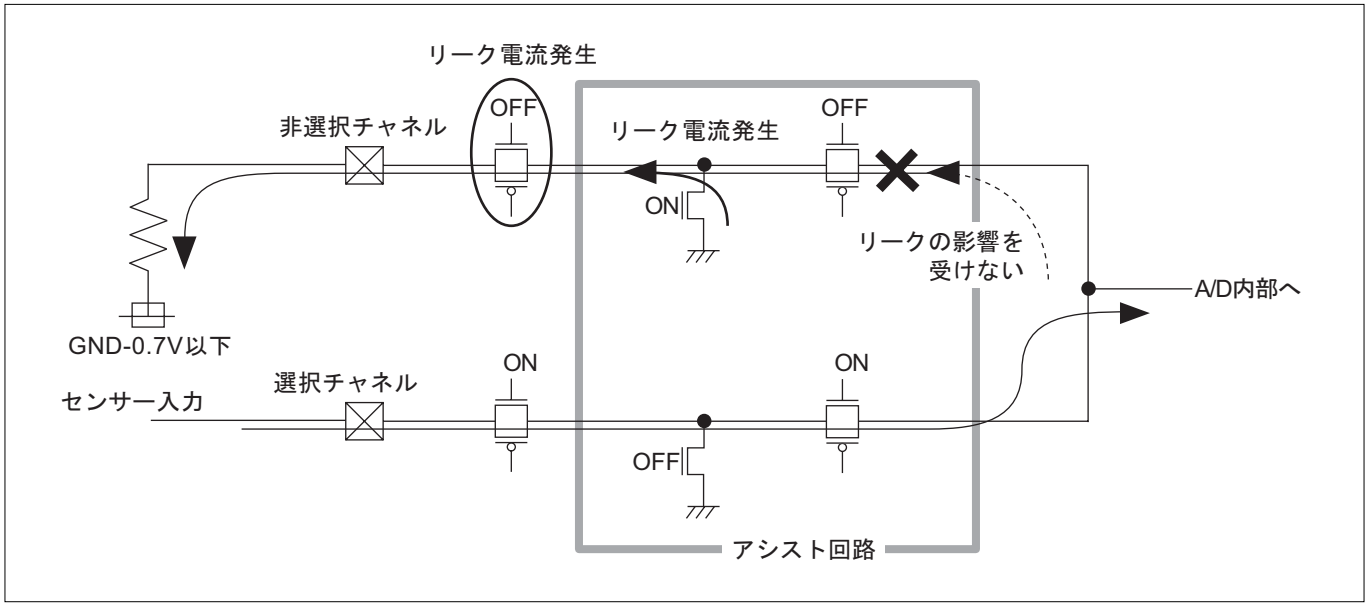


図11.4.3　**注入電流バイパス回路へ**GND－0.7V**以下印加例**

表11.4.1　AD0IN0**へ電流注入時の精度誤差（実力値）**

		過電流注入ポートの精度誤差（単位：LSB）															
アナログ入力端子		AD0IN0	AD0IN1	AD0IN2	AD0IN3	AD0IN4	AD0IN5	AD0IN6	AD0IN7	AD0IN8	AD0IN9	AD0IN10	AD0IN11	AD0IN12	AD0IN13	AD0IN14	AD0IN15
注入電流（注1）	10mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	8mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-1mA		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-2mA		-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-3mA		-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-4mA		-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-5mA		-2	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-6mA		-3	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-7mA		-3	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-8mA		-3	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-9mA		-4	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	-10mA		-5	-1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1．**注入電流が**1mA**以内であれば、精度への影響はありません。**

11.5　A/Dコンバータの注意事項

• スキャン動作中の強制終了

スキャンモード動作中に、A/D変換ストップビット（AD0CSTP）を"1"にセットしてA/D変換を強制停止した場合、変換途中のチャネルに対応するA/Dデータレジスタの内容を読み出すと、強制停止する以前に転送されていた最終の変換結果が読み出されます。

• A/Dコンバータ関連レジスタの変更

A/D変換ストップビットを除くA/D変換割り込み制御レジスタ、各モードレジスタおよびA/D逐次近似レジスタの内容の変更は、A/D変換停止中に行うか、変更後に再スタートしてください。A/D変換中に各レジスタの変更を行った場合、変換結果は保証されません。

• アナログ入力信号の取り扱い

サンプル＆ホールド無効で使用する場合、A/D変換中はアナログ入力レベルを固定してください。

• A/D変換終了ビットの読み出しタイミング

A/D変換起動直後にA/D変換終了ビット（単一モードレジスタ0のb5ビット、およびスキャンモードレジスタ0のb5ビット）を読み出す場合は、NOP命令などで2BCLK分タイミング調整してから読み出してください。

• アナログ入力端子に関して

図11.5.1にアナログ入力部の内部等価回路を示します。正確なA/D変換結果を得るには、所定の時間（サンプリング時間）内にA/D変換回路内部のコンデンサC2への充電を完了させることが必要です。このサンプリング時間を満たすために、外付け安定化コンデンサC1の外付けを推奨します。

以下に、アナログ出力素子の出力インピーダンスと、この条件を満たす外付け安定化コンデンサの値の決め方について示します。また、アナログ出力素子の出力インピーダンスが低く、外付け安定化コンデンサC1が不用な場合についての考え方も示します。

• 絶対精度の規格値

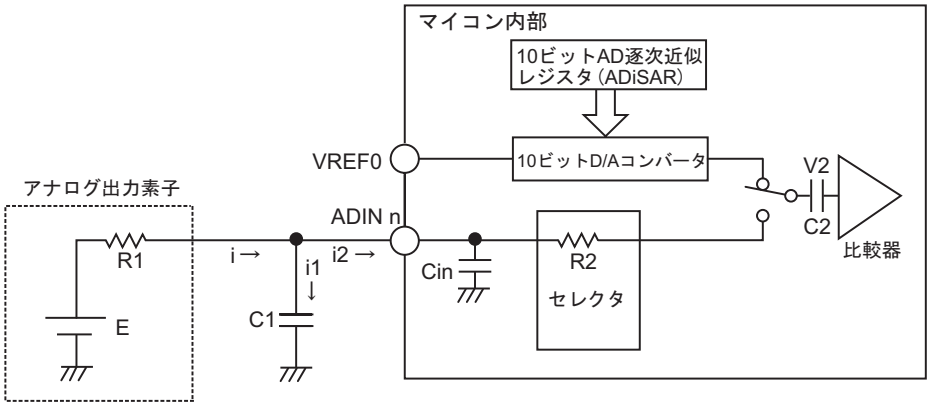
絶対精度の規格値はマイコン単体の実力値ですのでボード上の電源配線が安定であることやノイズの影響を受けない環境であることが前提です。ボード設計時にはAVCC0/AVSS0/VREF0を他のデジタル系電源と分離したり、アナログ入力端子が他のデジタル信号の影響（ノイズ）を受けないようレイアウトには十分注意してください。

• サンプル＆ホールド有効モード設定時の単一モード/スキャンモード動作

A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビットのどちらか一方をサンプル＆ホールド有効に選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールド有効モードで動作します。

A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビットのどちらか一方がサンプル＆ホールド有効に選択され、かつA/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADSSHSPD）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADCSHSPD）ビットのどちらか一方を高速サンプル＆ホールドに選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールドの変換速度が、高速サンプル＆ホールドで動作します。

単一モードまたは、スキャンモードをサンプル＆ホールド有効モードで使用する場合は、A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビット、A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADSSHSPD）ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADCSHSPD）ビットを同じ設定値で使用してください。



C1 ：基板寄生容量＋安定化C　　R2：セレクタ寄生抵抗（1～2KΩ）　　VREF：アナログ基準電圧
R1 ：アナログ出力素子抵抗　　C2：比較器容量（約2.9pF）　　V2 ：C2両端電圧
Cin：入力端子容量（約10pF）　　E ：アナログ出力素子電圧

図11.5.1　アナログ入力部の内部等価回路

(a) 外付け安定化コンデンサC1（付加を推奨）の算出例

図11.5.1にて、R1が∞に大きく、内部のコンデンサC2に対しての充電はC1から供給するものとし、C1とC2の容量分割による電位変動Vpを0.1LSB以下にするものとしてC1の容量を考えます。VREF0を5.12Vとした場合の10ビットA/Dコンバータでは、1LSB判定電圧＝5.12V/1024＝5mVとなります。0.1LSBの電位変動まで考慮すると、0.5mVの変動となります。

C1とC2の容量分割とVpの関連は、以下の式で求められます。

$$Vp = \frac{C2}{C1+C2} \times (E-V2) \quad \text{---------- (A-1)式}$$

また、Vpは以下の式にても求められます。

$$Vp = Vp1 \times \sum_{i=0}^{x-1} \frac{1}{2^i} < \frac{VREF0}{10 \times 2^x} \quad \text{---------- (A-2)式}$$

注.　・Vp1は、A/D変換1回目の電位変動
　　・10ビット分解能A/Dコンバータため、xは"10"です。

(A-1)式と(A-2)式を解くと

$$C1 = C2 \left\{ \frac{E-V2}{Vp1} - 1 \right\} \quad \text{---------- (A-3)式}$$

$$\therefore C1 > C2 \left\{ 10 \times 2^x \times \sum_{i=0}^{x-1} \frac{1}{2^i} - 1 \right\} \quad \text{---------- (A-4)式}$$

よって、10ビット分解能＝A/Dコンバータで C2＝2.9pFの場合のC1は、0.06μF以上となります。
C1設定時の参考としてご使用ください。

(b) C1を付加しない場合の出力インピーダンスR1の最大値

図11.5.1において、外付けコンデンサC1を使用しない場合、アナログ出力素子が一定時間内にC2を十分に充電できるかを検討する必要があります。まず、図11.5.1にて、C1が無い場合での、i2を求める式を以下に示します。

$$i2 = \frac{C2\ (E-V2)}{Cin \times R1 + C2\ (R1+R2)} \times \exp \frac{\{\quad -t \quad\}}{Cin \times R1 + C2\ (R1+R2)} \quad \text{---------- (B-1)式}$$

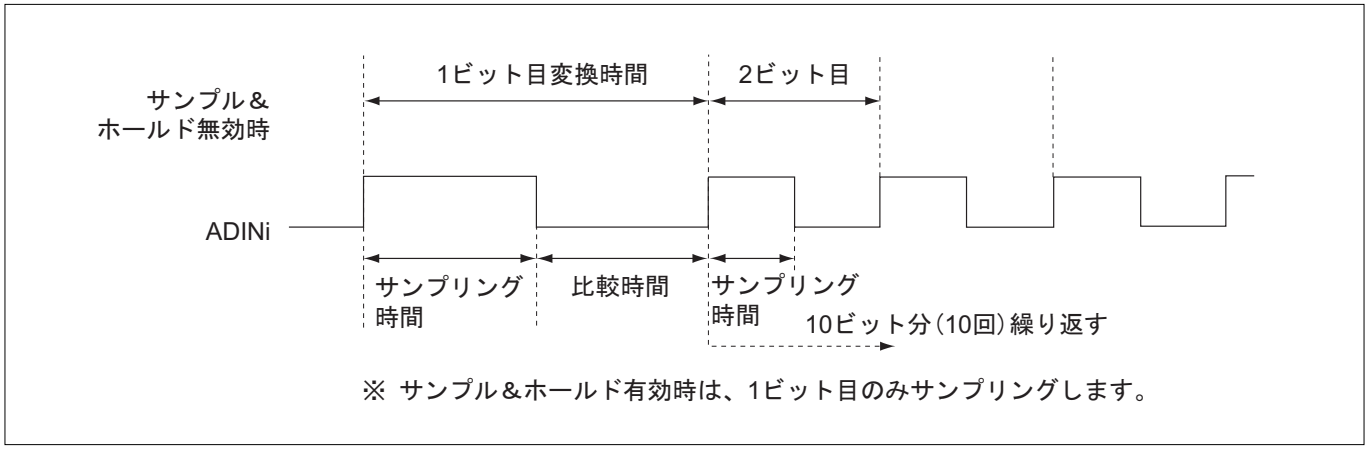


図11.5.2　A/D**変換タイミング図**

図11.5.2にA/D変換タイミング図を示します。C2への充電に必要な時間は図中のサンプリング時間ですが、サンプル＆ホールド無効の場合の2ビット目以降のサンプリング時間は、1ビット目にくらべて約半分となります。

各変換スピードごとのサンプリング時間を次ページに示します。なお、サンプル＆ホールド有効の場合は1ビット目のサンプリングのみとなります。

表11.5.1　**サンプリング時間（C2充電必要時間）**

変換開始方法	変換速度		1ビット目サンプリング時間	2ビット目以降サンプリング時間
単一モード（サンプル＆ホールド無効時）	低速モード	ノーマル	27.5BCLK	13.5BCLK
		倍速	15.5BCLK	7.5BCLK
	高速モード	ノーマル	11.5BCLK	5.5BCLK
		倍速	7.5BCLK	3.5BCLK
単一モード（サンプル＆ホールド有効時）	低速モード	ノーマル	27.5BCLK	－
		倍速	15.5BCLK	－
	高速モード	ノーマル	11.5BCLK	－
		倍速	7.5BCLK	－
コンパレータモード	低速モード	ノーマル	27.5BCLK	－
		倍速	15.5BCLK	－
	高速モード	ノーマル	11.5BCLK	－
		倍速	7.5BCLK	－

よって、C2を充電するために必要な時間は、（B-1）式より

サンプリング時間（C2充電必要時間）＞Cin×R1＋C2（R1＋R2） ---------- **（B-2）式**

となり、R1の最大値を求める目安の式は、以下のようになります。

なお、単一モード（サンプル＆ホールド無効時）は、2ビット目以降のサンプリング時間（C2充電必要時間）を使用してください。

$$R1 < \frac{C2\text{充電必要時間} - C2 \times R2}{Cin + C2}$$

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第12章

シリアルインタフェース

12.1　シリアルインタフェース概要
12.2　シリアルインタフェース関連レジスタ
12.3　CSIOモード送信動作説明
12.4　CSIOモード受信動作説明
12.5　CSIOモード時の注意事項
12.6　UARTモード送信動作説明
12.7　UARTモード受信動作説明
12.8　定周期クロック出力機能
12.9　UARTモード時の注意事項

12.1　シリアルインタフェース概要

32176は、SIO0～SIO3の計4チャネルのシリアルインタフェースを内蔵しています。SIO0、SIO1はCSIOモード（クロック同期形シリアルインタフェース）と、UARTモード（クロック非同期形シリアルインタフェース）を選択できます。SIO2およびSIO3はUARTモード専用です。

- **CSIOモード（クロック同期形シリアルインタフェース）**

転送クロックに同期して通信を行うモードで、送受信間で同一のクロックを使用します。転送データ長は8ビット固定です。

- **UARTモード（クロック非同期形シリアルインタフェース）**

任意の転送速度、転送データフォーマットを設定できるモードです。転送データ長は7ビット、8ビット、9ビットから選択できます。

SIO0～SIO3は、それぞれ送信DMA転送要求と受信DMA転送要求を持っています。内蔵DMACを用いることにより、高速なシリアル通信が可能となり、また、データ通信にともなうCPUの負荷も低減されます。

以下にシリアルインタフェースの概要を示します。

表12.1.1　シリアルインタフェースの概要

項目	内容
チャネル数	CSIOモード/UARTモード兼用　：2チャネル（SIO0, SIO1） UART専用　：2チャネル（SIO2, SIO3）
クロック	CSIOモード時 ：内部クロック/外部クロック選択可（注1）、クロック極性選択可 UARTモード時：内部クロック固定
転送モード	送信半二重、受信半二重、送受信全二重
BRGカウントソース （内部クロック選択時）	f(BCLK), f(BCLK)/8, f(BCLK)/32, f(BCLK)/256（注2） f(BCLK)：周辺クロック動作周波数
データフォーマット	CSIOモード ：データ長＝8ビット固定 転送順序＝LSBファースト固定 UARTモード：スタートビット＝1ビット キャラクタ長＝7ビット/8ビット/9ビット パリティビット＝あり（奇数、偶数）/なし ストップビット＝1ビット/2ビット 転送順序＝LSBファースト固定
ボーレート	CSIOモード ：152ビット/秒～2Mビット/秒 （f(BCLK)＝20MHz動作時） UARTモード ：19ビット/秒～1.25Mビット/秒（f(BCLK)＝20MHz動作時）
エラー検出	CSIOモード ：オーバランエラーのみ UARTモード ：オーバランエラー、パリティエラー、フレーミングエラー （いずれかのエラーが発生したことはエラーサムビットで表示）
定周期クロック出力機能	SIO0、SIO1をUARTとして用いる場合、SCLK端子からBRGの2分周クロックを出力させる機能

注1．CSIOモード時の外部クロックの最大入力周波数はf(BCLK)の16分周です。
注2．BRGカウントソースとしてf(BCLK)を選択した場合、BRG設定値に制限があります。

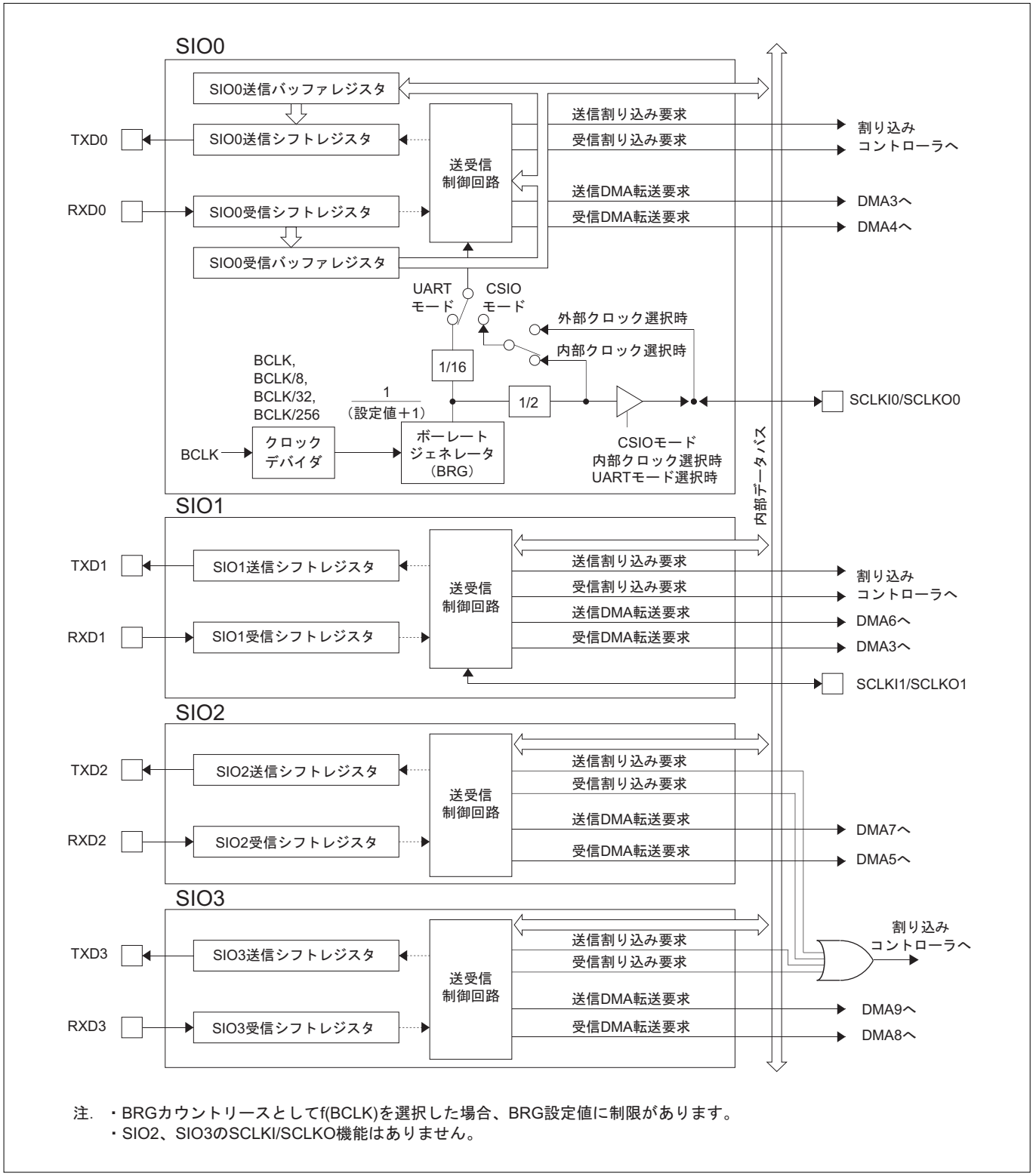
表12.1.2　シリアルインタフェースの割り込み要求発生機能

シリアルインタフェースの割り込み要求元	ICU割り込み要求要因
SIO0の送信バッファエンプティ、または送信完了	SIO0送信割り込み
SIO0の受信完了、または受信エラー	SIO0受信割り込み
SIO1の送信バッファエンプティ、または送信完了	SIO1送信割り込み
SIO1の受信完了、または受信エラー	SIO1受信割り込み
SIO2の送信バッファエンプティ、または送信完了	SIO2, 3送受信割り込み（グループ割り込み）
SIO2の受信完了、または受信エラー	SIO2, 3送受信割り込み（グループ割り込み）
SIO3の送信バッファエンプティ、または送信完了	SIO2, 3送受信割り込み（グループ割り込み）
SIO3の受信完了、または受信エラー	SIO2, 3送受信割り込み（グループ割り込み）

注．・送信完了割り込みはUARTモード、またはCSIOモードで内部クロック選択時に有効です。

表12.1.3　シリアルインタフェースのDMA転送要求発生機能

シリアルインタフェースのDMA転送要求	DMAC入力チャネル
SIO0送信バッファエンプティ	DMA3
SIO0受信完了	DMA4
SIO1送信バッファエンプティ	DMA6
SIO1受信完了	DMA3
SIO2送信バッファエンプティ	DMA7
SIO2受信完了	DMA5
SIO3送信バッファエンプティ	DMA9
SIO3受信完了	DMA8



注.　・BRGカウントリースとしてf(BCLK)を選択した場合、BRG設定値に制限があります。
　　・SIO2、SIO3のSCLKI/SCLKO機能はありません。

図12.1.1　SIO0～SIO3**のブロック図**

12.2　シリアルインタフェース関連レジスタ

シリアルインタフェース関連のレジスタマップを以下に示します。

シリアルインタフェース関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 0100	SIO23割り込み要求ステータスレジスタ （SI23STAT）	SIO03割り込み要求マスクレジスタ （SI03MASK）	12-9 12-10
H'0080 0102	SIO03割り込み要求要因選択レジスタ （SI03SEL）	（使用禁止領域）	12-11
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0110	SIO0送信制御レジスタ （S0TCNT）	SIO0送受信モードレジスタ （S0MOD）	12-13 12-14
H'0080 0112	SIO0送信バッファレジスタ （S0TXB）		12-17
H'0080 0114	SIO0受信バッファレジスタ （S0RXB）		12-18
H'0080 0116	SIO0受信制御レジスタ （S0RCNT）	SIO0ボーレートレジスタ （S0BAUR）	12-19 12-21
H'0080 0118	SIO0特殊モードレジスタ （S0SMOD）	（使用禁止領域）	12-23
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0120	SIO1送信制御レジスタ （S1TCNT）	SIO1送受信モードレジスタ （S1MOD）	12-13 12-14
H'0080 0122	SIO1送信バッファレジスタ （S1TXB）		12-17
H'0080 0124	SIO1受信バッファレジスタ （S1RXB）		12-18
H'0080 0126	SIO1受信制御レジスタ （S1RCNT）	SIO1ボーレートレジスタ （S1BAUR）	12-19 12-21
H'0080 0128	SIO1特殊モードレジスタ （S1SMOD）	（使用禁止領域）	12-23
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0130	SIO2送信制御レジスタ （S2TCNT）	SIO2送受信モードレジスタ （S2MOD）	12-13 12-14
H'0080 0132	SIO2送信バッファレジスタ （S2TXB）		12-17
H'0080 0134	SIO2受信バッファレジスタ （S2RXB）		12-18
H'0080 0136	SIO2受信制御レジスタ （S2RCNT）	SIO2ボーレートレジスタ （S2BAUR）	12-19 12-21
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 0140	SIO3送信制御レジスタ （S3TCNT）	SIO3送受信モードレジスタ （S3MOD）	12-13 12-14
H'0080 0142	SIO3送信バッファレジスタ （S3TXB）		12-17
H'0080 0144	SIO3受信バッファレジスタ （S3RXB）		12-18
H'0080 0146	SIO3受信制御レジスタ （S3RCNT）	SIO3ボーレートレジスタ （S3BAUR）	12-19 12-21

12.2.1　SIO割り込み関連レジスタ

SIO割り込み関連レジスタは、SIOから割り込みコントローラに出力する割り込み要求信号の制御や、割り込み要求要因を選択するレジスタです。

(1) 割り込み要求ステータスビット

割り込み要求を判別するためのステータスビットで、割り込み要求が発生するとハードウェア的にセットされ、ソフトウェア的にセットすることはできません。ステータスビットは、"0"を書き込むことによりクリアされ、"1"を書き込むとステータスビットの状態を保持します。なお、割り込み要求マスクビットの影響を受けず動作しますので、周辺機能の動作確認用にも使用することができます。割り込み処理時には、グルーピングされた割り込み要求ステータスの内、割り込み処理を行ったステータスビットのみクリアください。割り込み処理を行っていないステータスビットをクリアすると未実行の割り込み要求もクリアされます。

(2) 割り込み要求マスクビット

グルーピングされた割り込み要求の内で不要な割り込みを禁止にするためのフラグです。割り込み要求許可時には"1"、割り込み要求禁止時には"0"を設定します。

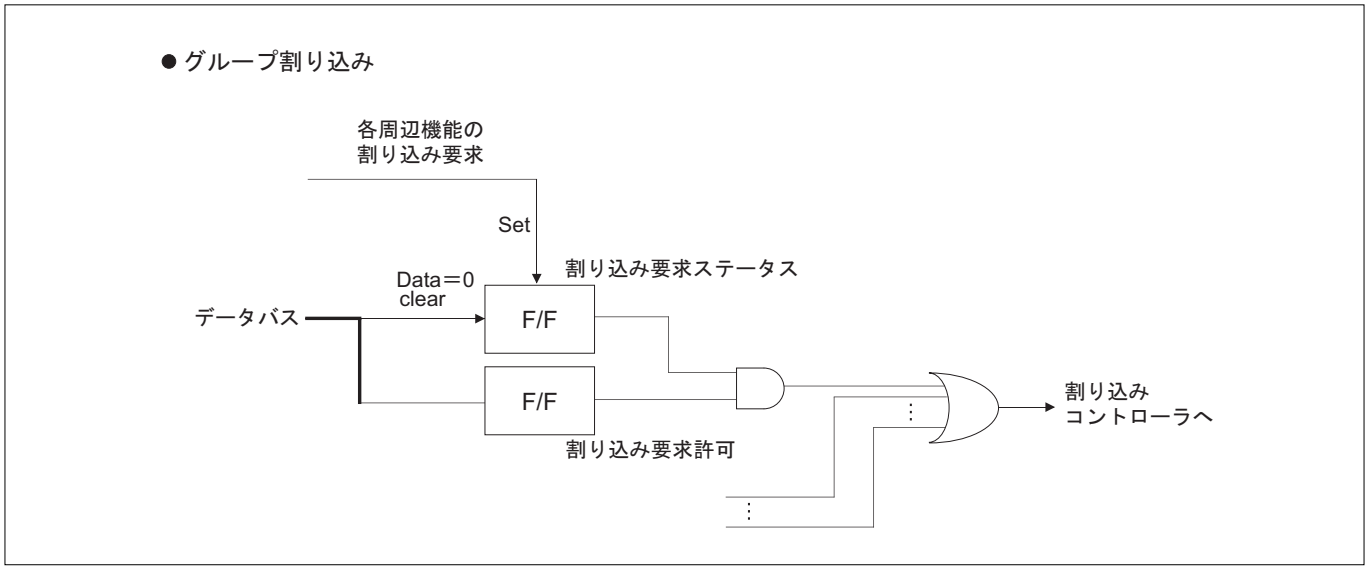
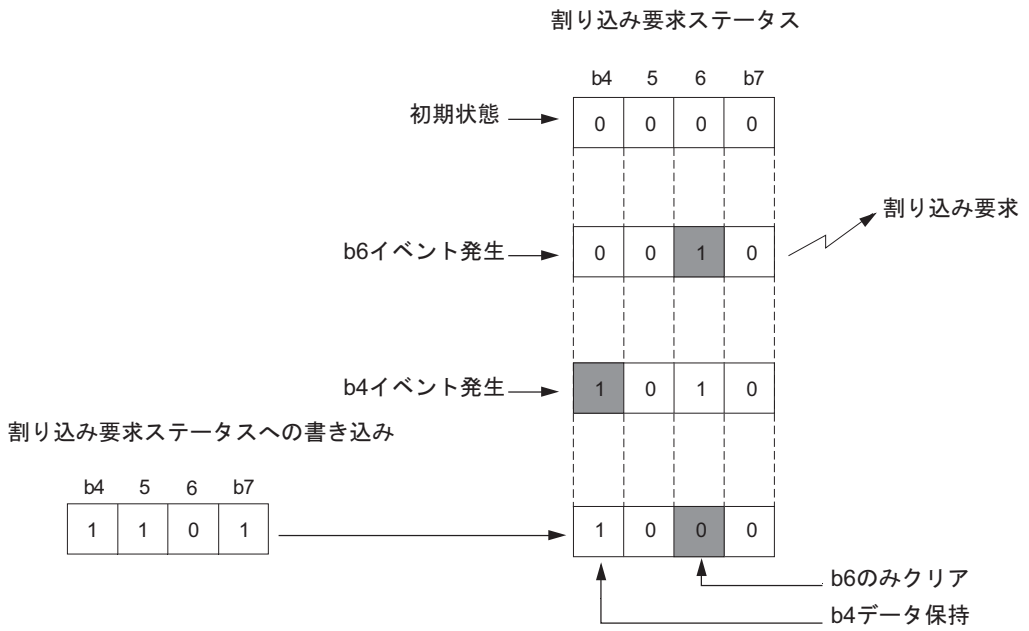


図12.2.1　**割り込み要求ステータスレジスタとマスクレジスタ**

● 割り込み要求ステータスクリア例



● プログラム例

・割り込み要求ステータスレジスタ0（ISTREG）の割り込み要求ステータス1：ISTAT1（0x02ビット）をクリアする場合

○　ISTREG = 0xfd;　　/*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

割り込み要求ステータスをクリアする場合は、必ず他の要求ステータスビットには"1"を書き込んでください。
その際、下のように論理演算を用いるとISTREGの読み出し、論理演算、書き込みの3段階の手順となるため、
読み出しから書き込みの間に他の割り込み要求が発生した場合に、誤ってクリアする場合があります。

×　ISTREG &= 0xfd;　　/*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

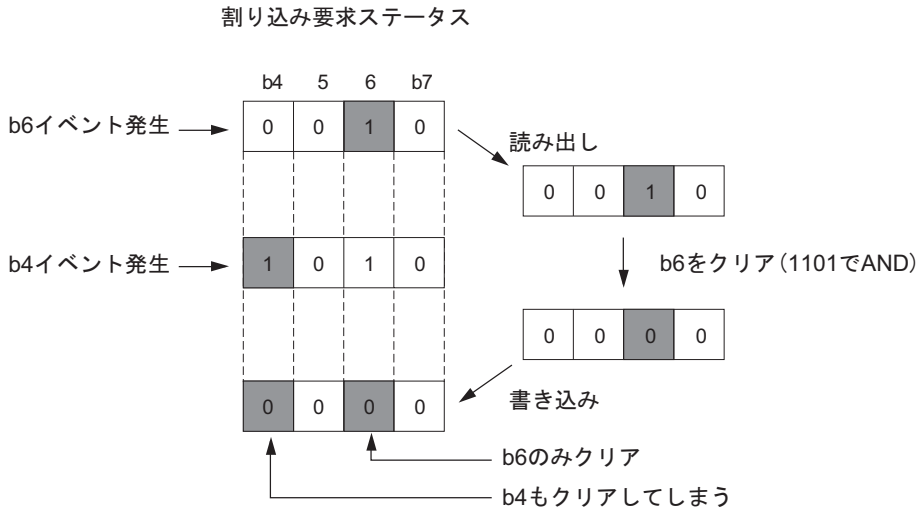


図12.2.2　割り込み要求ステータスクリア例

(3) 割り込み要因の選択

各SIOからICU(割り込みコントローラ)へ出力される割り込み要求信号には、送信割り込みと、受信割り込みとがあります。それぞれの割り込みは、割り込み要因選択レジスタ(SI03SEL)によって、送信バッファエンプティ割り込みと送信完了割り込みから、受信完了割り込みと受信エラー割り込みから選択できます。

注．・割り込み要求信号は、対応するSIOのTEN(送信許可)ビット、またはREN(受信許可)ビットを許可にし、SIO割り込み要求マスクレジスタで許可することによってはじめて発生します。
・SIO2とSIO3は、2本でグループ割り込み1つとなっています。
・送信完了割り込みはUARTモード、またはCSIOモードで内部クロック選択時に有効です。

(4) 送信割り込みに関する注意

SIO割り込み要求マスクレジスタが割り込み要求許可、かつSIO割り込み要求要因選択レジスタで送信バッファエンプティ割り込み選択時において、対応するTEN(送信許可)ビットを許可にすると、送信割り込み要求が発生します。

(5) SIOのDMA転送要求について

各SIOは送信DMA転送要求と受信完了DMA転送要求を発生することができます。DMA転送要求は各SIOの対応するTEN(送信許可)ビット、もしくはREN(受信許可)ビットを許可することで発生可能となります。

DMA転送を用いて通信を行う場合は、TENビット、RENビットを許可にする前にDMACの設定を行ってください。

受信エラーが発生した場合、受信完了DMA転送要求は発生しません。

• 送信DMA転送要求

送信バッファエンプティで、TENビットが許可の場合に発生します。

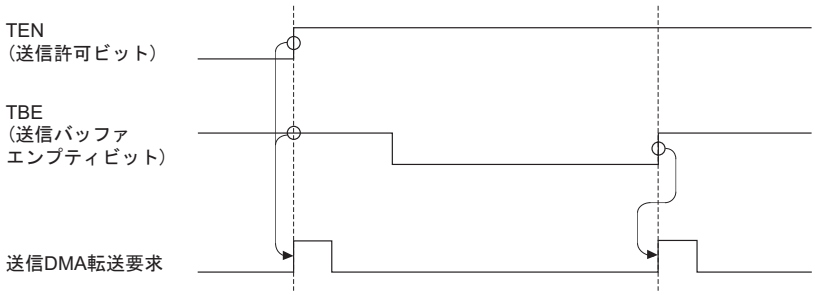
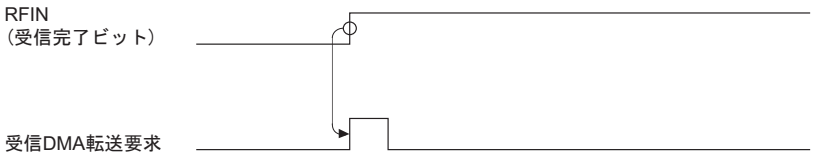


図12.2.3　送信DMA転送要求

• 受信完了DMA転送要求

受信バッファフルになった時にDMA転送要求を発生します。



注．・受信エラーが発生した場合、受信完了DMA転送要求は発生しません。

図12.2.4　受信完了DMA転送要求

SIO23割り込み要求ステータスレジスタ（SI23STAT）　　＜アドレス：H'0080 0100＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
0	0	0	0	IRQT2 0	IRQR2 0	IRQT3 0	IRQR3 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～3	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
4	IRQT2 SIO2送信割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	
5	IRQR2 SIO2受信割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	
6	IRQT3 SIO3送信割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	
7	IRQR3 SIO3受信割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

SIO2、SIO3からの送受信割り込み要求を示します。

【割り込み要求ステータスビットのセット】

ハードウェアによって行われます。ソフトウェアでセットすることはできません。

【割り込み要求ステータスビットのクリア】

ソフトウェアで"0"を書き込むことによって行います。

注．・ハードウェアによるステータスのセットとソフトウェアによるステータスのクリアが同時に発生した場合、ハードウェアによるステータスのセットが優先されます。

SIO割り込みステータスレジスタ書き込み時は、クリア操作するビットに"0"を、その他のビットには"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットに対してはソフトウェアによる書き込みの影響はなく、書き込み前の値が保持されます。

SIO03割り込み要求マスクレジスタ（SI03MASK）　　＜アドレス：H'0080 0101＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
T0MASK 0	R0MASK 0	T1MASK 0	R1MASK 0	T2MASK 0	R2MASK 0	T3MASK 0	R3MASK 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8	T0MASK SIO0送信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
9	R0MASK SIO0受信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
10	T1MASK SIO1送信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
11	R1MASK SIO1受信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
12	T2MASK SIO2送信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
13	R2MASK SIO2受信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
14	T3MASK SIO3送信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
15	R3MASK SIO3受信割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W

各SIOから出された割り込み要求の許可/禁止を制御するレジスタです。割り込み要求マスクビットに"1"をセットすると、対応するSIOからの割り込み要求が許可されます。

SIO03割り込み要求要因選択レジスタ(SI03SEL)　　＜アドレス：H'0080 0102＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
IST0 0	IST1 0	IST2 0	IST3 0	ISR0 0	ISR1 0	ISR2 0	ISR3 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0	IST0 SIO0送信割り込み要求要因選択ビット	0：送信バッファエンプティ割り込み 1：送信完了割り込み	R	W
1	IST1 SIO1送信割り込み要求要因選択ビット	0：送信バッファエンプティ割り込み 1：送信完了割り込み	R	W
2	IST2 SIO2送信割り込み要求要因選択ビット	0：送信バッファエンプティ割り込み 1：送信完了割り込み	R	W
3	IST3 SIO3送信割り込み要求要因選択ビット	0：送信バッファエンプティ割り込み 1：送信完了割り込み	R	W
4	ISR0 SIO0受信割り込み要求要因選択ビット	0：受信完了割り込み 1：受信エラー割り込み	R	W
5	ISR1 SIO1受信割り込み要求要因選択ビット	0：受信完了割り込み 1：受信エラー割り込み	R	W
6	ISR2 SIO2受信割り込み要求要因選択ビット	0：受信完了割り込み 1：受信エラー割り込み	R	W
7	ISR3 SIO3受信割り込み要求要因選択ビット	0：受信完了割り込み 1：受信エラー割り込み	R	W

送信/受信動作完了時の割り込み要求要因を選択します。

(1) SIOn送信割り込み要因選択ビット

【"0"にセットした場合】

送信バッファエンプティ割り込みが選択されます。送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたときに、送信バッファエンプティ割り込みが発生します。また、TEN(送信許可)ビットを"1"(禁止→許可)にセットした場合も、送信バッファエンプティ割り込みが発生します。

【"1"にセットした場合】

送信完了(送信シフトバッファエンプティ)割り込みが選択されます。送信シフトレジスタのデータ転送が完了したときに、送信完了割り込みが発生します。

注．・CSIOモードで外部クロック選択時は、送信完了割り込みを選択しないでください。

(2) SIOn受信割り込み要因選択ビット

【"0"にセットした場合】

受信完了割り込み(受信バッファフル)が選択されます。受信完了割り込みは、受信エラー発生時でも発生します(オーバランエラーを除く)。

【"1"にセットした場合】

受信エラー割り込みが選択されます。受信エラーで検出されるエラーは以下の通りです。

- CSIOモード　：オーバランエラー
- UARTモード　：オーバランエラー、パリティエラー、フレーミングエラー

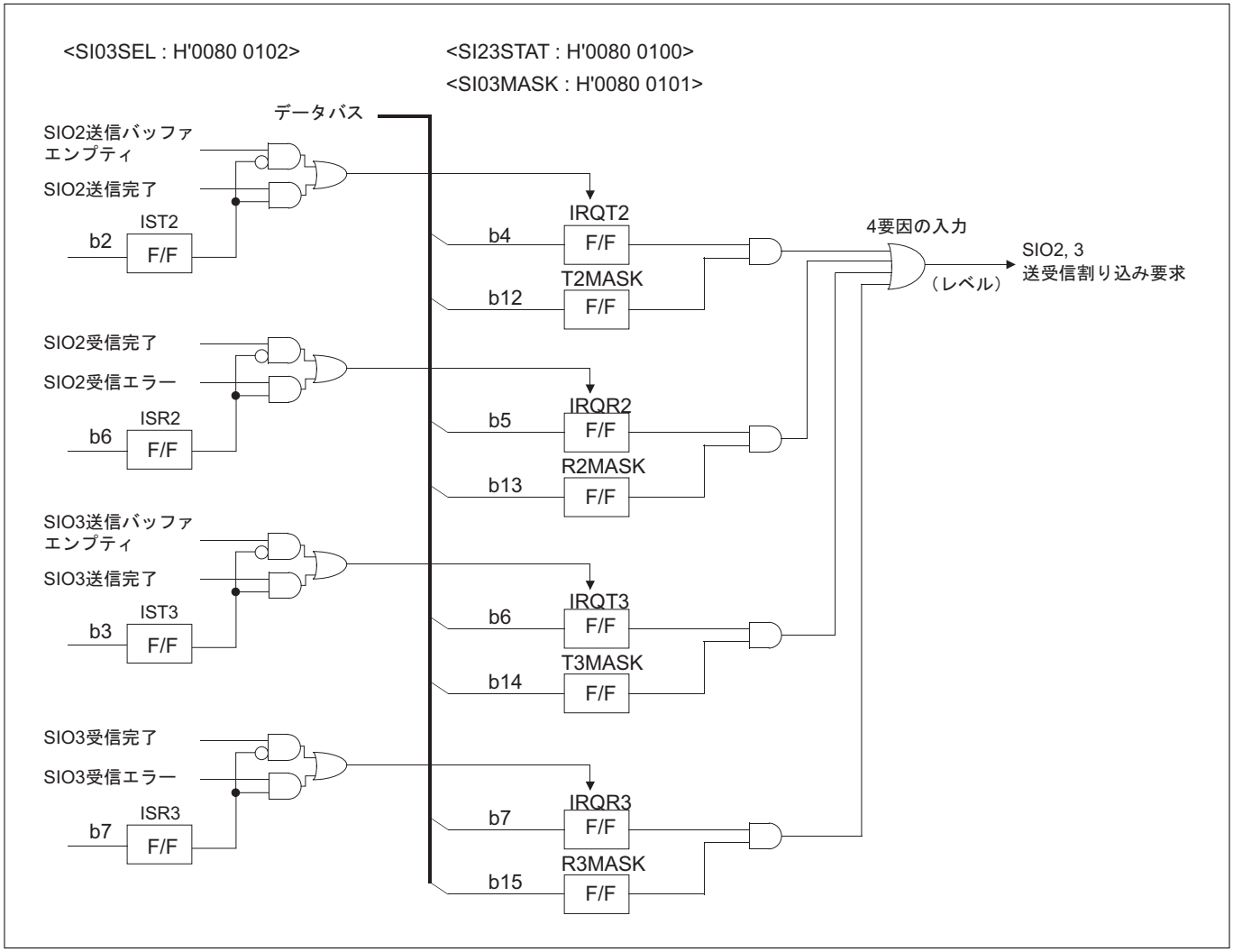


図12.2.5　SIO2、3送受信割り込み要求ブロック図

12.2.2　SIO送信制御レジスタ

SIO0送信制御レジスタ（S0TCNT）　＜アドレス：H'0080 0110＞
SIO1送信制御レジスタ（S1TCNT）　＜アドレス：H'0080 0120＞
SIO2送信制御レジスタ（S2TCNT）　＜アドレス：H'0080 0130＞
SIO3送信制御レジスタ（S3TCNT）　＜アドレス：H'0080 0140＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
		CDIV			TSTAT	TBE	TEN
0	0	0	1	0	0	1	0

＜リセット解除時：H'12＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2, 3	CDIV BRGカウントソース選択ビット	b2 b3 0　0：f(BCLK)を選択 0　1：f(BCLK)の8分周を選択 1　0：f(BCLK)の32分周を選択 1　1：f(BCLK)の256分周を選択	R	W
4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5	TSTAT 送信ステータスビット	0：送信停止＆送信バッファレジスタ内にデータなし 1：送信中or送信バッファレジスタ内にデータあり	R	－
6	TBE 送信バッファエンプティビット	0：送信バッファレジスタ内にデータあり 1：送信バッファレジスタ内にデータなし	R	－
7	TEN 送信許可ビット	0：送信禁止 1：送信許可	R	W

(1) CDIV（ボーレートジェネレータカウントソース選択）ビット　(b2, b3)

ボーレート分周値（BRG）のカウントソースを選択するビットです。

注. ・内部クロック使用時（内部クロックCSIOモード）で、BRGカウントソースとしてf(BCLK)を選択した場合、CSIOモードの時には転送速度が2Mビット/秒を超えないようにBRG値を設定してください。

(2) TSTAT（送信ステータス）ビット　(b5)

[セット条件]

送信許可状態の時に送信バッファレジスタへ書き込むと"1"がセットされます。

[クリア条件]

送信停止（送信シフトレジスタにデータがない）、かつ送信バッファレジスタにデータが存在しない場合、"0"にクリアされます。また、送信許可ビットのクリアによってもクリアされます。

(3) TBE（送信バッファエンプティ）ビット　(b6)

[セット条件]

送信バッファレジスタから送信シフトレジスタにデータが転送され、送信バッファレジスタが空になると"1"にセットされます。また、送信許可ビットを"0"にクリアするとセットされます。

[クリア条件]

送信許可の状態（TENが"1"にセット）で送信バッファレジスタの下位バイトにデータを書き込むと"0"にクリアされます。

(4) TEN（送信許可）ビット　(b7)

このビットを"1"にセットすると送信許可状態になり、"0"にクリアすると送信禁止となります。
データ送信中に"0"にクリアした場合、送信動作は停止します。

12.2.3　SIO送受信モードレジスタ

SIO0送受信モードレジスタ（S0MOD）　＜アドレス：H'0080 0111＞
SIO1送受信モードレジスタ（S1MOD）　＜アドレス：H'0080 0121＞
SIO2送受信モードレジスタ（S2MOD）　＜アドレス：H'0080 0131＞
SIO3送受信モードレジスタ（S3MOD）　＜アドレス：H'0080 0141＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
SMOD			CKS	STB	PSEL	PEN	SEN
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～10	SMOD シリアルインタフェースモード選択ビット （注1）	b8 b9 b10 0 0 0：7ビットUART 0 0 1：8ビットUART 0 1 0：9ビットUART 0 1 1：9ビットUART 1 0 0：8ビットクロック 同期シリアルインタフェース 1 0 1：8ビットクロック 同期シリアルインタフェース 1 1 0：8ビットクロック 同期シリアルインタフェース 1 1 1：8ビットクロック 同期シリアルインタフェース	R	W
11	CKS 内部/外部クロック選択ビット	0：内部クロック 1：外部クロック（注4）	R	W （注2）
12	STB ストップビット長選択ビット、UARTモード専用	0：1ストップビット 1：2ストップビット	R	W （注3）
13	PSEL パリティ奇/偶選択ビット、UARTモード専用	0：奇数パリティ 1：偶数パリティ	R	W （注3）
14	PEN パリティ許可ビット、UARTモード専用	0：パリティ禁止 1：パリティ許可	R	W （注3）
15	SEN スリープ選択ビット、UARTモード専用	0：スリープ機能無効 1：スリープ機能有効	R	W （注3）

注1．SIO2, 3では、b8ビットはハードウェア的に"0"固定です。b8ビットに"1"を設定（クロック同期シリアルインタフェースを選択）すること はできません。
注2．UARTモード選択時は無効となります。
注3．クロック同期形モード時、b12～b15は無効になります。
注4．CSIOモードで外部クロック選択時、SCLKI端子への入力クロック最大周波数は、f（BCLK）/16です。

SIO送受信モードレジスタは、シリアルインタフェースの動作モード、データフォーマットおよび通信時に使用する機能を設定するビットで構成されています。

SIO送受信モードレジスタは、必ずシリアルインタフェースの動作開始前に設定を行ってください。送受信開始後に設定を変更する場合は、送信および受信動作の完了を確認し、送受信動作を禁止(SIO送信制御レジスタの送信許可ビットおよびSIO受信制御レジスタの受信許可ビットを"0"にクリア)したのち設定してください。

(1) SMOD(シリアルインタフェースモード選択)ビット　(b8～b10)

シリアルインタフェースモード選択ビットは、シリアルインタフェースの動作モードを選択するビットです。

(2) CKS(内部/外部クロック選択)ビット　(b11)

CSIOモード選択時に有効なビットです。UARTモード選択時は、このビットの設定は無効となり、内部クロックで動作します。

(3) STB(ストップビット長選択)ビット　(b12)

UARTモード時に有効なビットです。送信するデータの終わりを示すストップビット長を、このビットで選択します。このビットが"0"のとき1ストップビット、"1"のとき2ストップビットです。

クロック同期形モード時、このビットの内容は無効になります。

(4) PSEL(パリティ奇/偶選択)ビット　(b13)

UARTモード時に有効なビットです。パリティを許可(b14＝"1")した場合、このビットでパリティの属性(奇数/偶数)を選択します。このビットが"0"のとき奇数パリティ、"1"のとき偶数パリティです。

パリティを禁止(b14＝"0")した場合、およびクロック同期形モード時はこのビットの内容は無効になります。

(5) PEN(パリティ許可)ビット　(b14)

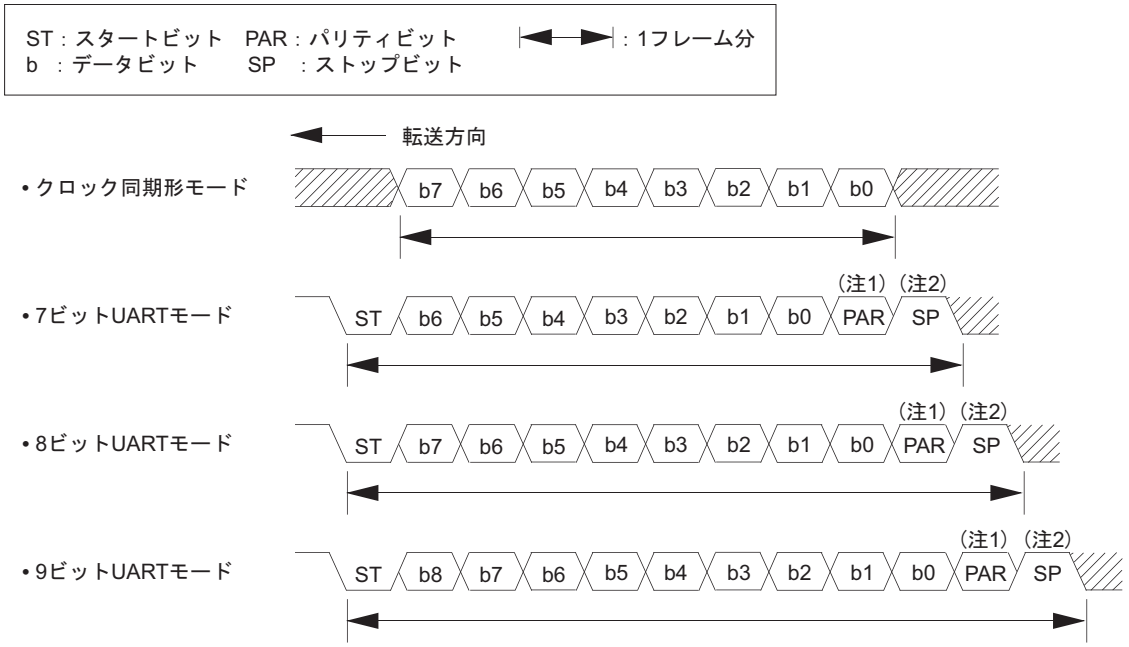
UARTモード時に有効なビットです。このビットを"1"にしたとき、送信データのデータビットの直後にパリティビットを付加します。受信データに対しては、パリティチェックを行います。

送信データに付加されるパリティビットは、データビットの"1"の個数とパリティビットの内容を加算した結果の属性(奇数/偶数)が、パリティ奇/偶選択ビット(b13)で選択した属性と一致するように、自動的に"0"または"1"に決定されます。

図12.2.6にパリティ許可時のデータフォーマット例を示します。

(6) SEN(スリープ選択)ビット　(b15)

UARTモード時に有効なビットです。このビットを"1"にしてスリープ機能を有効にした場合、受信データの最上位ビット(MSB)の内容が"1"の場合だけ、UART受信バッファレジスタへデータを取り込みます。



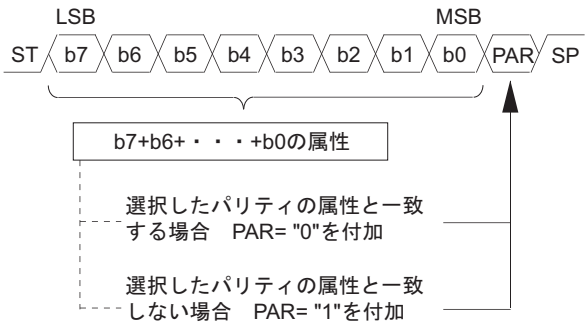
注1.　パリティビッドの有無は選択可能
注2.　ストップビット長は1ビットまたは2ビットから選択可能

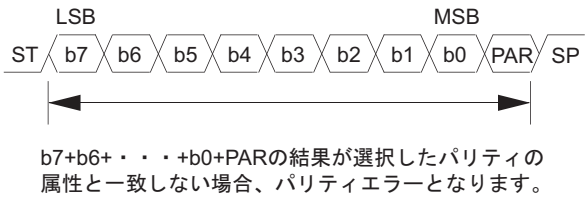
• 送信時

データビットに含まれる"1"の個数の属性が選択したパリティの属性と一致するときは、パリティビットとして"0"が付加されます。データビットに含まれる"1"の個数の属性がパリティビットとして"1"が付加されます。

• 受信時

データビットとパリティビットに含まれる"1"の個数が、パリティの属性と一致しているかを判定します（パリティチェック）。





注.　・上記データフォーマットは8ビットUARTモードの場合の例です。
・上記でデータビットの番号（bn）は、データの並びを示すものであってレジスタのビット番号（bn）を示すものではありません。

図12.2.6　パリティ許可時のデータフォーマット

12.2.4　SIO送信バッファレジスタ

SIO0送信バッファレジスタ（S0TXB）　＜アドレス：H'0080 0112＞
SIO1送信バッファレジスタ（S1TXB）　＜アドレス：H'0080 0122＞
SIO2送信バッファレジスタ（S2TXB）　＜アドレス：H'0080 0132＞
SIO3送信バッファレジスタ（S3TXB）　＜アドレス：H'0080 0142＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
							TDATA								
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～6	何も配置されていません。"0"に固定してください。		?	0
7～15	TDATA 送信データ	送信データを設定します。	?	W

SIO送信バッファレジスタは、送信データを設定するレジスタです。このレジスタは書き込み専用レジスタで、このレジスタの内容を読み出すことはできません。データはLSB側につめて設定し、7ビットデータ（UARTモードのみ）時はb9～b15に、8ビットデータ時はb8～b15に、9ビットデータ（UARTモードのみ）時はb7～b15に送信データを書きます。

送信データの設定は、送信制御レジスタのTEN（送信許可）ビットを許可（"1"にセット）にしてから行ってください。TENビットが不許可（"0"にクリア）の状態での書き込みは無効です。
送信許可の状態で送信バッファレジスタにデータが書き込まれると、SIO送信バッファレジスタのデータはSIO送信シフトレジスタに転送され、送信が開始されます。

注．・7ビットデータおよび8ビットデータ時は、バイトアクセスが可能です。

12.2.5　SIO受信バッファレジスタ

SIO0受信バッファレジスタ（S0RXB）　＜アドレス：H'0080 0114＞
SIO1受信バッファレジスタ（S1RXB）　＜アドレス：H'0080 0124＞
SIO2受信バッファレジスタ（S2RXB）　＜アドレス：H'0080 0134＞
SIO3受信バッファレジスタ（S3RXB）　＜アドレス：H'0080 0144＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
							RDATA								
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～6	何も配置されていません。		0	－
8～15	RDATA 受信データ	受信データが格納されます。	R	－

SIO受信バッファレジスタは、受信データを格納するレジスタです。データの受信が完了すると、SIO受信シフトレジスタの内容がSIO受信バッファレジスタに転送されます。このレジスタは読み出し専用のレジスタです。

7ビットデータ（UARTモードのみ）時は、b9～b15にデータがセットされ、b8､b7には必ず"0"がセットされます。8ビットデータ時は、b8～b15にデータがセットされ、b7には必ず"0"がセットされます。

受信完了後、SIO受信バッファレジスタの内容を読み出す前に次のデータの受信が完了すると、オーバランエラーが発生し、それ以後受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われません。

正常な受信を再開するためには、受信制御レジスタのREN（受信許可）ビットを"0"にクリアしてください。

注．・ 7ビットデータおよび8ビットデータ時は、バイトアクセスが可能です。

12.2.6 SIO受信制御レジスタ

SIO0受信制御レジスタ(S0RCNT) <アドレス：H'0080 0116>
SIO1受信制御レジスタ(S1RCNT) <アドレス：H'0080 0126>
SIO2受信制御レジスタ(S2RCNT) <アドレス：H'0080 0136>
SIO3受信制御レジスタ(S3RCNT) <アドレス：H'0080 0146>

b0	1	2	3	4	5	6	b7
0	RSTAT 0	RFIN 0	REN 0	OVR 0	PTY 0	FLM 0	ERS 0

<リセット解除時：H'00>

b	ビット名	機能	R	W
0	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
1	RSTAT 受信ステータスビット	0：受信停止 1：受信中	R	－
2	RFIN 受信完了ビット	0：受信バッファレジスタ内にデータなし 1：受信バッファレジスタ内にデータあり	R	－
3	REN 受信許可ビット	0：受信禁止 1：受信許可	R	W
4	OVR オーバランエラービット	0：オーバランエラーなし 1：オーバランエラー発生	R	－
5	PTY パリティエラービット、UARTモード専用	0：パリティエラーなし 1：パリティエラー発生	R	－
6	FLM フレーミングエラービット、UARTモード専用	0：フレーミングエラーなし 1：フレーミングエラー発生	R	－
7	ERS エラーサムビット	0：エラーなし 1：エラー発生	R	－

(1) RSTAT(受信ステータス)ビット (b1)

[セット条件]

受信動作の開始によって"1"にセットされます。このビットが"1"の時は、データ受信中であることを示しています。

[クリア条件]

受信動作の完了、もしくはREN(受信許可)ビットを"0"にクリアすることによってクリアされます。

(2) RFIN(受信完了)ビット (b2)

[セット条件]

受信シフトレジスタにデータが揃い、その内容が受信バッファレジスタに転送された時、"1"にセットされます。

[クリア条件]

受信バッファレジスタの下位バイトの読み出し、もしくはREN(受信許可)ビットのクリアによって行います。ただし、オーバランエラー発生時は、受信バッファレジスタの下位バイト読み出しによるクリアはできません。REN(受信許可)ビットを"0"にクリアしてください。

(3) REN(受信許可)ビット (b3)

このビットを"1"にセットすると受信許可状態になり、"0"にクリアすると受信禁止となるとともに受信部を初期化します。これに伴い、受信ステータスフラグ、受信完了フラグビット、オーバランエラーフラグ、フレーミングエラーフラグ、パリティエラーフラグ、エラーサムフラグの各ビットがクリアされます。

データ受信中に受信許可ビットを"0"にクリアした場合、受信動作は停止します。

(4) OVR(**オーバランエラー)ビット**　(b4)

[セット条件]

受信バッファレジスタに前回の受信データが存在するにもかかわらず、受信シフトレジスタに次の受信データが揃ってしまった場合、"1"にセットされます。受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われません。

オーバランエラーフラグが"1"の状態では受信動作は行われますが、受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われません。

正常な受信を再開するためには、このビットをクリアする必要があります。

[クリア条件]

REN(受信許可)ビットを"0"にクリアすることによってのみクリアされます。

(5) PTY(**パリティエラー)ビット**　(b5)

このビットは、UARTモードの場合のみ有効です。CSIOモード時は"0"固定となります。

[セット条件]

PTY(パリティエラー)ビットはSIO送受信モードレジスタのPEN(パリティ有効/無効)ビットが有効でかつ、受信データのパリティ(偶数/奇数)が同じレジスタのPSEL(パリティ選択)ビットで設定した値と異なる場合、"1"がセットされます。

[クリア条件]

PTYビットのクリアは、SIO受信バッファレジスタの下位バイトの読み出し、もしくは、SIO受信制御レジスタのREN(受信許可)ビットのクリアで行います。ただし、オーバランエラー発生時は受信バッファレジスタの下位バイト読み出しによるクリアはできません。REN(受信許可)ビットを"0"にクリアしてください。

(6) FLM(**フレーミングエラー)ビット**　(b6)

このビットは、UARTモードの場合のみ有効です。CSIOモード時は"0"固定となります。

[セット条件]

FLM(フレーミングエラー)ビットは受信したビットの数が、SIO送受信モードレジスタで選択した数と異なる場合に"1"がセットされます。

[クリア条件]

FLMビットのクリアは、SIO受信バッファレジスタの下位バイトの読み出し、もしくは、SIO受信制御レジスタのREN(受信許可)ビットのクリアで行います。

ただし、オーバランエラー発生時は受信バッファレジスタの下位バイト読み出しによるクリアはできません。REN(受信許可)ビットを"0"にクリアしてください。

(7) ERS(**エラーサム)ビット**　(b7)

[セット条件]

受信完了時にオーバランエラー、フレーミングエラー、およびパリティエラーのうち、いずれかの1つでも発生した場合、このフラグに"1"がセットされます。

[クリア条件]

オーバランエラー発生時は、REN(受信許可)ビットを"0"にクリアすることによって行います。それ以外の場合は、受信バッファレジスタの下位バイトの読み出し、もしくは、SIO受信制御レジスタのREN(受信許可)ビットのクリアで行います。

12.2.7　SIOボーレートレジスタ

SIO0ボーレートレジスタ（S0BAUR）　＜アドレス：H'0080 0117＞
SIO1ボーレートレジスタ（S1BAUR）　＜アドレス：H'0080 0127＞
SIO2ボーレートレジスタ（S2BAUR）　＜アドレス：H'0080 0137＞
SIO3ボーレートレジスタ（S3BAUR）　＜アドレス：H'0080 0147＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
BRG							
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
8～15	BRG ボーレート分周値	ボーレート分周値設定	R	W

(1) BRG（ボーレート分周値）（b8～b15）

SIOボーレートレジスタは、SIOモードレジスタで選択したボーレートカウントソースを、BRG設定値に従って（BRG設定値＋1）分周します。

初期状態ではBRGの値は不定となっているため、必ずシリアルインタフェース動作前に分周値を設定してください。送受信中のBRG書き込みは、BRGカウンタがカウント終了後、次の周期より有効となります。

CSIOモードで内部クロックを使用する（SCLKO信号を出力する）場合は、内部BCLKをクロックデバイダで分周し、次にBRG設定値に従って（BRG設定値+1）分周後、さらに2分周したクロックを送受信シフトクロックとします。

CSIOモードで外部クロックを使用する場合は、BRGは使用しません（外部から入力されたクロックに同期して送受信が行われます）。

UARTモードでは、内部BCLKをクロックデバイダで分周した後、BRG設定値に従って（BRG設定値＋1）分周し、さらに16分周したクロックが送受信シフトクロックになります。

SIO0、SIO1をUARTモードで使用する場合、該当ポート（P84、P87）をそれぞれSCLKO端子に切り換えることにより、BRG出力を2分周したクロックを出力することができます。

内部クロック使用時（内部クロックCSIOモード）で、BRGカウントソースとしてf(BCLK)を選択した場合、CSIOモードの時には転送速度が2Mビット/秒を越えないようにBRG値を設定してください。

内部クロック選択時のボーレートレジスタ設定値は以下の式で求められます。

- **CSIOモード**

$$\text{SIOボーレートレジスタ設定値} = \frac{f(\text{BCLK})}{\text{ボーレート} \times \text{クロックデバイダ分周値} \times 2} - 1$$

- **UARTモード**

$$\text{SIOボーレートレジスタ設定値} = \frac{f(\text{BCLK})}{\text{ボートレートクロックデバイダ分周値} \times 16} - 1$$

クロックデバイダ分周値：SIO送信制御レジスタのBRGカウントソース選択ビットで1、8、32、256の中から選択します。

表12.2.1　SIOボーレートレジスタ設定例（CSIOモード）

項目 / ボーレート(bps)	f(BCLK)＝16MHz時			f(BCLK)＝20MHz時		
	クロックデバイダ分周値（分周）	BRG設定値	実際のボーレート（bps）	クロックデバイダ分周値（分周）	BRG設定値	実際のボーレート（bps）
250	256	124	250.00	256	155	250.40
500	256	62	496.03	256	77	500.80
1000	32	249	1000.00	256	38	1001.60
2500	32	99	2500.00	32	124	2500.00
5000	8	199	5000.00	8	249	5000.00
10000	8	99	10000.00	8	124	10000.00
25000	8	39	25000.00	8	49	25000.00
50000	1	159	50000.00	1	199	50000.00
100000	1	79	100000.00	1	99	100000.00
250000	1	31	250000.00	1	39	250000.00
500000	1	15	500000.00	1	19	500000.00
1000000	1	7	1000000.00	1	9	1000000.00
2000000	1	3	2000000.00	1	4	2000000.00
2500000	-	-	-	1	3	2500000.00

注．・上記設定ボーレートでの通信を保証するものではありません。お客様の環境にて十分な評価・検証の上、ご使用ください。
・クロックデバイダ分周値は、SIOn送信制御レジスタ(SnTCNT)のCDIVで選択します。
・BRG設定値は、SIOnボーレートレジスタ（SnBAUR）で設定します。

表12.2.2　SIOボーレートレジスタ設定例（UARTモード）

項目 / ボーレート(bps)	f(BCLK) ＝ 16MHz時				f(BCLK)＝20MHz時			
	クロックデバイダ分周値（分周）	BRG設定値	誤差(%)	実際のボーレート（bps）	クロックデバイダ分周値（分周）	BRG設定値	誤差(%)	実際のボーレート（bps）
300	32	103	0.16	300.48	32	129	0.16	300.48
600	32	51	0.16	600.96	32	64	0.16	600.96
1200	32	25	0.16	1201.92	32	32	-1.36	1183.71
2400	32	12	0.16	2403.85	32	15	1.73	2441.41
4800	1	207	0.16	4807.69	1	259	0.16	4807.69
9600	1	103	0.16	9615.38	1	129	0.16	9615.38
14400	1	68	0.64	14492.75	1	86	-0.22	14367.82
19200	1	51	0.16	19230.77	1	64	0.16	19230.77
38400	1	25	0.16	38461.54	1	32	-1.36	37878.79
57600	-	-	-	-	1	21	-1.36	56818.18
115200	-	-	-	-	1	10	-1.36	113636.36
128000	-	-	-	-	-	-	-	-
250000	1	3	0.00	250000.00	1	4	0.00	250000.00
500000	1	1	0.00	500000.00	-	-	-	-
625000	-	-	-	-	1	1	0.00	625000.00
1000000	1	0	0.00	1000000.00	-	-	-	-
1250000	-	-	-	-	1	0	0.00	1250000.00

注．・上記設定ボーレートでの通信を保証するものではありません。お客様の環境にて十分な評価・検証の上、ご使用ください。
・クロックデバイダ分周値は、SIOn送信制御レジスタ(SnTCNT)のCDIVで選択します。
・BRG設定値は、SIOnボーレートレジスタ（SnBAUR）で設定します。

12.2.8　SIO特殊モードレジスタ

SIO0特殊モードレジスタ（S0SMOD）　　＜アドレス：H'0080 0118＞
SIO1特殊モードレジスタ（S1SMOD）　　＜アドレス：H'0080 0128＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
							CKPOL
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0〜6	何も配置されていません。		0	0
7	CKPOL 送受信クロック極性選択ビット	0：SCLKの立ち下がりで送信データ出力 立ち上がりで受信データ取り込み 1：SCLKの立ち上がりで送信データ出力 立ち下がりで受信データ取り込み	R	W

(1) CKPOL（送受信クロック極性選択）（b7）

CSIOモードでの送受信クロック極性を選択するビットです。

CKPOLビットを"0"にすると、SCLK立ち下がりに同期してTXD端子からデータを出力し、SCLK立ち上がりに同期してRXD端子よりデータを取り込みます。
CKPOLビットを"1"にすると、SCLK立ち上がりに同期してTXD端子からデータを出力し、SCLK立ち下がりに同期してRXD端子よりデータを取り込みます。

注．・送信許可ビット/受信許可ビットのいずれかのビットが許可状態にあるときはクロック極性選択ビットの書き換えは行わないでください。

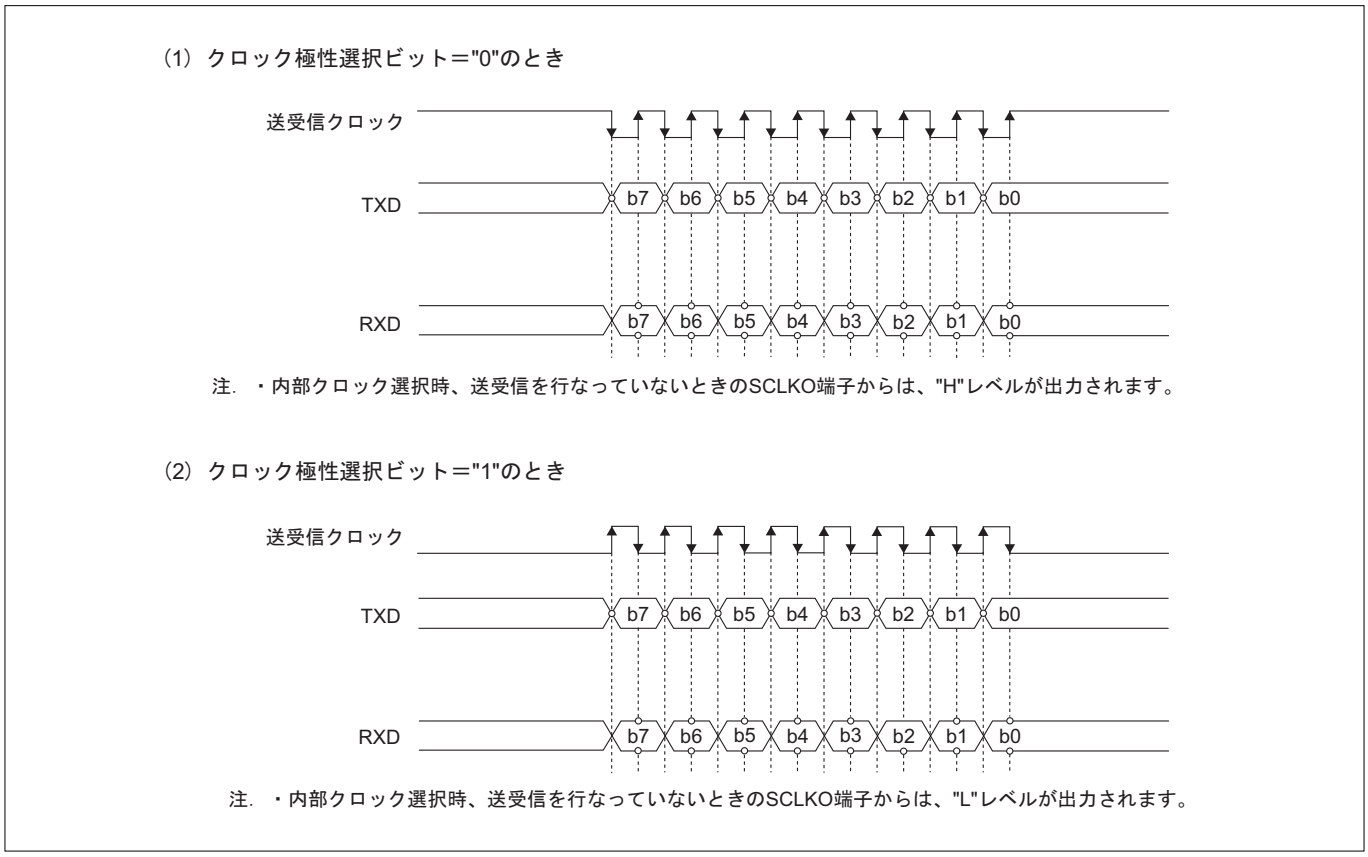


図12.2.7　送受信クロック極性の選択

12.3　CSIOモード送信動作説明

12.3.1　CSIOボーレートの設定

CSIOモードのボーレート(データ転送速度)は、送受信シフトクロックによって決定されます。送受信シフトクロックを生成するクロックソースは、内部クロックf(BCLK)、または外部クロックから選択します。クロックソースの選択はCKS(内部/外部クロック選択)ビット(SIO送受信モードレジスタのb11)により行います。
送受信のボーレート値の算出式は、内部/外部クロックの選択によって異なります。

(1) CSIOモードで内部クロック選択時

内部クロックを選択した場合、f(BCLK)はクロックデバイダによって分周後、ボーレートジェネレータ(BRG)に入力されます。

クロックデバイダの分周値は、CDIV(ボーレートジェネレータカウトソース選択)ビット(送信制御レジスタb2、b3)で、1分周、8分周、32分周または256分周から選択します。

ボーレートジェネレータでは、クロックデバイダ出力を(ボーレートレジスタ設定値＋1)分周し、さらに2分周したクロックをデータの送受信シフトクロックとします。

CSIOモードで内蔵クロックを選択時、ボーレートは以下の式で求められます。

$$\text{ボーレート}\ [\text{bps}] = \frac{f(\text{BCLK})}{\text{クロックデバイダ分周値} \times (\text{ボーレートレジスタ設定値} + 1) \times 2}$$

f(BCLK)：周辺クロック動作周波数
ボーレートレジスタ設定値＝H'00～H'FF (注1)
クロックデバイダ分周値＝1、8、32、256

注1．ボーレートジェネレータカウントソースとして1分周(f(BCLK)そのもの)を選択した場合は、2Mbpsを越えないようにボーレートレジスタの値を設定してください。

(2) CSIOモードで外部クロック選択時

ボーレートジェネレータは使用されず、SCLKI端子からの入力クロックが、そのままCSIOの送受信シフトクロックになります。
SCLKI端子への入力クロック最大周波数は、f(BCLK)/16です。

ボーレート＝SCLKI端子入力クロック
[bps]

12.3.2　CSIO送信時の初期設定

CSIOで送信を行う場合は、以下の手順で初期設定を行います。

(1) SIO特殊モードレジスタの設定

- **CSIOモードでのクロック極性の選択**

(2) SIO送受信モードレジスタの設定

- **CSIOモードに設定**
- **内部クロック/外部クロック選択**

(3) SIO送信制御レジスタの設定

- **クロックデバイダ分周比の選択（内部クロック選択時）**

(4) SIOボーレートレジスタの設定

内部クロック選択時、ボーレートジェネレータの値を設定します（「12.3.1 CSIOボーレートの設定」を参照してください）。

(5) SIO割り込み関連レジスタの設定

- **送信割り込み要求要因（送信バッファエンプティ/送信完了）の選択（SIO割り込み要求要因選択レジスタ）**
- **送信割り込み要求の許可/禁止（SIO割り込み要求マスクレジスタ）**

注．・送信完了割り込み要求は、内部クロック選択時のみ有効です。

(6) 割り込みコントローラの設定（SIO送信割り込み制御レジスタ）

送信割り込みを使用する場合は、優先レベルの設定を行います。

(7) DMACの設定

送信バッファエンプティ時に内蔵DMACに対してDMA転送を要求する場合は、DMACの設定を行ってください（「第9章 DMAC」を参照してください）。

(8) 端子機能の選択

シリアルインタフェースの関連端子は入出力ポートとのダブルファンクションとなっていますので、端子機能の設定を行ってください（「第8章 入出力ポートと端子機能」を参照してください）。

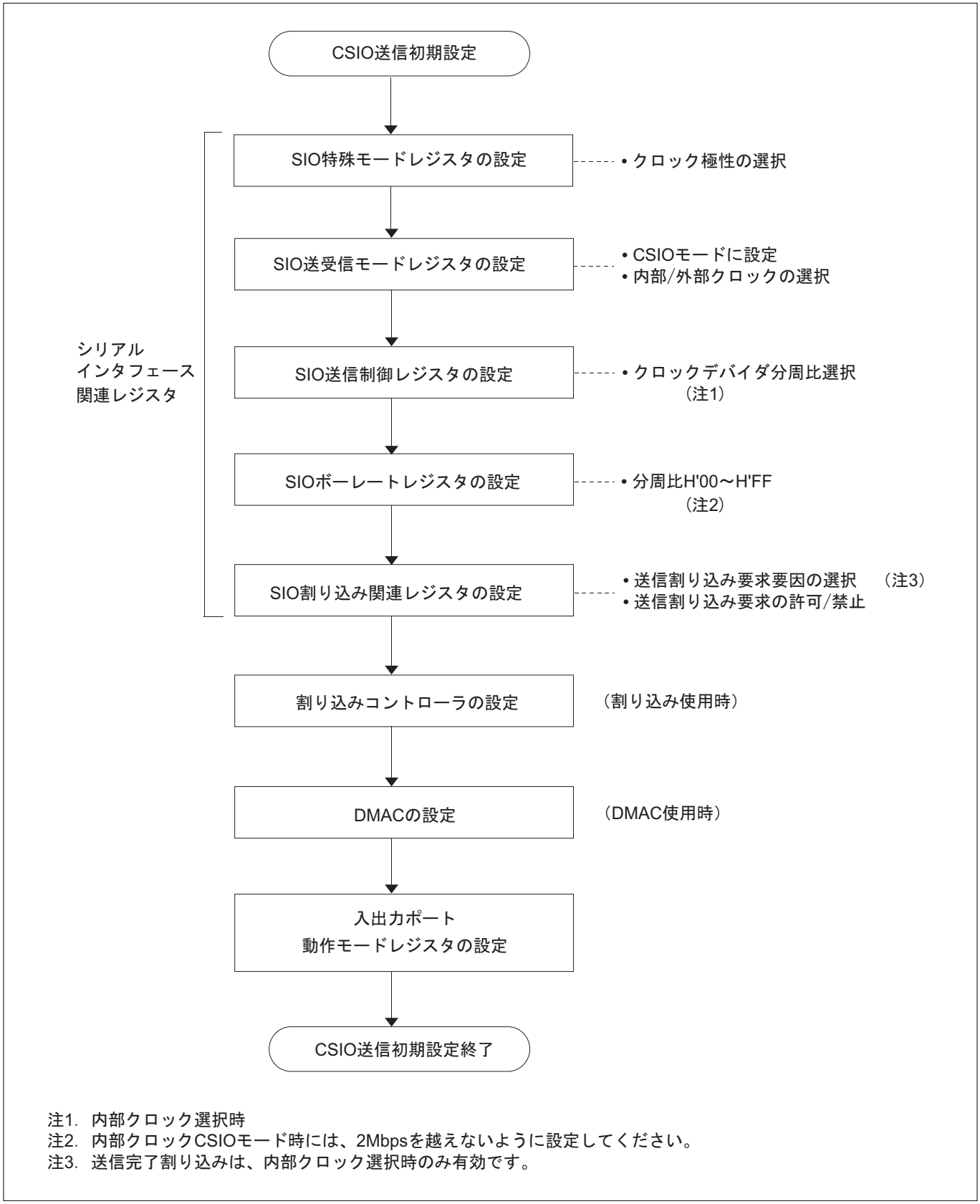


図12.3.1　CSIO**送信初期化手順**

12.3.3　CSIO送信の開始

初期設定終了後、以下の送信条件がすべて満たされると、送信動作を開始します。

(1) CSIOモード内部クロック選択時の送信条件

- SIO制御レジスタの送信許可ビットに"1"をセット
- SIO送信バッファレジスタの下位バイトに送信データ(8ビット)を書き込み
  (送信バッファエンプティビットが"0")

(2) CSIOモード外部クロック選択時の送信条件

- SIO制御レジスタ0の送信許可ビットに"1"をセット
- SIO送信バッファレジスタの下位バイトに送信データを書き込み
  (送信バッファエンプティビットが"0")
- クロック極性選択ビットが"0"のときはSCLKI端子へ送信クロックの立ち下がりエッジが、クロック極性選択ビットが"1"のときは立ち上がりエッジが入力される
- SCLKI端子へ送信クロックの立ち下がりエッジが入力される
- 送信許可ビットが"0"にクリアされた状態では、送信バッファレジスタの書き込みは無効です。必ず送信許可ビットを"1"にセットしてから送信バッファレジスタへの書き込みを行ってください。
- 内部クロック選択時は、上記の送信バッファレジスタの下位バイトへの書き込みが送信開始のトリガとなります。
- SIO送信バッファレジスタの下位バイトにデータをセットした時点で、送信ステータスビットが"1"にセットされます。

送信が開始されると以下の手順でデータが送信されます。

- SIO送信バッファの内容を、SIO送信シフトレジスタに転送
- 送信バッファエンプティビットに"1"をセット (注1)
- シフトクロックに同期してLSBからデータ送信を開始

注1. 送信バッファエンプティ、送信完了により送信割り込み要求を発生することができます。また、送信バッファエンプティは、DMA 転送要求を発生することができます。送信完了では、DMA転送要求を発生することはできません。

12.3.4　CSIOの連続送信

送信バッファレジスタから、送信シフトレジスタへデータを転送した後は、送信が完了していなくても送信バッファレジス タに次のデータを書き込むことができます。送信完了前に次のデータを送信バッファに書き込んだ場合、連続送信が行われます。

送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたことは、SIO送信制御レジスタの送信バッファエンプティフラグで確認します。

12.3.5　CSIO送信完了処理

データ送信が完了すると、以下の動作がハードウェアで自動的に行われます。

(1) 連続送信しない場合

- **送信ステータスビットに**"0"**をセット**

(2) 連続送信の場合

- **連続したデータのうち最終データの送信が完了したとき、送信ステータスビットに**"0"**をセット**

12.3.6　送信割り込み

(1) 送信バッファエンプティ割り込み

SIO割り込み要求要因選択レジスタで送信バッファエンプティ割り込みを選択した場合、送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたときに、送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。また、送信バッファエンプティ割り込み許可状態でTEN（送信許可）ビットを"1"（禁止→許可）にセットした場合も、送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。

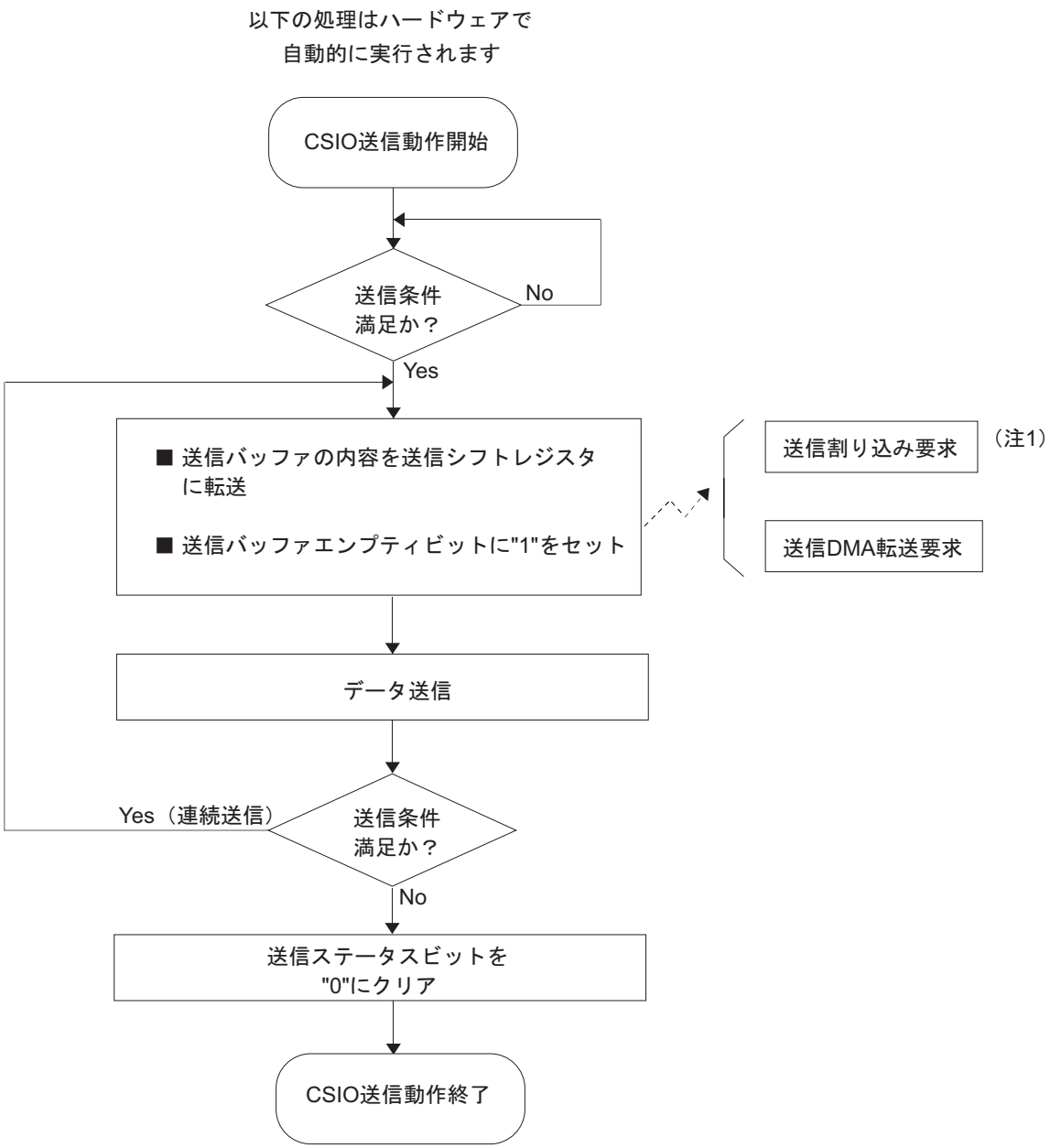
(2) 送信完了割り込み

SIO割り込み要求要因選択レジスタで送信完了割り込みを選択した場合、送信シフトレジスタのデータの最終ビットの転送が完了する内部転送クロックの立ち下がりで送信完了割り込み要求が発生します。

送信割り込みを使用するためには、SIO割り込み要求マスクレジスタ、割り込みコントローラ（ICU）の設定が必要です。

12.3.7　送信DMA転送要求

送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたときに、対応する送信DMA転送要求がDMACへ出力されます。また、TEN（送信許可）ビットを"1"にセット（禁止→許可）した場合も出力されます。
DMA転送を使用して送信を行うためには、DMACの設定が必要です。

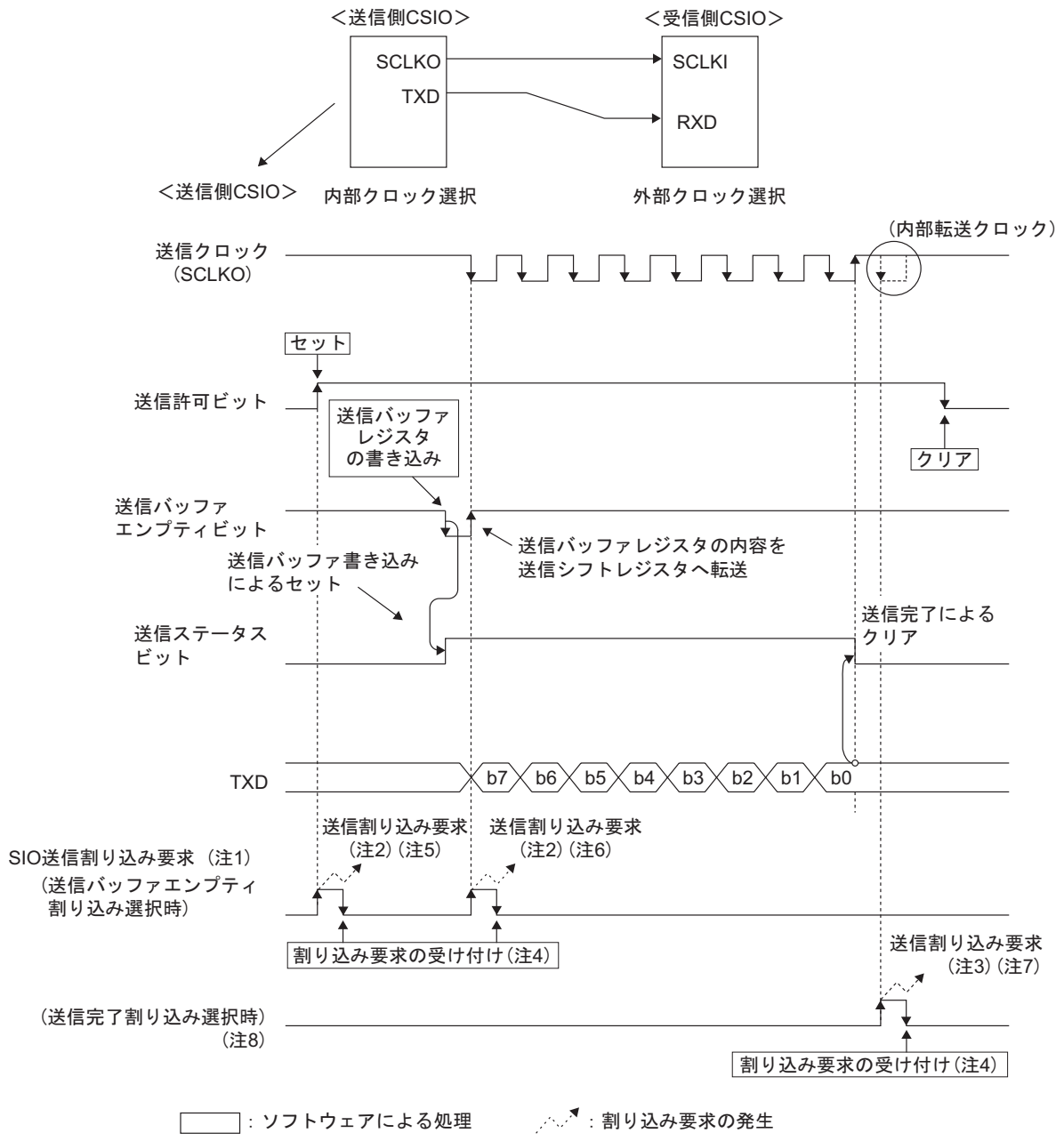


注1.　SIO割り込み要求要因選択レジスタにて送信バッファエンプティ割り込みを選択し、
SIO割り込み要求マスクレジスタで送信割り込みを許可した場合。

図12.3.2　CSIO**モード時の送信動作（ハードウェア処理）**

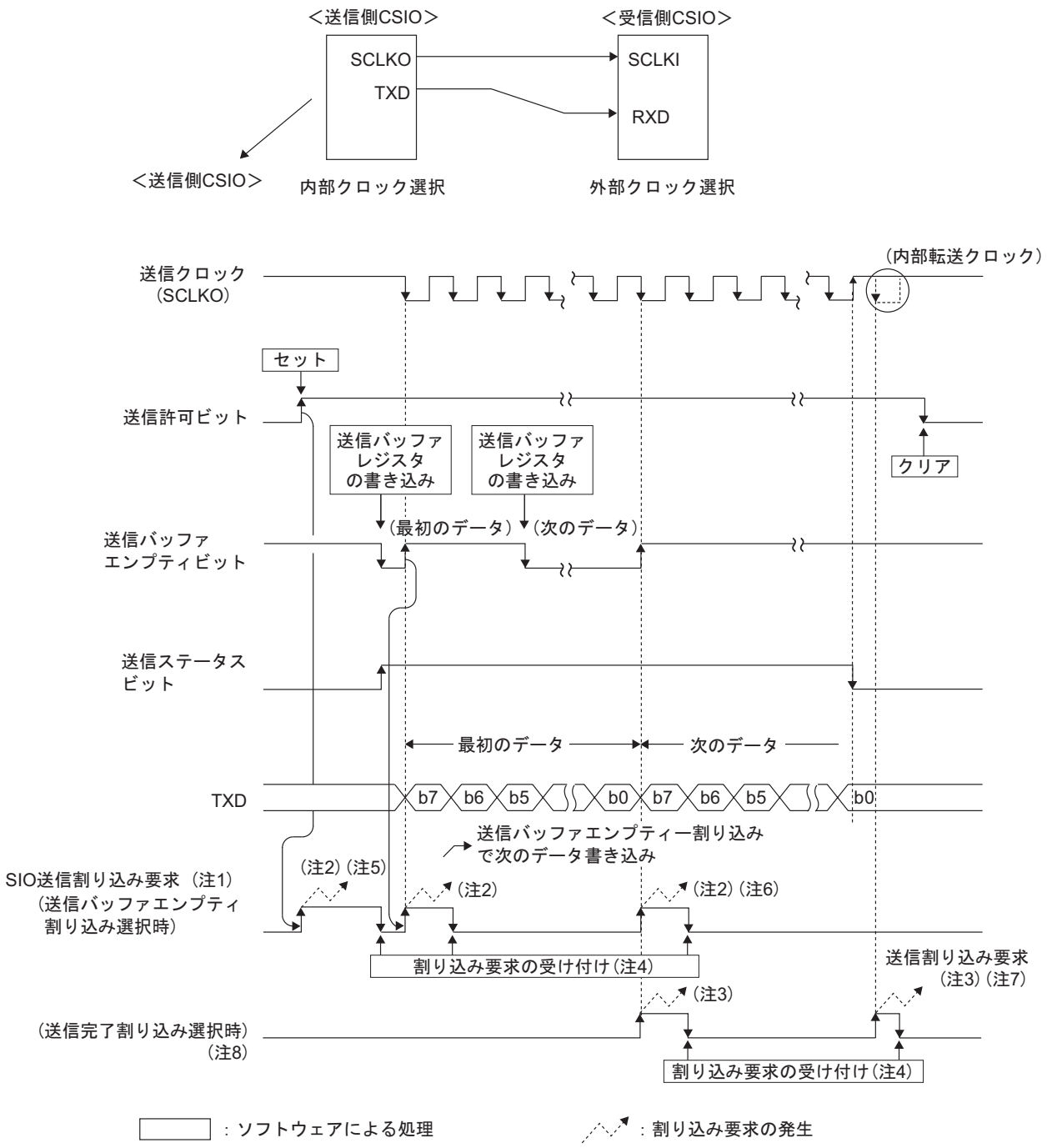
12.3.8　CSIO送信動作例

CSIOモードでの送信動作例を以下に示します。



注1.　割り込みコントローラ「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットの変化
注2.　送信バッファエンプティ割り込み許可時(同タイミングでDMA転送の要求も可)
注3.　送信完了割り込み許可時
注4.　割り込みコントローラのIVECTレジスタ読み出し、または「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットのクリア
注5.　送信を許可したときに、送信割り込み要求が発生します。
注6.　送信データを送信バッファに書き込んだ後であっても、送信バッファから送信シフトレジスタへ転送され、送信バッファエンプティになれば、送信割り込み要求が発生するので、注意してください。
注7.　送信シフトレジスタの送信が完了する内部転送クロックの立ち下がりで送信完了割り込み要求が発生します。
注8.　外部クロック選択時の送信完了割り込みは、選択禁止です。

図12.3.3　CSIO送信例(1回だけの送信)



注1. 割り込みコントローラ「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットの変化
注2. 送信バッファエンプティ割り込み許可時(同タイミングでDMA転送の要求も可)
注3. 送信完了割り込み許可時
注4. 割り込みコントローラのIVECTレジスタ読み出し、または「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットのクリア
注5. 送信を許可したときに、送信割り込み要求が発生します。
注6. 送信データを送信バッファに書き込んだ後であっても、送信バッファから送信シフトレジスタへ転送され、送信バッファエンプティになれば、送信割り込み要求が発生するので、注意してください。
注7. 送信シフトレジスタの送信が完了する内部転送クロックの立ち下がりで送信完了割り込み要求が発生します。
注8. 外部クロック選択時の送信完了割り込みは、選択禁止です。

図12.3.4　CSIO**送信例(連続送信)**

12.4　CSIOモード受信動作説明

12.4.1　CSIO受信時の初期設定

CSIOで受信を行う場合は、以下の手順で初期設定を行います。なお、受信シフトクロックは送信回路の動作によって得られますので、受信だけ行う場合にも送信動作を実行させる必要があります。

(1) SIO特殊モードレジスタの設定

- **CSIOモードでのクロック極性の設定**

(2) SIOモードレジスタの設定

- **CSIOモードに設定**
- **内部クロック/外部クロックの選択**

(3) SIO送信制御レジスタの設定

クロックデバイダ分周比の選択(内部クロック選択時)

(4) SIOボーレートレジスタの設定

内部クロック選択時、ボーレートジェネレータの値を設定します(「12.3.1 CSIOボーレートの設定」を参照してください)。

(5) SIO割り込み関連レジスタの設定

- **受信割り込み要求要因(受信完了/エラー)の選択(受信割り込み要求要因選択レジスタ)**
- **受信割り込みの許可/禁止(SIO割り込み要求マスクレジスタ)**

(6) SIO受信制御レジスタの設定

受信許可ビットのセット

(7) 割り込みコントローラの設定(SIO送信割り込み制御レジスタ)

受信割り込みを使用する場合は、優先レベルの設定を行います。

(8) DMACの設定

受信完了時に内蔵DMACに対してDMA転送を要求する場合は、DMACの設定を行ってください(「第9章 DMAC」を参照してください)。

(9) 端子機能の選択

シリアルインタフェースの関連端子は入出力ポートとのダブルファンクションとなっていますので、端子機能の設定を行ってください(「第8章 入出力ポートと端子機能」を参照してください)。

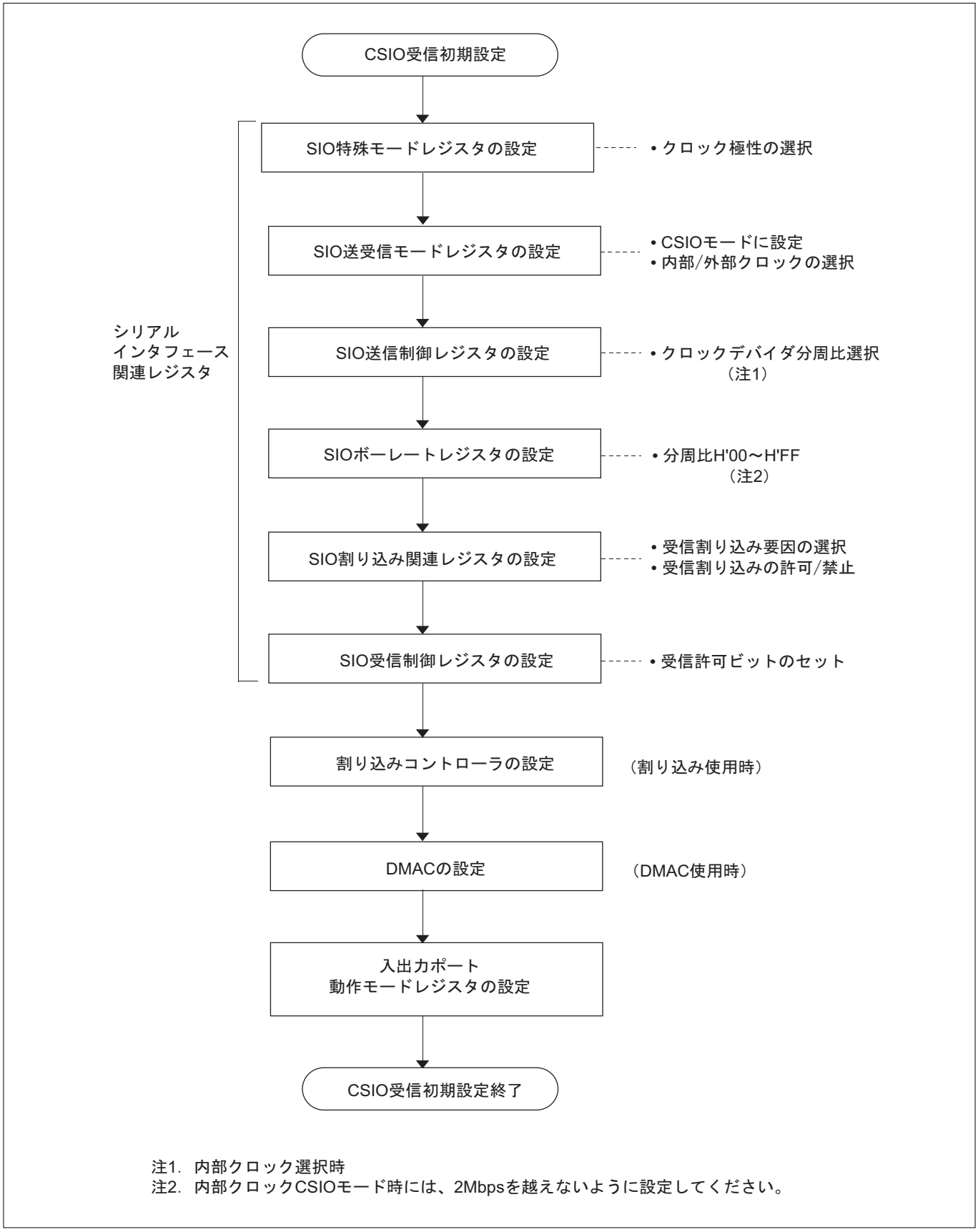


図12.4.1　CSIO**受信初期化手順**

12.4.2　CSIO受信の開始

初期設定終了後、以下の受信条件がすべて満たされると、受信動作を開始します。

(1) CSIOモード内部クロック選択時の受信条件

- **SIO受信制御レジスタの受信許可ビットに"1"をセット**
- **送信条件が満たされていること(「12.3.3 CSIO送信の開始」を参照してください。)**

(2) CSIOモード外部クロック選択時の受信条件

- **SIO受信制御レジスタの受信許可ビットに"1"をセット**
- **送信条件が満たされていること(「12.3.3 CSIO送信の開始」を参照してください。)**

注．・SIO送信バッファレジスタの下位バイトにダミーデータをセットした時点で、受信ステータスビットが"1"にセットされます。

上記の条件が満たされると、受信シフトクロックに同期して、8ビットのシリアルデータの受信(LSBファースト)を行います。

12.4.3　CSIO受信完了処理

データ受信が完了すると、以下の動作がハードウェアで自動的に行われます。

(1) 正常に受信完了した場合

受信完了(受信バッファフル)ビットに"1"をセット

注．・受信完了(受信バッファフル)割り込み要求が許可されていた場合、割り込み要求を発生します。
・DMA転送要求を発生します。

(2) 受信エラーが発生した場合

受信エラー(CSIOモード時はオーバランエラーのみ発生)時は、オーバランエラービットと受信エラーサムビットに"1"をセット

注．・受信完了割り込み選択(SIO受信割り込み要求要因選択レジスタ)時は、受信完了割り込み要求もDMA転送要求も発生しません。
・受信エラー割り込み選択(SIO受信割り込み要求要因選択レジスタ)時は、割り込み要求が許可された場合、受信エラー割り込み要求が発生します。DMA転送要求は発生しません。

12.4.4　連続受信について

データ受信完了時に以下の条件が満たされていれば、連続受信可能となります。

- **受信許可ビットが"1"にセットされていること**
- **送信条件が満たされていること**
- **オーバランエラーが発生していないこと**

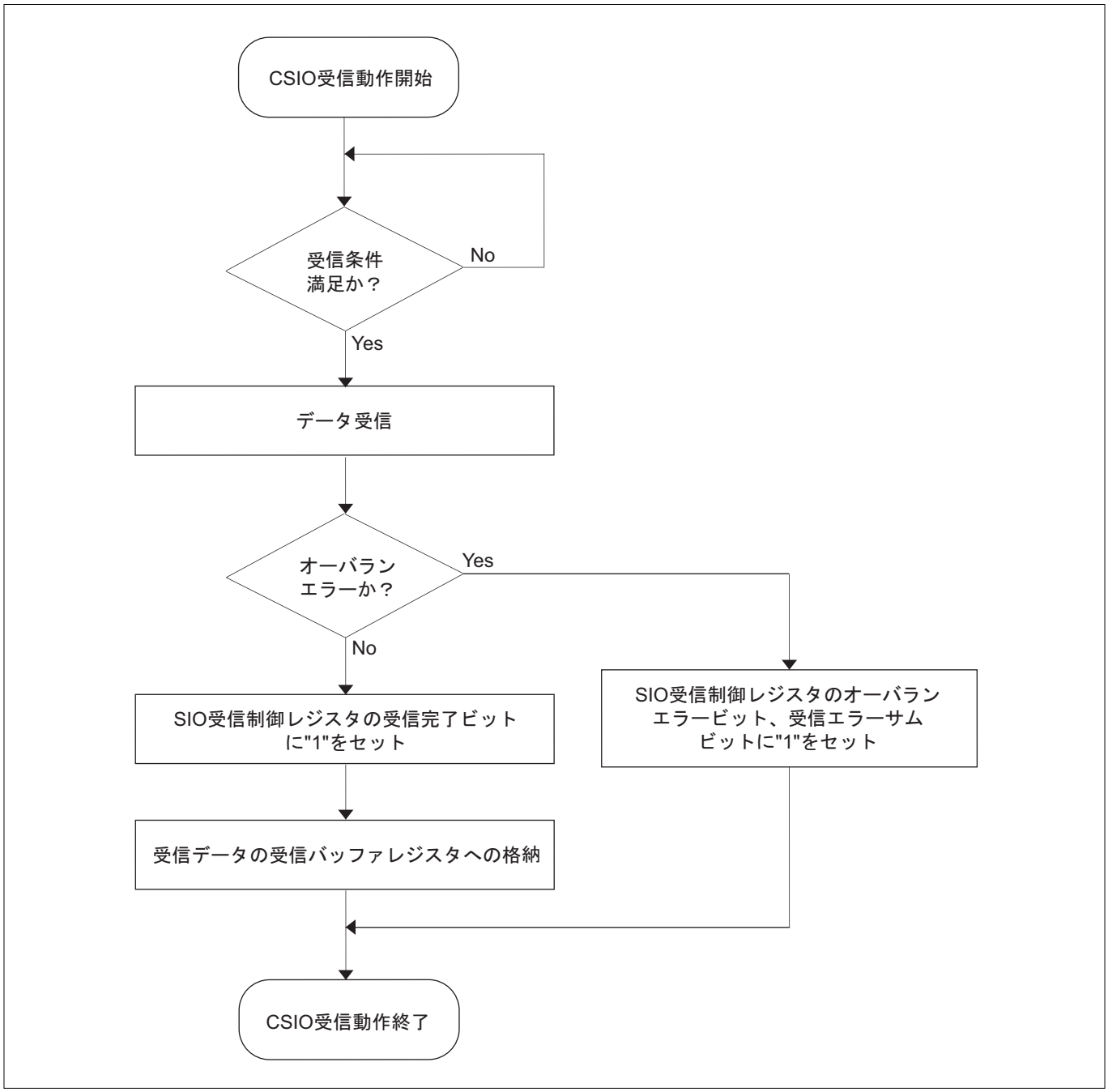


図12.4.2　CSIO**モード時の受信動作（ハードウェア処理）**

12.4.5　CSIO受信動作の状態を示すフラグ

CSIOモードの受信動作の状態を示すフラグには以下のものがあります。

- **SIO受信制御レジスタの受信ステータスビット**
- **SIO受信制御レジスタの受信完了ビット**
- **SIO受信制御レジスタの受信エラーサムビット**
- **SIO受信制御レジスタのオーバランエラービット**

受信完了後、SIO受信バッファレジスタの内容を読み出す前に次のデータの受信が完了すると、オーバランエラーが発生し、以後の受信データのSIO受信バッファレジスタへの格納は行われなくなります。

受信を再開するためには、いったん受信許可ビットを"0"にクリアし、受信制御部を初期化する必要があります。

上記の受信完了ビットのクリアは、受信エラー(注1)が発生していない場合は、SIO受信バッファレジスタの下位バイト読み出し、もしくは、REN(受信許可)ビットのクリアで行います。

受信エラーが発生した場合は、REN(受信許可)ビットのクリアで行います。この場合、SIO受信バッファレジスタの下位バイトの読み出しでのクリアはできませんので、ご注意ください。

注1．CSIOモードで検出可能なエラーは、オーバランエラーのみとなっています。

12.4.6　CSIO受信動作例

CSIOモードでの受信動作例を以下に示します。

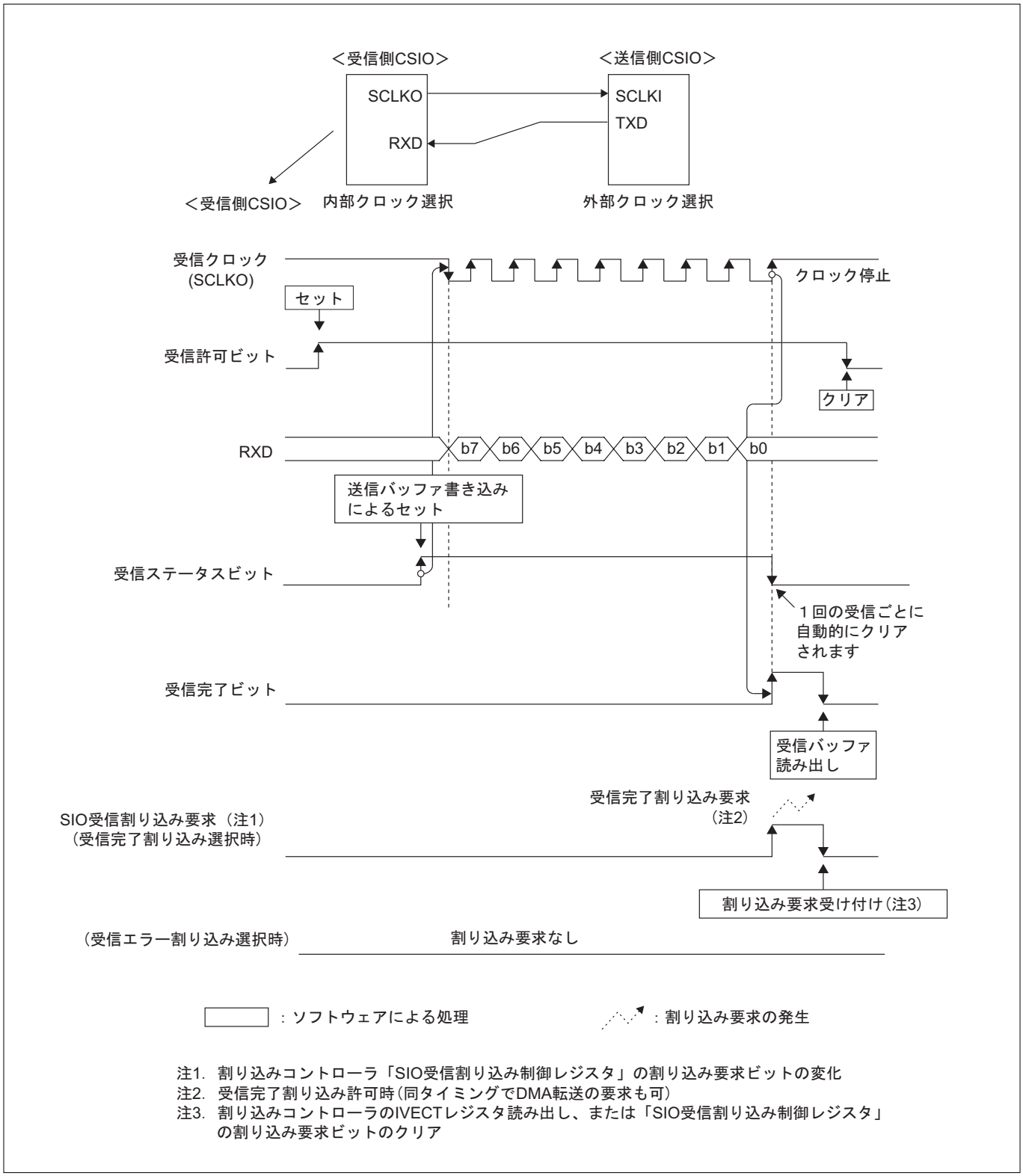
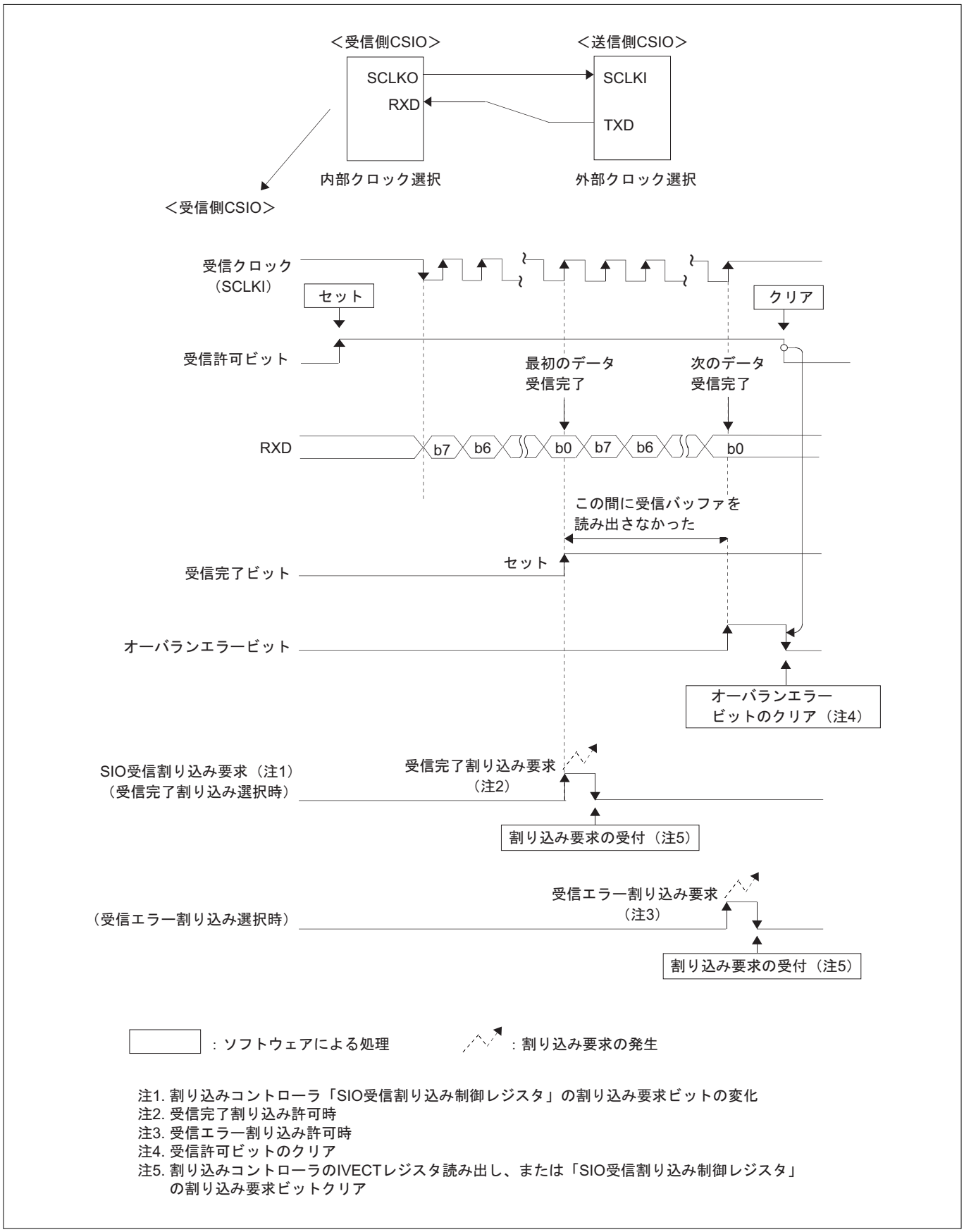


図12.4.3　CSIO**受信例（正常受信時）**



注1. 割り込みコントローラ「SIO受信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットの変化
注2. 受信完了割り込み許可時
注3. 受信エラー割り込み許可時
注4. 受信許可ビットのクリア
注5. 割り込みコントローラのIVECTレジスタ読み出し、または「SIO受信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットクリア

図12.4.4　CSIO**受信例（オーバランエラー発生時）**

12.5　CSIOモード時の注意事項

• SIO送受信モードレジスタ、SIOボーレートレジスタの設定

SIO送受信モードレジスタ、SIOボーレートレジスタおよび送信制御レジスタのBRGカウントソース選択ビットは、必ず非動作中に設定してください。送受信中には送信および受信完了を確認し、送信および受信許可ビットをクリアした後、設定を行ってください。

• BRG(ボーレート)レジスタの設定

BRGクロックソース選択ビットでf(BCLK)を選択した場合は、2Mbpsを越えないようにBRGレジスタの値を設定してください。

• 連続送信について

連続送信を行う場合は、データの送信が完了する前にSIO送信バッファレジスタに次の送信データを設定してください。

• 受信について

CSIOモードでは受信シフトクロックは送信回路の動作によって得られますので、受信だけを行う場合でも送信動作を実行(ダミーデータを送信)させる必要があります。この場合、ポートの機能をTXD端子(動作モードレジスタを"1"にセット)に設定しているとダミーデータが出力されることになりますので注意してください。

• 連続受信について

連続受信を行う場合には、送信側の送信動作が開始する前にSIO送信バッファレジスタにデータ(ダミーデータ)を設定してください。

• DMAによる送受信

DMA要求モードで送受信を行う場合は、DMACを要求受付可能状態にした後(DMAモードレジスタの設定後)にシリアル通信を行ってください。

• 受信完了ビットについて

受信エラー(オーバランエラー)発生時は、受信バッファレジスタの読み出しによる受信完了ビットのクリアはできません。この場合は、受信許可ビットをクリアすることで行います。

• オーバランエラーについて

SIO受信バッファレジスタを読み出す前に次回の受信データが、SIO受信シフトレジスタに揃った場合(オーバランエラー発生)、受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われず、受信バッファレジスタには前回受信したデータが残ります。また、それ以降、受信動作は行われますが、受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われなくなります(受信ステータスビットが"1"の状態)。

正常な受信を再開するためには、受信許可ビットをいったんクリアする必要があります。また、これによってのみオーバランエラーフラグのクリアが可能です。

• SIO送信時DMA転送要求発生について

送信許可ビットが"1"にセット(送信許可)された状態で送信バッファレジスタが空(送信バッファエンプティフラグが"1"の状態)の場合、SIO送信バッファエンプティDMA転送要求が発生します。

• SIO受信時DMA転送要求発生について

受信完了ビットが"1"にセット(受信バッファレジスタフル)されると、受信完了DMA転送要求が発生します。ただし、オーバランエラー発生時は、受信完了DMA転送要求は発生しませんので注意してください。

• 汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え

ポート動作モードレジスタにより、汎用ポートからシリアルインタフェース端子へ切り換えた際、SCLKOn端子は"Hレベル"(内部クロック選択、CKPOLビットを"0"に設定の場合。CKPOLビットを"1"に設定の場合は"Lレベル")、TXDn端子は不定値を出力します。ただし、SIOn送信制御レジスタのTENビットを"1"(送信許可)に保持した状態で汎用ポートからシリアルインタフェース端子へ切り換えた際は、TXDn端子は以前に出力したシリアルデータの最終ビットのレベルを出力します。

12.6　UARTモード送信動作説明

12.6.1　UARTボーレートの設定

UARTモードのボーレート（データ転送速度）は、送受信シフトクロックによって決定されます。送受信シフトクロックのソースは、内部/外部クロック選択ビット（SIO送受信モードレジスタのb11）の内容にかかわらず内部クロックとなります。

(1) UARTモードのボーレート算出

f(BCLK)はクロックデバイダによって分周後、ボーレートジェネレータ（BRG）に入力され、その後さらに16分周されて送受信シフトクロックになります。

クロックデバイダの分周値は、SIO送信制御レジスタのCDIV（ボーレートジェネレータカウントソース選択）ビット（b2, b3）で、1分周、8分周、32分周または256分周から選択します。

ボーレートジェネレータでは、クロックデバイダ出力を（ボーレートレジスタ設定値＋1）に分周し、さらにその後16分周して送受信シフトクロックとします。

UARTモードで内蔵クロックを選択時、ボーレートは以下の式で求められます。

$$\text{ボーレート}\ [\text{bps}] = \frac{f(\text{BCLK})}{\text{クロックデバイダ分周値} \times (\text{ボーレートレジスタ設定値} + 1) \times 16}$$

ボーレートレジスタ設定値＝H'00～H'FF
クロックデバイダ分周値＝1、8、32、256

12.6.2　UART送受信データフォーマット

UARTモード時の送受信データのフォーマットは、SIO送受信モードレジスタで設定します。以下にUARTモードで使用可能な送受信データフォーマットを示します。

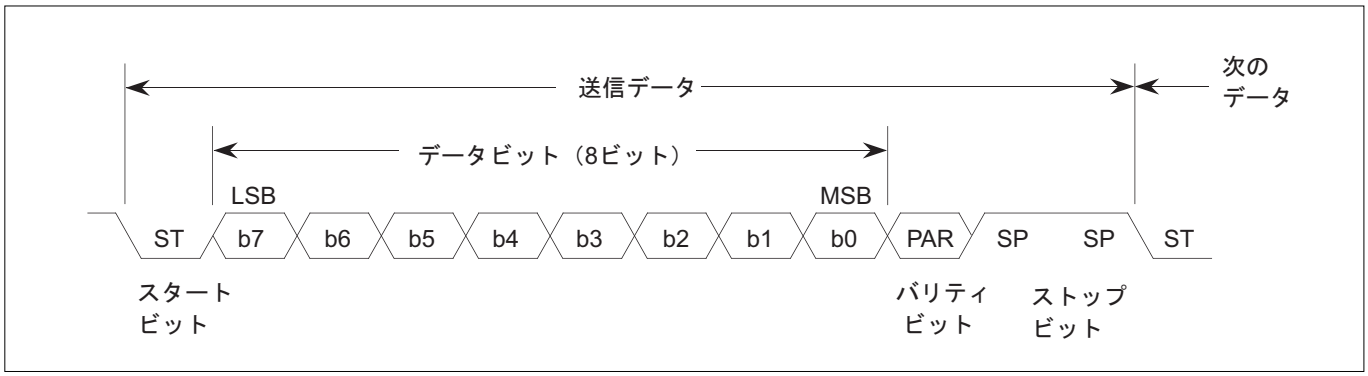
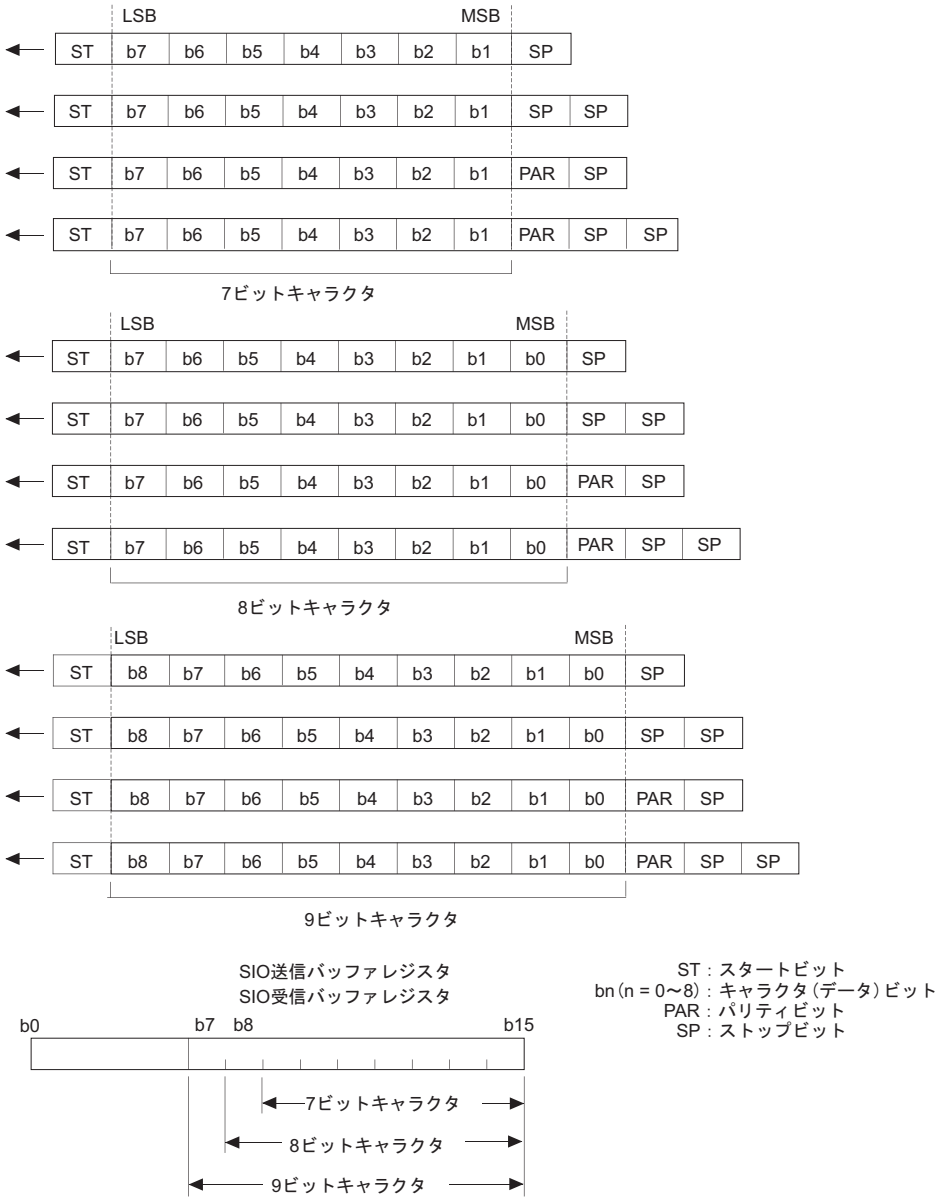


図12.6.1　UARTモード時の転送データフォーマット例

表12.6.1　UARTモード時の転送データ

ビット名称	内容
ST（スタートビット）	データの送信開始を示すビットで、1ビット分の"L"信号が送信データの直前に付加されます。
b0～b8（キャラクタビット）	シリアルインタフェースを通じて転送される送受信データです。UARTモードでは7ビット、8ビットデータ、または9ビットデータの送受信が可能です。
PAR（パリティビット）	送受信キャラクタに付加されるビットで、パリティ有効時、偶数/奇数パリティの選択によって、パリティビットを含めたキャラクタ中の"1"の個数が常に偶数、または奇数になるように自動的に設定されます。
SP（ストップビット）	データの送信終了を示すビットで、キャラクタの直後（パリティ有効時はパリティビットの直後）に付加されます。ストップビットは1ビット、または2ビットを選択することができます。



注．・SIO受信バッファレジスタの選択したキャラクタビットの上位ビットは、"0"に固定されます。
・上記データビットの番号（bn）は、データの並びを示すものであって、レジスタのビット番号（bn）を示すものではありません。

図12.6.2　UARTモード時に選択可能なデータフォーマット一覧

12.6.3　UART送信時の初期設定

UARTで送信を行う場合は、以下の手順で初期設定を行います。

(1) SIO送受信モードレジスタの設定

- UARTモードに設定
- パリティの設定（有効時は奇数/偶数選択）
- ストップビット長の設定
- キャラクタ長の設定（注1）

注1．UARTモード時は、内部/外部クロック選択ビットの設定は無効（内部クロックのみ）となります。

(2) SIO送信制御レジスタの設定

クロックデバイダ分周比を選択します。

(3) SIOボーレートレジスタの設定

ボーレートジェネレータの値を設定します（「12.6.1 UARTボーレートの設定」を参照してください）。

(4) SIO割り込み関連レジスタの設定

- 送信割り込み要求要因（送信バッファエンプティ/送信完了）の選択（SIO割り込み要求要因選択レジスタ）
- SIO送信割り込み要求の許可/禁止（SIO割り込み要求マスクレジスタ）

(5) 割り込みコントローラの設定（SIO送信割り込み制御レジスタ）

送信割り込みを使用する場合は、優先レベルの設定を行います。

(6) DMACの設定

送信バッファエンプティ時に内蔵DMACに対してDMA転送を要求する場合は、DMACの設定を行ってください（「第9章 DMAC」を参照してください）。

(7) 端子機能の選択

シリアルインタフェースの関連端子は入出力ポートとのダブルファンクションとなっていますので、端子機能の設定を行ってください（「第8章 入出力ポートと端子機能」を参照してください）。

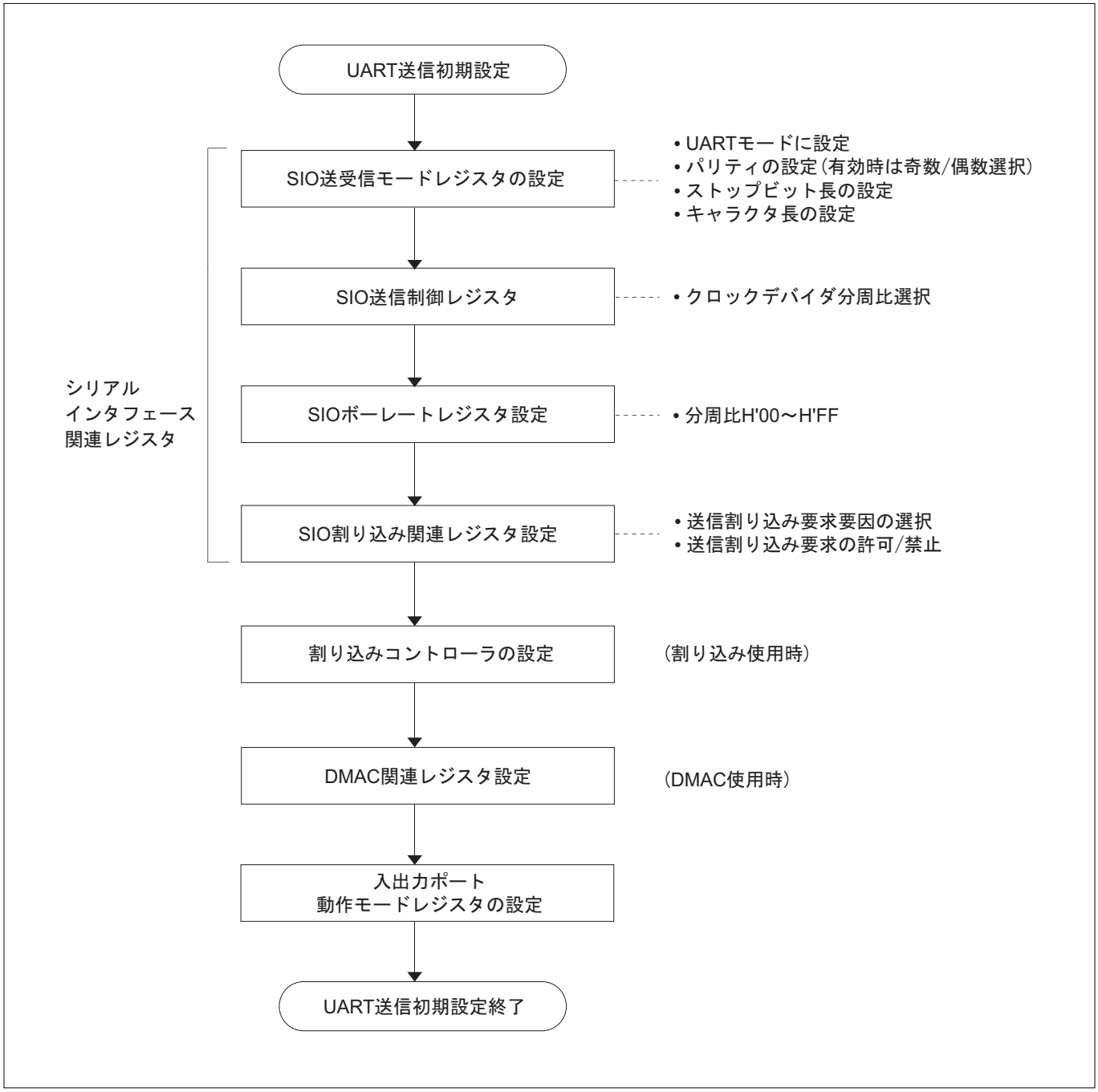


図12.6.3　UART**送信初期化手順**

12.6.4 UART送信の開始

初期設定終了後、以下の送信条件がすべて満たされると、送信動作を開始します。

- SIO送信制御レジスタのTEN（送信許可）ビットに"1"をセット（注1）
- SIO送信バッファレジスタに送信データを書き込み
  （送信バッファエンプティビットが"0"）

注1．送信許可ビットが"0"にクリアされている状態では、送信バッファへの書き込みは無視されます。
必ず送信許可ビットを"1"にセットしてから送信バッファレジスタへの書き込みを行ってください。

送信が開始されると以下の手順でデータが送信されます。

- SIO送信バッファの内容を、SIO送信シフトレジスタに転送
- 送信バッファエンプティビットに"1"をセット　（注2）
- シフトクロックに同期してデータ送信を開始（LSBファースト）

注2．送信バッファエンプティ、送信完了により送信割り込み要求を発生する事が出来ます。
また、送信バッファエンプティは、DMA転送要求を発生することができます。
送信完了では、DMA転送要求を発生する事は出来ません。

12.6.5 UARTの連続送信

送信バッファレジスタから、送信シフトレジスタへデータを転送した後は、送信が完了していなくても送信バッファレジスタに次のデータを書き込むことができます。送信完了前に次のデータを送信バッファに書き込んだ場合、連続送信が行われます。

送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたことは、SIO送信制御レジスタの送信バッファエンプティフラグで確認します。

12.6.6 UART送信完了処理

データ送信が完了すると、以下の動作がハードウェアで自動的に行われます。

(1) 連続送信しない場合

- 送信ステータスビットに"0"をセット

(2) 連続送信の場合

- 連続したデータのうち最終データの送信が完了したとき、送信ステータスビットに"0"をセット

12.6.7 送信割り込み

(1) 送信バッファエンプティ割り込み

SIO割り込み要求要因選択レジスタで送信バッファエンプティ割り込みを選択した場合、送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたときに、送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。また、送信バッファエンプティ割り込み許可状態でTEN（送信許可）ビットを"1"（禁止→許可）にセットした場合も、送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。

(2) 送信完了割り込み

SIO割り込み要求要因選択レジスタで送信完了割り込みを選択した場合、送信シフトレジスタのデータ転送が完了したときに、送信完了割り込み要求が発生します。

送信割り込みを使用するためには、SIO割り込み要求マスクレジスタ、割り込みコントローラ(ICU)の設定が必要です。

12.6.8　送信DMA転送要求

送信バッファレジスタから送信シフトレジスタへデータが転送されたときに、対応する送信DMA転送要求がDMACへ出力されます。また、TEN(送信許可)ビットを"1"にセット(禁止→許可)した場合も出力されます。
DMA転送を使用して送信を行うためには、DMACの設定が必要となります。

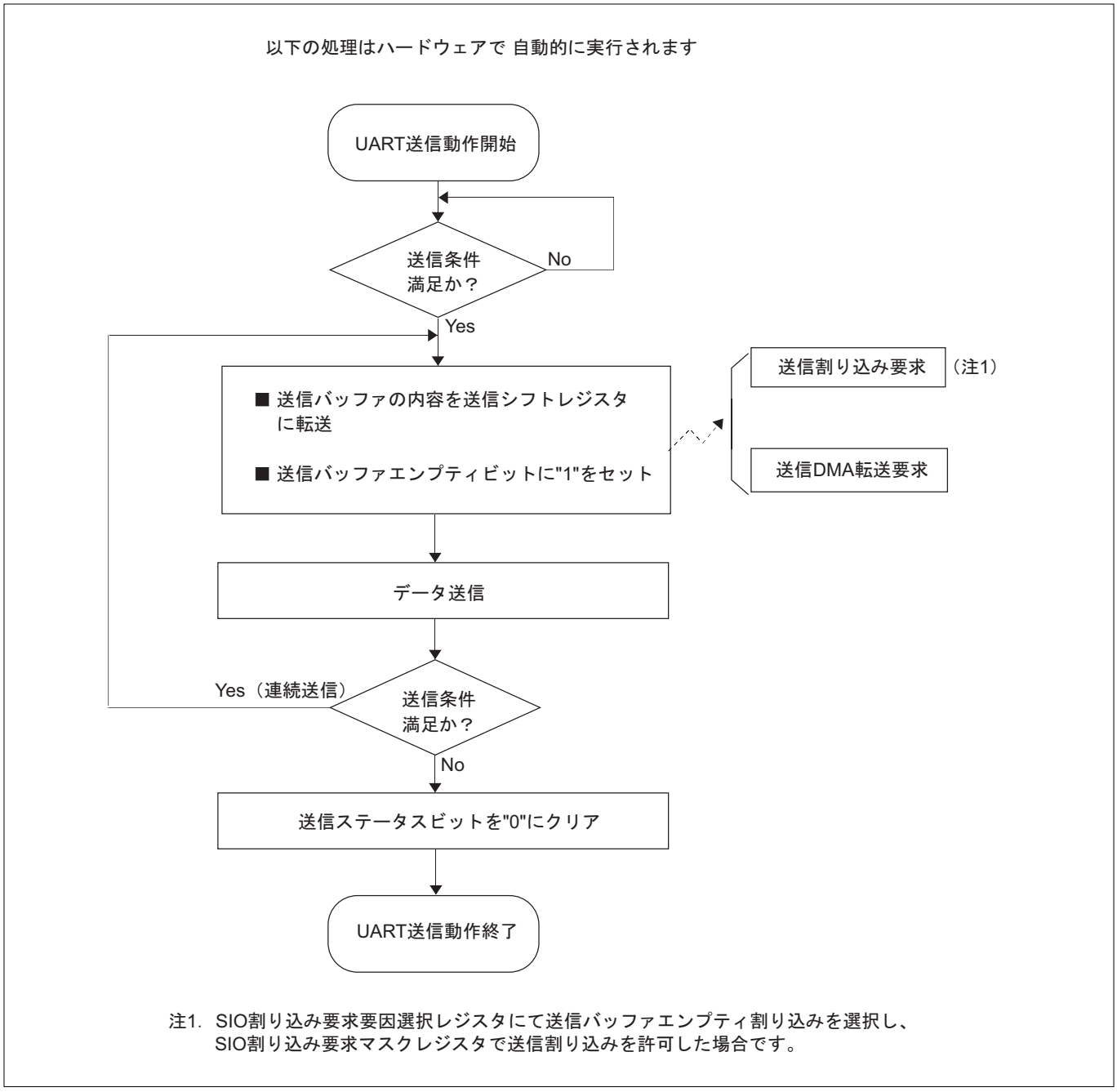
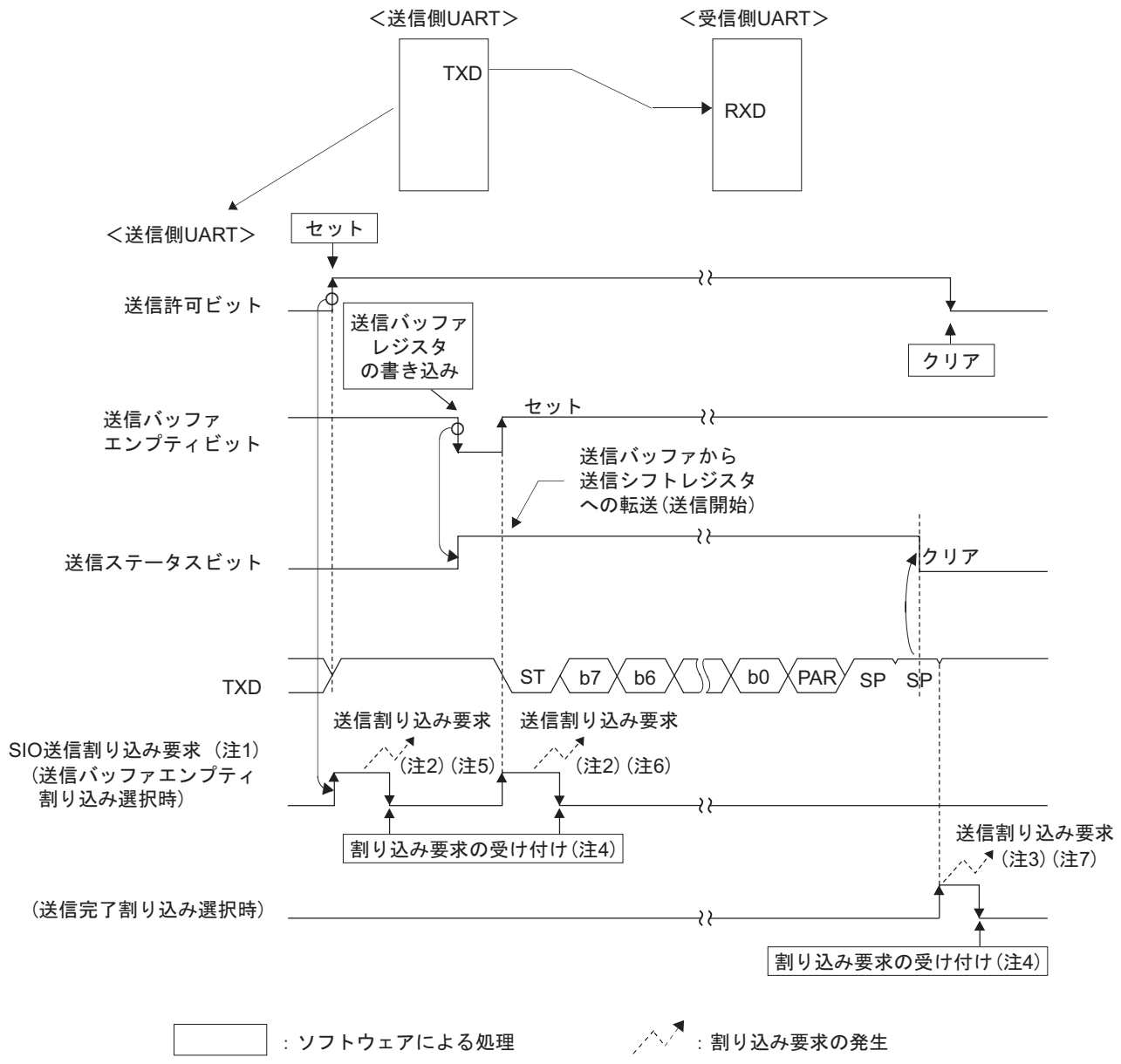


図12.6.4　UARTモード時の送信動作(ハードウェア処理)

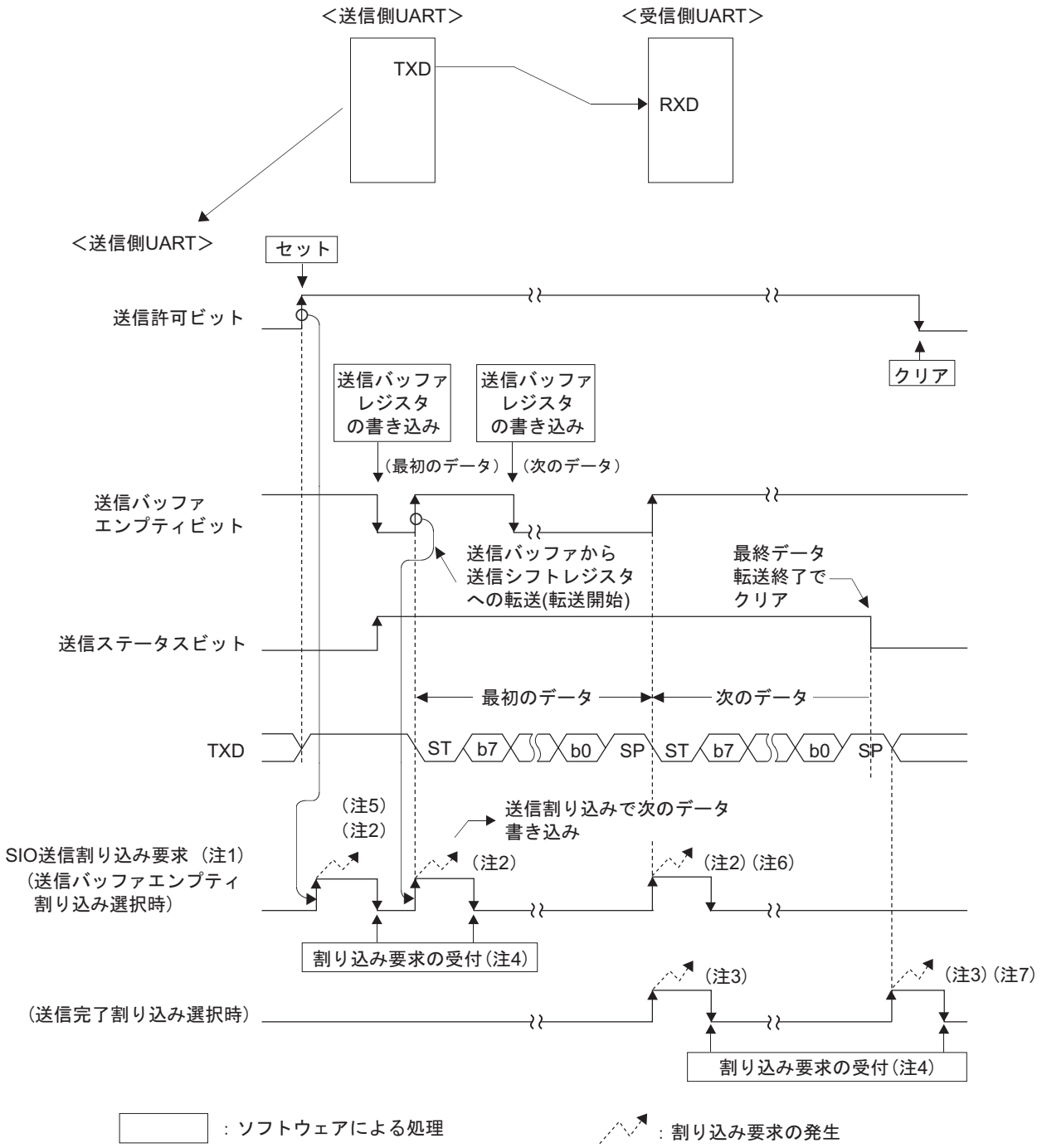
12.6.9　UART送信動作例

UARTモードでの送信動作例を以下に示します。



注1.　割り込みコントローラ「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットの変化
注2.　送信バッファエンプティ割り込み許可時（同タイミングでDMA転送の要求も可）
注3.　送信完了割り込み許可時
注4.　割り込みコントローラのIVECTレジスタ読み出し、または「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットのクリア
注5.　送信を許可したときに、送信割り込み要求が発生します。
注6.　送信データを送信バッファに書き込んだ後であっても、送信バッファから送信シフトレジスタへ転送され、送信バッファエンプティになれば、送信割り込み要求が発生するので、注意してください。
注7.　送信シフトレジスタのデータの送信が完了した時点で、送信完了割り込み要求が発生します。

図12.6.5　UART送信例（1回だけの送信）



注1. 割り込みコントローラ「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットの変化
注2. 送信バッファエンプティ割り込み許可時(同タイミングでDMA転送の要求も可)
注3. 送信完了割り込み許可時
注4. 割り込みコントローラのIVECTレジスタ読み出し、または「SIO送信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットのクリア
注5. 送信を許可したときに、送信割り込み要求が発生します。
注6. 送信データを送信バッファに書き込んだ後であっても、送信バッファから送信シフトレジスタへ転送され、送信バッファエンプティになれば、送信割り込み要求が発生するので、注意してください。
注7. 送信シフトレジスタのデータの送信が完了した時点で、送信完了割り込み要求が発生します。

図12.6.6　UART**送信例(連続送信)**

12.7　UARTモード受信動作説明

12.7.1　UART受信時の初期設定

UARTで受信を行う場合は、以下の手順で初期設定を行います。

(1) SIOモードレジスタの設定

- UARTモードに設定
- パリティの設定（有効時は奇数/偶数選択）
- ストップビット長の設定
- キャラクタ長の設定

注．・UARTモード時は、内部/外部クロック選択ビットの設定は無効（内部クロックのみ）となります。

(2) SIO送信制御レジスタの設定

- クロックデバイダ分周比の設定

(3) SIOボーレートレジスタの設定

ボーレートジェネレータの値を設定します（「12.6.1 UARTボーレートの設定」を参照してください）。

(4) SIO割り込み関連の設定

- 受信割り込み要求要因（受信完了/受信エラー）の選択（受信割り込み要求要因選択レジスタ）
- 受信割り込み要求の許可/禁止（割り込み要求マスクレジスタ）

(5) 割り込みコントローラの設定

受信割り込みを使用する場合は、優先レベルの設定を行います。

(6) DMACの設定

受信完了時に内蔵DMACに対してDMA転送を要求する場合は、DMACの設定を行ってください（「第9章 DMAC」を参照してください）。

(7) 端子機能の選択

シリアルインタフェースの関連端子は入出力ポートとのダブルファンクションピンとなっていますので、端子機能の設定を行ってください（「第8章 入出力ポートと端子機能」を参照してください）。

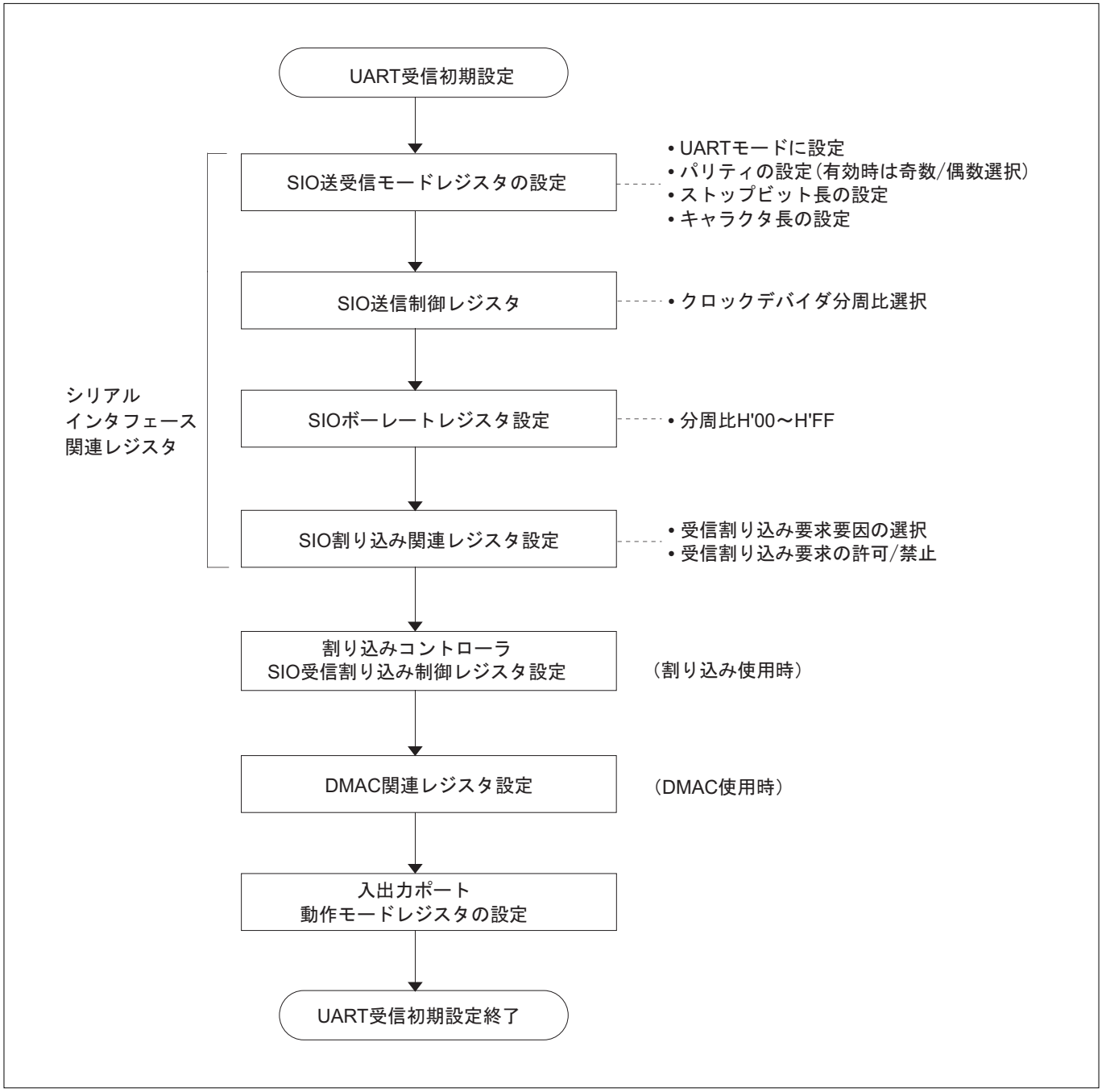


図12.7.1　UART**受信初期化手順**

12.7.2　UART受信の開始

初期設定終了後、以下の受信条件がすべて満たされると、受信動作を開始します。

- SIO受信制御レジスタの受信許可ビットに"1"をセット
- RXD端子へのスタートビット（立ち下がりエッジ信号）入力

上記の条件が満たされるとUART受信動作に入ります。ただし、内部受信シフトクロックの最初の立ち上がりでもう一度スタートビットをチェックし、その時ノイズなどにより"H"が検出された場合は、受信動作を停止し、再度スタートビット待ちとなります。

12.7.3　UART受信完了処理

データ受信が完了すると、以下の動作がハードウェアで自動的に行われます。

(1) 正常に受信完了した場合

受信完了（受信バッファフル）ビットに"1"をセット

注．・受信完了（受信バッファフル）割り込み要求が許可されていた場合、割り込み要求を発生します。
・DMA転送要求を発生します。

(2) 受信エラーが発生した場合

エラー発生時は該当エラービット（OE, FE, PE）と受信エラーサムビットに "1"をセット

注．・受信完了割り込み選択（SIO受信割り込み要求要因選択レジスタ）時、割り込み要求が許可された場合、受信完了割り込み要求が発生します。ただし、オーバランエラー発生時は、受信完了割り込みは発生しませんので注意してください。
・受信エラー割り込み選択（SIO受信割り込み要求要因選択レジスタ）時、割り込み要求が許可された場合、受信エラー割り込み要求が発生します。
・DMA転送要求は発生しません。

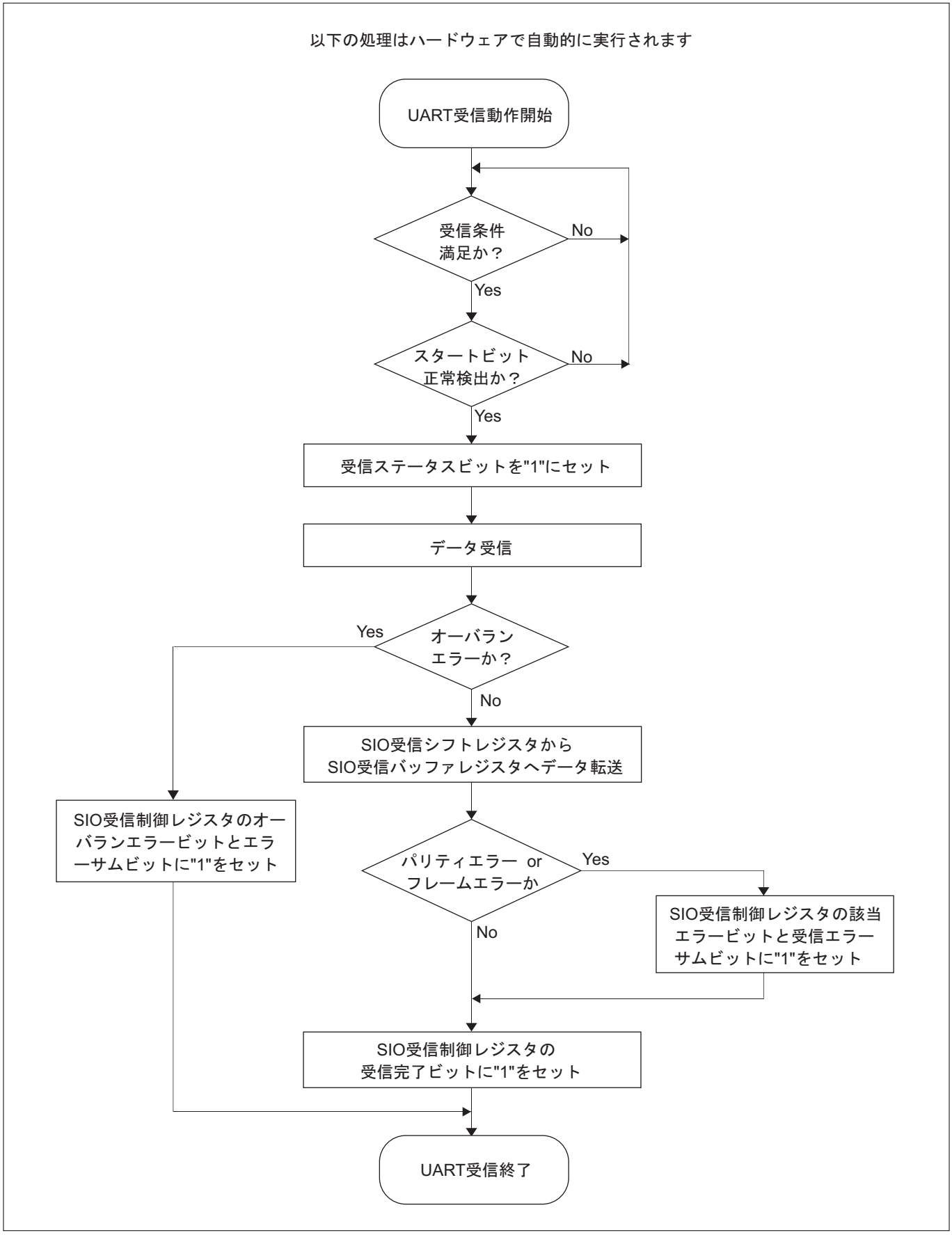


図12.7.2　UART**モード時の受信動作（ハードウェア処理）**

12.7.4　UART受信動作例

UARTモードでの受信動作例を以下に示します。

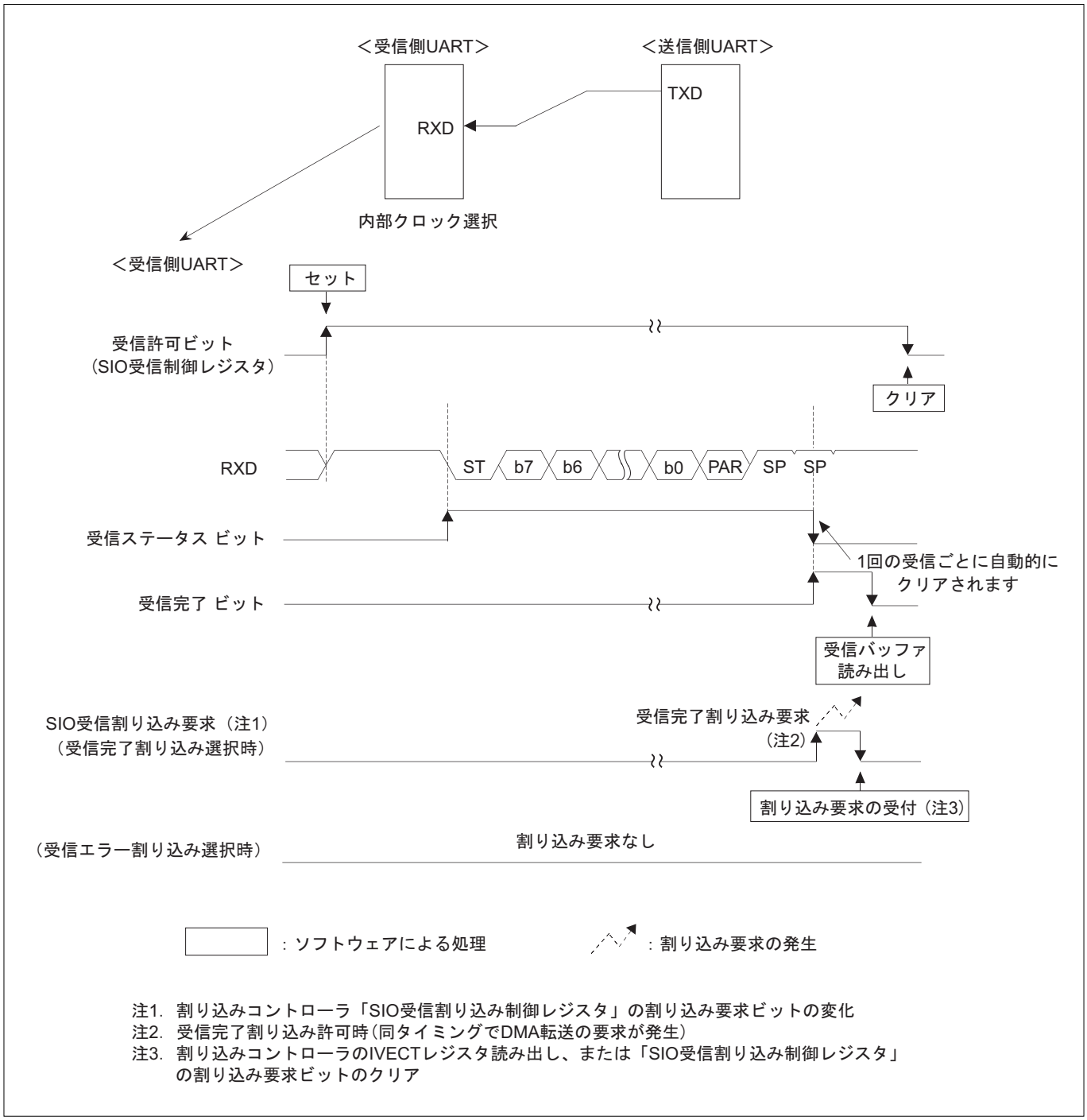
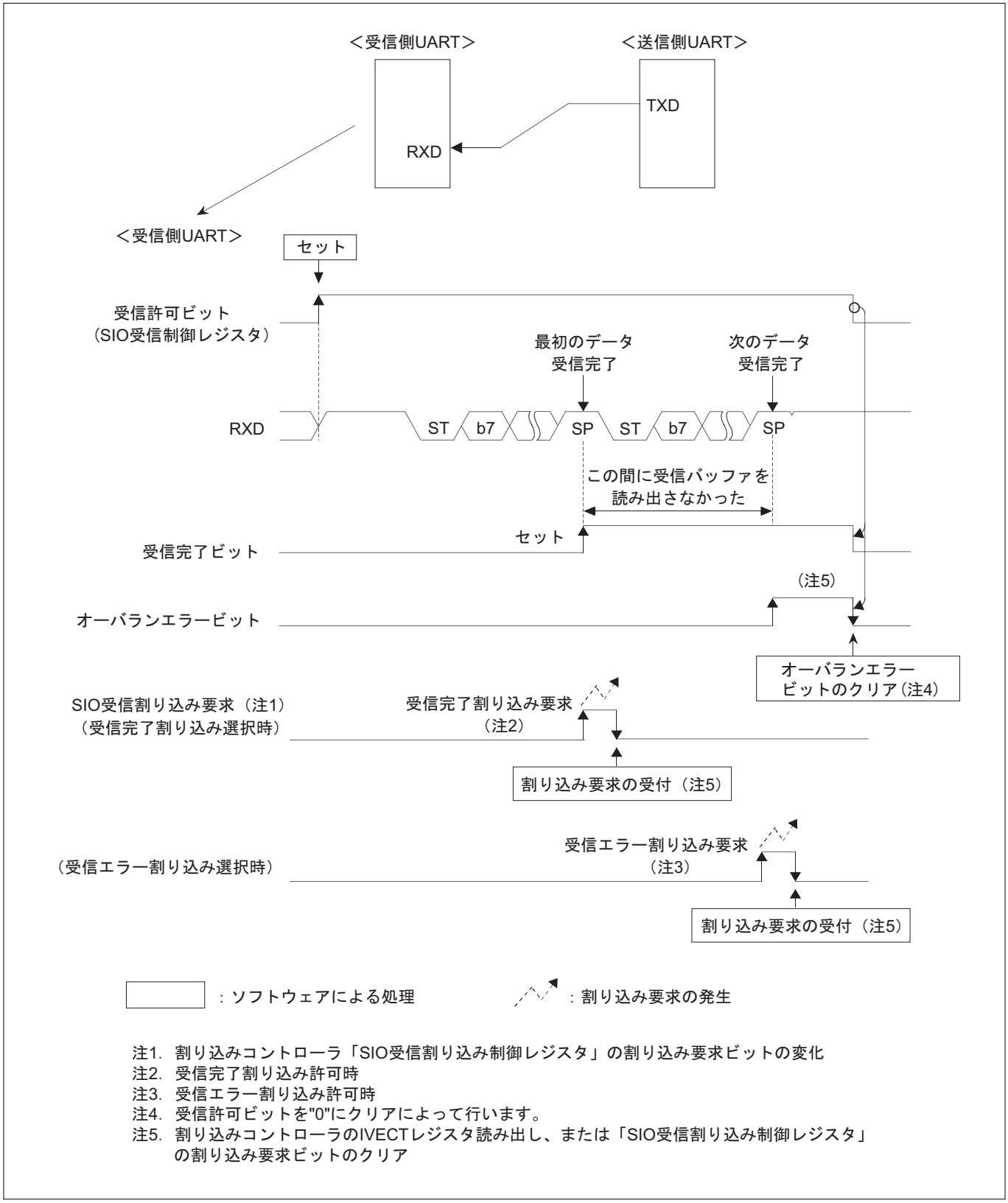


図12.7.3　UART受信例（正常受信時）

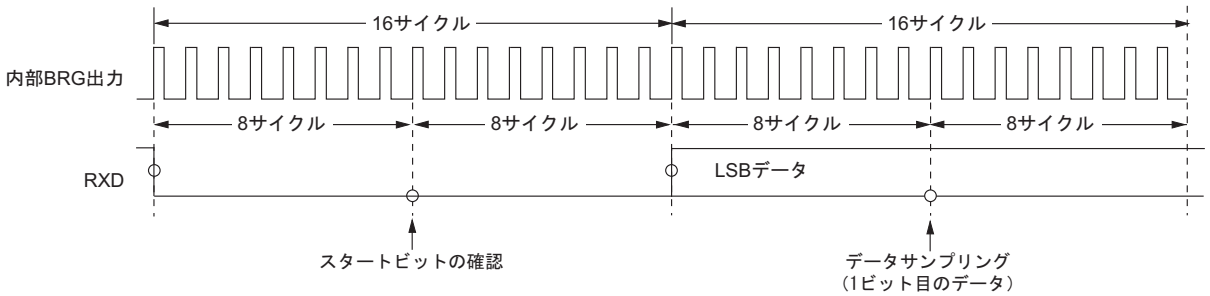


注1. 割り込みコントローラ「SIO受信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットの変化
注2. 受信完了割り込み許可時
注3. 受信エラー割り込み許可時
注4. 受信許可ビットを"0"にクリアによって行います。
注5. 割り込みコントローラのIVECTレジスタ読み出し、または「SIO受信割り込み制御レジスタ」の割り込み要求ビットのクリア

図12.7.4　UART**受信例（オーバランエラー発生時）**

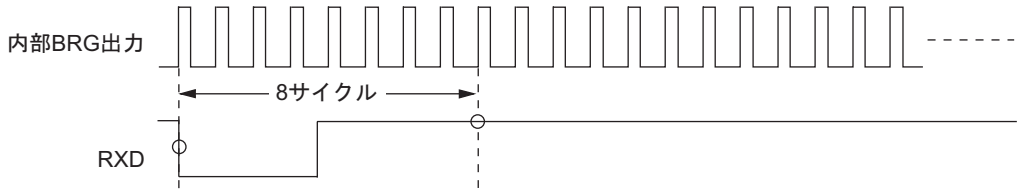
12.7.5　UART受信時のスタートビットの検出

スタートビットは、内部BRG出力のタイミングでサンプリングします。スタートビットの立ち下がり検出後、内部BRG出力の8サイクル後のレベルが"L"であれば、スタートビットが確定し、更に8サイクル後からをLSBデータ(1ビット目のデータ)として取り込みます。スタートビット確定時に"H"であれば、再度立ち下がりの検出を行います。内部BRGに同期してサンプリングするため、最大BRG出力分のディレイが生じます。以降、ディレイが生じたタイミングで受信します。



注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図12.7.5　**スタートビットの検出、データサンプリングタイミング**



注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

図12.7.6　**スタートビット無効例(受信しない)**

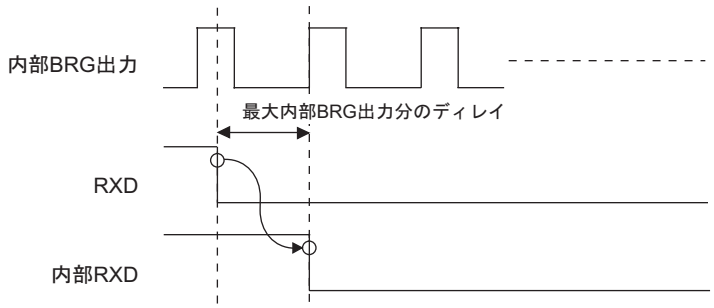


図12.7.7　**受信時のディレイ**

12.8　定周期クロック出力機能

SIO0、SIO1をUARTモードで使用する場合、該当ポート（P84, P87）をそれぞれSCLKO0端子、SCLKO1端子に切り換えることにより、BRG出力を2分周したクロックを出力することができます。

注．・クロック出力はデータ転送時以外も出力されます。

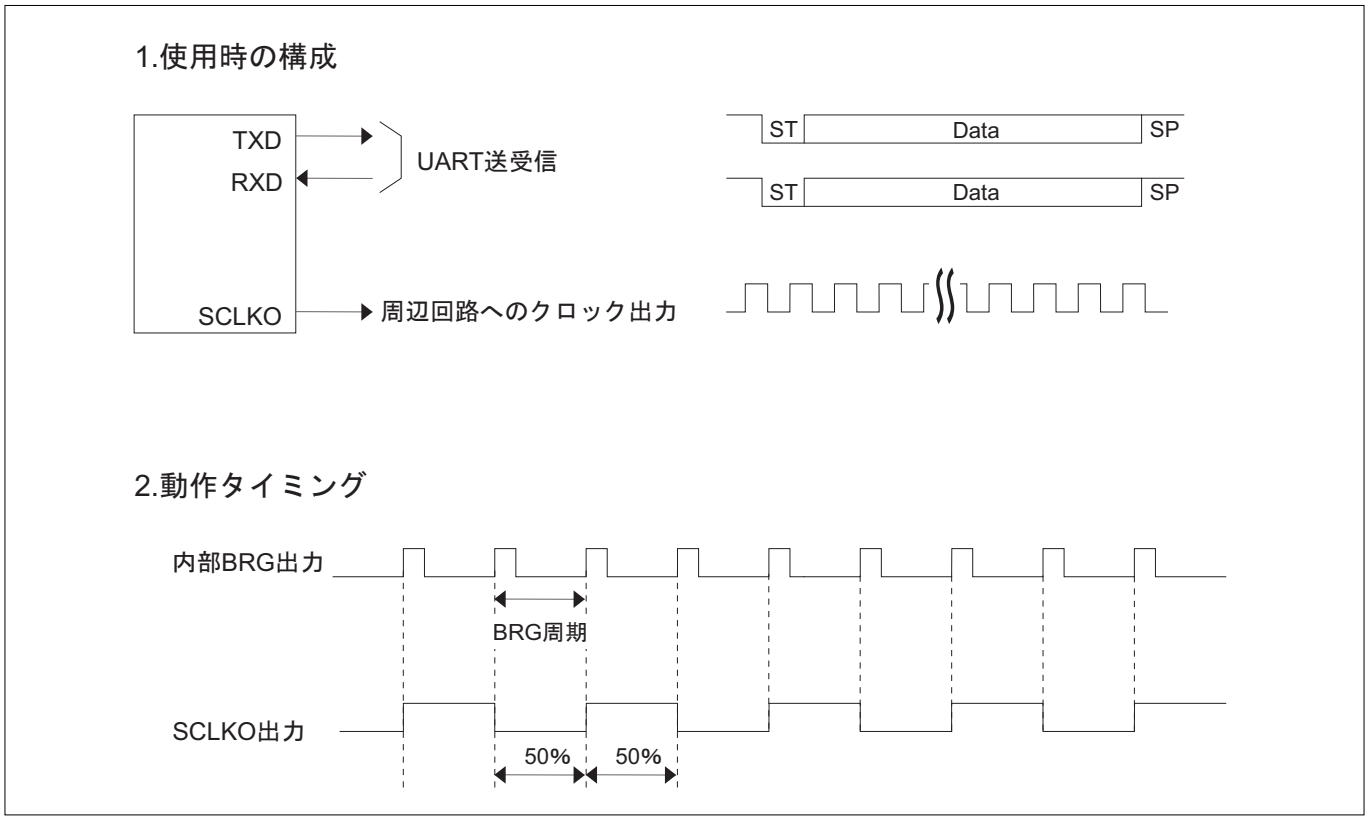


図12.8.1　**定周期クロック出力例**

12.9 UARTモード時の注意事項

• SIO送受信モードレジスタ、SIOボーレートレジスタの設定

SIOモードレジスタ、SIOボーレートレジスタおよび送信制御レジスタのBRGカウントソース選択ビットは、必ず非動作中に設定してください。送受信中には送信および受信完了を確認し、送信および受信許可ビットをクリアした後、設定を行ってください。

• BRG(ボーレート)レジスタの設定

SIOボーレートレジスタへの書き込みは、BRGカウンタがカウント終了後、次の周期より有効となります。ただし、送信および受信禁止の状態では、書き込みと同時に変更可能です。

• DMAによる送受信

DMA要求モードで送受信を行う場合は、DMACを要求受付可能状態にした後(DMAモードレジスタの設定後)にシリアル通信を行ってください。

• オーバランエラーについて

SIO受信バッファレジスタを読み出す前に次回の受信データがSIO受信シフトレジスタに揃った場合(オーバランエラー発生)、受信データのSIO受信バッファレジスタへの格納は行われず、SIO受信バッファレジスタには前回受信したデータが残ります。また、いったんオーバランエラーが発生しますと、受信動作は行いますが受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われません。正常な受信を再開するためには、受信許可ビットをいったんクリアする必要があります。また、これによってのみオーバランエラーフラグをクリアすることができます。

• UART受信動作の状態を示すフラグ

UARTモード時の受信状態を示すフラグには以下のものがあります。

- **SIO受信制御レジスタの受信ステータスビット**
- **SIO受信制御レジスタの受信完了ビット**
- **SIO受信制御レジスタの受信エラーサムビット**
- **SIO受信制御レジスタのオーバランエラービット**
- **SIO受信制御レジスタのパリティエラービット**
- **SIO受信制御レジスタのフレームエラービット**

受信完了ビット・各種エラービットフラグのクリア方法は、オーバランエラー発生時とそうでない時で異なります。以下にクリア条件を示します。

【オーバランエラー未発生時】
受信バッファレジスタの下位バイトの読み出し、もしくは受信許可ビットの"0"クリア

【オーバランエラー発生時】
受信許可ビットを"0"にクリア

• 汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え

ポート動作モードレジスタにより、汎用ポートからシリアルインタフェース端子へ切り換えた際、TXDn端子は"Hレベル"を出力します。

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第13章

CANモジュール

13.1　CANモジュールの概要
13.2　CANモジュール関連レジスタ
13.3　CANプロトコル
13.4　CANモジュール初期設定
13.5　データフレーム送信
13.6　データフレーム受信
13.7　リモートフレーム送信
13.8　リモートフレーム受信
13.9　CANモジュールの注意事項

13.1　CANモジュールの概要

32176は、CAN（Controller Area Network）Specification V2.0B active準拠のFull CANモジュールを2系統内蔵しています。16本のメッセージスロットと3本のマスクレジスタを有効に活用することにより、データ処理に伴うCPUの負荷を低減することができます。

以下にFull CANモジュールの概要を示します。

表13.1.1　CANモジュールの概要

項目	内容
プロトコル	CAN Specification 2.0B active
メッセージスロット数	16本（グローバルスロット：14本、ローカルスロット：2本）
極性	0：Dominant 1：Recessive
アクセプタンスフィルタ（受信IDフィルタにより指定範囲のIDのみを受信する機能）	グローバルマスク：1本 ローカルマスク　：2本
ボーレート	1 Time quantum（Tq）＝（BRP＋1）/ CPUクロック （BRP：ボーレートプリスケーラ設定値） ボーレート ＝ $\frac{1}{\text{Tq周期×1ビット分のTqの数}}$ … Max 1 Mbps（注1） BRP：1～255（0：禁止） 1ビット分のTqの数 ＝ Synchronization Segment ＋ Propagation Segment ＋ Phase Segment 1 ＋ Phase Segment 2 Synchronization Segment　：1Tq Propagation Segment　：1～8Tq Phase Segment 1　：1～8Tq Phase Segment 2　：1～8Tq（IPT＝1）
リモートフレーム自動応答機能	リモートフレームを受信したスロットが自動的に送信を行う機能
タイムスタンプ機能	16ビットカウンタによるタイムスタンプ機能。CANバスのビット周期を基本周期として、カウント周期を1、2、3、4分周に設定可能
BasicCANモード	スロット14、スロット15を受信専用スロットとして、交互に受信可能
送信アボート機能	送信要求をキャンセルする機能
ループバック機能	CANモジュールが送信したデータを、同モジュールが受信する機能
リターンバスオフ機能	エラーカウンタをクリアし、強制的にエラーアクティブモードに移行させる機能
シングルショット機能	アービトレーションロストや送信エラー発生により送信に失敗しても再送信を行わない機能
DMA転送機能	送信失敗または送受信完了によりDMA転送要求を発生させる機能
自己診断機能	CANモジュール内部で通信を行い、通信モジュールを診断する機能

注1．発振最大許容誤差はシステム構成（バス長、クロック誤差、CANバストランシーバ、サンプリング位置、ビット構成など）に依存します。

表13.1.2　CANのDMA転送要求発生機能

CANのDMA転送要求	DMAC入力チャネル
CAN0：スロット0の送信失敗、またはスロット15の送受信完了	DMA6
CAN0：スロット1の送信失敗、またはスロット14の送受信完了	DMA7
CAN1：スロット0の送信失敗、またはスロット15の送受信完了	DMA8
CAN1：スロット1の送信失敗、またはスロット14の送受信完了	DMA9

表13.1.3　CANモジュールの割り込み要求発生機能

CANモジュール割り込み要求元	ICU割り込み要求要因
CAN0送信完了	CAN0送受信＆エラー割り込み
CAN1送信完了	CAN1送受信＆エラー割り込み
CAN0受信完了	CAN0送受信＆エラー割り込み
CAN1受信完了	CAN1送受信＆エラー割り込み
CAN0バスエラー	CAN0送受信＆エラー割り込み
CAN1バスエラー	CAN1送受信＆エラー割り込み
CAN0エラーパッシブ	CAN0送受信＆エラー割り込み
CAN1エラーパッシブ	CAN1送受信＆エラー割り込み
CAN0バスオフ	CAN0送受信＆エラー割り込み
CAN1バスオフ	CAN1送受信＆エラー割り込み
CAN0シングルショット	CAN0送受信＆エラー割り込み
CAN1シングルショット	CAN1送受信＆エラー割り込み

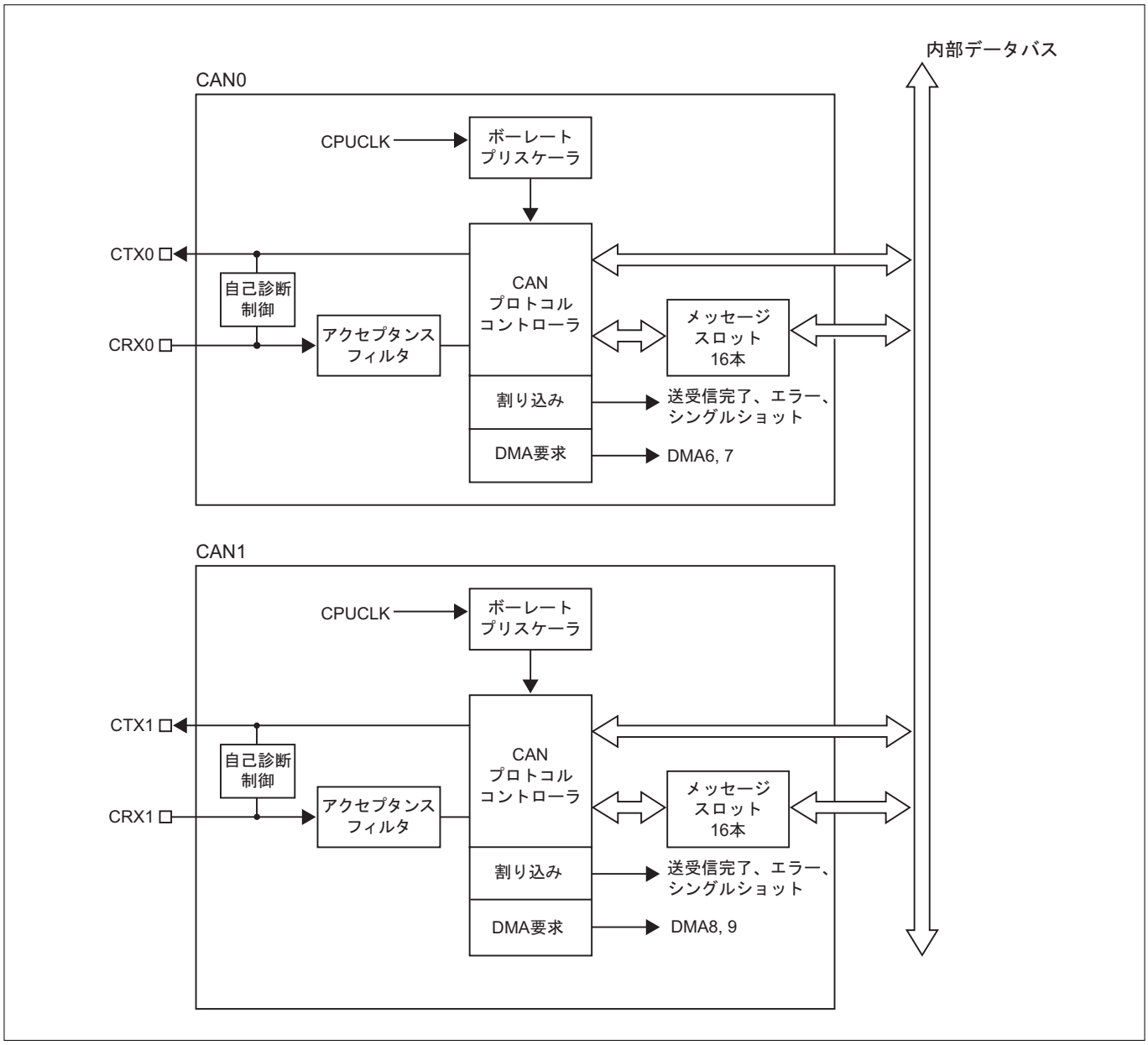


図13.1.1　CAN1モジュールブロック図

13.2　CANモジュール関連レジスタ

CANモジュール関連のレジスタマップを以下に示します。

CANモジュール関連レジスタマップ(1/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1000	CAN0コントロールレジスタ (CAN0CNT)		13-15
H'0080 1002	CAN0ステータスレジスタ (CAN0STAT)		13-18
H'0080 1004	CAN0拡張IDレジスタ (CAN0EXTID)		13-21
H'0080 1006	CAN0コンフィグレーションレジスタ (CAN0CONF)		13-22
H'0080 1008	CAN0タイムスタンプカウントレジスタ (CAN0TSTMP)		13-24
H'0080 100A	CAN0受信エラーカウントレジスタ (CAN0REC)	CAN0送信エラーカウントレジスタ (CAN0TEC)	13-25
H'0080 100C	CAN0スロット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN0SLIST)		13-29
H'0080 100E	(使用禁止領域)		
H'0080 1010	CAN0スロット割り込み要求マスクレジスタ (CAN0SLIMK)		13-30
H'0080 1012	(使用禁止領域)		
H'0080 1014	CAN0エラー割り込み要求ステータスレジスタ (CAN0ERIST)	CAN0エラー割り込み要求マスクレジスタ (CAN0ERIMK)	13-31 13-32
H'0080 1016	CAN0ボーレートプリスケーラ (CAN0BRP)	CAN0エラー要因レジスタ (CAN0EF)	13-26 13-45
H'0080 1018	CAN0モードレジスタ (CAN0MOD)	CAN0DMA転送要求選択レジスタ (CAN0DMARQ)	13-47 13-48
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1028	CAN0グローバルマスクレジスタ標準ID0 (C0GMSKS0)	CAN0グローバルマスクレジスタ標準ID1 (C0GMSKS1)	13-49
H'0080 102A	CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID0 (C0GMSKE0)	CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID1 (C0GMSKE1)	13-50
H'0080 102C	CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID2 (C0GMSKE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 102E	(使用禁止領域)		
H'0080 1030	CAN0ローカルマスクレジスタA標準ID0 (C0LMSKAS0)	CAN0ローカルマスクレジスタA標準ID1 (C0LMSKAS1)	13-49
H'0080 1032	CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID0 (C0LMSKAE0)	CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID1 (C0LMSKAE1)	13-50
H'0080 1034	CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID2 (C0LMSKAE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 1036	(使用禁止領域)		
H'0080 1038	CAN0ローカルマスクレジスタB標準ID0 (C0LMSKBS0)	CAN0ローカルマスクレジスタB標準ID1 (C0LMSKBS1)	13-49
H'0080 103A	CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID0 (C0LMSKBE0)	CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID1 (C0LMSKBE1)	13-50
H'0080 103C	CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID2 (C0LMSKBE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 103E	(使用禁止領域)		
H'0080 1040	CAN0シングルショットモード制御レジスタ (CAN0SSMODE)		13-53
H'0080 1042	(使用禁止領域)		
H'0080 1044	CAN0シングルショット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN0SSIST)		13-33
H'0080 1046	(使用禁止領域)		

CANモジュール関連レジスタマップ(2/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1048	CAN0シングルショット割り込み要求マスクレジスタ (C0SSIMK)		13-34
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1050	CAN0メッセージスロット0コントロールレジスタ (C0MSL0CNT)	CAN0メッセージスロット1コントロールレジスタ (C0MSL1CNT)	13-54
H'0080 1052	CAN0メッセージスロット2コントロールレジスタ (C0MSL2CNT)	CAN0メッセージスロット3コントロールレジスタ (C0MSL3CNT)	13-54
H'0080 1054	CAN0メッセージスロット4コントロールレジスタ (C0MSL4CNT)	CAN0メッセージスロット5コントロールレジスタ (C0MSL5CNT)	13-54
H'0080 1056	CAN0メッセージスロット6コントロールレジスタ (C0MSL6CNT)	CAN0メッセージスロット7コントロールレジスタ (C0MSL7CNT)	13-54
H'0080 1058	CAN0メッセージスロット8コントロールレジスタ (C0MSL8CNT)	CAN0メッセージスロット9コントロールレジスタ (C0MSL9CNT)	13-54
H'0080 105A	CAN0メッセージスロット10コントロールレジスタ (C0MSL10CNT)	CAN0メッセージスロット11コントロールレジスタ (C0MSL11CNT)	13-54
H'0080 105C	CAN0メッセージスロット12コントロールレジスタ (C0MSL12CNT)	CAN0メッセージスロット13コントロールレジスタ (C0MSL13CNT)	13-54
H'0080 105E	CAN0メッセージスロット14コントロールレジスタ (C0MSL14CNT)	CAN0メッセージスロット15コントロールレジスタ (C0MSL15CNT)	13-54
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1100	CAN0メッセージスロット0標準ID0 (C0MSL0SID0)	CAN0メッセージスロット0標準ID1 (C0MSL0SID1)	13-58 13-59
H'0080 1102	CAN0メッセージスロット0拡張ID0 (C0MSL0EID0)	CAN0メッセージスロット0拡張ID1 (C0MSL0EID1)	13-60 13-61
H'0080 1104	CAN0メッセージスロット0拡張ID2 (C0MSL0EID2)	CAN0メッセージスロット0データ長レジスタ (C0MSL0DLC)	13-62 13-63
H'0080 1106	CAN0メッセージスロット0データ0 (C0MSL0DT0)	CAN0メッセージスロット0データ1 (C0MSL0DT1)	13-64 13-65
H'0080 1108	CAN0メッセージスロット0データ2 (C0MSL0DT2)	CAN0メッセージスロット0データ3 (C0MSL0DT3)	13-66 13-67
H'0080 110A	CAN0メッセージスロット0データ4 (C0MSL0DT4)	CAN0メッセージスロット0データ5 (C0MSL0DT5)	13-68 13-69
H'0080 110C	CAN0メッセージスロット0データ6 (C0MSL0DT6)	CAN0メッセージスロット0データ7 (C0MSL0DT7)	13-70 13-71
H'0080 110E	CAN0メッセージスロット0タイムスタンプ (C0MSL0TSP)		13-72
H'0080 1110	CAN0メッセージスロット1標準ID0 (C0MSL1SID0)	CAN0メッセージスロット1標準ID1 (C0MSL1SID1)	13-58 13-59
H'0080 1112	CAN0メッセージスロット1拡張ID0 (C0MSL1EID0)	CAN0メッセージスロット1拡張ID1 (C0MSL1EID1)	13-60 13-61
H'0080 1114	CAN0メッセージスロット1拡張ID2 (C0MSL1EID2)	CAN0メッセージスロット1データ長レジスタ (C0MSL1DLC)	13-62 13-63
H'0080 1116	CAN0メッセージスロット1データ0 (C0MSL1DT0)	CAN0メッセージスロット1データ1 (C0MSL1DT1)	13-64 13-65
H'0080 1118	CAN0メッセージスロット1データ2 (C0MSL1DT2)	CAN0メッセージスロット1データ3 (C0MSL1DT3)	13-66 13-67
H'0080 111A	CAN0メッセージスロット1データ4 (C0MSL1DT4)	CAN0メッセージスロット1データ5 (C0MSL1DT5)	13-68 13-69
H'0080 111C	CAN0メッセージスロット1データ6 (C0MSL1DT6)	CAN0メッセージスロット1データ7 (C0MSL1DT7)	13-70 13-71
H'0080 111E	CAN0メッセージスロット1タイムスタンプ (C0MSL1TSP)		13-72
H'0080 1120	CAN0メッセージスロット2標準ID0 (C0MSL2SID0)	CAN0メッセージスロット2標準ID1 (C0MSL2SID1)	13-58 13-59
H'0080 1122	CAN0メッセージスロット2拡張ID0 (C0MSL2EID0)	CAN0メッセージスロット2拡張ID1 (C0MSL2EID1)	13-60 13-61
H'0080 1124	CAN0メッセージスロット2拡張ID2 (C0MSL2EID2)	CAN0メッセージスロット2データ長レジスタ (C0MSL2DLC)	13-62 13-63
H'0080 1126	CAN0メッセージスロット2データ0 (C0MSL2DT0)	CAN0メッセージスロット2データ1 (C0MSL2DT1)	13-64 13-65
H'0080 1128	CAN0メッセージスロット2データ2 (C0MSL2DT2)	CAN0メッセージスロット2データ3 (C0MSL2DT3)	13-66 13-67
H'0080 112A	CAN0メッセージスロット2データ4 (C0MSL2DT4)	CAN0メッセージスロット2データ5 (C0MSL2DT5)	13-68 13-69
H'0080 112C	CAN0メッセージスロット2データ6 (C0MSL2DT6)	CAN0メッセージスロット2データ7 (C0MSL2DT7)	13-70 13-71
H'0080 112E	CAN0メッセージスロット2タイムスタンプ (C0MSL2TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(3/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1130	CAN0メッセージスロット3標準ID0 (C0MSL3SID0)	CAN0メッセージスロット3標準ID1 (C0MSL3SID1)	13-58 13-59
H'0080 1132	CAN0メッセージスロット3拡張ID0 (C0MSL3EID0)	CAN0メッセージスロット3拡張ID1 (C0MSL3EID1)	13-60 13-61
H'0080 1134	CAN0メッセージスロット3拡張ID2 (C0MSL3EID2)	CAN0メッセージスロット3データ長レジスタ (C0MSL3DLC)	13-62 13-63
H'0080 1136	CAN0メッセージスロット3データ0 (C0MSL3DT0)	CAN0メッセージスロット3データ1 (C0MSL3DT1)	13-64 13-65
H'0080 1138	CAN0メッセージスロット3データ2 (C0MSL3DT2)	CAN0メッセージスロット3データ3 (C0MSL3DT3)	13-66 13-67
H'0080 113A	CAN0メッセージスロット3データ4 (C0MSL3DT4)	CAN0メッセージスロット3データ5 (C0MSL3DT5)	13-68 13-69
H'0080 113C	CAN0メッセージスロット3データ6 (C0MSL3DT6)	CAN0メッセージスロット3データ7 (C0MSL3DT7)	13-70 13-71
H'0080 113E	CAN0メッセージスロット3タイムスタンプ (C0MSL3TSP)		13-72
H'0080 1140	CAN0メッセージスロット4標準ID0 (C0MSL4SID0)	CAN0メッセージスロット4標準ID1 (C0MSL4SID1)	13-58 13-59
H'0080 1142	CAN0メッセージスロット4拡張ID0 (C0MSL4EID0)	CAN0メッセージスロット4拡張ID1 (C0MSL4EID1)	13-60 13-61
H'0080 1144	CAN0メッセージスロット4拡張ID2 (C0MSL4EID2)	CAN0メッセージスロット4データ長レジスタ (C0MSL4DLC)	13-62 13-63
H'0080 1146	CAN0メッセージスロット4データ0 (C0MSL4DT0)	CAN0メッセージスロット4データ1 (C0MSL4DT1)	13-64 13-65
H'0080 1148	CAN0メッセージスロット4データ2 (C0MSL4DT2)	CAN0メッセージスロット4データ3 (C0MSL4DT3)	13-66 13-67
H'0080 114A	CAN0メッセージスロット4データ4 (C0MSL4DT4)	CAN0メッセージスロット4データ5 (C0MSL4DT5)	13-68 13-69
H'0080 114C	CAN0メッセージスロット4データ6 (C0MSL4DT6)	CAN0メッセージスロット4データ7 (C0MSL4DT7)	13-70 13-71
H'0080 114E	CAN0メッセージスロット4タイムスタンプ (C0MSL4TSP)		13-72
H'0080 1150	CAN0メッセージスロット5標準ID0 (C0MSL5SID0)	CAN0メッセージスロット5標準ID1 (C0MSL5SID1)	13-58 13-59
H'0080 1152	CAN0メッセージスロット5拡張ID0 (C0MSL5EID0)	CAN0メッセージスロット5拡張ID1 (C0MSL5EID1)	13-60 13-61
H'0080 1154	CAN0メッセージスロット5拡張ID2 (C0MSL5EID2)	CAN0メッセージスロット5データ長レジスタ (C0MSL5DLC)	13-62 13-63
H'0080 1156	CAN0メッセージスロット5データ0 (C0MSL5DT0)	CAN0メッセージスロット5データ1 (C0MSL5DT1)	13-64 13-65
H'0080 1158	CAN0メッセージスロット5データ2 (C0MSL5DT2)	CAN0メッセージスロット5データ3 (C0MSL5DT3)	13-66 13-67
H'0080 115A	CAN0メッセージスロット5データ4 (C0MSL5DT4)	CAN0メッセージスロット5データ5 (C0MSL5DT5)	13-68 13-69
H'0080 115C	CAN0メッセージスロット5データ6 (C0MSL5DT6)	CAN0メッセージスロット5データ7 (C0MSL5DT7)	13-70 13-71
H'0080 115E	CAN0メッセージスロット5タイムスタンプ (C0MSL5TSP)		13-72
H'0080 1160	CAN0メッセージスロット6標準ID0 (C0MSL6SID0)	CAN0メッセージスロット6標準ID1 (C0MSL6SID1)	13-58 13-59
H'0080 1162	CAN0メッセージスロット6拡張ID0 (C0MSL6EID0)	CAN0メッセージスロット6拡張ID1 (C0MSL6EID1)	13-60 13-61
H'0080 1164	CAN0メッセージスロット6拡張ID2 (C0MSL6EID2)	CAN0メッセージスロット6データ長レジスタ (C0MSL6DLC)	13-62 13-63
H'0080 1166	CAN0メッセージスロット6データ0 (C0MSL6DT0)	CAN0メッセージスロット6データ1 (C0MSL6DT1)	13-64 13-65
H'0080 1168	CAN0メッセージスロット6データ2 (C0MSL6DT2)	CAN0メッセージスロット6データ3 (C0MSL6DT3)	13-66 13-67
H'0080 116A	CAN0メッセージスロット6データ4 (C0MSL6DT4)	CAN0メッセージスロット6データ5 (C0MSL6DT5)	13-68 13-69
H'0080 116C	CAN0メッセージスロット6データ6 (C0MSL6DT6)	CAN0メッセージスロット6データ7 (C0MSL6DT7)	13-70 13-71
H'0080 116E	CAN0メッセージスロット6タイムスタンプ (C0MSL6TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(4/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1170	CAN0メッセージスロット7標準ID0 (C0MSL7SID0)	CAN0メッセージスロット7標準ID1 (C0MSL7SID1)	13-58 13-59
H'0080 1172	CAN0メッセージスロット7拡張ID0 (C0MSL7EID0)	CAN0メッセージスロット7拡張ID1 (C0MSL7EID1)	13-60 13-61
H'0080 1174	CAN0メッセージスロット7拡張ID2 (C0MSL7EID2)	CAN0メッセージスロット7データ長レジスタ (C0MSL7DLC)	13-62 13-63
H'0080 1176	CAN0メッセージスロット7データ0 (C0MSL7DT0)	CAN0メッセージスロット7データ1 (C0MSL7DT1)	13-64 13-65
H'0080 1178	CAN0メッセージスロット7データ2 (C0MSL7DT2)	CAN0メッセージスロット7データ3 (C0MSL7DT3)	13-66 13-67
H'0080 117A	CAN0メッセージスロット7データ4 (C0MSL7DT4)	CAN0メッセージスロット7データ5 (C0MSL7DT5)	13-68 13-69
H'0080 117C	CAN0メッセージスロット7データ6 (C0MSL7DT6)	CAN0メッセージスロット7データ7 (C0MSL7DT7)	13-70 13-71
H'0080 117E	CAN0メッセージスロット7タイムスタンプ (C0MSL7TSP)		13-72
H'0080 1180	CAN0メッセージスロット8標準ID0 (C0MSL8SID0)	CAN0メッセージスロット8標準ID1 (C0MSL8SID1)	13-58 13-59
H'0080 1182	CAN0メッセージスロット8拡張ID0 (C0MSL8EID0)	CAN0メッセージスロット8拡張ID1 (C0MSL8EID1)	13-60 13-61
H'0080 1184	CAN0メッセージスロット8拡張ID2 (C0MSL8EID2)	CAN0メッセージスロット8データ長レジスタ (C0MSL8DLC)	13-62 13-63
H'0080 1186	CAN0メッセージスロット8データ0 (C0MSL8DT0)	CAN0メッセージスロット8データ1 (C0MSL8DT1)	13-64 13-65
H'0080 1188	CAN0メッセージスロット8データ2 (C0MSL8DT2)	CAN0メッセージスロット8データ3 (C0MSL8DT3)	13-66 13-67
H'0080 118A	CAN0メッセージスロット8データ4 (C0MSL8DT4)	CAN0メッセージスロット8データ5 (C0MSL8DT5)	13-68 13-69
H'0080 118C	CAN0メッセージスロット8データ6 (C0MSL8DT6)	CAN0メッセージスロット8データ7 (C0MSL8DT7)	13-70 13-71
H'0080 118E	CAN0メッセージスロット8タイムスタンプ (C0MSL8TSP)		13-72
H'0080 1190	CAN0メッセージスロット9標準ID0 (C0MSL9SID0)	CAN0メッセージスロット9標準ID1 (C0MSL9SID1)	13-58 13-59
H'0080 1192	CAN0メッセージスロット9拡張ID0 (C0MSL9EID0)	CAN0メッセージスロット9拡張ID1 (C0MSL9EID1)	13-60 13-61
H'0080 1194	CAN0メッセージスロット9拡張ID2 (C0MSL9EID2)	CAN0メッセージスロット9データ長レジスタ (C0MSL9DLC)	13-62 13-63
H'0080 1196	CAN0メッセージスロット9データ0 (C0MSL9DT0)	CAN0メッセージスロット9データ1 (C0MSL9DT1)	13-64 13-65
H'0080 1198	CAN0メッセージスロット9データ2 (C0MSL9DT2)	CAN0メッセージスロット9データ3 (C0MSL9DT3)	13-66 13-67
H'0080 119A	CAN0メッセージスロット9データ4 (C0MSL9DT4)	CAN0メッセージスロット9データ5 (C0MSL9DT5)	13-68 13-69
H'0080 119C	CAN0メッセージスロット9データ6 (C0MSL9DT6)	CAN0メッセージスロット9データ7 (C0MSL9DT7)	13-70 13-71
H'0080 119E	CAN0メッセージスロット9タイムスタンプ (C0MSL9TSP)		13-72
H'0080 11A0	CAN0メッセージスロット10標準ID0 (C0MSL10SID0)	CAN0メッセージスロット10標準ID1 (C0MSL10SID1)	13-58 13-59
H'0080 11A2	CAN0メッセージスロット10拡張ID0 (C0MSL10EID0)	CAN0メッセージスロット10拡張ID1 (C0MSL10EID1)	13-60 13-61
H'0080 11A4	CAN0メッセージスロット10拡張ID2 (C0MSL10EID2)	CAN0メッセージスロット10データ長レジスタ (C0MSL10DLC)	13-62 13-63
H'0080 11A6	CAN0メッセージスロット10データ0 (C0MSL10DT0)	CAN0メッセージスロット10データ1 (C0MSL10DT1)	13-64 13-65
H'0080 11A8	CAN0メッセージスロット10データ2 (C0MSL10DT2)	CAN0メッセージスロット10データ3 (C0MSL10DT3)	13-66 13-67
H'0080 11AA	CAN0メッセージスロット10データ4 (C0MSL10DT4)	CAN0メッセージスロット10データ5 (C0MSL10DT5)	13-68 13-69
H'0080 11AC	CAN0メッセージスロット10データ6 (C0MSL10DT6)	CAN0メッセージスロット10データ7 (C0MSL10DT7)	13-70 13-71
H'0080 11AE	CAN0メッセージスロット10タイムスタンプ (C0MSL10TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(5/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 11B0	CAN0メッセージスロット11標準ID0 (C0MSL11SID0)	CAN0メッセージスロット11標準ID1 (C0MSL11SID1)	13-58 13-59
H'0080 11B2	CAN0メッセージスロット11拡張ID0 (C0MSL11EID0)	CAN0メッセージスロット11拡張ID1 (C0MSL11EID1)	13-60 13-61
H'0080 11B4	CAN0メッセージスロット11拡張ID2 (C0MSL11EID2)	CAN0メッセージスロット11データ長レジスタ (C0MSL11DLC)	13-62 13-63
H'0080 11B6	CAN0メッセージスロット11データ0 (C0MSL11DT0)	CAN0メッセージスロット11データ1 (C0MSL11DT1)	13-64 13-65
H'0080 11B8	CAN0メッセージスロット11データ2 (C0MSL11DT2)	CAN0メッセージスロット11データ3 (C0MSL11DT3)	13-66 13-67
H'0080 11BA	CAN0メッセージスロット11データ4 (C0MSL11DT4)	CAN0メッセージスロット11データ5 (C0MSL11DT5)	13-68 13-69
H'0080 11BC	CAN0メッセージスロット11データ6 (C0MSL11DT6)	CAN0メッセージスロット11データ7 (C0MSL11DT7)	13-70 13-71
H'0080 11BE	CAN0メッセージスロット11タイムスタンプ (C0MSL11TSP)		13-72
H'0080 11C0	CAN0メッセージスロット12標準ID0 (C0MSL12SID0)	CAN0メッセージスロット12標準ID1 (C0MSL12SID1)	13-58 13-59
H'0080 11C2	CAN0メッセージスロット12拡張ID0 (C0MSL12EID0)	CAN0メッセージスロット12拡張ID1 (C0MSL12EID1)	13-60 13-61
H'0080 11C4	CAN0メッセージスロット12拡張ID2 (C0MSL12EID2)	CAN0メッセージスロット12データ長レジスタ (C0MSL12DLC)	13-62 13-63
H'0080 11C6	CAN0メッセージスロット12データ0 (C0MSL12DT0)	CAN0メッセージスロット12データ1 (C0MSL12DT1)	13-64 13-65
H'0080 11C8	CAN0メッセージスロット12データ2 (C0MSL12DT2)	CAN0メッセージスロット12データ3 (C0MSL12DT3)	13-66 13-67
H'0080 11CA	CAN0メッセージスロット12データ4 (C0MSL12DT4)	CAN0メッセージスロット12データ5 (C0MSL12DT5)	13-68 13-69
H'0080 11CC	CAN0メッセージスロット12データ6 (C0MSL12DT6)	CAN0メッセージスロット12データ7 (C0MSL12DT7)	13-70 13-71
H'0080 11CE	CAN0メッセージスロット12タイムスタンプ (C0MSL12TSP)		13-72
H'0080 11D0	CAN0メッセージスロット13標準ID0 (C0MSL13SID0)	CAN0メッセージスロット13標準ID1 (C0MSL13SID1)	13-58 13-59
H'0080 11D2	CAN0メッセージスロット13拡張ID0 (C0MSL13EID0)	CAN0メッセージスロット13拡張ID1 (C0MSL13EID1)	13-60 13-61
H'0080 11D4	CAN0メッセージスロット13拡張ID2 (C0MSL13EID2)	CAN0メッセージスロット13データ長レジスタ (C0MSL13DLC)	13-62 13-63
H'0080 11D6	CAN0メッセージスロット13データ0 (C0MSL13DT0)	CAN0メッセージスロット13データ1 (C0MSL13DT1)	13-64 13-65
H'0080 11D8	CAN0メッセージスロット13データ2 (C0MSL13DT2)	CAN0メッセージスロット13データ3 (C0MSL13DT3)	13-66 13-67
H'0080 11DA	CAN0メッセージスロット13データ4 (C0MSL13DT4)	CAN0メッセージスロット13データ5 (C0MSL13DT5)	13-68 13-69
H'0080 11DC	CAN0メッセージスロット13データ6 (C0MSL13DT6)	CAN0メッセージスロット13データ7 (C0MSL13DT7)	13-70 13-71
H'0080 11DE	CAN0メッセージスロット13タイムスタンプ (C0MSL13TSP)		13-72
H'0080 11E0	CAN0メッセージスロット14標準ID0 (C0MSL14SID0)	CAN0メッセージスロット14標準ID1 (C0MSL14SID1)	13-58 13-59
H'0080 11E2	CAN0メッセージスロット14拡張ID0 (C0MSL14EID0)	CAN0メッセージスロット14拡張ID1 (C0MSL14EID1)	13-60 13-61
H'0080 11E4	CAN0メッセージスロット14拡張ID2 (C0MSL14EID2)	CAN0メッセージスロット14データ長レジスタ (C0MSL14DLC)	13-62 13-63
H'0080 11E6	CAN0メッセージスロット14データ0 (C0MSL14DT0)	CAN0メッセージスロット14データ1 (C0MSL14DT1)	13-64 13-65
H'0080 11E8	CAN0メッセージスロット14データ2 (C0MSL14DT2)	CAN0メッセージスロット14データ3 (C0MSL14DT3)	13-66 13-67
H'0080 11EA	CAN0メッセージスロット14データ4 (C0MSL14DT4)	CAN0メッセージスロット14データ5 (C0MSL14DT5)	13-68 13-69
H'0080 11EC	CAN0メッセージスロット14データ6 (C0MSL14DT6)	CAN0メッセージスロット14データ7 (C0MSL14DT7)	13-70 13-71
H'0080 11EE	CAN0メッセージスロット14タイムスタンプ (C0MSL14TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(6/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 11F0	CAN0メッセージスロット15標準ID0 (C0MSL15SID0)	CAN0メッセージスロット15標準ID1 (C0MSL15SID1)	13-58 13-59
H'0080 11F2	CAN0メッセージスロット15拡張ID0 (C0MSL15EID0)	CAN0メッセージスロット15拡張ID1 (C0MSL15EID1)	13-60 13-61
H'0080 11F4	CAN0メッセージスロット15拡張ID2 (C0MSL15EID2)	CAN0メッセージスロット15データ長レジスタ (C0MSL15DLC)	13-62 13-63
H'0080 11F6	CAN0メッセージスロット15データ0 (C0MSL15DT0)	CAN0メッセージスロット15データ1 (C0MSL15DT1)	13-64 13-65
H'0080 11F8	CAN0メッセージスロット15データ2 (C0MSL15DT2)	CAN0メッセージスロット15データ3 (C0MSL15DT3)	13-66 13-67
H'0080 11FA	CAN0メッセージスロット15データ4 (C0MSL15DT4)	CAN0メッセージスロット15データ5 (C0MSL15DT5)	13-68 13-69
H'0080 11FC	CAN0メッセージスロット15データ6 (C0MSL15DT6)	CAN0メッセージスロット15データ7 (C0MSL15DT7)	13-70 13-71
H'0080 11FE	CAN0メッセージスロット15タイムスタンプ (C0MSL15TSP)		13-72
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 1400	CAN1コントロールレジスタ (CAN1CNT)		13-15
H'0080 1402	CAN1ステータスレジスタ (CAN1STAT)		13-18
H'0080 1404	CAN1拡張IDレジスタ (CAN1EXTID)		13-21
H'0080 1406	CAN1コンフィグレーションレジスタ (CAN1CONF)		13-22
H'0080 1408	CAN1タイムスタンプカウントレジスタ (CAN1TSTMP)		13-24
H'0080 140A	CAN1受信エラーカウントレジスタ (CAN1REC)	CAN1送信エラーカウントレジスタ (CAN1TEC)	13-25
H'0080 140C	CAN1スロット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN1SLIST)		13-29
H'0080 140E	(使用禁止領域)		
H'0080 1410	CAN1スロット割り込み要求マスクレジスタ (CAN1SLIMK)		13-30
H'0080 1412	(使用禁止領域)		
H'0080 1414	CAN1エラー割り込み要求ステータスレジスタ (CAN1ERIST)	CAN1エラー割り込み要求マスクレジスタ (CAN1ERIMK)	13-31 13-32
H'0080 1416	CAN1ボーレートプリスケーラ (CAN1BRP)	CAN1エラー要因レジスタ (CAN1EF)	13-26 13-45
H'0080 1418	CAN1モードレジスタ (CAN1MOD)	CAN1DMA転送要求選択レジスタ (CAN1DMARQ)	13-47 13-48
∿	(使用禁止領域)		
H'0080 1428	CAN1グローバルマスクレジスタ標準ID0 (C1GMSKS0)	CAN1グローバルマスクレジスタ標準ID1 (C1GMSKS1)	13-49
H'0080 142A	CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID0 (C1GMSKE0)	CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID1 (C1GMSKE1)	13-50
H'0080 142C	CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID2 (C1GMSKE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 142E	(使用禁止領域)		
H'0080 1430	CAN1ローカルマスクレジスタA標準ID0 (C1LMSKAS0)	CAN1ローカルマスクレジスタA標準ID1 (C1LMSKAS1)	13-49
H'0080 1432	CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID0 (C1LMSKAE0)	CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID1 (C1LMSKAE1)	13-50
H'0080 1434	CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID2 (C1LMSKAE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 1436	(使用禁止領域)		
H'0080 1438	CAN1ローカルマスクレジスタB標準ID0 (C1LMSKBS0)	CAN1ローカルマスクレジスタB標準ID1 (C1LMSKBS1)	13-49
H'0080 143A	CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID0 (C1LMSKBE0)	CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID1 (C1LMSKBE1)	13-50
H'0080 143C	CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID2 (C1LMSKBE2)	(使用禁止領域)	13-51
H'0080 143E	(使用禁止領域)		

CANモジュール関連レジスタマップ(7/11)

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 1440	CAN1シングルショットモード制御レジスタ (CAN1SSMODE)		13-53
H'0080 1442	(使用禁止領域)		
H'0080 1444	CAN1シングルショット割り込み要求ステータスレジスタ (CAN1SSIST)		13-33
H'0080 1446	(使用禁止領域)		
H'0080 1448	CAN1シングルショット割り込み要求マスクレジスタ (CAN1SSIMK)		13-34
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1450	CAN1メッセージスロット0コントロールレジスタ (C1MSL0CNT)	CAN1メッセージスロット1コントロールレジスタ (C1MSL1CNT)	13-54
H'0080 1452	CAN1メッセージスロット2コントロールレジスタ (C1MSL2CNT)	CAN1メッセージスロット3コントロールレジスタ (C1MSL3CNT)	13-54
H'0080 1454	CAN1メッセージスロット4コントロールレジスタ (C1MSL4CNT)	CAN1メッセージスロット5コントロールレジスタ (C1MSL5CNT)	13-54
H'0080 1456	CAN1メッセージスロット6コントロールレジスタ (C1MSL6CNT)	CAN1メッセージスロット7コントロールレジスタ (C1MSL7CNT)	13-54
H'0080 1458	CAN1メッセージスロット8コントロールレジスタ (C1MSL8CNT)	CAN1メッセージスロット9コントロールレジスタ (C1MSL9CNT)	13-54
H'0080 145A	CAN1メッセージスロット10コントロールレジスタ (C1MSL10CNT)	CAN1メッセージスロット11コントロールレジスタ (C1MSL11CNT)	13-54
H'0080 145C	CAN1メッセージスロット12コントロールレジスタ (C1MSL12CNT)	CAN1メッセージスロット13コントロールレジスタ (C1MSL13CNT)	13-54
H'0080 145E	CAN1メッセージスロット14コントロールレジスタ (C1MSL14CNT)	CAN1メッセージスロット15コントロールレジスタ (C1MSL15CNT)	13-54
～	(使用禁止領域)		
H'0080 1500	CAN1メッセージスロット0標準ID0 (C1MSL0SID0)	CAN1メッセージスロット0標準ID1 (C1MSL0SID1)	13-58 13-59
H'0080 1502	CAN1メッセージスロット0拡張ID0 (C1MSL0EID0)	CAN1メッセージスロット0拡張ID1 (C1MSL0EID1)	13-60 13-61
H'0080 1504	CAN1メッセージスロット0拡張ID2 (C1MSL0EID2)	CAN1メッセージスロット0データ長レジスタ (C1MSL0DLC)	13-62 13-63
H'0080 1506	CAN1メッセージスロット0データ0 (C1MSL0DT0)	CAN1メッセージスロット0データ1 (C1MSL0DT1)	13-64 13-65
H'0080 1508	CAN1メッセージスロット0データ2 (C1MSL0DT2)	CAN1メッセージスロット0データ3 (C1MSL0DT3)	13-66 13-67
H'0080 150A	CAN1メッセージスロット0データ4 (C1MSL0DT4)	CAN1メッセージスロット0データ5 (C1MSL0DT5)	13-68 13-69
H'0080 150C	CAN1メッセージスロット0データ6 (C1MSL0DT6)	CAN1メッセージスロット0データ7 (C1MSL0DT7)	13-70 13-71
H'0080 150E	CAN1メッセージスロット0タイムスタンプ (C1MSL0TSP)		13-72
H'0080 1510	CAN1メッセージスロット1標準ID0 (C1MSL1SID0)	CAN1メッセージスロット1標準ID1 (C1MSL1SID1)	13-58 13-59
H'0080 1512	CAN1メッセージスロット1拡張ID0 (C1MSL1EID0)	CAN1メッセージスロット1拡張ID1 (C1MSL1EID1)	13-60 13-61
H'0080 1514	CAN1メッセージスロット1拡張ID2 (C1MSL1EID2)	CAN1メッセージスロット1データ長レジスタ (C1MSL1DLC)	13-62 13-63
H'0080 1516	CAN1メッセージスロット1データ0 (C1MSL1DT0)	CAN1メッセージスロット1データ1 (C1MSL1DT1)	13-64 13-65
H'0080 1518	CAN1メッセージスロット1データ2 (C1MSL1DT2)	CAN1メッセージスロット1データ3 (C1MSL1DT3)	13-66 13-67
H'0080 151A	CAN1メッセージスロット1データ4 (C1MSL1DT4)	CAN1メッセージスロット1データ5 (C1MSL1DT5)	13-68 13-69
H'0080 151C	CAN1メッセージスロット1データ6 (C1MSL1DT6)	CAN1メッセージスロット1データ7 (C1MSL1DT7)	13-70 13-71
H'0080 151E	CAN1メッセージスロット1タイムスタンプ (C1MSL1TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(8/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1520	CAN1メッセージスロット2標準ID0 (C1MSL2SID0)	CAN1メッセージスロット2標準ID1 (C1MSL2SID1)	13-58 13-59
H'0080 1522	CAN1メッセージスロット2拡張ID0 (C1MSL2EID0)	CAN1メッセージスロット2拡張ID1 (C1MSL2EID1)	13-60 13-61
H'0080 1524	CAN1メッセージスロット2拡張ID2 (C1MSL2EID2)	CAN1メッセージスロット2データ長レジスタ (C1MSL2DLC)	13-62 13-63
H'0080 1526	CAN1メッセージスロット2データ0 (C1MSL2DT0)	CAN1メッセージスロット2データ1 (C1MSL2DT1)	13-64 13-65
H'0080 1528	CAN1メッセージスロット2データ2 (C1MSL2DT2)	CAN1メッセージスロット2データ3 (C1MSL2DT3)	13-66 13-67
H'0080 152A	CAN1メッセージスロット2データ4 (C1MSL2DT4)	CAN1メッセージスロット2データ5 (C1MSL2DT5)	13-68 13-69
H'0080 152C	CAN1メッセージスロット2データ6 (C1MSL2DT6)	CAN1メッセージスロット2データ7 (C1MSL2DT7)	13-70 13-71
H'0080 152E	CAN1メッセージスロット2タイムスタンプ (C1MSL2TSP)		13-72
H'0080 1530	CAN1メッセージスロット3標準ID0 (C1MSL3SID0)	CAN1メッセージスロット3標準ID1 (C1MSL3SID1)	13-58 13-59
H'0080 1532	CAN1メッセージスロット3拡張ID0 (C1MSL3EID0)	CAN1メッセージスロット3拡張ID1 (C1MSL3EID1)	13-60 13-61
H'0080 1534	CAN1メッセージスロット3拡張ID2 (C1MSL3EID2)	CAN1メッセージスロット3データ長レジスタ (C1MSL3DLC)	13-62 13-63
H'0080 1536	CAN1メッセージスロット3データ0 (C1MSL3DT0)	CAN1メッセージスロット3データ1 (C1MSL3DT1)	13-64 13-65
H'0080 1538	CAN1メッセージスロット3データ2 (C1MSL3DT2)	CAN1メッセージスロット3データ3 (C1MSL3DT3)	13-66 13-67
H'0080 153A	CAN1メッセージスロット3データ4 (C1MSL3DT4)	CAN1メッセージスロット3データ5 (C1MSL3DT5)	13-68 13-69
H'0080 153C	CAN1メッセージスロット3データ6 (C1MSL3DT6)	CAN1メッセージスロット3データ7 (C1MSL3DT7)	13-70 13-71
H'0080 153E	CAN1メッセージスロット3タイムスタンプ (C1MSL3TSP)		13-72
H'0080 1540	CAN1メッセージスロット4標準ID0 (C1MSL4SID0)	CAN1メッセージスロット4標準ID1 (C1MSL4SID1)	13-58 13-59
H'0080 1542	CAN1メッセージスロット4拡張ID0 (C1MSL4EID0)	CAN1メッセージスロット4拡張ID1 (C1MSL4EID1)	13-60 13-61
H'0080 1544	CAN1メッセージスロット4拡張ID2 (C1MSL4EID2)	CAN1メッセージスロット4データ長レジスタ (C1MSL4DLC)	13-62 13-63
H'0080 1546	CAN1メッセージスロット4データ0 (C1MSL4DT0)	CAN1メッセージスロット4データ1 (C1MSL4DT1)	13-64 13-65
H'0080 1548	CAN1メッセージスロット4データ2 (C1MSL4DT2)	CAN1メッセージスロット4データ3 (C1MSL4DT3)	13-66 13-67
H'0080 154A	CAN1メッセージスロット4データ4 (C1MSL4DT4)	CAN1メッセージスロット4データ5 (C1MSL4DT5)	13-68 13-69
H'0080 154C	CAN1メッセージスロット4データ6 (C1MSL4DT6)	CAN1メッセージスロット4データ7 (C1MSL4DT7)	13-70 13-71
H'0080 154E	CAN1メッセージスロット4タイムスタンプ (C1MSL4TSP)		13-72
H'0080 1550	CAN1メッセージスロット5標準ID0 (C1MSL5SID0)	CAN1メッセージスロット5標準ID1 (C1MSL5SID1)	13-58 13-59
H'0080 1552	CAN1メッセージスロット5拡張ID0 (C1MSL5EID0)	CAN1メッセージスロット5拡張ID1 (C1MSL5EID1)	13-60 13-61
H'0080 1554	CAN1メッセージスロット5拡張ID2 (C1MSL5EID2)	CAN1メッセージスロット5データ長レジスタ (C1MSL5DLC)	13-62 13-63
H'0080 1556	CAN1メッセージスロット5データ0 (C1MSL5DT0)	CAN1メッセージスロット5データ1 (C1MSL5DT1)	13-64 13-65
H'0080 1558	CAN1メッセージスロット5データ2 (C1MSL5DT2)	CAN1メッセージスロット5データ3 (C1MSL5DT3)	13-66 13-67
H'0080 155A	CAN1メッセージスロット5データ4 (C1MSL5DT4)	CAN1メッセージスロット5データ5 (C1MSL5DT5)	13-68 13-69
H'0080 155C	CAN1メッセージスロット5データ6 (C1MSL5DT6)	CAN1メッセージスロット5データ7 (C1MSL5DT7)	13-70 13-71
H'0080 155E	CAN1メッセージスロット5タイムスタンプ (C1MSL5TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(9/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 1560	CAN1メッセージスロット6標準ID0 (C1MSL6SID0)	CAN1メッセージスロット6標準ID1 (C1MSL6SID1)	13-58 13-59
H'0080 1562	CAN1メッセージスロット6拡張ID0 (C1MSL6EID0)	CAN1メッセージスロット6拡張ID1 (C1MSL6EID1)	13-60 13-61
H'0080 1564	CAN1メッセージスロット6拡張ID2 (C1MSL6EID2)	CAN1メッセージスロット6データ長レジスタ (C1MSL6DLC)	13-62 13-63
H'0080 1566	CAN1メッセージスロット6データ0 (C1MSL6DT0)	CAN1メッセージスロット6データ1 (C1MSL6DT1)	13-64 13-65
H'0080 1568	CAN1メッセージスロット6データ2 (C1MSL6DT2)	CAN1メッセージスロット6データ3 (C1MSL6DT3)	13-66 13-67
H'0080 156A	CAN1メッセージスロット6データ4 (C1MSL6DT4)	CAN1メッセージスロット6データ5 (C1MSL6DT5)	13-68 13-69
H'0080 156C	CAN1メッセージスロット6データ6 (C1MSL6DT6)	CAN1メッセージスロット6データ7 (C1MSL6DT7)	13-70 13-71
H'0080 156E	CAN1メッセージスロット6タイムスタンプ (C1MSL6TSP)		13-72
H'0080 1570	CAN1メッセージスロット7標準ID0 (C1MSL7SID0)	CAN1メッセージスロット7標準ID1 (C1MSL7SID1)	13-58 13-59
H'0080 1572	CAN1メッセージスロット7拡張ID0 (C1MSL7EID0)	CAN1メッセージスロット7拡張ID1 (C1MSL7EID1)	13-60 13-61
H'0080 1574	CAN1メッセージスロット7拡張ID2 (C1MSL7EID2)	CAN1メッセージスロット7データ長レジスタ (C1MSL7DLC)	13-62 13-63
H'0080 1576	CAN1メッセージスロット7データ0 (C1MSL7DT0)	CAN1メッセージスロット7データ1 (C1MSL7DT1)	13-64 13-65
H'0080 1578	CAN1メッセージスロット7データ2 (C1MSL7DT2)	CAN1メッセージスロット7データ3 (C1MSL7DT3)	13-66 13-67
H'0080 157A	CAN1メッセージスロット7データ4 (C1MSL7DT4)	CAN1メッセージスロット7データ5 (C1MSL7DT5)	13-68 13-69
H'0080 157C	CAN1メッセージスロット7データ6 (C1MSL7DT6)	CAN1メッセージスロット7データ7 (C1MSL7DT7)	13-70 13-71
H'0080 157E	CAN1メッセージスロット7タイムスタンプ (C1MSL7TSP)		13-72
H'0080 1580	CAN1メッセージスロット8標準ID0 (C1MSL8SID0)	CAN1メッセージスロット8標準ID1 (C1MSL8SID1)	13-58 13-59
H'0080 1582	CAN1メッセージスロット8拡張ID0 (C1MSL8EID0)	CAN1メッセージスロット8拡張ID1 (C1MSL8EID1)	13-60 13-61
H'0080 1584	CAN1メッセージスロット8拡張ID2 (C1MSL8EID2)	CAN1メッセージスロット8データ長レジスタ (C1MSL8DLC)	13-62 13-63
H'0080 1586	CAN1メッセージスロット8データ0 (C1MSL8DT0)	CAN1メッセージスロット8データ1 (C1MSL8DT1)	13-64 13-65
H'0080 1588	CAN1メッセージスロット8データ2 (C1MSL8DT2)	CAN1メッセージスロット8データ3 (C1MSL8DT3)	13-66 13-67
H'0080 158A	CAN1メッセージスロット8データ4 (C1MSL8DT4)	CAN1メッセージスロット8データ5 (C1MSL8DT5)	13-68 13-69
H'0080 158C	CAN1メッセージスロット8データ6 (C1MSL8DT6)	CAN1メッセージスロット8データ7 (C1MSL8DT7)	13-70 13-71
H'0080 158E	CAN1メッセージスロット8タイムスタンプ (C1MSL8TSP)		13-72
H'0080 1590	CAN1メッセージスロット9標準ID0 (C1MSL9SID0)	CAN1メッセージスロット9標準ID1 (C1MSL9SID1)	13-58 13-59
H'0080 1592	CAN1メッセージスロット9拡張ID0 (C1MSL9EID0)	CAN1メッセージスロット9拡張ID1 (C1MSL9EID1)	13-60 13-61
H'0080 1594	CAN1メッセージスロット9拡張ID2 (C1MSL9EID2)	CAN1メッセージスロット9データ長レジスタ (C1MSL9DLC)	13-62 13-63
H'0080 1596	CAN1メッセージスロット9データ0 (C1MSL9DT0)	CAN1メッセージスロット9データ1 (C1MSL9DT1)	13-64 13-65
H'0080 1598	CAN1メッセージスロット9データ2 (C1MSL9DT2)	CAN1メッセージスロット9データ3 (C1MSL9DT3)	13-66 13-67
H'0080 159A	CAN1メッセージスロット9データ4 (C1MSL9DT4)	CAN1メッセージスロット9データ5 (C1MSL9DT5)	13-68 13-69
H'0080 159C	CAN1メッセージスロット9データ6 (C1MSL9DT6)	CAN1メッセージスロット9データ7 (C1MSL9DT7)	13-70 13-71
H'0080 159E	CAN1メッセージスロット9タイムスタンプ (C1MSL9TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ(10/11)

番地	＋0番地 b0 b7	＋1番地 b8 b15	掲載ページ
H'0080 15A0	CAN1メッセージスロット10標準ID0 (C1MSL10SID0)	CAN1メッセージスロット10標準ID1 (C1MSL10SID1)	13-58 13-59
H'0080 15A2	CAN1メッセージスロット10拡張ID0 (C1MSL10EID0)	CAN1メッセージスロット10拡張ID1 (C1MSL10EID1)	13-60 13-61
H'0080 15A4	CAN1メッセージスロット10拡張ID2 (C1MSL10EID2)	CAN1メッセージスロット10データ長レジスタ (C1MSL10DLC)	13-62 13-63
H'0080 15A6	CAN1メッセージスロット10データ0 (C1MSL10DT0)	CAN1メッセージスロット10データ1 (C1MSL10DT1)	13-64 13-65
H'0080 15A8	CAN1メッセージスロット10データ2 (C1MSL10DT2)	CAN1メッセージスロット10データ3 (C1MSL10DT3)	13-66 13-67
H'0080 15AA	CAN1メッセージスロット10データ4 (C1MSL10DT4)	CAN1メッセージスロット10データ5 (C1MSL10DT5)	13-68 13-69
H'0080 15AC	CAN1メッセージスロット10データ6 (C1MSL10DT6)	CAN1メッセージスロット10データ7 (C1MSL10DT7)	13-70 13-71
H'0080 15AE	CAN1メッセージスロット10タイムスタンプ (C1MSL10TSP)		13-72
H'0080 15B0	CAN1メッセージスロット11標準ID0 (C1MSL11SID0)	CAN1メッセージスロット11標準ID1 (C1MSL11SID1)	13-58 13-59
H'0080 15B2	CAN1メッセージスロット11拡張ID0 (C1MSL11EID0)	CAN1メッセージスロット11拡張ID1 (C1MSL11EID1)	13-60 13-61
H'0080 15B4	CAN1メッセージスロット11拡張ID2 (C1MSL11EID2)	CAN1メッセージスロット11データ長レジスタ (C1MSL11DLC)	13-62 13-63
H'0080 15B6	CAN1メッセージスロット11データ0 (C1MSL11DT0)	CAN1メッセージスロット11データ1 (C1MSL11DT1)	13-64 13-65
H'0080 15B8	CAN1メッセージスロット11データ2 (C1MSL11DT2)	CAN1メッセージスロット11データ3 (C1MSL11DT3)	13-66 13-67
H'0080 15BA	CAN1メッセージスロット11データ4 (C1MSL11DT4)	CAN1メッセージスロット11データ5 (C1MSL11DT5)	13-68 13-69
H'0080 15BC	CAN1メッセージスロット11データ6 (C1MSL11DT6)	CAN1メッセージスロット11データ7 (C1MSL11DT7)	13-70 13-71
H'0080 15BE	CAN1メッセージスロット11タイムスタンプ (C1MSL11TSP)		13-72
H'0080 15C0	CAN1メッセージスロット12標準ID0 (C1MSL12SID0)	CAN1メッセージスロット12標準ID1 (C1MSL12SID1)	13-58 13-59
H'0080 15C2	CAN1メッセージスロット12拡張ID0 (C1MSL12EID0)	CAN1メッセージスロット12拡張ID1 (C1MSL12EID1)	13-60 13-61
H'0080 15C4	CAN1メッセージスロット12拡張ID2 (C1MSL12EID2)	CAN1メッセージスロット12データ長レジスタ (C1MSL12DLC)	13-62 13-63
H'0080 15C6	CAN1メッセージスロット12データ0 (C1MSL12DT0)	CAN1メッセージスロット12データ1 (C1MSL12DT1)	13-64 13-65
H'0080 15C8	CAN1メッセージスロット12データ2 (C1MSL12DT2)	CAN1メッセージスロット12データ3 (C1MSL12DT3)	13-66 13-67
H'0080 15CA	CAN1メッセージスロット12データ4 (C1MSL12DT4)	CAN1メッセージスロット12データ5 (C1MSL12DT5)	13-68 13-69
H'0080 15CC	CAN1メッセージスロット12データ6 (C1MSL12DT6)	CAN1メッセージスロット12データ7 (C1MSL12DT7)	13-70 13-71
H'0080 15CE	CAN1メッセージスロット12タイムスタンプ (C1MSL12TSP)		13-72
H'0080 15D0	CAN1メッセージスロット13標準ID0 (C1MSL13SID0)	CAN1メッセージスロット13標準ID1 (C1MSL13SID1)	13-58 13-59
H'0080 15D2	CAN1メッセージスロット13拡張ID0 (C1MSL13EID0)	CAN1メッセージスロット13拡張ID1 (C1MSL13EID1)	13-60 13-61
H'0080 15D4	CAN1メッセージスロット13拡張ID2 (C1MSL13EID2)	CAN1メッセージスロット13データ長レジスタ (C1MSL13DLC)	13-62 13-63
H'0080 15D6	CAN1メッセージスロット13データ0 (C1MSL13DT0)	CAN1メッセージスロット13データ1 (C1MSL13DT1)	13-64 13-65
H'0080 15D8	CAN1メッセージスロット13データ2 (C1MSL13DT2)	CAN1メッセージスロット13データ3 (C1MSL13DT3)	13-66 13-67
H'0080 15DA	CAN1メッセージスロット13データ4 (C1MSL13DT4)	CAN1メッセージスロット13データ5 (C1MSL13DT5)	13-68 13-69
H'0080 15DC	CAN1メッセージスロット13データ6 (C1MSL13DT6)	CAN1メッセージスロット13データ7 (C1MSL13DT7)	13-70 13-71
H'0080 15DE	CAN1メッセージスロット13タイムスタンプ (C1MSL13TSP)		13-72

CANモジュール関連レジスタマップ（11/11）

番地	＋0番地 b0　　b7	＋1番地 b8　　b15	掲載ページ
H'0080 15E0	CAN1メッセージスロット14標準ID0 （C1MSL14SID0）	CAN1メッセージスロット14標準ID1 （C1MSL14SID1）	13-58 13-59
H'0080 15E2	CAN1メッセージスロット14拡張ID0 （C1MSL14EID0）	CAN1メッセージスロット14拡張ID1 （C1MSL14EID1）	13-60 13-61
H'0080 15E4	CAN1メッセージスロット14拡張ID2 （C1MSL14EID2）	CAN1メッセージスロット14データ長レジスタ （C1MSL14DLC）	13-62 13-63
H'0080 15E6	CAN1メッセージスロット14データ0 （C1MSL14DT0）	CAN1メッセージスロット14データ1 （C1MSL14DT1）	13-64 13-65
H'0080 15E8	CAN1メッセージスロット14データ2 （C1MSL14DT2）	CAN1メッセージスロット14データ3 （C1MSL14DT3）	13-66 13-67
H'0080 15EA	CAN1メッセージスロット14データ4 （C1MSL14DT4）	CAN1メッセージスロット14データ5 （C1MSL14DT5）	13-68 13-69
H'0080 15EC	CAN1メッセージスロット14データ6 （C1MSL14DT6）	CAN1メッセージスロット14データ7 （C1MSL14DT7）	13-70 13-71
H'0080 15EE	CAN1メッセージスロット14タイムスタンプ （C1MSL14TSP）		13-72
H'0080 15F0	CAN1メッセージスロット15標準ID0 （C1MSL15SID0）	CAN1メッセージスロット15標準ID1 （C1MSL15SID1）	13-58 13-59
H'0080 15F2	CAN1メッセージスロット15拡張ID0 （C1MSL15EID0）	CAN1メッセージスロット15拡張ID1 （C1MSL15EID1）	13-60 13-61
H'0080 15F4	CAN1メッセージスロット15拡張ID2 （C1MSL15EID2）	CAN1メッセージスロット15データ長レジスタ （C1MSL15DLC）	13-62 13-63
H'0080 15F6	CAN1メッセージスロット15データ0 （C1MSL15DT0）	CAN1メッセージスロット15データ1 （C1MSL15DT1）	13-64 13-65
H'0080 15F8	CAN1メッセージスロット15データ2 （C1MSL15DT2）	CAN1メッセージスロット15データ3 （C1MSL15DT3）	13-66 13-67
H'0080 15FA	CAN1メッセージスロット15データ4 （C1MSL15DT4）	CAN1メッセージスロット15データ5 （C1MSL15DT5）	13-68 13-69
H'0080 15FC	CAN1メッセージスロット15データ6 （C1MSL15DT6）	CAN1メッセージスロット15データ7 （C1MSL15DT7）	13-70 13-71
H'0080 15FE	CAN1メッセージスロット15タイムスタンプ （C1MSL15TSP）		13-72
∿	（使用禁止領域）		
H'0080 3FFE	（使用禁止領域）		

13.2.1　CANコントロールレジスタ

CAN0コントロールレジスタ（CAN0CNT）　＜アドレス：H'0080 1000＞
CAN1コントロールレジスタ（CAN1CNT）　＜アドレス：H'0080 1400＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
				RBO	TSR	TSP					FRST	BCM		LBM	RST
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

＜リセット解除時：H'0011＞

b	ビット名	機能	R	W
0～3	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
4	RBO リターンバスオフビット	0 ：通常動作許可 1 ：エラーカウンタのクリアを要求	R（注1）	
5	TSR タイムスタンプカウンタリセットビット	0 ：カウント動作許可 1 ：カウントの初期化（H'0000のセット）	R（注1）	
6～7	TSP タイムスタンププリスケーラビット	00 ：CANバスビットクロックを選択 01 ：CANバスビットクロックの2分周を選択 10 ：CANバスビットクロックの3分周を選択 11 ：CANバスビットクロックの4分周を選択	R	W
8～10	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
11	FRST 強制リセットビット	0 ：リセット解除 1 ：強制リセット	R	W
12	BCM BasicCANモードビット	0 ：BasicCAN機能無効 1 ：BasicCANモード	R	W
13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14	LBM ループバックモードビット	0 ：ループバック機能無効 1 ：ループバック機能有効	R	W
15	RST CANリセットビット	0 ：リセット解除 1 ：リセット要求	R	W

注1．書き込みは"1"のみ有効。"0"へのクリアはハードウェアによって自動的に行われます。

(1) RBO(リターンバスオフ)ビット（b4）

このビットに"1"を設定することによって、CAN受信エラーカウントレジスタ(CANnREC)/CAN送信エラーカウントレジスタ(CANnTEC)をH'00にクリアし、CANモジュールの状態を強制的にエラーアクティブにすることができます。

このビットは、エラーアクティブに遷移したとき、クリアされます。

注．・エラーカウンタクリア後は、CANバス上に11ビットの連続したレセシブビットを検出した後に通信可能となります。

(2) TSR(タイムスタンプカウンタリセット)ビット（b5）

このビットに"1"を設定することによって、CANタイムスタンプカウントレジスタ(CANnTSTMP)の値をH'0000にクリアする事ができます。

このビットは、CANタイムスタンプカウントレジスタ(CANnTSTMP)の値がH'0000にクリアされた後、クリアされます。

(3) TSP(タイムスタンププリスケーラ)ビット（b6, b7）

タイムスタンプカウンタのカウントクロックソースを選択します。

注．・CAN動作中(CANステータスレジスタのCRSビットが"0")は、TSPビットの設定変更を行なわないでください。

(4) FRST(強制リセット)ビット（b11）

FRSTビットに"1"をセットすると、CANモジュールが通信中かどうかに関係なくCANモジュールをCANバスから切り離し、プロトコル制御部がリセットされます。

FRSTビットセットからプロトコル制御部リセットまでは最大で5BCLKかかります。

注．・CAN通信を行うためには、FRSTビットおよびRSTビットを"0"にクリアする必要があります。
・通信中にFRSTビットに"1"をセットした場合、その直後からCTX端子出力は"H"になります。このため、CANフレーム送信中にFRSTビットに"1"をセットした場合、CANバスエラー発生の原因になることがあります。
・FRST、RSTビットのセットによりCANメッセージスロットコントロールレジスタの送受信要求はクリアされません。
・FRSTビットを"1"にセットしプロトコル制御部がリセット状態になると、CANタイムスタンプカウントレジスタとCAN送受信エラーカウントレジスタは0に初期化されます。

(5) BCM(BasicCANモード)ビット（b12）

このビットに"1"をセットすることによって、CANモジュールのローカルスロット14、15をBasicCANモードで動作させることができます。

・BasicCANモード時の動作

BasicCANモードでは、ローカルスロット14、15の2本をダブルバッファとして使用し、アクセプタンスフィルタリングによってIDマッチした受信フレームをスロット14、15へ交互に格納します。そのときのアクセプタンスフィルタリングには、スロット14がアクティブ(つぎの受信フレームが格納されるスロットが14)の場合はスロット14にセットしたIDとローカルマスクAが、スロット15がアクティブの場合はスロット15にセットしたIDとローカルマスクBが使用されます。また、データフレーム、リモートフレームの2タイプのフレームを受信することができます。2つのスロットのIDとマスクレジスタの設定を同じにすることによって、多数のIDを持ったフレームを受信する場合などで、メッセージロスト発生の可能性を低くすることができます。

• BasicCANモードエントリ手順

初期設定の中で以下の手順で行います。

1）スロット14、15のID、およびローカルマスクレジスタA、Bを設定する。（同一値設定を推奨）
2）スロット14、15で扱うフレームのタイプ（標準/拡張）をCAN拡張IDレジスタへ設定する。（同一タイプを推奨）
3）スロット14、15のメッセージスロットコントロールレジスタをデータフレーム受信に設定する。
4）BCMビットを"1"にセットする。

注．
- **CAN動作中（CANステータスレジスタのCRSビットが"0"）は、BCMビットの設定を変更しないでください。**
- **RSTビットクリア後、最初にアクティブなスロットはスロット14です。**
- **BasicCANモードでもスロット0～スロット13は通常動作時と同様に使用できます。**

(6) LBM（ループバックモード）ビット（b14）

LBMビットに"1"を設定すると、自分が送信したフレームとIDマッチする受信スロットがあった場合に、そのフレームを受信することができます。

注．
- **送信フレームに対するACKは返しません。**
- **CAN動作中（CANステータスレジスタのCRSビットが"0"）は、LBMビットの設定変更を行なわないでください。**
- **正常にフレームを送信完了時、CANステータスレジスタ（CANnSTAT）のTSCビットは"1"となりますが、RSCビットは"1"となりません。また、送信完了割り込み要求、受信完了割り込み要求は、共に発生可能です。**

(7) RST（CANリセット）ビット（b15）

RSTビットを"0"にクリアすると、CANモジュールはCANバスと接続され、11ビットの連続したレセシブビットを検出した後に通信可能となります。また、これによってCANタイムスタンプカウントレジスタがカウントを開始します。

RSTビットを"1"にセットすると、それまでに送信要求をセットしたスロットのフレームを送信した後、バスアイドル状態となるのを待って、プロトコル制御部がリセット状態になりCANバスから切り離されます。その間受信したフレームは正常に処理されます。

また、バスオフ状態においてRSTビットを"1"にセットした場合は、CANバス上に11ビットの連続したレセシブビットを128回検出後、バスオフ状態を抜け出し、プロトコル制御部がリセット状態となります。バスオフ状態から強制的に抜け出すには、RBOビットもしくはFRSTビットをご使用ください。

注．
- **RSTビットを"1"にセットした後、プロトコル制御部がリセット状態になるまでの間（CANステータスレジスタのCRSビットが"1"）、新たな送信要求をセットする事は禁止です。**
- **RSTビットを"1"にセットしプロトコル制御部がリセット状態になると、CANタイムスタンプカウントレジスタとCAN送受信エラーカウントレジスタは0に初期化されます。**
- **CAN通信を行うためには、FRSTビットおよびRSTビットを"0"にクリアする必要があります。**

13.2.2　CANステータスレジスタ

CAN0ステータスレジスタ（CAN0STAT）　＜アドレス：H'0080 1002＞
CAN1ステータスレジスタ（CAN1STAT）　＜アドレス：H'0080 1402＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
	BOS	EPS	CBS	BCS		LBS	CRS	RSB	TSB	RSC	TSC	MSN			
0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0100＞

b	ビット名	機能	R	W
0	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
1	BOS バスオフステータスビット	0：バスオフでない 1：バスオフ状態	R	－
2	EPS エラーパッシブステータスビット	0：エラーパッシブでない 1：エラーパッシブ状態	R	－
3	CBS CANバスエラービット	0：エラー発生なし 1：エラー発生あり	R	－
4	BCS BasicCANステータスビット	0：通常モード 1：BasicCANモード	R	－
5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6	LBS ループバックステータスビット	0：通常モード 1：ループバックモード	R	－
7	CRS CANリセットステータスビット	0：動作中 1：リセット状態	R	－
8	RSB 受信ステータスビット	0：非受信状態 1：受信中	R	－
9	TSB 送信ステータスビット	0：非送信状態 1：送信中	R	－
10	RSC 受信完了ステータスビット	0：受信未完了 1：受信完了	R	－
11	TSC 送信完了ステータスビット	0：送信未完了 1：送信完了	R	－
12～15	MSN メッセージスロットナンバビット	送信/受信完了したメッセージスロットの番号 0000：スロット0 0001：スロット1 0010：スロット2 0011：スロット3 0100：スロット4 0101：スロット5 0110：スロット6 0111：スロット7 1000：スロット8 1001：スロット9 1010：スロット10 1011：スロット11 1100：スロット12 1101：スロット13 1110：スロット14 1111：スロット15	R	－

(1) BOS(バスオフステータス)ビット（b1）

BOSビットが"1"のとき、CANモジュールの状態がバスオフであることを示します。

[セット条件]

送信エラーカウントレジスタの値が255を超えてバスオフになった場合に"1"がセットされます。

[クリア条件]

バスオフ状態から復帰したときにクリアされます。

(2) EPS(エラーパッシブステータス)ビット（b2）

EPSビットが"1"のとき、CANモジュールの状態がエラーパッシブであることを示します。

[セット条件]

送信エラーカウントレジスタの値、あるいは受信エラーカウントレジスタの値が127を超えてエラーパッシブになった場合に"1"がセットされます。

[クリア条件]

エラーパッシブから変化したときにクリアされます。

(3) CBS(CANバスエラー)ビット（b3）

[セット条件]

CANバス上にエラーを検出した場合に"1"がセットされます。

[クリア条件]

正常に送受信が完了したときにクリアされます。

(4) BCS(BasicCANステータス)ビット（b4）

BCSビットが"1"のとき、BasicCANモードで動作していることを示します。

[セット条件]

BasicCANモードで動作しているとき、"1"がセットされます。

BasicCANモードは、下記条件で動作します。

・CANコントロールレジスタのBCMビットが"1"にセットされていること。

・スロット14、15がともにデータフレーム受信にセットされていること。

[クリア条件]

BCMビットを"0"にクリアすると、BCSビットもクリアされます。

(5) LBS(ループバックステータス)ビット（b6）

LBSビットが"1"のとき、ループバックモードで動作していることを示します。

[セット条件]

CANコントロールレジスタのLBM(ループバックモード)ビットに"1"をセットすると"1"がセットされます。

[クリア条件]

LBMビットを"0"にクリアすると、LBSビットもクリアされます。

(6) CRS(CANリセットステータス)ビット（b7）

CRSビットが"1"のとき、プロトコル制御部がリセット状態にあることを示します。

[セット条件]

CANのプロトコル制御部がリセット状態にあるとき、"1"がセットされます。

[クリア条件]

CANコントロールレジスタのRST(CANリセット)ビットとFRSTビットを"0"にクリアすると、CRSビットもクリアされます。ただし、RSTビットとFRSTビットを"0"にクリアしてからCRSビットが"0"にクリアされるまでに、設定されているボーレートの1ビット分の時間がかかります。

(7) RSB(受信ステータス)ビット（b8）

[セット条件]

CANが受信ノードとして動作中のとき、"1"がセットされます。

[クリア条件]

送信ノードして動作を始めたとき、またはバスアイドル状態になったときにクリアされます。

(8) TSB(送信ステータス)ビット（b9）

[セット条件]

CANが送信ノードとして動作中のとき、"1"がセットされます。

[クリア条件]

受信ノードして動作を始めたとき、またはバスアイドル状態になったときにクリアされます。

(9) RSC(受信完了ステータス)ビット（b10）

[セット条件]

CANが正常に受信を完了した(受信条件を満たすスロットの有無にかかわらず)とき、"1"がセットされます。

[クリア条件]

正常に送信完了したときにクリアされます。

(10) TSC(送信完了ステータス)ビット（b11）

[セット条件]

CANが正常に送信を完了したとき、"1"がセットされます。

[クリア条件]

正常に受信完了したときにクリアされます。

(11) MSN(メッセージスロットナンバ)ビット（b12～b15）

送信完了時または受信データ格納完了時に、該当スロット番号を示します。
MSNビットはソフトウェアによって"0"クリアすることはできません。

注．・ループバックモード時に自分自身が送信したフレームを受信した場合、MSNビットは送信スロット番号を表示します。

13.2.3　CAN拡張IDレジスタ

CAN0拡張IDレジスタ（CAN0EXTID）　＜アドレス：H'0080 1004＞
CAN1拡張IDレジスタ（CAN1EXTID）　＜アドレス：H'0080 1404＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
IDE0	IDE1	IDE2	IDE3	IDE4	IDE5	IDE6	IDE7	IDE8	IDE9	IDE10	IDE11	IDE12	IDE13	IDE14	IDE15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	IDE0（スロット0拡張フォーマットビット）	0 ： 標準ID（Standaed ID）フォーマット	R	W
1	IDE1（スロット1拡張フォーマットビット）	1 ： 拡張ID（Extended ID）フォーマット		
2	IDE2（スロット2拡張フォーマットビット）			
3	IDE3（スロット3拡張フォーマットビット）			
4	IDE4（スロット4拡張フォーマットビット）			
5	IDE5（スロット5拡張フォーマットビット）			
6	IDE6（スロット6拡張フォーマットビット）			
7	IDE7（スロット7拡張フォーマットビット）			
8	IDE8（スロット8拡張フォーマットビット）			
9	IDE9（スロット9拡張フォーマットビット）			
10	IDE10（スロット10拡張フォーマットビット）			
11	IDE11（スロット11拡張フォーマットビット）			
12	IDE12（スロット12拡張フォーマットビット）			
13	IDE13（スロット13拡張フォーマットビット）			
14	IDE14（スロット14拡張フォーマットビット）			
15	IDE15（スロット15拡張フォーマットビット）			

各ビットに対応したメッセージスロットで取り扱うフレームのフォーマットを選択します。
"0"を設定した場合、標準（Standard ID）フォーマットが選択されます。
"1"を設定した場合、拡張（Extended ID）フォーマットが選択されます。

注．・このレジスタの各ビットの変更は、対応するスロットの送信要求/受信要求が立っていない状態で行ってください。

13.2.4　CANコンフィグレーションレジスタ

CAN0コンフィグレーションレジスタ（CAN0CONF）　＜アドレス：H'0080 1006＞
CAN1コンフィグレーションレジスタ（CAN1CONF）　＜アドレス：H'0080 1406＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
SJW		PH2			PH1			PRB			SAM				
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～1	SJW reSynchronization Jump Width設定ビット	00 ： SJW ＝ 1Tq 01 ： SJW ＝ 2Tq 10 ： SJW ＝ 3Tq 11 ： SJW ＝ 4Tq	R	W
2～4	PH2 Phase Segment2設定ビット	000： Phase Segment2 ＝ 1Tq 001： Phase Segment2 ＝ 2Tq 010： Phase Segment2 ＝ 3Tq 011： Phase Segment2 ＝ 4Tq 100： Phase Segment2 ＝ 5Tq 101： Phase Segment2 ＝ 6Tq 110： Phase Segment2 ＝ 7Tq 111： Phase Segment2 ＝ 8Tq	R	W
5～7	PH1 Phase Segment1設定ビット	000： Phase Segment1 ＝ 1Tq 001： Phase Segment1 ＝ 2Tq 010： Phase Segment1 ＝ 3Tq 011： Phase Segment1 ＝ 4Tq 100： Phase Segment1 ＝ 5Tq 101： Phase Segment1 ＝ 6Tq 110： Phase Segment1 ＝ 7Tq 111： Phase Segment1 ＝ 8Tq	R	W
8～10	PRB Propagation Segment設定ビット	000： Propagation Segment ＝ 1Tq 001： Propagation Segment ＝ 2Tq 010： Propagation Segment ＝ 3Tq 011： Propagation Segment ＝ 4Tq 100： Propagation Segment ＝ 5Tq 101： Propagation Segment ＝ 6Tq 110： Propagation Segment ＝ 7Tq 111： Propagation Segment ＝ 8Tq	R	W
11	SAM サンプリング数選択ビット	0 ： 1回サンプリング 1 ： 3回サンプリング	R	W
12～15	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0

注．・CAN動作中（CANステータスレジスタのCRSビットが"0"）は、CANコンフィグレーションレジスタ（CAN0CONF, CAN1CONF）の設定変更を行わないでください。
・ビット構成は以下の条件を満たすように、CANプロトコル仕様書にて規定されています。
・1ビット分のTq数：8～25Tq
・SJW≦min（Phase Segment1, Phase Segment2）
・Phase Segment2＝max（Phase Segment1, IPT）ただし、32176内蔵のCANモジュールはIPT＝1となっています。
min（）は小さい方の値を返す関数です。
max（）は最大値を返す関数です。
・IPTとは、Information Processing Time（情報処理時間）の略で、サンプリングポイント直後の時間を指します。

(1) SJWビット（b0～b1）

reSynchronization Jump Widthの幅を設定します。

(2) PH2ビット（b2～b4）

Phase Segment2の幅を設定します。

(3) PH1ビット（b5～b7）

Phase Segment1の幅を設定します。

(4) PRBビット（b8～b10）

Propagation Segmentの幅を設定します。

(5) SAMビット(b11)

1ビットあたりのサンプリング数を設定します。
"0"：Phase Segment1の最後でサンプリングした値をそのビット値とみなします。
"1"：Phase Segment1の最後でサンプリングした値、1Tq前のサンプリング値、および2Tq前のサンプリング値の計3ポイントの値から多数決回路によって、ビットの値を決定します。

表13.2.1　CPUクロック：40MHz時のビットタイミング設定例

ボーレート	BRP設定値	Tq周期(ns)	1ビットのTq数	PROP＋PH1	PH2	サンプリングポイント
1M bps	1	50	20	13	6	70%
	3	100	10	7	2	80%
	3	100	10	6	3	70%
	3	100	10	5	4	60%
	4	125	8	5	2	75%
	4	125	8	4	3	63%
500K bps	4	125	16	13	2	88%(注1)
	4	125	16	12	3	81%(注1)
	4	125	16	11	4	75%
	7	200	10	7	2	80%
	7	200	10	6	3	70%
	7	200	10	5	4	60%
	9	250	8	5	2	75%
	9	250	8	4	3	63%

注1．CANプロトコル規定であるPH2＝max(PH1, IPT)を満たすことはできません。
注．・上記設定ボーレートでの通信を保障するものではありません。十分な評価・検証の上、ご使用ください。

表13.2.2　CPUクロック：32MHz時のビットタイミング設定例

ボーレート	BRP設定値	Tq周期(ns)	1ビットのTq数	PROP＋PH1	PH2	サンプリングポイント
1M bps	1	62.5	16	10	5	69%
	3	125	8	5	2	75%
	3	125	8	4	3	63%
500K bps	3	125	16	13	2	88%(注1)
	3	125	16	11	4	75%
	7	250	8	5	2	75%
	7	250	8	4	3	63%

注1．CANプロトコル規定であるPH2＝max(PH1, IPT)を満たすことはできません。
注．・上記設定ボーレートでの通信を保障するものではありません。十分な評価・検証の上、ご使用ください。

13.2.5　CANタイムスタンプカウントレジスタ

CAN0タイムスタンプカウントレジスタ（CAN0TSTMP）　＜アドレス：H'0080 1008＞
CAN1タイムスタンプカウントレジスタ（CAN1TSTMP）　＜アドレス：H'0080 1408＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
CANTSTMP															
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0～15	CANTSTMP	16ビットタイムスタンプカウンタ値	R	ー

CANモジュールは16ビットのアップカウントレジスタを内蔵しています。カウント周期はCANコントロールレジスタ（CANnCNT）のTSP（タイムスタンププリスケーラ）ビットでCANバスビット周期の1分周、2分周、3分周、4分周のいずれかを選択します。

送信/受信完了時、カウントレジスタ値をキャプチャし、その値をメッセージスロットへ格納します。

カウンタは、CANコントロールレジスタ（CANnCNT）のRSTビットを"0"クリアすることによってカウント動作を開始します。

注．
- **CANコントロールレジスタ（CANnCNT）のRST（CANリセット）ビットを"1"にセットすることによって、プロトコル制御部がリセットされH'0000へ初期化することができます。また、TSR（タイムスタンプカウンタリセット）ビットを"1"にセットすることによって、CANモジュールを動作させたままH'0000へ初期化することができます。**
- **ループバックモード時、IDマッチするスロットが存在する場合には、受信完了時に対応したスロットへタイムスタンプ値が格納されます（送信完了時、タイムスタンプ値は格納されません）。**
- **CANタイムスタンプカウントレジスタのカウント周期はCAN再同期機能により変化します。**

13.2.6　CANエラーカウントレジスタ

CAN0受信エラーカウントレジスタ（CAN0REC）　＜アドレス：H'0080 100A＞
CAN1受信エラーカウントレジスタ（CAN1REC）　＜アドレス：H'0080 140A＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
REC							
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～7	REC	受信エラーカウント値	R	ー

エラーアクティブ/エラーパッシブ状態のときは、受信エラーのカウント値が格納されます。正常受信時にダウンカウントし、エラー発生時にアップカウントします。

REC≧128の状態（エラーパッシブ）で正常に受信完了した場合、RECは127にセットされます。

バスオフ状態のときは、不定値が格納されます。エラーアクティブ状態へ復帰するとH'00にリセットされます。

CAN0送信エラーカウントレジスタ（CAN0TEC）　＜アドレス：H'0080 100B＞
CAN1送信エラーカウントレジスタ（CAN1TEC）　＜アドレス：H'0080 140B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TEC							
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～15	TEC	送信エラーカウント値	R	ー

エラーアクティブ/エラーパッシブ状態のときは、送信エラーのカウント値が格納されます。正常送信時にダウンカウントし、エラー発生時にアップカウントします。

バスオフ状態のときは、不定値が格納されます。エラーアクティブ状態へ復帰するとH'00にリセットされます。

13.2.7　CANボーレートプリスケーラ

CAN0ボーレートプリスケーラ（CAN0BRP）　＜アドレス：H'0080 1016＞
CAN1ボーレートプリスケーラ（CAN1BRP）　＜アドレス：H'0080 1416＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
BRP							
0	0	0	0	0	0	0	1

＜リセット解除時：H'01＞

b	ビット名	機能	R	W
0～7	BRP	ボーレートプリスケーラ値	R	W

CANのTq周期を設定します。CANボーレートは、「Tq周期×1ビット内のTqの数」で決定します。

Tq周期 ＝（BRP＋1)/(CPUクロック）

$$\text{CAN転送ボーレート} = \frac{1}{\text{Tq周期} \times \text{1ビット内のTqの数}}$$

1ビット内のTqの数＝Synchronization Segment＋Propagation Segment
＋Phase Segment 1＋Phase Segment 2

注．・H'00（1分周）は設定禁止です。
・CAN動作中（CANステータスレジスタのCRSビット"0"）は、CANボーレートプリスケーラ（CANnBRP）の設定を変更しないでください。

13.2.8　CAN割り込み関連レジスタ

CAN割り込み関連レジスタは、CANから割り込みコントローラに出力する割り込み要求信号を制御するレジスタです。

(1) 割り込み要求ステータスビット

割り込み要求を判別するためのステータスビットで、割り込み要求が発生するとハードウェア的にセットされ、ソフトウェア的にセットすることはできません。ステータスビットは、"0"を書き込むことによりクリアされ、"1"を書き込むとステータスビットの状態を保持します。なお、割り込み要求マスクビットの影響を受けず動作しますので、周辺機能の動作確認用にも使用することができます。割り込み処理時には、グルーピングされた割り込み要求ステータスの内、割り込み処理を行ったステータスビットのみクリアください。割り込み処理を行っていないステータスビットをクリアすると未実行の割り込み要求もクリアされます。

(2) 割り込み要求マスクビット

グルーピングされた割り込み要求の内で不要な割り込みを禁止にするためのフラグです。割り込み要求許可時には"1"、割り込み要求禁止時には"0"を設定します。

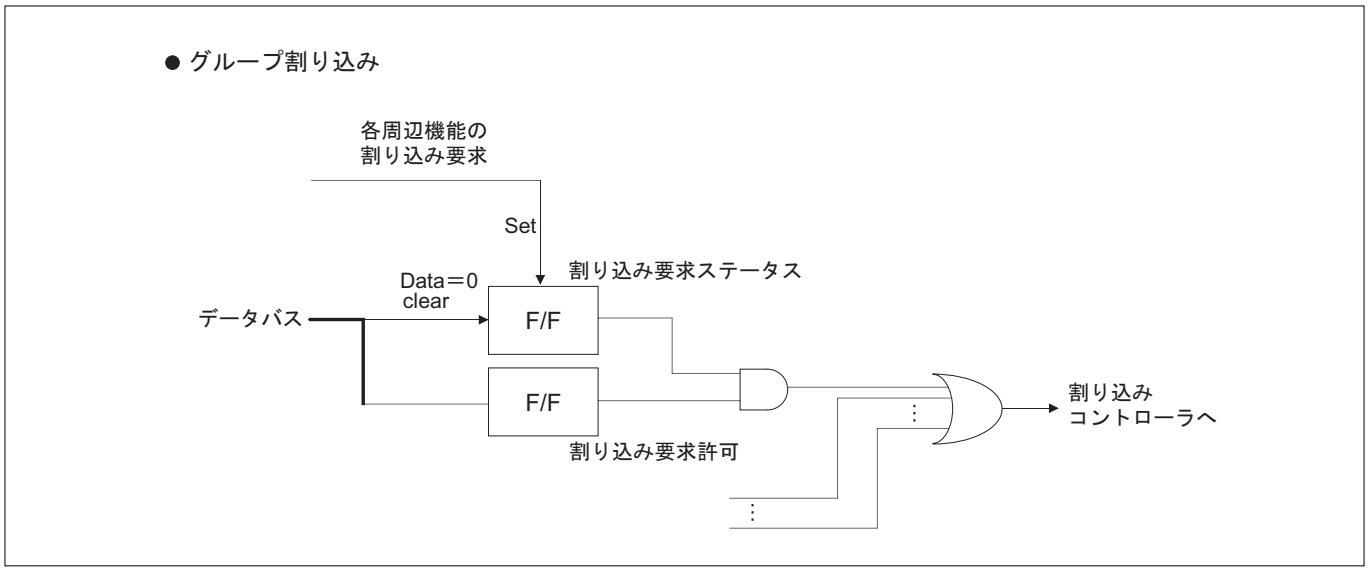
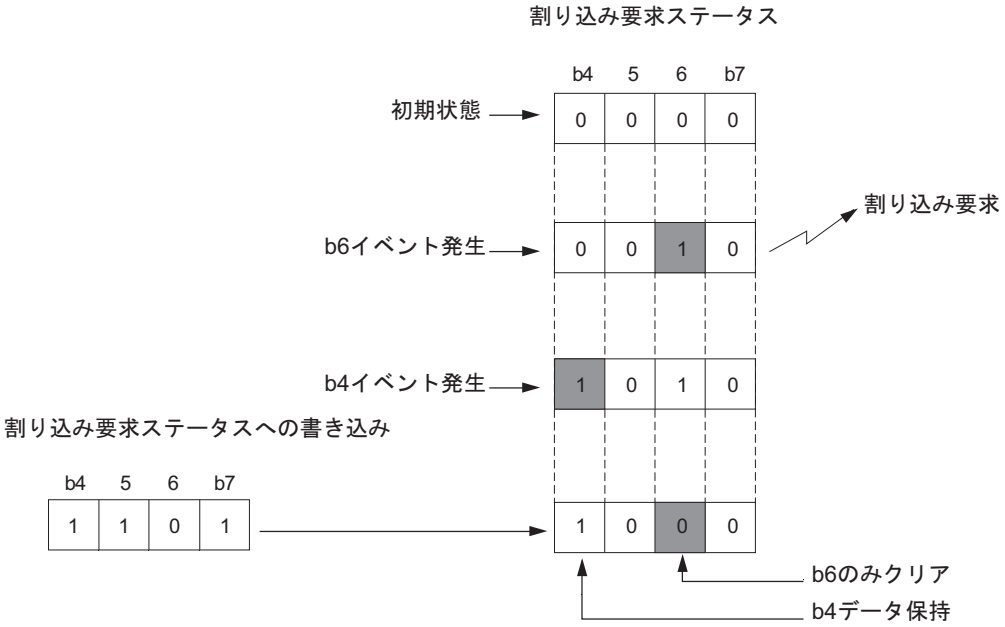


図13.2.1　割り込み要求ステータスレジスタとマスクレジスタ

● 割り込み要求ステータスクリア例



● プログラム例

・割り込み要求ステータスレジスタ0（ISTREG）の割り込み要求ステータス1：ISTAT1（0x02ビット）をクリアする場合

○　ISTREG = 0xfd;　　/*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

割り込み要求ステータスをクリアする場合は、必ず他の要求ステータスビットには"1"を書き込んでください。
その際、下のように論理演算を用いるとISTREGの読み出し、論理演算、書き込みの3段階の手順となるため、
読み出しから書き込みの間に他の割り込み要求が発生した場合に、誤ってクリアする場合があります。

×　ISTREG &= 0xfd;　　/*ISTAT1（0x02ビット）のみ クリア*/

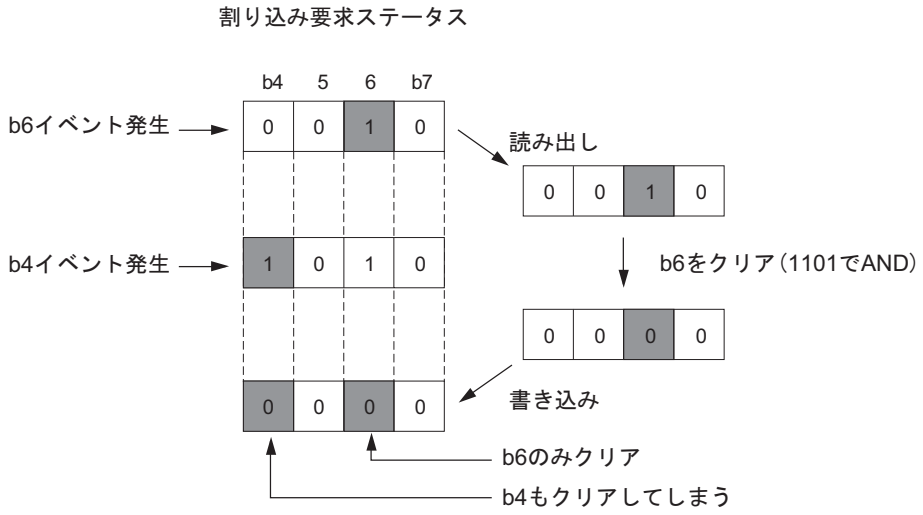


図13.2.2　割り込み要求ステータスクリア例

CAN0スロット割り込み要求ステータスレジスタ（CAN0SLIST）　＜アドレス：H'0080 100C＞
CAN1スロット割り込み要求ステータスレジスタ（CAN1SLIST）　＜アドレス：H'0080 140C＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
SSB0	SSB1	SSB2	SSB3	SSB4	SSB5	SSB6	SSB7	SSB8	SSB9	SSB10	SSB11	SSB12	SSB13	SSB14	SSB15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R　W
0	SSB0（スロット0割り込み要求ステータスビット）	0 ： 割り込み要求なし	R（注1）
1	SSB1（スロット1割り込み要求ステータスビット）	1 ： 割り込み要求あり	
2	SSB2（スロット2割り込み要求ステータスビット）		
3	SSB3（スロット3割り込み要求ステータスビット）		
4	SSB4（スロット4割り込み要求ステータスビット）		
5	SSB5（スロット5割り込み要求ステータスビット）		
6	SSB6（スロット6割り込み要求ステータスビット）		
7	SSB7（スロット7割り込み要求ステータスビット）		
8	SSB8（スロット8割り込み要求ステータスビット）		
9	SSB9（スロット9割り込み要求ステータスビット）		
10	SSB10（スロット10割り込み要求ステータスビット）		
11	SSB11（スロット11割り込み要求ステータスビット）		
12	SSB12（スロット12割り込み要求ステータスビット）		
13	SSB13（スロット13割り込み要求ステータスビット）		
14	SSB14（スロット14割り込み要求ステータスビット）		
15	SSB15（スロット15割り込み要求ステータスビット）		

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

CAN割り込みを使用する場合、どのスロットから割り込み要求があったかをこのレジスタで知ることができます。

• 送信設定スロット

送信が完了したとき"1"がセットされます。
このビットの"0"クリアは、ソフトウェアによって"0"を書き込むことで行います。

• 受信設定スロット

受信が完了し、受信メッセージのメッセージスロットへの格納が終わったとき"1"がセットされます。
このビットの"0"クリアは、ソフトウェアによって"0"を書き込むことで行います。

CANスロット割り込み要求ステータス書き込み時は、クリア操作するビットに"0"を、その他のビットには"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットに対してはソフトウェアによる書き込みの影響はなく、書き込み前の値が保持されます。

注．• リモートフレーム受信スロットで自動応答機能を有効にしている場合は、リモートフレーム受信完了後、およびデータフレーム送信完了後ともに要求ステータスがセットされます。
• リモートフレーム送信スロットでは、リモートフレーム送信完了後、およびデータフレーム受信完了後ともに要求ステータスがセットされます。
• 割り込み要求による要求ステータスのセットとソフトウェアによる要求ステータスのクリアが同時に起こった場合は、割り込み要求による要求ステータスのセットが優先されます。

CAN0スロット割り込み要求マスクレジスタ（CAN0SLIMK）　＜アドレス：H'0080 1010＞
CAN1スロット割り込み要求マスクレジスタ（CAN1SLIMK）　＜アドレス：H'0080 1410＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
IRB0 0	IRB1 0	IRB2 0	IRB3 0	IRB4 0	IRB5 0	IRB6 0	IRB7 0	IRB8 0	IRB9 0	IRB10 0	IRB11 0	IRB12 0	IRB13 0	IRB14 0	IRB15 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	IRB0（スロット0割り込み要求マスクビット）	0 ： 割り込み要求マスク（禁止）	R	W
1	IRB1（スロット1割り込み要求マスクビット）	1 ： 割り込み要求許可		
2	IRB2（スロット2割り込み要求マスクビット）			
3	IRB3（スロット3割り込み要求マスクビット）			
4	IRB4（スロット4割り込み要求マスクビット）			
5	IRB5（スロット5割り込み要求マスクビット）			
6	IRB6（スロット6割り込み要求マスクビット）			
7	IRB7（スロット7割り込み要求マスクビット）			
8	IRB8（スロット8割り込み要求マスクビット）			
9	IRB9（スロット9割り込み要求マスクビット）			
10	IRB10（スロット10割り込み要求マスクビット）			
11	IRB11（スロット11割り込み要求マスクビット）			
12	IRB12（スロット12割り込み要求マスクビット）			
13	IRB13（スロット13割り込み要求マスクビット）			
14	IRB14（スロット14割り込み要求マスクビット）			
15	IRB15（スロット15割り込み要求マスクビット）			

対応するスロットのデータの送信/受信完了による割り込み要求の許可/禁止を制御するレジスタです。IRBn（n＝0～15）に"1"を設定した場合、対応するスロットの送信/受信完了による割り込み要求が許可されます。

どのスロットから割り込み要求があったかは、CANスロット割り込み要求ステータスレジスタ（CANnSLIST）で確認できます。

CAN0エラー割り込み要求ステータスレジスタ（CAN0ERIST）　＜アドレス：H'0080 1014＞
CAN1エラー割り込み要求ステータスレジスタ（CAN1ERIST）　＜アドレス：H'0080 1414＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
					EIS	PIS	OIS
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～4	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
5	EIS CANバスエラー割り込み要求ステータスビット	0：割り込み要求なし 1：割り込み要求あり	R（注1）	
6	PIS エラーパッシブ割り込み要求ステータスビット			
7	OIS バスオフ割り込み要求ステータスビット			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

CAN割り込みを使用する場合、割り込み要求要因がエラーに関連するものであったときはこのレジスタでその要因を確認することができます。

(1) EIS（CANバスエラー割り込み要求ステータス）ビット（b5）

通信エラーが検出された場合、EISビットに"1"がセットされます。
EISビットの"0"クリアは、ソフトウェアで"0"を書き込むことによって行います。

(2) PIS（エラーパッシブ割り込み要求ステータス）ビット（b6）

CANモジュールの状態がエラーパッシブとなった場合、PISビットに"1"がセットされます。
PISビットの"0"クリアは、ソフトウェアで"0"を書き込むことによって行います。

(3) OIS（バスオフ割り込み要求ステータス）ビット（b7）

CANモジュールの状態がバスオフとなった場合、OISビットに"1"がセットされます。
OISビットの"0"クリアは、ソフトウェアで"0"を書き込むことによって行います。

CANエラー割り込み要求ステータス書き込み時は、クリア操作するビットに"0"を、その他のビットには"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットに対してはソフトウェアによる書き込みの影響はなく、書き込み前の値が保持されます。

CAN0エラー割り込み要求マスクレジスタ（CAN0ERIMK）　＜アドレス：H'0080 1015＞
CAN1エラー割り込み要求マスクレジスタ（CAN1ERIMK）　＜アドレス：H'0080 1415＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
					EIM	PIM	OIM
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～12	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
13	EIM CANバスエラー割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求マスク（禁止） 1：割り込み要求許可	R	W
14	PIM エラーパッシブ割り込み要求マスクビット			
15	OIM バスオフ割り込み要求マスクビット			

(1) EIM（CANバスエラー割り込み要求マスク）ビット（b13）

CANバスエラーの発生による割り込み要求の許可/禁止を制御するビットです。EIMビットに"1"をセットすることによって、CANバスエラー割り込み要求が許可されます。

(2) PIM（エラーパッシブ割り込み要求マスク）ビット（b14）

CANモジュールの状態がエラーパッシブに遷移したときの割り込み要求の許可/禁止を制御するビットです。PIMビットに"1"をセットすることによって、エラーパッシブ割り込み要求が許可されます。

(3) OIM（バスオフ割り込み要求マスク）ビット（b15）

CANモジュールの状態がバスオフに遷移したときの割り込み要求の許可/禁止を制御するビットです。OIMビットに"1"をセットすることによって、バスオフ割り込み要求が許可されます。

CAN0シングルショット割り込み要求ステータスレジスタ（CAN0SSIST）　＜アドレス：H'0080 1044＞
CAN1シングルショット割り込み要求ステータスレジスタ（CAN1SSIST）　＜アドレス：H'0080 1444＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
SSIST0 0	SSIST1 0	SSIST2 0	SSIST3 0	SSIST4 0	SSIST5 0	SSIST6 0	SSIST7 0	SSIST8 0	SSIST9 0	SSIST10 0	SSIST11 0	SSIST12 0	SSIST13 0	SSIST14 0	SSIST15 0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	SSIST0 スロット0シングルショット割り込み要求ステータスビット	0：アービトレーションロストなし/送信エラーなし 1：アービトレーションロストあり/送信エラー発生	R（注1）	
1	SSIST1 スロット1シングルショット割り込み要求ステータスビット			
2	SSIST2 スロット2シングルショット割り込み要求ステータスビット			
3	SSIST3 スロット3シングルショット割り込み要求ステータスビット			
4	SSIST4 スロット4シングルショット割り込み要求ステータスビット			
5	SSIST5 スロット5シングルショット割り込み要求ステータスビット			
6	SSIST6 スロット6シングルショット割り込み要求ステータスビット			
7	SSIST7 スロット7シングルショット割り込み要求ステータスビット			
8	SSIST8 スロット8シングルショット割り込み要求ステータスビット			
9	SSIST9 スロット9シングルショット割り込み要求ステータスビット			
10	SSIST10 スロット10シングルショット割り込み要求ステータスビット			
11	SSIST11 スロット11シングルショット割り込み要求ステータスビット			
12	SSIST12 スロット12シングルショット割り込み要求ステータスビット			
13	SSIST13 スロット13シングルショット割り込み要求ステータスビット			
14	SSIST14 スロット14シングルショット割り込み要求ステータスビット			
15	SSIST15 スロット15シングルショット割り込み要求ステータスビット			

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

シングルショットモード時のアービトレーションロストの検出、あるいは送信エラーによって送信が失敗した場合はスロットに対応したビットに"1"がセットされます。ビットのクリアは、ソフトウェアによって"0"を書き込むことで行います。

また、CANシングルショット割り込み要求マスクレジスタの対応するビットに"1"をセットしていた場合、割り込み要求を発生させることができます。

CANシングルショット割り込み要求ステータス書き込み時は、クリア操作するビットに"0"を、その他のビットに"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットに対してはソフトウェアによる書き込みの影響はなく、書き込み前の値が保持されます。

CAN0シングルショット割り込み要求マスクレジスタ(CAN0SSIMK)　＜アドレス：H'0080 1048＞
CAN1シングルショット割り込み要求マスクレジスタ(CAN1SSIMK)　＜アドレス：H'0080 1448＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
SSIMK0	SSIMK1	SSIMK2	SSIMK3	SSIMK4	SSIMK5	SSIMK6	SSIMK7	SSIMK8	SSIMK9	SSIMK10	SSIMK11	SSIMK12	SSIMK13	SSIMK14	SSIMK15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	SSIMK0 スロット0シングルショット割り込み要求マスクビット	0：割り込み要求禁止 1：割り込み要求許可	R	W
1	SSIMK1 スロット1シングルショット割り込み要求マスクビット			
2	SSIMK2 スロット2シングルショット割り込み要求マスクビット			
3	SSIMK3 スロット3シングルショット割り込み要求マスクビット			
4	SSIMK4 スロット4シングルショット割り込み要求マスクビット			
5	SSIMK5 スロット5シングルショット割り込み要求マスクビット			
6	SSIMK6 スロット6シングルショット割り込み要求マスクビット			
7	SSIMK7 スロット7シングルショット割り込み要求マスクビット			
8	SSIMK8 スロット8シングルショット割り込み要求マスクビット			
9	SSIMK9 スロット9シングルショット割り込み要求マスクビット			
10	SSIMK10 スロット10シングルショット割り込み要求マスクビット			
11	SSIMK11 スロット11シングルショット割り込み要求マスクビット			
12	SSIMK12 スロット12シングルショット割り込み要求マスクビット			
13	SSIMK13 スロット13シングルショット割り込み要求マスクビット			
14	SSIMK14 スロット14シングルショット割り込み要求マスクビット			
15	SSIMK15 スロット15シングルショット割り込み要求マスクビット			

対応するスロットが送信に失敗したことによる割り込み要求の許可/禁止を制御するレジスタです。SSIMKnに"1"をセットした場合、対応するスロット(シングルショットモードの場合のみ)での送信失敗による割り込み要求が許可されます。

どのスロットから割り込み要求があったかは、CANシングルショット割り込み要求ステータスレジスタで確認することができます。

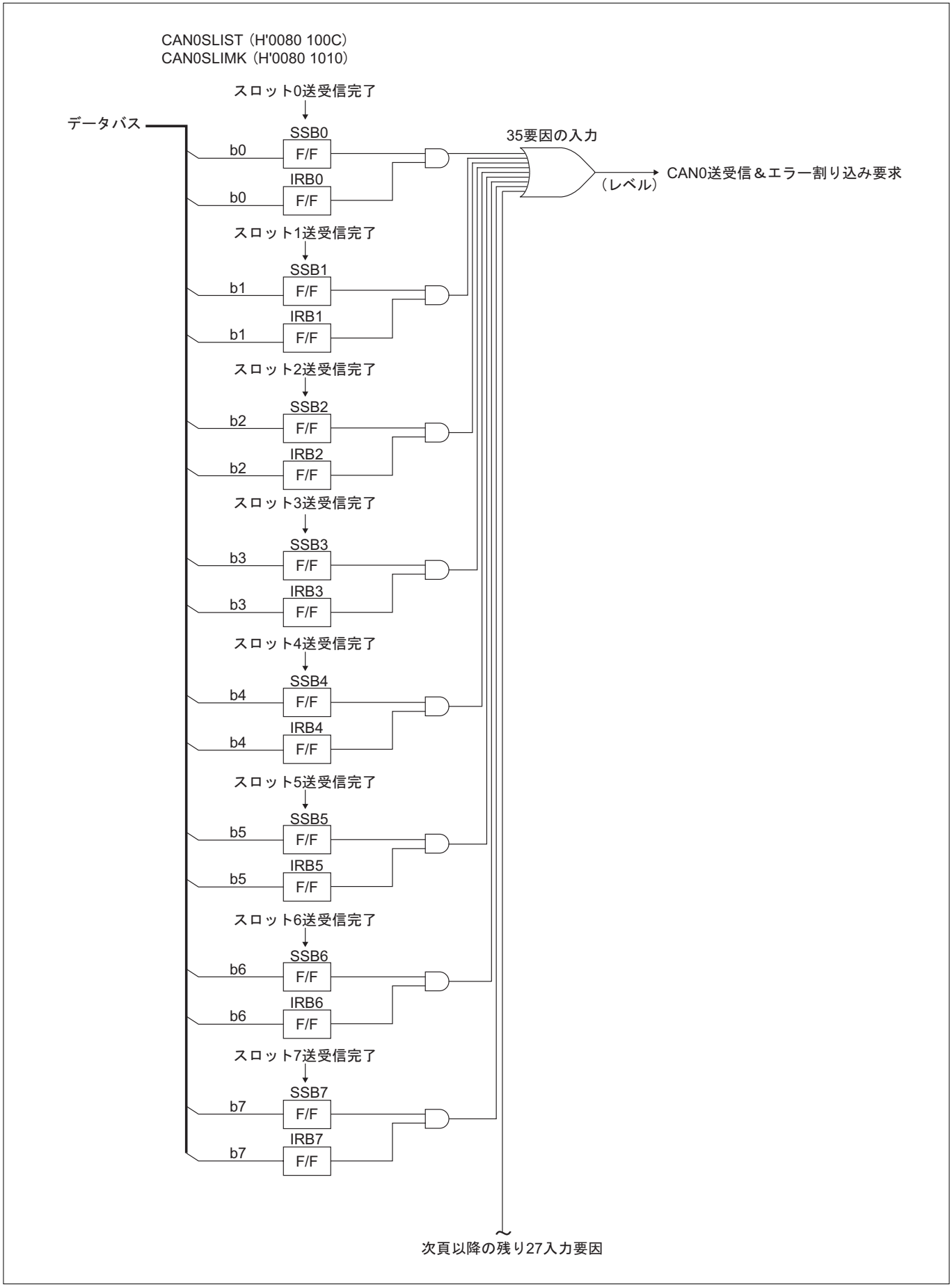


図13.2.3　CAN0**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（1/5）

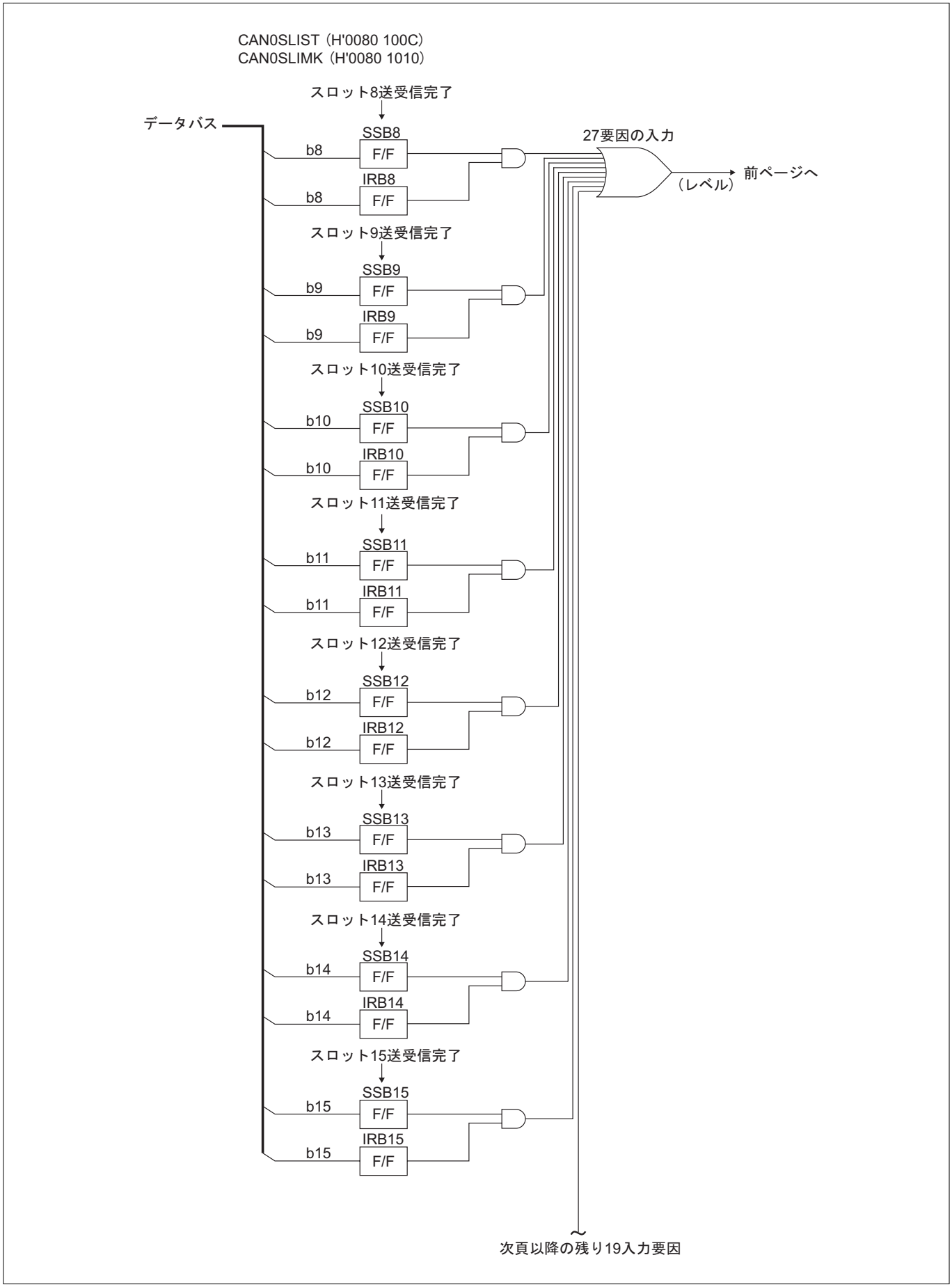


図13.2.4　CAN0**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（2/5）

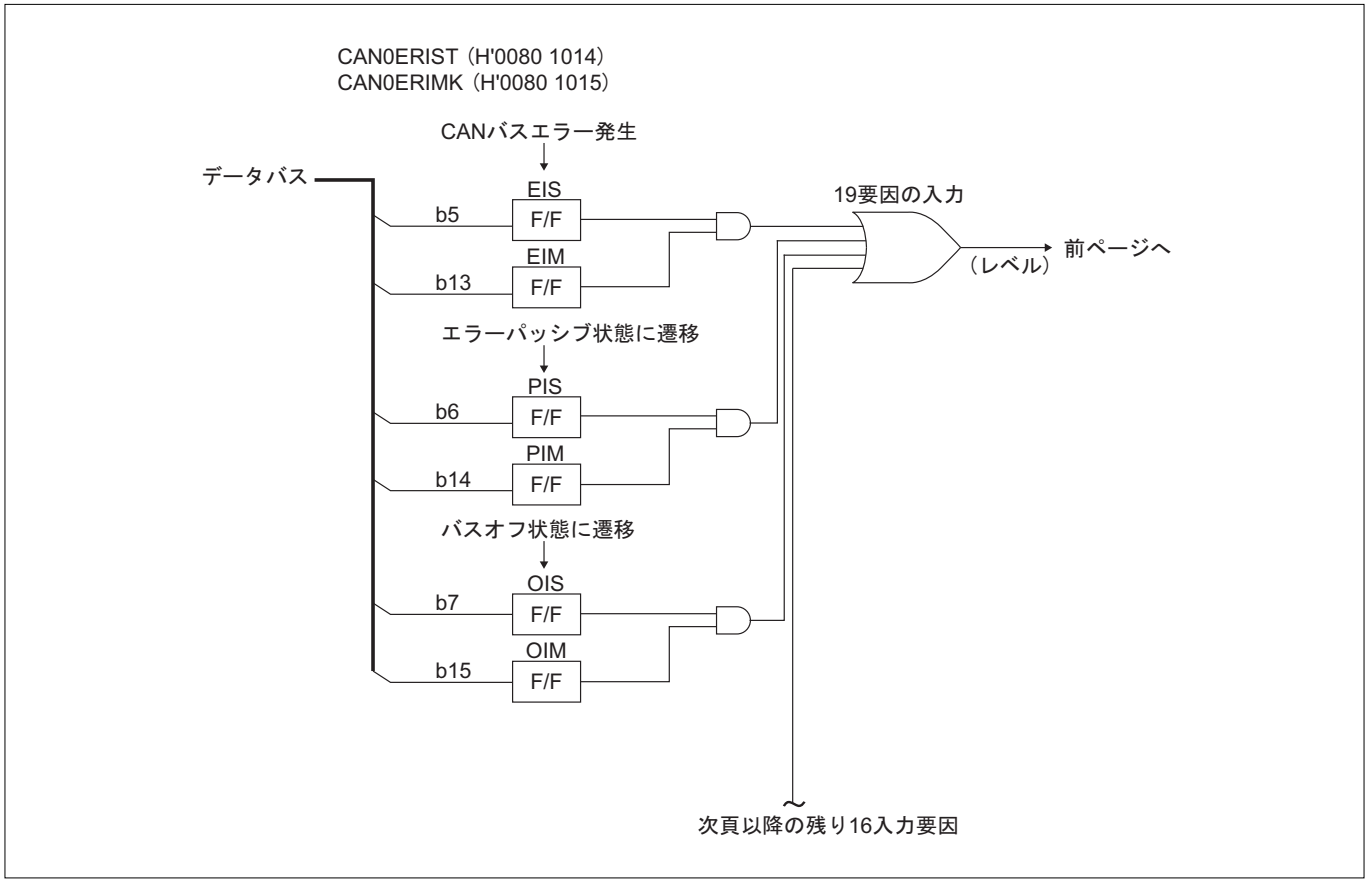


図13.2.5　CAN0**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（3/5）

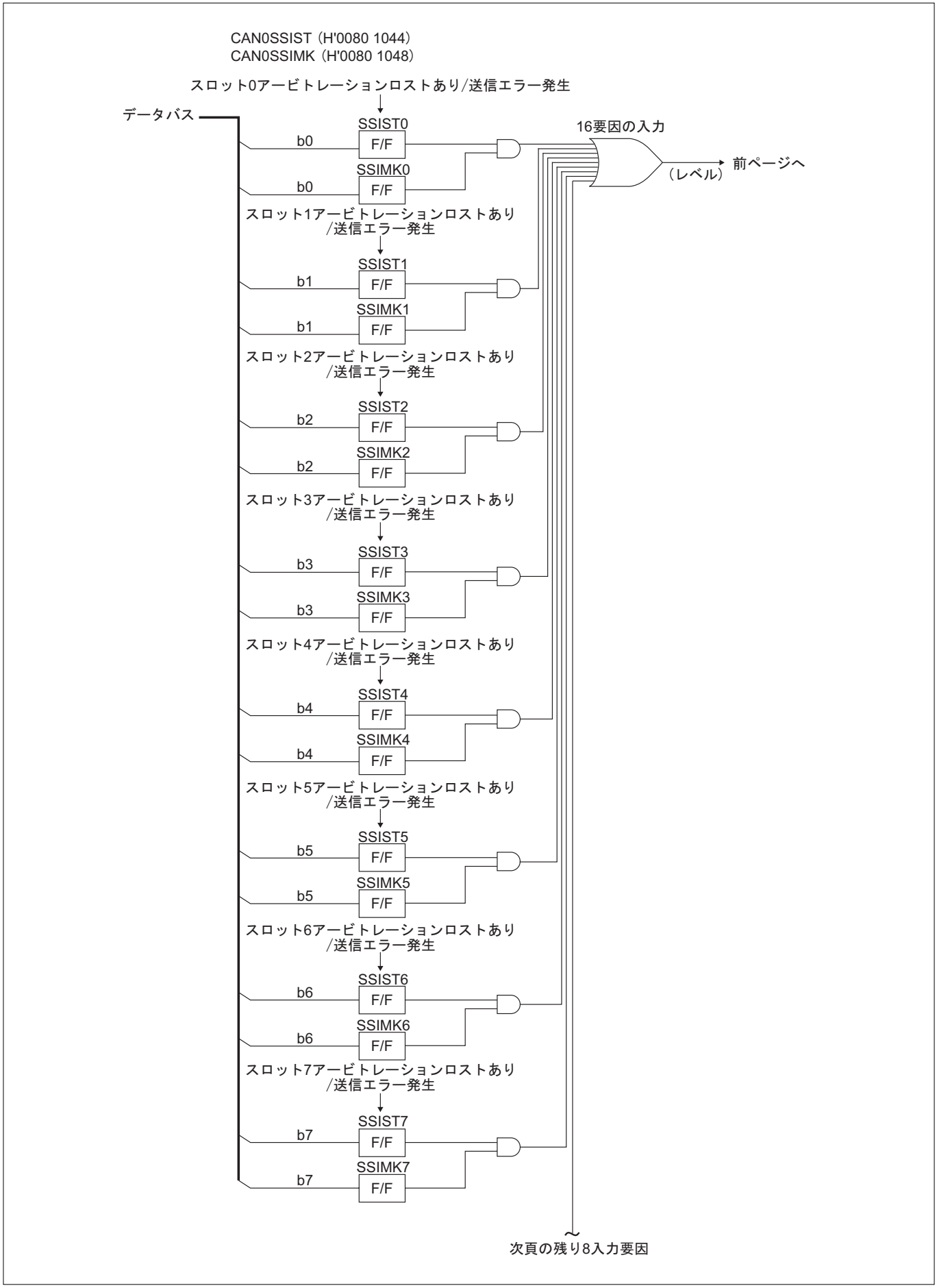


図13.2.6　CAN0**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**(4/5)

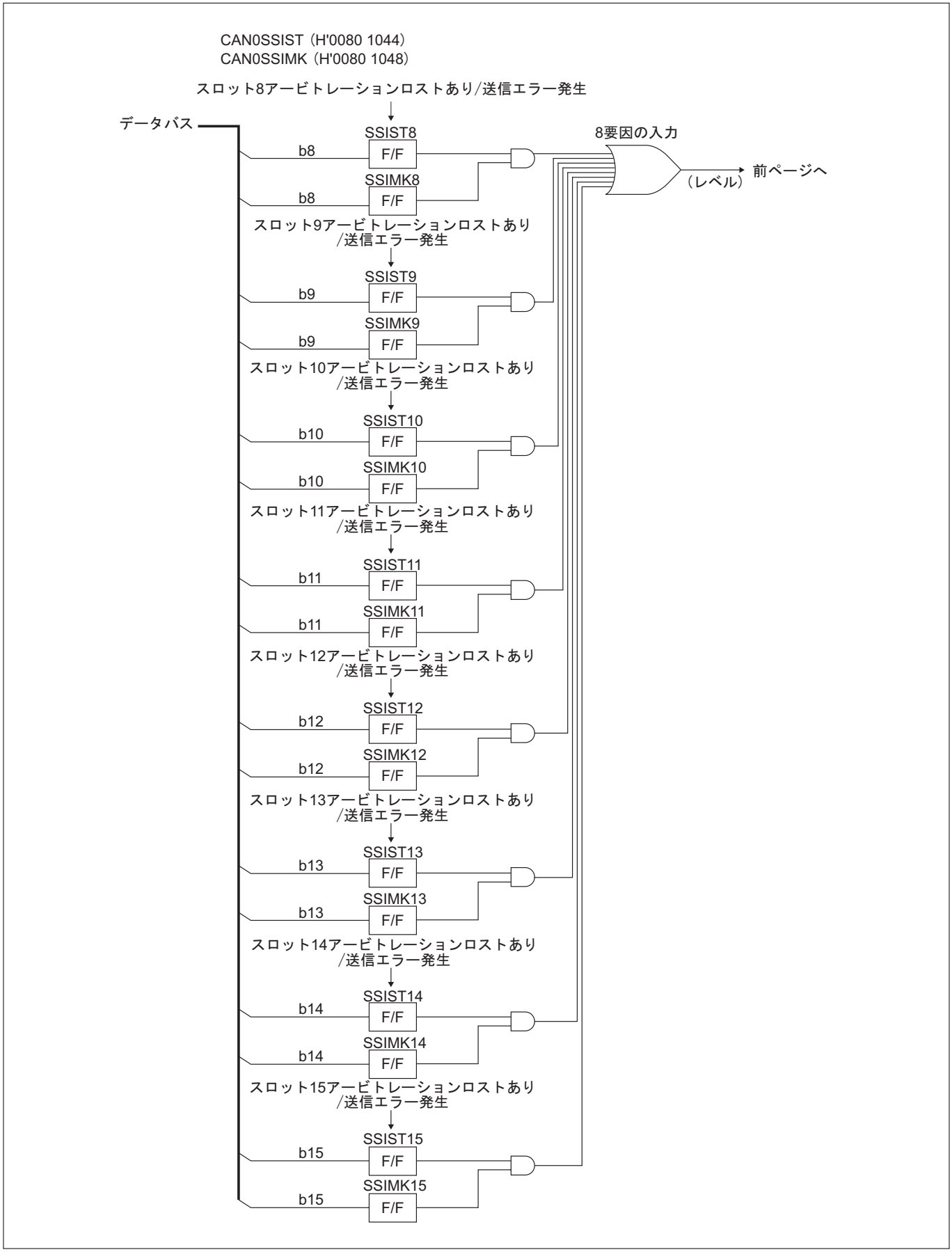


図13.2.7　CAN0**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（5/5）

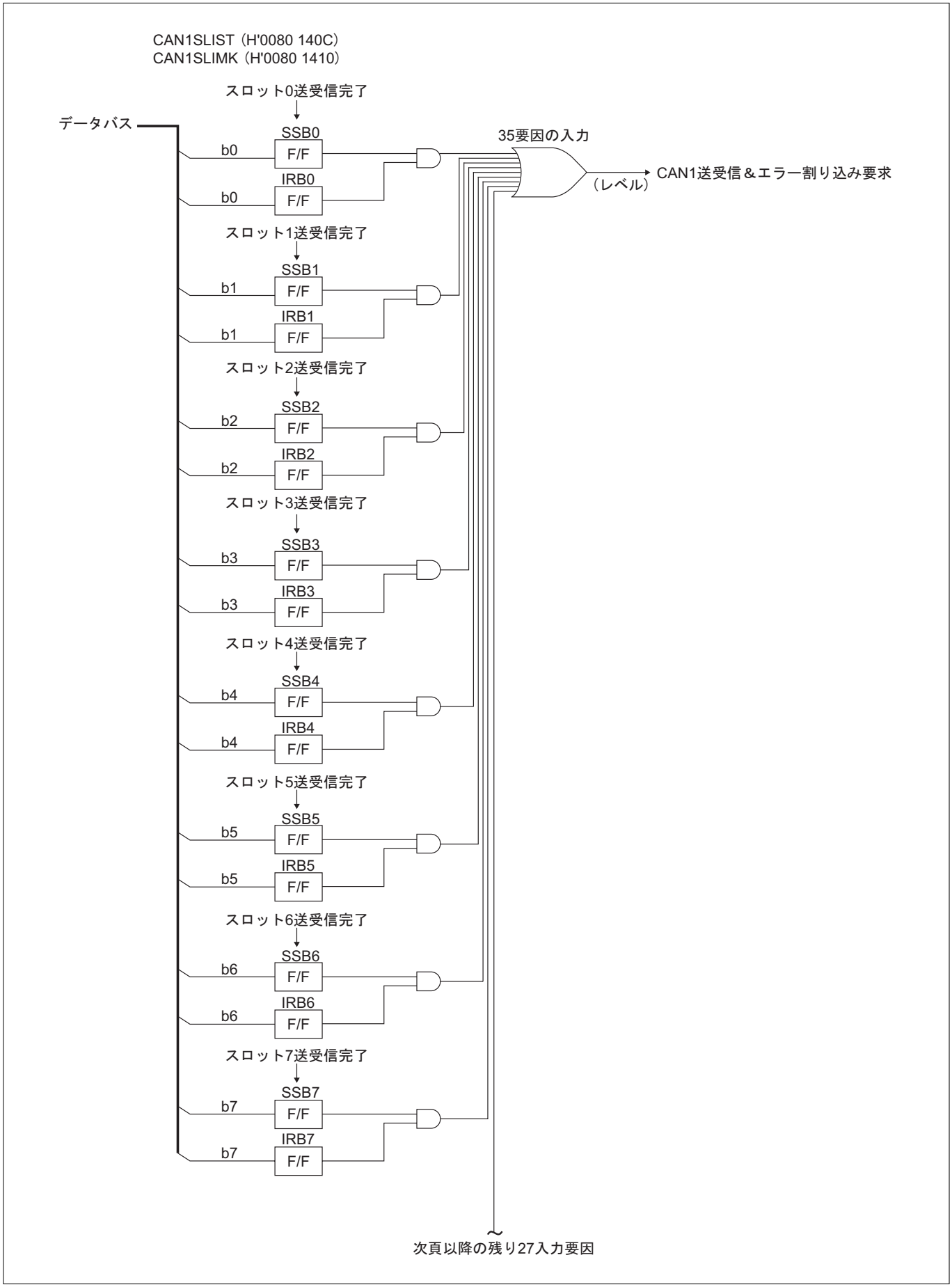


図13.2.8　CAN1**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（1/5）

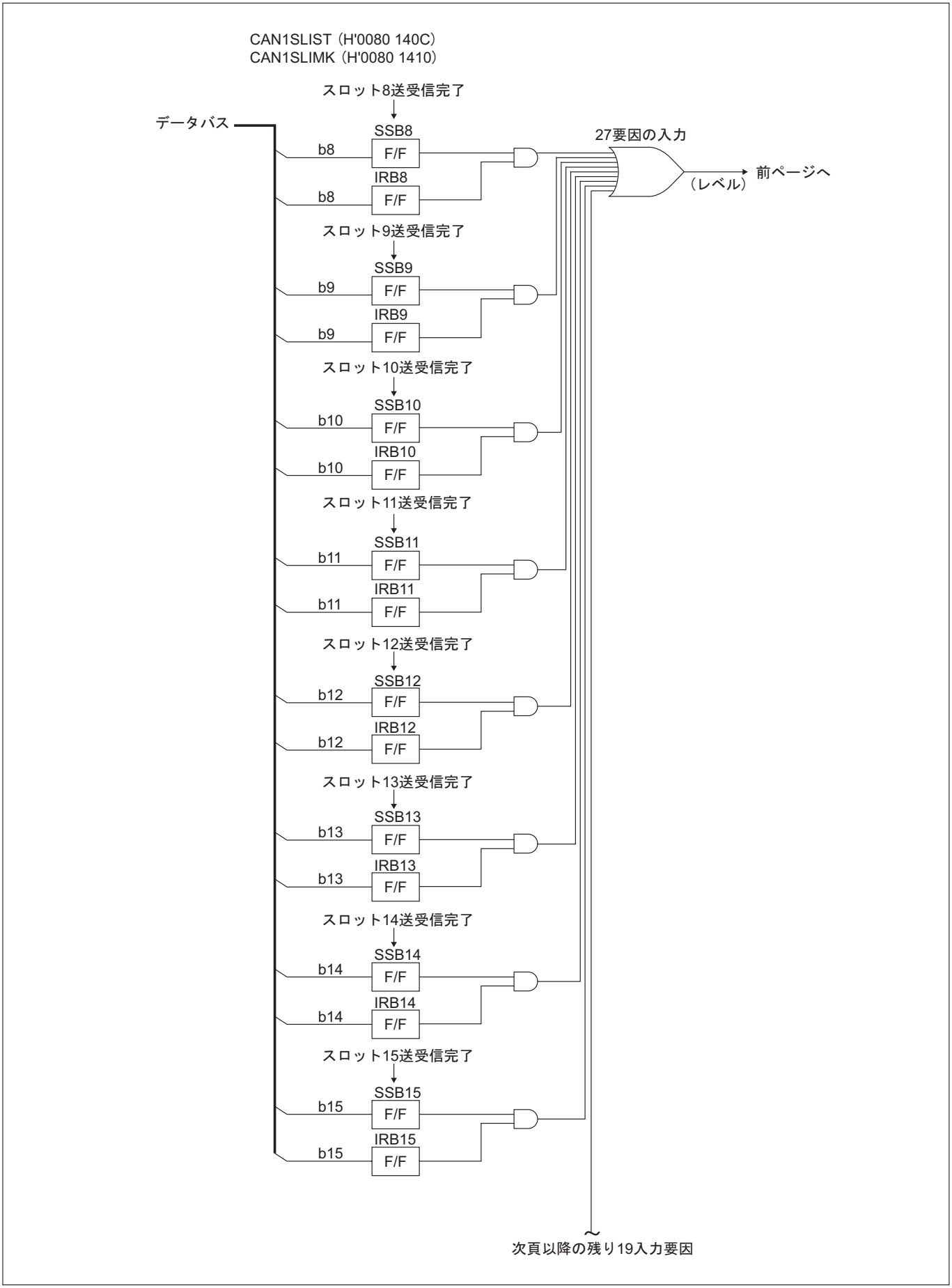


図13.2.9　CAN1**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（2/5）

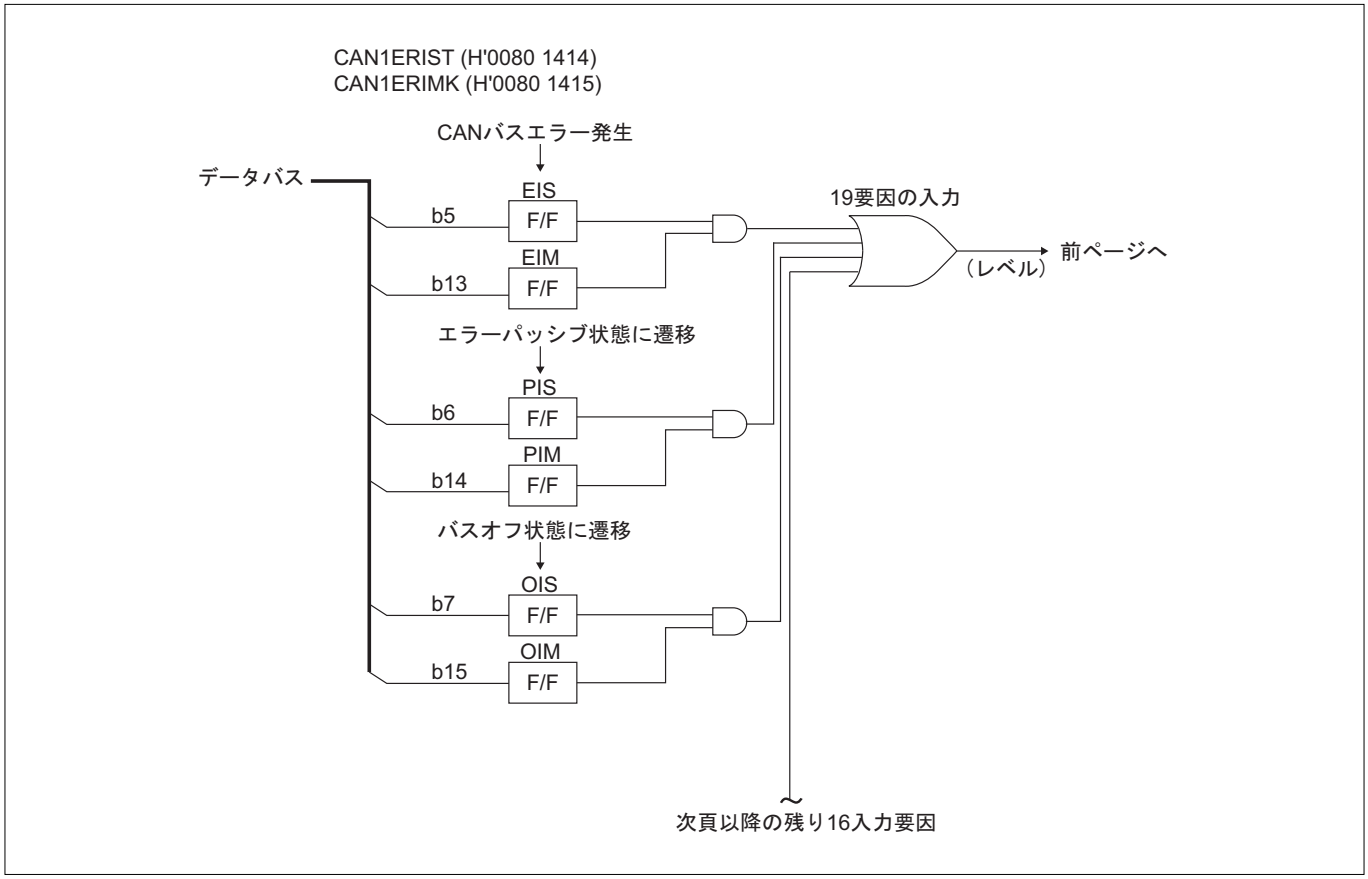


図13.2.10　CAN1**送受信&エラー割り込み要求ブロック図**（3/5）

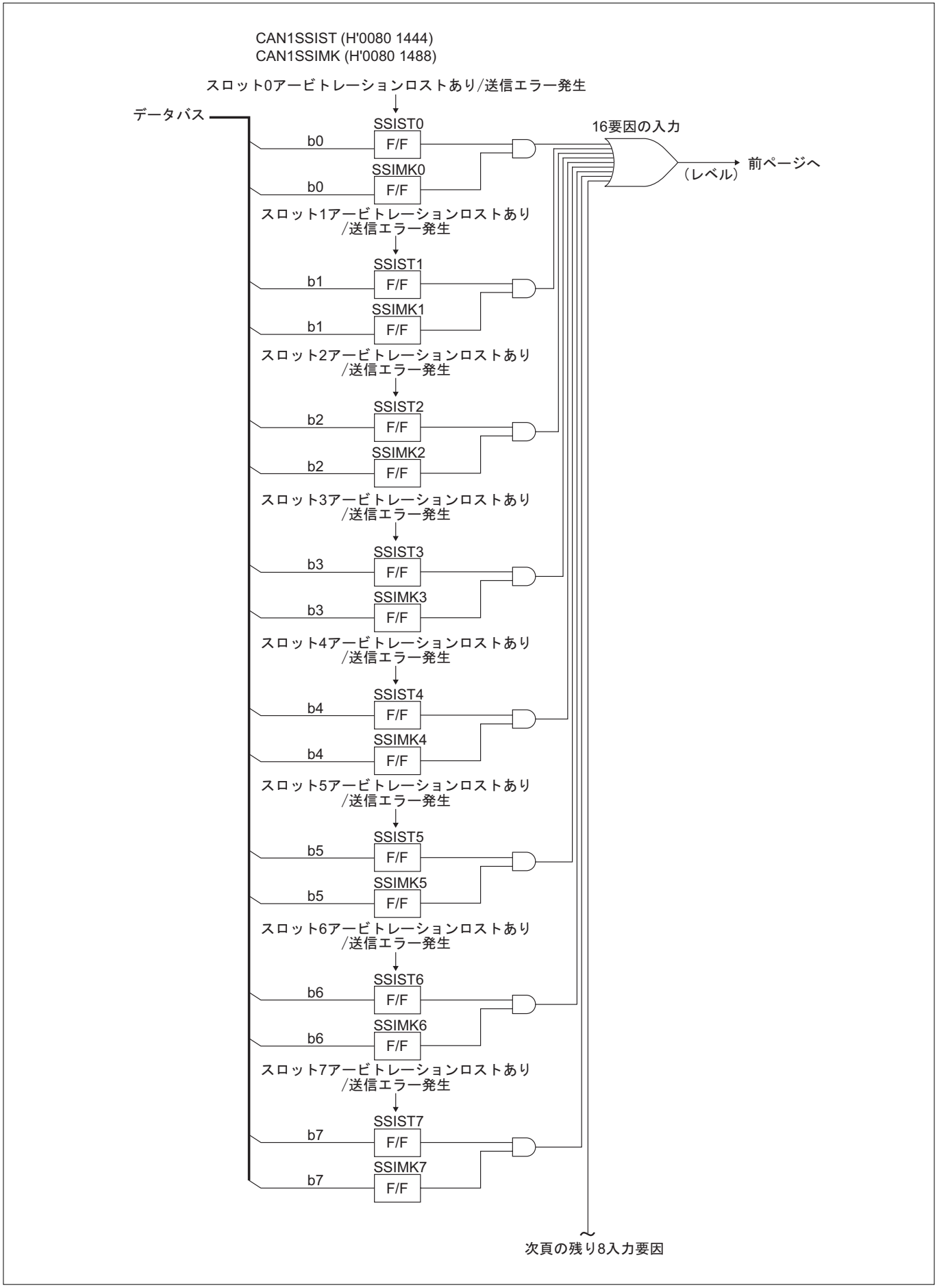


図13.2.11　CAN1送受信&エラー割り込み要求ブロック図（4/5）

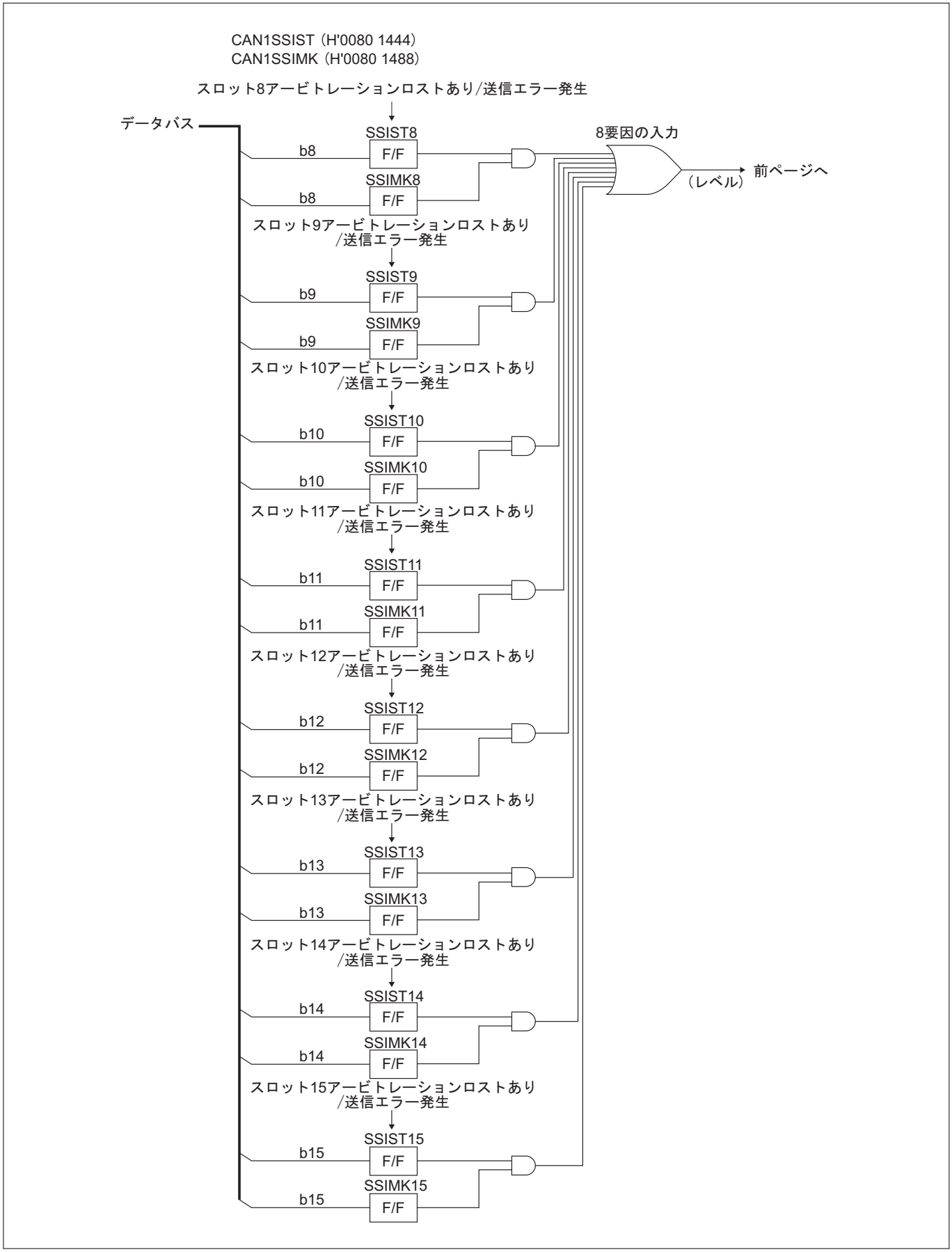


図13.2.12　CAN1**送受信**&**エラー割り込み要求ブロック図**（5/5）

13.2.9　CANエラー要因レジスタ

CAN0エラー要因レジスタ（CAN0EF）　　＜アドレス：H'0080 1017＞
CAN1エラー要因レジスタ（CAN1EF）　　＜アドレス：H'0080 1417＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
TRE	RCVE	BITE0	BITE1	STFE	FORME	CRCE	ACKE
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R　W
8	TRE 送信エラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： 送信エラー検出	R（注1）
9	RCVE 受信エラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： 受信エラー検出	R（注1）
10	BITE0 "0"送信中ビットエラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ："0"送信中にビットエラー検出	R（注1）
11	BITE1 "1"送信中ビットエラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： "1"送信中にビットエラー検出	R（注1）
12	STFE スタッフエラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： スタッフエラーを検出	R（注1）
13	FORME フォームエラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： フォームエラーを検出	R（注1）
14	CRCE CRCエラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： CRCエラーを検出	R（注1）
15	ACKE ACKエラー検出ビット	0 ： 未検出 1 ： ACKエラーを検出	R（注1）

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

通信エラー発生時、エラー情報を表示するレジスタです。
各ビットのセットは通信エラー検出ごとに行なわれ、"0"書込みを行なわない限りクリアされることはありません。

(1) TRE（送信エラー検出）ビット（b8）

送信ノード時に通信エラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(2) RCVE（受信エラー検出）ビット（b9）

受信ノード時に通信エラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(3) BITE0（"0"送信中ビットエラー検出）ビット（b10）

CTXから"0"を送信中にビットエラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(4) BITE1（"1"送信中ビットエラー検出）ビット（b11）

CTXから"1"を送信中にビットエラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(5) STFE(スタッフエラー検出)ビット（b12）

スタッフエラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(6) FORME(フォームエラー検出)ビット（b13）

フォームエラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(7) CRCE(CRCエラー検出)ビット（b14）

CRCエラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

(8) ACKE(ACKエラー検出)ビット（b15）

ACKエラーを検出した場合、"1"にセットされます。
このビットに"0"を書き込むことによってクリアされます。

注．・エラー状態によっては複数ビットが同時にセットされる場合があります。

13.2.10　CANモードレジスタ

CAN0モードレジスタ（CAN0MOD）　　＜アドレス：H'0080 1018＞
CAN1モードレジスタ（CAN1MOD）　　＜アドレス：H'0080 1418＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
						CMOD	
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0〜5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6〜7	CMOD CAN動作モード選択ビット	00 ： 通常モード 01 ： バスモニタモード 10 ： 自己診断モード 11 ： 設定禁止	R	W

(1) CMOD（CAN動作モード選択）ビット （b6, b7）

CANの動作モードを選択します。

• 通常動作モード

通常の送受信を行うことができます。

• バスモニタモード

受信動作のみを行うモードです。バスモニタモードではCTX出力は"H"固定となり、ACKを返すこともエラーフレームを返すこともできません。

注．・バスモニタモード時は、送信要求を出すことは禁止です。
バスモニタモード時は、ACKビットは"Don't Care"として扱われます。従って、CRCデリミタまで正常に受信できた場合、ACKビットが"H"でも正常受信できたものと判定されます。

• 自己診断モード

CANモジュール内部で、CTX-CRXを接続します。ループバックモードと組み合わせることによってCAN単体で通信を行うことができます。自己診断モード時は、送信中もCTX端子出力が"H"固定となります。

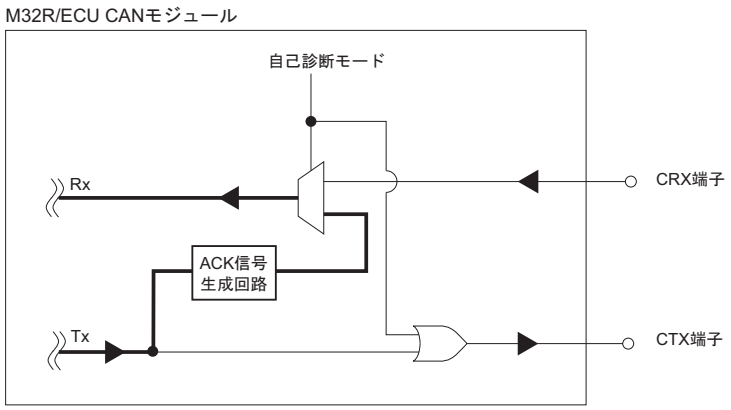


図13.2.13　自己診断モード（イメージ図）

13.2.11　CAN DMA転送要求選択レジスタ

CAN0DMA転送要求選択レジスタ（CAN0DMARQ）　＜アドレス：H'0080 1019＞
CAN1DMA転送要求選択レジスタ（CAN1DMARQ）　＜アドレス：H'0080 1419＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
						CDMSEL1	CDMSEL0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～13	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
14	CDMSEL1 CANDMA1転送要求要因選択ビット	0 ： スロット1送信失敗 1 ： スロット14送受信完了	R	W
15	CDMSEL0 CANDMA0転送要求要因選択ビット	0 ： スロット0送信失敗 1 ： スロット15送受信完了	R	W

CAN0、1はDMA転送要求を発生させることができます。このレジスタではその要因を選択します。

(1) CDMSEL1（CANDMA1転送要求要因選択）ビット（b14）

DMA7、DMA9への転送要求要因として、次の2つから選択します。

- **スロット1送信失敗**
  CDMSEL1ビットに"0"セットした場合、スロット1での送信がアービトレーションロストか送信エラーによって失敗したときに転送要求を発生します。
- **スロット14送受信完了**
  CDMSEL1ビットに"1"をセットした場合、スロット14での送受信が完了したときに転送要求を発生します。

注．・スロット14をリモートフレーム送信設定にした場合は、リモートフレーム送信完了/データフレーム受信完了のそれぞれの事象に対してDMA転送要求を発生します。
・スロット14をリモートフレーム受信（自動応答）設定にした場合、リモートフレーム受信完了/データフレーム送信完了のそれぞれの事象に対してDMA転送要求を発生します。

(2) CDMSEL0（CANDMA0転送要求要因選択）ビット（b15）

DMA6、DMA8への転送要求要因として、次の2つから選択します。

- **スロット0送信失敗**
  CDMSEL0ビットに"0"をセットした場合、スロット0での送信がアービトレーションロストか送信エラーによって失敗したときに転送要求を発生します。
- **スロット15送受信完了**
  CDMSEL0ビットに"1"をセットした場合、スロット15での送受信が完了したときに転送要求を発生します。

注．・スロット15をリモートフレーム送信設定にした場合、リモートフレーム送信完了/データフレーム受信完了のそれぞれの事象に対してDMA転送要求を発生します。
・スロット15をリモートフレーム受信（自動応答）設定にした場合、リモートフレーム受信完了/データフレーム送信完了のそれぞれの事象に対してDMA転送要求を発生します。

13.2.12　CANマスクレジスタ

CAN0グローバルマスクレジスタ標準ID0(C0GMSKS0)　＜アドレス：H'0080 1028＞
CAN0ローカルマスクレジスタA標準ID0(C0LMSKAS0)　＜アドレス：H'0080 1030＞
CAN0ローカルマスクレジスタB標準ID0(C0LMSKBS0)　＜アドレス：H'0080 1038＞

CAN1グローバルマスクレジスタ標準ID0(C1GMSKS0)　＜アドレス：H'0080 1428＞
CAN1ローカルマスクレジスタA標準ID0(C1LMSKAS0)　＜アドレス：H'0080 1430＞
CAN1ローカルマスクレジスタB標準ID0(C1LMSKBS0)　＜アドレス：H'0080 1438＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
			SID0M	SID1M	SID2M	SID3M	SID4M
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3～7	SID0M～SID4M (標準マスクID0～標準マスクID4)	0 ： IDチェックなし 1 ： IDチェックあり	R	W

CAN0グローバルマスクレジスタ標準ID1(C0GMSKS1)　＜アドレス：H'0080 1029＞
CAN0ローカルマスクレジスタA標準ID1(C0LMSKAS1)　＜アドレス：H'0080 1031＞
CAN0ローカルマスクレジスタB標準ID1(C0LMSKBS1)　＜アドレス：H'0080 1039＞

CAN1グローバルマスクレジスタ標準ID1(C1GMSKS1)　＜アドレス：H'0080 1429＞
CAN1ローカルマスクレジスタA標準ID1(C1LMSKAS1)　＜アドレス：H'0080 1431＞
CAN1ローカルマスクレジスタB標準ID1(C1LMSKBS1)　＜アドレス：H'0080 1439＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
		SID5M	SID6M	SID7M	SID8M	SID9M	SID10M
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～9	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
10～15	SID5M～SID10M (標準マスクID5～標準マスクID10)	0 ： IDチェックなし 1 ： IDチェックあり	R	W

アクセプタンスフィルタリングに使用するマスクレジスタには、グローバルマスクレジスタ、ローカルマスクレジスタA、ローカルマスクレジスタBがあります。

グローバルマスクレジスタはメッセージスロット0～13に、ローカルマスクレジスタA、Bはそれぞれメッセージスロット14、15に適用されます。

- "0"を設定した場合、該当ビットに対応するIDビットはアクセプタンスフィルタリング時にマスク(該当ビットはIDマッチしたものとみなされます)されます。
- "1"を設定した場合、該当ビットに対応するIDビットはアクセプタンスフィルタリング時に受信ID比較され、メッセージスロットに設定されたIDと一致した場合受信データが格納されます。

注．
- SID0Mが標準IDのMSBに対応します。
- **グローバルマスクレジスタの変更は、スロット0～13のどのスロットにも受信要求をセットしていない状態で行ってください。**
- **ローカルマスクレジスタAの変更は、スロット14に受信要求をセットしていない状態で行ってください。**
- **ローカルマスクレジスタBの変更は、スロット15に受信要求をセットしていない状態で行ってください。**

CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID0（C0GMSKE0）　＜アドレス：H'0080 102A＞
CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID0（C0LMSKAE0）　＜アドレス：H'0080 1032＞
CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID0（C0LMSKBE0）　＜アドレス：H'0080 103A＞

CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID0（C1GMSKE0）　＜アドレス：H'0080 142A＞
CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID0（C1LMSKAE0）　＜アドレス：H'0080 1432＞
CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID0（C1LMSKBE0）　＜アドレス：H'0080 143A＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
				EID0M	EID1M	EID2M	EID3M
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0～3	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
4～7	EID0M～EID3M （拡張マスクID0～拡張マスクID3）	0 ： IDチェックなし 1 ： IDチェックあり	R	W

CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID1（C0GMSKE1）　＜アドレス：H'0080 102B＞
CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID1（C0LMSKAE1）　＜アドレス：H'0080 1033＞
CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID1（C0LMSKBE1）　＜アドレス：H'0080 103B＞

CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID1（C1GMSKE1）　＜アドレス：H'0080 142B＞
CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID1（C1LMSKAE1）　＜アドレス：H'0080 1433＞
CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID1（C1LMSKBE1）　＜アドレス：H'0080 143B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
EID4M	EID5M	EID6M	EID7M	EID8M	EID9M	EID10M	EID11M
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～15	EID4M～EID11M （拡張マスクID4～拡張マスクID11）	0 ： IDチェックなし 1 ： IDチェックあり	R	W

CAN0グローバルマスクレジスタ拡張ID2（C0GMSKE2）　＜アドレス：H'0080 102C＞
CAN0ローカルマスクレジスタA拡張ID2（C0LMSKAE2）　＜アドレス：H'0080 1034＞
CAN0ローカルマスクレジスタB拡張ID2（C0LMSKBE2）　＜アドレス：H'0080 103C＞

CAN1グローバルマスクレジスタ拡張ID2（C1GMSKE2）　＜アドレス：H'0080 142C＞
CAN1ローカルマスクレジスタA拡張ID2（C1LMSKAE2）　＜アドレス：H'0080 1434＞
CAN1ローカルマスクレジスタB拡張ID2（C1LMSKBE2）　＜アドレス：H'0080 143C＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
		EID12M	EID13M	EID14M	EID15M	EID16M	EID17M
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2～7	EID12M～EID17M （拡張マスクID12～拡張マスクID17）	0 ： IDチェックなし 1 ： IDチェックあり	R	W

アクセプタンスフィルタリングに使用するマスクレジスタには、グローバルマスクレジスタ、ローカルマスクレジスタA、ローカルマスクレジスタBがあります。

グローバルマスクレジスタはメッセージスロット0～13に、ローカルマスクレジスタA、Bはそれぞれメッセージスロット14、15に適応されます。

- "0"を設定した場合、該当ビットに対応するIDビットはアクセプタンスフィルタリング時にマスク（該当ビットはIDマッチしたものとみなされます）されます。
- "1"を設定した場合、該当ビットに対応するIDビットはアクセプタンスフィルタリング時に受信IDと比較され、メッセージスロットに設定されたIDと一致した場合受信デー タが格納されます。

注．
- EID0Mが拡張IDのMSBに対応します。
- **グローバルマスクレジスタの変更は、スロット0～13のどのスロットにも受信要求をセットしていない状態で行ってください。**
- **ローカルマスクレジスタAの変更は、スロット14に受信要求をセットしていない状態で行ってください。**
- **ローカルマスクレジスタBの変更は、スロット15に受信要求をセットしていない状態で行ってください。**

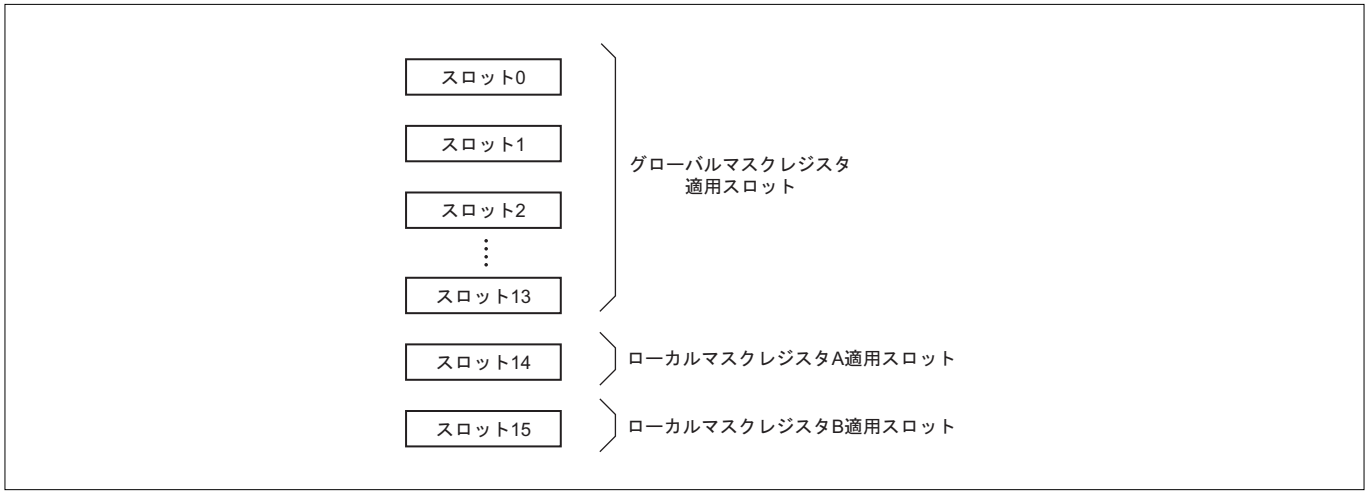


図13.2.14　**マスクレジスタと適用スロットの対応**

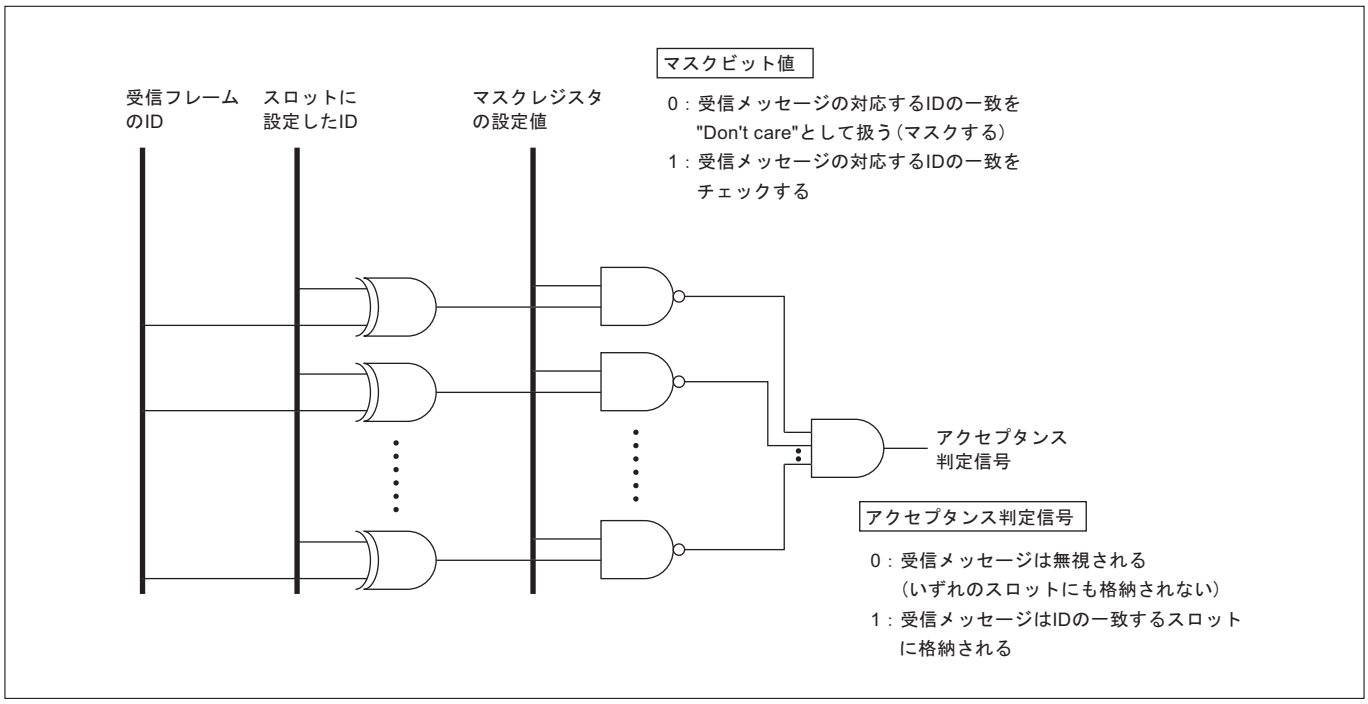


図13.2.15　**アクセプタンスフィルタ動作説明**

13.2.13　CANシングルショットモード制御レジスタ

CAN0シングルショットモード制御レジスタ（CAN0SSMODE）　＜アドレス：H'0080 1040＞
CAN1シングルショットモード制御レジスタ（CAN1SSMODE）　＜アドレス：H'0080 1440＞

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
SSCNT0	SSCNT1	SSCNT2	SSCNT3	SSCNT4	SSCNT5	SSCNT6	SSCNT7	SSCNT8	SSCNT9	SSCNT10	SSCNT11	SSCNT12	SSCNT13	SSCNT14	SSCNT15
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'0000＞

b	ビット名	機能	R	W
0	SSCNT0（スロット0シングルショットモードビット）	0：通常モード	R	W
1	SSCNT1（スロット1シングルショットモードビット）	1：シングルショットモード		
2	SSCNT2（スロット2シングルショットモードビット）			
3	SSCNT3（スロット3シングルショットモードビット）			
4	SSCNT4（スロット4シングルショットモードビット）			
5	SSCNT5（スロット5シングルショットモードビット）			
6	SSCNT6（スロット6シングルショットモードビット）			
7	SSCNT7（スロット7シングルショットモードビット）			
8	SSCNT8（スロット8シングルショットモードビット）			
9	SSCNT9（スロット9シングルショットモードビット）			
10	SSCNT10（スロット10シングルショットモードビット）			
11	SSCNT11（スロット11シングルショットモードビット）			
12	SSCNT12（スロット12シングルショットモードビット）			
13	SSCNT13（スロット13シングルショットモードビット）			
14	SSCNT14（スロット14シングルショットモードビット）			
15	SSCNT15（スロット15シングルショットモードビット）			

通常、CANではアービトレーションロストや送信エラーによって送信に失敗した場合、送信が成功するまで送信動作を実行しつづけます。このレジスタでは、その再送信動作を行うかどうかについてスロットごとに制御することができます。

シングルショットモードでは、アービトレーションロストや送信エラーによって送信に失敗した場合、再送信動作を行いません。SSCNTnビット（n＝0～15）に"1"をセットすると対応するスロットnは、シングルショットモードで動作します。

注．・このレジスタの設定変更は、変更を加えるビットに対応したスロットのメッセージスロットコントロールレジスタの値がH'00の状態で行ってください。

13.2.14　CANメッセージスロットコントロールレジスタ

CAN0メッセージスロット0コントロールレジスタ（C0MSL0CNT）	＜アドレス：H'0080 1050＞
CAN0メッセージスロット1コントロールレジスタ（C0MSL1CNT）	＜アドレス：H'0080 1051＞
CAN0メッセージスロット2コントロールレジスタ（C0MSL2CNT）	＜アドレス：H'0080 1052＞
CAN0メッセージスロット3コントロールレジスタ（C0MSL3CNT）	＜アドレス：H'0080 1053＞
CAN0メッセージスロット4コントロールレジスタ（C0MSL4CNT）	＜アドレス：H'0080 1054＞
CAN0メッセージスロット5コントロールレジスタ（C0MSL5CNT）	＜アドレス：H'0080 1055＞
CAN0メッセージスロット6コントロールレジスタ（C0MSL6CNT）	＜アドレス：H'0080 1056＞
CAN0メッセージスロット7コントロールレジスタ（C0MSL7CNT）	＜アドレス：H'0080 1057＞
CAN0メッセージスロット8コントロールレジスタ（C0MSL8CNT）	＜アドレス：H'0080 1058＞
CAN0メッセージスロット9コントロールレジスタ（C0MSL9CNT）	＜アドレス：H'0080 1059＞
CAN0メッセージスロット10コントロールレジスタ（C0MSL10CNT）	＜アドレス：H'0080 105A＞
CAN0メッセージスロット11コントロールレジスタ（C0MSL11CNT）	＜アドレス：H'0080 105B＞
CAN0メッセージスロット12コントロールレジスタ（C0MSL12CNT）	＜アドレス：H'0080 105C＞
CAN0メッセージスロット13コントロールレジスタ（C0MSL13CNT）	＜アドレス：H'0080 105D＞
CAN0メッセージスロット14コントロールレジスタ（C0MSL14CNT）	＜アドレス：H'0080 105E＞
CAN0メッセージスロット15コントロールレジスタ（C0MSL15CNT）	＜アドレス：H'0080 105F＞
CAN1メッセージスロット0コントロールレジスタ（C1MSL0CNT）	＜アドレス：H'0080 1450＞
CAN1メッセージスロット1コントロールレジスタ（C1MSL1CNT）	＜アドレス：H'0080 1451＞
CAN1メッセージスロット2コントロールレジスタ（C1MSL2CNT）	＜アドレス：H'0080 1452＞
CAN1メッセージスロット3コントロールレジスタ（C1MSL3CNT）	＜アドレス：H'0080 1453＞
CAN1メッセージスロット4コントロールレジスタ（C1MSL4CNT）	＜アドレス：H'0080 1454＞
CAN1メッセージスロット5コントロールレジスタ（C1MSL5CNT）	＜アドレス：H'0080 1455＞
CAN1メッセージスロット6コントロールレジスタ（C1MSL6CNT）	＜アドレス：H'0080 1456＞
CAN1メッセージスロット7コントロールレジスタ（C1MSL7CNT）	＜アドレス：H'0080 1457＞
CAN1メッセージスロット8コントロールレジスタ（C1MSL8CNT）	＜アドレス：H'0080 1458＞
CAN1メッセージスロット9コントロールレジスタ（C1MSL9CNT）	＜アドレス：H'0080 1459＞
CAN1メッセージスロット10コントロールレジスタ（C1MSL10CNT）	＜アドレス：H'0080 145A＞
CAN1メッセージスロット11コントロールレジスタ（C1MSL11CNT）	＜アドレス：H'0080 145B＞
CAN1メッセージスロット12コントロールレジスタ（C1MSL12CNT）	＜アドレス：H'0080 145C＞
CAN1メッセージスロット13コントロールレジスタ（C1MSL13CNT）	＜アドレス：H'0080 145D＞
CAN1メッセージスロット14コントロールレジスタ（C1MSL14CNT）	＜アドレス：H'0080 145E＞
CAN1メッセージスロット15コントロールレジスタ（C1MSL15CNT）	＜アドレス：H'0080 145F＞

b0(b8)	1	2	3	4	5	6	b7(b15)
TR	RR	RM	RL	RA	ML	TRSTAT	TRFIN
0	0	0	0	0	0	0	0

<リセット解除時：H'00>

b	ビット名	機能	R	W
0 (8)	TR 送信要求ビット	0：メッセージスロットを送信スロットとして使用しない 1：メッセージスロットを送信スロットとして使用する	R	W
1 (9)	RR 受信要求ビット	0：メッセージスロットを受信スロットとして使用しない 1：メッセージスロットを受信スロットとして使用する	R	W
2 (10)	RM リモートビット	0：データフレームの送受信 1：リモートフレームの送受信	R	W
3 (11)	RL 自動応答禁止ビット	0：リモートフレームに対する自動応答許可 1：リモートフレームに対する自動応答禁止	R	W
4 (12)	RA リモートアクティブビット	BasicCANモード時 0：データフレーム受信(ステータス) 1：リモートフレーム受信(ステータス) 通常モード時 0：データフレーム 1：リモートフレーム	R	ー
5 (13)	ML メッセージロストビット	0：メッセージロスト発生なし 1：メッセージロスト発生	R（注1）	
6 (14)	TRSTAT 送受信ステータスビット	送信スロット時 0：送信停止 1：送信要求受付 受信スロット時 0：受信停止 1：受信データ格納中	R	ー
7 (15)	TRFIN 送受信完了ビット	送信スロット時 0：未送信 1：送信完了 受信スロット時 0：未受信 1：受信完了	R（注1）	

注1．書き込みは"0"のみ有効。"1"を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持します。

注．・CANモジュールがリセット状態(CANnCNTのFRSTまたはRSTビットが"1"にセットされた状態)でCANメッセージスロットコントロールレジスタに送信要求を書き込んだ場合、CANモジュールのリセット解除後CANバス上に11ビットの連続したレセシブビットを検出した後に、送信を開始します。
・複数スロットにデータ/リモートフレーム送信要求が出ている場合、スロット番号の一番小さいスロットがフレーム送信を行います。
複数スロットにデータ/リモートフレーム受信要求が出ている場合、受信条件を満たすスロットのうち、スロット番号の一番小さいスロットがフレーム受信を行います。
・シングルショットモード設定時、送信に失敗した場合このレジスタはH'00にクリアされます。

(1) TR(送信要求)ビット（b0，b8）

メッセージスロットを送信スロットとして使用する場合に"1"を設定します。
データフレーム受信/リモートフレーム受信スロットとして使用する場合は、"0"を設定してください。

(2) RR(受信要求)ビット（b1, b9）

メッセージボックスを受信スロットとして使用する場合に"1"を設定します。
データフレーム送信/リモートフレーム送信スロットとして使用する場合は、"0"を設定してください。
TR(送信要求)ビットとRR(受信要求)ビットを両方とも"1"に設定した場合、動作は不定になります。

(3) RM(リモート)ビット（b2, b10）

メッセージスロットでリモートフレームを扱う場合に"1"を設定します。
リモートフレームを扱う設定には以下の2通りがあります。

- **リモートフレーム送信設定**
  メッセージスロットに設定されているデータをリモートフレームとして送信します。送信終了後は自動的にデータフレーム受信スロットに切り換わります。
  ただし、リモートフレームの送信が完了する前にデータフレームを受信した場合は、そのデータをメッセージスロットへ格納しリモートフレームの送信は行いません。
- **リモートフレーム受信設定**
  リモートフレームを受信します。受信後の処理はRL(自動応答禁止)ビットにより選択します。

(4) RL(自動応答禁止)ビット（b3, b11）

リモートフレーム受信スロットとして設定した場合に有効なビットで、リモートフレーム受信後の処理を選択します。
"0"を設定した場合は、リモートフレーム受信後、自動的に送信スロットに切り換わり、メッセージスロットに設定されているデータをデータフレームとして送信します。
また、"1"を設定した場合は、リモートフレーム受信後、停止します。

注．・リモートフレーム受信スロット以外の設定の場合は、必ず"0"を設定してください。

(5) RA(リモートアクティブ)ビット（b4, b12）

スロット0～13までと、スロット14、15では機能が異なります。

- **スロット0～13**
  スロットをリモートフレーム送信(受信)として設定した場合、RA(リモートアクティブ)ビットに"1"がセットされます。その後、リモートフレームの送信(受信)が完了すると"0"にクリアされます。
- **スロット14、15**
  CANコントロールレジスタのBCM(BasicCANモード)ビットの設定によって機能が異なります。

BCM＝"0"(通常動作時)：スロットをリモートフレーム送信(受信)として設定した場合、RA(リモートアクティブ)ビットに"1"がセットされます。
BCM＝"1"(BasicCAN)：RAビットは、どのタイプのフレームを受信したかを示します。BasicCANモード時のスロット14、15ではデータフレーム、リモートフレームともに受信データの格納を行います。
RA＝"0"：スロットに格納されているフレームがデータフレームである事を示します。
RA＝"1"：スロットに格納されているフレームがリモートフレームである事を示します。

(6) ML(メッセージロスト)ビット（b5, b13）

受信スロット時に有効なビットで、メッセージスロットに未読の受信データがあり、受信により上書きされた場合に"1"がセットされます。
このビットはソフトウェアによる"0"書き込みでクリアされます。

(7) TRSTAT(送受信ステータス)ビット（b6，b14）

CANモジュールが送受信中で、メッセージスロットへアクセス中であることを示します。アクセス中は"1"がセットされ、アクセスしていないときは"0"がセットされます。

・送信スロット時

メッセージスロットの送信要求が受け付けられたとき、"1"がセットされます。アービトレーションに敗れた場合、CANバスエラー発生、送信完了によって"0"にクリアされます。

・受信スロット時

データ受信中でメッセージスロットに受信データを格納中であるとき、"1"がセットされます。このビットが"1"の間にメッセージスロットから読み出した値は不定値となりますのでご注意ください。

(8) TRFIN(送受信完了)ビット（b7，b15）

CANモジュールが送受信を完了したことを示します。

・送信スロット設定時

メッセージスロットのデータが送信完了したとき、"1"がセットされます。

このビットはソフトウェアによる"0"書き込みでクリアされます。ただし、TRSTAT(送受信ステータス)ビットが"1"の場合は"0"クリアできません。

・受信スロット設定時

メッセージスロットへ格納すべきデータを正常受信にしたとき、"1"がセットされます。

このビットはソフトウェアによる"0"書き込みでクリアされます。ただし、TRSTAT(送受信ステータス)ビットが"1"の場合は"0"クリアできません。

注．・受信データをメッセージスロットから読み出す場合は、読み出し前にTRFIN(送受信完了)ビットを"0"にクリアしてください。また、読み出し後にTRFIN(送受信完了)ビットが"1"にセットされていた場合は、読み出し中に新しい受信データが格納され、読み出し値に不定値が含まれていることを示します。その場合は、読み出しデータを破棄し、TRFIN(送受信完了)ビットを"0"にクリア後、再度読み出し処理を行ってください。

・リモートフレーム送受信時は、TRFINビットはハードウェアにより自動的にクリア動作が行われます。TRFINビットを送受信完了フラグとして使用できません。

13.2.15　CANメッセージスロット

CAN0メッセージスロット0標準ID0(C0MSL0SID0)　＜アドレス：H'0080 1100＞
CAN0メッセージスロット1標準ID0(C0MSL1SID0)　＜アドレス：H'0080 1110＞
CAN0メッセージスロット2標準ID0(C0MSL2SID0)　＜アドレス：H'0080 1120＞
CAN0メッセージスロット3標準ID0(C0MSL3SID0)　＜アドレス：H'0080 1130＞
CAN0メッセージスロット4標準ID0(C0MSL4SID0)　＜アドレス：H'0080 1140＞
CAN0メッセージスロット5標準ID0(C0MSL5SID0)　＜アドレス：H'0080 1150＞
CAN0メッセージスロット6標準ID0(C0MSL6SID0)　＜アドレス：H'0080 1160＞
CAN0メッセージスロット7標準ID0(C0MSL7SID0)　＜アドレス：H'0080 1170＞
CAN0メッセージスロット8標準ID0(C0MSL8SID0)　＜アドレス：H'0080 1180＞
CAN0メッセージスロット9標準ID0(C0MSL9SID0)　＜アドレス：H'0080 1190＞
CAN0メッセージスロット10標準ID0(C0MSL10SID0)　＜アドレス：H'0080 11A0＞
CAN0メッセージスロット11標準ID0(C0MSL11SID0)　＜アドレス：H'0080 11B0＞
CAN0メッセージスロット12標準ID0(C0MSL12SID0)　＜アドレス：H'0080 11C0＞
CAN0メッセージスロット13標準ID0(C0MSL13SID0)　＜アドレス：H'0080 11D0＞
CAN0メッセージスロット14標準ID0(C0MSL14SID0)　＜アドレス：H'0080 11E0＞
CAN0メッセージスロット15標準ID0(C0MSL15SID0)　＜アドレス：H'0080 11F0＞

CAN1メッセージスロット0標準ID0(C1MSL0SID0)　＜アドレス：H'0080 1500＞
CAN1メッセージスロット1標準ID0(C1MSL1SID0)　＜アドレス：H'0080 1510＞
CAN1メッセージスロット2標準ID0(C1MSL2SID0)　＜アドレス：H'0080 1520＞
CAN1メッセージスロット3標準ID0(C1MSL3SID0)　＜アドレス：H'0080 1530＞
CAN1メッセージスロット4標準ID0(C1MSL4SID0)　＜アドレス：H'0080 1540＞
CAN1メッセージスロット5標準ID0(C1MSL5SID0)　＜アドレス：H'0080 1550＞
CAN1メッセージスロット6標準ID0(C1MSL6SID0)　＜アドレス：H'0080 1560＞
CAN1メッセージスロット7標準ID0(C1MSL7SID0)　＜アドレス：H'0080 1570＞
CAN1メッセージスロット8標準ID0(C1MSL8SID0)　＜アドレス：H'0080 1580＞
CAN1メッセージスロット9標準ID0(C1MSL9SID0)　＜アドレス：H'0080 1590＞
CAN1メッセージスロット10標準ID0(C1MSL10SID0)　＜アドレス：H'0080 15A0＞
CAN1メッセージスロット11標準ID0(C1MSL11SID0)　＜アドレス：H'0080 15B0＞
CAN1メッセージスロット12標準ID0(C1MSL12SID0)　＜アドレス：H'0080 15C0＞
CAN1メッセージスロット13標準ID0(C1MSL13SID0)　＜アドレス：H'0080 15D0＞
CAN1メッセージスロット14標準ID0(C1MSL14SID0)　＜アドレス：H'0080 15E0＞
CAN1メッセージスロット15標準ID0(C1MSL15SID0)　＜アドレス：H'0080 15F0＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
?	?	?	SID0 ?	SID1 ?	SID2 ?	SID3 ?	SID4 ?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～2	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
3～7	SID0～SID4 (標準ID0～標準ID4)	標準ID0～標準ID4	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

CAN0メッセージスロット0標準ID1(C0MSL0SID1)　＜アドレス：H'0080 1101＞
CAN0メッセージスロット1標準ID1(C0MSL1SID1)　＜アドレス：H'0080 1111＞
CAN0メッセージスロット2標準ID1(C0MSL2SID1)　＜アドレス：H'0080 1121＞
CAN0メッセージスロット3標準ID1(C0MSL3SID1)　＜アドレス：H'0080 1131＞
CAN0メッセージスロット4標準ID1(C0MSL4SID1)　＜アドレス：H'0080 1141＞
CAN0メッセージスロット5標準ID1(C0MSL5SID1)　＜アドレス：H'0080 1151＞
CAN0メッセージスロット6標準ID1(C0MSL6SID1)　＜アドレス：H'0080 1161＞
CAN0メッセージスロット7標準ID1(C0MSL7SID1)　＜アドレス：H'0080 1171＞
CAN0メッセージスロット8標準ID1(C0MSL8SID1)　＜アドレス：H'0080 1181＞
CAN0メッセージスロット9標準ID1(C0MSL9SID1)　＜アドレス：H'0080 1191＞
CAN0メッセージスロット10標準ID1(C0MSL10SID1)　＜アドレス：H'0080 11A1＞
CAN0メッセージスロット11標準ID1(C0MSL11SID1)　＜アドレス：H'0080 11B1＞
CAN0メッセージスロット12標準ID1(C0MSL12SID1)　＜アドレス：H'0080 11C1＞
CAN0メッセージスロット13標準ID1(C0MSL13SID1)　＜アドレス：H'0080 11D1＞
CAN0メッセージスロット14標準ID1(C0MSL14SID1)　＜アドレス：H'0080 11E1＞
CAN0メッセージスロット15標準ID1(C0MSL15SID1)　＜アドレス：H'0080 11F1＞

CAN1メッセージスロット0標準ID1(C1MSL0SID1)　＜アドレス：H'0080 1501＞
CAN1メッセージスロット1標準ID1(C1MSL1SID1)　＜アドレス：H'0080 1511＞
CAN1メッセージスロット2標準ID1(C1MSL2SID1)　＜アドレス：H'0080 1521＞
CAN1メッセージスロット3標準ID1(C1MSL3SID1)　＜アドレス：H'0080 1531＞
CAN1メッセージスロット4標準ID1(C1MSL4SID1)　＜アドレス：H'0080 1541＞
CAN1メッセージスロット5標準ID1(C1MSL5SID1)　＜アドレス：H'0080 1551＞
CAN1メッセージスロット6標準ID1(C1MSL6SID1)　＜アドレス：H'0080 1561＞
CAN1メッセージスロット7標準ID1(C1MSL7SID1)　＜アドレス：H'0080 1571＞
CAN1メッセージスロット8標準ID1(C1MSL8SID1)　＜アドレス：H'0080 1581＞
CAN1メッセージスロット9標準ID1(C1MSL9SID1)　＜アドレス：H'0080 1591＞
CAN1メッセージスロット10標準ID1(C1MSL10SID1)　＜アドレス：H'0080 15A1＞
CAN1メッセージスロット11標準ID1(C1MSL11SID1)　＜アドレス：H'0080 15B1＞
CAN1メッセージスロット12標準ID1(C1MSL12SID1)　＜アドレス：H'0080 15C1＞
CAN1メッセージスロット13標準ID1(C1MSL13SID1)　＜アドレス：H'0080 15D1＞
CAN1メッセージスロット14標準ID1(C1MSL14SID1)　＜アドレス：H'0080 15E1＞
CAN1メッセージスロット15標準ID1(C1MSL15SID1)　＜アドレス：H'0080 15F1＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
		SID5	SID6	SID7	SID8	SID9	SID10
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
8, 9	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
10～15	SID5～SID10 (標準ID5～標準ID10)	標準ID5～標準ID10	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

CAN0メッセージスロット0拡張ID0(C0MSL0EID0) ＜アドレス：H'0080 1102＞
CAN0メッセージスロット1拡張ID0(C0MSL1EID0) ＜アドレス：H'0080 1112＞
CAN0メッセージスロット2拡張ID0(C0MSL2EID0) ＜アドレス：H'0080 1122＞
CAN0メッセージスロット3拡張ID0(C0MSL3EID0) ＜アドレス：H'0080 1132＞
CAN0メッセージスロット4拡張ID0(C0MSL4EID0) ＜アドレス：H'0080 1142＞
CAN0メッセージスロット5拡張ID0(C0MSL5EID0) ＜アドレス：H'0080 1152＞
CAN0メッセージスロット6拡張ID0(C0MSL6EID0) ＜アドレス：H'0080 1162＞
CAN0メッセージスロット7拡張ID0(C0MSL7EID0) ＜アドレス：H'0080 1172＞
CAN0メッセージスロット8拡張ID0(C0MSL8EID0) ＜アドレス：H'0080 1182＞
CAN0メッセージスロット9拡張ID0(C0MSL9EID0) ＜アドレス：H'0080 1192＞
CAN0メッセージスロット10拡張ID0(C0MSL10EID0) ＜アドレス：H'0080 11A2＞
CAN0メッセージスロット11拡張ID0(C0MSL11EID0) ＜アドレス：H'0080 11B2＞
CAN0メッセージスロット12拡張ID0(C0MSL12EID0) ＜アドレス：H'0080 11C2＞
CAN0メッセージスロット13拡張ID0(C0MSL13EID0) ＜アドレス：H'0080 11D2＞
CAN0メッセージスロット14拡張ID0(C0MSL14EID0) ＜アドレス：H'0080 11E2＞
CAN0メッセージスロット15拡張ID0(C0MSL15EID0) ＜アドレス：H'0080 11F2＞

CAN1メッセージスロット0拡張ID0(C1MSL0EID0) ＜アドレス：H'0080 1502＞
CAN1メッセージスロット1拡張ID0(C1MSL1EID0) ＜アドレス：H'0080 1512＞
CAN1メッセージスロット2拡張ID0(C1MSL2EID0) ＜アドレス：H'0080 1522＞
CAN1メッセージスロット3拡張ID0(C1MSL3EID0) ＜アドレス：H'0080 1532＞
CAN1メッセージスロット4拡張ID0(C1MSL4EID0) ＜アドレス：H'0080 1542＞
CAN1メッセージスロット5拡張ID0(C1MSL5EID0) ＜アドレス：H'0080 1552＞
CAN1メッセージスロット6拡張ID0(C1MSL6EID0) ＜アドレス：H'0080 1562＞
CAN1メッセージスロット7拡張ID0(C1MSL7EID0) ＜アドレス：H'0080 1572＞
CAN1メッセージスロット8拡張ID0(C1MSL8EID0) ＜アドレス：H'0080 1582＞
CAN1メッセージスロット9拡張ID0(C1MSL9EID0) ＜アドレス：H'0080 1592＞
CAN1メッセージスロット10拡張ID0(C1MSL10EID0) ＜アドレス：H'0080 15A2＞
CAN1メッセージスロット11拡張ID0(C1MSL11EID0) ＜アドレス：H'0080 15B2＞
CAN1メッセージスロット12拡張ID0(C1MSL12EID0) ＜アドレス：H'0080 15C2＞
CAN1メッセージスロット13拡張ID0(C1MSL13EID0) ＜アドレス：H'0080 15D2＞
CAN1メッセージスロット14拡張ID0(C1MSL14EID0) ＜アドレス：H'0080 15E2＞
CAN1メッセージスロット15拡張ID0(C1MSL15EID0) ＜アドレス：H'0080 15F2＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
				EID0	EID1	EID2	EID3
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～3	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
4～7	EID0～EID3 (拡張ID0～拡張ID3)	拡張ID0～拡張ID3	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロット標準IDフォーマット設定の場合、受信データ格納時のEIDビットには不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0拡張ID1(C0MSL0EID1)　<アドレス：H'0080 1103>
CAN0メッセージスロット1拡張ID1(C0MSL1EID1)　<アドレス：H'0080 1113>
CAN0メッセージスロット2拡張ID1(C0MSL2EID1)　<アドレス：H'0080 1123>
CAN0メッセージスロット3拡張ID1(C0MSL3EID1)　<アドレス：H'0080 1133>
CAN0メッセージスロット4拡張ID1(C0MSL4EID1)　<アドレス：H'0080 1143>
CAN0メッセージスロット5拡張ID1(C0MSL5EID1)　<アドレス：H'0080 1153>
CAN0メッセージスロット6拡張ID1(C0MSL6EID1)　<アドレス：H'0080 1163>
CAN0メッセージスロット7拡張ID1(C0MSL7EID1)　<アドレス：H'0080 1173>
CAN0メッセージスロット8拡張ID1(C0MSL8EID1)　<アドレス：H'0080 1183>
CAN0メッセージスロット9拡張ID1(C0MSL9EID1)　<アドレス：H'0080 1193>
CAN0メッセージスロット10拡張ID1(C0MSL10EID1)　<アドレス：H'0080 11A3>
CAN0メッセージスロット11拡張ID1(C0MSL11EID1)　<アドレス：H'0080 11B3>
CAN0メッセージスロット12拡張ID1(C0MSL12EID1)　<アドレス：H'0080 11C3>
CAN0メッセージスロット13拡張ID1(C0MSL13EID1)　<アドレス：H'0080 11D3>
CAN0メッセージスロット14拡張ID1(C0MSL14EID1)　<アドレス：H'0080 11E3>
CAN0メッセージスロット15拡張ID1(C0MSL15EID1)　<アドレス：H'0080 11F3>

CAN1メッセージスロット0拡張ID1(C1MSL0EID1)　<アドレス：H'0080 1503>
CAN1メッセージスロット1拡張ID1(C1MSL1EID1)　<アドレス：H'0080 1513>
CAN1メッセージスロット2拡張ID1(C1MSL2EID1)　<アドレス：H'0080 1523>
CAN1メッセージスロット3拡張ID1(C1MSL3EID1)　<アドレス：H'0080 1533>
CAN1メッセージスロット4拡張ID1(C1MSL4EID1)　<アドレス：H'0080 1543>
CAN1メッセージスロット5拡張ID1(C1MSL5EID1)　<アドレス：H'0080 1553>
CAN1メッセージスロット6拡張ID1(C1MSL6EID1)　<アドレス：H'0080 1563>
CAN1メッセージスロット7拡張ID1(C1MSL7EID1)　<アドレス：H'0080 1573>
CAN1メッセージスロット8拡張ID1(C1MSL8EID1)　<アドレス：H'0080 1583>
CAN1メッセージスロット9拡張ID1(C1MSL9EID1)　<アドレス：H'0080 1593>
CAN1メッセージスロット10拡張ID1(C1MSL10EID1)　<アドレス：H'0080 15A3>
CAN1メッセージスロット11拡張ID1(C1MSL11EID1)　<アドレス：H'0080 15B3>
CAN1メッセージスロット12拡張ID1(C1MSL12EID1)　<アドレス：H'0080 15C3>
CAN1メッセージスロット13拡張ID1(C1MSL13EID1)　<アドレス：H'0080 15D3>
CAN1メッセージスロット14拡張ID1(C1MSL14EID1)　<アドレス：H'0080 15E3>
CAN1メッセージスロット15拡張ID1(C1MSL15EID1)　<アドレス：H'0080 15F3>

b8	9	10	11	12	13	14	b15
EID4	EID5	EID6	EID7	EID8	EID9	EID10	EID11
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
8～15	EID4～EID11 (拡張ID4～拡張ID11)	拡張ID4～拡張ID11	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロット標準IDフォーマット設定の場合、受信データ格納時のEIDビットには不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0拡張ID2(C0MSL0EID2) <アドレス：H'0080 1104>
CAN0メッセージスロット1拡張ID2(C0MSL1EID2) <アドレス：H'0080 1114>
CAN0メッセージスロット2拡張ID2(C0MSL2EID2) <アドレス：H'0080 1124>
CAN0メッセージスロット3拡張ID2(C0MSL3EID2) <アドレス：H'0080 1134>
CAN0メッセージスロット4拡張ID2(C0MSL4EID2) <アドレス：H'0080 1144>
CAN0メッセージスロット5拡張ID2(C0MSL5EID2) <アドレス：H'0080 1154>
CAN0メッセージスロット6拡張ID2(C0MSL6EID2) <アドレス：H'0080 1164>
CAN0メッセージスロット7拡張ID2(C0MSL7EID2) <アドレス：H'0080 1174>
CAN0メッセージスロット8拡張ID2(C0MSL8EID2) <アドレス：H'0080 1184>
CAN0メッセージスロット9拡張ID2(C0MSL9EID2) <アドレス：H'0080 1194>
CAN0メッセージスロット10拡張ID2(C0MSL10EID2) <アドレス：H'0080 11A4>
CAN0メッセージスロット11拡張ID2(C0MSL11EID2) <アドレス：H'0080 11B4>
CAN0メッセージスロット12拡張ID2(C0MSL12EID2) <アドレス：H'0080 11C4>
CAN0メッセージスロット13拡張ID2(C0MSL13EID2) <アドレス：H'0080 11D4>
CAN0メッセージスロット14拡張ID2(C0MSL14EID2) <アドレス：H'0080 11E4>
CAN0メッセージスロット15拡張ID2(C0MSL15EID2) <アドレス：H'0080 11F4>

CAN1メッセージスロット0拡張ID2(C1MSL0EID2) <アドレス：H'0080 1504>
CAN1メッセージスロット1拡張ID2(C1MSL1EID2) <アドレス：H'0080 1514>
CAN1メッセージスロット2拡張ID2(C1MSL2EID2) <アドレス：H'0080 1524>
CAN1メッセージスロット3拡張ID2(C1MSL3EID2) <アドレス：H'0080 1534>
CAN1メッセージスロット4拡張ID2(C1MSL4EID2) <アドレス：H'0080 1544>
CAN1メッセージスロット5拡張ID2(C1MSL5EID2) <アドレス：H'0080 1554>
CAN1メッセージスロット6拡張ID2(C1MSL6EID2) <アドレス：H'0080 1564>
CAN1メッセージスロット7拡張ID2(C1MSL7EID2) <アドレス：H'0080 1574>
CAN1メッセージスロット8拡張ID2(C1MSL8EID2) <アドレス：H'0080 1584>
CAN1メッセージスロット9拡張ID2(C1MSL9EID2) <アドレス：H'0080 1594>
CAN1メッセージスロット10拡張ID2(C1MSL10EID2) <アドレス：H'0080 15A4>
CAN1メッセージスロット11拡張ID2(C1MSL11EID2) <アドレス：H'0080 15B4>
CAN1メッセージスロット12拡張ID2(C1MSL12EID2) <アドレス：H'0080 15C4>
CAN1メッセージスロット13拡張ID2(C1MSL13EID2) <アドレス：H'0080 15D4>
CAN1メッセージスロット14拡張ID2(C1MSL14EID2) <アドレス：H'0080 15E4>
CAN1メッセージスロット15拡張ID2(C1MSL15EID2) <アドレス：H'0080 15F4>

b0	1	2	3	4	5	6	b7
?	?	EID12 ?	EID13 ?	EID14 ?	EID15 ?	EID16 ?	EID17 ?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2～7	EID12～EID17 (拡張ID12～拡張ID17)	拡張ID12～拡張ID17	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロット標準IDフォーマット設定の場合、受信データ格納時のEIDビットには不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ長レジスタ（C0MSL0DLC）　<アドレス：H'0080 1105>
CAN0メッセージスロット1データ長レジスタ（C0MSL1DLC）　<アドレス：H'0080 1115>
CAN0メッセージスロット2データ長レジスタ（C0MSL2DLC）　<アドレス：H'0080 1125>
CAN0メッセージスロット3データ長レジスタ（C0MSL3DLC）　<アドレス：H'0080 1135>
CAN0メッセージスロット4データ長レジスタ（C0MSL4DLC）　<アドレス：H'0080 1145>
CAN0メッセージスロット5データ長レジスタ（C0MSL5DLC）　<アドレス：H'0080 1155>
CAN0メッセージスロット6データ長レジスタ（C0MSL6DLC）　<アドレス：H'0080 1165>
CAN0メッセージスロット7データ長レジスタ（C0MSL7DLC）　<アドレス：H'0080 1175>
CAN0メッセージスロット8データ長レジスタ（C0MSL8DLC）　<アドレス：H'0080 1185>
CAN0メッセージスロット9データ長レジスタ（C0MSL9DLC）　<アドレス：H'0080 1195>
CAN0メッセージスロット10データ長レジスタ（C0MSL10DLC）　<アドレス：H'0080 11A5>
CAN0メッセージスロット11データ長レジスタ（C0MSL11DLC）　<アドレス：H'0080 11B5>
CAN0メッセージスロット12データ長レジスタ（C0MSL12DLC）　<アドレス：H'0080 11C5>
CAN0メッセージスロット13データ長レジスタ（C0MSL13DLC）　<アドレス：H'0080 11D5>
CAN0メッセージスロット14データ長レジスタ（C0MSL14DLC）　<アドレス：H'0080 11E5>
CAN0メッセージスロット15データ長レジスタ（C0MSL15DLC）　<アドレス：H'0080 11F5>

CAN1メッセージスロット0データ長レジスタ（C1MSL0DLC）　<アドレス：H'0080 1505>
CAN1メッセージスロット1データ長レジスタ（C1MSL1DLC）　<アドレス：H'0080 1515>
CAN1メッセージスロット2データ長レジスタ（C1MSL2DLC）　<アドレス：H'0080 1525>
CAN1メッセージスロット3データ長レジスタ（C1MSL3DLC）　<アドレス：H'0080 1535>
CAN1メッセージスロット4データ長レジスタ（C1MSL4DLC）　<アドレス：H'0080 1545>
CAN1メッセージスロット5データ長レジスタ（C1MSL5DLC）　<アドレス：H'0080 1555>
CAN1メッセージスロット6データ長レジスタ（C1MSL6DLC）　<アドレス：H'0080 1565>
CAN1メッセージスロット7データ長レジスタ（C1MSL7DLC）　<アドレス：H'0080 1575>
CAN1メッセージスロット8データ長レジスタ（C1MSL8DLC）　<アドレス：H'0080 1585>
CAN1メッセージスロット9データ長レジスタ（C1MSL9DLC）　<アドレス：H'0080 1595>
CAN1メッセージスロット10データ長レジスタ（C1MSL10DLC）　<アドレス：H'0080 15A5>
CAN1メッセージスロット11データ長レジスタ（C1MSL11DLC）　<アドレス：H'0080 15B5>
CAN1メッセージスロット12データ長レジスタ（C1MSL12DLC）　<アドレス：H'0080 15C5>
CAN1メッセージスロット13データ長レジスタ（C1MSL13DLC）　<アドレス：H'0080 15D5>
CAN1メッセージスロット14データ長レジスタ（C1MSL14DLC）　<アドレス：H'0080 15E5>
CAN1メッセージスロット15データ長レジスタ（C1MSL15DLC）　<アドレス：H'0080 15F5>

b8	9	10	11	12	13	14	b15
?	?	?	?	DLC0 ?	DLC1 ?	DLC2 ?	DLC3 ?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
8～11	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
12～15	DLC0～DLC3 データ長設定ビット	0000 ： 0バイト 0001 ： 1バイト 0010 ： 2バイト 0011 ： 3バイト 0100 ： 4バイト 0101 ： 5バイト 0110 ： 6バイト 0111 ： 7バイト 1000 ： 8バイト ～　～ 1111 ： 8バイト	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。送信時は送信データ長を設定します。受信時は受信フレームのDLCが格納されます。

CAN0メッセージスロット0データ0(C0MSL0DT0)　<アドレス：H'0080 1106>
CAN0メッセージスロット1データ0(C0MSL1DT0)　<アドレス：H'0080 1116>
CAN0メッセージスロット2データ0(C0MSL2DT0)　<アドレス：H'0080 1126>
CAN0メッセージスロット3データ0(C0MSL3DT0)　<アドレス：H'0080 1136>
CAN0メッセージスロット4データ0(C0MSL4DT0)　<アドレス：H'0080 1146>
CAN0メッセージスロット5データ0(C0MSL5DT0)　<アドレス：H'0080 1156>
CAN0メッセージスロット6データ0(C0MSL6DT0)　<アドレス：H'0080 1166>
CAN0メッセージスロット7データ0(C0MSL7DT0)　<アドレス：H'0080 1176>
CAN0メッセージスロット8データ0(C0MSL8DT0)　<アドレス：H'0080 1186>
CAN0メッセージスロット9データ0(C0MSL9DT0)　<アドレス：H'0080 1196>
CAN0メッセージスロット10データ0(C0MSL10DT0)　<アドレス：H'0080 11A6>
CAN0メッセージスロット11データ0(C0MSL11DT0)　<アドレス：H'0080 11B6>
CAN0メッセージスロット12データ0(C0MSL12DT0)　<アドレス：H'0080 11C6>
CAN0メッセージスロット13データ0(C0MSL13DT0)　<アドレス：H'0080 11D6>
CAN0メッセージスロット14データ0(C0MSL14DT0)　<アドレス：H'0080 11E6>
CAN0メッセージスロット15データ0(C0MSL15DT0)　<アドレス：H'0080 11F6>

CAN1メッセージスロット0データ0(C1MSL0DT0)　<アドレス：H'0080 1506>
CAN1メッセージスロット1データ0(C1MSL1DT0)　<アドレス：H'0080 1516>
CAN1メッセージスロット2データ0(C1MSL2DT0)　<アドレス：H'0080 1526>
CAN1メッセージスロット3データ0(C1MSL3DT0)　<アドレス：H'0080 1536>
CAN1メッセージスロット4データ0(C1MSL4DT0)　<アドレス：H'0080 1546>
CAN1メッセージスロット5データ0(C1MSL5DT0)　<アドレス：H'0080 1556>
CAN1メッセージスロット6データ0(C1MSL6DT0)　<アドレス：H'0080 1566>
CAN1メッセージスロット7データ0(C1MSL7DT0)　<アドレス：H'0080 1576>
CAN1メッセージスロット8データ0(C1MSL8DT0)　<アドレス：H'0080 1586>
CAN1メッセージスロット9データ0(C1MSL9DT0)　<アドレス：H'0080 1596>
CAN1メッセージスロット10データ0(C1MSL10DT0)　<アドレス：H'0080 15A6>
CAN1メッセージスロット11データ0(C1MSL11DT0)　<アドレス：H'0080 15B6>
CAN1メッセージスロット12データ0(C1MSL12DT0)　<アドレス：H'0080 15C6>
CAN1メッセージスロット13データ0(C1MSL13DT0)　<アドレス：H'0080 15D6>
CAN1メッセージスロット14データ0(C1MSL14DT0)　<アドレス：H'0080 15E6>
CAN1メッセージスロット15データ0(C1MSL15DT0)　<アドレス：H'0080 15F6>

b0	1	2	3	4	5	6	b7
C0MSL0DT0–C0MSL15DT0, C1MSL0DT0–C1MSL15DT0							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0～7	C0MSL0DT0～C0MSL15DT0, C1MSL0DT0～C1MSL15DT0	メッセージスロットデータ0	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が0の場合には不定値が書き込まれます。
・CANフレームのデータフィールド1バイト目がメッセージスロットnデータ0に対応します。データはレジスタのMSB側から送受信されます。

CAN0メッセージスロット0データ1(C0MSL0DT1)　<アドレス：H'0080 1107>
CAN0メッセージスロット1データ1(C0MSL1DT1)　<アドレス：H'0080 1117>
CAN0メッセージスロット2データ1(C0MSL2DT1)　<アドレス：H'0080 1127>
CAN0メッセージスロット3データ1(C0MSL3DT1)　<アドレス：H'0080 1137>
CAN0メッセージスロット4データ1(C0MSL4DT1)　<アドレス：H'0080 1147>
CAN0メッセージスロット5データ1(C0MSL5DT1)　<アドレス：H'0080 1157>
CAN0メッセージスロット6データ1(C0MSL6DT1)　<アドレス：H'0080 1167>
CAN0メッセージスロット7データ1(C0MSL7DT1)　<アドレス：H'0080 1177>
CAN0メッセージスロット8データ1(C0MSL8DT1)　<アドレス：H'0080 1187>
CAN0メッセージスロット9データ1(C0MSL9DT1)　<アドレス：H'0080 1197>
CAN0メッセージスロット10データ1(C0MSL10DT1)　<アドレス：H'0080 11A7>
CAN0メッセージスロット11データ1(C0MSL11DT1)　<アドレス：H'0080 11B7>
CAN0メッセージスロット12データ1(C0MSL12DT1)　<アドレス：H'0080 11C7>
CAN0メッセージスロット13データ1(C0MSL13DT1)　<アドレス：H'0080 11D7>
CAN0メッセージスロット14データ1(C0MSL14DT1)　<アドレス：H'0080 11E7>
CAN0メッセージスロット15データ1(C0MSL15DT1)　<アドレス：H'0080 11F7>

CAN1メッセージスロット0データ1(C1MSL0DT1)　<アドレス：H'0080 1507>
CAN1メッセージスロット1データ1(C1MSL1DT1)　<アドレス：H'0080 1517>
CAN1メッセージスロット2データ1(C1MSL2DT1)　<アドレス：H'0080 1527>
CAN1メッセージスロット3データ1(C1MSL3DT1)　<アドレス：H'0080 1537>
CAN1メッセージスロット4データ1(C1MSL4DT1)　<アドレス：H'0080 1547>
CAN1メッセージスロット5データ1(C1MSL5DT1)　<アドレス：H'0080 1557>
CAN1メッセージスロット6データ1(C1MSL6DT1)　<アドレス：H'0080 1567>
CAN1メッセージスロット7データ1(C1MSL7DT1)　<アドレス：H'0080 1577>
CAN1メッセージスロット8データ1(C1MSL8DT1)　<アドレス：H'0080 1587>
CAN1メッセージスロット9データ1(C1MSL9DT1)　<アドレス：H'0080 1597>
CAN1メッセージスロット10データ1(C1MSL10DT1)　<アドレス：H'0080 15A7>
CAN1メッセージスロット11データ1(C1MSL11DT1)　<アドレス：H'0080 15B7>
CAN1メッセージスロット12データ1(C1MSL12DT1)　<アドレス：H'0080 15C7>
CAN1メッセージスロット13データ1(C1MSL13DT1)　<アドレス：H'0080 15D7>
CAN1メッセージスロット14データ1(C1MSL14DT1)　<アドレス：H'0080 15E7>
CAN1メッセージスロット15データ1(C1MSL15DT1)　<アドレス：H'0080 15F7>

b8	9	10	11	12	13	14	b15
C0MSL0DT1–C0MSL15DT1, C1MSL0DT1–C1MSL15DT1							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
8～15	C0MSL0DT1～C0MSL15DT1, C1MSL0DT1～C1MSL15DT1	メッセージスロットデータ1	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が1以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ2(C0MSL0DT2) ＜アドレス：H'0080 1108＞
CAN0メッセージスロット1データ2(C0MSL1DT2) ＜アドレス：H'0080 1118＞
CAN0メッセージスロット2データ2(C0MSL2DT2) ＜アドレス：H'0080 1128＞
CAN0メッセージスロット3データ2(C0MSL3DT2) ＜アドレス：H'0080 1138＞
CAN0メッセージスロット4データ2(C0MSL4DT2) ＜アドレス：H'0080 1148＞
CAN0メッセージスロット5データ2(C0MSL5DT2) ＜アドレス：H'0080 1158＞
CAN0メッセージスロット6データ2(C0MSL6DT2) ＜アドレス：H'0080 1168＞
CAN0メッセージスロット7データ2(C0MSL7DT2) ＜アドレス：H'0080 1178＞
CAN0メッセージスロット8データ2(C0MSL8DT2) ＜アドレス：H'0080 1188＞
CAN0メッセージスロット9データ2(C0MSL9DT2) ＜アドレス：H'0080 1198＞
CAN0メッセージスロット10データ2(C0MSL10DT2) ＜アドレス：H'0080 11A8＞
CAN0メッセージスロット11データ2(C0MSL11DT2) ＜アドレス：H'0080 11B8＞
CAN0メッセージスロット12データ2(C0MSL12DT2) ＜アドレス：H'0080 11C8＞
CAN0メッセージスロット13データ2(C0MSL13DT2) ＜アドレス：H'0080 11D8＞
CAN0メッセージスロット14データ2(C0MSL14DT2) ＜アドレス：H'0080 11E8＞
CAN0メッセージスロット15データ2(C0MSL15DT2) ＜アドレス：H'0080 11F8＞

CAN1メッセージスロット0データ2(C1MSL0DT2) ＜アドレス：H'0080 1508＞
CAN1メッセージスロット1データ2(C1MSL1DT2) ＜アドレス：H'0080 1518＞
CAN1メッセージスロット2データ2(C1MSL2DT2) ＜アドレス：H'0080 1528＞
CAN1メッセージスロット3データ2(C1MSL3DT2) ＜アドレス：H'0080 1538＞
CAN1メッセージスロット4データ2(C1MSL4DT2) ＜アドレス：H'0080 1548＞
CAN1メッセージスロット5データ2(C1MSL5DT2) ＜アドレス：H'0080 1558＞
CAN1メッセージスロット6データ2(C1MSL6DT2) ＜アドレス：H'0080 1568＞
CAN1メッセージスロット7データ2(C1MSL7DT2) ＜アドレス：H'0080 1578＞
CAN1メッセージスロット8データ2(C1MSL8DT2) ＜アドレス：H'0080 1588＞
CAN1メッセージスロット9データ2(C1MSL9DT2) ＜アドレス：H'0080 1598＞
CAN1メッセージスロット10データ2(C1MSL10DT2) ＜アドレス：H'0080 15A8＞
CAN1メッセージスロット11データ2(C1MSL11DT2) ＜アドレス：H'0080 15B8＞
CAN1メッセージスロット12データ2(C1MSL12DT2) ＜アドレス：H'0080 15C8＞
CAN1メッセージスロット13データ2(C1MSL13DT2) ＜アドレス：H'0080 15D8＞
CAN1メッセージスロット14データ2(C1MSL14DT2) ＜アドレス：H'0080 15E8＞
CAN1メッセージスロット15データ2(C1MSL15DT2) ＜アドレス：H'0080 15F8＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
C0MSL0DT2-C0MSL15DT2, C1MSL0DT2-C1MSL15DT2							
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
0～7	C0MSL0DT2～C0MSL15DT2, C1MSL0DT2～C1MSL15DT2	メッセージスロットデータ2	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が2以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ3(C0MSL0DT3) ＜アドレス：H'0080 1109＞
CAN0メッセージスロット1データ3(C0MSL1DT3) ＜アドレス：H'0080 1119＞
CAN0メッセージスロット2データ3(C0MSL2DT3) ＜アドレス：H'0080 1129＞
CAN0メッセージスロット3データ3(C0MSL3DT3) ＜アドレス：H'0080 1139＞
CAN0メッセージスロット4データ3(C0MSL4DT3) ＜アドレス：H'0080 1149＞
CAN0メッセージスロット5データ3(C0MSL5DT3) ＜アドレス：H'0080 1159＞
CAN0メッセージスロット6データ3(C0MSL6DT3) ＜アドレス：H'0080 1169＞
CAN0メッセージスロット7データ3(C0MSL7DT3) ＜アドレス：H'0080 1179＞
CAN0メッセージスロット8データ3(C0MSL8DT3) ＜アドレス：H'0080 1189＞
CAN0メッセージスロット9データ3(C0MSL9DT3) ＜アドレス：H'0080 1199＞
CAN0メッセージスロット10データ3(C0MSL10DT3) ＜アドレス：H'0080 11A9＞
CAN0メッセージスロット11データ3(C0MSL11DT3) ＜アドレス：H'0080 11B9＞
CAN0メッセージスロット12データ3(C0MSL12DT3) ＜アドレス：H'0080 11C9＞
CAN0メッセージスロット13データ3(C0MSL13DT3) ＜アドレス：H'0080 11D9＞
CAN0メッセージスロット14データ3(C0MSL14DT3) ＜アドレス：H'0080 11E9＞
CAN0メッセージスロット15データ3(C0MSL15DT3) ＜アドレス：H'0080 11F9＞

CAN1メッセージスロット0データ3(C1MSL0DT3) ＜アドレス：H'0080 1509＞
CAN1メッセージスロット1データ3(C1MSL1DT3) ＜アドレス：H'0080 1519＞
CAN1メッセージスロット2データ3(C1MSL2DT3) ＜アドレス：H'0080 1529＞
CAN1メッセージスロット3データ3(C1MSL3DT3) ＜アドレス：H'0080 1539＞
CAN1メッセージスロット4データ3(C1MSL4DT3) ＜アドレス：H'0080 1549＞
CAN1メッセージスロット5データ3(C1MSL5DT3) ＜アドレス：H'0080 1559＞
CAN1メッセージスロット6データ3(C1MSL6DT3) ＜アドレス：H'0080 1569＞
CAN1メッセージスロット7データ3(C1MSL7DT3) ＜アドレス：H'0080 1579＞
CAN1メッセージスロット8データ3(C1MSL8DT3) ＜アドレス：H'0080 1589＞
CAN1メッセージスロット9データ3(C1MSL9DT3) ＜アドレス：H'0080 1599＞
CAN1メッセージスロット10データ3(C1MSL10DT3) ＜アドレス：H'0080 15A9＞
CAN1メッセージスロット11データ3(C1MSL11DT3) ＜アドレス：H'0080 15B9＞
CAN1メッセージスロット12データ3(C1MSL12DT3) ＜アドレス：H'0080 15C9＞
CAN1メッセージスロット13データ3(C1MSL13DT3) ＜アドレス：H'0080 15D9＞
CAN1メッセージスロット14データ3(C1MSL14DT3) ＜アドレス：H'0080 15E9＞
CAN1メッセージスロット15データ3(C1MSL15DT3) ＜アドレス：H'0080 15F9＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
C0MSL0DT3–C0MSL15DT3, C1MSL0DT3–C1MSL15DT3							
?	?	?	?	?	?	?	?

＜リセット解除時：不定＞

b	ビット名	機能	R	W
8～15	C0MSL0DT3～C0MSL15DT3, C1MSL0DT3～C1MSL15DT3	メッセージスロットデータ3	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が3以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ4(C0MSL0DT4)　<アドレス：H'0080 110A>
CAN0メッセージスロット1データ4(C0MSL1DT4)　<アドレス：H'0080 111A>
CAN0メッセージスロット2データ4(C0MSL2DT4)　<アドレス：H'0080 112A>
CAN0メッセージスロット3データ4(C0MSL3DT4)　<アドレス：H'0080 113A>
CAN0メッセージスロット4データ4(C0MSL4DT4)　<アドレス：H'0080 114A>
CAN0メッセージスロット5データ4(C0MSL5DT4)　<アドレス：H'0080 115A>
CAN0メッセージスロット6データ4(C0MSL6DT4)　<アドレス：H'0080 116A>
CAN0メッセージスロット7データ4(C0MSL7DT4)　<アドレス：H'0080 117A>
CAN0メッセージスロット8データ4(C0MSL8DT4)　<アドレス：H'0080 118A>
CAN0メッセージスロット9データ4(C0MSL9DT4)　<アドレス：H'0080 119A>
CAN0メッセージスロット10データ4(C0MSL10DT4)　<アドレス：H'0080 11AA>
CAN0メッセージスロット11データ4(C0MSL11DT4)　<アドレス：H'0080 11BA>
CAN0メッセージスロット12データ4(C0MSL12DT4)　<アドレス：H'0080 11CA>
CAN0メッセージスロット13データ4(C0MSL13DT4)　<アドレス：H'0080 11DA>
CAN0メッセージスロット14データ4(C0MSL14DT4)　<アドレス：H'0080 11EA>
CAN0メッセージスロット15データ4(C0MSL15DT4)　<アドレス：H'0080 11FA>

CAN1メッセージスロット0データ4(C1MSL0DT4)　<アドレス：H'0080 150A>
CAN1メッセージスロット1データ4(C1MSL1DT4)　<アドレス：H'0080 151A>
CAN1メッセージスロット2データ4(C1MSL2DT4)　<アドレス：H'0080 152A>
CAN1メッセージスロット3データ4(C1MSL3DT4)　<アドレス：H'0080 153A>
CAN1メッセージスロット4データ4(C1MSL4DT4)　<アドレス：H'0080 154A>
CAN1メッセージスロット5データ4(C1MSL5DT4)　<アドレス：H'0080 155A>
CAN1メッセージスロット6データ4(C1MSL6DT4)　<アドレス：H'0080 156A>
CAN1メッセージスロット7データ4(C1MSL7DT4)　<アドレス：H'0080 157A>
CAN1メッセージスロット8データ4(C1MSL8DT4)　<アドレス：H'0080 158A>
CAN1メッセージスロット9データ4(C1MSL9DT4)　<アドレス：H'0080 159A>
CAN1メッセージスロット10データ4(C1MSL10DT4)　<アドレス：H'0080 15AA>
CAN1メッセージスロット11データ4(C1MSL11DT4)　<アドレス：H'0080 15BA>
CAN1メッセージスロット12データ4(C1MSL12DT4)　<アドレス：H'0080 15CA>
CAN1メッセージスロット13データ4(C1MSL13DT4)　<アドレス：H'0080 15DA>
CAN1メッセージスロット14データ4(C1MSL14DT4)　<アドレス：H'0080 15EA>
CAN1メッセージスロット15データ4(C1MSL15DT4)　<アドレス：H'0080 15FA>

b0	1	2	3	4	5	6	b7
C0MSL0DT4–C0MSL15DT4, C1MSL0DT4–C1MSL15DT4							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0～7	C0MSL0DT4～C0MSL15DT4, C1MSL0DT4～C1MSL15DT4	メッセージスロットデータ4	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が4以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ5(C0MSL0DT5) <アドレス：H'0080 110B>
CAN0メッセージスロット1データ5(C0MSL1DT5) <アドレス：H'0080 111B>
CAN0メッセージスロット2データ5(C0MSL2DT5) <アドレス：H'0080 112B>
CAN0メッセージスロット3データ5(C0MSL3DT5) <アドレス：H'0080 113B>
CAN0メッセージスロット4データ5(C0MSL4DT5) <アドレス：H'0080 114B>
CAN0メッセージスロット5データ5(C0MSL5DT5) <アドレス：H'0080 115B>
CAN0メッセージスロット6データ5(C0MSL6DT5) <アドレス：H'0080 116B>
CAN0メッセージスロット7データ5(C0MSL7DT5) <アドレス：H'0080 117B>
CAN0メッセージスロット8データ5(C0MSL8DT5) <アドレス：H'0080 118B>
CAN0メッセージスロット9データ5(C0MSL9DT5) <アドレス：H'0080 119B>
CAN0メッセージスロット10データ5(C0MSL10DT5) <アドレス：H'0080 11AB>
CAN0メッセージスロット11データ5(C0MSL11DT5) <アドレス：H'0080 11BB>
CAN0メッセージスロット12データ5(C0MSL12DT5) <アドレス：H'0080 11CB>
CAN0メッセージスロット13データ5(C0MSL13DT5) <アドレス：H'0080 11DB>
CAN0メッセージスロット14データ5(C0MSL14DT5) <アドレス：H'0080 11EB>
CAN0メッセージスロット15データ5(C0MSL15DT5) <アドレス：H'0080 11FB>

CAN1メッセージスロット0データ5(C1MSL0DT5) <アドレス：H'0080 150B>
CAN1メッセージスロット1データ5(C1MSL1DT5) <アドレス：H'0080 151B>
CAN1メッセージスロット2データ5(C1MSL2DT5) <アドレス：H'0080 152B>
CAN1メッセージスロット3データ5(C1MSL3DT5) <アドレス：H'0080 153B>
CAN1メッセージスロット4データ5(C1MSL4DT5) <アドレス：H'0080 154B>
CAN1メッセージスロット5データ5(C1MSL5DT5) <アドレス：H'0080 155B>
CAN1メッセージスロット6データ5(C1MSL6DT5) <アドレス：H'0080 156B>
CAN1メッセージスロット7データ5(C1MSL7DT5) <アドレス：H'0080 157B>
CAN1メッセージスロット8データ5(C1MSL8DT5) <アドレス：H'0080 158B>
CAN1メッセージスロット9データ5(C1MSL9DT5) <アドレス：H'0080 159B>
CAN1メッセージスロット10データ5(C1MSL10DT5) <アドレス：H'0080 15AB>
CAN1メッセージスロット11データ5(C1MSL11DT5) <アドレス：H'0080 15BB>
CAN1メッセージスロット12データ5(C1MSL12DT5) <アドレス：H'0080 15CB>
CAN1メッセージスロット13データ5(C1MSL13DT5) <アドレス：H'0080 15DB>
CAN1メッセージスロット14データ5(C1MSL14DT5) <アドレス：H'0080 15EB>
CAN1メッセージスロット15データ5(C1MSL15DT5) <アドレス：H'0080 15FB>

b8	9	10	11	12	13	14	b15
C0MSL0DT5–C0MSL15DT5, C1MSL0DT5–C1MSL15DT5							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
8～15	C0MSL0DT5～C0MSL15DT5, C1MSL0DT5～C1MSL15DT5	メッセージスロットデータ5	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が5以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ6(C0MSL0DT6) <アドレス：H'0080 110C>
CAN0メッセージスロット1データ6(C0MSL1DT6) <アドレス：H'0080 111C>
CAN0メッセージスロット2データ6(C0MSL2DT6) <アドレス：H'0080 112C>
CAN0メッセージスロット3データ6(C0MSL3DT6) <アドレス：H'0080 113C>
CAN0メッセージスロット4データ6(C0MSL4DT6) <アドレス：H'0080 114C>
CAN0メッセージスロット5データ6(C0MSL5DT6) <アドレス：H'0080 115C>
CAN0メッセージスロット6データ6(C0MSL6DT6) <アドレス：H'0080 116C>
CAN0メッセージスロット7データ6(C0MSL7DT6) <アドレス：H'0080 117C>
CAN0メッセージスロット8データ6(C0MSL8DT6) <アドレス：H'0080 118C>
CAN0メッセージスロット9データ6(C0MSL9DT6) <アドレス：H'0080 119C>
CAN0メッセージスロット10データ6(C0MSL10DT6) <アドレス：H'0080 11AC>
CAN0メッセージスロット11データ6(C0MSL11DT6) <アドレス：H'0080 11BC>
CAN0メッセージスロット12データ6(C0MSL12DT6) <アドレス：H'0080 11CC>
CAN0メッセージスロット13データ6(C0MSL13DT6) <アドレス：H'0080 11DC>
CAN0メッセージスロット14データ6(C0MSL14DT6) <アドレス：H'0080 11EC>
CAN0メッセージスロット15データ6(C0MSL15DT6) <アドレス：H'0080 11FC>

CAN1メッセージスロット0データ6(C1MSL0DT6) <アドレス：H'0080 150C>
CAN1メッセージスロット1データ6(C1MSL1DT6) <アドレス：H'0080 151C>
CAN1メッセージスロット2データ6(C1MSL2DT6) <アドレス：H'0080 152C>
CAN1メッセージスロット3データ6(C1MSL3DT6) <アドレス：H'0080 153C>
CAN1メッセージスロット4データ6(C1MSL4DT6) <アドレス：H'0080 154C>
CAN1メッセージスロット5データ6(C1MSL5DT6) <アドレス：H'0080 155C>
CAN1メッセージスロット6データ6(C1MSL6DT6) <アドレス：H'0080 156C>
CAN1メッセージスロット7データ6(C1MSL7DT6) <アドレス：H'0080 157C>
CAN1メッセージスロット8データ6(C1MSL8DT6) <アドレス：H'0080 158C>
CAN1メッセージスロット9データ6(C1MSL9DT6) <アドレス：H'0080 159C>
CAN1メッセージスロット10データ6(C1MSL10DT6) <アドレス：H'0080 15AC>
CAN1メッセージスロット11データ6(C1MSL11DT6) <アドレス：H'0080 15BC>
CAN1メッセージスロット12データ6(C1MSL12DT6) <アドレス：H'0080 15CC>
CAN1メッセージスロット13データ6(C1MSL13DT6) <アドレス：H'0080 15DC>
CAN1メッセージスロット14データ6(C1MSL14DT6) <アドレス：H'0080 15EC>
CAN1メッセージスロット15データ6(C1MSL15DT6) <アドレス：H'0080 15FC>

b0	1	2	3	4	5	6	b7
C0MSL0DT6–C0MSL15DT6, C1MSL0DT6–C1MSL15DT6							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0～7	C0MSL0DT6～C0MSL15DT6, C1MSL0DT6～C1MSL15DT6	メッセージスロットデータ6	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が6以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0データ7(C0MSL0DT7) <アドレス：H'0080 110D>
CAN0メッセージスロット1データ7(C0MSL1DT7) <アドレス：H'0080 111D>
CAN0メッセージスロット2データ7(C0MSL2DT7) <アドレス：H'0080 112D>
CAN0メッセージスロット3データ7(C0MSL3DT7) <アドレス：H'0080 113D>
CAN0メッセージスロット4データ7(C0MSL4DT7) <アドレス：H'0080 114D>
CAN0メッセージスロット5データ7(C0MSL5DT7) <アドレス：H'0080 115D>
CAN0メッセージスロット6データ7(C0MSL6DT7) <アドレス：H'0080 116D>
CAN0メッセージスロット7データ7(C0MSL7DT7) <アドレス：H'0080 117D>
CAN0メッセージスロット8データ7(C0MSL8DT7) <アドレス：H'0080 118D>
CAN0メッセージスロット9データ7(C0MSL9DT7) <アドレス：H'0080 119D>
CAN0メッセージスロット10データ7(C0MSL10DT7) <アドレス：H'0080 11AD>
CAN0メッセージスロット11データ7(C0MSL11DT7) <アドレス：H'0080 11BD>
CAN0メッセージスロット12データ7(C0MSL12DT7) <アドレス：H'0080 11CD>
CAN0メッセージスロット13データ7(C0MSL13DT7) <アドレス：H'0080 11DD>
CAN0メッセージスロット14データ7(C0MSL14DT7) <アドレス：H'0080 11ED>
CAN0メッセージスロット15データ7(C0MSL15DT7) <アドレス：H'0080 11FD>

CAN1メッセージスロット0データ7(C1MSL0DT7) <アドレス：H'0080 150D>
CAN1メッセージスロット1データ7(C1MSL1DT7) <アドレス：H'0080 151D>
CAN1メッセージスロット2データ7(C1MSL2DT7) <アドレス：H'0080 152D>
CAN1メッセージスロット3データ7(C1MSL3DT7) <アドレス：H'0080 153D>
CAN1メッセージスロット4データ7(C1MSL4DT7) <アドレス：H'0080 154D>
CAN1メッセージスロット5データ7(C1MSL5DT7) <アドレス：H'0080 155D>
CAN1メッセージスロット6データ7(C1MSL6DT7) <アドレス：H'0080 156D>
CAN1メッセージスロット7データ7(C1MSL7DT7) <アドレス：H'0080 157D>
CAN1メッセージスロット8データ7(C1MSL8DT7) <アドレス：H'0080 158D>
CAN1メッセージスロット9データ7(C1MSL9DT7) <アドレス：H'0080 159D>
CAN1メッセージスロット10データ7(C1MSL10DT7) <アドレス：H'0080 15AD>
CAN1メッセージスロット11データ7(C1MSL11DT7) <アドレス：H'0080 15BD>
CAN1メッセージスロット12データ7(C1MSL12DT7) <アドレス：H'0080 15CD>
CAN1メッセージスロット13データ7(C1MSL13DT7) <アドレス：H'0080 15DD>
CAN1メッセージスロット14データ7(C1MSL14DT7) <アドレス：H'0080 15ED>
CAN1メッセージスロット15データ7(C1MSL15DT7) <アドレス：H'0080 15FD>

b8	9	10	11	12	13	14	b15
C0MSL0DT7–C0MSL15DT7, C1MSL0DT7–C1MSL15DT7							
?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
8～15	C0MSL0DT7～C0MSL15DT7, C1MSL0DT7～C1MSL15DT7	メッセージスロットデータ7	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。

注．・受信スロットにおいて、データフレーム格納時にデータ長(DLCの値)が7以下の場合には不定値が書き込まれます。

CAN0メッセージスロット0タイムスタンプ(C0MSL0TSP)　<アドレス：H'0080 110E>
CAN0メッセージスロット1タイムスタンプ(C0MSL1TSP)　<アドレス：H'0080 111E>
CAN0メッセージスロット2タイムスタンプ(C0MSL2TSP)　<アドレス：H'0080 112E>
CAN0メッセージスロット3タイムスタンプ(C0MSL3TSP)　<アドレス：H'0080 113E>
CAN0メッセージスロット4タイムスタンプ(C0MSL4TSP)　<アドレス：H'0080 114E>
CAN0メッセージスロット5タイムスタンプ(C0MSL5TSP)　<アドレス：H'0080 115E>
CAN0メッセージスロット6タイムスタンプ(C0MSL6TSP)　<アドレス：H'0080 116E>
CAN0メッセージスロット7タイムスタンプ(C0MSL7TSP)　<アドレス：H'0080 117E>
CAN0メッセージスロット8タイムスタンプ(C0MSL8TSP)　<アドレス：H'0080 118E>
CAN0メッセージスロット9タイムスタンプ(C0MSL9TSP)　<アドレス：H'0080 119E>
CAN0メッセージスロット10タイムスタンプ(C0MSL10TSP)　<アドレス：H'0080 11AE>
CAN0メッセージスロット11タイムスタンプ(C0MSL11TSP)　<アドレス：H'0080 11BE>
CAN0メッセージスロット12タイムスタンプ(C0MSL12TSP)　<アドレス：H'0080 11CE>
CAN0メッセージスロット13タイムスタンプ(C0MSL13TSP)　<アドレス：H'0080 11DE>
CAN0メッセージスロット14タイムスタンプ(C0MSL14TSP)　<アドレス：H'0080 11EE>
CAN0メッセージスロット15タイムスタンプ(C0MSL15TSP)　<アドレス：H'0080 11FE>

CAN1メッセージスロット0タイムスタンプ(C1MSL0TSP)　<アドレス：H'0080 150E>
CAN1メッセージスロット1タイムスタンプ(C1MSL1TSP)　<アドレス：H'0080 151E>
CAN1メッセージスロット2タイムスタンプ(C1MSL2TSP)　<アドレス：H'0080 152E>
CAN1メッセージスロット3タイムスタンプ(C1MSL3TSP)　<アドレス：H'0080 153E>
CAN1メッセージスロット4タイムスタンプ(C1MSL4TSP)　<アドレス：H'0080 154E>
CAN1メッセージスロット5タイムスタンプ(C1MSL5TSP)　<アドレス：H'0080 155E>
CAN1メッセージスロット6タイムスタンプ(C1MSL6TSP)　<アドレス：H'0080 156E>
CAN1メッセージスロット7タイムスタンプ(C1MSL7TSP)　<アドレス：H'0080 157E>
CAN1メッセージスロット8タイムスタンプ(C1MSL8TSP)　<アドレス：H'0080 158E>
CAN1メッセージスロット9タイムスタンプ(C1MSL9TSP)　<アドレス：H'0080 159E>
CAN1メッセージスロット10タイムスタンプ(C1MSL10TSP)　<アドレス：H'0080 15AE>
CAN1メッセージスロット11タイムスタンプ(C1MSL11TSP)　<アドレス：H'0080 15BE>
CAN1メッセージスロット12タイムスタンプ(C1MSL12TSP)　<アドレス：H'0080 15CE>
CAN1メッセージスロット13タイムスタンプ(C1MSL13TSP)　<アドレス：H'0080 15DE>
CAN1メッセージスロット14タイムスタンプ(C1MSL14TSP)　<アドレス：H'0080 15EE>
CAN1メッセージスロット15タイムスタンプ(C1MSL15TSP)　<アドレス：H'0080 15FE>

b0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	b15
C0MSL0TSP–C0MSL15TSP, C1MSL0TSP–C1MSL15TSP															
?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?

<リセット解除時：不定>

b	ビット名	機能	R	W
0～15	C0MSL0TSP～C0MSL15TSP, C1MSL0TSP～C1MSL15TSP	メッセージスロットタイムスタンプ	R	W

送信フレーム/受信フレームのメモリスペースです。送信/受信完了時にCANタイムスタンプカウントレジスタの値が格納されます。

13.3　CANプロトコル

13.3.1　CANプロトコルフレーム

CANプロトコルで取り扱うフレームは

(1) **データフレーム**
(2) **リモートフレーム**
(3) **エラーフレーム**
(4) **オーバロードフレーム**

の４種類があります。各フレームはインタフレームスペースで区切られています。

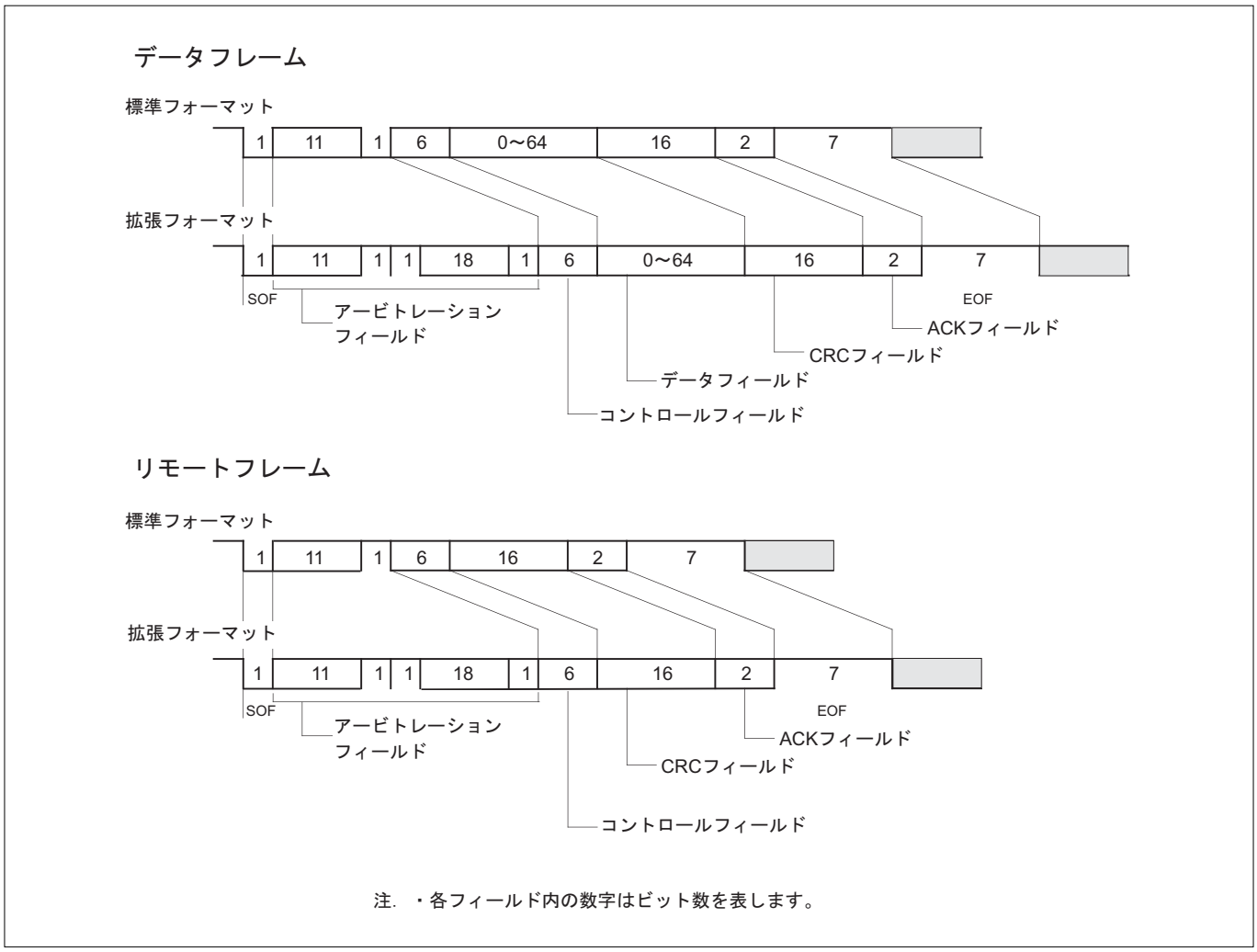


図13.3.1　CAN**プロトコルフレーム**(1)

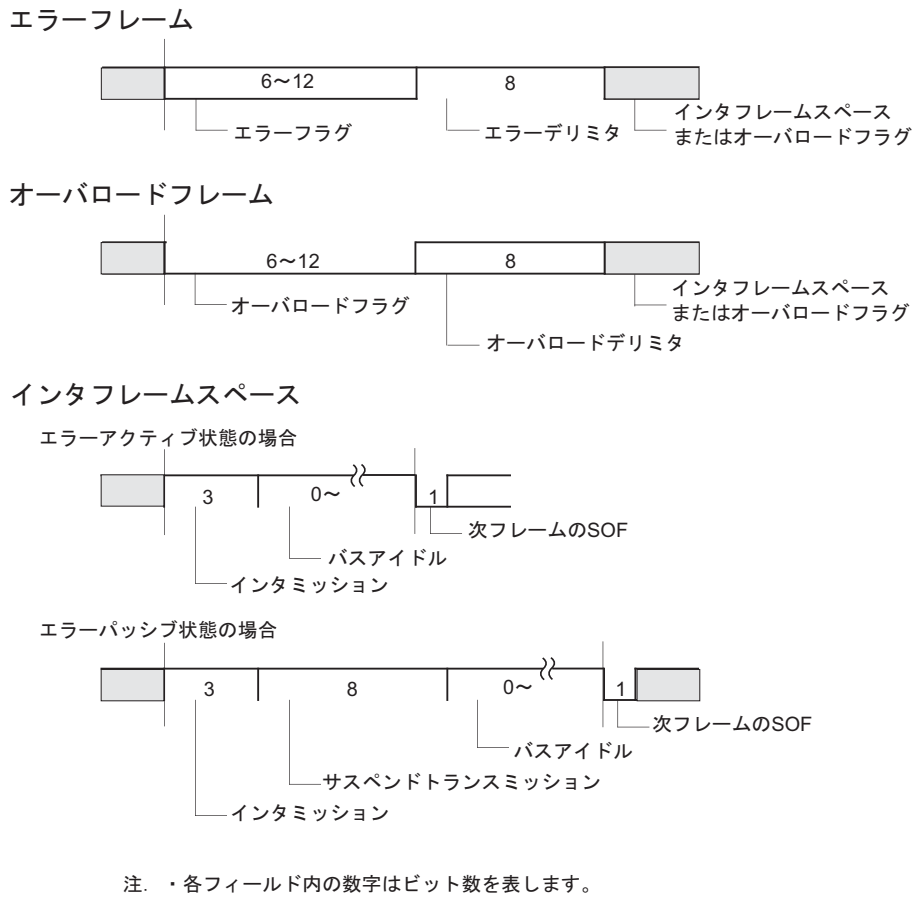


図13.3.2　CAN**プロトコルフレーム**(2)

13.3.2　CAN送受信時のデータフォーマット

図13.3.3に、CANで使用可能な送受信転送データフォーマット例を示します。

送受信はCANメッセージスロット(C0MSLnSID0～C0MSLnDT7, C1MSLnSID0～C1MSLnDT7)のMSB側から順に行われます。

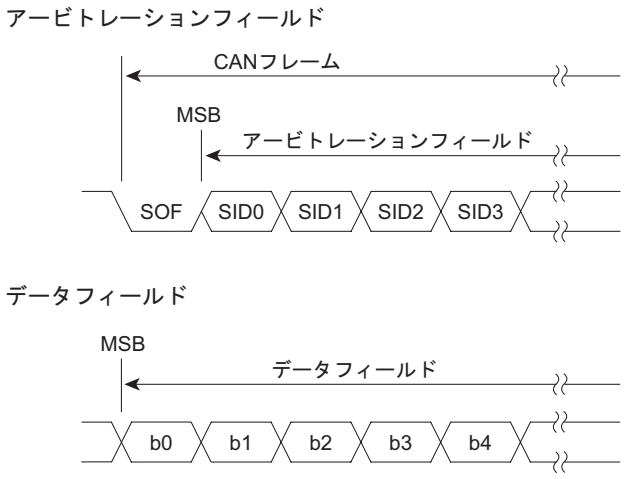


図13.3.3　CAN**送受信転送データフォーマット例**

13.3.3　CANコントローラのエラー状態

CANコントローラは送信エラーカウンタと受信エラーカウンタの値により次の三つのエラー状態をとります。

(1)エラーアクティブ状態

- **エラーがほとんど発生していない状態**
- **エラー検出時にアクティブエラーフラグを送信**
- **初期設定直後のCANコントローラの状態**

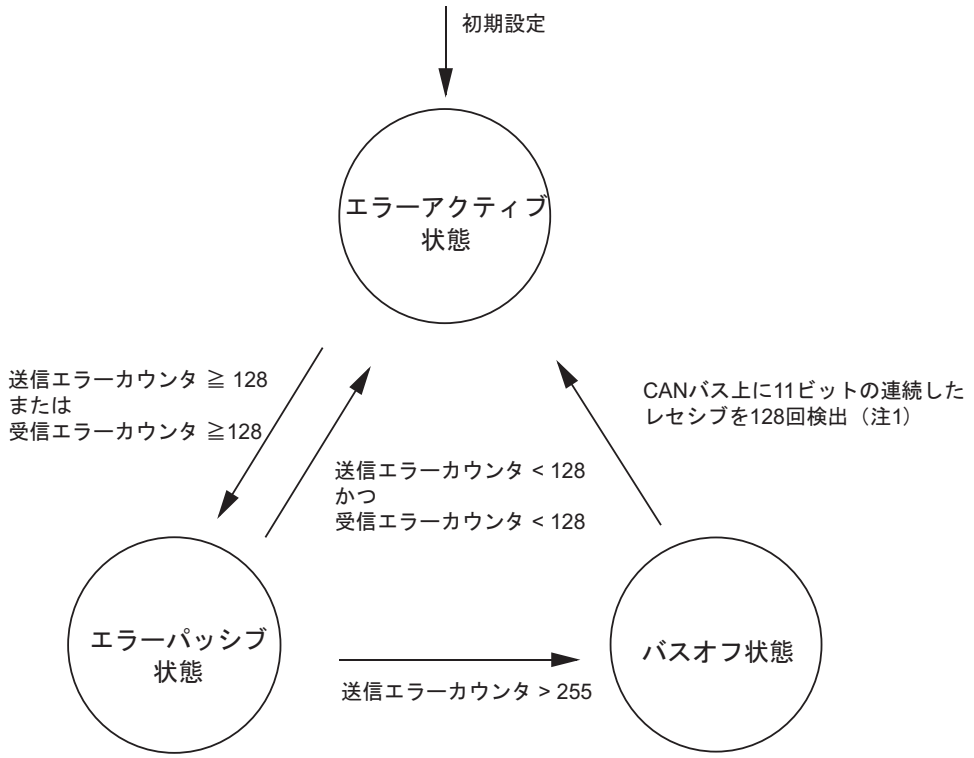
(2)エラーパッシブ状態

- **エラーが多数発生している状態**
- **エラー検出時にパッシブエラーフラグを送信**

(3)バスオフ状態

- **エラーが非常に多数発生している状態**
- **エラーアクティブ状態に戻るまで他のノードとのCAN通信が不可能**

ユニットエラーの状態	送信エラーカウンタ		受信エラーカウンタ
エラーアクティブ状態	0〜127	かつ	0〜127
エラーパッシブ状態	128〜255	または	128〜
バスオフ状態	256〜		−



注1. RBO（リターンバスオフ）ビット、FRST（強制リセット）ビットにより強制的にバスオフ状態から抜け出すことが可能です。詳細は、CANコントロールレジスタ（CANnCNT）を参照してください。

図13.3.4　CAN**コントローラのエラー状態**

13.4　CANモジュール初期設定

13.4.1　CANモジュールの初期設定

通信を行う前に以下の設定を行います。

(1) 端子機能の選択

CAN送信データ出力端子(CTX)、およびCAN受信データ入力端子(CRX)は、入出力ポートとのダブルファンクションになっていますので端子機能の設定を行ってください(「第8章 入出力ポートと端子機能」を参照してください)。

(2) 割り込みコントローラ(ICU)の設定

CANモジュールの割り込みを使用する場合は、割り込み優先レベルを設定します。

(3) CANエラー割り込み要求マスクレジスタ、CANシングルショット割り込み要求マスクレジスタ、CANスロット割り込み要求マスクレジスタの設定

CANバスエラー割り込み、CANエラーパッシブ割り込み、CANエラーバスオフ割り込み、CANシングルショット割り込み、あるいはCANスロット割り込みを使用する場合は、対応するビットに"1"をセットして、割り込み要求を許可してください。

(4) DMACの設定

CANによるDMA転送を使用する場合は、DMACを設定します。

(5) CAN DMA転送要求選択レジスタの設定

CANによるDMA転送を使用する場合は、CAN DMA転送要求選択レジスタで転送要求要因を選択してください。

(6) ビットタイミング/サンプリング回数の設定

CANコンフィグレーションレジスタとCANボーレートプリスケーラでビットタイミングとCANバスのサンプリング回数を設定します。

1)ビットタイミングの設定

ビットタイミングの基本となる周期Tqと、Propagation Segment、Phase Segment1、Phase Segment2の構成、およびreSynchronization Jump Widthを決めます。

Tqの計算式を以下に示します。

Tq ＝ (BRP ＋ 1) / (CPUクロック)

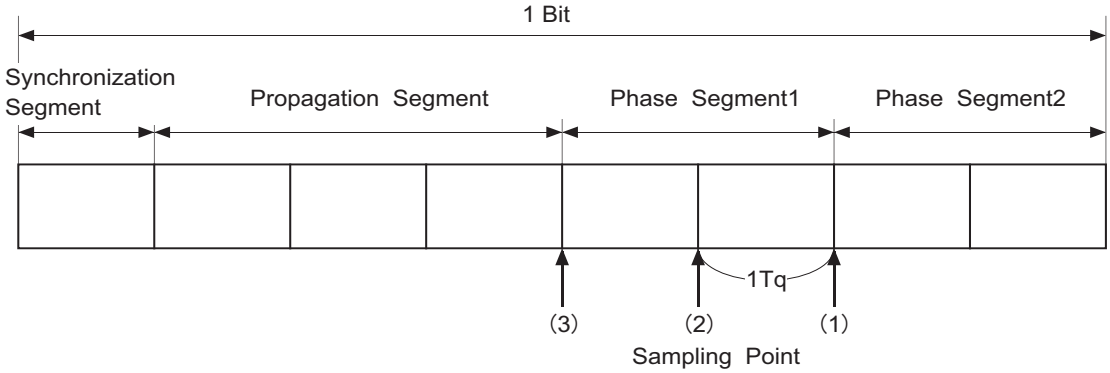
1ビットをいくつのTqで構成するかによってボーレートが決まります。

ボーレートの計算式を以下に示します。

$$\text{ボーレート (bps)} = \frac{1}{\text{Tq周期} \times \text{1ビット分のTqの数}}$$

1ビット分のTqの数 ＝ Synchronization Segment ＋ Propagation Segment ＋ Phase Segment 1 ＋ Phase Segment 2

注．・通信可能な最大ボーレートは、システム構成(バス長、クロック誤差、CANバストランシーバ、サンプリング位置、ビット構成など)に依存します。
システム構成を考慮したボーレート・Tq数設定を行ってください。



- 本図は1ビットを8Tqの構成にした場合のビットタイミングを表しています。
- 1回サンプリングを選択した場合は、Sampling Point（1）のタイミングの値がそのビットのサンプリング値となります。
- 3回サンプリングを選択した場合は、Sampling Point（1）、（2）、（3）のCANバス値の多数決によってサンプリング値を決定します。（（1）の1Tq前のサンプリング値、および2Tq前のサンプリング値の計3ポイントの値から多数決）

図13.4.1　ビットタイミング例

2）サンプリング回数の設定

CANバスのサンプリング回数を"1回"と"3回"とから選択します。

- 1回を選択した場合は、Phase Segment1の最後にサンプリングした値をそのビットの値とみなします。
- 3回を選択した場合は、1回のサンプリングに加え、その1Tq前、および2Tq前のサンプリング値の計3ポイントのサンプリング値による多数決によって、そのビットの値とみなします。

(7) IDマスクレジスタ設定

受信メッセージのアクセプタンスフィルタリングに使用されるIDマスクレジスタ（グローバルマスクレジスタ、ローカルマスクレジスタA、ローカルマスクレジスタB）の値を設定します。

(8) BasicCANモードで使用する場合の設定

- CAN拡張IDレジスタのIDE14、IDE15ビットを設定（同一設定を推奨）
- メッセージスロット14、15へIDを設定
- メッセージコントロールレジスタ14、15をデータフレーム受信（H'40）に設定

(9) シングルショットモードで使用する場合の設定

CANモードレジスタ（CANnMODE）、CANコントロールレジスタ（CANnCNT）によって、CANモジュールの動作モード（BasicCANモード、ループバックモード）、およびタイムスタンプカウンタのクロックソースを選択します。

(10) CANモジュールの動作モードの設定

CANシングルショットモード制御レジスタにシングルショットモードで動作させるスロットを設定します。

(11) CANモジュールのリセット解除

（1）～（10）の初期設定完了後、CANコントロールレジスタ（CANnCNT）の強制リセットビット（FRST）およびリセットビット（RST）を"0"クリアすると、CANバス上に11個の連続したレセシブビットを検出した後、CANモジュールは通信可能となります。

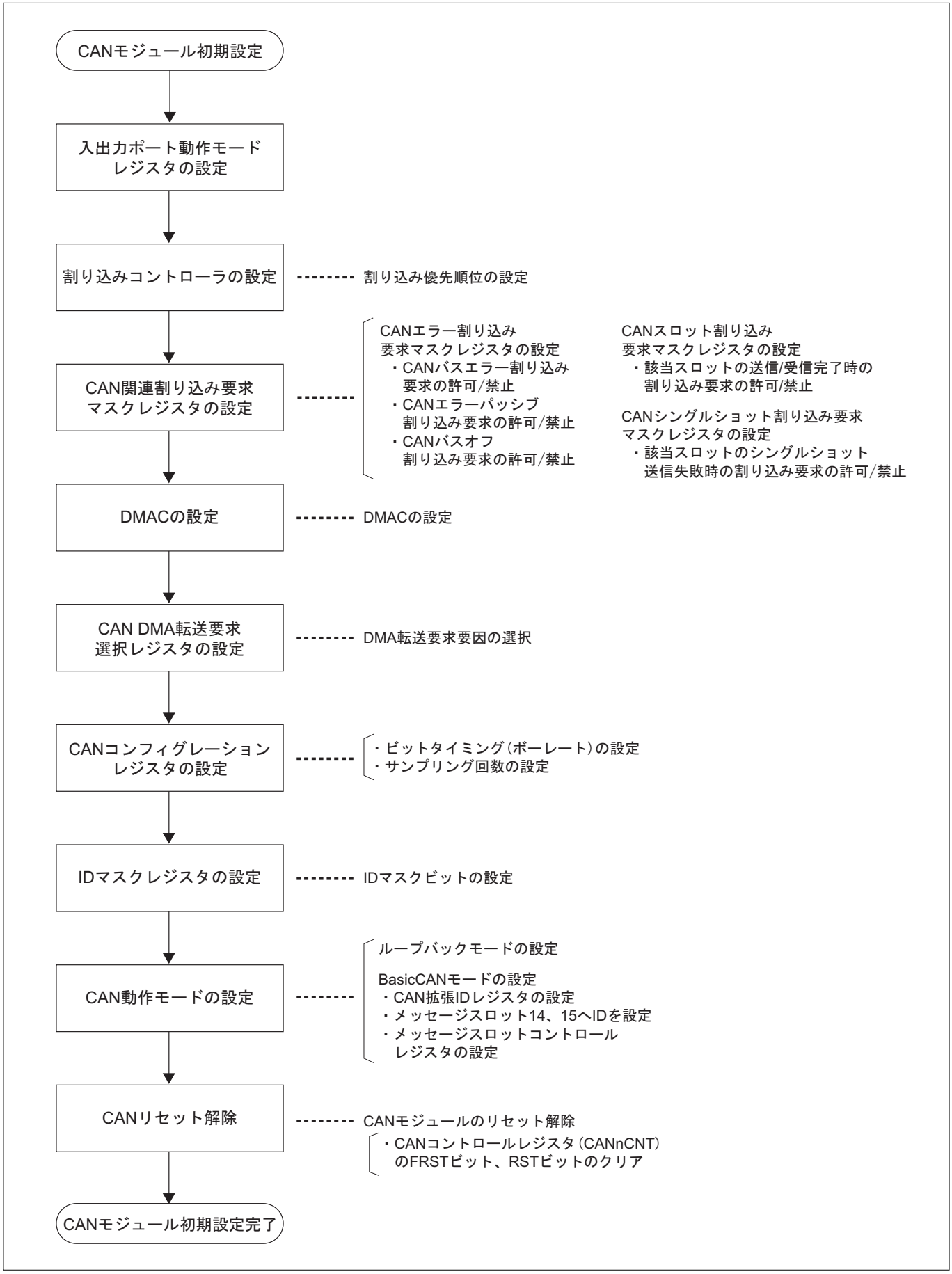


図13.4.2 CAN**モジュール初期設定**

13.5　データフレーム送信

13.5.1　データフレーム送信手順

データフレーム送信手順を以下に示します。

(1) CANメッセージスロットコントロールレジスタの初期化

送信したいスロットのCANメッセージスロットコントロールレジスタにH'00を書き込み、CANメッセージスロットコントロールレジスタを初期化します。

(2) 送信停止の確認

初期化したCANメッセージスロットコントロールレジスタを読み出し、TRSTAT(送受信ステータス)ビットで送受信停止を確認します。もしこのビットが"1"であった場合は、CANモジュールがメッセージスロットへアクセス中であるため、"0"クリアされるまで待つ必要があります。

(3) 送信データの設定

送信ID、送信データをメッセージスロットへセットします。

(4) 拡張IDレジスタの設定

拡張IDレジスタの対応するビットへ、標準フレームとして送信したい場合は"0"を、拡張フレームとして送信したい場合は"1"をセットします。

(5) CANメッセージスロットコントロールレジスタの設定

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'80(注1)を書き込み、TR(送信要求)ビットに"1"をセットします。

注1．データフレーム送信の場合は、必ずH'80を書き込んでください。

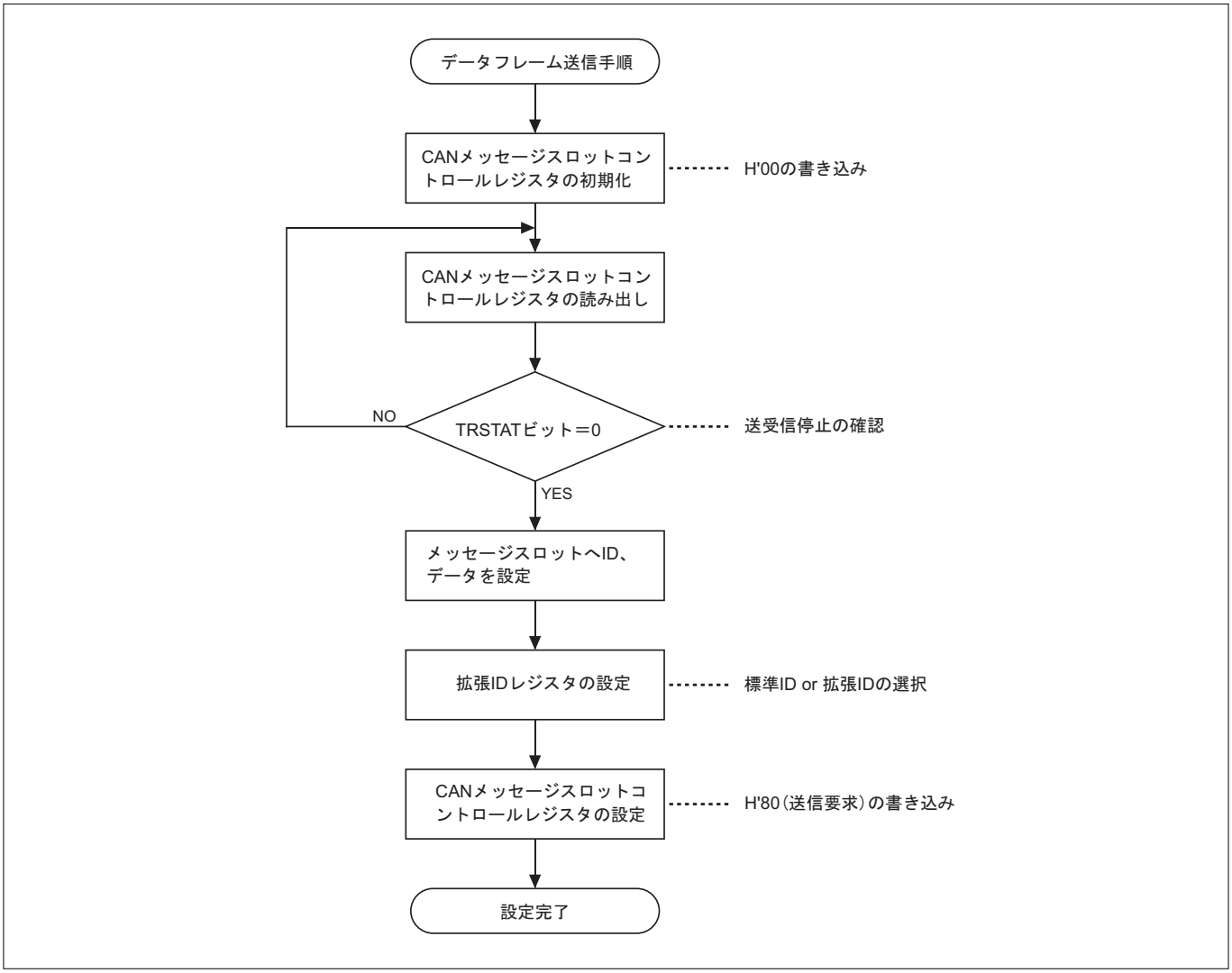


図13.5.1 **データフレーム送信手順**

13.5.2 データフレーム送信動作

データフレーム送信動作を以下に示します。以下動作はハードウェアで自動的に行います。

(1) 送信フレームの選択

CANモジュールはインタミッションごとに送信要求のあるスロット（リモートフレーム送信スロットを含む）をチェックし、送信するフレームを決定します。

送信スロットが複数ある場合は、スロット番号の小さいものから送信します。

(2) データフレームの送信

送信スロット決定後、対応するCANメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT（送受信ステータス）ビットに"1"をセットし、送信を開始します。

(3) CANバス上のアービトレーションに敗れた場合/CANバスエラーが発生した場合

CANバス上のアービトレーションに敗れた場合、あるいは送信途中でCANバスエラーが発生した場合、CANモジュールはCANメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT（送受信ステータス）ビットを"0"クリアします。

送信アボート要求をしていた場合は、送信アボートが受け付けられメッセージスロットへの書き込みが可能となります。

(4) データフレーム送信完了

データフレームの送信が完了すると、CANメッセージスロットコントロールレジスタのTRFIN(送受信完了)ビット、およびCANスロット割り込み要求ステータスレジスタへ"1"がセットされます。また、CANメッセージスロットタイムスタンプ(C0MSLnTSP, C1MSLnTSP)へ送信が完了したときのタイムスタンプカウント値を書き込み、送信動作を完了します。

CANスロット割り込み要求を許可にしていた場合は、送信動作完了で割り込み要求が発生します。

送信を完了したスロットは非アクティブ状態となり、ソフトウェアによって新たに設定を行うまで送受信は行われません。

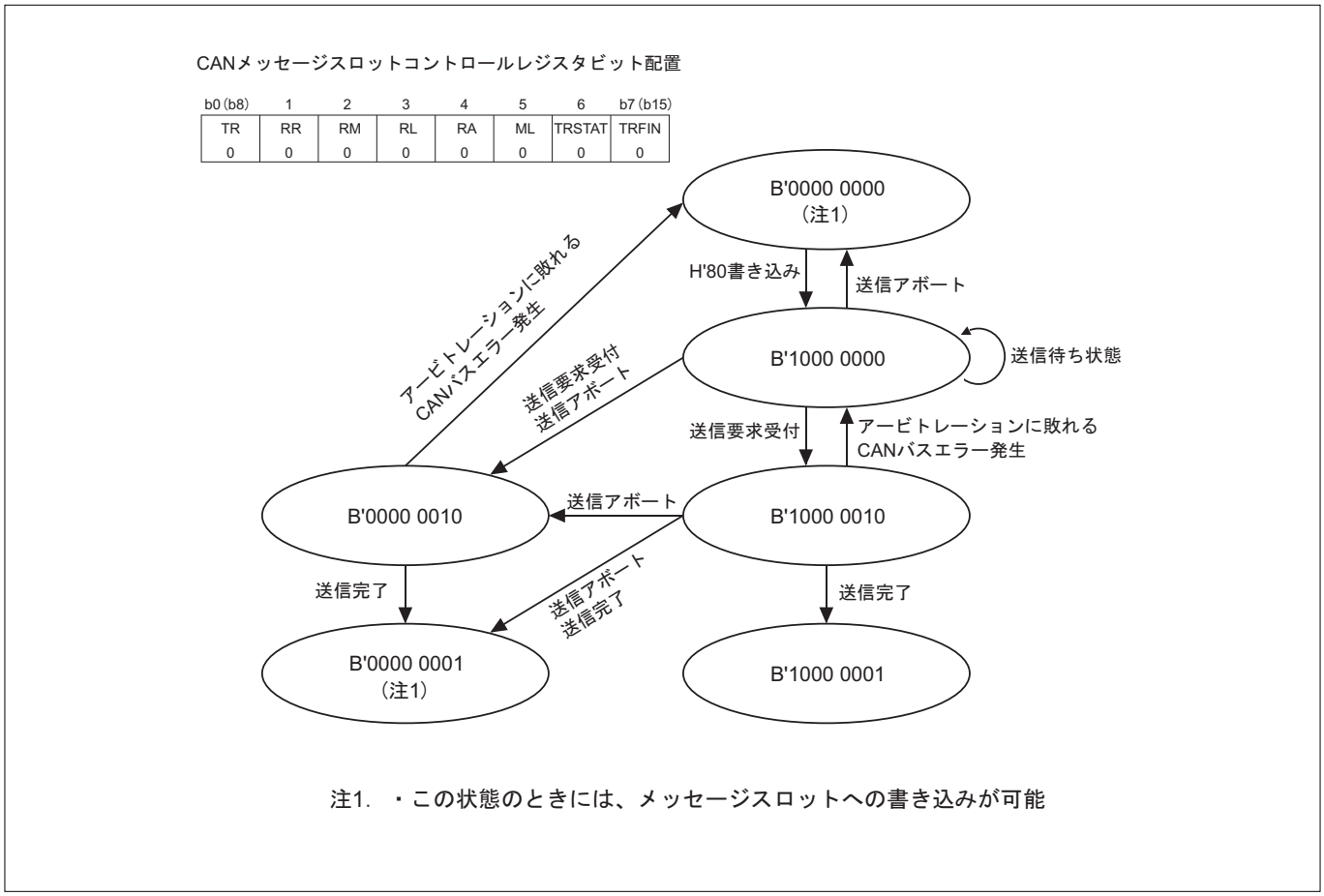


図13.5.2 **データフレーム送信時の**CAN**メッセージスロットコントロールレジスタの動作**

13.5.3 送信アボート機能

送信アボート機能は、一度立てた送信要求をキャンセルする機能です。キャンセルしたいスロットに対応したCANメッセージスロットコントロールレジスタにH'0Fを書き込むことによって行います。

送信アボート機能が受け付けられると、CANモジュールはCANメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送受信ステータス)ビットを"0"クリアし、メッセージスロットへの書き込みが可能になります。

送信アボートが受け付けられる条件を以下に示します。

【条件】

- **対象のメッセージが送信待ち状態の場合**
- **送信中に**CAN**バスエラーが発生した場合**
- **アービトレーションに敗れた場合**

13.6　データフレーム受信

13.6.1　データフレーム受信手順

データフレーム受信手順を以下に示します。

(1) CANメッセージスロットコントロールレジスタの初期化

受信したいスロットのCANメッセージスロットコントロールレジスタにH'00を書き込み、CANメッセージスロットコントロールレジスタを初期化します。

(2) 受信停止の確認

初期化したCANメッセージスロットコントロールレジスタを読み出し、TRSTAT(送受信ステータス)ビットで送受信停止を確認します。もしこのビットが"1"であった場合は、CANモジュールがメッセージスロットへアクセス中であるため、"0"クリアされるまで待つ必要があります。

(3) 受信IDの設定

受信したいIDをメッセージスロットへ設定します。

(4) 拡張IDレジスタの設定

拡張IDレジスタの対応するビットへ、標準フレームを受信したい場合は"0"を、拡張フレームを受信したい場合は"1"をセットします。

(5) CANメッセージスロットコントロールレジスタの設定

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'40を書き込み、RR(受信要求)ビットに"1"をセットします。

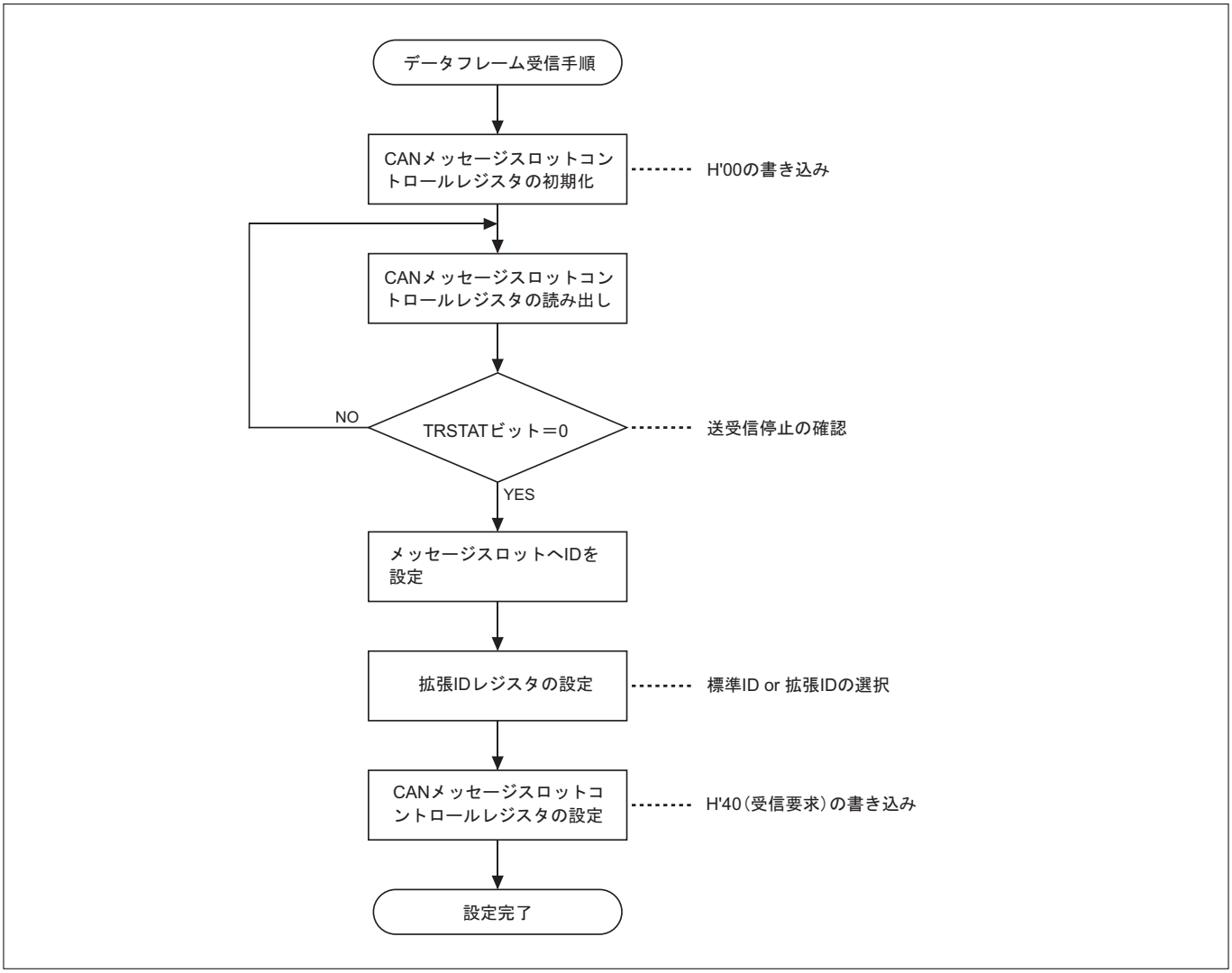


図13.6.1 **データフレーム受信手順**

13.6.2 データフレーム受信動作

データフレーム受信動作を以下に示します。以下動作はハードウェアで自動的に行います。

(1) アクセプタンスフィルタリング

データ受信が完了するとCANモジュールは受信したメッセージの受信条件を満たすスロットをスロット0から順に（スロット15まで）検索します。

データフレーム受信設定スロットにおける受信条件を以下に示します。

【条件】

- **受信フレームがデータフレームであること**
- IDマスクレジスタに"0"が設定されているビットを"Don't care bit"として、受信IDとスロットIDが同一であること
- **標準/拡張のフレームタイプが同一であること**

注． • BasicCANモード時のスロット14、15ではデータフレーム受信設定でリモートフレームの受信も行います。

(2) 受信条件を満たした場合

前記(1)の受信条件を満たしていた場合、CANモジュールはメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送受信ステータス)ビットとTRFIN(送受信完了)ビットへ"1"を設定し、同時に受信データをメッセージスロットへ書き込みます。この時すでにTRFIN(送受信完了)ビットが"1"であった場合には、ML(メッセージロスト)ビットにも"1"を設定し、メッセージスロットが上書きされたことを示します。メッセージスロットはIDフィールド、DLCフィールドともにすべて上書きし、未使用領域(標準フレーム時の拡張IDフィールド、未使用データフィールド等)には不定値を書き込みます。

また、受信データと一緒にメッセージを受信したときのタイムスタンプカウント値をCANメッセージスロットタイムスタンプ(C0MSLnTSP, C1MSLnTSP)へ書き込みます。メッセージスロットへの書き込みが終了すると、CANスロット割り込み要求ステータスビットへ"1"をセットします。割り込み要求が許可されていれば割り込み要求を発生し、次の受信待ち状態となります。

(3) 受信条件を満していない場合

受信フレームは破棄し、次の送受信動作へと進みます。メッセージスロットへの書き込みは行いません。

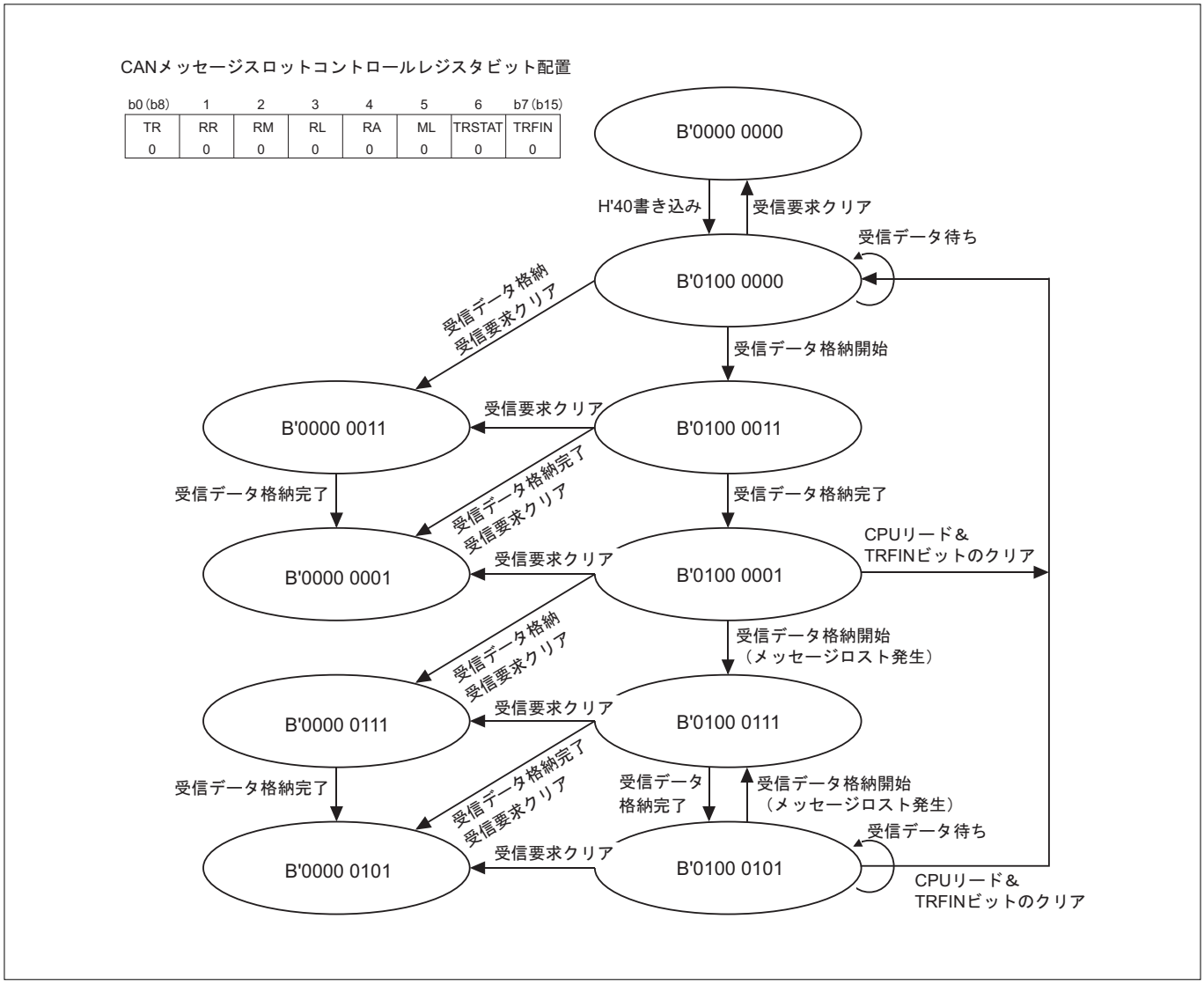


図13.6.2 データフレーム受信時のCANメッセージスロットコントロールレジスタの動作

13.6.3 受信データフレームの読み出し

受信データフレームの読み出し手順を以下に示します。

(1) TRFIN(送受信完了)ビットのクリア

CANメッセージスロットコントロールレジスタ(C0MSLnCNT, C1MSLnCNT)にH'4E、H'40またはH'00を書き込みTRFINビットを"0"にクリアします。書き込み後のスロットの動作は以下のようになります。

CnMSLnCNTに書き込む値	書き込み後のスロットの動作
H'4E	データフレーム受信スロットとして動作します。 MLビットによる上書き確認ができます。
H'40	データフレーム受信スロットとして動作します。 MLビットによる上書き確認はできません。
H'00(注1)	スロットは送受信動作を停止します。

注1. H'00を書き込むことによって、CANメッセージスロットコントロールレジスタ(C0MSLnCNT, C1MSLnCNT)のRR(受信要求)ビットを"0"にクリアした場合、その直前までに受信動作が開始されていれば、その時の受信動作が終了するまで送受信制御が行われます。

注. ・MLビットによるメッセージロストチェックが必要な場合には、H'4Eを書き込んでTRFINビットをクリアしてください。

(2) メッセージスロットの読み出し

メッセージスロットからメッセージを読み出します。

(3) TRFIN(送受信完了)ビットのチェック

CANメッセージコントロールレジスタを読み出し、TRFIN(送受信完了)ビットをチェックします。

1)TRFIN(送受信完了)ビット="1"の場合

(2)の読み出しの途中で、新しいデータの格納が行われたことを示しています。この場合、(2)で読み出した値の中に不定値が含まれていますので、(1)のTRFIN(送受信完了)ビットのクリアからやり直してください。

2)TRFIN(送受信完了)ビット="0"の場合

正常に読み出しが完了したことを示します。

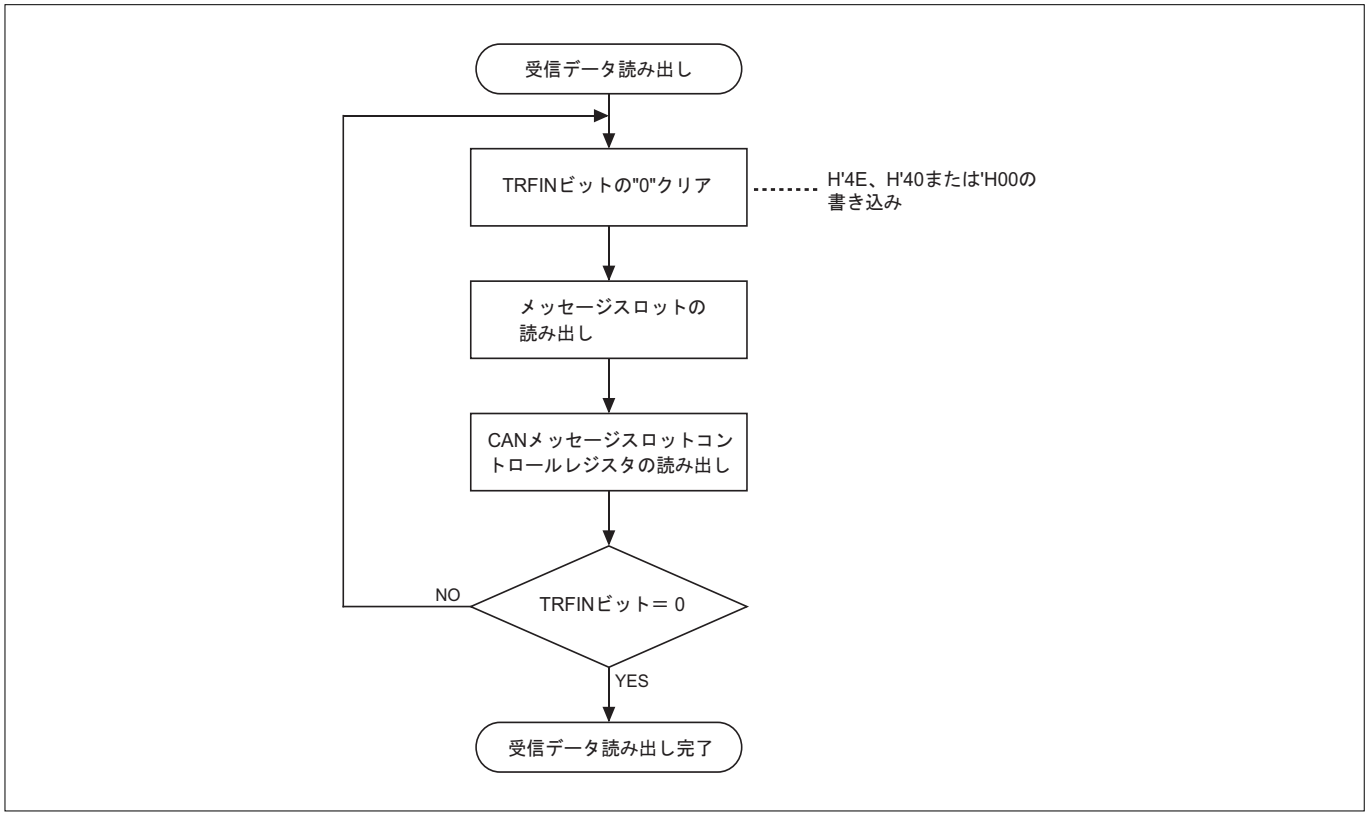


図13.6.3　**受信データ読み出し手順**

13.7 リモートフレーム送信

13.7.1 リモートフレーム送信手順

リモートフレーム送信手順を以下に示します。

(1) CANメッセージスロットコントロールレジスタの初期化

送信したいスロットのCANメッセージスロットコントロールレジスタにH'00を書き込み、CANメッセージスロットコントロールレジスタを初期化します。

(2) 送信停止の確認

初期化したCANメッセージスロットコントロールレジスタを読み出し、TRSTAT(送受信ステータス)ビットで送受信停止を確認します。もしこのビットが"1"であった場合は、CANモジュールがCANメッセージスロットへアクセス中であるため、"0"クリアされるまで待つ必要があります。

(3) 送信IDのセット

メッセージスロットへ送信すべきIDをセットします。

(4) 拡張IDレジスタの設定

拡張IDレジスタの対応するビットへ、標準フレームとして送信したい場合は"0"を、拡張フレームとして送信したい場合は"1"をセットします。

(5) CANメッセージスロットコントロールレジスタの設定

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'A0を書き込み、TR(送信要求)ビット、RM(リモート)ビットに"1"をセットします。

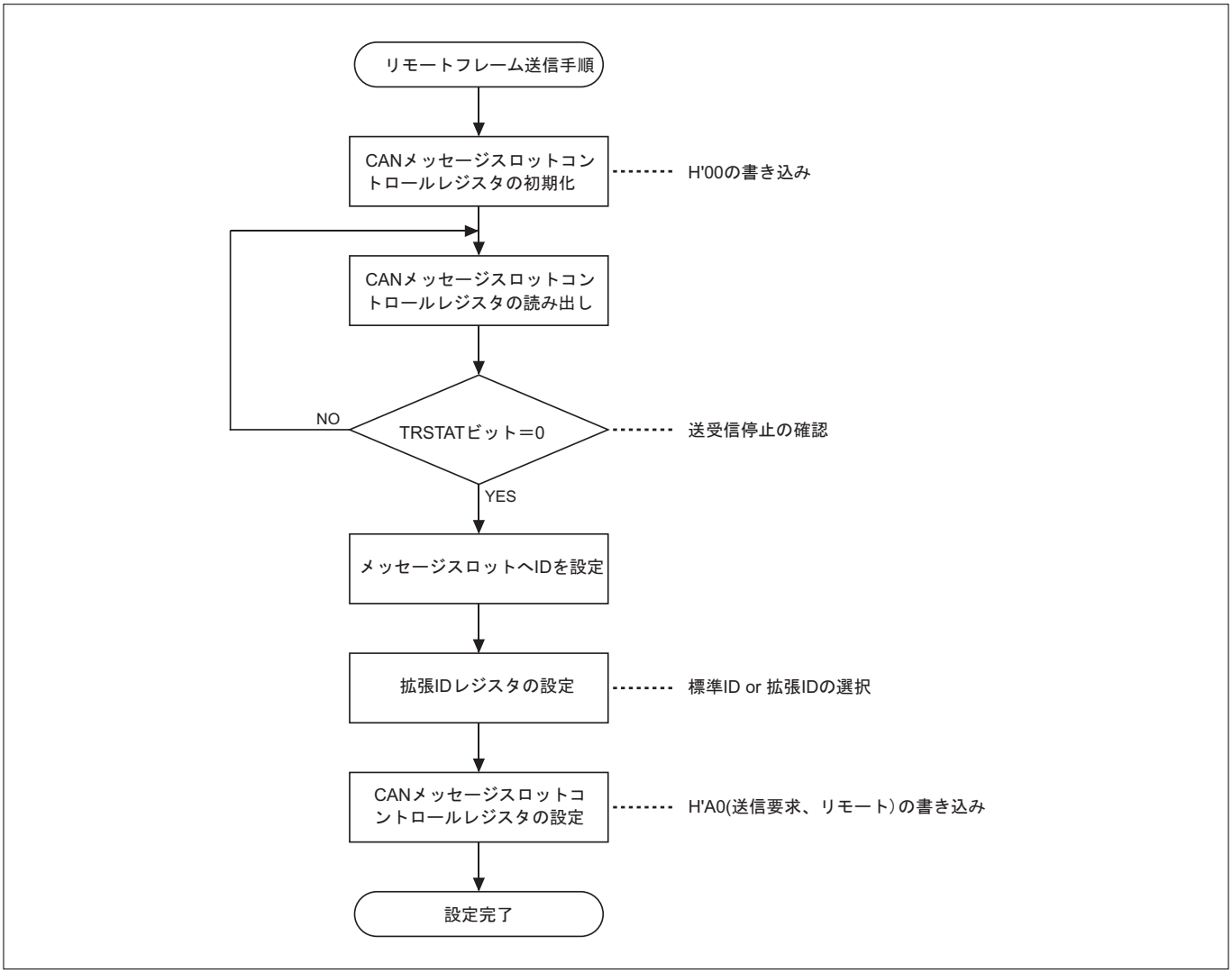


図13.7.1 **リモートフレーム送信手順**

13.7.2 リモートフレーム送信動作

リモートフレーム送信動作を以下に示します。以下動作はハードウェアで自動的に行います。

(1) RA(リモートアクティブ)ビットの設定

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'A0(送信要求、リモート)を書き込むと同時に、対応するスロットがリモートフレームを扱うビットであることを示すRA(リモートアクティブ)ビットに"1"がセットされます。

(2) 送信フレームの選択

CANモジュールはインタミッションごとに送信要求のあるスロット(データフレーム送信スロットを含む)をチェックし、送信するフレームを決定します。

送信スロットが複数ある場合は、スロット番号の小さいものから送信します。

(3) リモートフレームの送信

送信スロット決定後、対応するCANメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送信ステータス)ビットに"1"をセットし、送信を開始します。

(4) CANバス上のアービトレーションに敗れた場合/CANバスエラーが発生した場合

CANバス上のアービトレーションに敗れた場合、あるいは送信途中でCANバスエラーが発生した場合、CANモジュールはCANメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送受信ステータス)ビットを"0"クリアします。

送信アボート要求をしていた場合は、送信アボートが受け付けられメッセージスロットへの書き込みが可能となります。

(5) リモートフレーム送信完了

リモートフレームの送信が完了すると、完了したときのタイムスタンプカウント値をCANメッセージスロットタイムスタンプ(C0MSLnTSP, C1MSLnTSP)に格納し、CANメッセージスロットコントロールレジスタのRA(リモートアクティブ)ビットを"0"クリアします。

また、送信完了によってCANスロット割り込み要求ステータスビットは"1"がセットされますが、CANメッセージスロットコントロールレジスタのTRFIN(送受信完了)ビットへは"1"がセットされません。

CANスロット割り込み要求を許可にしていた場合は、送信完了で割り込み要求が発生します。

(6) データフレーム受信

リモートフレームの送信が完了したら、そのスロットは自動的にデータフレーム受信スロットとして機能します。

(7) アクセプタンスフィルタリング

データ受信が完了するとCANモジュールは受信したメッセージの受信条件を満たすスロットをスロット0から順に(スロット15まで)検索します。

データフレーム受信設定スロットにおける受信条件を以下に示します。

【条件】

- **受信フレームがデータフレームであること**
- IDマスクレジスタに"0"が設定されているビットを"Don't care bit"として、受信IDとスロットIDが同一であること
- 標準/拡張のフレームタイプが同一であること

注．・BasicCANモードではスロット14、15を送信スロットとして使用することはできません。

(8) 受信条件を満たした場合

上記(7)の受信条件を満たしていた場合、CANモジュールはメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送受信ステータス)ビットとTRFIN(送受信完了)ビットへ"1"を設定し、同時に受信データをメッセージスロットへ書き込みます。この時すでにTRFIN(送受信完了)ビットが"1"であった場合には、ML(メッセージロスト)ビットにも"1"を設定しメッセージスロットが上書きされたことを示します。メッセージスロットはIDフィールド、DLCフィールドともにすべて上書きし、未使用領域(標準フレーム時の拡張IDフィールド、未使用データフィールド等)には不定値を書き込みます。

また、受信データと一緒にメッセージを受信したときのタイムスタンプカウント値をCANメッセージスロットタイムスタンプ(C0MSLnTSP, C1MSLnTSP)へ書き込みます。メッセージスロットへの書き込みが終了すると、CANスロット割り込み要求ステータスビットへ"1"をセットします。割り込み要求が許可されていれば割り込み要求を発生し、次のフレームの受信待ち状態となります。

注．・リモートフレームを送信する前に対応するデータフレームを受信した場合は、データフレームの格納を行いリモートフレームは送信されません。

(9) 受信条件を満たしていない場合

受信フレームを破棄し、次の送受信動作へと進みます。メッセージスロットへの書き込みは行いません。

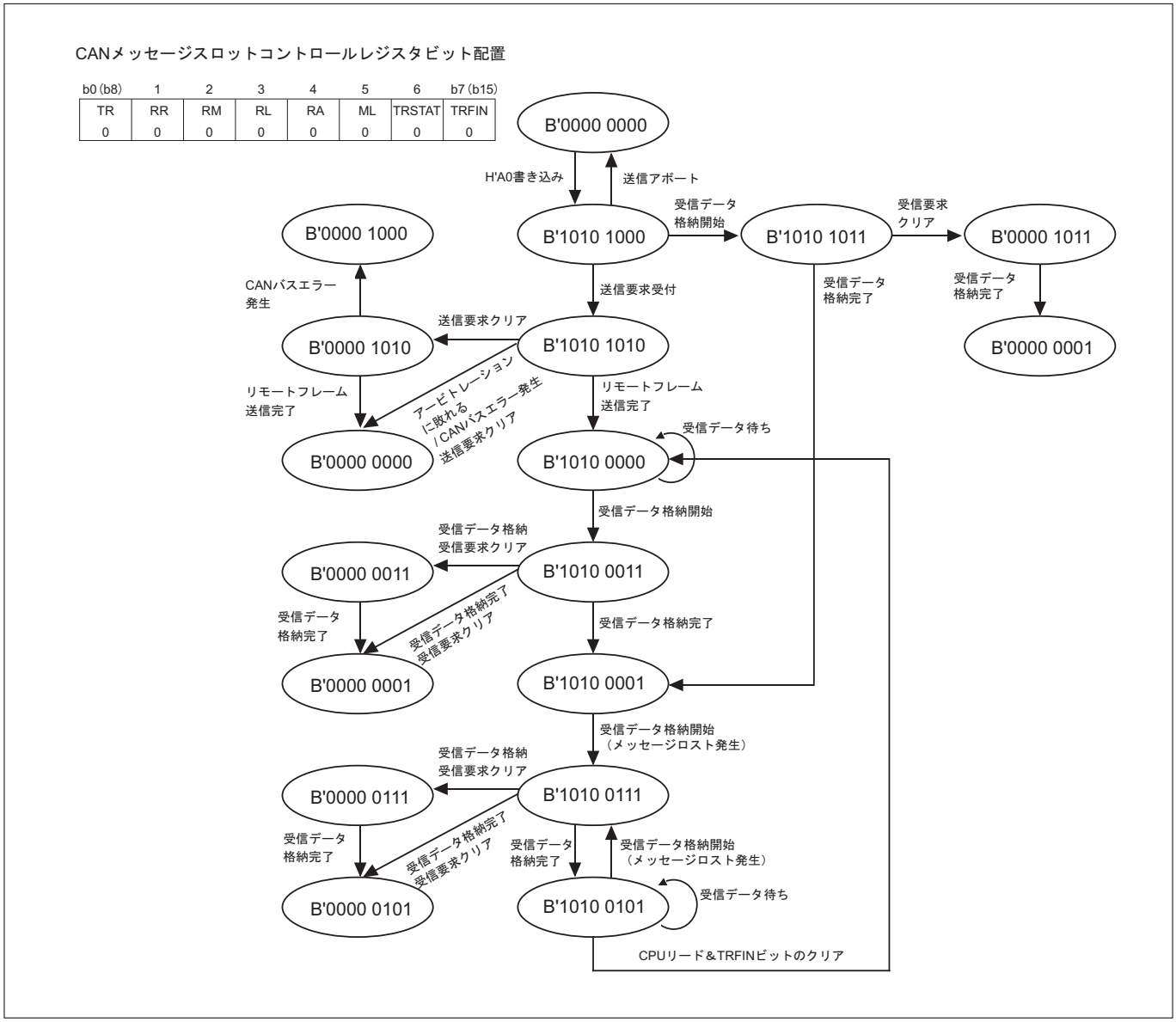


図13.7.2 **リモートフレーム送信時の**CAN**メッセージスロットコントロールレジスタの動作**

13.7.3 リモートフレーム送信設定時の受信データフレームの読み出し

リモートフレーム送信設定時に受信したデータフレームの読み出し手順を以下に示します。

(1) TRFIN(送受信完了)ビットのクリア

CANメッセージスロットコントロールレジスタ(C0MSLnCNT, C1MSLnCNT)にH'AE、またはH'00を書き込みTRFINビットを"0"にクリアします。書き込み後のスロットの動作は以下のようになります。

CnMSLnCNTに 書き込む値	書き込み後のスロットの動作
H'AE	データフレーム受信スロットとして動作します。 MLビットによる上書き確認ができます。
H'00	スロットは送受信動作を停止します。

注. • MLビットによるメッセージロストチェックが必要な場合には、H'AEを書き込んでTRFINビットをクリアしてください。
• H'AEまたはH'00を書き込むことによってTRFINビットを"0"クリアした場合には、メッセージ読み出し途中で新しいデータの格納が行われる可能性があります。
• H'A0を書き込んで受信データフレームを読み出すことはできません。H'A0を書き込んでTRFINビットを"0"クリアした場合は、スロットはリモートフレーム送信動作を行います。

(2) メッセージスロットの読み出し

メッセージスロットからメッセージを読み出します。

(3) TRFIN(送受信完了)ビットのチェック

CANメッセージコントロールレジスタを読み出し、TRFIN(送受信完了)ビットをチェックします。

1)TRFIN(送受信完了)ビット＝"1"の場合

(2)の読み出しの途中で、新しいデータの格納が行われたことを示しています。この場合、(2)で読み出した値の中に不定値が含まれていますので、(1)のTRFIN(送受信完了)ビットのクリアからやり直してください。

2)TRFIN(送受信完了)ビット＝"0"の場合

正常に読み出しが完了したことを示します。

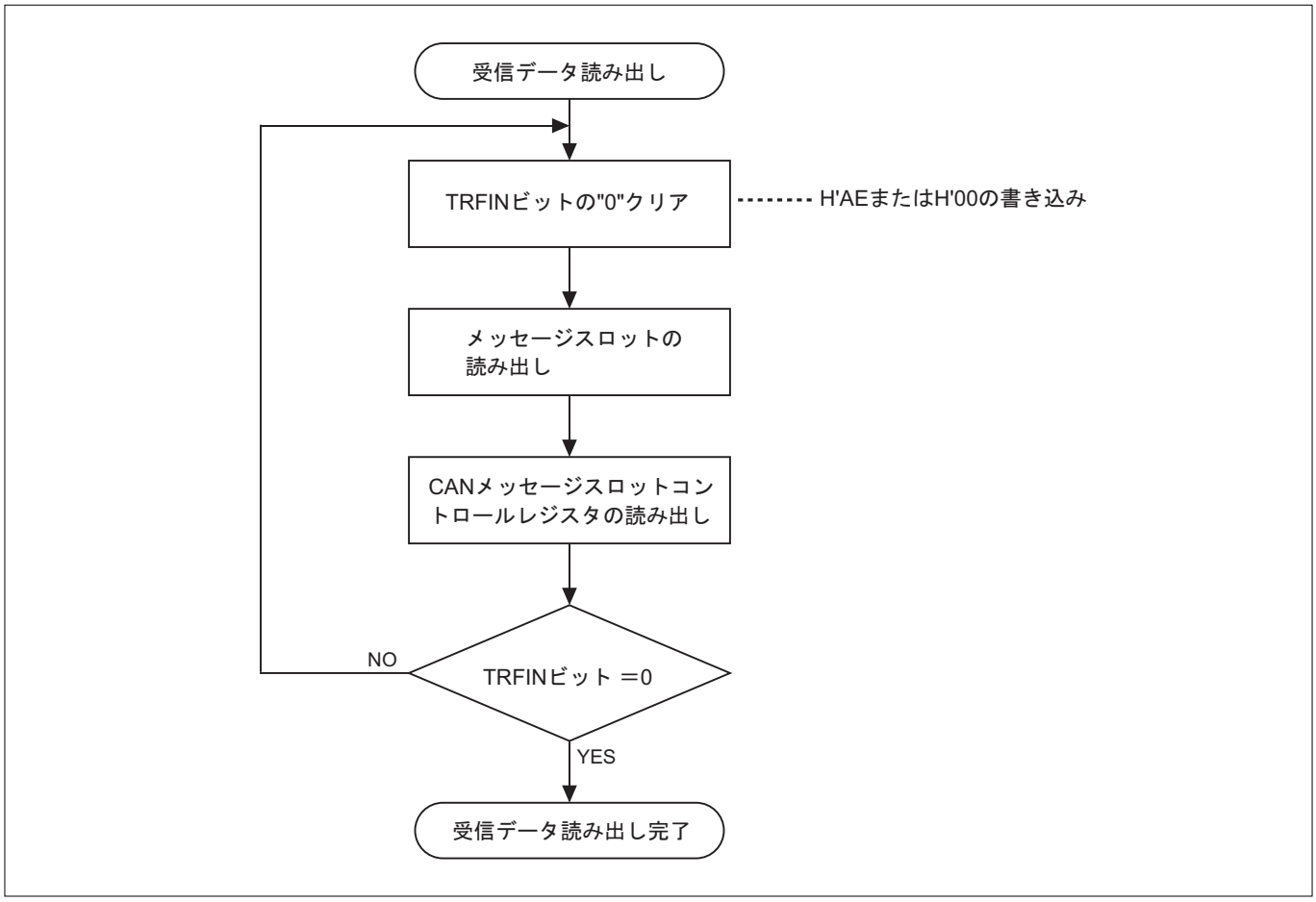


図13.7.3 リモートフレーム送信設定時の受信データ読み出し手順

13.8 リモートフレーム受信

13.8.1 リモートフレーム受信手順

リモートフレーム受信手順を以下に示します。

(1) CANメッセージスロットコントロールレジスタの初期化

受信したいスロットのCANメッセージスロットコントロールレジスタにH'00を書き込み、CANメッセージスロットコントロールレジスタを初期化します。

(2) 受信停止の確認

初期化したCANメッセージスロットコントロールレジスタを読み出し、TRSTAT(送受信ステータス)ビットで送受信停止を確認します。もしこのビットが"1"であった場合は、CANモジュールがCANメッセージスロットへアクセス中であるため、"0"クリアされるまで待つ必要があります。

(3) 受信IDの設定

受信したいIDをメッセージスロットへ設定します。

(4) 拡張IDレジスタの設定

拡張IDレジスタの対応するビットへ、標準フレームを受信したい場合は"0"を、拡張フレームを受信したい場合は"1"をセットします。

(5) CANメッセージスロットコントロールレジスタの設定

1)リモートフレーム受信に対して自動応答させたい場合(データフレーム送信)

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'60を書き込み、RR(受信要求)ビット、RM(リモート)ビットに"1"をセットします。

2)リモートフレーム受信に対して自動応答を禁止させたい場合

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'70を書き込み、RR(受信要求)ビット、RM(リモート)ビット、RL(自動応答許可)ビットに"1"をセットします。

注. ・BasicCANモード時はスロット14、15ではリモートフレーム受信はできますが、自動応答を行うことはできません。

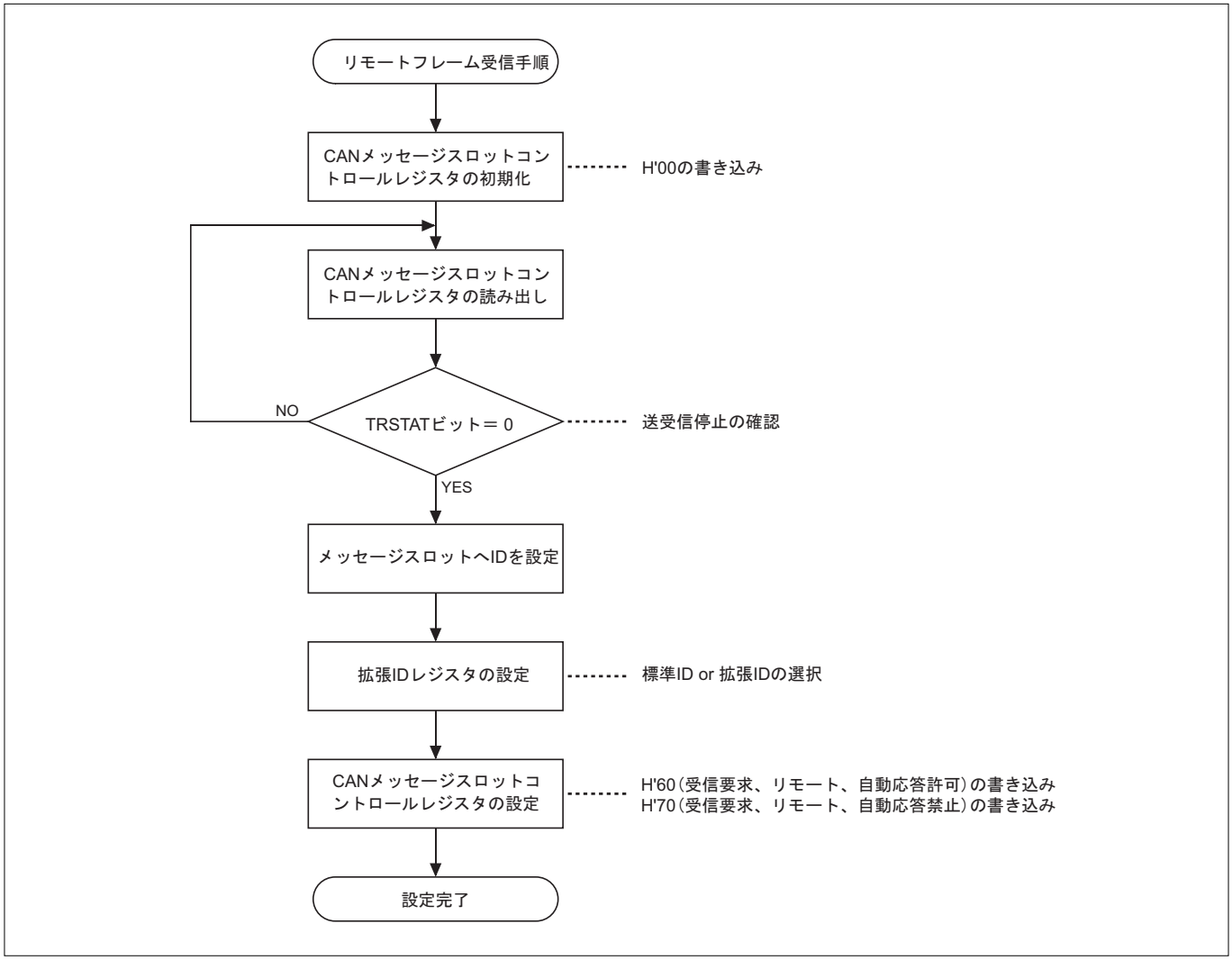


図13.8.1 **リモートフレーム受信手順**

13.8.2 リモートフレーム受信動作

リモートフレーム受信動作を以下に示します。以下動作はハードウェアで自動的に行います。

(1) RA(リモートアクティブ)ビットの設定

CANメッセージスロットコントロールレジスタへH'60（受信要求、リモート、自動応答許可）またはH'70（受信要求、リモート、自動応答禁止）を書き込むと、対応スロットがリモートフレームを扱うビットであることを示すRA（リモートアクティブ）ビットに"1"がセットされます。

(2) アクセプタンスフィルタリング

データ受信が完了するとCANモジュールは受信したメッセージの受信条件を満たすスロットをスロット0から順に（スロット15まで）検索します。

リモートフレーム受信設定スロットにおける受信条件を以下に示します。

【条件】

- **受信フレームがリモートフレームであること**
- **IDマスクレジスタに**"0"**が設定されているビットを**"Don't care bit"**として、受信**ID**とスロット**ID**が同一であること**
- **標準/拡張のフレームタイプが同一であること**

(3) 受信条件を満たした場合

前記(2)の受信条件を満たしていた場合、CANモジュールはメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送受信ステータス)ビットとTRFIN(送受信完了)ビットへ"1"を設定し、同時に受信データをメッセージスロットへ書き込みます。

また、受信データと一緒にメッセージを受信したときのタイムスタンプカウント値をCANメッセージスロットタイムスタンプ(C0MSLnTSP, C1MSLnTSP)へ書き込みます。メッセージスロットへの書き込みが終了すると、CANスロット割り込み要求ステータスビットへ"1"をセットします。割り込み要求が許可されていれば割り込み要求を発生します。

注. ・メッセージスロットにはIDフィールドとDLCの値が書き込まれます。
・標準フォーマット時の拡張ID領域には不定値が書き込まれます。
・データフィールドに対しては書き込み動作は行いません。
・リモートフレーム受信データの書き込み後、RAビット、TRFINビットは"0"クリアされます。

(4) 受信条件を満していない場合

受信データを破棄され、次の受信フレームを待ちます。メッセージスロットへの書き込みは行いません。

(5) リモートフレーム受信後の動作

リモートフレーム受信後の動作は、自動応答の設定によって異なります。

1) 自動応答禁止の場合

受信を完了したスロットは非アクティブ状態となり、ソフトウェアによって新たに設定を行うまで該当スロットの送受信は行われません。

2) 自動応答許可の場合

リモートフレーム受信後、自動的にデータフレーム送信スロットに切り換わり、以下動作で送信処理を行います。その場合、送信されるデータは受信したリモートフレームのID、DLCに従います。

• 送信フレーム選択

CANモジュールは、インタミッションごとに送信要求のあるスロット(リモートフレーム送信スロットを含む)をチェックし、送信するフレームを決定します。

送信スロットが複数ある場合は、スロットナンバの小さいものから送信されます。

• データフレームの送信

送信スロット決定後、対応するCANメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送信ステータス)ビットに"1"をセットし、送信を開始します。

• CANバス上のアービトレーションに敗れた場合/CANバスエラーが発生した場合

CANバス上のアービトレーションに敗れた場合、あるいは送信途中でCANバスエラーが発生した場合、CANモジュールはメッセージスロットコントロールレジスタのTRSTAT(送受信ステータス)ビットを"0"クリアします。

送信アボート要求をしていた場合は、送信アボートが受け付けられメッセージスロットへの書き込みが可能となります。

• データフレーム送信完了

データフレームの送信が完了すると、CANメッセージスロットコントロールレジスタのTRFIN(送受信完了)ビット、およびCANスロット割り込み要求ステータスレジスタへ"1"がセットされます。また、CANメッセージスロットタイムスタンプ(C0MSLnTSP, C1MSLnTSP)へ送信が完了したときのタイムスタンプカウント値を書き込み、送信動作を完了します。

CANスロット割り込み要求を許可にしていた場合は、送信動作完了で割り込み要求が発生します。

送信を完了したスロットは非アクティブ状態となり、ソフトウェアによって新た に設定を行うまで送受信は行われません。

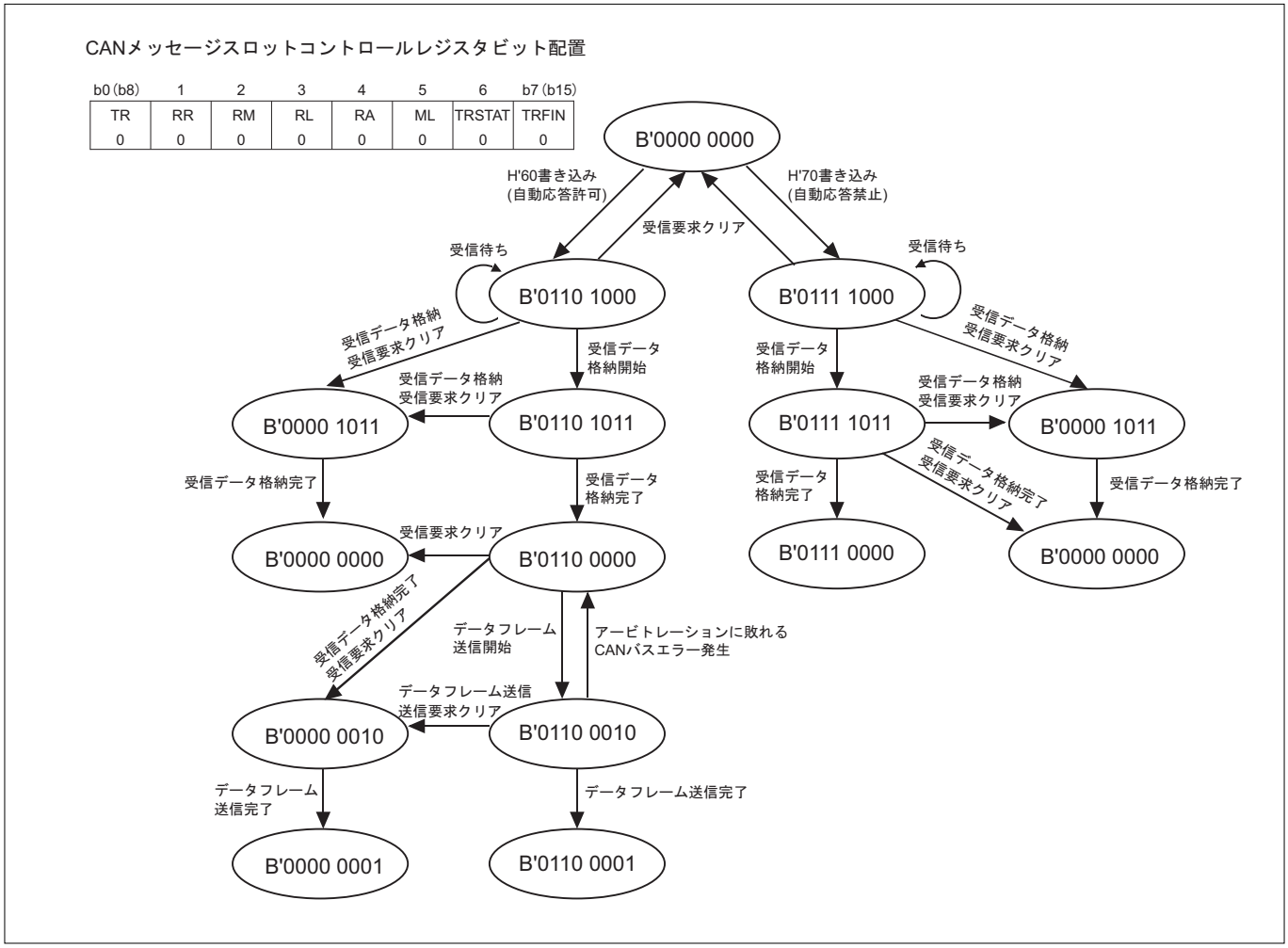


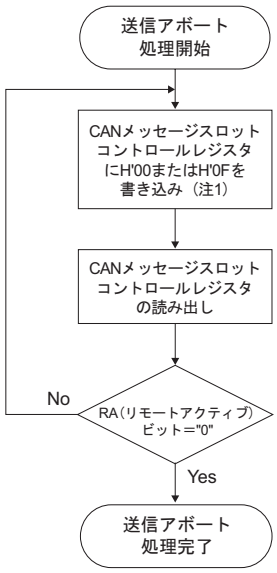
図13.8.2 **リモートフレーム受信時の**CAN**メッセージスロットコントロールレジスタの動作**

13.9　CANモジュールの注意事項

・リモートフレーム送受信キャンセルについて

リモートフレーム送信アボート、リモートフレーム受信キャンセルを行う際には、CANメッセージスロットコントロールレジスタにH'00またはH'0Fを書き込んだ後、RA(リモートアクティブ)ビットが"0"にクリアされたことを確認してください。

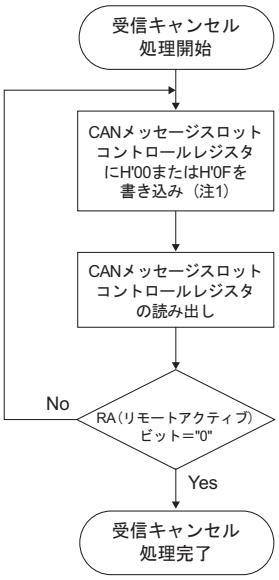
(1)リモートフレーム送信アボート時



注1.　H'00、H'0Fどちらの書き込みでも問題ありません。

図13.9.1　**リモートフレーム送信アボート時の処理フロー**

(2)リモートフレーム受信キャンセル時



注1.　H'00、H'0Fどちらの書き込みでも問題ありません。

図13.9.2　**リモートフレーム受信キャンセル時の処理フロー**

第14章

リアルタイムデバッガ（RTD）

14.1　リアルタイムデバッガ（RTD）概要
14.2　RTD端子機能
14.3　RTD関連レジスタ
14.4　RTD動作説明
14.5　ホストとの接続例

14.1　リアルタイムデバッガ(RTD)概要

リアルタイムデバッガ(Real Time Debugger)は、内蔵RAM全領域を、マイコン外部からコマンドを使用し、リード/ライトするためのシリアルインタフェースです。RTDと内蔵RAM間のデータ転送はM32Rと別に内蔵した専用バスを通じて行うため、M32Rの動作を停止させることなく制御することができます。

表14.1.1　リアルタイムデバッガ(RTD)の概要

項目	内容
転送方式	クロック同期形シリアルインタフェース
転送クロックの発生	外部ホスト側が発生
RAMアクセス領域	内蔵RAM全領域(A16～A29による制御)
送受信データ長	32ビット(固定)
ビット転送順序	LSBファースト
最大転送速度	2Mビット/秒
入出力端子	4本(RTDTXD, RTDRXD, RTDACK, RTDCLK)
コマンド数	以下の5機能 • 継続モニタ • リアルタイムRAM内容出力 • RAM内容強制書き換え(ベリファイ付き) • 暴走状態からの復帰 • RTD割り込み要求

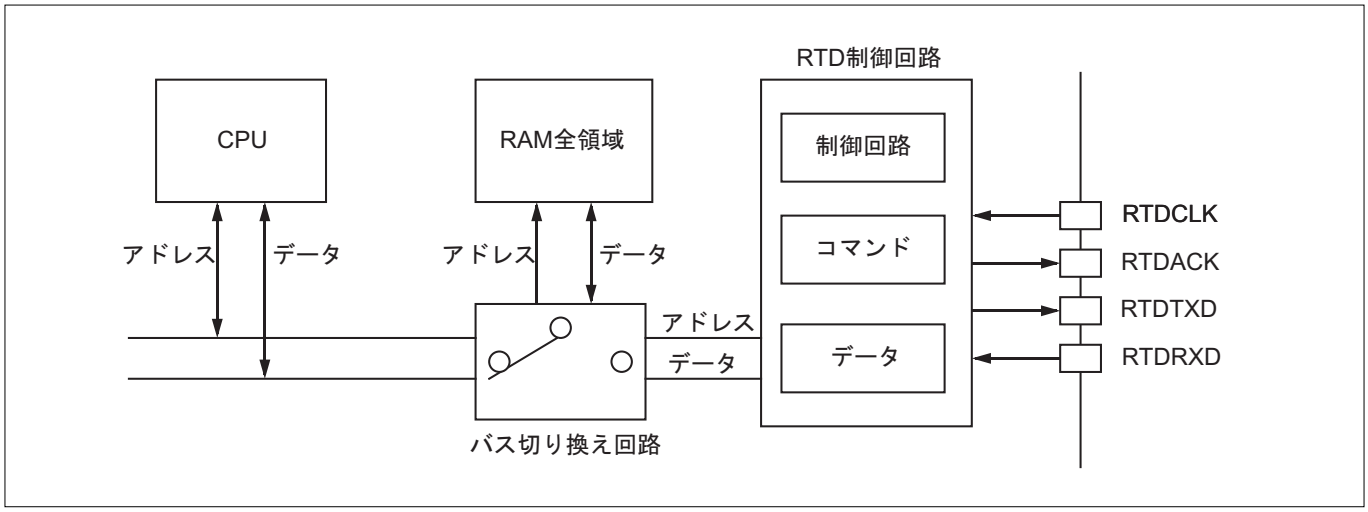


図14.1.1　リアルタイムデバッカ(RTD)のブロック図

14.2　RTD端子機能

RTDの端子機能を以下に示します。

表14.2.1　RTD端子機能

端子名	入出力	機能
RTDTXD	出力	RTDシリアルデータ出力
RTDRXD	入力	RTDシリアルデータ入力
RTDACK	出力	出力データワードの先頭クロックに同期した、"L"パルスを出力します。 出力される"L"パルスの幅は、RTDが受信した命令/データの種類を示します。 1クロック　：VER(継続モニタ)コマンド 1クロック　：VEI(RTD割り込み要求)コマンド 2クロック　：RDR(リアルタイムRAM内容出力)コマンド 3クロック　：WRR(RAM内容強制書き換え)コマンド、またはそのデータ 4クロック以上：RCV(暴走状態からの復帰)コマンド
RTDCLK	入力	RTD転送クロック入力

14.3　RTD関連レジスタ

以下にRTD関連のレジスタマップを示します。

RTD関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0 … b7	＋1番地 b8 … b15	掲載ページ
H'0080 077A	(使用禁止領域)	RTD書き込み機能禁止レジスタ (WRRDIS)	14-3

14.3.1　RTD書き込み機能禁止レジスタ

RTD書き込み機能禁止レジスタ(WRRDIS)　　＜アドレス：H'0080 077B＞

b8	9	10	11	12	13	14	b15
0	0	0	0	0	0	0	RTDWRDIS 0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
8～14	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
15	RTDWRDIS RTD RAM書き込み機能禁止ビット	0：RTDのRAM書き込み機能許可 1：RTDのRAM書き込み機能禁止	R	W

RTDがRAMへの書き込み機能の許可/禁止を選択するレジスタです。

RTDWRDISビットに"1"をセットすると、RTDのRAMへの書き込み機能が禁止となり、RTDがRAMへの書き込みコマンドを受け取ってもそのコマンドは無視され、RAMへの書き込みは実行されません。

注．・RTD使用中に設定を変更しないでください。

14.4　RTD動作説明

14.4.1　RTD動作概要

RTDの動作は、チップ外部から入力されたコマンドで指定されます。コマンドは、RTD受信データのb16～b19(注1)により指定します。

表14.4.1　RTD**コマンド**

RTD受信データ				コマンド	
b19	b18	b17	b16	ニーモニック	RTD機能
0	0	0	0	VER (VERify)	継続モニタ
0	1	0	0		
0	1	0	1		
0	1	1	0	VEI(VErify Interrupt request)	RTD割り込み要求
0	0	1	0	RDR (ReaD RAM)	リアルタイムRAM内容出力
0	0	1	1	WRR (WRite RAM)	RAM内容強制書き換え(ベリファイ付き)
1	1	1	1	RCV (ReCoVer)	暴走状態からの復帰(注2、注3)
0	0	0	1	システム予約(使用禁止)	

↑(注1)

注1．RTD受信データのb19は、実際にはコマンドレジスタには格納されず、RCVコマンド以外は、Don't Careとなります(b16～b18がコマンド指定として有効です)。
注2．RCVコマンドは必ず2回連続して送信してください。
注3．RCVコマンドの場合は、b16～b19以外のビット(b0～b15, b20～b31)もすべて"1"にしてください。

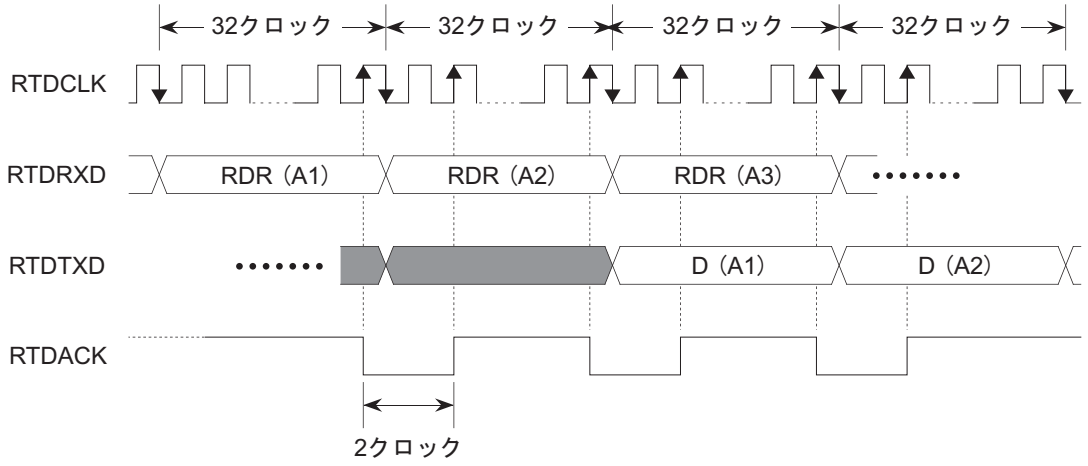
14.4.2　RDR(リアルタイムRAM内容出力)動作

RDR(リアルタイムRAM内容出力)コマンドを発行すると、RTDはCPUの内部バスを停止させることなく、内蔵RAMの内容を外部に転送できます。CPUと内蔵RAM間の転送がないときに、RTDが内蔵RAMのデータを読み出すため、CPUに負荷はかかりません。

内蔵RAMの読み出しアドレスは、32ビットのワード境界のみ指定できます(コマンドで指定したアドレスの下位2ビットは無視されます)。また内蔵RAMからは、32ビット単位で読み出したデータが転送されます。

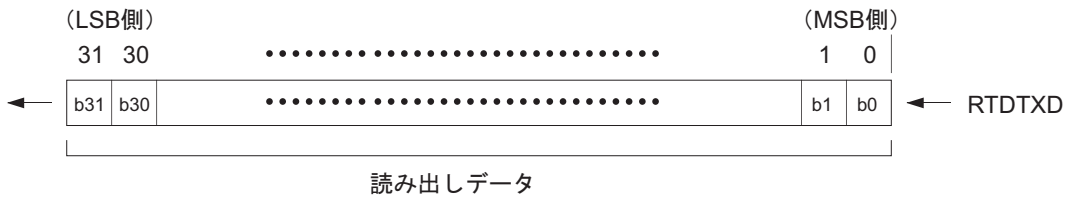
注.　・X＝Don't Care
(ただしRCVコマンドの直後の場合、b20～b31はすべて"1"にしてください。)

図14.4.1　RDR**コマンドデータフォーマット**



注.　・(An)＝指定アドレス
　　・D(An)＝指定アドレス(An)のデータ

図14.4.2　RDR**コマンド動作**



注.　・読み出しデータの転送順序はLSBファーストです。

図14.4.3　**読み出しデータ転送フォーマット**

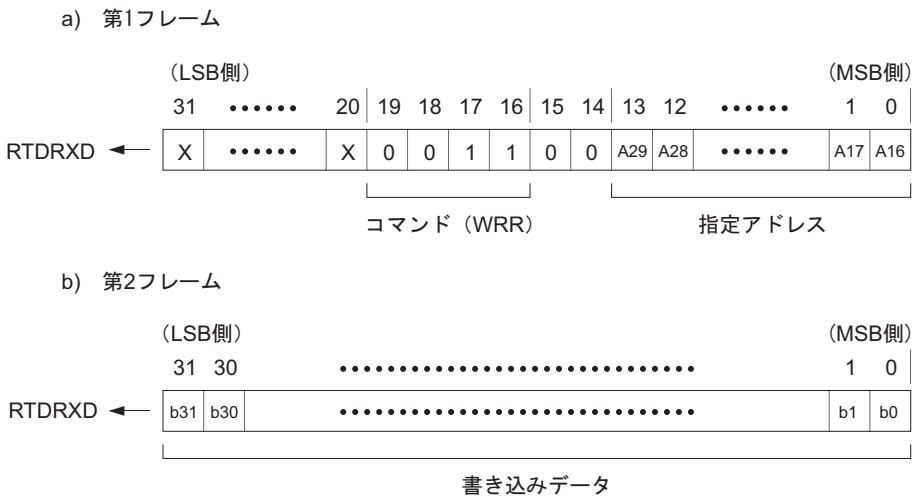
14.4.3　WRR(RAM内容強制書き換え)動作

WRR(RAM内容強制書き換え)コマンドを発行すると、RTDはCPUの内部バスを停止させることなく、内蔵RAMの内容を強制的に書き換えます。CPUと内蔵RAM間の転送がないときに、RTDが内蔵RAMへデータを書き込むため、CPUに負荷はかかりません。

内蔵RAMの読み出しアドレスは、32ビットのワード境界のみ指定できます(コマンドで指定したアドレスの下位2ビットは無視されます)。また、内蔵RAMへのデータ書き込みは、32ビット単位で行われます。

外部ホストからは、第1フレームでコマンドとアドレスを送信し、第2フレームで書き込みデータを送信します。

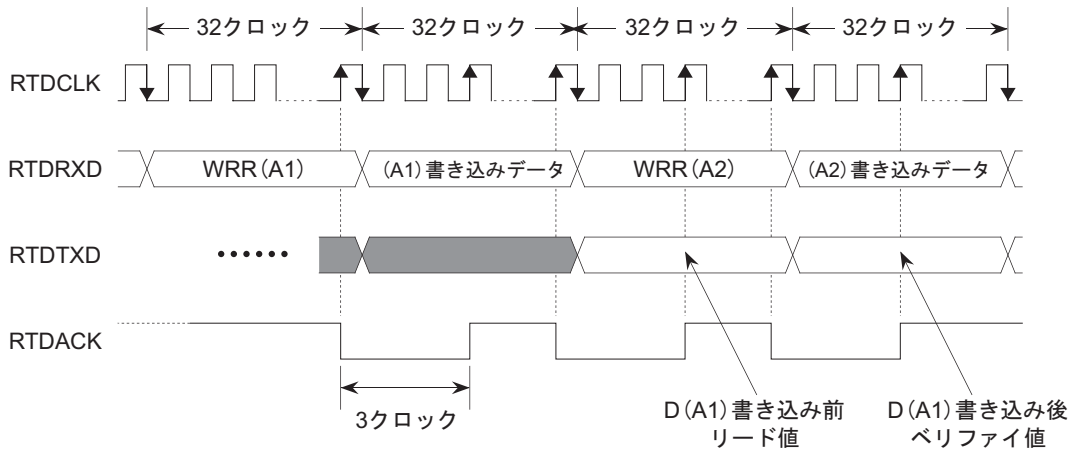
RTDから内蔵RAMへの書き込みは、書き込みデータ受信後の第3フレームで行われます。



注.　・X＝Don't Care
（ただしRCVコマンドの直後の場合、b20～b31はすべて"1"にしてください。）
・指定アドレス、書き込みデータの転送順序はLSBファーストです。

図14.4.4　WRR**コマンドデータフォーマット**

RTDは指定アドレスのデータを書き込みの前に読み出すとともに、書き込み直後に再度、同一アドレスのデータを読み出します(これによりベリファイができます)。読み出されたデータは以下のタイミングで出力されます。



注.　・(An)＝指定アドレス
・D(An)＝指定アドレス(An)のデータ

図14.4.5　WRR**コマンド動作**

14.4.4　VER(継続モニタ)動作

VER(継続モニタ)コマンドを発行すると、RTDはVERコマンド受信直前の命令(リードでもライトでもよい)でアクセスした番地のデータを出力します。

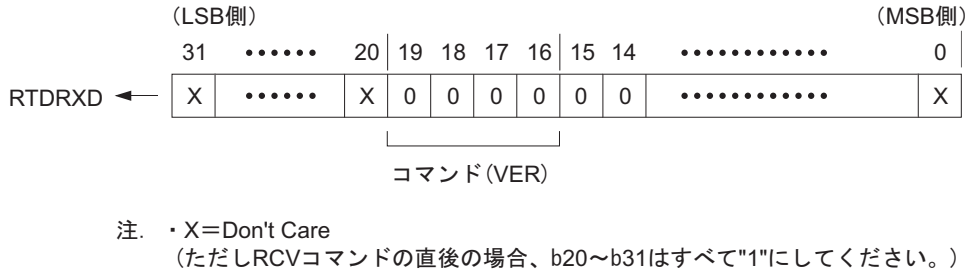


図14.4.6　VER**(継続モニタ)コマンドデータフォーマット**

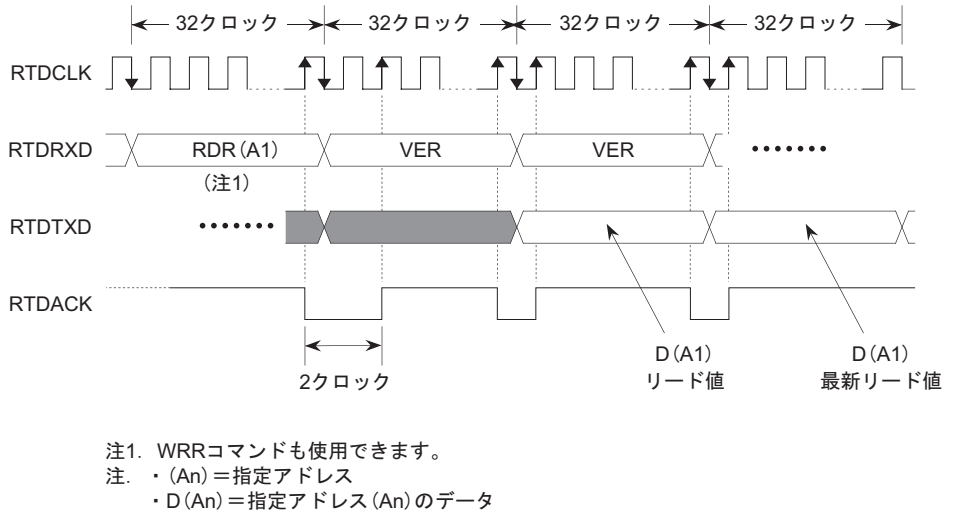


図14.4.7　VER**(継続モニタ)コマンド動作**

14.4.5　VEI(割り込み要求)動作

VEI(割り込み要求)コマンドを発行すると、RTD割り込み要求が発生します。また、RTDはVEIコマンド受信直前の命令(リードでもライトでもよい)でアクセスした番地のデータを出力します。

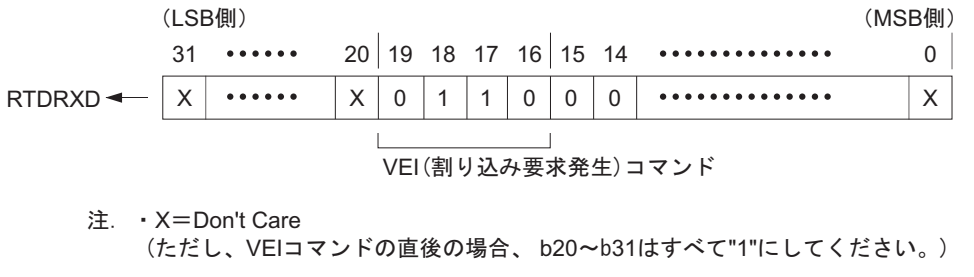
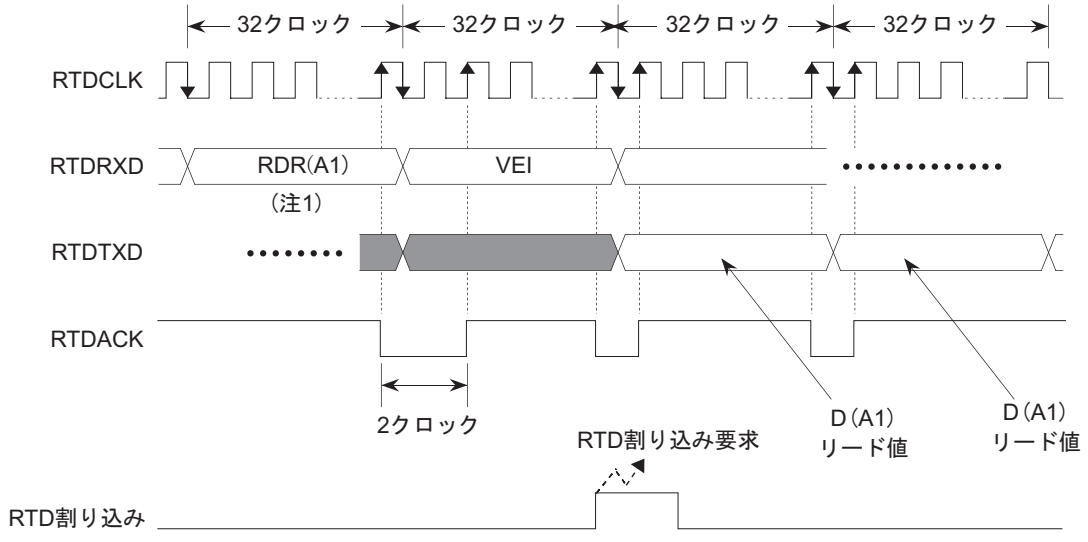


図14.4.8　VEI**(割り込み要求)コマンドデータフォーマット**



注1.　WRRコマンドも使用できます。
注.　・(An)＝指定アドレス
　　・D(An)＝指定アドレス(An)のデータ

図14.4.9　VEI**(割り込み要求)コマンド動作**

14.4.6　RCV(暴走状態からの復帰)動作

RTDが暴走した場合、RCV(暴走状態からの復帰)コマンドを発行することでシステムリセットを行うことなく、強制的に暴走状態から復帰させることができます。RCVコマンドは必ず2回続けて発行してください。また、RCVコマンドに続けて発行するコマンドのb20～b31はすべて"1"にしてください。

注.　・32ビットデータのすべてのビットが"1"です。
　　RCVコマンドは必ず2回続けて発行してください。

図14.4.10　RCV**コマンドデータフォーマット**

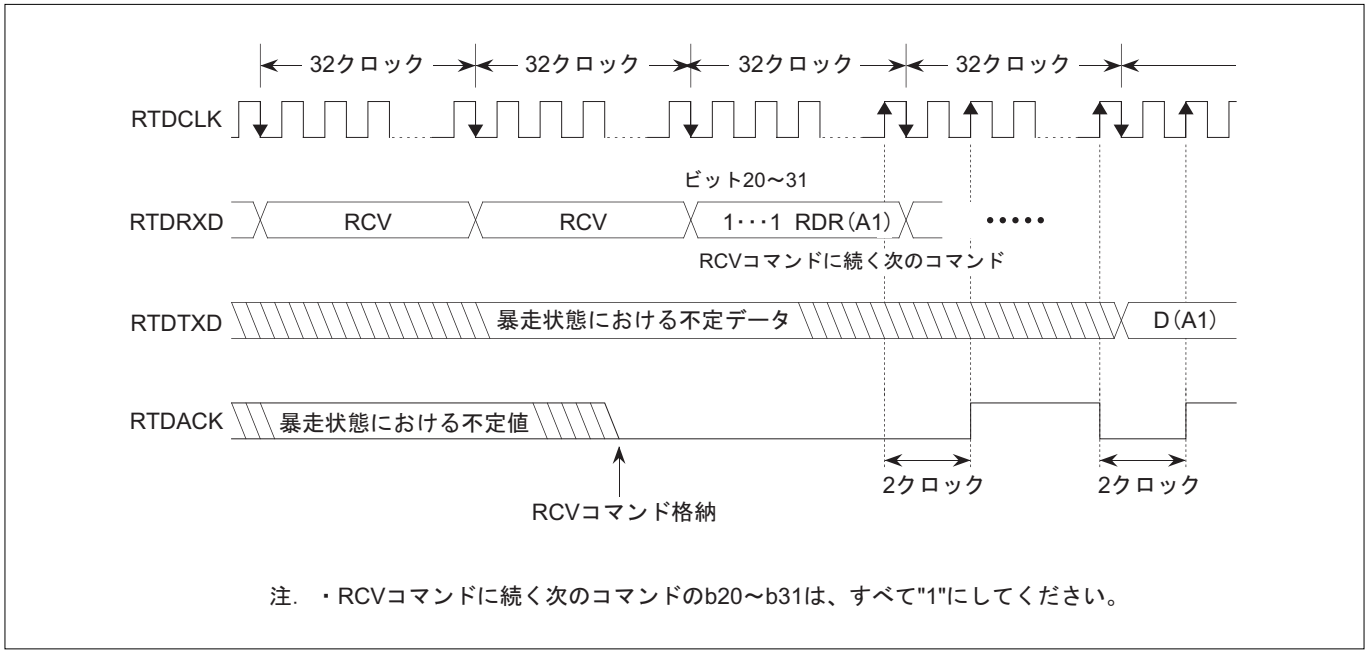


図14.4.11　RCV**コマンド動作**

14.4.7　リアルタイムデバッカ使用時の指定アドレス設定方法

RTDでは内蔵RAM領域の下位16ビットアドレスが設定可能です。内蔵RAM領域がH'0080 4000～H'0080 9FFFの24Kバイト領域内に配置しているため、その下位16ビットアドレス(H'4000～H'FFFF)が設定できます。ただし、RAM領域以外はアクセスを禁止します。また、アドレス最下位の2ビットA31､A30はリード、ライトのデータ幅が32ビット固定長のため、常に"0"になります。

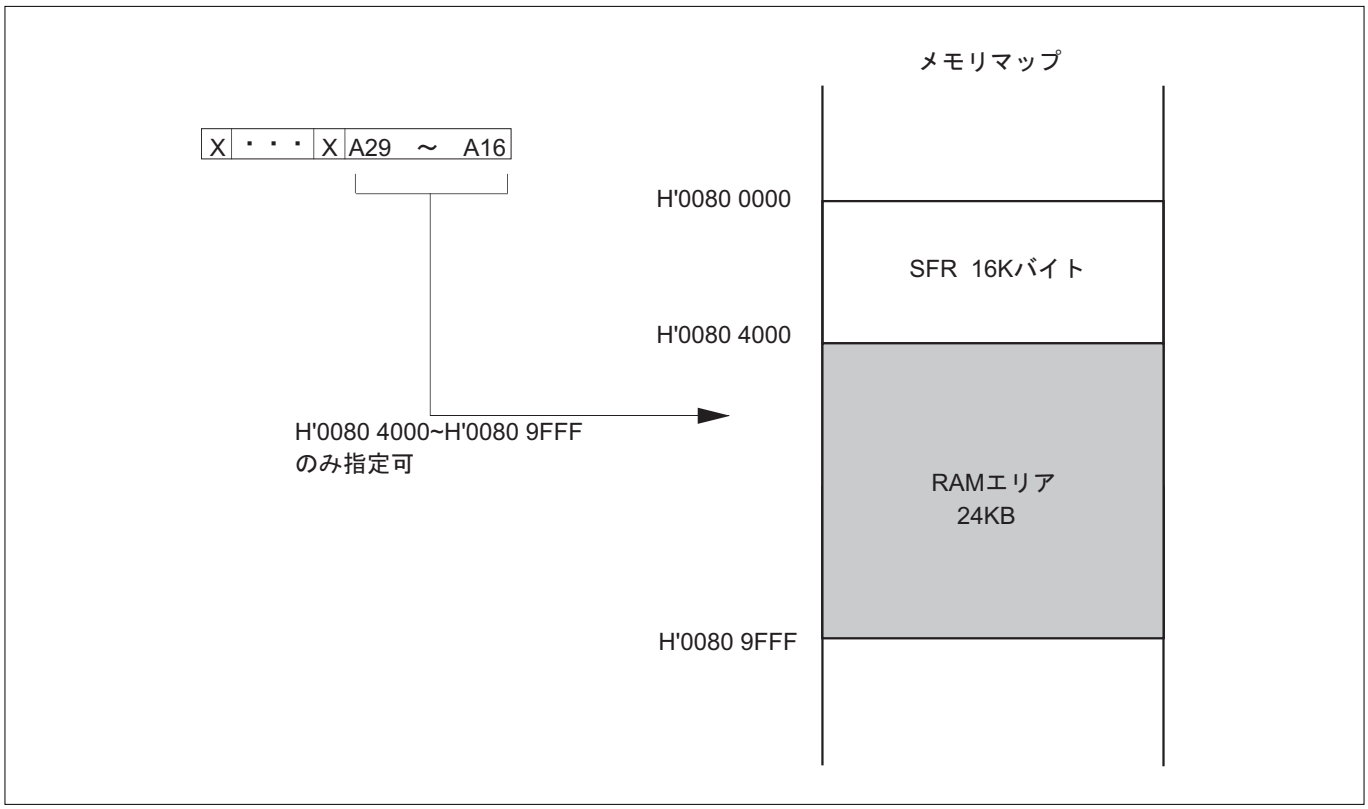


図14.4.12　**リアルタイムデバッガのアドレス設定方法**

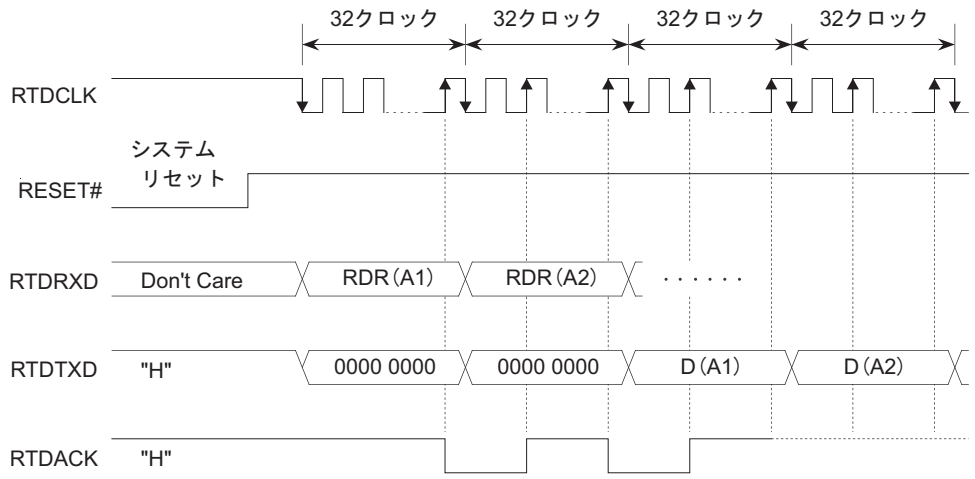
14.4.8　RTDのリセット

RTDは、システムリセット(RESET#信号の入力)によりリセットされます。システムリセット後のRTD関連の出力端子の状態は以下のとおりです。

表14.4.2　システムリセット解除後のRTD端子状態

端子名	状態
RTDACK	"H"レベル出力
RTDTXD	"H"レベル出力

RTDのリセットを行った後の最初のコマンド転送は、RTDCLKの立ち下がりエッジに同期してRTDRXD端子へデータを転送することで開始されます。

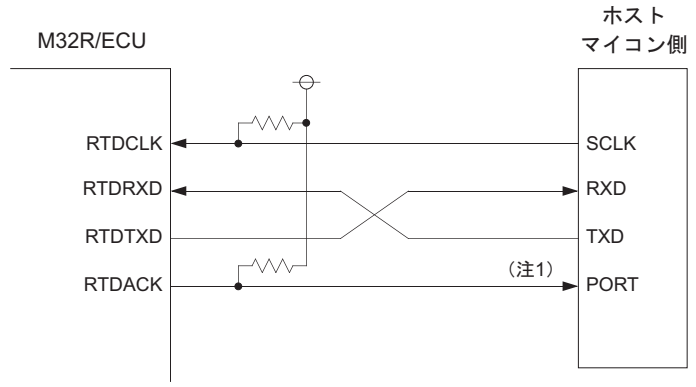


注.　・(An)＝指定アドレス
　　・D(An)＝指定アドレス(An)のデータ

図14.4.13　システムリセット後のRTDへのコマンド転送

14.5　ホストとの接続例

ホスト側ではシリアル同期式のインタフェースで、データの転送を行います。同期通信用のクロックは、ホスト側が発生します。RTDとホストの接続例を以下に示します。



注1.　・転送フレーム間で、RTDACKレベルの確認を行う場合

図14.5.1　RTD**とホストの接続**

RTD通信は1フレーム32ビット固定長の通信です。一般にシリアルインタフェースでは8ビット単位で転送を行うため、8ビット単位で4回に分けて行います。また、通信が正常に行われていることは、RTDACK信号で確認します。

RTDACK信号は、コマンドを送信した後"L"レベルになることで通信状態を確認します。VERコマンド発行時には、1クロック分のみ"L"が出力されるため、シリアルインタフェースで1フレーム32ビットを送信した後、RTDCLKの送出を止めてRTDACKが"L"レベルになっていれば正常に通信できているか容易に判断できます。

なお、RTDACKの幅で送信コマンドの種類まで特定したい場合は、マイコン内蔵の計測タイマを利用（RTDACKが"L"の期間、RTDCLKをカウント）するか、または専用の回路を作成してください。

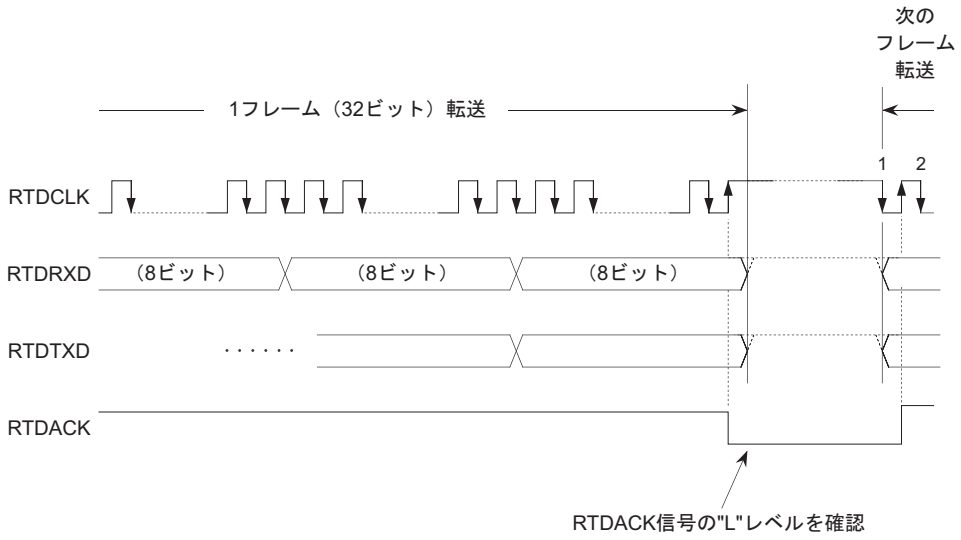


図14.5.2　**ホストとの通信動作例（**VER**コマンド時）**

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第15章

外部バスインタフェース

15.1　外部バスインタフェース関連信号
15.2　外部バスインタフェース関連レジスタ
15.3　リード/ライト動作
15.4　バスアービトレーション
15.5　外部拡張メモリ接続例

15.1 外部バスインタフェース関連信号

32176は、以下に示す外部バスインタフェース関連信号を備えています。これらの信号は、外部拡張モードまたはプロセッサモードで使用できます。

信号名(端子名)の最後に"#"が付いている信号(端子)は、"L"アクティブ信号(端子)であることを示します。

(1) アドレス

1Mバイトの空間をアドレッシングする19ビットのアドレス(A12～A30)を出力します。最下位のA31は出力されません。

(2) チップセレクト(CS0#, CS1#)

2Mバイトごとの外部拡張領域をCS0#信号、CS1#信号で出力します。CS0#信号は、プロセッサモード使用時、2Mバイトの領域を示し、外部拡張モード使用時、1Mバイト領域を示します。(詳細については、「第3章 アドレス空間」を参照してください。)

(3) リードストローブ(RD#)

外部リードサイクル中に出力され、リードデータの読み込みタイミングを示します。ライト時および内蔵領域をアクセス時には"H"を出力します。

(4) バイトハイライト/バイトハイイネーブル(BHW#/BHE#)

バスモード制御レジスタ(BUSMODC)により、端子機能が切り換わります。

BUSMOD＝0でバイトハイライト(BHW#)の場合、外部ライトアクセス時にデータバスの上位側バイト(DB0～DB7)で有効なデータ転送を示します。外部リード時および内蔵領域をアクセス時には"H"を出力します。

BUSMOD＝1でバイトハイイネーブル(BHE#)の場合、外部アクセス(外部リードおよび外部ライト)時にデータバスの上位側バイト(DB0～DB7)で有効なデータ転送を示します。内蔵領域をアクセス時には"H"を出力します。

(5) バイトローライト/バイトローイネーブル(BLW#/BLE#)

バスモード制御レジスタ(BUSMODC)により、端子機能が切り換わります。

BUSMOD＝0でバイトローライト(BLW#)の場合、外部ライトアクセス時にデータバスの下位側バイト(DB8～DB15)で有効なデータ転送を示します。外部リード時および内蔵領域アクセス時には"H"を出力します。

BUSMOD＝1でバイトローイネーブル(BLE#)の場合、外部アクセス(外部リードおよび外部ライト)時にデータバスの下位側バイト(DB8～DB15)で有効なデータ転送を示します。内蔵領域アクセス時には"H"を出力します。

(6) データバス(DB0～DB15)

外部デバイスをアクセスするための16ビットデータバスです。外部リードアクセス時、リードストローブの立ち上がりに同期してデータを取り込みます。8ビットリード時であっても常に16ビットのデータを読み込みますが、内部へは有効なバイト位置のみが転送されます。外部ライトアクセス時、データを出力します。8ビットライト時は、有効な書き込みを行うバイト位置をBHW#/BLW#として出力します。内蔵領域アクセス時、入力機能となります。

(7) システムクロック/ライト(BCLK/WR#)

バスモード制御レジスタ(BUSMODC)により、端子機能が切り換わります。

BUSMOD=0でシステムクロック(BCLK)の場合、外部システムで同期設計を行うためのシステムクロックを出力します。CPUクロック40MHzの場合、BCLKには20MHzのクロックが出力します。また、BCLK/WR機能を未使用時、P7動作モードレジスタのP70MODを"0"にクリアすることで、P70として使用できます。

BUSMOD=1でライト(WR#)の場合、外部ライトアクセス時にデータバスの有効なデータ転送を示します。外部リードサイクルおよび内蔵領域をアクセス時には"H"を出力します。

(8) ウェイト(WAIT#)

外部バスサイクルを起動した場合、WAIT#信号が入力されている間、ウェイトサイクルを自動的に挿入します。詳細については、「第16章 ウェイトコントローラ」を参照してください。また、WAIT機能を未使用時、P7動作モードレジスタのP71MODを"0"にクリアすることで、P71として使用できます。

なお、外部アクセスに対しては常に1ウェイト以上を挿入します。したがって外部デバイスへの最短アクセスは1ウェイト(2BCLK期間)となります。

(9) ホールド制御(HREQ#, HACK#)

ホールド状態とは、内部、外部バスがバスアクセスを停止し、バスインタフェース関連の各端子がハイインピーダンスになっている状態をいいます。ホールド状態にある間は、外部にあるバスマスタはシステムバスを使用したデータ転送を行うことができます。ホールド状態でもCPUの命令キューの中にある命令は実行されますが、バスアクセスを伴う命令を実行しようとするとその時点でCPUの命令実行動作は停止します。

HREQ#端子に"L"信号を入力すると、ホールド状態へ遷移します。ホールド要求受け付け後のホールド中およびホールド状態への遷移中は、HACK#端子から"L"信号を出力します。ホールド状態から通常動作状態へ復帰するにはHREQ#信号を"H"にしてください。また、HREQ、HACK機能を未使用時、P7動作モードレジスタのP72MOD、P73MODを"0"にクリアすることで、P72、P73として使用できます。

ホールド中の各端子の状態を以下に示します。

表15.1.1 ホールド期間中の端子状態

端子名	端子の状態または動作
A12～A30, DB0～DB15, CS0#, CS1#, RD#, BHW#, BLW#, BHE#, BLE#, WR#	ハイインピーダンス
HACK#	"L"を出力
その他の端子(ポートおよびタイマ出力等)	通常動作

15.2　外部バスインタフェース関連レジスタ

以下に外部バスインタフェース関連レジスタを示します。

15.2.1　ポート動作モードレジスタ

ポートP70～P73は、いずれのCPU動作モードであっても、外部アクセスのための信号端子に切り換えることができます。

P7動作モードレジスタ（P7MOD）　　**＜アドレス：**H'0080 0747**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
P70MOD	P71MOD	P72MOD	P73MOD	P74MOD	P75MOD	P76MOD	P77MOD
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8	P70MOD **ポート**P70**動作モードビット（注**2**）**	0：P70 1：BCLK/WR#	R	W
9	P71MOD **ポート**P71**動作モードビット**	0：P71 1：WAIT#	R	W
10	P72MOD **ポート**P72**動作モードビット**	0：P72 1：HREQ#	R	W
11	P73MOD **ポート**P73**動作モードビット**	0：P73 1：HACK#	R	W
12	P74MOD **ポート**P74**動作モードビット**	0：P74 1：RTDTXD/TXD3**（注**1**）**	R	W
13	P75MOD **ポート**P75**動作モードビット**	0：P75 1：RTDRXD/RXD3**（注**1**）**	R	W
14	P76MOD **ポート**P76**動作モードビット**	0：P76 1：RTDACK/CTX1**（注**1**）**	R	W
15	P77MOD **ポート**P77**動作モードビット**	0：P77 1：RTDCLK/CRX1**（注**1**）**	R	W

注1**．それぞれの機能は**P7**周辺機能選択レジスタで選択します。**

注2**．外部拡張モードで**BUSMODC**レジスタの**BUSMOD**ビットを**"1"**（バイトイネーブル分離モード）に設定時、**P7MOD**レジスタの設定に関わらず、**P70/BCLK/WR#**端子は**WR#**信号を出力する端子となります。**

15.2.2　バスモード制御レジスタ

バスモード制御レジスタ（BUSMODC）　　**＜アドレス：**H'0080 077F**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
							BUSMOD
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8～14	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
15	BUSMOD **バスモードコントロールビット（注1）**	0：WR**信号分離モード** 1：**バイトイネーブル分離モード**	R	W

注1．外部拡張モードでBUSMOD**ビットを**"1"**（バイトイネーブル分離モード）に設定時、**P7MOD**レジスタの設定に関わらず、**P70/BCLK/WR#**端子は**WR#**信号を出力する端子となります。**

プロセッサモードおよび外部拡張モードで、メモリ接続方法を容易にするため使用します。

バスモードコントロール（BUSMOD）ビットを"0"にクリアした場合、WR#信号をバイト領域ごとに分離して出力します。RD#、BHW#、BLW#、BCLK#、WAIT#信号を使用できます。ブートモードでメモリ接続時、バスモード制御レジスタは無効となりバスモードコントロール（BUSMOD）ビットを"0"にクリアした条件で動作します。

バスモードコントロール（BUSMOD）ビットを"1"にセットした場合、バイトイネーブル信号をバイト領域ごとに分離して出力します。RD#、BHE#、BLE#、WR#、WAIT#信号を使用できます。WAIT制御回路構成時は、BCLKが出力されないため、外部でタイミング制御が必要です。

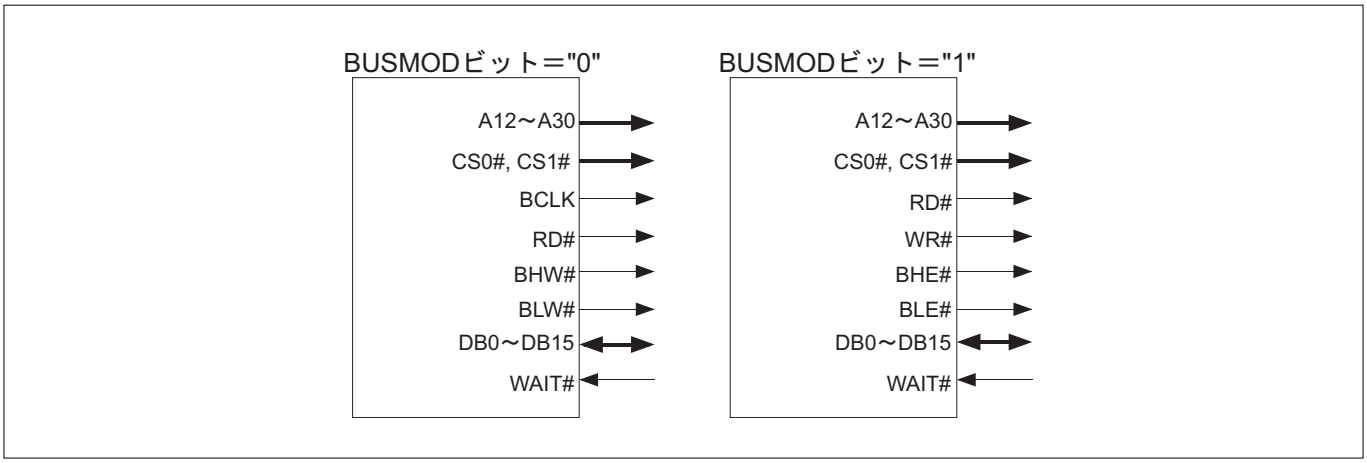


図15.2.1　**バスモード切り換え時の端子機能**

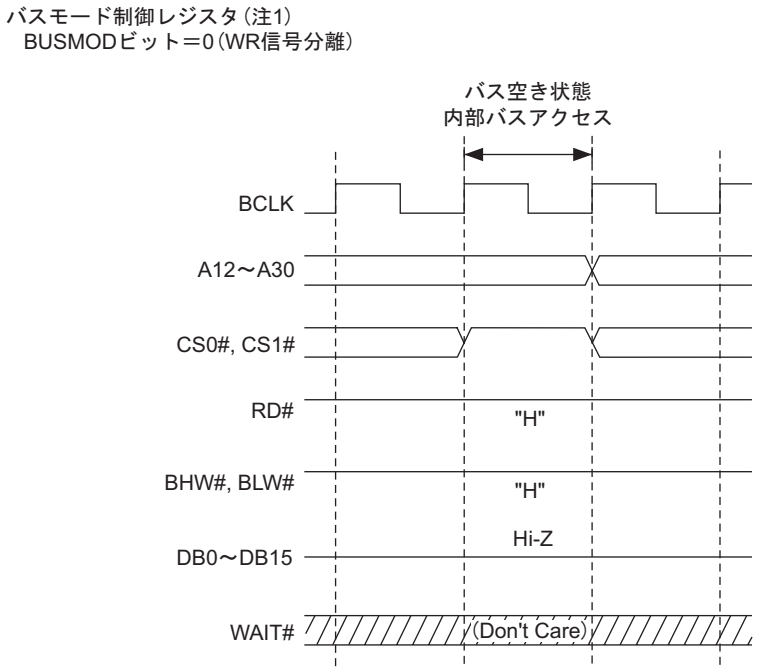
15.3　リード/ライト動作

(1) バスモード制御レジスタを"0"に設定した場合

外部リード/ライト動作は、アドレスバス、データバスとCS0#、CS1#、RD#、BHW#、BLW#、WAIT#、BCLKの各信号により行います。外部リードサイクルで、RD#信号は"L"、BHW#、BLW#は共に"H"になり、必要なバイト位置のデータのみ読み込みます。

外部ライトサイクルでは、書き込みを行うバイト位置に対応したBHW#またはBLW#信号に"L"を出力し、データの書き込みを行います。

外部バスサイクル起動時、WAIT#信号を"L"にするとウェイトサイクルを挿入し続けます。WAIT#信号は必要なとき以外は、常に"H"状態を保ってください。なお外部バスサイクルは、最短でアクセスする場合でも常に1ウェイトが挿入します(最短バスサイクルは2BCLK期間となります)。

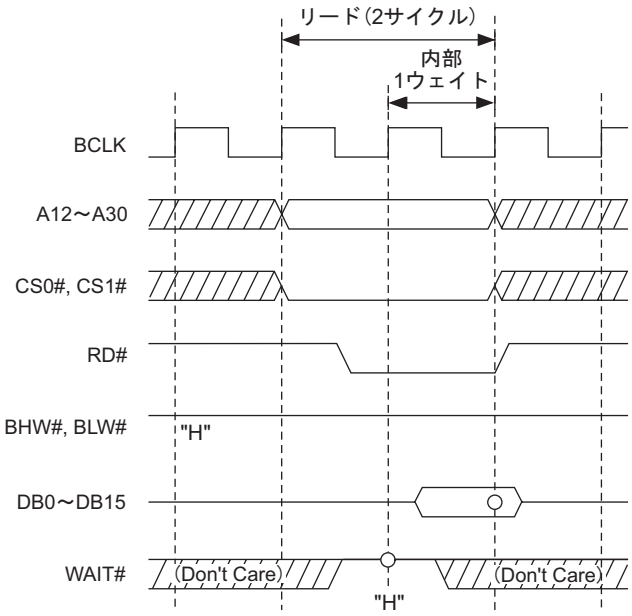


注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注. ・Hi-Zはハイインピーダンス状態を示します。

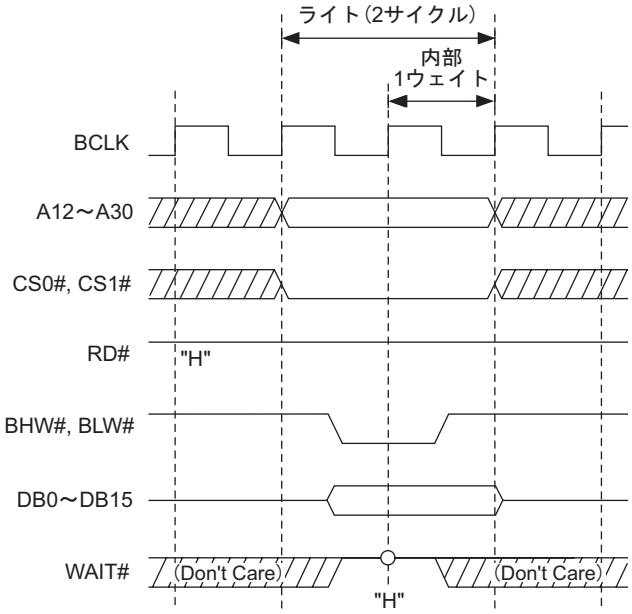
図15.3.1　バス空き状態/内部バスアクセス時

バスモード制御レジスタ（注1）
BUSMODビット＝0（WR信号分離）

リード

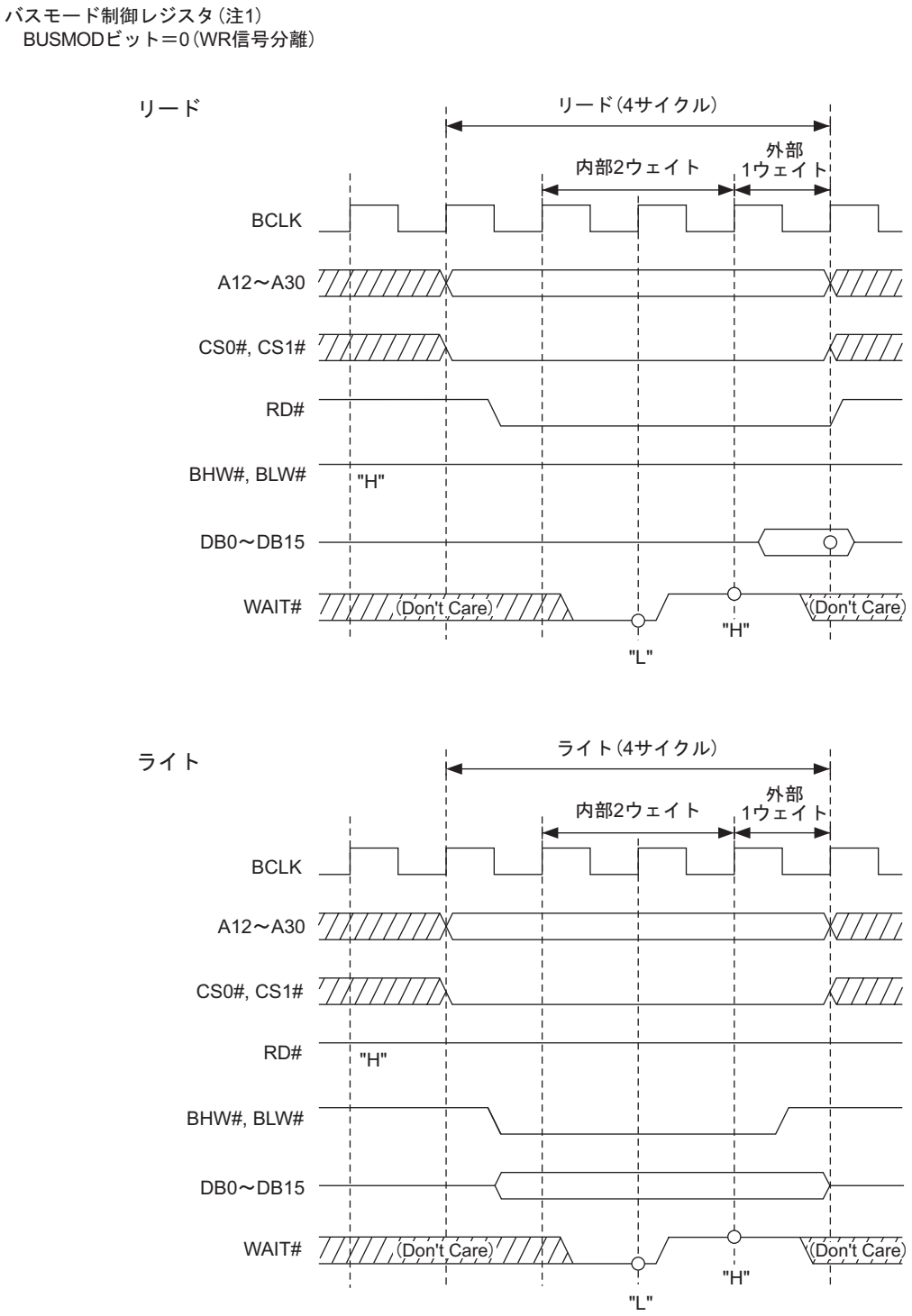


ライト



注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図15.3.2　**リード/ライトタイミング（外部最短アクセス時）**



注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2　バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

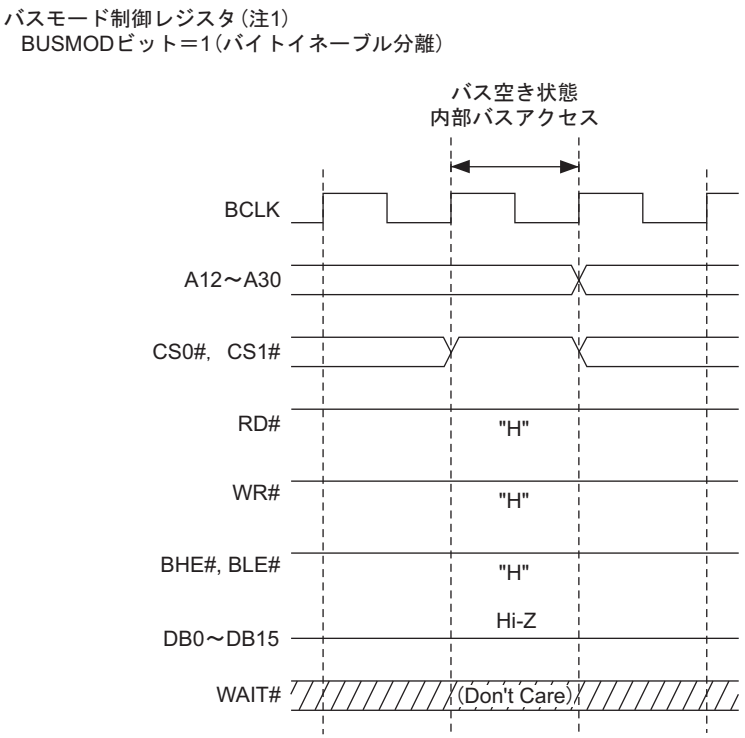
図15.3.3　リード/ライトタイミング（内部2＋外部1ウェイトアクセス時）

(2) バスモード制御レジスタを"1"に設定した場合

外部リード/ライト動作は、 アドレスバス、データバスとCS0#、CS1#、RD#、BHE#、BLE#、WAIT#、WR#の各信号により行います。外部リードサイクルでは、RD#信号は"L"、読み込みを行うバイト位置に対応したBHE#、またはBLE#に"Lを出力し、必要なバイト位置のデータのみ読み込みます。

外部ライトサイクルでは、WR#信号は"L"、書き込みを行うバイト位置に対応したBHE#、またはBLE#に"L"を出力し、必要なバイト位置のデータの書き込みを行います。

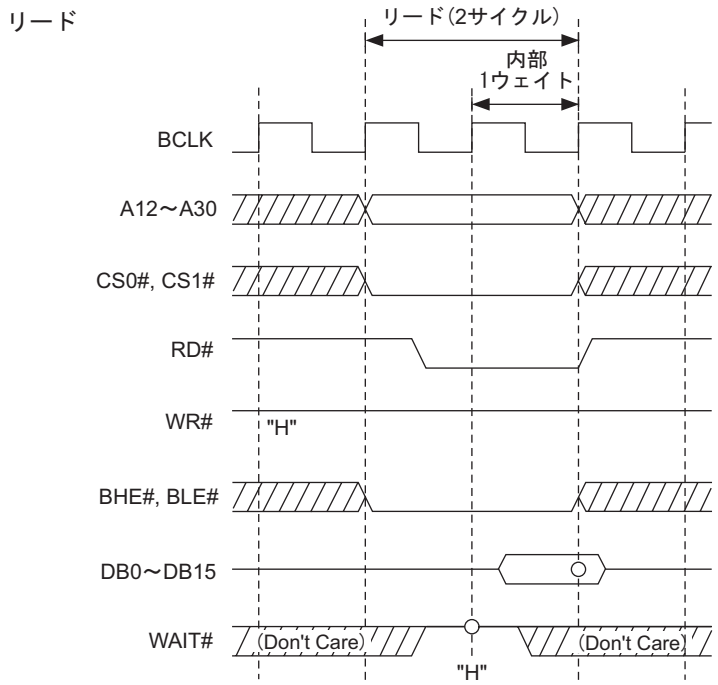
外部バスサイクル起動時、WAIT#信号を"L"にするとウェイトサイクルを挿入し続けます。WAIT#信号は必要なとき以外は、常に"H"状態を保ってください。なお外部バスサイクルは、最短でアクセスする場合でも常に1ウェイトが挿入されます(最短バスサイクルは2BCLK期間となります)。WAIT機能を使用しない場合、P7動作モードレジスタのP71MODを"0"に設定すると、P71として使用できます。

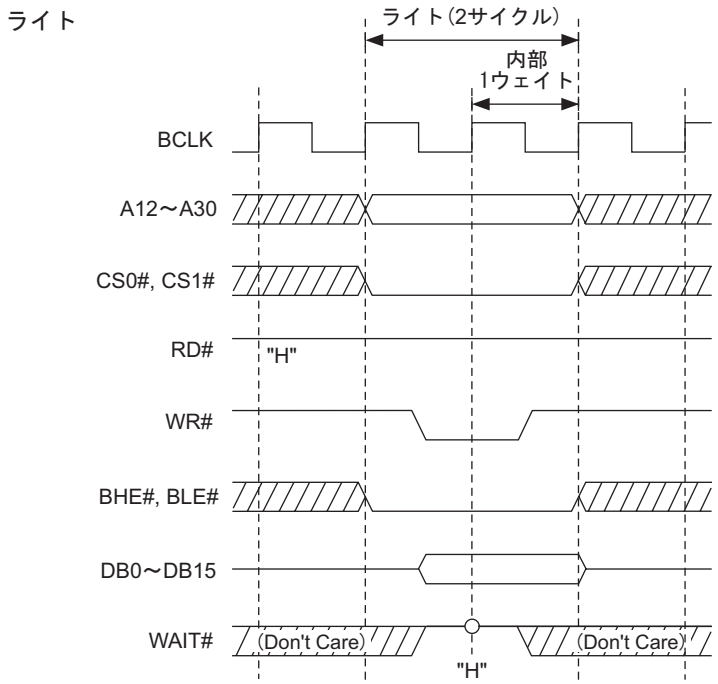


注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注. ・Hi-Zはハイインピーダンス状態を示します。
・BCLKは出力されません。

図15.3.4　バス空き状態/内部バスアクセス時

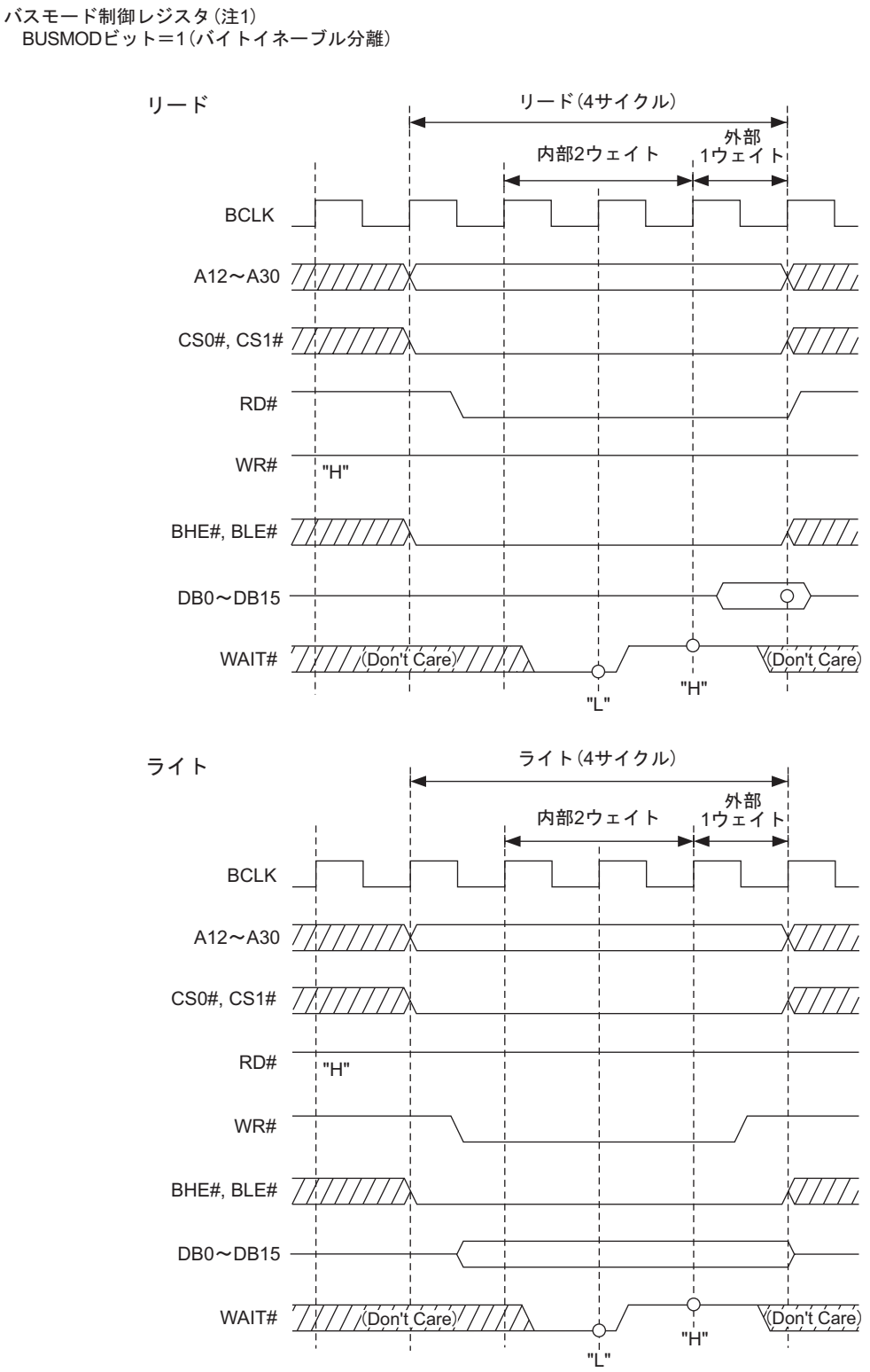
バスモード制御レジスタ（注1）
BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）





注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2　バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図15.3.5　リード/ライトタイミング（外部最短アクセス時）



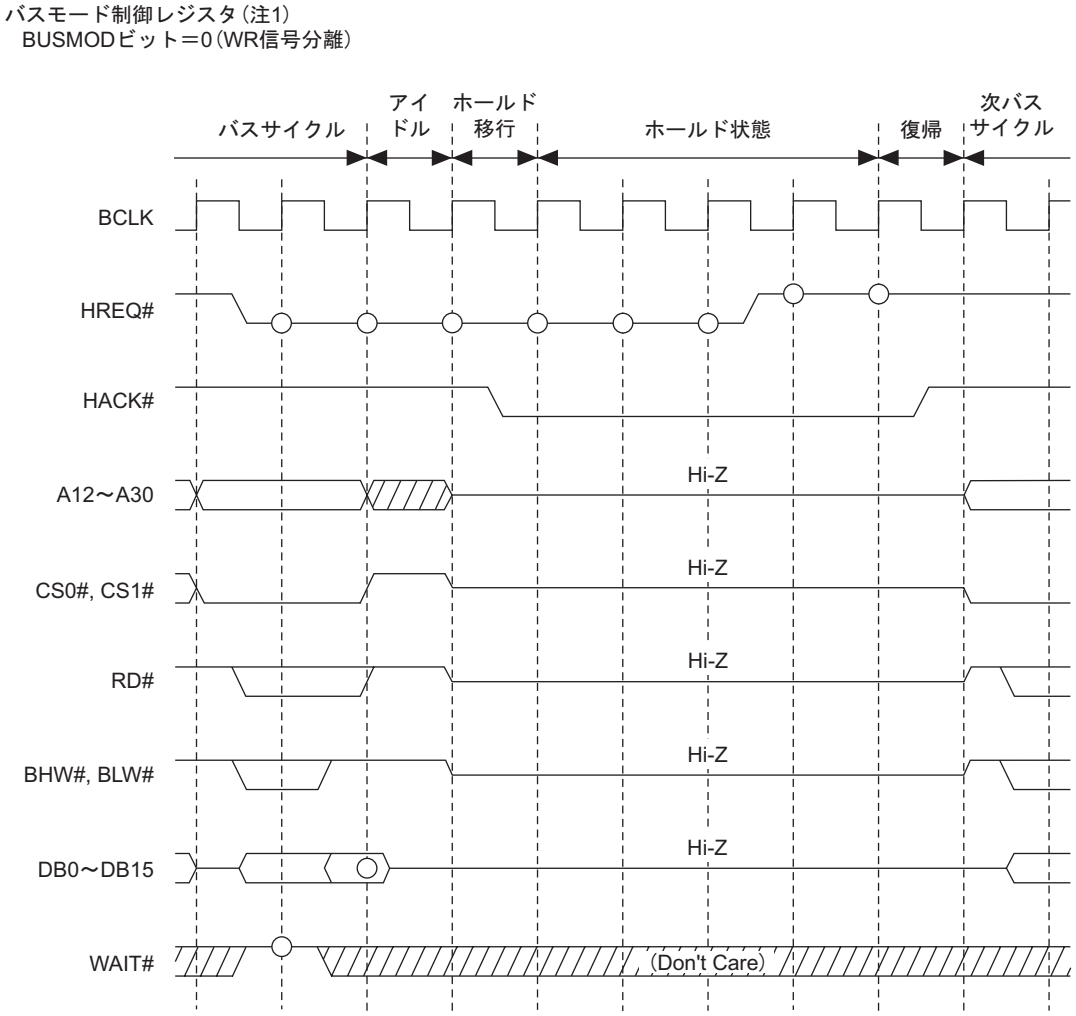
注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図15.3.6　リード/ライトタイミング（内部2＋外部1ウェイトアクセス時）

15.4　バスアービトレーション

(1) バスモード制御レジスタを"0"に設定した場合

HREQ#端子に"L"信号を入力し、それが受け付けられるとホールド状態へ遷移し、HACK#端子に"L"を出力します。ホールド中はバス関連端子がハイインピーダンス状態になり、システムバス上でのデータ転送を行うことができるようになります。ホールド状態から通常動作状態へ復帰するためにはHREQ#信号を"H"にしてください。

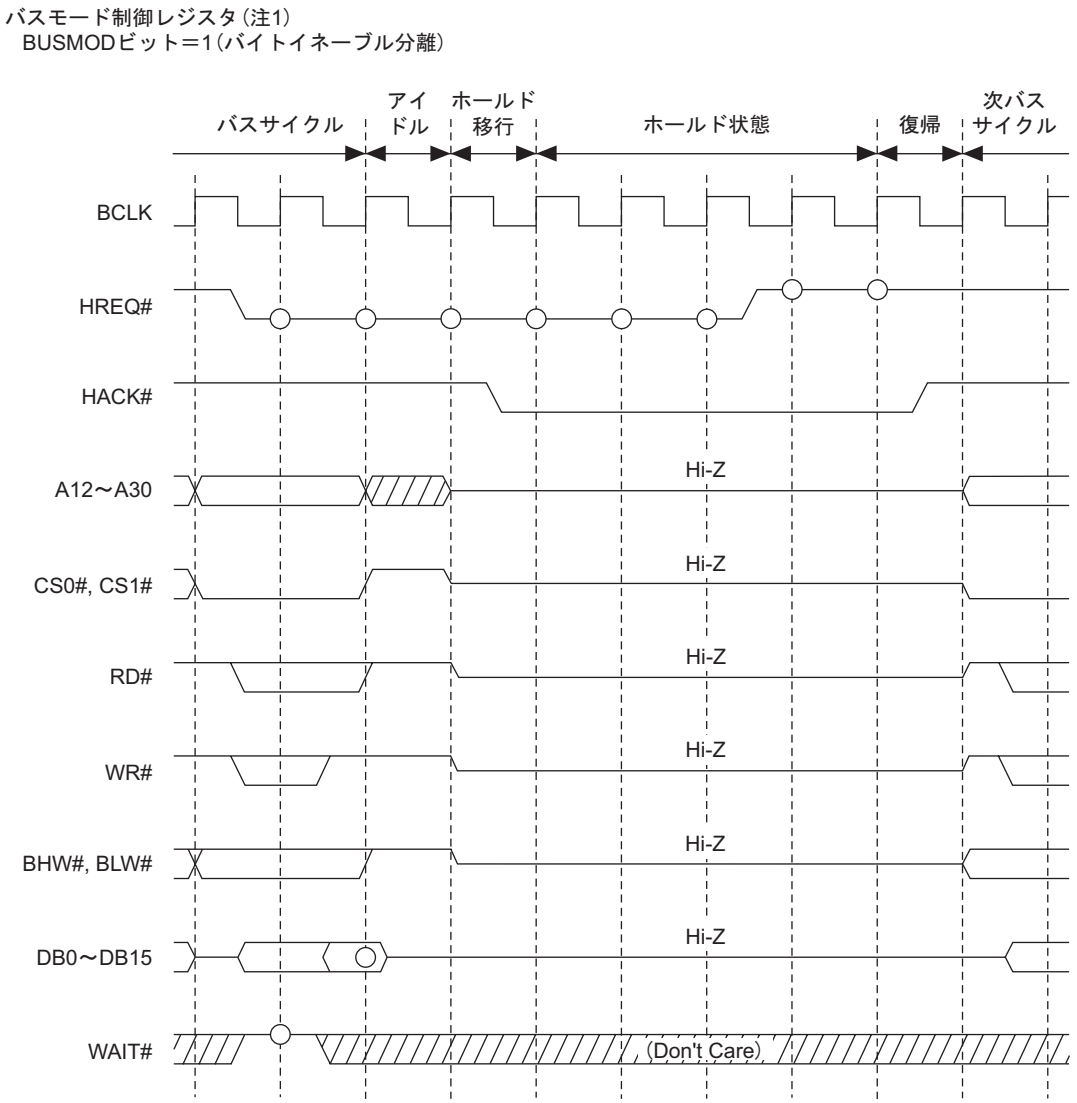


注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注. ・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
・Hi-Zはハイインピーダンス状態を示します。
・アイドルサイクルは外部リードアクセスに続いてホールド状態となる場合にのみ挿入されます。
・HREQ#端子に"L"を入力してから、アイドル（リカバリ）、ホールド移行状態へ遷移するまでのサイクル数は、その時実行中のバスアクセスの状態により変化します。

図15.4.1　**バスアービトレーションタイミング**

(2) バスモード制御レジスタを"1"に設定した場合

HREQ#端子に"L"信号を入力し、それが受け付けられるとホールド状態へ遷移し、HACK#端子に"L"を出力します。ホールド中はバス関連端子がハイインピーダンス状態になり、システムバス上でのデータ転送を行うことができるようになります。ホールド状態から通常動作状態へ復帰するためにはHREQ#信号を"H"にしてください。



注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注. ・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
・Hi-Zはハイインピーダンス状態を示します。
・アイドルサイクルは外部リードアクセスに続いてホールド状態となる場合にのみ挿入されます。
・HREQ#端子に"L"を入力してから、アイドル（リカバリ）、ホールド移行状態へ遷移するまでのサイクル数は、その時実行中のバスアクセスの状態により変化します。

図15.4.2　**バスアービトレーションタイミング**

15.5　外部拡張メモリ接続例

(1) バスモード制御レジスタを"0"に設定した場合

外部拡張メモリを使用(外部拡張モード、プロセッサモードのみ外部拡張メモリ使用可能)時の接続例を図15.5.1に示します。

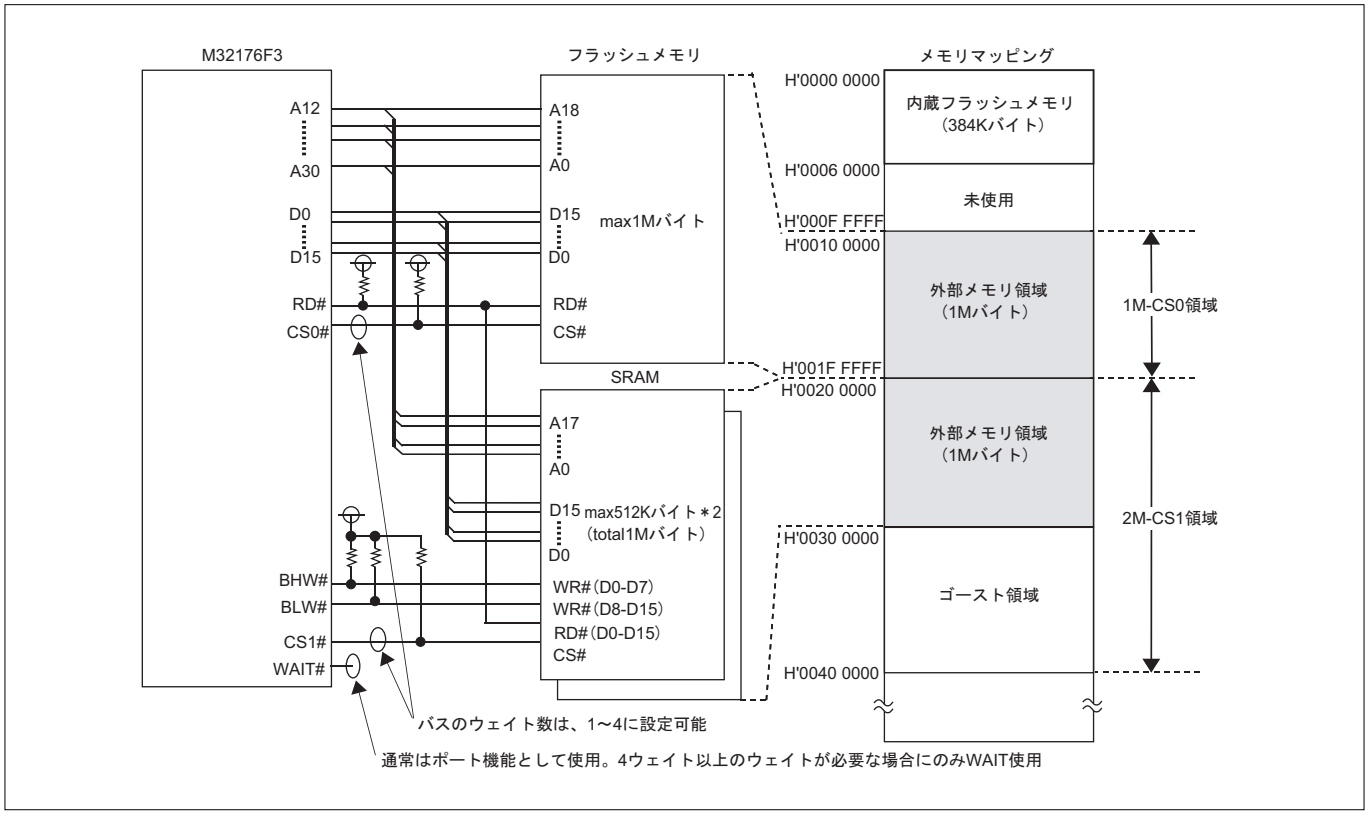


図15.5.1　32176**外部拡張メモリ接続例**(BUSMOD**ビット**="0"**の場合)**

注．・アドレスおよびデータは、"0"**が**MSB**で**"15"**が**LSB**となります。外部拡張メモリ接続時には**MSB**側と**LSB**側を逆に接続する必要があります。**

(2) バスモード制御レジスタを"1"に設定した場合

外部拡張メモリを使用(外部拡張モード、プロセッサモードのみ外部拡張メモリ使用可能)時の接続例を図15.5.2に示します。

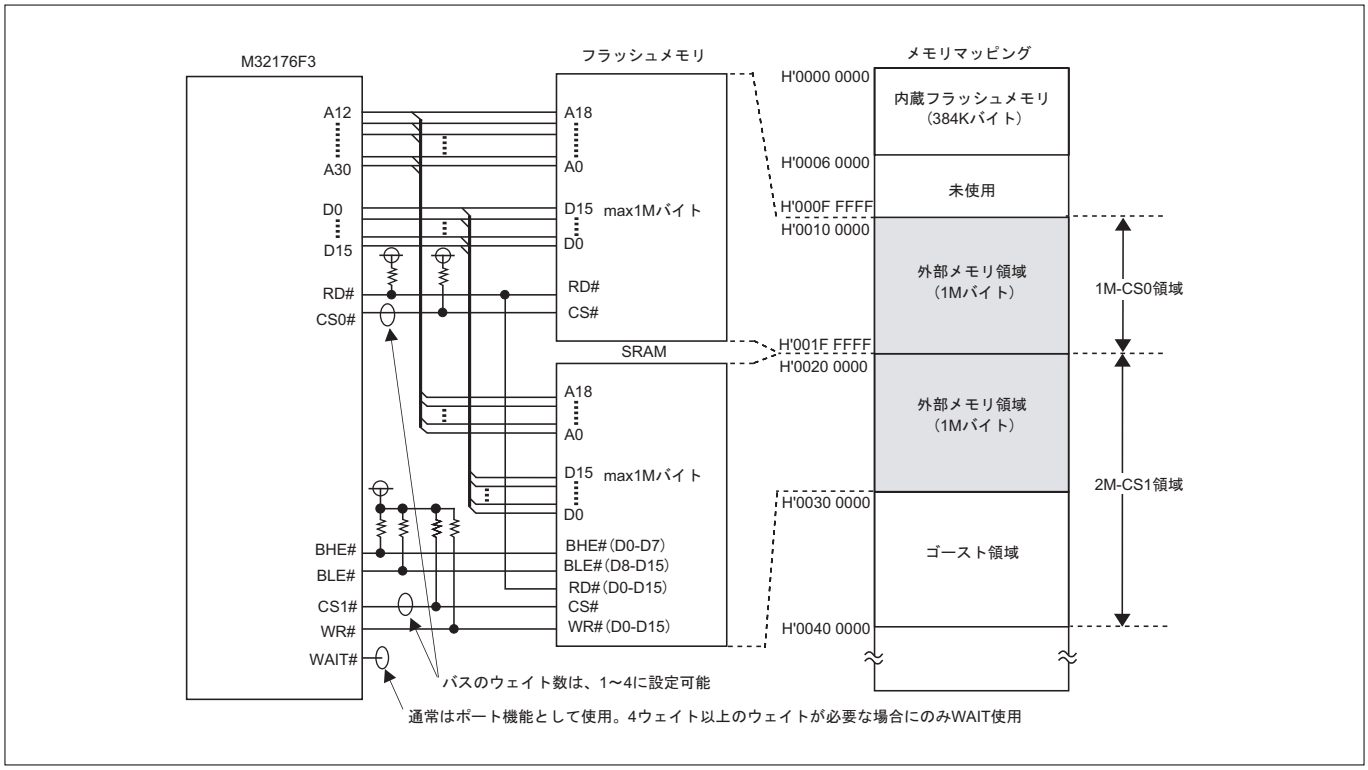


図15.5.2　32176**外部拡張メモリ接続例(**BUSMOD**ビット**="1"**の場合)**

注．・アドレスおよびデータは、"0"**が**MSB**で**"15"**が**LSB**となります。外部拡張メモリ接続時には**MSB**側と**LSB**側を逆に接続する必要があります。**

(3) バスモード制御レジスタが"1"で8/16ビットデータバスメモリを混在使用する場合

CS0領域に8ビットデータバスメモリを配置し、CS1領域に16ビットデータバスメモリを使用(外部拡張モード、プロセッサモードのみ外部拡張メモリ使用可能)時の接続例を図15.5.3に示します。

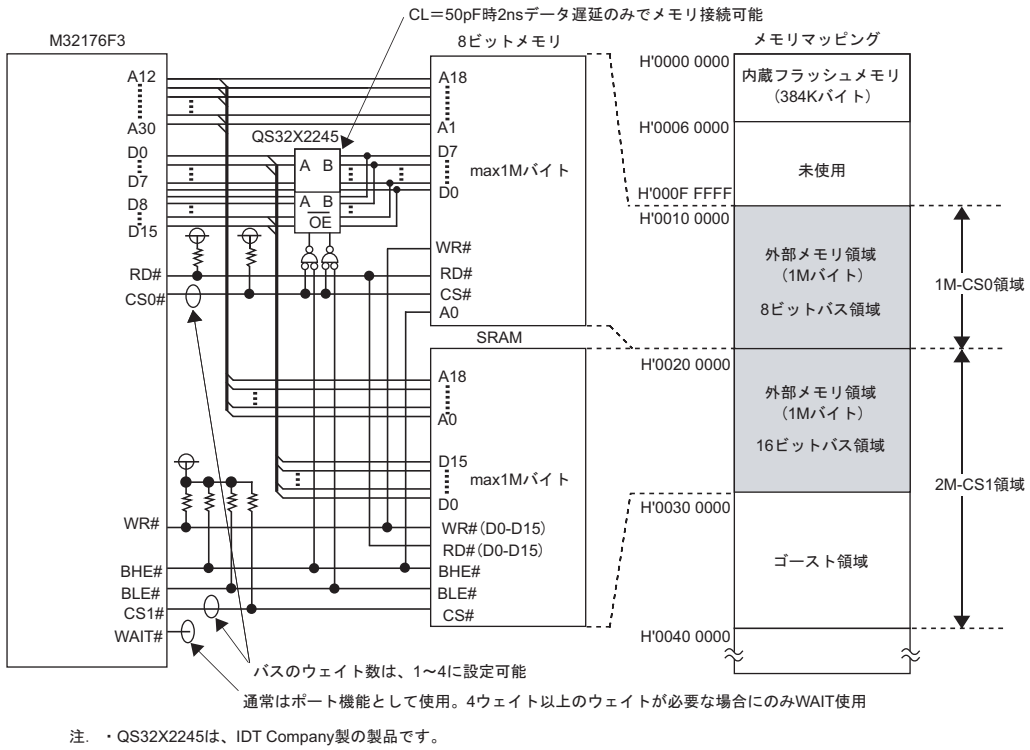


図15.5.3　32176**外部拡張メモリ接続例(**BUSMOD**ビット**="1"**で**8/16**ビット混在メモリ使用時)**

注. ・アドレスおよびデータは、"0"**が**MSB**で**"15"**が**LSB**となります。外部拡張メモリ接続時には**MSB**側と**LSB**側を逆に接続する必要があります。**

第16章

ウェイトコントローラ

16.1　ウェイトコントローラ概要
16.2　ウェイトコントローラ関連レジスタ
16.3　ウェイトコントローラ動作例

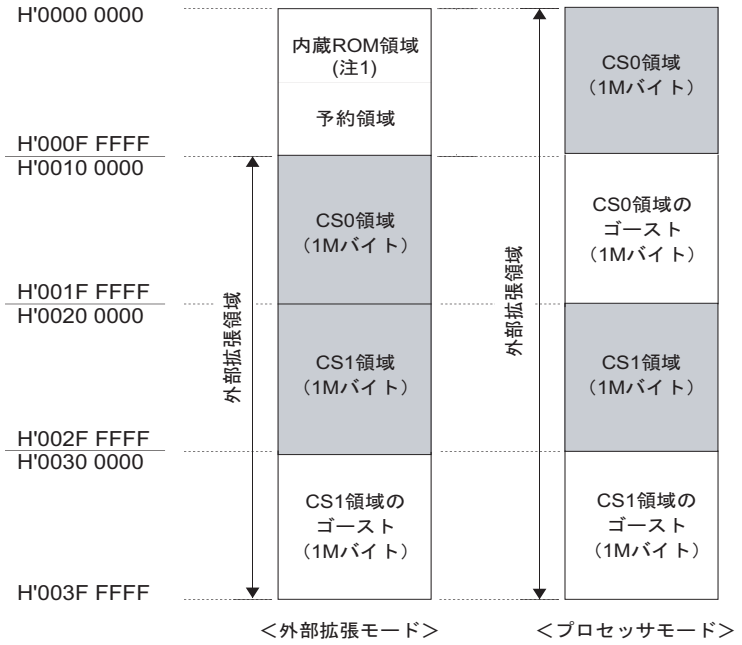
16.1　ウェイトコントローラ概要

ウェイトコントローラは、外部拡張領域アクセスにおけるバスサイクルの挿入ウェイト数を制御します。以下にウェイトコントローラ概要を示します。

表16.1.1　ウェイトコントローラの概要

項目	仕様
対象空間	動作モードにより以下の空間を制御 シングルチップモード　：対象空間なし（ウェイトコントローラの設定は無効） 外部拡張モード　：CS0領域（1Mバイト）、CS1領域（1Mバイト） プロセッサモード　：CS0領域（1Mバイト）、CS1領域（1Mバイト）
挿入ウェイト数	ソフトウェア設定による1～4ウェイト挿入＋WAIT#端子入力による任意のウェイト数挿入可能 （外部アクセス時のバスサイクルは、1ウェイト挿入が最短となります）

外部拡張モードとプロセッサモードでは、外部拡張領域に対して2本のチップセレクト信号（CS0#, CS1#）が出力され、2本のチップセレクト信号に対応した2つの領域をそれぞれCS0領域、CS1領域と呼びます。



注1. 非CS0領域
注. ・プログラミング時に故意にゴースト領域を使用しないでください。

図16.1.1　CS0領域とCS1領域のアドレスマップ

外部拡張領域アクセス時、ウェイトコントローラはソフトウェアで設定されたウェイト数、およびWAIT#（ウェイト）端子からの入力信号に基づいて、バスサイクルに挿入されるウェイト数を制御します。

ソフトウェアで制御可能なウェイト数は、1から4です（外部アクセスは、1ウェイト挿入が最短のバスサイクルとなります）。

ソフトウェアで設定された内部ウェイトの最終サイクルでWAIT#（ウェイト）端子に"L"レベル信号が入力されていると、ウェイトサイクルが延長されます。その後外部WAIT#端子に"H"レベル信号が入力されると、ウェイトサイクルを終了し、次の新しいバスサイクルに移行します。

表16.1.2　ウェイトコントローラで設定可能なウェイト数

外部拡張領域	アドレス	挿入ウェイト数
CS0領域	H'0010 0000～H'001F FFFF （外部拡張モード） H'0000 0000～H'001F FFFF （プロセッサモード）（注1）	ソフトウェア設定により1～4ウェイト挿入 ＋WAIT#端子入力による任意のウェイト数挿入 （ただしソフトウェアの設定が優先されます）
CS1領域	H'0020 0000～H'002F FFFF （外部拡張モード およびプロセッサモード）（注2）	ソフトウェア設定により1～4ウェイト挿入 ＋WAIT#端子入力による任意のウェイト数挿入 （ただしソフトウェアの設定が優先されます）

注1．プロセッサーモード時、H'0010 0000～H'001F FFFFの領域にCS0領域のゴースト（1Mバイト）が見えます。
注2．H'0030 0000～H'003F FFFFの領域にCS1領域のゴースト（1Mバイト）が見えます。

16.2　ウェイトコントローラ関連レジスタ

以下にウェイトコントローラ関連のレジスタマップを示します。

ウェイトコントローラ関連レジスタマップ

番地	＋0番地 b0 … b7	＋1番地 b8 … b15	掲載ページ
H'0080 0180	ウェイト数制御レジスタ（WTCCR）	（使用禁止領域）	16-4

16.2.1　ウェイト数制御レジスタ

ウェイト数制御レジスタ（WTCCR）　　＜アドレス：H'0080 0180＞

b0	1	2	3	4	5	6	b7
		CS0WTC				CS1WTC	
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00＞

b	ビット名	機能	R	W
0, 1	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
2, 3	CS0WTC CS0ウェイト数制御ビット	00：4ウェイト（リセット解除時） 01：3ウェイト 10：2ウェイト 11：1ウェイト	R	W
4, 5	何も配置されていません。"0"に固定してください。		0	0
6, 7	CS1WTC CS1ウェイト数制御ビット	00：4ウェイト（リセット解除時） 01：3ウェイト 10：2ウェイト 11：1ウェイト	R	W

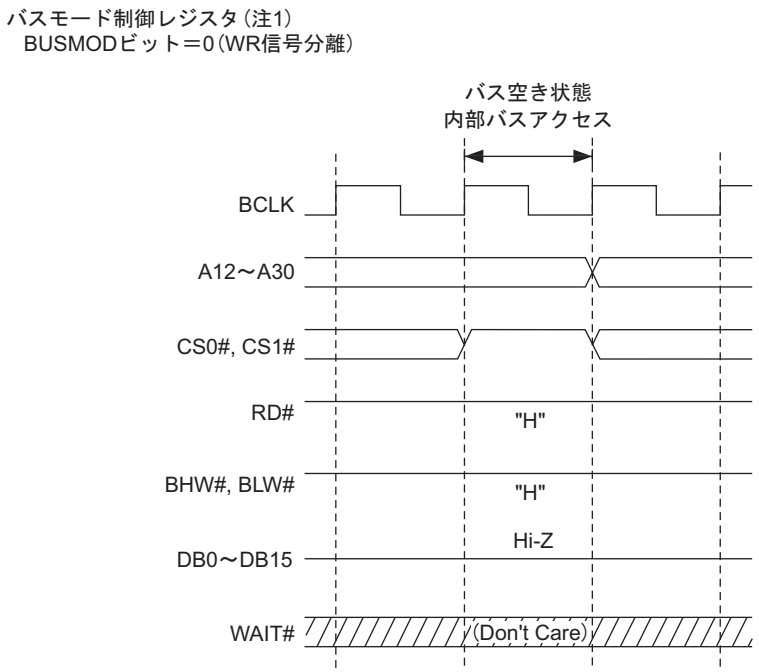
16.3　ウェイトコントローラ動作例

以下にウェイトコントローラの動作例を示します。

ウェイトコントローラでは2～5サイクルのバスアクセスが制御可能で、それ以上のアクセスサイクルが必要な場合にはWAIT機能との組み合わせ使用が必要です。

(1) バスモード制御レジスタを"0"に設定した場合

外部リード/ライト動作は、 アドレスバス、データバスとCS0#、CS1#、RD#、BHW#、BLW#、WAIT#、BCLKの各信号により行います。



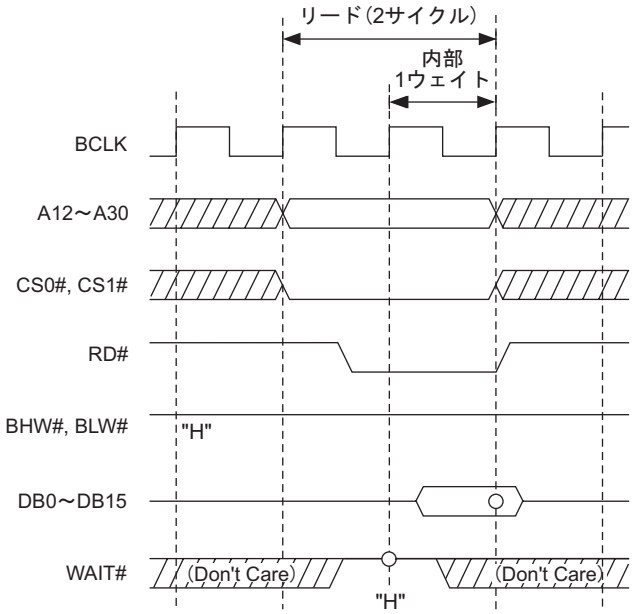
注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注. ・Hi-Zはハイインピーダンス状態を示します。

図16.3.1　バス空き状態/内部バスアクセス時

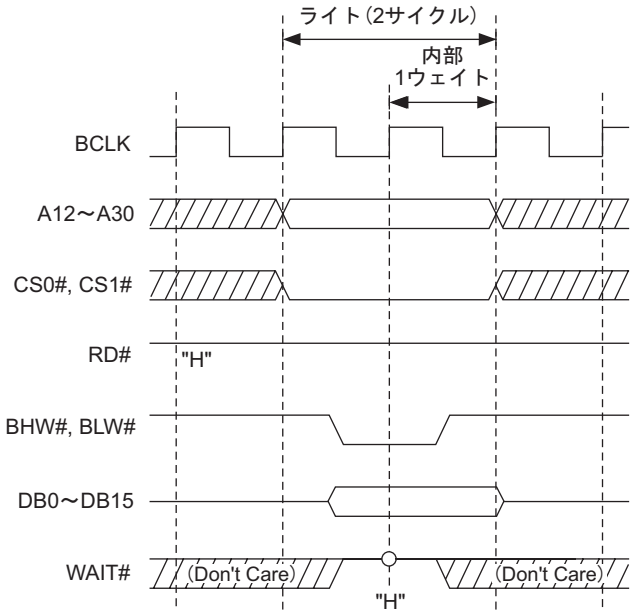
バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝0（WR信号分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝11（1ウェイト）

リード



ライト

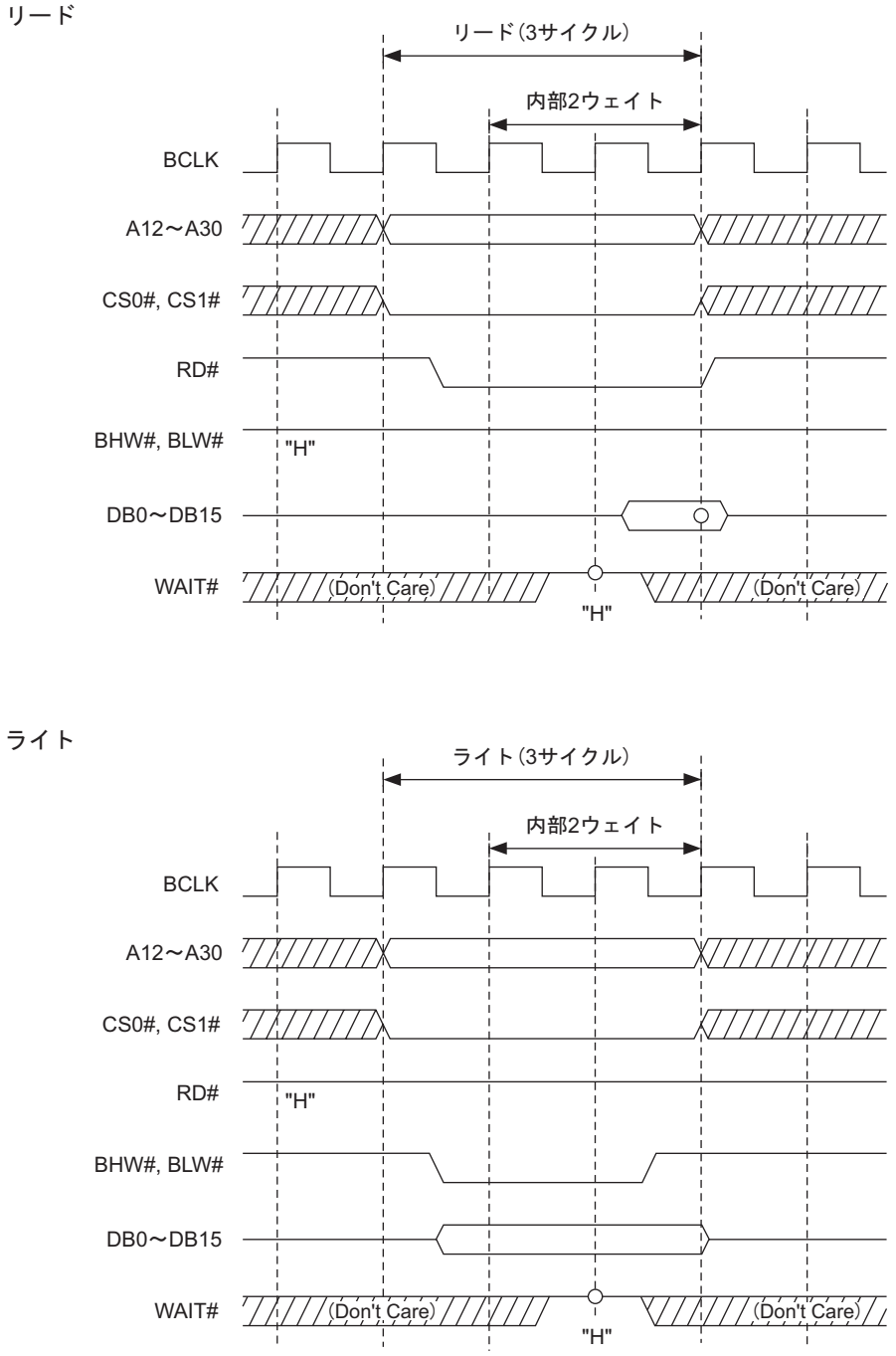


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図16.3.2　リード/ライトタイミング（内部1ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝0（WR信号分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝10（2ウェイト）

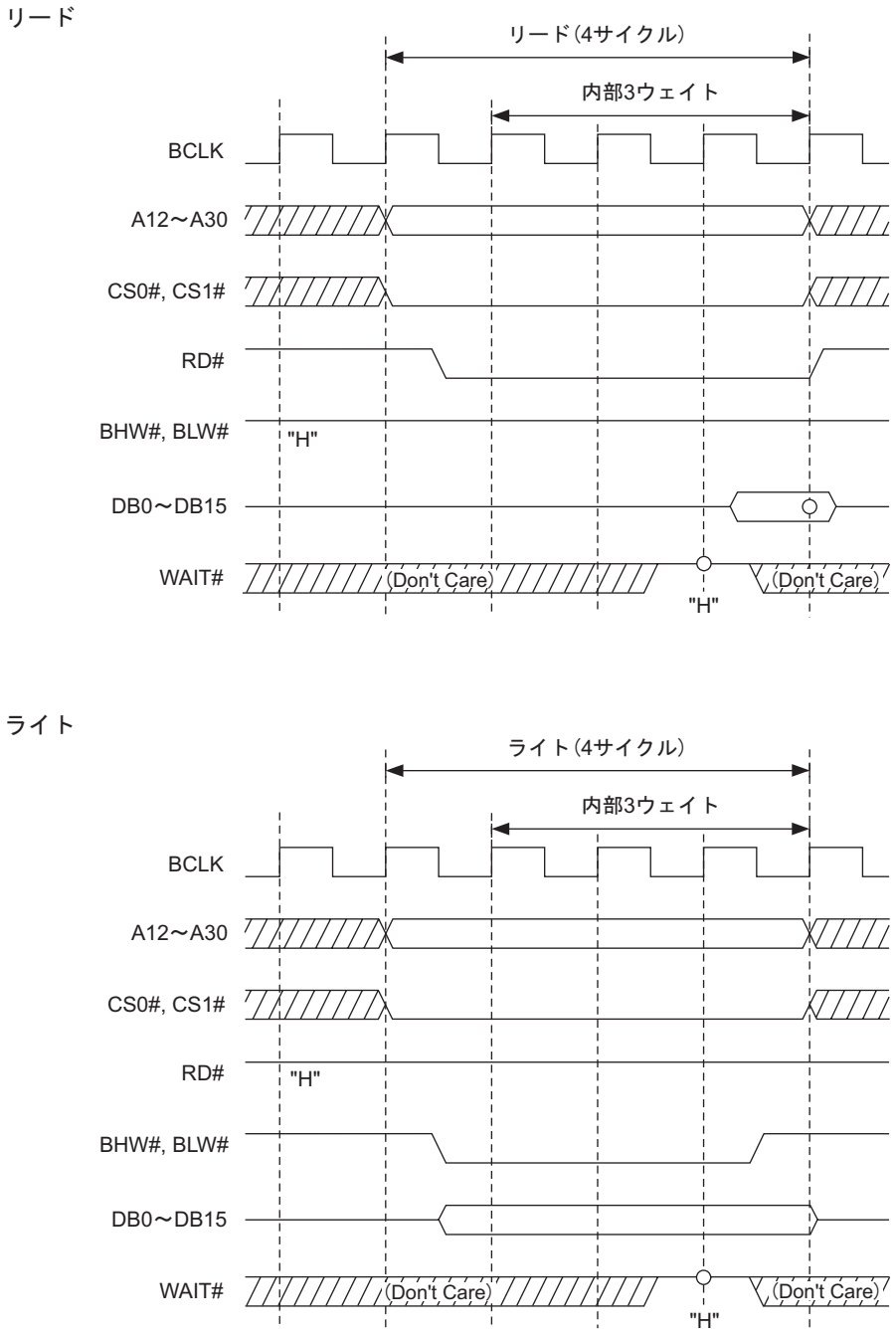


注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2. ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注. ・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図16.3.3　リード/ライトタイミング（内部2ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝0（WR信号分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝01（3ウェイト）

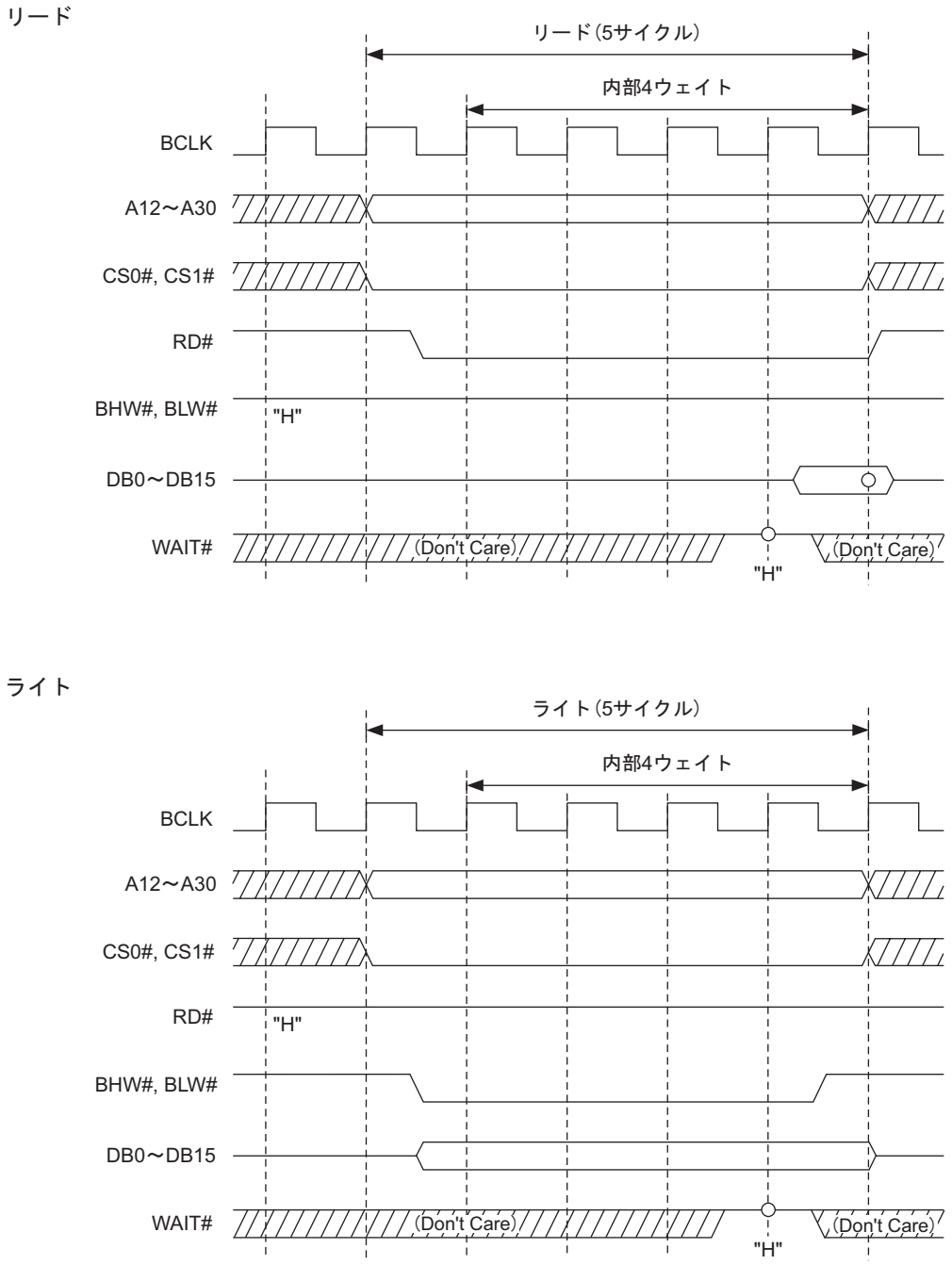


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図16.3.4　リード/ライトタイミング（内部3ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝0（WR信号分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝00（4ウェイト）

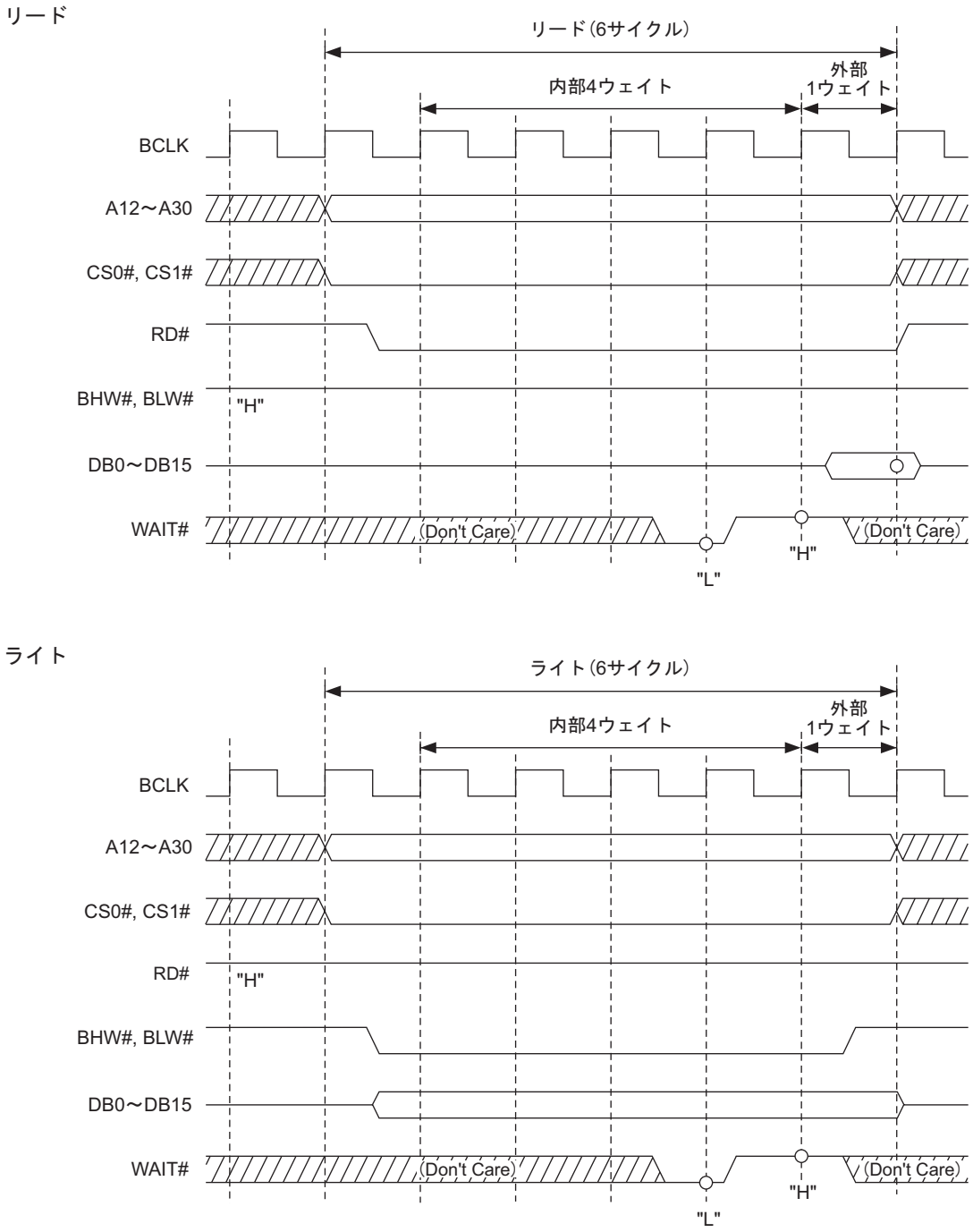


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2　バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1　ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図16.3.5　リード/ライトタイミング（内部4ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝0（WR信号分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝00（4ウェイト）

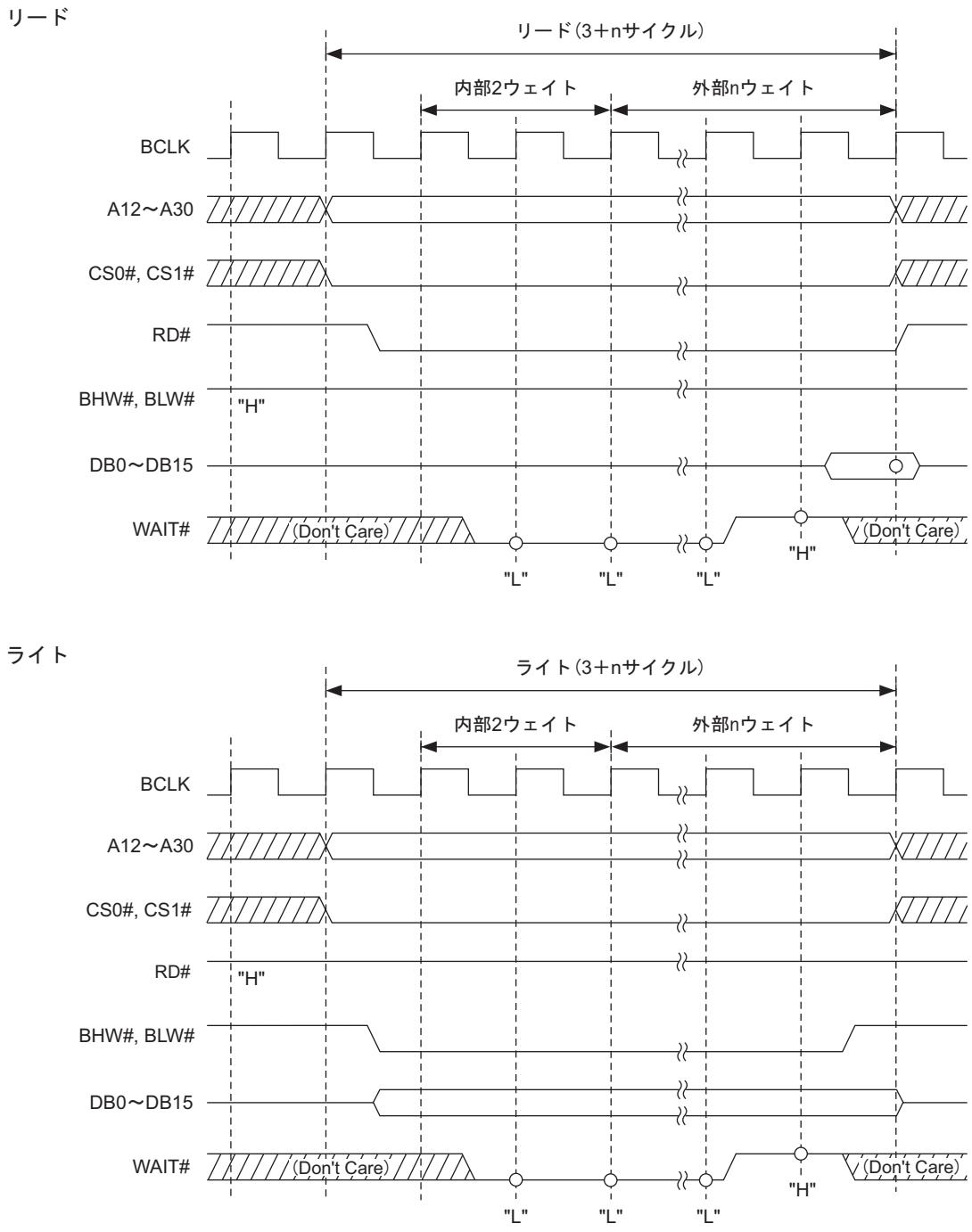


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2　バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1　ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図16.3.6　リード/ライトタイミング（内部4＋外部1ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝0（WR信号分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝10（2ウェイト）

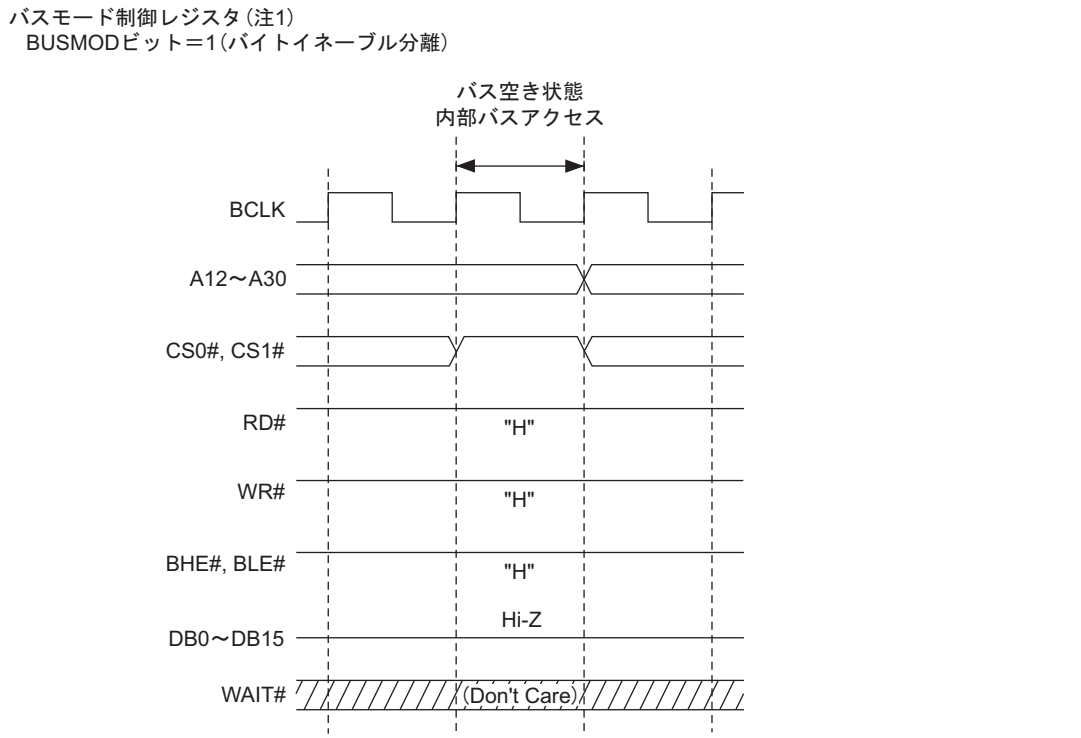


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2　バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1　ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。

図16.3.7　リード/ライトタイミング（内部2＋外部nウェイトアクセス時）

(2) バスモード制御レジスタを"1"に設定した場合

外部リード/ライト動作は、 アドレスバス、データバスとCS0#、CS1#、RD#、BHE#、BLE#、WAIT#、WR#の各信号により行います。

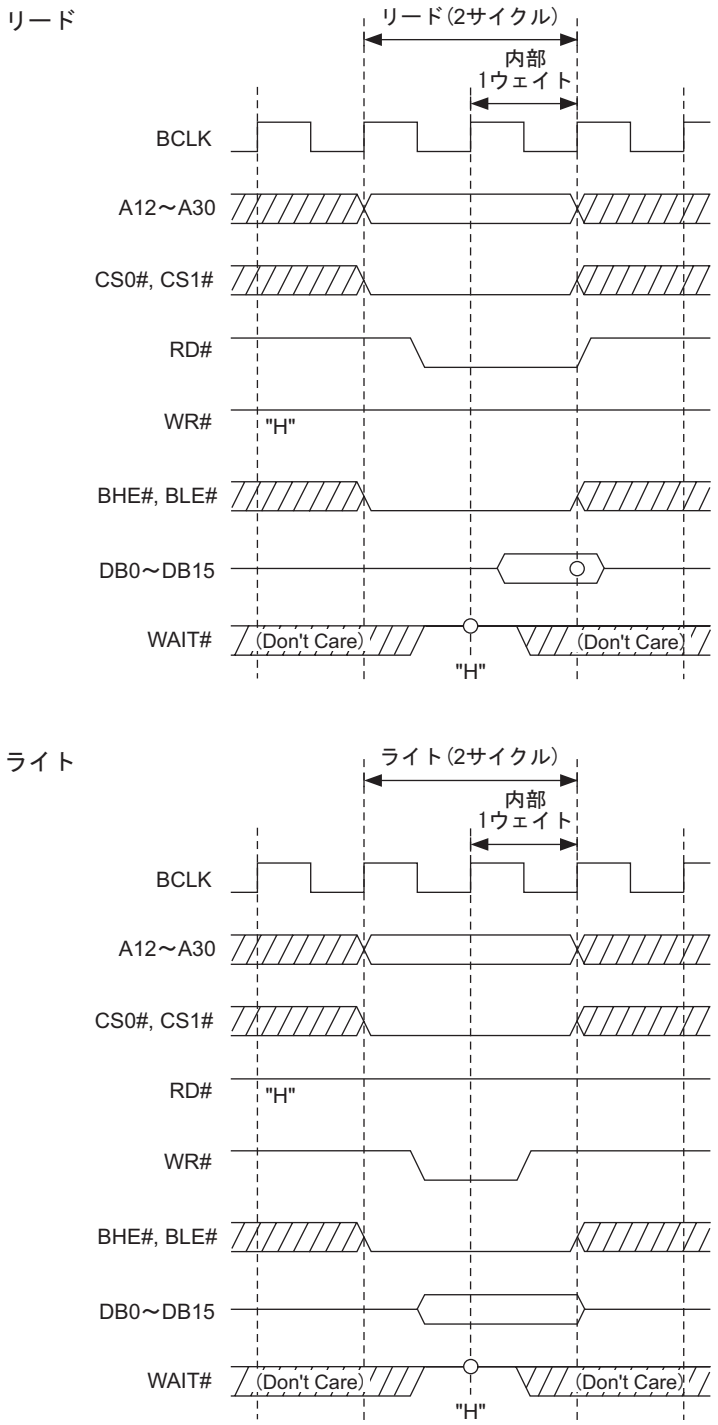


注1. バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注. ・Hi-Zはハイインピーダンス状態を示します。
・BCLKは出力されません。

図16.3.8　バス空き状態/内部バスアクセス時

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝11（1ウェイト）

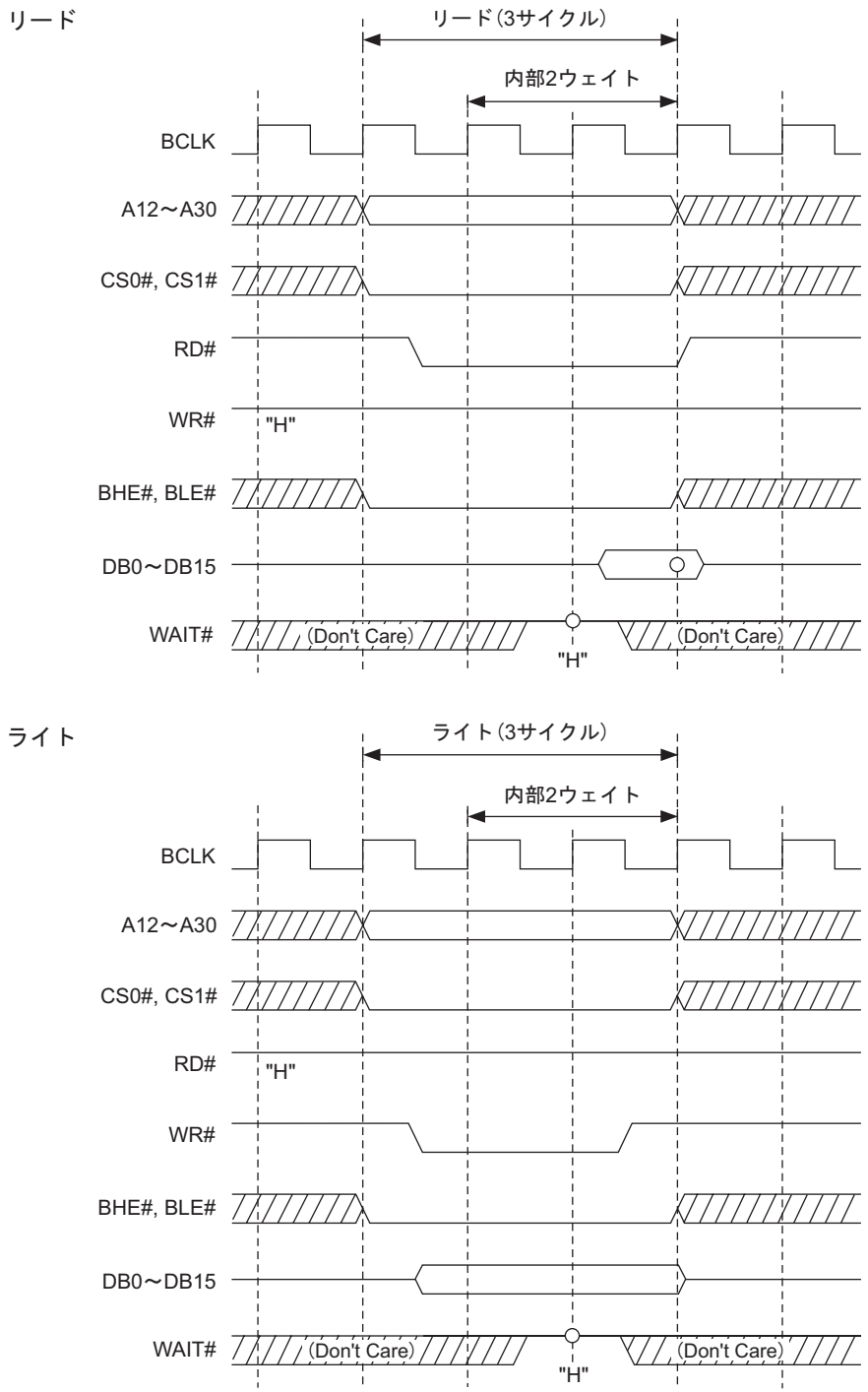


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図16.3.9　リード/ライトタイミング（内部1ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝10（2ウェイト）

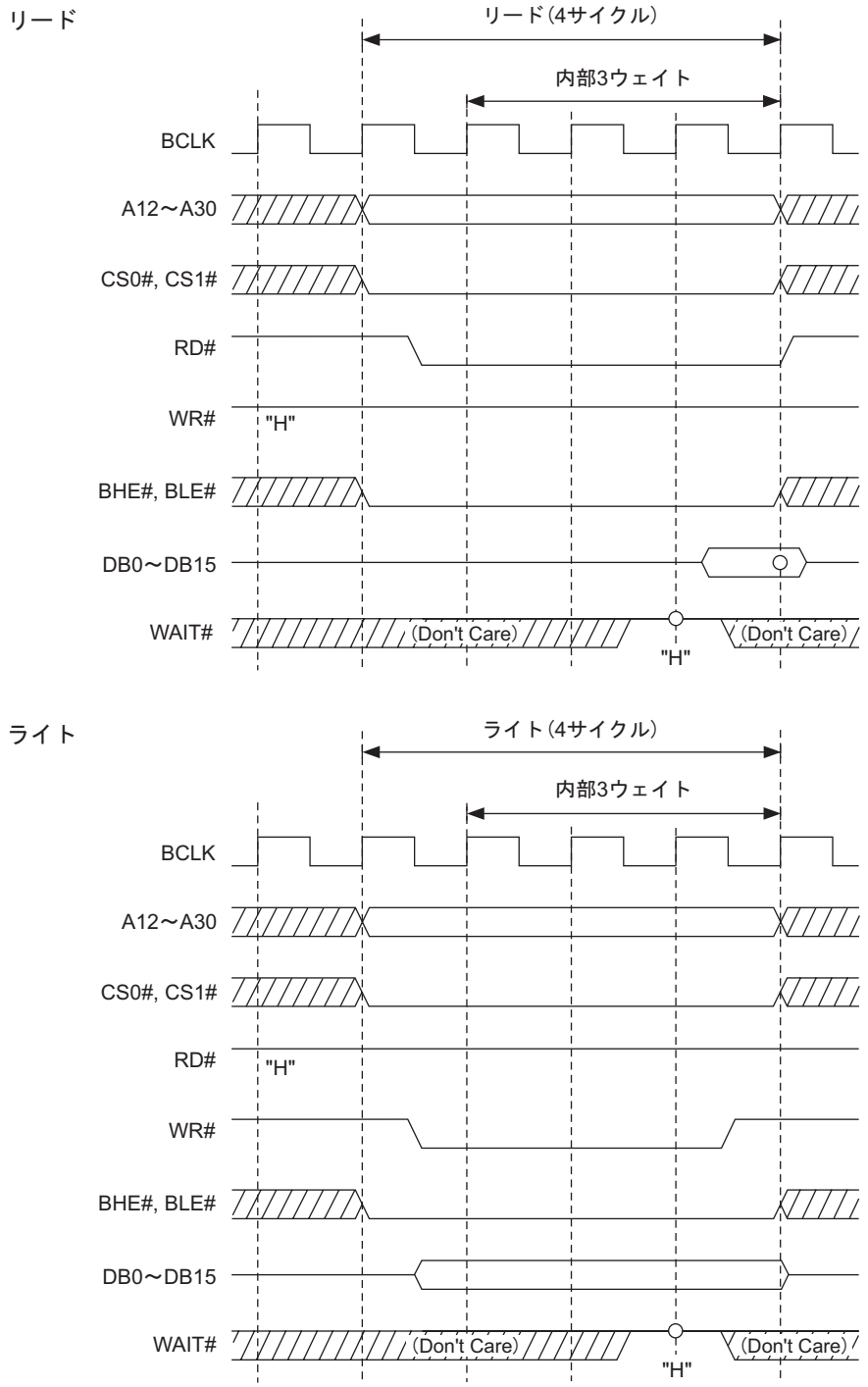


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図16.3.10　リード/ライトタイミング（内部2ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝01（3ウェイト）

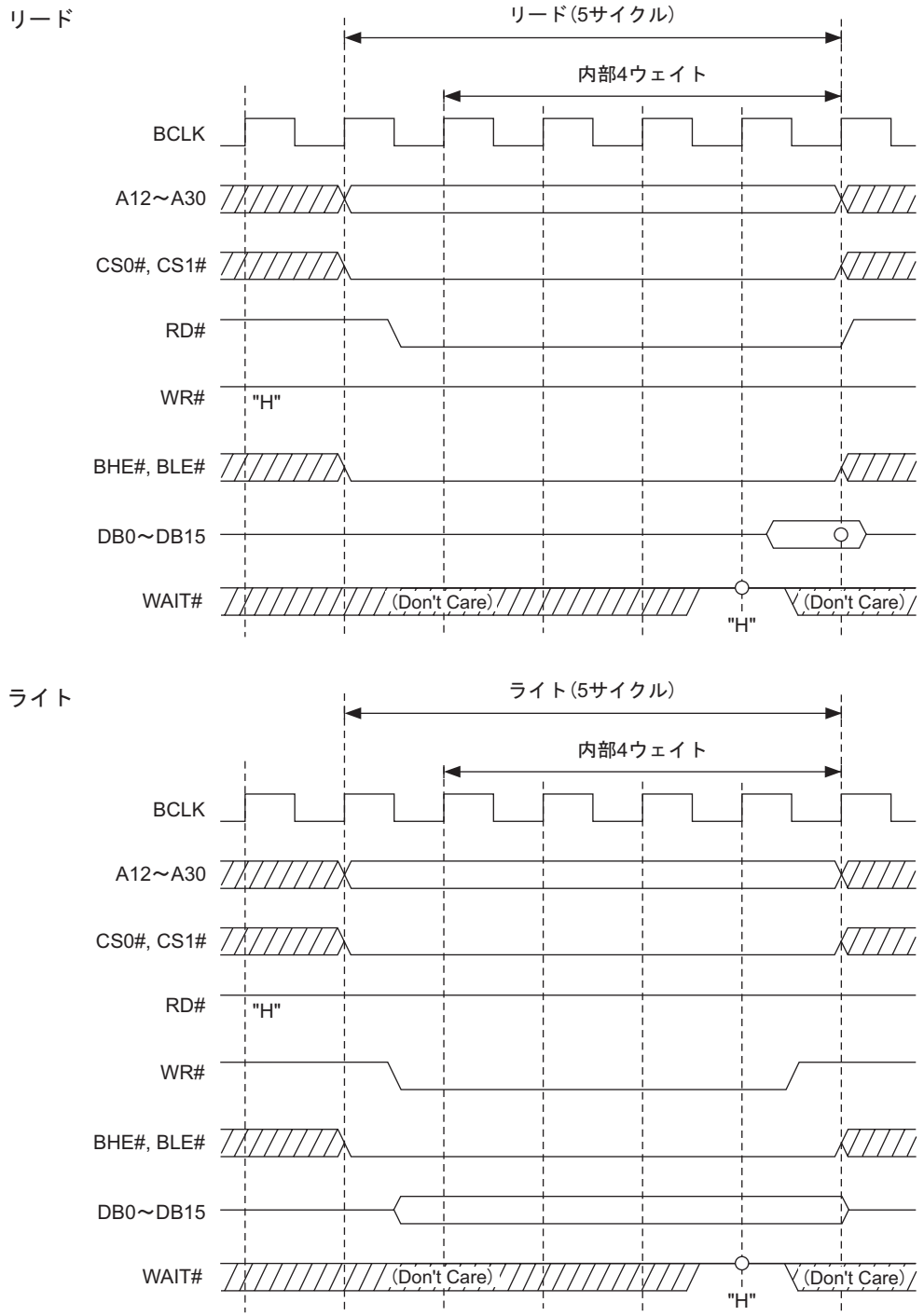


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図16.3.11　リード/ライトタイミング（内部3ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝00（4ウェイト）

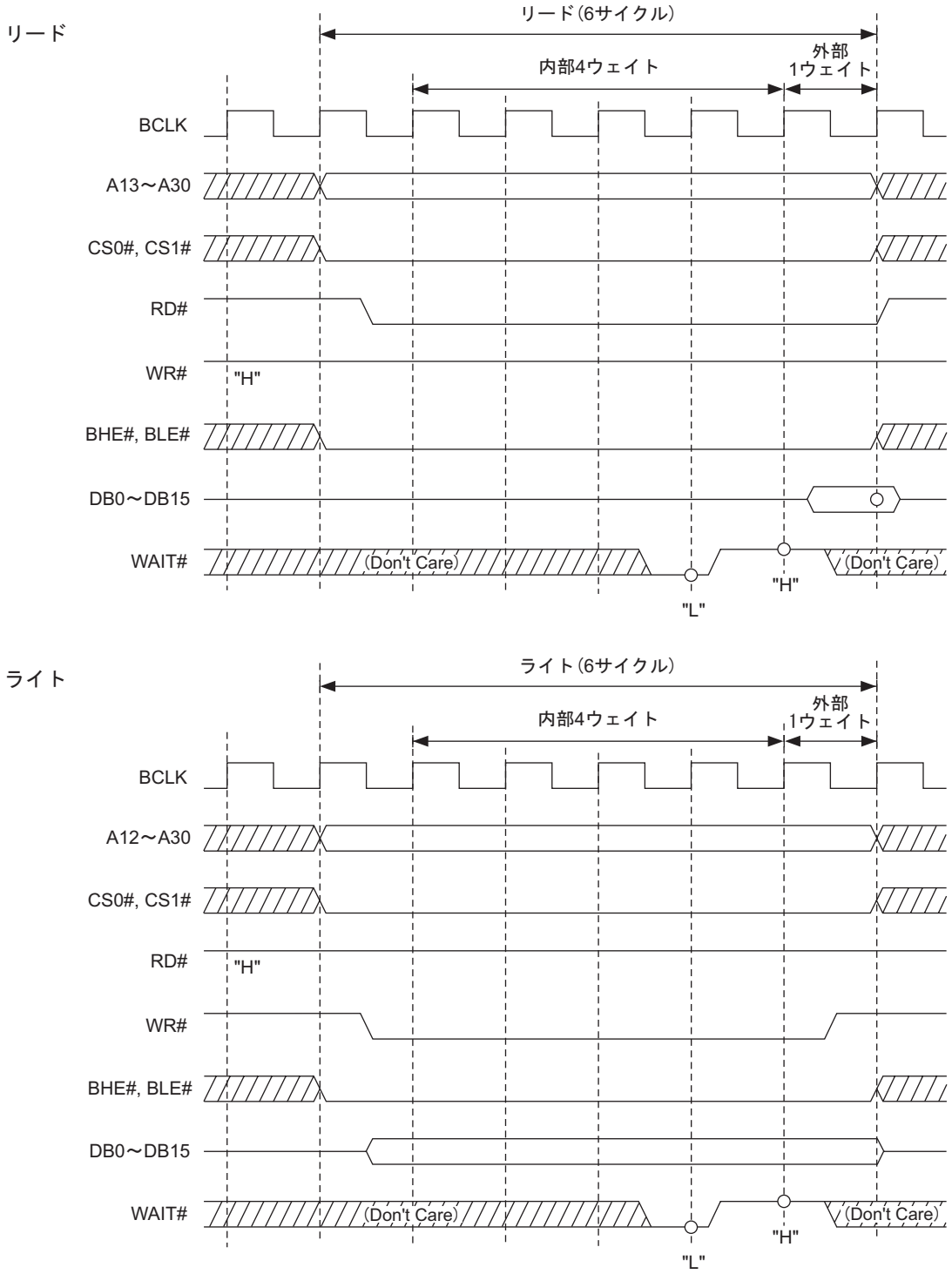


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図16.3.12　リード/ライトタイミング（内部4ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝00（4ウェイト）

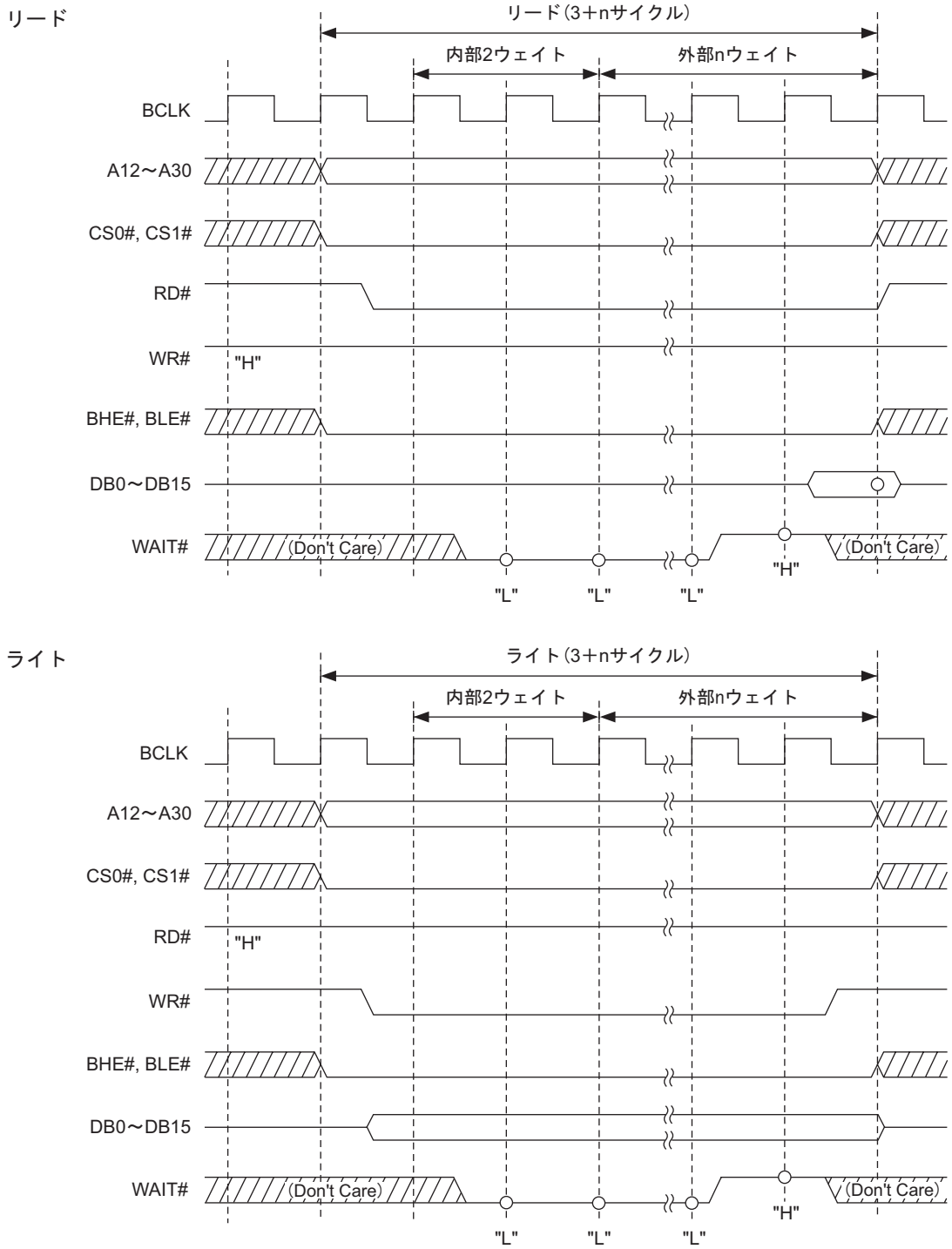


注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図16.3.13　リード/ライトタイミング（内部4＋外部1ウェイトアクセス時）

バスモード制御レジスタ（注1）
　BUSMODビット＝1（バイトイネーブル分離）

ウェイト数制御レジスタ（注2）
　CSnWTCビット＝10（2ウェイト）



注1.　バスモード制御レジスタについては、「15.2.2 バスモード制御レジスタ」を参照してください。
注2.　ウェイト数制御レジスタについては、「16.2.1 ウェイト数制御レジスタ」を参照してください。
注.　・図中○印はサンプリングタイミングを示します。
　　・BCLKは出力されません。

図16.3.14　リード/ライトタイミング（内部2＋外部nウェイトアクセス時）

第17章

RAMバックアップモード

17.1　概要
17.2　電源断時のRAMバックアップ例
17.3　低消費電力化のためのRAMバックアップ例
17.4　RAMバックアップモードの解除
（ウェイクアップ）

17.1　概要

RAMバックアップモードは、電源を切った状態で内蔵RAMの内容を保持するモードです。RAMバックアップモードは、次の二つの目的で使用されます。

32176の場合のRAMバックアップ領域は、H'0080 4000～H'0080 9FFF（24Kバイト）です。

- **外部より、強制的に電源オフされる場合の内蔵RAMデータのバックアップ（電源断時のRAMバックアップ）**
- **システムの低消費電力化のために、M32R/ECUが内蔵RAMデータを保持しながら任意のタイミングでCPUの電源をオフにする場合（低消費電力化のためのRAMバックアップ）**

RAMバックアップ用のVDDE端子に3.0～5.5Vの電圧を印加し、その他の端子に0Vを印加すると、M32R/ECUはRAMバックアップモードになります。

RAMバックアップモード時、内部RAMの内容が保持された状態で、CPUおよび内蔵周辺I/Oは停止しています。また、RAMバックアップモード中はVDDE端子以外の端子は"L"レベルのため、効果的な低消費電力が実現できます。

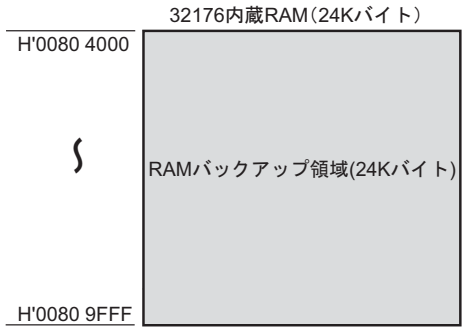
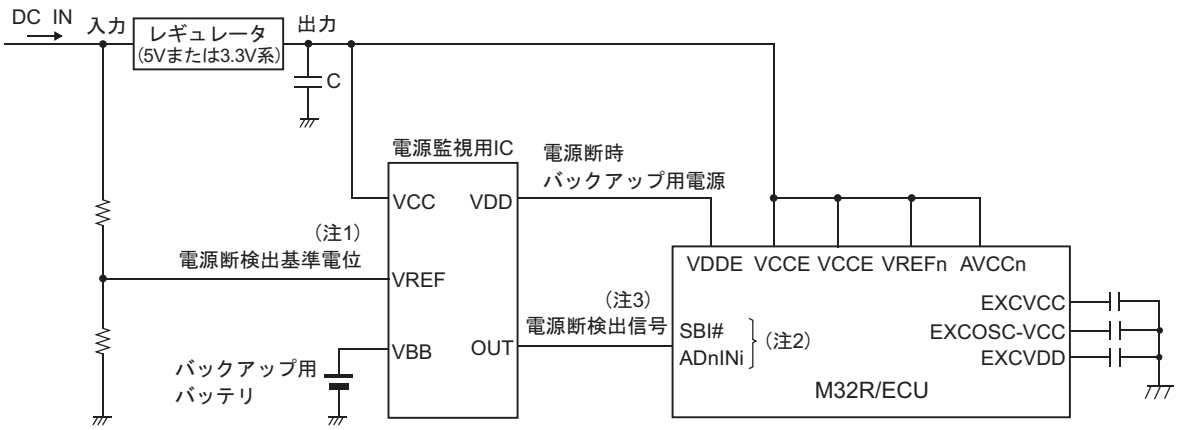


図17.1.1　RAM**バックアップ領域**

17.2　電源断時のRAMバックアップ例

電源断時のRAMバックアップ回路例を図17.2.1に示します。この回路例を使用した場合のRAMバックアップ例について、以下に説明します。

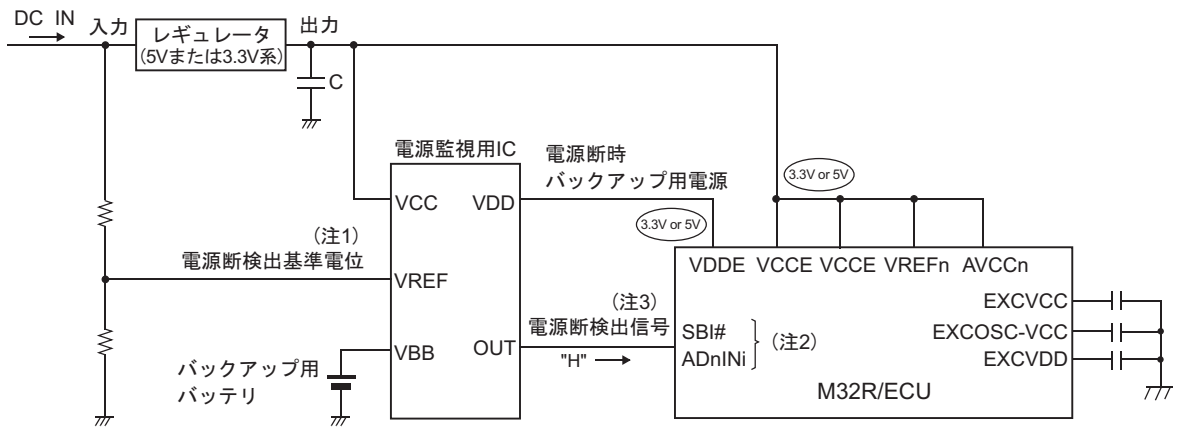


注1. "DC IN（レギュレータの入力側）"の電位で電源断検出
注2. RAMバックアップ信号の検出用端子
注3. 電源投入時"H"レベル出力、電源断時"L"レベル出力

図17.2.1　**電源断時のRAMバックアップ回路例**

17.2.1　通常動作時の状態

図17.2.2に通常動作時の状態を示します。通常動作時、RAMバックアップ信号の検出用のSBI#端子またはADnINi(i＝0～15)端子へは"H"レベルが入力されます。



注1. "DC IN(レギュレータの入力側)"の電位で電源断検出
注2. RAMバックアップ信号の検出用端子
注3. 電源投入時"H"レベル出力、電源断時"L"レベル出力

図17.2.2　**通常動作時の状態**

17.2.2　RAMバックアップ時の状態

図17.2.3に電源断時のRAMバックアップの状態を示します。電源オフすると電源監視用ICによって、バックアップ用バッテリから電流が供給されます。また、電源監視用ICの電源断検出信号端子から"L"レベルが出力され、SBI#端子またはADnINi端子は"L"レベルになりRAMバックアップ信号の発生となります(図17.2.3の(a))。電源断検出判定は、電源断時のソフトウェア処理時間を確保するため、必ず"DC IN(レギュレータの入力側)"の電位で行う必要があります。

RAMバックアップモードを有効にするためには、次の設定を行ってください。

(1) RAMバックアップモードから通常モードに復帰したときに、RAMのデータが正常に保存されていたかのチェック用データを作成(図17.2.3の(b))

(1)の設定後、VCCEへの電流の供給が切れると、VDDE端子は3.0V～3.3V、その他の端子は0Vになり、M32R/ECUはRAMバックアップモードになります(図17.2.3の(c))。

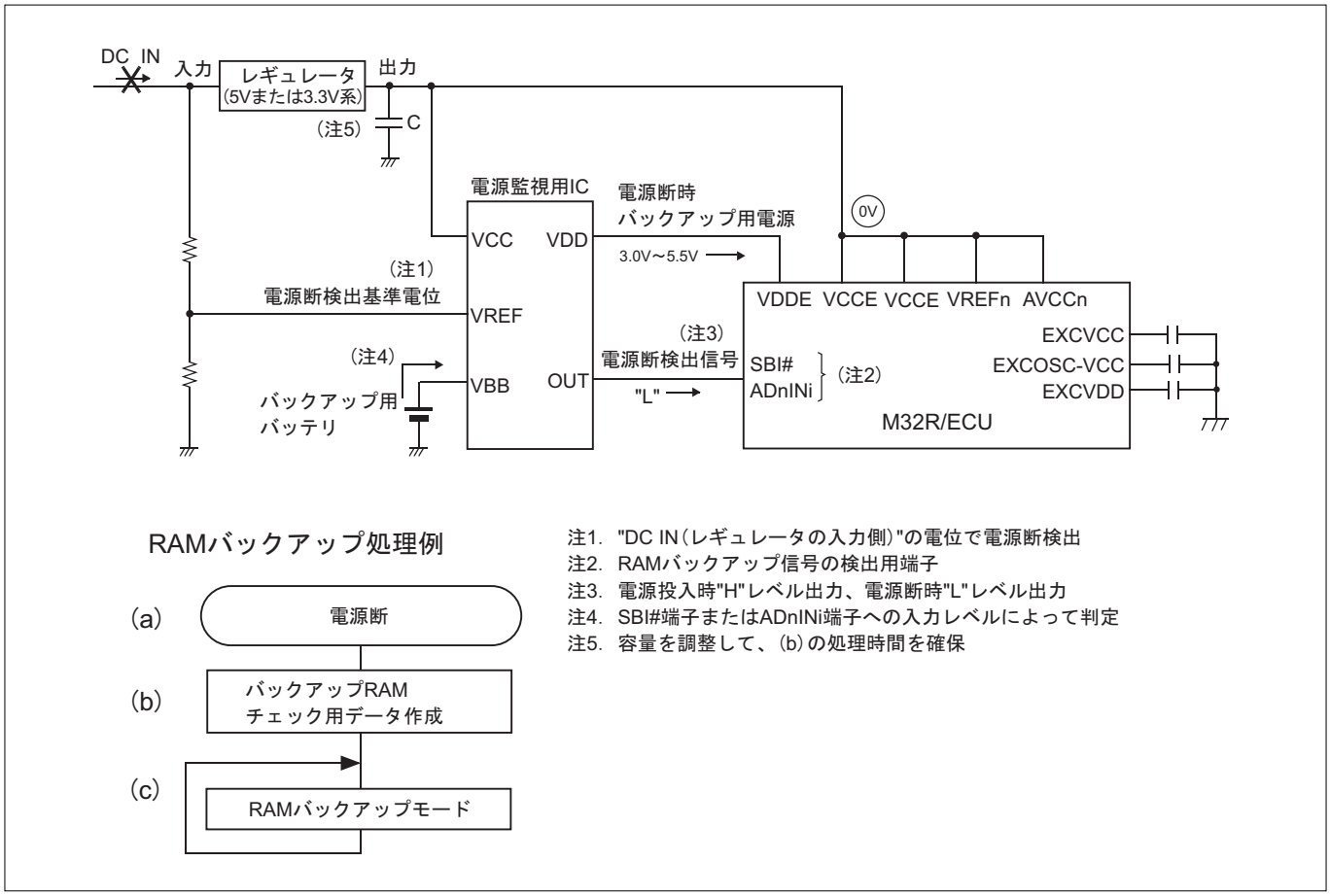
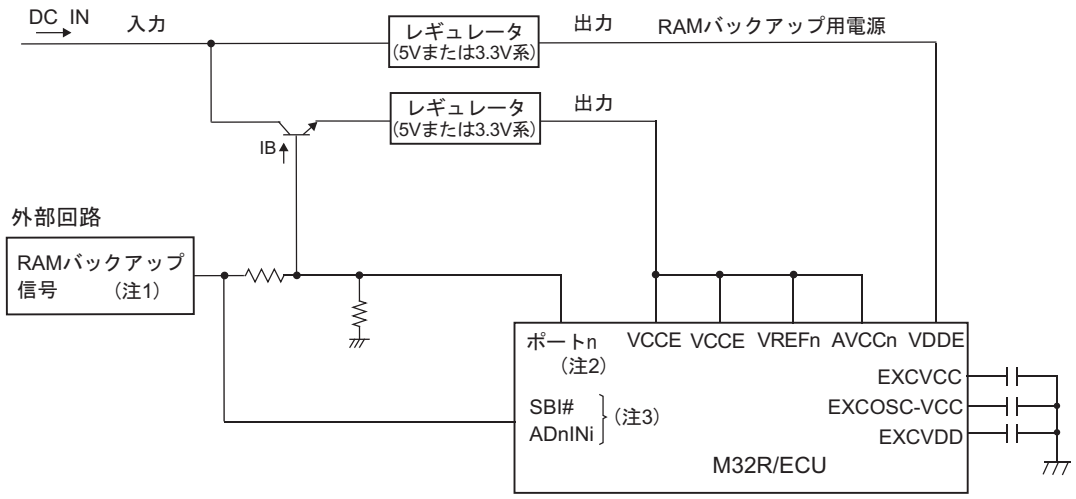


図17.2.3　電源断時のRAMバックアップ時の状態

17.3　低消費電力化のためのRAMバックアップ例

低消費電力化のためのRAMバックアップ回路例を図17.3.1に示します。この回路例を使用した場合の低消費電力化のためのRAMバックアップ例について、以下に説明します。



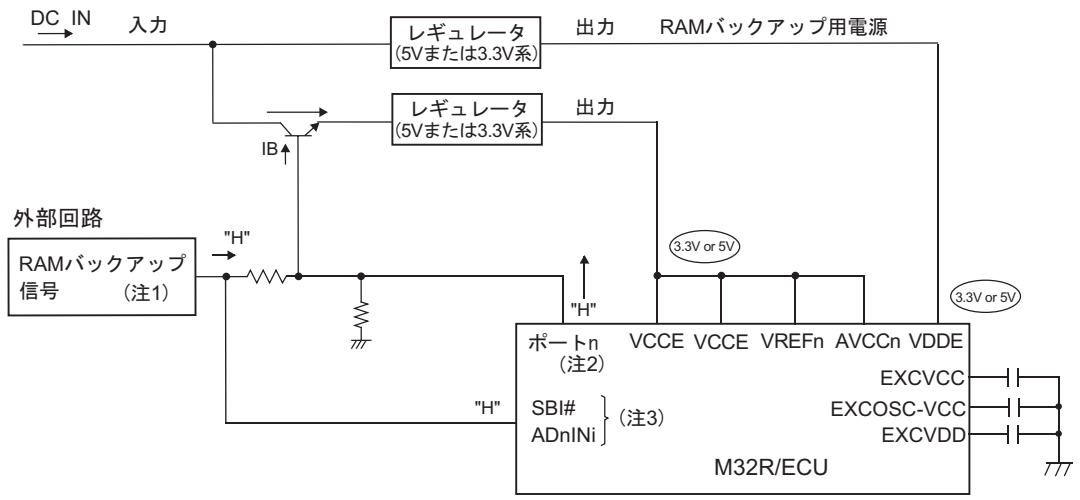
注1. RAMバックアップ時"L"レベル出力
注2. 電源投入時"H"レベル出力、RAMバックアップ時入力モード
注3. RAMバックアップ信号の検出用端子

図17.3.1　低消費電力化のためのRAMバックアップ回路例

17.3.1　通常動作時の状態

図17.3.2に通常動作時の状態を示します。通常動作時、RAMバックアップ信号を出力する外部回路からは、"H"レベルが出力されます。RAMバックアップ信号の検出用のSBI端子またはADnINi(i＝0～15)端子へは"H"レベルが入力されます。

トランジスタのベース接続端子であるポートnからは、"H"レベルを出力してください。この処置によって、トランジスタのベース電圧IBが"H"レベルになり、トランジスタを経由して電源からVCCE端子へ電流が供給されます。



注1. RAMバックアップ時"L"レベル出力
注2. 電源投入時"H"レベル出力、RAMバックアップ時入力モード
(ポートのいずれか1端子を選択)
注3. RAMバックアップ信号の検出用端子

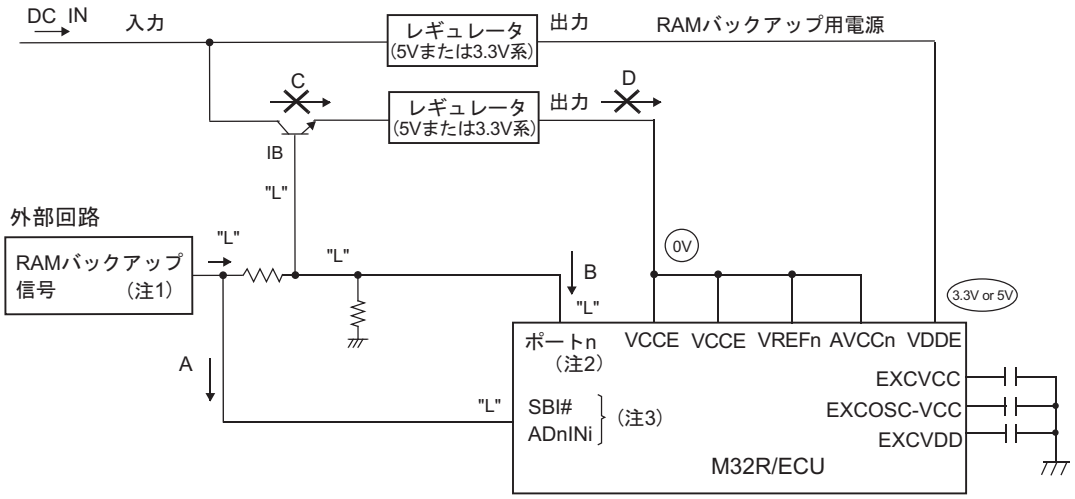
図17.3.2　通常動作時の状態

17.3.2　RAMバックアップ時の状態

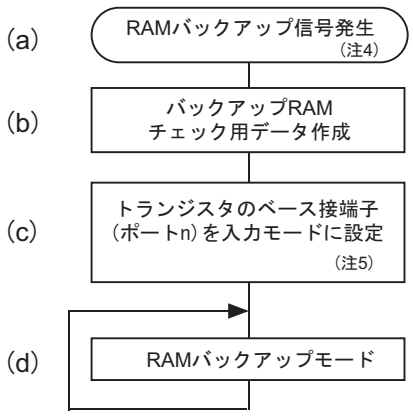
図17.3.3にRAMバックアップ時の状態を示し、図17.3.4にRAMバックアップシーケンスを示します。外部回路から"L"レベルが出力されるとSBI#端子またはADnINi端子へ"L"レベルが入力されます。これらの端子への"L"レベル入力が、RAMバックアップ信号の発生となります(図17.3.3のA、(a))。RAMバックアップモードを有効にするためには、次の設定を行ってください。

(1) RAMバックアップモードから通常モードに復帰したときに、RAMのデータが正常に保存されていたかのチェック用データを作成(図17.3.3の(b))
(2) 低消費電力を実現するために、ポートn以外のプログラマブル入出力ポートをすべて入力モード(または出力モードで"L"レベル出力)に設定(図17.3.3の(c))
(3) ポートnを入力モードに設定(図17.3.3のB、(d))
この処置によってトランジスタのベース電圧IBが"L"レベルになり、VDDE端子以外の電源端子への電源供給が遮断(図17.3.3のC、D)

(1)～(3)の設定によってVDDE端子は3.0V～5.5V、その他の端子は0Vになり、M32R/ECUはRAMバックアップモードになります(図17.3.3の(d))。



RAMバックアップ処理例



注1. RAMバックアップ時"L"レベル出力
注2. 電源投入時"H"レベル出力、RAMバックアップ時入力モード
(ポートのいずれか1端子を選択)
注3. RAMバックアップ信号の検出用端子
注4. SBI#端子または、ADnINi端子への入力レベルにより判定
注5. ベース電圧IB＝0になりVCC端子への電流供給が中断
A～D＝本文中説明

図17.3.3　低消費電力化時のRAMバックアップ時の状態

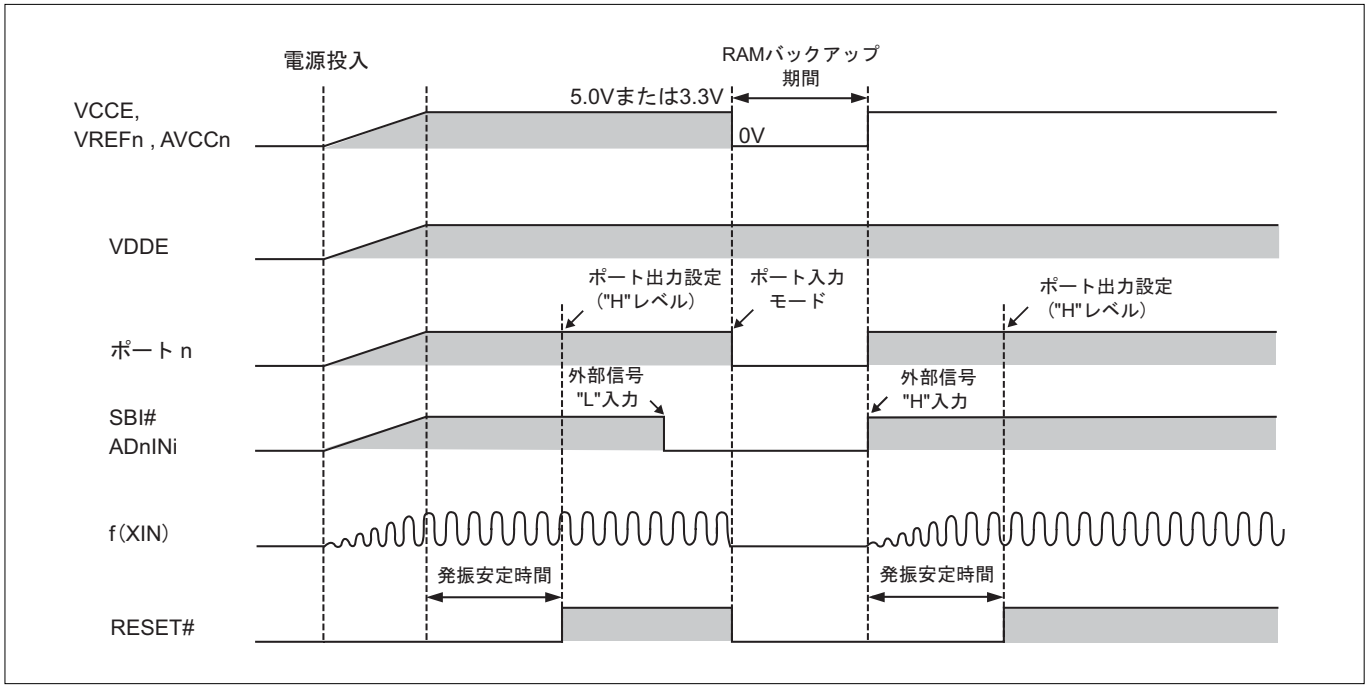


図17.3.4　**低消費電力化のためのRAMバックアップシーケンス例**

17.3.3　電源立ち上げ時の注意事項

電源投入後ポートnを入力モードから出力モードにする場合、以下の点に注意してください。

ポートnデータレジスタへデータを設定しないで出力モードにすると、ポートの初期出力レベルは不安定になります。したがって、ポートnデータレジスタへ出力レベル"H"を設定した後、ポートnを出力モードにしてください。

この方法でポートを設定しない場合、発振安定後のポート出力設定と同時にポート出力が"L"レベルになり、RAMバックアップモードになることがあります。

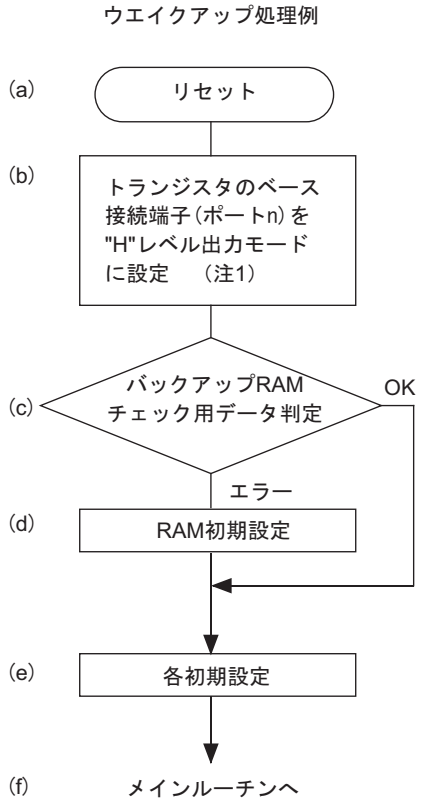
17.4　RAMバックアップモードの解除（ウェイクアップ）

RAMバックアップモードを解除して通常動作に復帰するための処理を、ウェイクアップ処理と呼びます。図17.4.1にウェイクアップ処理例を示します。

ウェイクアップ処理は、リセット入力により行います。ウェイクアップ処理を次に示します。

(1) リセット動作を実行（図17.4.1の(a)）
(2) ポートnを出力モードに設定し、"H"レベルを出力（図17.4.1の(b)）（注1）
(3) RAMバックアップモード時に作成した、チェック用データの内容を判定（図17.4.1の(c)）
(4) (3)の判定結果が一致しなかった場合、RAMの初期設定を実行（図17.4.1の(d)）
(3)の判定結果が一致した場合は、保持されていたデータをプログラム中で使用
(5) 各初期設定の実行（図17.4.1の(e)）後、メインルーチンへ復帰（図17.4.1の(f)）

注1．電源断時のRAMバックアップモードのウェイクアップには、ポートnの設定処理は不要です。



注1. 電源断時のRAMバックアップモードのウエイクアップには、ポートnの設定処理は不要です。

図17.4.1　ウェイクアップ処理

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第18章

発振回路

18.1　**発振回路**
18.2　**クロック発生回路**

18.1　発振回路

32176は、CPUコア、内蔵周辺I/Oおよび内蔵メモリなどの動作クロックを供給する発振回路を内蔵しています。クロック入力端子(XIN)に入力された周波数を内蔵PLL回路により4逓倍したクロックがCPUコア、内蔵メモリの動作クロックであるCPUクロックになります。また、4逓倍したクロックを2分周したクロックが内蔵周辺I/Oおよび外部データバスの動作クロックである周辺クロックになります。

18.1.1　発振回路例

XIN端子とXOUT端子の間にセラミック共振子(または水晶発振子)を外付けすることによって、クロック発振回路を構成することができます。

共振子を外付けした場合の回路を示したシステムクロック発生回路例を図18.1.1に示します。Rf、CIN、COUT、Rdなどの定数は、共振子および発振子メーカにお問い合わせの上、推奨する値に設定してください。

発振回路を用いずに、外部からクロック信号を入力する場合は、XIN端子にクロック信号を入力し、XOUT端子はオープンにしてください。

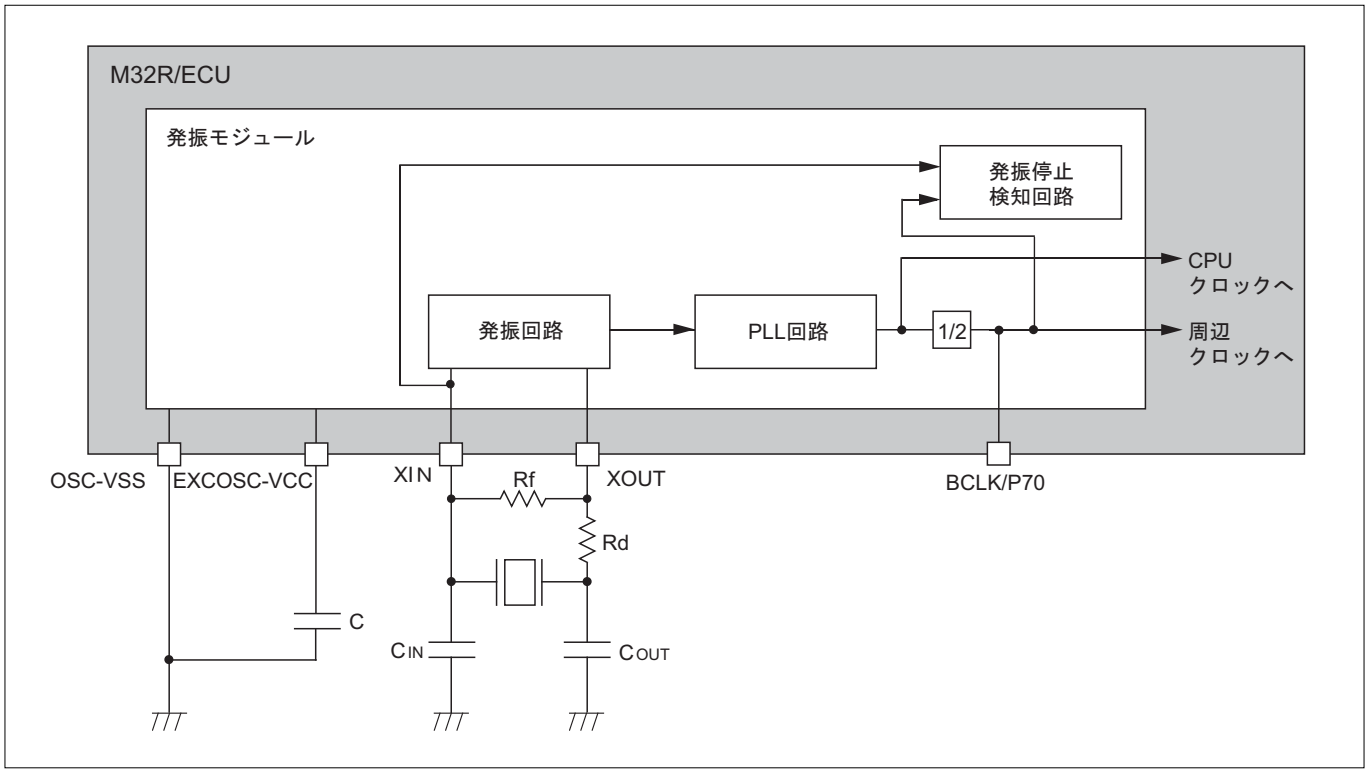


図18.1.1　**発振回路例**

18.1.2　XIN発振停止検知機能

32176は、発振入力の停止を検知する回路を内蔵しています。

PLL回路には、基準となる発振入力がない場合、固有振動数で発振を行ないます。

XIN発振入力を周辺クロックでサンプリングし、XIN発振が同一レベルの場合にXSTATビットをセットします。XIN発振が停止していても、PLL回路の固有周波数でCPUは動作しますので、ソフトウェアによりXSTATを確認することで、XIN発振停止により異常処理を行うことができます。

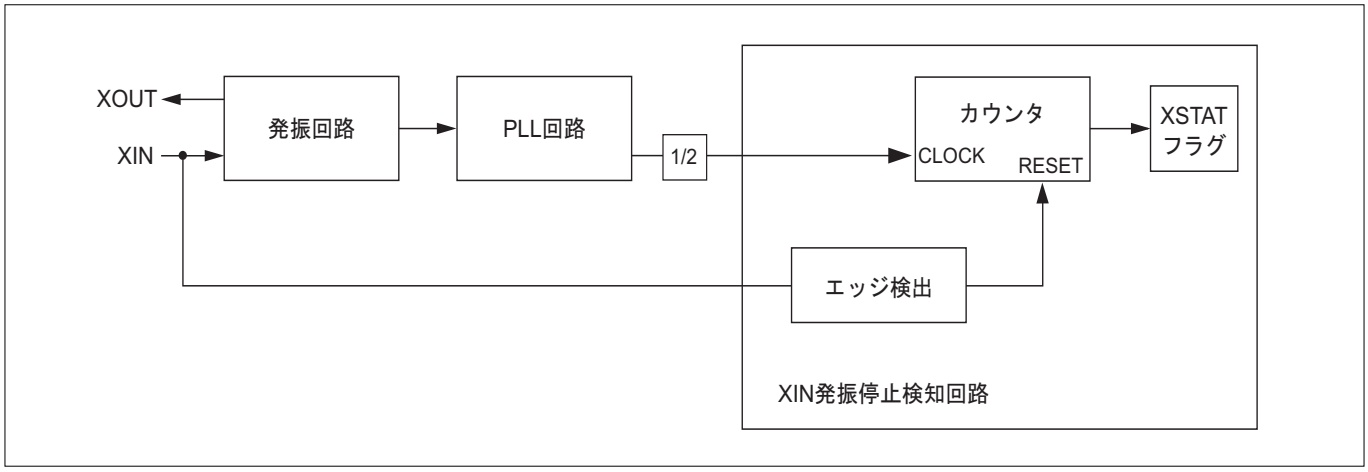


図18.1.2　XIN発振停止検知回路ブロック図

ポート入力特別機能制御レジスタ（PICNT）　　**＜アドレス：**H'0080 0745**＞**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
			XSTAT			PISEL	PIEN0
0	0	0	0	0	0	0	0

＜リセット解除時：H'00**＞**

b	ビット名	機能	R	W
8〜10	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
11	XSTAT XIN**発振状態ビット**	0：XIN**は発振状態** 1：XIN**は停止状態**	R（**注**1）	
12〜13	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
14	PISEL **ポート入力データ選択ビット**	0：**ポート出力ラッチの内容** 1：**ポート端子レベル**	R	W
15	PIEN0 **ポート入力許可ビット**	0：**入力禁止** 1：**入力許可**	R	W

注1．書き込みは"0"**のみ有効。**"1"**を書き込んだ場合は書き込み前の値を保持。**

ポート入力データ選択ビット（PISEL）、およびポート入力許可ビット（PIEN0）の動作については、「8.3.5 ポート入力特別機能制御レジスタ」を参照してください。

(1) XSTAT(XIN**発振状態)ビット**（b11)

1) XSTAT**が**"1"**となる条件**

XSTATはXINの発振が停止したことを検知して、"1"にセットされます。XINが一定時間(最大4BCLK、最小3BCLK)以上同一レベルを保持したときを発振停止とみなします。なお、通常動作時においてXINは1BCLK間に1回の割合で変化します。

2) XSTAT**が**"0"**となる条件**

システムリセット、またはXSTATへの"0"書き込みにより"0"にクリアされます。上記(1)による"1"セットと、"0"書き込みが競合したときは、"0"書き込みによるクリアが優先されます。なおXSTATへの"1"書き込みは無視されます。

3) XSTAT**を使用した**XIN**発振停止検出方法**

M32R/ECUはPLLを内蔵しているため、XINの発振が停止していても内部クロックは停止しません。

リセット解除後、一度もXSTATをクリアすることなしにXSTATをリードすれば、リセット解除から現在までにXINが停止したことがあるかどうかを知ることができます。また、XSTATへ0を書き込んでからリードすれば、現時点でのXINの発振状態を知ることができます(ただし、ライトとリードの間は10BCLK(20CPUクロック)以上空けてください)。

XSTATビットが"1"にセットされた時の処理については、XSTATビットをいったんクリアした後に再チェックする等、十分注意してご使用ください。

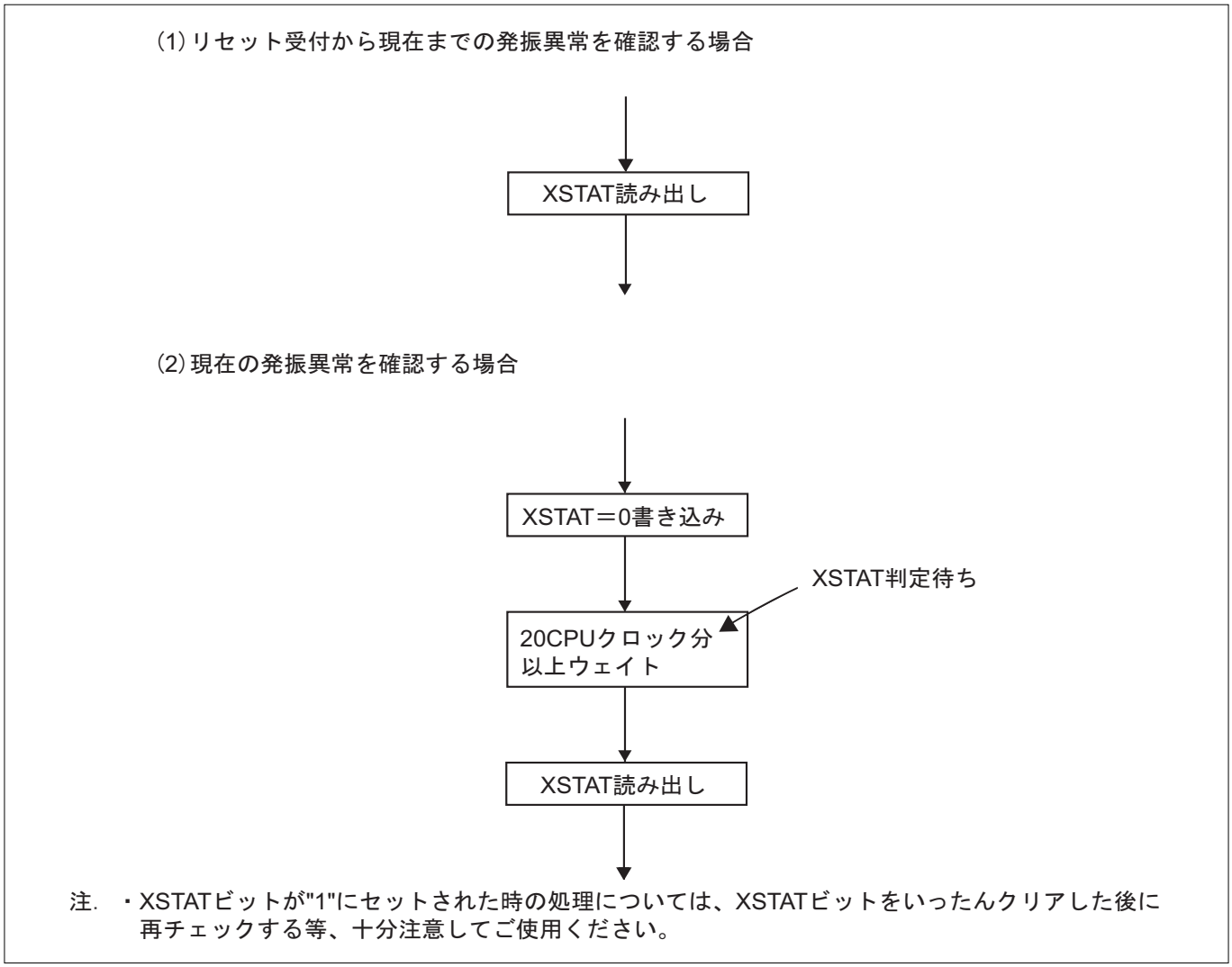


図18.1.3　XSTAT**設定手順**

18.1.3　発振駆動能力選択機能

発振駆動能力を4段階内蔵しています。

発振回路の発振が安定した後は、XIN-XOUT駆動能力を弱めることができます。駆動能力を弱めると、消費電力は低減します。

クロック制御レジスタ（CLKCR）　　**＜アドレス：**H'0080 0786**＞**

b0	1	2	3	4	5	6	b7
					XDRVP	XDRV	
0	0	0	0	0	0	1	1

＜リセット解除時：H'03**＞**

b	ビット名	機能	R	W
0〜4	**何も配置されていません。**"0"**に固定してください。**		0	0
5	XDRVP XDRV**書き込み制御ビット**		0	W
6〜7	XDRV XIN-XOUT**駆動能力選択ビット**	XIN-XOUT**駆動能力（能力比）** 00：　**低**　0.25 01：　↑　0.50 10：　↓　0.75 11：　**高**　1.00	R	W

（1） XDRV**書き込み制御（**XDRVP**）（**b5**）**

XIN-XOUT駆動能力選択ビットの書き込み制御ビットです。

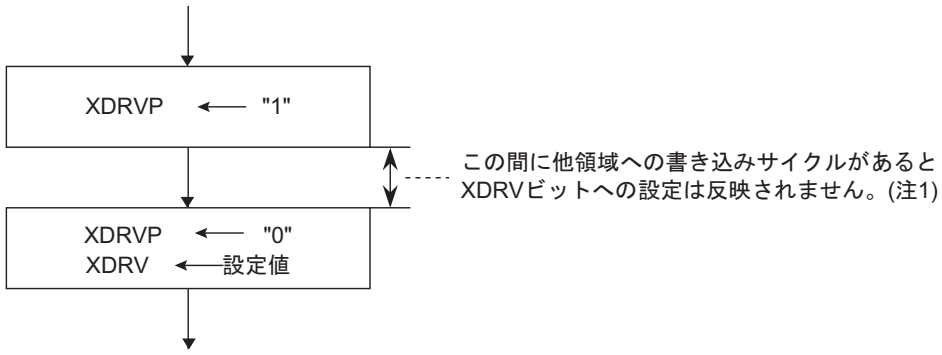
（2） XIN-XOUT**駆動能力選択ビット（**b6, b7**）**

以下にこのビットへの書き込み方法を示します。

1. 書込み制御ビット（XDRVP）に"1"を書き込む。
2. 上記1. に連続して書込み制御ビット（XDRVP）に"0"を、XIN-XOUT駆動能力選択ビットに"設定内容"を書き込む。

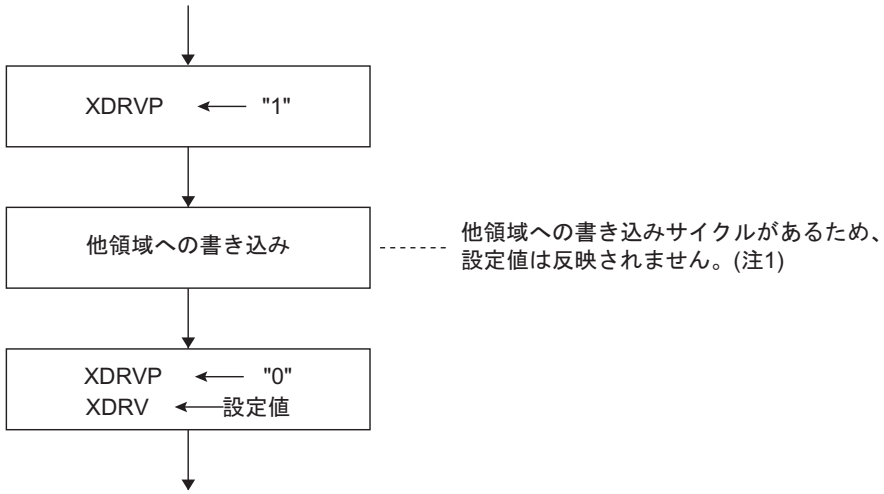
注．・1．と2．の間に他の領域への書き込みサイクルがあるとXDRVへの書き込みは無効になり、書き込み値は反映されません。割り込み、DMA転送を禁止状態にして設定してください。また、書き込み動作は、2回連続が1組となります。

■ 正しい設定例

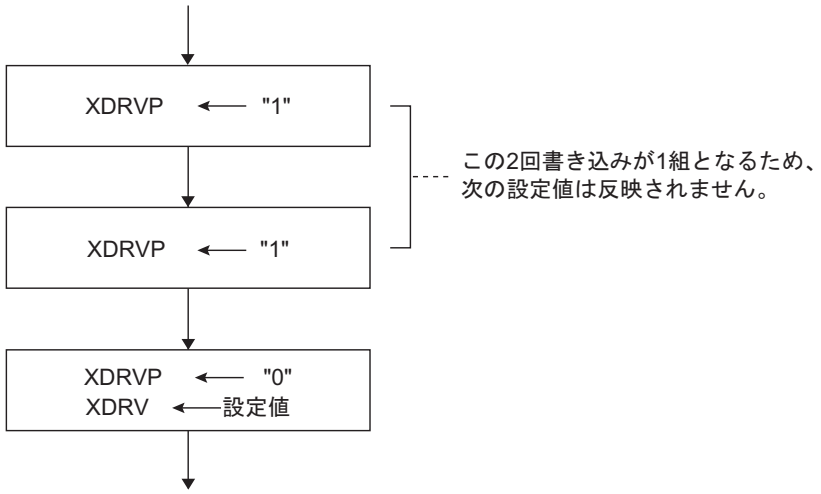


■ 設定無効となる場合

(1)



(2)



注1. 他領域への書き込みサイクルとは、CPU、DMA、SDI（ツール）から任意の領域への書き込みサイクルを示します。RTDからの書き込みサイクルには影響しません。

図18.1.4　**発振駆動能力選択の手順**

18.1.4　システムクロックの出力機能

入力クロックの2倍の周波数のクロック(周辺クロック)をBCLK端子から出力させることができます。BCLK端子はポートP70と共用しています。周辺クロックを出力させる場合は、P7動作モードレジスタ(P7MOD)のb8を"1"にしてください。

下記にP7動作モードレジスタの構成を示します。

P7動作モードレジスタ(P7MOD)　　**<アドレス：H'0080 0747>**

b8	9	10	11	12	13	14	b15
P70MD	P71MD	P72MD	P73MD	P74MD	P75MD	P76MD	P77MD
0	0	0	0	0	0	0	0

<リセット解除時：H'00>

b	ビット名	機能	R	W
8	P70MD **ポートP70動作モードビット**	0：P70 1：BCLK	R	W
9	P71MD **ポートP71動作モードビット**	0：P71 1：WAIT#	R	W
10	P72MD **ポートP72動作モードビット**	0：P72 1：HREQ#	R	W
11	P73MD **ポートP73動作モードビット**	0：P73 1：HACK#	R	W
12	P74MD **ポートP74動作モードビット**	0：P74 1：RTDTXD	R	W
13	P75MD **ポートP75動作モードビット**	0：P75 1：RTDRXD	R	W
14	P76MD **ポートP76動作モードビット**	0：P76 1：RTDACK	R	W
15	P77MD **ポートP77動作モードビット**	0：P77 1：RTDCLK	R	W

18.1.5　電源投入時の発振安定時間

セラミック共振子(または水晶発振子)を使用した発振回路では、電源投入後に発振が安定しない期間があります。このため、使用する発振回路条件に適応した発振安定時間を生成してください。

図18.1.5に電源投入時の発振安定時間を示します。

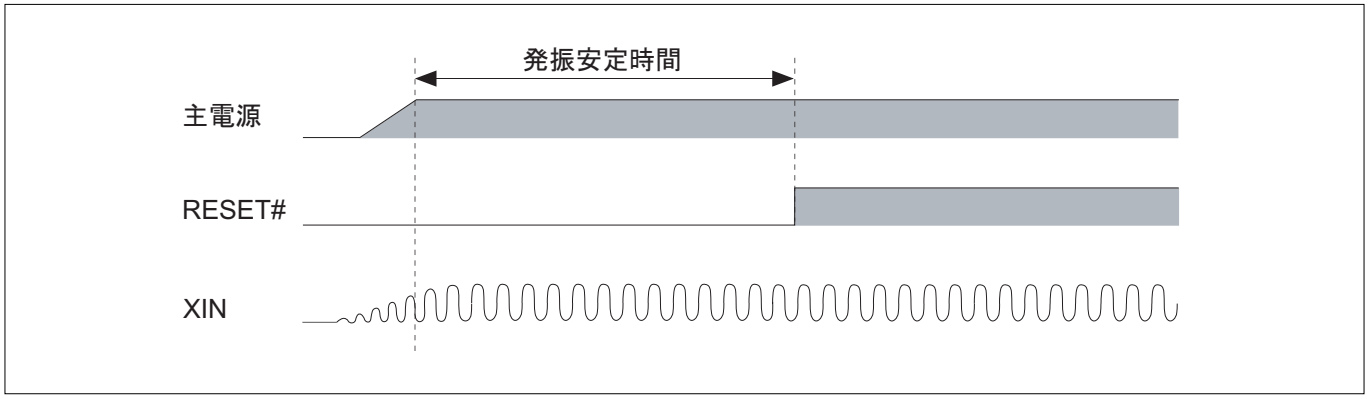


図18.1.5　電源投入時の発振安定時間

18.2　クロック発生回路

CPUおよび周辺回路にそれぞれ独立したクロックを供給します。

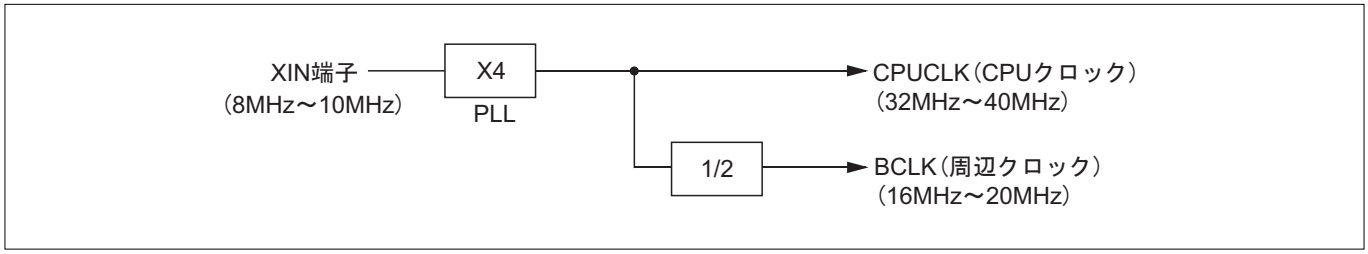


図18.2.1　**クロック概念図**

第19章

JTAG

19.1　JTAG概要
19.2　JTAG回路構成
19.3　JTAGレジスタ
19.4　JTAG基本動作
19.5　バウンダリスキャン記述言語
19.6　JTAG接続時のボード設計注意事項
19.7　JTAG未使用時の端子処理

19.1　JTAG概要

M32R/ECUは、IEEE 1149.1テストアクセスポート規格(IEEE Standard Test Access Port and Boundary-Scan Architecture(IEEE Std. 1149.1a-1993))に準拠したJTAG(Joint Test Action Group)インタフェースを備えています。

このJTAGインタフェースは、バウンダリスキャンテストのための入出力パス(バウンダリスキャンパス)として使用できます。IEEE 1149.1　JTAGテストアクセスポートの詳細については、「IEEE Std. 1149.1a-1993」の文書を参照してください。

注．・M32R/ECUでは、JTAGインタフェースはデバッグ時にJTAGエミュレータとの接続にも使用します。本章では、主にJTAGインタフェースをバウンダリスキャンテストのための入出力パスとして使用する場合について説明します。

M32R/ECUに実装されているJTAGインタフェース関連端子の機能を、以下に示します。

表19.1.1　JTAG端子機能

種類	端子名	名称	入出力	機能
TAP (注1)	JTCK	テスト クロック	入力	テスト回路へのクロック入力です。
	JTDI	テストデータ入力	入力	テスト命令コード、テストデータを入力する同期シリアルデータ入力端子です。JTCKの立ち上がりでサンプリングされます。
	JTDO	テストデータ出力	出力	テスト命令コード、テストデータを出力する同期シリアルデータ出力端子です。JTCKの立ち下がりで変化、「Shift-IR」もしくは「Shift-DR」状態のときにのみ出力されます。それ以外の状態の時はハイインピーダンス状態になります。
	JTMS	テストモードセレクト	入力	テスト回路の状態遷移を制御するテストモード選択入力です。JTCKの立ち上がりでサンプリングされます。
	JTRST	テスト リセット	入力	テスト回路を非同期に初期化する"L"アクティブのテストリセット入力です。リセット動作を保証するため、この信号が"L"から"H"に変化するときにはJTMS信号入力を"H"に保つ必要があります。

注1．TAP：Test Access Port(IEEE 1149.1に規定されたJTAGインタフェース)

19.2　JTAG回路構成

JTAG回路は、以下のブロックから構成されます。

- **バウンダリスキャンパスを通してフェッチされる命令コードを保持する命令レジスタ**
- **バウンダリスキャンパスを通してアクセスされるデータレジスタ群**
- **JTAG部の状態遷移を制御するテストアクセスポート（以下TAPと略）コントローラ**
- **入力選択、出力選択等の制御ロジック**

JTAG回路構成を以下に示します。

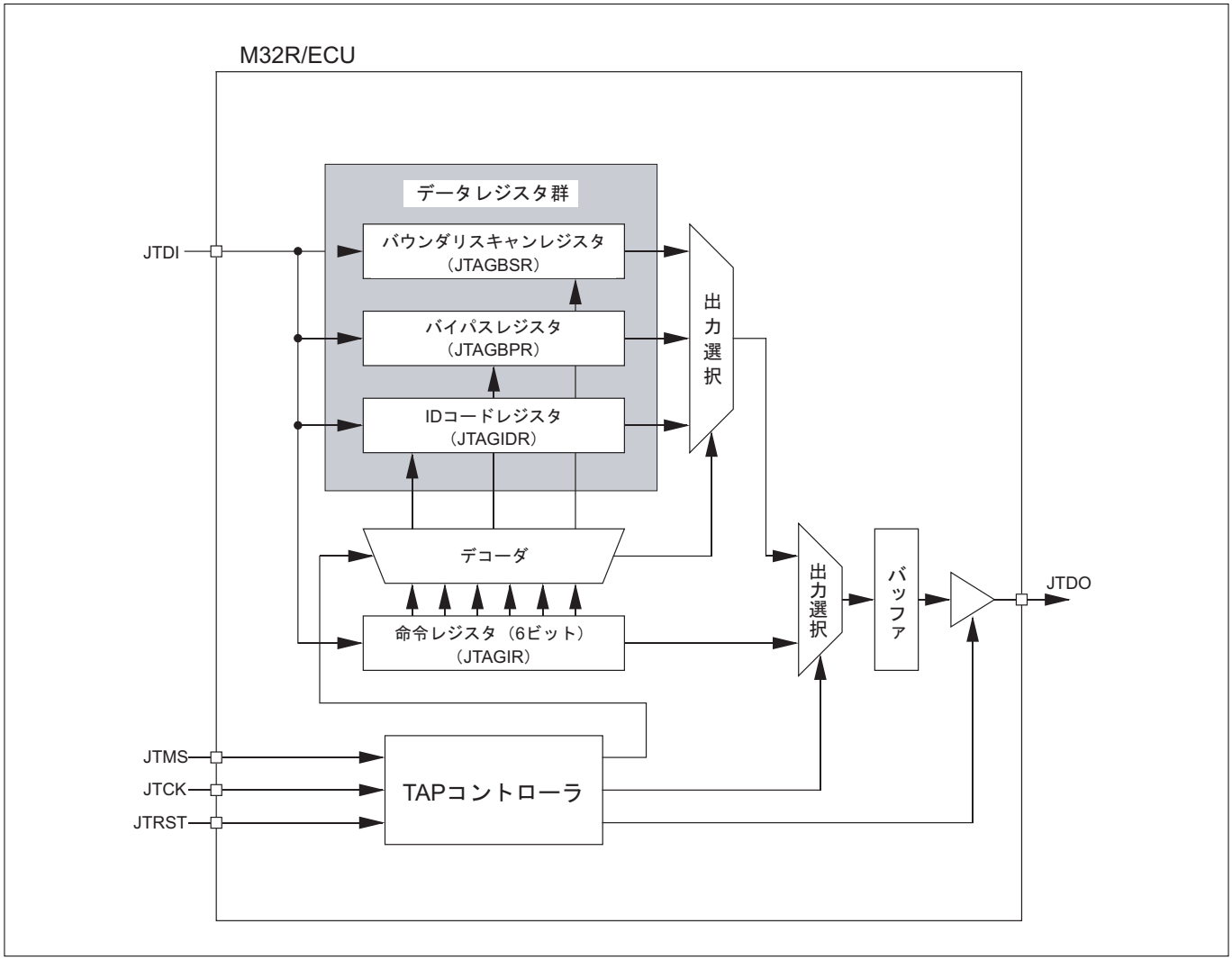


図19.2.1　JTAG回路構成

19.3 JTAGレジスタ

19.3.1 命令レジスタ(JTAGIR)

命令レジスタは、命令コードを保持する6ビットのレジスタであり、IRパスシーケンスで設定します。命令レジスタに設定された命令によって、続くDRパスシーケンスで選択するデータレジスタが決定されます。

テストリセット解除時(テスト回路の初期化)の初期値はb'000010(IDCODE命令)です。テストリセット後は、外部から命令コードが設定されるまでデータレジスタとしてIDCODEレジスタが選択されています。
「Capture-IR」状態では必ずb'110001(固定値)がロードされます。このため、本レジスタに設定した値にかかわらず、「Shift-IR」状態では必ずb'110001が(LSB側から順に)JTDO端子から出力されます。ただし、通常はこの値が命令コードとして扱われることはありません。

以下の操作は動作保証対象外です。以下の操作を行うと、例外的にb'110001を命令コードとして扱おうとするため、正常動作できなくなりますのでご注意ください。

「Capture-IR」 → 「Exit1-IR」 → 「Update-IR」

M32R/ECUのJTAGインタフェースでは、以下の命令をサポートしています。

- IEEE 1149.1で必須として定められた3命令(EXTEST, SAMPLE/PRELOAD, BYPASS)
- デバイス識別レジスタアクセス命令(IDCODE)

表19.3.1 JTAG命令一覧

命令コード	命令略称	動作
b'000000	EXTEST	チップ外の回路/基板レベルの接続テストを行います。
b'000001	SAMPLE/PRELOAD	動作中の回路の状態をサンプリングし、JTDO端子から出力すると同時に、次のバウンダリスキャンテストで使用されるデータをJTDI端子から入力し、事前に「バウンダリスキャンレジスタ」に設定します。
b'000010	IDCODE	「IDコードレジスタ」を選択し、デバイスおよびメーカ識別データをJTDO端子から出力します。
b'111111	BYPASS	「バイパスレジスタ」を選択し、データの参照/設定を行います。

注. ・上記以外の命令コードは、設定しないでください。
・「IRパスシーケンス」、「DRパスシーケンス」、「テストリセット」、「Capture-IR」状態、「Shift-IR」状態、「Exit1-IR」状態「Update-IR」状態については、「19.4 JTAG基本動作」を参照してください。

19.3.2 データレジスタ

(1) バウンダリスキャンレジスタ(JTAGBSR)

バウンダリスキャンレジスタは、バウンダリスキャンテストを行うための475ビットのレジスタで、各端子ごとに割り当てられています。

このレジスタは、JTDI/JTDO端子間に接続されており、「EXTEST命令」および「SAMPLE/PRELOAD命令」発行時に選択されます。「Capture-DR」状態で入力端子または内部ロジック出力値の状態をキャプチャします。「Shift-DR」状態では、サンプリングした値を出力するのと並行して、バウンダリスキャンテスト用データを入力し、端子機能(入出力端子、3ステート出力端子の方向)および出力値を設定します。

(2) バイパスレジスタ(JTAGBPR)

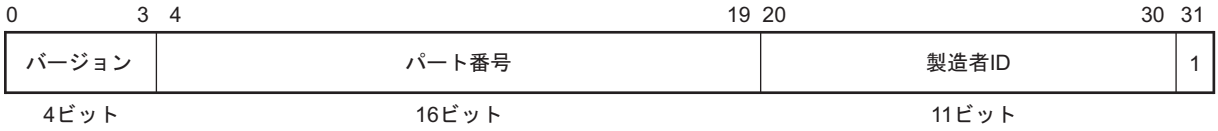
バイパスレジスタは、バウンダリスキャンテストにおいて、その対象とならないときに、バウンダリスキャンパスをバイパスするための1ビットのレジスタです。
JTDI/JTDO端子間に接続されており、「BYPASS命令」発行時に選択されます。本レジスタは、「Capture-DR」状態でb'0(固定値)がロードされます。

(3) IDコードレジスタ(JTAGIDR)

IDコードレジスタは、デバイスおよびメーカを識別するための32ビットのレジスタであり、以下の情報を保持しています。

- **バージョン情報(4ビット)** ：b'0000
- **パート番号(16ビット)** ：b'0011 0010 0010 0100
- **製造者ID(11ビット)** ：b'000 0001 1100

このレジスタは、JTDI/JTDO端子間に接続されており、「IDCODE命令」発行時に選択されます。「Capture-DR」状態で上記IDCODEデータをロードし、「Shift-DR」状態でJTDO端子から出力します。
本レジスタは読み出しのみ可能です。DRパスシーケンスにおけるJTDI端子からの書き込みデータは無視されますので、「Shift-DR」状態中はJTDI端子へは"L"レベルを入力してください。



注．・「Capture-DR」状態、「Shift-DR」状態については「19.4 JTAG基本動作」を参照してください。

19.4　JTAG基本動作

19.4.1　JTAG動作概要

命令レジスタおよびデータレジスタに対する基本的なアクセスには以下の3動作があり、TAPコントローラの状態遷移にもとづいて行われます。TAPコントローラは、JTMS入力によって状態遷移を行い、それぞれの状態における動作に必要な制御信号を生成し供給します。

- **キャプチャ（Capture）動作**

  バウンダリスキャンテストの結果、またはレジスタごとに定義された固定データをサンプリングします。レジスタの動作としては、データ入力をシフトレジスタステージへロードします。

- **シフト（Shift）動作**

  バウンダリスキャンパスを通して外部からアクセスを行います。外部からのデータ設定を行うと同時に、キャプチャ時にサンプリングした値を外部に出力します。レジスタの動作としては、各ビットのシフトレジスタステージ間で右シフト動作を行います。

- **アップデート（Update）動作**

  シフト時に外部から設定したデータをドライブします。レジスタの動作としては、シフトレジスタステージに設定した値をパラレル出力ステージへ転送します。

JTAGインタフェースは、JTMS入力にしたがって内部状態を遷移し、以下の2つの動作を行います。いずれの場合も基本的に「キャプチャ→シフト→アップデート」の順で行われます。

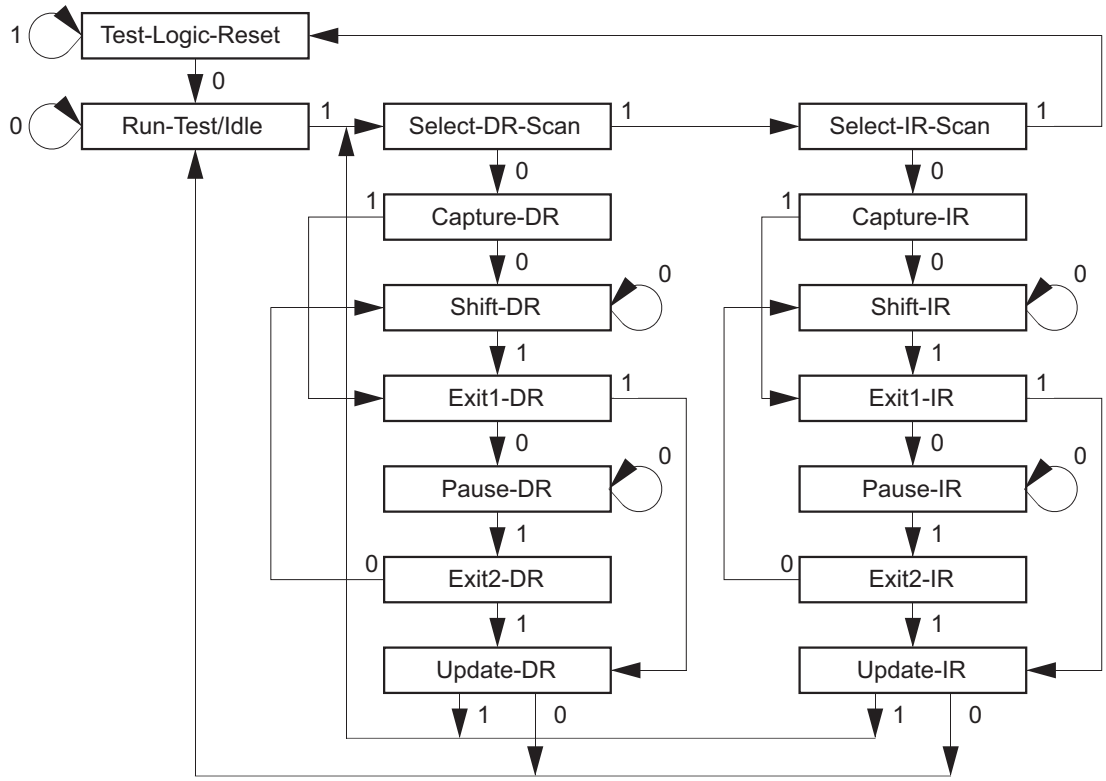
- **IRパスシーケンス**

  命令コードを命令レジスタに設定して、続くDRパスシーケンスで操作の対象となるデータレジスタを選択します。

- **DRパスシーケンス**

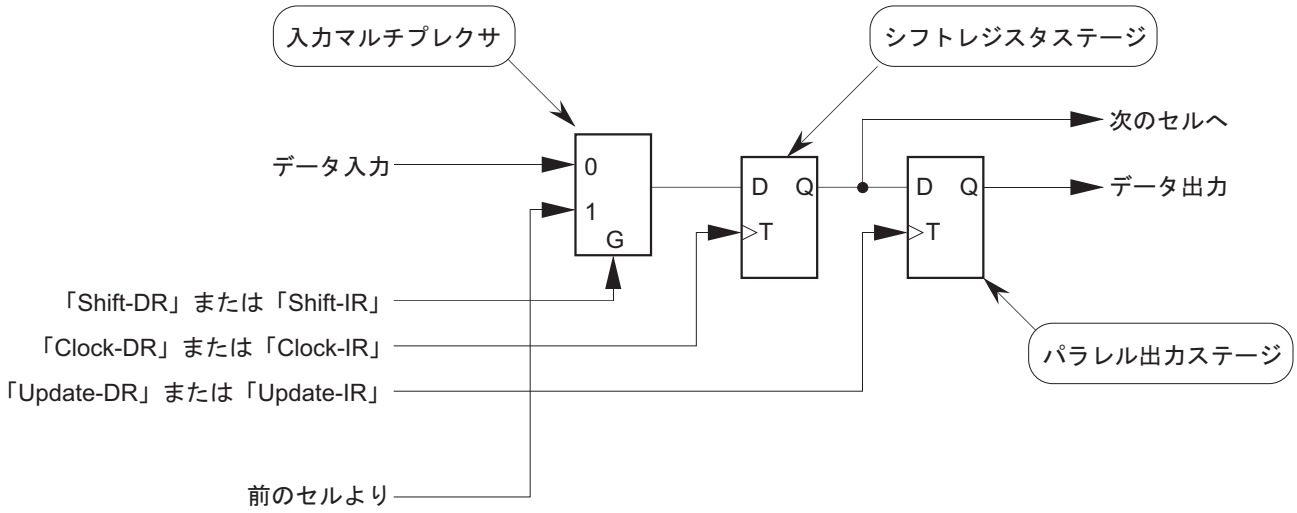
  選択されたデータレジスタに対して、データの参照や設定を行います。

TAPコントローラの状態遷移、およびJTAG関連レジスタの基本構成を以下に示します。



注. ・図中の数値(0および1)は、JTMS入力信号状態を表わします。

図19.4.1 TAP**コントローラの状態遷移**



注. ・本図は基本構成であり、すべてのDR、IRが本図と同じ構成になっているとは限りません。

図19.4.2 JTAG**関連レジスタの基本構成**

19.4.2　IRパスシーケンス

命令レジスタ(JTAGIR)に命令コードを設定し、続くDRパスシーケンスでアクセス対象となるデータレジスタを選択します。IRパスシーケンスは、以下の手順で行います。

(1)「Run-Test/Idle」状態からJTMS＝"H"をJTCKの2サイクル期間入力し、「Select-IR-Scan」状態に移行します。

(2) JTMS＝"L"にして「Capture-IR」状態に移行します。このとき、b'110001(固定値)が命令レジスタのシフトレジスタステージに設定されます。

(3) 続けてJTMS＝"L"を入力すると「Shift-IR」状態に移行します。
「Shift-IR」状態では、各サイクルごとにシフトレジスタステージの値が1ビット右シフトされ、(2)で設定されたb'110001(固定値)がJTDO端子からシリアルに出力されます。同時にJTDI端子からシリアルに入力される命令コードがシフトレジスタステージに設定されていきます。6ビット構成の命令レジスタのシフトレジスタステージに命令コードを設定するため、「Shift-IR」状態はJTCKの6サイクル期間続けます。
シフト動作を中断したい場合は、一旦「Exit1-IR」状態を経由して「Pause-IR」状態へ移行します(JTMS＝"H"→"L"を入力)。また「Pause-IR」状態から復帰する場合は、一旦「Exit2-IR」状態を経由して「Shift-IR」状態へ移行します(JTMS＝"H"→"L"を入力)。

(4) JTMS＝"H"にして「Shift-IR」状態から「Exit1-IR」状態に移行します。これでシフト動作完了です。

(5) 続けてJTMS＝"H"を入力すると「Update-IR」状態に移行します。「Update-IR」状態では、命令レジスタのシフトレジスタステージに設定された命令コードが、命令レジスタのパラレル出力ステージに転送され、JTAG命令のデコードが開始されます。

(6) 続けてJTMS＝"H"を入力すると「Select-DR-Scan」状態に、JTMS＝"L"を入力すると「Run-Test/Idle」状態に移行します。

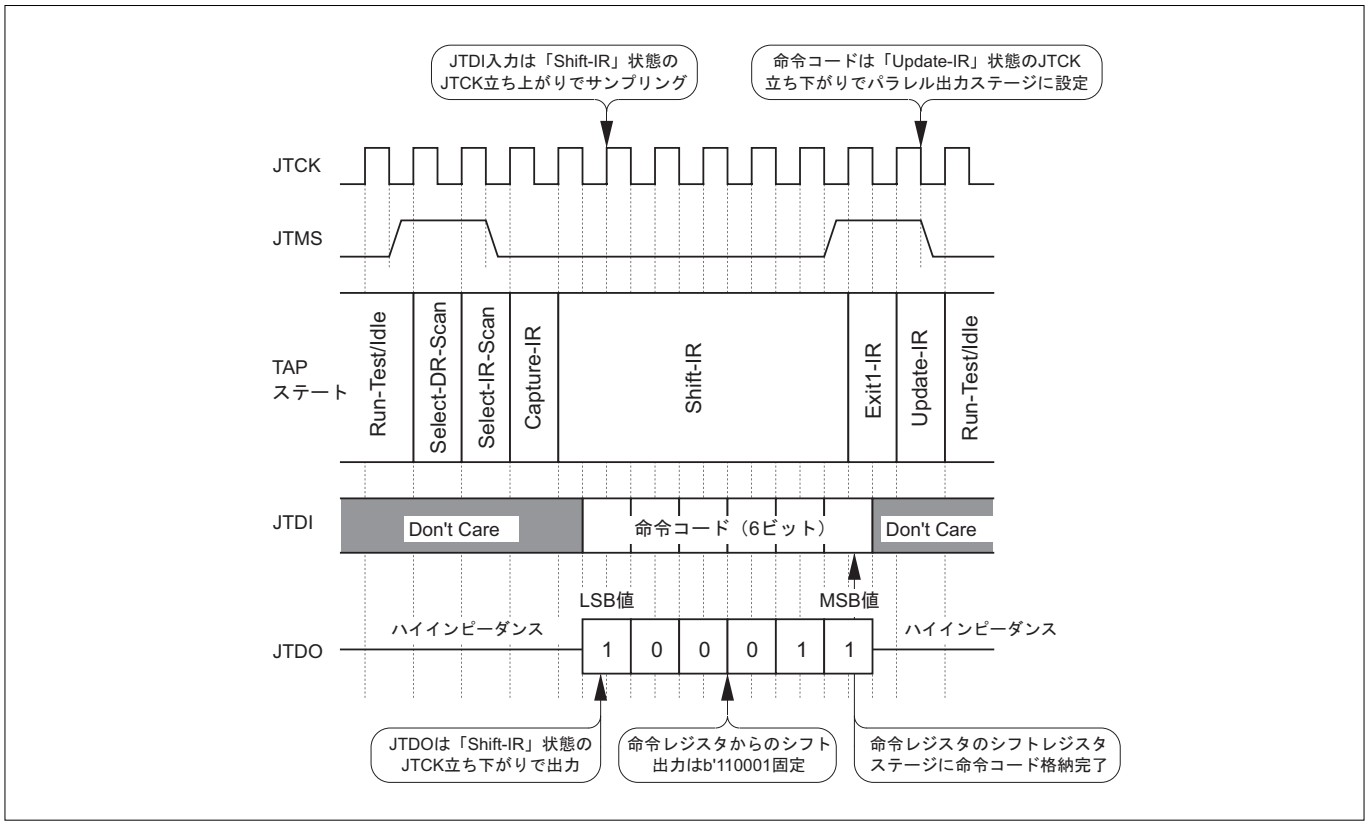


図19.4.3　IR**パスシーケンス**

19.4.3　DRパスシーケンス

DRパスシーケンスの前に行われたIRパスシーケンスで選択されたデータレジスタに対し、データの参照および設定を行います。DRパスシーケンスは、以下の手順で行います。

(1)「Run-Test/Idle」状態からJTMS＝"H"をJTCKの1サイクル期間入力し、「Select-DR-Scan」状態に移行します。このとき、どのデータレジスタが選択されるかは、DRパスシーケンスの前に行われたIRパスシーケンスで設定された命令によって決まります。

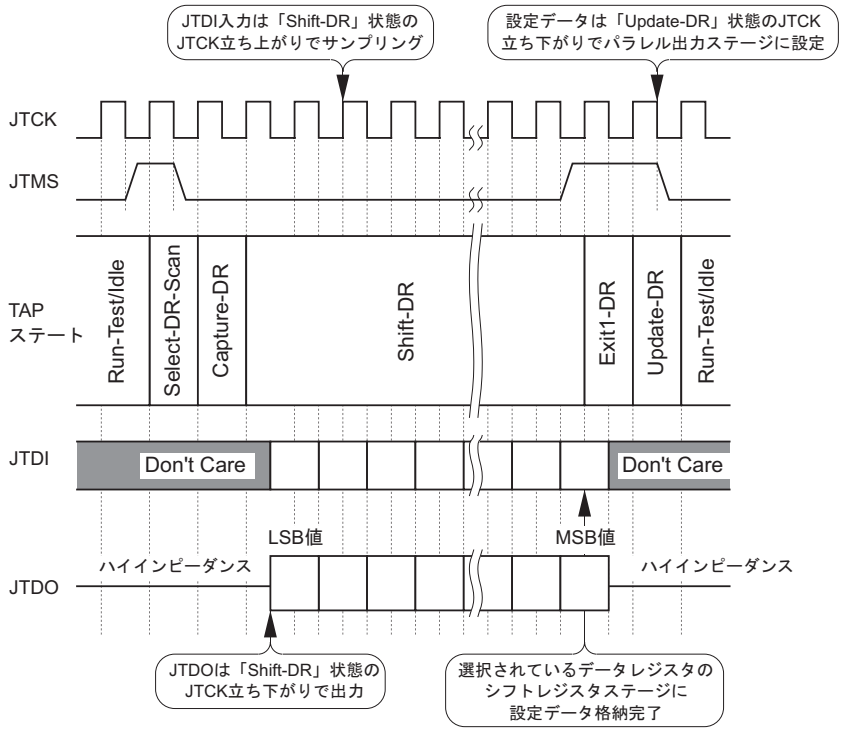
(2) JTMS＝"L"にして「Capture-DR」状態に移行します。このとき、データレジスタのシフトレジスタステージに、バウンダリスキャンテストの結果またはレジスタごとに定義された固定データが設定されます。

(3) 続けてJTMS＝"L"を入力すると「Shift-DR」状態に移行します。「Shift-DR」状態では、各サイクルごとにDRの値が1ビット右シフトされ、(2)で設定されたデータがJTDO端子からシリアルに出力されます。同時にJTDI端子からシリアルに入力される設定データがデータレジスタのシフトレジスタステージに設定されていきます。「Shift-IR」状態を選択したデータレジスタのビット数分続ける(JTMS＝"L"を入力する)ことで、シフトレジスタステージ全ビットのデータを設定および読み出すことができます。シフト動作を中断したい場合は、一旦「Exit1-DR」状態を経由して「Pause-DR」状態へ移行します(JTMS＝"H"→"L"を入力)。また「Pause-DR」状態から復帰する場合は、一旦「Exit2-DR」状態を経由して「Shift-DR」状態へ移行します(JTMS＝"H"→"L"を入力)。

(4) JTMS＝"H"にして「Shift-DR」状態から「Exit1-DR」状態に移行します。これでシフト動作完了です。

(5) 続けてJTMS＝"H"を入力すると「Update-DR」状態に移行します。「Update-DR」状態では、データレジスタのシフトレジスタステージに設定されたデータがパラレル出力ステージに転送され、設定データが使用可能になります。

(6) 続けてJTMS＝"H"を入力すると「Select-DR-Scan」状態に、JTMS＝"L"を入力すると「Run-Test/Idle」状態に移行します。



注.　・データレジスタのシフトレジスタステージに対するシフト動作も全て右シフトで行われるため、
JTDOからの出力はLSB側から出力されます。また、JTDIへの入力はLSB側に設定する値から始めます。

図19.4.4　DR**パスシーケンス**

19.4.4 データレジスタの参照および設定

データレジスタを参照/設定する場合は、以下の手順で行います。

(1) 最初にテストアクセスポート(JTAG)をアクセスする場合は、テストリセット(テスト回路の初期化)を行います。テストリセットを行うには以下の2つの方法があります。

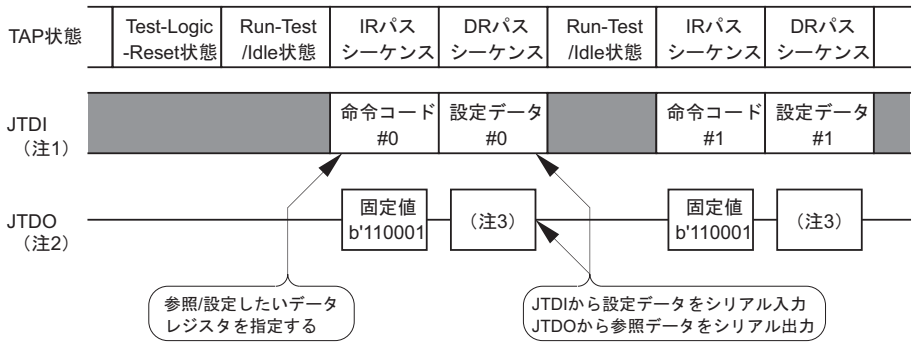
- JTRST端子に"L"を入力する
- JTMS端子を"H"にして5サイクル以上JTCKを入力する

(2) JTMS="L"にして「Run-Test/Idle」状態に移行します。アイドル状態を続ける場合は、JTMS="L"を入力し続けます。

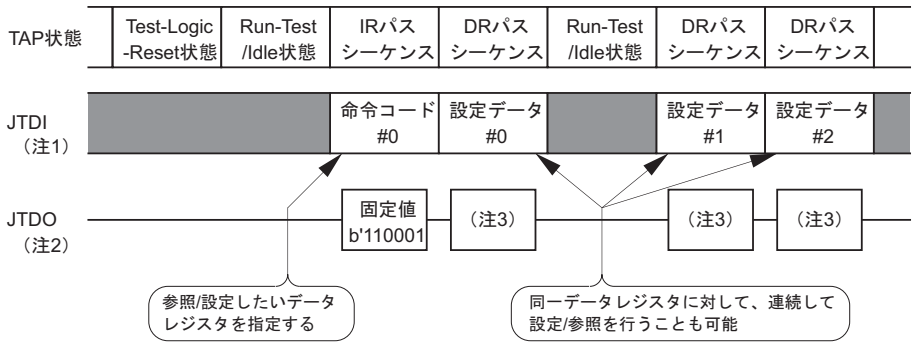
(3) JTMS="H"にして「Run-Test/Idle」状態を抜け、IRパスシーケンスを行います。IRパスシーケンスでは参照/設定したいデータレジスタを指定します。

(4) 続いてDRパスシーケンスを行います。IRパスシーケンスで指定したデータレジスタに対し、JTDI端子から設定データを入力し、JTDO端子から参照データを読み出します。

(5) DRパスシーケンス完了後、続けてIRパスシーケンスやDRパスシーケンスを行う場合は、JTMS="H"を入力して「Select-DR-Scan」状態に戻ります。
一連のIR/DRパスシーケンス処理が完了して次の処理を待つ場合は、JTMS="L"を入力して「Run-Test/Idle」状態に移行し、その状態を保ちます。



(1) 基本的なアクセス



(2) 同一データレジスタへの連続アクセス

注1. 各レジスタへの設定値は、LSB側からJTDI端子へ入力します。
注2. 各レジスタの値は、LSB側からJTDO端子へ出力されます。またJTDO端子は、IRパスシーケンスの「Shift-IR」状態およびDRパスシーケンスの「Shift-DR」状態時のみ有効な値が出力され、それ以外の状態ではハイインピーダンスになります。
注3. 直前のIRパスシーケンスで設定された命令で選択されたデータレジスタからの読み出しです。選択されたデータレジスタのシフトレジスタステージに、「Capture-DR」状態時にサンプリングされた値が出力されます。

図19.4.5 JTAG連続アクセス

19.5 バウンダリスキャン記述言語

バウンダリスキャン記述言語(以下BSDLと略)は、IEEE 1149.1-1990およびIEEE 1149.1a-1993の「Standard Test Access Port and Boundary-Scan Architecture」に対する補足事項の中で述べられています。

BSDLは、IEEE 1076-1993 Standard VHSIC Hardware Description Language(VHDL)のサブセットです。BSDLでは、基準を満たすコンポーネントのテスト対象の機能を厳密に記述することができます。この言語は、パッケージ接続テストではAutomated Test Pattern Generationツールで、Synthesized Test Logic and VerificationではElectronic Design Automationツールで使用されます。BSDLは、内部のTest Generationで使用可能な、またHardware Debug and Diagnostics用のソフトウェアを記述するための強力な拡張機能を規定します。

BSDLのプライマリセクションには、論理ポート記述、物理ピンマップ、命令セット、およびバウンダリレジスタ記述のステートメントがあります。

• 論理ポート記述

論理ポート記述は、チップのピンに対して意味のある記号名を割り当てます。ここで、信号フローの論理方向を定義する各ピンの入力、出力、入出力、バッファ、またはリンクの論理タイプが決まります。

• 物理ピンマップ

物理ピンマップは、チップの論理ポートを各パッケージの物理ピンに関連付けます。各マップを個別の名前にすれば、1つのBSDL記述で複数の物理ピンマップを定義することができます。

• 命令セットステートメント

命令セットステートメントは、チップの命令レジスタにシフトインすべきビットパターンを記述します。このビットパターンは、基準で定義される各テストモードにチップを移行させるために必要です。また、チップ専用の命令を記述することも可能です。

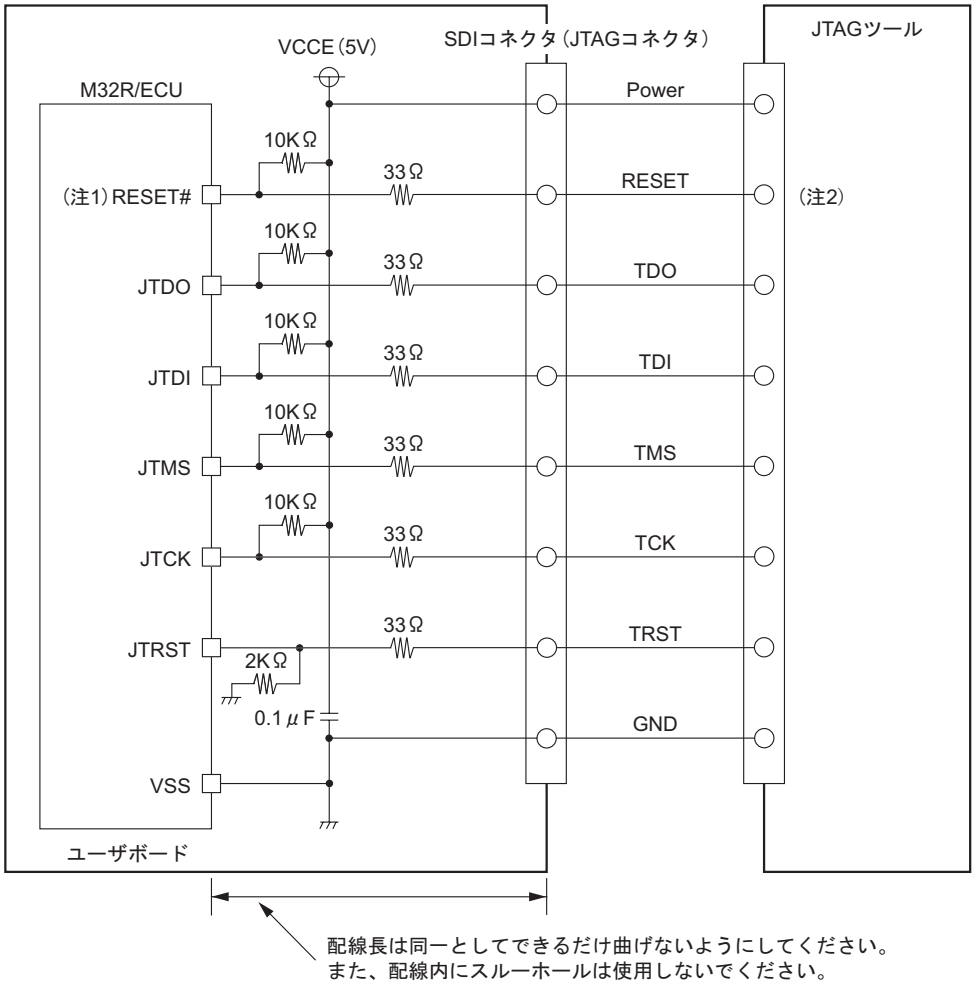
• バウンダリレジスタ記述

バウンダリレジスタ記述は、バウンダリレジスタの各セルまたはシフトステージのリストです。各セルには個別の番号が付きます。番号が0のセルは、テストデータ出力(JTDO)ピンに最も近接するセル、番号が最大のセルはテストデータ入力(JTDI)ピンに最も近接するセルです。セルにはそれ以外の関連情報、つまりセルタイプ、セルに対応する論理ポート、セルの論理機能、安全値、制御セル番号、ディセーブル値、および結果値などの情報も含まれます。

注. • バウンダリスキャン言語(BSDL)につきましては、量産後に「ルネサス テクノロジホームページ」からダウンロードできます。

19.6 JTAG接続時のボード設計注意事項

JTAG端子は、JTAGツールとの高速で高信頼性の通信を実現するため、ボード設計時に配線長マッチングが必要です。

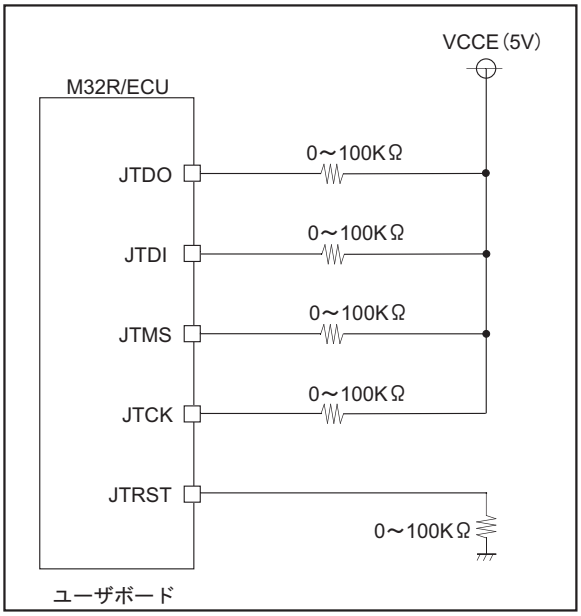


注1. RESET#関連の回路および抵抗定数などは、ユーザボードのシステム設定条件/マイコン動作条件により設定下さい。
注2. JTAGツールのRESET出力は、Nchオープンドレインを推奨しています。詳細は、JTAGツール仕様を確認願います。
注. ・JTRST端子が確実にプルダウンされていれば、JTDO、JTDI、JTMSおよびJTCLKの端子処理は、
プルアップ/プルダウンのどちらでもかまいません。
・JTAGツールを使用しない場合でも、各端子の処理は必ず行ってください。
プルアップ/プルダウンの抵抗値は、JTAGツール使用時と同一でも問題ありません。

図19.6.1 JTAGツール接続時の注意事項

19.7　JTAG未使用時の端子処理

JTAG端子を使用しない場合の端子処理を以下に示します。



注.　・JTRST端子が確実にプルダウンされていれば、JTDO、JTDI、JTMS、およびJTCLKの端子処理は、プルアップ/プルダウンのどちらでもかまいません。

図19.7.1　JTAG**未使用時の端子処理**

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

第20章

電源回路

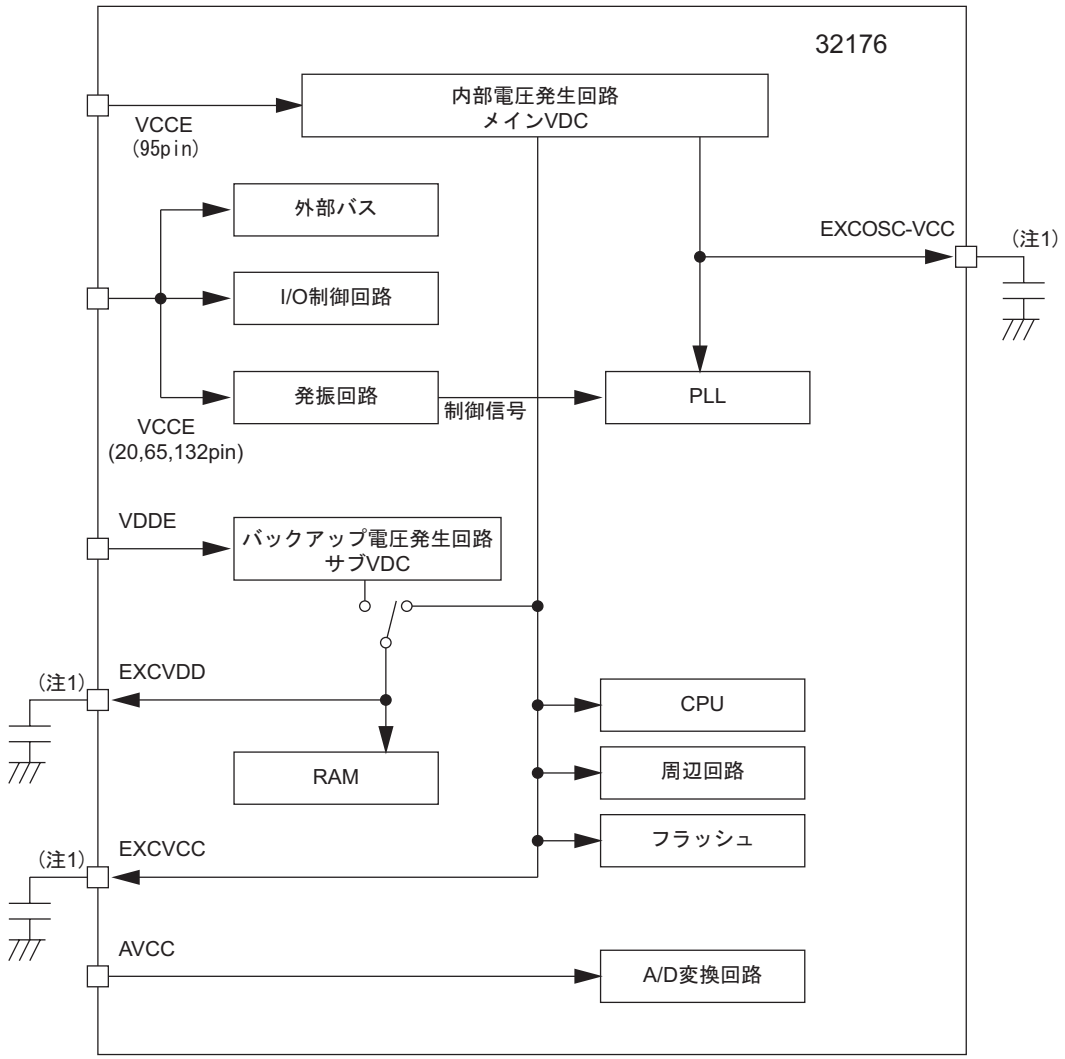
20.1　電源回路の構成
20.2　電源立ち上げシーケンス
20.3　電源立ち下げシーケンス

20.1　電源回路の構成

32176は、5V±0.5Vまたは3.3V±0.3Vの単一電源で動作します。
以下、本章で注釈がない場合5V±0.5Vは5V、3.3V±0.3Vは3.3Vと示します。

表20.1.1　電源機能一覧

電源種別	端子名	機能
5.0Vまたは3.3V	VCCE	主電源
	AVCC0	A/Dコンバータの電源
	VREF0	A/Dコンバータの基準電圧
	VDDE	内部RAMバックアップ用電源
	EXCVCC	外付け容量接続端子
	EXCVDD	外付け容量接続端子
	EXCOSC-VCC	外付け容量接続端子



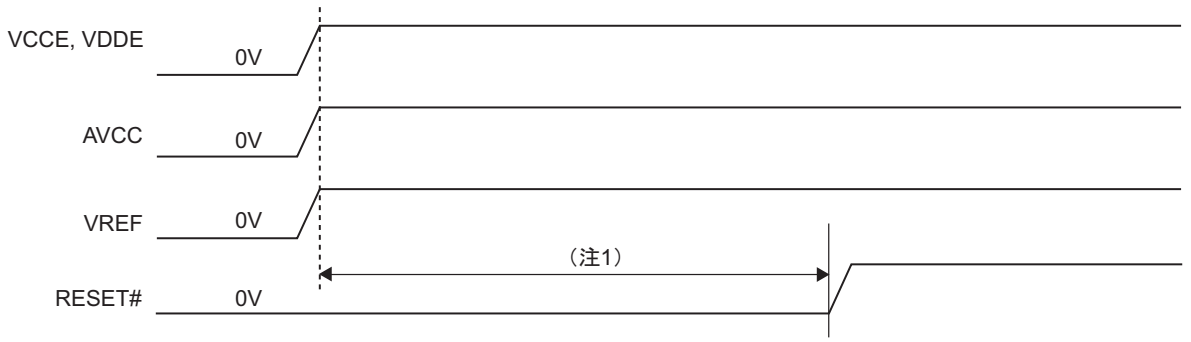
注1. EXCVDD、EXCVCC、EXCOSC-VCC端子には、電源電圧を印加しないでください。
また、電源外付け容量は、「21章 電気的特性」を参照してください。

図20.1.1　電源回路構成図（VCCE＝5.0Vまたは3.3V）

20.2　電源立ち上げシーケンス

20.2.1　RAMバックアップ未使用時の電源立ち上げシーケンス

RAMバックアップ未使用時の電源(5.0Vまたは3.3V)立ち上げシーケンスを以下に示します。



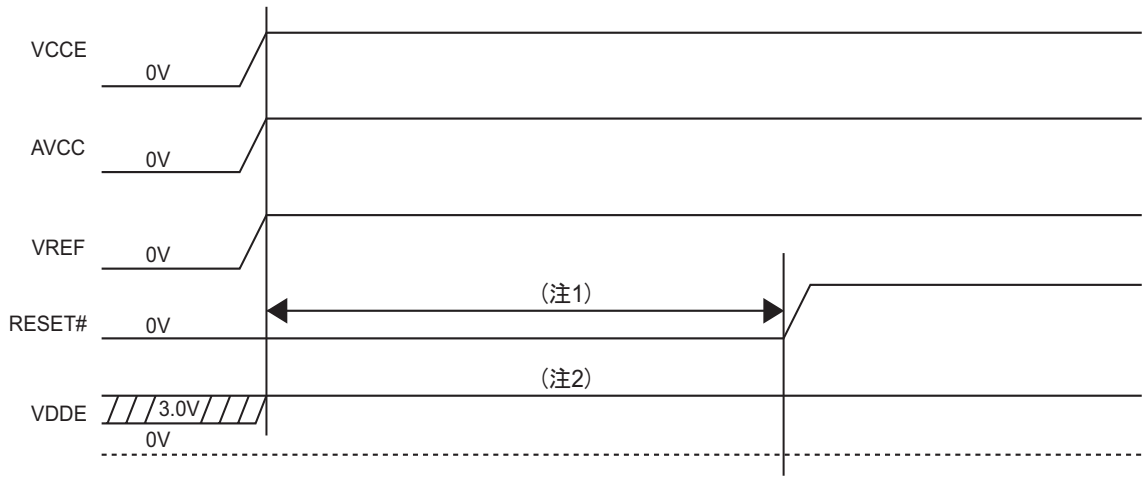
注1.　全電源立ち上げ、RESET#端子へ発振安定時間"L"レベルを保持した後、
RESET#端子へ"H"レベル(リセット解除)を入力する。

注.　・電源立ち上げ時の制約事項
VDDE≧VCCE
ただし、VDDEが3.0V以上の場合は、制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせなくても問題ありません。
・電源立ち上げ時の制約事項(VDDE≧VCEE)を満たせない場合、1V以上の電位差でマイコンに印加されないようにユーザにて十分評価し、システム設計を行ってください。
電位差が0V～0.6V程度では電流の流れ込みはなく、0.6Vを越える辺りから流れ込み電流が増加します。

図20.2.1　RAM**バックアップ未使用時の電源立ち上げシーケンス**

20.2.2　RAMバックアップ使用時の電源立ち上げシーケンス

RAMバックアップ使用時の電源(5.0Vまたは3.3V)立ち上げシーケンスを以下に示します。



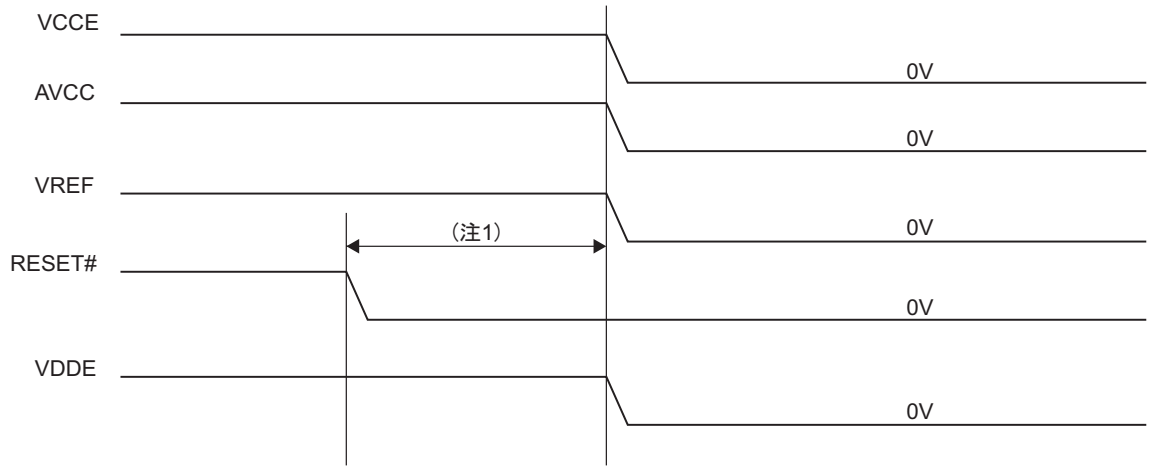
注1. 全電源立ち上げ、RESET#端子へ発振安定時間"L"レベルを保持した後、RESET#端子へ"H"レベル(リセット解除)を入力する。
注2. RAMバックアップ時ですので、VDDEは3.0V以上を前提とします。図内ではVCCEを5Vとして示します。
注. ・電源立ち上げ時の制約事項
VDDE≧VCCE
ただし、VDDEが3.0V以上の場合は、制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせなくても問題ありません。
・電源立ち上げ時の制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせない場合、1V以上の電位差でマイコンに印加されないようにユーザにて十分評価し、システム設計を行ってください。
電位差が0V～0.6V程度では電流の流れ込みはなく、0.6Vを越える辺りから流れ込み電流が増加します。

図20.2.2 RAM**バックアップ使用時の電源立ち上げシーケンス**

20.3　電源立ち下げシーケンス

20.3.1　RAMバックアップ未使用時の電源立ち下げシーケンス

32176でのRAMバックアップ未使用時の電源(5.0Vまたは3.3V)立ち下げシーケンスを以下に示します。

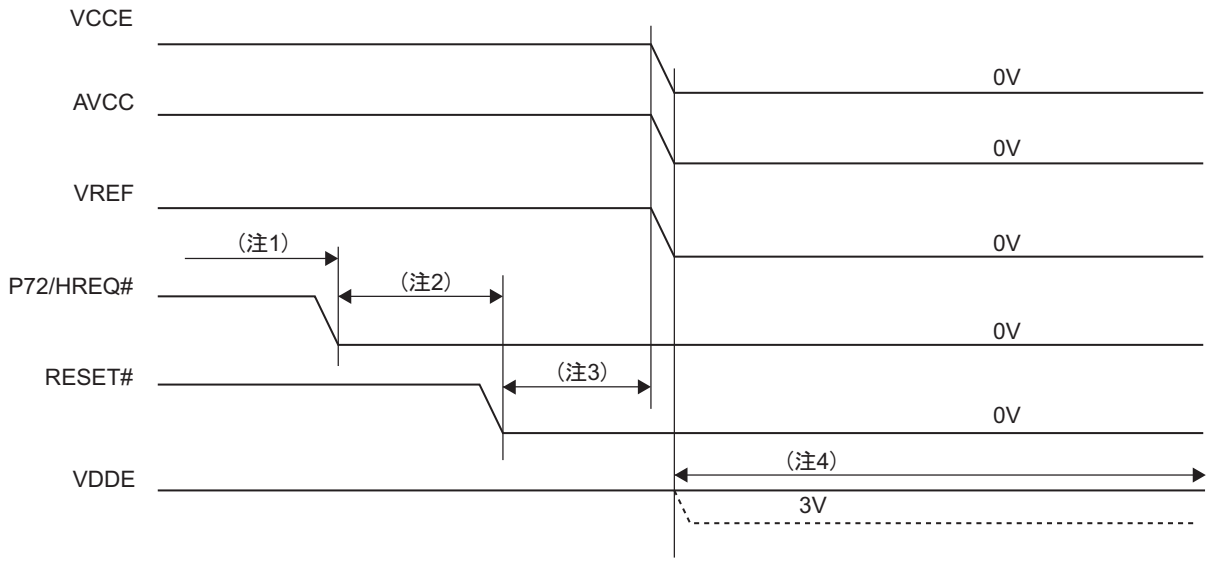


注1.　RESET#端子が"L"レベルになってから電源を立ち下げる。
注.　・電源立ち下げ時の制約事項
　　VDDE≧VCCE
　　ただし、VDDEが3.0V以上の場合は、制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせなくても問題ありません。
　・電源立ち下げ時の制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせない場合、1V以上の電位差でマイコンに印加されないようにユーザにて十分評価し、システム設計を行ってください。
　　電位差が0V～0.6V程度では電流の流れ込みはなく、0.6Vを越える辺りから流れ込み電流が増加します。

図20.3.1　RAM**バックアップ未使用時の電源立ち下げシーケンス**

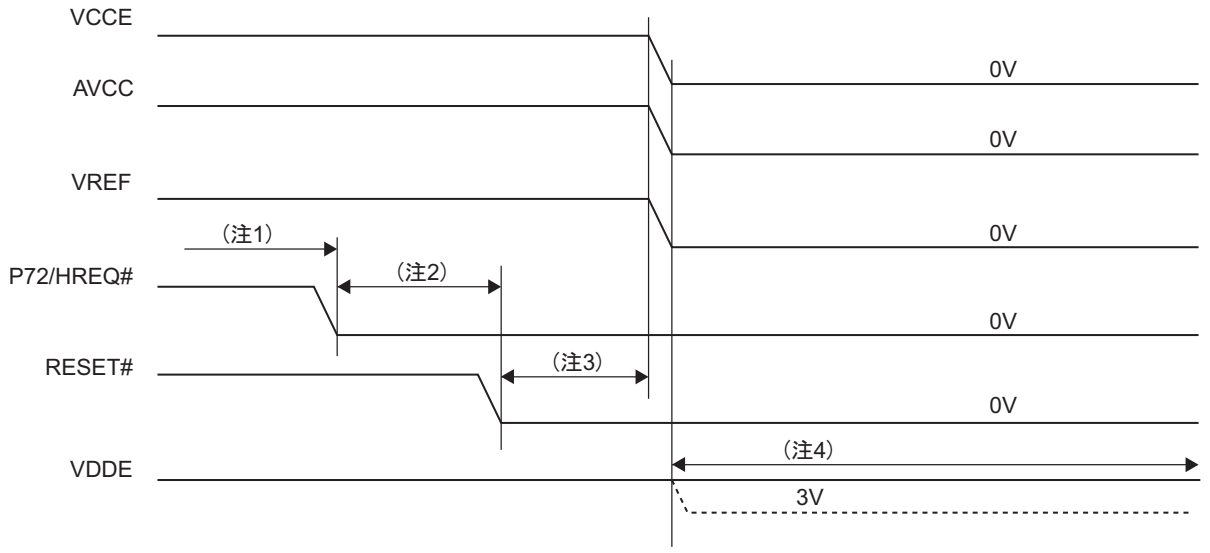
20.3.2　RAMバックアップ使用時の電源立ち下げシーケンス

32176でのHREQ機能を使用したRAMバックアップ使用時の電源(5.0Vまたは3.3V)立ち下げシーケンスを以下に示します。



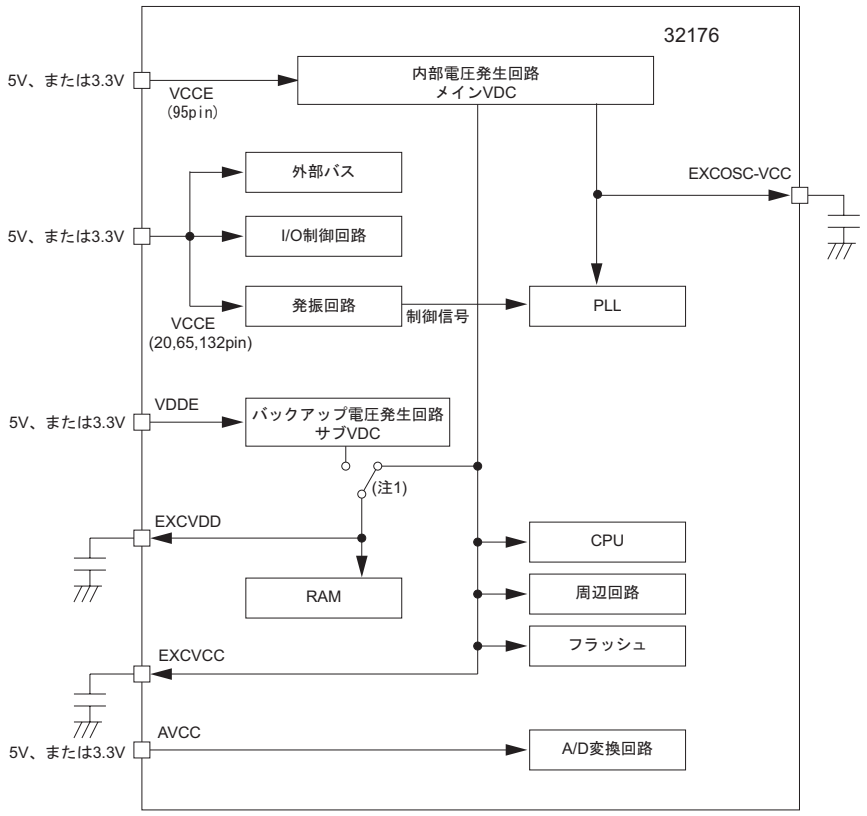
注1.　HREQ#端子へ"L"レベルを入力してCPUをバスサイクル終了の状態で止める。
　　または、ソフトウェアでRAMアクセスを禁止する。P72は、動作モードに関係なくHREQ#として使用できます。ただし、P72のポート動作モードレジスタでHREQ#を選択してください。
注2.　CPUの動きを止めた状態、またはRAMアクセスを止めた状態でRESET#端子へ"L"レベルを入力する。
注3.　RESET#端子が"L"レベルになってから電源を立ち下げる。
注4.　VDDE電源を必要に応じて5.0Vから3.0Vに下げる。
注.　・電源立ち下げ時の制約事項
　　VDDE≧VCCE
　　ただし、VDDEが3.0V以上の場合は、制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせなくても問題ありません。
　・電源立ち下げ時の制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせない場合、1V以上の電位差でマイコンに印加されないようにユーザにて十分評価し、システム設計を行ってください。
　　電位差が0V～0.6V程度では電流の流れ込みはなく、0.6Vを越える辺りから流れ込み電流が増加します。

図20.3.2　RAM**バックアップ使用時の電源立ち下げシーケンス**(VCCE＝5.0V**または**3.3V)



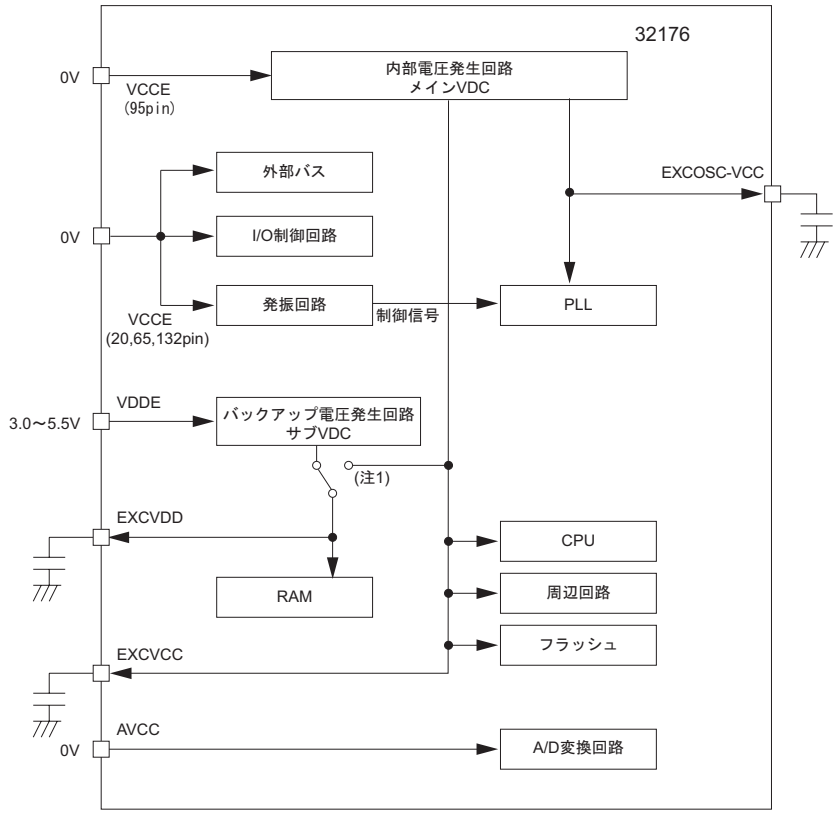
注1. HREQ#端子へ"L"レベルを入力してCPUをバスサイクル終了の状態で止める。
　　または、ソフトウェアでRAMアクセスを禁止する。P72は、動作モードに関係なくHREQ#として使用できます。ただし、P72のポート動作モードレジスタでHREQ#を選択してください。
注2. CPUの動きを止めた状態、またはRAMアクセスを止めた状態でRESET#端子へ"L"レベルを入力する。
注3. RESET#端子が"L"レベルになってから電源を立ち下げる。
注4. VDDE電源を必要に応じて5.0Vから3.0Vに下げる。
注. ・電源立ち下げ時の制約事項
　　VDDE≧VCCE
　　ただし、VDDEが3.0V以上の場合は、制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせなくても問題ありません。
　・電源立ち下げ時の制約事項(VDDE≧VCCE)を満たせない場合、1V以上の電位差でマイコンに印加されないようにユーザにて十分評価し、システム設計を行ってください。
　　電位差が0V～0.6V程度では電流の流れ込みはなく、0.6Vを越える辺りから流れ込み電流が増加します。

図20.3.3 RAM**バックアップ使用時の電源立ち下げシーケンス**（VCCE＝5.0V**時**、VDDE＝3.3V）



注1. マイコン動作可能状態時は、自動的にメインVDCに切り換わります。

図20.3.4　**マイコン動作可能状態**(VCCE＝5.0V**または**3.3V)



注1. RAMバックアップモード時は、自動的にサブVDCに切り換わり、低消費電流を実現します。

図20.3.5　SRAM**データバックアップ状態**(VCCE＝5.0V**または**3.3V)

第21章

電気的特性

21.1　絶対最大定格
21.2　VCCE＝5V、f（XIN）＝10MHz時の電気的特性
21.3　VCCE＝5V、f（XIN）＝8MHz時の電気的特性
21.4　VCCE＝3.3V、f（XIN）＝10MHz時の電気的特性
21.5　VCCE＝3.3V、f（XIN）＝8MHz時の電気的特性
21.6　フラッシュ関連特性
21.7　電源外付け容量
21.8　AC特性（VCCE＝5V時）
21.9　AC特性（VCCE＝3.3V時）

21.1　絶対最大定格

絶対最大定格

記号	項目	条件	定格値	単位
VCCE	主電源		-0.3～6.5	V
VDDE	RAM電源		-0.3～6.5	V
AVCC	アナログ電源	VCCE≧AVCC≧VREF	-0.3～6.5	V
VREF	基準電圧入力	VCCE≧AVCC≧VREF	-0.3～6.5	V
VI	XIN		-0.3～VCCE+0.3	V
	その他		-0.3～VCCE+0.3	V
VO	XOUT		-0.3～VCCE+0.3	V
	その他		-0.3～VCCE+0.3	V
Pd	消費電力	Ta=-40～85℃	500	mW
		Ta=-40～125℃	400	mW
TOPR	動作周囲温度（注1）		-40～125	℃
Tstg	保存温度		-65～150	℃

注1．125℃連続動作を保証するものではありません。125℃応用を検討されているお客様は弊社までお問い合わせください。

21.2　VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時の電気的特性

21.2.1　推奨動作条件(VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時)

推奨動作条件(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝5V±0.5V, Ta＝－40℃～85℃**)**

記号	項目				定格値			単位
					最小	標準	最大	
VCCE	**主電源(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
VDDE	RAM**電源(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
AVCC	**アナログ電源(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
VREF	**基準電圧入力(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
VIH	"H"**入力電圧**	**しきい値切り換え機能使用時**	CMOS **入力選択時**	**しきい値選択**：0.35VCCE	0.45VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0.6VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0.6VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
		FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力： RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23, CRX0, CRX1			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0～15, WAIT#			0.43VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.6VCCE		VCCE	V
VIL	"L"**入力電圧**	**しきい値切り換え機能使用時**	CMOS **入力選択時**	**しきい値選択**：0.35VCCE	0		0.25VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0		0.4VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0		0.6VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0		0.25VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0		0.25VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0		0.4VCCE	V

記号	項目		定格値			単位
			最小	標準	最大	
VIL	"L"入力電圧	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力： RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0〜3, TCLK0〜3, TIN0, TIN3, TIN16〜23, CRX0, CRX1	0		0.25VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0〜15, WAIT#	0		0.16VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#	0		0.25VCCE	V
IOH(peak)	"H"尖塔出力電流P0〜P22（注2）				-10	mA
IOH(avg)	"H"平均出力電流P0〜P22（注3）				-5	mA
IOL(peak)	"L"尖塔出力電流P0〜P22（注2）				10	mA
IOL(avg)	"L"平均出力電流P0〜P22（注3）				5	mA
CL	出力負荷容量	JTDO, JTMS			80	pF
		上記以外	15		50	pF
f(XIN)	外部クロック入力周波数		5		10	MHz

注1．条件：VCCE≧AVCC≧VREF
注2．ポートの出力電流（peak）の合計は、
　　｜ポートP0＋P1＋P2｜≦80mA
　　｜ポートP3＋P4＋P13＋P15＋P22｜≦80mA
　　｜ポートP6＋P7＋P8＋P9＋P17｜≦80mA
　　｜ポートP10＋P11＋P12｜≦80mA
注3．平均出力電流は、100msの期間内での平均値です。

21.2.2　DC特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時)

電気的特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝5V±0.5V, Ta＝－40℃～85℃**)**

記号	項目		測定条件	規格値			単位
				最小	標準	最大	
VOH	"H"出力電圧		IOH≧-5mA	VCCE+0.165 ×IOH(mA)		VCCE	V
VOL	"L"出力電圧		IOL≦5mA	0		0.15×IOL (mA)	V
VDDE	RAM保持電源電圧		動作時	4.5		5.5	V
			バックアップ時	3.0		5.5	V
IIH	"H"入力電流		VI=VCCE	-5		5	μA
IIL	"L"入力電流		VI=0V	-5		5	μA
ICC	全電源電流(注1)		f(XIN)=10.0MHz, リセット時			50	mA
			f(XIN)=10.0MHz, 動作時		65	90	
IDDEhold	RAM保持電源電流	VDDE=5.5V	Ta=25℃		0.1	2	μA
			Ta=85℃			50	
		VDDE=3.0V	Ta=25℃		0.05	1	
			Ta=85℃			25	
VT+- VT-	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			1.0			V
	次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23, CRX0, CRX1			1.0			
	次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.3			
	しきい値切り換え機能使用時(VT+/VT-)	0.7VCCE/0.35VCCE		1.0			
		0.7VCCE/0.5VCCE		0.3			
		0.5VCCE/0.35VCCE		0.3			

注1．シングルチップモード、VCCE＝VDDE＝AVCC＝VREFの全電流

各電源端子の電気的特性

記号	項目	測定条件	規格値			単位
			最小	標準	最大	
ICCE	動作時VCCE電源電流	f(XIN)=10.0MHz			90	mA
IDDE	動作時VDDE電源電流	f(XIN)=10.0MHz			1	mA
IAVCC	動作時AVCC電源電流	f(XIN)=10.0MHz			3	mA
IVREF	動作時VREF電源電流	f(XIN)=10.0MHz			1	mA

21.2.3　A/D変換特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝10MHz時)

A/D変換特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝5.12V、Ta＝－40～85℃)

記号	項目				測定条件	定格値			単位
						最小	標準	最大	
－	分解能				VREF=VCCE=AVCC			10	bits
－	絶対精度(注1)	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル				±2	LSB
				倍速				±2	
			高速モード	ノーマル				±3	
				倍速				±3	
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル				±3	
				倍速				±3	
			高速モード	ノーマル				±3	
				倍速				±8	
TCONV	変換時間	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル		14.95			μs
				倍速		8.65			
			高速モード	ノーマル		6.55			
				倍速		4.45			
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル		9.55			
				倍速		5.05			
			高速モード	ノーマル		4.75			
				倍速		2.65			
IIAN	アナログ入力リーク電流(注2)				AVSS≦AD0INi≦AVCC	-5		5	μA

注1．絶対精度はA/Dコンバータにおけるすべてのエラー・ソース(量子化誤差を含む)を含めた出力コードのアナログ入力に対する正確さを示したもので、下記の式で求められます。
絶対精度 ＝ 出力コード －(アナログ入力電圧AD0INi/1LSB)
AVCC＝AVREF＝5.12Vの時、1LSB＝5mVです。
注2．A/Dコンバータが静止した状態におけるAD0INiの入力リーク電流です。

21.3　VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時の電気的特性

21.3.1　推奨動作条件(VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時)

推奨動作条件(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝5V±0.5V, Ta＝－40℃～125℃**)**

記号	項目				定格値			単位
					最小	標準	最大	
VCCE	**主電源(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
VDDE	RAM**電源(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
AVCC	**アナログ電源(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
VREF	**基準電圧入力(注1)**				4.5	5.0	5.5	V
VIH	"H"**入力電圧**	**しきい値切り換え機能使用時**	CMOS **入力選択時**	**しきい値選択**：0.35VCCE	0.45VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0.6VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0.6VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
		FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力： RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23, CRX0, CRX1			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0～15, WAIT#			0.43VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.6VCCE		VCCE	V
VIL	"L"**入力電圧**	**しきい値切り換え機能使用時**	CMOS **入力選択時**	**しきい値選択**：0.35VCCE	0		0.25VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0		0.4VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0		0.6VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0		0.25VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0		0.25VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0		0.4VCCE	V

記号	項目		定格値			単位
			最小	標準	最大	
VIL	"L"入力電圧	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力： RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0〜3, TCLK0〜3, TIN0, TIN3, TIN16〜23, CRX0, CRX1	0		0.25VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0〜15, WAIT#	0		0.16VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#	0		0.25VCCE	V
IOH(peak)	"H"尖塔出力電流P0〜P22（注2）				-10	mA
IOH(avg)	"H"平均出力電流P0〜P22（注3）				-5	mA
IOL(peak)	"L"尖塔出力電流P0〜P22（注2）				10	mA
IOL(avg)	"L"平均出力電流P0〜P22（注3）				5	mA
CL	出力負荷容量	JTDO, JTMS			80	pF
		上記以外	15		50	pF
f(XIN)	外部クロック入力周波数		5		8	MHz

注1．条件：VCCE≧AVCC≧VREF
注2．ポートの出力電流（peak）の合計は、
　　｜ポートP0＋P1＋P2｜≦80mA
　　｜ポートP3＋P4＋P13＋P15＋P22｜≦80mA
　　｜ポートP6＋P7＋P8＋P9＋P17｜≦80mA
　　｜ポートP10＋P11＋P12｜≦80mA
注3．平均出力電流は、100msの期間内での平均値です。

21.3.2　DC特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時)

電気的特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝5V±0.5V, Ta＝－40℃～125℃**)**

記号	項目		測定条件	規格値			単位
				最小	標準	最大	
VOH	"H"出力電圧		IOH≧-5mA	VCCE+0.165 ×IOH(mA)		VCCE	V
VOL	"L"出力電圧		IOL≦5mA	0		0.15×IOL (mA)	V
VDDE	RAM保持電源電圧		動作時	4.5		5.5	V
			バックアップ時	3.0		5.5	V
IIH	"H"入力電流		VI=VCCE	-5		5	μA
IIL	"L"入力電流		VI=0V	-5		5	μA
ICC	全電源電流(注1)		f(XIN)=8.0MHz, リセット時			40	mA
			f(XIN)=8.0MHz, 動作時		55	70	
IDDEhold	RAM保持電源電流	VDDE=5.5V	Ta=25℃		0.1	2	μA
			Ta=125℃			200	
		VDDE=3.0V	Ta=25℃		0.05	1	
			Ta=125℃			100	
VT+- VT-	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			1.0			V
	次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23 CRX0, CRX1			1.0			
	次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.3			
	しきい値切り換え機能使用時(VT+/VT-)	0.7VCCE/0.35VCCE		1.0			
		0.7VCCE/0.5VCCE		0.3			
		0.5VCCE/0.35VCCE		0.3			

注1．シングルチップモード、VCCE＝VDDE＝AVCC＝VREFの全電流

各電源端子の電気的特性

記号	項目	測定条件	規格値			単位
			最小	標準	最大	
ICCE	動作時VCCE電源電流	f(XIN)=8.0MHz			70	mA
IDDE	動作時VDDE電源電流	f(XIN)=8.0MHz			1	mA
IAVCC	動作時AVCC電源電流	f(XIN)=8.0MHz			3	mA
IVREF	動作時VREF電源電流	f(XIN)=8.0MHz			1	mA

21.3.3　A/D変換特性(VCCE＝5V、f(XIN)＝8MHz時)

A/D変換特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝5.12V、Ta＝－40～125℃)

記号	項目				測定条件	定格値			単位
						最小	標準	最大	
－	分解能				VREF=VCCE=AVCC			10	bits
－	絶対精度(注1)	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル				±2	LSB
				倍速				±2	
			高速モード	ノーマル				±3	
				倍速				±3	
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル				±3	
				倍速				±3	
			高速モード	ノーマル				±3	
				倍速				±8	
TCONV	変換時間	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル		18.6875			μs
				倍速		10.8125			
			高速モード	ノーマル		8.1875			
				倍速		5.5625			
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル		11.9375			
				倍速		6.3125			
			高速モード	ノーマル		5.9375			
				倍速		3.3125			
IIAN	アナログ入力リーク電流(注2)				AVSS≦AD0INi≦AVCC	-5		5	μA

注1．絶対精度はA/Dコンバータにおけるすべてのエラー・ソース(量子化誤差を含む)を含めた出力コードのアナログ入力に対する正確さを示したもので、下記の式で求められます。
絶対精度 ＝ 出力コード －(アナログ入力電圧AD0INi/1LSB)
AVCC＝AVREF＝5.12Vの時、1LSB＝5mVです。
注2．A/Dコンバータが静止した状態におけるAD0INiの入力リーク電流です。

21.4　VCCE＝3.3V、f(XIN)＝10MHz時の電気的特性

21.4.1　推奨動作条件(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝10MHz時)

推奨動作条件(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝3.3V±0.3V, Ta＝－40℃～85℃)

記号	項目				定格値			単位
					最小	標準	最大	
VCCE	主電源(注1)				3.0	3.3	3.6	V
VDDE	RAM電源(注1)				3.0	VCCE	3.6	V
AVCC	アナログ電源(注1)				3.0	VCCE	3.6	V
VREF	基準電圧入力(注1)				3.0	VCCE	3.6	V
VIH	"H"入力電圧	しきい値切り換え機能使用時	CMOS入力選択時	しきい値選択：0.35VCCE	0.5VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0.65VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0.65VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
		FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23, CRX0, CRX1			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0～15, WAIT#			0.5VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.65VCCE		VCCE	V
VIL	"L"入力電圧	しきい値切り換え機能使用時	CMOS入力選択時	しきい値選択：0.35VCCE	0		0.2VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0		0.35VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0		0.5VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0		0.2VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0		0.2VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0		0.35VCCE	V

記号	項目		定格値			単位
			最小	標準	最大	
VIL	"L"入力電圧	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0〜3, TCLK0〜3, TIN0, TIN3, TIN16〜23, CRX0, CRX1	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0〜15, WAIT#	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#	0		0.2VCCE	V
IOH(peak)	"H"尖塔出力電流P0〜P22（注2）				-10	mA
IOH(avg)	"H"平均出力電流P0〜P22（注3）				-5	mA
IOL(peak)	"L"尖塔出力電流P0〜P22（注2）				10	mA
IOL(avg)	"L"平均出力電流P0〜P22（注3）				5	mA
CL	出力負荷容量	JTDO, JTMS			80	pF
		上記以外	15		50	pF
f(XIN)	外部クロック入力周波数		5		10	MHz

注1．条件：VCCE≧AVCC≧VREF
注2．ポートの出力電流（peak）の合計は、
　　｜ポートP0＋P1＋P2｜≦80mA
　　｜ポートP3＋P4＋P13＋P15＋P22｜≦80mA
　　｜ポートP6＋P7＋P8＋P9＋P17｜≦80mA
　　｜ポートP10＋P11＋P12｜≦80mA
注3．平均出力電流は、100msの期間内での平均値です。

21.4.2　DC特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝10MHz時)

電気的特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝3.3V±0.3V, Ta＝－40℃～85℃)

記号	項目		測定条件	規格値			単位
				最小	標準	最大	
VOH	"H"出力電圧		IOH≧-2mA	VCCE+0.5 ×IOH(mA)		VCCE	V
VOL	"L"出力電圧		IOL≦2mA	0		0.225×IOL (mA)	V
VDDE	RAM保持電源電圧		動作時	3.0		3.6	V
			バックアップ時	3.0		3.6	V
IIH	"H"入力電流		VI=VCCE	-5		5	μA
IIL	"L"入力電流		VI=0V	-5		5	μA
ICC	全電源電流(注1)		f(XIN)=10.0MHz, リセット時			50	mA
			f(XIN)=10.0MHz, 動作時		65	90	
IDDEhold	RAM保持電源電流		Ta=25℃		0.05	1	μA
			Ta=85℃			25	
VT+- VT-	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			0.65			V
	次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23 CRX0, CRX1			0.5			
	次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.2			
	しきい値切り換え機能使用時(VT+/VT-)	0.7VCCE/0.35VCCE		0.45			
		0.7VCCE/0.5VCCE		0.2			
		0.5VCCE/0.35VCCE		0.15			

注1．シングルチップモード、VCCE＝VDDE＝AVCC＝VREFの全電流

各電源端子の電気的特性

記号	項目	測定条件	規格値			単位
			最小	標準	最大	
ICCE	動作時VCCE電源電流	f(XIN)=10.0MHz			90	mA
IDDE	動作時VDDE電源電流	f(XIN)=10.0MHz			1	mA
IAVCC	動作時AVCC電源電流	f(XIN)=10.0MHz			2	mA
IVREF	動作時VREF電源電流	f(XIN)=10.0MHz			1	mA

21.4.3　A/D変換特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝10MHz時)

A/D変換特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝3.3V、Ta＝－40～85℃)

記号	項目				測定条件	定格値			単位
						最小	標準	最大	
－	分解能				VREF=VCCE=AVCC			10	bits
－	絶対精度(注1)	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル				±4	LSB
				倍速				±4	
			高速モード	ノーマル				±6	
				倍速				±6	
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル				±4	
				倍速				±4	
			高速モード	ノーマル				±6	
				倍速				±16	
TCONV	変換時間	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル		14.95			μs
				倍速		8.65			
			高速モード	ノーマル		6.55			
				倍速		4.45			
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル		9.55			
				倍速		5.05			
			高速モード	ノーマル		4.75			
				倍速		2.65			
IIAN	アナログ入力リーク電流(注2)				AVSS≦AD0INi≦AVCC	-5		5	μA

注1．絶対精度はA/Dコンバータにおけるすべてのエラー・ソース(量子化誤差を含む)を含めた出力コードのアナログ入力に対する正確さを示したもので、下記の式で求められます。
絶対精度 ＝ 出力コード －(アナログ入力電圧AD0INi/1LSB)
AVCC＝AVREF＝3.072Vの時、1LSB＝3mVです。
注2．A/Dコンバータが静止した状態におけるAD0INiの入力リーク電流です。

21.5　VCCE＝3.3V、f(XIN)＝8MHz時の電気的特性

21.5.1　推奨動作条件(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝8MHz時)

推奨動作条件(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝3.3V±0.3V, Ta＝－40℃～125℃)

記号	項目				定格値			単位
					最小	標準	最大	
VCCE	主電源(注1)				3.0	3.3	3.6	V
VDDE	RAM電源(注1)				3.0	VCCE	3.6	V
AVCC	アナログ電源(注1)				3.0	VCCE	3.6	V
VREF	基準電圧入力(注1)				3.0	VCCE	3.6	V
VIH	"H"入力電圧	しきい値切り換え機能使用時	CMOS入力選択時	しきい値選択：0.35VCCE	0.5VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0.65VCCE		VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0.65VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0.8VCCE		VCCE	V
		FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23, CRX0, CRX1			0.8VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0～15, WAIT#			0.5VCCE		VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#			0.65VCCE		VCCE	V
VIL	"L"入力電圧	しきい値切り換え機能使用時	CMOS入力選択時	しきい値選択：0.35VCCE	0		0.2VCCE	V
				しきい値選択：0.5VCCE	0		0.35VCCE	V
				しきい値選択：0.7VCCE	0		0.5VCCE	V
			シュミット入力選択時	VT+/VT-：0.5VCCE/0.35VCCE	0		0.2VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.35VCCE	0		0.2VCCE	V
				VT+/VT-：0.7VCCE/0.5VCCE	0		0.35VCCE	V

記号	項目		定格値			単位
			最小	標準	最大	
VIL	"L"入力電圧	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力： RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23, CRX0, CRX1	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力：DB0～15, WAIT#	0		0.2VCCE	V
		次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#	0		0.2VCCE	V
IOH(peak)	"H"尖塔出力電流P0～P22（注2）				-10	mA
IOH(avg)	"H"平均出力電流P0～P22（注3）				-5	mA
IOL(peak)	"L"尖塔出力電流P0～P22（注2）				10	mA
IOL(avg)	"L"平均出力電流P0～P22（注3）				5	mA
CL	出力負荷容量	JTDO, JTMS			80	pF
		上記以外	15		50	pF
f(XIN)	外部クロック入力周波数		5		8	MHz

注1．条件：VCCE≧AVCC≧VREF
注2．ポートの出力電流（peak）の合計は、
　　｜ポートP0＋P1＋P2｜≦80mA
　　｜ポートP3＋P4＋P13＋P15＋P22｜≦80mA
　　｜ポートP6＋P7＋P8＋P9＋P17｜≦80mA
　　｜ポートP10＋P11＋P12｜≦80mA
注3．平均出力電流は、100msの期間内での平均値です。

21.5.2　DC特性(VCCE＝3.3V±0.3、f(XIN)＝8MHz時)

電気的特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝3.3V±0.3V, Ta＝－40℃～125℃**)**

記号	項目	測定条件	規格値			単位
			最小	標準	最大	
VOH	"H"出力電圧	IOH≧-2mA	VCCE+0.5 ×IOH(mA)		VCCE	V
VOL	"L"出力電圧	IOL≦2mA	0		0.225×IOL (mA)	V
VDDE	RAM保持電源電圧	動作時	3.0		3.6	V
		バックアップ時	3.0		3.6	V
IIH	"H"入力電流	VI=VCCE	-5		5	μA
IIL	"L"入力電流	VI=0V	-5		5	μA
ICC	全電源電流(注1)	f(XIN)=8.0MHz, リセット時			40	mA
		f(XIN)=8.0MHz, 動作時		55	70	
IDDEhold	RAM保持電源電流	Ta=25℃		0.05	1	μA
		Ta=125℃			100	
VT+- VT-	FP, MOD0, MOD1, JTMS, JTRST, JTDI, RESET#		0.65			V
	次の端子の標準入力：RTDCLK, RTDRXD, SCLKI0, SCLKI1, RXD0～3, TCLK0～3, TIN0, TIN3, TIN16～23 CRX0, CRX1		0.5			
	次の端子の標準入力：SBI#, HREQ#		0.2			
	しきい値切り換え機能使用時(VT+/VT-) 0.7VCCE/0.35VCCE		0.45			
	0.7VCCE/0.5VCCE		0.2			
	0.5VCCE/0.35VCCE		0.15			

注1．シングルチップモード、VCCE＝VDDE＝AVCC＝VREF**の全電流**

各電源端子の電気的特性

記号	項目	測定条件	規格値			単位
			最小	標準	最大	
ICCE	動作時VCCE電源電流	f(XIN)=8.0MHz			70	mA
IDDE	動作時VDDE電源電流	f(XIN)=8.0MHz			1	mA
IAVCC	動作時AVCC電源電流	f(XIN)=8.0MHz			2	mA
IVREF	動作時VREF電源電流	f(XIN)=8.0MHz			1	mA

21.5.3　A/D変換特性(VCCE＝3.3V±0.3V、f(XIN)＝8MHz時)

A/D変換特性(指定のない場合は、VCCE, VDDE＝3.3V、Ta＝－40～125℃)

記号	項目				測定条件	定格値			単位
						最小	標準	最大	
－	分解能				VREF=VCCE=AVCC			10	bits
－	絶対精度(注1)	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル				±4	LSB
				倍速				±4	
			高速モード	ノーマル				±6	
				倍速				±6	
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル				±4	
				倍速				±4	
			高速モード	ノーマル				±6	
				倍速				±16	
TCONV	変換時間	S＆Hなしまたはノーマル S＆H時	低速モード	ノーマル		18.6875			μs
				倍速		10.8125			
			高速モード	ノーマル		8.1875			
				倍速		5.5625			
		高速 S＆H時	低速モード	ノーマル		11.9375			
				倍速		6.3125			
			高速モード	ノーマル		5.9375			
				倍速		3.3125			
IIAN	アナログ入力リーク電流(注2)				AVSS≦AD0INi≦AVCC	-5		5	μA

注1．絶対精度はA/Dコンバータにおけるすべてのエラー・ソース(量子化誤差を含む)を含めた出力コードのアナログ入力に対する正確さを示したもので、下記の式で求められます。
絶対精度 ＝ 出力コード －(アナログ入力電圧AD0INi/1LSB)
AVCC＝AVREF＝3.072Vの時、1LSB＝3mVです。

注2．A/Dコンバータが静止した状態におけるAD0INiの入力リーク電流です。

21.6 フラッシュ関連特性

記号	項目		測定条件	規格値			単位
				最小	標準	最大	
Topr	フラッシュ書き換え周囲温度		Tバージョン	-40		85	℃
			Vバージョン	-40		125	℃
cycle	書き換え回数（注1）	標準品		100			回
		10000(10k)回対応品（注2）	4Kバイトブロック（注3）（ブロック1, ブロック2）	10000 (10k)			回
			4Kバイトブロック以外	1000(1k)			回
VCCE	VCCE電源電圧(書き換え時)		推奨電源電圧範囲（注4）	3.0	3.3	3.6	V
				4.5	5.0	5.5	
ICCE	VCCE電源電圧(プログラム時)		ブートプログラム使用時			90	mA
ICCE	VCCE電源電圧(イレーズ時)		ブートプログラム使用時			90	mA

注1．書き換え回数はブロック毎のイレーズ回数を示します。
なお同一番地に対する複数回の書き込み(上書き)はできません。その場合は一旦消去してから、再度書き込みを行ってください。
注2．10000(10k)回書き換え対応品はVバージョン(32MHz品)に対するオプション仕様です。10000(10k)回書き換えの応用を検討されているお客様は、仕様詳細をご確認の上ご指定ください。ご指定のない場合は標準(100回書き換え)品となります。
注3．ブロック1：H'0000 2000～H'0000 2FFF
ブロック2：H'0000 3000～H'0000 3FFF
注4．3.6V～4.5V間での書き換えは実施しないでください。

(1)標準品(フラッシュ書き換え回数：100回)

記号	項目	測定条件		規格値			単位
				最小	標準	最大	
tPRG	プログラム時間（注1）	全ブロック	100回まで		25	200	μs
TBERS	ブロック消去時間	4Kバイトブロック	100回まで		0.3	6	s
		8Kバイトブロック	100回まで		0.3	6	s
		32Kバイトブロック	100回まで		0.5	6	s
		64Kバイトブロック	100回まで		0.8	6	s

注1．1ハーフワードあたりの書き込み時間を示します。

(2)10000(10k)回書き換え対応品（注1）

記号	項目	測定条件		規格値			単位
				最小	標準	最大	
tPRG	プログラム時間（注2）	全ブロック	1000(1k)回まで		25	200	μs
		4Kバイトブロック	10000(10k)回まで			600	μs
TBERS	ブロック消去時間	4Kバイトブロック	1000(1k)回まで		0.3	6	s
			10000(10k)回まで			8	s
		8Kバイトブロック	1000(1k)回まで		0.3	6	s
		32Kバイトブロック	1000(1k)回まで		0.5	6	s
		64Kバイトブロック	1000(1k)回まで		0.8	6	s

注1．10000(10k)回書き換え対応品はVバージョン(32MHz品)に対するオプション仕様です。10000(10k)回書き換えの応用を検討されているお客様は、仕様詳細をご確認の上ご指定ください。ご指定のない場合は標準(100回書き換え)品となります。
注2．1ハーフワードあたりの書き込み時間を示します。

21.7　電源外付け容量

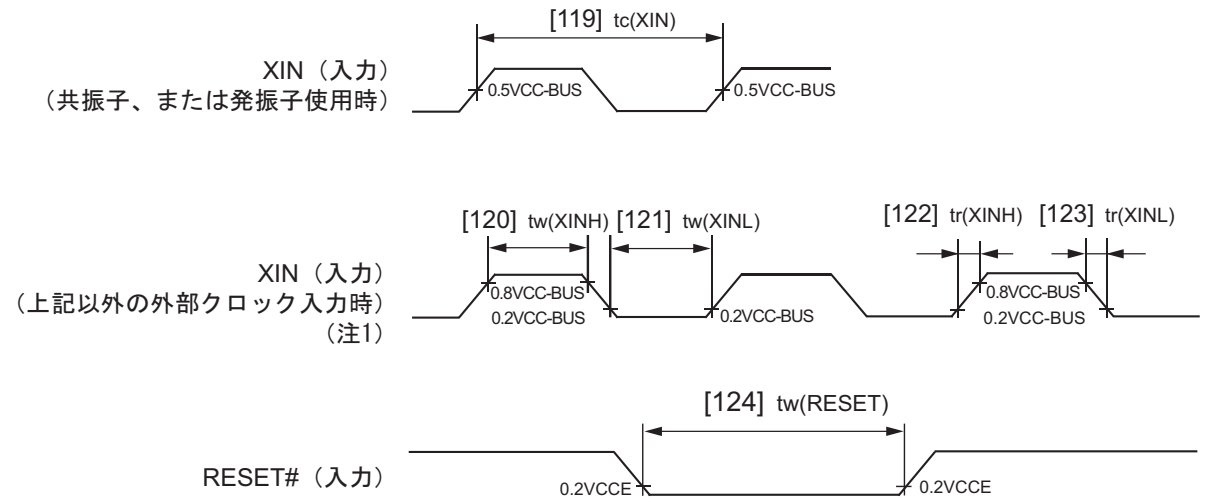
記号	項目	規格値			単位
		最小	標準	最大	
EXCVCC	外付け容量接続端子	1		10	μF
EXCVDD	内蔵RAM内部電源用の外付け容量接続端子	1		10	μF
EXCOSC-VCC	クロック内部電源用の外付け容量接続端子	1		10	μF

21.8　AC特性（VCCE＝5V時）

- 指定のないタイミング条件は、VCCE, VDDE＝5V±0.5V, Ta＝－40～125℃です。
- 規格値は測定端子の出力負荷容量が15pF～50pFの時の保証値（ただし、JTAG関連は80pFの集中キャパシタンス時の保証値）です。

(1) クロックおよびリセットタイミング

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.1
タイミング必要条件	tc(XIN)	クロック入力サイクル時間	100	200	ns	[119]
	tw(XINH)	外部クロック入力"H"パルス幅	35		ns	[120]
	tw(XINL)	外部クロック入力"L"パルス幅	35		ns	[121]
	tr(XINH)	外部クロック入力立ち上がり時間		10	ns	[122]
	tr(XINL)	外部クロック入力立ち下がり時間		10	ns	[123]
	tw(RESET)	リセット入力"L"パルス幅	200		ns	[124]



注1.　XOUT端子はオープンにして寄生容量を10pF以下としてください。
　　クロック制御レジスタ（CLKCR）のXDRVビットは、B'11（最大）を選択してください。

図21.8.1　クロックおよびリセットタイミング

(2)入出力ポート

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.2
タイミング必要条件	tsu(P-E)	ポート入力セットアップ時間	100		ns	[1]
	th(E-P)	ポート入力ホールド時間	0		ns	[2]
スイッチング特性	td(E-P)	ポートデータ出力遅延時間		100	ns	[3]

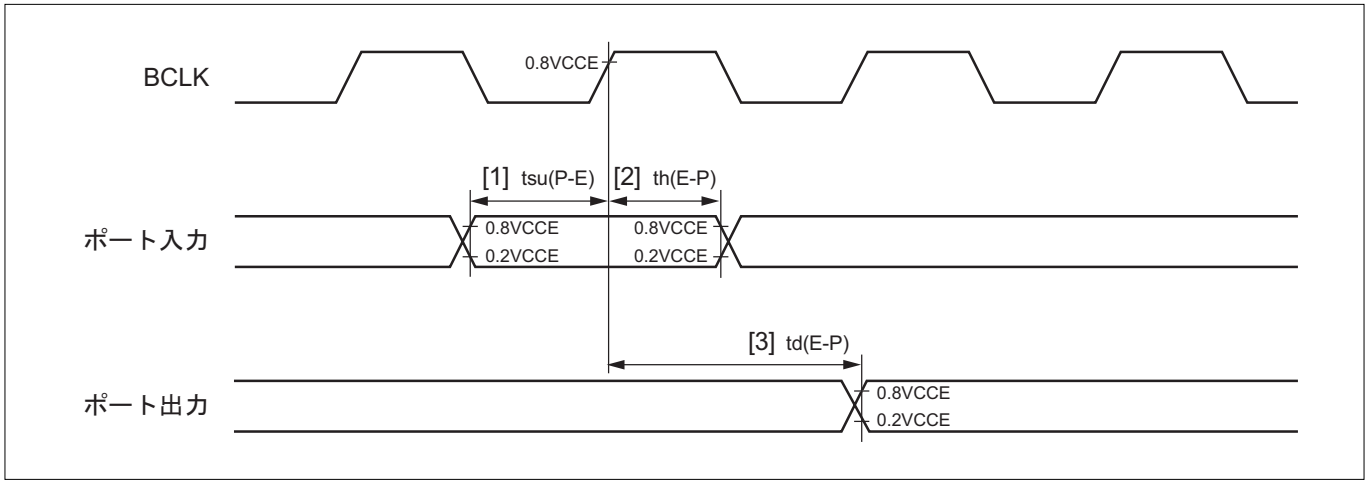


図21.8.2　入出力ポートタイミング

(3)シリアルインタフェース

a) CSIOモード、内部クロック選択時

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.3
タイミング必要条件	tsu(D-CLK)	RXD入力セットアップ時間	150		ns	[4]
	th(CLK-D)	RXD入力ホールド時間	50		ns	[5]
スイッチング特性	td(CLK-D)	TXD出力遅延時間		60	ns	[6]
	th(CLK-D)	TXDホールド時間	0		ns	[82]

b) CSIOモード、外部クロック選択時

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.3
タイミング必要条件	tc(CLK)	CLK入力サイクル時間	640		ns	[7]
	tw(CLKH)	CLK入力"H"パルス幅	300		ns	[8]
	tw(CLKL)	CLK入力"L"パルス幅	300		ns	[9]
	tsu(D-CLK)	RXD入力セットアップ時間	60		ns	[10]
	th(CLK-D)	RXD入力ホールド時間	100		ns	[11]
スイッチング特性	td(CLK-D)	TXD出力遅延時間		160	ns	[12]

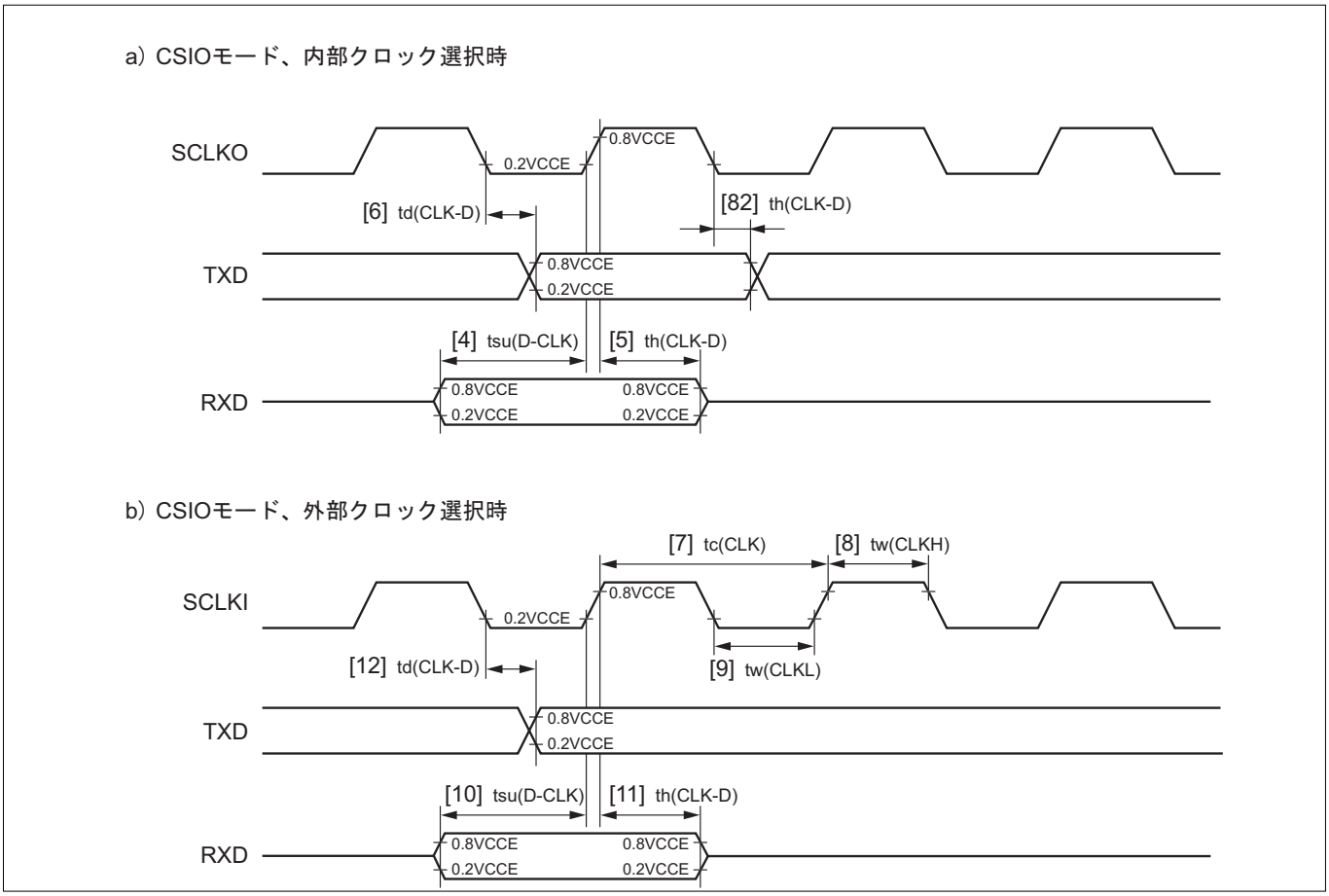


図21.8.3　シリアルインタフェースタイミング

(4) SBI

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.4
タイミング必要条件	tw(SBIL)	SBI#入力パルス幅	$5\times\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[13]

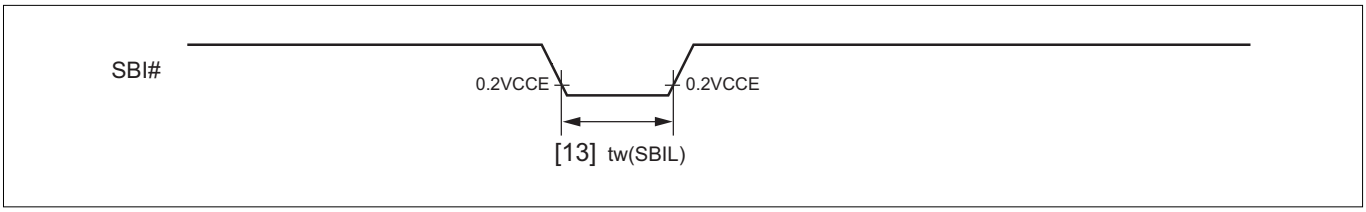


図21.8.4　SBIタイミング

(5) TIN

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.5
タイミング必要条件	tw(TIN)	TIN入力パルス幅	$7\times\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[14]

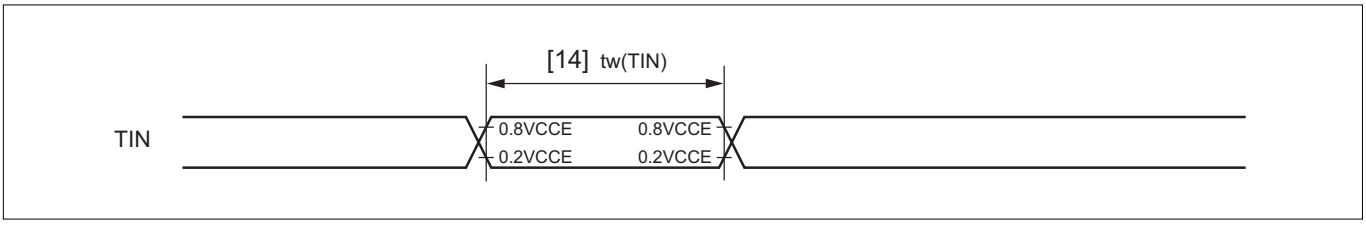


図21.8.5　TINタイミング

(6) TO

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.6
スイッチング特性	td(BCLK-TO)	TO出力遅延時間		100	ns	[15]

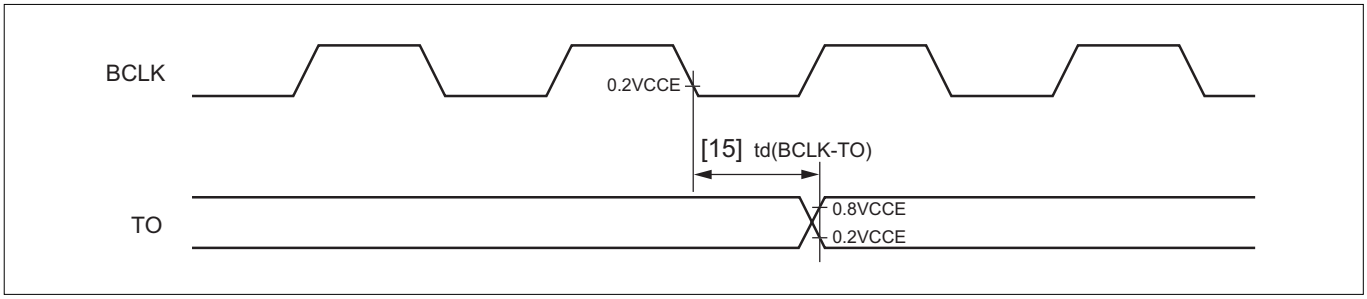


図21.8.6　TOタイミング

(7)TCLK

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.7
タイミング必要条件	tw(TCLKH)	TCLK入力"H"パルス幅	7× $\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[99]
	tw(TCLKL)	TCLK入力"L"パルス幅	7× $\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[100]

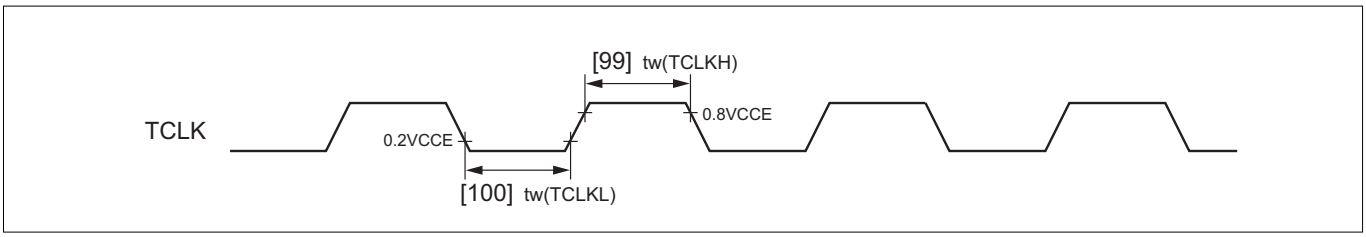
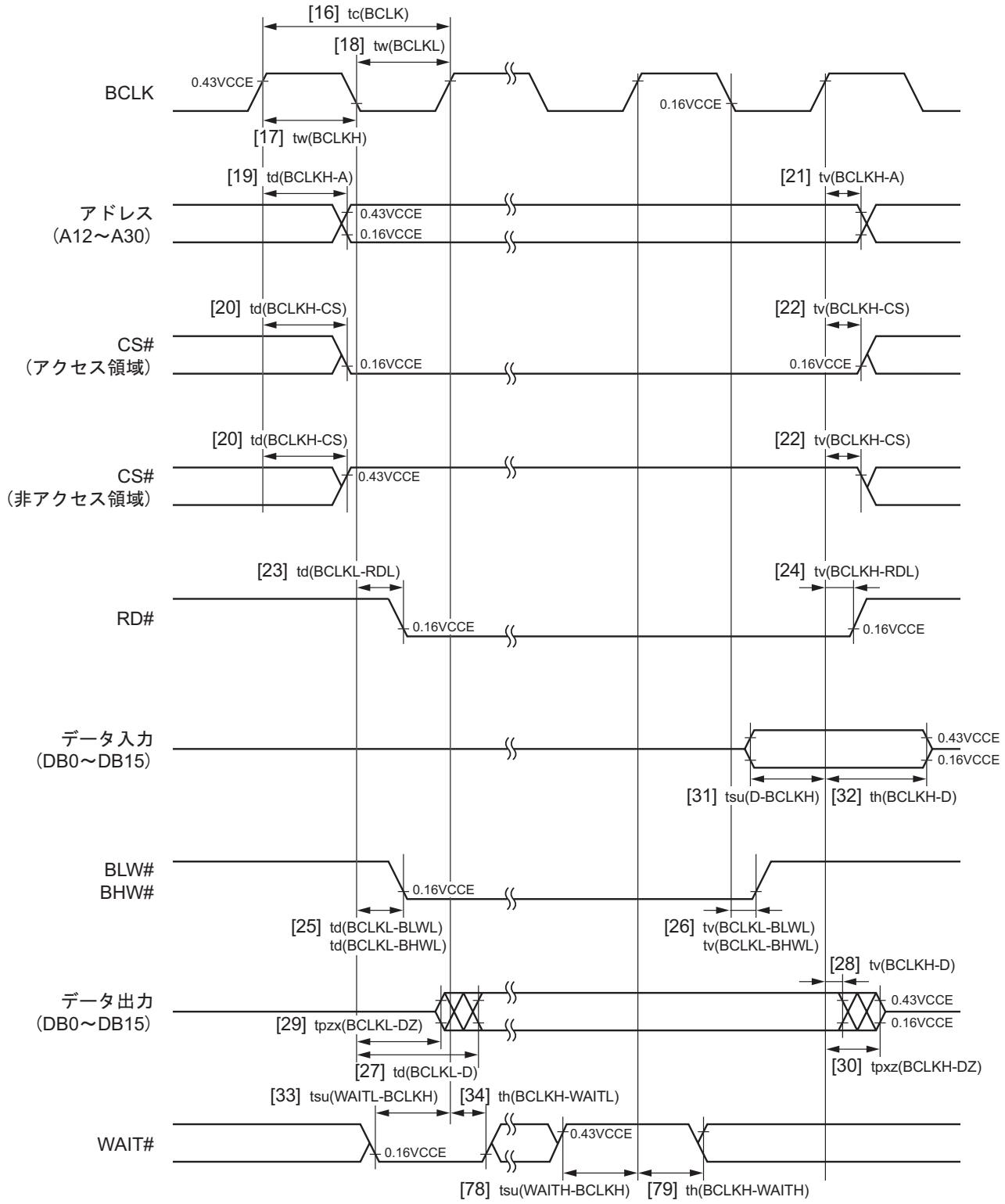


図21.8.7　TCLKタイミング

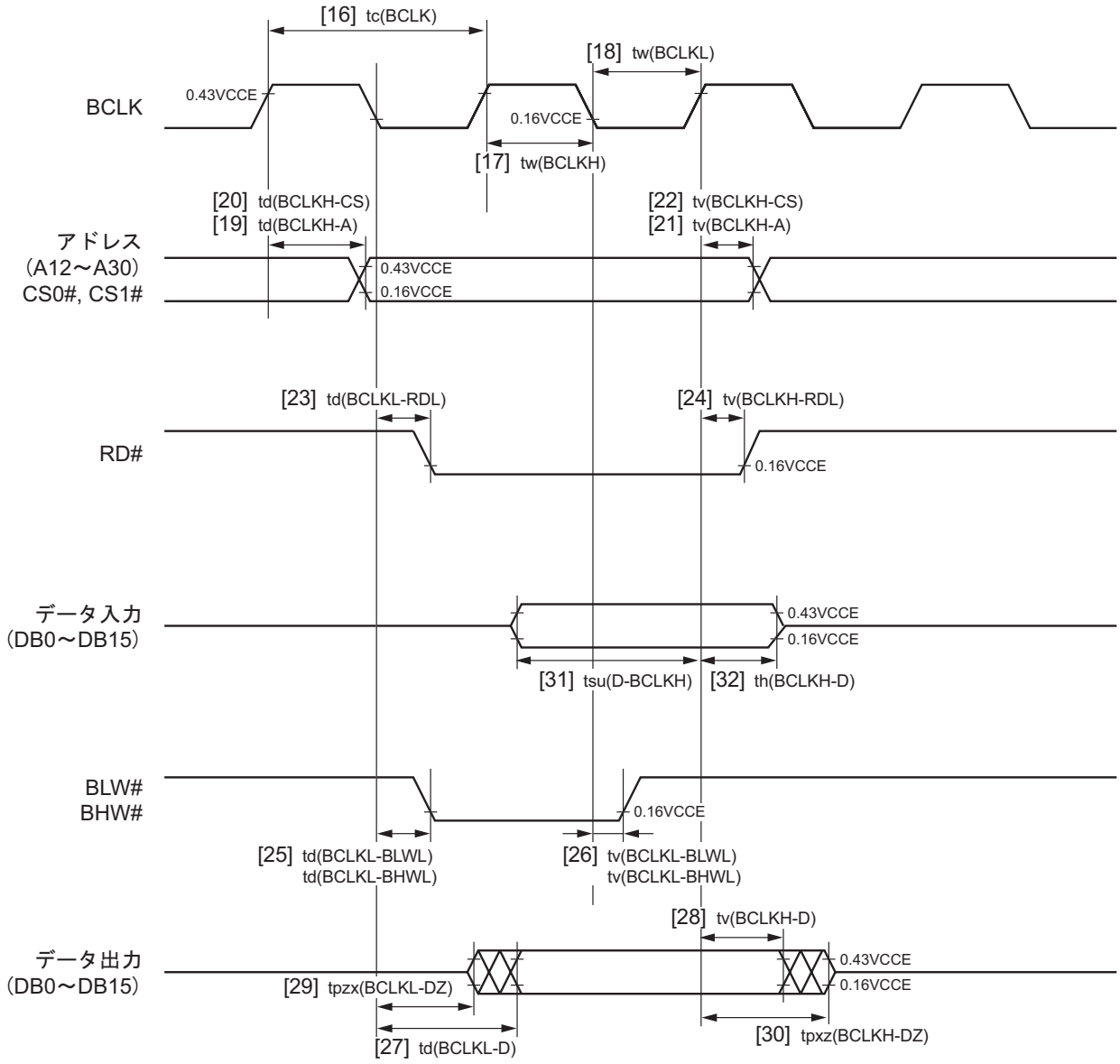
(8)リードおよびライトタイミング(1/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.8 図21.8.9
タイミング必要条件	tsu(D-BCLKH)	BCLK前データ入力セットアップ時間	26		ns	[31]
	th(BCLKH-D)	BCLK後データ入力ホールド時間	0		ns	[32]
	tsu(WAITL-BCLKH)	BCLK前WAIT#入力セットアップ時間	26		ns	[33]
	th(BCLKH-WAITL)	BCLK後WAIT#入力ホールド時間	0		ns	[34]
	tsu(WAITH-BCLKH)	BCLK前WAIT#入力セットアップ時間	26		ns	[78]
	th(BCLKH-WAITH)	BCLK後WAIT#入力ホールド時間	0		ns	[79]
スイッチング特性	tc(BCLK)	BCLK出力サイクル時間		$\frac{tc(XIN)}{2}$	ns	[16]
	tw(BCLKH)	BCLK出力"H"パルス幅	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-5		ns	[17]
	tw(BCLKL)	BCLK出力"L"パルス幅	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-5		ns	[18]
	td(BCLKH-A)	BCLK後アドレス遅延時間		24	ns	[19]
	td(BCLKH-CS)	BCLK後チップセレクト遅延時間		24	ns	[20]
	tv(BCLKH-A)	BCLK後アドレス有効時間	-11		ns	[21]
	tv(BCLKH-CS)	BCLK後チップセレクト有効時間	-11		ns	[22]
	td(BCLKL-RDL)	BCLK後リード遅延時間		10	ns	[23]
	tv(BCLKH-RDL)	BCLK後リード有効時間	-12		ns	[24]
	td(BCLKL-BLWL) td(BCLKL-BHWL)	BCLK後ライト遅延時間		11	ns	[25]
	tv(BCLKL-BLWL) tv(BCLKL-BHWL)	BCLK後ライト有効時間	-12		ns	[26]
	td(BCLKL-D)	BCLK後データ出力遅延時間		18	ns	[27]
	tv(BCLKH-D)	BCLK後データ出力有効時間	-16		ns	[28]
	tpzx(BCLKL-DZ)	BCLK後データ出力イネーブル時間	-19		ns	[29]
	tpxz(BCLKH-DZ)	BCLK後データ出力ディスエーブル時間		5	ns	[30]



注.　・各信号間のタイミングについては、「図21.8.9 リードタイミング（リードパルスを基準）」、「図21.8.10 ライトタイミング（ライトパルスを基準）」を参照してください。
・データ入力、WAIT#の判定電圧レベルは、しきい値切り換え機能使用時はVIH、VIL規格の最小、最大値が適用されます。

図21.8.8　**リードおよびライトタイミング（**BCLK**基準）　外部**WAIT**挿入時（**1**ウェイト以上）**

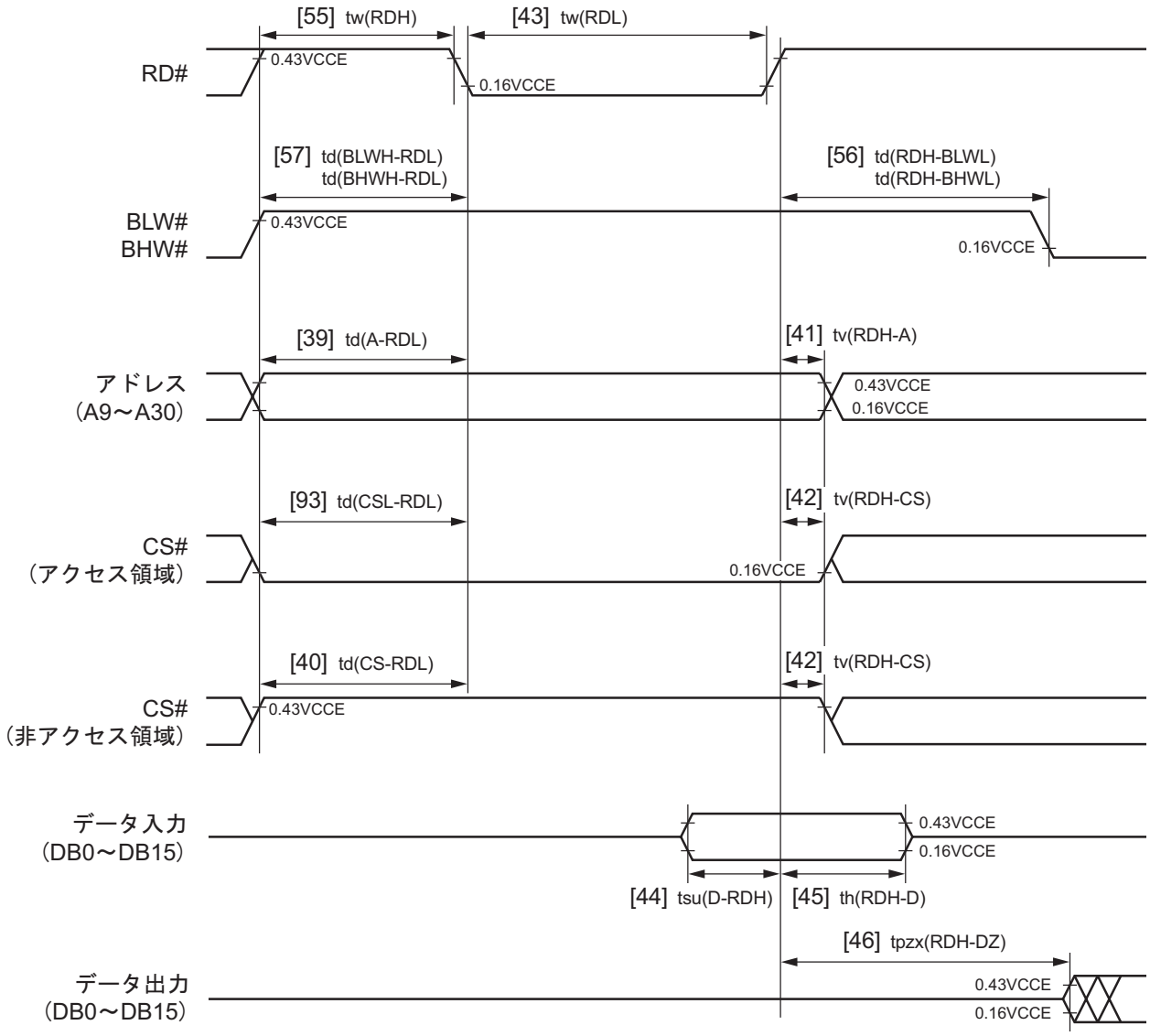


注.　・データ入力の判定電圧レベルは、しきい値切り換え機能使用時はVIH、VIL規格の最小、最大値が適用されます。

図21.8.9　**リードおよびライトタイミング（**BCLK**基準）　**1**ウェイト時**

(8)リードおよびライトタイミング(2/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.10 図21.8.11
タイミング必要条件	tsu(D-RDH)	リード前データ入力セットアップ時間	30		ns	[44]
	th(RDH-D)	リード後データ入力ホールド時間	0		ns	[45]
	tsu(WAITH-RDL) tsu(WAITL-RDL)	リード前ウェイト入力セットアップ時間	tc(BCLK)+21		ns	[132]
	tw(WAITH)	ウェイト"H"パルス幅	26		ns	[133]
	tw(WAITL)	ウェイト"L"パルス幅	26		ns	[134]
	tsu(WAITH-BLWL) tsu(WAITH-BHWL) tsu(WAITL-BLWL) tsu(WAITL-BHWL)	ライト前ウェイト入力セットアップ時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$+21		ns	[135]
スイッチング特性	td(A-RDL)	リード前アドレス遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[39]
	td(CS-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[40]
	tv(RDH-A)	リード後アドレス有効時間	0		ns	[41]
	tv(RDH-CS)	リード後チップセレクト有効時間	0		ns	[42]
	tw(RDL)	リード"L"パルス幅	3×$\frac{tc(BCLK)}{2}$-23		ns	[43]
	tpzx(RDH-DZ)	リード後データ出力イネーブル時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[46]
	td(A-BLWL) td(A-BHWL)	ライト前アドレス遅延時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[47]
	td(CS-BLWL) td(CS-BHWL)	ライト前チップセレクト遅延時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[48]
	tv(BLWH-A) tv(BHWH-A)	ライト後アドレス有効時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[49]
	tv(BLWH-CS) tv(BHWH-CS)	ライト後チップセレクト有効時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[50]
	tw(BLWL) tw(BHWL)	ライト"L"パルス幅 (バイトライトモード)	tc(BCLK)-25		ns	[51]
	td(BLWL-D) td(BHWL-D)	ライト後データ出力遅延時間 (バイトライトモード)		15	ns	[52]
	tv(BLWH-D) tv(BHWH-D)	ライト後データ出力有効時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-13		ns	[53]
	tpxz(BLWH-DZ) tpxz(BHWH-DZ)	ライト後データ出力ディスエーブル時間 (バイトライトモード)		$\frac{tc(BCLK)}{2}$+5	ns	[54]
	tw(RDH)	リード"H"パルス幅	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-3		ns	[55]
	td(RDH-BLWL) td(RDH-BHWL)	リード後ライト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-10		ns	[56]
	td(BLWH-RDL) td(BHWH-RDL)	ライト後リード遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-10		ns	[57]
	td(CSL-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-20		ns	[93]
	td(CSL-BLWL) td(CSL-BHWL)	ライト前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-20		ns	[95]



注.・データ入力の判定電圧レベルは、しきい値切り換え機能使用時はVIH、VIL規格の最小、最大値が適用されます。

図21.8.10　**リードタイミング（リードパルスを基準）**

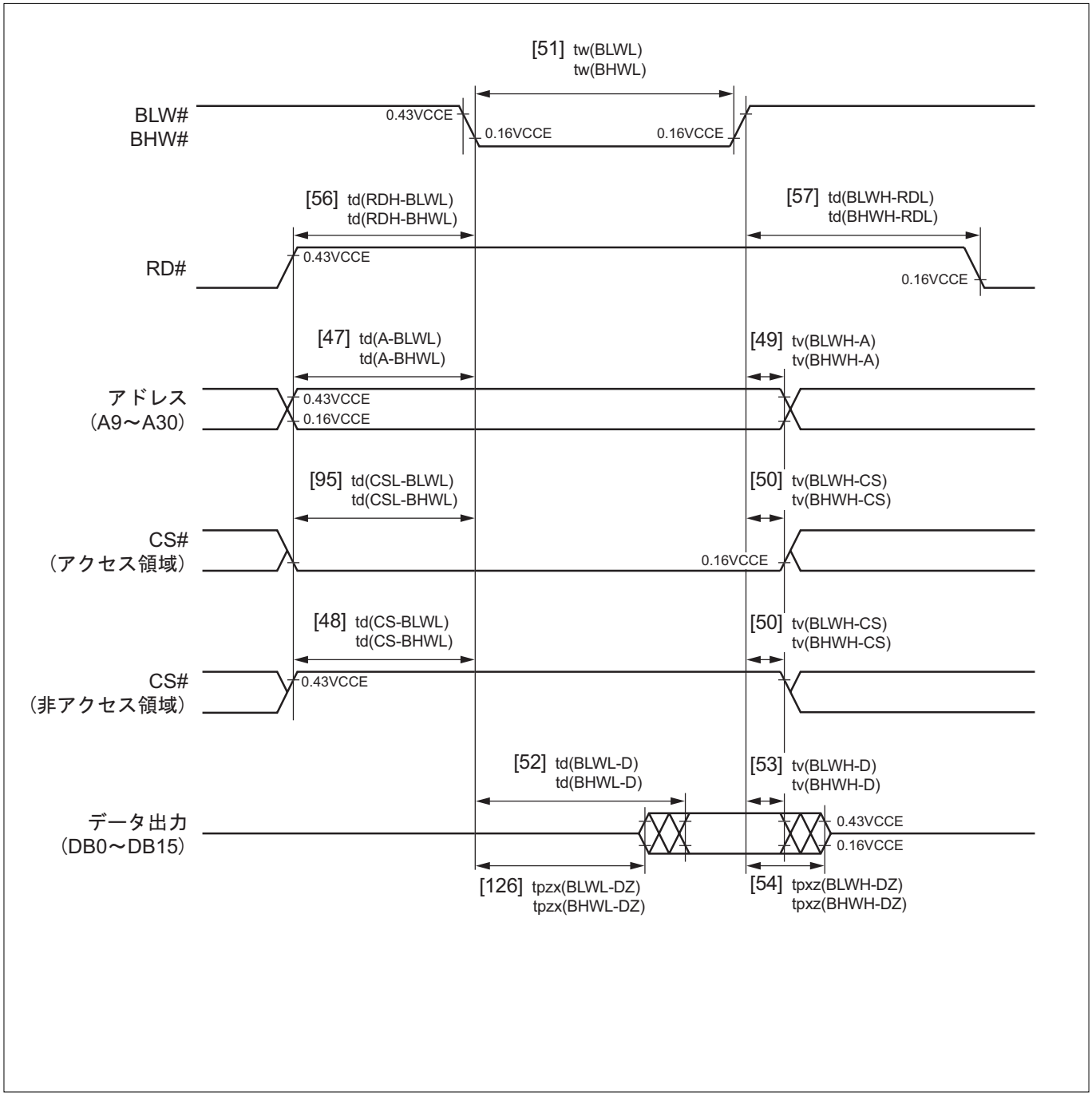


図21.8.11　**ライトタイミング（ライトパルスを基準）**

(8)リードおよびライトタイミング(3/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.12
タイミング必要条件	tsu(D-RDH)	リード前データ入力セットアップ時間	30		ns	[44]
	th(RDH-D)	リード前データ入力ホールド時間	0		ns	[45]
スイッチング特性	td(A-RDL)	リード前アドレス遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[39]
	td(CSL-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[40]
	tv(RDH-A)	リード後アドレス有効時間	0		ns	[41]
	tv(RDH-CS)	リード後チップセレクト有効時間	0		ns	[42]
	tw(RDL)	リード"L"パルス幅	3× $\frac{tc(BCLK)}{2}$ -23		ns	[43]
	tpzx(RDH-DZ)	リード後データ出力イネーブル時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[46]
	td(RDH-WRL)	リード後ライト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-10		ns	[80]
	td(WRH-RDL)	ライト後リード遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-10		ns	[81]
	td(CSL-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-20		ns	[93]
	td(BLEL-RDL) td(BHEL-RDL)	リード前バイトイネーブル遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-20		ns	[136]
	tv(RDH-BLEL) tv(RDH-BHEL)	リード後バイトイネーブル有効時間 (バイトイネーブルモード)	-5		ns	[137]

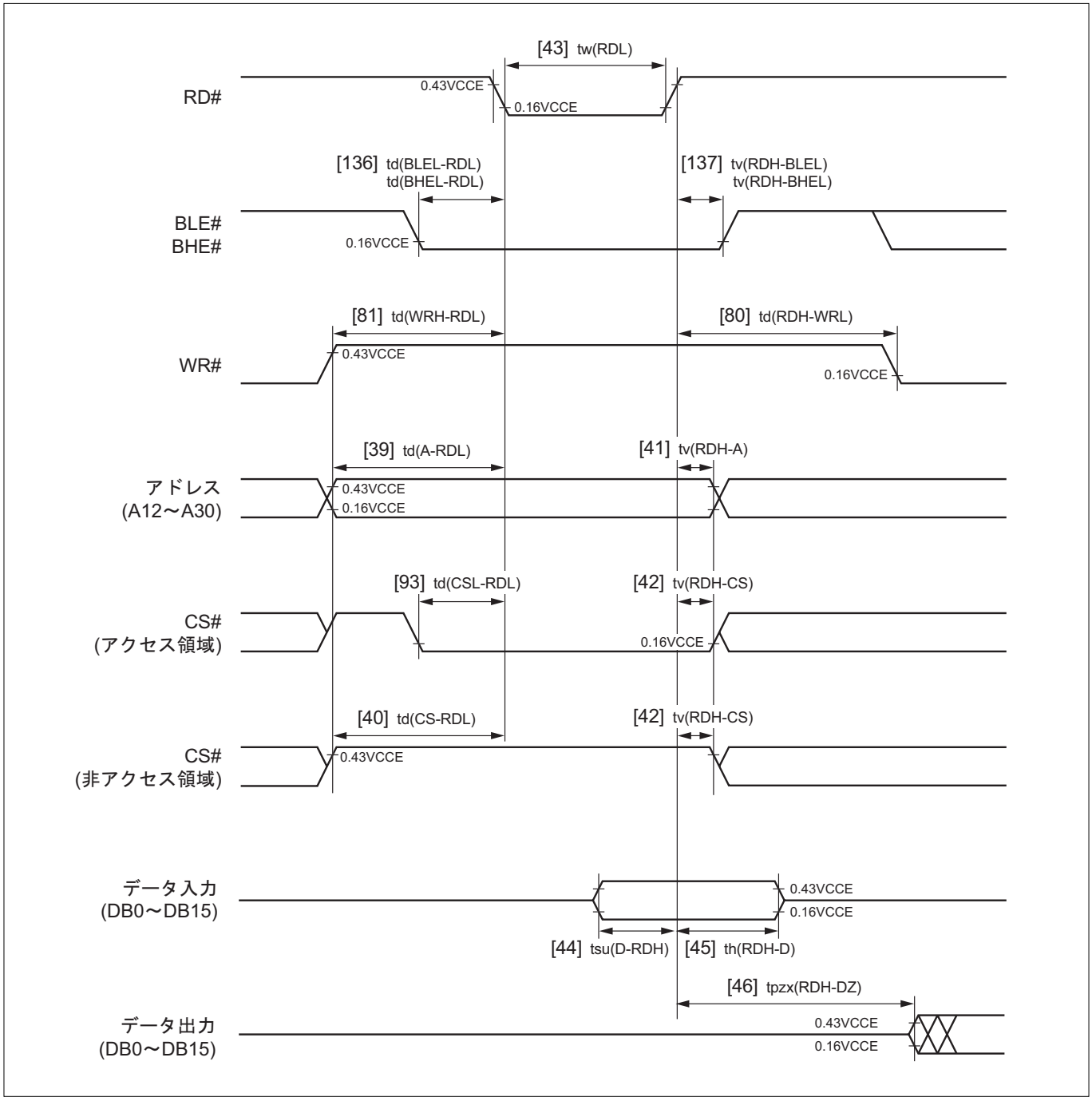


図21.8.12　**リードタイミング（バイトイネーブルモード）**

(8)リードおよびライトタイミング(4/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.13
スイッチング特性	tw(WRL)	ライト"L"パルス幅 (バイトイネーブルモード)	tc(BCLK)-25		ns	[68]
	td(A-WRL)	ライト前アドレス遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[69]
	td(CS-WRL)	ライト前チップセレクト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[70]
	tv(WRH-A)	ライト後アドレス有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[71]
	tv(WRH-CS)	ライト後チップセレクト有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[72]
	td(BLEL-WRL) td(BHEL-WRL)	ライト前バイトイネーブル遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[73]
	tv(WRH-BLEL) tv(WRH-BHEL)	ライト後バイトイネーブル有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[74]
	td(WRL-D)	ライト後データ出力遅延時間 (バイトイネーブルモード)		15	ns	[75]
	tv(WRH-D)	ライト後データ出力有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -13		ns	[76]
	tpxz(WRH-DZ)	ライト後データ出力ディスエーブル時間 (バイトイネーブルモード)		$\frac{tc(BCLK)}{2}$ +5	ns	[77]
	td(RDH-WRL)	リード後ライト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -10		ns	[80]
	td(WRH-RDL)	ライト後リード遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -10		ns	[81]
	td(CSL-WRL)	ライト前チップセレクト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[96]

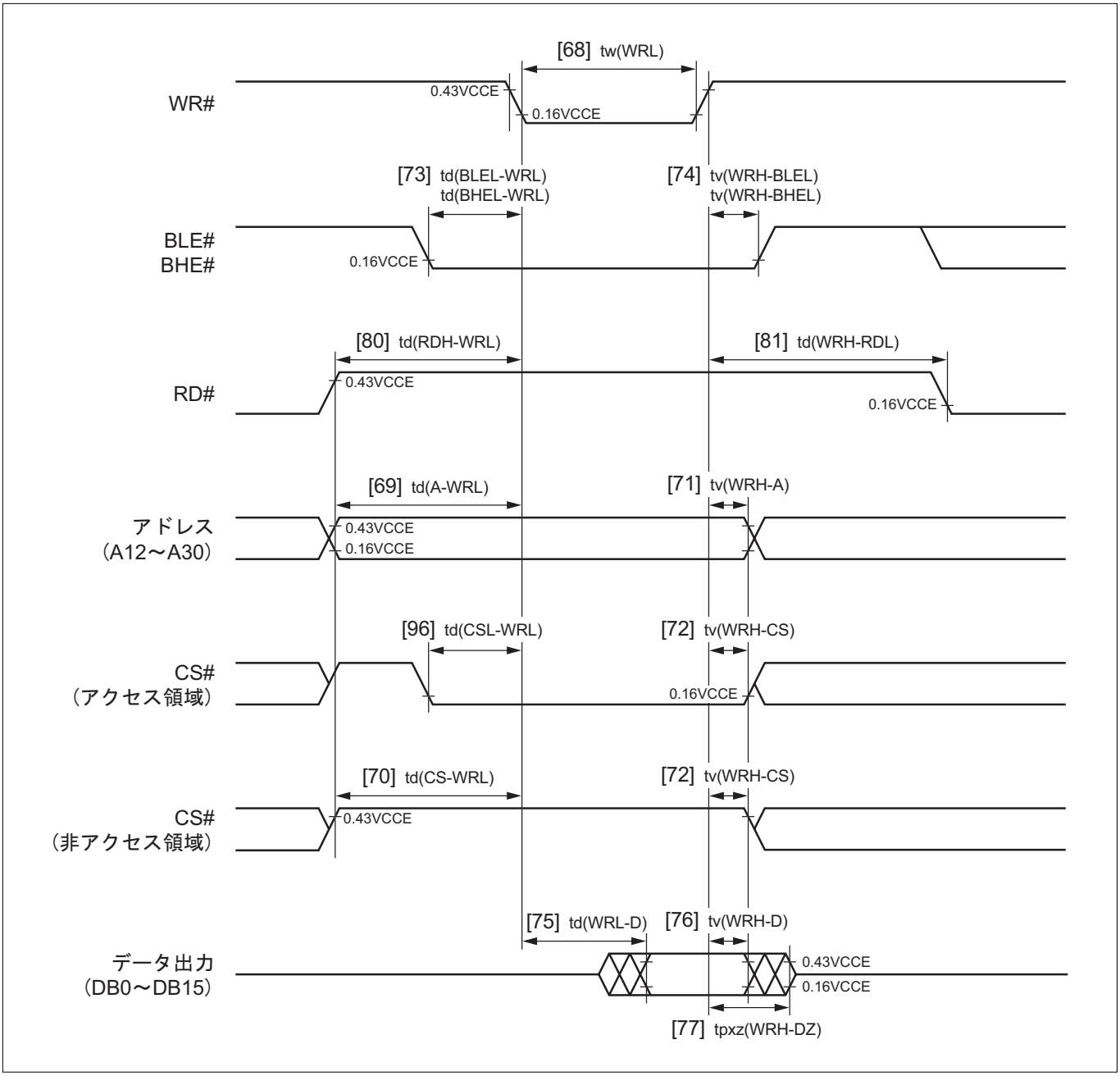


図21.8.13　**ライトタイミング（バイトイネーブルモード）**

(9)バスアービトレーションタイミング

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.14
タイミング必要条件	tsu（HREQL-BCLKH）	BCLK前HREQ#入力セットアップ時間	27		ns	[35]
	th（BCLKH-HREQL）	BCLK後HREQ#入力ホールド時間	0		ns	[36]
スイッチング特性	td（BCLKL-HACKL）	BCLK後HACK#遅延時間		29	ns	[37]
	tv（BCLKL-HACKL）	BCLK後HACK#有効時間	-11		ns	[38]

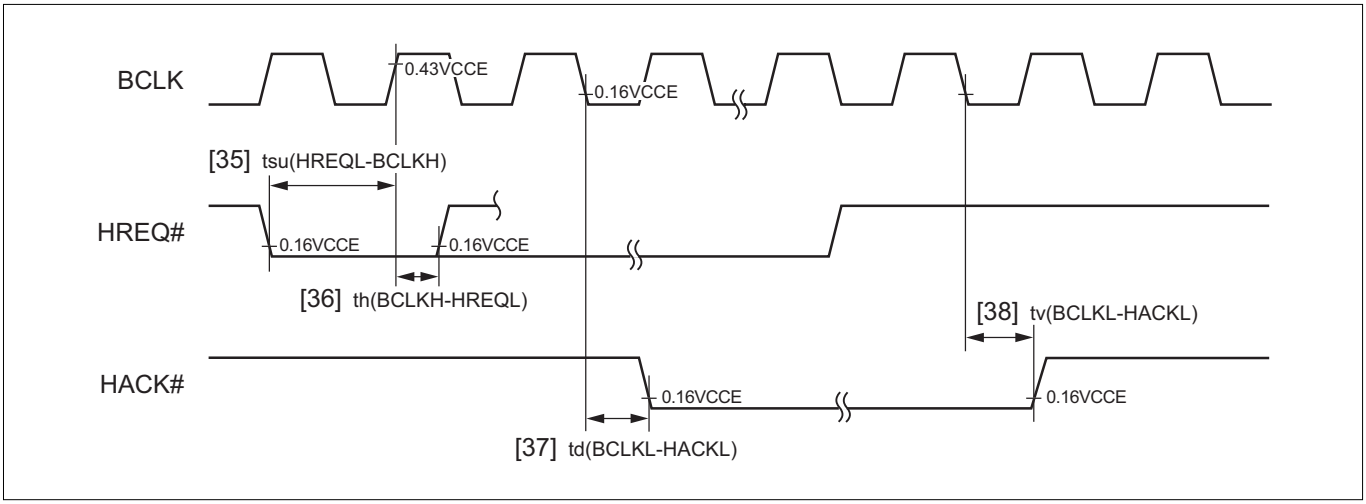
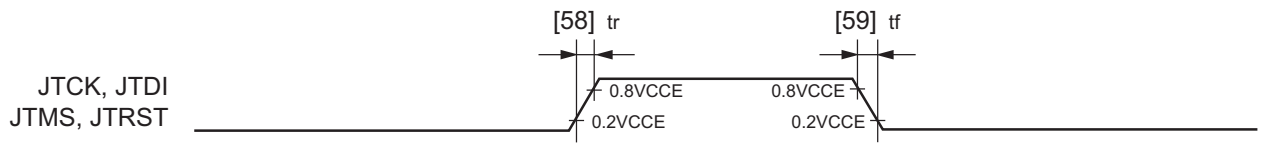


図21.8.14　バスアービトレーションタイミング

(10)JTAG端子の入力遷移時間

	記号	項目			規格値		単位	参照図番
					最小	最大		図21.8.15
タイミング必要条件	tr	入力立ち上がり遷移時間	JTRST端子以外（JTCK, JTDI, JTMS, JTDO）			10	ns	[58]
			JTRST端子	TAP使用時		10	ns	
				TAP未使用時		2	ms	
	tf	入力立ち下がり遷移時間	JTRST端子以外（JTCK, JTDI, JTMS, JTDO）			10	ns	[59]
			JTRST端子	TAP使用時		10	ns	
				TAP未使用時		2	ms	

注．・ 規格値は測定端子の負荷容量CL＝80pF時の保証値



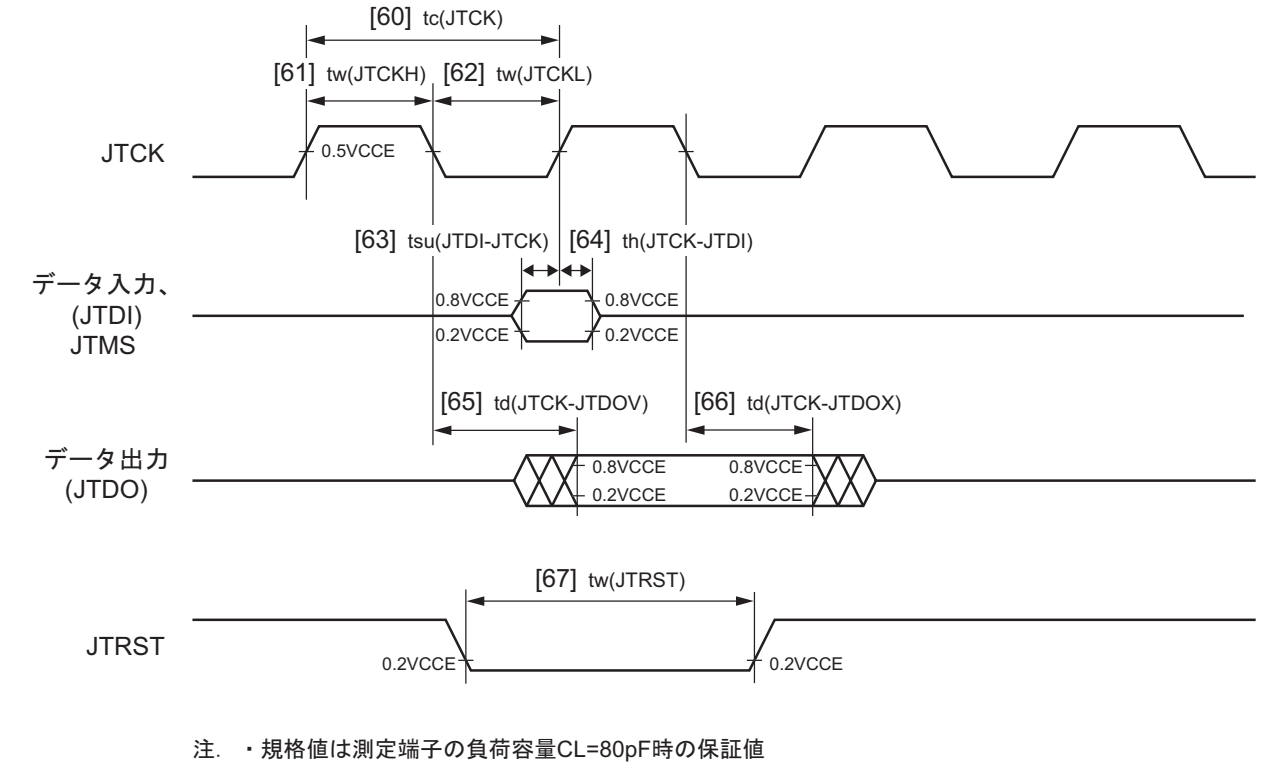
注．・規格値は測定端子の負荷容量CL=80pF時の保証値

図21.8.15　JTAG**端子の入力遷移時間**

（11）JTAG**インタフェースタイミング**

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.16
タイミング必要条件	tc（JTCK）	JTCK**入力サイクル時間**	100		ns	[60]
	tw（JTCKH）	JTCK**入力**"H"**パルス幅**	40		ns	[61]
	tw（JTCKL）	JTCK**入力**"L"**パルス幅**	40		ns	[62]
	tsu（JTDI-JTCK）	JTDI、JTMS**入力セットアップ時間**	15		ns	[63]
	th（JTCK-JTDI）	JTDI、JTMS**入力ホールド時間**	20		ns	[64]
	tw（JTRST）	JTRST**入力**"L"**パルス幅**	tc(JTCK)		ns	[67]
スイッチング特性	td（JTCK-JTDOV）	JTCK**立ち下がり後**JTDO**出力の遅延時間**		40	ns	[65]
	td（JTCK-JTDOX）	JTCK**立ち下がり後**JTDO**出力**Hi-Z**までの遅延時間**		40	ns	[66]

注．・ 規格値は測定端子の負荷容量CL＝80pF**時の保証値**



注．・規格値は測定端子の負荷容量CL=80pF時の保証値

図21.8.16　JTAG**インタフェースタイミング**

(12)RTDタイミング

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.8.17
タイミング必要条件	tc(RTDCLK)	RTDCLK入力サイクル時間	500		ns	[90]
	tw(RTDCLKH)	RTDCLK入力"H"パルス幅	230		ns	[83]
	tw(RTDCLKL)	RTDCLK入力"L"パルス幅	230		ns	[84]
	th(RTDCLKH-RTDRXD)	RTDRXD入力ホールド時間	50		ns	[88]
	tsu(RTDRXD-RTDCLKL)	RTDRXD入力セットアップ時間	60		ns	[89]
スイッチング特性	td(RTDCLKH-RTDACK)	RTDCLK入力後RTDACK遅延時間		160	ns	[85]
	tv(RTDCLKL-RTDACK)	RTDCLK入力後RTDACK有効時間		160	ns	[86]
	td(RTDCLKH-RTDTXD)	RTDCLK入力後RTDTXD遅延時間		tw(RTDCLKH)+160	ns	[87]

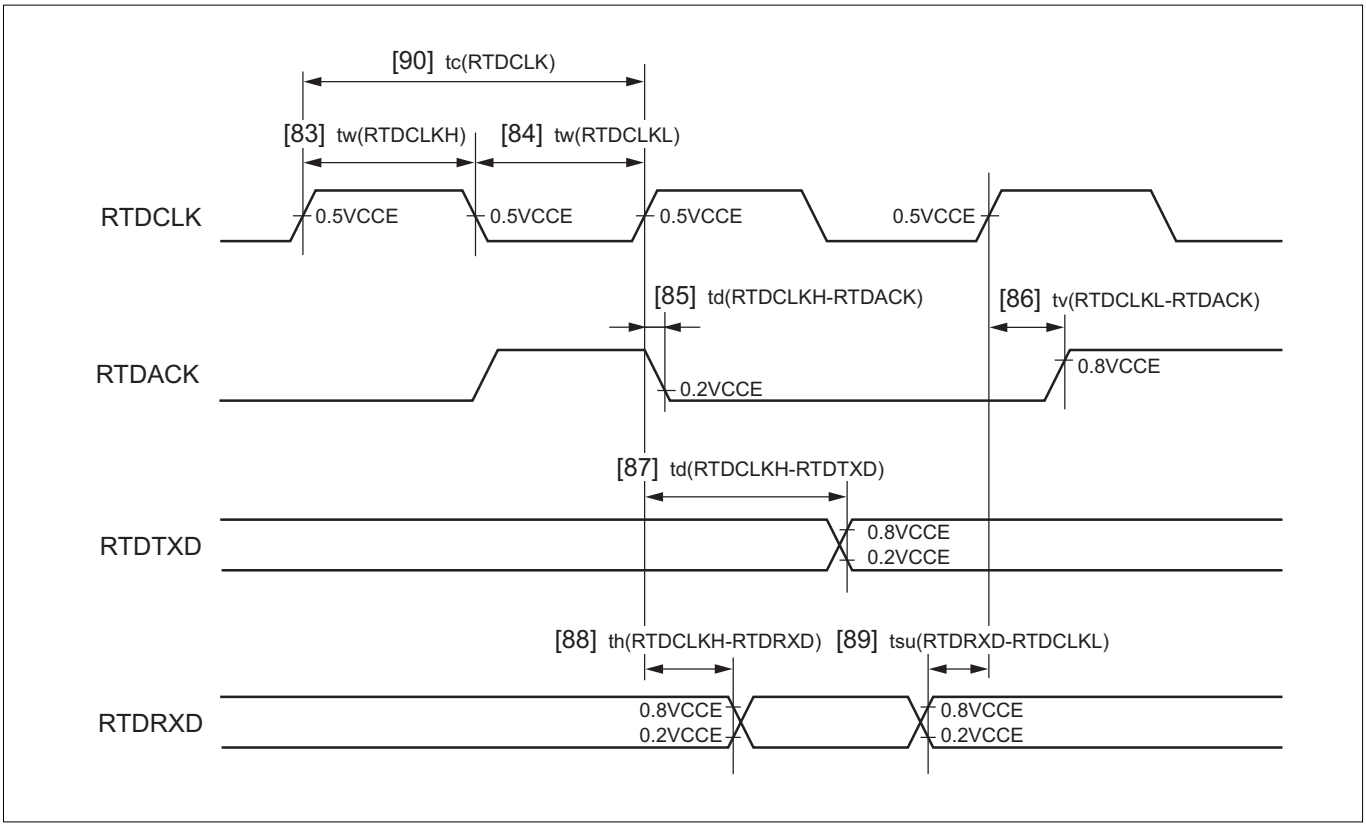


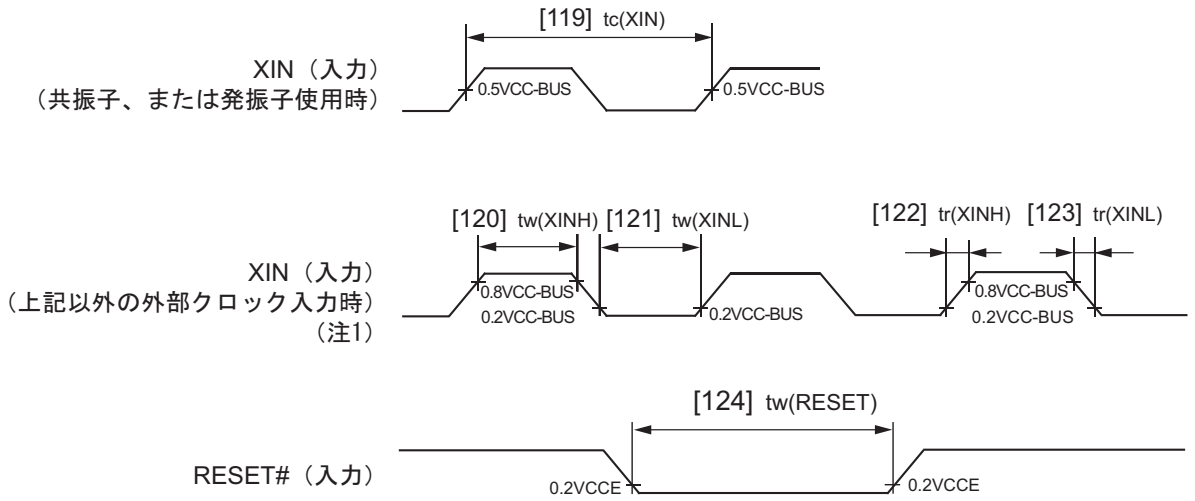
図21.8.17　RTDタイミング

21.9　AC特性（VCCE＝3.3V時）

- **指定のないタイミング条件は、**VCCE, VDDE＝3.3V±0.3V, Ta＝－40～125℃**です。**
- **規格値は測定端子の出力負荷容量が**15pF～50pF**の時の保証値（ただし、**JTAG**関連は**80pF**の集中キャパシタンス時の保証値）です。**

(1)クロックおよびリセットタイミング

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.1
タイミング必要条件	tc(XIN)	クロック入力サイクル時間	100	200	ns	[119]
	tw(XINH)	外部クロック入力"H"パルス幅	35		ns	[120]
	tw(XINL)	外部クロック入力"L"パルス幅	35		ns	[121]
	tr(XINH)	外部クロック入力立ち上がり時間		10	ns	[122]
	tr(XINL)	外部クロック入力立ち下がり時間		10	ns	[123]
	tw(RESET)	リセット入力"L"パルス幅	200		ns	[124]



注1.　XOUT端子はオープンにして寄生容量を10pF以下としてください。
　　クロック制御レジスタ（CLKCR）のXDRVビットは、B'11（最大）を選択してください。

図21.9.1　**クロックおよびリセットタイミング**

(2)入出力ポート

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.2
タイミング必要条件	tsu(P-E)	ポート入力セットアップ時間	100		ns	[1]
	th(E-P)	ポート入力ホールド時間	0		ns	[2]
スイッチング特性	td(E-P)	ポートデータ出力遅延時間		100	ns	[3]

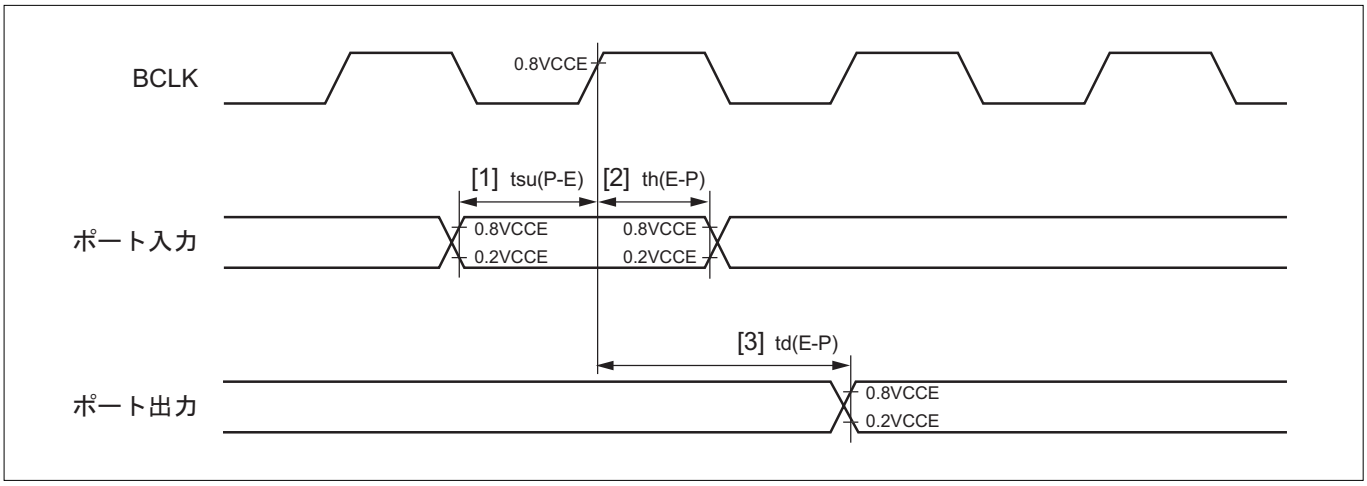


図21.9.2　入出力ポートタイミング

(3)シリアルインタフェース

a) CSIOモード、内部クロック選択時

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.3
タイミング必要条件	tsu(D-CLK)	RXD入力セットアップ時間	150		ns	[4]
	th(CLK-D)	RXD入力ホールド時間	50		ns	[5]
スイッチング特性	td(CLK-D)	TXD出力遅延時間		60	ns	[6]
	th(CLK-D)	TXDホールド時間	0		ns	[82]

b) CSIOモード、外部クロック選択時

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.3
タイミング必要条件	tc(CLK)	CLK入力サイクル時間	640		ns	[7]
	tw(CLKH)	CLK入力"H"パルス幅	300		ns	[8]
	tw(CLKL)	CLK入力"L"パルス幅	300		ns	[9]
	tsu(D-CLK)	RXD入力セットアップ時間	60		ns	[10]
	th(CLK-D)	RXD入力ホールド時間	100		ns	[11]
スイッチング特性	td(CLK-D)	TXD出力遅延時間		160	ns	[12]

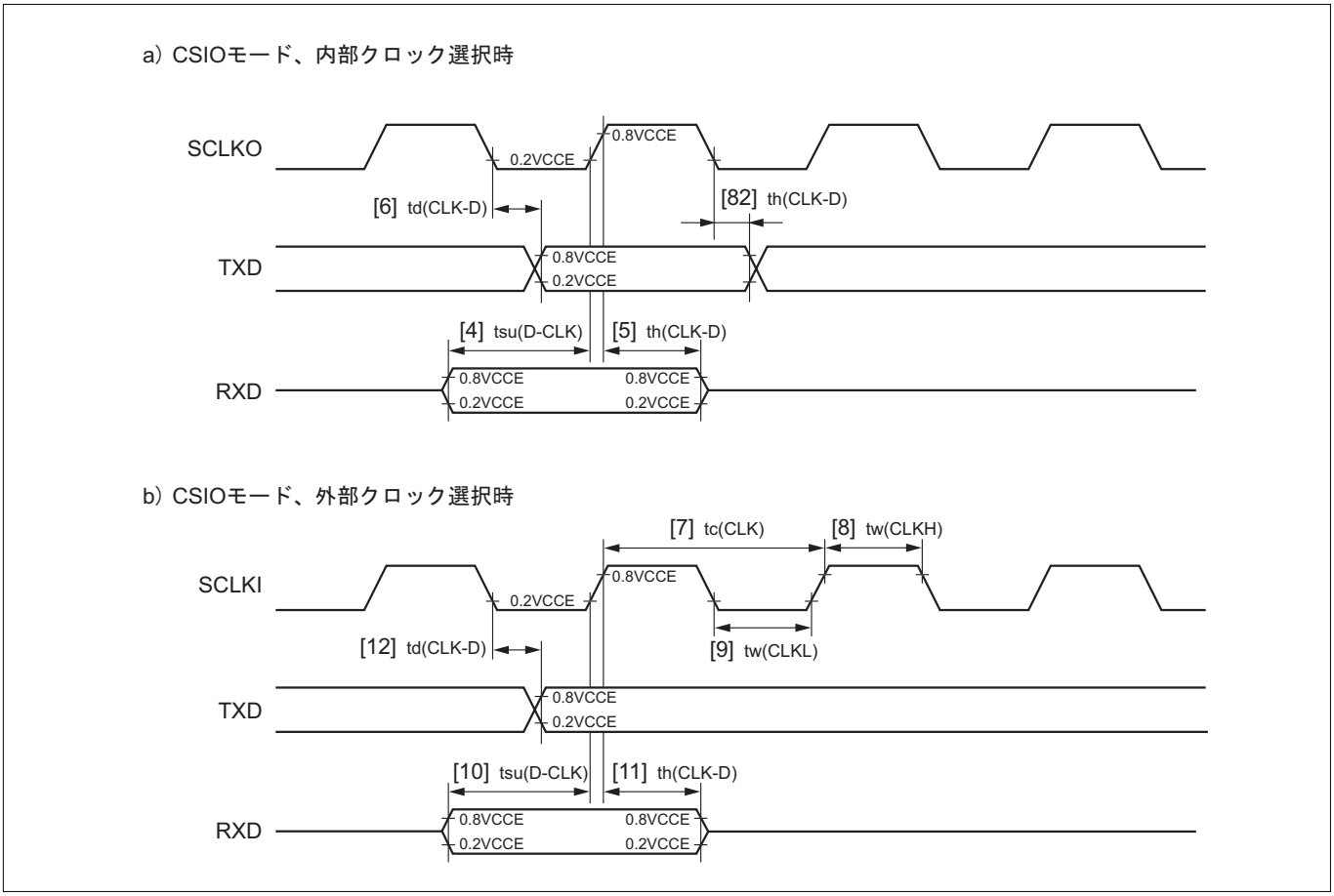


図21.9.3　シリアルインタフェースタイミング

(4)SBI

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.4
タイミング必要条件	tw(SBIL)	SBI#入力パルス幅	5× $\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[13]

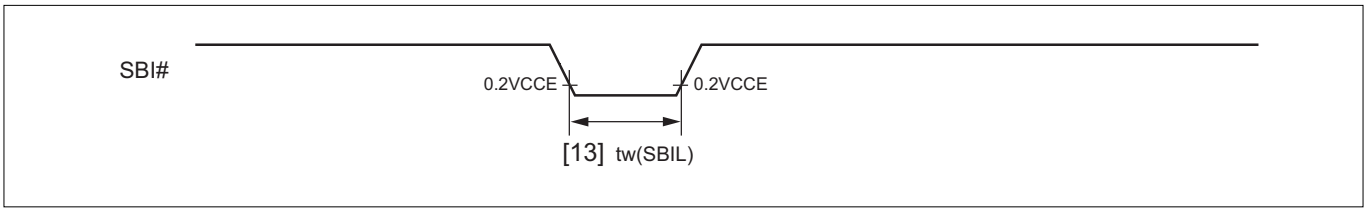


図21.9.4　SBIタイミング

(5)TIN

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.5
タイミング必要条件	tw(TIN)	TIN入力パルス幅	7× $\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[14]

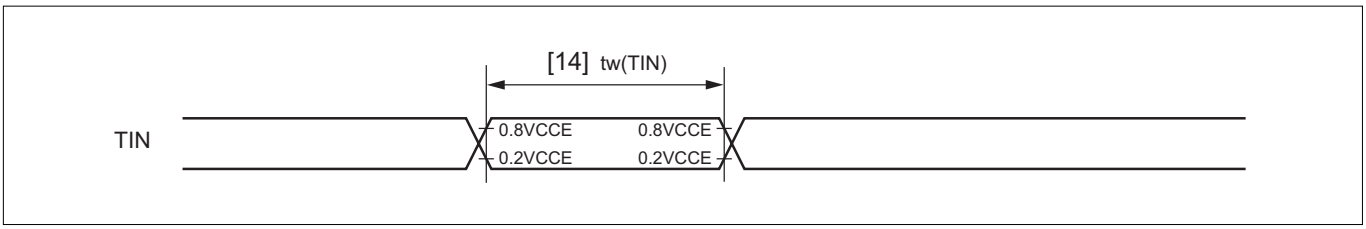


図21.9.5　TINタイミング

(6)TO

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.6
スイッチング特性	td(BCLK-TO)	TO出力遅延時間		100	ns	[15]

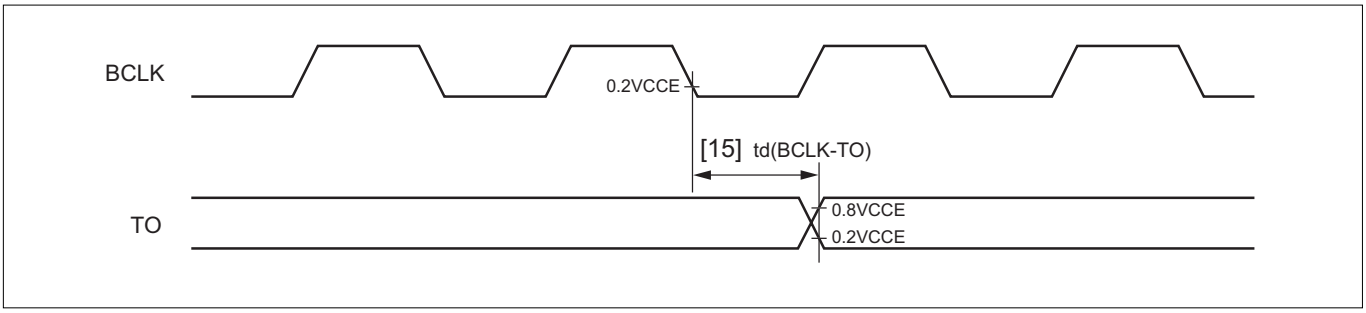


図21.9.6　TOタイミング

（7）TCLK

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.7
タイミング必要条件	tw（TCLKH）	TCLK入力"H"パルス幅	7× $\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[99]
	tw（TCLKL）	TCLK入力"L"パルス幅	7× $\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[100]

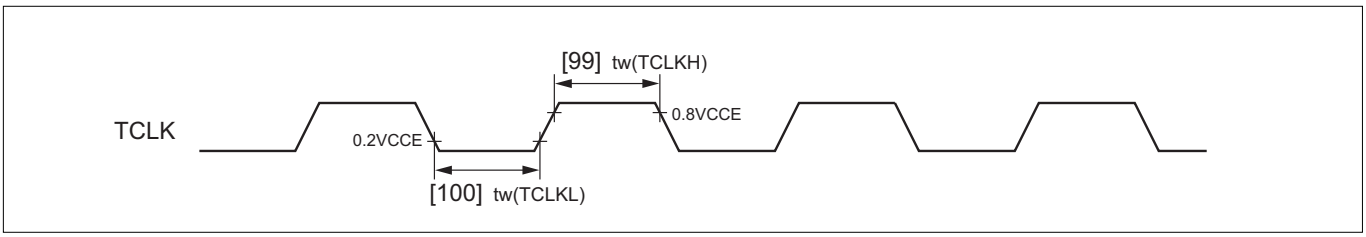
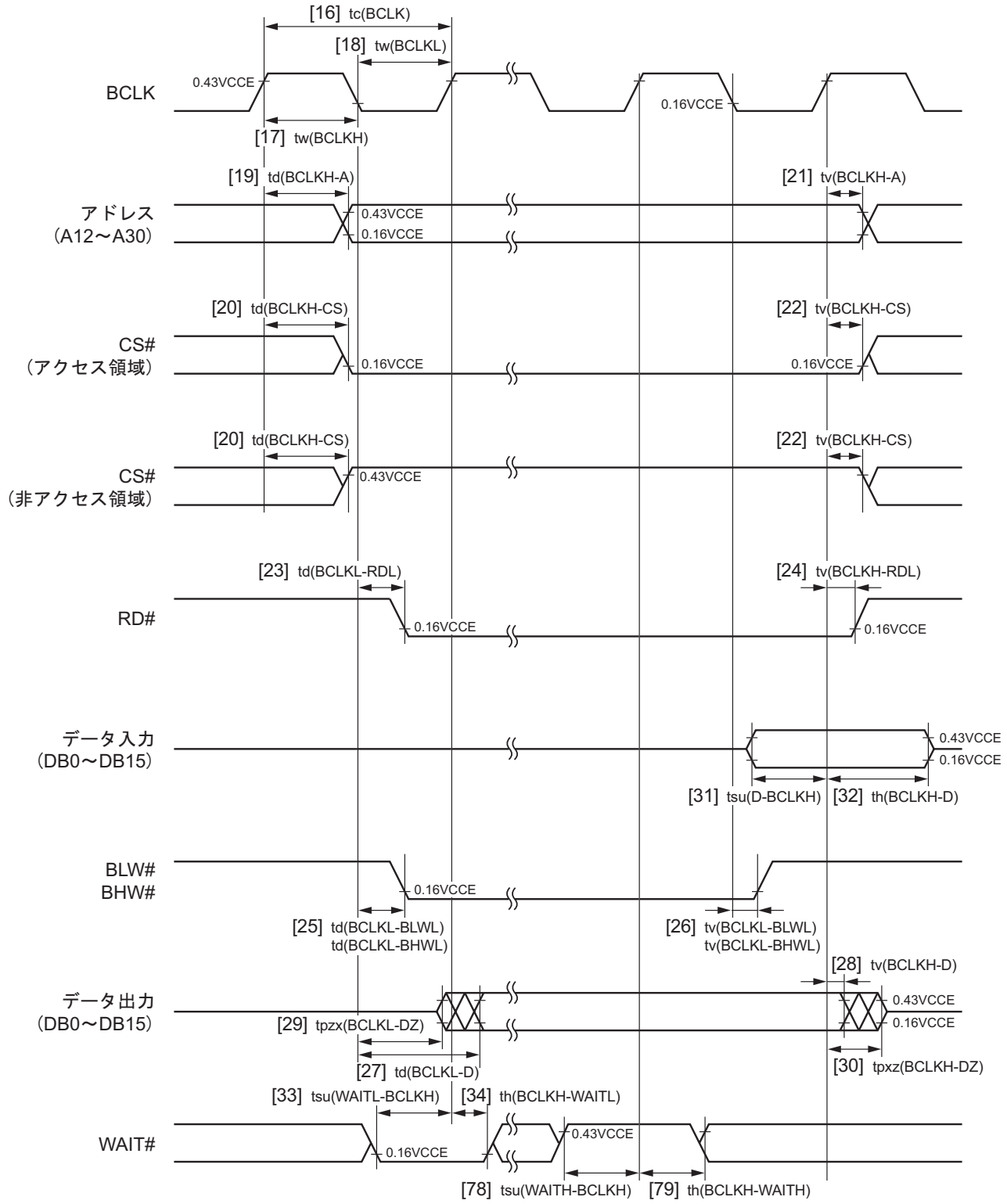


図21.9.7　TCLKタイミング

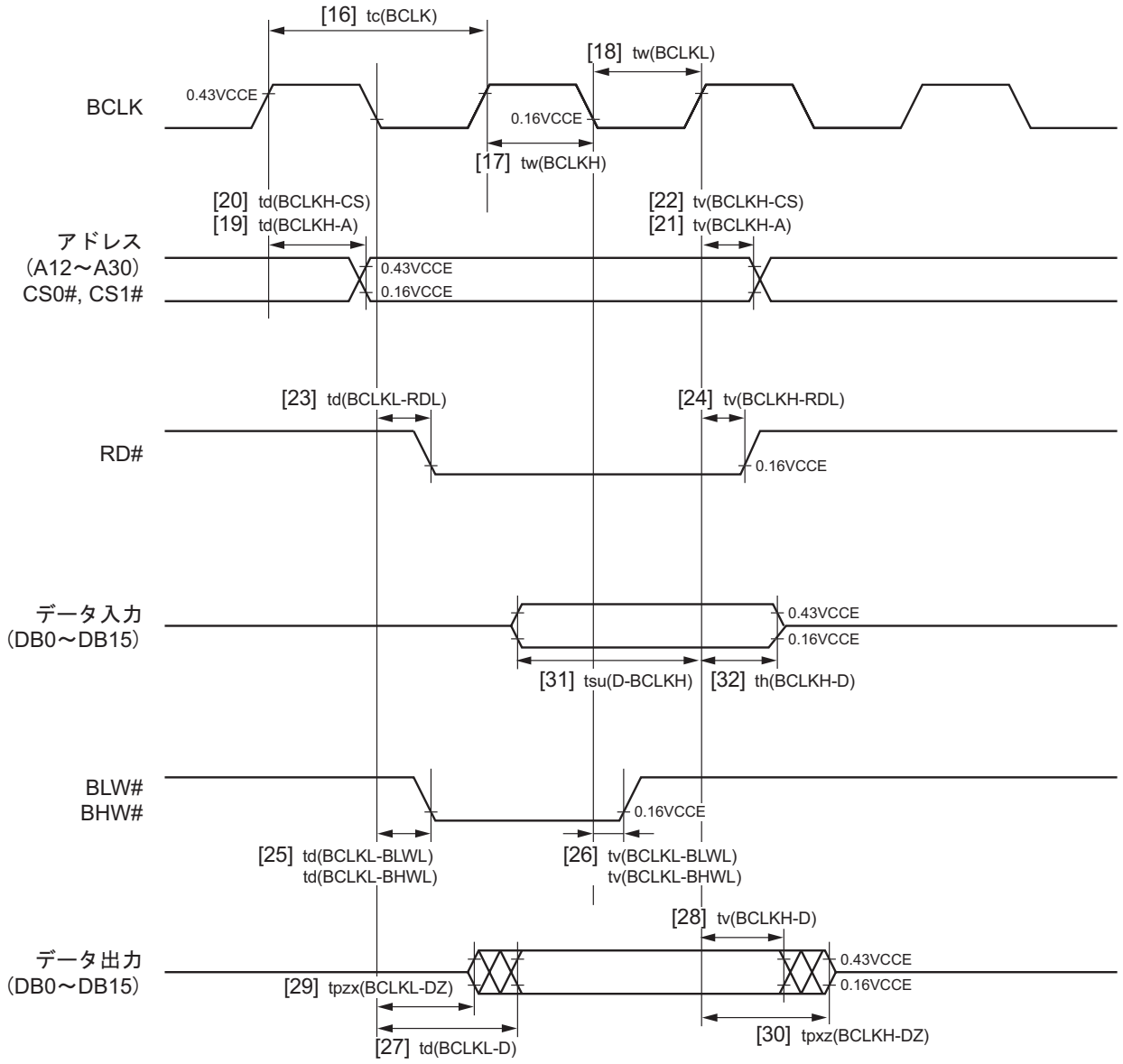
（8）リードおよびライトタイミング（1/4）

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.8 図21.9.9
タイミング必要条件	tsu（D-BCLKH）	BCLK前データ入力セットアップ時間	26		ns	[31]
	th（BCLKH-D）	BCLK後データ入力ホールド時間	0		ns	[32]
	tsu（WAITL-BCLKH）	BCLK前WAIT#入力セットアップ時間	26		ns	[33]
	th（BCLKH-WAITL）	BCLK後WAIT#入力ホールド時間	0		ns	[34]
	tsu（WAITH-BCLKH）	BCLK前WAIT#入力セットアップ時間	26		ns	[78]
	th（BCLKH-WAITH）	BCLK後WAIT#入力ホールド時間	0		ns	[79]
スイッチング特性	tc（BCLK）	BCLK出力サイクル時間		$\frac{tc(XIN)}{2}$	ns	[16]
	tw（BCLKH）	BCLK出力"H"パルス幅	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -5		ns	[17]
	tw（BCLKL）	BCLK出力"L"パルス幅	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -5		ns	[18]
	td（BCLKH-A）	BCLK後アドレス遅延時間		29	ns	[19]
	td（BCLKH-CS）	BCLK後チップセレクト遅延時間		30	ns	[20]
	tv（BCLKH-A）	BCLK後アドレス有効時間	-11		ns	[21]
	tv（BCLKH-CS）	BCLK後チップセレクト有効時間	-11		ns	[22]
	td（BCLKL-RDL）	BCLK後リード遅延時間		14	ns	[23]
	tv（BCLKH-RDL）	BCLK後リード有効時間	-12		ns	[24]
	td（BCLKL-BLWL） td（BCLKL-BHWL）	BCLK後ライト遅延時間		14	ns	[25]
	tv（BCLKL-BLWL） tv（BCLKL-BHWL）	BCLK後ライト有効時間	-12		ns	[26]
	td（BCLKL-D）	BCLK後データ出力遅延時間		18	ns	[27]
	tv（BCLKH-D）	BCLK後データ出力有効時間	-16		ns	[28]
	tpzx（BCLKL-DZ）	BCLK後データ出力イネーブル時間	-19		ns	[29]
	tpxz（BCLKH-DZ）	BCLK後データ出力ディスエーブル時間		5	ns	[30]



注.　・各信号間のタイミングについては、「図21.8.9 リードタイミング（リードパルスを基準）」、「図21.8.10 ライトタイミング（ライトパルスを基準）」を参照してください。
・データ入力、WAIT#の判定電圧レベルは、しきい値切り換え機能使用時はVIH、VIL規格の最小、最大値が適用されます。

図21.9.8　**リードおよびライトタイミング（**BCLK**基準）　外部**WAIT**挿入時（**1**ウェイト以上）**

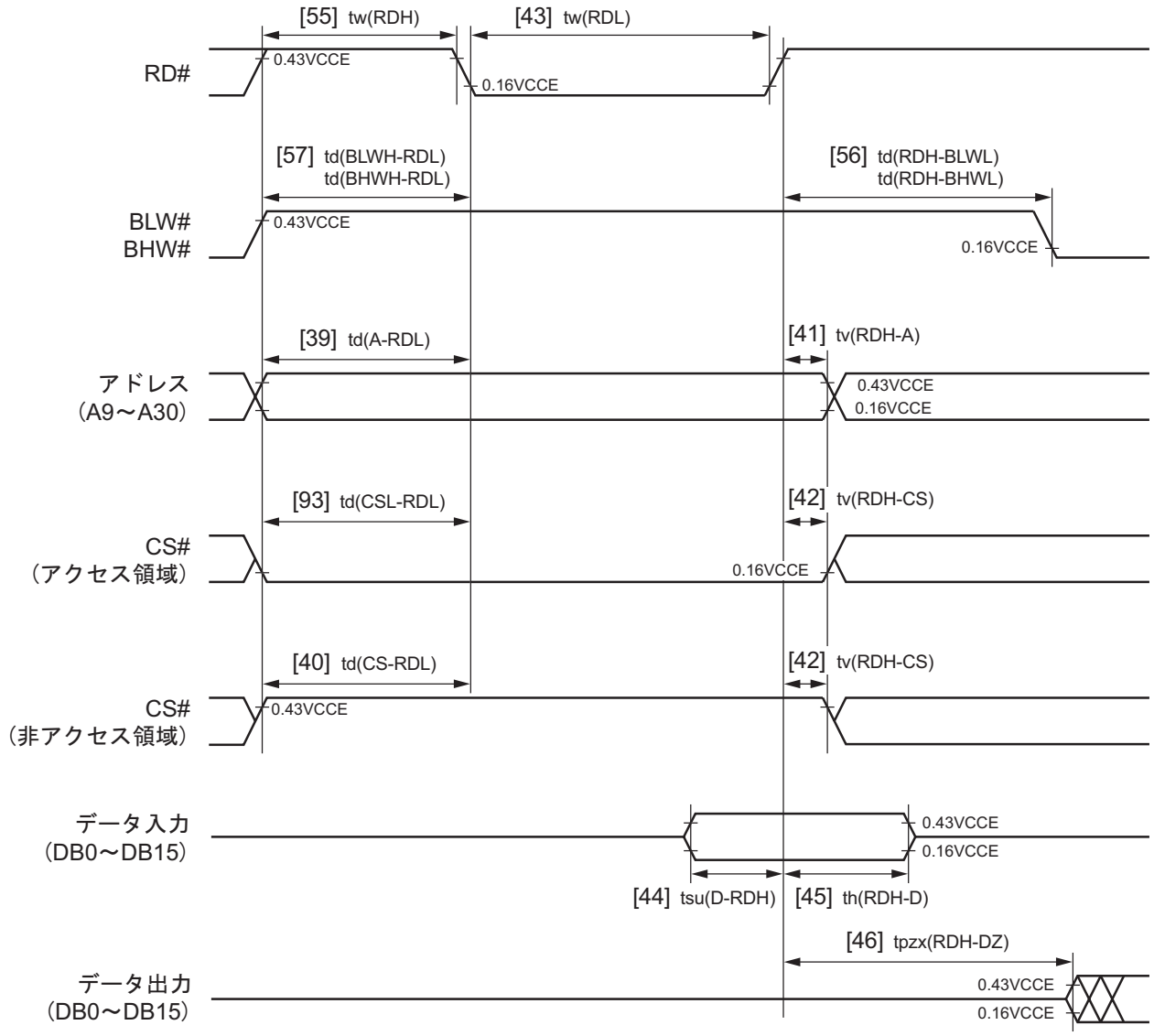


注.　・データ入力の判定電圧レベルは、しきい値切り換え機能使用時はVIH、VIL規格の最小、最大値が適用されます。

図21.9.9　**リードおよびライトタイミング（**BCLK**基準）　**1**ウェイト時**

(8)リードおよびライトタイミング(2/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.10 図21.9.11
タイミング必要条件	tsu(D-RDH)	リード前データ入力セットアップ時間	30		ns	[44]
	th(RDH-D)	リード後データ入力ホールド時間	0		ns	[45]
	tsu(WAITH-RDL) tsu(WAITL-RDL)	リード前ウェイト入力セットアップ時間	tc(BCLK)+21		ns	[132]
	tw(WAITH)	ウェイト"H"パルス幅	26		ns	[133]
	tw(WAITL)	ウェイト"L"パルス幅	26		ns	[134]
	tsu(WAITH-BLWL) tsu(WAITH-BHWL) tsu(WAITL-BLWL) tsu(WAITL-BHWL)	ライト前ウェイト入力セットアップ時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ +21		ns	[135]
スイッチング特性	td(A-RDL)	リード前アドレス遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[39]
	td(CS-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[40]
	tv(RDH-A)	リード後アドレス有効時間	0		ns	[41]
	tv(RDH-CS)	リード後チップセレクト有効時間	0		ns	[42]
	tw(RDL)	リード"L"パルス幅	3× $\frac{tc(BCLK)}{2}$ -23		ns	[43]
	tpzx(RDH-DZ)	リード後データ出力イネーブル時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[46]
	td(A-BLWL) td(A-BHWL)	ライト前アドレス遅延時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[47]
	td(CS-BLWL) td(CS-BHWL)	ライト前チップセレクト遅延時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[48]
	tv(BLWH-A) tv(BHWH-A)	ライト後アドレス有効時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[49]
	tv(BLWH-CS) tv(BHWH-CS)	ライト後チップセレクト有効時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[50]
	tw(BLWL) tw(BHWL)	ライト"L"パルス幅 (バイトライトモード)	tc(BCLK)-25		ns	[51]
	td(BLWL-D) td(BHWL-D)	ライト後データ出力遅延時間 (バイトライトモード)		15	ns	[52]
	tv(BLWH-D) tv(BHWH-D)	ライト後データ出力有効時間 (バイトライトモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -13		ns	[53]
	tpxz(BLWH-DZ) tpxz(BHWH-DZ)	ライト後データ出力ディスエーブル時間 (バイトライトモード)		$\frac{tc(BCLK)}{2}$ +5	ns	[54]
	tw(RDH)	リード"H"パルス幅	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -3		ns	[55]
	td(RDH-BLWL) td(RDH-BHWL)	リード後ライト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -10		ns	[56]
	td(BLWH-RDL) td(BHWH-RDL)	ライト後リード遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -10		ns	[57]
	td(CSL-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -20		ns	[93]
	td(CSL-BLWL) td(CSL-BHWL)	ライト前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -20		ns	[95]



注. ・データ入力の判定電圧レベルは、しきい値切り換え機能使用時はVIH、VIL規格の最小、最大値が適用されます。

図21.9.10　**リードタイミング（リードパルスを基準）**

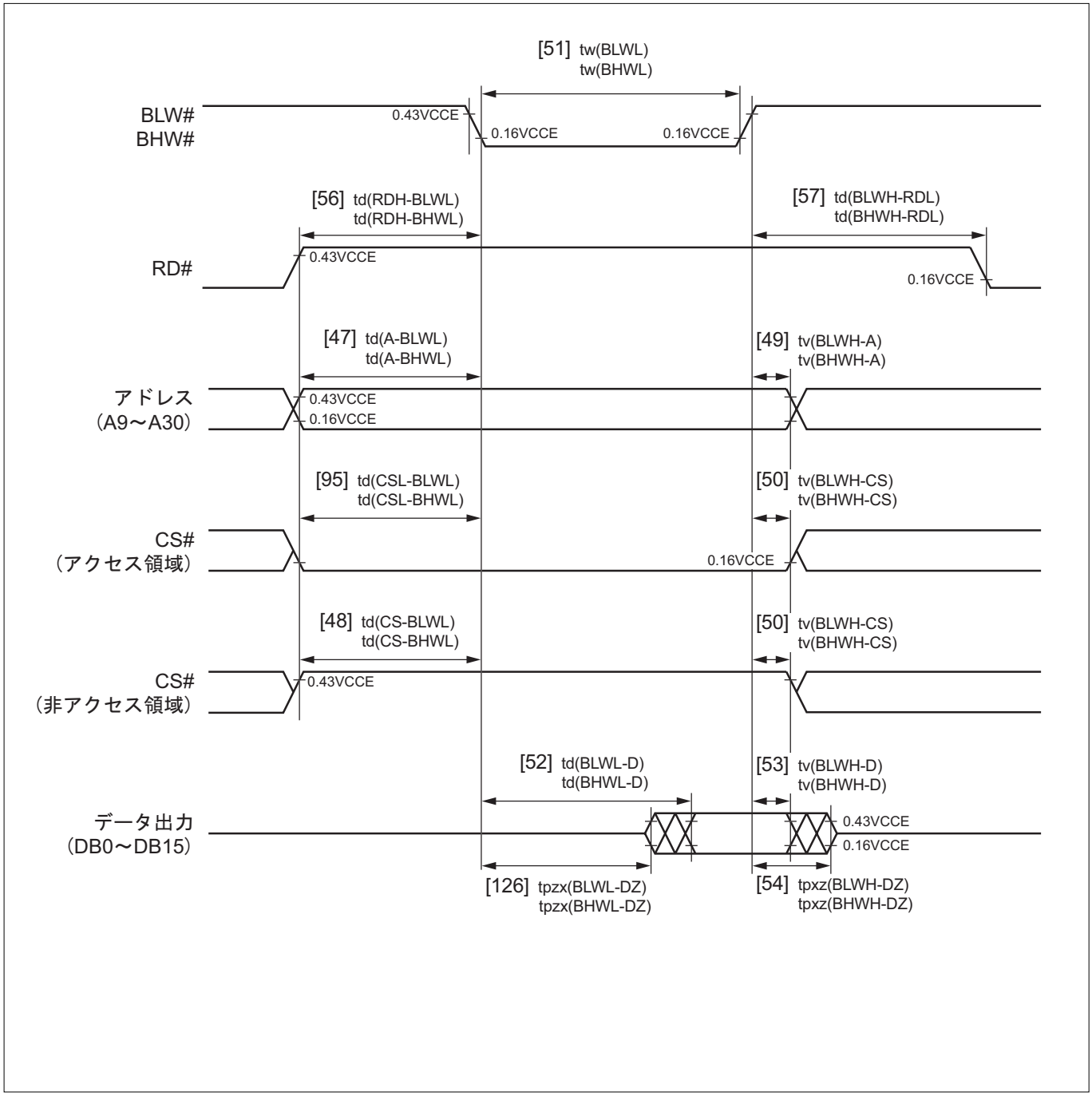


図21.9.11　**ライトタイミング（ライトパルスを基準）**

(8)リードおよびライトタイミング(3/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.12
タイミング必要条件	tsu(D-RDH)	リード前データ入力セットアップ時間	30		ns	[44]
	th(RDH-D)	リード前データ入力ホールド時間	0		ns	[45]
スイッチング特性	td(A-RDL)	リード前アドレス遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[39]
	td(CSL-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-15		ns	[40]
	tv(RDH-A)	リード後アドレス有効時間	0		ns	[41]
	tv(RDH-CS)	リード後チップセレクト有効時間	0		ns	[42]
	tw(RDL)	リード"L"パルス幅	3× $\frac{tc(BCLK)}{2}$ -23		ns	[43]
	tpzx(RDH-DZ)	リード後データ出力イネーブル時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$		ns	[46]
	td(RDH-WRL)	リード後ライト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-10		ns	[80]
	td(WRH-RDL)	ライト後リード遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-10		ns	[81]
	td(CSL-RDL)	リード前チップセレクト遅延時間	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-20		ns	[93]
	td(BLEL-RDL) td(BHEL-RDL)	リード前バイトイネーブル遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$-20		ns	[136]
	tv(RDH-BLEL) tv(RDH-BHEL)	リード後バイトイネーブル有効時間 (バイトイネーブルモード)	-5		ns	[137]

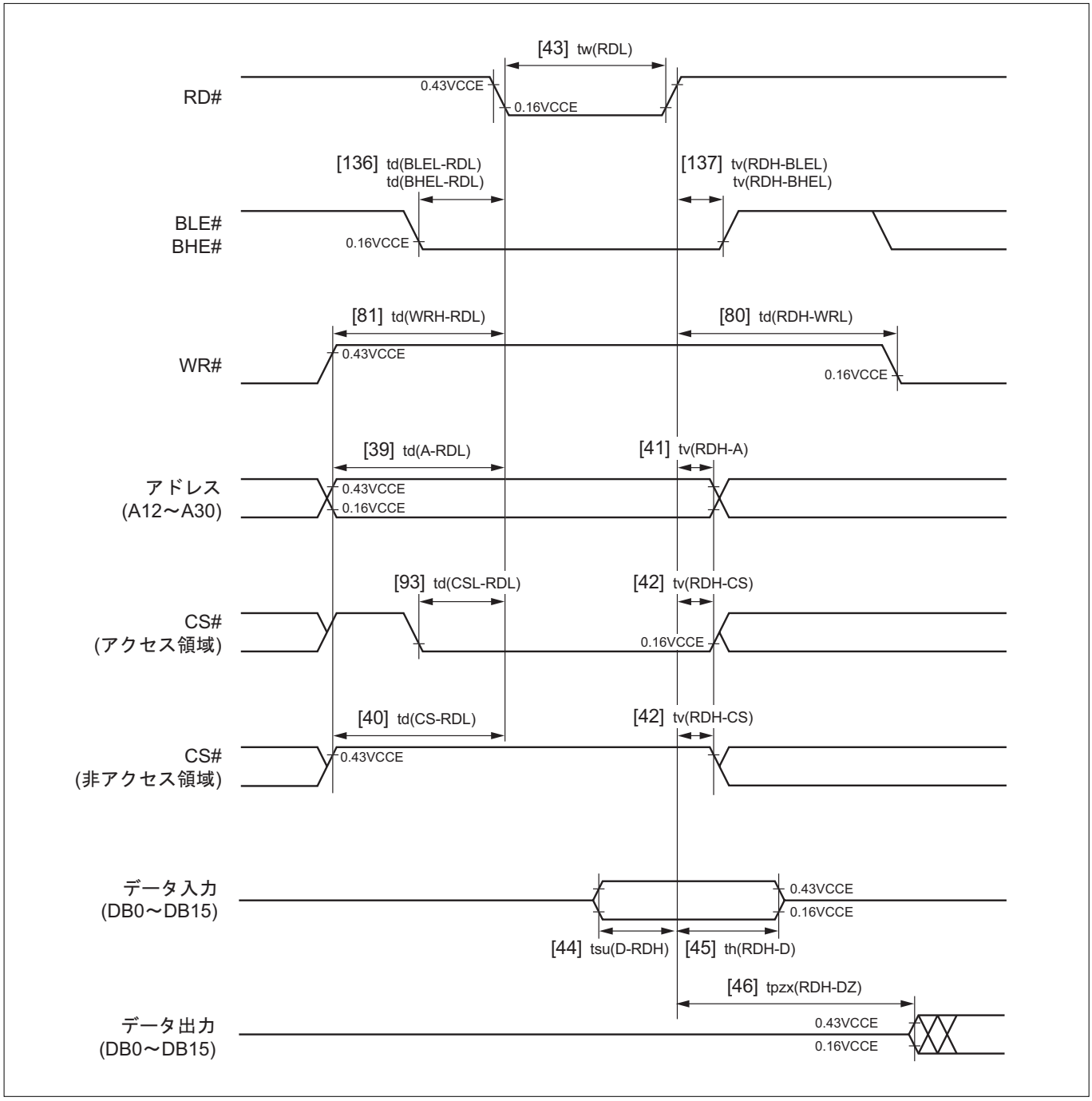


図21.9.12　**リードタイミング（バイトイネーブルモード）**

(8)リードおよびライトタイミング(4/4)

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.13
スイッチング特性	tw(WRL)	ライト"L"パルス幅 (バイトイネーブルモード)	tc(BCLK)-25		ns	[68]
	td(A-WRL)	ライト前アドレス遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[69]
	td(CS-WRL)	ライト前チップセレクト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[70]
	tv(WRH-A)	ライト後アドレス有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[71]
	tv(WRH-CS)	ライト後チップセレクト有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[72]
	td(BLEL-WRL) td(BHEL-WRL)	ライト前バイトイネーブル遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[73]
	tv(WRH-BLEL) tv(WRH-BHEL)	ライト後バイトイネーブル有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[74]
	td(WRL-D)	ライト後データ出力遅延時間 (バイトイネーブルモード)		15	ns	[75]
	tv(WRH-D)	ライト後データ出力有効時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -13		ns	[76]
	tpxz(WRH-DZ)	ライト後データ出力ディスエーブル時間 (バイトイネーブルモード)		$\frac{tc(BCLK)}{2}$ +5	ns	[77]
	td(RDH-WRL)	リード後ライト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -10		ns	[80]
	td(WRH-RDL)	ライト後リード遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -10		ns	[81]
	td(CSL-WRL)	ライト前チップセレクト遅延時間 (バイトイネーブルモード)	$\frac{tc(BCLK)}{2}$ -15		ns	[96]

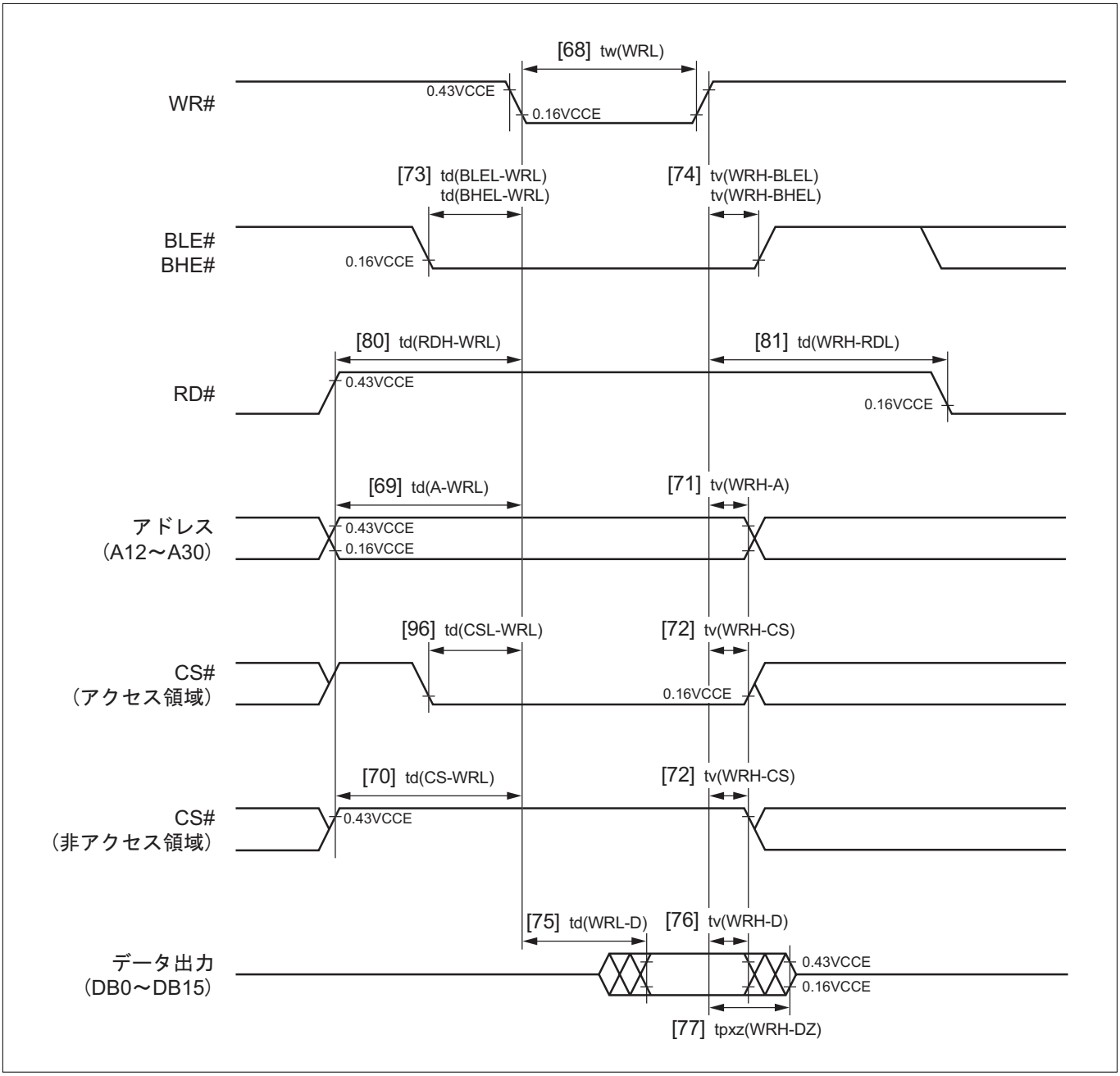


図21.9.13　**ライトタイミング（バイトイネーブルモード）**

(9)バスアービトレーションタイミング

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.14
タイミング必要条件	tsu(HREQL-BCLKH)	BCLK前HREQ#入力セットアップ時間	27		ns	[35]
	th(BCLKH-HREQL)	BCLK後HREQ#入力ホールド時間	0		ns	[36]
スイッチング特性	td(BCLKL-HACKL)	BCLK後HACK#遅延時間		29	ns	[37]
	tv(BCLKL-HACKL)	BCLK後HACK#有効時間	-11		ns	[38]

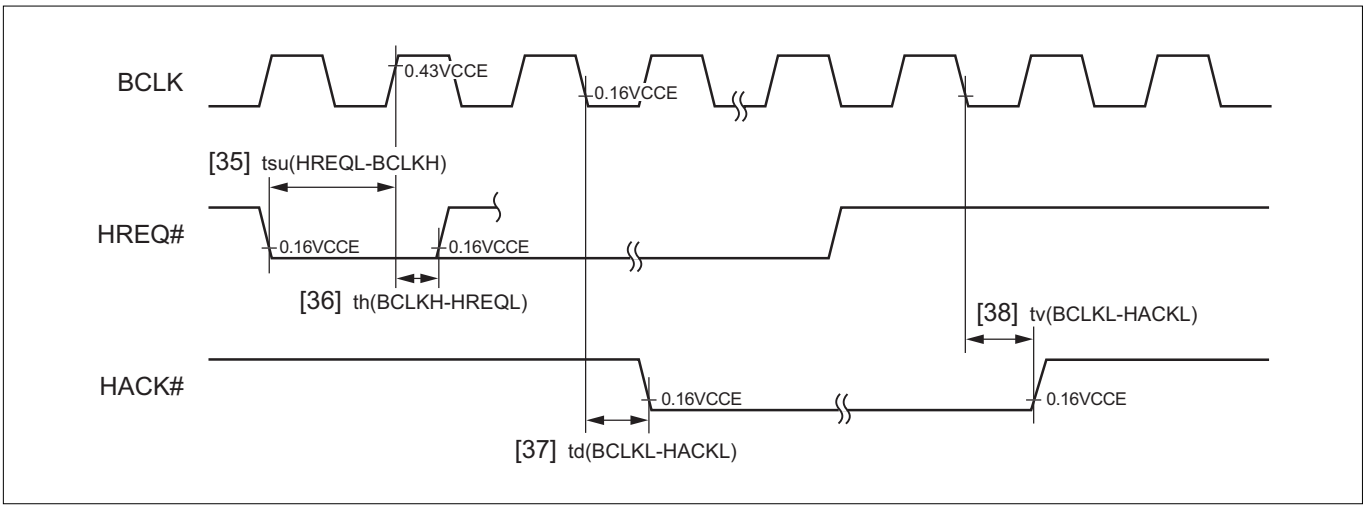
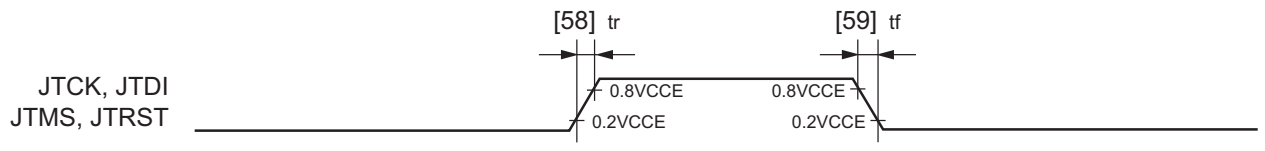


図21.9.14　バスアービトレーションタイミング

(10)JTAG端子の入力遷移時間

	記号	項目			規格値		単位	参照図番
					最小	最大		図21.9.15
タイミング必要条件	tr	入力立ち上がり遷移時間	JTRST端子以外 (JTCK, JTDI, JTMS, JTDO)			10	ns	[58]
			JTRST端子	TAP使用時		10	ns	
				TAP未使用時		2	ms	
	tf	入力立ち下がり遷移時間	JTRST端子以外 (JTCK, JTDI, JTMS, JTDO)			10	ns	[59]
			JTRST端子	TAP使用時		10	ns	
				TAP未使用時		2	ms	

注．・ 規格値は測定端子の負荷容量CL＝80pF時の保証値



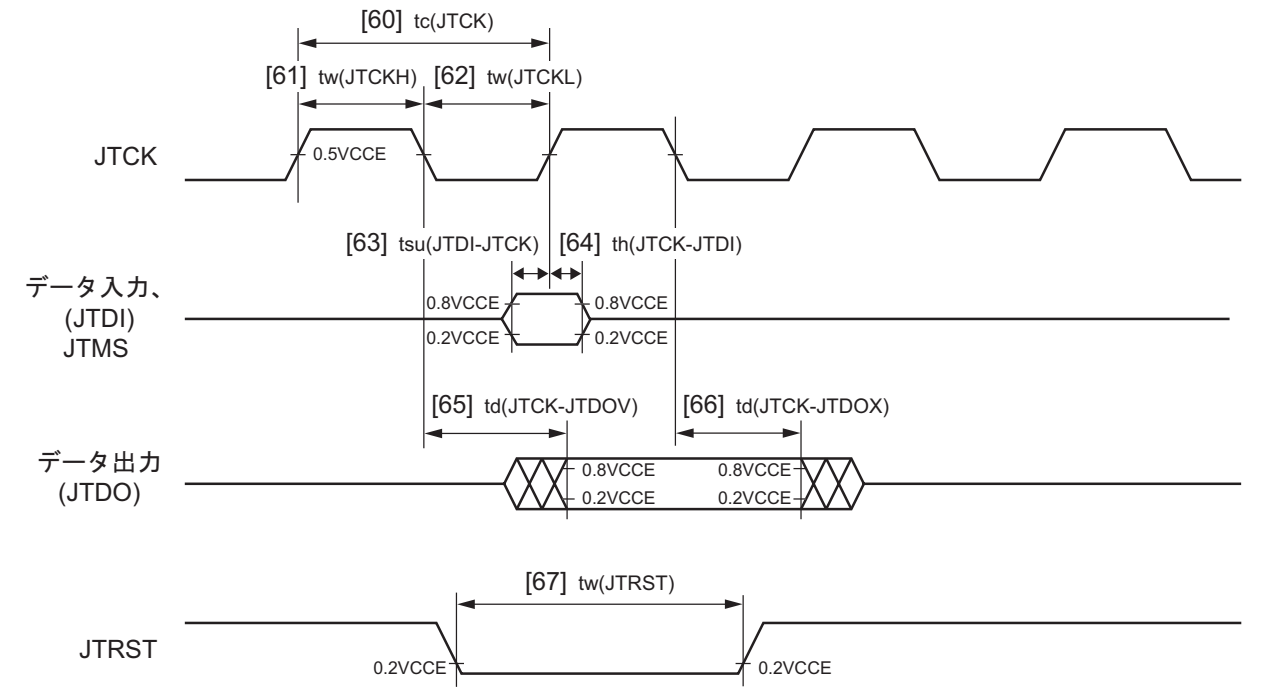
注．・規格値は測定端子の負荷容量CL=80pF時の保証値

図21.9.15　JTAG**端子の入力遷移時間**

(11)JTAG**インタフェースタイミング**

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.16
タイミング必要条件	tc(JTCK)	JTCK**入力サイクル時間**	100		ns	[60]
	tw(JTCKH)	JTCK**入力**"H"**パルス幅**	40		ns	[61]
	tw(JTCKL)	JTCK**入力**"L"**パルス幅**	40		ns	[62]
	tsu(JTDI-JTCK)	JTDI、JTMS**入力セットアップ時間**	15		ns	[63]
	th(JTCK-JTDI)	JTDI、JTMS**入力ホールド時間**	20		ns	[64]
	tw(JTRST)	JTRST**入力**"L"**パルス幅**	tc(JTCK)		ns	[67]
スイッチング特性	td(JTCK-JTDOV)	JTCK**立ち下がり後**JTDO**出力の遅延時間**		40	ns	[65]
	td(JTCK-JTDOX)	JTCK**立ち下がり後**JTDO**出力**Hi-Z**までの遅延時間**		40	ns	[66]

注．・ 規格値は測定端子の負荷容量CL＝80pF**時の保証値**



注．・規格値は測定端子の負荷容量CL=80pF時の保証値

図21.9.16　JTAG**インタフェースタイミング**

（12）RTDタイミング

	記号	項目	規格値		単位	参照図番
			最小	最大		図21.9.17
タイミング必要条件	tc（RTDCLK）	RTDCLK入力サイクル時間	500		ns	[90]
	tw（RTDCLKH）	RTDCLK入力"H"パルス幅	230		ns	[83]
	tw（RTDCLKL）	RTDCLK入力"L"パルス幅	230		ns	[84]
	th（RTDCLKH-RTDRXD）	RTDRXD入力ホールド時間	50		ns	[88]
	tsu（RTDRXD-RTDCLKL）	RTDRXD入力セットアップ時間	60		ns	[89]
スイッチング特性	td（RTDCLKH-RTDACK）	RTDCLK入力後RTDACK遅延時間		160	ns	[85]
	tv（RTDCLKL-RTDACK）	RTDCLK入力後RTDACK有効時間		160	ns	[86]
	td（RTDCLKH-RTDTXD）	RTDCLK入力後RTDTXD遅延時間		tw（RTDCLKH）+160	ns	[87]

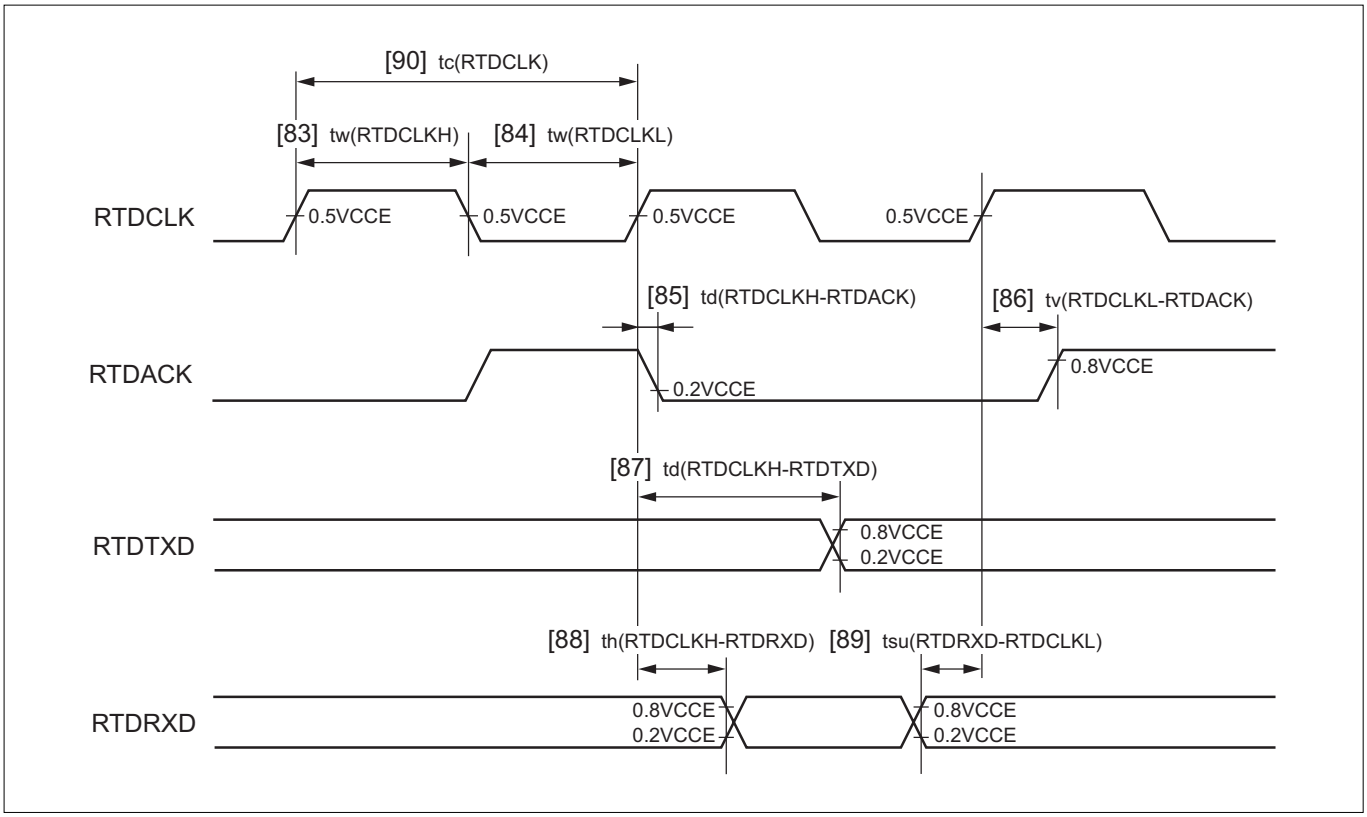


図21.9.17　RTDタイミング

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

付録1

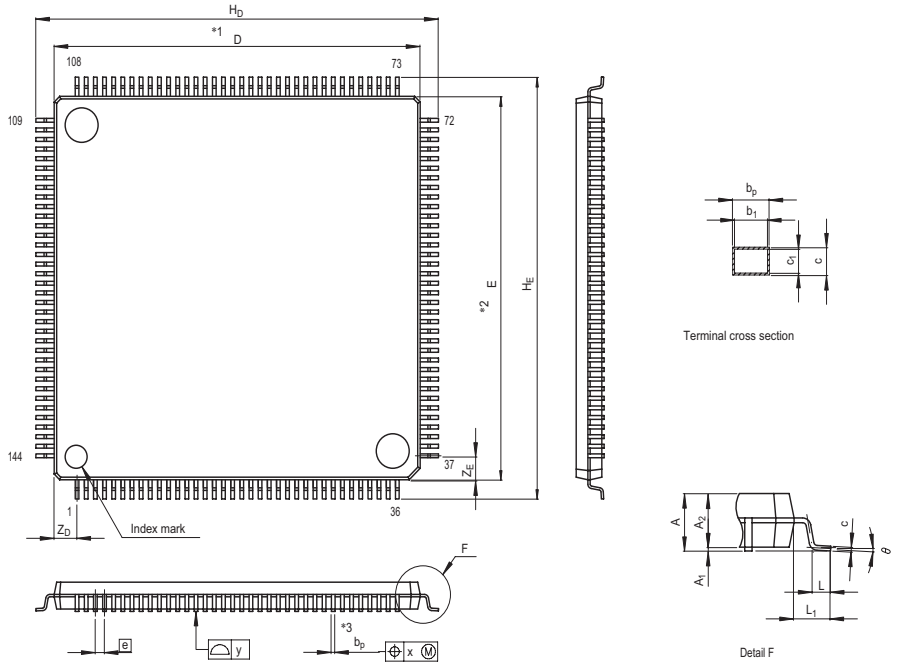
機械的仕様

付録1.1　外形寸法図

付録1.1　外形寸法図

（1）144pin LQFP

JEITA Package Code	RENESAS Code	Previous Code	MASS[Typ.]
P-LQFP144-20x20-0.50	PLQP0144KA-A	144P6Q-A / FP-144L / FP-144LV	1.2g



NOTE)
1. DIMENSIONS "*1" AND "*2" DO NOT INCLUDE MOLD FLASH.
2. DIMENSION "*3" DOES NOT INCLUDE TRIM OFFSET.

Reference Symbol	Dimension in Millimeters		
	Min	Nom	Max
D	19.9	20.0	20.1
E	19.9	20.0	20.1
A_2	—	1.4	—
H_D	21.8	22.0	22.2
H_E	21.8	22.0	22.2
A	—	—	1.7
A_1	0.05	0.1	0.15
b_p	0.17	0.22	0.27
b_1	—	0.20	—
c	0.09	0.145	0.20
c_1	—	0.125	—
θ	0°	—	8°
e	—	0.5	—
x	—	—	0.08
y	—	—	0.10
Z_D	—	1.25	—
Z_E	—	1.25	—
L	0.35	0.5	0.65
L_1	—	1.0	—

注．・外形寸法図の最新版は、ルネサステクノロジホームページに掲載されています。
本資料が最新版であるか必ずご確認の上参照してください。

付録2

命令処理時間

付録2.1　M32R/ECU命令処理時間

付録2.1　M32R/ECU命令処理時間

M32R/ECUは、通常Eステージにおける命令実行サイクル数を命令処理時間として代表しますが、パイプラインの動作によっては、それ以外のステージが処理時間に影響を与えることがあります。特に分岐命令を実行した場合の次命令においては、IF(命令フェッチ)、D(デコード)、E(実行)の各ステージの処理時間を考慮に入れることが必要です。

以下にM32R/ECUの各パイプラインステージごとの命令処理時間を示します。

付表2.1.1　各パイプラインステージにおける命令処理時間

命令	各ステージにおける実行サイクル数				
	IF	D	E	MEM	WB
ロード命令(LD, LDB, LDUB, LDH, LDUH, LOCK)	R	1	1	R	1
ストア命令(ST, STB, STH, UNLOCK)	R	1	1	W	ー
乗算命令(MUL)	R	1	3	ー	1
除算/剰余命令(DIV, DIVU, REM, REMU)	R	1	37	ー	1
上記以外の命令(DSP**機能用命令を含む**)	R	1	1	ー	1

以下にIF、MEMステージでのメモリアクセスのサイクル数を示します。ここに示す値は、メモリアクセスのための最小サイクル数です。したがって実際のメモリやバスアクセスにかかるサイクル数とは異なる場合があります。

例えばライトアクセスについては、CPUはライトバッファに書き込むだけでMEMステージを終了しますが、実際にはその後にメモリのライトが行われます。CPUがメモリアクセス要求した前後のメモリやバスの状態によって、命令処理時間は計算値から増える場合があります。

■ R(リードサイクル)

命令キューにある場合 1CPUCLK
内蔵リソース(ROM, RAM)をリードした場合 1CPUCLK
内蔵リソース(SFR)をリードした場合(バイト、ハーフワード) 2CPUCLK
内蔵リソース(SFR)をリードした場合(ワード) 4CPUCLK
外部メモリをリードした場合(バイト、ハーフワード) ..... 1CPUCLK＋2BCLK (注1)
外部メモリをリードした場合(ワード) ..... 1CPUCLK＋4BCLK (注1)
外部メモリから連続して命令フェッチした場合 4BCLK (注1)

■ W(ライトサイクル)

内蔵リソース(RAM)にライトした場合 1CPUCLK
内蔵リソース(SFR)にライトした場合(バイト、ハーフワード) 2CPUCLK
内蔵リソース(SFR)にライトした場合(ワード) 4CPUCLK
外部メモリにライトした場合(バイト、ハーフワード) 2BCLK (注1)
外部メモリにライトした場合(ワード) 4BCLK (注1)

注1．外部アクセスが1ウェイトの場合です(M32R/ECU**が外部アクセスを行う場合は、最低1ウェイトが入ります)。**

注．・BCLK**と**CPUCLK**との関係は、**1BCLK＝2CPUCLK**です。**

付録3

未使用端子の処理

付録3.1　未使用端子の処理例

付録3.1　未使用端子の処理例

未使用端子の処理例を以下に示します。

(1) 動作モードがシングルチップモードの場合

付表3.1.1 シングルチップモード時の未使用端子の処理例（注1）

端子名	処理
入出力ポート（注2）	
P00～P07, P10～P17, P20～P27, P30～P37, P41～P47, P61～P63, P70～P77, P82～P87, P93～P97, P100～P107, P110～P117, P124～P127, P130～P137, P150, P153, P174, P175, P220, P221, P225	ポート入力モードに設定し、端子ごとに1kΩ～10kΩの抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）、またはVCCEに接続（プルアップ）、もしくは出力モードに設定し、端子を開放
SBI#（注3）	1kΩ～10kΩの抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）
XOUT（注4）	開放
A/Dコンバータ	
AD0IN0～AD0IN15, AVREF0, AVSS0	VSSに接続
AVCC0	VCCEに接続
JTAG	
JTDO, JTMS, JTDI, JTCK	0～100kΩの抵抗を介してVCCEに接続（プルアップ）、またはVSSに接続（プルダウン）
JTRST	0～100kΩの抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）

注1．未使用端子処理は、マイコンの端子からできるだけ短い（20mm以内）配線で処理してください。
注2．出力モードに設定して開放する場合、リセットからプログラムによりポートを出力に切り換えるまでは、ポートは入力モードになっています。そのため、端子の電圧レベルが不定となり、ポートが入力モードになっている間、電源電流が増加する場合があります。ノイズやノイズによって引き起こされる暴走などによって方向レジスタの内容が変化する場合を考慮し、プログラムで定期的に方向レジスタの内容を再設定した方が信頼性が高くなります。
ただし、P221は入力専用ポートのため、出力ポートにはなりません。
注3．ノイズ等により立ち下がりエッジ信号が入力されないようご注意ください。
（SBI#端子に立ち下がりエッジ信号が入力されると、システムブレーク割り込みが発生します。）
注4．XINに外部クロック入力時。

（2）動作モードが外部拡張モードまたはプロセッサモードの場合

付表3.1.2 外部拡張モードまたはプロセッサモード時の未使用端子の処理例（注1）

端子名	処理
入出力ポート（注2）	
P61～P63, P70～P77, P82～P87, P93～P97, P100～P107, P110～P117, P124～P127, P130～P137, P150, P153, P174, P175, P220, P221	ポート入力モードに設定し、端子ごとに1kΩ～10kΩの抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）、またはVCCEに接続（プルアップ）、もしくは出力モードに設定し、端子を開放
A12～A30, DB0～DB15, BLW#/BLE#, BHW#/BHE#, RD#, CS0#, CS1#	開放
SBI#（注3）	1kΩ～10kΩの抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）
XOUT（注4）	開放
A/Dコンバータ	
AD0IN0～AD0IN15, AVREF0, AVSS0	VSSに接続
AVCC0	VCCEに接続
JTAG	
JTDO, JTMS, JTDI, JTCK	0～100kΩの抵抗を介してVCCEに接続（プルアップ）、またはVSSに接続（プルダウン）
JTRST	0～100kΩの抵抗を介してVSSに接続（プルダウン）

注1．未使用端子処理は、マイコンの端子からできるだけ短い（20mm以内）配線で処理してください。
注2．出力モードに設定して開放する場合、リセットからプログラムによりポートを出力に切り換えるまでは、ポートは入力モードになっています。そのため、端子の電圧レベルが不定となり、ポートが入力モードになっている間、電源電流が増加する場合があります。ノイズやノイズによって引き起こされる暴走などによって方向レジスタの内容が変化する場合を考慮し、プログラムで定期的に方向レジスタの内容を再設定した方が信頼性が高くなります。
ただし、P221は入力専用ポートのため、出力ポートにはなりません。
注3．ノイズ等により立ち下がりエッジ信号が入力されないようご注意ください。
（SBI#端子に立ち下がりエッジ信号が入力されると、システムブレーク割り込みが発生します。）
注4．XINに外部クロック入力時。

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

付録4

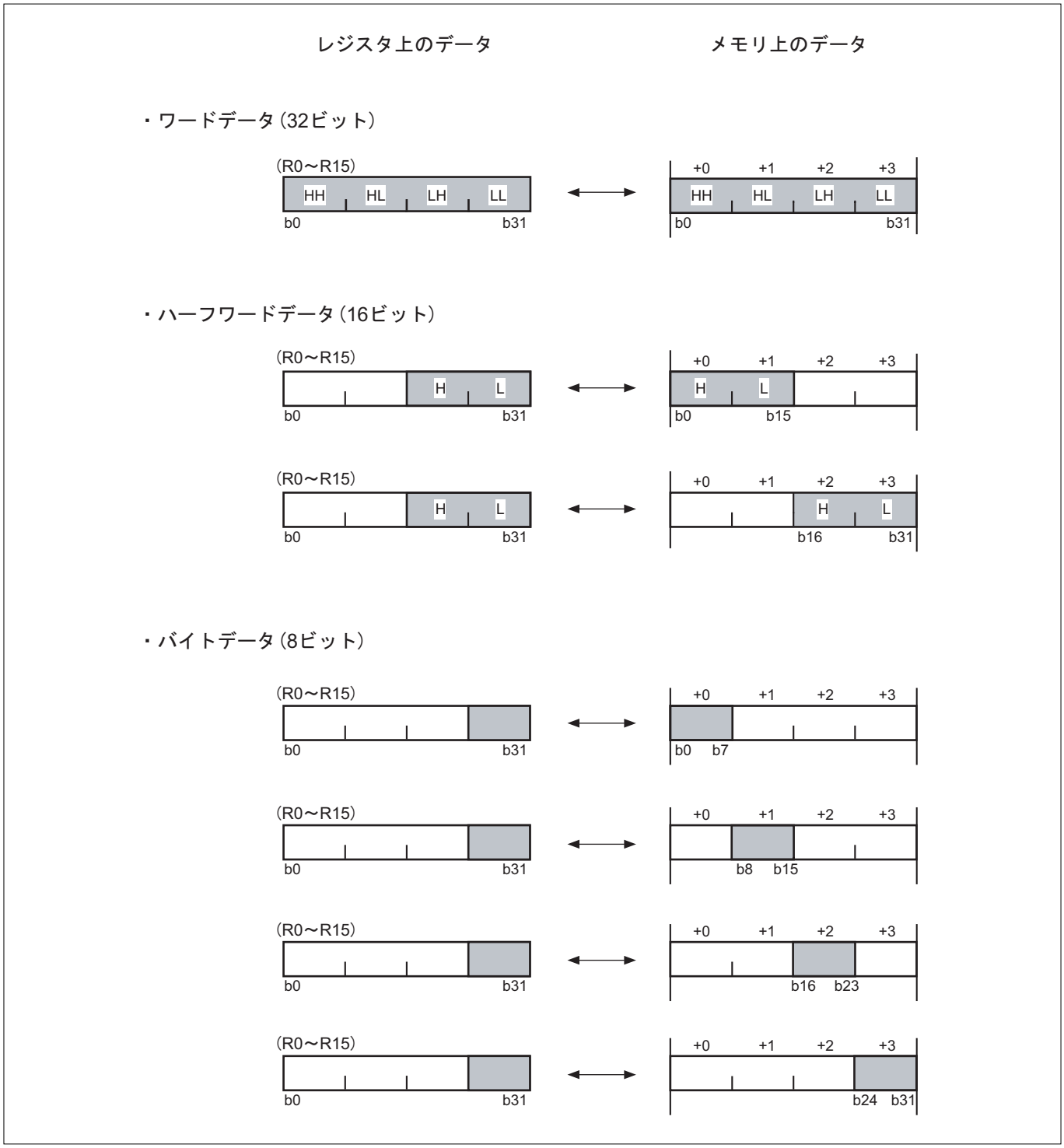
注意事項のまとめ

付録4.1　CPUに関する注意事項
付録4.2　アドレス空間の注意事項
付録4.3　EITの注意事項
付録4.4　内蔵RAMの注意事項
付録4.5　内蔵フラッシュメモリの注意事項
付録4.6　リセット解除後の注意事項
付録4.7　入出力ポートの注意事項
付録4.8　DMACの注意事項
付録4.9　マルチジャンクションタイマの注意事項
付録4.10　A/Dコンバータの注意事項
付録4.11　シリアルインタフェースの注意事項
付録4.12　CANモジュールの注意事項
付録4.13　RAMバックアップモードの注意事項
付録4.14　JTAGに関する注意事項
付録4.15　ノイズに関する注意事項

付録4.1　CPUに関する注意事項

・データ転送の注意事項

データの転送は、レジスタのデータ配置とメモリのデータ配置に違いがありますのでご注意ください。



付図4.1.1　データ配置の違い

付録4.2　アドレス空間の注意事項

• 疑似フラッシュエミュレーション機能

内蔵フラッシュメモリの領域を8Kバイトごとに区切った領域(Lバンク)に、内蔵RAMの8Kバイト単位のブロック(最大2ブロック)をマッピングする機能、および内蔵フラッシュメモリを4Kバイトごとに区切った領域(Sバンク)に、内蔵RAMの4Kバイト単位のブロック(最大2ブロック)をマッピングする機能があり、これを疑似フラッシュエミュレーション機能と呼びます。この機能については、「6.6 疑似フラッシュエミュレーション機能」を参照してください。

• ダミーアクセス領域

H'0080 0600～H'0080 0603番地は、ダミーアクセス領域となります。
この領域へのアクセスは、書き込み値は無効、読み出し値不定となります。
また、ダミーアクセス領域への書き込み、読み出し動作による、他のSFR領域への影響はありません。

付録4.3　EITの注意事項

アドレス例外は、「レジスタ間接＋レジスタ更新」アドレッシングモードを使用した命令(以下の3種類)の実行によってアドレス例外が発生した場合、自動更新される側のレジスタ(Rsrc、Rsrc2)の値が不定となります。
なお、Rsrc、Rsrc2の値が不定になる以外は、他のアドレッシングモード使用時と同様の動作を行います。

• 対象命令

```
LD      Rdest、@Rsrc＋
ST      Rsrc1、@－Rsrc2
ST      Rsrc1、@＋Rsrc2
```

上記に該当する場合、レジスタ値が不定になることを考慮した上でその後のシステム処理を行ってください(アドレス例外を発生した場合、その時点ですでにシステムに何らかの致命的な障害が発生したことを意味します。そのため、アドレス例外ハンドラ処理後、元のプログラムに復帰しない条件でご使用ください)。

付録4.4　内蔵RAMの注意事項

内蔵RAMの注意事項を以下に示します。

- ブートモードで起動した場合、「フラッシュ書き込み/消去プログラム」が内蔵RAMへ転送されるため、ブートモードで起動後の内蔵RAM値は不定となります。

付録4.5　内蔵フラッシュメモリの注意事項

内蔵フラッシュメモリの注意事項を以下に示します。

- 内蔵フラッシュメモリ書き込み/消去時は、内部で高電圧が生成されています。書き込み/消去中のモード移行はチップ破壊の原因となり得ますので、モード移行がないように、モード端子、電源管理を十分に行ってください。

- 汎用書き込み/消去ツールで使用する端子をシステムで使用する場合、ツール接続時に影響がでないよう考慮が必要です。

- 汎用書き込み/消去ツール使用時に内蔵フラッシュメモリのプロテクトが必要な場合は、内蔵フラッシュメモリのプロテクト用ID照合領域(H'0000 0084～H'0000 0093)に任意のIDを設定してください。

- 汎用書き込み/消去ツール使用時に内蔵フラッシュメモリのプロテクトが不要な場合は、内蔵フラッシュメモリのプロテクト用ID照合領域(H'0000 0084～H'0000 0093)すべてにH'FFを設定してください。

- フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)の各エラーステータスのクリア(初期化H'80)に、フラッシュ制御レジスタ4(FCNT4)のFRESETビットによるリセットを使用する場合は、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"1"(レディ状態)であることを確認後実施ください。

- フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットを"1"→"0"にする場合は、フラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"1"(レディ状態)であることを確認後実施ください。

- フラッシュ制御レジスタ1(FCNT1)のFENTRYビットを"1"でフラッシュステータスレジスタ(FSTAT)のFBUSYビットが"0"(書き込み、または消去中)の場合、FENTRYビットのクリアは行わないでください。

- JTAG経由で書き込み/消去時には、FP端子の制御をチップ内部で行ないますので端子状態に関係なくフラッシュメモリの書き込み/消去が可能です。

付録4.6　リセット解除後の注意事項

• 入出力ポート

リセット解除後は、貫通電流防止のため、入力禁止状態になっています。ポートを入力モードで使用する場合は、ポート入力特別機能制御レジスタ(PICNT)のPIEN0で入力許可に設定してください。詳細については、「8.3 入出力ポート関連レジスタ」を参照してください。

付録4.7　入出力ポートの注意事項

• ポートを出力モードで使用する場合

リセット解除時のポートデータレジスタは、値が不定となりますので、ポートデータレジスタ値に出力初期値を書き込んだ後、ポート方向レジスタを出力に設定する必要があります。ポートデータレジスタに設定を行う前に、ポート方向レジスタを出力に設定すると、ポートデータレジスタへ書き込みが行われるまでの間、不定値が出力されます。

• ポート入力禁止機能について

リセット後は入力禁止になっているため、入力機能を使用するためには、ポート入力許可ビットを"1"にして入力許可に設定する必要があります。

ポート入力禁止時には、端子に"L"レベルが入力されているのと等価の状態になっています。そのため、入力禁止時にポート動作モードレジスタで周辺入力機能を選択すると、"L"レベル入力により意図しない動作となる場合があります。

• 汎用ポートに設定時の周辺機能入力について

周辺機能入力、汎用ポートの兼用端子において、動作モードレジスタで汎用ポートに設定時、周辺機能入力には"Hレベル"が入力されています。そのため、周辺機能入力端子に"L"レベルが入力されている時は、動作モードレジスタを操作時に周辺機能入力にエッジ信号が入力されます。

付録4.8　DMACの注意事項

• DMAC関連レジスタへの書き込みについて

DMAは内部バスを介してデータをやりとりするため、DMAC関連レジスタへの書き込みは、基本的にリセット直後または転送禁止状態(転送許可ビットが"0")のときに行ってください。転送許可状態ではDMA転送許可ビット、転送要求フラグおよびハードウェア的にプロテクトされているDMA転送カウントレジスタを除き、DMAC関連レジスタへの書き込みは動作安定のため行わないでください。

以下に、各レジスタのライトアクセスの可否を示します。

付表4.8.1　DMAC関連レジスタへのライトアクセスの可否

状態	転送許可ビット	転送要求フラグ	DMA割り込み関連レジスタ	その他DMAC関連レジスタ
転送許可状態	○	○	○	×
転送禁止状態	○	○	○	○

○：可　×：不可

なお、例外的に転送許可状態で書き込み操作を行えるレジスタについても、以下の条件を守ってください。

(1) DMAチャネル制御レジスタ0の転送許可ビット、および転送要求フラグ

チャネル制御レジスタ中のこれ以外のビットには、書き込み前と同じデータを書き込んでください。なお、転送要求フラグは"0"の書き込みのみ有効です。

(2) DMA転送カウントレジスタ

転送許可状態ではハードウェア的にプロテクトされているため、データの書き込みは無視されます。

(3) DMA転送による異なるチャネルのDMAソースアドレス、およびDMAデスティネーションアドレスの書き換え

この場合DMAの許可状態でDMAC関連レジスタの操作を行うことになりますが、問題はありません。ただし、自チャネルのDMAC関連レジスタへのDMA転送はできません。

• DMA転送によるDMAC関連レジスタの操作

DMA転送を使って、DMAC関連レジスタの操作(例えば、DMA転送によるDMAC関連レジスタの初期値の再ロードなど)を行う場合は、同一チャネルによる自チャネルDMAC関連レジスタへの書き込みは行わないでください(行った場合の動作は保証されません)。

他のチャネルであれば、DMA転送によるDMAC関連レジスタの書き換えが可能です(例えばチャネル0による、チャネル1のDMAnソースアドレスレジスタとDMAnデスティネーションアドレスレジスタの書き換え操作など)。

• DMA割り込み要求ステータスレジスタについて

DMA割り込み要求ステータスレジスタに対してクリア操作を行う場合は、クリアするビット以外のビットには"1"を書き込んでください。"1"を書き込んだビットは、書き込み前のデータが保持されます。

• DMA転送の安定動作について

DMA転送の安定動作のため、DMAC関連レジスタの書き換えは、チャネル制御レジスタの転送許可ビットを除き、必ず転送禁止時のみ行うようにしてください。ただし、DMA転送によるチャネル間のソースアドレスレジスタおよびデスティネーションアドレスレジスタの書き換えは転送許可時でも可能です。

付録4.9　マルチジャンクションタイマの注意事項

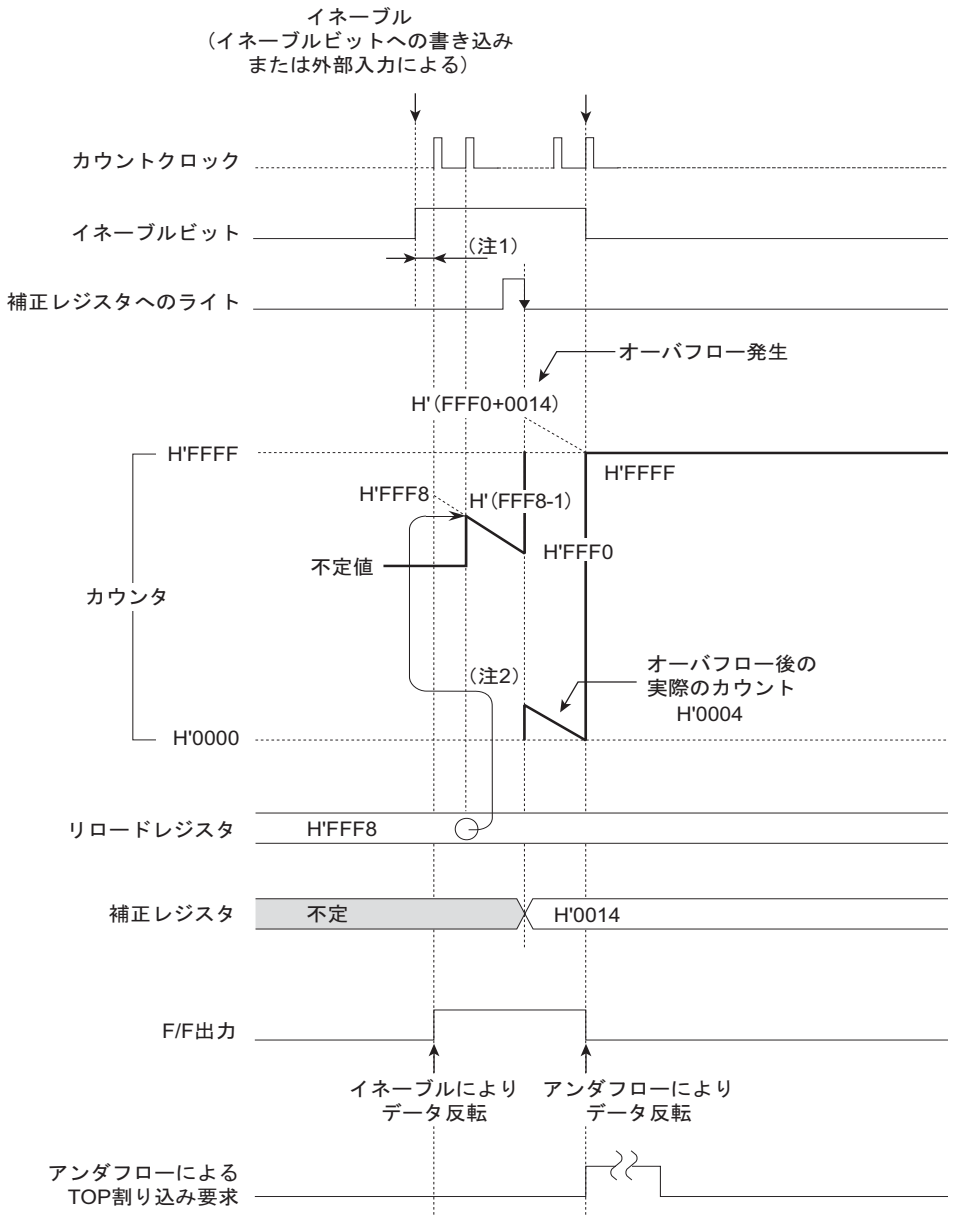
付録4.9.1　TOPワンショット出力モード使用上の注意

TOPワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までには、カウントクロック分のディレイを含みます。
- 補正レジスタの操作でカウンタがオーバフローしないようご注意ください。補正レジスタの操作により万一オバフローしても、オーバフローしたことによる割り込み要求は発生しません。オーバフロー後に継続したダウンカウントでアンダフローした場合は、オーバフローした値での誤ったアンダフロー割り込み要求が発生します。

以下の例では、リロードレジスタの初期値にH'FFF8を設定しています。タイマが起動すると、リロードレジスタの値がカウンタにロードされ、ダウンカウントが始まります。図の例ではH'FFF0までカウントしたところで、補正レジスタにH'0014を書き込んでいます。

この補正の結果、カウンタはオーバフローしてH'0004になり、正常なカウントが行われていません。また割り込み要求は、オーバフローした誤った値で発生しています。



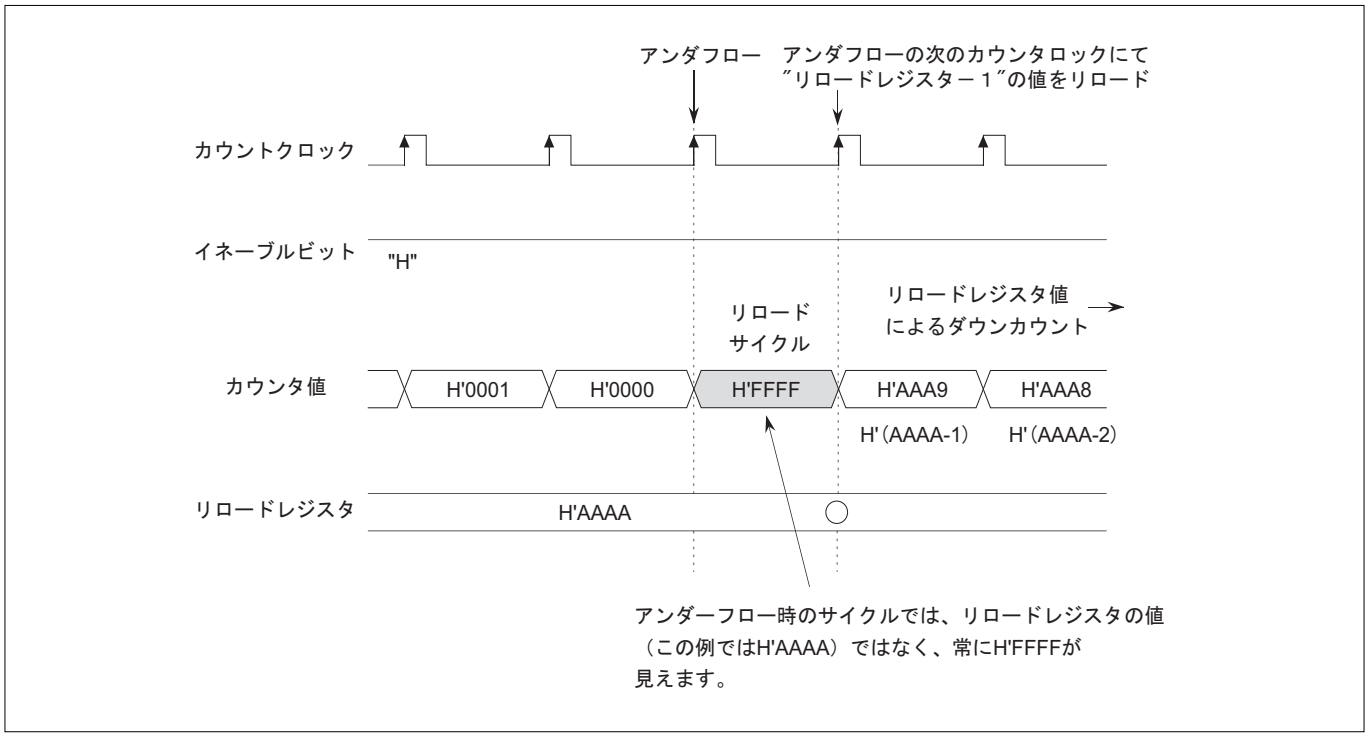
注1.　イネーブル後F/F出力変化までにカウントクロック分のディレイを含みます。
注2.　"リロードレジスター１"の値がリロードされます。
注.　・本図においては、詳細タイミング情報は含みません。

付図4.9.1　TOPワンショット出力モード補正実行でオーバフローした場合の例

付録4.9.2　TOPディレイドワンショット出力モード使用上の注意

TOPディレイドワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- 補正レジスタの操作により万一カウンタがオーバフローしても、オーバフローしたことによる割り込みは発生しません。オーバフロー後に継続したダウンカウントでアンダフローした場合は、オーバフローした値での誤ったアンダフロー割り込み要求が発生します。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、一時的に値をH'FFFFと読み出します。リロードは、アンダフローの次のカウンタクロックのタイミング時に"リロードレジスター1"の値をカウンタに取り込みます。



付図4.9.2　アンダフロー直後のカウンタ値

付録4.9.3　TOP連続出力モード使用上の注意

TOP連続出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のリロード直後にカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"となります。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までには、カウントクロック分のディレイを含みます。

付録4.9.4　TIO計測（フリーラン/クリア）入力モード使用上の注意

TIO計測（フリーラン/クリア）入力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 計測イベント入力とカウンタへの書き込みが同一クロックで重なった場合、カウンタには書き込み値がセットされ、計測レジスタにも書き込み値が取り込まれます。

付録4.9.5　TIO PWM出力モード使用上の注意

TIO PWM出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のカウントクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"の値をリロードします。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までには、カウントクロック分のディレイを含みます。

付録4.9.6　TIOワンショット出力モード使用上の注意

TIOワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- タイマ動作はカウントクロックに同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までにはカウントクロック分のディレイを含みます。

付録4.9.7　TIOディレイドワンショット出力モード使用上の注意

TIOディレイドワンショット出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- アンダフローによるカウンタ停止と外部入力によるイネーブルが同一クロックで重なった場合は、アンダフローによるカウンタ停止が優先されます。
- アンダフローによるカウンタ停止とイネーブルビットへのカウント許可書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント許可が優先されます。
- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のカウントクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"の値をリロードします。

付録4.9.8　TIO連続出力モード使用上の注意

TIO連続出力モードを使用する場合の注意点を以下に示します。

- 外部入力によるイネーブルとイネーブルビットへのカウント禁止書き込みが同一クロックで重なった場合は、イネーブルビットへのカウント禁止書き込みが優先されます。
- アンダフロー時のサイクルにカウンタを読むと、H'FFFFが読み出されます。その直後のクロックでカウンタ値は"リロードレジスタ値－1"の値をリロードします。
- タイマ動作はカウントクロック出力に同期しているため、イネーブルからF/F出力反転までにはカウントクロック分のディレイを含みます。

付録4.9.9　TMS計測入力使用上の注意

TMS計測入力を使用する場合の注意点を以下に示します。

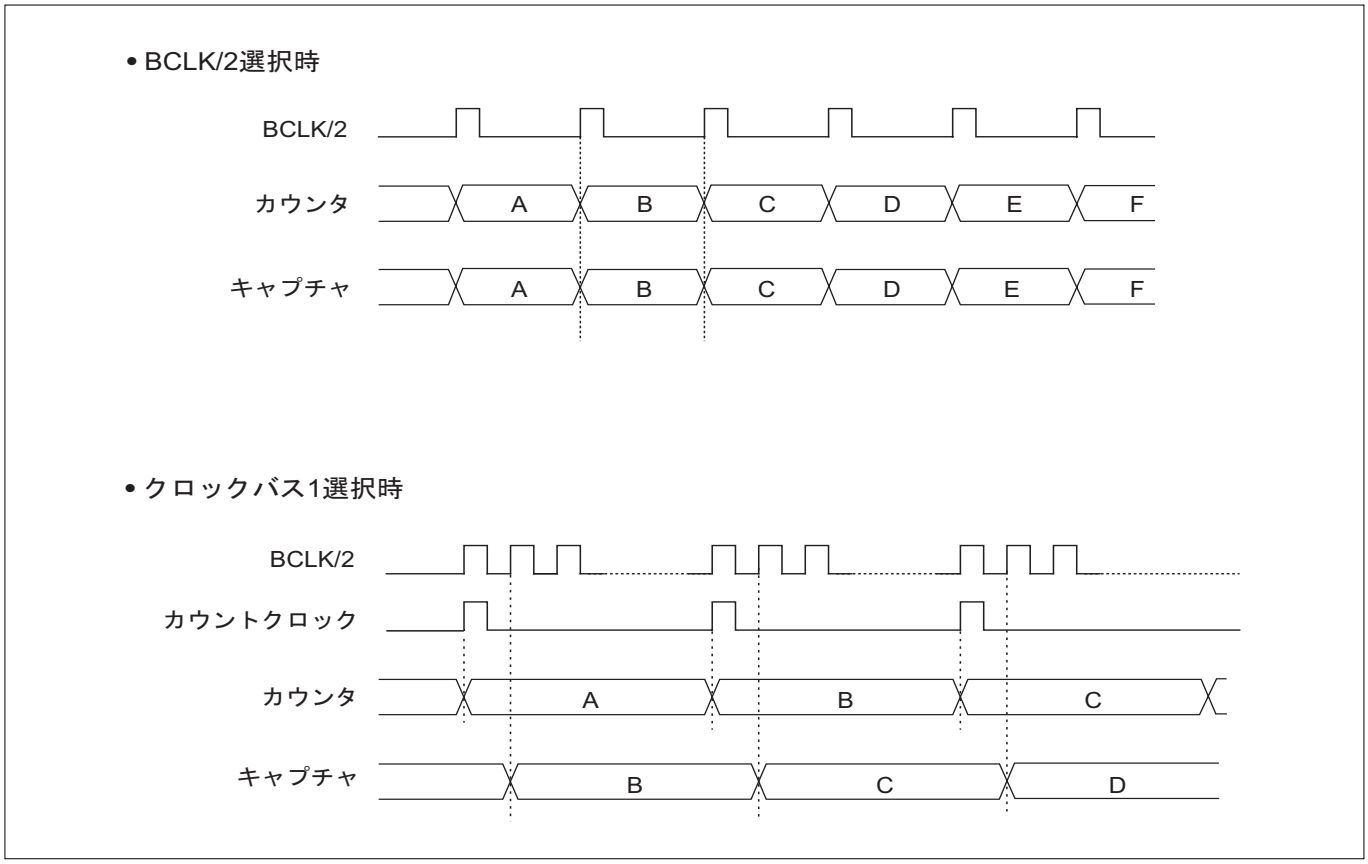
- 計測イベント入力と、カウンタへの書き込みが同一クロックで重なった場合、カウンタには書き込み値がセットされ、計測レジスタにも書き込み値が取り込まれます。

付録4.9.10　TML計測入力使用上の注意

TML計測入力を使用する場合の注意点を以下に示します。

- 計測イベント入力と、カウンタへの書き込みが同一クロックで重なった場合、カウンタには書き込み値がセットされますが、計測レジスタには(書き換え前の)アップカウント値が取り込まれます。
- クロックバス1を選択した場合で、BCLK/2以外のクロックを使用すると、カウンタへの書き込みが正常にできなくなりますので、BCLK/2以外のクロックを使用した場合はカウンタへの書き込みを行わないでください。
- クロックバス1を選択した場合で、BCLK/2以外のクロックを使用すると、キャプチャ値として、カウンタ値よりも1つ進んだ値を取り込みます。ただし、カウントクロックからBCLK/2周期の間は、カウント値の値を取り込みます。

以下にカウンタ動作とキャプチャ可能なデータの関係を示します。



付図4.9.3　カウンタ値とキャプチャ値のずれ

付録4.10　A/Dコンバータの注意事項

• スキャン動作中の強制終了

スキャンモード動作中に、A/D変換ストップビット（AD0CSTP）を"1"にセットしてA/D変換を強制停止した場合、変換途中のチャネルに対応するA/Dデータレジスタの内容を読み出すと、強制停止する以前に転送されていた最終の変換結果が読み出されます。

• A/Dコンバータ関連レジスタの変更

A/D変換ストップビットを除くA/D変換割り込み制御レジスタ、各モードレジスタおよびA/D逐次近似レジスタの内容の変更は、A/D変換停止中に行うか、変更後に再スタートしてください。A/D変換中に各レジスタの変更を行った場合、変換結果は保証されません。

• アナログ入力信号の取り扱い

サンプル＆ホールド無効で使用する場合、A/D変換中はアナログ入力レベルを固定してください。

• A/D変換終了ビットの読み出しタイミング

A/D変換起動直後にA/D変換終了ビット（単一モードレジスタ0のb5ビット、およびスキャンモードレジスタ0のb5ビット）を読み出す場合は、NOP命令などで2BCLK分タイミング調整してから読み出してください。

• アナログ入力端子に関して

付図4.10.1にアナログ入力部の内部等価回路を示します。正確なA/D変換結果を得るには、所定の時間（サンプリング時間）内にA/D変換回路内部のコンデンサC2への充電を完了させることが必要です。このサンプリング時間を満たすために、外付け安定化コンデンサC1の外付けを推奨します。

以下に、アナログ出力素子の出力インピーダンスと、この条件を満たす外付け安定化コンデンサの値の決め方について示します。また、アナログ出力素子の出力インピーダンスが低く、外付け安定化コンデンサC1が不用な場合についての考え方も示します。

• 絶対精度の規格値

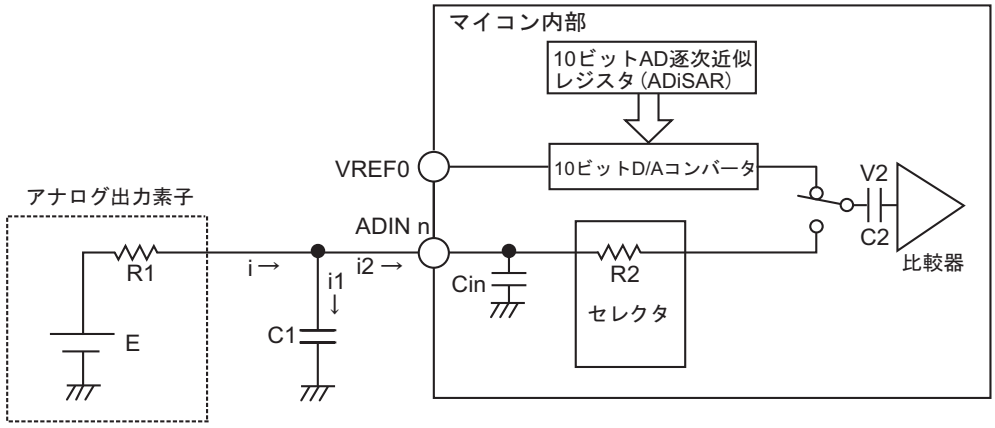
絶対精度の規格値はマイコン単体の実力値ですのでボード上の電源配線が安定であることやノイズの影響を受けない環境であることが前提です。ボード設計時にはAVCC0/AVSS0/VREF0を他のデジタル系電源と分離したり、アナログ入力端子が他のデジタル信号の影響（ノイズ）を受けないようレイアウトには十分注意してください。

• サンプル＆ホールド有効モード設定時の単一モード/スキャンモード動作

A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビットのどちらか一方をサンプル＆ホールド有効に選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールド有効モードで動作します。

A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビットのどちらか一方がサンプル＆ホールド有効に選択され、かつA/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADSSHSPD）ビットまたは、A/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADCSHSPD）ビットのどちらか一方を高速サンプル＆ホールドに選択した場合、単一モード/スキャンモード共に、サンプル＆ホールドの変換速度が、高速サンプル＆ホールドで動作します。

単一モードまたは、スキャンモードをサンプル＆ホールド有効モードで使用する場合は、A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/D変換方式選択（ADSSHSL）ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/D変換方式選択（ADCSHSL）ビット、A/D0単一モードレジスタ1（AD0SIM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADSSHSPD）ビットとA/D0スキャンモードレジスタ1（AD0SCM1）にあるA/Dサンプル＆ホールド変換速度選択（ADCSHSPD）ビットを同じ設定値で使用してください。



C1 ：基板寄生容量＋安定化C　R2：セレクタ寄生抵抗（1～2KΩ）　VREF：アナログ基準電圧
R1 ：アナログ出力素子抵抗　C2：比較器容量（約2.9pF）　V2 ：C2両端電圧
Cin：入力端子容量（約10pF）　E ：アナログ出力素子電圧

付図4.10.1　アナログ入力部の内部等価回路

(a) 外付け安定化コンデンサC1（付加を推奨）の算出例

付図4.10.1にて、R1が∞に大きく、内部のコンデンサC2に対しての充電はC1から供給するものとし、C1とC2の容量分割による電位変動Vpを0.1LSB以下にするものとしてC1の容量を考えます。VREFを5.12Vとした場合の10ビットA/Dコンバータでは、1LSB判定電圧＝5.12V/1024＝5mVとなります。0.1LSBの電位変動まで考慮すると、0.5mVの変動となります。

C1とC2の容量分割とVpの関連は、以下の式で求められます。

$$Vp = \frac{C2}{C1+C2} \times (E-V2) \quad \text{----------} \quad \text{(A-1)式}$$

また、Vpは以下の式にても求められます。

$$Vp = Vp1 \times \sum_{i=0}^{x-1} \frac{1}{2^i} < \frac{VREF}{10 \times 2^x} \quad \text{----------} \quad \text{(A-2)式}$$

注.　・Vp1は、A/D変換1回目の電位変動
　　・10ビット分解能A/Dコンバータため、xは"10"です。

(A-1)式と(A-2)式を解くと

$$C1 = C2 \left\{ \frac{E-V2}{Vp1} - 1 \right\} \quad \text{----------} \quad \text{(A-3)式}$$

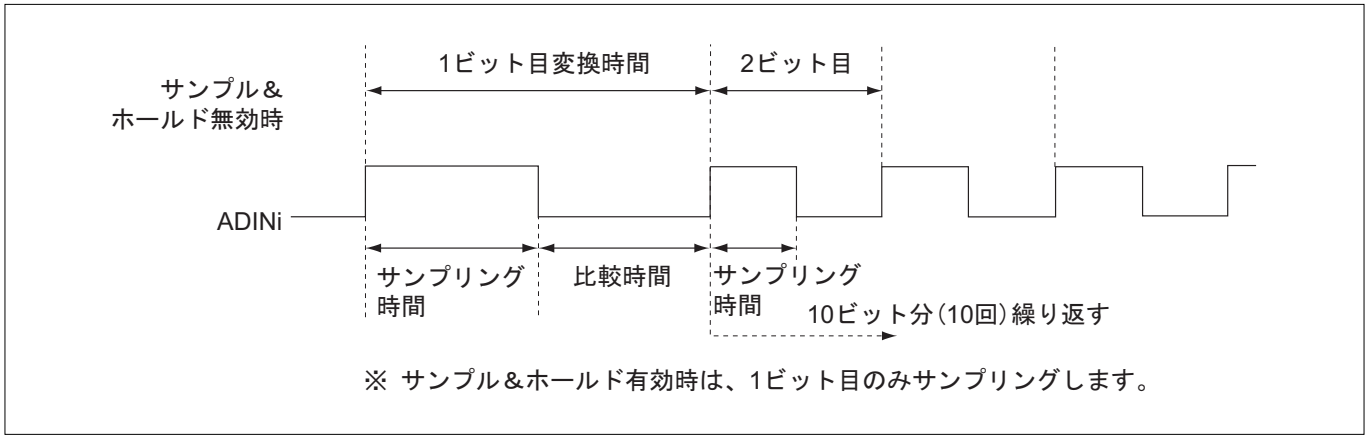
$$\therefore C1 > C2 \left\{ 10 \times 2^x \times \sum_{i=0}^{x-1} \frac{1}{2^i} - 1 \right\} \quad \text{----------} \quad \text{(A-4)式}$$

よって、10ビット分解能＝A/DコンバータでC2＝2.9pFの場合のC1は、0.06μF以上となります。C1設定時の参考としてご使用ください。

(b) C1を付加しない場合の出力インピーダンスR1の最大値

付図4.10.1において、外付けコンデンサC1を使用しない場合、アナログ出力素子が一定時間内にC2を十分に充電できるかを検討する必要があります。まず、付図4.10.1にて、C1が無い場合での、i2を求める式を以下に示します。

$$i2 = \frac{C2(E-V2)}{Cin \times R1 + C2(R1+R2)} \times \exp \frac{\{ \quad -t \quad \}}{Cin \times R1 + C2(R1+R2)} \quad \text{----------} \quad \text{(B-1)式}$$



付図4.10.2　A/D変換タイミング図

付図4.10.2にA/D変換タイミング図を示します。C2への充電に必要な時間は図中のサンプリング時間ですが、サンプル＆ホールド無効の場合の2ビット目以降のサンプリング時間は、1ビット目にくらべて約半分となります。

各変換スピードごとのサンプリング時間を次ページに示します。なお、サンプル＆ホールド有効の場合は1ビット目のサンプリングのみとなります。

付表4.10.1　サンプリング時間（C2充電必要時間）

変換開始方法	変換速度		1ビット目サンプリング時間	2ビット目以降サンプリング時間
単一モード（サンプル＆ホールド無効時）	低速モード	ノーマル	27.5BCLK	13.5BCLK
		倍速	15.5BCLK	7.5BCLK
	高速モード	ノーマル	11.5BCLK	5.5BCLK
		倍速	7.5BCLK	3.5BCLK
単一モード（サンプル＆ホールド有効時）	低速モード	ノーマル	27.5BCLK	－
		倍速	15.5BCLK	－
	高速モード	ノーマル	11.5BCLK	－
		倍速	7.5BCLK	－
コンパレータモード	低速モード	ノーマル	27.5BCLK	－
		倍速	15.5BCLK	－
	高速モード	ノーマル	11.5BCLK	－
		倍速	7.5BCLK	－

よって、C2を充電するために必要な時間は、（B-1）式より

サンプリング時間（C2充電必要時間）＞Cin×R1＋C2（R1＋R2） ---------- **（B-2）式**

となり、R1の最大値を求める目安の式は、以下のようになります。

なお、単一モード（サンプル＆ホールド無効時）は、2ビット目以降のサンプリング時間（C2充電必要時間）を使用してください。

$$R1 < \frac{\text{C2充電必要時間} - C2 \times R2}{Cin + C2}$$

付録4.11　シリアルインタフェースの注意事項

付録4.11.1　CSIOモード時の注意事項

• SIO送受信モードレジスタ、SIOボーレートレジスタの設定

SIO送受信モードレジスタ、SIOボーレートレジスタおよび送信制御レジスタのBRGカウントソース選択ビットは、必ず非動作中に設定してください。送受信中には送信および受信完了を確認し、送信および受信許可ビットをクリアした後、設定を行ってください。

• BRG(ボーレート)レジスタの設定

BRGクロックソース選択ビットでf(BCLK)を選択した場合は、2Mbpsを越えないようにBRGレジスタの値を設定してください。

• 連続送信について

連続送信を行う場合は、データの送信が完了する前にSIO送信バッファレジスタに次の送信データを設定してください。

• 受信について

CSIOモードでは受信シフトクロックは送信回路の動作によって得られますので、受信だけを行う場合でも送信動作を実行(ダミーデータを送信)させる必要があります。この場合、ポートの機能をTXD端子(動作モードレジスタを"1"にセット)に設定しているとダミーデータが出力されることになりますので注意してください。

• 連続受信について

連続受信を行う場合には、送信側の送信動作が開始する前にSIO送信バッファレジスタにデータ(ダミーデータ)を設定してください。

• DMAによる送受信

DMA要求モードで送受信を行う場合は、DMACを要求受付可能状態にした後(DMAモードレジスタの設定後)にシリアル通信を行ってください。

• 受信完了ビットについて

受信エラー(オーバランエラー)発生時は、受信バッファレジスタの読み出しによる受信完了ビットのクリアはできません。この場合は、受信許可ビットをクリアすることで行います。

• オーバランエラーについて

SIO受信バッファレジスタを読み出す前に次回の受信データが、SIO受信シフトレジスタに揃った場合(オーバランエラー発生)、受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われず、受信バッファレジスタには前回受信したデータが残ります。また、それ以降、受信動作は行われますが、受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われなくなります(受信ステータスビットが"1"の状態)。

正常な受信を再開するためには、受信許可ビットをいったんクリアする必要があります。また、これによってのみオーバランエラーフラグのクリアが可能です。

• SIO送信時DMA転送要求発生について

送信許可ビットが"1"にセット(送信許可)された状態で送信バッファレジスタが空(送信バッファエンプティフラグが"1"の状態)の場合、SIO送信バッファエンプティDMA転送要求が発生します。

• SIO受信時DMA転送要求発生について

受信完了ビットが"1"にセット(受信バッファレジスタフル)されると、受信完了DMA転送要求が発生します。ただし、オーバランエラー発生時は、受信完了DMA転送要求は発生しませんので注意してください。

• **汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え**

ポート動作モードレジスタにより、汎用ポートからシリアルインタフェース端子へ切り換えた際、SCLKOn端子は"Hレベル"(内部クロック選択、CKPOLビットを"0"に設定の場合。CKPOLビットを"1"に設定の場合は"Lレベル")、TXDn端子は不定値を出力します。ただし、SIOn送信制御レジスタのTENビットを"1"(送信許可)に保持した状態で汎用ポートからシリアルインタフェース端子へ切り換えた際は、TXDn端子は以前に出力したシリアルデータの最終ビットのレベルを出力します。

付録4.11.2　UARTモード時の注意事項

• **SIO送受信モードレジスタ、SIOボーレートレジスタの設定**

SIOモードレジスタ、SIOボーレートレジスタおよび送信制御レジスタのBRGカウントソース選択ビットは、必ず非動作中に設定してください。送受信中には送信および受信完了を確認し、送信および受信許可ビットをクリアした後、設定を行ってください。

• **BRG(ボーレート)レジスタの設定**

SIOボーレートレジスタへの書き込みは、BRGカウンタがカウント終了後、次の周期より有効となります。ただし、送信および受信禁止の状態では、書き込みと同時に変更可能です。

• **DMAによる送受信**

DMA要求モードで送受信を行う場合は、DMACを要求受付可能状態にした後(DMAモードレジスタの設定後)にシリアル通信を行ってください。

• **オーバランエラーについて**

SIO受信バッファレジスタを読み出す前に次回の受信データがSIO受信シフトレジスタに揃った場合(オーバランエラー発生)、受信データのSIO受信バッファレジスタへの格納は行われず、SIO受信バッファレジスタには前回受信したデータが残ります。また、いったんオーバランエラーが発生しますと、受信動作は行いますが受信データの受信バッファレジスタへの格納は行われません。正常な受信を再開するためには、受信許可ビットをいったんクリアする必要があります。また、これによってのみオーバランエラーフラグをクリアすることができます。

• **UART受信動作の状態を示すフラグ**

UARTモード時の受信状態を示すフラグには以下のものがあります。

- **SIO受信制御レジスタの受信ステータスビット**
- **SIO受信制御レジスタの受信完了ビット**
- **SIO受信制御レジスタの受信エラーサムビット**
- **SIO受信制御レジスタのオーバランエラービット**
- **SIO受信制御レジスタのパリティエラービット**
- **SIO受信制御レジスタのフレームエラービット**

受信完了ビット・各種エラービットフラグのクリア方法は、オーバランエラー発生時とそうでない時で異なります。以下にクリア条件を示します。

【オーバランエラー未発生時】
受信バッファレジスタの下位バイトの読み出し、もしくは受信許可ビットの"0"クリア

【オーバランエラー発生時】
受信許可ビットを"0"にクリア

・汎用ポートからシリアルインタフェース端子への切り換え

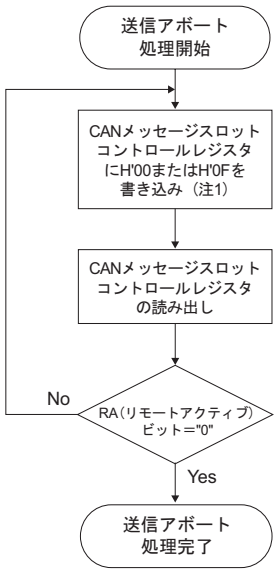
ポート動作モードレジスタにより、汎用ポートからシリアルインタフェース端子へ切り換えた際、TXDn端子は"Hレベル"を出力します。

付録4.12　CANモジュールの注意事項

・リモートフレーム送受信キャンセルについて

リモートフレーム送信アボート、リモートフレーム受信キャンセルを行う際には、CANメッセージスロットコントロールレジスタにH'00またはH'0Fを書き込んだ後、RA(リモートアクティブ)ビットが"0"にクリアされたことを確認してください。

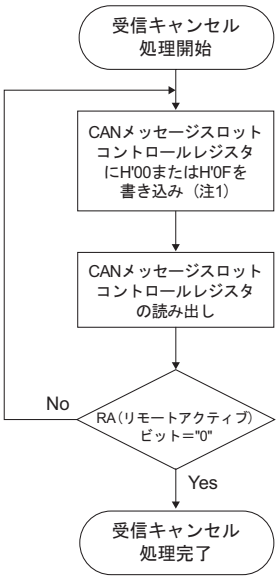
(1)リモートフレーム送信アボート時



注1. H'00、H'0Fどちらの書き込みでも問題ありません。

付図4.12.1 リモートフレーム送信アボート時の処理フロー

(2)リモートフレーム受信キャンセル時



注1. H'00、H'0Fどちらの書き込みでも問題ありません。

付図4.12.2 リモートフレーム受信キャンセル時の処理フロー

付録4.13　RAMバックアップモードの注意事項

• 電源立ち上げ時の注意事項

電源投入後ポートnを入力モードから出力モードにする場合、以下の点に注意してください。

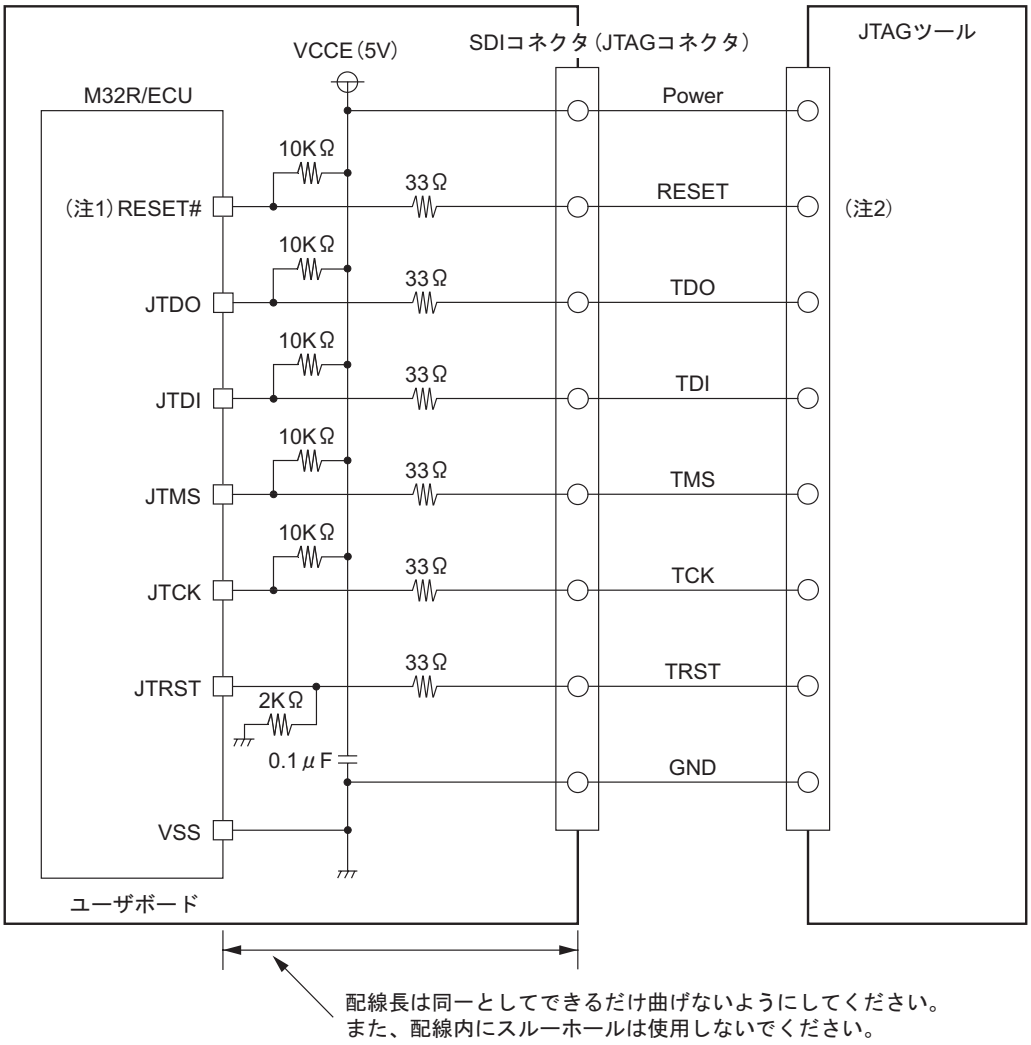
ポートnデータレジスタへデータを設定しないで出力モードにすると、ポートの初期出力レベルは不安定になります。したがって、ポートnデータレジスタへ出力レベル"H"を設定した後、ポートnを出力モードにしてください。

この方法でポートを設定しない場合、発振安定後のポート出力設定と同時にポート出力が"L"レベルになり、RAMバックアップモードになることがあります。

付録4.14　JTAGに関する注意事項

付録4.14.1　JTAG接続時のボード設計注意事項

JTAG端子は、JTAGツールとの高速で高信頼性の通信を実現するため、ボード設計時に配線長マッチングが必要です。

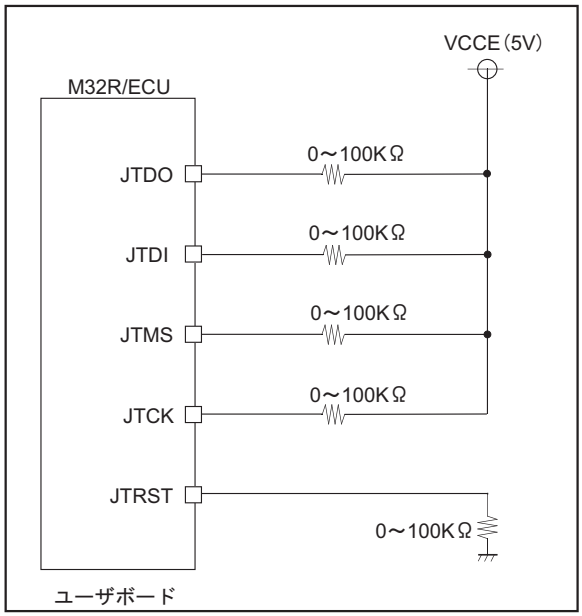


注1.　RESET#関連の回路および抵抗定数などは、ユーザボードのシステム設定条件/マイコン動作条件により設定下さい。
注2.　JTAGツールのRESET出力は、Nchオープンドレインを推奨しています。詳細は、JTAGツール仕様を確認願います。
注.　・JTRST端子が確実にプルダウンされていれば、JTDO、JTDI、JTMSおよびJTCLKの端子処理は、
プルアップ/プルダウンのどちらでもかまいません。
・JTAGツールを使用しない場合でも、各端子の処理は必ず行ってください。
プルアップ/プルダウンの抵抗値は、JTAGツール使用時と同一でも問題ありません。

付図4.14.1　JTAGツール接続時の注意事項

付録4.14.2　JTAG未使用時の端子処理

JTAG端子を使用しないの場合の端子処理を以下に示します。



注.　・JTRST端子が確実にプルダウンされていれば、JTDO、JTDI、JTMS、およびJTCLKの端子処理は、プルアップ/プルダウンのどちらでもかまいません。

付図4.14.2　JTAG未使用時の端子処理

付録4.15　ノイズに関する注意事項

ノイズに関する注意事項およびその対策例を以下に示します。本対策例はノイズに関して理論上有効ですが、実使用に際しては本対策を実施した後も十分なシステム評価を行ってください。

付録4.15.1　配線長の短縮

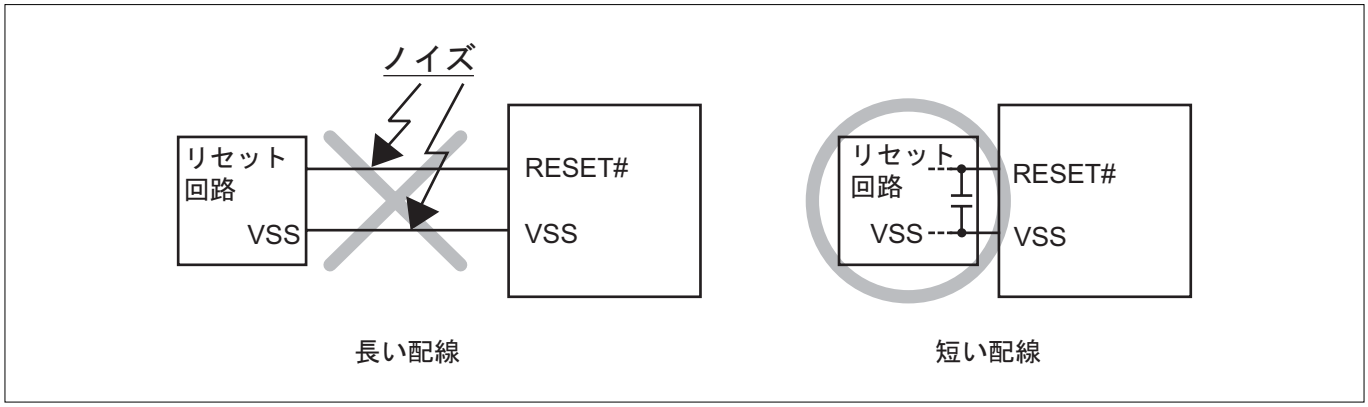
基板上の配線は、ノイズをマイコン内部に引き込むアンテナとなる可能性があります。総配線長が短いほど、ノイズをマイコン内部に引き込む可能性は低くなります。

(1)RESET#端子の配線

RESET#端子に接続する配線は、短くしてください。特にRESET#端子とVSS端子間に接続するコンデンサは、それぞれの端子とのできるだけ短い配線(20mm以内)で接続してください。

<理由>

リセットは、マイコン内部を初期状態にする機能です。RESET#端子に入力されるパルス幅は、タイミング必要条件で規定されます。パルス幅が規定幅より短いノイズがRESET#端子に入力されると、マイコン内部が完全な初期状態になる前にリセットが解除され、プログラム暴走の原因となります。



付図4.15.1　RESET#**端子の配線例**

(2)クロック入出力端子の配線

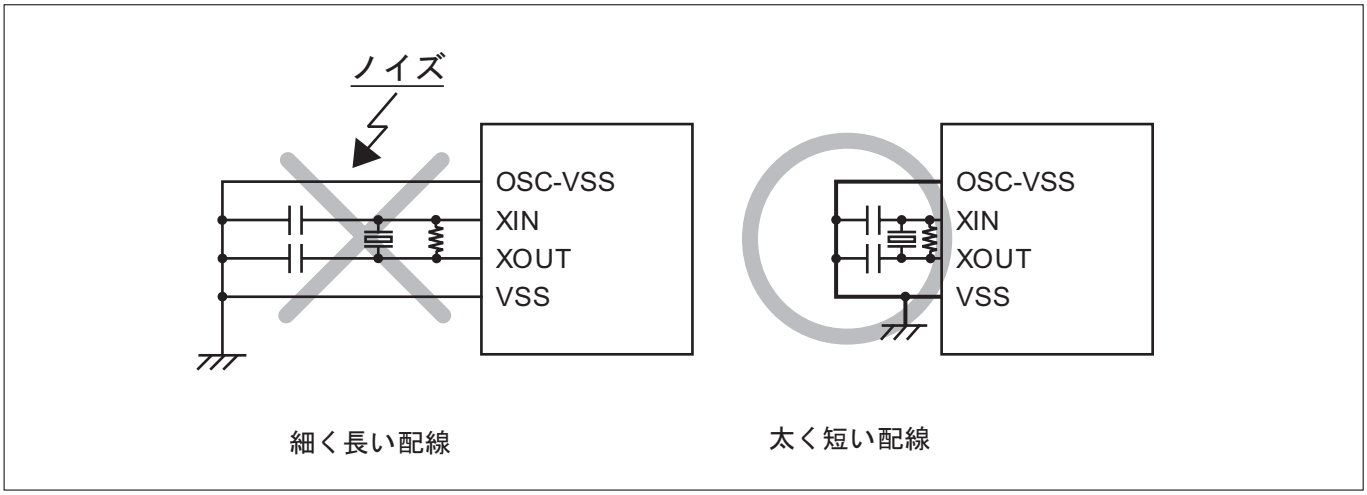
クロック入出力端子に接続する配線は、できるだけ太く短くしてください。

発振子に接続するコンデンサの接地側リード線とマイコンのOSC-VSS端子とは、最短(20mm以内)の配線で接続してください。

発振用のVSSパターンはベタパターンとしてGNDに接地ください。

<理由>

マイコンは発振子(回路)で生成されたクロックに同期して動作します。クロックの入出力端子にノイズが侵入するとクロックの波形が乱れ、誤動作や暴走の原因となります。また、マイコンのVSSレベルと発振子のVSSレベルとの間にノイズによる電位差が生じると正確なクロックがマイコン入力されません。



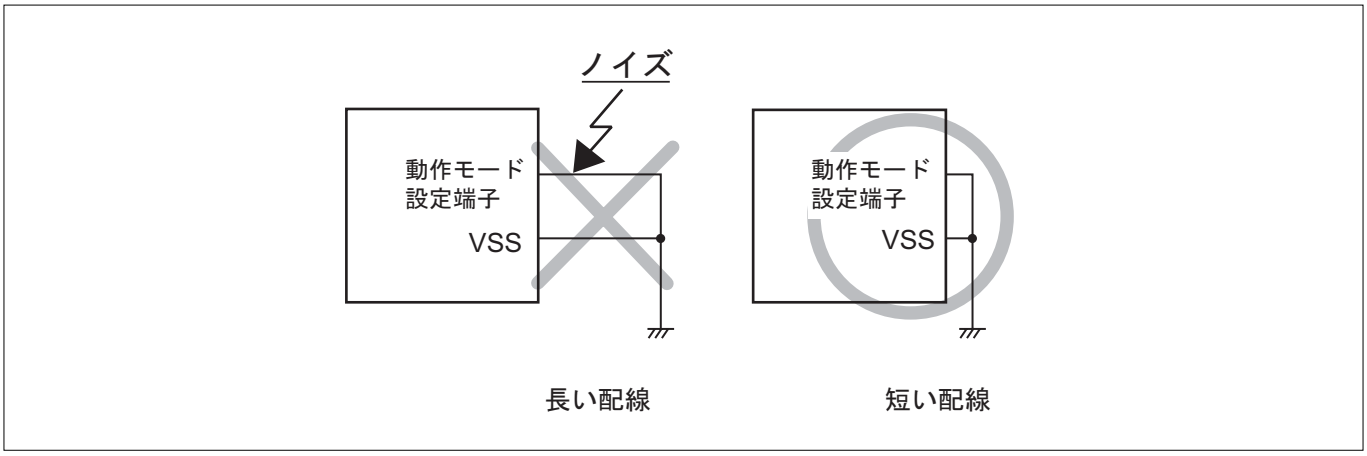
付図4.15.2　クロック入出力端子の配線例

(3)動作モード設定端子の配線

動作モード設定端子とVCCまたはVSS端子とを接続する場合、最短の配線で接続してください。

<理由>

動作モード設定端子のレベルは、マイコンの動作モードに影響します。動作モード設定端子とVCCまたはVSS端子とを接続する場合、動作モード設定端子とVCCまたはVSS端子との間にノイズによる電位差が生じると動作モードが不安定となり、誤動作や暴走の原因となります。

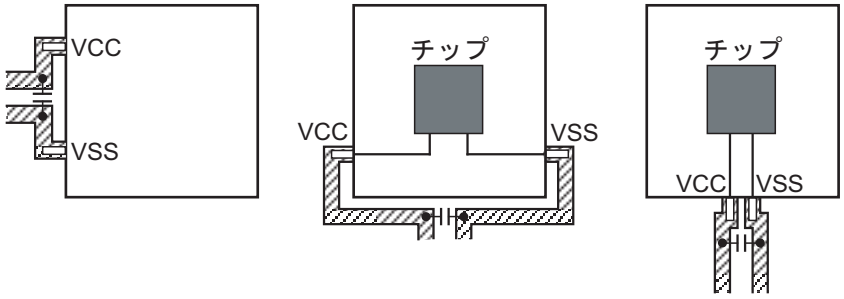


付図4.15.3　MOD0、MOD1端子の配線例

付録4.15.2　VSS－VCCライン間へのバイパスコンデンサ挿入

VSS－VCCライン間に0.1μF程度のバイパスコンデンサを、以下の条件で挿入してください。

- VSS端子－バイパスコンデンサ間の配線長とVCC端子－バイパスコンデンサ間の配線長を等しくする
- VSS端子－バイパスコンデンサ間の配線長とVCC端子－バイパスコンデンサ間の配線長を最短とする
- VSSラインおよびVCCラインは、他の信号線よりも幅の広い配線を使用する



付図4.15.4　VSS－VCCライン間のバイパスコンデンサ挿入例

付録4.15.3　アナログ入力端子の配線処理

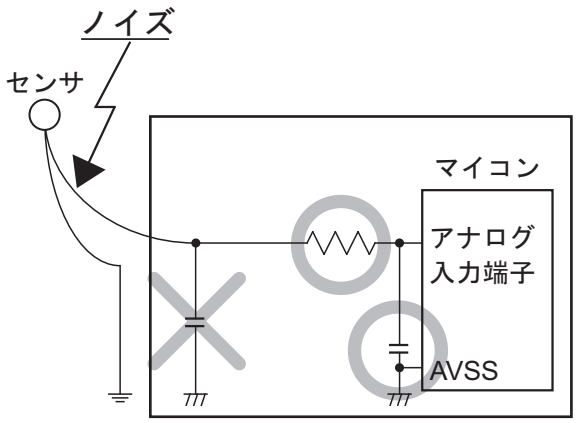
アナログ入力端子に接続されるアナログ信号線のマイコンのできるだけ近い位置に、100～500Ω程度の抵抗を直列に接続してください。

アナログ入力端子とAVSS端子間の、AVSS端子にできるだけ近い位置に容量100pF程度のコンデンサを挿入してください。

<理由>

通常、アナログ入力端子(A/Dコンバータ入力端子など)に入力される信号はセンサからの出力信号です。事象の変化を検知するセンサは、マイコンを実装している基板から離れた位置に配置されることが多く、アナログ入力端子への配線は必然的に長くなります。この長い配線はノイズをマイコン内部に引きこむアンテナとなるため、アナログ入力端子にノイズが引き込まれやすくなります。

また、アナログ入力端子とAVSS端子間のコンデンサをAVSS端子から遠い位置で接地した場合、そのグランド上のノイズがコンデンサ経由でマイコンに侵入します。



付図4.15.5　アナログ信号線と抵抗およびコンデンサ挿入例

付録4.15.4　発振用端子への配慮

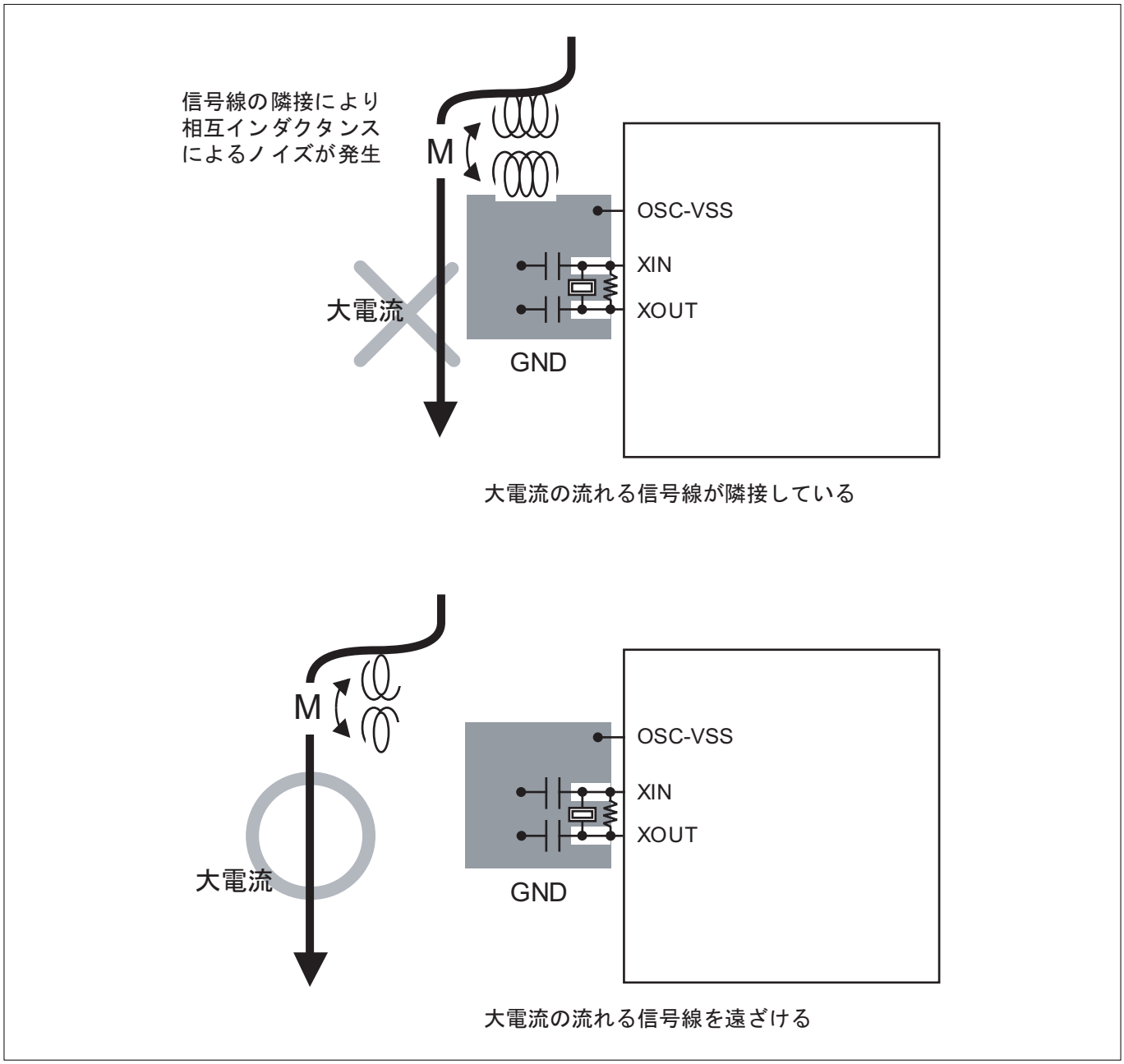
マイコンの動作の基本となるクロックを生成する発振子には、他の信号から影響を受けにくくする配慮が必要です。

(1)大電流が流れる信号線からの回避

マイコンが扱う電流値の範囲を超えた大きな電流が流れる信号線は、マイコン(特に発振用端子)からできるだけ遠い位置に配置ください。また、GNDパターンによる回路の保護を実施ください。

<理由>

マイコンを使用するシステムでは、モータ、LED、サーマルヘッドなどを制御する信号線が存在します。これらの信号線に大電流が流れる場合、相互インダクタンス(M)によるノイズが発生します。



付図4.15.6　大電流が流れる信号線の配線例

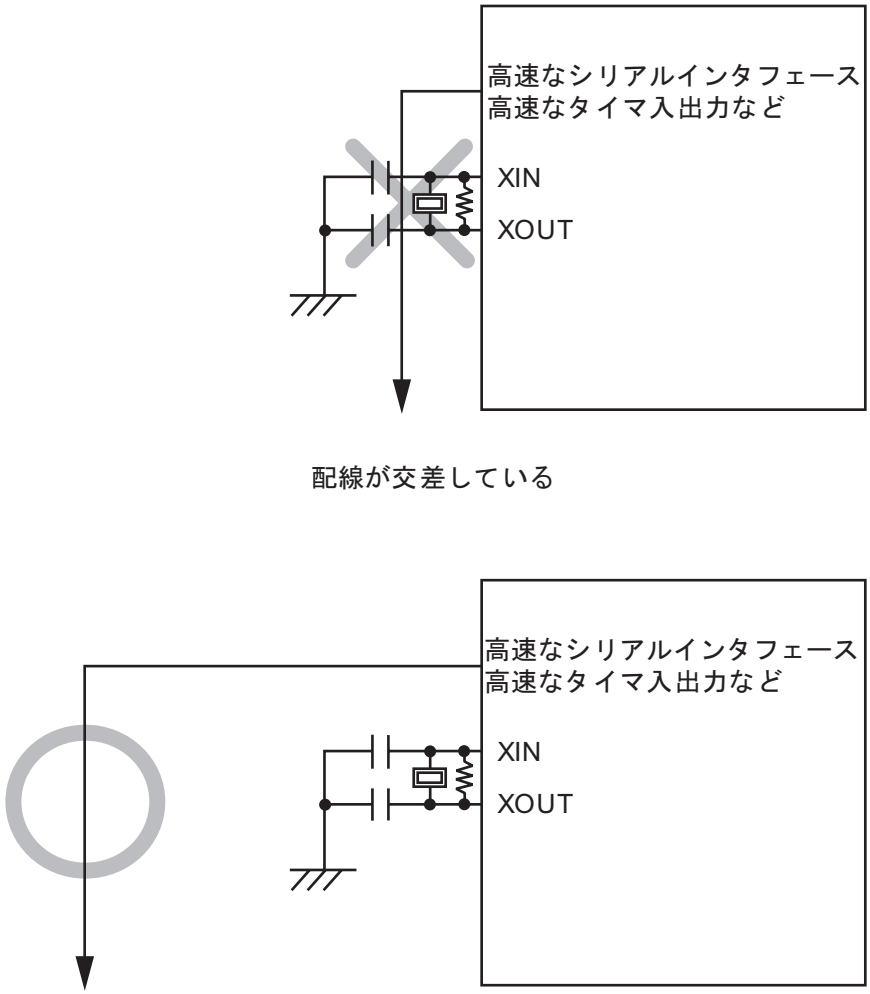
(2)高速にレベル変化する信号線からの回避

高速にレベル変化する信号線は、発振子からできるだけ遠い位置に配置してください。

また、高速にレベル変化する信号線は、クロック関連の信号線、その他ノイズの影響を受け易い信号線と交差させないでください。

<理由>

高速にレベル変化する信号線はその信号の立ち上がり、立ち下がり時の影響を他の信号線に与え易く、特にクロック関連の信号線と交差する場合クロックの波形が乱れ、誤動作や暴走の原因となります。



付図4.15.7　高速にレベル変化する信号線の配線例

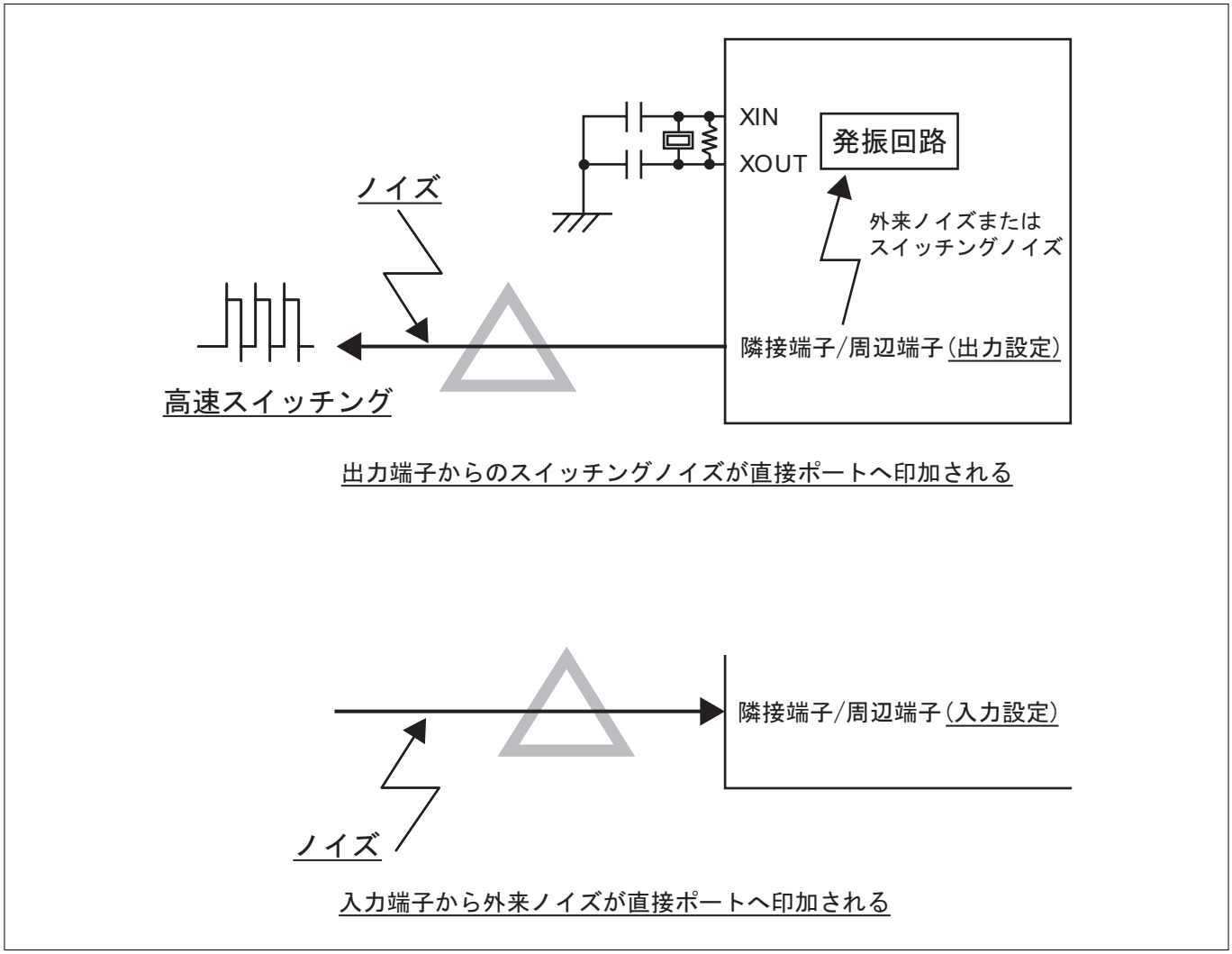
(3)強力なノイズ源となる信号線からの保護

強力なノイズが印加される可能性のある端子を発振用端子の隣接ポートに極力使用しないでください。もし空き端子として処理が可能である場合は入力ポート状態で抵抗を介してGNDに接続、もしくは出力オープン状態で出力固定としてください。使用される場合は、入力専用を推奨いたします。

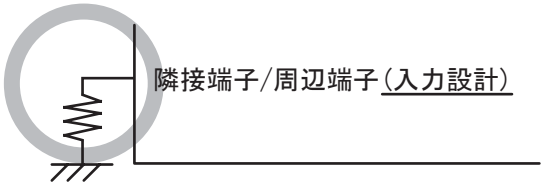
より強力なノイズ源から保護するには、隣接ポートを入力ポート状態で抵抗を介してGNDに接続し、隣接ポートと同一のポートグループは、なるべく入力専用とします。更に安定させたい場合には、同一のポートグループも使用せず入力ポート状態で抵抗を介してGNDに接続します。使用される場合は、ノイズ保護のための制限抵抗を接続します。

<理由>

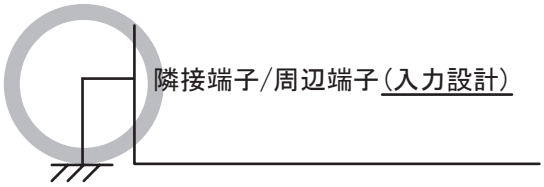
発振用端子に隣接するポートまたは端子が、高速動作したり、外部から強いノイズを受けると、発振回路にノイズが回り込むことが考えられ、発振が不安定になる可能性があります。



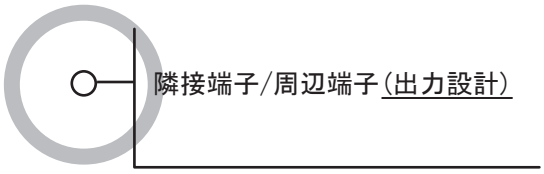
付図4.15.8　ノイズが印加される端子処理例



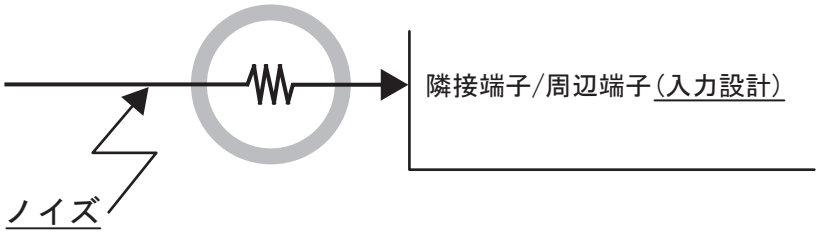
入力モードでノイズの影響を制限する方法



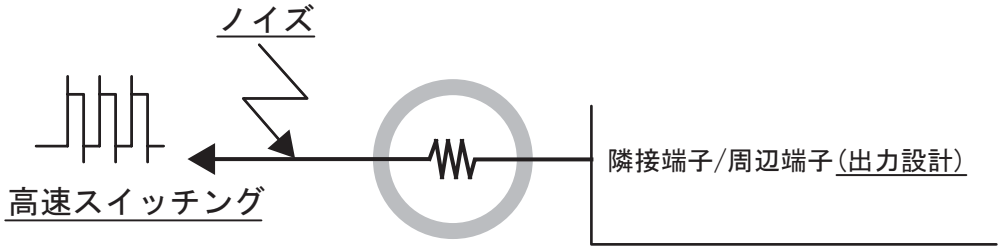
入力モードでノイズの影響を制限する方法



出力モードでノイズの影響を制限する方法



抵抗によるノイズを制限する方法



抵抗によるスイッチングノイズを制限する方法

付図4.15.9　発振用端子に隣接する端子処理例

付録4.15.5　入出力ポート処理

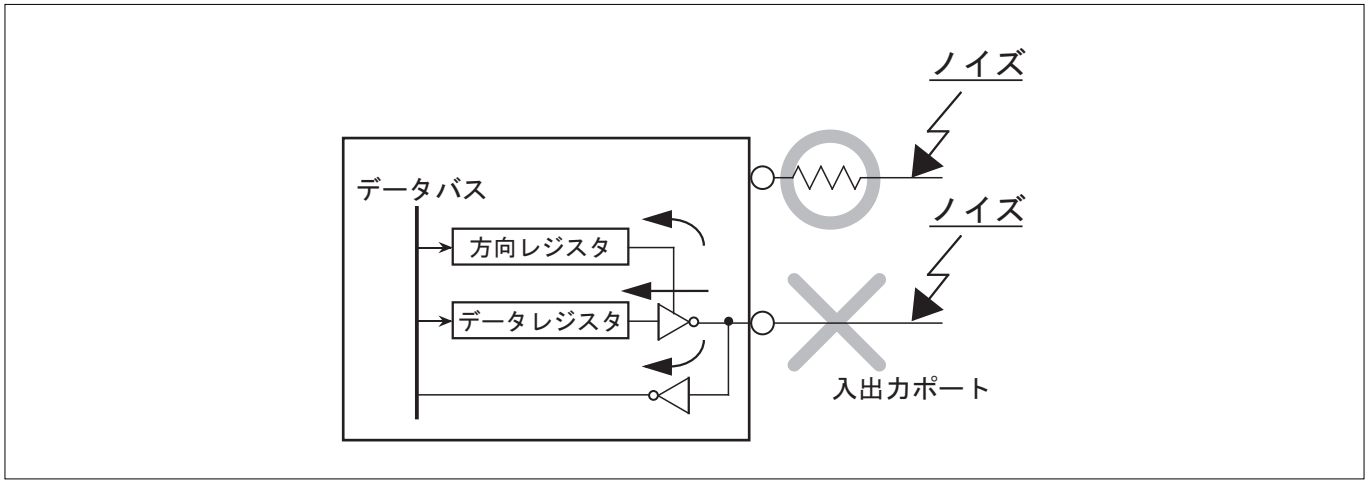
入出力ポートは以下の要領で、ハードウェア、ソフトウェアの両面で対策を行ってください。

〈ハードウェア面〉

- 入出力ポートに100Ω以上の抵抗を直列に挿入する

〈ソフトウェア面〉

- 入力ポートではプログラムで複数回読み込みを行い、レベルの一致を確認する
- 出力ポートではノイズによって出力データが反転する可能性があるため、一定周期でデータレジスタの再書き込みを行う
- 一定周期で、方向レジスタの再書き込みを行う



付図4.15.10　入出力ポート処理例

レイアウトの都合上、このページは白紙です。

32176グループハードウェアマニュアル

発行年月日　2002年4月18日　Rev. 1.00
2003年12月12日　Rev. 1.02
2006年4月25日　Rev. 1.10

発行　株式会社ルネサステクノロジ　営業企画統括部
〒100-0004　東京都千代田区大手町2-6-2

©2006. Renesas Technology Corp., All rights reserved. Printed in Japan.

32176 グループ
ハードウェアマニュアル

RENESAS
ルネサス エレクトロニクス株式会社
神奈川県川崎市中原区下沼部1753 〒211-8668

RJJ09B0001-0110